円周率が3.2になりかけた事件がある……世界一ありえない円周率の近似値として3.2がギネス登録されている。円積問題(定規とコンパスだけを用いて、定められた円と同じ面積を持つ正方形をつくれという問題)が肯定的に解けたという誤った主張を認めようとする「インディアナ州円周率法案」にて副次的に定められかけた。主張に「円周率を3.2と勝手に決める」内容を含んでいたため、この法案は下院で可決されたが、早起きしていた数学教授たちによって指摘され、上院に通ることはなかった。

世界一長い英単語は？……世界で一番長いのは20万7000文字、DNAの正式名称である。膨大な数の元素なのでめちゃくちゃ長い。しかし” Pneumonoultramicroscopicsilicovolcanoconiosis”が世界一長い、辞書にも載っている、実用的な英単語。意味は「珪性肺塵症」らしいが、医者はたぶんこの病気の患者が来るたびにため息だろう。ガラスを扱う人がかかりやすく、ガラスの小さな塵が肺に吸入されることによる病気だ。意味がないものであれば“Supercalifragilisticexpialidocious”というもので、これ自体「意味がないときに歌う」らしい。1964年のディズニー映画「メリー・ポピンズ」の劇中で歌われる楽曲の名前。子どもの映画や歌にも登場し、ネイティブなら知っている。とはいえこれは「長い単語をつくろう」とおもってつくったもの。ちゃんとした意味があるものでなおかつ「つくろうと思ってつくったものではない」単語ならば、”antidisestablistmentarianism”、反国教廃止主義というものがある。これは一般的な英語辞書にのっており、しかも使用例があるという単語である。”establish”(制定する、教会を英国国教会として制定するという意味)が”dis-establish”になり、それが”disestablish-ment”と名詞に。これに反対するのが”anti-disestablishment”で、そういうことを唱える人達を”antidisestablishment-arian”といい、さらにそういう主義思想をもつ人が、というように。

事象の地平面……ブラックホールのことを比喩的にこう呼ぶことがある。人間は音や電波や光など、さまざまなものを使って情報を知っている。だがブラックホールほど重たい星になると、光さえ抜け出せなくなる。すなわち、ブラックホールの内部では何が起こっているのか、我々に一切知ることはできない。中で起こる事象を知ることができなくなる境界線から内側、それが事象の地平面である。

「北極星」という星はない……21世紀現在の北極星になっている星…というような言い方しかできない。現在はこぐま座アルファ星「ポラリス」。尻尾にあたるのがポラリス。星空を見上げたとき天頂にあるので北極星と呼ばれ、天の北極にもっとも近いものが選ばれる。星座は長い時間をかけて移動するため、時代によって北極星も移り変わってきた。次の北極星は、西暦4000年頃のケフェウス座ガンマ星(エライ)。

12星座一覧……西洋で行われてきた星座占いでおなじみの黄道十二宮。メソポタミア起源で、てんびん座を除けばすべてシュメール時代までさかのぼることができる。その後、惑星(太陽や月も含む)の通り道にあたるこの場所は重要視され、天体観測もこの黄道十二星座がある黄道帯を中心に行われるようになった。牡羊座、牡牛座、双子座、蟹座、獅子座、乙女座、天秤座、蠍座、射手座、山羊座、水瓶座、魚座。やおふかしおてさいやみう…と呪文のように唱えれば覚えることができるが、いまいち意味はない。

カストルとポルックス……双子座の星の二つ。ギリシア神話が元ネタになっており、涙なしでは語れないエピソードがある。最高神ゼウスが下界を眺めていたら、泉のほとりで遊ぶ１人の美女が目に留まった。この美女の名はレダ。彼女に近づくためにゼウスは優雅な白鳥に姿を変えた(これが白鳥座として星座に残っている)。なれなれしく近づく白鳥がゼウスであることも知らず、レダが遊んでいると、いつの間にかゼウスのガチガチな腕に抱かれていたのだった。その後夫の元に帰ったレダは、身ごもったことを知る。生まれたのは、なんと卵だった！そこから生まれた双子の男の子が、カストルとポルックス。弟ポルックスはゼウスの血を引いており、不死身の身体を持っていた。しかし兄カストルは、レダの夫テュンダレオスの血を引いて、限りある命の人間だったのだ。こんな２人にある時突然、悲劇的な別れが訪れる。それは、それまでもライバル心むき出しに２人に対抗してきていた、従兄弟のイダスとリンケウスと、ついに争いになった時に起きた。カストルが、イダスの矢にあたって命を落としてしまったのだ。ポルックスも沢山の矢傷を受けたが、彼は不死身のため逆にリンケウスを投げやりで倒し、イダスも逃げ出すところをゼウスが放った雷に打たれて死んでしまう。ポルックスはカストルの死を嘆き悲しみ、自分の血を引いたものとしてオリュンポス山に来るよう誘った父ゼウスの招きに対し、「私だけが不死身だなどというのは、絶対納得できない。カストルを生き返らせ、不死身とすることができないのなら、私の命も終わらせてほしい。親友を失うとき、男子の価値は消え去ってしまう。」と言って、断った。ゼウスは仕方なく、二人を天に上げて星座にした。それが「双子座」。感動。

ライカ犬……世界で初めて地球軌道を回った動物。特にクドリャフカと呼ばれていたメスの犬がそれ。スプートニク二号は大気圏再突入ができる設計でなかったため打ち上げの10日後に餌に混ぜた薬で安楽死させた、というのが公式の発表であるが、1999年の複数のロシア政府筋の情報によると、「ライカはキャビンの欠陥による過熱で、打ち上げの4日後に死んでいた」という。さらに2002年10月、スプートニク2号の計画にかかわったディミトリ・マラシェンコフは、ライカは打ち上げ数時間後に過熱とストレスにより死んでいた、と論文で発表した。結局いつ死んだのかはわからないが、人間のエゴに動物を巻き込んだ罪は重い。それが例え、平和、研究という目的であったとしても…。

宇宙人に宛てた地球からのメッセージ「ゴールデンレコード」……1977年に打ち上げられたボイジャー探査機に搭載されたレコード。宇宙人が拾い、地球という星に知能をもった生物(＝人間)がいることを知ってもらう目的で載せられた。「これは小さな、遠い世界からのプレゼントで、われわれの音・科学・画像・音楽・考え・感じ方を表したものです。私たちの死後も、本記録だけは生き延び、皆さんの元に届くことで、皆さんの想像の中に再び私たちがよみがえることができれば幸いです」なお太陽以外の恒星に届くのに少なくとも4万年かかるため、人類が生存している可能性はないだろう。115枚の画像と波、風、雷、鳥や鯨など動物の鳴き声などの多くの自然音、さらに様々な文化や時代の音楽、55種類の言語のあいさつが入っている。残念ながら純金ではないが、銅板に腐食をふせぐための金メッキはされている。

土星の輪っかの隙間には中二病な名前がついている……「カッシーニの間隙」なるかっこいい名前。土星のA環とB環の隙間のことをこう呼ぶ。土星の環は小さな氷、土の粒でできており、大気は土星のものとも組成が異なる。土星に衝突する前に氷の殻を引き裂かれた衛星の残骸であるとする説がある。土星の環を触っても平たくはないので注意。

宇宙服にあるすごい機能……宇宙の環境は非常に厳しい。温度はわずか２K、有害な放射線が常に降り注いでいる。具体的には、気圧の調整、酸素供給と二酸化炭素の排出、内部の冷却などの機能を兼ね備えている。なお、宇宙服についているいくつかのスイッチに書かれた文字は全て鏡文字だ。これは、宇宙服を着ていると首を回してスイッチを見ることができず、必然的に手鏡で文字を見ながら押すことになるからだ。一人で着ることはできないので、誰かに着せてもらおう。一着1000万ドルと非常に高価だが…。

なぜ宇宙は暗いのか……実は同じ疑問をもった人の名前から「オルバースのパラドックス」と呼ばれている。「宇宙の恒星の分布がほぼ一様で、恒星の大きさも平均的に場所によらないと仮定すると、空は全体が太陽面のように明るく光輝くはず」というパラドックスである。星は距離の2乗に反比例して見かけの面積が小さくなるが、距離が遠い星の数は距離の2乗で増えるので、これらはちょうど打ち消しあうだろう、という推論に基づく。現在では、そのために必要な距離や時間あるいは星の密度は、実際の宇宙の大きさ・年齢・密度よりおよそ10兆倍も大きなものとなることが明らかとなったため、パラドックスの前提は成立しないことがわかっている。

火星のテラフォーミングのアイデア……テラフォーミング(terra forming)とは、人工的に人間が移住できる環境を地球以外の星に作ることである。どうして火星が選ばれたかというと、地球の環境に似ているからである。火星の太陽日は24時間39分であり、地軸の傾きは25度、火星の1年は地球の1.88年に相当するため、四季も地球の2倍ほど長く続くものの他の太陽系に比べれば移住の可能性はある。また氷が存在する可能性が指摘され、これを溶かすために「メタンなどの温室効果ガスを散布し、温度を上げて溶かす」とか「でっかいミラーで光を南極北極に集め、ドライアイスと氷を溶かす」などの案があがっている。火星の大気は薄く、二酸化炭素がほとんどなので、もしかしたら植物は育つかもしれない。まぁ平均温度がマイナス40度と非常に寒いのだが…。

宇宙ロケットの打ち上げ方向はかならず東向き……毎回東と決まっているが、これは「自転のスピードを利用し、速度を上げる」という目的がある。地球は自転しており、東に打ち上げればそのぶんの速さを宇宙空間(＝重力がほとんど働かない空間、等速直線運動をしたがる空間)で生かせるためだ。

ジェット機とスペースシャトルの違い……推進に何を用いるかによって異なる。ジェット機は前から取り込んだ空気の酸素をガソリンとともに燃焼させて推進力を得る。スペースシャトルは液体窒素と液体酸素の混合物を燃焼させる。だからジェット機は大気がないところでは運転できず、スペースシャトルは宇宙でも動く。

ノイズや砂嵐は「ビッグバン」のせい……ラジオのノイズ、テレビの砂嵐の原因、その正体はビッグバンの時に出た熱。これは「宇宙マイクロ波背景放射」という名前がついており、宇宙が膨張するにつれ熱が引き延ばされ、冷えてマイクロ波(電磁波)になった。宇宙を一様に満たす2.73Kの黒体放射である。

オールトの雲……太陽から1万～10万AU(太陽と地球の距離を１AU)の間にあるとされる雲のような存在。今のところ予想。水、一酸化炭素、二酸化炭素、メタンなどの氷があるらしい。

デススター銀河……宇宙で二番目くらいに中二病ワード。別名3C321。この銀河の真ん中にあるブラックホールから放出されているジェットがとなりの銀河を攻撃している。X線やガンマ線が星のオゾン層を破壊し、惑星を死滅させているというのだ。スターウォーズに出てきた、光線で惑星を消滅させた「デススター」になぞらえた命名。隣の銀河くんはたまったもんじゃない。

南極で最も高い山はどこなのか……そんな疑問を持つように生きている人、すばらしいと思います。答えはヴィンソン・マシフ山。これが南極の最高峰で、標高は4892m。1966年に登頂された。ガイドを引き連れてマウントヴィンソンに登るには、チリから南極へ渡る料金も含めて、だいたい一人当たり30000ドルかかる。当然ながら登頂はとても困難で、1966年に初登頂。強風と寒さで気温はマイナス40度まで下がることがあり、旅行前にはトレーニングプログラムを必ず受講する。

「凱旋門」それ、どの凱旋門？……実は世界に凱旋門は数多くある。日本でいう「凱旋門」の代名詞的存在はフランスのシャルル・ド・ゴール広場前にある「エトワール凱旋門」で、ほとんどの人はこれ以外の凱旋門を知らない。アウステルリッツの戦いに勝利した記念に1806年、ナポレオン・ボナパルトの命によって建設が始まり、1836年に完成した。ナポレオンは凱旋門が完成する前に既に死去しており、彼がこの門をくぐったのは1840年にパリに改葬された時だった。WW１の無名戦士の墓が下にある。古くはコンスタンティヌス帝が312年につくったものがあり、これがエトワール凱旋門にも影響を及ぼした。日本、鹿児島県姶良市にも「山田の凱旋門」がある。北朝鮮にも「平壌凱旋門」がある。ドイツのブランデンブルク門も凱旋門の一つ。これらをひとまとめにするのは、キツネやオオカミなどを全部「イヌ」と呼ぶみたいな乱暴さがあるので、ぜひ区別してほしい。

ベネルクス三国同盟……ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの3か国の集合を指し示す名称。この3か国はいずれも立憲君主制を採用している。周辺の国に比べて国土が狭い(北海道島と同程度)という特徴があり、3か国すべてを合わせても、国土面積は隣国ドイツの1/5、フランスの1/9程度に過ぎない。3か国は大国に対抗するために緊密な経済協力を行っている。3か国は共に欧州連合(EU)の加盟国であり、ブリュッセルやルクセンブルク市はEUの政治的な中心都市でもある。3か国の緊密な関係は、1921年にベルギー・ルクセンブルク経済同盟が締結されたのち、1948年にベネルクス関税同盟が調印されたことにより始まる。1960年には関税に加え、労働力と資本を自由化したベネルクス経済連合が発足し、欧州共同体のもととなった。

CERN……欧州原子核研究機構。スイスとフランスの国境をまたぐ地域に、2つの研究地区といくつかの実験施設がある。地下には 全周 27km の円形加速器・大型ハドロン衝突型加速器 (LHC) が設置されている。フランスで原子力発電が盛んなのは、CERNを始め原子力の研究が盛んだからだ。19世紀に初めて放射線を見つけたベクレルや、マリーキュリーらが輩出したこの国は、国民の3分の2が原発に賛成だった。またCERNはworld wide webやhttp、htmlの発祥でもある。

しりとり絶対勝つマンが使う「ンゴロンゴロ」とは何か……ンゴロンゴロ保全地域は、タンザニアにある保全地域。外輪が標高2400mあり、カルデラ内部の平野(1800m程度)と比べて高い。このためカルデラ内部は外部と遮断されており、カルデラ内に生息する大型動物のほとんどはカルデラの外にでることはない。そのため周囲と隔離された生態系が形成されるに至った。しかしながら、キリンやインパラ以外の東アフリカのサバンナに生息する動物はほぼ観察することができる。世界遺産に登録された。しりとりで「ンジャメナ」以外に使える数少ない言葉。マサイ族はここに住んでいる。

グリーンランドはなぜ「グリーン」か……かなり北の方にあり、日本人がおそらくほとんど一生いかないであろう国、というか自治体「グリーンランド」。普通の地図だと高緯度が広く表示されるため大きく見えるが、実際はオーストラリアの29パーセントしかない。大部分が北極圏に属し、全島の約80%以上は氷床と万年雪に覆われる。巨大なフィヨルドが多く、氷の厚さは3000m以上に達する所もある。居住区は沿岸部に限られる。入植希望者を募るとき、「緑の島」とすればたくさん集まるだろうと考え名付けた。とんだ詐欺師だ。他にも、Gruntland(グラウンドランド)が訛ったという説、あるいは氷河に覆われていない南部海岸地帯がエイリークの頃の中世の温暖期には緑にあふれていたという説もある。また、夏は実際緑に覆われる(写真もあるので調べよう)ので、あながち間違いではない。

エロマンガ島、その名に反する悲しい歴史……小学三年生のとき地図帳が配られた。必ずいるのが、地図での「変な名前」を探す輩である。オランダの「スケベニンゲン」、沖縄の「漫湖」と同じくらい有名なのがこの「エロマンガ島」。最近では、外国語の表記に合わせ、「イロマンゴ島」と表記されることも多い。宣教師を送るも当地の人たちの人間狩りにあい、多くが虐殺されて食べられたという悲劇の歴史を持つ島でもある。宣教師が与えた毛布や衣料を経由し、インフルエンザや百日咳がこの島に持ち込まれ多くの島民が亡くなった。かつてのアメリカやオーストラリア先住民へのそれと同じやり口を使ったのかはわからないが、神を信仰しないとこのように罰が当たるのだと説明したという。

ポストの色の分布……イギリスとその植民地は赤、アメリカは青、ヨーロッパは黄色。中国は緑、といろいろ決まっている。日本はイギリスに学び近代的な郵便制度を導入した、というのと、「郵便箱」という漢字を「垂便箱」(たれべんばこ)と読み間違え、公衆便所と間違えてオシッコする人がいたので赤(この話は「郵便創業談」にある)。昔は赤ではなく普通の木だった。イギリスももともとは木だったのだが、「遠くからでもよく見える」という理由で赤になった。

富士山の頂点コンクリート固め……山の高さは、国土地理院が測量のために設置した三角点の値、あるいは地図を作成するときに計測した標高点の値をメートルの単位に四捨五入し用いている場合が多い。富士山も例外ではないのだが、三角点が何度も崩落しそうになったため、国土地理院の職員がコンクリートや砂利を使って頂点を固定。標高が毎年変わらずに済むのはそのおかげなのだ。

シドニー・オペラハウス……シドニーと言えばこれを想像する人も多いという建物。波のような形のぎざぎざが見える建築物(何と言えばよいのかわからないがそうとしか言えない。「ファインディング・ニモ」にも登場し、まさに(日本人から見れば)シドニーの象徴的存在になっている。20世紀を代表する近代建築物であり、世界的に有名な歌劇場・コンサートホール・劇場でもある。オペラは小規模の模様。貝殻やヨットの帆を思わせるその外観は観光客の定番の撮影スポットでもある。設計者は当時無名だったベルギーの人。

赤の広場はなぜ「赤」か……赤の広場はモスクワの都心部にある広場である。モスクワ大公国の統治者イヴァン3世が、自らの居城であるクレムリンの前の市街地を広場として整理させたのが起源とされる。以後、モスクワ大公国やロシア帝国(ロマノフ朝)の重要な国家行事がここで行われるようになった。Красная площадьという名前から直訳で「赤の広場」としたのだが、ここでの赤は決して社会主義の赤ではない！古代スラヴ語でのクラースナヤの原義は「美しい」に近く、「美しい広場」という意味が正しい。赤＝社会主義＝美しい…？なんだって？ソヴィエトロシアでは、赤があなたを美しくする！

五山の送り火はなぜ「大」なのか……盆の翌日に京都で行われるビッグイベントが五山の送り火である。その様子を伝えるためだけのニュースがある。「五」とあるだけあり本当に5つで、如意ヶ嶽の「大」の字が最も有名だが、他にも４つの送り火が点灯される。再び冥府に帰る精霊を送るため始まったという説がある。第二次世界大戦最中の1943年には主に灯火管制的見地から送り火が中止されたが、代わりに早朝に小学校の児童らが山に登り、人文字で「大」を描き、英霊にラジオ体操を奉納した。そもそも大文字焼きが「大」なのは、その字の橋を結ぶと五芒星という魔除けになるから、とか、神様の化身だった北極星をかたどって「大」になったとか。いろいろ説があり、はっきりとわかっていない。

ディオニシオスの耳……イタリアのシチリア島にある洞窟。耳の形をしている。音響効果がとても良いことで知られ、僭主(せんしゅ)ディオニシオス1世が牢獄に使い、石切り場で働く囚人たちの話を盗み聞きしたという伝説がある。今も行くことができ、誰かが中で歌を歌っていると、それが入り口までよく通る。悪口をよく聞き取る人は「地獄耳」じゃなくて「ディオニシオスの耳」と呼び変えたらどうだろうか。

北欧のヴェルサイユ「ドロットニングホルム宮殿」……ドロットニングホルム宮殿はストックホルム郊外にある離宮。16世紀に国王ヨハン3世が王妃のために建てた離宮に始まり、その後、バロック様式の宮殿と庭園ができる。ロヴィーサ王妃が主になった18世紀には内装がロココ様式になり、現在に見られる著名な作家の絵画や彫刻で飾られた220室、3階建ての華麗な宮殿が完成した。その美しさから、「北欧のヴェルサイユ宮殿」の異名をとる。毎年夏には観光客が多く訪れ、観光客用に演劇、オペラが公演されるほか、王族の住まいを除き一般公開されている。1991年に世界遺産に登録され、王家の住まいを除く一部が一般公開された。その名はスウェーデン語で「王妃の小島」という意味(ストックホルムの「ホルム」と同じ)。

ベルギーの言語問題……ベルギーは言語で国を二分されている。北にはオランダ語を話すフラマン人、南にはフランス語(の一方言であるワロン語)を話すワロン人。これがオランダ語とドイツ語ならよかったのかもしれないが…。言語の違いは日本にはわからないほど大きな隔たりがある。言語が違えば文化もまるごと違ってくるからである。公式に「言語境界線」がある。

キプロス問題……キプロスで起きた民族問題。北には2割のトルコ系、南には8割のギリシャ系民族が暮らす。大統領が支持率をとるためギリシャ系に有利な事ばかりを言うと、トルコ系の人たちは怒り、「トルコ召喚すっぞ」と言った。ギリシャ系の人は「ギリシャ召喚すっぞ」と言った。今はにらみ合いが続き、キプロスには国連による軍事境界線「グリーン・ライン」がある。日本人も関係はないが、国境警備隊がいて銃撃の危険があるため、近づかないほうがよい。

砥石の質は刀の質まで決めてしまう……モンスターハンターで近接武器使用ハンターが「砥石」を装着していないと間違いなく地雷扱いされる。しかしゲームは所詮ゲームである。現実世界の砥石には様々なものがあり、武器や刃物の材質によって砥石を変えるのが当然。刃物を扱う仕事をする人は砥石を少なくとも数種類所有している。そんな砥石の質は、刀の質まで決めてしまう。日本には火山が多く、良質な砥石をたくさん採ることができたため、鋭利な日本刀が発達した。大陸は良質な砥石があまりなく、どちらかというと叩きつけるような、切れ味の鈍い刃物が発達した。モンスターハンターの砥石の質は非常に良いに違いない。これだけあればどんな武器でも研げるのだから。

正露丸はもともと「征露丸」だった……一人暮らしの強い味方「正露丸」。どんな腹痛でもたちまち直してしまう。この名前の由来は「征露丸」。ロシアとの戦争に勝つという願掛けをこめて名付けられた。戦争が終わり、さすがに「征服」はまずいと思ったのか、「正」に改名した。実際、脚気を治す名目でロシアに行く兵士たちに多数配布された。昔は糖衣などなく、臭い丸薬だったためなかなか飲んでもらえない。そこで「天皇のご希望により」とすることでコンプライアンスが大きく上昇。脚気には効き目がなかったものの、腹痛や下痢や虫歯に効くという兵士たちの評判もあり、日本独自の万能薬として広まることになった。

メリヤス編みの「メリヤス」……裁縫しない人には親しみがないことばと思うが、編み方の一つに「メリヤス編み」がある。その「メリヤス」とは何なのか。日本では編み物の伝統が弱く、17世紀後半に、スペインやポルトガルなどから靴下などの形で編地がもたらされた。そこで、ポルトガル語やスペイン語で「靴下」を意味するポルトガル語の「メイアシュ」(meias)やスペイン語の「メディアス」(medias)から転訛した「メリヤス」が、編み物全般を指すようになった。実際、武士たちが履く足袋にこの編み方が使われるようになった。現代ではメリヤス編みという呼び方は肌着に用いられる。伸縮性に優れる。

切り捨て御免はめっちゃ厳しい条件……近世において武士が耐え難い「無礼」を受けた時は、切っても処罰されないとされており、それを定めたのが「斬り捨て御免」。これは当時の江戸幕府の法律である「公事方御定書」によって明記されている。 ただし、その判定は厳格であり基本的に命懸けの権利であった。証拠が認められない限り死刑となる可能性が大きかったため、処罰を免れる例は極めてまれ。無礼な行為に対する正当性、その証人がいるため、自宅謹慎中にその親族が探し回るが、見つかりそうにない場合死刑を待たずして切腹するものもいた。刀を一度出した場合、ちゃんと切り捨てなければならず、相手に逃げられても処罰が下る。こんな感じなので実際に切り捨てる人はあまりいなかったとか。

日本初のアイスクリームは明治時代にできた……1869年、横浜で作られたのが日本初。牛乳、卵、砂糖と氷を使って作られたらしい。今の価格で言う8000円。つまり貧乏人は絶対に食べられない贅沢品である。どんな味がしたのだろう。ちなみに日本で初めてアイスクリームを食べたのは日米修好通商条約を批准するために渡米した徳川家一行と言われている。「珍しき者あり。氷をいろいろに染め、ものの形を作り、是を出す。味は至って甘く、口中に入るるに忽(たちま)ち溶けて、まことに美味なり。之をアイスクリンといふ」という日記が残っており、当時は「アイスクリン」と呼ばれていたことがわかる。

日本はまだ戦争中？……国際法では、宣戦布告をもって外交の一手段としての武力行動、つまり戦争開始とみなす。そして、講和条約をもって戦争状態の終結とみなす。ロシアと共に日本に宣戦布告した「モンテネグロ」とはまだ講和条約を結んでおらず、書類上はいまだ「戦争状態」である。なおモンテネグロと日本は直接闘ってはいない。他にもイタリアともまだ戦争中だ。戦争に負けた日本に対し、「俺イタリアだけど、とりあえず四国くれよ」と何がとりあえずかわからないセリフで日本を怒らせ、講和条約の中からイタリアを外してしまったのだ。ドイツは日本より講和条約を結んだ国が少ないので、今もたくさんの国と戦争していることになる。

生類憐れみの令が制定された本当の理由……江戸幕府第5代将軍徳川綱吉が出した、動物の殺害を禁止する法令「生類憐れみの令」は、1本の成文法ではなく、135回も出された複数のお触れの総称。何度も発せられたのは出しても守られなかったため。一説には「戌年生まれだったから」「前世で殺生してきたから子どもができないのだと言われたから」などがある。悪政とは言われるが、例えば1695年に犬を中野で収容したのは、当時野犬の被害が問題となっていたためとも言われ、単に気が狂ったわけではないようだ。「かぶき者」と言って、犬を殺傷したり、火をつけて回ったり辻斬りをしたりする者たちが増えたため、殺生上等の風潮を変えようと思った、のかもしれない。ただ、頬にとまった蚊を叩き、「おぬし殺生したな？」と罪に問われる人もいたようで、さすがにやりすぎだと家臣からは思われていたようだ。

大坂城の堀は豊臣秀吉の案で埋められた？……大坂城での戦いは、豊臣家の滅亡を決めるとともに、長き戦国の世を徳川家が閉じるということを決める戦いでもあった。大阪冬の陣においては、堀や二の丸三の丸に囲まれた堅牢な大坂城を、徳川軍が包囲するに至った。この戦いでは輸入した大筒や大砲も使われ、本丸近くに着弾し侍女8名が死亡したりしたため、淀殿は「大坂城は10年でも持ちこたえられる」と言っていたにも関わらずわずか16日で和議にて幕を閉じることとなった。和議の条件として「二の丸三の丸を破壊し、堀を埋め立てる」が受け入れられた。この「堀を埋め立てる」が実は豊臣秀吉の策だったという説がある。家康が大坂城を見に来たときに「この堅牢な城、おぬしならどう崩す？」と聞き、秀吉は「堀を埋め立てますな」と答えたという。それが本当ならなんとも皮肉な話である。

ボストン茶会事件はなぜ「茶会」か……当時イギリスの植民地だったアメリカの現地人が、あの高すぎる税に激怒し、東インド会社(当時イギリスが運営)の船に積まれていたお茶の箱を海に投げ捨てた。これがボストン茶会事件。茶税法は当時の英領北米植民地に対する茶の輸出独占権を東インド会社に与えたもの。つまり高い金出してお茶買えってこと。そしてその「茶会」Tea Partyの語源は、海に落ちた茶の葉を見て、現地民が「ボストンで茶会が開かれた」と冗談を言ったことらしい、というのは俗説で、”Party”の意味が「同じ思想を持つ人達」ということを知らず、茶会と訳したことがきっかけ。独立戦争のきっかけとなった。ただ実際、海はうっすいうっすい紅茶になったので、間違いというわけでもない。…こともない？

黒船通訳事情……日本には当時英語をわかる人間がおらず、日本語とオランダ語の通訳はいた。そのため、黒船の中からオランダ語をわかるアメリカ人を通訳とし、二重通訳で会話が進められた。二重通訳は取り調べにおいては現在も行われており、容疑者がマイナーな外国語を話す人間であった場合などは用いられる。そうなるとニュアンスが途中でずれかねないので、どんな外国語をはなす容疑者がいてもいいように、ちゃんと構えてある。ナヴァホ語使え。

ヒトラーの演説に学ぶ手法……大衆は模倣する。大衆は模倣することによって周囲と一体感を感じ、孤独を緩和する(ガブリエル・タルド)。暗愚な大衆たちをうまく引き込むことに成功したヒトラー、それを陰で支えたゲッベルス。１、夕方に演説を行う。夜は昼よりもみんなの注意力が散漫になる。身体的にも精神的にも疲れているからだ。２、予定時刻より少し遅れてみる。「ヒトラーはまだか」と期待させておくことで、いらだちを一気に期待に変える。３、具体的で簡潔なスローガンを掲げる。「全ての労働者に職とパンを！」これは世界恐慌のさなか、ドイツ国民が望んでいたことであった。４、狭い会場で演説する。一体感を味わわせるため、常に会場は狭すぎるくらいだった。５、女性は最前列におく。彼女らは興奮しやすく、興奮が伝染しやすい。６、個人的エピソードを話に結びつける。貧乏エピソードを話すことで共感をもらう。７、共通の仮想敵をつくる。ユダヤ人は祖国を裏切った反逆者たちだ。８、ストーリーをつくる。弱いドイツが、様々な困難に立ち向かい、解決していく、そして強い国になる。そう、ヒトラーならね。９、ジェスチャーを生かす。手を、身体を大げさなほど動かす。観客にそれを注目させる。

ハイヒール、日傘の誕生のデマ……中世のフランスはクソまみれだった。窓から汚物が降ってきて、道が汚かったのだ。あまりの汚さに、「道に落ちている汚物を踏まないようにハイヒールが、窓から降ってくる汚物を被らないように日傘が生まれた」という(与太)話が生まれてしまった。本来ハイヒールは、「高い地位を誇示するため」「低身長なのをごまかすため」らしいが、はっきりしたことはわかっていない。少なくとも汚物を踏まないなどという実用的な理由ではなかったようである。

リンカーンの伝説的な演説……リンカーンの「ゲティスバーグ演説」。GHQによる憲法草案前文にこの一部が盛り込まれ、日本国憲法の前文の一部となった。”Government is a sacred trust of the people, the authority for which is derived from the people, the powers of which are exercised by the representatives of the people, and the benefits of which are enjoyed by the people.”(そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。)」いわゆる”government of the people,by the people,for the people”(人民の、人民による、人民のための政治)で知られる一文である。しかしリンカーンの演説、前の人が2時間にも及ぶ演説を行っていたため、観客は疲れ切っていた。さらに、リンカーンの声が低くつぶやくようなものであったため、当時の観客がこれを聴いて感動したということはなさそうだ。たまたま書き留めていた記者が記事にしてのちに有名になったという。わずか2分の間なのにこの記者、よくやったものだ。

纏足……てんそく。幼児期から、足の親指以外の指を足の裏側へ折り曲げ、布で強く縛ることで足の整形(変形)を行うことを指す。唐の末期に始まり、清朝は不衛生だからと禁止したが、もう浸透していたため効果はなかった。小さな足の女性のほうが美しいと言われたから始まったという。見られない部分がエロになるというのは世界共通で、それが足だったというのは面白い。それにしても何も立てなくなるまで縛らなくても…。当時の文化人たちは纏足を「金のハス」とまで呼び、男性を魅了し、性欲を駆り立てるものであったという(そのため、自分の夫や恋人以外には決して見せなかった)。台湾でも行われていたが、台湾総督府が悪習として廃止させたため、中国大陸より一足早く纏足はなくなった。足だけに。

メガネの歴史……メガネを使ってものを拡大することに関しては、古代ヒエログリフにメガネ(単純な凸レンズ)を表す絵文字がある。矯正レンズが発明されたのは9世紀、非常に透明なガラスの製造方法が考案され、これが書籍化、のち13世紀にメガネが発明される原因となった。誰が発明したのかはわからないが、1200～1300年ということは確実だそうだ。このころまでは「なんかよくわからんが見える」というだけであり、きちんとその理由が理屈付けされたのは1600年ごろ。ヨハネスケプラーの光学論文。ちなみに、メガネは知識や教養の象徴であり、メガネ発明以前の人物でも、わざわざ絵にメガネが描き足されたこともあった。

ロゼッタストーン……1800年ごろに発見された石板。古代エジプト語のヒエログリフ、デモティック(民衆文字)、ギリシア文字で同じ内容が書かれていた。これが手がかりになり、1820年ごろにようやくヒエログリフが解読されることとなり、他の文献の解読に一役立った。おそらくギリシア文字がなければ解読は不可能だっただろう。現在は大英博物館に本物が展示してある。なぜフランス人が解読したロゼッタストーンが、イギリスに飾られているのか…？今となってはそれが大きな謎である…。

オスカー像の「オスカー」は誰？……アカデミー賞の副賞、各賞の受賞者に刻印され贈呈される「オスカー像」。正式名称が別にあるのだが、もうすでに「オスカー像」という表現を公式が使っているため、そっちのほうが有名。モデルはメキシコ人俳優エミリオ・フェルナンデス説が有力。どうしてオスカーと呼ばれているかだが、局員が「うちのオスカーおじさんにそっくりだわ」と言った説が一応定説っぽくなっているが、真実は神のみぞ知ります。もしそうだとしたら、どこの馬の骨とも知れない人の名前の像をありがたがってるわけで…。触れないほうが幸せなような。

アルカトラズからの脱出……1979年アメリカ映画。フランクモリスが仲間と共に、当時鉄壁の牢獄だった「アルカトラズ刑務所」から脱出するという内容。全編にわたり音楽や効果音がないが、それにより脱走のスリルを高めている。実話。公式では死亡したことになっているが、実際はどうだったのだろうか。ちなみにミシシッピ川の中洲にあり、そのせいで脱出しにくいと思われていたようだが、彼らは水でふやけて軟らかくなったコンクリートを、食堂でくすねてきたスプーンや所長室にあった爪切りなどで掘って進んでいたようだ。現在ここは閉鎖され、観光名所となっている。

博士の異常な愛情または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか……1963年の映画。筆者は「核兵器による偽りの平和」を中学二年の生活体験文で書き、その中にこの映画の情報を入れたところ、年配の先生に「なんでこんな古い映画知っているの」と驚かれた記憶がある。実際、単に「メタルギアソリッド・ピースウォーカー」で知ったことの受け売りなんですけども…。キューバ危機による緊張状態が極限に達した冷戦が背景で、登場する政府の上層部が皆異常なほど利己的な人物に描かれ、そんな中でも博士だけは薄気味悪く笑いを浮かべる。当時の緊張状態を皮肉ったブラックコメディだが、「気が狂った上層部の人間が、核攻撃を命令したまま立てこもる」という内容は「絶対にない」と言い切れるのだろうか。この映画の冒頭では「これはコメディであり、絶対にありえない」と書かれていたが、むしろありえると言った方が適切だろう。この変な題名だが、英語ではDr. Strangelove or: How I Learned to Stop Worrying and Love the Bomb、すなわち直訳なのだ。これは映画製作者がその言語での逐語訳しか許さなかったからだと言われる。別にストレンジラブ博士でよさそうなものだが…。

天空の城ラピュタは英語版だと違うタイトル……英語版では”Castle in the Sky”となっている。これはアメリカやスペイン語圏に配慮したため。スペイン語で”La puta”は売春婦みたいな意味があるからだ。都市伝説ではあるが、「閣下」をそのまま英語に訳さずに子ども達に見せたところ爆笑の渦が。スペイン語で「カッカ」は幼児語の大便(きたないので省略)という意味があるのだ。

フジテレビの略称は”FTV”ではない……テレビ局はそれぞれ、略称を持つのが普通だ。宮崎テレビならUMK、長崎文化放送ならNCCなど。(TBSはTBSだから注意)ではフジテレビは何だろう？普通に考えたらFTVとなりそうなものだが、ならないのだ。FTVは福島テレビの略なのである。実はフジテレビの略称はCX。これはフジテレビのコールサインJOCXに因む。

「コフィンシステム」が実用化されつつある……コフィンシステムといえば、ナムコの戦闘機ゲーム「エースコンバットシリーズ」に登場する架空の航空機システム。「棺」なんて縁起の悪い名前をつけるなよ。簡単に言えば「戦闘機と人間の脳を一体化し、直感だけで操作できる戦闘機を作ったよ」というシステムだ。そのためこのシステムが搭載された戦闘機にはキャノピー(窓)がない。視界や音などの情報は外のセンサーが取り込み、パイロットの脳に感覚として受け渡す。パイロットが命令しただけで機体が思い通りに動く。ただし機体へのダメージが人工神経を通してパイロットに伝わったり、ハッキング、精神汚染を受けたりする可能性もあるので危ない。かなり危ない。一応これに近いことは実用化されつつあり、F-35に搭載されているヘッドマウントディスプレイでは、機体表面の情報を赤外線センサーで取り込み、死角をなくすことに成功した。

クッパのトゲの数は10本……公式によると。左右縦に3つ、真ん中縦に4つで、全部で10本。これほど役立ちそうにない雑学は久々だ。名前の由来は「(韓国料理の)クッパ食いてえなあ」とスタッフがふと言ったからだという。英語ではBowser。アメリカで名字としてあるほか、米俗語で「番犬」みたいな意味がある。

初代「スーパーマリオブラザーズ」容量削減の工夫……一世を風靡した「マリオシリーズ」の初代。ファミコンで登場し、瞬く間に人気になり、ファミコンブームを世界に巻き起こしたゲーム。世界一売れたゲーム(累計4000万本以上、日本では680万本)であり、横スクロールアクションというジャンルを確立したゲームでもある。そんな初代マリオの容量はわずか40KB。動画どころか、普通のガラケーの待ち受け画像1枚分くらいしかない。そのため容量削減の努力は涙ぐましいものがある。もともと5ワールドだったものを、A3サイズの企画書を通すときに二つ折りしてA４の企画書に見せ、片面に5ワールドを書いてOKをもらった直後に裏面の３ワールドを見せて強引に企画を通したという逸話？都市伝説？がある。まず雲と草は同じものを使いまわし、色だけを変えている。ステージの使いまわし(W2-2とW7-2、W2-4とW5-4など)をする。「土管に入るときの音」と「マリオが大きくなる音」、「泳ぐときの音」と「ノコノコを踏んだときの音」を同じにしている。今のゲームには40GBを超えるものもあるため、おおざっぱに言うと初代マリオが100万本入ることになる。進化とはすごいものだ。

スーパーマリオブラザーズは映画化されたことがある……1993年に50億円をかけて制作された実写映画「スーパーマリオ 魔界帝国の女神」というタイトル。アメリカでの興行収入が2100万米ドル、日本では3億円と、ぜんぜんヒットしなかった。大赤字であるが当然だ。誰も得しないんだから。

ポパイは最初キャベツを食べていた……言わずとしれたホウレンソウ系男子「ポパイ」。ホウレンソウを食べることで一気に強くなるというキャラが受けたのか世界中で大ヒット。実は彼、全米ベジタリアン協会のイメージキャラクターとして1929年に作られたキャラなのだ。子ども達に野菜を好きになってほしい、アメリカに菜食主義が広まってほしい、そんな願いで作られたという。マンガが原作なのだが、連載当時はホウレンソウの缶詰がなかったため、「キャベツ」をまるごと1個食べて強くなっている。味付けしないホウレンソウを食べて強くなるのもどうかと思うが、キャベツ丸ごと一個というのはさすがに無理がないだろうか…？

ポケモンは英語では絶対に「ポケモン」……アメリカでは「Pokemon」(ポキモン)として有名らしい。つまり「ポケットモンスター」は完全に日本の呼び名でしかない。なぜそうしたかというと「Pocketmonster」には「男性のアソコ」という意味があるためだ。当然俗語なのだが、正式名称がそれだとさすがに…。実はもう1つ、”Monster in My Pocket”という、フィギュア・ボードゲーム・カードゲーム・アニメ・ゲームと展開されていて、アメリカでは割と人気のシリーズの商標登録とぶつかることを避けたという説もある。

鉄腕アトムは英名で「アストロボーイ」……なぜアトムにしなかったかというと、atomがオナラを表す俗語だったからである。おそらく”atmosphere”(空気)からきている。オナラを出しながら飛ぶ機械なんて、確かに見たくない。

スヌーピーは閉所恐怖症？……都市伝説だが、実は彼、閉所恐怖症だという。その証拠に、立派な(ビリヤード台なんかが置いてある)犬小屋があるにもかかわらず、その中で寝たのを見たことがない。逆にあの犬小屋が空を飛ぶのは見たことがあるが…。さらに草むらで遊ぶのも見たことがない。草むら恐怖症でもあるらしい。ネットで有名な話だが、実際必ずしもそうとは言えない。マンガには犬小屋でテレビを見るシーンがあるし、野球の途中、丈の低い草むらで寝るシーンもある。だいたい閉所恐怖症ならビリヤード台を中においても遊べないだろう。正しくは「周りが見渡せないほど丈の高い草の中では閉所恐怖症になる」だと考えられるが、なかなかにマニアックではある…。もう「ガセでした」でいい気もする。

かくれんぼの発祥……中国での風習「迷蔵」が元とされる。愛し合う恋人達の片割れ、女性が山にひっそりと身を隠して男性が女性を見つける事で互いの愛情を確認すると言うもの。お遊びレベルじゃなく、本当に遭難してしまう人もいたとか。少なくとも遊びじゃなかったことは本当で、日本に伝わって遊びになったのは江戸時代くらいから。今やってみるとドキドキして意外と面白いのでやってみてはどうだろうか。もちろんそんなこと普通の大人が公園でしようものなら、警察とかくれんぼして見つかって終わるだけだが…。

魔女の宅急便の「宅急便」は登録商標……実はヤマト運輸の商標登録である。名付けてグッズも作り、映画館で公開という直前になりそれに気づいたため、大和運輸に尋ねたところ「ウチを映画の主要スポンサーにしてくれるなら」という条件で名前を変えなくてもよくなった。この映画に黒猫が登場するもんだから、確かに恰好の宣伝材料となっただろう。このほか、一般名詞化した登録商品名に、ニチバンのセロテープ、内田洋行のマジックインキ、セメダイン社のセメダインなどがある。

ぼくのなつやすみ 8月32日の恐ろしいバグ……大人たちを一気に夏へのノスタルジアへとかきたてる秀作、ぼくなつ。幻の「8月32日」を見れるのは昔から結構有名で、検証動画もあがっている。家からボクくん以外の人間が消えてしまう、それまで鳴いていたセミの声が一切聞こえなくなる、誰もいないはずの場所で声が聞こえる、絵日記の内容が支離滅裂に、メッセージの文字化け、家から出られなくなるなど、怖さ満点なので閲覧注意。もちろんプログラム上の単なるバグに過ぎないのだが、夏休みが終わってほしくないボクくんにとりつかれた呪いだの、8月と9月の狭間に閉じ込められただの、(もちろんそれが本当でないことは頭でわかっているが)信じ込んでしまいそうなものがある。この後も普通に進められるが、日付が経つにつれて世界が壊れていく。そして最後には完全にバグってしまう。本当に怖いので、心臓が弱い人は閲覧注意。

ドラクエ５の「村の大きさ」に関する粋な演出……幼少期を過ごす「サンタローズ村」。ストーリーでは幼少期ともう一度、大きくなってから訪れる。実はこのとき、「あれ？こんなに村小さかったっけ？」と思うプレイヤーも多いはず。これはスタッフの演出で、幼少期のときよりも村を小さく作っているらしい。実際に体験したことがある人もいるだろう。小さいとき遊んだ公園に大人になってきてみたら、その小ささにびっくりしたことを。人間は皆生まれたばかりのころは何もかもが新鮮だ。新しいことだらけだ。好奇心の塊だ。しかし年を取るにつれ、現実と向き合わされ、夢をかなぐり捨てて生きていかねばならない。子どものころ大きく感じたものが小さく感じられるということは、それだけ自分が成長した証でもあるとともに、夢と好奇心を捨てたことの現れでもあるのかもしれない。きっとそれは、身長の問題だけではないはずだ。

超能力を生み出せるゲームがある……「マインドシーカー」がそれ。超能力ブームのさ中生まれたファミコンソフト。「楽しみながら超能力を身に付ける」のコンセプトのもと、優れた超能力者が多数生まれる…はずもなく、夢と希望を抱いてこのソフトを買った幼い子どもたちを現実に引きもどした。「超能力開発センター」では、念力のトレーニング(Aボタンに念を込めて押し、画面のボタンをつける。実際はランダムでつくかどうか決まる)、予知のトレーニング(ランプが５つ並べられ、次にどれがつくか予知する。ランダム)、透視のトレーニング(伏せられたカードのマークを５択から答える。もちろんブラウン管に裏なぞ無い)をさせられ、見事卒業でたら街に出られるのだが、街の人たちもどこかおかしい。「あなたのサイパワーを見せてください」「バイブレーションを見せてください」。ボタンに念を込めて押し噴水から水を出すとか、これから出す荷物を当てるだとか、結局まあ運なのである。最終試練は一発合格できる可能性は約0.047%。これには七海千秋もガックリだろう。小学生たちに「そんなうまい話はない」と教えてくれたソフトでもある。将来数十万をアヤシイものにみつぐと思えば安い勉強代だ。

メタルギアのクリアリングはあえてマヌケにつくってある……クリアリング(clearing)とは軍事専門用語で、「ロストしたターゲットを探すため兵士たちが持ち場を徘徊する」という意味である。メタルギアシリーズは前代未聞の「ステルスアクション」…銃撃戦も可能であるが、見つからないほうが有利に進むというシステムをとっており、いかに素早く、見つからないように進むかがゲームのクリア難度を決める。敵に発見された場合、「危険フェイズ」に移行し、こちらに銃を撃ってきたり、ダクトに隠れた場合グレネードを投げて攻撃してくる。その後こちらの姿がいなくなってもしばらくは「クリアリング」といって、隠れたこちら側の行方を探そうとこちらに向かってきたりする。この敵兵士たちのAIを組む際、実際の特殊部隊が行動するような手法で組んでみたところ、難易度が急に上がって、クリアがほぼ不可能になってしまったというエピソードがあった。そういうわけで、メタルギアの敵兵士はわざとマヌケにつくってある。そもそも視界と耳が悪すぎるって、それ一番言われてるから…。現実には特殊部隊のもとへ潜入を仕掛けても、すぐに見つかって殺されるだけなので、やめようね！

ゲーム雑誌「ゲーメスト」の異常なまでの誤植の多さ……いわずとしれたゲームカタログ「ゲーメスト」。今は絶版になっている。誤植が非常に多いことで有名であり、ゲーメスト編集部もそれを気にしていたのか、「この本のどこかにわざと一つ誤植を残しておきました。見つけたらプレゼントを差し上げます」と書いていたにも関わらず、想定していた部分以外の誤植が多数見つかったため、この企画が取りやめになってしまった。有名なのは「ザンギエフのスーパーラリアット」が「ザンギュラのスーパーウリアッ上」や、「くぉー、ぶつかる！ここでハンドルを右に！」が「インド人を右に」など。エがュになったり、フがラになるのはわからなくもないが、常識的に考えて「スーパーウリアッ上」なんて名詞存在しないと気づくだろう…。草本が手書きで、それを係の人が読んで入力するのだが、もはやどっちが悪いのかわからないことに。ハンドルを右に、は、実際インド人っぽい人がカーブの近くにいたため混乱する事態となった。

ロンギヌスの槍……全人類の罪をその身に背負い磔にされたイエス。その死を確認するために用いられたのがロンギヌスとされている。現物がウィーンに保管されているが、そのほかにも本物と主張するものが何本かあり、どれが偽物、本物なのかはわかっていない。そもそも槍の存在がねつ造された可能性もあり、槍騒動をますます意味不明なものにしている。また、死を確認するためとあるが、「イエスの足の骨を折ってみようとしたが、明らかに死んでいるので折るのは中止した」という文が旧約聖書に書かれており、死んでいるのが明らかなら刺した意味がよくわからない。要するによくわからないのだ。そのくせ中二病が使うものだから、日本での知名度はかなり高いほうだと言えるだろう。

イージス艦……イージスシステムを搭載した艦の総称。高度なレーダーと情報処理・射撃指揮システムにより、200を超える目標を追尾し、その中の10個以上の目標を同時攻撃することができる。武器の面でイージス艦が他に比べて優れている訳ではない。ただ、その索敵能力、情報処理能力、対空迎撃能力が他の艦よりも(システムのおかげで)優れているのである。イージス(Aegis)とは、ギリシャ神話の中で最高神ゼウスが娘アテナに与えたという盾、アイギス(Aigis)のこと。この盾はあらゆる邪悪を払うとされている。

三種の神器……日本神話において、邇邇藝命(ににぎのみこと)が天照大御神(あまてらすおおみかみ)の命を受け、葦原中国(芦原のなかつくに、即ち日本国土)を治めるために日向国の高千穂峰へ天降った際に授けられた鏡・玉・剣のこと。また、それになぞらえられる、日本の歴代天皇が継承してきた三種の宝物を指すことも。八咫鏡(やたのかがみ)・八尺瓊勾玉(やさかにのまがたま)・草薙剣(くさなぎのつるぎ)。八咫鏡は天照大神が天の岩戸に隠れた岩戸隠れの際に用いられた(天岩戸神社は宮崎にあるので皆さん是非行ってください)。天照大神が岩戸を小さく開けたとき、この鏡で天照大神自身を映し、興味を持たせて外に引きずり出し、世の中が明るくなった。このとき八尺瓊勾玉も、八咫鏡とともに榊の木に掛けられた。草薙剣はスサノオがヤマタノオロチを倒したとき、その尾から出てきた剣。のちに日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が受け継ぎ、敵のはなった火から逃げるため、草をこの剣で薙ぎ払い、そこから草薙剣と名付けられたという。別名天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)。現在現物(？)は日本の各地に散らばっている。剣は愛知県の熱田神宮、鏡は三重県の伊勢神宮、勾玉は皇居。生きてる間に全部見れたら幸せになりそうだが、一般人はまずお目にかかれない。

イチジクの葉の腰ミノ……旧約聖書に登場する、アダムとイブが身に付けた腰ミノ。エデンの園で禁断の果実を食べると、自分たちが裸でいるのが恥ずかしくなり、イチジクの葉で作った腰ミノを身に付けたとされる。イチジクはこの他にも新約聖書にて、キリスト「実がならないイチジクの木を切り倒すのではなく、実るように世話をし肥料を与えて育てる」というたとえ話を語っている他、マルコによる福音書では、旅の途中イチジクの木を見つけた空腹のキリストがその木にまだ実がなっていないのに腹を立て、呪いの言葉を述べると翌日その木が枯れていたというエピソードがある。イチジクはしばしば絵画や聖書の中で、再臨、終末のたとえとして使われてきたようだ。これは聖書ができた時、イチジクが結構身近な食べ物だったからだと筆者は考えている。だが、なぜイチジクなのかという疑問への答えはわかっていない。

上杉謙信と毘沙門天の関係……上杉謙信といえば毘沙門天であろう。毘沙門天は仏教における四大神の一人だった。自分を「毘沙門天の生まれ変わりだ」と信じていたらしく、家臣にもそう言っていた。上杉家では誓約を結ぶとき、春日山城の毘沙門堂で行っていたが、ある時急な誓約をしなければならなくなった。戻っている時間がないので謙信は自分の前でするように言ったが家臣は聞かない。そこで、「私が毘沙門天になったつもりで、毘沙門天の前で誓約をしなさい」と言い、誓約させたというエピソードがある。その一方で、闘いの前には毘沙門天に祈っていたということも。

クリスマス・イブの「イブ」は「エヴァ」のイブなのか……違う。カトリック教会では12月24日は主の降誕の前日で、かつては断食をして備える日だった。夕刻以降に主の降誕の前夜のミサが行われる。「イヴ」(eve)」は「evening(夜、晩)」と同義の古語「even」の語末音が消失したものなので、アダムトエヴァの「エヴァ」ではない。

神父と牧師の違い……神父はカトリック教会での聖職者、牧師はプロテスタントでの信仰上の教師。神父(司祭)は、ミサをあげたり、洗礼、堅信、聖体などの儀式を行うといった、信徒にはない権限と地位があり、聖職者として生涯独身でなければならない。また、女性は神父になれない。牧師は、教区・教会を管理し、信仰を指導する信徒の代表である。聖職者ではなく教職者であるため、結婚は奨励されている。女性もなることができる。

リヴァイアサン……旧約聖書に登場する海中の怪物(怪獣)。「ねじれた」「渦を巻いた」という意味のヘブライ語が語源。原義から転じて、単に大きな怪物や生き物を意味する言葉でもある。伝統的には巨大な魚やクジラやワニなどの水陸両生の爬虫類で描かれるが、後世には海蛇や(それに近い形での)竜などといった形でも描かれている。戦艦や潜水艦の名前になってゲームに登場することがしばしば。

おみくじはなぜ木に結ぶか……おみくじの正しい使い方として想定されているのは、「家に持ち帰り持ち歩くが、都合の悪いときは木に結びつける」。つまりもういらないということで結ぶようだ。結果が悪いときは、もう一度引き直してよいらしい。こんなことを言い出せば「大吉が出るまで百回でも千回でも」(斉藤和義「メトロに乗って」)が可能になり、坊さん丸儲けである…。

プロメテウスの火……人間の手でコントロールできないほどリスクの大きい科学技術の暗喩として用いられる表現。原子力など。プロメテウスはギリシア神話にて、ゼウスの反対を押し切り、人類が幸せになると信じて「神の焔」を人類に与えた。未熟な人間に天地創造の力を与えることは、神々の間では禁忌とされていた。人類は火を基盤としたたくさんの恩恵を受けたが、同時に火を使って武器を作り戦争を始めてしまった。

近代的火葬の温度は何度か……870～980℃と言われる。もちろん肉はこんがり焼け、跡形もなくなるが、骨の主成分であるリン酸カルシウムの融点は1600℃くらいなので、骨は残ってしまう。

アスクレピオス……ギリシア神話の医学神。彼の持っていた杖に蛇(クスシヘビ)が巻き付いた絵は、世界保健機関のマークのほか、米国医師会のマークにも使われている。救急車にこれが描いてある国もある。

誤植でnotが欠落し、出版禁止になった聖書がある……「姦淫聖書」は世界で最も残念な聖書。「モーセの十戒」中の、「汝、姦淫することなかれ」(Thou shalt not commit adultery)のnotが欠落し、「汝、姦淫すべし」のまま作られてしまった。この誤りは多くの複写となって広まった。出版者は免許をはく奪された上に、罰金まで払わされた。英語ではこのようなnot欠落はありがちなため、AP通信のスタイルガイドでは、「無罪」を表すのにnot guiltyではなくinnocentを使うように勧められている。もちろん姦淫はしてはいけない。

火山雷のメカニズム……噴火する火山の上空でたまに雷が見られることがある。これは火山雷と呼ばれ、世界の終末のような風景が呼び寄せられることになる。どうして天気も悪くないのに雷が見えるのだろう。その原因は火山灰にあった。上空で火山灰がこすれあって静電気が起き、それが地面に放電されて雷となるのである。非常に怖いため、刺激に弱い人は見ないことをオススメする。

貿易風の語源……亜熱帯高圧帯から赤道低圧帯に恒常的に吹く風の呼び名が「貿易風」。昔、この風を利用して商人が貿易を行っていたことから貿易風と呼ばれるようになった、というのが実は誤訳であることはあまり知られていない。14世紀、tradeはpathやtrackつまり「通り道」のような意味で使われていたため、「通り道の風」という意味でしかない。旅客機は貿易風を生かすため、わざわざ遠回りに見える進路をとることがある。

オーロラの原理……オーロラは地球の極で見られる気象現象。太陽風のプラズマが地球の磁力線に沿って高速で降下し大気の酸素原子や窒素原子を励起することによって発光すると考えられているが、その詳細にはいまだ不明な点が多い。光(可視光)以外にも各種電磁波や電流と磁場、熱などが出る。ローマ神話の暁の女神Auroraに由来する。名前が浸透する以前から観測はされており、アリストテレスは「気象論」で「天の裂け目」と呼んでいたし、日本では「赤気」「紅気」と呼ばれていた。

エルニーニョ現象……インドネシア付近の海水温が下がり、逆に南太平洋東部の海水温が上がる現象。逆がラニーニャ現象。いずれも数年おきに起きる。これが起きてしまうと、フンボルト寒流から流れてくるカタクチイワシがとれず、アンチョビが大不漁になり、畜産にも影響が出るほか、様々な異常気象が起きる。根本的な原因はまだよくわかっていないが、大気と海洋の相互関係がかかわっているらしい。

フェーン現象……山を登ってくる湿った風が、山頂付近で飽和水蒸気圧に達し自らの水分を放出してから、乾いた風となって山を駆け下りる現象。湿った風よりも乾いた風のほうが温度変化しやすいため、元の風よりも温度が高くなる。山火事が起きやすいばかりか、強風で火が煽られてさらに燃え上がるため注意。1952年に起きた鳥取大火(たいか)はフェーン現象が原因とされ、罹災者2万人、罹災面積は160ヘクタールにものぼった。北米のロッキー山脈を越える風はチヌークと呼ばれ、米軍ヘリの名前にもなっている。

雷の仕組み……雲の中にある氷の粒がこすれ合い、大きいほうの粒が負電荷となる、そして大きいほうが雲の底に集まり、大地に正電荷が誘導され、大地に放電。その電圧は時として数億Vにもなる。海にいるときに雷が鳴りだしたら、すぐに地面に上がり、建物や車の中に避難しよう。海は電解質、いわば「塩水スープ」なので、数百メートルであろうと電気が伝わってくるからである。近くに何もない場合は、木を45度の高さに見上げるところでしゃがもう。

飛行機雲のしくみ……「上空の空気が冷たく湿っていると、エンジンから出る排気ガスの粒子が核になって水蒸気が固まり、目に見える雲となって表れる」というもの。そのため、上空が乾燥していたら飛行機雲はすぐに消えてしまう。飛行機雲がなかなか消えないということは、天気がその後崩れうることを示しているのだ。

海水濃度と緯度の関係……海水は塩分濃度3.5％の食塩水だと習ったかもしれないが、実は緯度により微妙にその濃度が異なる。赤道付近では雨が多く降るために濃度が薄くなり3.3％付近、緯度30度付近の亜熱帯高圧帯では、雨が降らないわりに太陽光でよく蒸発するため、濃度は3.8％付近になる。そのため、食塩をとって金を稼ごうと思うなら、亜熱帯高圧帯に行くと良い。一番いいのは、スーパーで買った食塩に変な無機物質を混ぜ、ヤフオクか何かで「天然モノの塩」と偽って売ることだ。大丈夫、塩の違いなんてわかりゃしないさ。

台風の大きさはどうやってはかるか……台風の大きさは主にヘクトパスカルで測られる。中心気圧が小さいほど、周りからたくさん風が吹き込むのだから、大きい台風になるのは当たり前。だが、その気圧は一体誰が測っているのだろうか？実はWW2のころに始まった台風観測は、飛行機に気圧計をつけて実際に測りに行っていた。まさに命がけだ。しかし現在は「ドボラック法」という便利な手法がある。気象衛星「ひまわり」が観測しつづけた可視光、赤外線画像から、その台風の大きさを統計学から見て推定するのだ。もちろんこの方法も万能ではなく、推定値が真の値よりも小さいことが欠点。

五輪のマーク……オリンピックと言えばやはり五つの輪のマークだろう。あれは世界五大陸(アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、ユーラシア、オーストラリア)や、自然現象(水の青・砂の黄色・土の黒・木の緑・火の赤)、スポーツの五大鉄則(水分・体力・技術・情熱・栄養)を表していると言われる。ちなみに五大陸だが、色によって大陸が指定されているわけではない。近代オリンピックの父、クーベルタン男爵が考えたと言われる。

マラソンの42.195kmは何に由来？……古代マラソンに直接由来するものではない。オリンピックでマラソンが採用された時は、大会ごとの距離が違っていた(同じコースを選手たちが走ることが重要だと考えられていたため)が、第四回ロンドンオリンピックのときの42.195kmをそのまま採用した。ちなみにこの時ドランド・ピエトリというイタリア選手が、係員の手助けを受けてゴールしたため、1着だったにも関わらず失格扱いとなり、記録も抹消されてしまった。これをドランドの悲劇という。ちなみに、マラソンという名前の由来は、紀元前450年、マラトンの戦いに勝ったことをアテナイの元老に伝えるため約40km、こと切れるまで走り続けた兵士に敬意を表したものである。彼は「我勝てり」と残して死んだという。どんな人生だ。

イエローカードの史上最多数……2001年W杯、ポルトガル－オランダ戦でのこと。音楽を愛するロシア人教師。そんな素顔を持つイワノフ主審が、笛を口にくわえた途端、試合を狂想曲に変えてしまった。具体的には、試合中でのイエローカード16枚、退場4人の大波乱となった。これにはFIFA会長も「審判にイエローカードを出すべきだ」と皮肉・苦言。退場させられた選手が、通路奥で並んで座り、呉越同舟で応援するありさま。16枚のイエローカードは過去、ドイツ対カメルーンの試合でも起こっている。

テニスの国際審判員は世界中の悪口に詳しい……テニスは紳士のスポーツだから、試合中に他の選手を罵倒するようなことがあってはならない。しかしいろんな国のいろんな言葉を話す選手がいるため、国際審判員は必然的にいろんな国の悪口に詳しくなる。これらの悪口を聞き取り、違反行為だと気づかなければならないからだ。「コードバイオレーション」といって、試合を無駄に遅延したり、選手が暴言を吐いたりするのを禁止するルールがテニスにはある。各大会において、コードバイオレーションに引っかかるような各言語の悪口のレジュメが配られる。もちろんこれに当たらないような暴言を言う人もいるため、審判は悪口を自分たちで勉強するのだとか。日本語で「核兵器保有！」とか言えばたぶん抵触せずに罵倒できるのではないだろうか。

ボウリングができた理由……発祥は意外なものだった。ボウリングは倒すピンを災いや悪魔に見立てて、それを沢山倒すことが出来たならば、その災いなどから逃れることが出来るという一種の宗教儀式であった。その歴史は古く、紀元前5000年頃には古代エジプトにおいて墓から木でできたボールとピンが発掘された事から、その頃からもボウリングに似たようなものがあったとされている。その後ルターが、9本のピンを使い、ひし形に並べ、ボウリングのルールを定めたことから、9本がメジャーになった。アメリカにも広まる。しかし、ボウリングによる賭けも行われていたため法律で「9本のピンをボールを投げて倒すゲームは禁止」と定められ、「なら10本ならいいのか！」と法の抜け穴を見つけた人が10本で始めるように。これが今のボウリングである。

ゴルフが18ホールの理由……ゴルフはホールを回っていき、最終的に18ホール目に入れた時点までの打った球の数の少なさを競うスポーツである。どうして18なのかにはいろいろ説があるが、有力なものとしては、スコットランド(ゴルフ発祥の地とされる)にて、風が吹きすさぶ中外にでてゴルフをやると身体が凍えるためウィスキーを飲みながらやっていた。そのウィスキーがちょうどなくなるのが18ホール目だったから、という説と、センドアンドリュース・ゴルフホールという有名なゴルフホールの一部が、市民生活に支障をきたしているという理由で市に返還されることとなった。もともと22コースあったのが4コース削られ、18コースになったという説がある。

ラジオ体操の元になった体操……メトロポリタン生命保険(今のメットライフ生命)が作った体操。戦前アメリカへ視察に行った逓信省の役人が、アメリカの保険最大手であるメトロポリタン生命がスポンサーとなって始まったラジオ体操を見て「これは保険会社として非常に良い取り組みだ」と考え、祖国に持ち帰り、広めたところ、日本では全国に大ブレイクしたが、本家のアメリカでは全く受けないまま、あっけなく放送は終了した…まこと事実は小説よりも奇なるものである。

甲子園で土の色が濃い理由……皆さんの学校の土は黒かったか？白かったか？筆者のところは白かった。体育祭なんて、一日中グラウンドを見ているもんだから、目に光が入ってきてまぶしいのなんの。それが理由なのだ。炎天下の中何時間も外に立たされる甲子園球児たちが眩しく感じないように、土が黒いのだ。ちなみに負けた選手たちが土を持って帰るため、定期的に継ぎ足しされている。鹿児島産の黒土と中国産の白砂を絶妙にブレンドして作る。白砂を混ぜるのは当然、水はけを良くするため。なお、持って帰った土は一体どうしているのか筆者はすごく気になる。元野球部の人とか、教えていただけませんかね…？

言語と視覚に関する普遍的な関係性は存在するか……ある、といってよい。それもほとんど間違いなくあることが、実験で確かめられている。それが「ブーバ・キキ効果」だ。言語(音)と視覚的イメージの共感覚に関する関係。ウネウネした丸いやつと、尖ったやつ、どちらがブーバでどちらがキキですかという質問をすると、98％の人間が前者をブーバ、後者をキキと答えた。これは被験者の母語にはほとんど関係なく、大人と幼児でも変わらない。どのような音からどのような概念を連想するか(音象徴)に関して、文化・言語の枠を超えた法則はないとされていた。この効果はそれを否定するもので、人間の言語が持つ普遍性に迫った重要な結果だ。なぜかはわかっていないが、自閉症の人はここまで顕著な差がでない。

monsterの語源……「正体のわからない恐ろしいもの、怪物」のような意味があるmonster。この語源をたどると、ラテン語の”monstrum”に行きつく。これは「存在は感じられるが、正体のわからないもの」と訳せる。この語源をさらにたどると”monere”という動詞になる。「思い出させる、気づかせる、忠告する」という意味がある。つまり「奇怪な出来事や恐ろしい怪物の出現は神々の警告だ」という考えを示している。monitorも同じくmonereを語源にしている。

踊り場の語源……文明開化のさ中、西洋人が派手なスカートを着て階段の踊り場をクルッとターン。その様子がまるでダンスのように見えたことからこう名付けられた説がある。ちなみに踊り場という概念も、文明開化以前の日本にはなかった(一直線に伸びた階段ならあったが)。「段差」と「ダンサー」をかけたとするものもあるがただのダジャレである。

「姑息」の誤用……「姑息な手を使いおって…！」というキャラが一人くらいいるのではないだろうか。実は「その場しのぎ」という意味があるのだが、間違ったほうの「卑怯な」で使われることが圧倒的に多い。誤用率は7割。もうそれ、正しく使っても通じないよね…？心臓病の手術には「姑息法」というのがある。比較的ちいさな侵襲で心臓や肺の負担をとる手術のことだ。こちらは本来の意味「その場しのぎ」で用いられている。

独占禁止法には正式名称がある……私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律。要するに『公平に取引するために独占を禁止しますよー』と言っているだけである。筆者の中学校のときの社会の先生が覚えていた。

「経済」は略語……経世済民(けいせいさいみん)、つまり世を治め、民を助ける、という意味。「経済学」というのは「人々を救い出すための学問」のはずなのだが、なぜか悪者にされることが多い。

アメリカ軍は第二次世界大戦中、自然言語を暗号にしていた……WW2、アメリカ軍のコードトーカーとして活躍した言語が「ナバホ語」。発音、文法ともに非常に困難であるため、母国語話者以外の学習はほぼ不可能だと言われるくらい。そのため、暗号化などしなくても「ナバホ語話者Aからナバホ語話者Bにそのままナバホ語で情報を伝える」だけで暗号の代わりとなった。当然解読などされない。日本軍は「早口で薩摩弁で話す」のを暗号の代わりにしたことがある。薩摩弁は全国でも珍しい「名詞が活用する言語」であるため、(「灰→ヘイ」「貝→ケイ」「大根→デコン」となったりする)たとえ日本人でも薩摩弁を理解するのはほぼ不可能。また日本語にはあり得ないであろう『子音で終わる語』が発達していたりもする。アメリカ軍は通信傍受自体はすぐできたのだが、これが何語なのかさえ最初は全く解読できなかったという。まさか日本語だとは思うまい。

breakfastの語源……前の晩から続けていた断食(fast)を破って(break)初めてとる食事が朝食であることに由来する。

ワシントンDCのD.C.は何か……ワシントンD.C.、法律上の正式名称は「コロンビア特別区」(District of Columbia)である。ちなみに「コロンビア」はアメリカ大陸を発見したコロンブスの名に由来。アメリカで唯一どこの州にも属さない連邦政府直轄の特別区で、連邦議会議事堂や大統領官邸のホワイトハウス、連邦最高裁判所などの中央官庁が置かれている。人口はそれほど多くないものの、世界を牛耳る国の首都ということで国際的に強大な影響力を有する都市。172か国の大使館に加え、世界銀行、国際通貨基金 (IMF)、米州機構 (OAS)、米州開発銀行、汎アメリカ保健機関 (PAHO) の本部も置かれている。労働組合、ロビイスト、職業組合など、各種団体の本部もある。

ワシとタカの違いはない……本質的な違いは大きさのみ。大きいほう(80～90cm)はワシと呼ばれ、小さいほう(50～60cm)はタカと呼ばれる。生物学的には同じ動物。ともに猛禽類ワシタカ目。一応区別はあるようだが、例外が多すぎて結局適当に。ただ、鷹狩りに使われるのは間違いなくタカ。

かきいれ時は「書き入れ時」……商売が繁盛して、最も利益が上がる時。漢字で書き入れ時と書くように、取引の数字を帳簿に書き入れることから来ている。お客を掻き入れるというほうではないが、こちらがなぜか使われていたりする。

瀬戸際の語源……「瀬戸」は「狭門」の意味で、両側の陸地が接近して海が狭くなっているところ。「狭い海峡と海の境目」が本来の意味。

天王山の語源……天王山は、山崎の戦いにおいて、羽柴秀吉が明智光秀を破った山。そこから転じて、勝敗や運命の分かれ道。標高はわずか270メートルだが、とても重要な戦略拠点になっていた。

にほん？にっぽん？どちらが正しいか……どちらでもよいことになっている。即ち国レベルでの訂正は別に意味がないとのこと。一度「にっぽん」で統一すると決められたが、それは昭和の話。好きなほうを使うがよい。というかなぜ2つあるのか。「にっぽん」のほうが言い方としては古い。実は昔「ハ行」は「ファ行」だった。例えば「羽柴秀吉」は「ふぁしばふぃでよし」と呼ばれていた(南蛮の宣教師のローマ字記録からわかっている)。そしてそれよりも昔、奈良時代には「パ行」だった。にふぉんとにっぽんが同じように使われていた。意味が同じなのに共存する例は、日本語はおろか世界の言語でも珍しいケースである。普通はどちらかが死んでしまう。

ウサギの数え方はなぜ「匹」ではないか……実は「匹」ではなく「羽」が正しい。これは昔のお坊さんが「肉が食べたいなあ、なんとかして食べたいなあ。そうだ、ウサギは実は鳥ってことにすれば食べられるんじゃない？」と考えたことによる。そこまでして食べるような人間に、修行がつとまったのだろうか。そこを我慢するのが修行者ではないのか。こういう血のにじむような努力は他にも見られ、「雁」が食べられないからと「がんもどき」が作られたりもした。

まな板の「まな」は何か……真魚と書き、「魚」という意味がある。食用可能な魚は全部真魚だ。それに対し、野菜のことを蔬菜(そな)と呼んでいたという。もしかしたら、野菜はまな板を使わずに切っていたのかもしれない。残念ながらそな板がないのでわからないが。

目白押しの語源……目白という鳥が、木の枝に身体を押し付け合って止まることから、多くの人たちが込み合って並ぶことを指すように。「オススメの商品が目白押し！」と言うが、商品は生き物ではないのに…これも比喩の一種なのだろうか。

村八分はなぜ「8」なのか……村八分とは昔の日本に実際にあった風習。村の掟や秩序を破った者に課される制裁。「村八分」は集団行動主義の日本社会における代表的ないじめの代名詞でもあり、様々なシーンでしばしば引用される。10個の共同作業のうち、放置すると他人に迷惑がかかる葬式と火災以外一切の交流を絶つ。葬式はしないと死体が腐敗して伝染病の元にもなるし、死んだ人間を裁くことはできないという考えもある。火災は放置すると他の家に燃え移ってしまう。2013年に起きた山口連続放火殺人事件では、加害者が村八分のようなものにあっていたらしい。例の「つけびして 煙りよろこぶ 田舎者」である。多くの放送局では「村八分」を放送止用語にしている。

元旦といえば、朝だけを指す……元旦の旦の字は、日の部分が太陽、一の部分が地平線とされる。すなわち、元旦は午前中だけなのである。亜種に「クリスマスイブの夜はクリスマス」がある。

カーニバルとフェスティバルの違い……カーニバルは参加する祭り、フェスティバルは見物する祭り。使い分けされているか今度見てみよう。

理髪師と美容師の違い……理髪師はヒゲがそれるが、美容師はそれない。というかそもそも国家資格の種類からして違う。

タヌキ寝入りは英語で……fox sleep。あまり一般的ではないがこのような表現がありはする。foxについては、”someone who is clever and good at deceiving people”(悪賢く、人を騙すのに長けている人)という記述があることから、キツネは西洋でもやはり嫌われているようだ。キツネ愛好者としてこの事情は黙っていられないが、事実キツネはとても頭が良く、なかなか捕まらないのだとか。飼っているウサギを食べられた農家たちがキツネを悪者にしたのだろうか？

うまのはなむけ……旅立つ人に餞別(せんべつ)の金品を贈ったり送別の宴を行ったりすること。馬の餞と書く。「馬の鼻向け」の意で、古代、旅に出る人の安全を祈って、出発時にその人の乗馬の鼻を行き先の方に向けた習慣から。

現代に残るアイヌ語……アイヌ語は伝統的に北海道で話されてきた言葉。現在アイヌ語を母国語として話す人はたぶん10人もいない。日本語にその住処を奪われてしまった哀れな言語であるが、その魂は日本語の中でまだ眠っている。例えばシシャモはアイヌ語のsusam(スサム、語源はsusu(スス(シュシュ))＝柳、ham(ハム)＝葉とされる)に由来する。(実際、シシャモは漢字で柳葉魚と書く)ほかにもラッコ、オットセイ、トナカイ、北海道や青森に残る難読漢字の地名は全てアイヌ語だ。意外なところだと雑誌non-no。ノンノはアイヌ語で「花」。アイヌ語を消さないようにする試みもされており、ラジオ講座があったりもする。方言によってだいぶ言葉が違うので、学ぶ人はまずそこから決めよう。あと、文字がないため、学習は全て口頭か、カタカナでの学習となる。日本語と文法はあまり似ていない。

ロシア語由来の日本語……イクラ(икра、魚の卵という意味)、インテリ(интеллигенция、知的階級にある人たちという意味)、コンビナート(комбинат、旧ソ連で計画的に配置された工業地域のことだったが、現在は「石油工業や鉄鋼業で、原料や商品を有機的に結び付けた工場群」をさす)、タイガ(Тайга、シベリア地方の針葉樹林の意味だったが、現在は高緯度地域の針葉樹林全体を指す言葉になっている)、アジト(агитпункт、扇動司令部、宣伝局を表す言葉)こう見ると意外と少ないことがわかる。ちなみにイクラは、ロシア語では「赤い卵」(クラースナヤ・イクラ)と言わないと日本語でいうイクラにならない。マンモスは「土の動物」という意味。土の中からしか発掘されないからか。

イヌイットの人々の「雪を表す単語」は52個ある？……52個あると言われているが、これはガセネタらしい。現代カナダを代表する作家のひとり、マードレッド・アドウッドの言葉に由来する。“The Eskimos had fifty-two names for snow.”(エスキモーは雪を表す52の単語を持っていた)しかしこれには続きがあり、“The Eskimos had fifty-two names for snow because it was important to them: there ought to be as many for love.”(エスキモーは雪を表す52の単語を持っていた、それは彼らにとって雪が大切だからだ。愛にも同じ数だけ名前があるべきだ)作家らしい何ともロマンチックな言葉だ。だが、52というのは文献には登場せず、せいぜい３～５がいいところ。彼女が考えた数字なのだろうか？

コロンブスの卵は嘘のエピソード……大陸発見は誰でもできる、と言われたコロンブスが、卵を立てることを試みさせ、誰も立てられなかった後に卵の尻をつぶして立ててみせたという逸話から、「誰にでもできそうなことでも、最初に行うのは難しい」という意味で「コロンブスの卵」という表現が使われる。ネットには結果論だけを見て「こいつバカじゃねーの。〇〇してればよかったんだ最初から」という人がいるが、それは後付けで言っているにすぎず、自分がその立場になったとして〇〇していたかどうかは疑わしい(事後諸葛亮の項も参照)。なおコロンブスの卵の逸話はガセだと言われている。

何かにたまたま気付く能力を大事にしよう……そういう能力を「セレンディピティ」(serendipity)という。日本語に訳すと「偶察力」みたいな意味。何気ない日常の偶然から科学的な何かに気づく能力だ。科学者にはまさに必須だが、一般人だって面白い発明ができるかもしれない。とはいえ、実直に生きることだけが必要条件ではない。運も大きく絡むのだ。例えばナイロンの発見だって、「倉庫に置いてあった失敗作を伸ばして壁に貼ったりして遊んでいたら糸みたいになった」…普通に考えれば怒られてもおかしくない。また、常識的に外れたことをした結果の発見もある。アスパルテームの発見は「包装紙についたのを舐めたら甘かった」。何にせよ、日々の小さな違和感を持つことが大事だ。

泣いて馬謖を斬る……街亭の戦いにおいて、自らの命令を無視し、その結果敗北につながったとして、諸葛亮が愛する部下、馬謖を泣きながら斬ったことから。この「泣いた」には二つあり、「正史」では馬謖のことを思って泣いたが、「三国志演義」では馬謖を重用しないよう劉備に言われていたにも関わらず重用した自分のふがいなさに泣いた。前者の意味で伝わり、現在では「法や規律を曲げて責任を不問にしてはいけない」という意味になっている。

連続テレビ小説というわけ……映像なのに小説。わかんねえな。これは「新聞に投稿される連続小説」すなわち「新聞小説」に対比してつけられたものである。

シャリの語源……「舎利」に由来し、舎利とは「お釈迦さまの骨」を意味し、その化身が米になったと考えられていた。白米はそれくらいありがたいものだったのだろう。

アンデスメロンの「アンデス」は……「アンデス山脈で栽培されていたから」ではなく(そんな高度じゃ栽培できなそう)、「安心ですメロン」から「アンデスメロン」にしたのだとか。もともと「安心ですメロン」で売るつもりだったらしいが、そうしていればここまで有名にはならなかっただろう。

ホテルと旅館の違い……主に洋室で10室以上の客室があり、洋式トイレがあるほうがホテル。主に和式で5室以上の客室があるほうが旅館。ということは洋式トイレがないといくら立派でもホテルにはなれないのだ。

泥酔の語源……どろどろに酔っぱらうこと。「泥」という虫が中国にいるらしい。南国に住み、水から上がると酔いつぶれたようにぐにゃぐにゃになってしまう。ここから「泥のように酔う」で「泥酔」となった説がある。同じように「泥のように眠る」もだろうか。平安時代には酒に酔ったのを「泥のごとし」と言っている。…というのが有名な説だが、単純に「泥」というのがものすごく柔らかいため、という説もあるようだ。

ひやかしの語源……買う気もないのに店を見て回ること。コンビニの立ち読みとはまた違う。紙をすいていた職人たちが、原料を水につけて冷やしているときは暇だったので遊郭の遊女を見て回ったことから由来するらしい。原料を冷やしている時間は遊女と遊ぶだけの時間もなく、ただ見て回るだけだった訳で、そうとは知らない遊女が声を掛けると、俗に言う「やり手婆」が 「冷かしてんだよ」と原料を冷やしていることを遊女に教えたそう。筆者はちなみにコンビニに行ってトイレだけ借りて「ありがとうございました」と言われるのは最高に申し訳なく感じ、一応店を回って見るのだが、どうだろうか。

グレるの語源……道を踏み外した若きライオンたちのことをこう言う。語源は平安時代に行われていた「貝合わせ」というゲーム。絵柄が描いてあるハマグリを上手く合わせればいいのだが、合わないとき「グリハマ」と言っていた。ここから「本来の道と食い違う」という意味でグレるとなったらしい。でもこのゲーム面白いのだろうか。

カリスマは「予言者」という意味だった……人を惹きつける能力がある人を「カリスマ」という。カリスマ的素質がある、というような使い方をする。ドイツ語の「Charisma」が語源であり、「奇跡を起こしたり、予言をしたりする能力」という意味がある。そこから転じ、予言ができる人間＝人を惹きつけるとなったのだろう。

ブスの語源……ブスな人に向かって言う失礼極まりない言葉「ブス」。たとえ事実でも名誉毀損になりうるので注意。もともとは「アルカロイド」という毒性を持つ物質を含むトリカブトを附子(ぶし)と呼んでいたことに由来する。これを井戸水に混ぜたりすると、少しずつ毒が利いて神経麻痺により顔の表情筋が動かなくなる。リウマチとか神経痛の薬として使われているのに、そっちのほうが有名になってしまった。

「白羽の矢が立つ」はあまり良い意味ではない？……「プロジェクトの成功のため、彼に白羽の矢が立った」。それ、誤用かもしれませんよ。そもそもこのことわざは、「多くの中から犠牲者として選び出される」ことのたとえ。現在ではそこから転じて、多くの人の中から特に選び出されることのたとえにも。語源を知ればそのわけがわかる。人身御供を求める神が、求める少女の家の屋根に、しるしとして白羽の矢を立てたという俗信から。転じ方的に、もしかしたら犠牲として選ばれること自体、昔の人にとっては幸福だったのかもしれない。ちなみにブラック企業で嫌な上司に好かれても「黒羽の矢が立つ」とはいわないし、不名誉。まあ犠牲にはなるか。

「社会の窓」だけでなく「理科の窓」もある……男性のズボンについているファスナーの覗穴？のことを「社会の窓」という。英語では”slit”などという(パンツの前開きのこともこういうらしい)。女性の中には勘違いしていらっしゃる方もいるかもしれないが、社会の窓が開いていたところで男性のソレが出てくるわけがない。ほとんどの男性は皆パンツを履いているからである。しかし一部まれに、そこから見せつけようとする卑猥な変質者も表れるため注意。だがやはり開いていると恥ずかしい。もともとはNHKラジオで「社会の窓」という番組があったことに由来する。女性のは「理科の窓」というらしいが、ほとんど浸透していない。

「シルエット」は人の名前だった……18世紀のフランスの大臣の名前に由来する。当時フランスは戦争が長引いたことで財政難に陥っており、シルエットは特に富裕層に対して厳しい倹約を要求しなければならなかった。写真が登場するまでは、切絵によるシンプルな肖像が人物の特徴を記録する最も安上がりな方法であり、彼はこれを好んだため、このような肖像画、さらには安上がりで済ますことが人々の間で「シルエット」と言われるようになった。ちなみに芸術作品にてシルエットになるのは横顔だが、これは老化や病気により骨格が変化することがないからである。

日本の通貨が円なのは……新政府にふさわしい貨幣を決めようと会議していたとき、大隈重信が親指と人差し指で円をつくり、「親指と人差し指でつくった円は、だれでもお金だと分かる。だから、新政府の貨幣の形は円形にすべきだ」と言ったことから。

悪魔さえも話せない「バスク語」……ピレネー山中の人々が話す言語が「バスク語」。およそ66万人しかいないが、彼らは自分たちの言語に誇りを持っているようで、言語衝突も起きている。非常に学習が難しいのは、テキストが少ないというのもあるが、他の周りの言語とは全く違うからだ。すなわち孤立語。英語のことわざに「悪魔が7年間バスク語を勉強したが、わかったのは『はい』と『いいえ』だけだった」というのがある。他にも「バスク人は悪魔の誘惑を受けない。なぜなら悪魔はバスク語を話せないから」というのもある。始める場合は覚悟が必要だし、この言語を学んでも語彙の面で他の言語の学習の役に立たないことを覚えておくべきだろう。

「義を見てせざるは勇無きなり」の誤用……「人としてなすべきことと知りながら、それを実行しないのは勇気がないからである」という意味。孔子の「論語」から。まさに正論だが、それを今の世で喚いても無視されるか疎まれるかだ。問題なのは「勇気をつける」ためにどうしたらよいのかわからない点。まず隗より始めましょう。

手を染めるのになぜ足を洗うのか……手を染めたなら辞める時は手を洗えよ、足洗ってんじゃねえよと思った方も多いだろう。もともとは「手を染める」ではなく「手を初める」で、「何かをし始める」という意味でしかなかった。悪い意味はもっていなかったのだ。足を洗うのは、一説には、修行僧が汚れた足を洗い、俗世間の煩悩を洗い清めることに由来すると言われる。別の説に、「藍染」の「染め」から来ているというものもある。染めはじめるとなかなか手の汚れが落ちない。

閑古鳥が鳴くの「閑古鳥」とは？……閑古鳥は「カッコウ」のこと。人のいない山里でカッコウが寂しそうに鳴くことから。別にカラスだろうがスズメだろうが何でもいいだろと思った方は、日本人の趣をわかっていない。

ドジを踏むの「ドジ」とは……ドジっ子のドジ。相撲の、土俵の外を土地(ドジ)といい、ここを踏むことに由来する。

「おじゃん」の語源……おじゃんはほとんど死語になっている表現で、「高いパソコンだけど、落ちたら全部おじゃんになっちゃった」すなわち役立たずになることを意味する。擬音で、火事の時鳴らす鐘の音に由来するらしい。火事が発生するとその鐘を鳴らして、注意を促したという。だがそんな音の鐘があったら是非聞いてみたいものだ。

素人、玄人はなぜ「しろうと」「くろうと」か……囲碁の際、黒を強い方の人が持っていたことに由来するが、今では囲碁のルールでは逆になっている。つまり、弱いほうが黒を持つ。ちなみに囲碁で黒石が先攻なのは、囲碁というゲームが非常に暦と密接だから。碁盤の目361は旧暦の1年を表したもので、碁石の白は昼、黒は夜をあらわす。1日の始まりが夜からだからなのだ。…という説はあるが、ちょっと怪しい。よくできたものほど俗説、これ雑学界の常識である。

「びっくり」の語源に関する信じられない俗説……第一次世界大戦でドイツ人に「ドイツ負けたってよ」と伝えたとき、彼が”Wirklich?”(ヴィークリヒ、「本当に？」の意)と言ったことに由来する…という説がテレビで流れ広まった。そんなわけがない。実際には「びくりとする」の促音化した語であることがわかっている。室町時代には「びくり」の単語が見られるのだから、そんなに遅いはずがない。

「子子子子子子子子子子子子」何と読む？……もちろん言葉遊びですよ、答え聞いても怒らないでね。これは「ねこのここねこ、ししのここじし(猫の子子猫、獅子の子子獅子)」と読む。嵯峨天皇の時代、内裏に「無悪善」と書いた立て札が立てられた。天皇が篁に読み方を尋ねたところ「さが(悪)なくてよからん(嵯峨天皇がいなければよいのに)」と読んだため、読めたのは篁が書いたために違いない！と天皇は怒る。そこで、自分は何でも読めるのだと弁明する篁に「子」の字を12個連ねたものを差し出し「ならば、これが読めるか」と問うたところ、「ねこのここねこ、ししのここじし」とたちどころに読んだ。これにはむしろ感心し、天皇の怒りも解けたという。プライドが高くなくてよかったな。

「チクタク」はいろんな言語でも「チクタク」……日本語で「チクタク」といえば、時計の針が進む擬音である。しかし実は日本語に限らず、英語ドイツ語フランス語スペイン語ロシア語で全部「チクタク」または「チックタック」。時計の針が尖っているからこのような音になったのだろうか(ブーバ・キキ効果を参照)。

B＆Bは何の略か……Bed&Breakfastの略。アメリカにあるホテルでこう書いてあることがある。ベッド、朝食付きという意味。いつか泊まってみたいものだが、日本と違いアメリカの朝食はボリュームが多いらしいので、日本人にはちょっときついかも。

アーメン、エイメン、どちらが正しいか……いちおう違いはあるが、非キリスト教信者にとっては同じようなもの。両方とも祈りの後にキリスト教の人が唱える言葉。ヘブライ語で「まことに」「本当にそうです」「それな」「ほんまそれ」みたいな意味がある。アーメンは聖歌で、エイメンはスピーチで使う。

助長の語源……苗を早く生長させようと思った宋の人が苗を引き抜いて枯らしてしまったという「孟子」の故事から。良い意味も持つのだが、もっぱら悪い意味にとられがちなので、「君の助長をありがとう」なんて言うと痛い目見ることになる。それを言うなら「君の助けをありがとう」だし、もっと武士っぽく言いたいなら「貴殿の助太刀に感謝いたす」になるだろう。感謝は恥ずかしいので、こういう風にふざけてみるのもありかもしれない。

御破算の語源……そろばんで、珠を全部払って前にした計算をこわし、新しい計算のできる状態にすることから。そろばんでは「ご破算で願いましては」と言い、転じて、今までの行きがかりを一切捨てて、元の何もない状態に戻すこと。決して悪い意味ではないので注意。ただ現代日本語ではもはや悪い意味のほうが多い。「これまでの計画が全部ご破算になったよ」というように。ごはさんと読むこともあるが、ごわさんとも読む。変換では前者のほうが出てきた。

なおざりとおざなりの覚え方……なおざりとおざなり、混同しやすい日本語第５位くらいにノミネートするであろう、まぎらわしい二つの言葉。なおざりはいい加減、おざなりはその場しのぎという意味。古文単語ゴロゴより「直子ざりざりムダ毛の処理がいい加減」で覚え、おざなりは「御座なり」で覚えるとよい。

餅の語源……そんなものにも語源があるのか！ありますよ、もちろん。日本人として知っておきましょう。餅飯(モチイヒ)を略した「モチヒ」が短くなった語。戻り正月のことを望日(もちひ)と呼び、餅を食べたからとする説、長期保存に適しているため「長持ち」のモチ説、携帯できるため「持ち運び」のモチ説もあるが、正確な語源は不明。えぇ、結局わからないんです。人生はそんなもの。

畜生の語源……相手を罵倒したり、どうにもならない状況に陥ったりしたときに出てくる言葉「チクショー！」。畜生とはもともと「動物」という意味があり、仏教の六道の一つに畜生道がある。これを人間である他人に言う、失礼極まりない罵倒語なので、よい子のみんなはどんどん使っていこうね。

いまいちすごさが伝わらないことわざ「盲亀の浮木」……盲亀の浮木(もうきのふぼく)は「めっちゃレア」みたいな意味。漢字からもわかるように、目の見えない亀が、海で浮き木に出会うくらいめったにないことの例え。仏教用語なのだが、そのせいで現代人にはイマイチぱっとこないことわざになってしまった。出てくるのはクイズ界隈ぐらいだろう。

amazonの下の矢印の意味……aからzにかけて矢印が引いてあるのにお気づきだろうか。これは「aからzまで、全てのものがそろっている」という意味らしい。確かにアマゾンは全てのものがそろっている。上手いこと考えたものだ。そろっていないと言えばアマゾンの買収権くらいだ。

アンモニアの語源……臭い物質であるとともに、ドイツが戦争で戦い続けられる理由にもなった物質。近代科学においてアンモニアの合成はすなわち窒素の化学肥料の誕生を意味し、「水と空気からパンを！」が実現されたのである。そんなアンモニアの語源はギリシャの「アモン神殿」から。ここでアンモニアがとれていたらしい。

タルの隙間から出ていくアルコールは「天使の取り分」……ワインやブランデーを醸造する際、西洋では伝統的にタルが使われてきた。タルの隙間から毎年1～3パーセントのアルコールや水分が蒸発し、それを天使の取り分という。天使は酒を飲むかわりに、さまざまなフレーバーを酒に与えてくれるのだ。とはいえよく考えればこれってけっこうな取り分だ…。ヨーロッパでは3年以上の樽熟成がないとウィスキーにならないので、最低でも0.97^3で90%になるのだ。20年モノだと半分！ひでえ話である(だからウィスキーは高い)。なお酒を開封した後の蒸発は「悪魔のぼったくり」(悪魔の取り分)とゲームのキャラが呼んでいたらしい。悪魔は何も与えないからぼったくっていく。上手いこと考えたものだ。

「たんのう」「かんのう」どちらが正しいか……どちらも正しいのだが、読み方には注意しよう。堪能には二つ読み方があり、意味が違う。「たんのう」であれば満ち足りていること、「かんのう」であれば忍耐が深くその道に達して上手なこと。音読で読み分けられるとかっこいいが、ほとんどの人はそれに気づかないだろう。この雑学もあまり意味がない。

「ピーマン」はフランス語で「トウガラシ」……ピーマンはトウガラシの仲間(甘味種)であり、日本では明治時代まで「西洋トウガラシ」「甘トウガラシ」とも呼ばれていた。英語では”Green Pepper”や”Sweet Pepper”と呼ばれる。じゃあピーマンってどこから来た呼び名なんだよと思われるかもしれない。ピメント(フランス語の”piment”)、広義のトウガラシの意から来ている。

「冬将軍」という表現は英語にもある……厳しい冬の様子を擬人化した語が「冬将軍」。ニュースで「冬将軍到来！」とあれば、「めっちゃ寒くなった・なる」という意味。そして英語では”General Winter”である。日本では特に、冬季に周期的に南下するシベリア海気団を指す。ナポレオンがロシア遠征で負けたことに由来する。というか、英語とかの表現が日本語に訳されたものと考えたほうが適切だろう。

「ジグザグ」は実は外来語……日本語の擬音に聞こえるが、実は外来語。英語でzigzag、意味は同じ。

ショートケーキの「ショート」とは？……短くもねえのにショートとかやめてくれよ…と思った方もいるかもしれない。ショートケーキのショートは「ショートニング」のショートである。ショートニングとは、マーガリンから水分と添加物を除いた油のこと。食べ過ぎると寿命が短くなるからショートではない。

手薬煉を引くの語源……「準備して待ってる」という意味。薬煉とは、松脂を油で煮て固めたもので、弓の弦を強くするのに塗られる粘着剤。

にじり口の「にじり」とは……茶室の入り口をにじり口と呼ぶ。千利休が「茶室では皆平等であるべきだ」と考え、武士が帯刀したまま入れないように、わざと入り口を狭くし、にじらないと(膝をついて動かないと)入れないようにした…という話が有名。信憑性があまりないけども。

ルビを振るの「ルビ」とは……宝石のルビーが語源である。イギリスの印刷業界では、文字の大きさを「ダイアモンド」「パール」「ルビー」「エメラルド」などと宝石の名前で表した。この「ルビー」という文字サイズが、日本では振り仮名に使う「7号」という文字サイズに近かったので、振り仮名の文字サイズのことを「ルビー」が訛って「ルビ」と言うようになり、やがて振り仮名自体の名称も「ルビ」となった。

お菓子「ハイチュウ」は略語……もともとは「森永チューレット」という商品名だったが、それがハイグレード化したらしく、「ハイグレード化した森永チューレット」で略して「ハイチュウ」になった。公式サイトに書かれていたので間違いないと思われる。

耐震と制震と免震の違い……耐震は建物の構造自体を地震に耐えられるように硬くすること。制震は揺れのエネルギーを柱により吸収するようにすること、免震は基礎に積層ゴムなどを敷き、地震の揺れを軽減すること。コストは耐震がもっとも小さく、免震がもっとも大きい。1963年以前、日本では高さ31メートル以上の高層ビルの建築は法的に許されなかった。技術が進歩して法律が改正し、最初に100mをこえるビルが誕生したのだが、それが霞が関ビル。それ以前の地震対策には耐震構造が取られていた。鉄筋コンクリートで柱や壁を強くする「剛構造」である。しかし100m以上となると、もはや鉄とコンクリートの重さで実用に耐えられなくなるということで、制震構造が採用された。地震の揺れに合わせて建物を適度に揺らし、エネルギーを分散・吸収する「柔構造」の考え方だ。この考えは五重塔に由来し、関東大震災で多くの建物が倒壊するなか、寛永寺の五重塔は元の姿を保っていた。それをみた建築学者がしくみを調べ、現代に生かしたのだ。心柱(しんばしら)構造とよぶもので、東京スカイツリーにも採用されている。2011年の東日本大震災では、高層ビルが長周期振動で大きく揺れた。これが柔構造の欠点で、最近ではこの揺れも抑えようとする技術が開発されている。それが免震構造。ゴムを基礎に敷くことで、エネルギーが建物に伝わりにくくするというものだ。この3つはどれが優れているというより、目的にあったものを採用すべきである。

「一度失った機会はユピテルでさえも取り戻せない」ということわざがある……ラテン語が元の格言。”Elapsam semel occasionem non ipse potest Juppiter reprehendere”ユピテルはローマ神話の主神。彼でさえ時間は取り戻せないのだから、後悔しないよう生きねばならない、という意味らしい。確かにそうかもしれないが、日本語にはもっと良いことばがあります。「後悔先に立たず」。

“memento mori”には2つの解釈がある……最近アニメなどで使われ、すっかり有名になった名言が「メメント・モリ」。死を思い出せ、という意味のラテン語。二つ意味解釈があるため、そのどちらかしか紹介しないものは総じてクソである。「人間どうせ死ぬんだから生に執着するな」と「今の生を楽しめ」。いずれにせよ楽しんで生きることが大切だろう。みんな死ぬのだと思えば、目の前の嫉妬心も怒りも憎しみも少しくらい抑えられないだろうか。そんなの無理に決まってるだろ、いい加減にしろ！

墓に彫られる”Hodie mihi, cras tibi. Tu fui, ego eris”の意味……私はかつてあなただった、あなたはいずれ私となる、という意味のラテン語。ちゃんと文意がわかるように訳すと、「私はかつてあなた(のような生者)だった、あなたはいずれ私(のような死者)となる」。墓によく彫られているのを見る。筆者も死んだらこれを彫ってもらうつもりだ。この類のラテン語の名言は、だいたい「極限脱出」シリーズで知ったので、みんなもぜひしよう。

ゴルディアスの結び目……手に負えないような難問を誰も思いつかなかった大胆な方法で解決することのメタファー「難題を一刀両断に解くが如く」(英: To Cut The Gordian Knot )として使われる。ゴルディアスさんが「この紐をほどいた人が、アジアを征服する王となろう」といい、それまで誰も見た事がないほどしっかりと結びつけた。それをアレクサンドロス大王が斬ると、いとも簡単に結び目がとれてしまった。彼は本当にアジアの王になった。ほどくとか言いつつ斬るのは反則な気がしないでもないが…。

同工異曲……音楽や詩文などで、その技量が同じでも味わいや趣がまちまちであること。転じて、見た目は異なるが、内容は似たり寄ったりであること。大同小異と同じ意味であるが、それよりも知名度が低すぎる。

一張羅の「張羅」はロウソクのこと……一本のロウソクの意。転じて、一着しかない上等の服のことをいう。羅とは「うすぎぬ」。

アブラカダブラとはどういう意味か……アブラカダブラは言わずと知れた謎の呪文。熱病を治す呪文らしい。アラム語で「このことばのようにいなくなれ」という意味がある。手品を披露する際の掛け声として世界中の手品師に利用されている。ハリーポッターシリーズでも登場。「アブラ・ケダブラ」で、「死の呪い」である。ラテン語発祥の呪文が多い中、唯一ラテン語発祥でない呪文。そんなに古い呪文が残っていること自体、まさに奇跡のようなものだ。

あまりに稚拙すぎてミームになった英語表現がある……それがAll your base are belong to us”である。1989年に発売されたゲーム「ゼロウィング」のヨーロッパ版で見られたセリフ。その文章力により2001年から2002年にかけ瞬く間に流行り、インターネット上で起こった現象(ミーム)の中で最も有名なものの一つとなった。きっと「君たちの基地は全部私たちがいただいた」と言いたかったのだろうが、そもそも”All your base”は複数形なので”bases”だし、”belong”は「人が何かのグループに所属する」というときにしか使えないし、いろいろおかしい。最大限に意味を汲み取って訳すなら、”All of your bases has been under control.”にでもなるのだろうが、こんなにこなれた表現は出てこないものである。元画像に加え、多くのコラージュ写真、GIFアニメーション、フラッシュ画像等がインターネット中を席巻したのに、こんな英訳をした戦犯はいまだわかっていない。というか自分が戦犯なら恥ずかしくて名乗り出ることはできない。

テラロッサ……地中海の赤土を指す。石灰岩の風化によりでき、地中海沿岸に主に分布している。石灰に含まれる炭酸カルシウムが溶け出し、後に残った鉄分などが酸化したために赤紫色をしている。養分があまりないため、果樹栽培に使われる。イタリア語で「赤い土」(terra rossa)。たぶんrose(バラ)と同じ語源。ラテン語をやったら、同じ語源だとわかりました。

なぜ「トウモロコシ」は「トウモコロシ」になるのか……言語学ではそういう現象をメタテシス、音位転換と呼ぶ。エベレストがエレベストになったり、エレベーターがエベレーターになったりトウモロコシがトウモコロシになったりするアレである。似ているためにどこかを組み替えて覚えてしまうのだ。意外にも、これで普及した言葉もある。「新しい」がその一つ。古文を習ったときに、どうして「あらたし」(惜しい、もったいない)という単語があるのだろうと思わなかっただろうか？実は昔は「新しい」で「あらたしい」と呼んでいたのだ。その証拠に、「改める」「改む」「新たな」という言葉が残っており、こちらは「あらた」が入る。また、「山茶花」(さざんか)は元もと「さんさか」だった。秋葉原が「アキバハラ」と読まれないのも、同じ理由。某狩猟ゲームにて、でかい蟹のことを「シェンガレオン」と呼んでいる人がいたら、これを引っ張り出して優しく教えてあげよう。

軍艦大和にまつわる「皮肉な」歴史……大和といえば、大日本帝国海軍が建造した史上最大の戦艦である。当時の日本の最高技術を結集し建造されたもので、史上最大の排水量に史上最大の46cm主砲3基9門を備え、防御面でいえば、重要区画(バイタルパート)では対46cm砲防御が施された。他にも様々な最新鋭技術が惜しげもなく使われている。内線電話、クーラー、自動洗米装置、サイダー工場、水洗便所。ほとんど活躍せず、戦いに出なかった大和に対し「大和ホテル」というあだ名がつけられ揶揄されたのもわかるだろう。かかった建造費は国家予算の３パーセント。ただし能力と比べたときの功績は疑問が残る。初戦「ミッドウェー作戦」では旗艦として出撃するも、南雲部隊空母全滅の報を受け会敵することなく帰還した。初めて主砲による砲撃を行ったのは、あ号作戦におけるマリアナ沖海戦で、この作戦では前衛部隊に配置され敵機と交戦したが、対空射撃のみであり敵艦隊と撃ち合うことはなかった。レイテ沖海戦では、アメリカの護衛空母・護衛駆逐艦と遭遇して初めて敵艦を狙って主砲を発射した。ただし主砲の徹甲弾は、敵艦の装甲を突き抜けて反対側の海に落ちるなど、その技術と努力に見合う功績はあげられなかった(ちなみに、この海戦で武蔵を失っている)。その後、「大和を沖縄の海岸に乗りあげて砲台としてアメリカを迎え撃つ」天一号作戦の一環として参戦、沖縄に向かう途中の坊ノ岬沖で撃沈されている。多数の魚雷、爆弾をその巨体に浴び、対空砲火も満足に使えぬまま、弾薬庫暴発または水蒸気爆発により、鋼鉄の絶叫をあげ深い海に沈んでいった。それにしても、「これからの時代は戦艦ではなく航空機だ」と暗に示した(当時はそんなこと知りもしなかったし、アメリカだってそうだったが)日本が、航空機の攻撃によって国の総力を挙げ建造した戦艦を撃沈されてしまうのは、結果的であれ歴史の皮肉というほかない。

バルカン砲……アメリカの6連装回転式20mmキャノン砲。M61。航空機関砲や艦艇・地上部隊用の低高度防空用機関砲として用いられる。日本ではバルカン(Valcan、ローマ神話の「鍛冶の神」)の名で知られる。20口径、毎分4000発の発射速度を持つため、人間がこれを浴びれば「木っ端微塵」であることは覚えておこう。

対物ライフルはハーグ陸戦条約で使用が禁止されている？……かつての対戦車ライフルに相当する大型の銃が対物ライフルである。土嚢や壁などの障害物に隠れる敵や、軽車両に対して損傷を与えることも可能。場合によっては強化ガラスやキャノピーを突き破ることもできる。ただし、対物ライフルは通常のライフルよりも遥かに長く大きく重く、また反動も強力であり、設置による支持射撃状態(いわゆる伏射が主流)以外から、つまり、通常のライフルのように肩づけや腰だめで正確に射撃するのはほぼ不可能。戦時の対物ライフルによる対人狙撃は、ハーグ陸戦条約で禁止されている「不必要な苦痛を与える兵器」に該当している説が出ることもあるが、明示的に、これも含め諸条約に該当している部分はない。当然人間に撃てば跡形もなくなるため、むしろ人道的でさえある。地雷よりは100倍マシ。

スペツナズナイフ……ソ連の特殊部隊「スペツナズ」が装備していたとされるナイフ。強力なスプリング(バネ)が取り付けられており、刀身を射出することのできる、中二心をくすぐる武器。ちゃんと安全装置が取り付けられており、柄の部分を強く握らないと外れないようになっている。一応ナイフを戻して再装備も可能ではあるが、スプリングが強力すぎてまず無理。実際に軍の制式装備品として使われていたかは定かでなく、書類にもその名が残っていないため暗器だろうとされている。あるいは単に都市伝説か。筆者が中学生の頃、同級生がこれを自作していた。ちゃんと木に刺さっていたため、相当作りこんだのだろう。

ステルス迷彩は実用化されるか……別にこの名称でなくてもいい。「人体透明化」だ。いろんな作品に未来技術として登場する技術。ステルス迷彩はメタルギアでの名前であり、攻殻機動隊では「擬態」と呼ばれていた。その仕組みは様々であり、カメラで撮った映像をそのまま反対側に流すことで一定の方向から透明に見えるだとか、周辺の重力場を操り、光がうまく歪曲するように作るだとか、屈折率を変えることで光の通り道を妨げないようにして透明にするだとか、まあいろいろある。実用化に期待がかかるが、こんなものが実用化されたらみんな熱探知器をつけながら生活せねばならない。ましてや赤外線も歪曲されたら観測手段がなくなる。暗殺が横行するであろう。

燃料気化爆弾の原理……通常の爆弾が「外殻を爆風で飛ばし、人間に当てて殺傷する」という仕組みなのに対し、こちらはサーモバリック爆薬の初速の速さを生かし、空間爆発によって長い時間、衝撃波を人間に与えて殺傷する。すなわち内臓破裂を起こさせて殺すのだ。

世界一人を殺した武器……それがAK-47、1949年にソ連が制式採用した自動小銃。世界で最も有名かつ最も使用されたアサルトライフル。「世界で最も使用された軍用銃」としてギネスに載っている。カラシニコフが作ったためカラシニコフという名でも呼ばれる。すぐに模造品が生まれたため彼はほとんどテナント料を得ていない。暑さ寒さへの耐久性、ジャングルでも砂漠でも動く信頼性、取り外し、部品交換のしやすさにより、瞬く間に世界中に溢れた。現在でも世界中で約5～7百万丁ほどのAK-47が流通し、多数の武装勢力による紛争、テロリストなどに使用され、発展途上国で多大な被害をもたらしている。世界で恐らく最もたくさんの人を殺した武器でもある。

「ド級」の「ド」は戦艦のこと……超ド級の迫力！という宣伝を見た事があるだろうか。ド級のドとはドレッドノートのド。イギリスの戦艦で、中間砲・副砲を撤廃し、単一口径の連装主砲塔5基で兵装を構成することによって、当時の戦艦の概念を一変させた革新的な艦だった。また、当時の艦がレシプロ機関で18ノットしかなかったのに対し、蒸気タービンを回すことで21ノットを獲得。後世の戦艦設計に大きな影響を与えた。英語でdreadnoughtは「恐れ知らず」という意味。ド級は「めっちゃでかい」みたいな意味で使われる。

ティーガー……WW2のドイツで開発された戦車。ティーガーはティーガーⅡからの呼び名であり、ティーガーIの正式名称はあくまでVI号戦車。それまで重視されていたバランスを捨て、機動力を犠牲にして火力と装甲を強化した重戦車である。めちゃくちゃに堅く、IIともなれば正面装甲を突破できた車両は存在しない。しかし燃費の悪さはやはりネックだったようで、兵站を維持できなかったドイツはティーガーを捨てて逃げるか、航空機により各個撃破されていった。しかしやはり「無敵の戦車」であったことは付け加えておきたい。

MIRV……マーヴ。ひとつの弾道ミサイルに複数の弾頭(一般的に核弾頭)を装備しそれぞれが違う目標に攻撃ができる弾道ミサイルの弾頭搭載方式。核ミサイルの配備数を増やさずに核攻撃力を増大させることができる画期的手段とされた。使われないことを祈ろう。

口径……銃口の大きさを表すのに使われる単位。ｎ口径＝100分のｎインチということになる。すなわち100口径であれば１インチ：2.54cmである。

ソナーには2種類ある……敵艦や海中の物体の位置を示すのに使われるシステムが「ソナー」。アクティブソナーとパッシプソナーの二種類がある。アクティブソナーは自ら超音波を出し、その跳ね返りによって敵の位置を割り出す。パッシブソナーは敵艦が出す音を拾う。レーダーが電波探信儀とも呼ばれるように、ソナーは超音波探信儀と呼ばれることがある。レーダーが電磁波を使用した探信儀であるのに対して、ソナーは超音波を使用した探信儀であるためである。電波と違い超音波は、電解質である海水の影響を受けず、遠くまで速く届く(1500ｍ毎秒で進む、10kHzの波なら10km先でも観測が可能である)。原理としてはイルカと同じようなものだ。

世界初の航空機事故は気球で起こった……気球の中の種類に「ロジェ気球」がある。水素やヘリウムガスによる静的浮力で浮揚するガス気球と、熱源により気嚢内の空気の密度が外部の空気の密度より小さくなることによる浮力を利用した熱気球の機能を一体化した複合気球…要するに「熱気球とガス気球をいいとこどりしました」というもの。「ロジェ」という名は、初めてこの気球での飛行に挑戦したフランス人、ピラートル・ド・ロジェの名前にちなんだもの。ガスの放出やバラストの落下を行わずに数日～数週間浮遊できる。すでにイギリスからフランスにかけ、イギリス海峡を横断する形での飛行が別の人により成功していたため、その逆ルートを企画。しかしイギリス海峡は西風が吹くことが多く、逆ルートでは向かい風となり気球が出発地側に押し戻されることが予想され、海に墜落する恐れもあった。そのため、気球の上部のガス気球で気球の浮力を温存し、下部の熱気球で浮力を補うことで長時間の滞空が期待できる新型のロジェ気球が考案された。当時の浮遊ガスは水素しかなく、「火薬のそばで火を焚くようなもの」とジャック・シャルルは警告した。しかしロジェは耳を貸さない。そのまま乗っていって、水素ガスに引火して墜落、死亡。世界初の航空機事故の死者でもある。

ノーチラスがわざと短い期間で浮上する理由……アメリカが開発した世界初の原子力潜水艦が「ノーチラス」号である。この潜水艦は水中での長期航行が可能であり、むしろそれを常態とするように酸素を必要としない原子炉をエンジンにしているのだが、実際には長くても２か月たたずで上がってくる。食料や燃料の補給をするとともに、乗員への心理面を考えてこのスパンだ。効率、出力量ともに良いのだが、音がうるさいというのが欠点。すなわち高度なレーダーやソナーを持つ国との戦争は不利。ノーチラスという名前はラテン語の「オウムガイ」から来ている。

デーモン・コア……世にも恐ろしい6.2kgのプルトニウムの塊。不注意な取り扱いのために1945年と1946年にそれぞれ臨界状態に達してしまう事故を起こし、二人の科学者の命を奪ったことから「デーモン・コア(悪魔のコア)」のあだ名がつけられた。1945年、この塊を使って中性子反射体の働きを見る実験を行っていた。プルトニウムの塊の周囲に中性子反射体である炭化タングステンのブロックを積み重ねることで徐々に臨界に近づける、という要旨の実験であった。ブロックをコアに近づけ過ぎると即座に臨界状態に達して核分裂が始まり、大量の中性子線が放たれるため危険である。しかし実験者は手が滑り、ブロックを誤ってプルトニウムの塊の上に落下させてしまった。プルトニウムの塊は即座に核分裂を起こし、そこから放たれた中性子線は彼を直撃した。すぐにブロックをどかしたが、既に致死量を浴びた後だった。彼は25日後に死んだ。そして1946年、実験内容は省略するがやはり同じ目に。ファインマンが「ドラゴンの尻尾をくすぐるようなものだ」と警告していた実験だったが、功名心の強い若き科学者が犠牲になった。わずが1秒の間に21シーベルトを浴び他の科学者の盾になる形で放射線を受け止めた。

全然、迷彩にならないような迷彩があった……WW1を全盛期に、WW2くらいまで使われていた艦の迷彩「ダズル迷彩」。とりあえずググって画像を見てほしいが、対照色で塗装された複雑な幾何学模様で構成されている。本来迷彩とは「周りと同化して見えないものにする」という目的があるはずだが、こんなに目立つ色にしていいのだろうか。いいのである。昔の砲撃はレーダーや火器管制装置はなかったため、砲撃手の横で観測手が敵艦の艦種、規模、速度、位置を教えていた。このダズル迷彩は観測手にとっては最高に嫌らしい迷彩だったのだ。速度や位置がとても分かりにくいため、なかなか伝えられない。船尾と船首がどちらなのかも、こっちに向かってきているのかもわからない。いわば、人を混乱させるために使われていたのだ。しかしレーダーが発明されてからは、この迷彩も無駄になってしまった。

石油タンカーは帰りにわざと海水を運ぶ……帰りは石油積んでないから楽じゃんと思うかもしれないが、実は違う。石油タンカーはその存在意義が「石油を運ぶこと」なので、何も積んでいないと軽すぎて航行できない(ひっくり返る)のだ。よって帰りはわざと海水を入れ、重さを調節している。

架空の少女……戦時中に「実際に」あったエピソード、の改変。ほとんど事実。ドイツ軍に捕らえられてしまったフランス兵たち。厳しく長い捕虜生活の中、他の兵士たちが病死したり発狂したりする中、ある部屋のフランス兵たちは全員そろって正気のまま故郷の土を踏んだ。彼らは牢獄の中に「架空の少女」を作り上げた。部屋の端っこに「彼女」専用の席を作った。彼らグループの中で、喧嘩や口論など紳士らしからぬ振る舞いに及んだ者は誰であろうと、その席にいる少女に頭を下げ、皆に聞こえる声で非礼を詫びなければならない。着替えの時は、見苦しい姿を彼女に見せぬように、その席の前に目隠しの布を吊り、食事の時は、皆の分を分け合って彼女の為に一膳をこしらえ、予め決められた彼女の「誕生日」やクリスマスには、各自がささやかな手作りのプレゼントを用意し、歌でお祝いをする。最初はゲームのようなものだったのだが、監視のドイツ軍までもが本当に一人匿っていると勘違いし、屋根裏を捜索するまでに至った。こうして正気を保ったまま彼らは生き延びたのだ…という話。実際には貴婦人だったのだが、ほぼ事実である。宗教における信仰と同じようなもので、誰かに見られていると常に意識することで、行動の規律や安心感が生まれてくるのである。

ジェット燃料の単位は……Lではなくkgなのだ。なぜかというと、燃料が温度によって密度を変えるからである。車のガソリンのような微量の違いならまだしも、ジェット燃料となるとその差は大きくなる。アラスカとハワイのように気温差が60度以上になるような状況では体積で計算すると10 %近くも違ってくる。食用油も同じで、グラム表示じゃないといけない。

飛行機の燃費はめちゃくちゃ悪い……最近ではリッター30km、40km台の車も出始めている。世はエコブーム。そんな中超燃費の悪い乗り物があった。それが飛行機である。ボーイング787は「127kLで15000km」走る。即ち１Lあたり0.12kmしか走らないのだ。こんな車があったら大クレームだろう。飛行機は燃費を犠牲に、速さを追求した乗り物だからだ。ちなみにF-15は(アフターバーナーを考慮しなければ)7800Lで3500km走るため、燃費は１Lあたり0.45km。戦闘機のほうが燃費がいいってどういうことだよ！

SPの上着のボタンが外れている理由……護衛として、いざというときは自分の命さえ投げ出すSP。その精神には敬意を表したいが、上着のボタンをはずしているのはいかがなものだろうか？仮にも要人になるようなエラい人の横にいるのだから、ちゃんと閉めればいいのに。と思った方残念ながらSPにはなれない(そんなことはない)。実は武器をすぐに取り出すために開けているのだ。

ネコをスパイに利用しようとした計画がある……それが「アコースティックキティ計画」。1960年代にCIAがネコをスパイ活動に利用しようとした計画だ。小型マイクと電池、さらに尻尾部分にはアンテナが埋め込まれた。また、ネコが注意散漫になること(任務を忘れネズミを追いかけてしまう等)を防ぐため、ネコにはあらかじめ、空腹を感じなくするための手術が施された。訓練・手術等に費やした諸費用は、約1000万ドルだったといわれている。その後、ベンチに座って話をする二人の話の中身を聞き取るという初任務を任され、二人の前に離された直後、タクシーにひかれ死亡。世界一無駄な1000万ドルの使い方である…。

ファインマン・ポイント……円周率の762ケタ目から９が6個連続する部分がある。その部分を円周率を767ケタまで暗唱し、(つまり999999まで言い、)and so onで締めくくったファインマンさんにかけて名付けた。なぜこのような偏りを円周率が含むのかはまだわかっていない。ただの偏りだとしても、ある連続した６ケタに同じ数が６コくるのは0.001%なのだ。まあ無限に続くわけだから、とびきり美しい自然風景の画像、のデータが10進法で表されている部分なんかも、家の電話番号なんかも含まれているのだろう。

ハノイの塔……パズル。「インドのベナレスに、世界の中心を表すという巨大な寺院がある。そこには青銅の板の上に、長さ1キュビット、太さが蜂の体ほどの3本のダイヤモンドの針が立てられている。そのうちの1本には、天地創造のときに神が64枚の純金の円盤を大きい円盤から順に重ねて置いた。司祭たちはそこで、昼夜を通して円盤を別の柱に移し替えている。そして、全ての円盤の移し替えが終わったときに、世界は崩壊し終焉を迎える」というものだ。つまり64枚の円盤を、大きさを逆転させることなくうまく操作して別の棒に移し替えればいい。円盤が3枚ならば７通り、円盤が４枚ならば15通り、…大したことないなと思った方はツメが甘い。このパズルの最速手数は円盤がn枚のとき2^n-1なのだ。つまり64枚だと1.845×10^19手かかることになる。一枚動かすのに一秒かけたとして、5.850×10^11年もかかる。宇宙ができたのは1.37×10^10年前のことだから、…もう何も言うまい。

カプレカー操作……0000以外の四桁の数字を任意に選び、以下の操作を繰り返し行う。1：その数字を桁ごとに並び替え、最も大きな数Aと最も小さな数Bをつくる(例：5231なら5321と1235)。2：AからBを引く。3：引いた数字に1の操作を行う。以下無限ループ。いつのまにか「6174」が出ていたのではないだろうか。この6174はいくら操作を繰り返しても6174にしかならない。これがカプレカ数である。現在全ての4桁の数でこれが成り立つことがわかっているが、どうして6174になってしまうのかわかっていない。3ケタの場合なら495になる。

数学のxはなぜxか……数学が苦手な人にとってはおそらく悪魔の文字に見えるであろうx。未知数の代名詞的存在にもなっており、映画や小説のタイトル、某大物youtuberの「物体X」、ノックスの十戒中の「毒物X」など、日常でも広く用いられている。実は未知数をｘとして表しだしたのは、「印刷屋の提案」によるものである。デカルトが印刷屋に行ったところ、ｘは使用頻度が少なく植字が余っているから、ｘを使ってはどうかと提案した。そうしてｘが未知数になったのだとか。現代英語で「x」は3番目に出番の少ない文字で、全単語の0.15%にしか使われていない。最も出番がない字は「q」と「z」。

ケーニヒスベルクの橋……一筆書きに関する問題。「ケーニヒスベルクという街の川に架かっている7つの橋を2度通らずに、全て渡って、元の所に帰ってくることができるか。ただし、どこから出発してもよい」結局書けないことが証明された。ちなみに一度川の源流まで行って大きく迂回すれば可能にはなるが、少々屁理屈ぎみ。一筆書きできる条件は、「すべての頂点の次数(頂点に繋がっている辺の数)が偶数である(この場合起点に戻る)」か、「次数が奇数である頂点の数が2で、残りの頂点の次数は全て偶数(この場合起点に戻らない)」のどちらか。

ストックホルム症候群……誘拐事件や監禁事件などの犯罪被害者が、犯人と長時間過ごすことで、犯人に対して過度の同情や好意等を抱くことをいう。ストックホルムの銀行で起こったたてこもり事件で、犯人が寝ている間に人質が警察に銃を向けたり、犯人をかばうような言動をとったことでこう名付けられた。四六時中犯人に監視され自由がない状況下でトイレに行かせてもらえたり食事を与えられたりすると、犯人への感謝が生まれ、好意を抱くようになるという。そして犯人も、そんな人質への見方を変えてしまう。オーストリア監禁事件の被害者は、インタビューでこう述べる。「被害者に、ストックホルム症候群という病名を付けることには反対する。これは病気ではなく、特殊な状況に陥った時の合理的な判断に由来する状態である。自分を誘拐した犯人の主張に、自分を適合させるのは、むしろ当然である。共感やコミュニケーションを行って、犯罪行為に正当性を見い出そうとするのは、病気ではなく、生き残るための当然の戦略である」と。いずれにせよこうしたことは珍しくはないようで、犯人と人質が結婚したり同じ強盗グループに入ったりもしているようだ。

ミュラーリヤー錯視……錯覚の一つ。二本の線分の長さが違うように見えるアレだ。他にも平行線が歪んでみえるツェルナー錯視や、ある線に垂直な同じ長さの線を引いたとき、垂直なほうが長くみえるフィック錯視などがある。いずれも目の習性をうまくいかしたもので、ずっと眺めていると不思議な気分になる。

ピグマリオン効果……親や先生の期待が子どものテストの成績に良いほうに影響するという教育心理学での効果。近年の研究では、ピグマリオン効果と心理の因果関係はないとされている。学力の経済学を書いた中室牧子氏によれば、「『あなたはやればできるのよ』などといって、むやみやたらに子どもをほめると、実力の伴わないナルシストを育てることになりかねません。とくに、子どもの成績がよくないときはなおさらです」と批判している。ほめるのは大事だが、ほめ方が悪いと真逆になってしまう。子育ては難しいものだ。

サヴァン症候群……知的障害や発達障害などのある者のうち、ごく特定の分野に限って優れた能力を発揮する者の症状を指す。savantはフランス語で「賢い」という意味。カレンダー計算、映像記憶、暗算力、言語能力、並外れた音感など人によってその能力は異なるが、共通するのは「日常生活に支障が出るレベル」での障害があるということ。一説によれば彼らは共感覚、すなわち「聞いたものを味わったり、見たものを嗅いだりする」能力に長けているという。音読しながらだといっぱい単語が覚えられるように、五感をフルに活用すればものごとを効率よく覚えられる。彼らはそれの極みだというのだ。しかしそれは同時に「感じたくないものも勝手に入ってきて、覚えていてしまう」ともいう。人間は忘れる生き物。過去の嫌な記憶やトラウマを今後一切忘れられないとしたら、幸せなのだろうか…？

囚人のジレンマ……ゲーム理論におけるゲームの1つ。お互い協力する方が協力しないよりもよい結果になることが分かっていても、協力しない者が利益を得る状況では互いに協力しなくなる、というジレンマ。共同で犯罪を行ったと思われる囚人A、Bを自白させるため、検事は2人に次のような司法取引をもちかけた。「もし、お前らが2人とも黙秘したら、2人とも懲役2年だ。だが、お前らのうち1人だけが自白したらそいつはその場で釈放してやろう(つまり懲役0年)。この場合自白しなかった方は懲役10年だ。ただし、お前らが2人とも自白したら、2人とも懲役5年だ」この時、2人の囚人は共犯者と協調して黙秘すべきか、それとも共犯者を裏切って自白すべきか、というのが問題である。なお彼ら2人は別室に隔離されており、相談することはできない状況に置かれているとする。もしあなたがAならどうする？相手が自白を選ぶ前提で自白を選ぶか？いやそうすると、相手が裏切りを選んだとき自分だけ罪が重くなる。じゃあ裏切るか？いや、相手が自白を選んだら良心の呵責に…いや待てよ？相手も同じことを考えているんだ。「あいつは裏切りを選ぶだろうな」と。ということは俺も裏切りを選べば、少なくとも懲役は5年で済む。自白を選んだらその2倍になってしまうんだから、うん。裏切りを選ぼう。となるのではないだろうか？お互い協力したいのに、裏切られるのが怖いため、お互いにとってあまりよくない選択肢を選んでしまう。形は違えど同じことを皆やってきているだろう。核兵器なんてまさにそうだ。

子どもの時の自制心は将来の成功と関係する？……子ども時代の自制心と、将来の社会的成果の関連性を調査した著名な実験がある。それが「マシュマロ実験」。4歳の子ども186人を対象として実験。被験者である子どもは、気が散るようなものが何もない机と椅子だけの部屋に通され、椅子に座るよう言われる。机の上には皿があり、マシュマロが一個載っている。実験者は「私はちょっと用がある。それはキミにあげるけど、私が戻ってくるまで15分の間食べるのを我慢してたら、マシュマロをもうひとつあげる。私がいない間にそれを食べたら、ふたつ目はなしだよ」と言って部屋を出ていく。このとき子どもの動きは隠しカメラで撮影されており、マシュマロを触って気を紛らわせていた子の多くは結局我慢できずに食べてしまうことがわかった。すぐ手を出してマシュマロを食べた子供は少なかったが、最後まで我慢し通して2個目のマシュマロを手に入れた子どもは、1/3ほどであった。その結果は、就学前における自制心の有無は十数年を経た後も持続していること、またマシュマロを食べなかった子どもと食べた子どもをグループにした場合、マシュマロを食べなかったグループが周囲からより優秀と評価されていること、さらに両グループ間では、大学進学適性試験(SAT)の点数には、トータル・スコアで平均210ポイントの相違が認められるというものであった。この実験から、幼児期においてはIQより、自制心の強さのほうが将来のSATの点数にはるかに大きく影響すると結論された。2011年にはさらに追跡調査が行われ、この傾向が生涯のずっと後まで継続していることが明らかにされた。つまり教育はこの時点ですでに終わっていたようなものだったのだ。…以上のような話は有名であるが、2018年5月25日に発表された研究は、マシュマロ実験の結果を「限定的だ」としている。ニューヨーク大学のテイラー・ワッツ氏とカリフォルニア大学アーバイン校のグレッグ・ダンカン氏、ホアナン・カーン氏が行った実験では、被験者は900人以上、子どもはアメリカの家庭の年収のいくつもの層から選ばれた。結果、「自制心がよりよい結果を生み出す」とするオリジナルのマシュマロ実験が示す結果は限定的だった。2個目のマシュマロまで我慢できるかどうかの多くは、子どもの社会的、経済的背景に左右され、それが長期的にみた子供の成功のカギになっていたのだ。重要なのは子どもが3歳の時点における家庭の年収と環境であり、自制心の程度は経済的・社会的な不利益に勝るものではなかった、ということだ。

スタンフォード監獄実験の「自演」……心理学で有名な怖い実験といえば「スタンフォード監獄実験」だろう。刑務所を舞台にして、普通の人が特殊な肩書きや地位を与えられると、その役割に合わせて行動してしまう事を証明しようとした実験が行われたのだ。学生を半分に分け、半分を看守役、もう半分を囚人役にする。よりリアルさを追求するため、囚人役の人たちをパトカーで逮捕し、指紋を取り、足に錘のついた枷をつけ、以下略さまざまなことをした。その結果次の週には、看守たちは自ら囚人たちに罰則を与え始めるようになった。禁止されていたはずの暴力行為も表れはじめ、途中で実験は中止。「肩書を与えられれば、暴力行為でも何でも人は正当化し始めてしまう」ということがわかった。…というこの実験が、嘘と作為にまみれたものであることが報告された。カリフォルニア大学バークレー校のベン・ブルム博士が発表した報告書で「スタンフォード監獄実験は、我々がおかれた社会的役割や状況に人間の行動が大きな影響を受けることを示す教訓としてよく用いられる」と述べられている。彼はこれまで未発表だったジンバルドー教授の音声記録テープを調査するとともに、実験の参加者数人へのインタビューを試みた。結果、22歳の囚人が監獄内の扱いに耐えかねて発狂したという実験で最も有名な場面は、フェイクであることが判明。当時学生だったダグラス・コルピ氏は「試験のため実験から抜け出そうと狂ったふりをした」と認めた。彼は実験を楽しみ、看守が危害を加えることは禁じられていたので危機感を感じたことはないとも話した。さらに博士は、ジンバルドー教授が看守に、囚人を怒らせるよう指示していたことも明らかにした。スタンフォード監獄実験の再現が試みられたが、ドラマチックな結果を再び作り出すにはいたっておらず、参加者の証言だけが頼りだったのだ。ちなみにオーストラリアのとある大学で、「黒人学生を優遇、白人生徒を虐げると、白人が現状打破を試み、黒人が現状維持に努める」、つまり現在の社会情勢と逆になる、と予想して行われた実験があるのだが、黒人と白人の学生が団結して白人女性の教授に詰めてかかり、大変な騒ぎになったことがある…という真偽不明の書き込みがあった。この人のコメントから抜粋して項目を終わらせたい。「人間の心の動きは、同じ人間の予想など軽がると凌駕していってしまうものなのかもしれませんね」。

エコノミークラス症候群……静脈血栓塞栓症とも。飛行機のエコノミークラスの席にずっと座っていると起こりうるためこう呼ばれる。血流が鬱滞し、血栓ができることで静脈が塞がれ、最悪の場合死に至る。被災して車に閉じこもる場合、数時間に1度は足を動かすため外に出たほうがよい。せっかく助かった命なのに、この症状で死ぬ人もいるからである。

ライナスの毛布……自分が特に「持っていないと不安になる」もの。Peanutsに出てくるライナスがいつもお気に入りの青い毛布を持っていることからこう名付けられた。筆者はウサギのヌイグルミをいつも抱いていたらしい。お気にいりのものを取り上げられると生きていけなくなるレベルでの執着なので、単に「カレーが好き」レベルでは適用されない。大人になってからこの状態に陥る人もいる。

シャワー効果……デパートなどで目白押しの商品を上の階に配置するのはこれが理由。人は上から下に下っていきたがる傾向があるため、上の階に配置しておけばその帰りにでも下の階に寄ってもらえる。フードコートを上の階に置くのもまあ同じ理由だろう。食べた帰りに買い物してもらいたいからだ。

シミュラクラ現象……よくある怪談話「女の霊を金縛りにあった時に見たら、その日の帰りたまたま見た木にその女の顔がうつっていた」の原因。人は逆三角形の頂点３つを見たとき、それを人の顔だと思ってしまう。車の前の部分が人の顔に見えるのもやはり同じ理由。脳って意外と高度だ。ありもしない法則性を、たった三点で見つけてしまうのだから。

ジャネーの法則……歳をとるほど時間が速く過ぎるという誰しもがもつ体験に理由を与えた。「20歳の時の1年は人生の20分の1だが、60歳の時の1年は人生の60分の1、すなわち1年の体感時間は60歳の人なら20歳の時の3分の1」という例。うーん3分の1は言い過ぎな気がするが、言われてみれば歳をとるほど時間の流れが速く感じられる。

時計がどう見ても1秒以上になるアレには名前がある……クロノスタシスという。詳しくいえば、時計を見つめ、一瞬目を離してから時計を見ると、見始めたときの時計のカウントがどう考えても1秒以上になるアレ。普段我々は視点移動の際「移動している際の視点の動き」というのは無視している。当然無視しなければ視野が安定せず正確にものを見ることができない。そこで脳は勝手に、視点移動したあとの情報をもとに、移動している最中の視覚情報を補てんしている。時計の秒針の例でいうと、時計に視点を戻したとき、「視点移動した後の情報＝時計の秒針が止まっていた」を元に、その隙間(秒針が動いていた間)を埋めるので、実際の時間より長く感じてしまう。当然視点移動した際には起こり続けているのだが、時計の秒針のような断続的なもののほうが感じやすい。

アンカリング効果……アンカー効果とも。認知バイアスの一種であり、先行する何らかの数値(アンカー)によって後の数値の判断が歪められ、判断された数値がアンカーに近づく傾向のこと。「国連加盟国のうちアフリカの国の割合はいくらか」という質問をしたときに、質問の前に「65%よりも大きいか小さいか」と尋ねた場合、「10%よりも大きいか小さいか」と尋ねた場合よりも、大きい数値の回答が得られる。最初に聞いた65という数値に引きずられ、10と聞いたときのそれよりも大きい値を言ってしまうのである。「8×7×6×5×4×3×2×1」または「1×2×3×4×5×6×7×8」という計算の結果を、5秒以内に推測してもらった場合、前者(中央値2250)のほうが後者(中央値512)よりも大きい推測の値が得られたという。だから、最初に「この商品は100万円です」(原価10万)とわざと高く言っておいて、後から「いくらまでなら出せますか」と聞けば大きめの額を払ってくれることになる。まさに悪用のための心理学である。

オペラント条件づけ……報酬や嫌悪刺激(罰)に適応して、自発的にある行動を行うように、学習することである。スキナー箱(レバーを引くと餌が出る箱)に絶食させておいたネズミを入れ、ブザーが鳴ったときレバーを押すとエサがもらえるようにしておくと、やがて、ネズミはブザーの音に反応してレバーを押すようになり、ブザーが鳴った直後にネズミがレバーを押す頻度(確率)が増加していく。あくまで「レバーを引く」と「餌が出る」は何の因果関係もないのがポイント。犬におすわりを覚えさせるのも同じ理由だが、「競馬に行く」と「勝つ」はつながっているためオペラント条件づけではない。

バーナム効果……簡単に言うと、「思い込みにより、当たってると思い込んでしまう」現象のこと。心理テストや血液型占いによく用いられる。例えば、「ここ最近、嫌なことがありましたね」と言われれば誰だってだいたい当たっているように感じるし、「あなたは少し自分に自信を無くすことがあります。それに、他人にどう思われているか気になります」普通に生きていれば自信を無くさないなんてありえないし、人間として生きている限り他人の目を気にしないなんて無理な話。それでももったいぶって言われると当たっているように感じてしまうのだから、案外人間もバカなのかもしれない。占い師が使うのは「コールドリーディング」。まあこれの応用版みたいなもので、少ない情報を言っていって相手にどんどん事情を話させるという技だ。ちなみに筆者は過去、AB型の友人に「B型自分の説明書(カバーをAB型自分の説明書に換えたもの)」を読ませると、「当たってる！！」と驚いていたという経験がある。思い込みってすごい。

ディラン効果……曲のワンフレーズがずっと頭から離れないことはないだろうか？その現象である。正式名称を「イヤーワーム」(耳の虫)という。忘れようとしてもずっと、ずっとだ。シンシナティ大学の研究によれば、98％の人間がこれを体験した経験を持つという。強迫性障害の人達は特にその傾向が強いという。俗にいう「幻聴」とは異なり、頭の中で鳴っていることを理解しているのに、それが止められないという現象。ディラン効果の「ディラン」はボブ・ディランからきている。

ファントム・バイブレーション・シンドローム……携帯のバイブが鳴ったかのように錯覚してしまう現象。いつごろからある言葉かわからないが、2007年には「多くの携帯電話中毒者が着信がないのに振動を感じると報告している」と伝える記事で「ファントムリングバイブレーション」という言葉が登場している。ジョージア工科大学の哲学准教授ロバート・ローゼンバーガー氏は、体が振動を学習したために起きるものだとの見方をする。メガネをずっと着用しているとメガネが自分の一部になり、かけていることすら忘れてしまうのと同じように、携帯端末をずっとポケットに入れていると自分の一部になってしまうのが理由だという。服の衣擦れや筋肉の震えなど似た感覚を着信と錯覚してしまうのだ。

アイスクリーム頭痛……かき氷を食べたときに起こる頭痛。粒が大きいほうが「キーン」となりにくいらしい。額の血管が収縮することにより、三叉神経が刺激をうけておこる痛みと言われている。ちなみに、のどに加わる冷たい温度差が頭痛の原因になっており、かき氷を食べた時にキーンとなるのも、のどの温度差が原因と考えられている。そのため、事前にある程度冷たい水を飲み、口の中やのどの温度を少し下げることで頭痛の予防になる。

カリギュラ効果……見るな、と言われると見たくなるアレ。だから自分のパソコンのエロ画像集が友達に漁られそうになったら、「あ、それは見てもいいけど面白くないよ、哲学だから」と言って言い逃れしたほうがいいだろう。間違っても「絶対見るな！」と言ってはいけない。そもそもエロ画像集はパソコンの奥深くのフォルダに隠すべきであるが、ここではその議論はしないことにする。

獲得的セルフハンディキャッピング……テスト前になると部屋の片づけがしたくなるアレ。テストという課題が目の前にあるにもかかわらず、テストの結果が悪かったときの予防線を前もって引くために部屋の片づけに走る。当然言い訳にもならないし、社会はそんなに甘くない。

矛盾脱衣……雪山で発見される死体はだいたい裸か薄着であることが多い。寒いのになぜだろう。それは人間の防御反応によるものである。まず、人間は恒温動物なので、凍死する程の極限に寒い環境にいれば、大量の熱が奪われ、体温が低くなる。一方で、大量の熱が奪われた事によって人体は生きる為に防御反応が起こる。それは熱生産性を高め、体を温めようとする働きである。具体的には血管が異常収縮し、更に筋肉が不必要に振動運動(寒い時ブルブル震えるのはこの為)し、熱を発しようとするのである。そしてその時、異常な暑さを感じることになる。服を脱いだらますます体温が下がってしまうため、長らくして死んでしまう。防御反応が死を早めるとは何とも皮肉な話である。

ミルグラム実験……「権威により命令され、責任を負う必要がなくなった時、人々はどんな命令にも従うのか」という実験。教師役と生徒役に分け、生徒役が問題に間違うと教師役が電流を流すように促される。最初は15Ｖで、その後間違うたびに15Ｖ増やして流される。実は生徒役はサクラであり、声を上げたり呻いたりして、教師役をだましているのだ。教師役は「これは罰による学習効果を測る実験です。教師役のあなたは生徒役に問題を出し、もし生徒が間違った解答をしたら、罰として電気ショックを与えてください。この実験による責任をあなたが負う必要はありません」と言われる。その結果、生徒役が無反応になる300Ｖまでで実験をやめるように言った人は誰もおらず、60％の人間が最大電圧の450Ｖまで電流をあげた。

眉毛の役割……眉をひそめる、眉唾、眉を寄せる、眉に関することわざは多い。そんな眉毛の役割は３つある。一つに日よけ。太陽が照っている日はみんな目を細めるため、そうでない日にくらべ眉毛が立っている。そして汗除け。汗が目に入るとメチャクチャ痛いので、額から流れてくる汗を目に入らないようにしてくれているのである。そして感情の表現。眉毛があるのとないのでは感情の伝わり方が全く違う。アニメの動物キャラクターに眉毛が描かれていることが多いのはこのためでもある。キャラクターの感情をより効果的に伝えられるのだ。眉毛は一定の長さになると成長がストップする。一度切ってもまた生えてくるのだが、一定の長さでやはり伸びなくなってしまう。神が作り給うた人間、やはり完成されているのである。

サブリミナル効果……人間の無意識に刷り込むことで表れてくる効果のこと。人間が絶対に視認できないような短さで、映画の中に何回かpopcornとかbuy cokeのような文字を挿入すると、ポップコーンやコーラの売り上げが伸びたという話が有名であるが、その話は作り話である可能性が高い。数多くの論文は公表されているが、その効果について実証されたものはないからである。しかし、各国ではサブリミナル効果を放送で使わないことを明文化している。

自分の声を録音するとキモいのはなぜか……録音装置で自分の声を録ってみると、自分が普段発している音と違う音が聞こえるであろう。録音で聞いた声のほうがおそらく低いのではないだろうか。これは骨導音の仕業である。骨導音とは、その名の通り骨を伝わって聞こえてくる音である。自分が発した音には伝わり方が2通りあり、一つに空気を通して耳に入ってくる音。そしてもう一つが、骨を通して脳に入ってくる音。空気よりも骨のほうが音の伝わり方が早いため、自分の発した声というのは主に骨導音のことである(空気からの音も入っているのだが、骨導音にかき消される)。しかし録音したテープの音に骨導音は含まれない。純粋に空気から入ってくる音、すなわち他人が聞いている自分の音を聞くことになる。この違いにより音が違って聞こえるのだ。音は伝わり方が早い媒質では高く聞こえるため、自分が発した音のほうが(骨導音が混ざっている分)空気からの音より高く聞こえる。ベートーベンは耳も聞こえなかったが、実は指揮棒をピアノに押し付け、ピアノから骨を伝わって聞こえる音で作曲をしていた。タクアンを噛んだときえらくうるさく聞こえるのに、他人から見ればそうでもないというのも同じ理由だ。

我慢した屁はどこにいくか……生きていれば、絶対に屁を出してはならない状況というものに遭遇する。卒業式はもちろん、葬式、結婚式、授業中、会議中、電車の中。お腹が痛くなりがちな人にとっては、その状況を想像するだけでまた屁が出てしまいそうになるという。そんな屁は一体我慢するとどこに行ってしまうというのだろう。まず腸に吸収され、血液に溶けて尿などで出るという。もちろん我慢は良くないので、痛くなったらすぐに出してしまうか、トイレに行くのがよいだろう。

ランナーズハイ……マラソン選手のペースが急に上がったら、その人はたぶんランナーズハイを体験しているのだろう。走るのが気持ちよくなり、痛みが軽減され、そのままずっと走れそうな気持ちになる。エンドルフィンは脳内麻薬物質の一つで、その効き目はモルヒネのおよそ6倍ともいわれている。大けがをしたときにも分泌され、その最中は血が出た興奮により痛みを感じないが、のちに段々痛みが激しくなってくるのも、最中にエンドルフィンが分泌されているからだという。ウワサによれば、この物質のおかげで溺死は苦しくないらしいが…できれば体験したくないものだ。

肌が黒くなる理由……世のたいていの女性は日焼けを嫌うものだ。焼けた肌も魅力的なものだが、日に焼けない真っ白お肌もまた粋なもの。どうして肌が黒くなるのだろう。これは紫外線に対する身体の防御反応。メラニン色素という色素が出てきて、肌をやけどから守っているのである。メラニンの量は人によって異なり、人種もそれで分かれている。ちなみに黒人さんの手の平は白かったため、筆者は驚いた。メラニンの量を紫外線照射量が超すと、やけどしたり、皮膚が剥がれたり、ひどい場合にはDNAを紫外線が直接傷つけ、皮膚がんになる。

脳死患者の抵抗……脳死とは大脳と脳幹の機能停止を意味し、事実上の死である。しかし意識がある(医学的な意識があるかではなく、自我というものが残っている)かについてはまだわかっておらず、臓器移植をする際に患者が暴れ、血圧が上がったという例が報告されている。これはもしかして脳死患者の最後の抵抗なのだろうか…？実際には「脳死とは、脳が死んでいるだけであり、他の部位は正常である」から、脊髄神経や筋肉の反射的なうごきによるものだと言われる。血圧も同じ。そのため死体なのに麻酔をかけて摘出する。あなたはドナーに賛成しますか…？

アビリーンの逆説……「ある８月の暑い日、アメリカ合衆国テキサス州のある町で、ある家族が団欒していた。そのうち一人が53マイル離れたアビリーンへの旅行を提案した。誰もがその旅行を望んでいなかったにもかかわらず、皆他の家族は旅行をしたがっていると思い込み、誰もその提案に反対しなかった。道中は暑く、埃っぽく、とても快適なものではなかった。提案者を含めて誰もアビリーンへ行きたくなかったという事を皆が知ったのは、旅行が終わった後だった」という逆説。いわば「事なかれ主義」「和をもって貴しとする」「長いものには巻かれよ」精神のこと。こうなってしまうと集団は長く持たない。

鼻息は片方だけしか出ない……試しに、腕に鼻息を強めにかけてほしい。どっちかからしか鼻息が出てないことがわかるだろう。実は2時間周期で呼吸する穴を変えているのである。そもそもどうして鼻の穴が二つあるかもよくわかっておらず、なぜ交代しながら呼吸するのかも当然わからない。鼻の粘膜を休ませるためだろうか？

視力の定義……５ｍ離れて、1.5mmの両端を見れたら1.0、が定義。2.0だと0.75mmだ。視力検査に使うあの環は、ランドルト環という。実は分解能を測っていたのだ。

確証バイアス……人間は自分の考えが正しいか否かを検証する際に、自分の考えを証明する証拠ばかりを探してしまい、反証情報に注目しない傾向が強い。これを確証バイアスと呼ぶ。「最近の若者は礼儀がなっていない」と考える老人の方が、実際に礼儀のなっていない若者を見ると、「やはり若者は」と考えることである。本当は礼儀が正しい若者もいるし、実際に彼はそれを目撃しているのだが、その記憶は抹消されている。ゲームでは物欲センサーとも呼ばれる。「レアアイテムが、欲しいときに限って出ないが、必要なくなったときにはたくさん出る」と同じだ。

扇風機の風で死ぬことはあるか……昔の人達に「扇風機をつけたまま寝ると死ぬ」と言われてきた。筆者は祖父に言われてとても怯えていたのだが、これは本当ではないらしい。昔は本当にそう言われてきたが。さすがに相当なことがないと死なないだろう。ただ、体温が下がったままになるため、頭に直接かけて寝ると、風邪を引いたり頭が痛くなったりする。

ストライサンド効果……あるものを隠蔽しようとすると、かえって広まってしまうという現象。ストライサンドという大物歌手が、自分の家の画像を消すように裁判で訴えたせいで、ますます画像が出回ってしまったことから。日本では「消すと増える」のほうが有名だろう。一般男性MMDシリーズ、エア本、チンフェなどその例を挙げれば暇がない。

プライバシーの違いは家に由来する？……西洋と東洋ではプライバシーの捉え方が違うのは、家によるものであるという仮説を唱える人がいる(因果が逆だと指摘する人もいる)。西洋はいわば、「部屋」とか「家」とかを頑丈に区切りたがる。鍵を部屋につけたり、頑丈なレンガで家を建てたり、丈夫なドアを取り付けたり。その面東洋は、襖や障子など、すぐに開けられるものが扉の代わりになり、仕切りというものが厳密には存在しなかった。そのため、西洋で個人主義が芽生えたのに、日本ではあまりプライバシーが育たなかった。正直、本当かどうか疑わしい。

冬にだけ起こる精神疾患がある……それがSAD、季節性情動障害。ある季節にのみ、体のだるさや疲れやすさ、気分の落ち込みなどの症状が出る気分障害。抑うつ、倦怠感、気力の低下、過眠、過食などの症状が見られる。梅雨や冬に多い。冬の場合、高緯度地域だと日照時間が少ないことも関連しているようだ。そのため対処法としては「おくすり」以外に日光を浴びるものがある。実際北欧の自殺率は高い。若者にのしかかる高税率だけではないだろう。アラスカでは冬型のSADを9.9％の人が罹患しているといわれる。クリスマスにバカ騒ぎするのも、これに対抗するためなのかもしれない。寒さが厳しく3時には暗くなるドイツでは、クリスマスシーズンにはまばゆいイルミネーションが飾られ、街はクリスマス一色になる。

アンドロイドは電気羊の夢を見るか？……その奇抜なタイトルから何度もパロディに使われるSF小説。第三次世界大戦後の未来、賞金稼ぎの主人公が、火星から逃亡してきた8体のアンドロイドを「処理」するというあらすじ。途中人造人間たちに出会うのだが、実は彼らは賞金首で、彼らを見つけて廃棄すればお金がもらえる。しかし彼らは記憶も感情も持ち、人間すぎるほど人間だ。そんな中、人間とは何なのか、「人間」と「人工知能」の違いは一体何なのか、作品の根源的な思想を素朴な問いかけに集約した、主人公のこの一言が、そのまま本作品の題名となっている。

沈黙の春……レイチェルカーソンの著書。DDTを始めとする農薬などの化学物質の危険性を、鳥達が鳴かなくなった春という出来事を通し訴えた作品。英語でのタイトルは「Silent Spring」こちらのほうがなんとなく不気味な気がする。ジクロロフェニルトリクロロエタン、略してDDTは有機塩素系の農薬で、自然界で分解されにくいため、長期間にわたり土壌や水循環に残留し、食物連鎖を通じて人間の体内にも取り込まれ、神経毒として作用する。筆者もこの作品を読んだことがあるが、その描写のリアルさと不気味さに、途中で読むのを諦めてしまった。

懲役30日……世にも奇妙な物語の一エピソード。死刑制度がなくなった未来の日本、主人公は凶悪犯罪者で、「懲役30日」の刑に処せられる。たった30日かよと高を括る主人公であったが、入所してまず注射を打たれる。意識がなくなった時、その時計は4時を指していた。目覚めたら独房に連れていかれた。それから毎日、朝たたき起こされては、屋上に連れて行かれる。どうやら男の懲役とは屋上で日暮れまで鎖でつながれたまま、立っていると言う事らしい。しかし炎天下の中なのできつい。水さえ与えられない。靴を脱がされ屋上の床の熱で足を焼かれる痛みに耐えながら、塩を体中に塗られたり、革のヒモを首に巻かれ呼吸すら満足にできなくなったりと、ひたすら耐え一日やり過ごす。それを30日やりきった主人公の顔はすっかりやつれていた。そして出所の日、男はなんと電気イスの上に座らされていた。「今から君を処刑する」反抗するも、「君の処刑後身体は溶かされるから証拠は残らない」そして死刑執行。しかし男が目覚めたのはベッドの上。「30日経ったろ？もう俺の懲役は終わったんだよ！」「いや、まだ5分しかたっていないよ」時計は4時5分を指していた。「30日分の地獄を味わわせる新種の幻覚剤」。これが薬の正体だったのだ。その薬は、現実世界では5分経つ間に、投与された者は現実以上に過酷な刑務所での生活の30日分になる。男は720年の懲役刑を受けるということだ。結局男は30日(720年)を終え、白髪まみれの廃人になって出てきたのだった。YouTubeに上げられているので、ぜひ自分で見てほしい。

「玄米四合と味噌と少しの野菜」意外にカロリー高い……宮沢賢治の「雨にも負けず」(雨ニモ負ケズ)。その詩の中に「玄米四合ト味噌ト少シノ野菜」と出てくるが、これを計算するとおよそ2200kcalになる。意外と多そうだなと思うかもしれないが、重労働なのでこれくらいないと足りない。一般的な成人の摂取カロリーの目安は、だいたい1800kcal～2200kcal前後である。ただ、おかずがないのが厳しすぎる。

ノックスの十戒……推理小説における10のマナーをまとめたもの。犯人は初めから登場していなければならない(書き手が犯人は駄目)。探偵方法に透視などの超自然を使ってはならない。秘密の通路を使ってはならない。科学的に未確定の毒物Ｘを使ってはならない。中国人(文化や言葉があまりにも違う人間)を登場させてはならない。偶然の発見や直感で解決してはならない。探偵が犯人であってはならない。読者の知らない手がかりで事件を解決してはならない。探偵の判断を読者に知らせなければならない。読者より探偵のほうがかすかに知力がにぶくなければならない。実際これを破った名作もあるため、あくまで参考例だろう。個人的に「偶然の発見や直感」は別にいいと思うのだが。

安倍晴明は「人間」を操っていた？……あべのせいめい(正しい読み方はわかっていない)。鎌倉時代から明治時代初めまで陰陽寮を統括した安倍氏(土御門家)の祖。10世紀の平安時代中期にいた、日本史上屈指の陰陽師。 現在も様々な創作物に登場する、陰陽師の代名詞的存在である。白狐(妖狐)の葛の葉を母に持つと言われる。すなわちキツネと人間の子である。呪術や祈祷に長け、式神(十二神将)を自在に操ったとされ、数々の伝説を生んだ。ちなみにこの式神であるが、これは特殊技能を持った、貴族からは人間にカウントされない人間だという説がある。その人が扉を開けて、「うおー晴明すげぇ！！！」となっていた可能性がある。

超伝導……特定の金属や化合物などの物質を非常に低い温度へ冷却したときに、電気抵抗が急激にゼロになる現象。電気抵抗がゼロとなるので、一度流れ始めた直流電流が電圧降下なしに永続する。回路のすべてを超伝導体で構成すれば、流れ続ける電流によって永久電磁石となる。コイル状の超伝導体回路に大電流を与えれば、他では得られないほど強力な磁場が得られる。これを生かし、MRIが作られた。あれはいわば、強い磁力で人間を輪切りにしているのだ。冷却材として高価な液体ヘリウムが用いられている。他にもさまざまな効果があり、常温程度で実現できればエネルギー問題は一気に解決するだろう。

対消滅……物質と反物質が衝突して消滅する現象。あらゆる物質に反物質は存在し得るが、対消滅を起こす物質は全く同じ物質の反物質でないといけない、という訳ではない。ものを燃やしたり薬品を反応させたりする化学反応の世界では、質量のうち7千万分の1から1億分の1程度がエネルギーに変わるだけである。その程度の変換効率でさえ、ガソリンや灯油等、広く実用されているものが多々ある。現在技術が確立してきている中では最も効率の良い反応であるとされている核融合でさえ、質量のうち1000分の1程度をエネルギーに変えているだけという変換効率である。しかし対消滅を起こせば、質量のほぼ100％がエネルギーに変わる(E=mc^2)。例えば1円玉(アルミニウム1グラム)と、同じ1グラムの反アルミニウムをくっつけて対消滅させたとすると、電力で換算すれば5000万kW(東京の総電力3時間分くらい)、熱でいえば180兆kJ(リトルボーイの2.9倍)、ＴＮＴ爆薬換算で43kt(リトルボーイは15kt)。しかし当たれば構わず対消滅を起こしてしまうため、実用化は非常に難しい。

マクデブルクの半球……17世紀ドイツでゲーリケによって行われた、空気のもつ圧力を示すために行われた実験。真ん中がくぼんだ金属製の半球をくっつけたまま中の空気を真空ポンプで抜き、両端に紐をくくり、左右から８頭ずつの馬で引っ張ったが、半球は全くとれなかった。半球が50cmとしても半球の片方に働くその力はおよそ8万Ｎ。１馬力は「75kgのものを1秒で1ｍ上に動かす力」なので75Ｎ毎秒。一秒で引き離すとすると1100頭近く必要になる。

トンネル効果……量子力学での効果。量子力学には不確定性原理というものがあり、次の瞬間の量子の位置や運動量を言い当てることができない。それにより、本来飛び越えられないはずのエネルギー障壁を量子が飛び越えてしまう、というもの。簡単に言えば壁抜けだが、巨視的世界でこれを起こすのはまず不可能。10円玉をビンの外から内側に入れるマジックはこれを使っているわけでは決してない。固体におけるトンネル効果を発見したのは江崎玲於奈である。

太陽嵐……太陽フレア(表面で起こる爆発現象。その大きさは地球数個分)が起きたときに放出される電磁波、粒子線のこと。人間が生活をするのには電気や電子機器が必須であるが、これが起きてしまうと電線に誘導電流が生まれ電力系統がおかしくなり、電子機器も強い磁力でいかれてしまう。1859年に一度最大級の太陽嵐が地球に来ており、普及途中の電信機器は回路がショートして火災が起きた。これと同レベルのが地球にくれば、アメリカでは1兆～2兆ドルの被害が発生すると言われている。太陽嵐保険とか作ったらよさそうだけど。

ボツリヌストキシン……800gで人類全員が死ぬという毒素。ボツリヌスという菌が作り出す。1gで約100万人分の致死量に相当する(ちなみに青酸カリは経口投与の場合5人/g)。中毒になると筋肉が動かなくなる。呼吸に使う筋肉も麻痺して動かなくなってしまうので、人工呼吸器による呼吸の補助がなければ死んでしまう。人工呼吸器による呼吸の補助をすることにより、多くの患者は、数週間から数ヶ月で回復する。赤ちゃんはハチミツに含まれるボツリヌス菌の萌芽でも中毒を起こしてしまうので、食べさせないこと。

チンダル現象……コロイド溶液や煙霧質などに光を当てたとき、その微小な粒子によって光が散乱され、光の通路が一様に光って見える現象。雲の隙間から光がさしこんで見えたり、暗い部屋に光が差しこんだりするアレだ。ちなみに雲から光が差し込むのは「天使のハシゴ」と呼ばれる。

カニ缶にガラスみたいなのが入ってるアレ……「ストラバイト現象」という。カニ缶に入っているガラスのようなもの(ストラバイト)ができる現象。カニ肉の成分であるマグネシウム・アンモニウムが結合して、マグネシウム・アンモニウムリン酸塩の結晶が発生する。ちなみにカニ・ホタテの下に敷いてある紙は、肉に入っている硫黄が、缶内部のスズ、鉄分と反応し、肉に黒い色をつけないようにするもの。

空が青い理由……波長が短い青は、地球に向かってくる途中で散乱を起こしてしまう。そうすると散乱しきったままで上空に降り注ぐことになり、目いっぱい広がった青が私たちの目の中に入ってくることになる。これが「レイリー散乱」である。ちなみに朝や夕方に赤く見えるのは、昼よりも光の道筋が長く、青が途中で散乱しきって見えなくなるのに対し、赤は波長が長いのでこっちに届いてくるからだ。人類が滅びても夕焼けは美しい赤のままなのか、それはまた別の話。

ベイパーコーン……戦闘機が低空かつ湿度の高い空を飛んでいるときに見られる水蒸気のコーン。機体周辺で生じる減圧(断熱膨張)による温度低下が露点を下回り、水蒸気が一時的に凝結する現象が機体とともに移動するもので、特異点によるものとは限らない。音速を超える瞬間でなくても見ることはできる。一度は生でお目にかかりたいものだ。

シェールガス……頁岩(けつがん)と呼ばれる堆積岩の層から採取される天然ガス。頁岩は非常に粒子が細かく液体や気体を通すスキマがほとんどない事から、そこから資源を回収するには高度な採掘技術が必要。アメリカなどで技術開発が進んでおり、地球上の全てのシェールガスを発掘できれば、今でいう200～250年程度の資源は確保できることになる。

ユーリーミラーの実験……生命の誕生を示す実験。使われたのは水、メタン、アンモニア、水素の四種類。これを常時加熱沸騰させる。これによって生じた蒸気は別の容器に導かれ、その内部では放電が行われている。そこから導かれた蒸気は冷却され、再び加熱中のフラスコに戻される。この実験を1週間にわたって維持したところ、その溶液は次第に着色し、最終的には赤っぽくなった。そしてその中からアミノ酸の無生物的合成を確認した。しかしながら、その後の地球物理学の研究進展により、最初の生命が誕生した時の大気はメタンやアンモニアなどの還元性気体ではなく、二酸化炭素や窒素酸化物などの酸化性気体が主成分であったと考えられるようになり、その際、酸素がどの程度含まれていたか、が論争になっている。どちらにしても、酸化的な大気における有機物の合成は著しく困難であるため、現在では、多くの生命起源の研究者たちは、ユーリー・ミラーの実験を過去のものと考えている。しかし、彼が行った実験自体は、「生命の存在を実験的に検証する方向性」をこれからの科学に示したものであり、決して無駄ではない。

ゼオライト……アルミノケイ酸塩のなかで結晶構造中に比較的大きな空隙を持つものの総称。沸石として用いられるほか、カルキの除去剤として、イオン交換材料としても用いられる。成分に含まれている水とアルミノケイ酸骨格との結びつきが弱いため、加熱すると容易に水を分離して沸騰しているように見え、このことからギリシャ語の zeo(沸騰する)と lithos(石)を合わせて名付けられた。

ダイラタンシー流体……遅いせん断刺激には液体のように振る舞い、より速いせん断刺激に対してはあたかも固体のような抵抗力を発揮する性質を持つ液体。ダイラタンシー流体は一般に、液体と固体の粉末粒子の混合物である。外から強い力を加えると、粒子の隙間が大きくなって表面の水が内部に移動する。その結果、表面が乾いた状態になるから、硬くなる。力をかけずに静かにしておくと、粒子の隙間が小さくなる。すると表面に水が戻り、液体のようになる。片栗粉(でんぷん粉)を水に溶かした液体をプールに入れれば、なんとプールの水面の上を歩ける。これを生かした新素材も作られ、銃の弾を変形させるほど固くなるが、普段は布のような着心地だという。なお、水の代わりに油を使ってしまうと、油とでんぷん粉が結合するため、ダイラタンシー現象は示さない。

ブラックスモーカー……海底でほぼ300℃以上の高温の熱水が噴き出す煙突状の噴出口。多くの有害な硫化物が含まれるが、「緑色硫黄細菌」と呼ばれる嫌気性の細菌が硫化水素を使って栄養を作り出していたことが判明する。その周りにいろんな生物たちも集まり、一種の食物連鎖が成り立つ。そのためブラックスモーカーの周りは他の海底より生物が多い。まさに生命の神秘だが、こんな光のないところに生まれなくてよかったとも思う。

サリンは簡単につくれる？……サリンを某宗教団体が作っていたことがわかり日本に激震が走った。有機リン化合物で神経ガスの一種だが、無臭。正式名称はイソプロピルメタンフルオロホスホネート。殺傷能力が非常に強く、吸収した量によっては数分で症状が現れる。また、呼吸器系からだけでなく皮膚からも吸収されるため、ガスマスクだけではなく対応する防護服を着用しなければ防護できない。地下鉄にカナリアを持ち込んでいたのがえらく印象に残っている。鳥は毒に敏感だ。まさに「命に代えて」危険を教えてくれたのである。実は市販のもので合成できるのだが、「簡単」というのは化学式に書いただけの意味であり、高圧にするだとか比を調整するだとか精製するだとかはやはり困難らしい。いわば「民間」の装置しかないオウムがこれをやってのけたことに驚きだ。ただ質はやはり低かったようで、高ければもっと死人が出ていただろう。学問に限らないが、何かを身に付けると、その使い方で善悪どちらにも振り切れてしまうことをよく意識すべきだと思う。

ホルマリン……ホルムアルデヒドの水溶液。3％～5％。防腐作用があり、固定処理に使われる。ホルムアルデヒドが、組織の細胞内外に浸透し、分子中のアルデヒド基が主に組織中の蛋白質のアミノ基に結合し、さらに架橋することで、蛋白質の立体構造を損なわせ、酵素活性、輸送、分泌などの様々な生物活性を働かなくさせる作用のためであると考えられている。

トイレが白熱球な理由……LEDは「つけたり消したりすると寿命が縮む」という特徴がある。白熱球はフィラメントが切れてしまった時が寿命なので、つけた分だけ寿命が縮む。頻繁に点灯して消灯してを繰り返すトイレでは、LEDよりむしろ白熱球のほうがいいのだ。もっとも、白熱球自体あまり見なくなっているが…。

ロータス効果……「蓮は泥より出でて泥に染まらず」という諺があるほど、中国や日本では蓮を親しんできた。ヒンドゥー教では蓮華は純粋さや善性の象徴とされている。これは蓮の葉がもつ天然の自浄作用のおかげであり、葉の表面は無数の突起により凸凹しており、水の表面張力によって決して「濡れる」ことがない。これを利用したガラスや服が作られている。身近なものでいうとヨーグルトの蓋だろうか。

ハイドロプレーニング現象……タイヤは雨で地面が濡れていても走れるように溝が掘ってある。しかし、タイヤの排水量を水の量が超えて、ブレーキをかけたときにスリップしてしまうことがある。その際タイヤと水面の間に水の膜があり、摩擦が極端に減るからこう呼ばれる。高速道路で起きたときは大事故につながるので、無理なブレーキを控えること、速度を落として走ること、車間距離を十分にあけることなどが対策になる。そもそも雨の日はあまり走るべきではない。

ラプラスの悪魔……「もしもある瞬間における全ての物質の力学的状態と力を知ることができ、かつもしもそれらのデータを解析できるだけの能力の知性が存在するとすれば、この知性にとっては、不確実なことは何もなくなり、その目には未来も(過去同様に)全て見えているであろう」この知性がラプラスの悪魔である。彼にとっては、今から起きようとしていることも全てわかるのだから、彼のことを知らない人間がいて、その人がある行動をしたとしてもそれは「自由意志」になるのだろうかという哲学的問いが提唱される。例えをわかりやすくすれば「スパコンで行動を予測された人は、本当に『自由意志』で動いていたのか？」ということだ。今の技術では1秒後を予測するのに1秒以上かかるため当然無理だし、不確定性原理を乗り越えられないという問題もある。あくまで思考実験にとどまるが、考える価値はある。

透明人間の致命的欠陥……透明人間になれればどれだけいいだろうかと皆考えるものだ。しかしいざなった時のことを考えていない。実は欠陥だらけ透明人間。まず、身体を透明にできたところで食べ物や飲み物が透けて見える。それらは消化され、いずれ排泄物になる。これはかなりグロテスクだろう。消化のメカニズムを解明したい研究者にしてみれば恰好の実験材料かもしれないが、とても透明とはいいがたい。では食べ物、飲み物を透明にしたまま口にすればいいのではないかとも思われるが、肝心の透明効果が、それらが消化された後でも続くのかは心配なところ。そして当然血液や唾液、鼻水、脳みその中の水も透明化しなければならない。透明にする薬をこれらに混ぜて無事なのかは疑問だし、実験材料になってくれる人もいないだろう。一番大きな問題は「目が見えない」である。人間は外界からの光を水晶体を通じて網膜に当てることでものを見ている。網膜が透明だと像が結べない！すなわち何も見えないのである。もしこれらの条件を全て無視して透明化するとすれば、それはもう人間でさえないグロテスク生物になる。とても外に出られたものではない。

水は透明でない……実は赤の光をごく微量に吸収する。海の中では赤の光が吸収され、青の光は深くまで進んでいく。そのため海は青いのである。とはいえ、空の青が映っているという理由もある(実際、曇りの日は海は青く見えない)。

水銀が温度計に使われていた理由……現在は見なくなった水銀温度計。今でも古い学校の保健室には残されているのだろうか。なぜ水銀かというと、「体積膨張率が一定である」すなわち、温度が上がれば体積も上がり、その上がり方はほぼ比例関係にあるからだ。もう一つが「熱が通りやすい」という理由。割ったら有毒なので触らないようにしようね。

電球の仕組み……タングステンのフィラメントに電流が流れると、その抵抗で熱(2000度)が発生、その時についでに発生する光を電球の光として用いている。タングステンは単体で最も融点、沸点が高い金属である。昔は日本の竹が使われていた。

蛍光灯の仕組み……電流が流れ極が加熱されることで熱電子が放出される。それが管内の水銀蒸気と衝突すると紫外線が生まれる。紫外線が蛍光灯の内側に塗ってある蛍光物質に照射され、可視光線が出てくる。

メントスガイザー……メントスをコーラに入れるとコーラが勢いよく噴き出すアレ。メントスの表面に空いたいくつもの穴のせいで、水分子の(CO2を囲む)力が弱くなり、CO2が出てくるという原理。

厚いガラスのコップは割れやすい……ガラスは厚ければいいというものではない。特にコップともなるとそれは顕著だ。ガラスが膨らむ率は温度に比例するが、内側は熱いにも関わらず外側が冷たかったりすると、その力の差に耐え切れず割れてしまうことがある。ビール瓶があんまり分厚くないのもこの理由。

ビール瓶が茶色い理由……ビールは直接日光に弱い。茶色はそれを防ぐためのもの。化学室に置いてある薬品で直接日光に弱いものは全部茶色。

夜光塗料の原理……夜に光る塗料。使用される夜光成分は無機物質。可視光線や紫外線より短い波長の電磁波を受けて得られたエネルギーを、波長の長い可視光線に変える。硫化亜鉛が主成分で、光を当てると、この光エネルギーを蓄え徐々に光を放出する。

ものさしが竹の理由……これだけ技術が発達していても、学校のものさしはいまだに竹だ。これは竹が温度に応じて長さをほとんど変えないからだ。金属だと変わってしまう(電車は微妙にレールが足りないように作ってあるが、これは熱い日にレールが伸びて、長くなっても大丈夫なようにだ)。

外国のラジオが夜に聞こえる理由……ラジオを持って夜、外に立ってみてほしい。外国からの変なラジオが聞こえてこないだろうか。一般のラジオの電波は中波が使われているが、夜になると中波を吸収する電離層がなくなってしまい、その上の電離層に反射されて遠くまで届く(電離層は地球を取り巻くイオンと電子の層で何種類かに分かれている)。中国韓国はともかく、ロシアからも電波が飛んできたりするが、不気味に思うことはない。向こうだって同じこと思ってるはずだろうから。

桐のタンスが重宝される理由……桐は水分をよく吸い、湿度の高い日には外気をシャットアウトする。乾燥した日には隙間ができて風通しがよくなる。また、火事になったとき水をかけるとよく吸うので燃えにくい。軟らかくて加工しやすいというのもある。まさに適材適所だ。

自動ドアの仕組み……赤外線がドアの上から出されており、その反射がなくなるとドアが開くようになっている。

飯盒の片方がへこんでいる理由……飯盒炊さんをやったことがあるだろうか。筆者のときはお米がガチガチ、カレーのニンジンやジャガイモは火が通っておらずとてもまずかったのを覚えている。そんな飯盒は片方がへこんでいる。これはへこんだ側を向かい合わせて火にかけることで空洞ができ、熱の伝わり方の効率が良いというのと、うまく組み合わせれば大量に運べるためだ。

遠くの山が青く見える理由……木は緑なのに、山が微妙に青がかっているのに気付いたことはあるだろうか。これは木から「ブルーヘイズ」という微粒子が出ているためだ。それが太陽光のうちの青い光を散乱し、青く見えるのである。ジャマイカ産のコーヒーの銘柄に有名なブルーマウンテンがあるが、この名前は、ジャマイカの大森林が発生させるブルーヘイズが山々を青く包むことにちなむという。ブルーヘイズはテルペン(森の香り)に由来する。人の気分に安心感と清涼感をもたらし、アロマオイルにも配合される。種田山頭火の「分け入っても分け入っても青い山」。彼はブルーヘイズの中を歩いたのだろう。

カップ焼きそばの湯は流しで捨てない……下水パイプの塩化ビニルは耐熱性が低く、お湯で溶けてしまう。流すなら水を流しながらにしよう。もっと言うと、健康に悪いカップ焼きそばを食べないようにしよう。

風邪薬と駄目な組み合わせ……クラッカー、あんこ、キャベツなど。糖分とデンプンが含まれているものは駄目。キャベツに関しては、中に入っている成分がアセトアミノフェンを分解してしまう。グレープフルーツジュースは中に「フラノクマリン」という物質が入っており、これが肝臓の解毒作用を弱める(肝臓は体内の優秀な化学プラントで、いろんな物質を解毒している)。そのほか、牛乳もあまりよくない。カルシウムが薬の成分と結合し、吸収されにくくなる。さらに牛乳には胃の成分を中性にする働きがあり、便秘薬などは酸性の胃では溶けず「中性で溶ける」ように設計されている。牛乳で飲むと、薬の効き目が弱まる。やはり水か白湯に限る。

ジャンプすれば地球温暖化を防げる？……実はそんなことを考え、すでに実行した人がいた。6億人…。「2006年7月20日10時39分13秒に同時にジャンプすることで、地球が太陽と反対の方向にほんの少しだけ動く。すると地球の公転軌道が時間とともに現在の軌道からずれ、太陽から離れてゆく。地球が太陽から離れることによって、地球が太陽から受けるエネルギーの量が減り、たとえ地球の大気の二酸化炭素濃度が高くなっても気温が大きく上昇することはなくなる」というアホなことをやった日が「ワールドジャンプデー」。6億人が実際にジャンプしたのだが、効果は全くない。人間と地球は互いに力を及ぼしあっているので、ジャンプの力と着地による地球への力は相殺される。地球と地球の人口を含む系全体の重心が通る軌道は、ジャンプしても全く変わらない。ただし、ジャンプした人が空中にある間については、地球の軌道はごくわずかだけずれているだろう。ジャンプした人が空中にいる間に、彼らと地球の間にはたらく重力によって直ちに元に戻るだけだ。

メアリーセレスト号……1872年にポルトガル沖で、無人のまま漂流していたのを発見された船。都市伝説として脚色された話が独り歩きし、「寸前まで何事もなく活動していた乗組員が忽然と消えたとしか思えない状況」「救命ボートが手つかず状態」「剣に血が付着(実際は赤錆)」など、後世でエピソードが付け加えられていった。ただ、本当に乗員たちがいなくなったのは事実であり、「工業用アルコールが漏れ出しているのに気づき、爆発すると思い慌てて救命ボートで脱出、そのまま死亡」が有力説とされているが、真実はまだわかっていない。

タイタニック号の沈没にまつわる陰謀……1914年に起きた沈没事件。氷塊にあたったときには2224人を乗せていた。事故が起きてから2時間40分後の2時20分には1500人以上が亡くなった。これは歴史上、海で起きた事故の最大死者数である。しかしこの話には陰謀が付きまとう。この船の姉妹船にタイタニックと瓜二つのオリンピックがあった。オリンピックは過去2回事故を起こしており、「オリンピックをわざと氷山にぶつけたのではないか」とする陰謀である。だが、やはり両者は似ているものの外見からして違っており、それを偽装するための期間はオリンピック座礁からタイタニックの処女航海の１か月半なので、到底工事は間に合わない。入れ替え説の根拠はない。

スモールワールド現象……知り合い関係を芋づる式にたどっていけば比較的簡単に世界中の誰にでも行き着くという仮説である。あえて日本語にすれば(広いようで)「世間は狭い」現象。ミルグラムが行った実験により「六次の隔たり」(世界の誰かと知り合うには、多くて6人の知り合いを介さなければならない)という用語も生まれた。実験の内容は「カンザス州に住む被験者60人に手紙を送り、マサチューセッツ州のある女性にそれを届けるように言われた。その際『直接あるいは間接の友人を通して届けられそうな知人を選ぶように』と指示をした」。しかしこの実験では、50通のうち3通しか届かなかった。その後いろいろ改良し、成功率を35％まで上げることに成功。ちなみにコオロギの鳴き声の同期化現象もこれと同じように、「弱いたくさんの繋がり」によってできていることがわかった。

スカイフィッシュ……長い棒状の身体を持ち、空中を高速(280km/h以上)で移動する、とされている未確認動物。しかしその正体はカメラのいたずらであり、カメラの眼前に飛んでいるハエなどの昆虫が入り込んだ場合、残像のように映るのだ。そのため捕獲例もあるはずがない。

富士の樹海の都市伝説は嘘……「富士の樹海」は青木ヶ原樹海が正式な名前。これまで自殺しきれなかった人が住む村があるとか、方位磁石が狂ってしまうとかいろんな都市伝説がある。自殺の名所なのは確かなのだが、果たして森をさまよって死ぬのは幸せなのだろうか。自殺云々の村は嘘である。Google Earthでも確認できるそれは、富士山や冨士の樹海に観光へ来た方達を相手とした民宿やレストランなどが存在する集落。コンパスの狂いもウソ。ましてや電子機器が狂うはずもない。ただ、樹海では方向感覚がなくなり、同じところを回っている気分になるらしい。今では自殺されないように巡回がいるので、やめようね。自殺した人が身に付けていた金品を売って稼ぐ輩もいるらしいが、なんというか富士の樹海の都市伝説よりも、そういう奴らがいることのほうが怖いよ…。

バミューダトライアングルにまつわるデマ……プエルトリコ、フロリダ半島、バミューダ諸島を結んだ三角形。ここで謎の飛行機、船舶の遭難が相次いでいるらしい。完全な晴天にしか遭難が起きないとか、消息を絶つ前に計器類に異常が現れるとか、いろいろ脚色されて現在に伝わる。宇宙人云々は置いといて、一番説得力のありそうな「メタンハイドレートからメタンが出て、浮力を失った船舶が沈んでいる」という論も、メタンの発生と遭難を結び付ける証拠がないほか、遭難した船の残骸が回収されていることから否定されてしまった。残念ながらここで遭難が特に多いというわけではない。

マンハッタンカフェとアメリカンボスの「予言」……2001年有馬記念、9番の1着マンハッタンカフェと11番の2着アメリカンボスが9－11テロを予言していたとするもの。いわゆるサイン馬券。マンハッタンもアメリカンもテロの地アメリカに関連。実際は単なる偶然であるが、その偶然があまりにできすぎていたため、語り継がれている。

フィラデルフィア計画……アメリカ海軍のステルス実験。実験の内容は新しい秘密兵器「磁場発生装置テスラコイル」を使い、「レーダーに対して不可視化する」というものであった。エルドリッジ(駆逐艦)船内には多くの電気実験機器が搭載されており、そのスイッチを入れると強力な磁場が発生し、レーダーから認められなくなった。実験は成功したかのように見えたが、不可思議な現象が起こる。実験の開始と共に海面から緑色の光がわきだし、次第にエルドリッジを覆っていったのだ。次の瞬間、艦は浮き上がり発光体は幾重にも艦を包み、見る見る姿はぼやけて完全に目の前から消えてしまった。「実験開始直後に、駆逐艦はレーダーから姿を消す」、ここまでは実験参加者達の予定通りであった。しかし直後にエルドリッジは「レーダーから」どころか完全に姿を消してしまい、おまけに2500km以上も離れたノーフォークにまで瞬間移動してしまっていたのである。それから数分後、またもや発光体に包まれ艦はもとの場所に瞬間移動した。船内は地獄絵図、乗員の服が燃えていた、甲板に身体が溶け込んでいた、凍り付いた、壁に吸い込まれた、半身だけ透明になっていた、など。どうみても嘘なので何も言わない。

宏観異常現象……大きな地震の前触れとして発生ないし知覚されうると言われている、生物的、地質的、物理的異常現象とされるものなどをひとまとめにしたもの。民俗学的なものも含む。鳴動音、雲、潮の異常満引、月や太陽の暈、レーダーのノイズ、ナマズが騒ぐ、夕焼けが異常に赤いなど。時としてマスコミの無責任な拡散が行われ、デマが流されたりする。数百年、数十年ぽっちの観測で数十億年の地球のサイクルを見れるほうがおかしいのだと東大の地震研究家が言っていたが、たぶんそうなのだろう。

ファフロツキーズ……一定範囲に多数の物体が落下する現象のうち、よく知られたものを除く「その場にあるはずのないもの」が空から降ってくる現象。FAlls FROm The SKIESの略。血の雨、カエル、オタマジャクシ、ナマズ、いろんなものが降ってくる。竜巻説、飛行機からの積み荷説、鳥の獲物取りこぼし説、勘違い説などがあるが解明には至っていない。一番有名なのは「ケーララの赤い雨」であろう。2001年、インドのケーララ地方で真っ赤な雨が降り、その中には菌類の胞子が含まれていたという。

ファラリスの雄牛……古代ギリシアで設計された拷問および処刑のための装置。真鍮でできた、中身が空洞の雄牛に処刑者を入れ、下から火であぶる。真鍮は熱が伝わりやすいので、処刑者は痛みに悶えることになる。この声は内部の複雑な反響により雄牛の鳴き声のように聞こえる。結局これを設計したペリロス自身が最初の処刑者となり、処刑を命令したファラリス王は最後の処刑者となった。

早すぎた埋葬……エドガー・アラン・ポーの作品。その名の通り、仮死状態などのために死亡と誤認されて、墓の下に生き埋めにされることの恐怖をテーマにしている。19世紀では本当に、死んだ(と思われていた)後に生き返る人もおり、棺を掘り起こしてみると爪でひっかいた痕があるものも。「火葬場の棺の中で生き返り、生きたまま焼かれる」妄想をしてしまうのと同じである。

乱数発生器の偏り……乱数発生器は素粒子の不確定性原理を利用し(素粒子が壁を突き抜けたか突き抜けないか、その頻度が同じであることを利用し)た装置である。しかし、人々の意識が乱れているとき、その頻度に偏りが生まれるという。2001年9月11日、同時多発テロの日、ちょうどテロの時間に合わせ、乱数発生器が異常なほど同じ値を出し続けた(確率ではおよそ1000万分の1)。もしかしたら人々の意識が素粒子に影響を及ぼしているかもしれない…という都市伝説。東日本大震災のときも同じように偏り、アカデミー賞授賞式のときも、総じて人々の意識が高まっているときに起きている。これが果たして因果関係なのか、統計学から見たただの偶然なのか、そこをしっかりさせておく必要があるだろう。この研究には明治大学も加わっている。

マーフィーの法則……思い込みによる都市伝説的な法則。「傘を持っていないときに限り雨が降る」「トーストは床が高価な絨毯だと必ずバターの方を下にして落ちる」など。雨の例でいえば「傘を持って行って雨が降った」「傘を持って行って雨が降らなかった」「傘を持って行かず雨が降らなかった」事象が記憶から抜けている(特に印象に残らないため)からこう思い込んでしまう。

幽体離脱を科学的に説明すると……寝ている間、仮死状態に自分の魂が自分の身体から離れ、自由に外を見回ることができるとされる状態。オカルト的にはエーテルがどうだの魂がどうだの言われるが、科学的に見ればただの思い込みである。実際幽体離脱になった時の自分を録音してもただ寝ているだけだし、幽体離脱している時に見た事象は本当のことではない(だいたいそんなことができたら犯罪し放題だ)。全ては脳が作り出した幻覚、すなわち夢なのである。

金縛りを科学的に説明すると……寝ていると身体が急に動かなくなった。動かそうとしても反応しない！そして天井から長い髪の白い服を着た女が垂れてきた…という怪談。これを「金縛り」という。科学的に見ればREM睡眠、すなわち身体は眠っているのに脳が起きている状態に起こり、見ている景色は全て脳の幻覚である。部屋の天井も、周りの景色もとてもリアルだが、やはり幻覚なのだ。目を開けていると思い込んでいるが、実際に目は閉じている。身体が眠っているのだから、動けという指示を出しても動いてはくれない。脳というのはすごい。

ネコは魚が好き？……日本ではネコは魚が好きとされている。某サザエ系アニメでも「お魚くわえたドラネコを」という歌詞がある。しかしこれは日本だけであり、欧米ではネコはチキンが好きとされている。ネコに青魚ばかりやっていると、身体の脂肪が酸化して死んでしまう。おそらく、日本では魚とネコが身近にあったためと思われる。

赤いクレヨン……「ある夫婦が、かねてより夢であった一軒家を購入した。中古物件ではあったが、ほとんど新築同然で、しかも破格値であったため、一も二もなく手に入れたものだった。ある日、廊下に赤いクレヨンが落ちていた。夫婦には子供はなく、家に誰かが入って来た形跡もない。その時は気に留めなかったが、同様の怪異が次々と起こるに至り、夫婦はこの家について調べ始める。その結果、この家には、もうひとつ部屋があってしかるべき空間があることが判明する。 意を決した夫婦は、その「隠された部屋」周辺の壁紙を剥がす。 するとそこには、釘打ちされた扉があった。恐る恐るその扉を開けると、何も無い部屋が。しかし、その部屋の壁一面は、「おかあさん　ごめんなさい　だして」 というような赤い文字で埋め尽くされていた」という話。実は創作であり、伊集院光がラジオ番組で発表した「創作怪談」。

テレパシーを実証した「ガンツフェルト実験」……テレパシーに関する実験が実際に行われていると聞けば、驚く人は多いだろう。それがガンツフェルト実験だ。実験者と被験者を遮断された部屋に置き、実験者は被験者に対してテレパシーでイメージを送り、被験者がそのイメージを描写するという実験である。このときの二人のイメージの差異によって、テレパシーの有効性を統計学的に証明することができる。被験者の目はアイマスクで覆われ、耳にはイヤホンを付け、ホワイトノイズが流される。被験者の全感覚、すなわち全体野への入力がどれも遮断されるのである。こうして世界から感覚的に隔絶した状態で、被験者は隣の部屋で一連の絵を眺めている実験者からの情報を受け取ろうと試みる。この実験を何千回も繰り返すことによって、期待される確率よりもほんの少しだけ正しく有意な予知(偶然に当たる確率が25％、この実験の成功率は32％)ができるという結果が得られたと言われている。他の実験では情報の発信者と受信者で脳波の同調が起こっていて、それは互いが赤の他人でも同じだったと示している。このことを科学的に説明するなら、「量子もつれ」によるものらしい。

第二次世界大戦、日本を救った天狗がいた？……日本軍の味方として天狗が闘ってくれたという報告がされ、都市伝説化している。「天狗と一緒に闘って、羽根を失いながら護衛してくれた」、「天狗が身を挺して砲弾を受けてくれたため、すんでのところで命を得た」など。このような話で似ているのはキスカ島からの撤退。「第二次世界大戦時、敗走する日本軍が米軍領のキスカ島に上陸した作戦は完全に失敗で、後は死を待つのみだった。しかし、万策尽き果てた日本軍の前に濃霧が発生。しかも、米軍艦隊は海上に存在しない日本艦隊エコーを捕捉し、大量に砲撃をした。事態が混乱を極める中、米軍の士気は乱れ同士討ちをするなどし、日本軍がキスカ島から脱出出来た」というものだ。本当かどうかはさておいて、こういうものを信じてみるのもロマンがあるかもしれない。

海の水を全世界の人々に分配すると？……海水は13.5億立方キロメートル(1.35×10^21L)である。2016年10月現在、人口はおよそ73億6000万なので、分配すると1.834×10^11Ｌずつ。バスタブ1杯で200Ｌ入るので、一人当たりバスタブ9億1700万杯の水が支給されることになる。うーん、海は偉大！

アポカリプティック・サウンド……世界各地で鳴る正体不明の音。水道管の共鳴とも地響きとも言われるが、UFOと同じくその正体が解明されればアポカリプティックサウンドではなくなる。終末の音とも言われ、世界の終わりを告げるために天使が鳴らすラッパの音と解釈されている。結局何が言いたいかというと、正体は不明なのだ。

木の年輪で方角がわかる？……木は太陽のほうを向いて成長する。だから、切り株を覗いて、年輪がある向きに偏っていれば、そっちが南のほうだという説。これは実は間違い。木が斜面上に生えていれば、斜面を登る向きに木は成長するし、他の木の影響もあるため、単純に年輪の向きで方角がわかるものではない。

カスパーハウザー……ドイツの孤児。16歳頃に保護されるまで長期にわたり地下の牢獄(座敷牢)に閉じ込められていたとされ、その生い立ちからしばしば野生児に分類される。暗闇でも聖書を読めたり色彩を判別できるのみならず、金属を握っただけで鉄や真鍮などその材質を見抜いたり、遠く離れたクモの巣に獲物がかかっていることを言い当てるなど並外れていたとされる。これらの能力は人間らしい生活を送るなかで徐々に消失していった。自分の生い立ちを語り始めるも、詳細が明らかになる前に何者かによって暗殺されたため、その正体と出生から保護に至るまでの正確な経緯は現在も不明なままである。

植村直己……登山家。五大陸の最高峰を踏破し、世界初の五大陸最高峰登頂者となったが、単独での冬期マッキンリー山の下山の途中に行方が分からなくなり、そのまま死亡とされた。生前に「冒険で死んではいけない。生きて戻ってくるのが絶対、何よりの前提である」という言葉を残していたが、最期は冒険の下山中に行方不明となってしまった。捜索活動打ち切りとなった報道に関して、妻の公子は「夫は『必ず生きて帰ることが本当の冒険だ』といつも偉そうに言ってたくせに…ちょっとだらしないんじゃないの？と言ってやりたい気持ちです」と、記者陣に対して悲しみを堪えつつも気丈に答えていた。

パブロ・ピカソの本名……「パブロ・ディエーゴ・ホセ・フランシスコ・デ・パウラ・ホアン・ネポムセーノ・マリーア・デ・ロス・レメディオス・クリスピーン・クリスピアーノ・デ・ラ・サンティシマ・トリニダード・ルイス・イ・ピカソ」。このように洗礼名をいっぱいつなげて長くなるのが特徴なのだが、長すぎて自分でも覚えていなかったらしい。なお彼、ゲルニカを描いているときに、「勝った方と付き合うぞ」と言って、愛人二人をケンカさせたことがある。やはり偉人は屑野郎なのだ。

吸血鬼のモデルになった女、エリザベート・バートリ……吸血鬼伝説のモデルになった女性「エリザベート・バートリ」は「やべえ奴列伝」みたいな動画でよく登場するハンガリーの貴族。ある時、失敗した侍女を折檻したところ、その血が手の甲にかかり、血をふき取った後の肌が非常に美しくなったように思えた。そのことがあってから、若い処女の血液を求め、侍女を始め近隣の領民の娘を片っ端からさらっては生き血を搾り取り、血液がまだ温かいうちに浴槽に満たしてその中に身を浸す、という残虐極まりない行為を繰り返すようになった。その刑具として「鉄の処女」を作らせ、用いたと言われている(これは都市伝説)。人肉を食べたとも。「鉄の処女」は拷問器具であり、聖母マリアをかたどったともいわれる女性の形をした、高さ2メートルほどの大きさの、中が空洞の人形である。空洞の内側にトゲがついており、トゲの位置により処刑にしたり拷問にしたりできる。彼女の作った鉄の処女は下が隙間になっており、血がそのまま彼女のバスタブへ流れてくるようになっていた。結局のちに捕らえられ、幽閉されたまま死んだ。

オクラホマシティ連邦政府ビル爆破事件……1995年に起きた爆破事件。800人以上が負傷、168人が死亡。911が起こるまではアメリカ最悪のテロ被害。犯人はティモシーマクベイで、アメリカ陸軍所属で湾岸戦争にも参戦した経験のあるアメリカ人であった。犯人がネオナチやイスラム教過激派だと思い込んでいた人たちもいたようで、それも衝撃的だった。彼は湾岸戦争では1発の銃で2人を殺すなど、優秀な兵士だったが、自分の体力不足を理由にグリーンベレー編入の訓練部隊から除隊された。それが犯行の動機である。高いところを飛ぶ鳥ほど、墜ちたときの衝撃は強いものだ。

人間は何Gまで耐えられるか……急な運動を行うとそれに伴う見かけの力、慣性力が働く。その大きさは加速力と自分の体重に比例し、F1であれば横方向に4G、急減速で5Ｇくらいかかる。戦闘機ならば航空母艦からの発艦の際6Ｇ、7Ｇほどかかるという。そんな中、ジョン・スタップという医者が自らＧの実験をした。彼は時速1017kmの環境から急停止をした。眼球の出血などの症状は見られたが、見事彼は46Gの急停止に耐えてみせた。このおかげで、「人は障害物さえなければ、ジェット戦闘機から突然射出されても生きていられる」ことが示された。ちなみにF1に一般人が乗ると、その負荷に耐え切れずにむち打ち症になってしまう。さながら首の座っていない赤ちゃんのようだ。戦闘機に一般人が乗る際は加圧スーツを着用し、血が止まらないようにする。やはり日々の訓練というのはすごいものだ。

世界初の飛行機飛行はライト兄弟ではない……世界で初めて飛行機を発明したのはライト兄弟であることは周知の事実。だが、実はリリエンタールという人のほうが早く空を飛んでいるという。1893年に250ｍの飛行記録を出した。この時代は飛行というより滑空であったが、飛行する機械が実用化される可能性について科学界や一般大衆へ認知させる一人であったのは事実。というか、ライト兄弟が歩む道を開いた先駆者であり、彼なしにライト兄弟の発明はなかったかもしれない。

世界で最も多くの子どもを産んだ人はなんと69人も産んでいた……ヒョードル・ワシリエフという人の妻。18世紀ロシアにて、69人もの子どもを産んだ記録がある。すごいのは産むとき必ず双子以上だったこと(四つ子もいた)。そのうち67人が成長し、普通に大人になった。子どもの名前とか憶えてたのだろうか。さすがに70人近くいたら忘れそうなもんだが…。食費もきっと大変だったんだろうなぁ。

蒼頡……そうけつ。漢字を発明したとされる伝説上の人物。戦国時代には蒼頡の伝説は既に一般化していた。淮南子には「蒼頡が文字を作ったとき、天は粟を降らせ、鬼は夜に泣いた」と記されている。肖像画では、蒼頡は目が四つある人物として描かれており、これは蒼頡の優れた観察力を表現したものといわれる。確かにこの人のモデルになる人はいただろうが、漢字を一人で発明というのは考えにくい。鳥や獣の足跡を見てつくったという、物知り大天才である。

カーネル・サンダースは本名ではない……ハーランド・デーヴィッド・サンダースが本名。別名「カーネルおじさん」。カーネルは軍の階級(大佐)ではなく、ケンタッキー州に貢献した人に与えられる名誉称号。ガソリンスタンドを経営していたが、1930年、客の一言から、一角に物置を改造した6席のレストラン・コーナー「サンダース・カフェ」を始める。サンダースはガソリンスタンドの支配人と調理師とレジ係を兼ねた。州の南北を貫く幹線道路に面した店は繁盛し、規模を拡大した。1935年には「州の料理への貢献」が評価されて、ケンタッキー州のルビー・ラフーン知事から「ケンタッキー・カーネル」の名誉称号を与えられた。ここの看板メニューこそ、「オリジナルフライドチキン」であり、以降オリジナルレシピとして引き継がれている。

変わった名字の人たち……四月一日(わたぬき：暖かくなって、布団の綿を抜くから)、小鳥遊(たかなし：鷹がいないと小鳥が遊べるから)、雲母(きらら：雲母の産地)、回り道(全国三世帯)、東京(大阪に一世帯)、獅子王(ししおう)、野ざらし。佐藤ならぬ「砂糖」さん。宮崎日南で黒砂糖の原料になるサトウキビをつくっており、殿様から砂糖という苗字を与えられたため。他にも醤油、八月朔日(ほずみ、旧暦で穂を摘む、収穫の時期)、春夏秋冬(ひととせ＝一年)、家出、珍名、留守、浮気(うわつき)など。

ラスプーチン、何度殺されても立ち上がった男……ラスプーチンというロシア人がいた。彼は帝政ロシア末期の祈祷僧。ロシア帝国崩壊の一因をつくり、歴史的な評価はとても低い反面、その特異なキャラクターから映画や小説など大衆向けフィクションの悪役として非常に人気が高く、彼を題材にした多くの通俗小説や映画が製作されている。20歳で奇跡に目覚め、皇太子アレクセイの血友病を治してしまったという(現代ではプラセボ効果だと言われている)。信頼を深めていった彼は皇帝に「われらの友」とも呼ばれ、国政にまでアドバイスするように。暗殺の際のしぶとさにより、不死身の男と呼ばれることもある。青酸カリ入り紅茶を飲んでもびくともしなかったので、泥酔させてから二発の銃弾を放った。これは肺と心臓を貫通し彼は倒れてしまった、かに思えたが彼は眼を見開き立ち上がった。これには暗殺者もびっくりし、別の人が4発放った。そのうち1発が右腎静脈から背骨を貫通した。また倒れるも起き上がったところを殴る蹴るされ、額を撃たれた。もうしょうがないので窓から遺体を川に投げ捨てた。この後の検死により、死因は額を撃たれたためと結論づけられた。また胃に毒物は入っていなかった。逸話として「肺に水が入っていたため死因は溺死であり、川に投げ込まれた時点でもまだ生きていた」もあるが、司法解剖の書類がないため検証は不可能。なおプーチンの本名は「ラスプーチン」であるが、あまりにも縁起が悪いため、改名までした。

日本海海戦でロシア側の大将は負けを覚悟していた……日本海海戦におけるバルチック艦隊を率いたロシア側の人物がロジェストヴェンスキーである。彼は捕虜になり、怪我を負い佐世保の海軍病院に入院していた際、東郷平八郎にお見舞いされてその礼節に感動。一生彼を尊敬していた。砲術の研究者としては優秀であったが、バルチック艦隊の司令長官としては無能だったと批判されることが多い。司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」などでは、驕り高ぶった愚将として書かれていたりする。しかし2007年に発見された、31通に及ぶ家族への手紙では、戦場に向かう航海中に既に自軍の状況を的確に把握していたこと、勝ち目の無い戦いであることを予測していた。そもそも石炭が非常に悪質であり、寄港できる場所もなかったため、日露戦争におけるバルチック艦隊の極東への航海は非常に困難なものであった。一気に評価も覆りそうではある。

名前の＝の意味……バスコ＝ダ＝ガマのような、名前に＝がついている人物。これは、＝がついていないと意味がないというか、その＝の前と後を合わせて1セットとするからだ。

アンジャッシュの語源……名前の由来は「喜怒哀楽」を英語にした「Joy Angry Sad Happy」の頭文字をとって、それらがないことを示すun-を接頭辞として付けた”unjash”から。当然、こんな英単語はない。

小保方さんも真っ青なねつ造野郎がいた……ヘンドリック・シェーン。ドイツ人の元物理学研究者。物理学上の大発見(超伝導に関する研究)を発表し、科学者らからは傑出した科学者と見なされたが、実はその発見がねつ造であったことが判明し、科学界に衝撃が走った。シェーンの研究成果について(ほんの少数ながら)何らかの「違和感」を覚える者はいたのだが、たとえそれが口にされても、シェーンの研究成果の華々しさや人々の賞賛の声のあまりの大きさに、すぐに打ち消され、特に問題にもならなかった。たまに「実験機器類を見てみたい」という人がいても、「大事な実験はこっち(研究室)じゃなくて大学でやってるから」と言い逃れし、見せないようにしていた。しかしカリフォルニアのある教授が、匿名電話で主に二つのデータを見比べるように言われた。そのデータは、温度が全く違うのに全く同じノイズが含まれていた。シェーンは「間違って同じ実験のグラフを出してしまった」と述べたが、三つ目の別の実験でもそのノイズは含まれていた。怪しまれ調査が始まり、実験の生データの提出を求められるも、「ハードディスクの容量がいっぱいだったので消した」と逃げる。結局言い逃れはできず、いろんなところから不正の根拠が出てきて、彼は研究室をクビになった。某保方さん、大丈夫ですよ！

マクワーター兄弟のギネスブック……「世界一○○」を集めた本、ギネス世界記録を発行し始めた人たちがマクワーター兄弟。アイルランドのビール会社ギネス醸造所の代表取締役が、仲間とアイルランドへ狩りに行った。狩りの獲物のうち、世界一速く飛べる鳥はヨーロッパムナグロかライチョウか、という議論になり、これになかなか結論が出なかったためで、ビーバーがもしこういう事柄を集めて載せた本があれば評判になるのではないかと発想した。調査業務をロンドンでしていたマクワーター兄弟に調査と出版が依頼され、ギネス世界記録が生まれた。ギネスワールドレコーズには毎年4万件以上もの応募があるため、記録カテゴリーとして新しく認められるものは応募の総数からいえばわずかである。また、「最長不眠」とか「早食い」とか、「最年少の出産記録」など、いろんな方面から批判がきそうな記事については削除された。

ゴッホの生前に唯一売れた「赤いぶどう畑」……1888年にゴッホが描いた絵。彼の生前に唯一売れた絵。400フラン(現在の11万円)で売れた。当時はカフェのコーヒーが0.25フランだったため、コーヒー一杯200円としても16万円。この絵を買ったのは彼の友人の姉。貧乏画家を慰める目的が、いつの間にか世界で一番有名な画家のひとりになっていたのは驚きだ。畢竟、芸術なんて、絵そのものの価値はわずかで、付加価値がほとんどなのではないだろうか。

ラグタイム……ragged time。19世紀末から20世紀初頭に掛けてアメリカで流行した音楽の名前である。音階が下がるとき拍が強調される。黒人のダンスの伴奏音楽や、酒場で黒人が演奏したピアノ音楽が起源であり、白人の客に受けのいいマーチなどの西洋音楽に黒人独特のノリが加わり、シンコペーションを強調した初の軽音楽になった。ほとんどが2拍子。「Maple Leaf Rag」が大ヒットし、ラグタイム黄金期(1899-1917)の始まりとなった。この時期には約3000曲ができたという(そのだいたいは、経済的に裕福な白人によるものだが、黒人にも優れた演奏家はいた)この曲を作った人の死以降は急速に衰え、より自由度の高い新しい音楽「ジャズ」にも人気を奪われることとなる。

ムンクの叫びは「叫び」というタイトルなのに主人公は叫んでいない……血を連想させる赤い風景と、真ん中の大きく口を開けた男が印象に残る名作。叫んでいるのは絵の男ではなく、自然のほうである。「私は2人の友人と歩道を歩いていた。太陽は沈みかけていた。突然、空が血の赤色に変わった。私は立ち止まり、酷い疲れを感じて柵に寄り掛かった。それは炎の舌と血とが青黒いフィヨルドと町並みに被さるようであった。友人は歩き続けたが、私はそこに立ち尽くしたまま不安に震え、戦っていた。そして私は、自然を貫く果てしない叫びを聴いた」ムンクはその叫びに恐れおののいているのである。

夜警は全然「夜」じゃなかった……レンブラントの代表作の一つ、夜警。「フランス・バニング・コック隊長とウィレム・ファン・ラウテンブルフ副隊長の市民隊」が本当の名前。長い間、その名がこの絵画の内容によく合ったものと考えられてきたが、これは絵画の表面が茶色く変色したことによる誤解である。実は、この絵画は昼の情景を描いている。実物は縦3メートル63センチ、横4メートル37センチと非常に大きい。

印象派ということばは皮肉だった……印象派とは、19世紀後半のフランスに発した絵画を中心とした芸術運動であり、当時のパリで活動していた画家たちのグループが起源。特徴として、小さく薄い場合であっても目に見える筆のストローク、戸外制作、空間と時間による光の質の変化の正確な描写、描く対象の日常性、人間の知覚や体験に欠かせない要素としての動きの包摂、斬新な描画アングル、などがあげられる。モネの「印象・日の出」が印象派の由来(批評家が皮肉って言ったのだが、その名前が浸透してしまった)。日の入りを描いているのではないかという説があったが、美術館と天文学者が協力し、太陽の位置、潮位、天候などをもとに、「1872年11月13日7時35分頃」の風景を描いた可能性が高いと発表した。また、描かれた方角はモネが滞在した現地のホテルから南東と判明し、日の出が画題であることが確定した。

最後の晩餐……キリスト教「ヨハネによる福音書」13章21節より、12弟子の中の一人(ユダ)が私を裏切る、とキリストが予言した時の情景を絵にして、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた絵。1498年完成。サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院の食堂の壁画として描かれたもので、420 x 910 cm の巨大なものである。一点透視図法を用いて部屋の様子が立体的に描かれており、ある位置から見ると、絵画の天井の線と実際の壁と天井との境目がつながり、部屋が壁の奥方向へと広がって見えるよう描かれている。描かれた当時からこの部屋は食堂として使用されており、食べ物の湿気、湯気などがこの絵を浸食する原因となった。その後も修復が行われたが、それが原因でさらに侵食が進んだ例もあり、今現存しているのが奇跡と呼べるレベルである。

ピューリッツァー賞……新聞等の印刷報道、文学、作曲に与えられる米国で最も権威ある賞。アメリカの新聞に載るのが大前提。ベトナム戦争を撮影した「安全への逃避」で1966年沢田教一(きょういち)が受賞。1994年には「ハゲワシと少女」という、餓死寸前でお腹が膨れ上がった少女を、ハゲワシが獲物を見る目でとらえている写真を撮った報道写真家が受賞、後に自殺している。

トピアリー……植物を刈り込んでつくられた模様や造形物。奴隷の庭師が、生垣に主人と自分のイニシャルを刈り込んだのが最初といわれている。トピアリーの語源は前述の奴隷の庭師への呼称だとする説がある他、庭師を意味する「トピアリウス」(topiarius)から転じたとする説もあるが、定かではない。イギリス式庭園では不可欠となった。

ヒトラーのキンタマは一つだけ……作者不詳の歌。WW2のイギリス兵士の間で広まった。Hitler has only got one ball, Göring has two but very small, Himmler is rather sim'lar, But poor old Goebbels, has no balls, at all.(ヒトラーのキンタマは一つだけ　ゲーリングは二つだけどめっちゃ小さい ヒムラーのも小さい そしてゲッベルスはタマがない)正直、超下品。しかも実際に一つだったらしい。「ボギー大佐」という行進曲の替え歌であり、小学生が「サル・ゴリラ・チンパンジー」と歌っているアレと同じである。

グリーングリーンは暗いラスト……アメリカ合衆国のとあるフォークグループが1963年に歌った歌である。日本語版の詞は片岡輝が担当し7番まで存在するが、これは原詞の翻訳ではなく独自に作詞したものである。原詞ではパパは一切登場しない(出てくるのはママのみ)。日本では父と子の対話と別れを描いた作品として知られており、学校での教材にも使用されている。歌詞中にある、“二度とかえって来ない遠い旅路”に出かけた「パパ」の身上に何が起こったかに関しては「戦争に行った」「病気で死んだ」「離婚して出て行った」様々な解釈が存在するが、作詞した片岡輝自身は読み手がどう解釈するかは自由であるとの発言をしている。まあ「死」という不可避なものにめげずに生きようよ、という解釈が一般的ではある。

ブタが原因の戦争がある……ブタ戦争。1859年にアメリカとイギリス帝国がサンフアン諸島(アメリカとイギリスの国境線のあいまいなところ)で衝突した事件。ブタは、衝突により血が流れることのなかったこの戦争における唯一の犠牲者だった。アイルランド人のブタが、アメリカ人の庭の敷地に入ってきていたため、その家の持ち主がブタを射殺したところ、緊張状態に。両者はそれぞれ軍を動員するも、砲門を開くことはなかった。現地の両軍指揮官はそれぞれ「自衛せよ。ただし絶対にこちらから先に発砲してはならない」という命令を受けていたのだ。数日の間イギリス軍およびアメリカ軍兵士は罵声を浴びせあって相手を刺激し、先に発砲させようとしたが、両軍の規律は保たれ、発砲されることはなかった。

世界一長い戦争は300年以上続いた……オランダとシリー諸島(イギリスの南西沖にある)の間で1651年から1986年まで戦われた戦争「三百三十五年戦争」がそれ。平和条約が335年もの間締結されなかったために、一発の銃も撃たれることなく、もっとも犠牲者が少ない、世界でもっとも長く続いた戦争であると言われている。ややこしいが近代になってからは「宣戦布告か攻撃をきっかけに戦争が始まり、講和条約をもって終わりとみなす」という考えのため、講和条約がないと国際法上は戦争状態になる。離婚しても同居する夫婦のようなものだろうか。そして結局(宣戦布告が有効かどうかはわからないが)1985年に平和条約が結ばれ、無事に戦争は終わった。条約に調印した大使は「シリー諸島がいつオランダに攻撃されるか分からないということは、住民にとってずっと悩みであったに違いない」と冗談を飛ばした。

ダーウィン賞……自業自得としか言いようが無いマヌケな行為を実行する事で自らの遺伝子を絶ち、マヌケの遺伝子を後世に残さない事で人類の進化に貢献した者に贈られるというブラックユーモア全開の賞。手榴弾を使ってジャグリングを行った。恋人の前でカッコいいところを見せようとして、(リボルバー式ではなく)セミオートマチック式の銃でロシアンルーレットを実行した。井戸の中へ落ちたニワトリを助けようと、農夫とその家族達総勢6人が相次いで井戸へ飛び込み、全員溺死した(ちなみにニワトリだけは生きていた)。泥棒が、侵入した建物の屋根から転落し、落下の際に口に加えていた懐中電灯が頭蓋骨を貫通して死亡した。ハリケーンが到来した事を知り、ハリケーンが目前まで迫った湾岸にて「ハリケーン歓迎パーティー」を開催した。超高層ビルの窓ガラスの強度・安全性を証明しようと、超高層ビル24階の窓ガラスに体当たりをかました。ちなみにこの人物は、同業者の間ではエリート中のエリートと謳われた敏腕の弁護士であった。

クマムシ……4対8脚のずんぐりとした脚でゆっくり歩く姿から緩歩動物、また形がクマに似ていることからクマムシ(熊虫)と呼ばれている。体長は50マイクロメートルから1.7ミリメートル。乾眠(かんみん)によって環境に対する絶大な抵抗力を持つ。乾眠(anhydrobiosis)はクリプトビオシス(cryptobiosis:隠された生命活動)の一例で、無代謝の休眠状態。通常は体重の85%をしめる水分を3%以下まで減らし、極度の乾燥状態にも耐える。151℃の高温から、ほぼ絶対零度(0.0075ケルビン)の極低温まで耐える。真空から75,000気圧の高圧まで耐える。高線量の紫外線、X線、ガンマ線等の放射線に耐える。X線の半致死線量は57万レントゲン(ヒトの致死線量は500レントゲン)。しかし、潰されれば当然死ぬし、寿命は半年。人間もこのくらいの耐久力が欲しいものである。

不気味の谷現象……ロボットや他の非人間的対象に対する人間の感情的反応に関する議論。外見と動作が「人間にきわめて近い」ロボットと「人間と全く同じ」ロボットは、見る者の感情的反応に差がでるだろうと予想できる。この二つの感情的反応の差をグラフ化した際に現れる強い嫌悪感を表す谷を「不気味の谷」と呼ぶ。すなわち、「人間に近づいているロボット」や「人間と見分けがつかないロボット」は親近感がわくが、「人間に極めて近いが人間ではないとわかるロボット」には強い嫌悪感を示すというのである。数年前のアンドロイドはこのようなものばかりだったが、今は見分けが付かないものも出てきている。

タマネギはなぜ切ると涙が出るか……タマネギを切ったときに出てくる揮発性の成分・硫化アリルが涙を出すから。玉ねぎを切ることによって玉ねぎの細胞が壊れ、硫化アリルが気化して空気中に放出されると、目や鼻を刺激してしまうため涙が出てくる。涙が出ないようにするには、冷水につけながら切る、よく切れる包丁を使う、冷蔵庫で冷やしておくなどがあるが、水に浸けてしまうと栄養でもある硫化アリルが水に溶けてしまうため、オススメできない。

タンマの語源……炭酸マグネシウム。「ちょっとタンマ」の語源である。手につけて、滑らないようにするための粉として使われる。

一富士二鷹三茄子には続きがある……めでたいものの筆頭としてあげられる三つのもの。初夢で見るといいことがあるという。つまり、「富士山から飛び去る、茄子を持った鷹」が一番めでたいことになる。が、これには続きがある。「四扇五煙草六座頭(剃髪した盲目の按摩師)」である。訂正すると、「富士山から飛び去る、茄子と扇と煙草を持った鷹が、座頭(髪の毛を剃った琵琶法師)の肩に乗る」という夢が一番めでたいのだが、こんなカオスな夢を新年早々から見るようでは、その年やっていけない気がする。

自称国家・シーランド公国……北海の南端、イギリス南東部のサフォーク州の10km沖合いに浮かぶ構造物を領土と主張する自称「国家」がシーランド。今のところこれを国家と認める国家はない。爵位が45ユーロで売られているため、気になる方は購入してどうぞ。「俺は男爵だ！」なんていう場面、日本ではまずないと思うが…。2000年には老朽化した発電機が燃え、国土は壊滅状態に。この国土の再整備には、売りに出した爵位などの売上金が再建の助けになったとも言われている。国際法上では国家成立の大きな要件のひとつとして領土をあげており、この領土とは島または大陸の全部または一部であると解されている。また、海の憲法たる海洋法では、「島とは自然に形成される陸地で、満潮でも海に沈んでしまわないもの」とあり、建造物が国土のシーランド公国は国ではない。

「タワー・オブ・テラー」の高さは航空法対策……フリーフォールタイプのホラーアトラクションとして人気のタワーオブテラーだが、その高さは59mで、プロメテウス火山やシンデレラ城(どっちも51m)よりも高い。どうしてこんな中途半端な高さにしたのかというと、航空法に引っかかって、赤いランプをつけなくて済むようにだ。確かに夢の世界に航空法の赤いランプがついていたら、夢もへったくれもあったもんじゃない気がする。

September、Octoberのナゾ……Septは7を表す接頭辞。Octは8を表す接頭辞(Octopus)、Nonaは９を表す接頭辞、Decは10を表す接頭辞(Deci)。カレンダーのそれらは２つずれている。Septemberは７を表すはずなのに9月、Octoberは8を表すはずなのに10月などだ。これは、ユリウス暦をつくったカエサル、その養子であるアウグストゥスが入りこんで、２か月ぶんずれてしまっているからなのだ。というのは間違いであり、ユリウス暦が導入されるまで一年は3月から始まり、12月で終わっていた。その後、ユリウスにより1月、2月がつくられた(つまり、ここで初めてずれたのだ)。ローマ教会は「5番目の月」と呼ばれていた7月に、ユリウス・カエサルの名前であるJulius Caesarから7月をJulyとつけた。その後アウグストゥス皇帝により8月の日数を増やすとともに8月がアウグストゥス皇帝の名前を由来してAugustとなった。決して彼らが傲慢だったからではない。他の皇帝も、自分の名前から月の名前を定めていたが、長続きしたのがJulyとAugustだったというだけの話。

アスファルトは固体ではない……アスファルトは原油に含まれる炭化水素類の中で最も重質のもの。石油からいろんな揮発成分を取り除いたあとの残りカス。アスファルトは粘度の高い液体(ピッチ)であり、常温ではほとんど流動しない。すなわち液体なのだ。ピッチドロップ実験といって、アスファルトをじょうごの形の容器に盛り、下の穴からゆっくりと落ちてくる速度を測るというもの。1930年に落下が始まって以来、なんとまだ９滴しか落ちていない。ピッチのしずくが落ちる瞬間を見た者は、いまだ誰もいない。前回(2013年)落ちた時は、ビデオカメラの不調で決定的瞬間を記録し損ねた。

赤が「止まれ」なのは……赤信号の意味を聞くと、だいたいどこの国の子どもも大人も「止まれ」だと答える。赤は血や炎のような危険なものを連想するため、目に刺激的なのだ。そして、波長が長く、遠くまで届くという利点もある(夕焼けや朝焼けが赤いのも同じ理由)。非常に合理的な理由で決まっていたのだ。

ブービー賞は本来ビリ賞だった……本来は最下位の人に与えられるはずだったブービー賞。しかし、ブービーを得たいがためにわざとビリになる人が出てきたため、最下位から2番目に与えられる賞になった。

夜のコンビニに虫が集まらない理由……夜、小腹が減って食べ物を買いに行くとコンビニだけはまだ空いている。ポテチとカップ麺とコーラを籠に投げ込み、フライドポテトを頼もうとしたところでふと気が付く。「どうして夜のコンビニは虫が集まらないのか」と。実は蛍光灯に特殊な成分を塗布しており、虫くんには見えないが人間には見える波長の光が出るようになっているのである。ちなみに、コンビニがあんなに明るく見えるのは、思い込みではない。窓に平行な向きに蛍光灯を並べることで、蛍光灯の間の暗さを目立たせないようにしているのである。

計算ができる馬がいた？……それがクレバー・ハンス。賢いハンスという意味。計算ができるというのは半分間違いであり、実際には観客や飼い主が無意識下で行う微妙な動きを察知して答えを得ていた。答えはハンスのひづめで地面をたたく回数で表されていたため、計算の答えが観客にわからないように出題すると、ハンスは間違えてしまった。だが彼は周りの気配を読むのがうまいため、それはそれですごい気がする。人間側が正解の回数に近づくたび体勢と表情をこわばらせ、最後の一叩きのときにその緊張が開放されていたため、ハンスはそれを読み取った。馬の社会では群れの他の個体の姿勢・体勢・重心移動などが重要であるからだと言われる(人間が馬の立場になっても、ほとんど正解できた)。今日ではこのような現象をクレバーハンス効果といい、動物認知学に貢献した。ハンスくんすごい。警察犬による臭気鑑別にて、この効果を否定できないとして無罪になった例があるため、これを含まない慎重な運用が必要とされている。

ラムネのビー玉はどうやって入れているか……ラムネは、酒石酸、重曹、砂糖、水をまぜた飲み物である。このとき二酸化炭素が発生し、炭酸が発生するのだが、これが逃げないようにビー玉を入れ始めたのがきっかけ。入れ方は簡単。ビー玉を入れ、その状態で口を加熱し、ビー玉が出ないようにする。その後サイダーをなみなみ入れてひっくり返すと、気圧の差でビー玉が口にピッタリくっつき、離れないようになる。今はもっと上等な密閉方法があるだろうにビー玉を使う理由は、夏を楽しむ風情なのではないだろうか。

発行枚数の少ない硬貨……ギザ10や記念硬貨や昭和64年の硬貨を思い浮かべる人がいるかもしれないが、実は違う。ギザ10はともかくとして、記念硬貨は結構鋳造されてるし、昭和64年のも、あの「昭和64年」を書き換えて「平成元年」にするまでに半年程度かかるため珍しくない。最も高価なのは昭和62年の50円玉で、なんと77万5千枚しかつくられていない。そのため硬貨マニアでの取引価格はだいたい1枚1万円。たぶん、62年50円玉があっても、知らずに使っていそうである。

Blu-ray Disc……DVDの後継となる光ディスク。第3世代光ディスクの一種であり、青紫色半導体レーザーを使用する。開発当初は最大50GBを録画できていた(ハイビジョンで2時間弱)が、記録層の多層化により今は最大１TBまで保存可能なものも。コピープロテクターが簡単な他、容量の大きさ、PS3にBDが導入されたことを受け、光ディスク戦争はHD-DVDを下しBDの勝利に終わった。なお筆者はこの記事を書くまで、DVDとBlu-rayの違いがわからない男であった。再生に使うレーザーの波長から多層化可能かどうかから何からいろんなものが違うので、規格が同じであっても再生できる機器できない機器がある。勘違いしてBlu-rayのみ対応のディスクを買った友人もいるため、なかなか罪深い。どうしてBlueでないのかというと、「Blue-ray Disc」とすると英語圏の国々では「青色光(で読み取る)ディスク」を意味する一般名詞と解釈されて商標としての登録が認められない可能性があるためである。

携帯電話の声は偽物……電話しているとき、なんとなく相手の声が違うと感じたことはないだろうか。逆に、風邪をひいているのにそれに全然気づかれなかったことはないだろうか。これは、容量削減のため、携帯電話の会社が、自分の声と似た声を選び出し、合成して(すなわち初音ミクのようにして)符号化して伝えているからなのだ。初音ミクのようにモデルの声優がいるわけではないが、限りなく本人に近い声をうまく作り出すことに成功している。

食べると必ず下痢になるが死ぬほどおいしい魚がいる……それがバラムツ。味は非常に良いらしいのだが、問題は身体の成分のほとんどが消化できないロウのような成分でできており、食べたが最後便意もなしに油が垂れ流しで出てくるらしい。嫌いな人を家に呼んで、これを食べさせてみてはどうだろう。できれば重要な会議の前に呼んでみよう。多量に摂取すると昏睡に陥るケースも出ている。ただ、それを覚悟で食べる価値があるくらいおいしいとか。大トロのような濃厚な脂身を感じられる。筆者はこれを食うくらいなら大トロを食べます。

電話のボタンを押すとなるあの音の正体……実はあの音にはちゃんとした意味があった。二つの単音の混合であり、その音がなると「１」とか「２」のように分けているのである。理論上は人間が寸分違わず二人で決まった周波数の音を口で言えば、ちゃんとつながるようになっている(コナンにそういうシーンがあったような)。2014年5月深夜、青森市駒込深沢にある別荘の固定電話から消防へ通報があった。しかし、通信状態が悪く、電話の向こう側から声は聞こえなかった。一刻一秒を争う事態かもしれない。青森消防本部は発信場所を特定し、消防署員らが現場に到着。しかし、辺りは真っ暗で、家の中に人影はなく、傷病者も見当たらなかった。現場は八甲田雪中行軍遭難事件があった地区で、木々がうっそうと生い茂る。担当者は「何らかの原因で通報されたと思われるが、よく分からない」と困惑。やむを得ず、誤報として処理することになるとしている。誰がかけたのかというと、幽霊や死んだ兵士でなければ、風だという説がある。当時、この地域では最大瞬間風速16メートルの強風が吹いて、NTT東日本によると別荘の電話線が切れかけていた。そこに強い風が当たって通話状態になったのではという説だ。ダイヤル式の電話は番号の数だけ通電と断線を繰り返す仕組みで、9の場合は限られた時間内に9回通電と断線を繰りかえさないと掛からない。こんな偶然あるものなのだろうか…？

紫キャベツの焼きそばは気持ち悪い色……紫キャベツに含まれる色素「アントシアニン」は、pHによりその色を変える。焼きそばに含まれるかん水はアルカリ性のため、紫が緑に変わり、なんともグロテスクな色の焼きそばを楽しむことができる。

果物の写真は果汁100%のジュースのみ……果物が切ってあるみずみずしいパッケージは、果汁100％のジュースにしか使ってはいけないことになっている。「果汁飲料等の表示に関する公正競争規約」というものがある。これは業界の団体が、消費者庁や公正取引委員会などにきちんと認めてもらった「自主ルール」。商品のパッケージというのは、消費者がモノを購入する際に大きな判断材料となる。食欲をそそられるようなパッケージは目にとまりやすい。果物は特に、美味しそうで、中身の見えている断面の写真・イラストは購買意欲が高まる大きな要素となる。それほどに果汁100%のジュースには特権があるといえる。「自信をもって断面を載せていいよ、ちゃんと売れるよ」ということだろうか。この規約は国が決めたものではなく、あくまで団体が申請して国に認証してもらったものなので、「果物断面使ったね、アウト！違法！」とはならないそう。ただ厳しいルールとされているので、各企業もしっかり守っているようではある。ちなみに「ジュース」というのも、食品表示基準上、100％果汁のものにのみ使える。しかし野菜ミックスジュースは50％でも使えるという。ちなみに「公正競争規約」によると、パッケージの果物断面使用について「紅茶飲料・乳酸菌飲料・お酒・野菜汁は除く」のだそう。ジュースのみ規定されている規約である。

1日は24時間ではない……24時間と定められてはいるが、実は微妙に短い。23時間56分04秒。この差は意識しないようになっている。その理由は24時間という設定にあった。ハワイで頭の真上に太陽がある状態から、地球が１回自転すると、(すなわち23時間56分04秒経つと)太陽の位置は頭の真上からちょっとだけずれてしまう。なぜかと言うと、その23時間56分4秒の間に、地球は公転によって軌道上を進み、地球から見た太陽の位置がずれるからだ。そのため残りの3分56秒を余分に設け、公転により発生した約1度のずれを、自転による1度のずれで補おうと考えたのである。これが今の暦の考え方だ。地球が366回自転すれば365日だと思えばよい。365日÷366回が23時間56分4秒になっている。しかし、太陽の周りを地球が1周するには約365日と6時間かかる。何もしないままだと１年につき６時間のずれが出てきてしまうため、４周させて１日のずれを修正する年、すなわちうるう年を設けている。

アディダスとプーマは「兄弟」……両者とも世界で最も有名なスポーツブランドであるが、実は創立者は兄弟同士。どんな家庭環境だよ。ダズラー兄弟は会社を建てたが、それを巡って大喧嘩。販売担当のルドルフは独立してプーマを、生産担当のアドルフはアディダスを設立した。ちなみに、アディダスとはアドルフのニックネーム「アディー」と名字の「ダスラー」からきている。

ニワトリはなぜ鳴くか……光が当たることで縄張りアピール、求愛行動が活発化し鳴くという説、朝が来た喜びで鳴いているという説があるが、2013年3月18日付けの米科学誌に発表された内容によると、「ニワトリは体内時計で鳴いている」と名古屋大が解明した。一日中暗い部屋に閉じ込めても、ニワトリが刻む23.7時間の体内時計で、朝方に当たる時間に鳴いていることがわかったという。結局どうして鳴くのだろうか…？

鳩ミサイルという皮肉な武器がある……鳩によってミサイルを誘導しようとする試み。ミサイルの前部にはレンズがあり、ターゲットの像が内部のスクリーンに映し出される。オペラント条件づけによって訓練された鳩は、ターゲットの像を認識し、くちばしでつつく。スクリーンの中央がつつかれた場合は、ミサイルは真っ直ぐに飛ぶ。中心からずれた場所がつつかれた場合には、スクリーンが傾くことで制御機構が作働し、ミサイルの方向が変わる。25000ドルが研究費として出されたが、あまりに非現実的なため研究は中止。平和の象徴である鳩を兵器に使おうとは、人間は何とも業が深い生き物だ。

デンキウナギ、デンキナマズはどうやって発電しているか……一般的に動物の細胞の内側にはカリウムイオン、外側にはナトリウムイオンが多数存在し、細胞膜に隔てられてバランスを保っている。興奮状態になると、細胞膜が変化し、ナトリウムイオンが細胞内に入りやすくなる。すると正イオンが多く入り込んだ細胞の内側は、細胞の外側よりも電圧が高くなる。彼らのように電気を起こすことができる動物はこのような細胞が電気板として規則正しく電池の直列つなぎのように並んでいる。微妙な雑学だが、ウナギとナマズでは極が逆。ウナギは頭がプラスで尾がマイナスだが、ナマズは逆。ウナギは500～800Vをつくり、ナマズは400～500V。本人も感電しているが、内臓の脂肪が厚いため命に別状はない。

ブアメードの血……オランダで行われたという実験。「ブアメード」という名の政治犯囚に対して”医学の発展”を名目に行われた。すなわち、人間はどれくらいの血液を抜かれたら死ぬのかを探るという名目。彼を縛り、目隠しをさせ、その周りで医者が「人体は三割の血を失うと死ぬだろう」と話し合って実験を始める。ブアメードの足の親指(手首、という説もある)にメスを入れ、用意してある容器に血液をポタポタと落としはじめた。その音は実験室中に響き渡ったといわれる。ブアメードには一時間毎に出血量が告げられるが、やがて総出血量が体重の三割を越えた、と告げられたとき、彼は息絶えてしまったという。しかし実は一滴の血も流れていなかった。メスを入れたフリをしただけで、容器には水をぽたぽた垂らしていただけだった。人間の脳は、自分が死んだと思い込めば死ぬのだということが実証された実験である。心理学的には「ノセボ効果」(プラセボの逆)と呼ばれる。この実験も本当にあったかは疑わしい。また、心臓などの各器官は、意思や暗示とは無関係に働くため、実験は「死という極度のストレスから生じた心臓発作」にすぎないとする否定説も存在する。

黒板を爪でひっかくとなぜ不快か……あの甲高い音を思い出すだけでトリハダが立つ人もいるだろう。この理由はいろいろある。人の祖先であるサルが危険を知らせるときに鳴く声があの振動数だったとか、捕食者の鳴き声があの音だったとか。ともかく、偏桃体で情報を処理する我々人間にとっては、あの音が遺伝子レベルで危険に感じる音なのだろう。

ミラクルフルーツはなぜ生き延びられるのか……食べるだけで苦いもの酸っぱいものが甘く感じてしまうというフルーツがある。それがミラクルフルーツというもので、ミラクリンという物質がこうさせている。この果実自体に味はないため、どうしてこのように進化したのかが不思議であるが、一応以下の説が唱えられている。「一般に果物が甘いのは、それによって動物に食べられ、それによってその動物に種子の分散を行わせるためである。食われる果実の組織やそこに含まれる糖分などは植物にとっては損失であるが、種子散布のための投資とも見ることができる。従って、十分な種子散布が見込める場合、当然ながらこの投資が少ない方が有利である。この果実には糖分がほとんど含まれないにもかかわらず、それを食べた後で他のものを食べるときに美味を感じることができる。つまりミラクルフルーツは、他の果実の自身に対する投資を、自分の種子散布の為の物として利用できるのである」と。

月で生まれた子どもの国籍は？……もしいたとしたらの話だが、この子どもの国籍は月になるのだろうか、それとも宇宙人なのだろうか。答えは宇宙船が作られた国の国籍となるのである。アメリカ人とロシア人の子どもで、乗っていた宇宙船が中国製なら、子どもは中国人となるのである。生まれつきのトリリンガル、爆誕。

外交官は家賃延滞しても合法……貧しい国の人たちが、東京の高い家賃を払えないのも無理はない。が、大使館はもともと家賃を延滞しても大丈夫なのである。というのも、1964年に批准されたウィーン条約において、外交官は民事裁判権及び行政裁判権からの免除を享有できるとある。家賃を払わないと民事裁判で負けてしまうのだが、そもそも免除されているため払わない人が多いのだ。ということは、NHKの取り立てにも応じる必要はない。世界を股にかけて活動するのだから、家賃やら受信料やらでもめてもしょうがないため、確かにそうかもしれない。

コンセントの穴の大きさは違う……暇で暇でどうしようもなくなったとき、コンセントの穴を見てみるといい。左右で微妙に大きさが違うはずだ。左のほうが長いはず。実は左はアースであり、雷などでの逆流してきた過電圧を地面に逃がす働きをしている。音響機器などは正しい向きで接続することで、品質が良くなったり、ノイズが軽減されたりが期待できる。白い線が印刷されている方を左の穴に差し込もう。

時計が右回りなのは……アナログ時計、すなわち普通の腕時計でも置時計でも、時計は全て右回りなのだが、これはなぜだろう。答えは日時計。日時計が生まれたのは北半球。太陽は東から出て南中し、西に沈む。つまり影は時計周りの軌道を描くことになる。南半球では東から出て北中し、西に沈むため、日時計は逆になってしまう。ボリビアの議会議事堂に2014年、「反時計回り」に時を刻む新しい時計がお目見えした。通常の時計と異なり、文字盤には左回りに数字が並ぶ。針も左回りに進む。南半球に暮らす人々に敬意を表したものだという。南半球に住む人たちにとってはこれが自然ではなかろうか。

FAXの仕組み……スキャナーで紙を読み取る。そのときの光の情報を電気信号に変える。黒白黒白白…のように。ピーヒョロローの音はその電気信号の音なのだ。これを向こうのFAX機に送り、受信側はこれを復号し、紙に投影する。昔は紙が本当に送られているもんだと感動したが…。

衛星回線の声の遅れはなぜ起きるか……通信衛星を用いてデータをやり取りする。「現地のまるまるさーん」「…はーい、こちらまるまるです」の遅れは、実はこっちの音声が向こうへ遅れて届いているのではない。向こうからのデータがこちらに遅れて届くので、変な沈黙があるように見えるだけなのだ。というのも、こちらから向こうへは音声を流すだけでよく、高速の光ファイバー通信を使っているが、向こうからこっちへは音声と映像を流さなければならない。データが多くなるため衛星回線を使うのだが、衛星は通常36000km上空にあり往復72000km、このほかにも様々な機器を通ってくるためどうしても帰りは遅くなってしまう。

教会に火薬を置いて大爆発した事故がある……ブレシア・聖ナザロ教会爆発事件という、1769年に起こった爆発事件がそれ。十字架に雷がおち、街の6分の1が吹っ飛び、3000人以上の死者が出た。軍需物資である80トンもの火薬が保管されていたためである。なぜ教会のような高い建物に爆薬を置いたのか。「神のご加護があるところに雷は落ちないだろう」という思い込みだ。この事件をきっかけに、教会にはちゃんと避雷針が立つようになったという。天災ではない、れっきとした人災だ。もしかしたら、戦争をする人間に神が天罰を与えたのかもしれないが。

豆腐の角に頭をぶつけて死ぬことは可能か……絶対に不可能な死に方としてネタにされる死に方。だが、山形県にある「六浄豆腐」を使えば、実際に豆腐の角に頭をぶつけて死ぬことができる。この豆腐は豆腐を塩で固めて干した乾燥食品であり、そのままでは歯が立たないためノミやカンナで削って使う。

シベリアの人たちに冷蔵庫はいるのか……もちろん、いる。部屋の中は暖かくしておくので、冷蔵しなければいけないものが腐ってしまうからだ。下手すれば、暖房をつけずにおくと、冷蔵品のはずのものまで凍ってしまう。ものを凍らせないように冷蔵庫にいれるとは…逆の発想だなあ。

ベルとグレイの特許戦争……両者発明家であるが、1876年、電話の特許取得にて、わずか2時間ベルのほうが早かったため、グレイは歴史から消えることになってしまった。これは完全な偶然であり、のちにどちらが早かったのか、ベルがグレイのアイデアを盗んだのではないか、というのが争点として裁判沙汰になったが、結局ベルが早いことが確定した。ただ、グレイはのちにシンセサイザーを生んだ。

犬がポチと呼ばれるのは……明治43年の朝日新聞に掲載されたデータによれば、その時期から犬の名前はポチが1位。なぜポチという名前で呼ばれるようになったのだろう。実はいくつもの説がある。フランス語でpetit(プチ)が聞き間違いでポチになったとするもの、英語でpatch(斑点)が聞き間違いでポチになったとするもの、spoty(点々の意)もある。理由はともかく、「犬＝ポチ」の魂は、日本人に語り継がれていくことだろう。ちなみに猫がタマなのは、球のように丸まって寝るかららしい。こっちは適当。

ハイジャックの「ハイ」は”high”ではない……飛行機などを乗っ取ったときに使う言葉。日本では「ハイジャック」と言えば航空機の乗っ取りの意味になりがちだが、そもそもハイジャックはHigh-Jackではない。Hi-Jackだと言われている。これは、昔の乗っ取り犯が電車や車を止めて、Hi, Jack(よぉ、ジャック)と呼んでいたことに由来する。Jackといえば英語圏ではポピュラーな名前だから、日本語で「おい、太郎」みたいなもんだろう。であるから、ハイジャックという言葉は既に和製英語になってしまったのである。電波乗っ取りを電波ジャック、車乗っ取りをカージャックというように、hijackという動詞はなかったことになっている。英語でハイジャックの意味を伝えたい場合、Aircraft hijackingと言わないと伝わらない。本来ハイジャックは車や電車にも使うからである。

甘い柿の見分け方……スーパーでも安くで売っている柿。しかし渋いのをつかまされたときには顔をゆがめなければならない。柿の渋み成分の原因は「シブオール」という物質にあるのだが、渋いままだとシブオールは水溶性。しかし熟すにつれだんだんと不溶性に変わり、渋みがなくなってくる。不溶性のシブオールは、表面や内部にある黒い点々だ。そのため、点が多い柿のほうが甘いということになる。筆者は柿があまり好きではないため、どうでもいいのだけれど。

タンポポの生存競争……春の訪れを人々に教えるタンポポ。昔は綿毛を吹いて遊んでいたものだ。タンポポには日本在来種のニホンタンポポと、外来種のセイヨウタンポポがある。ニホンタンポポはしかし、セイヨウタンポポに生命力、繁殖力という面で劣っていたため、瞬く間に駆逐されてしまった。セイヨウタンポポが日本のタンポポ界を牛耳ったのだ。しかしそこに第三勢力爆誕。セイヨウタンポポとニホンタンポポが偶然に交配して生まれた雑種である。雑種はセイヨウタンポポよりも生命力が強く、今度はセイヨウタンポポが駆逐されてしまった。現在は、雑種とセイヨウタンポポの交配で雑々種も現れ、何が何だかわからないカオスな状況になっている。自然というのはかくも厳しいものなのだなあ。

金隠しはやはりアレを隠すためのものなのか……和式トイレの前のぼこっと盛り上がっているところを「金隠し」という。こう呼ばれる理由は男のアレを隠すためのものだから…ではなく、昔の何枚も重なった動きづらそうな服をあそこにかけて用を足していたので、「きぬかけ」がいつのまにか「きんかくし」になっていたからだそうだ。

笑点の座布団の工夫……「山田くん、座布団二枚持ってって」笑点にてうまいことを言うと与えられる座布団だが、ちゃんとあれにも工夫がなされている。正面から見てもわからないが、長方形になっており、座りやすい。また、マトリョーシカのような二重構造になっており、あの座布団の中にもう一枚座布団が入っており、安定性が高まっている。35000円で買えますので欲しい方はどうぞ。というか座布団はその多くが長方形である。

走れメロスは実話がもとだった……セリヌンティウスを人質に、メロスが王様のもとへ帰ってくる「走れメロス」。このモデルになった話がある。太宰治は旅行で熱海に行った。あまりに帰ってこないので妻が心配、友人の檀一雄に宿賃や交通費を渡し、彼を迎えに行ってもらった。しかし彼は壇をも巻き込み、預かってきてくれたお金も全部使い切ってしまう。彼を人質にして、「東京の恩師のところにお金を借りに行ってきますわ」と言って立ち去っていった。ところがいつまでたっても太宰治がかえって来ない。しびれを切らした檀が見に行くと、恩師と将棋を指していた。さすがに腹をたてたのだが、そんな彼に対し太宰治はこういった。「待つ身が辛いかね。待たせる身が辛いかね」。待たせるほう(太宰自身)も辛いんだよ、ということらしい。ひでえ。借金の額は、現在の価格で約20万円ほど。この借金を返済するため、檀一雄、そして東京の恩師である井伏鱒二、佐藤春夫らに支払ってもらうことになった。それでも足りず、太宰の妻が着物を質に入れ、残りのお金を用意したという。…あれ、太宰治本人は？となるのだが、これぞ太宰治なのである。特になにもしていない。それにしても壇一雄、彼に甘すぎる。妻に託されたお金を、破天荒だときっとわかっているのに太宰に全て渡し、身代わりにされる。迎えに来てもらえず、自分から迎えに行く。結局その借金返済の手助けをする。甘すぎる！と思ったら、実は彼、太宰とは盟友というほどの仲だったといわれており、ふたりで酔いつぶれた際に太宰に自殺を持ちかけられ、ガスを使って実行しかけたこともあるというのだ。「走れメロス」が発表されたとき、「この体験談が、その重要な心情の発展になってはしないかと考えた」と檀一雄が書き残したということから、裏話として有名になった。もし太宰がメロスだったら妹の結婚式に行ったきり将棋を指し続けて帰ってこず、セリヌンティウスは処刑されていただろう。

とある街での出来事、借金を全員返済し終わる方法がある？……「ときは8月、黒海沿岸の町。雨にぬれる小さな町は活気がなく、すっかり寂れていた。人々は借金を抱えて苦しい生活をしているのだ。その町へ、一人の旅人がやってきた。そして町に一つしかないホテルに入ると、受付のカウンターに100ユーロ紙幣を置き、部屋を選ぶために２階へ上がって行った。ホテルの主人は100ユーロ紙幣をひっつかんで、借金返済のために肉屋へ走った。肉屋は同じ紙幣を持って養豚業者へ走り、100ユーロの借金を返した。養豚業者はその紙幣を握ると、つけにしてある餌代と燃料代を払うために販売業者に走った。販売業者は100ユーロ紙幣を手にすると、この厳しいご時世にもかかわらず、つけでお相手をしてくれる町の遊女に返そうと彼女のもとに走った。遊女は100ユーロ紙幣を懐にしてホテルに走り、たびたびカモを連れこんだホテルに借りていた部屋代を返済した。ホテルの主人は、その100ユーロを受け取ると、紙幣をカウンターの元の位置に置いた。ちょうどそのとき、部屋をチェックして２階から降りてきた旅人が、どの部屋も気に入らないと云って100ユーロ紙幣をポケットにしまいこみ、町を出て行った。誰も稼いでいないのに、町中の誰もが借金を返し終わり、町は活気を取り戻した」という話。実際には、他人に借りた分、別の人に貸しているため、みんなプラマイ０だ。あと、遊女に返済されたはずの100ユーロはホテルの主人ではなく旅人のものになっているので、主人が損している。

空飛ぶスパゲティ・モンスター教……実在する宗教。インテリジェント・デザイン説(「知性ある何か」によって生命や宇宙の精妙なシステムが設計されたとする説)を公教育に持ち込むことを批判するために創始されたパロディ宗教。一応辻褄が合うように作られている。この世界や人類をつくったのは、空飛ぶスパゲッティモンスターである。彼は人類がこれ以上成長しないように触手でみんなの頭を押さえつけているが、それでも最近平均身長が伸びてきたのは触手の数が足りないからだとする。お祈りのときはアーメンではなく「ラーメン」と唱えるし、パスタの湯切りに使うザルを頭にかぶる習慣があるのだが、2016年では正式な宗教として認可されたし、免許証にザル頭のまま写ることも認められたことがある。

終わったあと男が冷たくなる理由……性行為を終えたあと、男がそっぽを向いてしまうというのは、結構な悩みでもあるらしい。これは男と女の性行為のプロセスに違いがある。女は子どもを産まねばならないが、男は極論、種だしすればよいだけだ。こうなると当然あちこちでやりまくって種が尽きるおそれがある(し、外敵に襲われることもある)。だから男は終わった直後、脳に「プロラクチン」という物質が分泌され、性欲をかき消すどころかマイナスにされてしまう。終わらないのは相当な絶倫か、キメている人だけでのみ、これはほぼ全ての男に共通する。もう一つは、出し終わって支配欲が満たされたからだというのもある。自分のを飲ませ(筆者にはそんな最低なことをする男がいるなんて信じられないが)たり、自分のをかけたり(筆者には以下略)するのも、やはり支配欲が働くからだ。

クジラのペニスの大きさ……シロナガスクジラは今まで地球に生まれた生き物の中で最も大きい。そんなクジラならきっとアレも大きいのだろうなと思って調べたところ、長さ3ｍ、直径60cmという規格外の大きさだった。大きいと満足とかいう風潮もあるが、これはさすがに大きすぎやしないか。満足どころではない、貫かれて死ねる。交尾する姿をちゃんと捉えたものはない。

虫姦という恐ろしい性的嗜好があった……ちゅうかんと読むのだろう。その名の通りである。古代ローマでは実際に虫姦が行われていたようで、甘い液体を自らの性器に垂らし、そこを虫にいじられることで興奮を覚えている女性がいたという。ちょっと…これはない。人間の業は深い。

第二ボタンを渡すのはなぜか……卒業のときに誰かに第二ボタンを渡すという儀式は、中学校や高校でよく行われる。この儀式、どうして始まったのかはっきりわかっておらず、様々な説がある。心臓に近い部分なので、「心をつかむ」という願掛けによるという説、戦時中の名残という説、ボタンの中で二番目は「恋人」を表すからという説など。

ダッチワイフの「里帰り」……お人形ダッチワイフ。安いので10万、高いものになると80万もするというから驚きだ。しかし捨てる際はどうしたらよいのだろう。細かく切断して分別廃棄するには手間と時間がかかり、そのまま家庭ごみとして廃棄する場合、多くの自治体では粗大ゴミとして扱われることになるが、モノの性格上家庭ごみとして出すには抵抗があるという人も少なくない。不法投棄され死体と間違われる可能性も大いにある。そのためオリエント工業のような会社のほうでは、「里帰り」と称して回収しているところもある。なお、ラブドールの場合穴が着脱式なので、他の人に譲ったり、それをあっせんしてもらったりする「里子里親制度」もあるようだ。ダッチワイフは…筆者にはたぶん一生縁がない気がする。

沖縄の牛乳パックは中途半端……筆者の父が沖縄に行って驚いたらしいのは、まずとても暑いことと、二千円札が出回っていることと、もう一つは牛乳パックだ。なんと1000ｍLではなく946ｍLなのである。これはアメリカに占領されていた時代の名残であり、946ｍLは約4分の1ガロン。一日200ｍLの牛乳を！と言われ、本州の人たちは5日でちょうど飲み終えるのだが、彼らは中途半端に余ってしまうのである。

カタトゥンボの雷という無音の雷がある……カタトゥンボ湖という南米ベネズエラでは、一時間に3600本以上の雷が鳴っている。鳴っていないが鳴っている。というのも、ここに落ちる雷は「音がしない」。雷光だけなのである。熱気と湿気を帯びた風がアンデス山脈にぶつかり雷雲が発生すると言われているが、音がしない原因はわかっていない。

洗面台の下のパイプの形……暇なときに洗面台の下を見てみるといい。パイプがグネっと曲がってS字を描いているはずである。これは不良工事でもなんでもない。下水からの悪臭や、ネズミが上がってくるのを防いでいる。この部品を「トラップ」という。

人間は人工の自然の中で生き続けられるか……実は「バイオスフィア2」という、人工的な自然環境の中で人間が暮らし続けるというプロジェクトがあった。目的は人類が宇宙空間に移住する場合、閉鎖された狭い生態系で果たして生存することが出来るのか検証することである。砂漠の中にそびえ立つガラス張りの巨大な空間に、熱帯雨林、海、湿地帯、サバンナなどの環境を世界各地から持ち込んだ動植物で再現している。日光によって空気が膨張し気圧が変化するのを防ぐために、巨大な気圧調整室が設けられた。実験は2年交替で科学者8名が閉鎖空間に滞在し、100年間継続される予定であったが、実際には最初の2年間で途切れてしまった。微生物の動きによって酸素が不足状態に陥ったこと、二酸化炭素の一部がコンクリートに吸収され、うまく光合成ができなかったこと、それにともなう食糧不足によって、研究は中止となった。施設内に風が吹かず熱帯雨林の木がすぐに枯れてしまったのは、木が自らの幹を強くしようという努力を怠ったためであり、このような例からも、自然がいかに繊細なバランスでダイナミックに成り立っているか、よく実感できる。ということは、このような環境を人工的(動物工的？)にきちんと再現できている「ズートピア」の世界は、超科学文明を持っていることになる。

メガネの閉じ方……メガネは左のフレームを下に、右のフレームを上にして収納するのが正しい。確かに微妙に右のほうが広く作られている。

西暦10000年問題……今のコンピュータは、年数の計算が全て4桁という前提で成り立っている。ということは、西暦1万年になるとそれらがすべて誤作動を起こしてしまう！のだが、人はそれを杞憂と呼ぶ。

折田先生像……京都大学に設置されている像。というのは半分間違いであり、余りに落書きが多かったため撤去されてしまったが、そこにいろんな像が毎年設置される。キョロちゃんになったり、「磯野―、野球しようぜ！」になったり、ゴルゴ13になったり、コンタックのアレになったり、カービィになったり、てんどんまんになったり。てんどんまんに関しては、著作権所有者のほうから問い合わせがあったらしい。撤去命令はなかったものの、著作物のイメージを壊さないようにと要請がなされた。今のところ京大は折田先生像を「吉田南構内の風物詩の一つ」として事実上黙認する構えを見せた。

カルネアデスの板……緊急避難にあたる例。船が遭難したとき、他の人が掴まっている板からその人を引き離して助かった場合、罪に問われないかという問題。あまりに過激でない場合、そうしないと自分の命が助からなかったということで、お咎めなしに終わる。そもそもそんな状況をわざわざ報告するのだろうか…？いくら無罪でも夢に出てきそうではあるが。

善きサマリア人の法……「災難に遭ったり急病になったりした人などを救うために無償で善意の行動をとった場合、良識的かつ誠実にその人ができることをしたのなら、たとえ失敗してもその結果につき責任を問われない」という法律。アメリカ、カナダでは実際に立法化されており、日本でするかどうか議論されている。「この機内にお医者様はいらっしゃいますか」で手を挙げない医者がいそうなのは、これが立法化されていないからだろう。医師ができるだけの対応をその場で行って、その結果が駄目だった場合、遺族からの賠償を求められるケースがあるという。誠実ってなんなんだと考えさせられる。

自首と出頭の違い……自首は犯人がわかる前に警察に行くことで、罪が軽くなる可能性がある。出頭は犯人がわかってから警察に行くことで、こっちは罪が軽くならない。

警察庁と警視庁の違い……警察庁は全国を管轄する国家公務員であり、警視庁は東京都を管轄する地方公務員。警視庁より警察庁のほうが偉いのだ。

哲学的ゾンビ……人間と区別がつかない、自我を持たない人間のようなもの。叩かれたら痛いと言い、泣いたり笑ったりするが、感情は持たない。感情を持つかのようにふるまう、非常によくできたロボットと考えてもいい。果たして彼らの中に感情はあるのだろうか。筆者は(筆者からみて)あるといってよいと思う。たとえ友人が哲学的ゾンビであっても、彼や彼女と過ごした楽しい日々まで否定する理由はないからである。

邯鄲の枕……「趙の時代に「廬生」という若者が人生の目標も定まらぬまま故郷を離れ、趙の都の邯鄲に赴く。廬生はそこで呂翁という道士(日本でいう仙人)に出会い、延々と僅かな田畑を持つだけの自らの身の不平を語った。するとその道士は夢が叶うという枕を廬生に授ける。そして廬生はその枕を使ってみると、みるみる出世し嫁も貰い、時には冤罪で投獄され、名声を求めたことを後悔して自殺しようとしたり、運よく処罰を免れたり、冤罪が晴らされ信義を取り戻したりしながら栄旺栄華を極め、国王にも就き賢臣の誉れを恣に至る。子や孫にも恵まれ、幸福な生活を送った。しかし年齢には勝てず、多くの人々に惜しまれながら眠るように死んだ。ふと目覚めると、実は最初に呂翁という道士に出会った当日であり、寝る前に火に掛けた粟粥がまだ煮揚がってさえいなかった」という話。全ては夢であり束の間の出来事であったのである。胡蝶の夢に似たものを感じる。人間の栄枯盛衰は夢に過ぎないのだなあというオチ。

募金の実態……「心臓の手術をする○○ちゃんに募金をお願いします！」などと叫んでいる人がいたら、千円札を入れるのはやめて、詳しく話を聞いてみよう。深く深く突っ込めばアラが出てくるかもしれない。募金は何も特定の団体しかできないわけではない。自治体に届け出を出せばだれでもできるのである。普通の人はバイトをして稼ぐほうが効率がいいとわかっているが、こういう輩もいるので注意しよう。

ヘンペルのカラス……「すべてのカラスが黒い」ことを証明するために対偶をとると、「黒くないものはカラスではない」となり、これが真だと証明するのがとても困難になってしまうという問題を提起するための問題。黒くないものがカラスでないことを確かめなくてはならないのだが、黒くないとはそもそもどこからなのかがわからないし、そんなの調べてたらカラスが進化して真っ白くなりそうだ。

おつりを多くうけとったとき、どうする？……筆者もたまにあるのだが、おつりを多く受け取ってもそのまま返さないことが多い。気づいたのに返さないと犯罪になる。貰ってから店を出るまでに気づいたら窃盗罪、家に帰って気づいたが返さなかったら占有離脱物横領罪になる。もちろん、「気づきませんでした！」と言えばセーフ。というか気づかないうちに余分にもらってたりするだろう。わざわざ数十円単位まで見ないし。

コモンズの悲劇……多数者が利用できる共有資源が乱獲されることによって資源の枯渇を招いてしまうという、行動経済学における法則。牧草地に複数の農民が牛を放牧する。農民は利益の最大化を求めてより多くの牛を放牧する。自身の所有地であれば、牛が牧草を食べ尽くさないように数を調整するが、共有地では、自身が牛を増やさないと他の農民が牛を増やしてしまい、自身の取り分が減ってしまうので、牛を無尽蔵に増やし続ける結果になる。こうして農民が共有地を自由に利用する限り、資源である牧草地は荒れ果て、結果としてすべての農民が被害を受けることになる。ゲーム理論ともかかわっている。

A-SHOCKからZ-SHOCKまでが商標登録されている理由……G-SHOCKは、非常に頑丈なつくりのため、学生はもちろんダイバーにも愛用されている時計である。実はA-SHOCKからZ-SHOCKまで登録されている。戦後G-SHOCKの模造品が出回ったため。申請は一件あたりだいたい10万から30万費用がかかるが、それを差し引いても、偽物がもたらすマイナスが大きかったのだろう。

ドリアンは多くで持ち込み禁止……その強い甘みと栄養の多さから果物の王と呼ばれる果実「ドリアン」。臭いが強烈なため、飛行機内への持込みが禁止されている。公共の建物やホテルも、持ち込み禁止にしている所が多い。本当に臭い。生ごみみたいな匂いがする。現在は品種改良により匂いのしないものも作られている。アルコールと一緒に摂取すると死ぬという都市伝説があるが、実際は死なないし何てことないらしい。

辛い物を取るとやせる、はウソ……カプサイシンというトウガラシに含まれる辛み成分は、痛覚神経を刺激し、局所刺激作用あるいは辛味を感じさせる。体内に吸収されたカプサイシンは、脳に運ばれて内臓感覚神経に働き、副腎のアドレナリンの分泌を活発にさせ、発汗及び強心作用を促す。俗に、「体脂肪を燃やす」「代謝を高める」「便秘を解消する」「美肌づくりに役立つ」「発がんを抑制する」などと言われているが、これらの有効性に関するヒトでの信頼できる十分なデータは見当たらない。

赤福……伊勢神宮の名物お菓子。敷地内を流れる川の流れをあらわすという。柔らかい餅をこしあんで包んだあんころ餅の一種。昔は黒砂糖餡だったのだが、皇后が1911年に赤福を注文したとき、甘みと灰汁の強い黒砂糖餡では合わないのではないかと案じ白砂糖に換えたところ大好評、今の赤福になった。創業300年となった2007年に、冷凍保存していた製品を、解凍日を製造年月日として出荷していたこと、さらに売れ残り商品の再利用をしていたことが明るみに出たため、一時期販売中止となった。

グリーンピースは何の豆か……エンドウの未熟の種子を取り出したもの。グリーンピースご飯は筆者的には栗ご飯の次くらいに好きなのだが、給食ではいつも人気がなかった。噛むと変な味のペーストが出てくるのであまり子どもには人気がないらしい。そして英語でつづるときは”green piece”としないように。ピースはpeas(豆peaの複数形)なので「グリーンピーズ」と言ったほうがいいかも。

ケツァール……メキシコ南部からパナマにかけて生息する鳥の一種。非常に美しい羽と特徴的な鳴き声を持つ。グアテマラの国鳥で、通貨単位名でもある。古代アステカではケツァールは農耕神ケツァルコアトルの使いであり、ケツァールの羽毛を身につけることは最高位の聖職者と王だけに許された特権であった。「キョーッ」という鳴き声。

七草がゆ……1月7日の朝に食べられる日本の料理。その一年の無病息災を願って食べられる。祝膳や祝酒で弱った胃を休める為とも言われる。関東ではセリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロの春の七草を入れて食べるのだが、野草がとれないような寒い地域では別のものを入れたりする。なお、現在の呼び方では違うものもあり、ゴギョウは「ハハコグサ」、ハコベラは「コハコベ」、ホトケノザは「コオニタビラコ」、スズナは「カブ」、スズシロは「ダイコン」である。

キャッサバ……熱帯低木。芋はタピオカの原料であり、世界中の熱帯(Aw、Af気候)にて栽培される。栽培はとても簡単で、茎を地中に挿すだけで発根、そのまま生育する。また、作付面積あたりのカロリー生産量はあらゆるイモ類、穀類より多くデンプン質の生産効率は高い。しかし食用とするために毒抜きが必要な点で利用の制約が大きい食材でもある。毒はあのシアン化合物。青酸カリと同じカテゴリーで、軽い症状でおう吐・頭痛・めまい。それ以上なら四肢のけいれん・意識混濁・呼吸低下がおこり、最悪の場合死に至る。日本では2005年から、未加工のキャッサバを国内輸入できない。ちなみに元は白く、黒いタピオカはこれにカラメルなどを加えて色を付けたものである。毒の9割は皮に集中しているため、簡単といえば簡単。「甘味種」があるのだが、生産のメインは毒をたくさん含んだ「苦味種」。収穫量が多いため。

マスカット・オブ・アレキサンドリア……ブドウの一種。エメラルド色の長円形の大粒の実をつけ、甘みが強く、強いマスカット香が特徴である。「ブドウの女王」の異名を持つ。生食にしたりワインにしたりするが、日本ではアイス、ゼリー、和菓子、ジュースなどに使われる。非常に古くから食べられており、その歴史は紀元前にまでさかのぼる。ちなみにマスカットの語源は”musk cat”(ジャコウネコ)から。ジャコウのにおいがすることから。ちなみにオマーンの首都マスカットは”Muscat”と同じつづりなのだが、こちらは古代ペルシャ語で「隠された」という意味なので、マスカットの語源ではないらしいが、”muscat”には「強い香り」という意味もあるため、こちらかもしれない。わからない。

コオリウオという魚は血液が透明……南極に住む魚コオリウオはなんと血液が透明で、赤血球やヘモグロビンを持たない。血液中に不凍タンパク質と呼ばれる糖タンパク質を蓄えることで凝固点を下げ、氷点下の海水中でも生存可能。細胞の中に氷の結晶ができると、次第にそれらがくっついていき、最終的に細胞を破壊して死に至るのだが、コオリウオなどは結晶同士がくっつくのを防ぐタンパク質により、それを回避している。酸素の取り込みは通常よりも多量の血液(血管は太く、心臓も肥大化している)と皮膚呼吸によってまかなわれており、豊富な極低温の海水以外では生存できないと考えられている。進化ってすごいなぁ。

エメラルドゴキブリバチの奇妙すぎる寄生方法……ゴキブリを宿主にする寄生バチの一種に「エメラルドゴキブリバチ」がいる。寄生の方法がやばいぐらい気持ち悪い。まず成虫が外からゴキブリを2回刺して、寄生を開始する。1回目の刺撃で胸部神経節に毒を回し、前肢を速やかかつ可逆的にマヒさせ、2回目は脳内の逃避反射を司る部位へ行われる。この結果ゴキブリは逃避反射を失ってしまう。続いてゴキブリの触角を2本とも半分だけ噛み切る。この行動はハチが自分の体液を補充するため、もしくはゴキブリに注入した毒の量を調節するためであると考えられている。毒が多すぎるとゴキブリが死んでしまい、また少なすぎても幼虫が成長する前に逃げられてしまうからである。ゴキブリに比べハチの身体は小さいため、触角を引っ張って誘導するように巣につれていく。そして腹部に卵を産み付け、巣の入り口を小石で埋めて、他の捕食者にゴキブリが食べられないようにする。逃避反射が機能しないため、ハチの卵が孵るまでのおよそ3日間、ゴキブリは巣穴の中で何もせずに過ごす。卵が孵化すると、幼虫はゴキブリの腹部を食い破って体内に侵入し、これを食べながら4、5日の間捕食寄生生活を送る。8日間、幼虫はゴキブリが死なない程度に内臓を食べ続け、そのままゴキブリの体内で蛹化する。最終的に変態を遂げたエメラルドゴキブリバチはゴキブリの体から出、成虫としての生活を送る。インテリジェントデザイン説を支持したくなるような精巧な寄生っぷりに、世界のニートも驚愕だろう。

メイラード反応……還元糖とアミノ化合物(アミノ酸、ペプチド及びタンパク質)を加熱したときなどに見られる、褐色物質を生み出す反応。焼肉、コーヒーの焙煎、ホットケーキの茶色、食パンの耳、しょうゆ、味噌など、日常の様々な食べ物に利用される。食品工業においては、製品の着色、香気成分の生成、抗酸化性成分の生成等に関わる反応であり、非常に重要とされている。日本人は茶色い食べ物を見ると安心するため、これを故意に利用して色を付けることもある。

アメリカザリガニの繁殖力はものすごい……日本に移入されたのは1927年、ウシガエルの餌用として鎌倉食用蛙養殖場に20匹持ち込まれた。その後、養殖池から逃げ出した個体が1960年頃には九州まで分布域を広げた。あまりの繁殖力に蛙養殖場から蛙が逃げ出す皮肉な結末。水草を切断したり、水生昆虫を捕食するなど陸水生態系に影響を与えるため、日本生態学会では侵略的外来種ワースト100に指定されている。

キュウリは日本では昔、人気がなかった……塩もみにするとおいしい野菜第一位。栄養がない野菜第一位。古くから食用の野菜として栽培されている。歯ごたえのある食感とすっきりとした味わいがあり、そして水分を多く含むことから暑い地方では水分補給用として珍重されてきた。紀元前4000年にはメソポタミアで盛んに栽培されていたのだから驚きだ。日本では1500年ほどの栽培の歴史を持つが、完熟した後のキュウリは苦味が強くなり、徳川光圀は「毒多くして能無し。植えるべからず。食べるべからず」と書いていることから、江戸時代末期までは人気がなかった。その後品種改良がされておいしくなった。完熟すると実が黄色くなるため「黄瓜」。「木瓜」の説もある。

右利きと左利きがある理由……まだちゃんとはわかっていないため仮説レベルだが、身体の左側にある心臓を守るため、左手で盾、右手で剣を持って戦っていたからという自然選択説や、遺伝によるものであるという説、種の自己防衛のためであるという説、突然変異説などがある。自然選択についてはかなり疑わしく、弓や両手剣を使い、盾を使わない文化圏でも左利きが出ることや、盾がまだない石器時代から左利きが少数であること、盾が廃れた近代になっても左利きが増えないことなどを説明できない。遺伝に関してはマウスを用いた実験で、胚の段階で「利き手に影響を及ぼす遺伝子を機能不全にする」という実験を行うと、臓器の位置が変になったり、左右のバランスが崩れたりしたという。突然変異に関しては、右利きと左利きでDNAや染色体に変化がないことは証明されている。全人類でいうと10％の人間が左利きであり、彼らはグラウンドの周回の向き、ハサミ、自販機の硬貨入れ口、パソコンのマウスの差込口、ロッカーの開け口、定規の目盛り(左から右)、食事の際の座席間の距離など、いろんな場面で不遇な目にあう。平均寿命が9年短いという報告もあるが、ちゃんとした統計はない。

犬の尻尾の役割は「感情表現」……丸めて寒さを感じないように寝る、バランスをとるほか、感情を表すのに用いられる。尻尾がない犬はある犬より2.5倍攻撃されやすくなるという実験結果も出ている。人間でいうと口がないようなものだろう。尻尾の位置が高いときは自信がある。水平のときは興味がある。位置が低いときは不安。足の間に巻き込むときは恐怖。力を抜いて大きく振っているときは喜んでいる。ただし毛が逆立っているときは怒っている。テンションの高さがそのまま尻尾の高さになっており何ともわかりやすい。犬が社会的な動物であり、人間と長らく共存してきた理由がよくわかる。

薄口醤油と濃口醤油の違い……色の濃さと塩分濃度によって分かれる。薄口は18～19％の塩分濃度、「色が薄い」という意味であり、塩分の濃さ薄さではない。煮ものやお吸い物に使われる。濃口は16％。卓上調味料、焼き物、タレに用いられる。製法も原料も全く同じだが、こいくちは1年～2年の発酵、うすくちは半年～1年半の熟成を経る。要するに期間が長いと発酵が進み、色が濃くなる。なぜ色が違う2種類がつくられたかというと、西日本の色が薄い料理で、料理に色をあまりつけたくなかったため。そのため関西では薄口、関東では濃口が使われる。

アイスクリームにはいくつも種類がある……成分の量によって、種類別アイスクリーム、種類別アイスミルク、種類別ラクトアイス、種類別氷菓の4つに分けられる。これらは食品衛生法によって厳密に区別される。乳固形分15.0％以上 うち乳脂肪分8.0％以上がアイスクリーム、濃厚なミルクの味わいを楽しめる。乳固形分10.0％以上 うち乳脂肪分3.0％以上がアイスミルク、乳脂肪分は少ないが、牛乳と同じくらいの乳成分。乳固形分3.0％以上がラクトアイス、植物油脂が使われることもある。果汁を凍らせたアイスキャンディーやかき氷は氷菓。

ゴーダチーズ……オランダ発祥のチーズ。世界中で愛されているが、マイルドな味わいは、日本人の嗜好にもっともあったチーズとも言われ、そのままおつまみや軽食、サンドイッチなど、幅広い料理に利用することができる。プロセスチーズの原料にもなる。伝統的なオランダ産のゴーダチーズは円盤型(直径35cm、高さ11cm、重さ12kg)で、通常、表皮は黄色のワックスなどでコーティングされる。ナイフを入れない限り急激には発酵が進まないので、特に包装はせず常温で積み上げてある。オランダに行ったらぜひ本場のを食べたいものである。

チェダーチーズ……イギリスのチェダー地方で生まれた堅いチーズ。世界中で最も生産物量の多いチーズであり、プロセスチーズの原料となる。温めたミルクに乳酸菌を加えた後にレンネット(凝乳酵素)を加えて、カゼイン(主な乳たんぱく質)が凝固したものからホエイ(乳清)を除去したものをカードという。チェダーの製法には、このカードの"堆積と反転"を繰り返す「チェダリング」と呼ばれる工程、チェダリングしたカードを数センチ角に切断する「ミリング」と呼ばれる工程、そしてミリングされたカードに直接食塩をふりかける「乾塩加塩」と呼ばれる工程があり、これがチェダーチーズの特徴となっている。鮮やかなオレンジ色の色素をつけることがある。

機内食にまつわる雑学……航空機内で支給される食事。機内の気圧は低く、味覚に影響が出る(味が薄く感じる)ので、わざと濃い味付けをしてある。万が一食中毒が起こった時に乗務員が全員発症して機内に混乱を招くという事態が起きないよう、客室乗務員の一部は乗客と異なる食事を摂る。また、特に操縦クルーについては、操縦不能という最悪の事態を防ぐため、機長と副操縦士は、機内食はもとより、地上での食事でも、それぞれ食材・調味料などが全く異なるものを食べる。

「我慢汁」とは何なのか……正式には「尿道球腺液」といい、男性の尿道球腺から分泌される、弱アルカリ性の粘性がある無臭無色透明な液体である。隠語で「我慢汁」といったり、「カウパー」と言ったりする。その役割として、弱酸性の状態にある男性の尿道内、及び、女性の膣内を中和する(精子は酸性に弱いため、射精までの間に、精子の移動経路上の器官を洗浄する必要がある)のと、性交時の陰茎と膣の粘膜同士の摩擦を低減することがあげられる。

ホウセンカは熟すと種が弾ける……果皮の内外の細胞の膨圧の差によって弾性の力を蓄積し、弾けて種を遠くに飛ばす。自然に弾ける寸前となった果実は指で触るなどの些細な刺激でも容易に弾ける。属名Impatiens(ラテン語で「我慢できない」の意)もこのことによる。

ちゃんぽんの名前の由来……長崎の名物料理。その名前の由来は、「異なるものを混ぜること」の語源として、鉦の音(ちゃん)と鼓の音(ぽん)という擬音としてつなげた近世の造語とする説、福建語の挨拶「吃飯」もしくは「吃飯了」(直訳するなら「飯は食ったか？」で、こんにちはみたいな意味)から来ているとの説、マレー語およびインドネシア語のcampur(チャンプル)、沖縄方言の「チャンプルー」、「ちゃんぽん」はともに「混ぜる、ごちゃ混ぜにする」という意味があり、そこらへんから来ているという説。明治時代中期、長崎市に現存する中華料理店「四海樓」の初代店主陳平順が、当時日本に訪れていた大勢の中国人(当時は清国人)留学生に、安くて栄養価の高い食事を食べさせる為に考案したとされる。

ソーセージの種類……ウインナーソーセージは太さ20mm未満で羊腸を使用したもの、フランクフルトソーセージは太さ20mm以上36mm未満で豚腸を使用したもの、ボロニアソーセージは太さ36mm以上で牛腸を使用したものとJASで定められている。サラミは水分含有量が35％以下、カルパスは35～55％のものと決められている。本当にどうでもいい知識。

イイダコの名前の由来……漢字では「飯蛸」。東アジアの浅海に生息する小型のタコであり、沿岸域では古代から食用として漁獲されている。名の由来は一説に、胴部(頭にみえる部位)にぎっしり詰まった卵胞が米飯のように見えるからだという。 または、その卵胞の食感が飯粒のようであるからだとも。ラッキョウで釣ることができるのは、2枚貝と勘違いして上に乗っかるからであり、何なら別に陶器の破片でもよい。

ゆで卵の黄身の周りの黒色をなくすには……卵の白身には硫黄を含んだアミノ酸であるシスチンやメチオニンが含まれる。加熱するとこれらのアミノ酸が分解し、硫黄は硫化水素になる。この硫化水素が卵黄にいって、卵黄の鉄分と反応して黒色の物質に変わるのだ。長時間高温でゆでるほど変色しやすく、また古い卵ほど硫化水素が発生しやすい。変色を防止するには、ゆでたらすぐに水で冷やして、硫化水素を殻の方に拡散させるとよい。

シベリヤ……羊羹(ようかん)または小豆の餡子(あんこ)をカステラで挟んだ日本の菓子。クソ甘い。トレーにカステラを敷いてから融けた状態で羊羹を流し込み、さらにその上にカステラを被せるので、カステラと具材が密着している。サンドイッチしているわけではない。ひんやりとした食感と涼しげな名前が好まれ、昭和初期には「子供達が食べたいお菓子No.1」であったと伝えられているが、発祥地から考案者、名称由来など、未だ正式な解明がなされていない。「風立ちぬ」に出てきたことで再度人気が高まっている。

ヤモリの足をいかしたテープがある……その名もヤモリテープ。バイオミメティクスの結晶の一つ。直径数ナノ～数十ナノメートルのカーボン・ナノチューブを１平方センチメートルあたり100億本の密度でびっしり並べたもの。せん断方向の接着力に優れ、わずか１平方センチメートル程度の面積のテープで500グラムを保持できる。それでいて、めくれば簡単に剥離できるし、接着剤も付着せず、何度も使える。電子顕微鏡でヤモリの指先を観察したところ、足の裏に細かな毛が１平方メートル当たり10万～100万本の密度で密生しており、さらに先端が100～1000本程度に分岐した構造を持つことが分かった。先端の分岐した毛の密度は、同10億本以上。これが原子や分子に働くファンデルワールス力で接着する。ポリイミド繊維で再現したところ凝集してしまい接着しなかった。先のほうだけ細かく分かれているのは、凝集を防ぐためだったのである。

キシャヤスデは汽車をスリップさせたことがある……ヤスデの一種にキシャヤスデがいる。周期的に大発生し、踏むと異臭(油臭い＋苦臭いらしい)を発する上、これらを轢き殺した汽車がその体液でスリップするという事故も起きた。臭液は主に危険を感じた際に敵への威嚇として体外へ放出されることが多い。外敵に襲われた際は、ムカデと異なり積極的に顎で咬むことは無く、身体を丸めて自己防衛する。これに限ったことではないが、ヤスデのほとんどの種は広意の土壌に生息して分解者の役割を担っており、森林中の落葉を食べ、糞は栄養分に富むため樹木の成長に影響を与えているとされる。いわばヤスデなしには森は成り立っていないので、見つけても踏み殺さないようにしよう。

蝗害……トノサマバッタなど相変異を起こす一部のバッタ類の大量発生による災害のこと。全ての草本類を短時間のうちに食べ尽くしてしまう。当然、被害地域の食糧生産はできなくなるため、住民の間に食糧不足や飢饉をもたらす事が多い。先進国では殺虫剤のおかげで過去のものとなったが、アフリカ諸国など国土が広大で組織的な駆虫が難しい地域では、現在も局地的に発生し大きな被害を出している。彼らは蝗害を起こす前に、普段の「孤独相」と呼ばれる体から、「群生相」と呼ばれる移動に適した体に変化する(相変異と呼ぶ)。この原因についてはよくわかっていない。一般に、広い草原や河原の砂地でたまたま高気温、高降水量となった時に大発生する。これは土地が湿って一時的な草場ができることで、バッタが集中的に発生して群生相が生まれるためである。大規模な移動を行うのは、一般的には食を求めてとする説が多いが、繁殖に関連する現象とする説もある。あるいは、天敵からの逃避が目的とする説もある。虫嫌いの筆者にとっては、生涯で絶対に出会いたくない光景である。覚悟が決まったら画像検索してみるとよい。

肺胞は広い……血液・ガス交換の場。肺の容積の85％を占め、成人の場合、その表面積の総計は70～80平方メートル。一辺が8.5～9mの正方形とだいたい同じなのだから、だいぶ広い。

ヘビ使いの蛇は何に反応しているか……蛇(主にインドコブラ)が入っているカゴやザルの前で笛を吹き、コブラを操るように見せる芸を行う人。コブラの動きは、笛の音で反応してのものではなく、蛇使いが足でカゴを叩く振動や目の前で笛の動きに反応しているものである。発祥のインドでは数十万人もの蛇使いが存在していたが、2000年代後半からインド当局が野生生物保護法の適用が厳格化しコブラの捕獲が事実上不可能となった。警察による摘発も進んだため、2010年代に入るとインド国内からは急速に姿を消している。数十万人が飯を食えなくなるということである。まさか履歴書の特技の欄に「蛇使い」と書くわけにもいかない。どうしよう。

人間に指紋があるように、ウシにも鼻紋がある……ウシ等の鼻鏡部分に生まれもって発現する筋状の紋様。人間の指紋同様、個体毎にその紋様はそれぞれ異なるため、個体識別に用いられる。遺伝的に同一とされる一卵性双生児及び体細胞クローン牛であっても、鼻紋は同一でない。狂牛病対策の一環として個体管理が重要視されているため、こうやって見分けられるのはいいことである。

カバはピンクの汗をかく……ピンクというより赤であるし、汗ではなく分泌液。これは身体を保護するために皮膚から放出される粘液であり、紫外線を遮断し、抗菌作用があることがわかった。よく縄張り争いをするオスの体が傷だらけになっていても、汚れた淡水中で感染症に罹ることなく生活できるという。カバには汗腺がないので汗ではないのだが…。

レミングの自殺にまつわる都市伝説……ツンドラ気候のところにすむネズミみたいなハムスターみたいな生き物。周期的な大発生と減少を繰り返す。食欲は旺盛で、毎日体重の約1.5倍ほどの餌を食べる。厳しい冬を通して冬眠はせず、雪に穴を掘って巣を作り、雪の下にある餌やあらかじめ貯えておいた草を食べて過ごす。かなり長い間「集団自殺をする」と考えられていた。スカンディナビアでは「集団で海に飛び込む」という伝説が古くから知られ、また16世紀頃までは「雲の中から自然発生する」とも考えられており、1555年のスウェーデンの文献に、「雲から生まれる」ことを示唆する木版画が描かれている。集団移住の際海に落ちることはあるが、これは自殺ではなく事故。この誤解が広まった一因として、1958年のウォルト・ディズニーによるドキュメンタリー映画『白い荒野』(原題『White Wilderness』)が挙げられる。このドキュメンタリーでは、レミングが崖から落ちるシーンや、溺れ死んだ大量のレミングのシーンがあるが、調査によって、意図的に崖へと追い詰め海へと飛び込ませたという事実が明らかになった。

世界で初めて宇宙に行ったのはサル……イヌ(ライカ犬)ではない。アルバート2世というお猿さん。世界で初めて宇宙に行った動物。1949年6月14日のことで、アメリカのV2ロケットにより宇宙に旅立った。彼には宇宙飛行が肉体に及ぼす影響を調べるためにセンサーが埋め込まれていたが、パラシュートの故障により地面に衝突し死亡。確かにいきなり人間を飛ばせないから動物を宇宙に飛ばすのはわからんでもないが、それは倫理的に正しいことなのか？と思う。

ビスケットとクッキーの違い……日本では、ビスケットとクッキー両方の名前が使われるが本来同じもの。ただ、糖分と脂肪分の合計が40％以上含まれていて、手作り風の外観をもつものをクッキーと呼んでもよいという決まりがあり、両者を区別して使う傾向がある。この決まりが出来たのが昭和46年で当時、日本では「クッキー」は「ビスケット」よりも高級品だと思われていた。安物の「ビスケット」を「クッキー」というのは、消費者を誤認させる恐れがあるとしてこの決まりを作った。アメリカでは日本のビスケットやクッキーは全てクッキーと呼び、イギリスにはクッキーという言葉自体がないため全部ビスケットと呼ぶ。国によってまちまちなのである。ちなみにサブレはフランス語で、「砂」という意味。サクッとした口当たりや、砂のようにホロホロとした口どけの良さからこの名前が付けられたとされている。

黄色や黒のアサガオは非常に珍しい……世界的に見ても、アサガオほど形態が多種多様に変化した園芸植物は他にない。江戸時代に作られたとされる「黄色の朝顔」と「黒色の朝顔」の再現が度々試みられているが、完璧な再現に至っておらず、「黄色の朝顔」は「黒色の朝顔」と並び「幻の朝顔」と呼ばれていた。しかし、2014年に黄色色素をもつ花の遺伝子を入れて黄色の朝顔を開花させた。ちなみにアサガオは漢字で「牽牛」といい、これは中華文化圏での名称でもあるが、朝顔の種が薬として非常に高価で珍重され、贈答された者は牛を引いて御礼をしたという話があるため。

フライドチキンは左脚がおいしい……ニワトリのほとんどが左利きであり、寝るときのみならず起きているときも左脚で立っているのを確認できる。そういうわけで左脚のほうが身が引き締まっていておいしいのだ。ただ、左脚か右脚かをその場で判断できるものなのだろうか。知っていても結局活用できない気がするが。

ヘビの尻尾と胴体はどうやって区別するか……ヘビといえば尻尾があるのかないのかわからない生物であるが、一応区分は「肛門より前の部分が胴体、後の部分が尻尾」となっているらしい。竜頭蛇尾の蛇尾はつまり肛門より後の部分なのだ。

ダイコンを煮ると透明になる理由……もともと真っ白だったダイコンが、煮物に入っていると次第に透明になってくる。これは、ダイコンの中に細かな粒があり、光が乱反射しているから白く見えるのに対し(つまり、原理としては雲や雪と同じ)、煮ると水がまんべんなく染み渡るため透けていくからである。ちょうど、曇りガラスにセロハンテープを貼ると、ガラスの凹凸をテープののりが埋めて向こうが見えるようになるのと同じだ。

バナナには種が「あった」……バナナに実は種があったことを現代人はほとんど知らない。今のバナナは突然変異によって生まれた種なしバナナであり、大変都合がよかったので大事に育てられた。昔のバナナはアズキ大のかたい種があり、ぎっしり詰まっていた。今のバナナも中央付近を切ってみると黒い粒があるが、これが種の名残である。今でも野生の種ありバナナを食べている地域はある(マレーシア、インドネシアなど)。ではどうやって繁殖するのかというと、茎の根っこの脇から生えてくる新芽を利用している。新芽から質の良いものを選んで大きな畑に移し替える。これを育てていくのである。

サボテンの語源……茎を太く、葉っぱを細くし、根っこを広くすることで、過酷な砂漠でも生き延びることに成功した植物。あの太いのが茎であり、針にしか見えないのが葉っぱ。これは水分の蒸散量を極力減らすための工夫であり、わずかな雨期にその数十メートルの根っこから水を蓄えて生き延びている(水がなくても生きられるというのは嘘であり、彼らは水を好む)。日本には16世紀後半に南蛮人によって持ち込まれたのが初めとされている。彼らが「ウチワサボテン」の茎の切り口で畳や衣服の汚れをふき取り、樹液をシャボン(石鹸)としてつかっていたため「石鹸のようなもの」という意味で「石鹸体(さぼんてい)」と呼ばれるようになったとする説が有力であり、1960年代までは「シャボテン」と表記する例もあった。

猿のお尻が赤い理由……日本人は「サルの尻が赤い」のは当たり前だと思っているが、尻が赤いサルというのは、ニホンザルの仲間だけだ。この赤さはサルが仲間を見分けるのに大事であり、派手な色のほうが便利だと考えられている。また、繁殖期にはもっと赤くなり、オスはメスを惹きつける。ボスザルの尻は他のサルより赤いため、強さのアピールにもなっている。尻と目は同じ高さにあるため、確かにお尻でアピールするのは合理的だ。ちなみにお尻が赤いのは血液のため。あの盛り上がりは尻ダコなのだが、尻ダコには色素がなく、血液がそのまま透けている。だから彼らが死ぬと青くなる。

ウイルスと細菌の違い……生物学的には全然違う。細菌は細胞を持ち、自己複製能力を持った比較的大きな単細胞生物(0.1～30マイクロメートル)である。ウイルスは20～300ナノメートルで、他の細胞内で自分を複製してしか生きることができない。すなわち、細胞に感染し続けることがウイルスが生きる必須条件となる。

ロイコクロリディウムの寄生サイクルはめんどくさすぎる……非常に珍しくめんどくさい循環で生きる寄生虫がいる。それがロイコクロリディウムだ。カタツムリの触角に寄生してイモムシのように擬態し、だまされた鳥がこれを捕食し、鳥の腸で消化物を食べて生き延び、鳥の体内で卵を産み、鳥の糞と共に卵が排出され、その糞をカタツムリが食べて再びカタツムリに侵入する。一般に寄生虫というのは、中間宿主にこっそり隠れており、最終宿主がこれを気付かず食べることが多い。しかしロイコクロリディウムは最終宿主に食べられるよう、積極的に中間宿主を餌に似せるところに特徴がある。一般のカタツムリは鳥に食べられるのを防ぐために暗い場所を好むが、この寄生虫に感染したカタツムリは、おそらく視界が遮られることが影響して、明るいところを好むようになる。擬態中の画像は非常にグロテスクなので見ないほうがよい。

アニサキスに関するデマに注意……サケ、サバ、アジ、イカ、タラなどの魚介類にとりつき、人間にアニサキス症を発症させるにっくき寄生虫「アニサキス」。その症状は、食後数時間のうちに始まる激しい腹痛と嘔吐。嘔吐に際しての吐瀉物は胃液のみで、下痢も一切認められないことが一般的な食中毒と異なる特徴でもある。これはアニサキスの虫体が寄生のために胃壁や腸壁を食い破ろうとするために生ずる症状である。魚介類を生食するのはまず控えるようにし、食べるならば60℃で1分以上の熱処理、またはマイナス20℃以下で24時間以上の冷凍をするのがよい。よく噛めばいいとかワサビ、ショウガをつければいいとも言われているが効果がないので注意。

クモの糸についての雑学……芥川の…ではなく、クモの糸について解説する。クモの糸は縦糸横糸があり、縦糸はサラサラ、横糸はベタベタしている。縦糸はクモが移動するのに使われ、横糸は獲物がひっかかるために使われる。クモは自分が縦糸を移動していることを知っており、横糸は踏まないように気を付けている。もし横糸を踏んでしまっても、クモの足には油がついており、自分で引っかからないようになっている。すごいよクモさん。カンダタが登ったのは横糸ということになる。

カタツムリの低温生存力はものすごい……カタツムリは非常に低温に強い。マイナス120度まで温度を下げると凍ってしまうのだが、解凍したらまた動き出したという研究があるらしい。ちなみにナメクジはカタツムリが進化して殻をとった姿であり、実はナメクジのほうが進化している。カタツムリはマイマイ類、陸生の巻貝で、ナメクジはナメクジ科に属するから、遠い親戚だと言える。

サケは白身魚？……赤身魚、白身魚の定義は「身が赤いか白いか」ではない。筋肉に酸素を供給するため、赤身魚にはミオグロビンという物質がある。これがあるかないかなのだ。サケの赤身はミオグロビンではなく、エサの甲殻類の外殻に由来する。

サラダ味せんべいの「サラダ」とは何なのか……塩味なのにサラダ味、どこがサラダなんだ！と思って亀井製菓にクレームをつけようとした方、ちょっと待ってほしい。実はサラダ味というのは塩味のことであり、サラダは「揚げるさいにサラダ油を使っている」ことに由来するのである。紛らわしいからやっぱりクレームをつけてきてもよい。

呼び塩をする理由……呼び塩とは、塩物などの塩分を抜くために、真水でなく、塩を少し加えた水(1.5％)につけること。おせち料理のカズノコはこれをしないとしょっぱくて食えたもんじゃない。苦みの成分である塩化マグネシウムは、塩化ナトリウムよりはるかに溶けだすのが遅く、真水に浸してしまうと塩化マグネシウムが溶けだす前に塩化ナトリウムが全部抜けておいしくなくなる。そこで塩水につけることで、ゆっくり苦味が溶けるようにしているのである。ここにも浸透の化学が用いられている。

フラミンゴのピンク色は人工的につけたもの……えさとする藻類やエビに含まれる「カンタキサンチン」や「ベータカロテン」という色素によるもの。すなわち天然モノのフラミンゴはみなピンク色だ。動物園のフラミンゴがピンクなのはわざと。餌に色素を混ぜている。これは美しさのためだけではなく、ピンクでないフラミンゴは繁殖期に相手を見つけにくいと言われているから。

フラミンゴの展示室に屋根がない理由……フラミンゴは25mの助走がないと飛び立つことができない。よって、そんなにスペースがない所では屋根を設けなくても、逃げていく心配はないのだ。

アスパラガスの成長は早すぎる……メチャクチャ早い。ピーク時には1日10cm以上伸びるため、朝収穫して夕方にはもういちど収穫できるほどである。買ってきた後でもまだ成長しようとするので、買ってきた後は立てて保存しよう。というのも寝かせてしまうと、アスパラガスは上に向かって成長しようとして、その結果穂先が曲がっておいしくなくなるからだ。栄養がそっちに行ってしまう。

トウモロコシの実の数は必ず偶数……トウモロコシは、茎の頂にあるススキの穂のようなものが雄花。その一方で茎の途中にできる糸状のものが雌花。トウモロコシの先のほうに何本もの糸がついているが、実はこれら一本一本が雌花なのだ。茎の頂にある雄花から花粉が落ちると、それを茎の途中にある雌花が受けとめる形で受粉が行われる。雌花のかたちをよく見ると、先端が「Y」の字のように、ふたつに分かれている。つまりトウモロコシの雌花は、二つで一組となっているわけだ。このため、種も二つで一組でき、トウモロコシの実の数も偶数になるのである。

海外で食べ放題を「バイキング」と言っても通じない……スモーガスボードと言う必要がある。smorgasはオープンサンドイッチ、bordは机という意味。様々な料理を一つのテーブルに並べてビュッフェ形式で提供するスウェーデン起源のスカンジナヴィア料理。日本語で言う「バイキング」であり、アメリカではAll you can eatやbuffet、欧州ではsmorgasbordと呼ばれる。どうしてバイキングなのかというと、日本に最初にできた食べ放題の店が「バイキング」だったから。つまりバイキングと海外で言っても絶対に通じないので、注意する必要がある。

日本人だけがノリを消化できる？……日本人の腸が海草に含まれる多糖類を分解できるのは、分解酵素を作る遺伝子を腸内に住む細菌が海洋性の微生物から取り込んでいるためだ…とする論文が、2010年4月8日のNatureに発表された。このバクテリアはこれまで、日本人の排泄物からしか見つかっていない。記録によると日本人は8世紀にはすでにノリを食べていたが、研究者らは、かつて日本人はノリを焼かずに食べていたため、海草に住んでいたバクテリアからこの遺伝子を取り込んだものと考えている。外国人も焼けばノリを食べられる。向こうの人いわく「黒い紙を食うなんて…」という感覚らしい。

ワスレナグサは何を忘れないのか……春に咲き、薄青(紫)色・鮮青(紫)色の青い5枚の花弁をつけるけなげな花。中世ドイツの悲恋伝説に登場する主人公の言葉に因む。昔、騎士ルドルフは、ドナウ川の岸辺に咲くこの花を、恋人ベルタのために摘もうと岸を降りたが、誤って川の流れに飲まれてしまう。ルドルフは最後の力を尽くして花を岸に投げ、”Vergiss-mein-nicht!”(僕を忘れないで)という言葉を残して死んだ。残されたベルタはルドルフの墓にその花を供え、彼の最期の言葉を花の名にした。この伝説から、この花の名前は当地ドイツで Vergissmeinnicht と呼ばれ、英名もその直訳の forget-me-not である。日本では「勿忘草」「忘れな草」と訳された。感動のシーンらしいが、どうもルドルフがアホなだけな気がする。

大きなイカがアンモニア臭いのはなぜか……ダイオウイカを釣りあげたらだいたいニュースになる。日本での最も大きい報告例は6.5m。海外では18m。しかしもう一つ、「食べてみたがまずかった」というコメントがあるのもお約束。これは、ダイオウイカのような大きいイカが海水より軽いアンモニアを浮力に使うため、身体中の塩分を塩化ナトリウムじゃなくて塩化アンモニウムにしているから。こうでもしないと沈んでしまうらしい。苦い、エグい、しょっぱいなどその感想は散々であり、まさに「独活の大木」だろう。釣りあげた後生ダコのように塩でぬめりをとってから、薄めた日本酒に一晩つけたら匂いがなくなるらしい。

ピーナッツバターとジェリーのサンドイッチ……PB&Jサンドイッチ。主にアメリカ合衆国、カナダなどアングロアメリカの子供達の間で食べられるポピュラーなおやつ、あるいは軽食。二枚の食パンのそれぞれの片面にピーナッツバターおよびジェリー(固形物を濾して取り除いたジャム)を塗り、それらの面を合わせてサンドイッチにして食べる。2002年の統計によると、平均的なアメリカ人は高校を卒業するまでに一人当たり1500個のPB&Jサンドイッチを食べる。めっちゃ甘そう。

シールドトンネルはフナクイムシから着想を得た……シールドトンネルとは、シールド工法によって掘削されたトンネルである。「シールド」と呼ばれる筒で切羽(きりは)後方のトンネル壁面を一時的に支え、切羽を掘削しながら逐次シールドを前進させるとともに、シールドの後方に壁面を構築する。現代では高度に機械化されたシールドマシンを使い、壁面は分割されたブロック(「セグメント」)を組み上げて構築する。フナクイムシが水中の木を掘っていくとき、その周りに石灰質をすりつけながら掘っていた(そうやって穴を固めないと木が膨張して穴が塞がってしまう)ことからこの工法が生まれたらしい。バイオミメティクスの一つである。

まな板は熱湯で洗ってはいけない……汚物は消毒だー！と叫びながら熱湯でまな板を消毒している主婦の方々、ちょっと聞いてほしい。豚肉や魚を切った後のまな板にはタンパク質が付着している。まな板には包丁の切りあとで細い傷が無数についている。そんな状態で熱湯をかけると、タンパク質がかたまり、細い傷の仲間で熱湯が入っていかなくなる。結局細菌が繁殖してしまうのだ。使う前には水をかけ、使った後はすぐに水洗いして、直射日光が当たらない場所で自然乾燥する。反りや割れが発生するので食器乾燥機にはかけないほうがいい。

ワサビの辛味成分は何か……わさびの辛味成分は、わさびの細胞内にブドウ糖とからし油が結合した配糖体であるシニグリンという形で入っている。シニグリンは根茎のままの状態では辛くないのだが、すりおろすことにより組織の中に存在するミロシナーゼという酵素が働いて、加水分解をおこしてアリルからし油が生成され辛くなる。これは揮発性のため、鼻にツーンとくる強烈な辛味を持つ。つまりおろしたてが一番辛いのだ。回転寿司でも、長く回っているネタをとると全然辛くないことがある。

クロワッサンの起源に関するデマ……三日月型のパン、クロワッサン。フランス語で「三日月」という意味。1683年にトルコ軍の包囲を打ち破ったウィーンで、(早起きのおかげでトルコ軍の強襲に気づいたパン屋さんの功績をたたえ)トルコの国旗の三日月になぞらえたパン、クロワッサンを焼き上げたという伝承があるが、これは事実に反する。20世紀初頭のフランスの料理本にクロワッサンの調理法が現れたが、それ以前のレシピは一切発見されていないという。

関東と関西の味付けの違い……一般に、関西より関東のほうが濃い。というのも、関東では太平洋沖でとれるマグロやカツオなどの脂がのる反面臭みが強い魚がとれ、関西は瀬戸内海のタイやハマチなどのあっさりした魚がとれ、関東では臭いをとるため、関西ではあっさりした味にあわせるため味が決まっていったらしい。

切り身なのに刺身という理由……別に何を刺しているわけでもないのに刺身と呼ばれるのは、何の魚かを示すため、その魚の尾ビレを切り身に刺して提供したからといわれている。他にも、武士が「切る」という言葉を嫌ったからという説もある。

ワイングラスの持ち手が長い理由……ワインの適温は、赤ワインで14～18℃、白ワインで10℃といわれている。ところがグラスが短いと、手の温度がグラスを通ってワインに行き、ぬるくなってしまう。そのため長くしているのである。ワインはやはりあの持ち手の長いグラスに限る。ちなみに、赤ワインのほうがグラスが大きいのは、空気に触れる面積が大きいほど、香りがよく立つから。白いほうは表面積が小さい方がいいという。

ブルドッグの名前の由来……イギリスでbullbaiting(牛いじめ)の見せ物としてブルドッグが使われていたからブルドッグとなった。1835年にイギリスで動物虐待法が成立し、牛いじめを含めたブラッド・スポーツが禁止されると番犬や愛玩犬になった。闘争に必要だった獰猛な性格も取り去られ、現在では強面とは裏腹に、温厚且つおとなしい性格になっている。闘牛に使われた当時の絵に出てくるブルドッグは、少し筋肉質で、体格も少し強そうな普通の犬。今のような形になったのは、1800年代後半から大きく人間による選択が始まったからである。遺伝子を選択して性格までも変えてしまう人間、それは果たして許されるべき行為なのだろうか？

湯豆腐の底に昆布を敷く理由……ダシをとるため、対流の熱で豆腐を直接温めないようにするため。

乳酸は疲労の元ではない……今まで長らくの間、運動してつくられる乳酸が疲労物質だと考えられてきた。イギリスのノーベル賞受賞学者アーチボルドビビアン・ヒルが1929年に発表した論文において、 運動によって体内に乳酸が作られ、それが蓄積することにより疲労につながるという理論を発表した。これが誤解の原因である。しかし、ラットに乳酸を投与して運動させたところ、その運動の激しさに違いはなかったため、疲労物質ではないことがわかった。だが運動をして乳酸ができるのは確かにそうだ。増加した乳酸は身体のエネルギーとして利用される。

鼻をかんでも水分不足にならない？……鼻水は鼻の中で分泌される粘液である。鼻から吸った空気に適度な湿り気を与えたり、気道の粘膜を病原菌から保護するために常に分泌されている。しかし、風邪をひいた、花粉症にかかった場合などには、鼻や喉に付着した病原菌や花粉を殺菌し洗い流すために大量の鼻水が分泌され、鼻からあふれ出ることになる。このとき鼻をかみすぎて水分が足りなくなるような気がするが、いくら多くても鼻水の一度の分泌量は100mL、人間は一日に尿として1.5L、肌からの蒸散で１Lの水分を失っており、全体に対する割合があまりに小さいので、水分が不足することはない。いっぱいかもう。

水ぶくれの水……やけどによって水ぶくれができるとそれをつぶしたくなるのが人間である。だが実は潰さない方がよい。あの中の水はリンパ液などで、患部を保護し治りを早めようとする役割があるからだ。無理につぶすと細菌が入り、症状が悪化するおそれもある。

寒いと尿意が増すのは……冬は汗をかかないので、その分の余計な水分が尿になって出てくるため量が増えるから。他にも、寒さで膀胱の筋肉が縮み、脳に尿意の合図が送られるからというのもある。我慢してはいけない。

米の保存方法……野菜室や床下、台所のシンクの下にしている人も多いだろうが、絶対にやってはいけない。米は「高温」「多湿」「酸化」が厳禁だからである。つまり、気温が高く、湿っていて、直射日光の当たる場所は絶対に避けなければならない。ずばり冷蔵庫なら最適。冷蔵庫内は常に15度以下に保たれているし、直射日光も当たらない。といっても10kgの米を入れると他のものが入らなくなるので、涼しく乾いた場所に保管するようにする。買ったままの状態で保管してはいけない。米が入っている袋はほとんどビニールであり、そのまま使っていると酸化したりカビが生えたりする。

小籠包や焼売の下のキャベツ……彩るためだけではない。実はもっと実用的な理由があった。セイロに皮がひっつかないようにするためである。このキャベツを食べる人はどれだけいるのだろうか。

出前寿司のシャリは固い……出前寿司をとったことがあるだろうか。最近は寿司屋自体がなくなっているが、きっと昔の子供たちにとっては、年に2回くらいのごちそうだった。ちょうど現代っ子がピザを頼んで喜ぶようなものだ。そんな寿司のシャリだが、店で出るものより固めに作られている。配達の際に崩れてしまわないようにするためだ。

店の冷凍食品が溶けない理由……よく考えれば不思議である。アイスなどは売り場のケースに蓋があり、蓋を開けてとる方式だが、お弁当にいれる冷凍食品は蓋もない。どうして溶けないのだろう。これは、ケースの手前側から冷気のカーテンが出ており、常に内部をマイナス22度に保っているからである。確かにいちいち蓋を開けて取り出すのは面倒だ。よく考えられている。

海賊版CD/DVDを探知する犬がいる……著作権など製作者である法人の権利を無視する違法な海賊版DVDが映画やソフトウェアの産業に与える損失は莫大であり、またその収益が犯罪組織に流れる点も深刻な問題である。アメリカ映画業協会は、海賊版DVD撲滅対策の一環として嗅覚に優れた犬を空港に配備し流通を阻止する策を立案した。光ディスクの基盤材料である合成樹脂の一種ポリカーボネートに含まれる化学物質が発する臭いをかぎ分けて判定する。最初の探知犬「Lucky」と「Flo」は一時間のあいだに30万枚を嗅ぎ分ける成果を成し遂げ、人気になった。収入の激減を恐れた犯罪組織は、この二匹の抹殺に懸賞金をかけたり、炭を塗ったりして嗅覚をごまかす手段を模索したりした。マレーシアでその後続となった犬はしかし何者かによって虐待され死んでいるのが見つかった。国内取引・消費者省の高官は、海賊版製造販売シンジケートの関与を示唆するコメントを出している。闇はまだまだ深い。

イボイノシシ……アフリカの草原、森林にすむイノシシの一種。日本のイノシシよりはやや小さい。基本的には草食動物。地面に生えた植物の葉や、根を掘り起こして食べるほか、昆虫や小動物、時には腐肉を食べることもある。餌を食べるときは前足を曲げて、ひざまずくような独特の姿勢をとることが知られている。映画「ライオン・キング」のプンバァのモデルとなっている。なおYouTubeに「ライオンに襲われ鳴き叫ぶイボイノシシがなぶり殺しにされる」という動画がupされている。

ウサギを帽子から出すマジックのタネ……聞いてがっかりトリック第1位。以下、重要なネタバレになりますので、見たくない方は消してください。マジシャンがいる机の、マジシャンからみて手前(客から見て奥)のテーブルのところに黒い袋があり、そこにウサギが入っている。ウサギは暗闇の中で動けなくなってしまう生物学的特徴があり、それを利用している。しかしやはり、ウサギを袋から取り出し、まるで帽子から出てきたように見せる演出の巧さはまねできるものではない。

サルテサーキット……ルマン24時間レースが行われる会場。2/3の区間は普段は地方道として使われている一般公道を閉鎖して走行する。当初は極めて緩やかな高速コーナーと超ロングストレート(ユノディエール、全長6km、アクセル全開区間1分)を2つ含む単純なレイアウトであったが、高速化するレースカーに対する安全性の向上や死亡事故への対策として、コーナーの追加や道幅の拡張などが行われてきた。ユノディエールのそれぞれ3分の1、3分の2区間にシケインが設けられたため、往年のサルテのように最高速度405kmをマークすることは不可能に。

ニュルブルクリンク北コース……1927年に豊かな森の中にある古城ニュルブルク城を囲むように建設されたクラシックコース。全長20km。山間部の高低差を利用した変化に富むコースレイアウトに加えて、にわか雨や濃霧など天候の変化という要素もあり、世界有数のドライバーズサーキットとして知られる。コース全体で約300mの高低差がある。その特徴として、1,超高速から超低速まで多種多様なコーナーがある。2,コーナーの数が172もある。3,コーナーの多くがブラインドコーナーとなっている。4,バンクが付いているすり鉢状のヘアピンがある。5,ウイングによるダウンフォースがない車両だとジャンプする箇所がある。6,路面が波打ち、ほこりっぽく滑る…などが挙げられる。まさに世界一過酷なコースであるが、それゆえにクルマの性能が忠実にその走りに反映されるため、著名な自動車メーカーのほとんどはここでテスト走行を行っている。ドライバーはまず20km、172のコースの曲がり方から何からを全て覚えなければならない。PS2のゲーム「グランツーリスモ４」に収録されたが、シミュレーションゲームとしてリアルコースとのタイムの差が忠実に現れるという現実を乗り越えた開発者の自信と、その長大なコースを丸々収録できるメモリの大きさの進化とが垣間見える。かつてR-34もここで開発を行っていたが、180km超アクセル全開でブラインドコーナーに入るとか、230kmでサスが底突きするみたいな「ニュル特有」の現象に遭遇。BMWやベンツ、オペルなどと共に開発を行い、R-34の最終バージョンにNurの名前をつけることができた。

車のナンバーに使われないひらがな……車の持ち主を特定するために必要なナンバープレート。ひらがながあるのだが、「お・し・ん・へ」はそこにはない。「お」は「あ」と間違うため、「し」は死を連想させ縁起が悪いから、「へ」は屁を連想するから、「ん」は発音しにくいから、という理由。し、ん、へはまだわかるが、「お」が間違いやすいというのなら「ぬ」と「め」と「ね」は使っていいのだろうか。

ジャンボジェット機はめちゃくちゃ密度が小さい……ボーイング747は別名「ジャンボジェット機」の愛称で知られる。747-8であればその全長は76.4ｍ、全幅は68.5ｍ、全高19.5m、最大離陸重量は440t。こんな鉄の塊が空を飛ぶのが信じられない気もするが、実際に縮尺で求めてみる。747－8を200分の1縮尺にしてみると、全長38.2cm、全幅34.25cm、全高9.75cm、最大離陸重量55gとなる。55gといえば卵1個分くらいの重さ。これってめちゃくちゃ軽いのである。実は飛行機は金属の塊ではあるが、鉄の塊ではない。できるだけ軽くなるように金属を工夫したり空洞を増やしたりしているのだ。ちょうど、アルミでできた傘を想像してほしい。それと同じなのである。

F1のタイヤはなぜツルツルしているか……F1では、スリックタイヤと呼ばれるタイヤを使っている。舗装路面を走行するために使用される車両用のタイヤで、日本においては、道路運送車両法にて溝のないタイヤ(1.6mm以下)は公道で使用することができないため、純粋に競技用として用いられる。仕組みはガムテープににており、路面との摩擦による発熱でタイヤ表面を溶かして路面に粘着してグリップを得ることを主目的としている。そのため走るごとに道路の小石やゴミが付着していく。公道程度のアスファルトだとたぶん剥がれてしまう。当然摩擦が得られないと充分なグリップが得られないため、雨の日の使用は非常に危険。F1でも雨が降ってきたらすぐにピットインし、溝のあるタイヤにかえている。日本では流通自体が制限され、一般人はまず手に入れられない。なぜ溝がないのかというと、雨が降ることを想定せず、いかに表面積を稼ぐかを考えているから。異常なほどのGがかかるため、表面積が大きいほどスリップしにくくなる。極端に柔らかいため耐久力は低い。

LED信号機の利点……まず、白熱球と比べて熱が発生しないため、効率がよい。寿命も長く、電球は一年に一回変えるだけでよい。また、たくさんの小さなLEDが集まってできているため、一つ二つきれたところで問題がない。そして、以前の白熱球では、夕方などに視認性が悪くなることがあった(どれが点灯しているのか見にくかった)が、LEDは見やすい。しかし雪国で未だに白熱球が使われているのは、意外にもLEDの一番最初の利点、「熱が発生しない」が雪国では逆に短所になりうるからである。白熱球だとその熱で雪を溶かせるので、雪で信号が見えなくなることには至らない。

タイヤが黒い理由……炭素の粉「カーボンブラック」を混ぜているから。噛む前のガムを机に擦り付けても全然のびることなくボロボロになってしまう。それと同じように、ゴムだけでは強度が不足して、崩れてしまう。カーボンブラックをゴムに混ぜて化合させると、ゴムの強度が飛躍的にアップすることが1912年にわかったため、それ以来、耐久性や耐摩耗性を必要とするゴム製品に使用されるようになった。これを超えるものが見つかっていないため、今でもタイヤは黒いのである。もともとはゴムは白かったのだが、白いタイヤというものを想像することができないので、なかなか面白い。もしかしたら、カーボンブラック以上のものができても、タイヤはずっと黒いままかもしれない。

歌う電車がある……ドイツ・シーメンス製のGTO-VVVF制御装置を搭載した電車の通称。電車の加速音・減速が音階に聞こえることから、この愛称が付いた。制御装置そのものを指して「ドレミファインバーター」とも呼ばれる。京急新1000型、京急2000型に採用されているが、これらは次第に数が少なくなってきている模様。

鉄道が登山するために必要な「歯車」……登山鉄道によく用いられるのが「アプト式」という方式。2本のレールの中央に歯型のレールを敷設し、車両の床下に設置された歯車とかみ合わせることで急勾配を登り下りするための推進力と制動力の補助とする鉄道。すなわち歯車を推進力にする珍しい方式なのである。スイスでは広く用いられるほか、日本でも碓氷峠(うすいとうげ、群馬と長野の県境にある峠)に敷設する際にこれが用いられ、日本唯一のアプト式鉄道である。

リムジンの運転は……実は普通免許で可能である。ただ普通に運転できるかどうかといえば話は別。異様にリアが長いため、大型車なみの内輪差を生み出す。1回の左折ではなく3回の右折を選ぶ場面もある。このほか、戦車の免許は自衛隊基地内の教習所でとることができる。大型免許の欄「カタピラに限る」(AT限定ならぬカタピラ車限定)と書かれ交付される。

車の給油口の場所は車内から確認できる……どっちが給油口なのかわからない場合は、スピードメーターの下の給油機の横についている三角マークの向き(尖ってるほうが向き)を見てみるといい。右向きなら右にあり、左向きなら左にある。

カンボジア大虐殺……ポルポト率いる「クメール・ルージュ」にカンボジア(当時の名前は民主カンボジア)が支配されていた頃、1975年ごろ起こった大虐殺事件。ポルポト政権になる前、時はベトナム戦争真っ只中。当時この国のトップだったシヌアークは、フランスからこの国を独立させてカンボジアにし、カンボジア王国を立ち上げた。この国は社会主義だったためアメリカは快く思わず、アメリカと手を組んだ首相がクーデターを起こし政権を奪ってしまう。こうしてクメール共和国となった。でもさらに数年後、アメリカがベトナム戦争に負けてしまったのを皮切りに、バックのなくなった新政権はすぐに崩壊。そのころに国民に応援されていたのがクメール・ルージュ。ポルポトが新しい政権を握ることとなった。彼はすぐに医者、教師、技術者、学生を「国の再興を手伝ってほしい」という理由で呼び寄せ、虐殺。彼の思想は「原始共産主義社会」すなわち全てを原始に戻そうとする。反対する知識人からまず殺したのだ。本が読めるもの、腕時計をしているもの、メガネをかけているもの、英語を話したもの、政府の悪口を言ったもの、とその粛清の対象はだんだん広がっていった。そして13歳以下の、「悪い」思想に染まっていない子どもたちを社会の重要なポジションにつけた。医者にならされた子どもは消毒の方法さえわからない。スパイとして容疑がかかった子どもは自分の罪が何であるかもわからず、ただ自白したとだけ認められて処刑される。そういう惨状が4年間続いたあと、ポルポトがベトナム領内を攻めて住民を虐殺したのをきっかけに、カンジアから亡命してきた人々がカンプチア救国民族統一戦線を作り、ベトナム軍と一緒にカンボジアに攻め込んだ。子供兵士はあっさりやられてしまって、1979年に首都プノンペンが陥落。今の人口ピラミッドを見れば、その粛清の激しさがわかるはず。処刑されたのは数百万人と言われている。

シベリア超速報の謎の暗号……シベリア超速報という板の「ニュー廃墟で浅間町大好き」というスレに貼られる謎のメッセージ群。例を挙げると「東00号：ンンベッべー？横00号：ベッべべー？新横00号：ピーィッ、イッ、イッ、イー？臨時号：単体、隣地？臨時号：ハイノー、コラをコラを帰せ？」このような意味不明な羅列によりスレは埋め尽くされている。同一人物の犯行と思われるが、以前VIP民が突撃したときにも、彼らの応答には一切答えず変な書き込みを繰り返していた。スクリプト説もあるが、誰が何のために作ったのかわからず、却って不気味。2020年11月現在も書き込みを続けており、中にはネットミーム(唐澤貴洋関係)が連なっていたりする。「ニュー廃墟で浅間町大好き28」というスレでは、彼が荒らしに対してちゃんとした日本語で(ネットミームに「香具師」があったりものすごく古いが)答えているのが見えるため、人間がやってるのは間違いない。このスレでは彼？なりに正解を開示している。「おはよう!意味不明な書き込みの意味とは、暗号だと思えば良いよ」とあるのだ。自分が他人から見て意味不明の暗号を綴っていることを理解しているわけで、統合失調症のような症状とは明確に違っている(自分でネタバラシするところを見ると、相当に怒っていると思われる)。荒らしにも夜はちゃんと「おやすみ」と言っているのも可愛いし、時事ネタ(新型コロナウイルス)のネタで荒らしに構っていたりすると、なんか、怖くなくなってきたな。こういったタイプの芸術作品をつくる普通の人、なのかもしれない。

きさらぎ駅……2ch発祥の都市伝説。オカルト板『身のまわりで変なことが起こったら実況するスレ26』に、2004年1月8日23時過ぎに、『はすみ(葉純) 』と名乗る女性によって書き込まれた「気のせいかも知れませんがよろしいですか?」という相談が全ての始まり。静岡の某私鉄で帰宅していたところ、実際に存在しない「きさらぎ駅」という駅に停車していた。そこで彼女は降りてしまったのだが、周りには建物がなく、草原と山しか見当たらなかったという。また、タクシーも公衆電話も見当たらず、遠くでは太鼓と笛の音が聞こえ、線路を歩いて帰ることにしたのだが、その途中でおじさんに出会う。車に乗せてもらったのだが、変な山に向かっていることがわかり、また彼も意味不明な独り言をつぶやいていたため降りることを決心し、話は終わる。これが本当かどうかはともかく、数多くの類似エピソードを作り出し、その後継たる話もたくさん生まれたため、都市伝説の生みの親になったのは間違いない。

世にも奇妙な言語、ピダハン語……アマゾン川流域に住むピダハン族(約400人)が使う言語。ポルトガル人と300年ほど前にしゃべったのみで、村のほとんどの人はモノリンガル。現在知られる中では最も少ない音素体系の言語の一つ(10~12)であり、再帰的な文が作れない(太郎が家をつくったと花子が言ったと田中が言ったと私は言った、のような入れ子状の文)こと、口笛や鼻歌でも伝わること、性差で区別する語がないこと、1と2以外の数詞が全部区別されないこと(のちに学校が生まれ数の概念が伝わった結果、区別が生まれた)、複数と単数の違いがないこと、色そのものを表す語がない(「赤」はないが、「血のような」はある)こと、ありがとうごめんなさいに当たる語がなく、行動で示すこと、目に見えない名詞が存在しないこと、左手、右手に当たる言葉がないこと(方向を指示する場合には川を使う)、andやorに当たる語がないことなど、その珍しさは世界でもトップクラス。特に音素数の少なさと再帰文が作れないことは世界中の言語学者を驚かせた。

ビッドスタート……めったに使われないスナイパー用語。「bid start=賭けを始める=狙撃開始」。攻殻機動隊にてサイトーが使っていたが、彼の銃にはサイレンサーがついておらず、かわりに時間を測ることで、彼女らが大時計の音を聴くタイミングに発砲音が重なるように計算していた。熟練のスナイパーは自分の心臓の鼓動や呼吸、風向き、コリオリ力、重力まで考慮に入れて狙撃を行う。その代わり捕虜にはなれず、見つかったらその場で処刑してよいことになっている。見えないところから狙撃するのだから、その分のバランスをとっているということだろうか。

ライ麦畑でつかまえて……DJサリンジャーの小説。高校を追い出された17歳の少年ホールデンがニューヨークの街をめぐる。社会の欺瞞に対し子どもの目線から鬱屈を投げかける内容が共感を呼び、古典として読まれている。「広いライ麦の畑があって、そこにはたくさんの子どもと、ほんの一人の僕という大人がいて、子どもが崖から転がり落ちそうになったら、その子を捕まえるんだ。一日中それをやればいいんだな。ライ麦畑のつかまえ役、そういったものに僕はなりたいんだよ」と語られるのがこの題名の由来。彼は結局世の中の全てが嫌いなので、のちに”I thought what I'd do was, I'd pretend I was one of those deaf-mutes.”と述べている。「僕は耳と目を閉じ口を噤んだ人間になろうとした」という意味。攻殻機動隊にて笑い男事件を起こしたアオイが授産施設で書き残したものには“or should I?”と付け加えられており、彼が聾唖になるか悩んでいたことがわかる。いずれこのセリフは彼によって否定されることになる。ちなみに少佐の冒頭のセリフ「世の中に不満があるなら自分を変えろ。それが嫌なら耳と目を閉じ、口をつぐんで孤独に暮らせ」は、決して「世の中は変わらないんだから自分が変われ」という積極的な意味ではない。ここだけ引用したら意味が変わってしまう。実際には少佐自身、この発言をした時にはいわば国家、公安の犬でしかなく、国家側の人間が言っていると知ればえらく暴論に聞こえる。彼女はこのセリフをのちに自ら否定し、笑い男のように世界を変える側に回っていくことになる。

フランスに伝わる迷信「犬のフン」……フランスの道端にはいっぱい犬のフンが落ちているらしい。そのため「左足で犬のフンを踏むといいことがある」という迷信がある。本当にそう信じているのかはわからないが、たまたま踏んづけてしまった日にこんなこと言われたら逆にいらっとしてしまいそうだ。

ピンクパンサーはもともと実写映画のおまけだった……1963年製作のアメリカのコメディ映画「ピンクの豹」から。クルーゾー警部が活躍する「ピンクパンサーシリーズ」の第一作目。こっちはあんまり有名ではなく、オープニングアニメに登場したピンクの豹がのちの「ピンクパンサー」になり、アニメとして成功した。渋い「ピンクパンサーのテーマ」も実はこれが元。ピンクパンサーは1964年4月11日生まれ(映画の公開日)で、宝石泥棒という設定だった。アニメに登場する鼻の高いオジサンがクルーゾー警部であり、だいたいはピンクパンサーのほうが一枚上手なので、いろいろ巻き込まれてしまう。別に登場する「アント＆アードバーク」だが、実はaardvarkはツチブタのことであり、アリクイ(anteater)とは違う種。話はずれるが、もしかすると「ジト目」をした最初の人(豹)かもしれない。これがのちに受け継がれ、かの一般アイス売りのアカギツネを生み出したとすれば、ピンクパンサーに感謝せねばならない。

世界で最も新しく生まれた言語は「ニカラグア手話」……ニカラグア手話というものがある。ニカラグアにおける聴覚障碍者たちの第一言語で、1970～80年代に生まれた。識字率の向上を目的として、最初の聾学校がニカラグアに誕生し、聴覚障害を持つ子どもたち400人が集められた。それまではせいぜい家族とコミュニケーションをとるための簡単な手話しかなかったのだが、彼らはそこで独自の手真似を使い、ピジン言語(疎通のため、簡略化された言語)を発達させていった。そして、その言語は代々受け継がれ、年長者より年少者のほうが明らかに文法が複雑であることがわかった。彼らは日常の中で言語を洗練させ、より抽象的で長いことを表現することができるようになっていたのだ。「人間が言語を生み出すための能力は、生まれつき備わっている」というチョムスキーらの意見を裏付けることとなった。そういうわけでニカラグア手話は、「歴史上初めて学者たちにより発生が確認された言語」でもある。

ギルガメッシュ叙事詩……古代メソポタミアの文学作品。1854年に発掘、大英博物館に持ち込まれ、1858年に解読が公式に認められた。ウルク第１王朝時代の実在の王ギルガメシュを主人公に、シュメール語で物語られていた伝承が、その後のメソポタミアのバビロニア、アッシリア、ヒッタイトなどの諸民族のことばに翻訳され、楔形文字で粘土板に書かれたものが残されている。人類最古の物語であり、メソポタミア文明を代表する文学であるが、特にこの中に『旧約聖書』の大洪水(ノアの箱船)の話の原型が含まれていることが判明し、キリスト教世界に衝撃を与えた。旧約聖書が世界最古でなく、しかも洪水の話が聖書より前の時代にあったのだから驚くのも当然だ。実際、時期は一致しないが、洪水によってできたと考えられる沖積世地層が発見されている。メソポタミア全体にないにしろ、局地的にかなり大きな洪水が襲ってきたのはたしかで、その記憶が伝承となったと言われている。

国民皆保険……制度の一つ。日本では1955年頃まで、農業や自営業者、零細企業従業員を中心に国民の約3分の1に当たる約3000万人が無保険者であり、社会問題となっていた。しかし、1958年に国民健康保険法が制定され、61年に全国の市町村で国民健康保険事業が始まり、「誰でも」「どこでも」「いつでも」保険医療を受けられる体制が確立した。今では保険証一枚あれば、どの医療機関でも診断が受けられるが、これを当然のように思ってはならない。アメリカのように民間保険が優位な国もあれば、そもそも保険がない国もある。しかし日本では、少子高齢化と長寿＝おめでたいの風潮のせいか医療費は年々蔓延し、もしかすると10年後には3割負担なんてなくなっているかもしれない。なおアメリカでオバマが実施したオバマ・ケアは、そもそも日本の皆保険制度とは違う。6人に1人が保険に入れず、自己破産の原因の半分以上が医療費が原因だったのを問題視し、低所得者に補助金を出し、保険に入らないと罰金を払わせる仕組みにした。これに猛反発するのが中流家庭の人たち。徹底した個人主義なので、「どうしてあいつらを俺たちが救ってやらなきゃならんのだ」と言っていた。

メアリー・スー……二次創作における用語の一つ。簡単に言えば、「ぼくのかんがえたさいきょうの〇〇」であり、1973年に出版された二次創作小説(「スタートレック」が元ネタ)に登場する完璧すぎるキャラクターに由来する。当時のファンが描いていた二次創作に登場しがちな、非現実的で俺私TUEEEEを具現化したようなオリジナルキャラクター(艦隊でも最年少かつ最優秀で、原作に登場するクルーらから尊敬や愛をよせられ、しかも驚くような能力を持ち、死ぬときは劇的に死んで全員が悲しみに包まれる)を皮肉った小説のため、作者自体は別に変ではない。

帰納法と演繹法……帰納法とは、特殊から一般化、演繹法とは、一般から特殊である。すなわち、「太郎君はおもちゃ持ってる、花子ちゃんも持ってる、次郎くんも持ってる、だから僕にもおもちゃ買って」が帰納法であり、「人は人と交流して生きて行く。メールは家にいながら人と交流するためのソフトだ。よってインターネットはすばらしい」が演繹法。帰納法は「経験的事実の集まりから共通点を見出す」というもの。演繹法で一番有名なのは三段論法だ。疑いようのない普遍的原理から論理的推論によって個別の事柄を導く。一見対立しているようだが、科学的な思考をするにはどちらも必要となる。

コックリさんは科学的にどうなのか……西洋の「テーブルターニング」に起源をもつ日本の占いの一つ「こっくりさん」。机に乗せた人の手がひとりでに動く現象は心霊現象だと古くから信じられていたが、科学的な見方では無意識的に身体が動いているだけだと見られている。日本では通常、狐の霊を呼び出す行為(降霊術)と信じられており、そのため狐狗狸さんといわれる。1884年に伊豆半島沖に漂着したアメリカ人の船員たちがテーブルターニングをやったのをきっかけに広まっていったとされる。当時の日本にはテーブルが普及していなかったので、代わりにお櫃(ひつ)を3本の竹で支える形のものを作って行なった。お櫃を用いた机が「こっくり、こっくりと傾く」様子から“こっくり”や“こっくりさん”と呼ぶようになり、やがて“こっくり”に「狐(きつね)」、「狗(いぬ)」、「狸(たぬき)」の文字を当て「狐狗狸」と書くようになったという。キツネの霊だったり低級霊だったり子どもの幽霊だったりいろいろあるが、この原理は「無意識的な身体の動き」であることが1800年代の科学者たちによって解明された。日本でも実験が行われており、小学生を対象とした検証を行った際、日本の首都や人気野球選手の背番号といった質問では十円玉が正答を指し示したが、簡単な英語での質問や過去のアメリカ大統領名など、本人達の知識を超えた問い掛けには紙の上を迷走するだけだった。また、十円玉の動きに先行して子供たちの目が動いていた。他にも、コインに指を置いたまま微妙に筋肉が動き続けるからだという説もある。

稲荷神とキツネの関係性……日本における神の一つが「稲荷神」。お稲荷さんと呼ばれることもある。神道系神社では朱い鳥居と、神使の白いキツネがシンボルとして広く知られ、廃仏毀釈が起こる前の仏教系寺院でも鳥居が建てられ、現存する寺院もある。現在の伏見稲荷大社に鎮座し、伏見稲荷大社から勧請されて全国の稲荷神社などで祀られる農業の神。狐は古来から日本人に崇拝されており、711年には早くも稲荷神が文献に登場する。宇迦之御魂神の別名に御饌津神(みけつのかみ)があるが、狐の古名は「けつ」で、そこから「みけつのかみ」に「三狐神」と当て字したのが発端と考えられ、やがて狐は稲荷神の使いになった。狐は食物を食い荒らすネズミを食べること、狐の色や尻尾の形が実った稲穂に似ていることから、農業の神の使いになったようだ。江戸時代に入って稲荷が商売の神と公認され、大衆の人気を集めるようになると、稲荷狐は稲荷神という誤解が一般に広がった。またこの頃から稲荷神社の数が急激に増え、流行神(はやりがみ)と呼ばれる時もあった。稲荷神社の前には狛犬の代わりに白狐が置かれている。ここにお供えするのは稲荷寿司に使う油揚げである。稲荷寿司の形が俵に似ていることから、稲荷寿司と名が付いた。そして、稲荷神の使いに油揚げ(稲荷)をお供えするようになった。

オクラホマミキサーの最後の部分には名前がある……あの最後のパートは「髭剃りとカット２５セント」、Shave and a Haircut, Two Bitsという名前がある。七音からなる単調な楽節で、たいていは音楽の最後に用いられ、喜劇的な効果をもたらす。ノックの「コンコココンコン、コンコン」と説明すればわかるだろうか。最初に登場したのは1899年であり、それからというものずーっとカートゥーンに用いられている。ベトナム戦争時代、隣の部屋の囚人がアメリカ兵か確かめるため、最初の五音を鳴らし、後続の二音を待ってから確かめていたとかいう都市伝説もある。

悪魔のトリル……タルティーニが作曲したヴァイオリンの曲。トリルとは、親音符と2度上の音の間を、震えるように細かく行き来する装飾音のこと。夢の中で悪魔が出てきてヴァイオリンを弾き、その美しさに目が覚めてからすぐ書き取ったという伝説があることから「悪魔のトリル」と呼ばれるようになった。難易度は現代の演奏技術をもっても困難なほどなのだが、彼曰く、「自分が書き起こしたそれと悪魔のそれは美しさが違い過ぎた(悪魔の曲には遠く及ばなかった)ので、絶望のあまりバイオリンを投げ捨て、音楽の道を絶とうと決意しようとしたくらいだった」と手記にある。夢現で聴く曲というのはどうしてああもキレイなのだろう。あれを書き起こせたら、たぶん一生食べるに困らないだろうに。と、全国の作曲家たちは思っていると思う。

賢者モードを英語でかっこよく言うと”La petite mort”……直訳で「小さな死」。英語版Wikipediaによれば、～is an expression which means "the brief loss or weakening of consciousness" and in modern usage refers specifically to "the sensation of orgasm as likened to death"「～とは、『意識の短い時間の消失や弱化』を意味し、現代では特に『死にたとえられる性的絶頂の(際の)感覚』として使われる表現」と書かれている。英語圏の人々はかっこつけるためにフランス語やスペイン語を使うことがあるため、英語圏でもよく伝わる。日本語の賢者モードという言葉が生まれたのはネットの黎明期、２ちゃんねるにおいてなのだが、今賢者モードと検索しても、性行為後の男性の心理を女性から見て分析した―すなわち、リア充のための用語みたいになっており、(彼女がいない人からすれば)ますます虚しくなること請け負いだろう。

薫の君ワキガ説……薫の君という人物が源氏物語に出てくる。彼のライバルであった匂宮(においのみや)と違い、薫の君は生まれつき独特の、女の人が心から惹かれてしまうような匂いを発していたという。実は以前ワキガの匂いというのは女性を魅了するためのフェロモンとして働いており、彼がワキガでも何の違和感もないことになる。しかしまあ、匂いで結ばれたライバルというのも、斬新な設定だなあと思わされるね。

「ワキガ」に関する歌が万葉集にある……それが「童ども草はな刈りそ八穂蓼を穂積の朝臣が脇草を刈れ」というもの。「わらはども　くさはなかりそ　やほだてを　ほづみのあそんが　わきくさをかれ」直訳して「子どもたち、草は刈るな。穂積の朝臣の臭い脇の毛を刈りなさい」ずいぶん失礼なものだが、実はこの時代から日本人はワキガに悩まされてきた…ということだろうか？ワキガの語源はこの脇草に遡る。脇に生えた草を意味するのだが、これが後世ではワキの匂いそのものに変化した。平安時代にはわきくそともっと失礼に。室町で脇香(わきか)というかなりマイルドな表現になり、そして江戸時代でワキガとなった。

自慰行為についての面白い川柳がある……それが「せんずりは日本一の富士の山 かいてみるよりするが一番」。せんずりが自慰行為、特に男のそれのことであり、江戸時代にはこのような句が作られていた。「富士の山は甲斐(山梨あたり)の国で見るより駿河(静岡県)で見るほうが一番」という意味と「日本一高い富士山みたいにすばらしいせんずりは、見るよりもしたほうが一番」という意味とでかかっている。せんずりなんて古い表現はもう出てこないが、これからも出てくることはないと思われる。ちなみに「オナニー」について、川端康成は日記の中で「保身」と表現していたという。

カクテルの語源……英語で”Cock Tail”だが、どうしてそういう呼び方になったのだろうか。一説には、雄鶏の尻尾を酒の瓶に刺していたというもの、バーテンダーの少年が雄鶏の尻尾に似た木の枝を使ってドリンクを作っていたところ「それは何？」とイギリス人に聞かれ、(酒の名前を聞かれたのに木の枝のことをどう呼ぶかと)勘違いして「コーラ・デ・カジョ」(スペイン語。「雄鶏の尻尾」の意)と答えたというものがある。

強化ガラスの作り方……普通のガラスと何が違うのか。それは処理の方法にある。再度熱処理をしてから冷風でガラスを冷やすと、表面に圧縮応力が発生する。内部にはそれとつりあう引っ張り応力を持つ。結果として衝撃に対し強い。内部と外部の応力のバランスにより、ガラス自身の強度が高くなっているのだ。だが、強化ガラスのどこかに穴をあけてしまうと、その応力のバランスが崩れることを意味し、ガラスは一瞬で粒状に割れてしまう。ショーウインドー用のガラスとか、高層ビルの壁に用いられている。強い上に割れても危険な破片が出ないからだ。一方で防犯用としては適当ではない。絶対に割れないというほど強いわけではないし、泥棒にとっても安全である。

ガラスの作り方……ガラスを液体にして、フロートバスと呼ばれる装置の中に入れ、溶けて液体になった金属のスズの上にうかべて作る。ガラスよりもスズの方が比重が大きいため、ガラスはスズに浮く。また、スズは液体なので自然と水平な面をつくる。また、金属にしてはかなり低い融点(230度)を持つ。こうして表面が滑らかで水平なガラスができるのだ。

闘争逃走反応……fight-or-flight responseの和訳。その韻まで考え、「とうそう・とうそう」とうまいこと訳したものだ。戦うか逃げるか反応という訳もある。簡単に言うと、恐怖によって交感神経が活発化し、(表皮からの出血量を防ぐため)血管が収縮したり、そのために心拍数が上昇したり、胃などの消化器官が停止したり、瞳孔が開いたりする。セキツイ動物には見られ、人間にもこの名残がある。俗にいう緊張がこれだ。

Ring-a-Ring-o' Roses……マザーグース(英語の伝承童謡)の一つ。子どもたちが手を繋ぎ、輪になって踊る。“Ring-a-Ring-o' Roses,A pocket full of posies,Atishoo! Atishoo!We all fall down.”訳するなら「バラの花輪だ手をつなごうよ　花束さしてポケットに　ハクション！ハクション！　みーんなころぼ」1881年に初めて文献に登場している。ロンドンで17世紀半ばに流行ったペストを表しているという説がロンドンでは人気。バラはペストの発疹、花束はペストを防ぐための薬、ハクションは末期症状、みーんなころぼで死んでしまう。

茅台酒……maotaijiu、マオタイ酒。中国の国酒と呼んでもよいほどおいしいらしい。強い度数と芳香を持つ。筆者の中国語の先生は、とある中国の高級官僚から「自分の娘がいつも世話になっているのでこれどうぞ！」とマオタイ酒を受け取ったらしい。偽物が出回るらしく、紫外線か何かを当てることで光る(本物にしかつかない)シールが貼られていたとか。どうみてもワイロです本当にありがとうございました。

人間の先入観の強さを確かめる実験がある……Wason実験というもの。以下問題文なので、ぜひ解いてみてほしい。3,8と一文字ずつ書かれた2枚のカード、赤と茶色の2枚のカード、計4枚が目の前にある。「偶数が表に書かれたカードの裏側は赤色」という仮説を検証するためにはどのカードをひっくり返すか？と聞くと、たいていの人は「8のカード」「8のカードと赤のカード」と答えてしまうのだ。実際は「8のカードと茶色のカード」なのだが。なぜなら反例は「表が偶数なのに、裏が赤でない」を満たすカードだけなのだから。これが不思議なことに、「15歳」「29歳」「ジュース」「ビール」というカードがあり、「子供はビールを飲まない」という仮説を確かめるためにひっくり返すカードはどれですか？と聞くと、みんな「15歳」「ビール」をひっくり返すと答えられる。とっつきやすいものだと思考がクリアになり、先入観が解けるのである。

Sound of Noise……町にある様々なものを楽器に仕立て上げ、違法に(手術に潜り込んだり、勝手に土木工事を始めたり、人の家に忍び込んだり、銀行強盗の振りをして)音楽を奏でるミュージシャンたちの物語。彼らを追いかける警官はオンチで、音楽にいい思い出がないのだが、追跡するうちにその考えが変わってきて…？いたって真面目に奏でる役者たちのシュールなさまと、見ているうちに踊りだしたくなるリズム、面白いのでぜひ見るといい。筆者はみていない。

トンカツの横の千切りキャベツ……兵役によってシェフがおらず人手不足だったので、茹でキャベツの代わりに千切りキャベツを載せたところ、トンカツの油っぽさを中和してくれるという理由で人気に。

田舎にある白いマシュマロみたいなやつ……正式名称を稲ホールクロップサイレージ(稲WCS)というらしい。牛のエサになる稲の草をあの中で発酵させているらしい。冬にこれを畑にまいたりするとか。ソースは祖父。たぶん合ってる。

豊田商事会長刺殺事件……1985年、豊田商事という会社の会長、永野一雄(32)が報道陣たちの目の前で刺殺された事件。純金ファミリー証券を販売し、会員に純金をかわせ、買った分の10~15%の賃貸料が入るという触れ込みで営業していたが、実際には賃貸料は全く入ってこない。金(キン)取引さえ行われていなかった。つまり紙とペンだけあれば営業できる形だった。独居老人たちはこれに騙され、たくさんの人の恨みを買った。その結果が刺殺であるよ。またマスコミはこの事件の最中、大変なことが起きていますと報道するだけだったため、その姿勢も批判された。

第十雄洋丸事件……1974年に起きたタンカー衝突炎上事件。プロパンやナフサを積んだ第十雄洋丸が鉄鋼を積んだ船と衝突し、炎上した。当時最新鋭の消火船でも消火できず、やむなく海上自衛隊の護衛艦により、雷撃砲撃がなされ、撃沈処分となった。辺り一面は海上に浮かんだナフサに引火したことでまさに「火の海」となり、海洋汚染をこれ以上しないためにも、沈没させるしかなかったのだろう。

ガンバレ食……別名、救命糧食。陸海空自衛隊の航空機および船舶に、緊急事態に備えて必ず搭載される救命糧食。大型輸送機や艦艇には救命イカダに必ず搭載されるほか、航空機の緊急脱出用射出シートにも入っている。もっとも自衛隊の活動範囲が日本周辺と限定されている事と、救難体制が高度に確立されているため、実際には数時間以内に救助される事が多く、そのためこの糧食を実際の遭難時に使用した記録は殆どないらしい。「がんばれ！元気を出せ！救助は必ずやってくる！」という紙が封入されているため、こう呼ばれる。お菓子は2種類あり、ひとつはむっちりとしたゴマ味ゼリー(というか硬いのでキャラメルのような感じ)。もう一つは落雁。食べてみたが上品な味で普通においしかった。

Oath of Office……アメリカ大統領が就任のさいに復唱させられる定型文。”I do solemnly swear that I will faithfully execute the Office of President of the United States, and will to the best of my ability, preserve, protect and defend the Constitution of the United States.”(私は、アメリカ大統領の仕事を誠実に全うすることを謹んで誓い、また、アメリカの憲法を保存、保護、擁護することに最善を尽くします)が全文で、司法長官が読み上げるこれを一語一句間違えてはならない。左手には聖書。ジョージワシントンが就任するさいからあるので、かなり歴史は深い。

政府専用機のパイロットは誰なのか……官邸に専用パイロットがいる、のではない。航空自衛隊のパイロットが受け持っているらしい。政府専用機はボーイング747、定員150名ほどで、執務や会見が行えるように特別に改造されている。きっと前日は眠れないんだろうな、パイロットの人。

強制送還の費用は誰が負担するのか……パスポートやビザなしに入国したり、不法な滞在をしていれば国に返される。この場合、当人がその費用を負担しなければならない。ただし責任は使用した航空会社にあり、当人が負担できないときには航空会社が運賃を負担する。そのさい、大使館とコンタクトをとり、母国が払うことになる。

座高はなぜ測っていたか……日本人なら測らされてきた意味不明なアレ。筆者の友人に、身長引く座高が座高よりかなり低い人がいてからかわれていた。1930年頃から、「内臓の発達を測るため」という目的で座高を測りだしたのだが、今ではあまり意味がないということで廃止する学校も増えてきている。

駅やイベントの人数はどうやって測っているか……9万人が参加！みたいなニュースを見て、9万なんてどうやって測ってるのかとお考えの人もいるだろうが、実はこれ、警察官が目視ではかっている。2、3平方メートルのスペースにひしめく人数を一時間ごとにカウントし、その人数に全体のスペースをかけて算出する。最近ではセンサーでカウントするハイテク技術も登場してきている。

CMの時計は10時10分を向いている……長針と短針の位置が文字盤のロゴやカレンダーを邪魔せず、秒針も含めたすべての針が重ならず、きれいに見える位置だから。8時20分だと下向きでなんとなく縁起が悪いためこちらが選ばれた。

動物にも血液型はあるか……種類で違うが、ちゃんとある。チンパンジー、オランウータン、ヒヒは人間のように4種類の血液型をもつ。人間がサルから進化したなら当然ともいえるが、それでもヒヒは種によってO型しかないのもあるし、チンパンジーのなかにもB型を持たない種がある。ネコはA,B,AB型があるが、雑種では95％以上がA型。だから几帳面なのだろうか？

フグを食べた魚はどうなるか……すごいことに、魚はフグを食べないのだ。フグはおなかをめちゃくちゃ膨らませ、猛毒成分であるテトロドトキシンを分泌するが、魚がいったん口にしても、味覚神経が毒を察知しすぐに吐き出してしまうのだという。ちなみにフグくんには自分の毒への抵抗があり、テトロドトキシンではなかなか死なないらしい。

オッパイは揉むと大きくなるか……性的興奮によって乳腺が膨らむから、いちおう大きくなるといえるが、興奮が収まればもとに戻ってしまう。手で大きくできるなら苦労はしないのである。ごしゅうしょうさまです

浣腸はどうやって効くか……小学生がよくやるアレではない。イチジク浣腸のほうだ。イチジク浣腸にはグリセリンが含まれていて、腸壁から浸透圧で水分が出て便を柔らかくしたり、便と腸壁の間に入りこみ、滑りをよくしたり、化学作用で腸の蠕動運動を高めたりする。きたない

乾電池の「単」の意味……単とは電極が一つという意味。英語のUnit cell(単電池)から来ている。ふつうの乾電池はプラスマイナス極があるが、この二つで一セットなので「単」。ちなみに海外ではRoundを単位にしている。日本の単三電池はR20にあたる。

消防車が途中で別の火事に遭ったらどうなるか……心配なく。消防車には無線が設置されており、本部に連絡をとれるようになっている。たとえば数台が現場に向かっていたんなら、一台を残していくという場合もある。救急車でも同じらしい。

プッシュホンと電卓の数字配列が違う理由……プッシュホンでは一番上の左から1、2、3という順で、0は8の下だが、電卓は違う。1、2、3が最下段で、0は1の下。使いやすさによる差ではなく、規格の違いによるものである。プッシュホンがITU(国際電気通信連合)、電卓がISO(国際標準化機構)である。

自販機のコイン投入口……よくよく考えれば自販機は横向きにコイン投入口がついている。これは、真贋や金額の識別装置が横向きだからだそうで、部品の削減の意味があるのだという。また、何枚も続けて入れる場合、横向きのほうが早いという理由もある。駅の券売機は縦だが、これは投入口が低い場合、縦のほうが入れやすいことによる。

医者は手術中トイレに行くか……手術には10時間を超す長丁場のものもあるが、トイレには行くのだろうか。答えは行かない。前日から水分摂取を控えるとともに、水分を補給することもないとか。オムツすればいいのになぁ？

ワキ毛の役割……皮膚同士の接触を防ぐことにある。毛がないと汗が出て(腕との)皮膚がこすれ、かゆくなってしまうとか。でも、ムダ毛といって永久脱毛したり、パートナーにそれを求めたりする人もいるぐらいだから、現代ではあまり意味がないのかもしれない。

ウオノメの存在意義……あれは細菌やウイルスによるものではない。足の裏の一部分が不自然にこすられたとき、それに対抗して角質が分厚くなる、それをウオノメと呼ぶ。要するにからだの防御反応なのだ。筆者は小学5年のとき、足の薬指？にウオノメができていたことがあるが、爪切りで無理やり剥がしたら無事なくなった。サリチル酸や液体窒素でとることもできるし、そっちのほうが安全かもしれない。

おっぱいには何が入っているのか……おっぱいの中身はほとんどが脂肪。母乳を創り出すのは乳腺なので、あるかないかでいえば存在意義は「ない」。しかしロマンは「ある」。

耳たぶの存在意義……今のところ解明されていないが、退化した外耳の名残だと考えられる。ちなみに耳たぶフェチがいるように、耳たぶは性感帯でもある。現代ではごく一部のマニアか、ピアス・イヤリングのためのものにすぎない。

鼻水を吸い込んでも痛くないのはなぜか……真水や海水を吸うとすごく痛いのに、鼻水だと痛くないのはなぜか。それは、粘膜の細胞と鼻水では、浸透圧の均衡がとれているから。一方真水では水分が中に、海水では水分が外にいくため痛く感じる。浸透圧が同じ液体なら吸っても苦しくならない。エヴァンゲリオンにそういう描写があった気がする。

鼻づまりは寝返りで移動させることができる……寝返りをうつと鼻づまりの位置が移動することがある。鼻づまりとは鼻の真ん中に通る鼻中隔という骨の周りの粘膜が炎症を起こしたもの。体を横にすると粘膜の充血が下に移動し、一瞬だけ鼻詰まりが治る。

脳のシワと頭の良さに関係はあるか……ネズミやカエルや魚の脳にシワがないのに対し、犬や猫にはある。ここから「脳のシワの数が多い方が頭が良い」という結論に持ってくるのは飛躍。なぜなら人間よりシワの多いイルカは、人間より頭が良くないからだ。また、人間どうしでも同じで、シワの数は知能にまったく比例しないらしい。

年寄りから鼻毛が出るのはなぜか……バスや電車で向かい合う老人を見てみよう。異常に鼻毛が伸びている人がたまにいないだろうか。鼻毛に限らず耳毛や眉毛パターンもいる。これは、60歳前後から毛の成長が活発になるからだとされているが、その原因はストレスだったり大気汚染だったりいろいろ唱えられていて、解明されていない。

目が充血するのはなぜか……普段は交感神経が活発だから目の血管も細いままだが、目を酷使することで酸素の消費量が増え、炭酸ガスなどの老廃物が溜まってくる。それを早く取り除くため、太くなって充血するのだ。目を休ませてあげよう。

ガムを飲み込むとどうなるか……ガムを飲み込んでも害はない。体内で消化吸収されず、そのまま出てくる。現在では石油から合成した酢酸ビニル樹脂に味や香りをつけたものが売られているので、精神衛生上あまりよくないかもしれないが。

女性の立ちションは可能か……可能だし、そもそもパンツなんて履いてない時代には普通に女性の農民が立ちションする風景が見られた。今はちょっと無理そうである。とりあえず技術的には可能ということで。

オスの三毛猫がほとんどない理由……比率でいえば99.9％以上がメス。これは遺伝子の話になる。ネコの毛を黒にする染色体、茶色にする染色体はX染色体にしかのらず、メスがXX、オスがXYの染色体を持つ。つまりオスの持つ性染色体は黒か茶色かのどちらかでしかなく、これに常染色体の白が加わっても、最多で2色にしかならない。ごくまれに異常でX染色体を２つもつオスがいるので、そのときオスの三毛猫が誕生する。昔漁師のあいだではオスの三毛猫をつれて船に乗ると船が沈まないと言われていたから、彼らはこぞって探し求めたとか。

ネコは孤独に死ぬ、というのは本当か……よくある迷信であるが、これは「疲れたり体力が落ちたりしたとき、人気のないところで休む」というネコの習性によるもの。休んでるうちに死んだネコが多いので、こういう迷信ができたのだろう。

ネコにお手させられるか……イヌと違いネコは集団行動をせず、命令をきく習慣がない。しかし褒美などをうまく使えば、芸を教え込むことができるかもしれない。ただお手は難しい。なぜならネコにとって前足は大事な武器であり、飼い主といえども差し出さないからだ。

盲導犬になるのはなぜレトリーバーばかりか……実は盲導犬の種類に規定があるわけではない。賢いことと大きいことがあれば、どの犬でも盲導犬になれる。外国ではシェパードやコリー、ボクサー、雑種もいる。日本でレトリーバーばかりなのは、育成を学んでいる元のイギリスでレトリーバーが盲導犬種として訓練されているからだ。過去イギリスでは主にシェパードが使われていたが、威圧感を与えるという理由でレトリーバーになったらしい。日本でも雑種が盲導犬になったというニュースがあった。

タヌキは本当にヒトを化かすか……カチカチ山でも文福茶釜でもタヌキは人を化かす。そのほかの伝説や昔話でもやはりタヌキが悪役である。これはどうやら、中国から漢字が入ってきたときの間違いに由来するらしい。中国ではタヌキのことを「貉」と書き、「狸」はネコ科の動物で、ヤマネコとか野生化したネコの総称だ。ところがこの「狸」にあたるものが日本になくて混乱したらしい。どんな動物だろうかと想像を膨らませるうちに、空を飛んだり、水にもぐったり、土に潜ったり、木に登ったりするなどのさまざまな特徴をもつようになった。当時は貉も狸も明確に区別されていなかったし、ムササビ、タチ、アナグマとも混同されていた。その後狸がタヌキになると今度は本来のタヌキ＝狸のイメージが曖昧になってしまった。地方ではムジナをタヌキと呼んだり、アナグマをムジナという混乱が定着している。こういう経緯もあってタヌキは、七変化する面妖な動物として登場したのである。

コアラは赤ちゃんのときからユーカリを食べるか……哺乳類でもっとも妊娠期間が短いコアラ。なんと35日だから驚き。袋の中で赤ちゃんを育て、離乳食を食べさせるのだが、ユーカリの葉は固くて消化が悪いので、お母さんの糞だという。この時期になるとお母さんコアラは勝手に下痢が出るようになり、子どもに食べさせるのである。水分もとらず固い葉っぱしか食べないのにこんな風になるのは、まさに生命の神秘だ。

パンダは竹だけ食べてて大丈夫か……実はパンダの祖先は肉食だったという。だから腸が短く、一日に30キロもの竹を食べなければならない。このうち栄養になるのは20％だからかなり効率も悪い。しかし竹には脂肪やタンパク質があるので、これだけ食べていれば生きていけるという。もっとも動物園のパンダはニンジンやサツマイモ、リンゴ、ミルク粥なども食べているから、食事の時間は野生のパンダ(15時間)より大幅に短く、2時間ぐらいでいいとか。

ラクダが水なしで長く生きられるのはなぜか……ラクダは背中のこぶに脂肪を蓄えているから食べなくても大丈夫とは聞くが、じゃあ水分なしでも生きられるのか。実は944キロもの距離、21日を水なしで行進した奴もいるほどだ。大量の水分は血液中に吸収され、大量の水を含んだ血液が循環する。普通の動物なら赤血球が浸透圧で破裂するが、ラクダはしない。まず体温を失わないよう、昼間は体温を40℃まであげ、夜間には35℃まで下げる。昼間に流れ込んできた熱を体内に蓄え夜に放出することで、最低限の汗しかかかずにすむのだ。また、体重の3分の1を失っても耐えることができ、オアシスにつくと100リットルの水をわずか20分で飲めるという。500kgもの荷物を運ぶ彼らは、砂漠の民にとって大事な足になっているに違いない。ちなみにまつげが長かったり、鼻の穴を閉じたりすることができるのは、砂漠の砂が入ってこないようにするためで、塩分濃度の高い水でも飲むことができる。まさに「砂漠の舟」である。

ウマの顔はなぜ長いか……5000万年前、ウマの祖先にあたるヒラコテリウムという動物は、オオカミぐらいの大きさの森林性草食動物だった。木の葉を主食にし、それをすりつぶすための臼歯があった。しかし2500万年前、草原が発達し、ウマたちも森林から溢れ出て、草原で暮らすようになる。草原の草はイネ科なので消化しにくく、臼歯をより発達させる必要があった。それに耐えるだけの丈夫なあごにすると、自然と長くなっていった、というわけである。

死んだふりでクマをかわせるか……クマには、抵抗する相手に牙をむけるという習性があるが、餌に乏しい冬にはこの習性があてにならない。空腹を満たすことを優先させるからだ。だから死んだふりは万全ではないらしい。鈴をつけるのも、あくまで予防手段であり、遭ったときに鳴らしてもほとんど意味がない。もっとも効果的なのは大声を出さずにゆーっくりと目を見ながら後ろずさることだが、そんなことをできるかどうかわからない。普通の人はパニクってそう。

冬眠中のクマは腹が減らないのか……実はクマは冬眠しない生き物だ。冬眠とはいわば仮死状態であり、クマが行うのは冬ごもり。冬の訪れの前、たくさん食べて皮下脂肪をつける。これを少しずつ燃焼させて寒さと飢えをしのぐのだ。このときなるべくお腹が空かないように、硬めの糞で肛門を防ぐという技も使っている。それでもお腹がすけば外に出て食べ物を探し回るが、だからこそ冬のクマは怖いのである。

アメンボはどこからやってくるか……雨上がり、水溜まりにアメンボがいるのをたまに見るが、どこからやってくるのだろう。実は彼らはずっと水面に浮かんでいるわけではない。水辺に生息し、エサをとるときや交尾をするときだけ水面に浮かぶのだ。しかも空を飛ぶこともできるのである。むかつくから、洗剤を水面に垂らしてあげよう。

カラスやスズメ、ハトの死骸はなぜ見かけないか……カラスもスズメもはっきりとした寿命はわかっていない。どちらも最長で7年2か月があるが、あくまで最長だ。死骸を目にしない理由の一つに、鳥は体重が軽く、腐敗しやすいということがある。もうひとつ、おいしいので野良猫にすぐ食べられてしまうとか。

コウモリは自分の糞がかからないのか……二本の足で木にぶら下がるコウモリだが、この際糞がかからないのか。答えはかからない、である。翼の先にある小翼手という手を木にかけ、懸垂みたいな状態で排泄する。それが終わると体を震わせ、元の体勢に戻ったときに汚れないようにしている。大きなお世話なのだよ。

トビウオはどういうときに飛ぶか……胸のヒレが大きく発達していて、水面から飛び上がって滑空できるトビウオ、日本では現在30種が知られている。また、尾びれが水面を叩くことで推進力をつけ、方向を変えているらしい。気流に乗り、時速50kmの速さで数百メートル滑空できるから驚きだ。だが実は敵にあったときやびっくりしたときに跳んでいるにすぎず、彼らは決して気持ちよく飛んでいるのではない。

カレイとヒラメは交尾できるか……そもそも魚は交尾しない。メスの卵にオスが精液をふりかけて受精する。ではカレイとヒラメはどうか。カレイはカレイ科、ヒラメはヒラメ科なので、混血は有り得ない。が、魚どうしに混血が決してないかというとそういうわけでもなく、別の種どうしの混血がダイバーによって撮影されている。

なぜコバンザメはサメに食べられないか……サメにとっては「おこぼれにあずかる」嫌な奴に違いないが、なぜ食べられないのだろう。これは、コバンザメが頭の吸盤でサメに付着しながら、サメに寄生している甲殻類を食べているからだ。つまりサメにとってはむしろコバンザメは「お掃除屋さん」だから、共存共生関係であるといえる。同じようにゾウやサイも、自分の身体につく虫を食べる小鳥を追い払ったりしない。

サメとエイは親戚……実は、サメの仲間が海中で生活するうち、次第に体が扁平になったのがエイ。だからサメとエイはごく近い仲間である。見分け方としては、エラ孔が体の横についているのがサメ、お腹についているのがエイだから、こんど見分けてみようね。

なぜサケは川でも海でも生きていられるか……サケは川で産まれて海に出て、産卵のために元の川に戻ってくる。どうして海水でも淡水でも生きられるのだろう。川から海に出るとサケの体内の水分は海中に流出する。そこでサケは海水の塩分を身体に取り込み塩分濃度を高め、水分流出を防ぎ、またエラから余分な塩分を排出する。戻る時にはこれと逆のことが起こるから、尿から塩分を体外に出し、身体の塩分濃度を調節するのだ。

イルカは睡眠中に呼吸を忘れないか……イルカは肺呼吸をしているが、深い眠りに陥って息をするのを忘れたなんてことはないのだろうか。実はイルカの睡眠は非常に特殊で、レム睡眠が全くない。というのも、左と右が交互に眠っていて、片方が寝ていてももう片方は起きているのである。その結果半分寝ながら泳ぎ続け、ときどき水面に顔を出して呼吸できるのだ。

なぜカニはアワを吹くのか……カニといえばアワを吹くイメージがあるが、全てがそういうわけではない。陸生の一部のカニのみがそうするのだが、それは水分を何度も循環させているから。陸生のカニたちは水分が周りにほとんどないため、自分が呼吸のために排出した水をもう一度取り込む。そうすると次第に水分が蒸発し、エラの粘液が混ざったりして水が粘っこくなる。そこに空気が入ると白い泡になり、ぶくぶく噴出しているように見えるというわけだ。

タラバガニはカニじゃないのか……カニの足はハサミを含めて10本だが、タラバガニには計8本しかないから、生物学上はヤドカリに分類される。また、メスのお腹は左右非対称になっていて、これは貝に入るためのねじれで、はやりヤドカリの仲間だ。

総理大臣と首相はどう違うか……日本国憲法では内閣総理大臣という表現をつかい、法律上の正式名称はそれ。しかし大臣という名称は右大臣左大臣という表現からもわかるとおり、かつては朝廷からもらう称号だった。だから、内閣改造以外の通常の記事では、他国同様「首相」という名称を使っているのだ。

なぜ衆議院と参議院があるか……年数の違いはあるが原則職務内容は同じ。どこが違うのだろう。そもそも衆議院は明治憲法の時代からあったが、参議院はなく、貴族などの特権階級が推薦により議員に就任する貴族院が存在したのだ。それが現行の新憲法により貴族院は廃止され、参議院が誕生したのである。二つの議院を設けることでダブルチェックが可能になり、よりよい国政をなすことができるのである。役割分担でいうと、参議院では衆議院の議論を見守り、チェックする機能をもつ。ただし上位にあるわけではなく、内閣の有力ポストは衆議院議員が占めるなど、衆議院の優位は否めない。

財務省の役人はなぜ威張っているか……財務省(旧大蔵省)の官僚は他のところより地位が高い。国会議員はもちろん、他の省庁までにらみをきかせる。例えば他の省庁の課長が財務省を訪問すれば、対応する財務省の役人はワンランク下の課長補佐という具合に、際立っている。というのも、ここがすべての予算を握っているからだ。各省庁に予算を振り分けるのは財務省の役人。

政府首脳、政府筋って誰？……政府首脳とは内閣官房長官、政府筋とは内閣官房副長官を指すというのがマスコミの暗黙の了解。彼らが記者団と行う「懇談」に関しては、原則オフレコ扱い。ただしそこでの発言が報道に値するとき、政府首脳、政府筋という言葉で紹介される。

どうして当選確実が開票数％の時点でわかるのか……テレビ当局とも報道特番を組むが、勝負はいかに速く当確を出すかにかかっている。が、どうして開票数％で出る当確に本当に信憑性があるのだろうか。これは各局とも綿密なデータを集め、こまかい分析をしているからかなり信用できるといってよい。推薦政党、支持基盤、支持者層の分析といった基本データはもちろん、投票所の投票率、出口調査などから、票計算をすると、最終結果とそう違いのないランキングが導き出されるのだという。ただ、当確が出てバンザイをしてから、逆転負けしてお葬式になるケースもある。

NPOの職員はどう生活しているか……NPOってボランティア活動してる人たちだよね？というのは誤解。ボランティア活動する場を作っているのが彼らである。阪神淡路大震災を糧にようやく「特定非営利活動促進法」が成立し、一定の条件を満たせば、これまでボランティア団体として活動してきたグループも「法人」になることができるように。これをひとことで言うなら、『継続的な社会サービスを提供する事業型の市民団体』。有給のスタッフを抱え、事務所を構えるのだから、会社と同じようなものだ。非営利という言葉からは無報酬のボランティアにいきつくが、実はそうではない。非営利とは利益を分配してはならないということであり、利益を出してはいけない、ということではないのである。ただ、そんなに稼げるわけではなく、職員にはまだまだボランティア精神が求められるのが実情のよう。

政令指定都市……政令で指定する人口50万人以上の都市をさし、現在12が指定されている。これに認定されれば、都道府県なみの財政と権限を持ち、大都市特有の行政ニーズにこたえる必要のある都市に認定されたということ。決定に関して知事の関与がなくなる。つまり最も分権が確立されるのが、この制度なのだ。また、宝くじ発行収益金や石油ガス譲与税が交付され、財源的にも潤う。

1円だけで金額を払ってもよいか……臨時通貨法という、1838年に施行された法律によれば、同一貨幣を21枚以上使った場合、受け取る側が「そんなの無理だよ～」と拒否できるとある。しかしそんな正当性を主張するようでは顧客を失うから、1万円分を100円玉だけで払われても、ありがとうございましたと黙って受け取るのが鉄則である。

川の長さはどうやって測るか……キルビメータという専用の機械を使い、地図の上の河川の中心線をなぞって測る。すごい。また、面積をはかるときはプラニメータを使う。

山に登ると草花が美しいのはなぜか……一面に咲き乱れる草花を愛でるのは、登山の楽しみの一つ。だが、どうしてあんなに色鮮やかなのだろう。標高の高い場所は低い所に比べて紫外線が多い。それが草花をひときわ色鮮やかに見せているのだ。

抱いた赤ちゃんが眠ると重くなるのはなぜか……起きている間はそれほどでもないのに、寝た瞬間に重くなるのはなぜだろう。これは重心の問題を考えればいい。起きているときは心理的にも物理的にも寄り添っているため、抱っこする人との重心が接近していたが、眠ると赤ちゃんの重心が不安定になる。体ごと後ろにひっくり返ったり左右にずれたりするので、抱っこする人は自然と赤ちゃんを支える力点を移動せねばならない。

理科だけどうして「科」をつけるか……国語算数理科社会、正式には国語科、算数科、社会科になるはず。ということは理科科になってしまうのだろうか。結論から言えば、理一文字で「自然科学の学問」という意味があるので、理科科とは言わない。だが一文字では聞いたときわかりづらいので、科をつけて呼ぶようになったんじゃないか？と言われている。

瞬間接着剤のフタはなぜくっつかないか……プラスティック製品もくっつけるボンド。だが、そのフタはなぜくっつかないのだろう。ボンドは溶剤気散型の接着剤で、なかに含まれるシンナー、水、トルエンなどからなる溶剤が、空気中に蒸発して固まる。だからフタがきちんとしまっていれば、接着効果は現れない。ただし容器は完璧というわけではない。何年も使わずにおいておいたら固まってしまっていた、なんてこともある。では瞬間接着剤はどうか。こっちは、空気中の水分と接着剤(シアノアクリレート)が反応しないと固まらないようになっており、容器には乾燥剤が入っている。だから、フタがくっつくことはない。ただ、なぜ接着剤が固まるとモノとモノがくっつくのか、その理由は単純ではない。一般的な説として、材料の表面にある小さな穴に接着剤が染み込んでくっつくという考えがある。アンカー効果とか投錨効果という。もう一つは分子間力の説。分子間力がモノとモノの間にはたらくからと。

包丁を温めるとなぜパンがよく切れるか……パンは小麦粉などを水分でよくこね、粘りを出す。パンを切るとき、パンと刃物の摩擦が大きいほど切りにくくなるのだが、摩擦の要因は、パンの持つ粘りにあると考えられる。そこで軽く刃物を温めると、パンに含まれるデンプンや油脂類が熱で温かくなり、粘り気が下がる。すると切りやすくなる、というわけ。

布用ハサミで紙を切るとなぜキレが悪くなるか……同じハサミでも、布と紙では特徴が違う。布用は長さ18センチ以上あり、開くと少し刃が反っているのが特徴。これを利用して、摩擦力で布を切るのだ。一方紙用のハサミは刃がまっすぐで、押す力で切る。これは布と紙の繊維の違いに関係している。布は均一の繊維からなるが、紙は粒子が粗い。とくに再生紙などは石と呼ばれる堅い部分も混ざっている。布用のハサミで紙を切ると、この石に当たり刃が開いてしまい、摩擦力が使えなくなるのである。

「たわし」の原料は……昔ながらのたわしが鍋の焦げつきには一番。それにしてもこの原料は何なんだろう。実はココナッツ椰子の繊維。繁殖力があり供給が安定しているところが、消耗品であるたわしにぴったりだ。

トイレットペーパーはなぜ水に溶けるか……そもそも水に溶けるのではない。パルプ(木材を粉砕して繊維の集まりにしたもの)結合の間に水がはいり、バラバラになるだけだ。これに対してティッシュペーパーなどは、鼻水をかんですぐに破れるようでは困るから、薬品を加えて結合を強くして、ほぐれにくくしているのだ。

アルミホイルはなぜ片面だけ光っているのか……何かと役立つアルミホイル。筆者は小さい頃よく噛んで遊んでいたものだ。この片面だけピカピカになっているのは、製造方法に由来する。アルミホイルは原料であるアルミ板を圧延機で延ばして作る。ところがこの方法では0.8ミリにしかできない。だから、アルミ板を2枚重ねてローラーで延ばし、あとで剥がすことで0.4ミリにできる。このとき、重なっている面は白っぽく見え、ローラーと接触している面は磨かれてピカピカになっているというわけである。

水道蛇口のギザギザの意味……蛇口をのぞくと、内側がギザギザになっているが、これはなぜだろう。これは整流板とよばれるもので、蛇口から出る水の流れを整える役割がある。水は曲がりくねった水道管を通ってくるため、その間の動きの慣性が残っていて、あらぬ方向に飛び散るのである。

鉢植えに置く卵の殻にはどんな効果があるか……今では見かけないが、卵の殻を鉢植えに置いていた家庭がある。これは迷信ではなく、科学的な根拠あってのことである。日本の土は酸性度が強く、植物の育成には適さない。そこで炭酸カルシウムである卵の殻をまき、中和させるというわけだ。

業務用の冷凍庫で作った氷、真ん中が凹んでいるのはなぜ？……家庭用の冷蔵庫では、受け皿に水をためて凍らせるが、業務用では製氷皿を逆さまにひっくり返し、そこに個々のキューブの真ん中にあたる部分に水を噴き上げる穴のあいた金属製のフタをする。下からフタをする形だ。水を噴射して凍らせて蓋を取ると、氷は氷受けにたまる。だから結果的に空気のない透き通った氷になるというわけだ。

ブルージーンズはなぜ青いか……ジーンズの定番はやはり青。1850年アメリカでゴールドラッシュに沸き立つ炭鉱夫たちの中にいたのが、この生みの親であるリーバイ・ストラウスなる人物。彼はインド産の染料であるインディゴブルーでズボンを染め、頑丈なジーンズを作った。この色はガラガラヘビよけの効果があったと言われている。

生理ナプキンができる前、どう過ごしてた？……はるか古代には植物や海綿をタンポン式に利用していた。エジプトから発見された紀元前2000年前の女性ミイラの膣から、パピルスのタンポンが見つかっている。はたまた、枯草をしいてその上で過ごし、月経が過ぎたらそれを燃やしていたというから驚き。奈良から平安では、植物の繊維で織った布や蒲の穂などをあて、衣服で固定していた。月経は不浄なもので、女性は家族と離れ、掘っ立て小屋のところで月経を過ごしていたらしい。室町には中国から木綿が伝わり徐々に広まっていった。その後、ボロ布や綿を洗って利用していた時代、脱脂綿をあてる月経体の時代を経て、1961年ようやく「アンネ・ナプキン」が開発。驚くことにナプキンの歴史は50余年なのだ。

なぜ体温計で体温を測れるのか……電子体温計の先端の金属、これをサーミスタといい、温度によって電気抵抗が変化する。そこで、内蔵のコンピュータによって体温を計算し、数字で表示するのである。これだけでもすごいが、耳式体温計と呼ばれるものもメジャーに。これは、体温調節を司る脳の視床下部の温度が反映される耳の中の温度を、赤外線の量によって測る。最近のものだと10秒～1分ぐらいで計測できるが、本来は5分～10分必要。これは、短時間で測定した体温から「平衡温」(体内の温度)を推定するため。昔よく見かけた水銀体温計だが、あれは水銀の表面張力の強さ、温度あたりの体積上昇率が一定であることを利用している。

入れ歯はいつ頃からあるのか……入れ歯というとかなりの技術を要するように思えるが、実は古代エジプトにさえ歯科専門医がいた。そしてギザの墓場から、紀元前2500年頃のものと推定される義歯のようなものが見つかったらしい。古代ギリシャにもあった。紀元前300年前と思われる入れ歯が出土している。それは現代のブリッジ義歯のように、義歯を他の歯に固定するやり方だ。古代ローマではエルトリア人がとても優れた技術を持っていた。義歯が骨や象牙を本物のように彫り、金で加工したブリッジで固定していた。中世には、貧乏人の歯を買って入れ歯にするという原始的な方法しかなかったが、18世紀にようやく現代の総入れ歯のようなものが登場する。

なぜくわばらくわばらというのか……雷の日、くわばらくわばらと呪文を唱える人、今はもういないか…。なぜくわばらなのだろう。1つ目の説は、雷の子が落ちて井戸に閉じ込められた際、和尚さんがそれに蓋をした。彼は和尚に「二度とここに雷は落とさないから出して」と懇願。この場所が「桑原」だったからとするもの。2つ目の説は、井戸に閉じ込められたのは雷神様で、ふたをしたのは農夫。「オレは桑の木が嫌いだから、桑の木には絶対に落とさないようにするから」と雷神がいってくわばらになったとか。3つ目の説は雷神となった菅原道真のたたりとするもの。彼は迫害を受けて蟄居後、無念の死を遂げる。くわばらとは彼のかつての公邸があった場所であり、雷神となった道真は恨みのある人物の領地に次々と雷を落とすが、ここには一度も雷を落とさなかった。この伝説がいつしか信じられるようになったのだとか。正直どれも信じがたいというかアレだが、こんなうわさができるぐらいには昔の人たちは雷を怖がっていたのだなとわかる。

人間の器量をなぜケツの穴で測るのか……よくよく考えたら、「ケツの穴が小さい男だ」なんて言い方、かなり不思議だ。そんな汚いところで測らんでも…というのはもっともな意見。これは頭のてっぺんから穴までが一直線にあって、ケツの穴が太いということは線が太いということで、人間のスケールが大きいという意味で用いられる。逆では排泄物も少ない、出すものが少ないということで、出し渋るケチの意味になったとか。どーでもいいが、肛門括約筋は年齢とともに段々強くなっていくため、小さい子のほうが「ケツの穴が大きい」。

人の噂はなぜ75日たつと消えるか……これは野菜の生育と関係があるらしい。野菜は種をまいて平均75日で収穫できるから、一応区切りがつく。ひと段落ついて噂の種も刈り取られるという意味から、75日が賞味期限になったようだ。言うまでもないが、ネットではこのことわざにあらず。WindowsのTab予測にさえ登場する「長谷川亮太」くんの例を挙げればわかるであろう。

豹変は実は逆の意味だった？……「あいつ酒を飲むと豹変するんだよな」というが、実は逆。ヒョウは秋になると毛が抜け、鮮やかな紋様をまとうようになるが、ここから「過ちを認め、改め、善行に立ち返る」という意味が正しい。つまり良い方へ変わるのが本来の意味なのだ。易経には「君子は豹変す、小人は面を革める」とある。つまり、「君子は間違いがあればすぐに改めるが、小人は表面を取り繕うだけだ」と。

笑顔がこぼれるは誤用……笑みがこぼれるが正しい。「こぼれる」とは隠れていたものが外に出るという意味だから、「笑顔」から隠れたものがこぼれてきたら…？

ため口、ため年の「ため」って？……同じ数字が揃うことを「ぞろ目」というが、ばくち用語の隠語にすれば「ため」となる。これが使われるようになるのが1960年代。不良の間で流行り、いつの間にか世間受けするようになった。

こっそり溜めることをなぜヘソクリというか……昔は家計を助けるために妻がする内職の仕事のことだったが、いつの間にか「配偶者に内緒にしている、自分の小遣い」という意味になった。ヘソは臍ではなく、「綜麻」と書き、麻糸を綜という糸をつむぐ道具にかけて束ねることを「綜麻操り」といった。妻たちはこの内職で夫の出世を助けるために小銭を稼いでいたのだ。別の説もある。カラスビシャクという雑草が漢方薬の「半夏(はんげ)」になるところから、農家の妻たちはこれを薬屋に売っていた。このカラスビシャクが、人間のへそに似ていたことから、「ヘソクリ」と呼ばれるようになったとか。

タラフク食べるのタラフク、何のこと？……鱈腹と書く。鱈は深海に住んでいて餌が潤沢ではなく、一気に腹に詰め込む。魚だろうと貝だろうと甲殻類だろうと。その食べっぷりを彷彿とさせる、やたら腹に詰めこむ食べ方がタラフクということだ。

出自がはっきりしない奴はなぜ馬の骨なのか……父親の眼には、娘の紹介する男が全てどこの馬の骨か知らない奴にうつるらしい。しかしどうして馬の骨なのか。由来は中国にある。役立たずの典型として「一に鶏肋、二に馬骨」ということばがある。小さかったり大きかったりしすぎるのだ。つまり箸にも棒にも掛からぬということで、憎き相手を罵倒するには格好のことばとなった。

あんぽんたんって何なのか……ほとんど死語だが、アホのことを「あんぽんたん」ということがある。これは江戸時代の魚に遡る。あんぽんたんという名前の魚が出回っていた。大きくて旨そうな風体なのに、見掛け倒しもいい所、まったく食べられなかったのだという。以来見掛け倒しの愚鈍な人間をこの魚になぞらえ、揶揄することになったらしい。実はこれ、カサゴである。

後の祭りはどこの祭りか……京都の祇園祭のこと。この祭りには「前の祭り」と「後の祭り」があり、前のほうが盛大で面白い。そこから「手遅れ」という意味で、後の祭りが用いられるようになったとか。もう一つの説では、「祭り＝葬式」であり、死んだ後に盛大な葬式をしても遅いからだとも。どっちが正しいかはもはや神のみぞ知ります。語源がたどれなかったからと後悔しても、後の祭り。

青二才の語源……果物が熟していない時のことを青いといい、青には昔から未熟という意味があった。どうして二才なのか。これにはいくつか説がある。ひとつはボラの幼魚「新背(ニイセ)」が語源というもの。にいせから二才になった。もう一つは今でいう青年団の新入りを「新背」と言ったからとするもの。未だに九州に方言として残っている。

くびったけはどうして惚れているという意味か……どうしようもないほどベタ惚れすることをくびったけという。漢字で書くと首っ丈。足のつま先からアゴまでの長さのことだ。その首っ丈が水に浸かると命が危ない。間違えれば溺死。だから恋に浸かり、溺れかねない状況のことをこう呼ぶのだそう。

台所はなぜお勝手なのか……今や死語だが、昔はキッチンのことをお勝手と呼んでいた。勝手はもともと苅手(かりて)という言葉だったが、これがなまってかってになったと考えられている。じゃあ苅手は何なのか。これは、鎌を握り草を刈る手、つまり右手のことだ。右手が利き腕であるのが多いことを考えれば、左手よりも右手のほうが自由が利く。つまり苅手とは、自由になるとかわがままがきくという意味で使われていたのだ。同様に身勝手とか勝手がきくという場合の勝手は、自分の自由になるという意味である。台所は女性にとって一番自由が利く場所。自分が取り仕切れる場所で、そのため勝手と呼ばれるようになったらしい。

ほぞを噛むのほぞとは……臍、すなわちへそのこと。自分で自分のへそを噛もうとしても届かないから、悔しい。

たんかを切るのたんかとは……啖呵を切る、と。相手を威勢のいいことばで圧倒することをいう。啖呵はもともと痰火と書いて、「タンが喉につっかえて身体が火照る状態」のことをさしていた。いまでいうと肺炎とかインフルエンザだろうか。そして痰火を治療することを「タンカを切る」といい、治ると胸がすっきりすることから、鋭く切れ込む口調のことをこう呼ぶようになったのだ。

一か八かはどこからきているか……ばくち用語。一と八はそれぞれ「丁(偶数)」と「半(奇数)」の上のほうをとった漢字。そこから、「栄光をつかむかすべてを失うか、思い切って一発勝負」みたいな意味になったのである。

三拍子そろったの語源は……重要な三つの条件がそろったときの口癖が、三拍子。これは、邦楽で、小つづみ、大つづみ、太鼓の三種の神器が揃ったことを意味する。

ボインの立派な語源……英語のboingから。これはもともとセクシーな女性を見て急激に気持ちが高まるようすを表している。もともとは男のペニスが勃起する様子の擬態語だったが、日本では豊かな胸を表すように。

北に旅立つから敗北なのか……北という字を見てみよう。ふたりの人間が背中を向け合って坐った形をしている。勝負に負け、敵に背中を向けるから敗北なのだ。

オスとメスのマーク……オスのマークが男のアレ、メスが女の体…というのは俗説であり、オスのマークは本来火星を表す記号であり、メスは金星を表す。火星の神マルスが手にする鉾と盾を図案化したのがオス、金星の神(美の神)ビーナスのもつ手鏡の図案化がメスである。これを最初に使ったのが植物学者のリンネ。１７５３年。

なぜNumberの略がNo.なのか……よく考えれば、NumberにNoという綴りは入っていない。これはもちろん、No.がラテン語由来だから。Numero(番号でいえば、という意味)の略。

緊張するとトイレに行きたくなるのはなぜか……膀胱に尿がたまると、排尿神経が刺激され、膀胱括約筋が大脳に「おしっこ行けば？」という信号を送る。これが尿意を催す状態。ただ、いけない場合は膀胱括約筋が活躍(括約)する。このメカニズムに緊張が加わるとどうなるか。神経が緊張すると膀胱中枢が過敏になり、膀胱に尿が溜まる以外にも伝達が行われて、尿意につながっているのだ。

想像妊娠のお腹の中には何がある？……妊娠とは、排卵、受精、着床という段階を経て成立する。排卵は脳下垂体から分泌されるホルモンの刺激を受け、成熟した卵が卵巣から排出されることだ。排卵された卵が受精しなければ、子宮内膜がはがれて月経がはじまる。だが想像妊娠の場合は、脳下垂体からホルモンが分泌されず、排卵も月経もなくなる。本当の妊娠なら、子宮も大きくなるし、子宮の筋膜も発達するが、想像の場合はなんと脂肪太りだという。

友情出演と特別出演……映画やドラマの最後に登場する友情出演と特別出演の違い。友情出演は文字どおり、監督やスタッフ、出演者との友情からの出演で、ノーギャラか薄謝。特別出演は顔を立てるための文字で、「主役でなくてゴメンナサイ」という配慮だ。当然ギャラは弾む。

そうめんと冷や麦の違い……両者の違いはズバリ太さ。JAS規格(日本農林規格)によれば、そうめんは丸棒状で0.8~1.3ミリ、冷や麦は角棒状で1.2~1.7ミリ、それ以上ならうどん。そして製法も違う。冷や麦はたいてい、小麦粉に塩水を加えてこね、薄く延ばし、規格内の太さに切断する。そうめんはこねるところまで同じだが、そのあと時間をかけて熟成させ、ねじりながら伸ばしていく。そのさい表面に植物油をまぶす。

銀行と信用金庫の違い……預金融資為替と、取り扱う業務はほとんど同じなのだが。銀行は利益を追求するから、お金を貸しても返ってくる見込みの少ない個人や中小企業に対してはあまり融資をしない。一方信用金庫は相互扶助を目的として経営されているから、貸し付けも緩やかだ。

調剤薬局と単なる薬局の違い……まず大きな違いとしては、調剤薬局、保険薬局は処方箋にしたがい、薬を調合してくれる。だがそれだけではない。その薬に健康保険が効いているのだ。医師の処方箋にしたがってもらう薬の代金は実は本当の一部にすぎない。同じ風邪薬でも、売薬は100％自分の負担なので、診察料を考慮しなければ医者にかかったほうがマシだろうね。

おとぎ話と民話の違い……昔々あるところに～で始まる昔話は、庶民にとっての「文字なき文学」だった。主に伝統的な農村社会を背景にしているが、フィクションである。その内容は戒めが多く、「したとさ」で終わり、めでたしめでたしでくくる。おとぎ話は？これには少しユニークな説がある。現代人と違い昔は真っ暗な闇夜。面白い話を大名に語る職の人がいた。彼らはつねに大名の部屋の隣に控えていて、呼ばれると話を聴かせていた。それが終わると別の職人が違う話をしだす。「お次の話」から「おとぎ話」になったというのである。だが両者のボーダーラインは難しく、あえていえば民話には戒めの創作、おとぎ話にはおもしろさの創作があるようだ。

七味唐辛子の七味、何がブレンドされているか……「赤唐辛子」「粉山椒」「黒ごま」「陳皮」「芥子の実」「青紫蘇」「青海苔」「生姜」「白ごま」がそれだが、これじゃ十味。実は七味唐辛子は製造元により、採用する材料に違いがある。

キュウリの白い粉は残留農薬？……違います。これはブルーム(果粉)といって乾燥を防ぐためにキュウリから出るものなので問題ない。紛らわしいのがもう一つ、リンゴのワックスだ。これも人工的と思いがちだが、リンゴの表皮から出てくるロウ物質なので問題ないし、健康なリンゴのほうがワックスが多い。

かまぼこ板は何のためにある？……蒲鉾の初出は室町。魚肉のすり身を竹の棒につけて焼いたがそれが蒲の花穂に似ているという理由でカマボコに(のちの竹輪である)。その後すり身を板に載せるのだが、これはなぜか。まず土台。焼く前はやわらかいので、土台がないと半円筒型に成形しづらい。また、すり身が加熱冷却と工程を進むあいだに、かまぼこから出る水分を板が吸収してくれる。さらにできあがってからも、水分を調節し、かまぼことともに呼吸しながらおいしさを保つのだ。昔は杉の木が使われていたが、今ではアメリカ産のモミの木が9割を占めるという。

ミカンをぶつけると甘くなるは本当か……これ本当らしい。酸っぱさの成分が減り、相対的に甘く感じるとか。「自己修復性」といって、クエン酸を消費して自らの傷を回復する。ただ、ぶつけた後は腐りやすくなるから、甘くなるからといって買ってきた奴全部をキャッチボールとかはやめたほうがいい。直前に２、３回ぶつけるぐらい。味覚センサーで計測しても、実際に甘くなった。

アクって何なのか……もともとアクは灰汁と書き、植物を燃やして出た灰を水に溶かし、沈殿させた上澄みのことだった。アルカリ性のため洗浄・漂白作用があり、洗剤として使われていた。しかしこの言葉、次第に不味成分の総称という意味に。まず、植物に含まれる苦みやえぐみをだす物質が、アクと呼ばれるように。次にアルカリ性ではない成分(シュウ酸など)も。さらには肉を煮たときに出る泡状のものも。嫌われすぎだろ。

代々伝わる秘伝のタレは腐らないのか……基本的にイエスでよい。というのも、新しく作ったタレが継ぎ足されているし、塩分や糖分で雑菌の繁殖が抑えられるからだ(塩分10％以上、糖分65％以上で防腐効果があるという。達するわけではないが、腐りにくくはなる)。そのほか、100度には達しないけどまあまあ熱い温度で殺菌ということで、「低温殺菌」の原理も働いているという。これは牛乳の殺菌にも用いられている。「知らないほうが良かった雑学」というので「でも実はゴキブリが入ってる」というのは聞くが、そんなに不衛生な店ならとっくに食中毒とかで停止処分食らってるに違いない。

なぜウナギを焼いたのをかば焼きというのか……二つの説がある。一つ目に、ウナギの焼いた色が樺の木の色に似ていたからというもの。もう一つは、昔のウナギの焼き方は今のように開きではなく、輪切りだったため、串に刺したときの姿が植物の蒲(がま)の穂に似ていたからというもの。がま焼きと呼んでいたが語感がよくないので、かば焼きになったらしい。

インスタント麺はなぜ火をとめてからスープを入れるのか……逆でも良さそうだが、沸騰したお湯に粉ものを入れるとダマになりやすいことに由来する。ちなみにtwitterでまことしやかに噂される「粉塵爆発の危険」という説はガセらしい。

ラーメンの丼に描かれたナルトの意味は？……この模様は中国では雷を表していて、「雷紋」といい、魔よけの効果がある。古来中国では、皇帝の妃が使う器に書かれていたが、徐々に一般庶民の器にも描かれるように。日本に伝わったのが明治の初め。横浜開港とともに中国人通訳が伝えたというのが有力だ。当時の日本には豚を食べる習慣がなく、中国から伝来した豚骨スープはかなり抵抗があったらしい。そこで来々軒の店主が考え、丼に雷紋を描き、ナルトをのせて魔よけをした。

黒ビールはなぜ黒いか……黒ビールは普通のビールよりほのかに甘いが、これは麦芽にある。黒ビールはふつうの麦芽のほか、カラメル麦芽を使っているのだ。カラメル麦芽は麦芽のデンプンを糖化させてつくるため、甘さと黒みが増すのである。

缶コーヒーにアルミがないのはなぜか……製造過程に理由がある。コーヒーは缶詰のあとで高圧高温処理がほどこされて殺菌されるが、アルミ缶ではこれに耐えられない。紅茶やトマトジュース、野菜ジュースなども同じ理由。一方ビールや炭酸飲料は炭酸が雑菌の繁殖を抑えるから殺菌が必要ない。

コカコーラは薬だった？……アメリカでコカコーラが売られだしたのは1886年のこと。薬剤師の人がカラメル色のシロップを作る時、水の代わりに炭酸水で作ってしまった。これが大好評だったので、商品にしたところ大ヒット。そもそも炭酸水は18世紀に工業的に生産されるようになり、アメリカ人の生活には溶け込んでいた。コカ・コーラの原料はコーラノキの種子とコカノキの葉で、名前もここからきている。葉はコカインを含み、南米の原住民はこれを噛んで疲労回復薬にしていた。薬効は定かではないが、ともかく炭酸水と、コカとコーラが組み合わさって、アメリカを代表する飲み物が生まれたのだった。

ホワイトチョコはどうして白いか……チョコといえば茶色と決まっているが、ホワイトチョコは白い。そもそもふつうのチョコレートは、カカオ豆をローストしてできるカカオマス、つまりココアの色だ。つまりホワイトチョコはカカオマスを使っていないのだ。カカオ豆はローストして外皮を取り除き精製すると、カカオマスと脂肪分に分かれる。脂肪分はカカオバターという。ふつうのチョコレートは、カカオマスとカカオバターの両方に砂糖やミルクを加えて作る。一方ホワイトチョコはカカオバターだけに砂糖やミルクを加える。だから苦みもないのだ。

欧州のフットボールがなぜサッカーになるのか……フットボールの母国はイギリス。1863年にフットボール協会が設立。当時は”association football”と呼ばれた。サッカーということばが登場するのは1880年代。associationの”soc”らしい。日本がサッカーという名称を使うようになったのは、アメリカンフットボールやラグビーとの混同を避けるため。

サッカー選手はスパイクを自分で手入れしない？……本当らしい。スパイク管理のためのプロがいて、ホペイロと呼ばれている。管理に神経と時間を使わなくて済むのだ。ちなみにホペイロとはポルトガル語で用具係という意味で、F1のピットクルーもホペイロと呼ばれることがあるそうだ。

阪神タイガース応援の風船飛ばしの発案者は誰か……7回の攻撃のとき、ふくらませたジェット風船を一気に飛ばすのが応援。あれは誰のアイデアなのだろう。どうせ阪神タイガースファンだと思ったら違った。甲子園の阪神対広島戦を観戦しにきた広島ファンだという。それを目にしたトラキチが「よっしゃ！いただいたろ！」といただいちゃったらしい。もっとも当初は風船が球場内で発売されておらず、外部からの持ち込みだったようだ。

力士はなぜ四股を踏むのか……足の下の地面に潜む邪悪なものを踏み潰すという宗教的意味合いがある。

相撲の土俵はなぜイビツなのか？……よくみると完全な円形ではないが、これは徳俵の存在があるから。土俵の東西南北に四つある徳俵(とくだわら)は、まだ相撲が屋外だった時代、雨が土俵にたまったとき吐き出し口にするため、俵の幅だけ一俵、外にずらしていたという。「〇〇山、徳俵で大逆転！！」を見ると、イビツなのも許せるというものだ。

歌舞伎役者はどうして同じ名前を引き継ぐか……歌舞伎における襲名とは、自分の先祖、父兄、師匠など大先輩の名前を引き継ぐことをいう。役者がなくなっても襲名で新しい若い役者に生まれ変われるのだ。芸風や地位をも引き継ぐ資格を得るということだから、興行会社である松竹のお偉方の承認がいる。また、500件を超す関係者へのあいさつ回りや、浅草の浅草寺(せんそうじ)で成功祈願をする「お練り」、「撮影会」などの行事をこなし、襲名披露興行の「口上」で意気込みを述べる。

マイムマイムの掛け声の意味とは？……マイムマイムマイムマイム、マイムベッサンソン！と歌うのだが、これはヘブライ語。旧約聖書「イザヤ書」第12章第3節「あなたは歓びとともに、救いの井戸から水を汲むだろう」という部分から取られたと言われている。マイムは水、ベッサンソンは歓びを分かち合うという意味。輪になって踊るのは、水の流れが海に流れ着く様子を表現している。イスラエルに帰ったユダヤの民が、砂漠で水源を見つけた喜びなのだ。

トラックの車体の文字はなぜ右から左なのか……トラックの車体に「乳牛ンレクラ」とか「とあしあ」と書いてあって面食らったことはないだろうか。たまになぜか右から左に書いてある車があるのだ。これは船の名前を「進行方向から先に書く」という習慣があったことの名残らしい。だからトラックの反対側に回れば、普通に左から右になっている。

白バイはもともと赤バイだった？……ドライバーには目障りな存在である白バイ。交通取り締まりにオートバイが使われるようになったのは1918年のことだが、このときはなんと真っ赤なバイクだったのだ。車体やタンクはもちろん、ハンドルまで赤いというすごさ。ありふれた色にすると目立たないので赤にしたのだが、時代が経って派手な色の車も増え、逆に赤バイも目立たなくなった。そこでさらに目立つ白に変えたということ。

駅から徒歩〇メートル！はどこから？……駅と言っても東京駅や新宿駅などのターミナル駅となると、北口と南口からの距離が違ってくるはずだ。これはもちろん、最も近い出口からの距離を指す。また、駅から〇分という表現なら、分速80ｍで歩くというのが基準。ついでにいえば「〇〇まで〇キロ」という道路標識は、その地域の市役所や役場のこと。

新橋と新宿はなぜローマ字表記が違うか……駅名のローマ字表記では、新橋はshimbashiだが、新宿はshinjuku。どうしてmとnの差があるのだろうか。発音してみよう。「しんばし」の「ん」では唇が閉じられ、「しんじゅく」では閉じない。この差を表記しているのである。これはローマ字のヘボン式にしたがったもの。だから新聞がshimbunなのである。

パチンコの換金所はどうして店の外にあるのか……店内で出た球をお菓子に変えることはできるが、換金するには店外の建物に出なければならない。どうして堂々と換金できないのかというと、日本で賭博が表向き禁止されているから。「賭博をしたものは、50万円以下の罰金または科料に処する」(185条)としているが、「ただし、一時の娯楽に供する物を賭けたにとどまるときは、この限りではない」という曖昧すぎる但し書きがあるので、どうにでも解釈できる。また、パチンコ業界の多数の献金があるため警察もお目こぼししているという説もある。

ホテルの備品、お持ち帰りOKの基準は？……全部のホテルに共通した基準があるわけではないが、目安はある。消耗品はOKで、ホテル側が繰り返し使うものはNGだ。シャンプーや化粧品などはもちろん、ロゴ入りの便せんや封筒、ボールペン、使い捨てのスリッパなども持って帰って構わない。一方でフェイスタオルやバスタオル、グラス、靴ベラなどは駄目。聖書は一応フロントに聞くのがいいかも。

飛行機のエコノミー座席はなぜあんなに狭いのか……ひとことで言えば経済効率。座席空席を狭くすることで座席数を増やし、利益向上につながるのだ。イギリスの例をあげれば、国営から民営にしてから36インチの席が26インチになった。

なぜ飛行機内では携帯を切らねばならないのか……計器類に影響を及ぼす可能性があるから。自動操縦システムをはじめ、ほとんどのものが携帯の電波に少なからず影響を受ける。ちなみに注意にも拘わらず使っていると、民間航空安全法違反にも問われかねない。外国ではタイホされるケースもある。

パイロット免許に更新はあるのか？……ない。だが、機長と副操縦士は、2年ごとに定期路線審査を受ける義務がある。試験官が同乗して実際に運航する路線をとび、技能や知識をチェックするのだ。ちょっとでもミスがあれば即不合格。また、身体面のチェックも半年ごとに行われ、肝機能、血圧、血糖値などが基準値内でないと常務できない。その場合地上勤務をしながら、節制の生活を送るわけだ。

結婚指輪はなぜ左手の薬指にはめるか……古代ギリシャでは「人体には恋の血管があり、それは心臓からまっすぐ伸びて、左手の薬指につながっている」と考えられ、古くから神妙な指とみなされてきたという説がある。ほかには、「左手の薬指は指の中で最も動きが少なく、落としたり傷をつけたりしにくい」という説も。もっとも世界を見渡せば、オーストリアやデンマーク、ドイツでは、指輪は右手の薬指につけるし、ロシアでは結婚前に左の薬指、結婚後は右の薬指にはめることもある。中国の一地域では、左の中指にはめるし、台湾では…ともうキリがない。結局幸せならどの指でもいいのかもね。

三三九度はなぜやるのか？……結婚式で行われる三三九度。三組の盃にそそがれた酒(銚子を三回傾け、三回目に実際に注ぐ)を新郎新婦が三回にわけて飲む。三組の盃が意味するのは天、地、人。三度で飲むのは三がめでたいとされているからで、それを三回繰り返すと九になる。九はもっともめでたい数だ。

なぜバースデーケーキには歳の数だけローソクをたてるのか……ロウソクをたてるのはギリシャ神話の月の女神アルテミスが、三日月の形をしたハチミツケーキのまわりに小さなロウソクをともして誕生日を祝ったことに由来するらしい。歳の数だけ立てるのはドイツ由来。

年賀状はどうして始まったのか……日本人の年始のあいさつは、親戚や隣近所の家に出向いていく「年始回り」が一般的だった。平安から明治初期まで1100年にわたって続いたこの風習だが、かなり負担が大きかったようだ。そこで登場したのが、玄関先に記名帳を置く方法や新年のあいさつを書いたものを置いておくという方法。これがいまの年賀状の原型になり、郵便はがきが発行された明治6年以降、ハガキによる年始の挨拶が一般的になる。

お中元やお歳暮はいつ始まったのか……もともと別々の発祥をもつ。中元は道教に由来していて、1月15日が上元、７月15日が中元、10月15日が下元として天神、慈悲神、防災の神を祀る日とされていた。そのうちの7月15日が盂蘭盆会(うらぼんえ、先祖を供養する日)と重なったので、この日に先祖を祀って供え物をし、親族に配ったのだ。一方お歳暮は、実家を離れた親族が本家へのお正月用の供え物として、一年のお礼という思いをこめて挨拶をする習わしがルーツだといわれる。これらがいつからかお世話になった人に贈るものとなった。

フニクリ・フニクラ……鬼のパンツの原曲。幼稚園などで一度は歌ったことがあるのではないだろうか。ちなみに作詞者不明。イタリアではもともと登山電車「フニコラーレ」の乗客のために作られた。「行こう行こう火の山へ」みたいな意味。

お盆になるとなぜキュウリやナスに割りばしを刺すか……これは馬や牛に見立てている。先祖の霊は馬に乗って、牛に荷物を背負わせてあの世とこの世を行き来するからだと考えられている。ちなみにお盆の最古の記録は606年。古い。

土用の丑の日にウナギを喰うのはなぜか……中国には陰陽五行説というのがある。万物の元素を五行とする考え方だ。ところが季節は四つなので「土」が余ってしまう。そこで考えたのが、それぞれの節目の最後の18日間を土とし、土用と呼ぶようになった。つまり年に四回あることになるが、夏に食べるウナギのイメージが強い。じつは平賀源内が関与していて、ウナギが売れなくて困っていたウナギ屋に頼まれて一筆、「本日　丑の日」と書いたところ、「暑い日はウナギ食ってスナミナつけなくっちゃいけねえや」と江戸っ子たちに大反響。江戸中期以降に広まったと言われている。これは当然、デマである。

クリスマスカラーはなぜ赤と緑か……諸説あるが、キリストの受難を象徴する、ヒイラギにちなむという説が一般的。赤い実はキリストの流した血を、棘のある葉っぱはキリストのイバラの冠を表すとし、キリスト教会によって象徴的に用いられるようになった。

なぜ年越しそばを食べるのか……「細く長く」生きられるようにという説をはじめ諸説あるが、そのなかに「そばが切れやすかったから」というのがある。一年の苦労や借金と縁を切ろうという願いから、食べるようになったとか。これを年切りそばとか借銭切りそばと呼んだそうだ。ほかにも、金や銀細工をする職人が、そば粉を練ったもので床をたたいて粉を集めたことから、縁起がよいという説もある。

死んだ人が頭につける三角形の白い紙って何？……マンガの幽霊が必ずつけてるアレ。もともと葬儀のさい、死者が着る白装束とセットになっていて、地方や宗派ではつけないところも多い。材質も紙や布などさまざまで、死者の顔を覆う顔隠しの変形だとか、冠の一種だとか言われている。白は清浄な色なので、死者の魂を浄化するという意味があるらしい。

霊柩車を見たら親指を隠すのはなぜか……死後の魂のありようから生まれた習わしだ。古来日本では、他界した直後の魂は、ふわふわさまよっており、生きてる人の親指から入り込んで、死後の世界に引きずり込んでしまうと考えられていたのだ。魂の侵入を防ぐという目的があるのだ。

プライベートで人をはねてもなぜ業務上なのか……法律用語は現実のことばと用いられ方が違う。車を運転していれば誰でも「業務上」なのだ。

13歳未満とのセックスは合意の上でも強姦罪になるか……答えはイエス。相手が男の子でも同じ。これは刑法によって定められている。まあ一生使わない知識だろうけど、使う人には有用かもしれない。使う人が出ないことを祈る。

自宅の庭や空き地にお墓を立ててもいいか……答えは駄目。埋葬または焼骨の埋蔵は、墓地以外の区域にこれを行ってはならない(墓地、埋葬等に関する法律第四条)とされている。確かに「公園に埋めていい」なんてしちゃったら、今よりももっと完全犯罪が増えてしまうだろう。

アルバイトでも労災は認められるか……仕事上のケガや病気で認められる労災。それがパートであっても法的には労働者と認められるので、治療の費用や休業補償などは支払われることになっている。これは労働基準法第七十五条に「労働者が業務上負傷し、また疾病にかかった場合、雇い主は、必要な療養の費用を負担しなければならない」とあるからだ。だが、仕事によるケガや病気かどうかの認定はかなり厳しく、ちゃんとした証拠が必要になる。結構難しいようだ。

前科は一生消えないのか……刑罰に処せられる行為をして、刑を言い渡されれば前科がつく。が、この前科、一定期間を過ぎると消えてなくなるのである。禁固(刑務所内に留置して労働させない刑)以上を受けた場合、お勤めを終えてから10年の間、再び刑を受けることがなければ前科は消える。罰金以下の刑では、受けた罰金刑以上の刑に処せられることがなければ、これも前科は消える。ただ、犯罪者に対する社会の目はそんなに甘くないし、警察の内部資料には一生消えない罪の記録が残るらしい。ネットでの実名報道も怖い。

国会図書館の蔵書はパンクしないのか……日本では、すべての出版物は刊行と同時に国会図書館に一冊寄贈される。だがこれもいつかパンクするのでは？現実、1200万冊を収納できる書庫は、2001年にほぼ満杯になった。それを見越してあらかじめ、2002年10月、京都に約600万冊を収納できる国会図書館関西館がオープン。資料の電子化も着々と進んでいる。

数を数えるのにどうして「正しい」の「正」を使うか……この方式は清の中国で行われていたものが伝わったらしい。劇場では当時切符がなく、劇場の係が客引きをして入場させていた。そのときの入場者を数えるのにこの字が使われていたのだ。一人の係が5人入場させ、記帳係が黒板に一つ正の文字をかく。五画で全てが直線だから書きやすく、使い勝手がよかったのだろう。ちなみに江戸時代の日本では「玉」の字が使われていたらしい。しかし4のときの「王」と似すぎていたり、汚れと紛らわしかったり、ズルができたりするため、「正」の字があてられるように。5画なら何でもよいのだが、なんとなくこの漢字しかないような気がする。「本」だと格好がつかない。

福の字がひっくり返ったやつ……中華料理屋でよく見る「福」の字がひっくり返ったアレ、どうしてそんな風になっているかというと、まず中国語でアレは「倒福」(dao2fu4)という。これが「到福」(福が来る)に繋がるのだ。二つともピンイン(発音)が同じなのである。

なぜ100℃を超えるサウナでやけどしない？……フィンランド生まれのサウナの室内温度はおよそ90から100℃。これがお湯なら大やけどは必至だが、どうして空気なら耐えられるのか。それは皮膚の周辺にできる汗の水分の膜のおかげだ。これが皮膚を保護してくれるため、やけどしなくてすむ。

魚介類の「介」はなにか……よくよく考えると、魚貝類という表記はナットクだが、魚介類は意味が分からない。この「介」の字、実は「人を鎧で守っている様」を表現した文字。エビやカニは甲殻類、身を守るための鎧があるのだ。つまり魚貝類にはエビカニが含まれず、魚介類だとより広い海の幸という範疇になる。

変ホ長調とか嬰イ短調ってなに？……音楽には明るい感じのする長調と悲しい感じがする短調がある。曲のミの音が長調か短調かで決まる(ミが普通のミなら長調、半音下げれば短調)。そしてドレミファソラシドをハニホヘトイロハに置き換える。イ長調というのはイ(つまりラ)をドということにして、ドレミファソラシド～と歌うこと。このイが半音下がっていれば変イ長調、上がっていれば嬰イ短調。

カラーバー……深夜のテレビで流れてる(？)カラフルな棒のあれ。ピー。

大仏はなぜ変な髪型なのか……大仏の頭をみると、ドレッドヘアーというかパンチパーマというか、とにかく言葉にできないような変な髪型をしている。これは「螺髪」といい、仏の特徴を示す仏の三十二相の一つ。とくに悟りを開いた最上級の仏様にしか現れない。智恵と徳の高さを表している。ちなみに螺は巻貝のことで、大仏様のコレもよく見ると巻貝みたいになっている。

日本三景は誰が決めたか？……松島(宮城)、天橋立(京都)、宮島(広島)の3つ。これを日本三景にしたのは、江戸初期の儒学者、林羅山の息子、名を春斎という。彼は各地の景勝地をめぐり、この3つに特に心打たれた。それを著書に書いたら、いつの間にか日本三景になっていた。

アメリカで大統領が暗殺されたら誰が大統領に？……暗殺を想定し、アメリカでは職務を誰がどう引き継ぐかまで細密に定めている。当然大統領が死んだら副大統領だ。しかし2人が同時に死んだら上院議長、さらにその…というように、大統領から数えて全部で16人に大統領の権利が与えられている。混乱させたい人は16人全員…いや、あまりに不謹慎か。

お坊さんはなぜ喝！というのか……座禅を組んでいると後ろからお坊さんに喝！と言われる。これ、実はバカモノ！！という意味があるわけではなく、禅宗で間違いに気づかせたり迷いを悟らせたりするための声なのだ。悩みで頭がぼーっとしているとき、肩を叩かれてはっとした経験はないだろうか、あれを狙ったものなのだ。

飛行機の発着時刻ってどの時点のこと？……通常民間航空会社では離陸のためその場所を離れた時刻を出発時間、地上滑走を終えて停止した時刻を到着時間と定義している。だから、到着時間の定刻にロビーに姿を現すなんて表現は、おかしいのだ。

ライトモティーフ……楽曲の中で特定のイメージと結びつけられたメロディーのこと。「ジャジャジャジャーン」が運命のライトモティーフかというとそういうことではなく、もっと様々なメロディーが有機的に組み合わさり、音楽の進行にドラマ性を生みだすものを指す(映画音楽などで、特定の登場人物のテーマ曲が決まってて、絡みのときにはその音楽どうしも絡む…みたいな)。古典派ではメロディー(つまりモティーフ)が音楽の進行に影響することなどはなかったが、続くロマン派にて『幻想交響曲』が現れ、それまでの常識を打ち破った。例えばベルリオーズが用いたのは「固定観念」という手法。彼はあるメロディーを自分の元カノに結び付け、物語としての交響曲の間に、何回もそのメロディーを導入した。オペラでも同様に、ワーグナーは「音楽と劇が別個に進行してはならない」と考え、登場人物、感情、物体すべてにテーマを決め、そのテーマにあった曲を流すようにした。

夜の女王のアリア……モーツァルト作曲オペラ「魔笛」の中で、夜の女王(ソプラノ)によって歌われる2曲のアリア。あまりに音程が高いため、たいていの人は歌えない。そのためソプラノ歌手たちの登竜門となっている。通常、第2幕の「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」(Der Hölle Rache kocht in meinem Herzen)を指す。変声期前の少年の録音も残っている。

香港97……幻のクソゲー。スーファミ用ソフトだが、マジコンによる起動を前提としている。「香港の中国返還をひかえた1997年。治安の悪化などをおそれる香港政庁は、ブルース・リーの親戚でもある殺しのプロ陳に中国人民12億人の抹殺を依頼した。しかしその一方中国では、死亡した鄧小平を巨大兵器に改造する研究が行われていた」というあらすじのとおり、陳が主人公となり、襲い掛かってくる中国人を撃つだけのゲーム。バックには変な中国語の歌が流れる(我愛北京天安门, 天安门上太阳升の部分が無限ループ)。

糺の森……ただすのもり。京都にある東京ドーム三個分ぐらいの森。世界遺産登録。応仁の乱や寺社領の没収によりその7割を失いながらも、大都会京都に未だ形を留めている。この一帯が山城の国と呼ばれていた頃の姿を未だに保っているため、いわゆる「原生林」だ。源氏物語や枕草子にも登場。

マクガフィン……登場人物にとっては重要だが、観客や読み手からすれば置き換えが可能なもの。「これじゃないとダメ」という理由が特にない。怪盗の物語に登場する宝石だとか、スパイ映画に登場する機密文書など。世にも奇妙な物語の「理想のスキヤキ」では、黒くて丸い変な何かを登場人物が焼いて食べるシーンがあったが、これもマクガフィンのひとつ。結局何だったのだろう。

ズンドコベロンチョ……Windowsの変換予測に登場するぐらいには有名な世にも奇妙な物語のエピソード。優秀で頭の良いサラリーマンが「ズンドコベロンチョ」なる謎の流行語の正体を探ろうとするも、結局わからずじまいで終わってしまう。スキヤキのエピソードに近い。

ＹナンバーのＹの意味……米軍関係者の車両でなおかつ課税対象車につくナンバー。つまり、日本在住の米軍の人が自分で買った車のナンバー。ヤンキーのＹであるというのがあるがあれは俗説で、実際はYokohamaのＹである、というのが正しいよう。というのも、この制度が始まったのが横浜だからだという。高速道路が無料だったり、車庫証明が必要なかったり、課税額が普通の車の半分以下だったり、なんとも理不尽ではある。保険にまともに入っていない人が多いこと、米国が訴訟大国であること、ことばが通じないことを考えると、事故ったときの面倒さは普通の数倍になるだろう。

一日は長くなっている？……潮汐摩擦によりだんだん遅くなっている。その割合はおよそ5万年に1秒程度。ただ、数億とかそこらのスパンで見れば、必ずしも一定の割合で長くなっているわけではない。

なめろう……アジ、サンマ、サバ、イワシ、トビウオなどの、青魚の三枚おろし、または青柳の上に、味付けの味噌、日本酒、ネギ、シソ、ショウガ、ミョウガなどを乗せ、そのまままな板の上などで、包丁を使って粘り気が出るまで細かく叩いた料理。これをツバキの葉で包み鉄板の上で焼いたものは「さんが焼き」と呼ばれ、千葉県の名物になっている。

カバディ……名前は聞いたことあるけどルールわからないスポーツ2位。南インド発祥でインドの国技、というかインド、パキスタン、バングラデシュなど南アジアで数千年親しまれてきたすごいスポーツ。獣に対し武器を持たずに多彩なテクニックを用いて数人で囲み、声を掛けながら捕らえる、というワザが競技になった。「カバディ」という言葉自体には意味は無く、無心に発声することで平常心へと導き、体と心を一体にするマントラである。インドの二大叙事詩の1つ「マハーバーラタ」に、主人公の息子がクル戦争で七人の敵に囲まれ、突破しようと試みるが力尽きる…という記述があり、それに基づいて1チーム7人でプレーする。攻撃側から一人選び(レイダーという)、その一人が7人の守備側(アンティ)のエリアに入る。一人は「カバディカバディ」と叫びながら、守備側のチームのメンバーにタッチし、素早く自分のエリアに戻らなければならない。このとき、タッチした人数分の点数が攻撃側に入る。ただし、途中で声が途切れた場合、点数にカウントされない。守備側は点を取られないように、その一人の四肢や胴体を捕まえる必要がある。エリアに戻られるのを防げば、守備側に一点が入る。これを繰り返し、点数の多かったチームが勝利。1チーム10～12人いて、コートに入れるのは各チーム7人まで。きつそうだが、プロ選手はこれだけでめちゃくちゃ稼げるらしい。オフェンスは個人だがディフェンスは守備という変わった特徴を持つスポーツ。ぜひともやってみよう。

セパタクロー……東南アジア発祥のゲーム。名前は聞いた以下略。バレーボールに似ているが、ネットを挟んで「足や腿や頭」を使って、ボールを相手に打ち返すところが違う。ネットは1メートル50センチで、守備側のローテがないこと、同じ選手が続けてボールに触れるところなども違う。3回以内に打ち返すところは同じ。手や腕を使うのが禁止なので、かなり動きがアクロバティックである。今や世界的な競技になりつつある。

関東ローム層……関東にあるロームの地層。ロームとは、「シルトおよび粘土の含有率が25～40％程度のもの」という意味であり、火山起源かどうか関係がない。関東地方西縁の富士山などの火山、北縁の浅間山などの火山から関東平野に降下した「ホコリ」みたいなもん。火山周辺に堆積した火山灰などが、風で再度運ばれて周辺に堆積した。

ストループ効果……赤を青文字で書かれるとよくわからなくなるアレ。文字意味と文字色が干渉しあうことで起こる。うつ病患者と健常者では、有意にその回答時間に差があるらしいが？

ランチェスターの法則……戦闘の数理モデルの一つ。第一法則、第二法則に分かれ、2つの軍の兵員数と武器性能比(Aの武器性能とBの武器性能の比)を変数とする方程式であり、第一は一次、第二は二次方程式。簡単に言えば「戦闘はほぼ数が全て」を数学的に示したものといってよい。どんなに高性能な武器も、数が少なければうまく機能しない。戦艦大和には気の毒だが。

しょっつる……秋田県で作られる魚醤。昔はハタハタを使っていたが、今はサバなどもある。これらに塩を加え、1年以上熟成させてつくる。うまみと特有の風味が特徴的だが、想像するような魚の臭みはほとんどないらしい。現在、自家で作る人はほとんどいなくなっている。「塩汁」がなまったものだという。

三賞……通常大相撲の三賞を指す。横綱・大関以外の成績優秀な幕内力士に送られる三種類の賞の総称。戦後、大相撲の人気回復のために設けられた。殊勲賞(しゅくんしょう)・敢闘賞(かんとうしょう)・技能賞(ぎのうしょう)の3つ。殊勲賞は「優勝経験のある力士から白星を挙げた力士」に贈られ、敢闘賞は「まあよくがんばった力士」に贈られ、技能賞は「優れた技能をもつ力士」に贈られる。

アレンの法則……「恒温動物において、同じ種の個体、あるいは近縁のものでは、寒冷な地域に生息するものほど、耳、吻、首、足、尾などの突出部が短くなる」という法則。ヒトを除けば最も寒冷なところに住むニホンザルの尾が極端に短いことをはじめ、様々な動物に言える。これは当然体温維持において、表面積が小さいほうが熱を奪われず、生存に有利だからという理由で説明される。同じキツネ類でも、砂漠にすむフェネックギツネは耳が大きく、寒冷地に住むホッキョクギツネは小さい。これは、前者が耳を大きくすることで体温調節を容易にするのに対し、後者はそのような部分の体温を維持するのが困難であり、また極力無駄な放熱をしたくないから…とされる。

ベルクマンの法則……アレンの法則に似ている。「恒温動物においては、同じ種でも寒冷な地域に生息するものほど体重が大きく、近縁な種間では大型の種ほど寒冷な地域に生息する」というもの。クマが代表的で、熱帯に住むマレーグマは140センチと小柄、日本やアジアなどの温帯域に住むツキノワグマは130～200センチ、温帯から寒帯に住むヒグマは150～300センチ、ホッキョクグマだと300センチにもなる。また、シカにも当てはまる。放熱は皮膚表面から行われ、熱生産は身体中で行われることから、前者は体長の2乗に、後者は体長の3乗に比例する。つまり、体長が大きくなるにつれ、体重あたりの体表面積は小さくなる。温かいところでは放熱を十分に行う必要があるから体重当たりの体表面積は大きくなければならず、小型であるほうがよい。逆に寒いところでは放熱は簡単だが、むしろ放熱を抑える必要があり、そのためには大型であることが有利となる。変温動物、とくにヘビやカエルやコオロギなどでは、逆ベルクマンの法則ともいえるものが適用されうる。日光浴などで体温を上げるためには、体が小さいほうが有利だから、だとか、単にエサがとれないから、と説明される。

便衣兵……非戦闘員の服を着て敵地に忍び込み、破壊活動などを行う兵士のこと。通常、民間人が殺傷行為などを行えばその国の法律に照らして処罰されるが、兵士は必ずしもその限りではない。つまり兵士が(一般的な)犯罪行為を行う際は、軍服を着ていなければならない。そうしないと騙し討ちもスパイも何でもありになってしまうからだ。また、これを認めてしまうと、何の罪もない民間人を「実はお前兵士だろ」といって処刑することも可能になってしまう。国際法じたいはもともと条文のないいわば「互いの暗黙の取り決め」であったが、その時代から便衣兵というものは暗黙で互いに禁止しあっていた。今でも便衣兵は国際法で裁判にかけられ処刑される。即ちジュネーブ条約における捕虜としての資格を有しない。かつて「南京大虐殺」において、日本側の「中国の便衣兵を処刑しただけだから民間人の虐殺じゃないよ！」という主張があったが、炎上しそうなのでこれ以上は伏せておく。そもそも裁判もせずに処刑ってなんだｙｺﾞﾎﾝｺﾞﾎﾝ

鬼籍……閻魔様が持っているとされる、いわば「死者の戸籍」。生死簿、閻魔帳とも呼ばれる。亡くなった人々の名前と亡くなったときの年齢だけでなく、生きている人間の寿命も書かれているらしい。ちなみに「鬼」は、みんなが想像する鬼ではなく、死者の霊魂のこと。「鬼籍に入る」「鬼籍に登る」という表現で使われることが圧倒的に多い。

狂人の真似とて大路を走らば、すなわち狂人なり……徒然草85段にあることば。「狂った人の真似といいながら大通りを走れば、走った人も狂人と同じだ」というのが逐語訳ではあるが、真の意味はこれに続くことばにより理解される。曰く「悪人の真似とて人を殺さば、悪人なり。驥を学ぶは驥の類ひ、舜を学ぶは舜の徒なり。偽りても賢を学ばんを、賢といふべし」と。「悪い人の真似といいながら人を殺せば、その人も悪い人だ。キ(一日千里を走る馬)を学ぶのはキと同類で、シュン(古代中国の名君)に学ぶのはシュンと同類だ。嘘にでも賢いことを学ぶのを、賢いというのだ」という意味。つまり総意としては「偽善でもいいからボランティアやれよ」と同じようなベクトルのものになる。決して「狂ってない人は狂人の真似なんてしないゾ」「まじめな人も狂人の真似をすれば狂人だ」みたいな表面的な意味だけではないので注意しよう。

狂った世の中で狂うなら気は確かだ……シェイクスピア　リア王の名言とみせかけ、実は違う。黒澤明「乱」の狂阿弥によるセリフ。文脈がわからんので何ともいえんが、たぶん正しいだろう。なぜかリア王でのことばみたいになっている。

夏色ハイスクル★青春白書 ～転校初日のオレが幼馴染と再会したら報道部員にされていて激写少年の日々はスクープ大連発でイガイとモテモテなのに何故かマイメモリーはパンツ写真ばっかりという現実と向き合いながら考えるひと夏の島の学園生活と赤裸々な恋の行方。～……長い長すぎる。正式表記(漢字を使った正式な表記法)で日本一長いタイトルのゲーム。そのタイトルが端的に()表しているように、報道部に入った主人公が同級生や学校の女の子を写真で撮っていきながら、たまに盗撮がバレて警察に捕まり、たまに好感度を上げて個人エンディングに持ち込んだりするゲームである。スライディングも可能なので、ローアングルからパンツを撮ることも可能。というかむしろそっちが本番。だがCEROレートはDであり、盗撮は性犯罪であるにも関わらず、未成年が購入出来てしまうというガバガバ設定。GTAとは違った意味でヤバい。ちなみに日本一短いタイトルは「蚊」であり、おそらくこっちはこれからも更新されないであろう。

バンジョーとカズーイの大冒険……ニンテンドウ64の昔懐かしゲーム。ちょっと呑気な性格のクマ、バンジョーと、その相棒で毒舌な赤いキツツキ、カズーイが、魔女グランチルダにさらわれてしまったバンジョー妹、チューティを助けに行く、という内容。懐かしという割に筆者はやったことがない。というのもニンテンドウ64なんてうちになかった。PSが初めてなんで自分。ケモナーの筆者にしてみればカズーイが余裕で射程圏内なので好きになったゲームの一つ。かなり有名な名作らしいので、やってみては。

エキノコックス症……寄生虫の一種であるエキノコックスにより人体に引き起こされる感染症の一つ。包虫症とも。キタキツネ、イヌ、ネコ、タヌキ等の糞に混入したエキノコックスの卵胞を、摂取行為を介してヒトが経口感染することで発生するとされる。その後肝臓に寄生して発育、増殖し、肝機能障害を引き起こす。潜伏期間は10年から20年、無症状。しかし症状が一旦現れると病状はかなり重く、腹痛、皮膚の激しいかゆみ、咳、血痰、胸痛、発熱などを催す。日本ではキツネが有名であるが、実は牛や羊、豚、鹿と接触することでも起こるし、イヌ科でいえばイヌ、オオカミ、コヨーテの糞との接触でも起こる。

レジスタンスとパルチザン……レジスタンスは社会的運動による抵抗を指し、民間人によって行われる。スピーチ、他の一般人に働きかけたサボタージュ運動の煽動など、その行為は銃や大砲などの武力に頼らない。しかし一旦銃や大砲を使い武装すれば、それはもうパルチザンとなる。パルチザンは正式な軍と違い戦力が高くないので、主にゲリラ的な戦法をとって闘うことが多い。

足柄……妙高型重巡洋艦。1937年ジョージ6世戴冠式のときに招待されてイギリスに行ったさい、「飢えたオオカミ」というあだ名をつけられたことで有名。日本人はこれを精悍さに対するほめことばと受け取ったが、何より相手はイギリスである。「ゆとりがなく、無骨なばかりで、乗員のための乗り心地なんてちっとも考えてないな」という、本場ならではの皮肉とも考えられる。「今日初めて私は軍艦というものを見た。今まで私が見てきたのは客船だった」という某イギリス人記者のことばも、やはり皮肉に違いない。どうしてこんな風になったのかというと、イギリス軍が(本国と植民地を繋ぐ長大なシーレーンを維持するために)日本よりも長い航海をする必要があったことも理由にあるが、まあ日本だ。大日本帝国海軍が「乗り心地」なんてものを重視するはずもないだろう。であるからこのあだ名も割と的を射ている。

アイネクライネナハトムジーク……ベートーヴェン作曲のセレナーデ。第13番。クイズ大会ベタ問。この長さがベタ問っぽい。「バーカ　アーホ　ドジマヌケー」って言えばわかるだろう。日本人なら一回ぐらい聞いたことのある曲。“Eine kleine Nachtmusik”は、小さな夜の曲　という意味。日本語では「小夜曲」とも言われていたが、最近はほとんど使われない。

店の前の盛り塩……焼肉屋などでよく見るあの塩。実はお清めのためのものではない。客に来てもらうためのまじないなのである。昔中国の皇帝は「36の後宮には3000人の淑女ヨソオイを餝り」といわれるほど多くの妾を囲い、牛車で夜ごとに尋ね回っていた。それだけ多いと競争率が高すぎる。そこである頭のよい妾が一計を案じた。玄関先に塩を盛ったのである。すると草食動物である牛が案の定立ち止まり、その夜は寵愛を受けた、と。

秋ナスは嫁に食わすな の意味……漢方の世界では自然界のあらゆるものは陰と陽に分かれる。ナスは強い陰性をもつ。元気な子を産む嫁には食わすなという思いやりのことばだったのだ。じじつ、ナスにはソラニンが微量入っており、体が冷えて流産しやすくなる…らしいが。それにしてもナスはなぜあんなにうまいのだろう。

打診でなぜ症状がわかるか……打診、それは18世紀半ば、酒場の親父が酒樽を叩いて残量を調べているのを見て、オランダのアウエンブルッガー医師が思いついたとされる。指で叩くのは肺とその上部で、音を聞くために行っている。健康なら肺の内部には空気が入っているが、その空気の具合を聞いているのである。ベテランなら、肋膜炎や心臓肥大など、これですぐにわかるという。ただ現在はちゃんとその後、科学的な診断をしている。

ブタは強い男の象徴だった？……ブタはほんとはきれい好きな生き物なのだが、自分の糞の上で転がることから、汚いイメージがついている。アメリカで「pig」といえば、日本で「ポリ公」というのと同じこと。フランスではブタを「コション」というが、これは太って汚く、やらしい男という意味がある。だが戦国時代、最上義光(よしあき)は、一番強い力持ちに「武太之助」の名を授けていたらしい。うーん。現代人にしてみれば不名誉な気もするな。

江戸のリサイクル法……昔は大きな都市から出る屎尿が、貴重な資源であった。屎尿を使った農家は都市に新鮮な野菜を供給していたため、まさにリサイクルが成り立っていた。江戸時代には、下肥を集めるための肥桶が開発され、下肥を買う農民が、今でいう千葉や埼玉から、荷車に肥桶と野菜を山のように積んででかけていたという。資料によれば、畑から収穫したダイコンの売り上げで、40％ほどが肥料代になっていたため、江戸は世界一清潔な街の一つでもあった。

江戸時代に「飲み水を買う」習慣が？……水道水をそのまま飲むのが不安でミネラルウォーターに手を出すマダムたち。しかし実は江戸時代でも、「水屋」がいたという。神田上水や玉川上水は、自然の勾配をつけて配水されていたため、使われない水はそのまま河川などに流れる。そういう水を水船で運び、上水の通っていないところに行って、天秤棒の両端にオケをつけたもので売り歩いていたという。だが、塩水を含む水を売るところもあったようで、来客に出す茶が作れないと嘆く話も残っている。

ローマ帝国は鉛のせいで滅んだ？……鉛は血管や腸管の痛み、神経麻痺、精神錯乱などを引き起こすという。だが、ローマ帝国はその鉛を、さかずき、食器、上下水道や浴場のパイプなど、さまざまなところに使用していた。上流階級に死産・流産が多かったのも納得である。というが、江戸時代から明治にかけて、鉛白(えんぱく)という、炭酸鉛のおしろいが使われていた。毒性にも関わらず使われていたのは、それだけ身近であったのだろう。

イスラームの女性が顔を覆うのはなぜ？……実はコーランには「顔を隠せ」なんて戒律はない。「美しい所は他人に見せぬように」「胸には覆いをしろ」だけ。あんな暑いところで覆いをしたらほんとに暑そうだが、実はそうでもない。外気とは違う温度と湿度の層をつくり、暑さから身を守ってくれる。同時に、日焼けもしなくて済む。所変われば品変わる、厳しい戒律は、実は生活の知恵から生まれたのではないだろうか？

オミナエシ……秋の七草の一つ。しかし漢字が「女郎花」であり、これは昔オミナメシといい、女郎飯、つまり女性用のご飯を表していたという説がある。男尊女卑の時代、女性が食べていたのは黄色いアワのご飯。それで、小さくて黄色い花のオミナエシにこの名前がついたのだと。そしてオミナエシの仲間にオトコエシという花もあり、こちらはオトコメシが元なのでは？なぜならこの花は白飯…白い花なのだから。他にも、男女の名前のつくペアの植物は割と多い。オタカラコウとメタカラコウ、チチコグサとハハコグサ、オカルガヤとメカルガヤ、オナモミとメナモミ。

じゃんけんはもともと「ヘビ・ナメクジ・カエル」だった？……じゃんけんは中国で生まれたもの。グーチョキパーが一般的であるが、実はこの形にしたのは日本人。中国では「ヘビ　ナメクジ　カエル」の組み合わせであったようだ。ヘビはナメクジを怖がり、ナメクジはカエルを怖がり、カエルはヘビを怖がる。これが江戸にて三すくみの思想として受け入れられ、今のじゃんけんの形になったらしい。

懐石料理と会席料理の違い……懐石というのは懐に石を入れるという意味。禅宗のお坊さんが空腹を紛らわせるため、温かい石を懐に入れた故事に由来する。つまりもともと、懐石料理はお腹がちょっと温まるくらいの軽い食事だった。今ではグルメの極致になっているが。客の懐は寂しくなり、店の懐が温かくなるという仕組み。最近では会席料理ともいうが、これはほぼ同じ意味。あえていえば、茶道で会席と呼ぶぐらい。

ロッキングチェア……北米とか北欧のおばあちゃんの家にありそうな揺りイス。実は老人用の運動器具として考えられたものだった。十分に揺れるには、足腰に結構な力を入れなくてはいけない。しかしまあ、なんであれはあんなに眠くなるのだろう。あのケネディ大統領も楽しんでいたというから、驚きだ。

ストラディバリウス……バイオリンの名器の一つ。良いクラシックには演奏家の技術も必要だが、楽器の良しあしも大きく関わるという。ストラディバリウスなどの名器は何が違うのだろう。実は材料の木片に秘密があるらしい。楽器の木片を提供する人はごく少数で秘密だったのだが、解析の結果わかったことがある。木片が5年もの間海水につけられ、楽器にされる直前に、細かく砕いた砂をまぜたビールにつかっていた。こうすると、普通だとつまってしまう木の中の組織の管が、ずっと貫通したまま保たれ、いい音色が出るらしい。さらに、表面のニスも、トンボやハチの羽を溶かして作ってあった。

手品のハトが白いのは……黒いシルクハットから何匹も出てくるのがマジックの「よくある」パターンだが、あのハトが白いのは見栄えだけの問題ではない。ギンバトといって、他のハトより体が小さいのに、羽を広げると同じ大きさに見えるからなのだ。それに、性格もおとなしく、マジックしやすい。だが普段からちゃんと餌を与え、可愛がっているからこそできる芸当。器用さだけでなく、動物を愛する心も必要なのかも。

クジラはなぜ海の中で生活できるか……よくよく考えると、哺乳類であるクジラは、呼吸などをどうやっているのか。その秘密は肺の大きさ…にはない。実は大きさ的には人間の1.5倍ぐらいしかない。シロナガスクジラで15分に1回、マッコウクジラなら1時間に1回でいいというから驚き。人間の潜水能力とどうしてこうも差が出るのだろう。それは呼吸の仕方にある。私たちはいわば浅い呼吸しかしていないから、一回の呼吸で10～15％しか空気を入れ替えられない。クジラは一回あたり80～90％ぐらいは入れ替えるという。さらに、クジラは筋肉に沢山の酸素をため込む。ミオグロビンが多量にあり、通常の陸上動物の3、4倍ぐらいにはなるという。マッコウクジラでは8～9倍にもなる。ミオグロビンのせいで、クジラの肉は濃い赤に見えるのである。

クジラはなぜ陸上では死んでしまうか……ウミヘビの一種には、皮膚で水中の酸素を吸収する力を持ったものがいるそうだが、なぜか陸から水に戻った動物は全般的に、陸上時代の呼吸法を忘れられないらしい。クジラはどうか。実はクジラは陸ではわずか数分で死んでしまう。肺呼吸のクジラはどうして死んでしまうのか。実は大きくなりすぎた体に、陸上の重力が強くかかるためである。皮下脂肪を厚くして水圧への抵抗力を得たクジラは、水中に住むという利点を使い、どんどん巨大化した。その大きさは最大で32メートル。地球で最も大きい動物の栄誉を得る代わりに、骨どうしのつながりを緩めるしかなかった。陸上での自らの100トンの体重を支えることは到底不可能。そのため、肺などの生存に不可欠な機能が潰され、陸に里帰りしても、数分しか生きられないのだ。

野生動物に肥満体がいないのはなぜか……実はかれら、自分たちが食べられる分以上のものは決して食べようとしないのだ。満腹しているように見えても、決してお腹がはちきれるほど食べていない。たとえばライオン。彼らは空腹でない時は、たとえ近くに獲物がいても見向きもしない。猟をするのはお腹が減ったときだけ。苦労してしとめた獲物も、持って帰ろうとはしない。自然界の連鎖を維持するには、こういう「バランス」が大事。自分だけよければという態度を貫けば、いつか自然から大きなしっぺ返しがくることを、野生動物たちはわかっているのかもしれない。ただし動物園で平和ボケした動物は別。きちんと人間が餌量を調整しなくてはならない。

青白いアカトンボ？……瀬戸内海沿岸や近畿地方にナニワトンボという名前のトンボがいる。トンボなのに日陰を好み、成熟したオスは少しくすんだ青白色をしている。赤くないのにアカトンボの仲間なのは、体つきが似ていること、雌雄が連結したまま産卵するという共通点があること…などによる。アカネ属にいれるのはいいが、せめて何かしてやれなかったのかとも思う。ナニワトンボのほか、黒くなるマダラナニトンボなど、アカネ属なのに赤くないのは6種類もいるらしい。

タコのスミは目くらまし以外にも……タコの天敵はウツボ。ウツボに食いつかれると、スミを吐く以外の対抗手段がない。だが、食いつかれた後に目くらましをして意味があるのだろうか。実は最近、相手の嗅覚をかく乱させる効果があることがわかったという。タコの傷口からはウツボの大好きなにおいが出るのだが、それをスミでかき消して、第二第三の攻撃を回避しようというわけだ。

イルカが陸地に近付く意外な理由……イルカは肌に深いシワをつくることで水の流れをスムーズにし、乱流を起こさぬようにしてすばやく動けるのだが、イルカに寄生虫がつくと皮膚が固くなり、シワができにくくなってしまう。そこで陸地近くの淡水のところにいき、淡水に弱い寄生虫を殺そうとしているらしい。魚を追って陸地に近付くと、海の濁りで音波が反射し、迷子になって死んでしまうというのが定説だが、これ以外にも「地震の前触れである」のようなオカルトめいたものまである。

シマウマの模様は目立たないか……動物の世界では生存のため、ユニークな方法をとるものもある。その一つがシマウマ。あんな白黒模様をしていて目立たないのだろうか？と思うのが人間の浅はかさ。実はあれは非常に優れた保護色なのだ。彼らのすむサバンナ地帯は、広くてなだらかな丘陵の随所に、灌木や背丈の高い草むらがある。そして強烈な太陽で、風景から色彩を奪ってしまうようだ。そういう環境では彼らの白黒ストライプ模様は、群れをなすほど、草むらや灌木に見えてしまうのである。肉食獣は最初は遠くから獲物を物色するという習性を使い、見事に欺いた好例といえるだろう。

競走馬はなぜ予後不良で殺されるのか……細い脚で全力で走るため、事故も多い競争馬。骨折はほとんどが全治数週間から数か月で、治療不可能と判断されて殺されるのがほとんどである。残酷にも思えるが、実はウマは眠る時さえ横にならない。であれば体を宙づりにするしかない。しかし何週間もつるしておくと、体の機能が滞り、内臓に障害をきたしてしまう。また、神経が繊細なのでストレスのために死ぬことも少なくない。生きていても生きがいがないから殺す、というのは確かにウマのことを考えているように見えるが、うーむ。そこを割り切れないのが人間なんだよなあ。

指紋があるのは人間だけか……実はお猿さんにもあるらしい。だが霊長類だけなのは確か。サルの中にはシッポの先にあるもの、指の外側にもあるものもいる。皮膚隆線といわれるこれらは、なぜあるのだろう。まず、ものと手の間に摩擦力をつくり、汗腺と神経の末端を集中させることで、ものをうまくつかみ、その感覚を鋭敏に感じ取ることができるのだ。そういう意味で、人間の皮膚隆線はサルの時代の名残ともいえるが、やがて人間だけが道具を使うことを覚え、サルよりも確実にものをつかむことを要求されるようになったのは面白い。

なぜ人間には尻尾がないか……リス、キツネ、カンガルーなどは、跳んだり跳ねたりするとき、尻尾を上手につかって体のバランスをとる。敵を威嚇したり、降伏の印として尻尾を上げ下げしたりする動物もいる。サルは枝にぶら下がったり木の実を取ったり、手足の代わりに尻尾を使う。ウシ、ウマ、ライオンなどは、虫を尻尾で追い払う。カバはあの短い尻尾を使ってフンをまき散らすことができる。尻尾は動物にとって大切なのである。だが、イヌやブタのように家畜化されてきた動物は、だんだん尻尾がシンボル化し、退化の兆しを見せているとのこと。イヌはまさにその例で、野生のイヌは寒気や寄生虫から身を守るために尻尾でお尻を隠しているが、飼い犬のイヌはそんなことをせず、自分を誇示するために常に上にしている。人も同じで、直立して二本足で歩くと、尻尾が邪魔になり、尾てい骨という痕跡以外、残っていないのだという。

霊長類だけ「目が正面にある」理由……指紋と同じく霊長類に共通する特徴として、目が前方にある。これもやはり同じ理由。両目がそっぽを向いていたら、物を掴もうとするとき、どちらか片方に頼ることになる。実際にやってみるとわかるが、立体感がなくてかなりやりにくい。森のサルも同じで、枝を掴むために手を伸ばしても空を切ってしまうし、木のみをつかみ取ることもできない。三角測量の原理と同じで、二点から一点に焦点を合わせることで距離感を正確に知ることができるのだ。

五か月も水に潜ったままのカメ……現在世界には240種類のカメがいる。陸、水、両生、海洋の四種類に分かれ、体の構造もスタイルも全く違う。それぞれに適応している。たとえば海洋のウミガメ類は、抵抗を減らすため、甲は平で、足は扁平なオール状。逆に陸生のカメは、ウミガメと違い頭や足を引っ込めることができる。外敵から身を守るためだ。ウミガメで最も適応しているのはオサガメ。スピードだけでなく、水面下1200メートルまで潜水できるのがすごい。さらに一回の潜水で五か月も潜っていられる。その秘密は、エネルギーを脂肪からグリコーゲンに切り替え、酸素を使わずに動き回れるようにしているところにある。

ハゲワシの頭がハゲているのはなぜ？……ハゲワシやコンドルは不気味だ。獲物を食べているところにいつの間にか集まり、鋭い目でじっと狙っている。死体をついばみに来る姿、まさにおぞましいの一言。チベットや西インドには、死体を彼らに食べさせる、鳥葬という風習があるが、どうもやはり私たちには不快感がぬぐえない。だが、彼らのアタマがハゲなのはなぜなのだろう。実はこれ、彼らなりの知恵なのだ。死体をついばむとき、表面をつついたりかじったりするのではなく、死骸の破れたところから首を突っ込んで中身を食う。羽毛があると食べる時に不都合である。ハゲた部分は鳥によって違い、その度合いはそのまま突っ込む深度に関連している。

空を飛べない始祖鳥の翼は何のためにあったのか……始祖鳥の翼は、羽毛の少なさ、面積、それに体の重さからして、空を飛べるシロモノではなったらしい。せいぜい滑空が精いっぱいだった。それではどうして翼ができたのか、についてだが、様々な説がある。まず体温調整用。寒い時には羽毛をふくらませて体を温め、暑い時には翼をバタバタさせて涼む。そのうちフワッと身体が浮いて、飛翔器官として発達した、という笑えるものも。そのほか、虫叩きに適していたというものもあるが、かなり苦しい。

セミはいつ脱皮するか……いつしているのだろう。それもそのはず、午後7時ごろから、セミは地中の穴から這い出して、夜脱皮するのだ。ここには深い理由がある。実は小鳥に幼虫が食べられてしまうから。小鳥は日中や早朝に活動するため、夜に脱皮するのだ。なにしろ七年間を地中で耐えるのだから…。自然界は本当にうまくできているなあ。

水鳥は氷水に足をつけてて寒くないのか……冬、氷の張った池で、カモ、ハクチョウ、サギなどの水鳥が泳いでいるのを見るが、あれ、足寒くないのかなと思ったことはないだろうか。実はここが本当によくできていて、彼らは足の付け根らへんにワンダーネット(動脈の毛細血管が網の目のように互いにクロスしていて、足からの冷えた血液と体からの暖かい血液が血管を接して流れるというもの)があり、体と足の体温に差をつけて、二重体温にすることで冷たさを感じないようにしているのだ。我々が0度の水を冷たいと感じるのは体温が36度だからだ。大事なのは体温と周囲温度の差。体温が0度であれば、0度の水を冷たいと感じるはずもなく。血管を接させることで血液を冷やし、それと同じことをやってのけているのである。

どうして鳥は電線の上で寝られるのか……人間がやろうものなら、すぐ落ちてしまいそうだが。その謎を解くカギは足指の腱のつくりにある。腱は足の上のほうの筋肉に繋がっていて、引っ張られると足指が自動的にぐっと曲げられるしくみなのだ。彼らがうずくまっているときは、足は自動的に曲がる。だからつかんでいられる。

ガはチョウの先祖？……両方とも、分類上は鱗翅目に属する兄弟のような関係なのに、チョウはきれいで、ガは不気味。だが実は、ガはチョウの祖先にあたるもの。ガは夜行性でチョウは昼行性、その差がそれを証明しているという。というのは、ガのように羽に鱗粉がある昆虫は、みな夜行性だったという。しかしあるとき、ガの一種が昼に寝るのをやめたそうだ。そのため、暗闇を飛ぶとき頼りにしていたキモい触覚も、昼には必要なくなる。そして羽の色も、敵をおびやかしたり、花の間を飛ぶときの保護色のためを目的とし、鮮やかに変わっていったのだという。

シカが我が子を守るための戦略……当たり前だが、赤ちゃんの動物は何であろうとすぐには走れない。しかしそれだと、ライオンから身を守ることができず、滅んでしまう。シカは驚くべき戦略をとっていた。一緒に走れないなら、走らなければいい、とばりに、3日間ほど小鹿を隠すのだ。母シカは、ここなら大丈夫と言う場所を見つけて出産し、そこに置き去りにする。安全なときを見計らい数回ほど授乳にいくが、それ以外はマジで知らんぷり。肉食獣に匂いでバレぬよう、その際に小鹿の体をきれいに舐めまわし、匂いを消すのだという。近くにいるだけが愛情ではない、と、全国のベタベタ親には学んでもらいたいものだ。

昆虫はどうしてあおむけで死ぬか……セミ、クワガタ、コオロギ、テントウムシなど、昆虫の死骸はほとんどあおむけ。というのも、それが彼らの休息の姿なのだ、ということ。六本の足を乱れずに屈伸させて動き回るのも、筋肉のおかげ。だが、死ぬとその筋肉が化学変化を起こして収縮してしまう。足が内側に折れ曲がって体を支えられなくなり、ひっくり返って永遠の休息に入る。擬死をする昆虫もいるが、よく見ると足の位置が死んだ時とは違っている。

ワニは獲物をくわえながらどうやって呼吸するのか……ワニというと獰猛なイメージがあるが、よく知られているアリゲーター、クロコダイルのほか、カイマンとガビアルの4種類に分けられていて、人を襲うほど凶暴なのはクロコダイルだけ。そんなワニは、陸に突然上がり、獲物をぱくっと捕まえ、水中に引きずり込み、溺れさせてから食べるという習性がある。しかしその際、ワニ自身も呼吸ができず溺れてしまわないのだろうか。実はここがワニのすごいところで、ワニの舌は他の爬虫類のように口から出せないかわりに、隆起させてノドを塞ぐことが出来る。鼻腔は舌より奥にあるため、これでも呼吸が可能。口の中の水が肺に流れないよう、舌が防水壁の役割をしているので、獲物をくわえて溺れさせられるのだ。また、鼻腔や耳にも弁があり、水中深く獲物をくわえて潜る場合、それを閉めれば完全に水を防げる。

クラゲの針は意外に高度……クラゲのかさの下から出る何本もの触手。触手の表面には刺胞という細胞があり、これで刺す。この細胞の中には、長くて細い針状の管が、ゼンマイのように巻かれて入っている。おまけに毒液も。触手が触れた瞬間、ゼンマイ式の管が飛び出し、毒液を送り込むのだ。

電話番号はどうして0から始まるか……固定番号の番号が、市外局番、市内局番、加入者番号の順になっていることはご存じのとおり。だが、市外局番の一番初めは必ず0から始まる。これは、市内局番のエリア外に出るよ、という合図を表す。だから、市内局番のときは、頭にゼロが付かない。

揚水発電って損なのでは？……本当に損だったらしていないはずだからこんな問いかけおかしいけど、まあ聞いてほしい。発電に使った水を貯水池にため、またモーターで引き揚げて使うというもの。せっかく水力発電で作った電気を、水を引き上げるために使っては何にもならないハズ。だがこれは、「いつも一定の速度で発電機を動かす方が、効率がよく、負担がかからない」ためなのだ。ふつう昼間より夜間のほうが、電気の消費量が少なくなる。が、それだと発電機の速さが一定でなく、負担がかかってしまう。使われなかった夜間の電気でモーターを回して水をあげる。そうすると、電気のエネルギーは水の位置エネルギーとして蓄えられたことになる。そして翌日、水を流して発電すると、夜間の余剰エネルギーが有効に使われたことになる。

AMとFMは何が違うのか……周波数が違う、というのではない。確かに周波数は違うが、区別しているのは「電波が音や映像を運ぶ方式の違い」である。音波も電波も同じ電磁波だが、大きさが全然違う。音波は大波、電波はさざ波であり、大波の形をさざ波で運ばなければならないことになる。そこでAMでは、波の山の高さを音波の振動に合わせ、それに換えて送る。とてもわかりやすいが、雑音の影響を受けやすい。一方FMは、波の粗さを変えて大きな波の形にする。音波の山の部分は、電波の波の密度を高くしたり低くしたりで表現する。いまではPCMという方式も用いられている。これは、音波を細かく0から255のコードに分類し、このコードを2進法でわけて電波に乗せている。いわばデジタル化。FMよりさらに綺麗で雑音の影響を受けにくい。CDにも、同じ方式が使われている。

炭酸飲料の炭酸はどうつくるか……炭酸ガスを冷却して強い圧力をかけて押し固める。すると液体になるので、これを味のついた水分に溶かす。すかさず栓をして圧力を閉じ込めてできあがり。蓋を開けるとシュワッと炭酸が出るのは、圧力がよわくなるから。

くもらない鏡はなぜくもらないか……鏡の温度と気温が違うと曇ってしまう(というのはメガネからわかるはず)。であれば、鏡の温度と浴室の温度が同じなら曇らない。というわけで、曇らない鏡は内部に特殊カーボンをつかい、ここに弱電気を通して温めている。普通の鏡であれば、表面の細かいデコボコに界面活性剤の膜をつくればよい。つまり、洗剤か何かを鏡に塗るとよい。

泡がたくさん立つ洗剤のほうが強力なのか……洗濯するとき、泡が立つ洗剤のほうが強力っぽい気もするが、そうでもないらしい。というのも、界面活性剤が繊維に浸透して汚れを包み込み、繊維から引っ張り出すという作用で落ちるため。ヨーロッパでは硬水で泡が立ちにくいのと、ドラム式洗濯機が普及しているので、泡がほとんどたたない洗剤が使われる。それでもちゃんと落ちる。要するに泡の数は汚れの落ちやすさに関係はない。

長距離ランナーと短距離ランナーの互換性はあるか……よく考えれば、どちらがどちらに転向した、という話はほとんど聞かないが、ないこともない。しかしそれは「短距離から長距離へ」の転換であり、「長距離から短距離へ」はないらしい。まず遅筋と速筋は生まれつき比率が決まっていて、どれだけ頑張ってもそれは変えることはできない。短距離においては速筋の多さが大事なため、名選手と言われた長距離ランナーが短距離に転向する例が見られないのはそういうこと。しかも、速筋は遅筋より劣化が激しく、劣化するともう戻らない。コンマ以下を競う短距離ランナーにとってはわずかな衰えも致命的で、それが始まると急速に下降してしまう。だから短距離走者はほとんど若いのだ。しかし衰えた速筋は、トレーニングによっては遅筋に変えることが可能。だから、短距離から長距離になるのはOKである、らしい。

くやし涙とうれし涙の味の違い……実は涙の成分に違いがある。平静時と怒っている時は交感神経が、嬉しい時と悲しい時は副交感神経が優位になる。交感神経優位のときはカリウムイオンと水分が少なく、副交感神経優位のときはこれらが多くなる。つまり、怒り、悔し涙は味が濃く、塩辛い。悲し涙やうれし涙は薄味、というわけ。

集中して考えるとなぜ腹が減るか……灰色の脳細胞は使うためにある、というのはエルキュールポアロの口癖。人間の脳の重さはせいぜい全体重の2％ほどで、ちっぽけ。しかし、消費エネルギーで見ると体全体の18％、酸素だと40％にもなる。妙にお腹が減るのも納得だが、だからこそ夜中に勉強と夜食が捗るのかもしれない。

体重45kg以下の人は20歳以上でも「小児」扱い？……薬の適量は体表面積で決まり、本来年齢とは関係がない。しかし、自分の体の表面積を知っている人なんてまずいないから、年齢を用いたほうが合理的というわけだ。だから、「15歳以上」という薬の表記は、実は前提に「50kg以上」があり、45kg以下なら、小児でいいとのこと。体重の条件が表記されていないのは、市販薬はそもそも薬品じたいの量が少なく、あまり薬害を考えなくてよいから。

血液が固まって骨になる？……骨折の治癒メカニズムだが、実は骨の中の血管が破れて血の塊ができ、これが内出血を止め、さらに折れた骨の隙間を埋めるように固まる。二週間たつと、血の塊が、毛細血管が詰まった状態の、盛んに細胞増殖を起こす肉芽になる。つまり骨が直る時には、血液が不可欠ということだ。

酔っている時にケガすると、血が止まらない……アルコールは血小板の機能を低下させる。さらに血圧が上がったり心臓の鼓動が速くなったりするため、血球が血管から押されて大量に出てくる。タバコは逆に血を固まらせる。こっちもなかなか厄介で、ケガもしないのに血小板を凝集させ、血管に血栓をつくる。それなら酒とタバコを同時に…というのは残念ながら大間違い。打ち消しあうことはないらしい。

いびきをかくのはどうして疲れたとき、酔ったときに多いのか……原因はノドチンコにある。疲れで口蓋垂の緊張がゆるみ、上気道が狭められるために起こる。ここを空気が通るときの低高音や摩擦音がいびきの正体である。よくいびきをかく人は、生まれつき上気道が狭い、口蓋垂が長すぎる、または病気で分泌物が常にたまっているのが原因と考えてよいだろう。また、酒を飲むと鼻腔内の毛細血管が充血し、上気道が狭められて、結果いびきをかきやすくなる。

人間の脳から分泌される麻薬物質……たいていの人は麻薬なんかに縁はないと思っているだろうが、実は自分の脳でも分泌されている。強い痛みやストレスを受け、脳や脳下垂体からエンケファリンやエンドルフィンといった、麻薬と同じ作用を持つ物質が出る。歯が痛い時なんかは特に。分娩中には、最大で6倍の濃度のエンドルフィンが血液に分泌される。また、死の苦しみも麻薬物質で緩和されるという。臨死体験なんかは意外とこれによるものかも。あとはランナーズハイもこれのせい。

飛行機は夏より冬に飛ばすほうがエコ？……同じ航路でも、往路と復路では偏西風のために時間が違う。例えば成田・サンフランシスコ間では2時間もの差がある。たかが2時間と思うかもしれないが、20L缶で180本分にもなるという。1時間あたりでは80万円削減される。経済性には気温も関係し、気温が高いとエンジンの推進力が減るので、夏は冬よりも経済性がかなり落ちる。気温が10度上昇すると、ジャンボジェット機で43人分軽くしなければならない。海外旅行は夏より冬がいいのかもしれない。

温暖化対策にはCO2削減だけでは不十分？……実は温室効果ガスは数十種類あることがわかっている。二酸化炭素は滞留2年で消えるが、メタンは5～10年、亜酸化窒素は120年などと予想されていて、二酸化炭素を規制しても問題は解決しないらしい。

二酸化炭素はなぜ地表にたまらないか……二酸化炭素の比重は1.53。地表に住む私たちは、そのうち窒息してしまうかもしれない。ただ実際は違う。二酸化炭素の分子も、15度ぐらいの温度では、音速に近い速さで運動している。そのため、二酸化炭素が多量に発生しても、すぐに拡散するのだ。しかし自然現象で急激に大量の二酸化炭素が生まれた場合は話が別。例えば1977年インドネシアの火山噴火では大量に二酸化炭素が流出、付近の住民が窒息死した。1986年にはカメルーンで、ニオス湖に溶けていた大量の二酸化炭素が突然気体になり、1700人以上が死んでしまった。ここは高地で空気が希薄だったので、極めて短時間でふもとに二酸化炭素が下ったという。

太陽活動の盛んさと病人の関係……実は太陽の爆発が起こると地球の磁場が乱れ、心臓麻痺、心筋梗塞、高血圧など、心臓や血管の病気が悪化する恐れがある。ロシアのソチ市では、太陽医学サービスで磁気嵐警報を発して、循環器系の病人に注意を促している。他にも、緑内障、腎臓病、てんかん、リウマチなども悪化する恐れがあり、はっきりと患者の増加のデータが示されているという。

温室は植物にとって厳しい環境だった？……温室育ちといえば、甘やかされていたという悪い意味で使うことばだが、実は植物にとっては、二酸化炭素が不足しがちで、厳しい環境だという。農家の人もこれには気づかなかったようで、オイルショック以来、省エネのために温室の密閉度をあげたところ、温室作物に障害が出始めて、やっと問題が表面化したという。ちなみにもっとも望ましい環境は1500～3000ppmであり、石炭紀のころと一致する。今は350ppmだが、石炭紀に戻ってしまうと人間が生きていけないので、やっぱり却下。

サボテンにはなぜトゲがあるか……サボテンといえば砂漠のイメージ、西部劇になくてはならないアイテムに思える。だがサボテンはアメリカ大陸にしかないので、アフリカでは見つけられない。砂漠という環境で生きるため、ひだがあったりする。これは強い光をさけ、できるだけ日陰を増やすためのもの。さらに、多くのサボテンが球状になっているが、これは常に体の半分を日陰にするための適応。サボテンには葉がなく、表面はロウのような厚いクチクラで覆われている。さて、トゲは葉が変形したものだが、これは動物からの防御以外にも、体表面の温度を下げるための冷却装置でもある。また、トゲには空気中から水分を取る役割もある。空気中の帯電した水蒸気を電気的に吸い取ってしまう。そのため、朝夕に霧が発生するところなら、雨無しでも生きていけるのだそう。

世界最長寿の木の種類は？……実はセコイア。アメリカのヨセミテ国立公園にあるセコイアは、胴をくり抜くと車が通れるほどというから、いかに大きいかがわかるだろう。高さ平均80～90メートル。中には樹齢3000年とも4000年ともいわれるものがある。現存する最長寿の木は、ネバダ州にあるマツの一種で、なんと4900歳。ほえー。

太陽が好きな木、日陰が好きな木……陽樹と陰樹、その名の通り。森ができるときには、まず日光、風、土の乾燥、虫に負けない強い陽樹が育つ。速く大きくなり、実をたくさんつけて落ちていく。土の質はそれほど関係がないらしい。アカマツ、シラカバ、カラマツなどがこれにあたる。陽樹の林にはだんだん草や低い木がはえ、落葉など混ざって腐って、だんだん土が肥える。そして陽樹による日陰ができると、だんだん陰樹が伸びてくる。これがブナ、トドマツ、シイなど。こうして陽樹だった林が、数百年という時間をかけ陰樹に入れ替わり、安定した森になる。森の木が吸収する栄養と、落葉で土に返す量が同じになる。これを極相といい、人間が手を加えたり、気候が変わらない限り、木の種類も、木の数も変わらないという。

湖・沼・池の違い……まず湖と沼、これは両者とも「海と直接つながっていない」ことが第一の条件。このうち、中央部がクロモやフサモなどの沈水植物(体全部が水の中にある植物)が侵入できないほど深いのを湖とし、深さは一般に5メートル以上とされている。沼は湖より浅いものをいい、中央部まで底に沈水植物が生えている者は沼沢と呼ぶ。池は、湖や沼に比べ面積が小さいか、または何らかの形で人工的な力が加えられているものをいう。もう一つ、潟がある。これは、海岸にあり、海とその一部がつながっている浅い湖のこと。これらはあくまで学術的分類で、必ずしもこれに従うわけではない。実際の呼び名は、昔から土地の人が読んでいた名前がそのまま受け継がれることが多い。

日本酒やワインに度数20度以上がない理由……これは、アルコールをつくるさいの過程が原因である。酵母菌にデンプンなどを分解させてつくるアルコールだが、一定量以上増えると、自分の作ったアルコールで酵母菌自体が殺菌されてしまうという、おかしな現象が起こる。そのため一定以上、つまり20度以上にはならないのだ。ところがウイスキーなんかは蒸留させるため、40度以上あったりする。

なぜ料理はさしすせそ順で入れるのがよいのか……砂糖を一番最初にいれるのは、分子量が大きく浸透速度が小さいため。もし塩を先に入れると、浸透圧が高すぎて素材の水分が出てしまい、後からいれた砂糖が染み込みにくくなる。酢が次に来るのは、多少加熱し、酢酸分を飛ばすため。その後加熱が進んで醤油をいれるのは、気体になりやすい芳香成分を飛ばさぬよう。また、うまみのもとになるアミノ酸にとっても、加熱し過ぎない方が良いようで。味噌はタンパク質を変性させないように、さっとひと煮立ち程度にとどめるのがよい。ちなみにこれだけでなく、例えば「塩と砂糖を同量混ぜたら塩の味しか感じない」とか「塩とクエン酸なら酸っぱい」みたいな感じで、味覚にも優先順位があり、「苦味・酸味・うま味・塩味・甘味」の順によく感じるという(先に書いたやつのほうがよく感じる)。

赤味噌と白味噌の違い……大豆を蒸したか茹でたかにより生じる。大豆に含まれるアミノ酸が加熱されて糖分と結びつき、褐色になるメイラード反応が進むかどうかの違いといってもよい。茹でるとアミノ酸が湯に溶けだし、白くなる。他にも使われる麹でも色が変わるという。麹には米、麦、豆があるが、豆麹を使うとアミノ酸が多いので、濃い赤になる。名古屋味噌の色が濃いのはそのため。

鯖の生き腐れは本当か……実は本当。脂っぽいから腐りやすいのかとも思うが、トロが他の赤身より腐りやすいという話も、聞いたことがない。実はサバにはほかの魚より酵素が多く含まれている。魚が死んでも酵素は生きて働き、サバの筋肉のタンパク質を分解する。分解されかかったタンパク質は腐敗菌に冒されやすくなる。だから腐りやすい。一般に青魚が腐りやすいのも、やはり同じ理由である。新鮮かどうかの見分け方はこちら。まず、目が澄んでいる。鱗がきれい。エラの内側が赤くて鮮やか。

石焼き芋屋のイモはなぜあんなに甘いか……そもそもサツマイモはもともと甘くない。中にあるでんぷんが、酵素や熱によりゆーっくり分解され、甘くなるのだ。このとき、長い時間、高温を保つ方が甘くなる。石で焼くとまさにその通りになる。一方家庭でつくる電子レンジは、短時間で中心から温めるものなので、甘くなる暇がない。家庭でつくるときは蒸し器を使ったほうが良い。サツマイモはかなり多量のビタミンＣを含むため、風邪予防にももってこい。

炭火焼はなぜおいしいか……ひとことでいえば、魚や肉の主成分であるタンパク質と脂肪を、ちょうどいい温度で熱することができるから。これらは150～200度で熱すると、おいしく変質する。炭火で焼くと、長時間この温度を保っていられるのだ。ちょうどコタツの遠赤外線と同じような効果があり、食品の深部まで温めることができる。うーむ、プラセボではなかったのだなあ。

乳牛が何を食べていたかでバターの色が変わる？……バターとは、牛乳を激しく混ぜて、上の脂肪分を固めてつくるもの。牛乳が白く見えるのは、牛乳に含まれる脂肪球のせい。牛乳の中の脂肪は、周囲を膜で包まれた脂肪球になっている。脂肪球のような細かい粒は、チンダル現象を起こし、白く見える。しかし牛乳をかき混ぜると、脂肪球の膜が破れて中から黄色い脂肪が出てくる。これを集めるからバターは黄色い。だがこの黄色い色素、もともと牧草に含まれていたもの。だからエサの種類で、バターの色は変わってくる。春から夏にかけては黄色だが、冬は白っぽくなる。そういうときは、工場で植物性の色素を加え、いつも同じような色に見えるようにしているとのこと。

白黒のバーコードだけでなぜ品目、値段がわかるか……バーコードはまず太い線、細い線の種類、そして黒と白。この太さや組み合わせ方で0から9までの数が表され、数字は二進法で書きこまれている。この数字で、国名、メーカー、商品名などの情報が書き込まれている。標準的には13ケタの数字。これらをレーザー光線で読み取るが、レーザー光線は何本も出ていて、そのうち1本でも通過すれば読み取れる。また、最初と最後にコードがつけられているので、どちらから読み取っても大丈夫らしい。読み取った値段はすぐにディスプレイに表示されて加算されるが、商品バーコードそのものには価格は記入されていない。レジスターのほうに登録されていて、値上げも値下げもすぐにできるようにつくられている。また、管理コンピュータに直結しているので、在庫量や売れ行きも一目瞭然。自動的に問屋のコンピュータに発注することもできる。すっごい便利。

古米をおいしく炊くコツ……実はサラダ油をたらしておくとよい。量は米2カップに対しサラダ油小さじ１ぐらい。さらに、酒とみりんを少々加えてみてもよいとのこと。

革靴を長持ちさせたいなら……革靴の大敵はなんといっても湿気。まず、一足だけはくと傷みやすい。一足を6か月はくより、三足はけば全部3年以上はもつ。また、新品の靴は、履く前にワックスで十分磨いておくのがよい。こまめな手入れが長持ちのコツ。ただし靴墨は塗り過ぎると、革の目がふさがれて早く駄目になってしまう。濡れたら必ず陰干しする。直射日光で乾かすのは絶対に駄目！

浮き輪の後始末を楽にする方法……空気抜きの穴にストローを差し込んでおくと、力を入れて抑え、無理やり空気を抜く必要がなくなる。自然に抜けていくからだ。

賢いリュックの詰め方……体の重心にできるだけ荷物を近づけるため、常識とは逆に、重いものを上部に詰めてみる。こうすると、体が無理な姿勢にならず、肩が凝りにくくなる。

家庭の冷凍庫の氷が白く濁る理由……これは急激に凍らせるせいで泡が混入してしまうから。そこで、製氷皿で氷を作るタイプのものは、下に割りばしを二本入れてみよう。木は熱を伝えにくく、その間に水に含まれていた塩素や気泡がだんだん空気中に逃げていくから、透明な氷が作れる。

洋時計……徳川家康の愛用品で、海難救助のお礼としてスペイン国王フェリペ3世から贈られた時計。乗船員373名、56人溺死、317人を村民が救助。地元の海女達が、海に飛び込み溺れて仮死状態になっている船員たちを、体温で温めて蘇生させたという感動的な話が伝わっている。このお礼としてである。しかし暦が異なったせいで時計としては使えなかった。当の家康公は気に入って部屋に置いていた。大英博物館の調査によれば、これほどの技術を注がれた時計はほとんど現存せず、またその技術も、当時世界では最高峰レベルだったという。今では重要文化財に指定されている。まさに海を越えて築かれた平和の証である。

パクチー……コリアンダーというのが正式な名前である、セリ科の植物。地中海東部原産で、古くから各地で食用とされてきた。が、日本で最も有名なのは東南アジア、特にタイ料理であろう。日本では「パクチーサラダ」なんていって山盛り乗せて出てくるが、タイやラオスにそんな料理はなく、せいぜい薬味か香味付けとして使われる程度であるという。カメムシのような臭気をはなつこの草は、かなり好き嫌いがはっきりわかれる食べ物だと言わざるを得ない。

トランプの模様とか数字とか……まず1から13までを足してみよう。答えは91。それを模様の数だけ足し合わせる、つまり4を掛けてみると364であり、ここに1枚のジョーカーを足せば365で太陽暦の1年の日数と一致し、あと1枚のジョーカーを足せば366でうるう年となる。模様はそれぞれの季節を表し、ハートは秋、スペードは冬、クラブは春、ダイヤは夏である。またさらにトランプ1組が52枚なのは、1年が52週であることを表している。…というのは全部デタラメというか俗説で、トランプは中国で生まれた説が有力なため、これらの説明だと暦の食い違いとの矛盾が解決できない。即ちよくできた嘘である。

チャツネ……日本では「カレーの隠し味」としてしか認知されていないが、南アジア、西アジアなどで日常的に用いられるいわばふりかけのようなもの。ソースかペースト状の調味料である。果実、野菜、ハーブを火を通さずにすり鉢で潰したり、あるいは火を通してやわらかくしたもの。味付けはまさに家庭の数だけあるという。これを食事に添えたり、味付けがわりにしたりする。南インドには菜食主義者が多く、彼らにとっては貴重な味付け源になっている。

福神漬け……カレーに入れる漬物。日本人なら知らない人はほぼいないだろう。その発祥は明治時代末期まで遡り、ヨーロッパ行きの客船にて、チャツネのかわりに当時マイナーだった福神漬けを出したところ大好評だったことから、だという。名前の由来は諸説あるが、七つの具材を使うことを、七福神にかけたものだとする説が有力。ダイコン、ナス、レンコン、キュウリ、シソ、ショウガ、ナタマメなどを塩抜きして醤油、砂糖、みりんなどで味付けしたもの。ナタマメはあの「ひょうたん」みたいな形のマメ科の植物の実であり、漢方薬、健康食品、歯磨き粉などに使われる。

赤信号が右側にある2つの理由……1つは右ハンドルが多いため、2つ目は街路樹に影響されにくいため。

白毫……仏像の額にあるホクロみたいな奴の名前。あれは毛。1本の毛がカールしまくってできた。光を放ち世界を救うと言われる。

郵便局のマーク……赤いポストに変な「テ」みたいなマーク。これ実は「テ」なのだが、このテは「逓信省」(ていしんしょう)の略であるという。郵便や通信を管轄する中央官庁の名前であり、1949年に郵政省などに分離するも、名残として使われ続けている。

テレビの「インチ」……実は純粋な画面の大きさとかではなく、対角線の長さを表す単位。これは昔、テレビが円形だったことに由来する。円形であれば直径がテレビの大きさを表すのにちょうどよい尺度だったのは確かだが、四角形になった現在でもつかわれている。

刑事を「デカ」という理由……角袖(かくそで)から。当時、私服の刑事は角袖を着ていたという。この刑事のことを隠語で「クソデカ」と呼んでおり、これがデカの語源になった。

フリーマーケットの「フリー」……フリーは自由という意味ではない。ノミという意味である。フランスのパリ郊外で開かれる市場が、ノミが発生するぐらい汚い市場であることから、フリーマーケットとなった。これに似た例が「ロードオブザリング」である。あのロードは「道路」ではなく「君主」(lord)。「プライベートライアン」に至っては意味不明で、”Saving Private Ryan”(ライアン一等兵の救出)で、”private”に「兵士」という意味があるなんてことを知る人は、恐らくほとんどいない。

木魚を叩く意味……今はリズムをとるためという理由で叩かれているが、昔は眠気覚ましのためだった。木魚と言う名前にそれが表れていて、魚はまぶたがなく寝ないということから、これを木魚にすることで、眠らない戒めとしたという。

雀の千声　鶴の一声……すずめのせんこえ　つるのひとこえ。権威者や実力者の声によりその場を従わせることを「鶴の一声」というが、この前の部分には「雀の千声」がくる。こうなると、「つまらない者の千の声より、すばらしい者の一つの声のほうがよい」という意味となる。

フラれる……フったとかフラれたとか大変なご時世。この「ふる」というのは、女性が男性に対し、「袖を振った」からくるという。袖を左右に振ればOKのサイン、前後に振ればNGのサイン。

二の舞を演じる……二の足を踏む、と混同されやすいことわざ。二の足というのは前に踏んだところであり、こっちは「ものごとをためらう」と言う意味。なかなか踏み出せないから二の足。二の舞だと舞、つまり踊りなので、演じるが正しい。かなり混同されるようで、Windowsのタブキー予測変換にも「二の舞を踏む」が出ている。

崩れ落ちる兵士……ロバート・キャパというハンガリーの写真家が撮影した写真。その名の通り、スペイン内戦にて反乱軍と戦う最中、銃の弾に頭を貫かれ、今まさに倒れんとする男性兵士を撮ったもの。ただし、それが本当に「撃たれる最中のもの」なのかは議論があり、近年の研究では「そこは戦場ではなく、兵士も撃たれていたわけではない」とする説もある(し、今はそっちのほうが有力っぽい)。しかもこの写真さえ、実はキャパではなく相棒のゲルダが撮ったものだとする説まで。確かに頭部から出血しているわけでもなく、またあまりにタイミングが良すぎる。Wikipediaを見てみるといいが、山の稜線から場所を特定してみたり、人工衛星からの地形を特定したり、同じぐらいの時間に撮られた写真と比較したりして、マジでガチの議論をしている。彼は「戦場カメラマンの夢とは失業することだ」と後に語っているが、失業する暇もなく、地雷を踏んで亡くなった。

恋人岬……静岡県伊豆市、またはグアムにある幸せの岬。ラブコールベルと呼ばれる鐘があり、これを３回鳴らすと、恋愛が成就するという。申し込めばここで結婚式を挙げられる(そこまでしたのに離婚したら恥ずかしいけど)。

安愚楽鍋……仮名垣魯文の滑稽小説。文明開化を喜ぶ庶民の実態を、アグラを掻いて牛鍋を食べる座敷に凝縮して書いた作品。つまりは皮肉、風刺である。今で言うと「変な色のタピオカドリンクをインスタにあげる人々」を横から撮ってツイッターにあげるみたいなもんか？

真実の口……ローマにある石の彫刻。偽りの心を持つものがここに手を突っ込むと、手が抜けなくなる、手首を噛み切られるなどの伝説がある。元々はマンホールの蓋だったらしいが、このマンホールの蓋くんも迫真の出世劇であるよ。モデルになったのは海神トリトーネ(トリトン)。映画「ローマの休日」にて、オードリー・ヘプバーン扮するアン王女を、男役の新聞記者が「やべえ手が抜けない」をして驚かせ、泣かせてしまったというエピソードがある。

「逃げるは恥だが役に立つ」はことわざ……TBS系列のドラマ、じゃなくて(いやそれもそうだけど)。ハンガリーのことわざが元ネタになっている。”Szégyen a futás, de hasznos”(セゲーニェン　ア　フターシュ　デ　ハスノシュ)。「恥ずかしい逃げ方だったとしても、生き抜くほうが大事である」というような意味なので、かなり的確と思われる。このことわざは「猫を知らないネズミが、猫から逃げてきたネズミを笑った」という寓話から生まれたという。

噴火口の記号は温泉と似ている……「温泉」とめっちゃよく似た地図記号である。おわり。

鳳凰……中国神話に登場する伝説上の鳥。鳥？日本や朝鮮をはじめ、東アジアのさまざまな場面にて、説教、物語、説話で登場する。影響が大きかったのか、各地でシンボルになっていたり、装飾に使われていたりする。日本では一万円札の裏側に描かれている。

一誹り 二笑い 三惚れ 四風邪……くしゃみに関することわざ。くしゃみは何度も出ることが多く、「ああ誰かが私の悪口を言ってるな」なんてのはよく耳にするが、実は続きがあるのだ。

ワディ・ラム……ヨルダンにある保護区。砂岩と花崗岩でできた谷であり、地球上とは思えないその風景から、様々な映画の撮影現場に用いられる。古くはアラビアのロレンス、そしてトランスフォーマーから、新しいのでいえば2015年公開のオデッセイも。

Boys, be ambitiousには続きがある……like this old manである。札幌農学校１期生との別れの際に言ったらしい。「あなたたち若い方も、この老人(つまり自分のこと)のように野心的であれ」という意味。あんまかっこよくねえやん。ちなみにクラークさんは、今の北海道大学のもとになった「札幌農学校」を1876年に開き、日本人の学生に英語で講義をしたり、聖書を配ってキリスト教を講じたりした。

三畳紀はなぜ「三畳」なのか……生物、地層の時代区分の一つ。ジュラ紀の前で、ペルム紀の次。この名前になったのは、この時代の地層が三色に分かれて堆積していたからだという。

テプラ……株式会社キングジムの商標登録。ラベルプリンターの名前だが、今は廃れて久しい気もする。この名前の由来は「テープライター」から来ているし、あとTimely(いつでも)Easily(簡単に)Portable(その場で)Rapidly(すぐに)Affix(貼り付けられる)という意味もある。

soy(大豆)の語源……実は日本語由来らしい。日本とオランダの貿易を通じ、日本人が「醤油」というのをオランダ人が「soya」と聞き取り、これを持ち帰り向こうで広めた結果、soyになったという。つまり、soyの由来は醤油で、醤油の原料はsoyなのだ！紛らわしい。

ナルシストの語源、ナルキッソス……ナルキッソスはギリシャ神話に登場する美少年。森の妖精のひとりエーコーが彼に恋をしたが、エーコーは以前ヘーラーという神の怒りを買い、自分では口がきけなくなって、他人のことばを繰り返すことのみ許されていた。彼女はナルキッソスに近づくも、ナルキッソスは「こいつ俺と同じことしか言わねえな」と退屈し、見捨てた。エーコーは悲しみのあまり姿を失い、声だけ残って木霊となった。以下略結局ナルキッソスは水面にうつる自分の姿を見て、自分自身に恋をし、そのまま落ちて水死したという。彼が死んだあとそこにはスイセンが咲いていたことから、スイセンのことを欧米ではナルシス(Narcissus)と言い、またナルシストの語源にもなった。

2038年問題……コンピュータが進化して人間を追い越すかも！ってのは2045年問題。こっちは「時間を表すための値がオーバーフローし、世界中のコンピュータが一斉に誤作動する」という問題。必ずそうなることがわかっており、このままだとかなり危ない。現在の標準ではtime\_t型を使い秒数経過の表現を行っているが、経過させられる秒数にも限りがある。即ちint型の最大である2^31-1秒が限界であり、これを越えてしまうと負の値になる。これを解決するには1か所を書き換えればよい(typedef)のだが、例えばデータ構造体中で秒数が固定32ビットとして扱われていたり、アプリケーションプログラムの全てで書き換えなくてはならないため、その修正作業は困難を極める。同様の例は2000年問題としてもあったが、あっちは世界中のプログラマたちが一斉に残業することで何とか回避した。さて今回は…？

NATOフォネティックコード……欧文通話表のひとつ。重要な文字、数字などを正確に伝達するための国際的な頭文字の規則である。AだとAlpha、BだとBravo,CはCharlieと、国際的によく認知され、なおかつ互いに発音が似通っていないものが選ばれる。これがそのままチームの名前になったりする。なお、数字の場合、0から8までは普通に発音するが、9はNineと書いて「ナイナー」と呼ぶ。これはドイツ語のnein(ない)との混同を防ぐためであり、本当にいろんなところに気が使われているのだなあと感動する。

メタルギアシリーズの「ザ・ボス」にはモデルがある……それがシャーロット・ランプリングである。イギリスの女優兼歌手だ。イタリア映画「愛の嵐」とか、「さらば愛しき女よ」などに出演した。

世界中の植物の種を保存する場所がある……スヴァールバル世界種子貯蔵庫といい、ノルウェー、スピッツベルゲン島(この島、かのアーティスト「スピッツ」の名前のもとになった)に存在する。核戦争や大規模な気候変動に備え、「世界中の植物の種」を保存している。最大で300万種保存可能であり、海水面が上がっても大丈夫なよう、標高130mの小高い丘の岩盤下120mにある。気温は常にマイナス18℃ほどに保たれ、もし壊れても大丈夫なように、永久凍土層によりマイナス4℃は保てるようになっている。

御料牧場……ごりょうぼくじょう。皇室で用いられる農作物を生産している農場(牧場)。宮内庁が管理している。ここで生産されるものは全て皇室の食事、晩餐会などの行事で使用されるもので、一般で出回ることはまずない。どんなお金持ちであっても、ここを使うことはできないのだ。しかし東日本大震災のさいは、被災者の身を案じなさった天皇の意向により、サツマイモや卵などの食料品が被災地に届けられた。そんなサツマイモを食べられると知ったら、嬉しくて涙が出そうなものであるが。1969年に一度敷地を移動しており、跡地は今の新東京国際空港(成田空港)になっている。

原稿用紙の真ん中にあるアレ……魚尾(ぎょび)という。原稿用紙の真ん中にある「　【　」を横にしたようなアレの名前。古くから和書の折り目にあった飾りを模したもので、もともと原稿用紙が二つ折りにしてとじるためのものであったことの名残でもある。

なぜ原稿用紙が400字詰めなのか……京都にある萬福寺という寺の住職だった鉄眼禅師（てつげんぜんじ）のおかげ。「大蔵経」を多くの人に読んでもらいたいと思って、印刷用の木版を彫ったことにルーツがあるらしい。25年もの歳月をかけて6万枚の木版を彫り上げ、1681年に完成したそうだが、その時の木版が20かける20の400字。6万枚って…。

一本締め……「おーーーっ　タン！」と間違えるな。そっちは一丁締めだ。正しい一本締めは「タタタン　タタタン　タタタン　タン！」(風来のシレン)なので覚えておこう。ただし、上司が一本締めと言いながら一丁締めをし始めたら指摘しないのも、処世術として覚えておこう。ちなみに一本締め、漢字一文字で表すと「丸」。これは、9(九)に1(一本線)足して丸になるというのと、その場を丸く収めるのがかかっている。「三本締め」というのもあるが、これはたんに一本締めを3回繰り返すもの。覚え方は「おーーっ、パン！ツ一丁」でどうだろう。

井桁……教えられるとうざい雑学1位に入ると思うが、電話の「シャープ」は実はシャープではなく、「井桁」である。シャープは右上に上がるが、井桁は上がらない。

鳩時計から出るのはハトではない……実は「カッコウ」が出てきている。ハトの鳴き声は「ホーホ　ホホ」であり、鳩時計は「パホ　パホ」なので確かにカッコウ。どうして外国由来のこの時計をどうして直訳でカッコウ時計にしなかったのかというと、日本では「カッコウが鳴く」といえば、物寂しい時になく閑古鳥をイメージし、「閑古鳥が鳴く」で縁起が悪いから。

ジョホールバルの歓喜……1997年、マレーシアにて行われた、日本がワールドカップ初出場を決めた試合の名前。イランとの死闘を見事潜り抜けた。2-2の引き分け、延長後半13分、もはやPK戦かと思われたその矢先、中田が放ったミドルシュートを相手GKが弾くも、それを岡野が押し込み、見事初出場へ。いちいち大げさなとも思われるかもしれないが、今ほどW杯に出場するのが当たり前ではなく、良くも悪くも日本がサッカーというスポーツに熱中出来ていたときのことであり、4年前には「ドーハの悲劇」(惜しくも初出場ならず)が起こっている。さらに開催国フランスの権利により、次大会の出場は確定、心無い人間からは「どうせ金で買った出場だろ」と叩かれていた。そういうものを払しょくする最後の最後で、日本は夢を掴んだのだ。うーむ、感動。このときの湧き上がりは言葉じゃ表せないので、ぜひ動画で見てみよう。ナレーターの人の感動しっぷりがちょっと。

マンガリッツァ豚……ハンガリーの「国宝」。国宝なのに「食べられる」ことで有名。世界で脂肪率が最も高い豚とされ、濃厚な赤身の他に良質な脂も取れる(この脂は牛肉のそれに比べ、体によい)のだが、戦時中は脂身より赤身が珍重され、また多く育てられる他の豚が普及し、この種は大幅に減ってしまう。1991年にはなんと198頭しか存在していなかったという。しかしその後必死の保護活動により、今では5万頭にまで増えた。現在はハンガリーのミシュラン星付きレストランをはじめ、世界数か国で提供されている。が、凡人平民貧乏人に食べる余裕などないので、まさに「豚に真珠」な知識。

生命、宇宙、そして万物についての究極の疑問の答え……SF小説『銀河ヒッチハイク・ガイド』に登場するスパコン「ディープ・ソート」が750万年かけて出した答えは「42」だった。日本ではそこで終わったが、アメリカでは大うけしたようで、これをゲームのセリフに入れてみたり、作者自身が「なぜ42なのか」を答えてみたり(答えは「机に向かってたら何となく出てきただけで、13進数とかチベットだとかはナンセンス」と言っている)、アメリカのネット文化に大きな影響を与えたことには違いない。本当に「なぜ42なのか」がわからない(作者自身にも)が、もしかすると我々の進化が追い付いてないだけで、いずれわかるようになるのかもしれない。ちなみにGoogleで「生命、宇宙、万物への答え」と打つと、「42」と表示される茶目っ気のある演算が用意されており、それだけでもこの「42」という数がネットに与えた影響の大きさをうかがい知ることができよう。

グーテンベルク聖書……別名「42B」とも。これは、ほとんどのページが42行であったことに由来する。42行のBibleで、42Bとなった。実は世界初…ではないが、西洋初の印刷物。つまり活版印刷術を使って印刷された世界最古の本。日本では現在慶應大学にある。

ベタ踏み坂……鳥取と島根の県境にある坂で、その名の通り「アクセルベタ踏みじゃないと登れないぐらい急」に見える。見えると書いたのは、この坂をどう撮るかによって、まったく見え方が違ってくるからである。もっと平たく言えば、実際にはベタ踏みなんてことはなくて、登ってみたらけっこう緩やかなのだ。カメラのズーム機能を使って撮ることで、急な坂に見せることができる。なおその本名を江島大橋という。

ハルヴァ……穀物、胡麻、野菜、または果物に油脂と砂糖を加えて作られるお菓子。東はバングラデシュから西はモロッコまでの広い地域にある。筆者はあるきっかけで食べたことがあるが、独特な油と甘さがなんともクセにあるお菓子だった。ちなみにハルヴァは後の「ヌガー」(砂糖と水飴を煮詰め、ナッツ類やドライフルーツなどを混ぜ、冷し固めて作るお菓子)のもとになったが、このヌガーといえば、もっとも有名なのは「スニッカーズ」であろう(もしくは「コーヒーヌガー」というチロルチョコの一種)。

チロルチョコの雑学……コンビニ版と駄菓子版は大きさ・値段が違うが、これはコンビニのほうにバーコードをつけるためだというのはあまりにも有名な雑学(最近では駄菓子屋もバーコードがあるためこの雑学は時代遅れ。通販では10円サイズのものを買える)。この「チロル」は、松尾製菓二代目社長がチロルチョコを作るさいに訪れたオーストリアの「チロル」に由来する。大自然の爽やかさがぴったりだったから。コーヒーヌガーは「売価を10円と決めてたけど全部チョコにすると原価が15円以上になっちゃうのでヌガー入れた」という苦肉の策？で生まれたという。もともとは1962年に生まれ、最初は「3つ山」、つまり10円サイズのチョコが3つつながった形、これで10円。決して裕福な時代ばかりではない日本経済の波の中で、この10円という価格を見直さなければならなくなり…ついに1974年に20円、1976年には30円に値段変更が行われた。だが、消費者に優しいチロルチョコ。3年後の1979年には「10円で売りたい！」となり、現在の形になった。

スピッツの「ロビンソン」はデパートの名前……ボーカルの草野がタイを旅したとき、えらく「ロビンソン百貨店」(タイ、マレーシアにある1858年創業のデパート)が印象に残っていたからだという。ちなみに「地味だし売れないだろう」と予測していたらしいが、これが売れるのだから世の中わかったもんじゃないなと。

Hot Coffee事件……GTASA(サン・アンドレアス)における性描写の規制に関する事件。PC版GTASAの製作中に、ガールフレンドとの(放送禁止行為)を模したミニゲームのプログラムをつくったのだが、アメリカにおけるゲームレートをMature(日本でいうCERO-Zと同じ)にするため、そのプログラムを読み込めないようにした。しかしとあるオランダの人がこのプログラムを呼び出せるようにした“Hot Coffee”というMODを公開。当初はこの人の責任が問われたが、「自分は封印を解いただけだ」と弁解。ヒラリー・クリントン氏率いる米国議会軍団を中心としアメリカで批判が巻き起こった。結果、このデータを取り除いたv2.00版の販売が求められた。この事件がゲーム界に与えた影響はとても大きく、日本ではこのゲームを輸入する際、これ以上に規制が激しくなってしまったほか、この後のシリーズやグロテスクゲームについても、米国版より規制されてしまうことに。

風邪をひいて1か月でなくなった大統領がいる……それがウィリアム・ハリソン。就任わずか一か月で死んでしまったアメリカ大統領。就任演説の日は厳しい寒さだったが、コートも着ずに2時間の演説をした結果風邪をひき、肺炎をこじらせて死んでしまった。さすがに68歳のご老体には堪えたらしい。

NASDAQとは何か……ナスダック。テレビでよく聞くけど何なのかよくわからない単語2位ぐらい。その正体はベンチャー企業向け株式市場であり、1971年開設。取引所とは異なり、距離が隔たったマーケット事業者がネットを利用して売買気配値を提示するしくみ。最近ではインターネット・情報技術関連企業がこぞって参入しており、ますます盛んになっている。

茶番劇……底が見え透いたくだらない物事のこと。茶番とは茶番狂言のことで、江戸末期に歌舞伎から流行した、下手な役者が手近なものをつかい滑稽劇や演じるもののこと。本来茶番はお茶の用意などをする者だが、そんな役者たちが余興で茶菓子などを使いオチにしたことから、こう呼ばれるようになった。なお、オチに使った茶菓子は無料で配布されるので、それ目当ての客もいたという。

手紙のP.S.とは何か……Post Scriptumである。postは後に対格をとり、「～のあとで」を意味する前置詞。scriptumは文書を意味するscriptumの単数、対格。「文書の後で」と訳せる。日本では追伸とも。

シャーロックホームズは何を着ている……インバネスコートというもの。スコットランドのインバネス地方で生まれたとされ、またバグパイプを雨天で守り、演奏するのに作成されたといわれる。シャーロットホームズといえばこれだが、この姿でいる描写は原作になく、挿絵や映像作品などから二次的に生じた。

ジャズの中でもかなり珍しいTake five……テイク・ファイブといえば、日本で最も有名なジャズ曲の一つである。ジャズといえば変拍子みたいなイメージがあるが、ここまで純5拍子を貫き通した曲もかなり珍しいのである(最初ではないが)。トルコでブルガリア音楽の影響を受けたグループの演奏するトルコ民謡が8分の9拍子で演奏されるのを見て、刺激を受けたという。カバー版が多く出回っており、「5分でいいから私に時間をちょうだい、あなたとおしゃべりしたいの」と、題名をうまくかけた歌詞のものも存在する。こっちはJUJUがうたっている。

沈没した戦艦の上に建つ記念館がある……それがアリゾナ記念館。ハワイにある慰霊施設で、白く、真ん中がたわんだ１L牛乳紙パックのような形をしている。真珠湾攻撃で1177名のうち1102名が死亡した戦艦アリゾナとその乗務員を追悼し、真珠湾攻撃を記念する施設になっている。現在この施設は沈没したアリゾナの真上に建っている。毎年100万人以上が訪れる人気スポットだが、実はアリゾナの隔壁の腐食により、現在も黒いオイルが流れ出している。これは「アリゾナの涙」と言われ、戦艦アリゾナくんの悲しみを表現しているようにも見える。

1人で24時間レースに出場して23時間運転した人がいる……それがピエール・ルヴェーである。幼少期のときに見たルマン24時間レースに心を打たれ、それからずっと走ろうとしていた。1952年にようやく出れたが、このとき相方からの交替を拒否し続け、ずっとトップで運転を続けていた。つまり23時間ぶっ続けで運転していたことになる。残り1時間になり、ギアチェンジをミスしエンジンがブローしリタイアした(この次の年から、「1人での連続運転は14時間まで！」と決められた)。3年後、同じルマンの地にて事故により爆死。最後までクルマの側にいた人生であった。

ヘリポートのRマークの意味……ヘリポートにはHマークとRマークがある。Hマークをつけた場合、スペース以外には、きちんとした航空機材支援設備が求められ、空域確保、駐機施設、そして接地面の強度が必要とされる。そこまでを求められない場合、Rマーク(ラペリングポイント)を円が囲むようなマークが描かれ、こっちはウインチで人材、機材の乗降をしなければならない。すなわち着陸できない。

R&Bは何の略か……「リズム・アンド・ブルース」。音楽のジャンルのひとつで1940年後半に生まれた。リズムやビートにのって、ブルース感のある歌を叫ぶように歌う。のちのロックにも影響を与えた。もともとはアフリカンアメリカンのもので、以前は「レイス・ミュージック」と呼ばれていた。しかし1947年、「もうこういう名前で呼ぶ時代ではないだろう」と言われ、R&Bに改名。洋楽でいえばAdeleやBruno Marsが有名どころ。彼らの歌唱力はマジで高いので聴くことをお勧めする。というかR&Bは歌唱力が高くないと全然うまく聞こえない。

九州大学生体解剖事件……1945年、九州帝国大学にて(大分に墜落したB-29搭乗員だった)アメリカ軍捕虜8人に対する生体解剖実験が行われた事件。九大が組織的に携わったものではなく、一部の医学部助教などが勝手にやっただけ。であったがその残忍性は聞いていても耐えられそうにない。名目としては「捕虜に対する銃殺刑のかわり」だったが、日本側の軍法会議の判決さえ経ずに行われ、その実験内容も到底被験者の生存を考えたものではなかったので問題になった。「血管に薄めた海水を入れてみる実験」「肺を切除してみる実験」「心臓をとめてみる実験」「どれだけ出血すると死ぬのか確かめてみる実験」など、恐ろしい行為が平然と行われていた。現在では、医学部医学歴史館では解剖事件を説明するパネルが設置されている。ちなみにかの「ドグラマグラ」の設定にもなっている。

中国版「マリーアントワネット」がいる……恵帝(けいてい)、西晋2代目皇帝。生まれつき暗愚。ボンクラ。その逸話として、「(穀物がないなら)肉粥を食べればいいではないか」(何不食肉糜)といったと伝えられている。マリーアントワネットは彼の発言を参考にしたのかもしれない。ちなみにあの発言の真意だが、そもそも「お菓子」とはブリオッシュのことだという説がある。当時のブリオッシュの値段はパンの半分。また、彼女の性格も彼女をねたんだ人物によるねつ造という説まで。

迷い込んだキツネがカーブの名前になったことがある……それがFuchsrÖhreである。フォクスヘーヘ(r音は喉奥のハ)と呼ぶ。ドイツ語でキツネ穴、またはキツネ管。ニュル北6キロ地点にあるカーブの名前。右側の出っ張りからちょっと進んだ先の高速カーブ地帯を指す。建設中、一匹のキツネがここの工事用配水管に誤って入ってしまい、作業員たちにこう呼ばれることとなった。なお英語で”foxhole”は「塹壕」という意味であるが、そっちとは関係がないらしい。

バナナはほとんどクローン……2020年現在世界で取引されるバナナの大半は「キャベンディッシュ」なる品種で、我々が想像するバナナといえばこれである。バナナは接ぎ木でしかできないので、いわば世界中のバナナが「クローン」であるといえるが、そのため病気にはめっぽう弱く、あるバナナがある病気にかかってしまうと、他の全部のバナナがその病気に耐性がないことがわかってしまう。1950年以前に良く栽培されていた「グロス・ミチェル」という種はつる割病により荒廃してしまい、その主役の座をキャベンディッシュに明け渡したのだが、2008年、つる割病にかかったキャベンディッシュ種の例が報告されており、もしかするとバナナがこの世からなくなるかも？と危惧されている。

ロールシャッハ・テスト……インクの染みを被験者にみせ何が想像できるか述べてもらい、その言語表現を分析して思考過程や障害を推定するテスト。インクを紙に落とし、二つ折りにして広げるだけで作成できる。このテストは被験者にとって、どんな結果を言えばどう分析されるかがわかりにくく、意識的な回答操作がされにくいため、無意識な心理分析が可能とされていたが、当然科学的妥当性への疑問は尽きない。「アルジャーノンに花束を」にて、主人公のゴードンが受けていたのがこのテスト。

男爵いもの「男爵」とはだれなのか……川田龍吉(かわだりょうきち)。日本の実業家であり、スコットランドに若い頃留学、欧米式の農業に触れた経験から農業に精通、「アイリッシュ・コブラー」という品種の馬鈴薯を欧米から自営農業に持ち帰り、これがのちの「男爵イモ」の名前になる。名前の通り彼は「男爵」であった(父を男爵にもつ家庭の長男だったが父が急死して受け継いだ)。

梅毒を人に投与して放置する実験が行われたことがある……タスキーギ梅毒実験といい、1932年から1972年にかけて黒人性病患者400人に対し行われた人体実験である。彼らを実験の対象として、「このまま放っておくとどうなるのかな」と、未治療のまま放置していた。1997年、クリントン大統領が正式に謝罪した。ひどい話。

拍車の語源……物事の程度を一層推し進めるという意味があるが、この語源はカウボーイが靴の裏につけてるあのピザカッターみたいなやつ。決して馬に苦痛を与えるための道具ではない。刺激を足に与えてやることで、進ませるのだ。

オオカミに育てられたらしい野生児がいる？……それがアマラとカマラだ。文明から切り離され育てられた子供の事例として、教育学の本などでたびたび取り上げられる。だがそもそも「オオカミのメスは積極的にお乳を与えようとはせず、ヒトの乳児も乳首を口にもっていかないと乳を吸わないので、授乳が成立しない」とか「そもそも母乳の成分が違う」とか、「オオカミの群れが移動する速度が、どう考えても人間の全力疾走より速い」、さらに生物学的に有り得ない「夜に目が光る」「犬歯が異常に発達している」という特徴もあったらしく、真実かどうかは疑わしい。実際は「自閉症または精神障害の孤児だった」というのが有力。

ジャングル・ブック……ラドヤード・キップリング(41歳、史上最年少のノーベル文学賞受賞)が1894年に出版した短編小説集。赤ん坊の時からオオカミに育てられた少年モーグリが主人公。舞台背景自体は「狼少年ケン」と似ている(白黒で、ロッテのガム「フィッツ」のもとになっている主題曲をもつアニメ)。熱帯のジャングルに住む動物たちに焦点が当てられており、作者のインド生活から取材したという。かの「ターザン」の参考になったらしい。1967年にはディズニーにてアニメ化され、こっちはモーグリもクマのバルーもけっこうかわいく描かれている。その後2016年には実写風CGになって再登場。めっちゃリアル。でもやっぱりかわいい。原作とはだいぶシナリオが異なっており、原作とかアニメ版のほうが面白いらしいので、楽しむならそっちにしたらどうだろう。

世界一長生きした人、何年ぐらい生きるのか……それがジャンヌ・カルマン、確実な証拠がある中で最も長生きをした人物である。フランス人で、122年と164日生きた。大還暦という偉業を成し遂げている。国際的に有名になったのはゴッホの百年記念の際であり、彼のことを「汚くて、性格も悪い人」と語ったときだった。フェンシングは85歳からはじめ、自転車は100歳まで乗った。また、健康のために1週間に1キログラムのチョコを食べたという。介護者に申し訳ないという理由で20歳から喫煙していたのを117歳にして禁煙した。もはや、何が健康によくて何が悪いのか、わからなくなってきそうである。

キリンはなぜキリンなのか……その首にはワンダーネットと呼ばれる特別な血管網があり、頭に血がのぼり、なおかつうっ血しないようにできている。ちなみに頭のツノは実は5本あり、それを相手にぶつけることで縄張り争いやメス争いを行うという。昔はジラフと呼ばれていたが、「石川千代松」なる動物学者(この人、当時の上野動物園の園長であり、進化論を日本に紹介した人でもある)が、「中国の伝説上の獣、麒麟」が日本にやってくるんですよ！と煽り、公費でキリンを購入したため、日本での呼び名がキリンになった。なぜこんなことが起きたかというと、現在の価格で1億円もしたキリンを買いたくてたまらなかったから。この価格は予算の7倍なので、みんなを説得するために嘘をついたのである。結局2頭のキリン、ファンジとグレーが日本に来ることになった。これがバレて、この人は後にクビに。キリンだけに。ちなみに首が長すぎてトンネルにぶつかるため、列車ではなくリアカー、人力で40kmも運んだ。今では剥製となって、茨城県つくば市の国立科学博物館に展示されている。

真綿で首を締めるの「真綿」とは……じわじわと苦しみを長引かせる、という意味。昔は拷問とか刑に実際にあったという。ここでいう真綿はお布団に使う植物の綿ではなく、繭を煮て綿状に広げたもののことを言う。繊維は細く長く、その割に強靭である。

元乃隅稲成神社……もとのすみいなりじんじゃ。山口県長門市にある神社。地元のお偉いさんの枕元に白狐が現れ、「我をこの地に鎮祭せよ」というお告げをしたため、島根にある稲成神社から分霊されて建立した。このため漢字が稲荷ではない。1987年から10年かけて奉納された123基の朱色の鳥居が、龍宮から100メートル以上にわたり並んでいる。また賽銭箱は大鳥居の中央上部、高さ4メートルにあり、「日本一投げづらい」とも言われ、見事入れば願いが叶うと言われる。じゃあキツネさんをペットにさせてお願い白狐さん。

シャチハタ不可の理由……素材がゴムであり、押し方や経年劣化による劣化で同一スタンプでも印影が変わる可能性がある。また、時間が経過するとインキが薄くなり、大量生産であるため別のスタンプでも同じ形状の文字が押印できるから駄目、と言われている。そもそもハンコを文書に押すと、「印影に表示された人が自分の意思で押印したと事実上推定され」、そこから「その人が書類を作ったと法律上推定される」、通称二重の推定が起こる。これは、「本人の印鑑を他人が勝手に使用することは通常有り得ない」という理由による。であるからシャチハタは駄目なのだ。押印を自分で行ったかどうかというのは、「書類が偽造され、勝手に押印されたかどうかを証明する手立て」としてとても有用であり、シャチハタを許すと、それが不可能になってしまうのである。

28名が即死した大量殺人事件が日本で起きたことがある……それが津山事件だ。1938年、岡山県で発生した。犯行2時間足らずで28名が即死、5名が重軽傷を負った。都井睦雄(といむつお)が犯人で、あらかじめ用意していた散弾銃やブローニング猟銃、斧や日本刀などで同居していた祖母を筆頭に村民たちを次々と殺害、その後自らも命を絶った。犯行は計画的で事前に送電線を切り、集落を孤立させるなど用意周到なものであった。その犯行動機は、「結核のため兵役検査で丙種合格(入営不適格)で集落内で差別されていた」ということと、「夜這いの風習があり、集落内での性的関係が入り乱れていた」ということであるらしい。らしいというのは集落の生き残りが少ない上に、その生き残りも口を閉ざしているからで、いろんな「真実」が入り乱れてしまっているから。八つ墓村のモデルにもなり、その社会的影響は大きかったが、何よりこんなに大量に人を殺す、という事件は、これからもう起きないだろう。京アニの事件が起きました…。

伏見稲荷大社にはなぜあんなに鳥居があるか……京都市伏見区深草にある神社が伏見稲荷大社である。旧称は稲荷神社で、全国に約3万ある稲荷神社の総神社。江戸時代には商いの成功(結願：けちがん)を祈る商人たちに人気があり、キツネの棲む穴倉を見つけて稲荷神を勧請する者まで現れた。結願の礼として本社に赤い鳥居を奉納する習慣が広まり、膨大な千本鳥居になったという。なお実際は一万本以上ある。「キツネ」が好きな筆者としては、ぜひともキツネ好きたちの聖域にもなってほしい。

シンクロナイズドスイミングのカメラは特殊……よくよく考えれば、空気と水で屈折率が異なるため、単純にカメラを半分水につけただけではうまく撮れないはず。にもかかわらずロンドン五輪からは、選手の体がしっかりと映っている。これは、NHKが「ツインズカム」というカメラを開発したおかげ。水中の被写体は1.33倍大きく見え、両方の映像が同じ大きさになるように2台のカメラレンズのズーム比を自動調整する改良をしたから。

始祖鳥はもはや鳥類の祖先とは思われていない……始祖鳥はかつて、現生鳥類の祖先と思われていた(学校でそう習った人も多いかも)。ジュラ紀に生息、特徴的な羽毛から世界で初めて鳥類と恐竜の関係を強く示唆された歴史的に重要な生物だが、現在ではこれは否定されており、すでに絶滅した動物の祖先とされている。鋭い歯をもった顎を持つ点、かぎづめのある3本の指を持つ点、長い尾部に骨を持つ点が、現生鳥類とは明らかに異なる。鳥のようだが、その重さなどから空を飛ぶことはできず、滑空するような姿勢だったと考えられる。

レシプロエンジンとは何か……往復動機関あるいはピストンエンジンともいわれる熱機関の一種、といってもムズいので、自転車を考えてみよう。自転車を漕ぐとき、ペダルを回転させるため、足はどのように動くだろうか。足の部分の動きだけ取り出してみると、結構単純な「上下運動」を行っているはずだ。つまり自転車とは、人間の足による上下運動から得たエネルギーを、ペダルやチェーンなどの機構によって円運動に変換する、という装置なのだ。レシプロ機関もそれと同じで、上下運動から変換された円運動のエネルギーを動力に仕事をする機関のこと。この発展形として、腕もこぶしも使わずに円運動から直接動力を得る「ロータリーエンジン」、理論上は最高の熱効率を誇る「スターリングエンジン」などがある。

五つの台風が同時にできたことがある……1960年オリンピックローマ大会の直前、日本の周りに5つの台風ができたことがあった。そこでオリンピックの五輪とかけ、これを「五輪台風」という。残念ながら同じ大きさの五つの輪ではなく、大小の四輪と変形した一輪からなる五輪だ。これだけ台風があると解析が全然進まず、台風の飛行機観測を行っていた米軍は”Physically impossible due to Personnel shortage”(定員不足で物理的に不可能)という通知を出した。だが予想に反し、台風が多くなると一つあたりの勢力は弱くなるため、被害はそれほど大きくなかったという。これは台風どうしが、海の暖かく湿った空気を奪い合うため。

紫綬褒章とは何か……「学術芸術上の発明改良創作に関し事績著明なる者」に授与される賞。科学技術、学術、スポーツ、芸術における優れた業績等に対し表彰する、とされている。伝達式に合わせ、皇居で天皇に拝謁(はいえつ)することができる。闇が深いのは、受章した学者が論文不正の告発をされることが多発している、ということ。幸いそれらの告発に対し研究不正を認定したことは、一度もない。嫉妬というのは恐ろしいものだ。

青の洞窟……イタリア南部、カプリ島にある観光名所。石灰岩で構成され、水中に伸びた穴を通して水面から洞窟全体が紺碧の光を帯び、とても神秘的な雰囲気を放つ。ポセイドンやトリトンの彫像が発見され、ローマ帝国の皇帝が個人的なプールとして使っていたと考えられている。

英語の”panther”が指し示すものは国で違う……英語で”panther”といった場合、イギリスではヒョウを、アメリカではピューマを指す(ピューマとヒョウは別物である)。不思議である。一応標準的にはヒョウのことで、特にクロヒョウをpantherという。クロヒョウは独立した一種ではなく、あくまで劣性遺伝によるもの。紫外線照射をすると、ヒョウ独特の模様が浮かび上がってくるという。

ドラえもんの「先生」は「先生」が名字……のび太の担任の先生はちゃんと名前があり、あれは「先生」が苗字。こう書いて「せんじょう」と読む。下の名前は「英一郎」。

天気予報できる石がある……それが照り降りの石である。日光東照宮の鳥居の階段らへんにあり、天気予報ができる石。石の半分が斜めに色が違っていて、右のほうの色が濃くなると雨が降ると言われている。湿気が多くなると色の差がはっきりしてくるという。不思議なことに、普通に水をかけても変化しない。理由はあまりわかっていない。

陽明門は「不完全」……日光東照宮にある門が陽明門(ようめいもん)である。日本を代表する最も美しい門の一つで、いつまで見ていても飽きないことから「日暮れの門」ともよばれ、故事逸話に欠かせない。聖人賢人など500以上の彫刻が施されているが、実はこの門の大事な柱が一本だけ逆さま。全部で12本柱があるが、そのうち11本はぐりと呼ばれる渦巻き状の模様が上向きなのに対し、一本だけ下向き。これは、「完全なものを作ってしまうと、そこから没落が始まる。少しだけ不完全なものをつくれば災いが防げる」という発想によるものだという。魔よけの逆柱と呼ばれる。

瓶の底にあるギザギザ……かたどられた瓶はベルトコンベアで運ばれるのだが、この時ガラス瓶はまだ柔らかくてもろい。運ばれる際の振動で、底の部分に傷がついてしまう。そしてこの傷はいずれ破損にも繋がり得る。そこで、ギザギザの加工を底に施すことで、接触傷がギザギザの先端だけに集中し、容器が傷つきにくくなるのだ。これはナーリングと呼ばれている。これを施すだけで強度はおよそ2倍になるという。

鉛筆が六角形の理由……鉛筆はだいたい3本の指で持つ。3点で力をかけるのだから、3の倍数のものがちょうど力を受け止めるのだ。ちなみに色鉛筆が丸いのは、絵を描くときにはさまざまな持ち方があり、いろんな持ち方に対応できるように。もう一つには芯の強度の問題もある。色鉛筆の芯は鉛筆と違って力のかかり方がちがうと簡単に折れてしまう。だからこそ、均等に力が加わる丸い形をしている。

オーガニックコットンは別に品質がよいわけではない……「肌によさそう」「体に良い」「着心地が良い」みたいな印象のあるコットン。しかし、綿は製品になる時点ではほとんど農薬が残っていないため、品質としては普通のものとほとんど変わらないという。にもかかわらず値段が2倍近くもするのは、そもそもオーガニックコットンは「品質を良くするため」に作っていないから。農薬を使わないことで、土壌、環境、栽培農家の健康に良いのである。先入観というのは恐ろしいな、と実感する。似たような出来事にこういうものがある。2000年に第43回グラミー賞を受賞した世界的バイオリニストであるショシュア・ベルがある日、ワシントンの地下鉄構内でストリートミュージシャンに扮し、腕前を披露。しかし誰も演奏に耳を傾けようとしない。しかも弾いているバイオリンはかのストラディバリウス、お値段は推定4億1000万円。45分間の演奏中、目もくれずに通り過ぎたのは1000人以上。1分以上立ち止まって聴いたのはたったの7人だった。この3日前のコンサートは2000人以上の超満員。そのチケット代は100ドル(11,900円相当)を超すものもあったのだが、地下鉄演奏で稼いだお金はわずか52ドル(6,200円相当)だったという。

空を売った東京駅……2012年に大改装された東京駅。建設当時の姿に戻すという壮大なプロジェクトがスタートしたのはいいが、かかった費用は500億。そんなのどう捻出したのかというと、空を売ったのだ。東京駅は他の建物に比べ高さがなく、その部分の空間を売った(空中権)のだ。駅周辺は特例容積率適用地区。都市の空間をうまく使いたいが、でもみんなが好き勝手建てるといろいろ問題が起こる。だから、何階建てまでいいか、というのを法律で縛っている。容積率というのは建築延べ面積。同じ100平米の土地に1階50平米、2階も50平米なら合わせて100平米でカウントし、容積率は100％となる。駅らへんは、「容積率をお互いに分け合う」ということを認めている地区なのだ。東京駅は本来容積率でいえば17階建てまでは使ってOKだが、実際は3階までしかない。だから「使ってもいいけど実際使ってない部分」を売れば、容積率を売ったことになり、建築費が捻出できる。例えば日本郵政JPタワーは、本来31階建てだったが、空中権を買って38階建てになったという。

台湾で買い物すれば4000万？……台湾のレシートに秘密があった。実はレシートの上のほうに番号がついていて、これが「宝くじの当選番号」になっているのである。賞金は日本円で800円から4000万円。4000万円レベルは何と毎回10～14本出るそう。こんなお得な話はないが、どうしてこんなことをするかというと、ズバリ「店の脱税対策」。レシートを出せと客に催促されれば、お客はレシートを出さざるを得ない。実は台湾は1950年まで、売り上げが自己申告制だったため、少なく申告する業者が続出していたのだ。そこで次の年から、こういう名案を思い付き、実行。その結果わずか1年で税収は1.7倍アップ。効果てきめんだったのだ。

シャチハタは塩が不可欠？……シャチハタはゴム印で、奥にインクが入っている。どうしてインクが垂れないのに押すときだけ出てくるのかというと、ゴムの中にあいた小さな穴があるから。これを多孔質という。多孔質を作るために一番適していたのが塩だった。塩をゴムに溶かして練り込んで焼き、後から水を通せばよいが、「ゴムが溶けるほどの高温に耐えられ」、かつ「水に溶けやすい」物質は塩しかなかったのこと。

はんこと印鑑の違い……印鑑というのは「鑑」という文字が入っていることからわかるように、写したほうのことを言う。印影とも。一方ではんことは、押す道具そのもののこと。

走っている新幹線をチェックする機械がある……ドクターイエローは「走りながら線路の歪みをチェックする」専用の新幹線である。この逆に「線路を車両が通過したときの車輪の温度」を測ることで、車輪や車軸が変形し、事故してしまうのを防ぐ「新幹線台車温度検知装置」というのがあるらしい。異常はすぐに安全管理の部署に届くから、すぐに気付ける。このおかげで異常を早期発見できるようになり、安全がさらに高められたというわけ。

新幹線の座席が2人がけと3人がけの理由……いろんな組み合わせに対応するため。2人なら2人、3人なら3人、4人なら2人を2つ、5人なら2人と3人、6人なら3人を2つなど、あらゆる人数に対応できるようになっている。ただ、たまたまであって、これが後付けとする説もある。

地雷除去でヒーローになったネズミ……それがアフリカオニネズミ。体長25～45cm、体重1.0～1.5kg、見た目もちょっとグロいクソデカネズミくん。タンザニアに拠点を置く団体が、このネズミの優れた嗅覚を使い、地雷の探知・除去に役立てる事業を展開している。地雷が爆発しないし、しつけておけば火薬のにおいのところで立ち止まるので、金属探知機よりも高効率で探索できるという。その役割から「ヒーローラッツ」と呼ばれている。

水中で使えるショベルカーがある……それが水中バックホウ。ショベルカーの一種だが、水中で使う専用。宮古島と伊良部島を結ぶ伊良部大橋(総事業費400億円、全長3.54kmで無料で渡れる橋としては一番長い)の基礎をつくるのに役立ったという。昔は数名の潜水士が全て手作業で積み上げていたが、これを使えば10倍ほど建設が早くなる。陸上用の機械を水中に沈め、船から動力をもらって軽々と重さ2トンもの岩を運ぶ。陸上のショベルカーが1500万するのに対し、その値段は1億とかなり張るが、大幅な人件費削減ができるとあって、日本全国の海中基礎工事に使われるようになるだろう。

ポップコーンを海にぶちまける人々がいる……決して気が狂ったのではない。環境保護のためなのだ。どういうことかというと、ポップコーンが海に広がる様子は、原油や重油が広がるのととてもよく似ている。そこで、油回収訓練のさい、ポップコーンをぶちまけて、それを一粒残らず回収するのである。また、もし回収できなくても、魚や海鳥のエサになるだけで、非常にエコ。すごいぞポップコーン。

和風な東京駅と日本人からの批判……1914年、東京駅ができた。今でいう80億円の費用がかかったビッグプロジェクトだが、実はドイツ人の土木技師にデザインを頼み、一度白紙にしてしまったことがある。彼が実際の総工費の7分の1をかけてデザインした東京駅は、「和風」スタイルだった。屋根には姫路城でも使われる入母屋破風(はふ)や唐破風など、日本のお城や寺社の建築様式を取り入れた。自国の文化を顧みず、西洋に追いつけ追い越せの日本の現状に一石を投じようとしたのだ。しかしその願いは届かず、「ヨーロッパ崇拝の時代の日本で受け入れられるものではない。ステーションごときは外国式が良い」という理由で、彼のデザインは却下されてしまった。かの新国立競技場デザイン問題の100年前には、同じような問題が勃発していたのだった。

東京駅の存在しない「11～13番ホーム」……現在東京駅には在来線・新幹線合わせて23番ホームまで存在するが、途中で11～13番が欠番になっている。まず11番は回送専用なのでホームがなく、12、13番は新幹線の増設により潰されてしまったのだ。

JR東日本の社名のロゴの漢字……よく見てみるといいが、「鉄」の左側の字が矢になっているのだ。これは当然間違っているのではない。JR東日本はかつて大赤字、みんなに迷惑をかけて分社化し、今のように各社になった。そうなるともうお金は「失いたくない」から、縁起のために失うの字を使っていないのだ。

天皇や皇族の御幸に使われている電車がある……それが「なごみ」。E655系電車。これまで天皇・皇族が旅行に行く際の電車として使われてきた「一号編成」がさすがに老朽化していたため、その置き換え用につくられた。一号編成とやらは天皇・皇族・随伴員のみ乗車できたが、「なごみ」は特別車両を外し一般車両に繋ぎ変えることができるので、一般人も味わえる。しかし希望者が多く、ツアーとして申し込まなくてはならない上、運賃＋特急料金＋グリーン料金を払わなくてはならない。

航空機・飛行機に灰皿がある理由……飛行機は当然全席禁煙であるから、トイレに灰皿を置く必要はない気がするが、法律上灰皿がないと飛べないとまで決まっている。これは世界共通のルールで、アメリカ航空連邦局が作った航空法に準ずるもの。嫌煙ムードの中、ロンドンで灰皿が見つからないという理由で離陸が25分遅れたという事例まである。これは、「万が一、お客の中にタバコを吸った人がいたときのため」である。絶対に吸ってはいけないはずだが、最悪の事態を想定する、航空機・飛行機ならではのルールである。

鶴岡八幡宮は奥に行くほど幅が狭い……鎌倉きっての観光名所で、日本三大八幡神社の一つが鶴岡八幡宮だ。参道は奥に行くほど幅が狭くなっている。確かに入口は8.80m、真ん中らへんは6.80m、出口は5.51mと確かに狭くなっていた。これは「朝廷を意識し、いつせめてきてもいいように」とのこと。向こうがせめてきたとき、どんどん奥に行って狭くなれば、まともに攻め込めないはず。そういうことを計算しているのである。さらに遠近法で奥行きを出すことで八幡宮を立派に見せる狙いもあったという。

南極にも手紙を82円切手で送れる……実は南極にも届く。昭和基地。日本の土地、国内扱いになるため、82円あれば届くのである。運ぶ側の気持ちを考えれば、もっと払ってあげたい気もする。

南極では一年中息が白くならない……人間の吐く息が白くなるのはだいたい気温が10度前後のあたりから。最も寒い記録でマイナス93.2度を記録、夏でも0度を上回らない極寒の地で、どうして息が白くならないのか。それは、あの白さが「空気中のチリやホコリに水蒸気の粒が巻き込んで結晶し、水滴になる」というように引き起こされるから。南極はとても空気がきれいなので、核となるチリやホコリがないのである。

南極物語は二度と撮影できない……南極条約が締結され、生態系を乱す可能性のある生き物が持ち込めなくなったから。

4月2日生まれが一番多い……保険会社じゃ割と有名らしい。その理由として早生まれ遅生まれの問題がある。日本では4月2日から学年が変わる。3月下旬や4月1日に生まれた子たちは、最大で一年分も年上の子たちと一緒に学んだり、運動したりしなければならない。これは大きなディスアドである。だから本当はそういう日に生まれていても、4月2日として出生届を出すことで、学校においていかれないようにするのである。病院側からの提案という場合もあるし、保護者があえてそうする場合もある。ちなみに4月1日でなくて2日から学年が変わるのは、「年齢計算に関する法律」が関係していて、法律的には満年齢は誕生日の前日午後12時に達すると定められているからだ。カンニング竹山は本当は3月30日生まれだが、前述の理由から4月2日生まれとして届けられた。そのせいか結婚記念日は3月30日、本当の誕生日を大切にしたいという願いの現れかもね。

道路にある白いひし形マークの意味……この先横断歩道あり、の意味なのだが、そもそも横断歩道で子供が待っていても全然止まらない車が多すぎる。筆者は必ず止まってあげるようにする。2013年のアンケートでは、実に7割のドライバーが「知らない」と回答した。

エッフェル塔を撮るとタイホ？……設計者の死後70年までは保護範囲になるが、エッフェル塔の創作者が死んだのは1923年。どういうことや。実は昼のエッフェル塔は撮っても大丈夫なのだが、ライトアップに関してはまだ生きているデザイナーが関与しており、その著作権があるため「夜限定」で撮影禁止だという。まあ「許可を取ればOK」らしいので、皆さんどうですかね。

花束の正しい持ち方……昔は「下向きに持て」が正しかった。エチレンが出て花が枯れないように、また、花まで水が届くように。しかし今は水中で茎を切る水切り技術のおかげで、時間が経っても花まで水が行き届くように。下にすると水がこぼれるから、今は上向きに持とう。要するに普通に持てばいいのだ。

世界情勢が悪化すると天気予報がよく外れる？……天気を予報するときは、過去の統計は当然、「ラジオゾンデ」という、風船に計測機器を取り付けた観測機を世界800か所で(日本はそのうち16か所)手動で飛ばして、それを共有…という手法もとっている。ところが交戦状態になったら、自分のところのデータは他国に教えたくないはず。データを開示しない国が出てくるせいで、精度が下がってしまうのだ。もし中国情勢が悪化したら、日本の天気予報の精度が下がるだろう。ちなみにWW2中は、日本も天気予報を放送していなかったらしい。

カニミソはカニの何なのか……肝臓的な部分が正解。アンコウでいうところのアンキモと同じ。栄養物質の貯蔵や食物の消化に関係する。しかしまああれを最初に食べようと思った人はいい意味で気が狂っている。

カキツバタ……現在の5000円札の裏側に印刷されている花。ネギかスイセンみたいな細長い葉っぱ、花は濃い紫色で花弁が球状に集まっている。表が樋口一葉と女性なので、女の人らしい花を選んだ。キクやサクラは既に使われていたのでこれを使ったとのこと。ちなみにモデルは尾形光琳の「燕子花(かきつばた)図」である。

bean to bar……豆から板へ。板チョコにおける製造工程を、一つの工房で全部行うことを意味する。今までは、すでにブレンドされた板チョコを溶かし直し、独自の味付けをする製法がほとんどだったが、豆の状態や季節などの条件に合わせ、きめ細かく対応できる点で、bean to bar製法は優れている。その分温度や時間の調整が大変である。明治の「ザ・チョコレート」はこの製法で作られている。

FNブローニングM1910……ベルギーで製造された自動式けん銃。服の下からでも取り出しすぐに撃てるよう設計されており、ハンマーレスである(つまり拳銃の持ち手側上部の出っ張りがない)。信頼性・性能ともに良好で、なんというか美しい。ザ・拳銃、みたいな見た目をしている。日本でも人気が高く、これを改良して将校の護身用拳銃として採用された。いわく付きであり、かのサライェヴォ(サラエボ)事件において、オーストリア皇太子の命を奪った。暗殺に用いられた本物の銃は現在パリ警視庁にあるという。

バイオハザードの斬新さは苦肉の策……言わずと知れたゾンビ系ゲーム。特殊部隊STARSが謎の多い洋館に入り調査を行うが、そこでゾンビがいっぱい出てきて…というシナリオ。固定カメラなのは当時の処理能力を補うためだったが、それが却って恐怖感を引き立たせている。特に廊下でゾンビ犬が出てくるところとかは。ドアを開ける時の演出はゲームロードの時間を感じさせないような工夫で、こちらも恐怖を演出する仕掛けとして評価が高い。また、場面を狭い廊下にしているのは、技術的な問題で1つのエリアに多数の敵を配置できなかったため。当時はこれだけのことがとてつもなく怖かったのだ。「そこを歩く、という恐怖。」に恥じない演出の巧さである。ちなみにOPの実写映像は多摩川の河原で撮影され、撮影でもらったベレッタのモデルガンが検問で見つかりひどく怒られたらしい。

臼田宇宙空間観測所……長野県にある、宇宙科学研究所のための観測所。彗星や月などに接近して観測する宇宙探査機に動作指令を送信したり、探査機からのデータを受信したりする。超遠距離のため信号も微弱であり、その信号電波を受けるため、都市雑音や航空機などの支障がない場所が選ばれた。中核は主鏡面が直径64メートルのパラボラアンテナ。これは日本一大きく、総重量は2000トンもあるという。このレベルのは、JAXA、NASA、ESAなど世界の数機関ぐらいしか持っていない。

R-1ぐらんぷりとは何か……吉本主催、ピン芸人コンクール。フジテレビ系列。カタカナではなくひらがななので注意しよう。第1回は座布団の上での漫談が条件だったが、「とにかく面白ければ何でもいい」ということで、第2回から廃止になった。そもそもR-1のRとは「落語」の意味だ。

U-2撃墜事件……1960年、ソ連を偵察飛行していたアメリカの偵察機、ロッキードU-2が地対空ミサイルによって撃墜され、偵察の事実が露呈してしまった事件。パリでの米ソ首脳会談の予定がぶち壊しになるなど、大きな影響があった。アメリカが偵察していたのは、「やべえミサイル技術で差を付けられてる」との焦りからであり、高高度偵察飛行により、ソ連領内の弾道ミサイル配備状況などの動向を探っていた。当然関係は悪化、キューバ危機へもつれこむこととなる。

アイスランド人は12世紀の文字をそのまま読める……アイスランド語は、アイスランドの30万人に使用される言語。略して「氷語」。9世紀にノルウェーから移住したヴァイキングがもたらし、ノルウェー語に割と近い。しかし他の北ゲルマン語が失った3性を留め、また格変化を保持、英語や仏語からの借用語を排して自分たちのことばにわざわざ置き換えるため、古風な色合いを強く残す。文法の基本構造に至っては、中世から全く変化していない。そのため現代のアイスランド人は、古ノルド語や古アイスランド語により編纂された文学をそのまま読解できるという。日本人が平安時代の古文をそのまま読めるようなものといえばすごさが伝わるだろうか。文字はラテン文字であり、11世紀にキリスト教が流入したことで伝わったという。また人名だが、なんと「苗字」にあたるものがなく、婚姻で氏名を変更したりというのがない。

アゴヒゲアザラシ……北極海、ベーリング海(ユーラシアと北アメリカの間らへんの海)、オホーツク海あたりに分布するアザラシ。北海道では流氷域で子供が見られることがある。例の「タマちゃん」はアゴヒゲアザラシであるが、彼らが日本の首都圏に迷い込むというのは、全くもって珍しい事例といえよう。2005年には徳島県でアゴヒゲアザラシの「ナカちゃん」がブームになっていたが、次年、中州で死んでいるのが見つかった。

アフターバーナー……ジェットエンジンの排気にもう一度燃料を吹き付け燃焼させ、高い推力を得る装置。戦闘機や亜音速爆撃機が装備しており、旅客機で言えばコンコルドしか持っていない。大量の燃料を消費する(巡航速度で数時間持つ燃料も、AB全開だと数十分しかもたない)ため、高推力が必要なときのみ用いられる。ちなみに現代戦闘機最強のF-22はABなしでスーパークルーズ(超音速巡航)できる。格が違うなあやっぱり。

アラモの戦い……テキサスがメキシコから独立するための戦争の13日間、メキシコ共和国軍とテキサス分離独立派の間で行われた戦闘。189人の市民と義勇軍がアラモ教会を砦に立てこもり、メキシコ軍の大軍の前に一歩譲らず激戦を行った。しかし結局メキシコ軍の手に落ちてしまい、189名は全滅。が、メキシコ側の被害は戦死者1500人と甚大。この後メキシコはサン・ジャシントの戦いで大敗を喫し、メキシコ側はテキサスの独立を承認せざるを得なくなった。ここにテキサス共和国が成立(1845年にはアメリカ合衆国に加盟)。この自己犠牲の精神はアメリカの魂とまで言われ、指揮官や兵士らにまつわる多くの伝説が出たという。

アレロパシー……植物が他の植物の成長を阻害する物質を放出したり、あるいは動物などを防いだり引き寄せたりする効果の総称。セイタカアワダチソウが根っこから出す成長阻害物質や、サクラが出すクマリン(サクラの葉っぱの香りのもとになっている)が有名。

ウユニ塩湖……南米ボリビアにある塩湖。真っ青な空が磨き上げられた水面に写り、人間の姿も何もかもが鏡像のように見えるあの写真を撮ってるところ。一度は見てみたいが、実はあの湖自体が標高4000メートルぐらいにあるため、高山病は免れない。ちなみに今は観光客が押し寄せたせいで塩湖の上にタイヤ痕とか足跡がついたり、塩に土が混ざって茶色くなったせいで綺麗に見えないとか散々言われている。

近接信管……砲弾が目標物に命中しなくても、一定の範囲に達すれば起爆する信管。太平洋戦争でアメリカが導入、艦対空迎撃能力が大幅に上がった。当時の秘匿通称から「VT信管」とも。ちなみにVT信管がなければ日本はマリアナ沖海戦などで勝てたかといえばそういうわけでもない。優秀なレーダー網、航空管制による迎撃、航空機の性能差などから、艦隊上空に到達する以前に大半が撃墜されていたという。逆に戦艦の高角砲にVTがあったら…なんて考えるのは、ナンセンスだろうか？

真田紐……縦糸と横糸を使い機(はた)で織った、平たく細い織物の紐のこと。材質は木綿。兜締めとか帯留め用の紐、荷物紐などの用途で、古くから武士や商人に愛用されてきた。関ヶ原の戦いの後に九度山に蟄居していた真田父子が作って生計を立てていたという俗説があるが、これは真偽不明。チベット周辺の言語で「紐」を意味する「サナール」が入ってきたとか、平安時代当初中国から入ってきた紐が「さのはた」と呼ばれていたとかいろいろ説はあるが、真田は関係ないようである。ちなみに人間の腸に入り込み栄養を吸い取るサナダムシは、名前がここからきている。

明治エッセルスーパーカップの「エッセル」とは……社内ではスーパーカップではなくエッセルの名で通っている。エッセルというのは、エクセレント＋エッセンシャルの合成でできた造語。

結果に訴える論証……「Qという結果が望ましいから、Pは真である」というような形式の誤謬。かのピタゴラスもこれに陥っていた(「神が世界を作ったならば数の体系は揃っている。数の体系が揃っているのが好ましい。よって神が世界を作った」のように)他にも、「高学歴は常識がないはずだ。低学歴は頭が堅くないから」みたいなよく見るのも。やってしまいがちなので注意すべきである。結論を急ぐあまり、望ましいことを根拠にしてはならない。

タブロイド思考……単純に断言できず判断が難しい、複雑な事象について、皮相的に単純化、類型化して把握してしまう思考のあり様のこと。「分からない」というのは心理的に負担がかかるからだろうか、単純明快な図式的回答を、どうしても鵜呑みにしがちである。流行りのものを思考停止的に買うのも、いちおうタブロイド思考になる。タブロイドというのは小さめの新聞であり、小さい分文字数が制限されることから、断定的な言い方が多くなる。そのため物事を見通せた気になれる。陰謀論の大半はこれで説明できる気がするが、そういう風な言論自体がタブロイド思考なのかもな、とか考えると、やっぱり気が狂いそうではある。

ルチャリブレ……スペイン語でプロレスのこと、特にメキシコのスタイルのものを指す。トップスターレベルともなれば神格化されるため、人前で絶対にマスクを外さない。死後もマスクを脱がさずに葬儀された人もいるぐらい。なおスプリングなどの衝撃吸収加工が会場にないことが多いため、受け身技術の習得は不可欠。また頭から落とす技は危険なので禁止など、他のプロレスとはだいぶ違うようだ。

なんでや！阪神関係ないやろ！……トラウマを掘り返されたある阪神ファンの悲痛な叫び。2005年、日本シリーズ(セ・リーグ王者vsパ・リーグ王者の戦い、つまりプロ野球の頂上決戦の一つ)における事件に由来。千葉ロッテマリーンズとの闘いで濃霧コールド負けを喫すと、第一戦は10-1、第二戦は10-0、3戦目に本拠地の甲子園球場に戻っても調子を取り戻せず1-10、第四戦2-3、4試合の合計スコアはロッテ33-4阪神と見るも無残なフルボッコ。ファンからすれば悪夢以外の何物でもない。そして2010年、中日ドラゴンズと千葉ロッテマリーンズの顔合わせとなる日本シリーズで、主にNHKの中継でインターバル時に、ロッテの直近の日本シリーズの戦いぶりとして、例の2005年の映像が、阪神ファンへの嫌がらせかというほど流された。これで野球chやなんJではネタがブレイク。「33-4」関連スレが乱立し、トラウマをえぐられるのに耐えかねた一人のファンが悲痛な声で叫ぶ。「なんでや！阪神関係ないやろ！」と。なんやかんやあるが、セ・リーグ優勝チームが、日本シリーズでは手も足も出なかったことのインパクトがデカすぎたのだ。

ひらがな表(五十音表)があの表な理由……サンスクリット語に由来する。これは古代インドにて使われてきたことば。仏教のために梵字を読む僧侶たちは、サンスクリット語を研究する必要があった。そのときのサンスクリット語における子音、および母音の並び方があんな感じだったから、それと同じの表になったそう。

一二三ときてなぜ四なのか……三の下に一本足したのを「よん」にすればいいのに、どうして全く違う漢字になったのか。実はこれ、一二三が特殊で、つまり指事文字なのだ。それに対して一般的な四は指事文字ではない。この漢字は「口の中に歯や舌が見える様子」を表しており、本来の意味は「息」。つまり「シー」。本来使われていた「亖」(四を表す)という漢字の発音も「シ」だったから、「じゃあ四を使ってもいいんじゃね？」と考えたのである。つまり当て字。仮借。ではどうして亖が廃れたのか。これは理由がよくわかっていないが、ローマ数字がI、II、IIIときて突然IVになるのと同じだと思う。要するに気持ち悪いのだ。

ガチンコの語源……大相撲やプロレスで「真剣勝負」を意味する隠語だった。力士同士が激しく立合いをする時、「ガチン！」という音がするところから使われるようになった…とかいう本当か嘘かわからないものが知られている語源。そういう隠語があるほどに相撲は「ガチンコ」であることが求められるはず。だから(特に本場所で)八百長なんかがあると大騒ぎなのである。それに対し本場所以外ではあえて地方出身力士に花を持たせるような取り組みもあるという。もともと相撲は興行的側面が強いイベントだからしょうがないね。

レッサーパンダ……なんだろう、なぜか「あらいぐまラスカル」に似てる動物。尻尾は茶・黄土色の縞々。温帯亜熱帯の森林・竹林に生息。樹上棲と考えられ、タケやタケノコ、小型哺乳類、昆虫などを食べて生きている。現在密猟、毛皮、ペット目的の狩猟などにより数が減っているが、日本の動物園では元気な模様。2005年千葉市動物公園で飼育されているオスの「風太くん」が後ろ足で直立すると話題になった。基本的に直立はしないが…。ちなみにラスカルに似ているのは、作者スターリングが「可愛くない」という理由でレッサーパンダぽく書き換えたためであり、彼が出会ったのはアライグマで間違いない。

サッカーの「ブオオオ」ってやつ……あれはブブゼラ、南アフリカの民族楽器。最近はプラスチック製がほとんどだが、もともとは動物のツノで作っていた。演奏には一定の技量が必要となる。なお発音は「ヴヴゼラ」が正しい。最大130デシベル(ロックコンサートの会場内で110デシベル程度)で難聴を招くおそれもあるとされる。当然監督や選手からは試合に集中できない、という苦情が来たが、フランスのテレビ局がブブゼラの音のみカットして放送するのに成功したとのこと。現地では騒音防止用の耳栓も人気のよう。

北京ダックは皮しか食べない……もったいない本当の話。北京ダックは、下処理したアヒルを丸ごと炉で焼く料理。北京料理の代表の一つ。なお食べるのは「皮」であり、皮を削ぎ切り、小麦粉を焼いて作った皮に、ネギ、キュウリ、甜麺醤と共に包んで食べる。皮しか食べないなんてもったいないが、肉の部分などは余さず別の料理に使われるため、アヒルさんも天国で喜んでると思う。

なぜ殺陣と書いて「たて」なのか……殺陣とは、映画やテレビドラマで俳優が格闘シーン時に素手素足もしくは武器を用いた演技を指すことば。昔公演の演目を決める時冗談で「殺人」としようとしたところ、「穏やかじゃないね」と言われて「陣」の字を当てることを提案したことが語源。呼びかたの「たて」は昔から呼ばれていた。

国宝になった落書きがある……法隆寺の天井の見えないところに、当時の大工さんが描いたらしい落書きが見つかっている。これほどのレベルとなるともはや「貴重な研究材料」なので、国宝になった。万葉仮名で書かれた古い歌謡だったり、男の人の(なかなか上手な)絵だったり、異様に鼻の長い天狗みたいな奴だったり、お〇んぽの絵だったりする。こんなものを残されて、きっと天国の雲に顔をうずめているに違いない。

ツール・ド・フランスで電車を使った選手がいる……それがモリス・ガランである。彼はツール・ド・フランス初代優勝者。全長2428km、6区間の行程を94時間33分14秒で走破し、なんと二位との差は2時間49分21秒とかなり圧倒的。第二回でも総合一位でフィニッシュ。だが実は走破途中で列車を利用していたことが発覚、出場停止と順位はく奪のペナルティを受けてしまう。その後は二度と自転車には乗らなかったという。

ツール・ド・フランス……毎年7月にフランスや周辺国で行われる世界最高峰自転車レース。「フランス一周」を意味する通り、距離にして3300km前後、高低差2000m以上という起伏に富んだコースを走り抜く過酷なもの。総合成績だけでなく、ポイント賞、山岳賞、新人賞といった賞があるのが特徴。総合優勝者は45万ユーロと黄色のジャージ(マイヨ・ジョーヌ)を与えられる。なおポイント賞はマイヨ・ヴェール(緑)、山岳賞はマイヨ・ブラン・ア・ポワ・ルージュ(白に赤い水玉)、新人賞はマイヨ・ブラン(白色)。黄色はスポンサーの新聞紙の色が元になっている。緑はガーデニング用品店がこの賞のスポンサーだったから。水玉は「赤い豆をちりばめた白」の意味で、お菓子メーカーの商品であるキャンディーパッケージからとったという。

「背面投げ」というボールの投げ方がある……柔道とかではない。野球である。後ろに振ったように見せそこでボールを投げてしまうのだ。ルール違反ではないため、打者の意表をつくことを目的に使われる場合がある。プロ野球公式戦では1969年、小川健太郎が読売の王貞治に対し、背面投げをした。審判は「本当にやりやがったあ！」と叫ぶ。これでペースを崩され結局王は三振。当時の正捕手の人は「たった数球だけしか投げないのに毎日200球近く投げて練習しており、練習に付き合わされるのは大変だった」と語っている。

研究室を貸しただけでノーベル賞を取った人がいる……ジョン・マクラウドという男。バンティングという町医者に「糖尿病を防ぐホルモンを抽出したいから研究室を貸してくれ」と頼まれる。いきなりなんやねん！とキレて断るが、あまりにしつこいので「じゃあ俺が休暇に行ってる間だけよ」と何度も言い貸してしまった。この間にバンティングらは血糖を下げる物質…今でいう「インスリン」を抽出することに成功。休暇から戻ったマクラウドはその成果を見て総力上げて取り掛かる。その結果大量にインスリンを抽出する方法を開発し、二人はノーベル賞をとった。

どら焼きの「どら」とは？……某ネコ型ロボットが好きな食べ物。形が銅鑼に似ているから、という説もあるし、傷を負った弁慶に対し、熱した銅鑼の上で水溶き小麦粉を伸ばしたものをひき、それであんこを包み、振る舞ったことが起源ともいう。いずれも銅鑼に関係しているのは間違いない。江戸時代は皮を一枚しか使っておらず、端っこは折りたたまれて四角い。つまり片面はあんこがむき出しだったという。これが「助惣焼」(すけそうやき)。明治時代になると丸い生地が登場するが、皮はペラッペラの薄い生地。皮よりあんこを味わうものだったらしい。今のようなどら焼きになるのは、ようやく大正時代に入ってから。関西地方では、奈良県にあるなだらかな山、三笠山にたとえて「三笠山」と呼ぶこともある。ちなみにドラえもん作者の出身、富山県では、身近な和菓子で、お祝い事や法事の時にどら焼きを贈る習慣がある。また、ドラえもんの「ドラ」は「どら焼き」に由来するわけではない。どら猫だという。ドラえもんがどら焼きが好きな理由はふたつある。一つ目はあんこがロボット稼働のエネルギー源に最適なため（意外と科学的）。二つ目は、ロボット学校時代の同級生「ノラミャーコ」ちゃんにもらったどら焼きがとても美味しかったから。こちらはなんともロマンチックな理由である。

今川焼の由来……丸くてアンコの入ったあのお菓子。食べたい。名前の由来はいくつかあって、江戸時代中期、今川橋付近の店で、桶狭間合戦にもじり「今川焼」として宣伝したというもの、今川氏の家紋を由来とするものなどがある。有力なのが「橋の名前からとった」というもの。江戸時代、現在の東京・神田付近に「今川橋」という橋があった。この橋は名主・今川善右衛門が作ったことが分かっている。この今川橋近くにあった露店で、今川焼きの原型となる焼き菓子が誕生した。その焼き菓子の名前を、近くの今川橋から取って命名したと考えられる。やがて全国に広がり、今川焼きという名前が定着したという説だ。珍しく全国での名前が統一されておらず、大判焼きと呼んだり、太鼓饅頭と呼んだり、浅草焼と呼んだり、ビックリ饅頭と呼んだりする。なお台湾でも意外に人気で、タロイモ、ゴマ餡とピーナツ、キャベツ炒め、カレーなんかを入れるというが、筆者にしてみれば黒、しかも粒あん以外は全部邪道外道鬼畜人外の道である。

むっちゃん万十……福岡県宗像市(むなかたし)に本部のある焼き菓子。地元の自然をPRしようと、長崎県諫早市出身の人がムツゴロウの名前の菓子を考案。ムツゴロウの愛称であるむっちゃんの名をつけて1980年後半に売り出した。諫早湾で減っていくムツゴロウを形に残そうとした願いがこめられている。ハムエッグとカスタード、アンがおすすめ。おいしいよ。

ドラえもんが最初に出したひみつ道具は……「ヘリトンボ」が正解。第一話「未来の国からはるばると」で一番最初に出した。実はこの時期は「タケコプター」ではなかったのである。

こぎつね座……夏の大三角の真ん中にある目立たない星座。もともとは「ガチョウをくわえた小さなキツネ」と呼ばれたが、ガチョウだけ星図からも星座名からも消えた。４等よりも明るい星がなく、双眼鏡で見るのがよい。何がかわいいって星図がかわいいんだよ。でもそれを外すと全然子ぎつねには見えないという罠。ちなみに亜鈴状星雲(あれいじょうせいうん)という星雲が、1235光年離れたところにある。鉄アレイに似てるからそうついたそうな。

むすんでひらいてはルソーが作曲した……文科省唱歌。実は作曲者はフランスの思想家、ルソー。パントマイム劇で用いられた。それがイギリスでキリスト教賛歌になり、日本に伝わって７年後、「見渡せば」「戦闘歌」として歌詞をつけた。WW2終戦から２年たった1947年、小１向けの音楽の教科書に「むすんでひらいて」として登場。

朝立ちは正式名称が長い……朝立ちは男の生理現象だが、性的な夢を見ることで起こるわけではない。ノンレム睡眠の時に起こり、定期的に海綿体に血液を送ることで、メンテナンスをしているらしい。ほとんどの男性は一生にわたり経験する。正式名称を「夜間陰茎勃起現象」という。

車輪の再発明……車輪は重いものを運ぶときに使われ、鉄がある国とない国の国力の差はここから生まれたといっても過言ではないぐらい重要なもの。転じて、「確立された解決法を知らず、同じものを一から作ってしまうこと」を意味する。要するに皮肉である。応用例に「四角い車輪の再発明」(劣化してしまうこと)がある。なおオーストラリアではイノベーション特許として、本当に車輪が再発明され、特許が取得された。これはこの制度がほぼ無審査であることへの皮肉として、故意に申請されたもの。この年のイグノーベル技術賞を得た。

ジョージ・マロリー……イギリスの登山家。エベレストを目指したがその途中で行方不明。75年後に遺体が発見された。「なぜあなたはエベレストに登るのか」と聞かれ、「そこにあるから(Because it’s there)」と答えた逸話は有名。日本では「そこに山があるから」と訳されるが、itがMount Everestを指すことは明確であり、山一般について述べたのではない。適当に答えたというよりむしろ、気圧されそうになるほどのエベレストへの熱意を感じさせるひとことである。

エンドレスエイト……ハルヒのアニメ版で行われ、かなり賛否両論巻き起こした演出。登場人物の一人が、「この日々がループしていることに気付き、脱出する」までの８回、ほとんど同じ展開で進む。絵コンテも何も全部書き直しているのだが、演出としては「くどい」そのひとこと。なお「ループする苦痛や不安感をうまく表している」という意見もあったが、リアルタイムで見ていたかどうかでも、かなり変わってきそうである。筆者としては「最初で気づかず、２回目に気付き、３回目に脱出」ぐらいで良かったのではと思う。なお登場人物は１万８千回ほどループしていたらしい。シュタインズゲートにおいて、OKRNがSINMYRを助けるためにループしてるのと同じである。AMNSZHエンドは正直トラウマでした…。

ネット界を震撼させた「西鉄バスジャック事件」……別名ネオむぎ茶事件。これは犯人の少年のコテハンに由来する。2000年に起きたもので、死亡者1名、負傷者2名を出した、おそらく日本で「ネット＝危険そう」「キレる若者」というイメージを植え付けた最初の事件と思われる。少年は２ちゃんねるに入り浸っており、コテハンで嫌がらせのような書き込みを続けていたところを叩かれて犯行に及んだ。黎明期2ちゃんは様々なシステム上の不備を抱えており、そういう弱点を見つけて荒らしていたので、「スーパーハカー」(自称「パソコンに詳しい人」を揶揄したもの)と言われていたという。日本バス協会はこの事件を機に、バスジャックへのマニュアル作成、異常事態を知らせるための車両後部への非常灯の点灯を進めた。西鉄では独自に、ヘリでの追跡時に上から車両を特定できるよう、車両番号を表示するように。さらにSOSマークを行き先に表示させるようにしたり。

ポッケ村の「ポッケ」の語源……アイヌ語で「温かい」を意味する。決してポータブルサイズで「ポケットに入るぐらい小さい」という意味ではないので注意。ちなみに村にまつわる二匹、アカムトルムは「災厄」、ウカムルバスは「雪の白い神」(カルム(神)、ウバス(雪))という意味だという。ポッケ村が寒冷だということにも関連しているのかもしれない。

玉藻の前……平安時代末期、鳥羽上皇の寵姫であったという伝説上の人物。妖狐の化身で、正体を見破られた後、殺生石(毒を放ち生物を殺す石)になったという。なお見破ったのは安倍晴明であり、変身を解かれて九尾の狐の姿で宮中を脱走、行方を晦ました。今でも殺生石が栃木県に残っている。ちなみに九尾の狐の登場は古代王朝殷にまで遡るという。中国日本、いろんな形で、その姿などが遺されている。

寿司の「バラン」には元ネタがある……それが「ハラン」。庭園の下草として植えられたリ、和食での料理の盛りつけに使われる草。巨大な葉っぱを地面に立てる。現在使われる緑のプラスチックシートを「バラン」と呼ぶのは、ここに由来する。

必須アミノ酸一覧……生きていくうえで取らなければならないアミノ酸。人間では9種類。「トリプトファン、リシン、メチオニン、フェニルアラニン、トレオニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、ヒスチジン」である。「フロバイスヒトリジメ」(風呂場椅子独り占め)と覚えれば楽である。ちなみに必須アミノ酸は全種類をバランスよく摂らないと、有効に利用されない。これを、「アミノ酸の桶」という。一番含有量が少ないアミノ酸を、一番背の低い桶板に例えているのだ。穀物と豆を一緒に摂るのがよい。

アンダルシアン……スペインが原産の馬種。大部分が芦毛(灰色)であり、別名「スパニッシュホース」とも。闘牛士の伝統的な乗用馬として使われてきたほか、王室用馬の基礎として、イギリス、デンマークなどで用いられている。見た目が優雅で高貴に見えるから。日本でも飼育されており、馬事公苑などでたまに見る。ザ・ボスが飼っていた馬はアンダルシアンだった。

ジャギー……ビットマップ画像などに見られる階段状のギザギザ。解像度に依存し、低いほど大きく目立つ。昔のゲームなどでよく見るアレである。jaggyとは「のこぎりの歯のような」という意味である。

「彳亍」という漢字がある……行…とはちがう。「てきちょく」と読み、「少し歩いて止まること」を意味する。最初の文字が左足、2番目の文字が右足を表すという。

スタンガンで気絶するのは本当か……スタンガンは電流で筋肉を硬直させるレス・リーサル・ウェポンの一つ。漫画やアニメ、映画、ドラマなどでは、当てられた人が一瞬で気絶するが、そんなものが現実にあれば違法の特殊改造品であると言わざるを得ない。自分に当てている動画があるからそれを見るとよいが、とても「気絶」レベルに至るようなものではなく、あくまで皮膚などを傷つけないようなものである(痛みはあるというが)。そもそも非致死性兵器なんてそんなもので、使い方によっては死人が出るのだ。ゴム弾は至近距離で撃たれて人が死んでいるし、無力化ガスと言われてたのに人質含めて全滅なんて事例もある(モスクワ劇場占拠事件)。ものの使い方によっては、危険にもなったり安全にもなったりするのだ。

フリードリヒ・フレーベル……ドイツの教育学者で、幼児教育の父とも言われる。人間の発達の連続性を主張し、神を不断の創造者としてとらえ、神的本質を有する子どもは不断に創造すべきである、と考えた。1837年、世界初の幼稚園を開園。kindergartenということばは彼の造語で、世界の多くの国々でそう呼ばれている。日本語の「幼稚園」もそれを訳したもの。お遊戯、お絵かき、生活体験、また園庭や花壇は、全て彼のコンセプトから生まれた。アンパンマンで有名な出版社、フレーベル館は、彼の名前に由来したものだ。

フィトンチッド……樹木などが発散する科学物質。植物が傷つけられたときに出し、殺菌力をもつ揮発性物質のことを指す。森林浴はこれに接して健康維持する方法だが、単純に癒しとか安らぎという側面も多い気がする。テルペノイドが代表的で、例えばモノテルペンはバラの香り、リモネンはレモンの香気成分、メントールは爽やかな芳香など。

サントリオ・サントリオという面白い名前の人がいる……サントリオ・サントリオ、大事なので二回言った。ガリレオの温度計を改良して体温計を作ったり、脈拍計を考案したりして、医学への機械論的アプローチを発展させた先駆者。なんと体温計ができたのは1602年である。西洋医学というのはやっぱりすごいなあと実感させられる。大型の代謝天秤を設計し、自らそのうえで生活、摂食量、排泄量、体重変動の関係を30年にもわたって研究した。名前はこれが正しいのであり、決して大事なことだから2回言っているわけではない。

ジョン・フラムスティード……イギリスの天文学者。1666年、1668年の日食を正確に予言。初代「グリニッジ天文台長」となる。観測機器は全て自費で器具を揃えた。設計にあたってはティコ・ブラーエのデータをもとにし、それを望遠鏡用に改変。ニュートンにデータを送ってと頼まれ送ったところ、「まずデータ送るの遅いししかもこれ間違ってる。わざとだろ？」と非難されるが、実は地球と月の関係はニュートンの考えたような単純な関係ではなかったことが、彼の死後判明した。フラムスティードのかいた「天球図譜」は長らく航海や測量の基礎になり、これさえあればグリニッジとの経度緯度の差がわかるようになったので、自然とグリニッジ天文台が基準点となる。そのため本初子午線を決定する際の基準が、グリニッジ天文台になったのだ。

生命の「種」が地球にやってきた？……そう唱えるのが「パンスペルミア説」。まじめな話ですよ。そう主張する人もいるぐらいなのだ。生命は宇宙にいっぱいいて、その一部が地球に「やってきた」とするもの。つまり他の天体の微生物の芽胞(種みたいなもん)が地球にやってきたのだとする説。1903年、スヴァンテ・アレニウスが提唱。アホらし、と思うかもしれないが、日本は2015年、これを検証するため、ISSのきぼう実験棟船外に設置した装置で、微小な隕石や粒子を捕まえ、そこに生命の材料になるような有機化合物が含まれるか、微生物が惑星間の移動に耐えられるか、などの実験を本気で行っている(たんぽぽ計画)。計画名は、宇宙を飛ぶ生命の種を、風に運ばれるたんぽぽの種に重ねて命名。

韮山反射炉……静岡県伊豆にある反射炉跡。日本で唯一現存する実用反射炉。2015年にはユネスコに、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として正式登録された。これは大砲を作るために必要なものであり、反射炉とは鉄を製錬する炉のことである。その名の通り、燃焼室で発生した熱を天井や壁で反射、炉床に熱を集中させる。1840年のアヘン戦争に危機感を覚え、建設された。

砂時計のくびれたところには名前がある……オリフィス。アレに名前が。流量の調整や測定に使う、液体の流れ出る穴。流速が開口径により変化するという性質を利用している。砂時計のくびれたところの正式名称でもある。筆者の好きなチャゲアスだが、「砂時計のくびれた場所」という歌を歌っていた。「砂時計のくびれたところ それが今の二人」らしい。そこ、オリフィスですよ。

チェーホフの四大劇作……かもめ、ワーニャ伯父さん、三人姉妹、桜の園。全部見たら願いが叶うかも。「サッカーはサッカー」(さ・か・は・さ)というゴロで覚えることができるが、いまいち意味がない。

ピザとピッツァの違い……アメリカ風で、サクサクの生地の上にピザソースやチーズをかけ、サラミ、シーフードなどを載せたのがピザ。イタリア風で、表面ぱりっと、中はモチモチの生地にトマトソースやチーズをのせたのがピッツァ。ピザは具材を楽しみ、ピッツァは生地を楽しむのである。生地は基本的に水、小麦、酵母、塩のみとこだわりも強く、石窯で焼いていれば間違いなくピッツァであろう。

獣医の「吹き矢」……動物園のお医者さんが真っ先に覚えるのが吹き矢。引っ越しのとき、自分で動物が移動しない場合、吹き矢で麻酔させる。そうして輸送箱に移したり、聴診や採血をしたりするのだ。動物はそもそも動くので、危険な部位に当たったり、弾が外れたりなどのミスは許されない。だから、獣医になったら真っ先に吹き矢を覚えるのだという。

出雲大社は「おおやしろ」……鳥取県にある神社で最も有名なものといえばやはり出雲大社だろう。神無月、つまり10月には全国のほとんどの神様がここに一堂に会し、だれを助けてあげるかの会議をする。であるから鳥取県では神無月ではなく神有月(かみありつき)と呼ぶ…というのが俗説であるというのはおいといて。出雲大社は日本神話にもその名が登場する、由緒ある神社なのだが、一つ不幸なのは名前。実は「いずもおおやしろ」が正しいのだが、全く誤解されてしまっているので、「いずもたいしゃ」と呼ばれている。変換でもそっちが先に出てくる。

ムショ帰りの「ムショ」の語源……実は刑務所ではない。というのも、大正11年に監獄から刑務所に改名されており、それ以前にも「ムショ」という隠語が登場するからだ。実はムショは監獄時代の食事に由来し、ご飯の分量が、麦が6割米4割だったので、「六四寄せ場」(むしよせば)と言われていた。それがムショということばになったのである。

アイスクリームを食べたときの頭痛が、人命を救うかもしれない……心拍再開前に脳を冷却できる、世界初の体温調節装置システム「クーデックアイクール」を岡山大学の教授が開発した。心肺停止時に脳を低温に保つと神経細胞が死滅するのを防ぐ効果がある(冷却できれば、神経細胞障害に大きく関わる、グルタミン酸濃度の上昇を抑制できる)。現在、心拍再開時に冷却シートを密着させ、全身の体温を下げる方法が取られていたが、再開するまで施行できないことや、脳の冷却に時間がかかることなどの課題があった。クーデックアイクールは、かき氷を食べたときの頭痛に着目して開発。アイスクリーム頭痛は、喉に接して走行する動脈が脳を循環するため。だから、喉を冷やせば脳を冷却できるのではと考えられた。

なぜお墓にヒガンバナが咲いているか……秋のお彼岸(秋分、春分をはさむ前後3日合計七日間)らへんに咲く赤い花、ヒガンバナ。その美しさに似つかわしく、全身が有毒で、球根にはアルカロイド系の特に強い毒(リコリンを主成分とする)がある。経口摂取により吐き気や下痢を催し、ひどい場合には中枢神経が麻痺して死に至る。日本では水田の畦や墓地に多くみられるが、これは目的がある。畦の場合、ネズミや虫などに荒らされないように、墓地の場合、土葬後、死体が動物に掘り起こされないようにとのこと。長時間水に晒せば一応無毒化されるので、球根は戦時中には食べられていた。名前は彼岸に咲くことから由来するという説と、食べた後は彼岸(死)しかないとする説がある。仏教における別名は曼珠沙華(まんじゅしゃげ)であるが、意味は「白くやわらかな花」であり、なぜか外観とは似ても似つかない。学名はLycoris(リコリス)。愛知県半田市には新美南吉(にいみなんきち)記念館があり、ここには百万本のヒガンバナが咲く。ごんぎつねには「赤いきれのようにヒガンバナが云々」の記述があり、ここがごんぎつねの舞台とされる。

第一次世界大戦を引き起こした張本人は死刑になっていない……ボスニア系セルビア人で、サラエヴォ事件にてオーストリア皇太子らを暗殺した犯人、ガヴリロ・プリンツィプがその本人。青年ボスニアの活動家。暗殺成功後青酸を飲むも、残念ながら不良品で自殺できず、拳銃自殺を試みるが発砲前に群衆に取り押さえられた。ハプスブルク家の法律に基づき死刑を求刑されるが、20歳に達していなかったため死刑を免れ、懲役20年となった。しかし結核が悪化し、およそ4年後に死亡。死後、遺体は民族主義者の聖地になることを避けるため秘密裏に埋葬されたが、立ち会ったチェコ人兵士が「セルビア人の永遠の英雄」と書いた記念碑が墓地に立てられている。セルビア王国の滅亡に繋がったため、必ずしも肯定的な評価ばかりではないが、2015年にはセルビア大統領によって像がたてられ、「彼は英雄であり、ヨーロッパにまたがる暴君による奴隷支配からの解放の象徴である」とたたえた。

星は等級が小さいほうが明るい……よく誤解されるが、小さいほうが明るい。1等級変わると明るさは100の5乗根、つまり2.512倍変わる。つまり5等級差なら明るさの差は100倍である。もう一つ誤解されるのが0が最高に明るいという考えだが、あくまで対数表現なのでマイナスの値もとれる。地球からみて現在最も明るいのは太陽で、-26.7等級である。その次が月で-12.7。人間の目の光に対する感度は対数的なため、それを反映しているともいえる。

ラシュモア山……サウスダコタ州にある花崗岩に彫られた4人の大統領の顔の像。左からジョージ・ワシントン、トーマス・ジェファーソン、セオドア・ルーズヴェルト、エイブラハム・リンカン。アメリカの成立、発展、開発を記念する建造物とあって、この4人はアメリカのそれらに大きく貢献した人達ばかりである。早い話が歴代でもとびきり有能か有名な人物たち。花崗岩は非常に硬く(というか硬いから花崗岩を選んだのだ)、ダイナマイトで砕きながら作業したという。おそらく数億年後も残っているはずである。

勘違いキノコ御三家……「ツキヨタケ」はキノコ中毒事件の半数を占める。MGS3のスネークが食べさせられたのもこれ。「これ、毒じゃないか…！」裂いてみると付け根が黒や黄色に染みている。「カキシメジ」は地面に生え茶色で地味。ザ・キノコという感じ。チャナメツムタケというキノコと判別するのが非常に難しく、胞子を顕微鏡で確認しなければいけないレベル。幸いなのは死亡例がないことか。今のところは。「クサウラベニタケ」は別名怪人百面相。湿度温度年齢時間によりコロコロと姿が変わる。プロでも見間違え、複数の可食キノコと間違えて食中毒の案件が後を絶たない(死亡例もある)。判別はまさに運ゲー。

毒キノコ御三家……「ドクツルタケ」は北半球に広く分布。穢れない純白の傘は西洋でも「天使」と呼ばれるほど。しかし「死の天使」である。毒の強さでこそカエンタケには負けるが、カエンタケは日本でも一部地域にしか生えていない。それに対しドクツルタケはちょっとした林さえあれば生える。近くの雑木林にでも行ってみよう。探さなくても見つかるよ。美味とされるが食べてはいけない。6時間後に強烈な嘔吐下痢に悩まされ、その後…収まってしまう。え？…そのためだいたいの人は「腹を壊しただけだったな」とそのままにしてしまうのだが、実はこの間も少しずつ体をむしばんでいくのだ。約一週間後、第二波が襲う。この時点ではもう手遅れであり、内臓と言う内臓はスポンジみたいに破壊され、洗面器いっぱいに血を吐いて死に至る。「家族に別れを告げる猶予を与えているようだ」ともいう。「タマゴテングタケ」は真っ白な柄とつばを持ち、何とも高貴な、気品に溢れたロイヤルなキノコ。ヨーロッパでの知名度も高い。「毒キノコ」として。ドクツルタケ同様、二段構えで内臓をスポンジのように破壊して、大量の血をまき散らしながら絶命する。キタマゴダケという可食キノコに非常に似ており、素人には見分けがつかない。絶対に食べないようにしよう。「濃硫酸をたらすとひだの部分が変色する」という判別方法があるが。ちなみにヨーロッパでの90％の中毒はコイツのせいで、一説としてカール6世の死因は胃癌ではなくこれを食べたことによる中毒だとか、ローマの暴君ネロの母親は、息子を皇帝にするために夫や政敵をこれを使って暗殺したみたいな恐ろしい話もある。「シロタマゴテングタケ」はドクツルタケに似た真っ白なキノコ。似てるので省略。何にせよ、素人が聞きかじりの知識で判別しようとして中毒するものが非常に多い。プロが見分けられないレベルのものを、素人が判別できるわけないのだから、白いキノコを見つけたら絶対に食べないこと。

カッパドキア……トルコ、アナトリア高原にある、火山によってできた大地。この呼称の最初の記録は紀元前6世紀後半にまで遡る。ヒッタイト軍の本拠地としても知られる。柔らかい地層と硬い地層が重なり侵食し合った結果、キノコのような形をした巨岩が乱立する地域。キリスト教発生初期から、教徒の隠れ家として、岩を削って内部に住むようになったのを発端に、岩石をくりぬいて部屋を作るという独特さが興味深い。地下には隠れ家があり、絵画などが保存してあるが、ほとんど一般公開はされていない。

マトリョーシカ人形は寄木細工から生まれた？……マトリョーシカ人形は、1900年パリ万博で銅メダルを受賞したのをきっかけに多く作られるようになった。それ以前の歴史としては、ロシアのろくろ師が作ったという説と、日本の正教会に来ていたロシア人修道士が、本国への土産に持ち帰った箱根細工の入れ子人形がもとになったという説がある。筆者としてはロマンで後者を採用したい。

サマーソルトは夏の塩？……違う。サマーソルトは格闘技の技の一種で、バク転から一回転する間に相手を蹴り上げる。初代タイガーマスクが得意としていた技で、コーナーにもたれた相手の胸を蹴り後方宙返りする。ストリートファイターシリーズに登場するガイルの得意技でもあり、サマーソルトキックと呼ばれている。語感から”Summer salt”というつづりがうかぶが、“Somersault Kick”が正しい。前者だと夏塩になってしまう。

「ピヨる」表現はいつ生まれたか……意識がもうろうとしてふらつく活動不能状態を表す俗語。ストリートファイター2で、キャラクターの頭を小鳥が輪を描いて飛びまわる表現から由来する。もちろんこの表現自体はトムとジェリーでも見られる、伝統的王道描写の一つである。

五円玉のデザイン……五円玉の中心には歯車が描かれており、これは工業を表している。稲穂が描かれ、これは農業、稲穂の下の横線は水面で水産業を表す。そして五円は貨幣なので、それ自体が商業を体現。また表面には国名表記と共に双葉がデザイン、これは林業。以上の5つが円を描くように配置され、「5円」。「ご縁」ともかけているのかもしれない。陰陽五行のような意図もある。またそれらの五円により支えられた日本が黄金に輝き、戦後の焼け野原に芽を出した双葉のように力強く発展するよう願われて考案されたものなのだ。原料である真鍮は、実際に戦争の兵器として使われていた大砲の薬きょうにより再利用された。無益な戦争に対する痛烈な皮肉まで利かせている。他の硬貨がアラビア数字を取り入れたのに、5円だけが漢数字のままなのは、これらの意匠に込められた想いをかえずに残そうという意図がある。うーむ。すごい。

ベツレヘムの星……東方の三賢者に対しイエス・キリストの誕生を知らせ、ベツレヘムに導いた、キリスト教徒にとっては宗教的な星。しかし現代では天文学者たちはこの星について、歴史的な正確さには疑問を抱いている。マタイによる福音書の筆者によりつくられたフィクションだと考える人も多い。クリスマスツリーの先端に飾られる星はこれであるという。

びびるの語源……怖がって尻込みすること。平安時代末期には使われていた。大軍が動くときの鎧の触れ合う音が「びんびん」と響くことからこの音を「びびる音」と形容したことによる。平家が今の富士川あたりに陣をしいたとき、小鳥がいっせいに飛び立つ音を源氏が攻め込む「びびる音」と勘違いし、平家軍はビビッて戦わずに逃げた「富士川の戦い」は名高い。が、どうもこれは嘘語源らしく、びくびくとかびんびんと同じらしい。東大王の正解にもなっていたのだが。

niceの語源……現代英語ではniceは褒め言葉であるが、もともとはフランス語からの借用であり、当初の意味は「愚かな」だった。さらにラテン語nesciusに遡り、「ものを知らず愚かである」という人を形容する語として出発したのだ。日本語で言う「はずかしき人」であり、昔は「自分が恥ずかしくなるぐらい立派な人」という褒め言葉が、いつの間にか貶すことばに使われるようになった。ことばなんてのは文脈でいくらでもかわる、それを象徴するよい例である。

ブレイクダンスは何をブレイクするか……ブレイクダンスは、1970年代にアメリカで生まれたダンスの種別。当時は自宅で友人とダンスパーティーが盛んにおこなわれていたが、DJが「曲のブレイク部分(間奏,breakbeats)でこいつらいつも狂ったように踊ってんな」と気づき、曲のブレイク部分のみを繋ぐプレイスタイルが考案された。B-boy、B-girlとはブレイクダンスを踊る人たちのことであり、黒人Blackではない。試しにYoutubeで検索をかけてみてほしいが、なかなか「人間やめちゃいました」的ダンスを見られる。端的にいえばとてもかっこいい。日本で人気がないのは、足の短さという人種的問題があるからだろうか？

「ログ」に「丸太」と「履歴」の2つの意味がある理由……丸太を海に流して船の速さを測り、それを航海日誌に書き込んでいたことから。

キウイ畑にネコよけがある理由……マタタビと同じく、ネコの中枢神経を麻痺させ、恍惚におとしいれる効果があるのがキウイ(根っこや葉っぱ)。果実が好きなわけではないが、これらの成分に寄ってくるから、ネコよけをしてあるのである。ちなみに果実は水分が多く、食べても問題はないのだが、お腹を壊す可能性はある。

鳥ひく一はなぜ烏？……実は一本足りないのだが、烏に何かが足りないわけではない。黒くて目がどこにあるかわからないから、目を表す横棒1本がないとされているのだ。

なぜ二塁三塁間の守備のことを「ショート」と呼ぶのか……これは昔の野球に由来する。今はショートが二塁三塁間、セカンドが一塁二塁間にいるのが普通だが、昔はセカンドが二塁上に、ショートがピッチャーと二塁の間にいた。このショートは”shortstop”と呼ばれていた(この名前の由来はもっと昔の野球、黎明期から来ている。当時は投手の両隣に2人の守備者がおり、打者のすぐ近くで守っていたからこう呼ばれていた。しかし2人のショートストップは1人になった)。これを中馬庚が見学したときに、「動き回ってあちこち回る遊撃のようだ」という名前から「遊撃手」と呼ばれるように。現在ではショートは守備の華と呼ばれ、二塁手と並び大変な仕事である。三塁後方のフライ、レフト前からセンター前の打球に対応、投手や三塁手のカバーも行う。一塁までの距離は遠く、本塁に投球することも多いため、強肩であることも求められる。もっとも高い運動能力や野球センスを要求する内野手であるとされている。守備番号は６。

宇宙ステーションで発生するゴミはどうしているか……地球からきた補給船に、ゴミを詰め込んで持って帰らせるのだ。補給船は荷物をいっぱい積んできているので、これを降ろし、代わりにゴミを入れるのである。補給船はそのまま大気圏突入のさいの断熱圧縮で燃え尽きる。自然を焼却炉にした、エコなシステムだ。

富士山が最高標高じゃなかった時期がある？……これは本当の話。日本が台湾を占領していた時期がそれである。台湾には玉山(ぎょくざん)という標高3952メートルの山があり、占領中はそっちのほうが高かった。明治天皇が「新しい日本最高峰」という意味で、「新高山」と名付け、これが太平洋戦争の皮きりとなる「ニイタカヤマノボレ」になったという。なお、日本国内から見える最も高い山は富士山ではなく玉山である。めちゃくちゃ晴れた日、与那国島から玉山が見えることがあるためである。

親潮と黒潮……親潮は別名千島海流といい、千島列島に沿って南下し日本の東岸を通過する海流。栄養塩が豊富なため、「魚を育てる親となる潮」という意味で名づけられた。北海道や東北の漁港はこの恩恵をもろに受けている。そして黒潮、別名日本海流は、台湾と石垣島の間を抜け、南岸から房総半島沖まで達する。プランクトンが少なく、青黒色に見えるため黒潮と呼ばれる。メキシコ湾流、南極環流と並び世界最大規模の海流。

マツダがなぜMatsudaでなくmazdaなのか……ハイブリッドの開発競争には参加せず、ニッチな分野(LEなど)で海外からの支持をうける自動車メーカー。規模はわずかトヨタの10分の1だが、ヨーロッパからの評価は高い。そのロゴはなぜかmazdaだが、ここには二つの起源がある。まず松田重次郎が創業者。これは簡単。そしてmazdaという英語表記は、古代ペルシアで生まれたゾロアスター教の最高神、アフラ・マズダーにあやかったもの。アフラはアシュラの語源でもある。ゾロアスター教は世界をまたぐ唯一神概念の源流ともいわれ、東西文明をつなぐシンボルでもある。そしてマズダーは叡智と理性を司り、世界に光をもたらす神として崇められている。

市販薬の瓶に入っているビニール……あれは輸送中に錠剤同士がぶつかりあって破損するのを防ぐ目的があり、それ以外はない。一度取り出したら汚染されてしまうので、処分しよう。急須についているビニールも同じく注ぎ口破損防止のためであり、放置していると雑菌が繁殖するので、取り外して使おう。

中国じゃないのに中国地方、なぜなのか……隣国との関係はない。古代律令制において都を基準とし、近いところから近国、中国、遠国の順に名前がついた。この名残なのである。もちろん東海道や東山道にも「中国」はあったが、当時は都と大宰府との関係が重視されていたので、そのほかのものは呼ばれなくなった。

薄く青い化粧が美しいとされていた時代があった……19世紀に上流階級で流行った化粧の方法が「薄くて青い化粧」。病弱で痩せた体がもてはやされ、食事抜き夜更かしをしたうえで静脈を強調する青い化粧が流行った時期があったのだ。化粧というのも世界中で見られる風習だが、何を美とみるかによって方法は大きく異なり、文化的にあまり共通点がない場所の化粧はどうしても奇異に見えてしまうものである。そのひとつかもしれない。

ゲッケイジュ……月桂樹。クスノキ科の常緑高木で地中海沿岸原産。ギリシャ・ローマ時代からアポロンの聖樹として神聖視された。古代ギリシアでは葉の着いた若枝を編んで「月桂冠」とし、勝利や栄光のシンボルとして大詩人や勝者の頭に被せたという。お酒メーカである「月桂冠」もそこからとっている。ちなみに月桂樹はエクアドルの国章に(コンドル、星座、チンボラソ山とともに)描かれている。

「亜種」の定義はなかなか難しい……生殖的な隔絶はないが、全く同じ種であるともいえない種を生物学で「亜種」という。同種の生物が棲む場所により進化の方向性を変えたことで、形質や生態が異なった複数のグループに分かれることがあり、そういう際に「独立の種とは言い難いがまあ似てる」レベルのものを亜種と呼ぶ。例えばライオンとトラは種類、骨格などが近いが、生殖行為を行うことはない(稀にライガーやタイゴンなるものも生まれるが、彼らのほとんどは生殖能力を持たず、次の子孫を残せない)。よって彼らは別種として扱われる。しかし、形質や生態に違いはあるものの、普通に生殖行為を行い、子孫も問題なく生殖できる場合は「生殖的に隔絶されていない＝同種どうしではあるものの全く同じ種類とも言い難い」ので、亜種どうしとして扱われる。人種が良い例。なお、基準となる種に対しての「亜種」は単なる分類上の都合であり、原種から分化したのが亜種であるという理解は正しくない。たまたま後から発見されたほうが亜種と呼ばれるにすぎないのである。モンハンの亜種とか原種は、必ずしも生物学的なそれとは一致していない。当然亜種のほうが強いというのも思い込みなので注意。

ネコヤナギ……ヤナギの一種。山間部渓流から街中の小川まで、広く川部に自生する。花期は3～4月。花言葉は「自由」。銀白色の毛で目出す花穂が特徴的であり、「ネコヤナギ」の和名はこれをネコの尾に見立てたことによる。最近では護岸の緑化運動として注目されている。

真打の語源……寄席は当時灯りが全てロウソクだったので、大トリで出演する芸人が最後にロウソクの芯を打った(＝火を消した)ことからそう呼ばれるようになったというのが最も有力。日本刀を打ったさい、最も出来が良いもの、という意味もある。

朴念仁……頑固で物分かりの悪い人、という意味。朴は「飾り気がない」、「念」は思うことや考えること、「仁」は人を表している。本来は「素朴で飾り気がない」という意味だったが、そのうちマイナスの意味で使われるようになったという。

ざっくばらん……遠慮なく心中を曝け出すさま。「心をざっくり割って、ばらりと明かす」という意味で、擬態語が元だと考えられる。

けんもほろろ……人の頼みや相談を無愛想に断るさま。「けん」はキジの鳴き声「けんけん」であり、「ほろろ」は飛び立つときの羽音であるという。無愛想に鳴きながら羽音を立てて飛び去るキジの様子を表したらしい。

タイの飛行機にはお坊さんクラスがある……タイの空港に本当にある「階級」がお坊さんクラス。しょうがない事情のせいだ。タイのお坊さんには200以上の戒律があるから、それを守るために例えば「近くには乗客は座れない」とか「食べ物も特別」とか「機内食は一番最初に来る」とか「搭乗受付で並ばなくていい」のである。

1ドル紙幣のワシントンは……入れ歯が出ないように口をかみしめている。うそのようで本当の話。当時のワシントンは上の歯がすでになく、下がたった一本残っているだけ。歯の部分は大鹿の歯で、それを強力なバネでとめたもの。だから、閉じていないと口から飛び出てしまうのである。

アンコールワットにある江戸時代武士の落書き……1632年、家光の頃である。森本右近大夫が落書きをしているのだが、「仏教の悟りを開こうとし、数千里の海を越え、この世の中を清めるため、ここに仏像を奉納します」とあり、実は彼、インドの仏教の聖地と間違えて、ここにたどり着いてしまっているのだ。

演奏時間1秒の曲がある……それがYou sufferなる歌。イギリスの「ナパーム・デス」という伝説的ロックアーティストたちが作ったもので、演奏時間はなんと1秒。ライブで演奏するときも本当に1秒。”you suffer but why”(君はなんで苦しんでるんだ)と一秒で歌っているらしい。

大砲を使う曲がある……チャイコフスキー作曲、「序曲1812年」という曲である。トルストイの小説「戦争と平和」をテーマにしており、なんと楽曲で大砲を使えという指示がある。母国ロシアがナポレオンを破ったときの祝砲をイメージし、大砲を使用したという。陸自が持つ大砲を曲の途中で発射する。大砲が楽器以外の目的で使われないことを、心から願うばかりだ。ちなみに「白鳥の湖」であるが、発売当時はクソミソに酷評。当時としては最先端すぎたのか、「悪臭がする音楽」という言われよう。

走り幅跳びの禁じ手「回転跳び」……1970年のアメリカの運動力学者が考案した「空中回転跳び」である。ちゃんとルールにも規定され、助走あるいは跳躍動作中に回転するフォームを禁止している。よく跳べるらしいのだが、「大変危険だから」という理由で禁止。そりゃそうだ。

適当に模型に刺したまち針がそのまま作られた交番がある……中央区にある数寄屋橋交番がそれ。とんがった屋根の上には、確かに巨大なまち針が刺さっていた。デザイナーさんが警視庁にデザインを提出する際、間に合わないため「屋根のデザインはこの辺につけます」とまち針を指した。これを担当の人が伝えなかったのか、そのまままち針も再現されてしまった。

光を当てると飛び跳ねる豆がある……アメリカの「ジャンピング・ビーン」(メキシコトビマメ)がそれ。この豆の中にはガの幼虫が入っており、幼虫が熱や灯りに反応し、飛び跳ねるのである。敵から身を守るため、明るいところを避けようとしているらしい。

ケンシロウが「終わった」と言うのは本当に「終わった」から……アタタタタタタ！！の後、「ワタア！！」というがこれはワタアという決め台詞ではなく、「終わった」であるという。喉に過酷なので、悪役を倒すときに「本当に仕事これで終わりだ」という意味を込めて言っていたらしい。

DJは何の略か……ディスクジョッキーの略。ラジオ、クラブ、パーティなどで、録音された音源を用いて音楽をかける人。ミックス、スクラッチなどの機器操作を行い、オーディエンスを沸かす。

イギリス海軍はヒツジを性欲処理に使っていた？……都市伝説っぽい話だが、というか99％ジョークだが。日英同盟のため、日本から艦隊が派遣され、英国海軍と協力して護衛に当たったときのこと。英国の駆逐艦から日本の駆逐艦に友好の証として羊が送られた。伝統的に英国の軍艦では狭い所で飼うところに適した羊を生きたまま積んでいたからだ。で、日本は「ごちそうさまでした美味しかったです」と信号したら、その返答は「なんともったいない」だったとか。…つまり、英国軍人さんは、ヒツジで性欲発散を…。当時の陸海軍条例では男色と獣姦は禁止されていたが、これは逆に言えば死刑にしない限りやめられなかったとも考えられる。

裏と表が違うデザインの国旗がある……パラグアイ。実は表と裏で違う国旗になっている唯一の国家である。表の(旗を立てるポールが左側にくるほう)中央部には国章が、裏の中央部にはライオンが描かれている。

「カルロス4世の家族」に描かれた自分の顔……フランシスコ・デ・ゴヤが描いたこの絵には、なぜかゴヤ自身が描かれている。なぜ自分を描いたのかというと、「描かないと13人だから」だという。西洋では13は不吉な数字。そこで自分を描き、これを回避したのだ。

ハワイ州よりも小さな州がある……それがロードアイランド州。アメリカの東部、かなりカナダに近いところにある州。なんとハワイよりも小さく滋賀県とほぼ同じ面積、アメリカでは最も小さい州である。なのに人口密度はニュージャージ州に次いで二位。人口は43位。

ビッグ・ベン……ロンドンにあるあのでっかい時計塔。あれはウエストミンスター議会に付属で設置されたもので、経年劣化によりひびの入った鐘(大時鐘)が独特の音を響かせながら、日本人にとっては「学校のチャイムの音」としか思えない音を響かせる。別名がド直球、クロックタワーという名前だったが、2012年に改名して「エリザベスタワー」となった。

オウム真理教の「オウム」が意味するもの……これはサンスクリット語における「唵」(おん)であるとされる。aumを一文字ずつ分解して神秘的に解釈、「a」は創造神ブラフマー、「u」は維持神ヴィシュヌ、「m」は破壊神シヴァを表し、全体としての三神一体の真理を表す。つまり宇宙の創造・維持・破壊を表していて、彼らいわく「すべては無常である」らしい。麻原は空中浮揚が出来たというが、あれは単にストロボ写真で、跳びあがっているときの一瞬を撮ったものである。

特攻兵器「伏龍」……潜水具を着用した兵士が浅い海底に立って待ち構え、棒の先についた機雷を直接敵艦に接触させ爆破させるという兵器。潜水缶が大問題で、呼吸で生じる二酸化炭素を、水酸化ナトリウムを利用した缶で除去、再び吸入する方式だったのだが、全然使い物にならずすぐに失神してしまう上、缶が破れて呼吸回路に海水が入ると、水酸化ナトリウムが溶解して高温になり、強アルカリ性の海水が潜水兜中に噴出して肺を焼くという、まこと悲惨な欠陥があった。訓練だけで既に10人殉職していた。ちなみに足についている鉛のため一度潜水すればもう二度と上がることはできない。

ダモクレスの剣……常に戦々恐々している状況、あるいはその状況をもたらすもののたとえとして使われることば。ダモクレスがシチリアの僭主ディオニシウスの権力や栄光を羨み、追従のことばを述べた。その後ダモクレスは彼から豪華なもてなしを受けたが、その豪華な席の上を見ると、天井から今にも切れそうな糸で剣がつるされていた。彼は、ダモクレスのうらやむ僭主という立場が、どれだけ危険かを示したかったのだ。ケネディ大統領の国連演説で有名になった。「老若男女あらゆる人が、核というダモクレスの剣の下で暮らしている。世にもか細い糸でつるされたその剣は、事故か誤算か狂気により、いつ切れても不思議はないのだ」うむ、まさにその通り。

パノプティコン……イギリスの哲学者ベンサムが考えて設計した刑務所の構想。功利主義者だった彼は「社会の幸福度を最も大きくするには、犯罪者や貧困者の幸福を底上げしよう」と考えていた。その姿勢が反映され、運営の経済性と収容者の福祉が最大限両立される。円形に収容された収容者の個室が多層式の看守塔に面するよう出来ており、互いに収容者はお互いの顔が見えない一方、看守はその位置から全ての収容者を監視できる。結局いろんな国で建設され、フーコーがその後「囚人はいつ監視されているかわからないままに、すべての方向から監視されている」という意味で、社会のシステムとして管理、統制された環境の比喩として用いたのは有名。

楊逸……やん・いー。2008年に「時が滲む朝」で芥川賞を受賞。日本語以外の言語を母語とする作家として史上初の受賞である。1987年に留学生として来日し、必死に日本語を勉強。逆に言えば日本人が中国語で文学の賞をとるのと同じ。そのすごさはよくわかるだろう。

アハルテケ……トルクメニスタンの国章にもあしらわれている、歴史のある馬の品種。十分な水や食料の無いこの地方に適応した丈夫な種であり、84日で2500マイルを走破したという記録が残っている。235マイルの砂漠も水なしで3日間踏破。かの武帝が探し求めた「汗血馬」がこれだったんじゃないか説、呂布の乗った「赤兎馬」のモデルだったんじゃないか説がある。

床屋はなぜ床か……これは、簡易な「床」があったことから。当時は「とこみせ」と呼ばれていた。床屋は床店で営業する髪結いなので髪結い床と呼ばれ、その床に職業を表す屋がついて床屋になった。

モヒカンは部族の名前……日本語でモヒカンといえば、頭の中央の前から後ろにかけて細長く毛を残し、両脇を全部そり落とすヘアスタイルをさすが、これはアメリカのハドソン川上流に住んでいたインディアン「モヒカン族」の髪型を真似たことから呼ばれるようになったもの。もともとは部族の髪形なのだ。モヒカンというと紛らわしいので、ヘアスタイルの場合は「刈り」を言おう。

セイレーン……ギリシア神話に登場する半分鳥半分人間のバケモノ。歌がめちゃくちゃうまくて、船乗りたちはその歌声に引き込まれ、島に難破してしまったり、海に飛び込んでしまったりするという。ギリシャ神話に登場するのはアルゴー号の航海中で、彼女の歌声に惑わされ、勝手に漕ぎ手が進路を島に向かわせてしまう。しかしオルフェウスが竪琴を鳴らし、この歌声をかき消して難を逃れた。実はスタバのマークのモデルになっている。あれは鳥じゃないかと怒る方、それは正しい。実はセイレーンは古代ギリシャでは半分鳥なのだが、中世以降、なぜか人魚と一緒になってしまう。キャラが被っているからだろうか。でもいわゆるマーメイドではなく、よく見ると尾が二つあるパターン。スタバの左右から出てるシマシマはセイレーンの2つの尾の先だ。

七歩で詩を作ったやべーやつがいる……曹植という、曹丕の実の弟がつくった詩「七歩詩」は中国人たちの間で有名だ。彼は戦闘に従事し、また詩歌にも非凡な才能を発揮する。彼は「詩なんてできても何の意味もない、慰み事だ」と言っていたが、その功績は中国文学でも、隠しきれないほど輝いている。ある時兄の曹丕から、「七歩歩く間に詩をつくらないと殺す」という無理難題をふっかけられ、「豆を煮て以て羹と作し　支を漉して以て汁と爲す　稘(まめがら)は釜の下に在りて燃え　豆は釜の中に在りて泣く　本と是れ根を同じくして生じたるに　相煎ること何ぞ太(はなは)だ急なる」(豆を煮て羹を作り、納豆を濾して汁にする。豆柄は釜の中で燃やされ豆を煮て、豆は釜の中で茹でられて泣く、豆も豆柄ももともと兄弟同士なのに、どうしてこのように互いに煮たり煮られたりしなきゃいけないのか)というどう見ても後付け創作です本当にありがとうございました的な上手な詩を作った。これが七歩詩である。

死せる孔明生ける仲達を走らす……五丈原の戦いにて死んだ諸葛亮が生きている司馬懿を撤退させたという「三国志演義」でのシナリオに基づくことわざ。諸葛亮は自分の死期を悟り、あるものをつくらせた。その後司馬懿は星占いで大きな星が落ちるのを見て、「これは攻めどきやなあいつ死んだわ」と判断した。しかしつくらせた「諸葛亮そっくりな木の像」を見て肝を冷やし撤退。これを後に人々が死せる云々と言ったことからこのことばが生まれたという。

マルゲリータは女王の名前……イタリア王妃マルゲリータ＝ジェノヴァが「バジリコの緑、モッツァレラチーズの白、トマトソースの赤。まるでイタリアの国旗のようね」と気に入り、自分の名を冠したという。テキーラを混ぜて作るカクテルの一種「マルガリータ」とは違っていて、こっちはギリシャ語のmargarite(真珠)から来ている。そしてこのmargarite、実は「マーガリン」の語源でもある。

ハエが手をこするのはなぜか……小林一茶の「やれ打つな　ハエが手を擦り　足を擦る」はあまりに有名。病原菌を媒介するから打ったほうがよいのだが。実はこれ擦っているんじゃない。舌を拭いているのだという、ハエの仲間は爪の部分に褥盤(じょくばん)という器官があるが、これは味を感じる器官。この爪の根本から2枚の舌が生えている。ハエが手をこするのは、舌の働きをするこの器官についたゴミを落としている仕草なんだとか。ちなみに一茶は動物愛護精神にあふれた俳人としても知られる。「痩蛙　まけるな一茶　これにあり」「雀の子　そこのけそこのけ　お馬が通る」など。まあたまには叩いている俳句も書いてるが。

ベトコンラーメンの「ベトコン」とは……愛知県、岐阜県にあるラーメンが「ベトコンラーメン」。名前はベトコン(南ベトナム解放民族戦線)に由来。細かく砕いたニンニク、ニラ、長ネギ、モヤシなどの野菜をトウガラシで味付けして炒め、鶏ガラベースのスープを加え茹でた麺にかけたもの。台湾ラーメンとの違いはひき肉を使うか。当時続いていたベトナム戦争のベトコンの勇ましいイメージにちなみこう名付けたが、激化したことからこれを否定、「ベストコンディション」であると説明されている。

ラジコンは登録商標なのでNHKでは言えない……英語のradio controlからの略であるが、実はラジコンということばは既に登録商標なので、NHKなどは特定の民間企業の商品の宣伝ができないため、「ラジオコントロール」とか「無線操縦」と表現する。

生きて虜囚の辱めを受けず……いきてりょしゅうのはずかしめをうけず。日本で東条英機が示達した訓令である。簡単に言えば、玉砕や自決を行い、敵軍の捕虜にならないようにするための教え。日露戦争で投降兵が簡単に自分の軍の秘密をばらしたため、こう言われる。しかし筆者が読んだインパール作戦の本では、兵士たちは「この軍の秘密なんて、実は食べ物がないことぐらいだし、それももうイギリスにはばれてるな」と笑いあっていたという。日本軍は兵士が捕虜になることを想定せず、どんなことをすべきかなんて教育さえ、まともに施さなかった。アメリカはしかしそこの裏を突き、「お前の本名を日本に知らせるからな」と脅すことで、秘密を得ていたようだ。

木崎原の戦い……きざきばるのたたかい。1572年、今の宮崎県えびの市にて、伊東義祐(よしすけ)と島津義弘の間で行われた合戦。大軍を擁していた伊東軍がなぜか300人の島津軍に敗北した戦いなので、「九州の桶狭間」とも呼ばれる。当時の軍の動き方を調べてみると良いけど、やっぱり何がどうなってるのかわからないぐらい、島津軍が動いている。これは実は釣り野伏せという戦略であり、島津軍が得意としていた。自分の部隊を「釣り」「野伏せ」に分ける。「釣り」はおとり部隊で、敗走したと思わせるための役。「野伏せ」は追撃にきた敵軍を迎撃する役。これだけ書くと簡単そうだが、釣り部隊は「本気で戦って本気で負けたように思わせ、敵に追撃させるぐらいには敵の判断力を落とさせる」必要があり、非常に高度な統率力や采配、練度が求められる。にしても約15倍の戦力差をひっくり返すとは。朝鮮征伐のときは7千vs20万という驚異的な戦力差を持ってしても、この怒涛の島津軍には勝てなかった。これがおそらく世界で最大の釣り野伏せであろう。なんJで生まれた「島津の鉄砲訓練所」もまさにそうで、敵の連合軍に鬼石曼子(おにしまづ)と呼ばれ恐れられただけある。怖いわマジで。

日本版魔女裁判・盟神探湯……くかたち。古代日本で行われた神明裁判。呪術的な裁判方法だがやり方は完全に魔女裁判と一致。神に潔白を誓わせたうえで熱湯に手を入れさせ、正しければ火傷せず、罪があれば大やけど。つまり詰みゲー。隋の書物にもこのことが「倭国の風俗」として書かれていた。アイヌでも「サイモン」と呼ばれる盟神探湯が行われており、その方法は日本全土とほぼ同じ。

死体に偽装文書を入れて流したら、ドイツが信じ込んだ事件がある……それが「ミンスミート作戦」というもの。イギリスが1943年に実行した。簡単に言えば死体に偽の文書を持たせ、そのまま船から流すことでドイツに漂流させ、その手紙を読んだドイツが偽の文書通りのことを信じた、というもの。信じられないけどこれが成功した。男の死体は誰なのかわかっていないが、肺炎が原因で死んだために肺に液体が溜まり、海で死んだものと見分けがつかなくなっていた。彼の懐にはなんと(架空の)結婚相手の写真とか、借金への偽の督促状、それからロンドンの劇場のチケットの半券まで入っている徹底ぶり。そのおかげでドイツに、連合軍がギリシャやサルデーニャを攻めると思い込ませることに成功。このように死体に偽の文書を入れる作戦は、北アフリカ戦線でアラム・ハルファの戦いでも実施されている。イギリスが撤退する際、死体に偽の地雷原の地図を入れておいたら、エルヴィン・ロンメル率いる戦車隊はそこで足止めを食らってしまう。なんというか、モラルに反する気もするが、戦争なので仕方がない。

ボストンでは禁止……Banned in Boston、19世紀末から20世紀中ごろ、マサチューセッツ州のボストンで使われていた慣用句。意味としてはそれだけなのだが、流れを簡単にいえば、残酷・卑猥な創作物をめちゃくちゃ禁止してたけど、それがなんと創作物にとっての「最高の褒め言葉」になったという。人間は見るな見るなと言われば見たくなるもの(カリギュラ効果)。だから彼らにとっては、「ボストンで禁止」という慣用句を帯に掲げることで、みんな気になって買ってしまう。結果として禁止しようとしていたのが、ますます広がってしまったのだ。ローマ皇帝カリギュラを映画にした「カリギュラ」というものが初出であり、これがかのカリギュラ効果の名前のもとになった。

デカメロン……でかいメロン。じゃなくて。ボッカッチョによって書かれた物語集。ペストから逃げるために邸宅に引きこもった男3人女7人、何も起きないはずもなく…この10人が10話ずつ語り、全部で100話のいろんな話をするというもの。恋愛話や失敗談などが主で、千夜一夜物語などを参考にしたふしもある。なんにせよ結構エロく、「ボストンでは禁止」されていた。

全く錆びない鉄柱がある？……それがデリーの鉄柱。クトゥブ・ミナール内にある錆びない鉄柱のこと。99.72％という高純度の鉄が使われており、わずかに入っていたリンのせいで、表面にリン酸化合物によるコーティングが進み、1500年という時を経てもほとんど錆が進行していない。つまり純度の高い鉄だから錆びないというわけではない。が、そのような純度の高い鉄を製錬できる技術があった、というのは、驚きだろう。今は柵が設置されて、人が直接触ることはできない。

ほとんど完璧な石の球、その作り方は……コスタリカの石球といって、コスタリカの密林にほとんど真球に近い石の球があった。今までに200個以上が発見されており、どういう目的で作ったのかは不明。300～800年の遺跡のものだったという説が有力だが、同定はできない。焼き畑のときの熱により表面が崩れているので、本来がどれくらいだったのかはわからないが、一方で表面が良好なものは、どこから測っても最大誤差が0.2%以下のもの、直径が2.0066メートルとミリ以下の単位まで全く同じ大きさの2つの石球も見つかっている。ただ、「現在でも作れない」という記述ではなく、時間をかければ限りなく真球に近い球を手作業で作れることが、特命リサーチの調査でわかった。ロマンの塊なのには違いない。

クール―病……悪性タンパク質、つまりプリオンが引きおこす病気。石器時代～20世紀にかけ、死者を弔うためにその死体を食する習慣がある、パプアニューギニアの民族で発見された。現地の言葉で「クール―」は「震える」と言う意味であり、自律神経に異常をきたし、筋肉がコントロールできなくなる。歩行困難、筋肉硬直など。さらに脳にも症状が現れ、痴呆が入り、発症後1年程度で死に至ってしまう。伝染病の一つで、これに発症した人の脳を食べると発症する。牛のBSE(狂牛病)だってそもそも、肉骨粉を牛に食べさせていたからであり、そういう意味ではやっぱり、共食いはあまりしちゃいけない、という神様からのメッセージなのかも？いや、何の動物であれ、脳を食べるのはよくないということだろうか。

島津の退き口……古今東西稀に見るダイナミック帰宅。関ヶ原の戦いにおいて、島津義弘率いる300の軍勢が、80000の敵中に囲まれてしまう。普通ならこの時点で…というか普通は孤立する前に降伏か寝返るかするものだが、なんと彼の決断は「その猛勢の中にあいかけよ(つっこめ)」であり、「敵に向かって退却」した。「「敵に向かって退却」」した。「「「敵に向かって退却」」」した。敵の目前を過ぎるわずか300の軍勢。座禅陣(あぐらをかいて敵を鉄砲で打ち、弾が尽きたら突撃、そして全滅をいくつかの隊で繰り返す)という決死の殿部隊が追撃を止めるため、文字通り捨て身で襲い掛かる。その勢いは尋常でなく、井伊直政や松平忠吉(家康四男)が負傷、三国黒(本多忠勝の愛馬)も戦死と、けっこうな被害。なんと殿役を買って出ない兵士のほうが少なかった。そして義弘は見事敵中突破を達成、伊賀を越えてたった80名が従う。しかしその後なぜか生き残った十数名が合流、なんなんだこいつら…。この一連の撤退劇を、島津の退き口という。これには理由があり、徳川側が勝ったのであれば、西軍である彼らが徳川家康に弓を引くとあらば、それは「逆賊」。何としても総大将の義弘が「生きて離脱」し、「徳川を納得させる言い訳」をせねば、島津のお家危機だったのだ。だから何としても彼らは義弘を守ろうとしたのだ。

巨人の肩の上に立つ……ニュートンが論敵のフックにあてた手紙の中でこの表現を使った説は有力だが、実際は中世の人文主義者ソールズベリのジョンが自著「メタロギコン」の中で、12世紀のシャルトル学派の総帥ベルナールのことばを孫引きし、「シャルトルのベルナルドゥスはわれわれをよく巨人の肩の上に乗っている矮人(わいじん)に準えたものであった。われわれは彼らよりも、より多く、より遠くまで見ることができる。しかし、それはわれわれの視力が鋭いからでもなく、あるいは、われわれの背丈が高いからでもなく、われわれが巨人の身体で上に高く持ち上げられているからだ、とベルナルドゥスは指摘していた。私もまったくその通りだと思う」としたものが初出であるようだ。偉大な先人たちの業績、あるいは名もなき研究者たちの失敗を巨人に例え、それらの死屍累々ともいうべき堆積物の上に現在の新たな知見が構築されている、という意味の、素晴らしい言葉である。Google ScholarのトップページにはStand on the shoulders of giantsの標語が掲げられている。

脚気とはどんな病気か……ビタミンB1の欠乏によっておこる病気。倦怠感やしびれ、むくみから始まり、末梢神経の麻痺や心臓衰弱を呈する。かつては江戸わずらいと呼ばれ、参勤交代にきた武士たちが怒りっぽくなったり寝込んだりするのだが、なぜか国に帰るとすっかり治ってしまう、という病気が知られていた。これの原因が脚気。原因は玄米のぬかの部分にある。国で玄米を食べていた武士たちが江戸で白米を食べるようになり、ビタミンB1が不足したから起こったという。大正時代までは国民病であり、毎年2万人以上が脚気で死んでいたという。簡単な検査法があって、膝のところに、叩くと足が反射的に上がってしまう部位がある。そこを叩いても反射が起きないのであれば、脚気である可能性が高い。西洋食ではほとんど起こらず、白米を食べる東アジア特有の病気とも言われる。

戦車にはウィンカーがある……一般道を走るからというのもあるが、平原や施設内の移動でも、どっちに移動するか指示すると事故が防げるからである。公道を走るには日本では車検が必要であり、戦車もちゃんと車検を受けている。その検査項目の中にウィンカーがあるから、結局ウィンカーが外されるようなことはないだろう。これをもって「日本は戦闘国家だ」と叩く朝日の記事を見たが、もう少し勉強してくださいと言わざるを得ない。訓練での事故防止さえ許されないのか、日本は。

証左はなぜ「左」か……そもそも左は「～を明らかにする」という意味である。左という字の語源は、左手で右側を支えるという象形文字から派生した。これは、普通の人の利き手が右だから。すなわち証左の意味は「証拠」「明確にする」であり、これが証左となった。

大暗班……海王星にある暗い楕円形の部分のこと。木星の大赤斑と似ているが、これは力学的な渦と言うより、大気成分の薄い場所だと考えられる。南半球にあったはずのそれは、1994年にもう一度確認すると、なぜか北半球に現れていた。なぜこんなところにあるのか、そしてこの状態が海王星で当たり前なのかはまだわかっていない。

ヒクイドリ……世界で三番目に大きく、ダチョウ目なので飛べない鳥。オーストラリアやパプアニューギニアなどの熱帯雨林のある場所に生息。人間の大人に並ぶ大きさ。その名の由来は、首の部分の赤垂れが、まるで火を食べているようだったからという説が有力。ギネスに「世界一危険な鳥」という肩書で載っており、強靭な足を用いたキックにより、動物はもはやただではすまない。毛皮も持たぬ脆弱な人間が蹴られれば、その衝撃で内臓破裂、どころか、足先の鋭利なツメにより腹が裂けてしまうとも言われる。こいつのキックを受けた鉄板が凹んでいるという写真を見れば、その恐ろしさは明らかだろう。しかし、人間に駆除されているのと、住処が減ってきていることにより、だんだん減少の一途をたどっている。

ハシビロコウ……クチバシが広いコウノトリの意を持つ、「動かない鳥」。巨大なクチバシによって魚を丸のみする姿や、水面に呼吸に上がってきた魚を長く長く長く待って捕食する姿が人気。孤独を好む性質ゆえ、オスメスを混合して飼育するのが非常に難しく、なんと世界でたった2件しか繁殖例がない。翼を開けば全幅2mにもなるが、飛ぶことができるのでその姿はなかなかシュール。

良い警官、悪い警官……尋問で使用される心理学的な戦術。明確に相反するやり方でアプローチをすることで、尋問の相手から情報を聞き出す。「悪い警官」は粗暴で侮辱的、基本的に対象者に反感を買わせる。その後、「良い警官」が現れるが、こっちは対象者に対して支援や理解を示すことで、対象者からの好感をもらう。そうすると、良い警官への信頼感や悪い警官への恐怖から、結果として良い警官に対して協力的になり、情報をしゃべってくれる、というものである。日常にも応用できそうなものだが、事実自分が「悪い警官」役を買って出るということはないから、微妙か。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ……イェルサレム、バチカンと並ぶ、キリスト三大巡礼聖地のひとつ。スペインの北西に位置する。聖ヤコブの遺骸がここにあるという伝説のために人気で、彼は弟ヨハネとともにイエスに従い、布教活動を行う。しかし断首され十二使徒で最後の殉教者となった。その遺体を弟子が石の船に乗せて流すと、さまよったあげくにここらへんにたどり着き、紀元1世紀に埋葬されたという。彼の名前は英語圏のJack、Jamesなどに引き継がれている。

就籍許可申し立て事件……1988年、記憶不明で身元不明の男性に対し、戸籍を作成することを認めるよう、家庭裁判所に就籍許可を求めた事件。彼は海岸にいて、記憶喪失状態であると認められた。その後3年にわたり治療が行われたが、記憶はかすかにしか残っていなかった。自動車運転の専門的な知識をもつこと、地図や道路事情に詳しいことなどが判明したが、結局親兄弟や自分自身のことは全く思いだせず、自己申告した名前で戸籍をつくった。おそらく二重戸籍であり、非常に珍しいケース。病院に収容された日を出生日とした。

なぜにおいは記憶と結びつくか……プルースト効果というものがある。失われた時を求めてで、主人公が紅茶にマドレーヌを浸したとき、その香りをかいで幼少期の記憶がよみがえるシーンがある。最近の研究では、記憶が嗅覚に強く結びつくことと、その根拠が明らかになってきている。実は嗅覚は生存に最も強く結びついていた(赤ちゃんのころは、母親のにおいを探して乳にありつく必要がある)ので、他の五感と違い、唯一大脳新皮質を経由せず、直接大脳辺縁系(記憶を司る部分)とつながっている。喜怒哀楽や食欲、本能行動などの本能的な行動に直接作用するのだ。調査では、視覚的な効果が短時間で急速に低下したのに、においの記憶は1年たっても、ほとんど変わらなかったという。筆者はキンモクセイの香りで、昔の恋のことを思い出してしまう。辛くも苦くも幸せでもあるが、あの香りに包まれているときは、なぜかこの世にいるような気持ちがせず、この身が溶けて揺蕩う魂になって、何か神聖なものと一体化するような、そんな不思議な感触を味わう。

おしっこ入れを持つためだけの役職がある……トリビアの泉で紹介されたネタ。公人朝夕人(くにんちょうじゃくにん)といって、将軍がおしっこをするとき、そのおしっこを入れるためだけの役職。筒を持って構えていたという。和服を着ると用を足すのがとても大変、御所への参内ともなれば最も格が高い儀礼なので、まともに手を動かすことさえできない。そういうわけでこんな役職が生まれたという。

見えないバーコード……はがきには見えないバーコードがプリントされている。もともとではなく、郵便局でするのだが、郵便物に記載された7ケタの郵便番号を機械で読み取り、郵便物に印刷し、一回コードを読むだけで判別できるようにするのだ。アメリカでは見えるバーコードなのだが、こういうところの気の遣い方は、なんとも日本人らしい。紫外線を当てることで見えるようになるから、ちょっとやってみてもいいかもしれない。

オリンピックに使うプールの長さは50m2cm……競泳プールでは、端にタッチしたらゴールとなるが、今ではそれが自動化され、どのタイミングでタッチしたかを判定する板がある。その板が1センチであるから、微妙なのだという。とはいえ50mぴったしにしても判定が人任せなよりはマシだろう。

パプアニューギニアの「パプア」は縮れ毛……パプアニューギニアは、ニューギニア島の東半分といくつかの島からなる国。国旗に描かれているチョウみたいな生き物は国鳥のアカカザリフウチョウであり、黒地の部分には南十字星が描かれている。もともとはパプアとニューギニアが合体してできたものだが、この「パプア」というのは、マレー語で「縮れ毛」という意味。ちなみに「ニューギニア」は、この地を訪れたイギリス人が「なんかこいつら、肌黒いな、ギニア人に似てるな」と思って名付けたもの。

電子レンジのにおいを消す方法……簡単なのだ。5個分のみかんの皮を電子レンジに入れ、40秒加熱。ちなみにみかんの皮は異様に使い方の幅が広く、乾燥させて玄関の靴箱においておくと消臭効果が期待でき、皮の白い部分でキッチンの油汚れを落とせて、壁のクレヨンの汚れも落とすことが可能。

本のシールをきれいに剥がす方法……あのシールが取れにくいのだ。無理にはがすと跡になったり、ベタベタが残ったりするが、基本的に「油」や「加熱」がよい。例えばライターオイルやエタノールをシールに垂らし、ティッシュでふきとって剥がすとか、ドライヤーで温風を当て、その後外すとか。アルコール入りのウェットティッシュで濡らし、ティッシュでこするとか。

本についたコーヒー、醤油の染みを落とす方法……まずすぐにティッシュで拭き取る。上から押さえつけるようにしよう。その後、ページの裏にA4紙4つ折りを挟み、キッチン用の漂白剤(ティッシュに染み込ませ、割りばしの先に挟む)を当てて漂白。最後に乾いたところをヘアアイロンなどで伸ばすと、きれいに落ちるのだ。

コレラ菌……1854年イタリア人のフィリッポ・パチーニによって発見された後、これとは独立にロベルト・コッホがコレラの病原体として発見した細菌。200種類以上の血清型に分類されるが、そのうちヒトに感染してコレラの原因になるのは一部。残りはヒトに感染して食中毒の原因になる。河川や海などの水中に生きており、その菌がついた魚介類を人間が食べることで経口感染し、腸内で増殖、糞便とともに再び河川に排出されるという生活環で生息する。大規模に流行ったのは1817年、インドガンジス川下流のベンガル地方であり、中国、日本まで流行した。1829年にふたたび感染者が出た第2次パンデミックではヨーロッパにも伝染し、多くの死者を出した。当時はまだ医学が発展しておらず、コレラの発生原因は掴めなかったという。パチーニが1854年に発見しイタリアの学術誌に発表したが、当時は細菌が病原体であると証明されておらず、30年にわたり日の目を見ることはなかった。ペッテンコーファー(「近代衛生学の父」とも呼ばれ、下水道普及と発展に大きく貢献した人物)がしかし、コレラ菌が原因ではないことを証明しようとして、自らコレラ菌を飲んで実験したり弟子に飲ませたりした(このときは特有の脱水症状は現れず、下痢のみだったという)ので、次第にコレラ菌の存在が明らかになった。現在では適切な処理により、死亡率を1～2％におさえることができる。日本ではコレラは異国人がもたらしたものとされ、ニホンオオカミを眷属に憑き物落としの霊験をもつ眷属信仰が盛んに、これがニホンオオカミ絶滅の一因になったともいわれる。医療漫画「仁」でも描かれている。

守破離……剣道や茶道において、修業における段階を示したもの。流派の型、技を忠実に守る段階、他の流派の教えについても考え、良いものを取り入れる時期、一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出し確立する時期、と分かれている。日常の様々な事柄にも通用する、普遍的な教えである。

渋滞情報の横の赤い三角マーク……あれは、渋滞傾向の増加と減少を表している。右上が尖ったほうなら渋滞増加中、右下が尖ったほうなら渋滞減少中。代替ルートへの迂回を検討するのも良いかもしれない。

なぜキノコは毒を持つか……仮説にすぎないが、「物質循環により、動物の死骸の栄養が間接的に自らを育てるから」と考えられる。一般に植物は毒を身体に身につけて(このときの毒は苦かったり酸っぱかったりして、毒と動物がすぐにわかる形である)食べられないようにしている。しかしキノコの毒は遅効性で、早くても胃腸系へのもので、効き目が表れるのは1時間後。致死性のものだと6時間にもなり、とても自らを守ることができない。しかしキノコは、動物が自らを食べ、下痢にしたり、殺したりすることで、その糞や死骸の栄養を地中に戻し、自分たちキノコが育つようにしているのではないか、という説なのである。つまり、彼らは偉大な分解者なのだ。きっと毒キノコが世界からなくなれば、自然は成り立たなくなるに違いない。これを裏付ける根拠に、毒キノコは一般に夜でも目立つような白い色だったり奇抜な色だったりすること、胞子をまき散らして育つことなどがある。

なぜムスカは3分間待ってくれたのか……宮崎駿監督の絵コンテにその答えがある。実はこのときムスカは弾丸が1発しかなくて、自分の体勢を立て直す必要があったのだ。リボルバーは一般に6発装填で、これまでムスカは5発分撃っていた。しかし2人を1発で倒すのは無理だ。手動で弾をかえなくてはならない。リボルバーゆえの欠点なのである。だからこそ彼は3分たたずに「時間だ」と言ったのである。というかまあ、注意深く見てれば、ムスカが手慣れた様子でリロードしているのが見えるが。

觔斗雲……筋斗雲とも。西遊記に登場する雲の名前。觔斗とは宙返りの意味で、孫悟空が雲に乗る技術を会得する際、とんぼを切って雲に乗るのを見た師匠が驚き、彼の適性ならと授けた術が宙返りであった。これによって1跳び約10万里をとぶことができる。なお三蔵法師など人間は乗れないが、猪八戒、沙悟浄も乗ることができる。意外と勘違いされがちだけど。

チールンコウ……琉球の伝統的なお菓子の一つ。卵をつかった蒸しカステラで、赤く染めた落花生のスライスが上に散りばめられている。ちんすこうのもとになったとされる。

なぜ足の小指をタンスの角にぶつけるのか……一説ではあるが、靴下や靴を履いていることで、指どうしがくっついているのが当たり前になった人間たちの脳が、裸足だと指が広がっていることに気付かず、くっついている勘違いをしたまま足を動かすため、実際の位置と空想の位置が異なり、ぶつけてしまうのだという。目をつぶって足の指を押さえられると、どこを押されているのかわからない、という人が9割近くにのぼり、この説を補強する根拠となっている。

鉄火巻きはどうやって生まれたか……江戸前寿司の一種で、マグロの赤身を酢飯と海苔で巻いたもの。マグロの赤身の色が、赤く熱せられた鉄に似ていた、というかなり安直？な説と、昔、鉄火場(賭博場)でばくちをしながら片手で食べられるものとしてつくられた、という某サンドイッチ伯爵のサンドイッチの語源に似てる説がある。

刑法上で死刑になりうる罪……刑法199条、殺人罪。刑法240条、強盗致死罪、強盗殺人罪。刑法241条、強盗強姦致死罪、強盗強姦殺人罪。刑法第108条、現住建造物等放火罪。刑法第119条、刑法第117条、激発物破裂罪。刑法第127条、往来危険による汽車転覆等致死罪。刑法第146条、水道毒物等混入致死罪(死んだときのみ)。刑法第77条、内乱首魁罪(首謀者は死刑か無期禁錮)。刑法第81条、外患誘致罪(外国と通謀して日本国に対し武力を行使させた者は、死刑に処する。唯一、罪状が死刑しかない)。

アメ横のアメは……アメ横商店街連合会HPより、名誉会長の話から。あれはそもそも略語ではない。たとえば雑学の本には「アメヤの略」とある。飴を売る人達、飴屋さんがいっぱいいたからだと。また別の説だとアメリカ軍の放出物資を売る店が多かったから「アメリカの略」とも言われる。しかし実際は「アメ横商店街」が正式な名前。どちらでもない。ここにある「閉店セール」を毎日やってる店はもはや名物。大して安くなかった。

あったか～いの「～」の意味……別に決まりはないらしいが、より温かさを感じていただく、という理由での表現。別にあったかいでもあったかーいでもいいが、波線にすることで温かさが強調される気もする。ただ、どこがいつ始めたのかは不明。

マクドナルドのM……あれは「McDonald」のMではないらしい。シカゴ1号店に設置されていた「ゴールデンアーチ」の形が象徴的だったので、そのアーチの形をロゴにした。このアーチは遠くからでもお店が見えるように設置されたとのことだが、例えば彼女をマックに連れて行ってこんな話をどや顔でしたら、振られるに決まっている。そもそも初デートがマックって時点で、ねえ。

アリとキリギリスはもともと……アリと「セミ」だった。セミは熱帯、亜熱帯に生息、ギリシアなどにも生息していたが、ヨーロッパ北部ではあまりなじみがないので、ギリシアからアルプス以北に伝えられる過程で改変された。日本に伝わったのは以北のものなので、アリとキリギリス。もともとは餓死してしまうセミ(キリギリス)であったが、最近は教育的観点から、アリが食べ物を恵んであげ、キリギリスは心を入れ替えて終わる、というものになってきつつある。この話、ヘロドトスの「歴史」にも載っている由緒あるお話。

イチゴの実は実ではない……通常の植物の花では、果実はめしべの根本の子房が膨らんだもので、種子は胚珠が変化してできたもの。つまり種子は必ず果実の中にできる。一方でイチゴは、果肉の部分は、花びらやおしべ、めしべなど支える花床が膨らんだもの。だから植物学ではイチゴの実は実でなく、「偽果」と呼ばれる。果肉が花床なら、イチゴの本当の実は、表面にあるはず。つまり、イチゴの種、あれこそがイチゴの実なのだ。

なぜ手術着は白くないのか……赤い血を見続けた後に視線を外すと、赤の補色である緑がチラチラして見えてしまう。補色によるこの効果は特に、白いものを見たときにおこりやすく、緊急を要する処置がしにくい。ということで、医師の目を錯乱させないように、青や緑を基調にしているのだ。もう一つ、リラックス効果もある。そして看護師の服がピンク色なのは、患者をリラックスさせるため。白衣というだけで職場や家で測るよりも2割以上も血圧が高くなる人もいる。

カップヌードルの「ド」が小さい理由……まずヌードルという名前は販売当初、1971年にはよく知られておらず、できるだけNoodleの発音に近い表記をするため、小さくした。もう一つ、ヌードを連想させるという理由もある。

焼きそばUFOは何の略か……Uはうまい、Fは太い、Oは大きいの頭文字からとっている。たぶんこの雑学ノートの中でも26番目ぐらいにどうでもいい知識だろう。

巡はしんにょうが部首ではない……「巡」はしんにょうが部首ではない唯一の漢字。部首は「かわ・まがりかわ」で、巛(なんといえばいいかわからないがまあ右上のアレ)。

カブトムシとカナブンの幼虫の見分け方……カブトムシの幼虫だと思い育てた幼虫が実はカナブンだった、みたいな、ねーよ。地面に置いたときに背面歩きをすると、カナブン。前足三本でゆっくり歩くならカブトムシ。外見は非常によく似ているが、この部分だけ異なる。虫を育てている人いわく、けっこう大事な見分け方らしい。

ザリガニのおしっこは……頭から出るのである。大のほうは尻尾あたりから出るのに、小のみ口の少し上の触角線というところから出てくる。なぜかはわかっていないが、まっこと不純である。何が不純かというと、腐女子たちが描くときに、それをきちんと再現しなくてはならない。

ベルゼブブ……ミルトンの「失楽園」によれば「罪に於いてサタンに次ぐ者」の、ハエの王様。ハエは疫病や腐敗をもたらすものとして忌避されてきたが、逆に死者を大地に帰す存在の象徴ともされた。現代の悪魔学では「ハエの集団」を率いる、地獄のナンバー２とされている。

ライデンフロスト効果……液体をその沸点よりはるかにあつく熱した金属板などの固体に垂らすと、蒸発気体の層が液体の下に生じて熱伝導を阻害し、液体が瞬時に蒸発するのを妨げる現象によって生じる効果。熱したフライパンに水滴を落とすと、水滴がめちゃめちゃ横滑りするアレ。摩擦が減るからであり、原理としてはエアーホッケーに似ている。

マロニーは少女の名前……春雨に似てるけど春雨よりやわらかい麺類の一種・マロニー。原料はジャガイモのでんぷんであり、創業者の吉村義宗が名付け親である。諸説あるものの、彼がシベリアでの拘留生活をしていたとき、工場で一緒に働いていた「マロン」という愛称のロシア娘に明るさを分け与えてもらっていた、ということから、このシベリア少女のイメージを製品に重ね合わせ、マロニーと名付けたらしい。いい話だがあくまで諸説、吉村の胸に真実はしまい込まれたままである。

ボウリングシューズがダサい理由……ボウリング場にわざわざ自分のシューズを持っていくのは間違いなくガチ勢であろう。大抵の人は道具を借りるものだが、その時に気になるのがボウリングシューズのダサさである。ボウリングのときに外履きのままレーンに上がると、靴の汚れがついてしまうので、室内専用シューズを履く必要がある。かといって体育館の普通のシューズだと、ボウリングに要求される特殊なフォームに対応できず、(足底が滑らないので)関節を痛める可能性がある。日本にボウリングがやってきてブームになったのが1952年らへんで、盗難が相次いだ。かっこいいが決して安くはない、なら盗もう、そう考える人達があまりに多く、ボウリング場はクソダサ上履きくんのようなシューズにしたところ、なんと盗難がなくなったというのだ。現代では恐らく「こんなダサいのじゃなくてもっとかっこいいの買えよ」という催促になっているが。

インドボダイジュはボダイジュと勘違いされがち……インドボダイジュは仏教聖木のひとつで、仏教三大聖樹。葉っぱの先端が長くのびるのが特徴で、耐寒性が低くもともと日本で育てるには温室が必要だったが、最近は関東以南の温暖地域で越冬できるように。鉢植えの観葉植物としても出回っている。各地の仏教寺院では植物のボダイジュがよく植えられているが、実際はこっちが正しい「ボダイジュ」である。釈迦が悟りを開いたところにあったのがこの木。死んだときにあったのがサラソウジュ(沙羅双樹)で、生まれたところにあったのがムユウジュ(無憂樹)である。

カヌーとボートの違い……ボート部の奴に教えてもらった雑学。ボートといえば主に直線、距離が2000メートルのタイムを競う。カヌーは200～1000メートルのタイムを競う。最も大きな違いは、前に進むのがカヌーで、後ろに進むのがボート。他にもパドル(オール)が違う。

コロンブス交換……1492年から続いた、東半球と西半球の間の植物、動物、人口、鉄器、病原体などの甚大で広範囲にわたる交換を表現するのに用いられることば。例えばトウモロコシとジャガイモは18世紀ユーラシア大陸で重要な作物になった。トウモロコシは日本に1世紀足らずで届いた。ラッカセイやキャッサバは東南アジアやアフリカで栽培されるようになった。もともと南米にしか存在しないジャガイモは、冷涼な北ヨーロッパで栽培され、ジャガイモ飢饉が起こる原因にもなった。18世紀にスペインによりアメリカに持ち込まれたウマは、アメリカ北西部の多くのインディアンにより使役された。アフリカのコーヒーやアジアのサトウキビはアメリカの主要作物になっている。

フランス病とイタリア病……1494年イタリア遠征したフランス国王シャルル8世は、当然に国に帰ってしまう。その原因が「フランス病」で「イタリア病」。実はフランス軍がナポリに遠征したとき、兵士たちの間におかしな病気が流行った。はじめは陰部に発疹ができるぐらいだったが、それが全身に広がり、体に痛みが走り、頭をやられて発狂するものも出始めた、と大変な病気だった。これは性行為から感染する病気で、ナポリの美人たちに魅了された男どもが楽しみ過ぎた結果なのだが、この病気がナポリじゅうに広まったため、フランスの責任ということでイタリアでは「フランス病」と呼ばれるように。でもフランス人は「ナポリのクソ女どものせいで…！」と思っていたので、この病気が「ナポリ病」と呼ばれるように。何にせよ、お前等やりすぎだろ。ちなみに実はこの病気「梅毒」であり、コロンブスがアメリカ大陸を発見して帰国するとともに流行ったため、もともとは「スペイン病」だったらしい(諸説あり)。

人間が楽するためだけの仏教道具がある……それがマニ車(まにぐるま)。チベット仏教で用いられる仏具であり、側面にマントラ(修行の時にいうことば)が刻まれていて、くるくる回せるようになっているロール型の道具。これを回転させると、回した数だけ経を唱えるのと同じ功徳があるとされる、人間の怠惰が生んだ便利なひみつ道具である。善光寺には同じような「輪廻塔」というものがあり、これは中にお経が入っていて、回すだけで読んだことになる。

ラム酒は「ネルソンの血」とも呼ばれる……トラファルガーの海戦で戦死したネルソンの遺体をラム酒の樽に浸けていたところ、干からびてしまっていた。運ぶ途中で水夫たちがラム酒を盗み飲みしたためだ。以来イギリス水夫たちは酒を盗み飲むことを「アドミラルを飲む」といい、ラム酒を「ネルソンの血」と呼ぶようになった、…というイギリス流のジョーク。真に受けてはいけない。海の上は退屈だからか、船乗りはそういう話が好きなのだ。

ポプラ事件……1976年、韓国と北朝鮮の軍事境界線上にあるポプラ並木の一本を剪定しようとした韓国軍兵士、韓国人作業者およびアメリカ工兵隊に対して、朝鮮人民軍が攻撃を行い、2名のアメリカ陸軍士官を殺害した事件。第二次朝鮮戦争を引き起こしかねない、危険な事件だった。今はポプラの残骸と慰霊碑がある。北朝鮮側の金日成主席が謝罪をしたため、全面戦争には発展せず。

第二次世界大戦時、兵士になった「クマ」がいる……本当の話。名前はヴォイテク(ヴォイチェクとも)。WW2にてポーランド軍に所属したシリアヒグマ。正式階級伍長で、弾薬運搬作業に力を貸して、勲章ももらった。砲弾を担ぐヴォイテクをかたどった輸送中隊の部隊章まであるというから、相当愛されたのであろう。一緒にテントで寝起きしたり、タバコを吸ったり…戦争の中でも、こういうほっこりする出来事があったのは、覚えておいてよいかもしれない。

鳥居強右衛門の壮絶な死……とりいすねえもん。かなり壮絶な死に方をした徳川武将。奥平信昌が長篠城を徳川家康から託され、約500の城兵で武田軍から守っていた。しかし火矢により食糧庫を焼き払われてしまい、決死の作戦として徳川家康のいる岡崎城に援軍要請をすることに。包囲の中を抜け出し援軍を要請という困難すぎる任務を自ら引き受けたのが彼だった。川を潜って武田軍の包囲をくぐり岡崎城に到着すると、そこで「援軍を出そう」と言われる。喜んだ彼はすぐにそれを味方に伝えようと来た道を戻るが、城の近くで武田軍に見つかり捕らえられてしまう。彼への取調により、織田・徳川の3万8000の軍が長篠に来ると知った勝頼は「援軍は来ないと叫べばお前の命を助け、家臣として厚遇しよう」と言われたが、なんと彼は「援軍はあと二、三日で来る。それまでの辛抱である」と真逆のことを叫び、勝頼の怒りを買ってそのまま磔刑にされてしまった。しかし決死の報告で士気を高めた彼らは、2日間、武田軍の攻撃から城を守ることに成功した。

双子のパラドックス……光速に近いロケットに乗って地球から飛び出し、そしてしばらくして地球に帰ってくる双子の兄、地球でその帰りを待つ双子の弟に関するパラドックス。光速だと時間の流れが遅くなるが、このとき弟(地球)から見れば兄は光速で動いているから、兄の年のほうが低くなるはずだ。しかし兄から見ても弟は光速で動いているため、弟のほうが若くなるはず。結局どっちが年をとっているの？というパラドックスである。当然地球は慣性系であり、ロケットは加速減速が必要なので、両者の運動は対称ではなく、このパラドックスは解決される。ウラシマ効果じたいはパラドックスではないので、注意しよう。

附子……狂言の曲目の一つ。家主が「この桶には附子という猛毒が入っているから近づくな」と使用者、太郎冠者と二郎冠者に言いつけた。しかし二人はどうしても気になってしまい、「毒が入った桶から流れる空気を浴びただけで死んでしまう」と言われていたので、扇を使い空気をかわしつつ、桶に近付いていく。果たしてそこに入っていたのはとても美味しそうな粉、誘惑に負けて舐めてみるとそれは砂糖だったのだ。二人は結局全部食べてしまったが、後から一策を講じる。まず主人が大事にしていた茶碗と掛け軸をめちゃめちゃに壊す。見るも無残になったところで大泣き。帰ってきた主人が壊れた掛け軸と茶碗を見て事情を尋ねた。「掛け軸と茶碗を壊してしまったため、死んで詫びようと毒を食べたが死ねなくて困っている」と言い訳したのだ。主人は途方に暮れるも、「やるまいぞやるまいぞ」と、逃げる二人を追いかけるところで終わり。13世紀、鎌倉時代の仏教説話集「沙石集」にも同様の話があったり、朝鮮半島にも干し柿を毒とした話があり、東アジアに広く膾炙した話と考えられる。

ヒヤキオーガン……赤ちゃん夜泣きで困ったな、のアレ。樋屋奇応丸というのが正式な漢字で、乳幼児用の医薬品である。夜泣き、下痢などに効果がある。生薬でつくられた漢方薬で、全て自然由来なので赤ちゃんも服用できる。実際に効くらしい。

ジェヴォーダンの獣……18世紀フランス、ジェヴォーダン地方に出現した、オオカミに似た獣。獣が何であったかは不明であり、現在も議論されている。100名近い人間が食い殺されたという。襲撃当時から様々な解釈がなされ、単なるオオカミの襲撃が大げさになったものという説もあれば、現地語でloup-garou(狼男)が正体という説も、さらに魔法使いにより呼び出された魔物と主張されることもあった。ただ野生のオオカミは人間との接触をさけ、家畜を襲うのはお腹が減っているときに限られているので、オオカミではないと考えるむきもある。

チャンパーワットの人食いトラ……19世紀インドとネパールで436人を殺したベンガルトラ。ギネスに載っている。最終的に1907年に射殺された。ハンターを送り込んでも成果はなく、国軍を投入してようやく縄張りから追い出せた。

「うんち」というあだ名がついた皇帝がいる……それがコンスタンティノス5世である。東ローマイサウリア王朝の第2代皇帝。当然、教科書にはのらないほど無名。軍事に優れた手腕を発揮、ウマイヤ朝の衰退に乗じて北シリアまで進み、国境を東に押し戻し、東方で主導権を握った。しかし父親が始めた聖像破壊運動を推し進め、反対派の聖職者たちを厳しく弾圧、処刑した。このため後に、「コプロニュモス」(うんち)という不名誉なあだ名をつけられてしまう。これは彼が幼児洗礼を受けたとき、脱糞してしまったことによる。

What Are Little Boys Made Of?……男の子は何でできてる？マザーグースの一つ。この答えは「カエルとカタツムリそして子犬の尻尾」らしい…。うーん。ちなみに女の子は「砂糖とスパイス、素敵な何か」らしい。パワーパフガールズの初め、どうして砂糖とスパイスと素敵なものいっぱいなのかわからなかったが、恐らくこのマザーグースがもとになっているのだろう。

蛙化現象……自分の好きな人に好意を向けられると気持ち悪くなる、というあるあるすぎる(けど共感できない人には絶対に共感されない)現象。別に恋人だけじゃなくて、友人にも起こる。以前起こったときは迷惑をかけました、A君。いろいろ考えられるが、個人的には自己肯定感の低さから、「相手がこんな自分を好きになるなんて」という嫌悪感によるものと思われる。グリム童話の「蛙の王様」がもとで、お姫様が泉に金の鞠を落としてしまい困っていたところ、泉からカエルが現れる、「僕を友達にしてくれるなら鞠を取るよ」と言うので承諾。取ってきてもらったのに約束を破りお姫様はカエルを置いて帰ってしまう。しかしカエルは自力で城に来て、「約束したよね？」と迫る。しつこいので気持ち悪くなったお姫様は壁にカエルを叩きつけてしまったが、そうすると呪いがとけてイケメン王に。やったぜ。というヤバい話。王子様が急にカエルになるように感じられるからこうしたらしい。交際経験のある女性の7割がこれを体験したことがあるらしい。

iPhoneのパスコードにアルファベットがある理由……よく考えれば数字しか入力できないのに下にアルファベットがあるのはなぜだろう。実は英語圏の人達に配慮した結果なのだ。日本人は数字をいくらでも語呂で覚えられるが、向こうにはそれがない。だから、”password”に対応するテンキーを”72779673”のようにして覚えられる。

船が処女航海という理由……船は英語圏で一般に女性名詞として扱われる。ラテン語などでそうだったかららしいが、それがなぜ英語にまだ残っているかはわかっていない。maidenとvirgin、両方とも「処女」と訳されるが、もともと英語ではvirginは男女の区別がなく、maidenは女性のみに使われる「性交経験がない人」という意味だった。船が女性名詞であるため、maidenを使い、”maiden voyage”としたのだろう。それが日本に来るとき、「処女航海」として訳された。penも女性名詞だったため「処女作」になった。ただなぜ船が女性名詞なのかもわかってない。船は装飾に金がかかり、大事に扱う必要がある。女性と似ている…というのは、さすがにトンデモ説だろう(笑)個人的には「母なる海」との関連と思う。

卓球における暗黙のルール……10-0になったら、わざと一点をあげる。卓球は相手との距離が近いスポーツなので、相手に敬意を払うという意味で、サービスとして一点あげてから勝つのだ。11-0という圧勝をしてはいけない、ということ。サービスしてもらった後はわざとミスをして負けなければならない(10-1からガチで取り返そうとしてはいけない)らしい。福原愛選手が以前これを破って叩かれていた。合理性もないが、慣習というのは面白いものだ。

帰郷と帰省の違い……一時的かどうか。以前は、帰郷というのは単に「故郷に帰ること」のみをさし、一時的かどうかは問われていなかった。一方帰省は「親の顔を見る」(＝省)という意味で、一時的な帰郷にしか使われない。しかし現在は、帰省との対比で、帰郷を「故郷に安住する」というような意味で用いられるようになった。

トルコ風呂からソープランドになるまで……トルコ風呂というと、単にトルコの風呂という意味ではなく、日本では「ソープランド」をさすことが多かった。しかし1984年にトルコ人留学生の抗議運動がもとになり、「ソープランド」と改称。女性が蔑視されるイスラーム教世界において、ヴェールを覆ったまま、様々な階層の女性たちが浴場に赴くさまは、西洋人によって奇異と驚きの目をもって伝えられた。この「エキゾチシズム」「オリエンタリズム」のイメージがそのまま日本に入ったため、トルコ風呂という名前になったらしい。

ブルースクリーン……青いスクリーン。ではなく、Windowsに深刻なエラーが発生した際に現れる「死のスクリーン」。blue Screen of Deathである。A problem has been detected and windows has been shut down to prevent damage to your topics.(とある問題が起こったためWindowsをシャットダウンしました)デバイスドライバのバグやハードウェアそのものの故障を疑うべきであり、深刻度はかなり高い。物理的に壊れてメモリが読み書き不可能になったとか、変なところに値が書き込まれた(セグメンテーション違反)とか。

ぎなた読み……文章の区切りを間違えて読む日本語特有のアレ。「この先生きのこるには」とか「ウルトラマンコスモス」「ツヤ肌になれるカバーカ」みたいなやつ。「弁慶がな、ぎなたを持つ」と呼んだことに由来する。

シンナーのことをアンパンと呼ぶ理由……ビニール袋にシンナーを入れ、気化させて吸う行為がアンパンを食べる姿に似ていたことから、隠語としてこう呼ばれるように。

フラベリックの驚くべき副作用……フラベリックは、インフルや風邪を引いたときに飲む薬に入っている成分。パブロンなどにも入っているが、驚くべき副作用がある。なんと音が「半音下がって聞こえる」のだ。曲を聴くと本当に気持ち悪い。しかもこれが1週間ほど持続するため、飯を音楽で食っている人にしてみれば命とりである。クラシックは基本的に移調できず、無理にすると気持ち悪くなるため、普通の人でも気が付くと思う。ただ半音というのは疑問で、感覚的には0.2~0.25半音ぐらいの低さと思われる。

サインポール……理容店の前にあるアレ。アレに名前が。中世ヨーロッパにまで起源が遡る。当時病気の患者に対し、「瀉血」という治療法を行っていた。体の悪い部分に集まる血を外に出してやろう、というものだ。治療に際し、患部を切開して血を抜くとき、患者に棒を握らせて血を伝わせるようにしていたのだが、精神衛生上血のついた棒をその後そのままにするのは好ましくないので、赤く棒を塗った。術後洗浄したその棒と、傷口にまいた包帯を外に出していたところ、風に吹かれ包帯が赤い棒にまきついた。その模様が現在のサインポールの原型になったという。そののち、1700年代にフランスやイギリスで理容師と外科医が区別されたとき、理容師は青、外科医は赤白と定められ、理容師の看板は赤と白と青になった、というのが有力。静脈、動脈、包帯の3つは俗説であるという。

サリドマイドの摩訶不思議な性質……サリドマイドは催眠作用や催奇形性を持つ薬として知られる薬。睡眠薬として知られていたのだが、サリドマイド胎芽症や胎児死亡が見られるとされ、日本では1962年に販売停止された。R体S体の光学異性体があるのだが、R体のみが催眠作用を持ち、S体が催奇性を表すといわれる物質で、現在のところR体のみを分離したり、一方のみを合成したりすることは可能であるが、その後「R体のみを投与しても、徐々にS体に変わっていく」ことがわかり、催眠作用を目的としたサリドマイドの投与自体行われなくなった(ハンセン病の特効薬として用いられた過去はある)。これ以降、光学異性体のもう片方についても、ちゃんと調べる必要が出てきた。

目に見える「ウイルス」がある……それがパンドラウイルスというウイルス。ゲノムが約200万塩基対、カプシド径が長さ1マイクロメートル、幅0.5マイクロメートルと、共に既知のウイルスの中で最大のもの。(普通のウイルスは0.05から0.1ぐらい)アメーバに既成してアメーバをエサにするので、人間には感染しない。大腸菌が2マイクロメートルであることと比較すればその大きさがわかるだろう、なんと一般に光学顕微鏡で見えないウイルスだが、パンドラウイルスは見えるのである。

タスマニアデビル……昔はオーストラリア大陸にも生息していたが、人間や人間が持ち込んだ動物との生存競争に負けて滅んだ、現在タスマニア島にしか生息しない動物。鳴き声が非常に不気味で、「悪魔のようだ」と恐れられたことからこう呼ばれ、殺生の対象にもなってきた。死肉を主に食べるため、森の掃除屋さんの異名ももつ。性格は非常に憶病だが、それは自分より大きい動物にのみ。小さい動物に対しては獰猛になり、顎で骨まで噛み砕いてしまう。であるから人間に殺されるのは全くぬれぎぬなのだ。フクロオオカミやタスマニアデビルの殺戮キャンペーンにてついにフクロオオカミは絶滅、タスマニアデビルも時間の問題かとされたが、フクロオオカミの絶滅を機会に入植者の意識は高まり、一変し法律で保護されることとなった。しかし通称デビル癌と呼ばれる、「腫瘍なのに感染する」というやっかいな病気が流行り、このままだと近いうちに滅ぶとされている。治療薬も存在せず、健康体を動物園に移送して保護するなどという対策が行われている。

青写真はなぜ青か……鉄塩の化学反応を利用した写真の複写技法で、光の明暗が青色の濃淡として写るためこう呼ばれる。英語では機械図面や建築図面の複写(blueprint)に多用されたため、「設計図面」という意味で使用される。これから転じて、将来の計画などのことを「人生の青写真」などと呼んだりする。日本の若者の将来はしかし、真っ黒である。

ハリーポッターが飼うフクロウは何なのか……シロフクロウという、北極圏に広く分布するフクロウさんの一種である。冬は多くの個体がユーラシア大陸、北アメリカ大陸の亜寒帯に南下、日本でもまれにみられる。フクロウの中でも非常に珍しく、日中に活動する。北極圏の夏は夜がない白夜のため。ケベック州の州鳥で、ハリーポッターの主人公ハリーが飼うフクロウのヘドウィグがこれ。あこがれて飼ったはいいが、育てられず不法にリリース、イギリスで社会問題になっている。

イップス……精神的な原因などにより、スポーツの動作に支障をきたす運動障害。元々はゴルフの分野で用いられはじめ、プロゴルファーのおよそ4分の1が経験したことがあったらしいが、今ではスポーツ全般で用いられるようになったことばである。テニス、野球、サッカー、弓道など、その範囲は多岐にわたるが、根本的な原因は不明であり、解決策も見つかっていない。

マズローの欲求段階……人間の欲求を5段階の階層で理論化したもの。下から、生理的欲求(生に根付く欲求、眠いとか食べたいとか)、安全の欲求(安全なところで過ごしたいという欲)、社会的欲求(自分が社会に必要とされていることを実感したい)、承認の欲求(自分が集団から価値ある存在と認められ、尊重されたい)、自己実現の欲求(自分の持つ能力を発揮し、自分がなりたいものになりたい)である。大抵の動物は1番下のみを満たすように行動し、幼児もここに属するが、だんだんと高次の欲求を満たしたくなってくる。誤解されがちであるが、下から順番に満たされないと、上が満たされないわけではないという。また、自己実現者が完璧人間ではなく、欠点の多い人間であることも、誤解されがち。そしてサンプルが23人とごくわずかである。あくまでごく限られた範囲での人生哲学の研究にすぎない、ということは、忘れてはならない。

風が吹いて崩落した橋がある……それがタコマ橋。正式にはタコマナローズ橋といい、アメリカ合衆国ワシントンにあった。風によりわずか4か月で崩落。一説には共振のせいとも言われているが、共振は同じ振動数をずっと当て続けなくてはならず、風で起こるとは考えにくい。自励振動によるもの(橋の上下に風が起こる、空気の渦が橋を揺らす、橋の振動で空気の渦がさらに強化、強化された渦が橋をさらに…)との説が主流。犬1匹が犠牲になってしまったが、その犠牲でフェイルセーフの思想がうまれた。

コロポックル……アイヌの伝承に登場する小人さん。コロボックルとも。北海道、南千島、樺太に流布しており、名前も実はさまざま。そして彼らの正体についてもいろいろ地方で分かれている。考古学者の瀬川拓郎は「交易の際に相手との接触を避ける」「竪穴式住居に住む」「土器をつくる」などの事例が北千島のアイヌの習俗と共通することに着目し、さらに、北海道から樺太、南千島に広く伝わるコロボックル伝承が、北千島にないことから「コロボックルの正体は北千島のアイヌ」という説を提唱。

1961年ゴールズボロ空軍機事故……1961年にノースカロライナで起こった飛行機事故。核爆弾2発を積んだアメリカ空軍の爆撃機が空中分解、その過程で核兵器が地表に落下、爆弾のうち一発は地表まで30メートルのところで落下傘が開いて、地表にぶつかっても爆発しなかったものの、4つの起爆装置のうち3つは既に起動されていた。もう1つもぬかるみに落ちたおかげであやうく爆発をまぬかれたが、高圧スイッチが閉じておらず、部分的に起爆可能だったという。結局2発目のほうは発掘されなかった。つまりノースカロライナ湾ができかけていたということだ。

騒音おばさんの真実……騒音おばさんは実は加害者じゃなくて、創価学会の組員による被害者だったという説のこと。残念ながらソースが2ちゃんねるの書き込みやそれを引用した個人サイトでしかないため、仮説の域を出ない。というかまあほぼガセ。筆者もネットリテラシイのなかったころはこれを信じ込んでいたが、よくよく考えればテレビや新聞でさえ出回っていないことがらが、なぜネットに漏れるのか、ということである。創価学会のもつイメージが陰謀論と結びついて、「この事実を隠蔽しているのはマスコミが創価学会にたてつけないからだ」なる考えなのだろうとは思うが、その時点であらゆる(マスコミ側からの)証拠も無に帰すため、他の陰謀論と変わらない。実際は、おばさん以外の家族全員が病気を患っており、その介護に疲れてしまったかららしい。

“I’m not racist, but”……「俺は差別主義者ではないが、…」。URBAN DICTIONARYによれば、”Something an idiot says just before making a comment that proves the idiot is, in fact, a racist.”とある。「アホだとばれるような言動をする直前にアホが言うことばで、実際はソイツは差別主義者である」。例文までご丁寧に掲載。”I’m not racist, but goddam these niggers!!”(俺は差別主義者じゃないが(言わせてもらう)、このクソッタレ黒人どもめ！！)簡単に解説すると、PCが盛んなアメリカにおいて、差別主義者ではないとリテラルぶりつつナチュラルに差別を行っている「エセリテラリスト」どもを皮肉るために生まれたことば。日本にもいるでしょ。”I'm not racist, but... I think the Klan does a lot of good work.”(俺は差別主義者じゃないが…クラン(KKK)がやったことは良いことだ)“I'm not racist, but... Hitler had a lot of good ideas.”(俺は差別主義者じゃないが…ヒトラーは良いことをたくさんした)などの例文から、アメリカでKKKやヒトラーがどう思われているのか、察することができる。

十二支……子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の総称。全部漢字で書けるぐらいは一般教養かもしれない。それぞれ何を意味するかも掲載する。「ネズミ、ウシ、トラ、ウサギ、龍、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、ニワトリ、イヌ、イノシシ」である。

微笑むブッダ……インドの核実験のコードネーム。1974年に行われたインドの核実験は世界に衝撃を及ぼした。非難轟々の中、インドは「あれは核爆発ではなく核爆破だ」という苦し紛れの見解を示したため、あっけにとられた。さすが禅問答の国、インドである。建前上は「(マレーシアのクラ地峡を核爆破装置で掘削して運河をつくるという)工事用の爆破のテスト」ということになっていたが、実際は中国国境での紛争で、当時核武装していた中国に対抗するためだった、と言われている。インドはこれから24年間は核実験を行わず、1998年にパキスタンの核に対抗するため、核実験を行った。

香川県の面積は結局何位なのか……大阪府が埋め立てられたせいでワースト1位になってしまった、ということを学校で習ったが、実は正確ではなかった。埋め立てを行う前、1988年に国土地理院が算定法を見直し、境界未定部分の面積を県面積に参入しないと決めたため、面積が減少して大阪に逆転されたのだ。しかしその後は大阪が埋め立てを行い、現在はやはりワースト１位である。人口密度は全国で11位と意外とそんなでもない。

アメンボの名前の由来……雨の日に出てくるということではなく、「虫を捕まえる時、飴玉のにおいがするから」らしい。だがそもそもアメンボのにおいをかいだことがある人自体が、日本人の1％もいないのではないか。ちなみにカメムシの仲間だという。

パーキングエリアの駐車場が斜めになっている理由……割と合理的で、逆走を防止するためらしい。斜めにしておけば入りやすく出やすい。逆走しようと思う人がいないのだ。

グリーンアスパラと白アスパラの違い……成長する際の場所による。グリーンは日光を浴びて葉緑体をつくり、栄養価が高い。白アスパラは根っこのほうで成長するので、日光を浴びず、栄養価が低い。単純に香りや味を楽しむものだ。

ストローのガタガタの部分がある理由……曲げるため、というだけではなく、ゴゴゴゴ…という音を防ぐため。

コーヒーショップのストローの色はなぜ緑や赤なのか……女性が口紅をつけたまま飲んだ時、ストローに口紅がついてしまう。白いストローだとそれが目立ってはしたないので、緑(赤の逆の色)とか赤にして、目立たないようにするのだ。

ラーテル……イタチ科の動物。世界最強とも噂されるその実力は、その分厚い皮膚と、異常なまでの毒耐性により裏付けられる。皮膚が分厚いため他の動物たちの牙がまったく立たない。ライオンが後ずさり、コブラに噛まれてもまったく動じず、かえってコブラを捕食するほどである。鋭利な爪は木に登るのに用いる。イタチ科ではあるが、つわもの揃いのアフリカ大陸で独自の進化を遂げた。本当に最強かどうかは議論の余地があるが、少なくともかなり強い動物であることには変わりない。

刺身の菊の意味……菊の花にはグルタチオンという、毒消し酵素を増やす効果がある成分が入っていて、簡単にいえば防腐の役割を果たしている。最近のはほとんどプラスチック製のタンポポになってしまったが、もともとはそういう意味があったのだ。洋食屋のパセリにも同じ効果がある。

電子レンジの窓が黒い理由……あれが黒くなければ中身がちゃんと見えるのに、と思うだろうが、電子レンジはマイクロ波なる電磁波を照射してものを温める原理。電磁波が人体に及ぼす影響が完全には解明されてない以上、黒いシートを窓に貼って電磁波を防ぐ必要がある。

落し蓋の役割……味を染み込ませるためだとか、濃くなりすぎるのを防ぐとか言われるが、主な目的は食材が鍋の中で踊らないようにするため。煮崩れを防ぎ、おいしそうな見た目にするのに役立っているのだ。したがって、軽い木の蓋が一番よいことになる。ドラクエの木の蓋は盾だが、あれは落し蓋のためのもの。

お弁当に入ったパスタ……あれあんまりおいしくないのだが、唐揚げ弁当などに入っているパスタは、唐揚げから出てくる油を吸って、ベチャベチャになるのを防いでくれている。

為替相場の波線(～)の意味……あれは売値と買値の違い。一定時間内の振れ幅ではないのだ。

牛乳パックの切れ込みの意味……目の不自由な人のためのもの。切れ込みの反対側が空け口であることを示している。加工乳には切れ込みはない。ちなみに、小さい紙パックのジュースには、「たたんでくれてありがとう」というメッセージが書かれている。

座布団の隅のフサフサ……あんなものにもちゃんと意味がある。中に入った綿を固定するためのもの。中心にあるふさも同じ意味。ちなみにだが、座布団は縫い目がないほうが正面になる。

スプレー缶のカラカラ音……中のガラス玉がスプレー缶の中身を攪拌している。空になったという合図ではない。

紙ナフキンが片方だけ短い理由……ナフキンを取る時、次のが汚れないようにするため。

伝票入れの筒が斜めに切れている理由……円筒状だと転がってしまうが、切れていると重心が偏り、転がっても止まるから。

キャラメルコーンのピーナッツの意味……塩気を全体に回すため。お口直しというのもあると思うが。

コタツ保有率最下位の県……沖縄県！ではないのだ。北海道。温かい部屋が多いのでこたつ要らないらしい。

電話の#の使い方……固定電話限定であるが、電話番号をプッシュした後に＃をプッシュすると、少しだけ早く電話することができる。＃はプッシュが終わったという意味。

「あまおう」は略語……一粒500円のあまおうを一度食べたことがある。旅館で。あの甘さを超えるイチゴを今までにまだ食べたことがない。あまおうは「甘い王様」ではない。赤い、丸い、大きい、うまいからあまおうなのだ。

結婚をするのは入籍？……実は結婚によって籍を入れるわけではない。現在の結婚制度では新しい籍がつくられるから、入籍というのはおかしいのだ。ただそんなのを指摘する人も嫌われるだろう。

病院通路の天井の明かり……見ていてほしいが、病院通路の天井の真ん中には、明かりがないのだ。これは、患者がストレッチャーで運ばれるとき、まぶしくないように。

煮物に向いているジャガイモの見分け方……13％の塩分濃度の水にジャガイモを入れ、浮いたものはデンプンが少ないので煮物に向き、沈んだものは多いのでコロッケやじゃがバターに向いている。

土鍋を使う時はシメを……シメを雑炊にしよう。お米が土鍋のヒビを保護、修復してくれる。

にんにくの薄皮の剥き方……バラバラにしたにんにくを容器に入れて蓋をして、30秒程度振る。こうすると簡単に薄皮が剥ける。

光る氷砂糖？……ペンチで氷砂糖を挟むと、氷砂糖の内部にエネルギーが溜まり、そのエネルギーが外に出ようとするとき光る。

洗濯糊と塩を混ぜて丸めて固めると……スーパーボールのように弾む。

保育園と幼稚園の違い……幼稚園は文科省、保育園は厚労省管轄。

学校でウサギを飼う理由……戦時中の食糧として。

学校の天井に穴がある理由……あの穴は音の反響を防ぎ、声が聞こえやすくなるためのもの。

学校に踊り場がある理由……建築基準法で、学校では3メートル以内に踊り場の設置が義務づけられている。転んだときの大けがを防いだり、非常時の避難場所になったりする。

レタスをシャキっとさせる方法……冷水で冷やせというが、実は50度ぐらいのお湯のほうが良いらしい。レタスの食物繊維が50度程度のお湯で固まる性質があるため。

ゆで卵を綺麗にむくコツ……茹でる前に画びょうでお尻側に穴を開けると、殻の中にお湯が入って綺麗に剥ける。え、ゆで卵がないだって？そういうときは、皮を剥く前にプラスチック容器(タッパー)に入れて、フタをしたままシェイクするんだ。氷水で冷やすよりもいいぞ。

ビールの泡を復活させる方法……割りばしを入れる。表面の凹凸に炭酸ガスが集まり、泡が立つ。

証明写真を綺麗に撮るには……膝にティッシュや白いハンカチを敷く。こうすると顔が明るくきれいに映る。

旅館の和菓子は何のためにあるか……おもてなし、というのもあるがあの目的は、空腹で温泉に入るとエネルギーや糖分が不足し、気分が悪くなるのを防ぐことである。

一級河川は大きさで決まらない？……一級河川とは国が管理する河川である。国土交通大臣が指定、国土保全上、または国民経済上で特に重要な河川が指定されるので、大きいかどうかというのは関係がない。一級河川以外で重要な河川は、都道府県が管理する二級河川になる。

日本だけドアが外開きの理由……ごくごく当たり前だが玄関で靴を脱ぐから。内開きだと靴が邪魔になる。ホテルのような場所では、避難経路の確保のため、内開きが多くなっている。外国が内開きなのは、不審者が入ってきたとき、押し出すのが容易になるため。

本にバーコードが2つある理由……1つずつが別の意味を持つのではなく、2段1組で初めて一つの意味をなしている。盛り込む情報量と、バーコードの長さに関する規格との絡みで、一段だけでは表記できないため、二段なのである。本のバーコードが表すのは、書籍JANコードというもの。まず出版物を分類する世界共通のコードとして、ISBNコードというのがある。これに日本独自の情報を加えたコード体系として、日本図書コードがある。書籍JANコードというのは、日本図書コードに、バーコードにするために必要な識別情報とチェック情報を加えたもの。

クマノミは性転換する？……クマノミはイワシのように普段から群れをつくるが、群れには1匹のメスしかいない。生まれたときには性別がなく、最も大きな個体が勝手にメスになっていく。2番目に大きな個体がオスになり、その2匹がカップルになる。メスが死んでしまった場合、カップルだったオスがメスに変化し、3番目に大きな個体がオスになって再びカップルが生まれるのだという。このめまぐるしい性転換にはホルモンが関係しているとされる。クマノミは目で自分たちの大きさを認識しており、群れからメスがいなくなると、2番目に大きな個体のオスが「俺が一番大きいな」と目で認識。そうなると脳からのシグナルで、女性ホルモンが分泌されるようになる。精巣が卵巣になり、性転換できるのだという。ちなみにイソギンチャクと共生するため、イソギンチャクはクマノミのことを仲間と認めている。接触する物体のマグネシウム濃度が海水より低いと外敵と見なすのだが、クマノミは高い。他の小魚の10倍の粘液を出すのだ。これを利用し、クラゲに刺されないクリームや日焼け止めが販売されている。さらにダメ押し。「ファインディング・ニモ」の舞台は、東部オーストラリアのグレートバリアリーフである。カクレクマノミの生息範囲を調べてみると、沖縄からフィリピン・インドネシア・オーストラリア北部までとなり、オーストラリア東部には生息していない。つまり、ニモはカクレクマノミではないということになる。では何かというと「クラウン・アネモネフィッシュ」の可能性が高い。どちらも体に3本の白いラインが入っているが、クラウン・アネモネフィッシュは白いラインが黒く縁どられているのが特徴だ。ちなみにカクレクマノミの英名はクラウンフィッシュ。名前も似ているから和訳するときに間違えたのか？はたまた、日本でなじみ深い魚にあえてしたのだろうか？

バイアグラは狭心症の治療薬として生まれた……狭心症の試作品が完成したため使用したが、あまり改善が見られなかった。しかし、余った薬を患者たちから回収するとき、なぜか薬を返したがらない。いろいろ聞いてみると、なんとEDが改善した、という人が多く存在し、それならばとED治療薬として方針転換し、空前の大ヒットとなった。

バルサミコ酢……果実酢の一種。原料はブドウの濃縮果汁。イタリアの特産で、「バルサミコ」は「芳香がある」という意味。こげ茶色で、独特の芳香があり、サラダにかけたり味付けしたり隠し味に使われたりする。甘味があるためデザートの味付けもできる。出回っているほとんどは模造品であり、ブドウ酢に着色料や香料を加えたもの。モノホンはマジで高いのだという。

柿の種は金型を踏んづけて生まれた……創業者が、うっかり踏んでしまった小型せんべいの金型を元に直せずそのまま使ったところ大ヒット。世の中何があるかわからないものだ。

キーボードの一行目だけで打つことができる英単語……実は”typewriter”である。これは、タイプライターの販売をするときに店員が試し打ちして、客に打ち方を見せやすいようにとのこと。ボタンを押す間隔が短いと針が絡まってしまうため、ワザと遅くうつようにめちゃくちゃな配列にした。

KURE556の名称は会社の住所に由来する……錆びた機械の動きをよくするためのオイルスプレー。この名前は別に556という数字に意味があるわけではなく、当時の会社があった場所が「呉5-5-6」であったから、というだけ。しょーもねえ。

食品メーカーなのにカイロを販売する会社がある理由……もともとカイロは食品の湿気防止剤の製造過程で、偶然効果が発見されて製品化されたもの。鉄粉は水を吸って熱くなるが、熱くなってしまうと食品の温度が変わり都合が悪い。水酸化カルシウムなどにその役割を譲り、鉄粉は「ホッカイロ」として販売されることとなった。その名残なのである。世界初カイロはロッテが1978年に開発した。現在の「ホカロン」である。

沖縄用、北海道用の体重計……重さをはかる時は、地球の自転による遠心力の影響を受けやすい。地球は丸いため、緯度によって遠心力の大きさが異なるのである。沖縄用よりも北海道用のもののほうが軽く表示されるようになっている。逆にいえば軽いと感じたいときは沖縄に行こう。しかしながらその差はわずか80～100グラムほど。ぬか喜びしないように。この問題、むしろ計量法的に微妙だと思うんですが。

エスカレーターでコケないための「工夫」……実は手すりとステップで微妙に速度を変えている。昇りでは手すりのほうを速く、下りではステップのほうを速くすることで、上半身を常に上側に維持できるようにしているのだ。

缶ジュースの飲み口は非対称……線対称にしてしまうと開けるのに力が必要になってしまう。わずかに非対称にすることで、かかる力の差が生まれ、集中することで、簡単に開けられるのだという。プルタブを倒したときに、微妙に左側に傾くことからもわかる。あ、ちなみに現在の「プルタブ」は本来のプルタブではない。実はプルタブとは、昔の引きはがして飲んでいたタイプのこと。現在のは「ステイオンタブ」という。どうでもいいな。

ポトとカベンゴ……一卵性双生児の姉妹。なんと8歳ごろまで、彼女らのみが理解できる双子語を用いて、会話をしていたという。普通の女児と変わらない知能を持っていたが、他者からの言語にほとんどさらされなかったため、独自の言語が生まれたという。分析の結果、英語とドイツ語が混ざったものであり、いくつかの造語と、特異な文法上の特徴を持っていた。ドキュメンタリーにもなっている。

地球から最も離れた山は？……エベレスト、ではない。チンボラソ山という山。エクアドルの最高峰であり、地球の中心から最も離れた場所が、チンボラソ山のてっぺんである。標高は6268mであるが、地球の中心からの距離ではチンボラソのほうがエベレストより2.1km大きい。こういう雑学を聞くと、常識を疑うことの大事さを実感する。

バンジージャンプの原点……メラネシアにあるバヌアツで生まれた成人儀式「ナゴール」がもとになっていると言われる。ナゴールの発祥は1000年前。暴力的な男が妻に殴りかかったことから始まる。妻は夫から逃げるために背の高い木に登るが、見つかってしまう。夫は怒り狂って木に登り、妻を捕らえようとするが、間一髪のところで妻は飛び降り。それをみた夫は追いかけるために飛び降りるが、妻は実は足首につたを巻いていたので、夫と違って死なずに済んだ。これが儀式として発展したのがナゴールで、現在では豊作祈願の意味もこめられている。

出羽守……でわのかみ。「では」と「出羽」(山形と秋田にあった国)をかけ、ことあるごとに「海外では」「俺の業界では」と言いまくって、他人のマウントを取る人のことをこのようにいう。多くは揶揄の気持ちをこめて。

パンドラの箱……ギリシア神話におけるひとつの寓意。パンドラは人類最初の女性であり、その名は「すべての贈り物」を意味する。プロメテウスが火を盗んで人類に与えたことに激おこのゼウスが、「女性をつくれ」とヘパイストスに命令した。彼は泥から彼女の形をつくり、神々は彼女にあらゆる贈り物(ギリシア語で「パンドラ」)を与えたが、その中には決して開けてはいけないというピトス(かめの意、後世には箱の意)を与え、プロメテウスの弟であるエピメテウスに送り込んだ。彼はパンドラの美しさにゾッコン。プロメテウスの「ゼウスからの贈り物は受け取るな」という忠告にも関わらず、彼女と結婚。ある日パンドラは好奇心から、開けてはいけないとされるピトスを開けてしまう。するとそこからさまざまな災い、疫病、悲嘆、欠乏、苦痛などが飛び出てしまう。しかしとっさに閉めたことで「エルピス」のみは残った。こうして世界には災厄が満ちて、人々が苦しむ羽目になったのだ。「エルピス」を希望と解釈すれば救いのあるオチ(希望は人間の手元に残った)だが、偽りの希望とする説、希望をそもそも災厄とする説などは、もうほんとに救いようがない。ここから転じて「災いをもたらすため触っちゃいけないもの」の意として、パンドラの箱という表現が用いられる。

ほうれん草を紫のテープで結ぶ理由……緑の反対の色は紫色であるから、紫で結べばホウレンソウの緑がより際立つのである。

鉄筋コンクリートはなぜ人気か……鉄筋コンクリートはその名の通り、鉄筋をコンクリートで覆った部材。ビルや家など、様々な建物の基礎になっている。この両者は非常に相性が良い。熱膨張率がほとんど同じなので、気温の変化によって壊れたり、割れたりすることがないのである。

スイスの高速道路がまっすぐの理由……日本のは居眠り防止の意味も含め、カーブが多くつくられた。しかしスイスは非常にまっすぐなのだが、これは有事のことを考えて。つまり、飛行機が緊急用の滑走路にするため、まっすぐなのである。徴兵制を廃止するか投票させたら「反対」のほうが多かった国、さすがである。

タンスの引き出しの中に新聞紙を敷く理由……ちょうどいい具合で湿度を吸ってくれるのである。しかも安価で、手に入りやすい。新聞紙がピッタリなのである。

ホッキョクグマは自分の鼻を隠して狩りをする……理由はにおいで気づかれないように…というのはまあ惜しい。実際は「鼻だけ黒いから目立たないようにするため」なのである。自分の鼻の色、体の色を比較し、隠すという行為を思いつくあたり、これはアザラシキメてますわ。

「山田太郎」が役所の記入例に用いられる理由……よく考えたら佐藤とか鈴木のほうが苗字が多いのだから、そっち使えばいいじゃないか、と思うだろう。だが実は佐藤や鈴木は分布に偏りがあるのである。山田はちゃんと全国に散らばっている。

ワインを横にして保管する理由……縦にしてしまうと、コルクの栓に水分がいかず、乾燥してボロボロになってしまう。開けにくくなるのである。ちなみにワインにコルク栓をする(他のお酒にはしない)のは、ワインの熟成と関係している。空気を断って長く寝かせると香味が増すのだ。金属キャップのようにサビの心配がないため、17世紀後半にはヨーロッパで使われるように。

Windows8の次がWindows9でない理由……以前記者会見でWindowsトップの両者は”seven ate nine”(セブンがナインを食っちまった、セブン、エイト、ナイン)とギャグで返したが、真面目な話、全体のアプローチが全く違うので、単なる続編としてのWindow9では納得できなかったという。チマチマ改善ではなく飛躍ということを伝えるため、Windows10にしているのだという。

準チョコレートとチョコレートの違い……チョコレートとは、チョコレート生地だけか、生地を全重量の60％以上使用した加工品。チョコレート生地とは、カカオ分が35％以上、あるいはカカオ分が21％以上でそれを合わせた乳固形分が35％以上のもの。準チョコレートとは準チョコレート生地単独か、準チョコレート生地の比率が60％以上の加工品のこと。準チョコレート生地とは、カカオ分が15％以上あるいはカカオ分が7％以上でそれを合わせた乳固形分が12.5％以上のもの。なんだかややこしいが、カカオ分が多いのがチョコレートで、カカオ分が少ないのは準チョコレートである。

DINKs……ディンクス。Double Income No Kidsの略で、共働きで子供を意識的に作らない、持たない夫婦のこと。あくまで意識的に子どもを持たないという「価値観」のことなため、結婚日が浅く子どもがいない夫婦、何らかの事情で子供を持てない夫婦などは指さない。

バレンタインデーの由来……ウァレンティヌスという3世紀ごろのキリスト教の聖職者が由来。ヴァレンタインともいう。クラディウスのキリスト教迫害下であっても、熱心に宣教活動を行っていたが、そのため目をつけられて(具体的には本来ローマ皇帝により禁じられていた、兵士たちの結婚を逆らってさせてしまったため)絞首刑になったとされる。彼は恋人たちの守護聖人として崇敬されてきたため、殉教日をとってバレンタインデーとされている。ただあくまで西方教会のみの習慣であり、東方教会には恋人とヴァレンタインを結び付ける習慣は生まれなかった。

構造計算書偽装問題……千葉県にあった建築設計事務所の姉歯秀次一級建築士が、地震に対する安全の計算を記した計算書を偽造していたことをはじめとする、一連の事件。多くの物件にわたり耐震偽装が行われており、中には数千万円の分譲マンションを購入した人も。組織的に行われた犯行ではなく、姉歯氏ひとりによる偽装と決定し、懲役5年の実刑判決となった。皮肉にも、「震度5以上の地震がくれば確実に壊れる」と言われた千葉県・東京都の多くの建物は、2011年の東日本大震災でほとんど壊れず、彼の「震度7や震度8にも十分耐えられる」ということばが実証されることとなった。

ナインチェ・プラウス……Nijntje Pluis。オランダのデザイナーであるディック・ブルーナが描いた絵本に主人公として登場する、あのメチャメチャ有名な某ウサギ「ミッフィー」の本名である。ハウステンボスにはちゃんとこの名前が描かれたグッズが売られているが、日本ではほとんどがミッフィーである。

赤子泣いても蓋取るな……はじめチョロチョロ中パッパ ジワジワ時に火をひいて 赤子泣いても蓋とるなの一部。釜でご飯を炊くときの手順を歌ったもの。炊き始めは弱火で、蒸気が出てきたら強火にし、水分がなくなってジワジワ言い出したら火を落として、蒸らすときに赤ん坊が泣いても蓋を開けないようにしよう、というもの。つまり、ご飯を炊くときには、フタを取らずに十分に蒸らそう、という教えなのである。

Garbage In Garbage Out……無意味なデータを入力すると、無意味なデータが返される、という意味。今日では高性能なコンピュータが存在するが、大量のデータを処理できる分、大量の誤ったデータを作成する。低質の映像や音声ファイルを量子化するときに用いられることばであるが、ある意味人間に似ていなくもない。無意味なデータにも、無意味な出力を行うのだから。

蛙鳴蝉噪……あめいせんそう。無駄な表現が多く、内容が乏しい下手な議論や文章のこと。無用の口論や下手な文章をいう。カエルやセミが鳴くように、騒がしいだけで何の役にも立たないという意から。出典は蘇軾の詩。

お粗末様でした……あまり大したものを供さなかったという意味の表現。ごちそうさま、に対する応答として用いられる。

404エラーの404とは……部屋番号に由来するとか、その部屋は世界初のウェブサーバがあったところで、CERN内にあるとか、なんかもういろいろ尾ひれがついているが、実際にそんなことはないらしい。プログラマーの気分で決まったものだという。

いの一番の「い」……いろはにほへとの「い」らしい。

イカの足は10本ではない……じゃあ横の2本をのぞいて8本、というわけでもない。あの10本のは足ではなく、腕なのである。背中から順に第一腕、第二腕、…と数え、他より長い2本は触腕。

パンダの和名……シロクログマ、なる馬鹿正直な名前がついている。パンダの由来はネパール語で「竹を食べる者」という意味の「ポンガ」からきているという説がある。ただこのとき発見されたのはレッサーパンダで、1869年にようやくモノホンのパンダが発見され、これも竹を食べることから、でかいほうのを「ジャイアントパンダ」、小さい方を「レッサーパンダ」と呼ぶようになったという。中国では「大熊猫」。

盲導犬の訓練では何語を使うのか……実は英語を用いる決まりになっている。日本語だと方言、男言葉、女言葉などで犬が混乱する恐れがあるから。つまり盲導犬に関しては言語の通じる通じないがなく、日本の盲導犬をアメリカ人が使うこともできるのである。

亀の呼吸法……亀は爬虫類なので一応肺呼吸なのだが、甲羅のせいでうまく膨らませることができない。そのため、粘膜呼吸もできるようになっており、お尻の穴から呼吸ができる。

キジバトとドバト……キジバトはもともと日本にいるハトで、多くの人が連想するハトの鳴き声の正体が、こっちである。擬音語にするのがかなり難しいが「デッデー　ポッポー」を何度か繰り返すアレは、キジバトである。ヤマバトともいう。それに対しドバトは伝書鳩や鳩レースなどに用いられ、公園とかにいっぱいいる。キジバトと違い羽に鱗模様がないので簡単に見分けることができる。イエバトとも。

赤の女王仮説……鏡の国のアリスに登場する「赤の女王」が発した、「その場にとどまるためには、全力で走り続けなければならない」から転じ、どんな種であっても、生き残るためには進化し続ける必要があるという仮説。もともとは生物学的過程と国家間の軍拡競争の類似から着想された。環境がどのように変化していくとしても、「より多く変化し続ける種」が有利なのには変わりない。有性生殖が無性生殖にとってかわった理由も、これによって説明される(具体的には宿主と寄生虫の関係などであろう)。

終末もの……フィクションのサブジャンルの一つ。大規模戦争、大規模災害、疫病、超越的な事象により、文明や人類が死に絶える様を描くもの。もしくは、文明が死に絶えた後の世界を描くもの(ポスト・アポカリプス)。その起源ははるか古代の黙示的文学に遡る。ユダヤ教の終末思想などがそれである。とりあえず「復活の日」を読んでいれば間違いはないと思う。ちなみにけものフレンズも終末ものであるが、あれは「心地よい破滅」(コージー・カタストロフィ)という分類になる。文明崩壊後、主人公たちがささやかなコミュニティを再建し、楽しく過ごすというもの。

フリーランスの語源は戦争……フリーランスは特定の企業に専従するのではなく、社会的に独立して自分の能力を発揮する人達の総称。派遣社員は派遣会社に属する従業員であるため、フリーランスではない。あくまで個人事業主のことである。その語源は中世に遡る。王様や貴族は戦争のたびに傭兵団を雇うのだが、そこに属さない兵士たちもいる。当時は槍騎兵(lancer)が自分の付き添いとして歩兵を連れている形態が多かったため、貴族との契約の際には槍の本数＝1戦力とカウントされていた。そこから、まだ契約を交わしていない(free)戦闘単位(lance)をさすことばとして、”freelance”が生まれたという。フリーは「拘束されない」という意味であり「無料」という意味ではない。

サッカーチームの「インテル」とは……IT会社の名前…ではない。サッカークラブの略称。いろいろあるけれども、イタリア・セリエAのミラノを本拠地とするクラブチーム、「インテルナツィオナーレ・ミラノ」がもっとも有名。赤文字で現れる「インテル長友」であるが、あれは決して「インテルという名前の会社公認チームに属する長友」ではない。サッカーチームの略称としてのインテルなのだ。インテルナツィオナーレは「国際」を意味するだけあって、最近はめっきり外国人頼り。

トルコライス……長崎市を中心としたご当地グルメ。最も一般的なのはピラフ、ナポリタン、ドミグラスのかかった豚カツという組み合わせで、サラダなんかも入っている。トルコはそもそも豚肉を食べず、また同じプレートにいろんな炭水化物を組み合わせることがないので、トルコ風ライスという意味ではない。いろいろ説はあるが、発祥はマジで不明。

青いカプセル、赤いカプセル……「マトリックス」で登場する2つのカプセル、及びそこから転ずる表現方法。マトリックスは仮想空間での幸せな暮らしか、そこから抜け出して真実を知る苦痛を最終的に選ぶのであるが、青いのを選べば元の暮らしが、赤いのを選べば目覚めて真実を知ることができる。ここから転じ、「虚構の幸せを選ぶか、現実の苦渋を選ぶか」という文脈で、この表現を用いることがある。

ハムと生ハムとベーコンの違い……まずハムは豚のもも肉を塩漬け、熟成し、型に詰めて(糸で巻いたり布で巻いたりする)、ボイルしてつくる加熱食肉製品。生ハムは加熱せずに乾燥させながらつくる。一方ベーコンは豚のばら肉(胸の下部からお腹に至る肋骨あたりの肉)を塩漬け、熟成し、低温で燻製にした保存食品。ハムに比べ脂肪分が多い。

略語が定着しすぎて元の名前がわからないもの一覧……会釈(和会通釈)、オートマ車(オートマチックトランスミッション)、俺ガイル(やはり俺の青春ラブコメはまちがっている)、切手(切符手形)、食パン(主食用パン)、ダントツ(断然トップ)、チューハイ(焼酎ハイボール)、バス(オムニバス)、プリクラ(プリント倶楽部)、ボールペン(ボールポイントペン)、やおい(やまなし おちなし いみなし)、ラジオ(ラジオテレグラフィー)など。

カーリング……冬のスポーツのひとつ。体力を他のスポーツ以上には必要としないので男女の成績差がなく限界年齢が高い一方で、先攻後攻を決める駆け引きや、どの石をどう動かすかの計算、石の動きから即座に戦略を練ることなどについて、高い知能を必要とするため、「氷上のチェス」とも呼ばれる。ストーンはスコットランドのアルサクレッグ島特産の花崗岩が公式採用であり、それ以外ではうまくいかないらしい。資源保護の観点から採石は20年に1度。靴は右投げの場合、左が滑りやすく、右が滑りにくくできている。ちなみに、なぜ氷をこするとこすった方向にストーンがカールするのかは、まだ物理的にもよくわかっていない。途中エンド終了後自分チームに勝ち目がないと判断したときは、潔く負けを認める、フェアプレー精神に溢れたスポーツでもある。競技人口は日本で約6000人と、普及しているとは言えない。

ウルトラマンの胸のランプが点滅するようになった理由……昔はあのランプがただ光るようになるだけだったのだが、途中から点滅するようになったという。その理由は、白黒テレビ。昔は白黒だったため、光るだけではわかりにくかったという。

占いを否定した織田信長……星座占い、風水、タロットなど、誰でも気軽に楽しめる占い。その占いには織田信長が関わっていた。彼は「自分と同年同月同日に生まれた人を集めよ」というお触れを出し、「生年月日が同じなら、同じような運命をたどる」という占いを否定しようとした。その結果1人の男が見つかったが、彼は天下人どころか、むしろ極貧だった。占いの根拠のなさを確信した信長だったが、彼は「上様と私に差はありませぬ、天下人でも貧しくとも、明日のことがわからないのは同じなのですから」という意外なことばを言う。そのことばの通り本能寺の変で彼は暗殺されてしまうのだが、この行動は日本人を宗教から現実主義に引き戻した。占いへの依存は薄まり、明治政府は「占いによる政治は相応しくない」とし、アジアの中でいち早く近代化を進めることができた。

チクワはカマボコだった……我々が当たり前のように読むカマボコだが、実はチクワは昔、カマボコと呼ばれていた。まずチクワの形のカマボコが先にあり、竹の筒にチクワが付いていた。これがガマ(蒲)という植物の穂に似ていたことから、転じて「蒲鉾」になったとされる。しかし後に板の上に半円形のすり身をのせてつくるかまぼこが出てきた。そうすると、蒲の穂とかまぼこ、どっちもかまぼこという状況になってしまった。そこで区別するため蒲の穂を「竹輪かまぼこ」、板のかまぼこを「板かまぼこ」と呼ぶように。すると竹輪かまぼこからはかまぼこがとれて竹輪に、一方で板かまぼこは板が消えてかまぼこだけが残る。元々かまぼこと呼ばれていた方が竹輪になったのである。

井の中の蛙大海を知らず、には続きがある……世間知らずだという意味の有名なことわざであるが、中国の故事に由来し、日本人が勝手に「されど空の深さを知る」を付け加えたのだという。こうすると、狭い世界にいるからこそ、自分の道を究めることができた、という前向きな意味になる。

夜郎自大……中国の故事成語がもとになった四字熟語。昔、夜郎(やろう)という国が、漢の強大さを知らずに自分の勢力を誇ったところから、「自分の力量を知らずにいばる」という意味になる。井の中の蛙。

サランラップの名前……元々軍事用(銃弾とかを保存)だったサランラップであるが、その後終戦し需要は激減。なんとかできないかと考えていたが、食品保存用に転換し持ち直した。名前の由来は人の名前。ラドウィックとアイアンズさんによって食品保存用に開発された。ラドウィックさんの妻がサラ、アイアンズさんの妻がアンだったので、つなげてサランとしたらしい。夫の開発したフィルムでたまたまレタスを包んでいったところ、これが大評判だったという。

キヨスク……駅の売店のこと。トルコ語で「あずまや」を意味する。小さくて便利な売店を表す共通語として、世界中で使われている。もともと「キオスク」だったが、気安く利用する、というのをかけたり、清いというのをかけたりして、キヨスクとなった。

オセロとリバーシの違い……オセロの決まりは「盤面が緑で、黒と白があり、黒が先手、8×8のマスがある」などのルール。リバーシはそういうのに決まりがない。初期配置さえ決まっていないのである。

漫才とコントの違い……コントは人を笑わせるために行われる、いわゆるなりきり。漫才は日本伝統の関西おはなし。ちなみにコントはフランス語であり、短い物語とか、童話、寸劇という意味がある。

テンパるの語源……余裕がなくなる、という意味であるが、元々は「準備が整う」という意味。麻雀用語。あと一つ欲しいパイがあればアガリ、という状態のことをテンパイという。これにるをつけて動詞化した。

集合写真をスマホで撮るとき端の人が太るアレ……広角レンズを用いているので、普通の人の目が見える範囲より広い範囲が映る。それはよいのだが、近くを写すと外側が拡大され、2割も太ってみえてしまうらしい。それを防ぐためには人物とカメラの距離を離し、カメラのズーム機能を使い撮影するのがよい。画面の中心から端まで60％まで枠内に人物を入れるのが大事。

ピサの斜塔の鐘は実際には鳴らしてない……正午になると鐘が鳴り響くのだが、実際には鐘を鳴らさず、スピーカーから流していた。その理由は驚くべきもので、鐘を鳴らすと振動でますます傾く恐れがあるから。

「胡麻をする」というのはなぜ……人に気に入られるようなふるまいをすることを「ごまをする」という。炒ったゴマをすり鉢ですりつぶすと、あちこちにゴマがひっつくことから、へつらうという意味で用いられるようになった。商人などの手をもむ仕草がゴマすりに似ているという説もあるが、あまり有力でない。

隠された姫路城……昭和20年ごろの姫路城を見ると、真っ白な壁の一部が黒くなっている。これは黒い網、「偽装網」だった。というのも太平洋戦争の時、姫路城の白い壁は非常に目立つため、空襲の標的になりかねなかった。姫路城を守るため壁を黒くし、存在感をなくしたのだ。その名残に、外壁をよく見ると釘のようなものを確認できる。偽装網をひっかけるための金具だ。

スーパーのラップと家庭用ラップの違い……スーパーで買ってきた肉や魚など、スーパーにデフォルトでかけられていたラップを用いて保存しがちだが、このラップは伸縮性が良く密着しやすい。ポリ塩化ビニルでできており、水分を漏らさずに保存できる。一方酸素、湿気を通しやすく、食品の鮮度が落ちてしまう。家庭用ラップはポリ塩化ビニリデンでできており、スーパーのと比べると100分の1しか酸素を通さない。

歌舞伎が由来のことばたち……幕を引く。1つの物語が終わったら幕を引く、というところから。黒幕。夜のシーンを表したり、場面転換で使う黒幕を舞台の裏から人が動かすということから転じた。修羅場。修羅の場があるということで。どろん。幽霊なんかがいなくなる時ドロンドロンと大太鼓がなることから転じて。大詰め。昔はお芝居が2本立てで、1本目は時代物、2本目は世話物をやるということで、時代物の最後に来る場面のことを大詰めと呼ぶように。差し金。鏡獅子をやる時にちょうちょを飛ばすアレ。なあなあ。楽屋。雅楽の人達が入っていた部屋のこと。幕の内弁当。芝居と芝居の間、幕間(まくあい)の間に食べるから。助六寿司。歌舞伎十八番の演目の一つ。主人公の助六という男の人と花魁の揚巻(あげまき)という女の人が出てくる。その揚巻の名前から「揚」を油揚げの「いなり寿司」、「巻」を海苔で巻いた「巻き寿司」として、こう呼ぶように。大喜利。2本目の最後の幕を大切りと呼ぶようになったから。ちなみに中義利ということばもあり、演目の中盤の出し物のことを「中喜利」という。十八番。市川家が代々、得意とする歌舞伎十八番の台本を、他人に見られないように秘密の箱に入れて保管した。この箱は敬意をこめて「お箱」と呼ばれていた。そこで十八番と「おはこ」という呼び名が広まった。市松模様。白と黒の正方形の模様だが、これは江戸中期に活躍した佐野川市松からきている。彼がこの模様の袴をはいて舞台に立ったら、それが意外に好評に。腹に笛をしまった人形を市松人形というが、それも彼に由来する。二枚目。歌舞伎小屋の前にたてられた看板は、一枚目は主役を演じる役者、二枚目に男前で、女性との色恋沙汰を引き起こす役、三枚目におちゃらけた役者、など。これに由来。だんまり。登場人物が暗闇の中で死闘を繰り広げたり、キーアイテムを奪い合ったりする場面のこと。「だんまりを決め込む」はここから来て「黙り」になった。

東京タワーの配色……完成当時のものと現在のものを比べると一目瞭然、現在のは赤と白が7等分、昔のは11等分である。この理由には高層ビルの増加がある。赤と白の塗り分けは日中に航空機との接触を防ぐため。ところが航空法が改正され、20m間隔というのが30m間隔にするようルールが変わった。幅が広がると見やすくなるためと考えられる。東京スカイツリーは塗り分けられていないが、これは最新の光度が高いライトを日中も点灯させ、安全性を高めているからなのだ。

メニュー表に用いられる「Zの法則」……ファミレスのメニュー表の値段は1枚およそ1万円。専用のスタジオで料理を一品ずつ撮影、高級紙を用いて料理の色を忠実に再現しているから。そんな表にはZの法則という法則が適用されている。人間が表を見る時の視線の動きは、左上、右上、左下、右下とZを描くようになるというもの。だからたいていの表は、オススメ商品(売りたい商品)が左上に配置されている。

理研ビタミン株式会社……東京にある調味料メーカー。戦前の財団法人理化学研究所が母体。ふえるわかめちゃんやら、ノンオイル青じそドレッシングなどが有名。「リケンのノンオイル」で有名なリケンは、理化学研究所の略なのである。

モアレ……テレビで縞模様の服を見ると変な感じになるアレ。違った周期の波によって視覚的に発生する縞模様のことである。例えば縞模様を描いた透明なプラスチック2枚(同じ縞とする)を左右から徐々に重ね合わせてみよう。描いた縞模様よりはるかに太い縞模様が、つまりモアレが定期的にできたり消えたりを繰り返すはずだ。原理的には音のうなりと同じ仕組みで扱われる。

全国に「〇〇銀座」がある理由……関東大震災でいち早く復興したのが銀座。地主が多くいたため復興が進んだのである。自分たちもそのように早く復興したい、という願いを込めて、そう名付けたのだという。

深夜三時の那覇空港が大わらわな理由……那覇空港は24時間発着できるが、成田のような普通の空港は6時から23時までしか使えない。このタイムラグを利用して輸入や輸出を行っているから。例えば荷物が空港に夜9時についてしまうと、発送を翌朝まで待たなければならなくなる。那覇空港のような空港であれば、夜中に運んでその日の午前中には着く。この違いである。2009年に開始し、7年で80倍の物資を扱うように。アジアの貨物ハブとし、確固たる地位を築きつつあるのだ。

食事の回数……現在は「3食たべよう」と言われるが、江戸時代中期までは「朝夕のおもの」といって、一日に2回だけだった。3回になったのは、天下太平になり幕府の役人の雑務が増えたためといわれる。

牛若丸の下駄……五条の大橋で弁慶と渡り合った牛若丸は、一本歯の下駄をはいている。これは本来山を登るために発明されたもので、今でいう登山靴のようなもの。実際すべりにくく歩きやすいようだが、それをはいていたのは鞍馬山で修行していたから。

紫式部の本名は……実はまったくわかっていない。当時は実名を軽々しく他人に明かすものではないと考えられていた。特に女性は、結婚を承諾するときに初めて明かすということで、紫式部というのは彼女の死後につけられたものである。清少納言についても同じ。

太平記……鎌倉の末期から室町幕府成立までを記した史書、全40巻。江戸時代に「なんで太平記なんだ？」と議論されたことがあったが、結局「それを書き終わった時には太平の世になっていたから」という結論だったという。もしくは皮肉の意味をこめてという説もある。日本の歴史文学の中では最長。

ハンカチの形は昔、様々な形があった……現在は正方形が普通のハンカチであるが、昔は丸や三角形のものも流通していた。正方形が一般的になったのは、マリーアントワネットがこの形のを気に入り、ルイ16世に法制化させたためと言われる。その名残で、現在でもマリーアントワネットの誕生日である11月3日がハンカチの日とされる。

昭和の元号は「光文」になりかけた……昭和という元号は、実は第二候補で、第一候補は「光文」であったという。しかし、政府がそれを発表する前に新聞が報じてしまったため、慌てて昭和にしたという。誤報した新聞社は東京日日新聞、現在の毎日新聞であるが、平成の際は「新元号は平成」他の新聞社より一日早く報じ、のちに出版された社史において「63年ぶりの雪辱果たす」と掲載した。

台湾の首都はどこ？……台湾の政治経済の中心であり、実質、首都機能を果たしている台北市であるが、実は正式には台北市は首都でない。中国本土の南京市が首都で、台北市は臨時首都ということになっている。なお中国との関係を鑑みて、2002年頃からは教科書では「首都は南京」と書かなくなった。

北町奉行所と南町奉行所の違い……時代劇でよく出てくる両者。なんとなく「江戸を半分に分けて管轄しているのだろう」と思いがちだが、管轄はどちらも江戸全域。両者の違いは、月ごとに交代で業務にあたっていたこと。場所も近く、直線距離で1キロしか離れていなかった。

男子女子の「子」は？……子ども用ではないのに男子トイレといったり、大人ばかりなのに女子代表と言ったりするが、実はこの「子」は子供の子ではなく、人や人物をあらわす接尾語。だから帰国子女というのである。いちおう、何歳になっても女子会を開くことはできるが、老人ホームのお集まりのことを女子会とは言わないだろう…。

ドラ息子の「ドラ」……ドラえもんのドラではない。昔、遊郭ではドラを鳴らしてお客を呼び込んでいた。そこで、鐘を突くと金を尽くをかけて、遊びまくって金を浪費する息子のことをドラ息子と呼ぶようになった、らしい。信じられないがこれは嘘の話。真実はもっとつまらない。なまけること、放蕩することを表す「のら」(のらりくらりの「のら」)が強調されて「どら」になったことからである。前者の話は単なるシャレ、冗談であるが、それを真に受ける現代人が出てくるのも、なんとやら。

ニュースの語源……よく聞くのは「North,East,West,Southの頭文字をとった」というものだが、印欧諸語を見てみると読みが”news”に似た「ニュース」を表すことばがたくさんあることから、単に”new”の派生である。このような嘘はだいたい小学・中学の教員によって広められるものである(偏見)。

ぜいたく三昧の「三昧」……実は「精神を一つに集中する」という意味のサンスクリット語から来ている。つまりは外来語なのである。日本では江戸時代ぐらいに庶民に浸透し、次第に自己中心的な意味合いを持つようになった。

西郷どんの「どん」……ボスを表す「ドン」ではない。もともとは「西郷殿」の「どの」なのである。どのが訛ってどんになっているから、丁寧度の高いことばである。もっとも薩摩弁ではわざわざ西郷とも言わない。せごである。

中国の辞書はどうやってひくか……中国語選択者ならわかると思うが、中国語はまずピンインから覚えねばならない。それは中国語ネイティブも同じであり、漢字を忘れたときのためにローマ字で引ける辞書がある。だから、中国の子どもは多くの漢字を覚える前にローマ字を先に覚えてしまう。英語圏でも同じであり、英語の単語をたくさん覚える前に、小学校で「発音記号をプリントに写してきてね」という宿題があるのだ。

酒の肴の「さかな」……枝豆や冷奴などをそう呼ぶが、このときのさかなは「魚」でもサカナクションでもない。「酒に合う食べ物」という意味の「酒の菜」が省略されたもの。昔は魚介類と野菜をまとめて「菜」と呼んでいた。まな板の語源でもある。

鞄という漢字はもとは2文字だった……明治の初め頃、革包の二文字で「かばん」という当て字を看板に書いた人がいた。それを見た人が一文字で「鞄」としてしまい、それがいつのまにか定着してしまった。だから漢字の本場中国では鞄の字はない。「手提包」と言おう。

合コンの「コン」……コンパであるが、このコンパは英語の”company”。会社という意味だけでなく、交際、親交という意味ももつ。だからアメリカでコンパといっても、飲み会を意味しない。partyという必要がある。

急がば回れで回るのは……実は琵琶湖らしい。船で琵琶湖を渡るコースと、琵琶湖をぐるりと回るコースがあり、船で渡るほうが近いので早く着くが、比叡山からの強風で危険だったために生まれた。つまり現在の鳥人間コンテストは、いわば「急がば回れ」の「急がば」を行っていることになる。

スイートルームの「スイート」……中2ぐらいまで勘違いしていたが、あれは”suite”であり”sweet”ではない。スイートとは一そろいという意味で、寝室、居間、浴室などが全てそろった豪華な部屋をさす。

岐阜の阜はそのものが部首……岐阜の「阜」という漢字は、まるごと漢字じたいが部首で、その部首名は非常にわかりやすく、「ぎふのふ」である。ちなみに「慕」の部首名は「したごころ」。悲しい。

貴金属は「貴い」のか……貴い、つまり価値があるから貴金属なのではない。本来の意味は「酸化されにくい」というものである。Au,Ag,Pt,Pd,Rh,Ir,Ru,Osの8つ。一方で酸化されやすいのは卑金属。

海腹川背……料理に用いられる四字熟語。焼くときには、海水魚はお腹から焼き、淡水魚は背から焼く。淡水魚は皮が厚いので背中から焼き、海水魚はお腹に乗った脂がよく取れておいしいらしい。つぎに盛り付けにて、姿を盛る時、頭を左にするのだが、淡水魚は背をこちら側にして盛り、海水魚は背を向こう側にする。もっとも、料理人でこんなのを真に受ける人はほとんどおらず、ちゃんと諸条件によって焼き方も分けるらしい。

名字と苗字の違い……現代では違いがない、どちらを使っても構わない。雑学として抑えるべきなのは、この二つの発祥。まず名字は、平安中期ごろ、武士が自分の支配下である地域のことをさす「名田」(みょうでん)にちなんだ、「字」(あざな)を作るようになったのがきっかけ。これによってつけられた名前が「名字」に。苗字は、江戸時代にうまれた。苗字の「苗」には遠い子孫という意味がある「苗裔」(びょうえい)から。

オーストラリアのコインは1セントがない……オーストラリアで最も額面が小さいコインは5セント、それ以下はない。だから、57セントの商品を買う時は2セント切り捨てで、55セント払えばよい。2捨て3上げ、7捨て8上げのシステムのよう。ちなみに1セントコインが廃止された理由は、作るのに1セント以上かかるから。

110番や119番の電話料金は誰が負担しているか……緊急通報用の電話は、電話会社の契約約款により、減免の対象とすることになっているため、かかった費用は全て電話会社が負担している。

値札ラベルの切れ込みの謎……夕方の2割引きシールには切れ込みが入っているが、これは剥がそうとするとすぐに破れるようにするため。つまりラベルを張り換えるのを防ぐため。この正式名称はタンパーカットラベル。

冷蔵庫用のコンセントだけ高いところにある理由……通常のコンセントは床から20～30センチ程度の壁にあるが、冷蔵庫用のコンセントだけ高くなっている。これは、冷蔵庫のコンセントは一度刺したら抜くことはほとんどなく、埃がたまりやすく、発火事故の確率が高くなるため。

ヨーロッパの洗濯機と日本の違い……実はヨーロッパのほうは、高温の水で汚れを落とすものが主流。欧州の水は硬水で、洗剤が溶けにくい。それだけでなく、過去にペストが流行った経験から、熱湯で洗うのが習慣として残っているとも言われる。

オートマチック車のニュートラルの意義……マニュアルと違いニュートラルをほとんど使わないのに、なぜRとDの間にあるのか。それは、ミッションが痛んでしまうから。間にNを入れることでダメージを防いでいる。ちなみにニュートラルの正しい使い方は、故障して人の手やレッカー車を用いて引くときに入れる…ぐらい。

トラックのフロントガラスの上に付いているランプ……あの3つの緑色のランプは安全のためにつけられている。速度を教えてくれている。時速40キロまでは1つ、60までは2つ、60からは3つ。

単車の語源……オートバイ開発当初は、必ずオートバイにサイドカーがついており、バイクとサイドカーを合わせて一つの乗り物と考えられていたため、オートバイのみを単車と呼ぶようになった。

ベトナムでの「バイク」……ベトナムではオートバイのことを全て「ホンダ」と呼ぶ。だからヤマハのバイクは「ヤマハのホンダ」と呼ばれることに。ベトナムのバイクのシェアは85％がホンダ。代名詞的存在なのである。何もベトナムに限ったことではない。整氷車のことを「ザンボニー」と言ったりするのと同じ。

集団での幼稚園児の運賃……通常、電車やバスに乗る時、幼稚園児はお金を払う必要がないが、団体で…例えば幼稚園で遠足に行く場合などは、子ども料金を払わなければならない。その時、団体割引は使える。

山手線は環状の一部？……実は山手線と言えば品川-田端間のみをさし、田端-東京間が東北本線、東京-品川が東海道本線。営業上はこれらを合わせて山手線と呼ぶから、知らなくても何の問題もない。

機内の照明が消える理由……飛行機が夜間離発着する際、機内の照明が消えてしまう。これは、トラブルによって電源が落ちてしまった時など、突発的アクシデントに備え、乗客のパニックを防ぐという意味もある。

線路の石の意味……電車が走る線路には石が敷き詰められているが、地下鉄の線路には石が敷かれていない。あの石は事故防止のためとかじゃなく、電車の振動を軽減し、騒音を小さくするためのもの。周辺に住宅がない地下鉄は騒音対策する必要がなく、石がないのである。

アタリ社の「アタリ」とは……アタリショックで有名なアタリ社。アップル社の創始者であるジョブズが勤めていたことで知られるが、社名の由来は「あと一手で相手の石を取れる状態」を意味する囲碁用語「アタリ」から来ている。自由な服装や出勤時間など、現在のソフトウェア会社のスタイルをつくったのもこの会社なので、そのスタイルを「アタリ文化」と呼ぶ。また、アップル社のアップルは「ATARI Company」よりも電話帳で先に来る名前にしたかったから。

バブルの象徴「ジュリアナ東京」はバブル時代にはなかった……東京にあったディスコ(踊り場)、バブルの頃の象徴としてよく登場するジュリアナ東京であるが、実はバブル崩壊後の1991年5月に誕生しているため、象徴とはなりえない。

ナンバー銀行の合併は足し算になることがある……ナンバー銀行は紙幣発行を委託された民間会社で、第一銀行から第153銀行まであった。2015年現在も数字が残っているのは3,4,16,18,77,82,105,114の8行であるが、82銀行だけは「第19銀行と第63銀行が合併したとき、数字を足してつくられた」もの。

裁判所の写真撮影が禁止の理由……人権保護のため、といえば聞こえはいいし、裁判所っぽいのだが、実はけが防止のため。新聞記者が公判中にフラッシュをたいたり、机に登ったり、脚立が倒れるなどしてケガ人が出たため。

2種類ある非常口のマーク……白地に緑で描かれているものと、緑地に白で描かれている2種類があるが、この2つには実は違いがある。緑地に白は「その場所に非常口があるよ」ということを示し、白地に緑は「非常口がこっちの方向にあるよ」ということを示す。白地に緑は通路にあることが多く、白をおおめにして照明の役割を果たしている。

国会は一度だけ東京以外で開かれた？……国会は通常、首都である東京の国会議事堂で開かれるのが普通だが、一度だけ1894年、日清戦争のとき、臨時首都となった広島の、広島城で国会が開かれたことがある。明治維新以来、首都機能が東京から離れた唯一の事例である。

厚木基地は厚木市にない？……アメリカ海軍が本国以外に持つ「唯一の海軍航空隊基地」になっている、神奈川の厚木基地であるが、その所在地は実は綾瀬市。厚木基地をつくったのは旧日本海軍だが、なぜ厚木基地と命名したのかは諸説あり、定かでない。

オーストラリアの首都「キャンベラ」が田舎町の理由……なぜかクソド田舎のキャンベラが首都に選ばれたのだが、これは何も皆が望んでのことではない。メルボルンとシドニーが争い、どっちを首都にするか収拾がつかなくなったため、その中間にあった田舎町のキャンベラが選ばれたのである。

サッカーで「イギリス」チームがない理由……オリンピックの時は「イギリス代表チーム」しかないのに対し、サッカーワールドカップの時は、4つの地域、イギリス、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドがそれぞれ代表を出す。というのも、オリンピックは国単位の競争なのに対し、W杯はサッカー協会単位で行う競技のため。理論上日本も県単位でサッカー協会を作れば、あるいは。

ニュージャージーの自由の女神？……自由の女神があるリバティー島は、「マンハッタン島から東がニューヨーク州」という原理によれば、本来なら「ニュージャージーの自由の女神」と呼ぶのが正しいようである。ただし、両方の州の契約でリバティ島の税収は全てニューヨークに属するし、住所表記も「ニューヨーク・リバティ島」となる。

マイクロソフトの由来……世界最大のパソコンソフト会社、マイクロソフトであるが、会社ができた1970～80年頃に、パソコンのことを「マイクロコンピュータ」と呼んでいたため。

給食はいくら？……小学校の生徒の場合、月々給食費として約230円程度負担するが、人件費、設備維持費などは税金で賄われるため、実際は約900円のコストがかかっている。ちなみにサラリーマンの平均昼食代はおよそ600円。

北海道が北海にならない理由……東京都は東京、大阪府は大阪と、都道府県を省略しても通用するのに対し、北海道は北海となることがない。これは、1947年までの行政区画であった北海道庁からすでに庁を省略しているため。

選挙投票所の一番乗りに課せられる「義務」……当然選挙は公正さが求められる。何が起こるかわからないのが常なのだが、例えば「投票前から票をいくつか入れておく」みたいな不正も、十分考えられる。だから、投票箱は、施錠前に何も入っていないことを確認しなければならないのだが、その役目は投票所の職員ではなく、投票所に一番最初に来た人が担うことになっている。確認してから「投票箱がカラであったことの確認書」に自筆でサインする必要がある。ちなみにあの投票用紙、特別な紙を使っており、投票箱の中で自然に開くようにできている。開票作業を短縮するためだ。

地図にない街「原宿」……若者文化発祥の地と呼ばれる「原宿」であるが、実は昭和40年に住居表示が変更になり、他の地名にまとめられてしまい「原宿」が消滅した。現在は、それ以前につけられた駅名などに名残として残っているだけ。日本テレビのある汐留も同じ理由。

理髪店に月曜休みが多い理由……日本の床屋は、月曜が定休日になっていることが非常に多い。戦前から戦後の電力不足の頃、月曜日が休電日として電気が使えなかったため、電気を多く使っていた理髪店はそれにあわせて月曜日を定休日としていたことのなごり。

得票数が同じ場合どうするの？……大きな選挙で起こる確率は極めて低いが、地方自治体の議会議員選挙などでは、稀に投票数が同じになることがある。こういうときは、1から10の数字が引かれた棒を引いて、一番数字の小さい棒を引いた人を当選とするのが一般的。

アラン・スミシーという凄腕の監督……映画監督。1989年「ハートに火をつけて」1996年「ヘルレイザー４」など、30年で20本以上の作品を手掛けた凄腕の監督である。というのは嘘で、映画監督が何らかの理由で降板したとき、監督名を空欄にはできないので、その代わりに付けられるのである。

年に2回あった紅白歌合戦……第4回、1973年には年に二回行われている。おそらく最初で最後。というのももともと第1から第3まではラジオのみの放送で、第4になったときにテレビに移ったから。そして、第4回放送まで、大晦日ではなくお正月だったから。昭和28年には第4回(お正月テレビ)、第5回(大晦日テレビ)の2回あったのである。

視聴率の取り方……視聴率測定の装置をどこかに置かせてもらうというのは有名な話だが、実はその取り始めの数字は調査に取り入れられない。装置が取り付けられた直後は、教養番組の視聴率が突出して高くなるからだそうな。みんな、見栄っ張りなのだなあ。

グリム童話はグリム兄弟がつくったものではない……グリム兄弟が創作した童話たち、ではない。人から人へ言い伝えられたリ、人から聞いた話を書いて伝わったりしていたようなドイツの民話を、グリム兄弟が採録したものである。

年々伸びるゴジラの身長……初代ゴジラが50メートルなのに対し、それからどんどん伸びていき、最大で100メートルほどに設定された。決して身長が伸びているわけではないが、周りの建物が高層化してしまい、50メートルでは見栄えしなくなってしまったのである。

交番と派出所と駐在所の違い……平成６年までは派出所が正式名称で交番が俗称だったが、交番の方が親しみやすいということで平成６年の警察法改正の時に交番が正式名称になった。つまり交番と派出所は同じもの。駐在所の違いは、交番は警官が交代で番をするのに比べ、駐在所は１人の警官で２４時間対処できるように交番と住居を兼ねたもの。人口の少ない村などに置かれる。

新米と古米の違い……食糧法によれば、11月1日から翌年10月31日までを米穀年度とし、生産された年の翌米穀年度中までに供給されるものを新米と呼び、それをすぎたものを古米と呼ぶ。

焼酎の甲類と乙類の違い……甲類は、連続式蒸留機で複数回蒸留したもの。乙類は単式蒸留機で一度だけ蒸留したもの。自動販売機やコンビニで売っている大量生産される焼酎は甲類に属し、芋焼酎や泡盛などは乙類にぞくしているので、焼酎に関しては、甲よりも乙の方が高級。ちなみにモルト・ウイスキー、コニャック・タイプのブランデーなど、世界の伝統的蒸留酒はほとんどが乙類。

WHISKYとWHISKEYの違い……ウィスキーのアルファベット表記にはこの2種類があり、前者はスコットランドのお酒「スコッチ」をさし、後者はアイルランドのお酒をあらわしている。

羽毛布団と羽根布団の違い……ダウン(胸の毛)とフェザー(羽)の混率により呼称が異なり、ダウンの使用率が50％を超えるものを羽毛布団、50％未満のものを羽根布団という。

義援金と支援金の違い……被災地に届けられる寄付金にはこの2種類があるが、目的によって違いがある。義援金は赤十字社に送られ、総額が被災者に平等に分配される。いっぽうで支援金は、被災者支援のために活動するNPOやボランティア団体に送られ、衣類などの物資の購入に充てられる。

日本と外国の花火の違い……花火というものは別に日本だけの伝統ではない。外国にもあるのである。しかし日本と外国の大きな違いは、日本は庶民が楽しむものなので、花火玉が丸く、360度どこからも見られる。一方で外国の、特にヨーロッパのほうは、貴族が楽しむものであったため、花火玉が円筒で、城などの一方から見たとき、綺麗である。

ヴィンテージとアンティークの違い……どちらも古いものをさすことばであるが、明確にその基準があり、製造されて100年未満のものをヴィンテージ、100年以上経過しているものをアンティークという。

ポンヌフ橋は「古い」のに「新しい」……フランスの首都パリのセーヌ川にかかる橋で、フランス語で「新しい橋」という意味。しかしながらパリに現存するもっとも古い橋。

トルコ石はトルコではとれない……青色から緑色をもつ不透明な鉱石で、12月の誕生石。チョコミントみたいな色。その色合いのため、なんと数千年も前から装飾品になっていた。偽物が出回っているが、それは現在に限らないことで、昔も同じだったという。英語ではturquoiseといい、フランス語で「トルコの石」に由来するのであるが、トルコで産出されていたからではない(むしろトルコではほとんどとれない)。アトラス山脈付近(モロッコ・チュニジア)で産出されたものが、商人によって運ばれ、トルコを経由して伝わってきたのを、勘違いしたようだ。

ヤンマーの由来……ヤン坊マー坊天気予報で知られるヤンマー。その名前の由来は、豊作の象徴である「ヤンマ(トンボ)」からとられた。

西部劇の「西部」はどこから西？……西部劇といえば、ガンマンが2人立ってて、夕日をバックに決闘する、というアレだが、その西部は「ミシシップ川以西」の西部である。フロンティア開拓のために奔走したアメリカ人、古き良きアメリカ人みたいなものが、今のアメリカ人の中にも理想として輝き続けているのだろうか？

マルキューとはどういう意味か……渋谷にある「渋谷109」の略。筆者も行ったことがあるがブランドものだらけだし服しか売ってないしでちょっと居づらかった。あの109の由来は、東急系列の店だったため、語呂合わせというか数字で「とお、きゅう」から109。営業時間が午前10時から午後9時なところにも由来するらしい。

摩周湖はただの水たまり……摩周湖は北海道のだいぶ東のほうにある湖。世界で二番目、日本で一番目に透明度が高く、また水深もかなり深いため、晴れた日には「摩周ブルー」と呼ばれる澄んだ青色を見ることができる。河川の流入がないことから、河川法による湖の定義を満たしておらず、国土交通省名義での登記がなされていない。また樹木もないため、農林水産省も登記していない。よって摩周湖は湖ではなく、法律上はただの「水たまり」である。

魔法使いサリーちゃんはもともと「サニーちゃん」だった……筆者は良く知らないが、そういうアニメがあったらしい。女の子が主人公になった世界初のアニメで、原作は「サニーちゃん」だったのだが、日産が「サニー」を登録していたため、しょうがなく急きょサリーにしたという。

シンデレラの「ガラスの靴」は……実はガラスの靴ではないらしい。フランス語の”vair”(毛皮)が、発音が似ていてガラスを意味する”verre”と聞き違えられて書かれたのを、そのままいろんな言語に訳してしまったため。そりゃあ、ガラスの靴なんて履きづらいですよねえ、そうですねえ。つまり本当は「毛皮の靴」だったのだ。夢がない。

隕石の所有権……日本に隕石が落ちたとき、それは誰のものになるのか。実は、地面に埋まっているかどうかで決まるのである。地面に埋まっていれば、その地面を持つ人のものになり、埋まっていなければ、最初に発見した人のものになる。

バスケの背番号に1,2,3がない理由……一番若いのは4番であるが、1～3番は国際ルールによって使用が禁止されている。これは、点数が入った時に1,2,3と審判が指でさし、また反則を行った選手を指摘するときにも指でさして指摘することから、紛らわしくなるのを防ぐため。

巡航ミサイル……飛行機のように翼とジェットエンジンを持ち、自律飛行するミサイルのこと。空母からの通常のミサイル発進と違い、敵地に近付く必要がないため、比較的犠牲が出にくい。その上運用に安全を要する核弾頭なんかも摘むことができる。問題は価格が高いこと。アメリカが開発した「トマホーク」が最も有名。

アコヤガイ……二枚貝の一種。真珠の養殖に使われる貝のひとつで、「真珠貝」という別名のほうが有名である。貝殻の内側に異物が混入すると、その異物を核に真珠層をつくる。これを真珠として用いるのである。貝柱は地元ではバター焼きなどとして食される。

タンメン……日本の関東地方を中心に食べられるポピュラーな麺料理。塩味の鶏ガラスープ、中華麺と肉野菜のあっさりスープ。河本準一のいう「お前に食わせるタンメンはねえ」のアレである。ちなみにワンタン麺とタンメンは全く異なる料理である。

ファタ・モルガーナ……アーサー王物語に登場する女性。アーサー王の異父姉にして「魔女」と呼ばれる。モーガン・ル・フェイというのが日本語で知られる名前で、それは英語読み。イタリアでの呼び名がファタモルガーナ。アーサー王が後に対峙することとなる、最強の敵。欧米圏では霧のことをそう呼ぶことがある。

印籠の歴史……江戸時代、左に帯刀し、右に印籠を吊り下げるのが武士の正装であり、印籠が今のような形になったのは江戸時代のこと。室町では、印籠は室内に置かれたハンコや朱肉入れの箱の総称だったが、桃山のころから、携帯用の薬入れを印籠と呼ぶようにもなった。しかしなぜ、薬入れを印籠と呼ぶようになったのか、明確な答えは出ていない。ちなみに家紋が入ったものは名刺のような効力があり、例えば水戸黄門の印籠は武家の中でも最上位であることを表す。「葵の御紋」は、地元の殿様では足元にも及ばない。劇中の黄門様は、見聞や世直しもかねてお忍びの旅をしているので、簡単に正体がバレてしまっては困るという事情があった。そのため、いざというときに身分を明かせる方法として、葵の御紋が入った印籠を持ち歩いているのだ。現在ではもはや無用になったうえ、そのコレクションの大部分は欧米人が大量に購入し、海外の美術館などで展観されている。

艤装……ぎそう。船や自動車などの製造工程のうち、エンジンや室内外の装備などを取り付ける工程のことをいう。軍艦であれば、装備を取り付けるのがこの工程にあたる。いちおう自動車に対しても使うことばだが、漢字が「艤装」とふねへんなので、船を連想させることから、義装ともかく。

アルペジオ……音楽技法の一つ。和音を構成する音を一つ一つ、低い・高い順から弾いていくことで、リズム感や深みを演出するもの。文字だけで説明できないが、あのダララララ～ってやつがアルペジオである。”Pat metheny group”の”San Lorenzo”の最初のところ。

ポンドが”lb”と表される理由……だいたい450gが1ポンドであるが、このポンドが1lbとなるのは、「天秤」を意味する”libra”に由来するからである。メソポタミアで大麦一粒の重さを基準に、「人間1人が1日に消費する食料」としての単位が1ポンドで、これを量るために天秤を用いてきたことから、”〇〇 libra pondus”(〇〇リブラの重さ)でlbと表記されるようになった。

回鍋肉は「鍋を回す」ではない……中国料理・四川料理の一つ、回鍋肉。豚肉、キャベツ、ピーマン、ニンニクなどを甜麺醤で味付けして炒めたもの。回鍋とは「鍋を回す」ことではない。回(hui)は中国語で「戻す」であり、一度調理した具材を再び鍋に戻して調理することである。本場ではニンニクの芽を用いるが、陳建一の父親、陳建民が日本に広めた際にキャベツになった。また、皮つきの豚肉の塊をゆでたり蒸したりするのが本場なのに対し、日本では最初から薄切り豚肉を用いる。

もんどりをうつ……漢字では翻筋斗と書く。飛び上がって空中で一回転する、という意であるが、苦しさなどで悶えるさまのことをこう言う。体が翻るから翻の字を用いるが、では筋斗は何なのか。これは一回転という意味なのである。ここから孫悟空が筋斗雲を用いるとき一回転するのだ。

とばっちり……そばにいて災難を受けること。「あいつのとばっちりを食らうのはもうごめんだ」というように使う。もともとは飛び散った水のことを指す。「とびちり」が「とばちり」になり、強調するために促音化した。漢字では「迸り」と書く。同じ漢字で「ほとばしり」もある。どちらも水に関する。しんにょうではないのに注意。

ロマネスコ……アブラナ科の一年生植物。カリフラワーの一種で、最近はよくスーパーにも売られている。フラクタルをしたつぼみが特徴的な野菜。食感はカリフラワーに近いが、呼び名は英語で”Romanesco broccoli”となっている。サラダやピクルスなどにされる。

ハレとケ……柳田國男により見出された、時間論をともなう日本人の伝統的な世界観のひとつ。民俗学や文化人類学における用語であり、ハレ(晴れ)は儀礼や祭り、年中行事などの「非日常」、ケ(褻)は普段の生活である「日常」を表している。ハレの場においては、衣食住、ふるまいなどを、ケとは画然と区別した。晴れの舞台、晴れの日などの言い回しで使用されている。晴れ着と対立するのはケ着であるが、これは言わなくなった。ケというのは何を隠そう「ケガレ」のことであり、それでは葬式はハレなのかケなのか、議論はまだ統一されていない。

さるかに合戦……日本の民話のひとつ。カニがおにぎりを持って歩いていると、ずるがしこい猿が「僕が拾った柿の種と交換しよう」と持ち掛けてきた。最初は嫌だったが「種を植えれば成長して柿がたくさんなって得だよ」と言われたので、交換した。カニはその後種を植えると、すぐに成長して柿がなった。そこへ猿がやってきて、「カニくんは柿が取れないだろうから、僕がとってあげよう」と言いつつ木に登ったが、自分が食べるだけで全然カニにやらない。カニが早くくれよと言うと、猿は青くて硬い柿の実を投げつけ、カニはそのショックで子供を産んで死んでしまった。子どもはその後なんやかんやあって猿を殺すことに成功、敵討ちできたのだった。もっとも最近は、カニや猿は死なず、大けがをするだけですみ「いじわるをやめるからゆるして」的展開になるものが多いが、批判もあるもよう。後半部の「猿に恨みを持つ奴らが集まって、それぞれの特徴をいかして猿をこらしめる」という展開は、実は世界中に見られるものであり、ブレーメンの音楽隊も似たようなものである。

金太郎……名前は知っているがあらすじが説明できない昔話3位。昔、足柄山の山奥に金太郎とお母さんが住んでいた。金太郎は生まれつき力が強く、最初から石臼をハイハイしながら引き摺るほどだった。金太郎はすくすく育ち、お母さんからマサカリを与えられ、薪割を手伝うようになった。その年の秋、動物たちに栗拾いに誘われたが、崖にかかっていた橋がなくなっていて、渡れなかった。金太郎は近くの木を力いっぱい倒して橋をかけてあげた。橋の向こうには栗の木があり、実が沢山落ちていた。しかし突然茂みから大きなクマが現れる。動物たちは震えあがったが、金太郎は怖がることなく取っ組み合い。動物たちの応援もあり、クマを持ち上げ最終的に勝利。クマも降参し、金太郎と他の動物たちと仲良くなった。この金太郎はのちに坂田金時と名を改め、源頼光四天王のひとりに数えられる、立派な武士になったのだ。日本人がきちんと正確に話せる確率は、調査によるとわずか1％。

ブービートラップ……戦争における戦術のひとつ。油断した兵士(booby,まぬけの意)が触れると爆発し殺傷する罠。木々の隙間に張ったワイヤーと、手りゅう弾の組み合わせなどによりつくられるが、もっと原始的な落とし穴、クレイモアなどの既存の罠を応用したものなどもこれに含まれる。アメリカ軍に対して劣勢なベトコンが用いたものが有名。大勢をひっくり返すほどの効果はないが、占領側を疑心暗鬼にし、ストレスを与えるのに有効。boobyの語源はカツオドリで、カツオドリは間抜けなのですぐ捕まることから。

三千家……茶道の流派のうち、表千家・裏千家・武者小路千家を総称するもの。ライバルであるとかそういうのではなく、あくまで茶道の流派が三つあるというだけ。デスマッチなどはさせないように。

イクラの軍艦にキュウリが乗っている理由……色合い、という意味もあるかもしれないが、軍艦のどこに醤油をかけていいのかがわからないため、まずキュウリを醤油につけ、ウニやイクラの上に垂らす。こうするとネタだけに醤油がついて、軍艦巻きをよりおいしく味わえるとのこと。

一万円入りまーすの本当の意味……あれが嫌いだという人のほうが多い現代では、もはや役立たない雑学かもしれないが。三つほど目的があるらしい。まずつり銭間違い防止。高額紙幣は似ていて、お釣りにお札や硬貨が混じりやすくなる。つまり間違いやすい。他の店員にも確認してもらって、間違いがないようにするのだ。それから、つり銭トラブルの防止。五千円で払っておきながら、「さっき一万受け取ったのにつり銭が足りないだろ」と言ってくるような悪い客が出ないようにしているのだ。3つ目に、店員がレジからお金を盗むのを防止するため。ここまでの意味があっても、まだ一万円入りますを嫌うか？それは、あなた次第。

肝油……タラ、サメ、エイなどの肝臓に含まれる液体。彼ら軟骨魚類は浮袋を持たないので、海水より比重の軽い脂を肝臓に蓄え、浮力を得ているのだ。ビタミンA、ビタミンDなどを多く含み、ドロップやサプリメントとして用いられる。過剰に摂取するとビタミンAによる急性中毒を引き起こすことがある。

浮気と不倫の違い……辞書的意味としてはほとんど変わらないのだが、浮気は「決まった関係を持つ人が他の異性と関係を持つこと」であり、不倫は「配偶者以外の人と関係を持つこと」であるから、不倫は結婚している人にしか使えず、浮気はどれでも使える。ただ、どこが境界線なのかは人によるから、聞いてみよう。法律でみれば「不貞行為」すなわち体を重ね合ったり、それに近い行為がないと、不倫・浮気とはみなされない。そもそも不倫や浮気ということばが法律には存在しない。

鬼の霍乱……おにのかくらん。かくらんはもがいて手を振り回す意味の揮霍撩乱(きかくりょうらん)の略で、日射病や夏バテなどをさす。いつも健康で強い人を「鬼」ということから、たとえてこの表現になった。

鳴り物入り……ものごとを大げさに宣伝すること。つまり誉め言葉ではない、どちらかというと「実力不相応の過剰な期待を寄せられて」ぐらいの皮肉的な意味である。このことばは歌舞伎からきていて、鳴り物というのは笛や太鼓のような楽器のこと。場をにぎやかにする効果があった。

起きて半畳寝て一畳……どんなに大きな家でも、人ひとりが占めるのは、起きているときは半畳、寝る時は一畳あれば足りる。人は必要以上の富貴を望むべきではなく、心の満足感を得ることが最も大事だという教え。なぜだろう、貧乏人より本当の金持ちのほうが実践できているような気がするのは、私だけだろうか？この後、「天下とっても二合半」(一度に食べられるお米は二合半が限界)と続くこともある。

美人局……つつもたせ。夫婦が共謀して行う恐喝行為。妻が他の男を誘って一夜を過ごしたあと、夫がタイミングよく現れ「お前、よく俺の嫁を犯ってくれたな！金を払え！」と迫る。典型的なものは、男性が女性と会う約束をして、実際に会ったところで屈強な男たちに囲まれ、金品を巻き上げられるという手法。加害者の女が18未満の時は、被害者のほうも児童買春などがバレるのを恐れ、泣き寝入りしやすい。本来漢字の「美人局」と日本の「つつもたせ」は全く別のことばだった。美人局は中国の元などから、文献に見られる犯罪。公娼をめかけと偽り少年などを騙す女のことで、いっぽうつつもたせは本来、仕掛けのしてあるサイコロを用いた「いかさま賭博」をあらわしていた。そこから、「安物をたかく売りつける行為」を指すようになり、二つが繋がったのだ。

案山子……かかし。田舎などにある鳥獣よけ。もともとの語源は「嗅がし」とされ、獣を避けるために獣肉を焼き焦がし、地面に置いたものをカカシと呼んだという。漢語の案山子はまた別で、「案山」は低くて机のように平たい場所のことをさしていた。案山のほとりに立っている人形ということで案山子となる。これがつながり当て字になったのだ。

百日紅……サルスベリ。植物。小さな花弁で、紅色の花をつける木。幹がツルツルしていて「猿が登れない」ことからサルスベリと呼ばれていた。実際は登ってしまうのだが。この漢字に当てられているのは、中国語でサルスベリを「百日紅」と呼ぶから。比較的長い期間赤い花をつけるからこう書く。

B級映画……1930年代のアメリカで始まった、低予算で短期間の撮影が求められた映画。昔は割と短い、二本立ての映画を上映していた(それがB級映画)が、大作主義のハリウッド映画が台頭して激減。現在は「低予算で、特定の客層のウケを狙った作品」に対し、B級映画という呼称が使われるように。ちなみにA級は「多額の予算、人気俳優、一流監督、上演時間が長い」という映画のことだった。

銀幕……映画界デビューのことを「銀幕デビュー」といったりする。銀幕というのは映画をうつしだすスクリーンのこと。ちなみにスクリーンの材質、今はビニル系だが、昔はキャンバスに酸化マグネシウムを塗って使っていた。

映画館のブザー音の意味……元々は西洋の劇場で上映されていた映画、このとき、開演5分前の1ベル、開幕直前の2ベルと称し、ロビーなどにいる人に映画がはじまることを通知するためにならされていた。「ベル」というぐらいなので、当時はカランコロンと鳴らしていたのかもしれない。最近は正確な時計をみんなが身につけていることなどから、鳴らなくなっている。

輩出の誤用……すぐれた人物が世に続いて出ること。だから「こちらが容疑者Aを輩出した高校です」というのは当然誤用であるが、もう一つ誤用がある。輩出ということばは「Aを輩出する」とは言わず、「Aが輩出した」としか使えない。逸材が輩出した時代という風にしか使えないのである。言い直すなら「Aさんが卒業した高校です」とか「Aさんをはじめ、多数の優れた人物が輩出している高校です」とする必要がある。

誘蛾灯……ゆうがとう。古いスーパーなどに行くと今でもあるアレ。灯火によって夜の虫を誘い、そのまま焼き殺したり、集まった虫を洗剤入りの水たまり(誘蛾灯の下の)に落として溺死させたりする。最近では殺虫剤が普及し、ほとんど用いられていない。

ばさら……日本の中世、南北朝時代の社会風潮や文化的な流行をあらわすことば。身分の秩序を無視、実力主義的であり、公家や天皇を「肩書、地位だけだ」と嘲笑する。華美で派手なふるまい、粋な服装を好む美意識。戦国時代の「下克上」の風潮の萌芽ともなったが、のちに「カブキ」にとって代わられる。語源はサンスクリット語の”vajra”であり、これは金剛石、つまりダイヤモンドを意味する。ただし異説もあり、これが正しいわけではない。戦国時代にばさらは死語だったので、戦国BASARAのように組み合わせるのは誤り。

マーマレード……柑橘類を加工した食品の総称。筆者はずっと勘違いしていたが、なんとマーマレードという名前の柑橘類はないのだと。オレンジやユズなどの実、皮を用いているが、ほとんどジャムのことである。

ブンタン……標準和名ザボン、柑橘類である。東南アジア、中国南部、台湾、日本でよく食べられている。日本伝来は鹿児島の阿久根市とされている。ブンタンそのものもたくさんの品種があるが、グレープフルーツ、ナツミカン、ハッサクなどは、ブンタンが先祖。高知県で90％ほどが生産されている。方言では「ボンタン」とも呼び、これがボンタンアメとなっている。

単位「リットル」が人名だというデマが流れたことがある……体積の単位リットル。なぜか大文字でも小文字でも表記されている。最近は教科書等で「大文字に統一しよう」という流れがあるが。フランスで最初に定められたため、つづりは”litre”である。しかしアメリカでは例外的に”liter”。当時、リットルを表す単位は小文字のlだった(SI単位系での取り決めは「人名に由来する単位のみ大文字」であり、リットルは人名でないので小文字)が、これだとラテン文字を使う多くの言語では、「1」を垂直の線のみで表すのが一般的であり、そっちと誤認されることがあった。そのため特例的に「大文字のLを使おう」としたが、結局統一されず今に至る。ちなみにとあるニュースレターにて、エイプリルフールネタとして「クロード・リットルという人名に由来するから大文字なんだ」と書いたら、これが科学雑誌に真実として掲載され、撤回するという事件もあった。ちなみにリットルは”litra”という、古代ギリシャで使われていた銀貨である。

ういろうは薬だった？……和菓子の一種。外郎とも書く。もともとは小田原で売られていた薬(消臭用)を外郎と呼んでいたが、その色がお菓子の外郎に似ているから、「ういろう」と呼ばれるお菓子になった…という説もあるし、外郎薬のお口直しにと出したお菓子をそのままういろうと呼び始めたという説もある。各地で製法が異なり、現在有名なのは名古屋と小田原のういろうである。

ランダウスケール……量子力学の著書で有名なランダウさんがつくった対数スケール。業績によって物理学者をランク付けしたもの。原点にはアイザック・ニュートン。0.5に位置するのがアインシュタイン、1.0にハイゼンベルグ、ボーア、シュレディンガー、ボースなど。彼自身は2.5のところに置いていた。彼は偉業を成し遂げた人々の比較は、差が大きくて難しいことをちゃんとわかっていた。エベレストの7合目あたりからは、業績は対数で測るのがちょうどよいことを教えているのだ。

パンダの尻尾の色……目の周りも、耳も、手足も黒なのだから、尻尾も黒だろう…というのは誤解。おもちゃメーカーがパンダのぬいぐるみを作る時に用意されていた写真には、尻尾の色が確認できるものがなかった。とりあえず想像でつくった…かどうかはわからないが、このときつくったパンダのぬいぐるみは黒色だった。それが誤解のもとになっているのは明らか。パンダの尻尾の色は、個体に関係なく、みんな、みーんな、白い。

兵站……戦闘や戦術をうまいこと成功させるための準備、という非常にふわっとしたことば。食料とか装備とか。アンサイから引用すれば「おべんとう・おきがえ」である。このどちらかが足りなければ、遠足に行くことはできない。おべんとうというのは「エネルギー」つまり食べ物だけでなく、動力源、それを動かす燃料なども含むもの。おきがえも同様に、衣服だけでなく弾薬をふくむ、消耗品を意味する広義のおきがえ。こんなアホな説明でも納得できない諸君は、兵站を軽視してはいけない。旧日本軍は兵站を無視したばかりに、シラミ、水虫、しもやけ、凍傷、そして空腹をひっさげて戦わなくてはならなかったのだから。弾薬がなくとも刀で奇襲できるが、空腹を我慢できる兵士などいない。どんなに屈強であろうとどんなに賢明だろうと、お腹は減る。空腹を我慢できるなら、そいつはもはや生物ではない。

戦術……目の前に敵がいたらこうやってボコボコにするぞ！という妄想である。基本的に体重があって背が高い方が有利だが、そんなのもう気休め。とにかくもう無茶苦茶に全力で突撃するしかない。人数がいっぱいいると文句なしに強い。アンサイのが分かりやすすぎるので全部引用する。辞書的に使え。まずは攻撃的戦術。「とにかく沢山いれば勝てるだろ」：人海戦術、物量作戦。「左ジャブ3発、右ストレート1発」：波状攻撃。「パンチ力じゃなくてフットワーク」：電撃戦。「棒でぶんなぐれば有利！」：アウトレンジ戦法。「逆に相手にうんと近づいて密着してぶんなぐれ」：浸透戦術。「棒じゃなくて泥団子投げろ」：航空戦術・ミサイル攻撃。「相手の眼とかキンタマ殴れ」：集中攻撃・一点突破。「何か相手がビックリするような方法…」：奇襲。「おじゃましちゃうぜ～」：上陸作戦。「勝ったらトドメに蹴っ飛ばすぞ」：追撃。ここから防衛的な戦術。「まて、持久走で勝負しようぞ」：持久戦。「ヘルメット持っていこう」：塹壕戦・核シェルター(泥団子の発達で流行らなくなる)。「危なくなったら知ってる人のとこ行って休憩しよう」：縦深防御。「こっちくんな！」：水際作戦。「落とし穴だ！！」：地雷。「うちの庭で戦えば有利だ」：雪中戦・山岳戦。「最後の一発は絶対に俺に殴らせて」：消耗戦。ちょっと卑怯だけど成功したら「智将ダネ！」と言われる戦術。「相手の帰り道で待ち伏せしてぶんなぐる」：伏兵。「後ろからぶんなぐれ」：背面攻撃。「そっくりを連れてって、どっちが本物かわからなくさせ」：陽動。「ある程度戦ったら逃げるフリして、追ってきたところを転ばそう」：欺瞞撤退。「コレ！コレよ！もうこれしかない！どう？」：トンデモ兵器。勝っても後々問題になりやすい戦術。「消火器ぶっかける」：核攻撃。「ゴキジェットかけてやる」：毒ガス。「ゴキブリとナメクジを叩きつける」：生物兵器。「変装だ！」：便衣兵。「まずは負けたフリして…」：レジスタンス。「まずは仲間のフリして…」：裏切り。「オレは強いほうの味方だ、文句あるか」：寝返り。「お前の妹のパンツ脱がすぞ！いいのか！」：テロ攻撃。絶望的な戦術。「(仲間も武器もないから)油断しているところを狙えば勝てる」：ゲリラ(なお油断してなかったとき)。「腕力じゃ勝てないから口喧嘩に持ち込む」：白兵戦。「私の恋人をあんな女に取られるぐらいなら、むしろ彼を私の手で…」：焦土作戦。無手勝流。「あいつ今何してるかな」：情報戦。「あいつってエッチな本が好きなんだって！」：情報操作。「暴力はいけないと思いまーす」：世論誘導。「先生に言ってやろ～！」：心理戦。「ちょっと誰か助けて！」：義勇軍。「砂かけて目つぶし」：電子戦。「いたずら電話」：インターネット戦。「おべんとうに消しゴムのカス入れてやれ」：通商破壊・兵糧攻め。

時計仕掛けのオレンジは何がすごいのか……キリスト教における「自由意志」が存在するかというテーマの映画だが、自由も意志も知ってるだけに頷いてしまう。実は日本人になじみがない概念。まず自由意志を「神が、人間に、その運命を左右する機会を、与えたこと」と定義する。日本人が聞けば(神が、というとこ以外)ふーん、だろうが、キリスト教徒にとってこの定義は非常に座りが悪い。まず、上の意味で自由意志があるとすれば、神様は人間に悪を行う選択肢を与えたことになるからだ。すると、全知全能の神がなぜそんなことをしたのか？そんな神いらないよ、という疑問にいきついてしまう。もう一つ、ローマ書第8章30節に「神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました」いわゆる予定説についての記述があるが、そうすると予め救われる人間が決まってしまってることになり、何のために自由意志が認められたのかわからない。さらにこれを推し進めると、ある人が信仰するか・悪事を働くかなんてのも、救済ノートに書いてあることになってしまい、自由意志が否定されてしまう。ここまで考えてみれば、何がすごいのかがわかる。ルドヴィコ療法を行われたアレックスはあらゆる悪が行えない体となる。つまり自由意志が奪われる。出所して「善」として生きる。しかし彼は生気を失い、自殺まで追い込まれ、観客は不安になる。ラストシーン、彼は療法を解除する治療を受け、再び悪事に走るようになる。観客はよかったよかったと安堵する。しかし映画館を出てみると、更生した犯罪者が再び犯罪をするさまを見て安堵するなんてどういうことなんだ？という疑問がわき、何が何かわからなくなる。ここで初めて、「自由意志がないと、人間性を失ってしまうんだ」ということに気が付くのだ。キリスト教が1千年も議論してきたこの複雑な問題に、衒学に堕することなく、答えを出す、というのが、すごいのだ。ただプロテスタントの知り合いによれば、「神様は来るもの拒まずで、信仰しない人を救わないなんてことはないし、悪に染まる人を救済しないなんてこともない(彼が教会の門を叩きさえすれば、いつでも救う準備はある)」という解釈のようなので、これをアメリカ人に見せても同様に納得されるかは、別問題。

ウミネコ……カモメ科に分類される鳥類。ロシア南東、中国東部、台湾、日本などに生息。全長約40センチ、頭や体前部分は白いが、体上面の羽は灰色。鳴き声がネコに似ていることからこう命名された。似てるか、これ？発情期のキツネ、もしくは人間の赤ちゃんの泣き声のほうが似ていると思う。小魚を巣に運ぶとき、吐き出してしまうことがあるという。小魚が路上に散乱する光景は、初めてみる人にとっては非常に不思議。

英国は各員がその義務を尽くすことを期待する……”England expects that every man will do his duty.”1805年のトラファルガー海戦で、イギリスのネルソン監督が掲げた信号文。信号旗を用いて、各艦に通報された。この海戦で勝利したイギリスは、ナポレオン1世の英本土上陸の野望を粉砕、陸戦における優位性を示すものではなかったが、イギリスの海戦における優位は、ゆるぎないものとなった。

スマホ料金延滞者はマイホーム購入が出来なくなる可能性が？……スマホの端末はものすごく高価、10万を超えるものも少なくない。実際にはほぼ0円で契約できるが、だいたいの人が2年使用で本体料金無料、という契約をしているから。当然解約が難しかったり、途中解約で追加料金を取られたりする。俗にいう2年縛りの契約だが、実はこれ、使用料金と合わせて2年間のローンを組んでいるのと、同じらしい。携帯会社が信用情報を会社に送り、ブラックリストに登録される可能性があるとのこと。電気料金やガス料金と同じ感覚で延滞してはいけないのだという。3か月の延滞をすれば、支払いを後でしても、5年はブラックリストにのってしまう。

卓球台の色を変えたのはタモリ……鮮やかな青が一般的な卓球台だが、昔は濃い緑だった。テレビで以前「卓球は根暗のスポーツだ」と言われていた時期があった。この主犯がタモリだったのだ。ユニフォームは、ボールの色とまぎれないように白色が禁止。そして台も緑と地味。確かに根暗そうではある。しかし卓球協会が「根暗」と言われないように改良。ユニフォームのほうはカラーボールの開発で白を使えるようにし、色もテレビで放映されることを見越し、青にしたのだ。その結果裾野が広がり、メダリストが生まれるぐらいの人気スポーツになった。タモリは後にこのことを申し訳なく思い、1000万の寄付を日本卓球協会にしたという。

オリンピックにおける、開会式と閉会式での選手の様子の違い……開会式はちゃんと整列して入ってくるのに、閉会式はみんなで肩を組んだり、走り出したり、指揮者の真似をしたりする。実は1964年の東京オリンピックで、そのようになった。本来なら閉会式も整列での入場なのだが、全ての競技を終えた選手たちが、係員の指示に従わないままなだれ込んできた。しかし、開会式の時にはイギリスの保護領であった北ローデシアが、閉会式にはザンビア共和国になっていたこともあり、平和の祭典にふさわしいと感じ、そのままにした。これが様子の違いの由来だ。

東京オリンピックがきっかけで広まった職業とは？……警備員。2020年のオリンピックでも、警備員不足が騒がれている。ちなみに非常口やトイレのマークも急激に普及。外国の方がかつてないほど来日するということで、日本語はもちろん、大量の言語を用意することもできないということで、これらのピクトグラムをつくった。日本人デザイナーはその後著作権を放棄、これを機に世界中に広まることとなる。

芽のついたジャガイモでつくったポテチのほうがおいしい理由……当然芽は取り除くのだが。デンプンが糖に変わることを糖化というが、糖化したジャガイモを高温であげると焦げやすくなってしまう。逆に言えば、芽が出て糖分が少なくなった(芽を出すため糖分を使うから)ジャガイモを使えば、焦げにくくなる。結果、おいしいポテチができるのだ。

ポテチはイヤガラセでできた……フレンチフライを注文した客が「分厚すぎる！作り直せ！」と言ってきたので、コックさんがわざとぎりぎりまで薄くしたポテトチップスを出したところ、客が大喜び。これが今のポテチになった。

線香の長さがどのメーカーもほぼ同じ理由……商家の若旦那と芸者の人情噺の「たちぎれ線香」という、上方落語のネタが由来。江戸時代、時計がなかったため、遊郭の芸者は線香に火をつけ、それがたちきれるまでを目安としていた。長さが同じなのは、線香が時間を測る道具だったからなのだ。芸者も一人前になると、線香一本分の時間、客が飽きずにいてくれるので、一本立ちということばになったという。

野菜の栄養はコントロール自在……最近話題になっているという、栄養がコントロール自在の野菜。老化防止の栄養素が通常のレタスの2.6倍もあるというレタスをはじめ、様々なものがつくられている。建物の中で。というのも、LEDでどんな波長の光を当てるかで、栄養素が変わってくるのである。これを利用し、見た目、味、栄養なんかをコントロールしている。天候に左右されず栽培できるから、もしかしたらこれから、主流になるかも？

函館の夜景は北海道のくびれの部分ではない……8割の東京人が勘違いしているらしい。日本三大夜景のひとつである函館の夜景だが、あの例のくびれた部分は、北海道南西部のくびれた部分ではないのだという。あそこはでかすぎて夜景として一枚に収められない。

最も着やせする色は何色か……実は黒ではない。黒は背景から浮き、体型がそのまま見えるのが欠点。さらに、肌色の反対の色であるから、二の腕を太く見せてしまう。黒に微妙に赤の混じった紺色であれば、輪郭がぼやけるから、いい感じ。

ポテトチップス裁判……イギリスで実際に行われた裁判。プリングルズはポテチかどうか？というくだらないテーマだったが、実はこれ、嗜好品とされるポテチに税率がかかるから、意外とバカにならない裁判なのだ。ポテチだと課税対象だが、ビスケットだと非課税。第一審ではポテチでないという判決が出たが、控訴されて結局ポテチとされた。筆者はあれはポテチとは認められない。トウモロコシやジャガイモを粉にし、固めて揚げただけなのだから。ちなみにプリングルスではなく、プリングルズ。さらに、味がついているのは凹んでいる面だけで、両面に味付けされているわけではない。

ローテンブルク……ドイツにある「中世の宝石箱」ともいわれる美しい街。童話のような風景で、700年前の街の面影を残すといわれる。戦時中、ヒトラーには「最後まで戦い抜け」と言われたが、町民たちはこの美しい風景を壊されたくなかったため、死刑覚悟で独自に降伏。連合軍側もそれを飲み、爆撃されることはなかった。アメリカの軍国防次官参謀であるマックロイは「母親からこの街のことを聞き、家にこの街の絵が飾ってあった。綺麗だったから壊してはいけないと思った」とのちに証言。一枚の絵が街並みを救った、よい話である。

ポツダム宣言から削除された一文が、原爆を招いた？……アメリカの国務次官であるジョセフ・グルーは、「日本が無条件降伏しても天皇制の存続を認める」という一文を絶対に入れるつもりで書いたのだが、トルーマン大統領は世論の反対を恐れ、これを独自に削除してしまった。その結果天皇存続を認められないと誤解した日本側は、7月に渡されたポツダム宣言を無視、抗戦の構えを見せ、2回原爆を落とされてしまった。もしトルーマンが削除していなければ、原爆は投下されていなかったのだろうか。

金剛力士像に秘められた技法……頭が大きくひざ下が短いあの独特の骨格は、下から見上げると迫力があるため。逆遠近法の一種で、高い位置の頭を大きく見せる工夫をしているのだ。そのほか、参拝者ににらみをきかせるため、目線を大胆に下向きにし、右腕は動きを見せるため、本来曲がらない角度までひねられている。これらは全て迫力を出すための計算尽くされた演出。運慶さすが。ちなみにこの2体はそれぞれ「阿形」「吽形」(あぎょう・うんぎょう)という名前だが、口が「あ」をしてるのが前者、「ん」なのが後者。50音は「あ」で始まり「ん」で終わる。宇宙の初めから終わりを表し、全ての世界を2人が守っているという。もともとは1人なのだが、戦うためにパワーアップしている。1人のときは「執金剛神」(しつこんごうしん)という。

巨大船の底が赤く塗られている理由……そもそも船の塗装は海水によるサビや腐食を防ぐのが目的だが、この赤はまた別。亜酸化銅の色であり、フジツボやカキが底にくっつかないようにするためのもの。くっつくと船の速度が落ちてしまう。2年半ほどで塗り替え。

船における「トン」は重さの「トン」ではない……総トン数という、体積を表す単位。1Tは1000/353立方メートルで、だいたい2.8立方メートル。船の中にどれだけの荷物を入れることができるかが総トン数。昔は樽を船で運んでいたが、樽がどれだけ入るのかを数える時樽を叩いていた。トントンという音がしたから、トンということばが来ているという。しかし軍艦では積み荷による総重量の変化を考慮する必要があまりないため、船の重量と等しい「排水トン量」を用いる。簡単に言えば船の水面下の体積と同容量の水の重量が船の重量と等しいことを利用し求める。

ケネディ大統領の当選はイスのおかげ？……1960年の選挙。ニクソンのほうが有利だと支持率調査ではわかっていた。しかし大統領選挙初のテレビ討論が行われた際、彼のイスに座る様子がとてもかっこいいと話題になった。なんとなくホテルの和室にありそうなものだが、ケネディは戦争で腰を悪くし、負担がかからないイスを選んだだけ。しかしそのデザイン性から、彼はみごと大統領の座を勝ち取った。後にこのイスのデザイナーは”the chair”と名付けた。

ルイボスティー……女性に人気の紅茶の中でも一番人気なのが南アフリカ原産のルイボスティー。しかし他の緑茶や紅茶と違い、ティーバッグに糸がついていない。そもそも糸がついているのは、ティーバッグを早く取り出すためで、これは茶のタンニンが溶けだしすぎて苦くなるのを防ぐため。だがルイボスティーに含まれるタンニンはほぼごくわずか。急いで取り出す必要がないのだ。むしろ、入っているポリフェノールはじっくりと時間をかけたほうが出るため、糸がない。抗酸化作用のあるポリフェノールはアンチエイジングに効果的とのうわさ。

ハーゲンダッツ抹茶は他のものと容器が違う……抹茶だけ味が違うのは、普通の緑茶の容器を考えてみればわかる。お茶の容器はきっちり密封して、光を通さないようになっている。同様に抹茶味は容器が分厚い。光が入るとクロロフィルが分解され、成分や色がかわる恐れがあるのだ。ハーゲンダッツではわざわざ抹茶を暗闇で挽いているという。

PAでのトイレの混雑をなくした「サバンナ効果」……トイレの奥のブースが空いているのに待ち行列が発生しているということ。夜だと利用者は奥のトイレが空いていることに気付かないのだ。そのため手前を暗く、奥を明るくしたところ、「明るいところに行きたい」という本能、安心感が生まれ、待ち行列解消。迷い人が、暗いジャングルから明るいサバンナを見るとそっちに引き寄せられることが、この効果の由来だろうか。この効果は店などでよく使われており、売りたい商品を明るいところに持って行ったりする。

黄色いバナナは輸入してはいけない……日本の法律で、バナナは緑色のものしか輸入するな、と決まっている。わざわざ気温を13度にし、熟成を止めて輸入している。これは熟したものだと外国の虫が紛れ込んでくるおそれがあるから。ちなみにバナナ、熟す時にはブロック積みという、箱と箱の間に隙間がある積み方をするが、これはエチレンガスを均一にさせるため。こうしないと上が青く下が黄色になり、商品価値が落ちるのだ。

全ての建物が南向きに並ぶ街……ラ・ショード・フォンという、時計作りで有名な街がそれ。20世紀には世界の時計シェアの55％がここ産だった。火事になって再び建物を建てる時にとある工夫をした。スイスの山間部ということで日照時間が短く、時計作りという精密な作業をするため、建物を南向きにし、窓辺に作業場を設置。ちなみに東京の神保町の古本屋は、全て北向きとなっているが、これは逆の理由。太陽が当たると本がいたみやすいため、北向きにしたのだという。

カニの殻からできた素材がある……カニの殻は食べた後再利用されるのだが、単にカニグラタンの容器としてだけではない。最近発見されたのがキチンナノファイバー。薬品につけてカルシウムなどを取り除く。するとカニの殻は真っ白に。これがキチンナノファイバーで、髪の毛の一万分の一という細さなのに、一本の強度は鋼鉄なみ。これをガラスやプラスチックに混ぜることで、割れにくくなり、地震の時にみんなを守ってくれるかもしれない。

お好み焼きの器がクッソ小さい理由……かき混ぜにくくするため。かき混ぜすぎると小麦中のグルテンが行き渡り、空気が入らなくなってフワフワのお好み焼きにならない。かき混ぜにくければすぐに焼きたがる。思考を誘導することで、自然においしくつくれるようにしているのだ。

おせちの一番下が空っぽの理由……重箱に詰めるのは「めでたさを重ねる」という思いが込められている。5段重ねが正式で、1段目は「祝い肴」という、黒豆、カズノコなど、お酒のつまみになるもの。2段目は甘いもの。栗きんとんやだて巻きなど。かつて砂糖が貴重だったから。3段目は海の幸を表すタイやエビのような魚料理。4段目はサトイモやレンコンなどの山の幸。そして5段目は空っぽ！これには2つ理由がある。1つ目に「年神様から授かった福がつまる場所」だから。そして2つ目に「来年も空っぽのスペースにたくさんの料理が詰められるように」。

アメリカ大統領が調印式でペンをいっぱい持ち替える理由……歴史的な記念品をわざと増やすため。大統領の周りにいるたくさんの人達、条約や法律の制定に貢献した人達に、ペンを贈る習慣があるから。しかしアメリカは歴史が短く、贈れるものがあまりない。たくさん持ち替えることで、歴史的な遺産を増やしているのだ。オバマの時は15分で22本も持ち替えた。

真っ赤なお鼻のトナカイは……実際に赤い。サーモグラフィカメラで見れば。これはトナカイが地中のコケ、トナカイゴケを探し当てるから。鼻がきかないとコケを見つけられないため、温度が高くなっているのだという。

最中はもともと皮だけだった……平安時代には、貴族が歌をよむとき、丸い餅菓子が出ていた。それは「最中月」(もなかのつき)と呼ばれていた。もなかの皮の原料はもち米で、餅がもとにあるもの。後からあんこが入るようになったという。うーん、おいしいのだろうか。口蓋にひっつきそうだが。

段ボールの特許を持つTOTO……トイレメーカーのTOTOがなぜ段ボールをつくっているのか。それはトイレ用品を作った後、独自の規格の段ボールに詰めるから。段ボール会社にわざわざ頼むのは時間もコストもかかる。TOTOが申請したのは「1秒で開け閉めができる段ボール」。自分たちが発明した段ボールを使い続けるために特許を申請する必要があるのだ。

スケートリンクの氷は着色してある……そもそもあの氷はどうつくるのか。まず防水シートや断熱材をしき、板で平行にする。冷却パイプを一面に通す。何百もの1センチのホースのようなもの。このパイプは氷をつくるために必要な0度以下の冷却水を通すためにある。その後、冷却パイプの上から水をまいて冷却水を流し、氷をつくっていく。ただし、ただ水をまいて凍らせただけではパイプが丸見え、趣がないので、上から白く着色しているのだ。ここまででなんと2週間。様々な工夫をしてつくっているのだ。

そばの出前機がオリンピックに関わった？……オリンピックでは聖歌をリレーしながら開会式の会場まで運ぶが、東京オリンピック時の道路舗装率はわずか4％。火が消えてしまうのが懸念されていたが、そばの出前で使われるバイクの後ろについている出前機が注目を浴びた。傾いても凸凹の道を走っても水平になる仕組みが活かされ、聖火ランナーの並走車に取り付けられたのだ。仮に火が消えても再点火できるようにしたことで、東京オリンピックを成功に導いた。

パンに砂糖を入れる理由……パンをつくるだけなら砂糖を入れる必要はない。でも実は甘くする以外の大事な理由がある。まずふっくらさせるため。砂糖がイースト菌のエサになり、よく発酵してふっくらとなる。それからメイラード反応を進ませ、茶色にするため。さらに、親水性によって焼いた後のフワフワさを保つ。

動物園で「野生化」した動物を見れる？……肉食動物は毎日肉を食べると、腎臓に毒素がたまり、腎不全になるのだとか。ほとんどの動物園では毎週1日は絶食日を設けている。絶食日に動物園に行けば野生化した動物を見れるかもしれない。

3度傾いている二条城……碁盤の目になっている街並みで知られる京都。しかし二条城だけはなぜか3度傾いてしまっているのだ。人が歩くと足音が響くうぐいす張りの床が有名な二条城、1867年には徳川の大政奉還が行われた場所としても有名であるが、なぜそんなずれ方をしたのか。それは西洋式のコンパスによるもの。街の他の場所は北極星をもとに方向を考えたが、二条城は西洋から伝わった最新式のコンパスをもとに北を定めた。ところが磁針の指す北と本当の真北がずれていることは、当時まだわかっておらず、東に3度ずれたそれをもとにつくったから、方向がずれたのだ。進化した技術が仇となってしまう面白い雑学。

エビという漢字が二つある理由……伊勢エビと車エビでは、使われる漢字が違う。この基準は水中を泳ぐか海底を這うか。伊勢海老などの海底をのろのろと歩くエビは「海老」。車エビ、甘エビ、桜エビなど泳いでいるタイプのエビは「蝦」である。ちなみに虫偏がつくのは、中国ではよくわからない生物(蛙とか)には全部虫偏をつけるから。

ロブスターのハサミは左右で大きさや形が違う……大きい方が「クラッシャー」と呼ばれ、硬い殻を砕くのに使う。小さい方が「カッター」と呼ばれ、ものを切るのに使う。ロブスターによって逆なのだが、実は生まれてから最初に砕くのに用いたほうがクラッシャーになるのだという。つまりロブスターには利き手がある。両方使わない環境だと、どちらも小さいらしい。

刑事と警察官の敬礼は違う……帽子をかぶって制服を着た警察官の挨拶は一般に知られるアレだが、ドラマで見るように刑事も同じのをするかといえば、そうではない。私服の刑事は上体を15度ほど傾け軽く会釈するスタイル。つまり普通の会釈である。

緊急時は警察からお金を借りられる……間違いなく知っておいて役立つ知識である。最大で1000円を借りることができる。例えば財布を大学に忘れたとき、お金を借りて財布を取りに戻り、警察に返す、など。

高さ比べをしあった結果の世界遺産がある……サン・ジミニャーノというのがそれ。イタリア中部、田園風景と数十本もの塔を擁する世界遺産。イタリアでも石造りの街は非常に珍しく、800年前のままの街並みが現存している。この街が発展したのはサフランのおかげ。サフランで儲けた商人たちは金持ち自慢のため塔を建て始めた。どんどんその高さは高くなったが、ある時高すぎて塔が崩壊。危険だったため市が一番高い51メートルの塔を建て、51メートルより高いものを建てることを禁止したら、今度は40メートルの塔を2本横に建て「ツインタワー」ごっこが。見栄を張る商人たちのせいで塔だらけになった。いつの世も、金持ちの考えることはよくわからないものである。

国産マツタケが高級になった理由……意外にも文明の発達なのだ。もともとマツタケは赤松の林、しかも痩せた土地にしか生えない。昔は赤松の林を、人々が日常生活に利用していた。例えば落ちた枝とか葉っぱを燃料に使っていた。ところがプロパンガスが発達するとその必要がなくなり、次第に枯れ葉や枯れ枝が土にたまって、腐葉土になる。土が豊かになる。松茸にとってはこれはよくない。結局もともとシイタケの10分の1だったマツタケは、現在高級食品になったのだ。

ウツボカズラでお米を炊ける……ウツボカズラは東南アジアに比較的多い食虫植物。でかい袋状の捕虫袋をもち、内部の液体は虫さえ溶かせるが、弱酸性で飲むことができる。これが自生している地域では緊急事態の際に水分補給としても飲まれている。味はかなりまずいらしい。ちなみにボルネオ島の山岳民族でよく使われているのだが、その用途は「お米を炊く」。もち米をウツボカズラの袋に入れ、蒸し器で30分蒸す。液体の消化酵素のおかげで、もちもちとした食感が楽しめる。

サケの身をほとんど食べないヒグマ……アラスカに住むヒグマは、日本のヒグマと違い、サケの皮・頭・イクラしか食べないのだという。実はアラスカでは大量のサケがとれるため、一匹ずつまるごと食べるより、栄養が入ったそれらを食べたほうが、効率よく栄養を蓄えられるらしい。ボディービルダーが卵の白身だけ食べるのと同じことをやっているのだ。

マグロは冷凍のものを買った方がいい？……スーパーで生マグロと冷凍マグロが売ってあるが、生よりも冷凍を買った方がおいしいという。まず含まれるATPがうまみのイノシン酸になるのだが、生のほうはその熟成がどれぐらい進んでいるのかがわかりにくい。しかし最近の技術発達はすごく、一気にマイナス50度まで下げて冷凍するので、その旨味を失うことがない。解凍の過程で熟成が進み、イノシン酸が出てくるから、いっそ安物の冷凍を買った方がいいのである。

電磁波が禁止された街……グリーンバンクという、人口150人の小さな町。ここではなんと電磁波・電波が発生する、あらゆるものが禁止されている。電子レンジさえ、鉄の箱に入れて電磁波がもれないようにしないといけないし、エンジンをかけるときにプラムから電磁波が出るので、当然ガソリン車も禁止。デジタルカメラもだめ。その理由は、ここに世界最大の電波望遠鏡があるから。パラボラ幅100メートルもある可動式アンテナで、電波が出ていると測定に響くのだ。ちなみに電磁波過敏症なる(本当にあるかどうかわかっていない)病気の、電磁波で吐き気とか頭痛をもよおす人々も、ここに移住してくるという。電波を禁止したら、また別の電波が寄ってくるという皮肉。

定形外郵便で本をそのまま送ることができない理由……文庫本にそのまま切手を貼って送っちゃえ！というのは、実は認められていない。にも拘らずスリッパならそのまま送ることができる。まず、定形外郵便で封書やハガキの恰好をしていないものには規定があり、タテ・ヨコ・高さ合わせて90センチ以内、なお4キロ以内のものである必要がある。ポストから投函できれば基本的に送れるが、本はあのまま放り込むと、他の郵便物が挟まるおそれがあり、害を与えるということで送れないのだ。

海に住む哺乳類はみんな秒速2メートルで泳いでいる……獲物をつかまえる時は別だが、普段はほぼ同じ速度で動いている。約秒速2メートル。例えばシャチ、ペンギン、イルカ、クジラなどは、みんな酸素を効率的に使える速度で泳いでいる。車は時速80キロが巡航速度だが、海の哺乳類だとそれが秒速2メートル、という話。神秘的。

オーストラリアのペンギンはセーターを着ている……2014年のオーストラリアでの船舶の原油流出事故がきっかけとなった。ペンギンは自分の体の毛づくろいをクチバシを用いて行うが、原油まみれになったペンギンが自分の毛を食べないようにという理由で、セーターを着せて保護した。

牛乳からつくった服がある……牛乳を発酵させ抽出したたんぱく質を、化学薬品など一切使わずに加工し糸にする。その糸で服をつくるから、服のタグには「34％　ミルク」と書かれている。実はこれ、酪農が盛んなドイツは衛生面で厳しい基準があり、クリアできない牛乳が年間で16万トンもあるから。再利用のためなのだという。食べられます。

陸上競技のメートル表記、キロメートル表記……トラック競技といって、トラックの中をずっと走り続けるものがメートル表記。1万メートル走とか。しかし実際の道路を使うロード競技はキロメートル表記。50キロ競歩とか。トラックを出るかどうかで表記されかたが違うのだ。ちなみに誤差の許容範囲も、トラックは1万分の1、ロードは1千分の1まで許され、どちらもマイナス誤差は許されない。

コーンフレークが梱包されてる銀色の袋……実はあれに光を当てると、中身が透けて見えるのだという。まず、あれはアルミ蒸着フィルムといって、アルミ自体ではない。アルミ蒸着フィルムとは真空状態で透明なフィルムに熱したアルミを吹き付け、コーティングしたもの。アルミ箔より軽く、アルミの量も少なくて済む。酸化を防ぎ軽くて安いのがこれなのだ。そして、分子間に隙間があるので中身が透けて見える。

オリンピックのピストルは鳴っていない……走り出すのに鳴っていないとは。実はピストルを一方向から流すと、一番最初に聞こえる人と、最後に聞こえる人の差が出てしまう。そのため、いくら音が速いとはいえ、実際は0.03秒のずれがあり、世界記録を争うような場にふさわしくない。実はスタート台のところに設置された小型スピーカーから出ている。

競技場のトラックの色が赤から青になっている理由……赤は気持ちを奮い立たせるため、良い記録が出しやすいとされていたのだが、むしろ心を落ち着かせる青のほうが良い記録が出ることがわかった。

金魚が日本の水道水を守っている？……水道水が安全かどうか確かめるため生物を用いることを「バイオアッセイ」という。いろんな検査をし、最後に金魚のいる水槽を通し、何か金魚に異常があれば異物混入の可能性があるとわかるのだ。この管理は1995年に起きた地下鉄サリン事件をきっかけに広まった。ちなみに金魚には2種類あり、赤くて派手なのを金魚、白くて地味なのをギンギョと呼んでいたが、金魚ばかり注目され、ギンギョということばは消えたという。

醤油、味噌、みりんは日本でしか作れない……その理由はこうじ菌にある。麹菌の起源は1300年前、神様に蒸し米を捧げて放置していたらカビが生えていたので、それで酒をつくった。このカビこそこうじ菌だった。彼らは穀物につくとデンプンやタンパク質を分解し、ブドウ糖やアミノ酸などのうまみ成分に変えていく。そこで彼らは大豆に菌を加え味噌を、大豆と小麦に菌を加え醤油を、もち米とアルコールに菌を加えみりんをつくった。ついに2006年には国の菌にまで指定。日本が米を食べ、なおかつ温暖多湿な地域だから、こうじ菌は日本にしか発生しなかった。

芥川賞と直木賞は同じ日に同じ場所で選考される？……年に二回、1月と7月に、元々大隈重信の家があった築地の「新喜楽」(懐石料理屋)にて選考。1階が芥川賞、2階が直木賞。このようにするのは、記者たちに集まってもらうのも一回で済むし、プレスへの発表も楽だからとのこと。ちなみに直木賞は小説家の「直木三十五」から。直木は本名の植村の植えるを分けてだが、下のほうはどうなんだろう。実は31歳のときのペンネームは「三十一」だった。三十二、三十三と変えていったのだが、三十三は散々ってことで飛ばし、三十四は縁起が悪く飛ばした。その結果三十五で落ち着いた。

源泉の成分そのままで熱湯を下げる冷却装置……よく考えれば源泉の成分を薄めずに温度だけ低くするあれは、どうやっているのか。その仕組みはいかにも原始的。なんと、源泉の場所に竹の枝を大量においてあるだけ。竹の枝に流して水滴状にし、空気との表面積を増やせば温度が下がる。これを発見したのは別府温泉。竹は熱に強く耐久性に優れており、しかも枝が多く分かれているため水滴になりやすいのだ。

マイケルジョーダンは1試合につき60万を払っていた……デビュー当時の話。ナイキのシューズをスポンサー契約しており、リーグ靴は白でなきゃいけないのに、提供された赤と黒のものを履いていた。これがルール違反ということで、一試合につき60万を払っていたという。さすが大物選手は違う。

エンジンをかけたままコンビニに寄ったら罰金……エンジンをかけっぱで買い物やトイレに行くことがあるが、あれは5万の罰金。正しく言えば、サイドブレーキを引かずに車を離れたら罰金。坂道で勝手に動きだしたり、無免許の人が運転したりしないように。

スタイルが悪い人がビキニを着ると罰金……イタリアの高級リゾート地リビエラにて。3000円相当の罰金を払う必要がある。日本なら逆に名誉棄損で訴えられそうだが、観光収入がおもな収入源であるこの街では、真面目に考えられた制度。

いちご大福は発酵食品？……イチゴの表面をあんこで覆っているため、いちごの皮についた酵母菌が増えてアルコール発酵しやすくなっている。いちご大福を食べるとちょっと舌がぴりっとするのは発酵により生まれた炭酸のせい。

大福もちは昔大福と呼ばれてなかった……江戸時代初期に生まれたうずらもち(鶉餅)が、腹もちがいいということで腹太餅(ふくぶともち)と呼ばれていた。ちなみに当時は小豆を塩で煮たもので、甘くなかったという。大福になったのは、漢字の腹太をひっくり返し、腹の字を縁起が良い福にしたとのこと。

日本初のトートバッグにはわざと穴が開いていた……トートバッグは1944年アメリカで、”L.L.Bean”によりつくられた。冷蔵庫に大きな氷を使っていたため、氷を運ぶのに丈夫なバッグをということで。最初は「ビーンズ・アイス・キャリア」としたが、氷以外を運ぶ人もいたので名前を変えた。トートというのは「運ぶ」という意味。ではなぜ日本のものに鉛筆ほどの穴が開いていたのか。実はこのバッグ、昔は牛乳瓶を運んでいたのだが、中で割れてしまったとき、中にたまるよりむしろ下に流れたほうがいい、そういう用途だったのだ。

アイロンによって個人情報が流出……中国からロシアに輸出されたアイロンの中にICチップが仕込んであった。これがWi-fiに反応し、ワイファイを通じてパソコンに入り、ウイルスをまき散らす。つまり電源入れたら即アウト。隣の家のアイロンがこうなってても、駄目。ちなみに現在流行りのスマート家電は、スマホを用いて家電を遠隔操作できるが、逆にいえばテレビが消えた時間ついた時間が丸わかり。生活リズム筒抜けなので恐ろしい。いつの世も犯罪者が半歩先をいくのだ。

ペットボトルキャップの下のリングはどうやって分別すればいいのか……まずあのリングは、一度開けられたことがあるかがわかるためのもの。一度開けるとキャップとリングの隙間が離れるからわかる。そしてあのリングはつけたままでよいとのこと。中にはラベルが付いたまま、キャップがついたまま運ばれるのもあるが、ああいうのは人が全部見分けて分別する。続いて粉砕マシーンに投入され、ここでリングごと粉々に。水の中を通って洗浄すると、水面にカラフルなものが浮いてきた。これこそリング、だったもの。実はペットボトルと密度が違うため、リングの粉は水に浮くのである。リングはプラスチック、ペットボトルはペット樹脂とし、ちゃんとリサイクルされるのだ。

無料ロッカーに100円を入れる理由……戻ってくるのになぜ入れるのか。まず、85％の人がめんどくさいと思っているのだが、それこそが意図。複数個を占有したり、鍵を返却しなかったりする人が出ないようにとのこと。手間をあえてかけさせているのだ。

始球式でわざと空振りをする理由……まず1908年、早稲田の野球部とアメリカ大リーグ選抜の親善試合でのこと。ボールを投げたのは早稲田初代学長の大隈重信。彼の投げたボールはとんでもない方向に飛んで行ったのだが、バッターの学生は「総理に恥をかかせるわけには」と機転を利かせ、バットを振って空振りにした。ちなみに始球式の由来は、アメリカ大統領27代タフト。側近が「140キロもあったら危ない。大統領に運動してもらおう」と体を動かすため、始球式をやってもらったそう。ちなみにアメリカの始球式にバッターはいない。

パンダには指が七本ある……どう見ても5本だが7本あるのだ。パンダはクマ科の生き物で、5本の指は真横にあるため、押さえたり叩いたりはできるのだが、握れない。6本目と7本目の指がそれぞれ親指と小指の付けねに短くついているため、挟むようにして握っているのだ。ちなみにパンダは冬眠をせず、冬に食べることができるのは1年じゅう青い竹や笹。

階数表示のないエレベーター……最近増えてきているのがこれ。その理由は、エレベーターを待っている人を通過したとき、わからないようにするため。エレベーターが全部で3基以上ある所では、どこにエレベーターを配置するのがいいか、瞬時に計算して最適に運行するようにしているから。群管理システムと呼ぶ。一応、平均待ち時間を短縮できるのだが、それでも無視されれば嫌な気持ちになる。だから階数表示をしていない。

ポップコーンが映画館を救った？……映画館は1920年代すごく順調だったのだが、世界恐慌が発生、客足が一斉に遠のいた。原価率が低く、つくる機械もそれほど維持費のかからないポップコーンを売っていたところは何とか経営を保ったが、そうでないところは次々と潰れてしまったという。ちなみに逆に、映画館が上野動物園を救ったという話もある。第2次世界大戦中に悲しくも動物を殺してしまい、戦後に再開したのだが動物が少なかった。そこで白羽の矢が立ったのが映画館。中につくって動物園の復興に役立てたのだ。

エスカレーターが離れた場所にある理由……デパートなどのエスカレーターは一か所にまとまっていない。これ実は店だけでなく客にもメリットがあった。大きなデパートが火事になったときの教訓を生かしてとのこと。エスカレーターが1か所にまとまっていたデパートでは客が殺到、被害をさらに大きくしてしまう原因になった。もちろん、店をいっぱい見てもらうという目的もあるが。

起きてすぐに布団をたたんではいけない……寝ている間に人間はコップ1杯ぶんの汗をかく。だから起きてすぐにたたんでしまうと、カビやニオイの原因になる。起きたらめくったままにし、放置したほうがいい。ベッドのマットレスは、缶などをマットレスの下におき、風が通るようにすればよいという。

味噌汁の隠し味になる意外な食べ物……実はヨーグルト。味噌もヨーグルトも発酵食品のため、相性がよくダシの代わりになる。うまみ成分が増すらしい。

納豆のネバネバをサラサラにするには……あのネバネバはポリグルタミン酸によるもの。だからお酢につけることで成分が分解され、サラサラになる。他にも味噌汁も、熱さと塩分で取れる。お箸についたネバネバは、酢の物やみそ汁で落とせばよい。

シャツの背中のわっかは何のためにあるのか……タグとかが書いてあるあのヘンなのは、もともとハンガーが普及していない時代の名残。脱いだ後シワになるのを防ぐため、フックにかけていたのだとか。

デッドボールとは「打者の死」ではない……頭に当たると危険だから勘違いされやすいのだが、打者が死ぬことではない。実は”Ball Dead”つまりプレーが一時中止されることを示している。最近では「ヒットバイピッチ」という言い方のほうが多いとのこと。サッカーのアディショナルタイムと同じ動きなのだ。

フルマラソンが42.195キロになった理由……もともとは26マイル、つまり41.8キロぐらいだったフルマラソンだが、第4回ロンドンのとき、「スタートは宮殿の庭」「ゴールは王族の席の前」と、関係者が気を利かせ、距離を長くしたため。よくいうのはマラトンの戦いで走り切った長さが云々だが、あれは偽説。

実は一般名ではないことば……マジックインキ。これは内田洋行の商標なのだ。一般名は「油性サインペン」。だからテレビじゃマジックと言わない。UFOキャッチャー。セガの商標。一般はクレーンゲーム。フリスビー。一般名はフライングディスク。セロテーブ。一般はセロハンテープ。ウォシュレット。一般はシャワー付き便座。オセロ。一般名はリバーシ。テトラポッド。一般は消波ブロック。キャタピラ。一般は無限軌道。シャーペン、シャープペンシル。一般はメカニカルペンシル。ポリバケツ。一般はプラスチックバケツ。タバスコ。一般はペッパーソース。破魔矢。一般は縁起物の矢。万歩計。一般は歩数計。ピアニカ。一般は鍵盤ハーモニカ。シーチキン。一般はマグロの油漬け缶詰。ジープ。一般はオフロード4WD車。テフロン加工。一般はフッ素樹脂加工。ドライアイス。一般はドライアイス。NHKのバラエティー番組では、芸人に予め「連想ゲーム等では一般名詞と固有名詞間違わないように」とくぎを刺すという。

裁判にかけられるまでの流れ……まず何らかの犯罪が起こる。事件が起こったときに考えられるのはまず逮捕。逮捕にも3種類あり、通常逮捕、緊急逮捕、現行犯逮捕。犯罪の捜査を行うことを「着手」といい、着手のさい、逮捕するかしないか決める(緊急の場合は事後的に、逮捕してから着手するが…)。警察が着手すると逮捕か任意の事情聴取になる。その際に犯人が逃亡すれば「時効」となる。検察が起訴(控訴)するまで時効のカウントダウンは続く。逮捕されたら被疑者(容疑者は正式な用語ではない)となる。場合によっては警察をすっとばして検察が捜査・逮捕を行うこともあり、それを行う機関が地検特捜部である。なんにせよ、逮捕した場合、48時間以内に被疑者の身柄を検察に送らなければならない(これを送致・送検という)。ただ、罪が小さい場合、顔写真とか証拠を書いた書類だけを送る場合もあり、それを書類送検という。検察では被疑者を起訴するかどうか24時間以内に決める。起訴する場合は被疑者は裁判所送りになり、名前も被告人となるが、どの裁判所から始まるかは罪の大きさが関係する。裁判所では最大20日まで拘束され、有罪か無罪かが決まり、有罪の場合はさらに罰金か禁錮か懲役。禁錮は政治犯が多く、何も働かせないもの。懲役は2年以下なら執行猶予になりうる。被告人か検察がその判決に不服をもった場合は、2回まで控訴(上告)できる。ちなみに「略式裁判」というのもあり、交通違反の赤切符を切られた場合などがこれにあたる。罰金を払えば帰ってくることが可能。逆に、起訴されないことを不起訴といい、3種類ある。嫌疑なし、嫌疑不十分、起訴猶予。嫌疑なしは完全にシロ。嫌疑不十分はグレーだけど、本当にしてるか怪しいから起訴しない。起訴猶予は罰金とかレベルじゃない罪に適用される。よく間違うのが、「起訴猶予」と「執行猶予」。前者は無罪である(検察が犯罪を認めてるだけで、裁判所のほうに行ってない。会社によっては、起訴猶予になると給料が引かれてしまうが、前科はついていない)が、後者は有罪である。なおこの3つのどれにあたるかは被疑者が問い合わせなくてはならない。逮捕されて、裁判の時まで拘置所にいる、というのは、実は相当に難しい。今刑務所にいるのはわずか4万とか5万人である。1億人いることを考えるとだいぶ少ないから、刑務所に入るのも大変なのである。完璧な証拠がないと警察は着手しないし、着手しても検察が不起訴にする(被害者側だと、困る)。お金でいうと「100万円以下の横領」とか「1万円のものを万引き」とかだと裁判所行きにはまずならない。また、裁判の有罪率は99.9%であるから、検察がいかに起訴に慎重なのかがわかる。実質的に裁判所は「罪の重さを決める場所」なのだ。

裁判に関する雑学……裁判官の服は必ず黒。何を混ぜても黒ということで、何にも染まらない公平さの象徴だから。判決を聞く前に有罪か無罪かはわかる。被告人は、か、被告人を、の違い。前者は無罪で、後者は有罪(〇年の懲役に処す　と続く)記者はこの違いによって、速報を出す。裁判官の数は必ず奇数。裁判員裁判であっても同じで、必ず合計は奇数。これは多数決になっても結論を導けるから。傍聴の方法。入口にある予定表を見て、好きな裁判に入ってよい。年齢制限もなく、無料、そして出入り自由。

伯父さんと叔父さんの違い……おじさん、というのは漢字で二つある。血縁関係とか、年齢によってではない。両親よりも年が上か下かで使い分けるのだ。年下の場合は叔父さん、年上の場合は伯父さん。「伯」の字には尊敬の意がこめられているから、それで覚えておこう。もう一つのほうは「若い」という意味。おばさんも同様に可能。この用法は、平安時代の倭名類聚抄(わみょうるいじゅしょ)に書かれており、中国由来。

ローストチキンや七面鳥の銀紙の目的……あの銀紙は、汚れずに持つためのものというためだけではない、骨の断面を見せないようにする目的もある。断面はなかなかエグいので、食欲を守るのだ。

校長の話はなぜ長いのか……実は学校講話大全という本があって、季節に合わせて使える話だったり、生徒とのやり取りまで細かく指示している文章もある。参考のものが長いので、校長のも長くなるのだ。もちろんマニュアルを使わない先生もいて、無言で体操するとこだったり、10秒で終わったり、突然歌いだしたり。しかしまあ筆者は、もうどんなことを話されたのか、全く覚えていない。

金字塔は実際に存在している……ただし実際に見たことあるかは別。テレビじゃ見る。実は別名ピラミッド。ピラミッドのことを金字塔と呼んでいるのだ。金という漢字があの形に似ているからそうした。ピラミッドを打ち立てるような功績、という意味で使う。

自販機で売り切れとなっていても実は売り切れていない……日本ならではの気遣い。商品を補充しても、すぐに適温で商品を提供できるから、とのこと。全部売ってしまうと、詰め替え後はぬるい商品が出てきてしまう。1本残すことで、待たすことなく適温で出てくる。

サッカーのゴールネットの形……昔は四角形だったが、今は六角形なのである。プロが使用するものは全部六角形。その理由はゴールネットの揺れを大きくし、迫力を出すため。六角形だと、ボールがネットに当たった際、網のマス目に広がる余裕があるため、ボールを包み、突き刺さるように見えるのだ。

フィギュアスケートの知られざる減点ルール……変であるが、名前を呼ばれてから、30秒後に演技をスタートする地点に行かないと減点。まあそうでないといくらでも引き延ばしできるからなあ。衣装の一部が演技中に取れてしまうと減点。高橋大輔が羽みたいなのを演技中に落としてしまい、減点されていた。他にも、華美なものは禁止、裸体を連想させるものは禁止、アクセサリーや仮面などは使用禁止、電飾はどういう事情でもダメ、男性はタイツの着用禁止など、特に衣装に関する減点は多い。わずか1点だが、世界レベルだと実力が伯仲するため、1点はかなり大きい。

エンストはエンジンストップの略ではない……エンジンストールの略である。マニュアル車ならおなじみのエンスト。エンジンは一定の回転数を維持する必要があるが、エンジンのエネルギーをいきなり車輪につなぐと、車輪は止まっているため回転が遅くなって止まってしまう。これがエンストである。半クラッチにし、微妙にエネルギーを伝えなくてはならない。

MCはメインキャスターではなく……マスターオブセレモニーズ(master of ceremonies)の略。何かの会の司会進行役という意味。

チャウシェスクの落とし子……ルーマニアの独裁者チャウシェスクとその夫妻によって行われた国政によって行われた、多数のストリートチルドレンのこと。ルーマニア政府は国家政策として、5人以上子どもを産まなければ中絶してはいけない、という法律を出した。また、離婚は一部の例外を除き禁止。結局人口は増加したが、育児放棄で孤児院に引き取られる子どもが増え、孤児院の職員は自らが罰せられるのを恐れ(子どもを死なせると罰則)、大人の血液を注射して子どもに輸血し、病気治療しようとしたが、衛生面で安全ではなくエイズが急速に広まった。結局人口政策は大量の孤児を発生させるだけで、完全に失敗したのである。

宮城(きゅうじょう)事件……1945年8月14日から15日にかけ、陸軍省勤務の将校、近衛師団参謀が中心になり、クーデターを起こそうとした事件。御前会議での決定(ポツダム宣言の受諾)を知らされた陸軍省では、徹底抗戦を主張している人たちから猛反対の声が上がった。「天皇や日本政府の国家統治の権限はGHQに従うものとする」という文を外務省では「制限の下に置かれる」と訳したのに対し、陸軍は「隷属する」とかなりきつめに解釈。天皇の地位が保証されていないのだから、戦争続行を唱えようとの声が大半を占めた。結局クーデターは失敗に終わり、発案者、実行者たちは自殺もしくは逮捕。日本の降伏表明は当初通り行われた。この事件は「日本のいちばん長い日」という映画になっている。

有職読み……古来からの習慣に従い、漢字で書かれた語を特別な読み方(だいたいは音読み)で読むこと。故実読み、名目読みともいう。大久保長安を「ちょうあん」と呼んだり、安倍晴明を「せいめい」と読むアレである。黒革の手帳で有名な松本清張は本名「キヨハル」であり、安部公房は「キミフサ」。井上陽水は「アキミ」。黒田清輝は「キヨテル」。全部ペンネームが音読みである。

ミュンヒハウゼン症候群……周囲の関心を引き付けるために病気を装ったり、自傷したりする精神疾患。子どもを虐待して「うちの子がケガしちゃって」と看病に勤しむ母を装うのは代理ミュンヒハウゼン症候群。それほど率が高いわけではないが、珍しいケースなのでよく認知されている。

よこしま……正しくないこと、道理から外れていること。横方向の縞模様という意味ではない。よこ、し、まと分解され、しは方向を表す接尾語「さ」と同じ。逆さまと同じ構造。横の方向であることを意味し、心の向きが横を向いて正しくない、ということを意味するようになった。「牙」には食い違いの歯という意味があり、食い違っていることから、「邪」という漢字が当てられたようだ。

羽田事件……1967年、佐藤栄作首相の外国訪問を阻止せんとした新左翼と、機動隊が衝突した事件。ベトナム戦争を間接的に後方支援していた日本政府への批判が広まってきていた最中、佐藤首相がベトナムをはじめとする東南アジア諸国の訪問をすることに。後方支援をやめさせるという目的で学生たちが結託し、空港に向かうも、結局未遂に終わる。この事件で学生たちが使ったのは石。当時の舗装率は4％で歩道にはたくさん石があった。装備が貧弱だった機動隊は苦戦したが、ガス銃を発射し鎮静化させた。これをきっかけに道路の舗装が進んだという。

今上天皇……在位中の天皇のこと。一般にはこう呼ばれず、メディアでは「天皇陛下」「陛下」と呼ばれる。今上天皇は、他の代の天皇と区別が必要な文脈で使われることがほとんど。元号に天皇をくっつけた言い方はいわば諱号であり、例えば平成30年3月の時点での陛下を「平成天皇」と呼ぶのは不敬と考えるものもいる。

カルトQ……1993年までフジテレビ系列で放送されていたクイズ番組。しかし現在の広く浅くの出題がされるものと違い、特定の分野にめちゃくちゃ偏った問題ばかりが出る。道に通じていないと問題文も答えも全く意味がわからない。今からするとだいぶ斬新であるが、なぜか見ていて面白いのだ。YMOがテーマの回は、電気グルーヴにいたまりん(砂原)が優勝。ジャンクフード、物理学、F1、ラーメン、犬、SF映画、ユーミンなど、様々な分野のオタクたちが毎週出てきて争うさまは、今の競技クイズ高校生たちにも見てほしいものだ。

オクターブ……とある音階を基準とした、音の高さの異なる、同名の音階までの音程。つまり8。ドを鳴らしたとき、1つ高いドまでの音程が1オクターブである。半音単位に換算すると半音12個分。ちなみに、音の高さが違うのに同じ音階に聞こえるのは、音の周波数がちょうど二倍になっているから。周波数を2倍にする処理は、2進数で処理されるコンピュータに親和しやすく、シンセの実装に応用できる。

クレオパトラの鼻……歴史の「イフ」を考える時に登場するレトリックで、パスカルの「パンセ」(自省録)が元になっている。「クレオパトラの鼻がもっと低かったら、大地の表面は変わっていただろう」というが、鼻を美しさの基準にするところが、彼の修辞の極みである。目はありふれているし、鼻はどちらかというと、芥川龍之介の作品のように、醜さを強調するものである。鼻の高い絶世の美女も、それがちょっと低いだけでとたんに形無しに思えるから、不思議なもの。また、「歴史は変わってた」とかじゃなく「大地の全表面」とするのは、フランス語の”face”に顔と局面、両方の意味があるから。顔がちょっとのことで違って見えるのと同じように、大地の姿も一変するということで、いわばダジャレなのだ。鼻によって大地が変わるなら、人間の営みとは何なのか。そういう、人間世界の虚しさ、それがなす滑稽さを、見事に言い表した表現である。

シャコタン……自動車を改造し車高を落とす方法。語源は車高短から。当然ながら車のボディと地面までの距離は短くなり、例えばカマボコ踏切を超えられなかったり、段差に登って戻れなくなったりしがちだが、世の一部のクルマ好きは、タイヤを斜めにしてまでもシャコタンを実現しようとする。筆者はノーマルで乗るのが最もかっこいい派(後ろに自作のキツネさんステッカーを貼るのも夢)なので、全く理解できない。

クッションドラム……車線数が変わる所とか、料金所のところに置いてある、白と赤のチェック模様をしたあのドラムみたいなやつの名前。その名の通り衝突のさいの衝撃を和らげるのが目的で、中には不凍液などを充填した水袋がクッションとして詰められている。

チャッターバー……道路区画線の中央線上に置いてある、三角形の光る変なやつの名前。追い越し禁止区間とか、対向車が視認しづらいカーブの連続する峠道などに、はみだしを抑止するために置かれている。乗り上げると大きな衝撃と音が響き、逸脱を運転者に警告する。バイクだとたぶん、こける。本当は平行四辺形。

自動車ナンバー自動読み取り装置……日本の道路に設置されている、ナンバープレート読み取りシステム。俗称”Nシステム”。Numberの略。自動車を利用した犯罪が発生したとき、検問による渋滞などを引き起こさないよう、容疑車両を速やかに捕捉することを目的として設置されている。車両を全て自動で記録し、手配車両のナンバーと自動的に照会する。その後車種・所有者・メーカーまでわかるすぐれもの。ただし問題があって、運転手や同乗者も同時に撮影される。新潟県の警察署課長が、別れた女の車の動きを、Nシステムで追跡していたことが明らかになった。警察はやっぱり暴力装置、はっきりわかんだね。別種にHシステムがあるが、これは阪神高速道路に多く設置されていたからHと呼ばれ、ハンペンのような白いレーダーとカメラが、道路の上にあるやつ。速度違反を取り締まるためのもの。

なぜ速度測定器の看板があるのか……よく考えれば、抜き打ちで速度を検査したいであろうに、なぜ測定器があるという看板が設置されているのか。実は、勝手に運転手を撮影することは、肖像権やプライバシーの侵害となりうるため。あらかじめ告知すること、そして行為の様子を捉えることが必須となるため、標示しているのだ。防犯カメラに関しても同じで、抑止のためではなく、犯罪の証拠として成立させるための方途なのだ。

ノイジーマイノリティ……声高な少数派の意。声がでかい少数派だが、声がでかいゆえに無視できず、社会を悪い方向に先導する。実質的にクレーマーと同様の意を持つ。こういうと腹が立つようだが、多数派が少数派をノイジーマイノリティと糾弾して黙らせる手法もよく使われるため、このことばを使うには細心の注意を要する。

一撃離脱戦法……相手を攻撃した後にすぐ逃げる方法。よくボス攻略とかで用いられる用語。零戦に対しF4F、スピットファイアなどがとった方法。敵機を見つけたら上空から一気に襲い掛かって、敵の前に出るより先に、急降下のまま逃げていく。ただしこれは高度差を生かした加速だとか、目視による索敵とかが有効だった時代の話であり、現代戦闘機は全てレーダーを搭載しており、また最高速度以上の加速が出来ないため、効果がない。

ルサンチマン……弱者から強者に対する「怒り・怨念・非難」の感情。自身で社会的格差を解消できず、一般的な価値観を否定しがちである。強者側を悪者とし、彼らは悪者だ、われわれは善人だという帰結をすることによって、自分たちの考え方を正当化する。キルケゴールが想定した哲学上の概念で、ニーチェにより再定義された。

レイザーラモンHGの「HG」とは……HGというのは”ハードゲイ”の略で、芸を見たケンコバに「お前はハードゲイか！」と突っ込まれ、ハードゲイキャラとなった。筆者が小学生の時に流行ってて、「なんで腰振ってるだけで大人が大笑いしてるんだろう」と思っていたが、成長した今なら言える。こいつ、面白いわ。ちなみに相方は”RG”だが、これは”リアルゲイ”の略。好感度と人間を捨てる代わりに、鋼の心を手に入れた。なお同じような名付けに「猫ひろし」がいる。舘ひろしの「タチ」はホモ業界で攻めを意味し、受けを意味する「ネコ」からとったという。ただ猫が好きというのもあるらしい。

うな茶とひつまぶしの違い……どーでもいいが(だって両方おいしいし)、うな茶は昆布だしのお茶を、ひつまぶしは普通のお茶を出すのだ。

クラッチとは……MTの運転がうまくいかない人に、どうやって車が動いているか想像するといいよ、というアドバイスをする人がいるが、そもそも興味がない人はどうでもいいから、若干的外れな気がする。クラッチはエンジンの動力をトランスミッション、そしてその先の車輪に伝える装置であり、つながるとか切り離すという言い方をする。クラッチのペダルを踏むとクラッチが繋がる。発進時や坂道発進では半クラッチにする必要がある。両手のひらで例えるとわかりやすい。右がエンジン、左がトランスミッション、手の平がクラッチとする。手の平を合わせて強く押すと、噛み合って外れない。これがつないだ状態。手の平を離すと、右腕が動いても左は動かない。これが離れてる状態。最後に、弱く手の平を合わせる。右を動かしても、左に力が伝わらない。これが半クラッチ。

落ち葉が出る木を街路樹にする理由……掃除が大変そうなのに。実はこれ、季節によって日差しを調節できるようにである。夏は木の陰を大きくし、冬は逆に木の葉が枯れて日向になるように。夏はあるのとないのとで6度も体感気温が変わってしまう。ちなみに街路樹の歴史は相当古く、奈良時代に天皇が街道に木を植えたのが始まりとされる。長旅を続ける人が木の実を取って食べ、飢えを満たすという実用的な理由もあったようだ。

クランベリーのすごい収穫方法……クランベリーは日本でなじみがないが、アメリカではソースやジャムなどに加工して、非常によく食べられる果実。インディアンが食べていたということで、歴史もある。この収穫方法がすごく、収穫の前日に畑に水をまき、かき混ぜて浮かんできた果実を収穫するのだ。クランベリーは熟すと空洞ができ、比重がかるくなって浮いてくる。熟していないものまで機械で摘み取らないようにこうしている。なにせ、成熟まで16か月もかかってしまうのだから。ちなみにオリーブは、オリーブの木を揺らし、振動で収穫する。オリーブは収穫した瞬間から劣化が始まるから、一刻でも早く市場に出したい。

トンボ鉛筆が”TONBOW”の理由……鉛筆にはそう書いてあるが、実はこれ、英語の”tomb”つまり墓を連想させないためのもの。最後にwをつけ、勘違いを防いでいるのだ。ちなみにあのマーク、昔は「お客様に頭を下げる商いの姿勢」ということで下向きだったが、100周年を機に「さらなる発展を」ってことで上向きになった。

東京・大阪の銭湯経営者の8割以上は北陸出身……ちゃんとした理由がある。農家の三男・四男は地元で仕事がなく、東京とか大阪に出てきて独立した。このとき銭湯を選んだという歴史がある。火事の多い江戸では住宅の内風呂が禁止だったため。仕事終わりにお手頃価格(250円)で入れる銭湯があっという間に増えたのだ。一方北陸は藩の統治がうまくいっていたため、人口が増加し、後を継げない子どもたちが江戸や大阪に出稼ぎへ。

人工のはずの日本橋川が曲がっている理由……家康公の権力誇示という説が有力。明らかにぐねっと曲がっているのだが、本来ならまっすぐなほうが便利なはず。まず、江戸に向かうために日本橋川に入るには、隅田川を通る。船が北に向かう先には筑波山が見える。そして次にへの字に曲がっている江戸橋付近。曲がった先には富士山が見える。そして、日本橋の部分でも少し角度を変えることで、大本命の江戸城を見せる。筑波山も富士山も江戸からは遠くにあって小さく見える。最後にそびえたつ江戸城を見せることで、一般庶民に将軍の権威を見せつけたのだ。

べっぴんの語源……愛知にあるとあるうなぎ屋の看板がもと。江戸時代、うなぎがブームになったとき、特別な品がありますよ、と別の品の意味で「別品」と使った。これがのちに「美しい人」という意味になり、漢字も「別嬪」となった。「嬪」は中国語で、宮廷仕えの女官、皇帝の側室の意味。この漢字はすっぴん(素嬪)にもつかわれる。もともとは皇帝に選ばれるほど美しい人の素の状態をそう呼んでいたため、このことばを使う権利がないような人もチラホラ…。

大納言小豆がおめでたい理由……大納言は小豆の中でも最も高級とされるが、それに縁起を担ぐようになった理由は、実が大きく煮ても腹が割れない、煮崩れしない。大納言という名前が実は、腹が割れないということに由来する。大納言になるような人は、殿中で刀を抜いても切腹しなくて済む。あずきを献上された将軍が、腹が割れないあずきに大納言という名を与えた。そこから腹が割れない大納言を食べると切腹しなくて済むというゲン担ぎが生まれた。また、小豆の赤色は魔よけの力があるとされ、新年を迎えるのにふさわしい食べ物になったのだ。

降伏文書の調印と黒船来航の場所は同じ……意図的にそうしたという。ペリーが日本に来たことで、日本は鎖国をやめて貿易をはじめた。だから、戦後の新たな関係を、同じ場所からやり直しましょうという意味がこめられている。ちなみに調印が行われたのは戦艦ミズーリの上。降伏文書に空欄があるのは、空白の部分は本来カナダのところだったのに、カナダ代表が間違って下のところにサインしたから。そうするとフランス代表もその下のとこに、オランダも…として、結局一つ余ったのである。

ドライヤーの温風・冷風切り替えはどうやっているのか……すぐに温度が切り替わる理由。ドライヤーは風の出口から、電熱器とファンの順で配置されている。温風は電熱器が温めた風が送られ、冷風はファンから送られたそのままの風。こういう仕組みだったのだ。ちなみに冷風で仕上げに乾かすと、サラサラになるという。

フライドポテトはベルギーの食べ物……ベルギーがフライドポテトを無形文化遺産に申請した。実はフライドポテトはアメリカではなく、ベルギー生まれなのだ。ちなみにアメリカでは「フレンチフライ」と呼ばれるが、これはシェフがフランス語を喋っていたため。彼は実は、フランス語が公用語のベルギー人だったという。今から500年前にフライドポテトがベルギーで生まれたという。川の近くに住む人が小魚を揚げて食べていたが、冬には川が凍るため、魚のかわりにジャガイモを切って揚げた。これが大評判になった。

魚の年齢を知るには……耳の部分を良く調べよう。小さくて白い石があるはず。それは耳石(じせき)と呼ばれるもので、たくさんのわっかが刻まれている。この輪っかは木と同じように1年刻みでできる。サケに至っては年齢どころか出身まで判別できるとのこと。線は水温などの環境の変化で太さが変わるため、耳石の線を自在に、バーコードのように刻むことができる。今後、鮭の放流魚の海流経路や分布の研究、野生の鮭との判別に役立つことになるだろう。ちなみにこれは人間にもある。

うなぎの屋台がうちわでうなぎをあおぐ理由……何となく客寄せっぽいが違う。火力のためでもない。うなぎには臭みがあるため、とにかく火を通すことが大事。だから全体に均一に火を入れなくてはならない。よく観察すればわかるが、火を散らしている。ちなみに扇がずに焼くと、身に火が入る前に表面が焦げてしまい、ふっくらと焼きあがらないのである。調節しても均一にできない場合、熱が上がり過ぎたところに水をかけてしまう。ここまで大事なのだ。

瞳にうつった犯人を逮捕？……子どもが誘拐されたとき、犯人が親に子どもの写真を送るだろう。だが当然子どもの瞳には、その写真を撮った人間、つまり犯人が映っているはず。顔、背格好、場所、あらゆるものがわかるのだという。というのもカメラの画素数は、1999年と比べて約200倍にまで進化。携帯のカメラであっても、瞳にうつったものを判別するぐらい、造作なくなるだろうとのこと。日常にも同じことがいえて、人の顔写真は安易に撮ってSNSにアップしないほうがいいかもしれない。これを利用した話が攻殻機動隊にあった。先読み力にはいつも驚かされる。上坂すみれ氏は実際にこの実害にあい(瞳に写った風景から、部屋の配置とかまで割り出された)、しばらくtwitterをやめてしまったという。

紅葉するアジサイがある……群馬や北海道にひっそりと生息する「ミナヅキ」という品種がそれ。最初は真っ白でアジサイというかんじなのに、気温が低くなるほど紅葉するかのように赤くなる。寒さに強く、夏が過ぎても枯れずに咲くことができる。標高が高く寒暖差の激しい場所でしか見られず、3週間しか出荷されない希少なアジサイ。

外国産のマツタケを国内産のような風味にできる裏技……外国産のマツタケは風味が国産のものに比べて落ちる。これは、マツタケを輸入するときは土が付着してはいけないという決まりがあるためで、水で洗うから。しかし、枝豆と一緒に入れて炊けば、ほとんど国産のものと変わらない。カナダ産が1本1000円以内だが、国産は1本1万円以上する。これはやらないと損だ。

てんぷらを揚げる時、太い菜箸を使うと良い……一般的なものに比べ、職人が使うものは2.5倍以上の太さ。てんぷらの衣は水と小麦を混ぜてつくるのだが、細いもので混ぜるとグルテンが流れ出てしまう。これが出るとサクッとした衣にならない。そしてもうひとつ、揚げた後のものを優しく扱うため。穴子のてんぷらなんかは、すぐにホロッとなってしまう。ちなみに天ぷら屋では絶対に音楽を流さないが、これは「職人が油の音が変わるところを聞いているから」。太い箸が家にない人はマヨネーズを使おう。マヨネーズを衣に使用した場合、マヨネーズの油分によって衣の中の温度が高温になり、それによって水分が飛んでカラッと仕上がる。てんぷらの語源はポルトガル語の「テンペロ」。揚げ物が多いポルトガルにおいて「料理」を意味することば。今はポルトガルでも”Tempura”として楽しまれている。ことばが行って帰ってくるのは非常に珍しい。

ホッケの干物に背骨が二つある理由……アジをはじめとするほとんどの魚の開きは、片側にしかない。実はホッケ特有で、背骨とあばら骨の間にある膜がフタのようになって、うまみのもとを閉じ込めているため、わざわざ背骨を真っ二つにし、両側に背骨が来るようにしているのだ。じゃあ他の魚もすれば？と思うが、骨の一部が機械の刃より硬いアジやタイは、真っ二つに出来ない。

レモンを30秒でおいしくするコツ……じつに簡単。まな板の上におき、両手で抑えて体重を少しかけ、上下左右に30秒ほど転がす。こうすることで、本来皮から出るはずの苦味が出なくなる。転がして程よくほぐれ、皮と果肉の間に隙間が生まれることで、苦味が出るのを防げる。ちなみに絞りやすさも段違いにアップ。

美味しいアユの選び方……天然のアユは基本的に口が尖っている。流れの激しい川にいるうちに、次第に口の周りが引き締まってくるから。そしてアユは水の底に生えたコケを食べる。コケは脂分があり、川の流れが激しいところほどおいしいコケが育つ。つまり、口元がより尖ったアユがおいしいということになる。ちなみに中国語ではアユと書くとナマズの意味になる。本来のアユは「香る魚」で「香魚」。日本でもこれはアユの意味、別称になる。

民明書房……魁！！男塾(さきがけ　おとこじゅく)なる漫画に登場する架空の出版社。このところの刊行物を引用するという体裁で、過去の偉人たちの逸話や決闘方法などを解説し、ある種のリアリティを出している。当然解説は全てフィクションだが、「ウソか本当か微妙な境目」と作者が語るだけあり、もっともらしいエピソードが多く、本当に書房の書籍を探し回る人が続出。「ゴルフの起源は中国」と書いたら、イギリスですよ！と抗議してくる大人もいたという。ネットミーニングとして膾炙し、俗に「民明書房」ネタと呼ばれる。読んでみたい題名のものもある。

アバンギャルド……フランス語で「前衛」という意味。前衛は英語でフォワード、単に本当に最前線にいる兵士や選手を表すこともあるし、文化・技術の最先端ということで、「前衛アーティスト」といえば、その時代の最先端を取り入れたアーティストということになる。特にシュールレアリスムや抽象絵画などを指すことが多い。

民間語源……言語学的に根拠がない「ことばの由来」の話。市民がつくるものもあるが、研究者が伝承者の採録を無批判に行って膾炙してしまったものも多い。人間の発音できることばには限界があるため、言語学者や市民が、2つの違った言語の単語の共通点から、これらが同根の単語であると類推するが、それが間違っている、つまり単なる偶然である、というような場合が代表的な例。holeと掘る、killと殺す、buyと買う(音読みで「ばい」)などいくらでもこじつけが可能なので、枚挙にいとまがない。しかし、多くの史料による検証が可能で、文献学上の批判に堪えうるものもあるため、単純に全てデマと断定するのも不可能。また、同じ言語内で似た発音の語を結び付けるものもあり、例えばドラ息子のドラが「銅鑼」であるとか、ヒストリーがヒズ・ストーリーであるとかが有名。最も誤解されがちな例でいえば、神無月は「神が会議に行ってていなくなるから」というこじつけ。無の字は単に「の」という意味で、神の月というだけ。語源は正しくは不詳。師走も同様で、僧侶が仏事で走り回る忙しさから、というのは言語学的根拠のない、あてずっぽうであることが判明している。平安時代には既に語源がわからなくなっていた。

死者に花を手向ける理由……ネアンデルタール人の集団のお墓の土の上に、花粉があったという。ここには一面に花が咲き誇っていたのだろう。しかし面白いのは、洞窟の入り口からは遠いところに墓があり、ここにもともと咲いていた花とは思えない、ということで、彼らにも花を手向ける習慣があったのかもしれない。なぜ花を供えるのか。学者によれば、もともと遺体に添えられた花は薬効のあるもので、遺体の腐敗を防ごうとしたのではないかというものだが、何はともあれ、どこの文化であってもお墓に花を供えるのは、何度でも再生する花や草木が生命力の象徴とみなされ、死者の再生を願う気持ちではなかろうか。

有線放送とは……この曲有線で流れてた！とみんな言うがそもそも有線とは。有線放送とは有線を利用して送信される放送。つまり電波ではなく、ケーブルを通じて放送を送信し、受信機を繋いでいるもの。つまりケーブルテレビも有線の一種。有料だが。無線に比べて使える電波資源が豊富なため、専門チャンネルが数多く存在する。

画伯……絵画に長じた人に対する敬称、であるが、ネットにおいては主に悪い意味で常人離れしたセンスの絵を描く人に対して呼ぶことが多い。そのため使い方には注意。モンハンの「プロハン」と同じ扱いである。HID姉貴の悪口はNG

トキ……学名”Nipponia nippon”なる変な名前の鳥。日本を象徴する鳥と言われるが、日本の国鳥はキジ。新潟県の県の鳥で、佐渡市において現在人工養殖されている。ロシア、台湾、朝鮮半島、日本、中国にいたが、中国以外では野生絶滅。中国でもわずか1000匹ほどしかおらず、絶滅が危ぶまれている。学名はローマ字表記の日本に由来するが、最初からそのような命名だったわけではない。シーボルトがオランダに送った標本により”Ibis nippon”と命名したが、別の学者が”Nipponia temmincki”と全く新しい学名を命名した。学名は当然最初につけたほうが有効になるのだが、属の命名としては初だった後者の名前もある種有効になり、結局後者の属名と前者の種小名をあわせた”Nipponia nippon”が学名として一般的になった。なお現在、死んだトキ(キンという名前)の組織細胞が冷凍保存されており、iPS細胞によって日本産の遺伝子を受け継ぐ個体を復活させる取り組みが行われている。

オリンピックの金メダルを噛む理由……これは金メダルだぞ！という歓びを表現したもので、金は純度が高いほど柔らかいため、本物であるかどうかを噛んで判断したことに由来するとされる。1988年水泳の選手が行ったのが初だが、銀を噛んだ人はそれより前にいたらしい。カメラマンも選手の表情のアップとメダル両方をフレームにおさめられるということで、今日では広く普及している。なお金メダル自体は純金ではなく、銀メダルに金メッキしただけのもの。国際オリンピック委員会(IOC)が、開催国によってメダルの価値が変わることがないようにと配慮したため。

下着はクリーニングに出せるのか……出せない。衛生面における安全性が担保されないから。ただし免許を持っているところなら出せる。スニーカーはしかし意外にも出せる。まあ粘膜に接するところと靴じゃ、扱いが違うのも当然だろう。

プリンが3連パックなのにヨーグルトが4連パックの理由……プリンはおやつの時間に、お母さんと子供二人が食べられるようにで、ヨーグルトは朝食に、お父さんも含めた家族4人で食べる設定だから。ちなみに焼きそばが3パックなのは、フライパンで炒めたときあれが一番ちょうどよいから。

夏休みのときにランドセルのCMがある理由……夏休み、お盆で帰省したとき、そのCMを見て祖父母に買ってもらう、という戦略のため。最近はLINEなども普及してきているし、いずれなくなるかもしれないが。

理科室のイスに背もたれがない理由……当然危険な化学物質だとか火とかを扱うわけで、すぐ逃げられるようにしないと困る。危険な時にすぐに逃げることができるようにするためなのだ。また、背もたれに実験道具などがぶつかることがないようにというのもある。他にも理科室の水道の勢いがめっちゃいいのは、付着した物質を素早く洗い流すため。あとは、理科室の机が黒いのは、薬品などをこぼしてもすぐわかるように。

町内放送で5時、6時に音楽が流れる理由……あれはちゃんとした意味がある。スピーカーが壊れていないか毎日確認するためなのだ。防災、災害の時に鳴るように確かめているのだ。

イカスミパスタがあるのに、タコスミパスタがないのはなぜ……両者のスミの使い方の違い、ひいては、スミの味の違いによるもの。イカはスミをオトリにして逃げる。タコはスミで目くらまして逃げる。だから前者より後者のほうがサラサラしている。そしてまたタコはスミを取り出しにくく、タコ自体も高い。イカよりタコのほうがおいしいらしいのだが、実用的でないため、イカスミが普及しているのだ。

黒ひげ危機一髪のルールは二転三転している……1975年、発売当初は、飛び出させた人が勝ちだった。負けになったのは、CMの演出でそう見えてしまったから。その後、勝ちか負けかを自分たちで選ぶ方式になり、最終的に今のルールへと落ち着いた。ちなみにあれは、剣を刺していじめているわけではなく、仲間が救出しているという設定。

赤いリンゴが消える可能性がある……リンゴといえばやっぱり赤であるが、そうするための手間は大きい。日光に当てないと赤くならないので、ちゃんと日光がまんべんなく当たるよう、実を回したり、地面に反射板を置いたりする。10haあたりの着色管理時間は赤が62時間、それに比べ黄色はなんとゼロ。手間、人手不足、高齢化などの影響で、赤いリンゴの栽培数が減ってきているのだ。

AirwaysとAirlinesの違い……日本で有名な航空会社と言えばANAとJALで、両者はAll Nippon AirwaysとJapan AirLinesという名前。この違いは何に由来するか。まずAirwaysのほうはアメリカ系の会社の影響を受け、Airlinesはイギリス系の会社の影響を受けている。アシアナ航空、シンガポール航空はAirlinesで、カタール航空やキャセイパシフィック航空はAirways。どっちのほうから技術を学んだかによる違いなのだ。

飛行機着陸の「ドスン」は下手なのではない……むしろうまいパイロットほどドスンと降ろす。ハイドロプレーニング現象を防ぐためで、安全のためのものなのだ。

酒は百薬の長は間違い……「お酒を適量飲む人」は「全く飲まない人」より死亡リスクが低いという研究があったが、実は「全く飲まない人」に「お酒を飲めないぐらいの病気の人」も含まれており、検証の方法に誤りがあったことがあわかった。それを取り除けば、お酒を飲むほど死亡率が高いというグラフになる。酒は百薬の長というのは、昔の中国で商人が、酒をたくさん売るために考えついた売り文句であったという。

90分睡眠サイクルはウソ？……これはウソ。70分の人もいれば110分の人もいる。90分サイクルが全ての人に当てはまっているわけではない。

人間の心臓は野菜からつくれる……ほうれん草の葉脈は人間の心臓の血管に近く、葉脈だけ残し、そこに心臓細胞を移植すると、増殖して機能し始め、血液を流したところ、5日後から脈を打ちはじめ、最長で2週間動き続けたという。ただまあ…ほうれん草心臓を移植となると、課題も多いような。

洋服を買ったときについてくる布の切れ端の役割……あれは補修用とかではない、そもそも布の切れ端がくるような高価な製品をパッチなんて、おぞましい。洗濯してみて、色落ちとか縮みがないか確かめるのに使う。衣類が痛むのを未然に防ぐ役割があるのだ。

髪が痛んでいるか確かめる方法……一本ちぎって水に浮かす。傷んだ髪は油分が少なく、開いたキューティクルに水が入って沈む。健康なものは油分でコーティングされており、水をはじくため浮く。

金の折り紙の作り方……金箔を塗っているわけではない。銀のアルミにオレンジ色のインクを塗って作っているだけ。特殊な溶剤をつかってインクを剥がすと銀色になってしまう。オリンピックのメダルみたいだぁ…。

シリアル、グラノーラ、コーンフレークの違い……まずシリアルは、グラノーラとコーンフレークを総称したもの。グラノーラはえん麦(ロールドオーツ)が原材料になったもので、コーンフレークはとうもろこしが原料。

ラーメンはすすったほうがいいのか……外国人が唖然とする日本の風習が、麺をすすることらしいのだが、実はラーメンのスープは脂で覆われており、すすらないと香りを楽しむことができない。香りは4倍も違うのだという。すすって食べよう。

騒音の中で会話をする方法……音には、跳ね返しやすい音と、跳ね返しにくい音がある。前者は周波数が高く、回折せずすぐ反射する。しかし後者は周波数が低く、よく回折するため耳に入ってくる。だから、騒音の中では耳をふさいで会話してみよう。聞こえるはずだ。

食後の薬は食前に飲んでもよい……食事の影響を受けやすいものは食前、受けないものは食後なのだから、両方を食前に飲んでも全く問題はないという。ただし逆はまずい。

ロシア軍の風船戦闘機……実はロシア軍は大量の風船戦闘機を持っており、赤外線センサーやレーダーをあざむけるほど巧妙につくられている。これを並べておくと、他国が衛星写真で見たとき、本物に見える。軍事力があるようにみせかけられるのだ。1機およそ100万なのでコスパがいい。

人工ダイヤモンドの原料は何か……実はこれがフライドチキンなのだ。骨に炭素が含まれている。まず、燃やして粉々にし、薬品をまぜて30分沸騰させる。これで炭素を抽出。炭素を型に入れ、1200度、6万気圧のオーブンへ。そうすると炭素がダイヤの原子構造に変化し、原石が生成。これを磨き、装飾用のカットを施す。最近ではかなり精密になっており、プロの鑑定屋でも見分けがほとんどつかないという。

水とお湯は音だけで聞き分けられる……経験からわずかな違いを無意識に聞き分けられる。粘性のわずかな違いによって、コップの中での振動の伝わり方も変化するからだという。

柚子胡椒に胡椒は入っていない……辛いのは胡椒ではなく、唐辛子のせい。九州では、方言で唐辛子のことを胡椒という。

消防車はヤフオクで購入できる……官公庁オークションといって、役所で使ったもの、滞納で差し押さえたものなどを、収入不足を補うために販売される。消防車は30万、はしご車は90万で落札され、海外に輸出したり、ゴルフ業者が水撒きに使用したりした。

瓶ビールの栓を店員が抜くのはサービスではない……法律違反にならないようにするため。栓をしたままだと未開封のビールを売ったことになってしまう。飲食店営業許可だけでは、未開封のお酒を売れないため、開けて出すのだ。缶ビールが居酒屋にないのも同じ理由。

銀行にチーズを預けられる……銀行で、イタリアのチーズの王様「パルメジャーノ・レッジャーノ」を熟成させることができる。製造から販売までに2年もかかり、その間製造者は無収入であるが、チーズの完成予想額の80％を、融資として受けられる制度があるのだ。1個40キロの融資額はおよそ6万円。相場は時間によって変わる。2018年現在、44万個が熟成・管理されており、総額で言えば400億円にもなるという。

マヨネーズは機内持ち込み禁止……液体量によって危険物とみなされ、その目安は100ミリリットル。爆発物をつくり、機体を損傷させられるか、という基準である。マヨネーズ、ケチャップ、ジャムなどは、中に化学品を混ぜても見た目でわかりにくいため、持ち込みが禁止されている。

女子マラソンの発祥逸話……実は女子マラソンは当初からあったわけではない。ひ弱すぎるとか、マラソンが女性らしさを失わせるという理由で、男子が参加するマラソン大会には参加することが出来なかった。しかし、20歳の女子学生が、自分の性別を隠して1967年のボストンマラソンに参加、完走したことで、女子マラソンへの機運が高まったという。その5年後、女子の参加が認められ、1984年、ロサンゼルス五輪で正式種目になった。

天井がないトラック、何のためにあるのか……たまに田舎で見かけるが、あれは実はリンゴ・梨などの果樹園で大活躍している。果樹園の木は低いので、普通の軽トラックでは当たって実を落としたり、引っかかったりしてしまう。廃車になった軽トラを使い、運転しながら効率よく収穫できるのだ。ちなみに公道を走ることはできず、私有地での走行に限る。

国立競技場は臨時ゴルフ練習場だった……東京オリンピックの5年前のこと。国立競技場でゴルフの打ちっ放しができたという。これは、開催費をまかなうための政府の秘策。その結果年間売り上げは5000万円(現在の2億円)で、維持費不足分の17％を補うことができたという。

9月2日は宝くじ敗者復活戦の日……1年たつと無効になってしまうため、当選の換金し忘れ防止のため導入されている。当選するとタオルや米など生活必需品の商品が当たる。しかしこのことを知るのは日本人の何割なのか考えると、当初の目的が果たされているとは思えない…。

ワサビのおろし方は食品で変えよ……肉料理か魚料理で大雑把に分けることができる。魚料理は丸く円を描くように。細胞が壊れて辛味と香りが出てくる。肉料理はまっすぐ前後に。マイルドな辛さになり、沢山つけて食べることができ、肉の脂が中和されて胃もたれを防止できる。

「身から出た錆」の「身」とは……実は体のことではない。刀の刀身のことなのだ。刀の手入れを怠っていると、万が一のときに全く使い物にならず、自分の命を落とすことから。

綱引きがオリンピックで行われていた時期があった……1900年から1920年まで。8人のチームが5分間で、相手のチームを中央線から1.8メートル引っ張れば勝ち。ちなみに他にも、鳩射撃とか、馬幅跳び、馬高跳び、距離飛び込み、綱登り、立ち高跳びなど、今からすれば考えられないような競技があったという。

天皇はどうやって身分証明するのか……職質を受けたとき、天皇はどのようにして身分証明を行うのか。そんな疑問、そもそも天皇の顔を知らない日本人はいないだろう、という話で済むが、実は天皇は身分証明書とかパスポートを持たないかわりに、運転免許はとることができる。一応これが身分証明にはなる。但し国際的な慣例により「国家元首や同等の地位にある人にはパスポートは必要無い」というのが決まり。ちなみに天皇でなくとも、皇族が何かをして逮捕、というようなことは、できない。というのも皇族に日本の刑法は及ばないから。ゲームでいうところのimmortal object(不死オブジェクト)であるから、とりあえず会議にかけ、皇族をはく奪してから、一般人として逮捕という形になるだろう。

高松宮殿下記念世界文化賞……絵画、彫刻、建築、音楽、演劇(映像)の5分野それぞれにおいて、毎年優れた人物に授与されるもの。1500万と金メダルがもらえ、まさに「ノーベル賞を芸術面で補完する」ための賞であるといってよい。ノーベル賞にはある文学部門がないのはそのため。高松宮宣仁親王(たかまつみや　のぶひとしんのう)の「世界の文化芸術の普及向上に広く寄与したい」という遺志を継ぎ設立された。

日本の領土が広いのはあの鳥のおかげ……アホウドリのおかげなのだ。現在日本海に4000羽が生息しており、現在は天然記念物に指定されている。大小6800以上の島からなる日本は、多くの島々の面積を足しても国土の大きさは38万平方キロで世界61位。しかし、日本の領海および経済水域の広さは447万平方キロで世界6位で、国土に対し圧倒的に広い海を持つ。人がいない島を領土と宣言しはじめたのは明治時代からで、これらのきっかけとなったのは、ヨーロッパと貿易する中でアホウドリの羽毛が非常に高く売れたこと。彼らを追っていくうちに新しい島が次々と見つかり、太平洋に浮かぶ島々が今の日本の領土になり、世界6位の広大な海の面積を誇る国になったという。

甲子園の地名の由来……阪神タイガースの本拠地・高校野球のメッカとしても知られているが、そもそもなぜ甲子園という名前なのか。完成するまでは枝川運動場と名付けられていたが、1924年が十干十二支の最初の組み合わせにあたる「甲子」(きのえね)で、60年に1年という縁起のよい年であったため、こう名付けられた。当時は東洋で最も大きいところだったという。

富士山の5合目は半分ではない……実は合目と頂上までの距離は無関係。この「合目」というのは、ちょうちんの油一合が燃え尽きる距離という説や、米を少しずつまきながら歩いて一合分がなくなるまでの距離という説がある。また、登山のつらさや疲れ具合を基準に分けたという説もある。ほとんどの山は登るにしたがい斜面が急になる。つまりよりきつくなる。だから、数字が上がるにつれ、次の合目までの距離は短くなる。

日本の標準時が明石市になった理由……明石市は日本の中心より西に寄っているがなぜこんな微妙なところが。それは国際子午線会議にて「イギリスグリニッジ天文台をゼロ度として、360を24で割って15、15度刻みにするから。ちゃんと子午線を通るところで標準時を決めてね」となったから。日本の標準時が明石市にあるのは、東経135度を通っているからなのだ。

「七つの海を股にかけ」の七つってどこ？……世界の全ての海のことを指すのだろうが、実は時代や地域によって異なる。というのも陸路が一般的だった時代、船での移動範囲なんてせいぜい知れていたから。現在では一応大西洋、太平洋、インド洋、北極海、南極海で、大西洋と太平洋をそれぞれ北南に分けている。

ナイアガラ滝はそのうち消えてしまう……五大湖のエリー湖からオンタリオ湖にかけて落差で流れるナイアガラ川の途中にあるのがナイアガラ滝だが、そのうちなくなってしまう。誕生したときは現在より11キロも下流にあり、勢いのある川の流れで崖が削られ、上流に年平均1.5メートルの割合で後退しつつある。この割合だと5000年後にエリー湖に吸収されてしまうという。しかし今は、水力発電所のダムを作成し、人工的に水量をコントロールしているため、年間3センチと大幅に浸食を抑えている。急いで見にいく必要もないだろう。

箱根駅伝における「黒歴史」……1925年の第6回大会で起きた「ランナー替え玉事件」(人力車夫事件)で、日本大学が人力車を引いている足の速い社会人を雇って走らせたというもの。足が速く4人抜きを達成したが、それがバレてしまう。なぜバレたのか。まず、人力車夫はいつも手を腰に当て、お客さんを引っ張っている。その癖が出て、走る時も全く腕を振っていなかった。さらに、他の選手を追い抜くときに手をあげて「アラヨー」と大声を張り上げていたことからだった。しかし、公式記録は取り消されず、本来エントリーしていたランナー名で記載。日本大学はこの不祥事の責任をとり、翌年の参加を辞退した。

棒高跳びは第二次世界大戦をきっかけに低迷……棒高跳びはその昔日本のお家芸だった。例えば1936年のベルリンオリンピックでは、日本人選手が銀と銅を独占。しかし第二次世界大戦を機に急にメダルを取れなくなった。まず、戦争の前はハイテクなポールがなく、日本の竹が使われていた。丈夫でしなりが良く、節が長いので持ちやすかった。世界中の選手が日本の竹を用いていた。つまり日本人選手にとっては非常に有利だったのだ。しかし戦争に入り竹が輸出できなくなると、海外諸国は日本の竹を手に入れられず、竹以外のポールを開発してしまったのだ。東京オリンピックでは今のルーツであるグラスファイバーのバーになった。地の利を失ったことが、敗因のひとつだったのだ。

ナイキのロゴのデザイン料はわずか35ドル……1971年、とある女子大生に「時給に換算して一時間2ドルでロゴをデザインしてほしい」と頼んだ。彼女は1週間以内にいくつかをデザインしたが、満足いく結果ではない。しかし急ぐ必要があったので「まあ時間がたてば馴染むだろう」といい、妥協の末にいくつかの中から選択。これはわずか35ドル。

フィギュアスケートの花束に関する工夫……終わった後に花束を投げ込むシーンは日本独自の慣習で、外国ではぬいぐるみなどを投げる。そんな花は、東京の文京区本郷の小さな花屋さんでのみつくられている。というのも特別な工夫がされているから。まず、重りに水を含んだスポンジをつかい、ちゃんとスケートリンクまで届くようになっていること。そして、花束を投げても花びらが飛び散らないよう、花全体をラッピング。氷に当たっても破れないよう、通常のセロハンより厚いものを使用している。

柔道では黒帯より上がある……黒帯と言うと何となくすごそうだがもっと上があるのだ。初段から5段が黒帯、6から8が紅白帯。28歳以上で、試合の成績、審判の実績、指導の実績など柔道の強さだけでなく、柔道界に対する貢献度が必要。そのため現役の選手が紅白帯を締めることはわずか。古賀稔彦は「紅白帯」を持っているが、もったいないため普段は着けていないという。帯の色にはさらに上があり、九段～十段は「紅(赤)帯」となり、これが最高位の帯である。現在、存命の十段は4名。

槍投げの人類最高記録は出ない……過去のやり投げの記録はどんどん伸び、100メートルを超えるようになった。やがてやりがフィールド内に収まらないようになり、競技が危なくなる。その時の記録は1984年の104m80cmで、本当にギリギリのところまで飛んだ。そのため槍の重心を4センチ前に出し、100メートルを超えないように調整。人類最高記録はもう出ない。

フィギュアスケートはかつて夏の種目だった……今では冬のオリンピック種目として実施されるが、昔は夏のオリンピックで実施されていた。1908年第4回夏季ロンドンオリンピックにおいて、正式種目に採用。当時の最新技術を用いて、屋内にスケートリンクが設置されて競技が実施された。冬季オリンピックが始まったのは、1924年(大正13年)第1回 冬季シャモニーオリンピックから。この大会で初めてフィギュアスケートは冬季の正式種目となり、男女シングルとペアの3種目が実施された。

聖火は開催国までどうやって運ぶか……オリンピック発祥の地であるギリシャ・アテネで太陽の光を利用して採火される。聖火は消えてはいけないので、その後、開催国までは燃えたままの状態で運ばれる。遠い国で開催される場合、聖火は船ではなく飛行機で運ばれる。通常、飛行機は火の持ち込みはできないが、聖火は特別扱い。2012年ロンドンオリンピックの際、消火器が一緒に付いた携帯用ランプで、動かないように客席に固定されてイギリスへ運ばれた。

オリンピックの競泳は当初海で行われていた……1896年、第1回アテネ大会の競泳は近くのゼア湾。開催は4月で、海水温は13度程度だったと推測される(現在のプールの水温は24℃以上に保たれている)。少しでも体温を奪われないようにワセリンを塗って及ぶ選手もいたという。海は波や流れがあり、水温の低さに加えて、天候によってコンディションも大きく変わるため、現在よりも過酷な状況であった。第2回パリ大会はセーヌ川をせき止めた場所、第3回セントルイス大会は郊外の人工の池で行われた。プールが使用されるようになったのは第4回ロンドン大会からのこと。

大型バスの窓が開く理由……実は開くやつと開かないやつがある。その違いは補助席があるかどうか。補助席がある場合、事故が起きたときなどに、逃げるのが遅くなる可能性が高い。だから窓が開くようにしなければならない、と、国土交通省の車両保安基準によって定められている。

路線バスは信号を青に変えられる……全てではないが、そういうものがある。このシステムは「公共車両優先システム」(PTPS：Public Transportation Priority System)で、バスの定時運行を目的として、道路が渋滞している時でも路線バスがスムーズに運行できるように信号をコントロールするシステム。道路の上部にセンサー(光ビーコン)が付いていて、これによりバスの位置情報が分かる。バスが遅れるとその情報が交通管理センターに送られ、バスの前方の赤信号が優先的に青信号になるという仕組み。

関越道の花園ICの渋滞の原因……普通に運転していると絶対に気付かないその特殊な地形に原因がある。花園IC付近は何の変哲もない普通の直線の道だが、アクセルの踏み方を変えていないのにゆっくりと速度が落ちる。そして、前の車との車間が詰まるとブレーキを踏む。前の車がブレーキを踏むと後ろの車もアクセルを緩めて速度が落ちる。これが渋滞の原因。下り坂から上り坂に差し掛かる気づきにくいＶ字型の形状、つまりサグと呼ばれるものによって渋滞が起こる。

東京の地下鉄の路線がカーブしている理由……地下鉄の都営大江戸線の路線図を見ると、国立競技場駅と代々木駅の間にきついカーブがある。地下鉄は地下を走っているので、真っ直ぐトンネルを掘ればよく、わざわざカーブさせる必要はないようにも思える。本当は最短で走らせたほうが路線は短くなり工費も安くなるが、一般人の土地の下を通してしまうと使用料がかかる。私有地の地下であっても土地の所有権が及ぶため、私有地の下に地下鉄を掘ると使用料が発生する。使用料として土地の値段の6割～7割前後かかることが多い。使用料のかからない国道一般道の下になるように、路線を無理やり曲げている。それにより初期費用を含めたコストを抑えて、結果として乗客の運賃を安くしているのだ。

飛行機のタイヤの中には窒素が入っている……普通は空気を入れるが、航空機は窒素。①飛行機のタイヤは着陸するときに大きな力が加わり高温になる。酸素を含まない窒素ガスは爆発や火災のリスクを最小限にできる。②タイヤの小さな劣化が大きな損傷につながる恐れがある。窒素は空気に含まれる酸素と違って、不活性ガスなのでタイヤの素材の劣化を防ぐことができる。③高い所を飛ぶため温度が急激に下がる。水蒸気が含まれるとこれが凍ったりするため水分を含まない方がより安全である。以上の理由より窒素が入っている。

日本唯一の全地形対応の消防車「レッドサラマンダー」……2017年7月に発生した九州北部豪雨では、福岡や大分などが甚大な被害を受けた。この時に注目されたのが日本唯一の消防車「レッドサラマンダー」。最大の特徴は一般の消防車では走れないような荒地や瓦礫の上、さらに深さ1.2mまでの水中走行も可能なこと。日本にたった1台しかない全地形対応の消防車が、九州北部豪雨において総務省消防庁からの依頼で初出動。東日本大震災の教訓をもとに消防庁が設置。2013年から、愛知県岡崎市の消防本部に配備。ここに配備されている理由としては、日本のほぼ中央に位置するため東日本・西日本どちらでも出動しやすいこと、南海トラフ巨大地震が発生した場合でも津波災害の恐れがまずないことが挙げられる。

箱根登山電車は急斜面のため車輪に水をまく……箱根登山電車は非常にきついカーブを曲がり、また急斜面を登るため、車輪とレールの間で摩擦熱が生じる。そこで車輪の所に水をまく機械が付いていて、水をまいて摩擦を減らし滑りを良くして走っている。普通はレールに潤滑油を塗るが、油だと急勾配で車輪がすべって危険。標高差527mの急勾配を登る箱根登山電車ならではの工夫である。ちなみに、箱根登山電車の勾配は最急80‰で、ラックレールやケーブルに頼らない粘着式普通鉄道において日本一。

ドバイでは1億円以上の高級パトカーが使われている……ドバイでは14種類のパトカーを所有していて、最も高いのがブガッティ・ヴェイロン(約1億6000万円)。他にもフェラーリとかアストンマーティンとかGT-Rとかそうそうたるメンバーばかり。これらの車に乗りたい人が警察官を目指すのではないかと思えるほどのラインナップ。

山手線の駅の中に廃止になった駅がある……明治天皇の皇后・昭憲皇太后のお葬式の時に、ひつぎを京都まで運ぶための仮の駅を代々木練兵場(現在の代々木公園)に作った。葬場殿仮停車場という名前で、原宿駅との間は0.64kmであった。この駅は2日間だけ稼働。ちなみに、大正天皇のお葬式の時には、1927年2月に「新宿御苑仮停車場」という名前の駅が3ヵ月の突貫工事で作られた。あまりにも立派だったこの駅は同年に移築され、現在のJR高尾駅となっている。

京都には年に1回しか走らない路線バスがある……幻の95系統で、大原から鞍馬を結ぶ路線。バスはあまりお客が乗らないと廃線になるが、一旦廃線にしてしまうともう1度走らせる手続きが大変、また京都のような観光地ではお客が増える可能性もあり、とりあえず残しておきたい時に限りなく本数を減らして路線を維持する。これを「免許維持路線」といい、京都だけでなく全国に数多くある。バスマニアの人は1年に1度のバスに乗るのが楽しみでそのバスは満員になる。ちなみに現在は観光地に人気が出て、完全復活の日も近いという。

バスの「プシュー」という音はエアブレーキの音……ドアが開閉する時の音ではない。この音はブレーキから足を離した時に発生する。普通乗用車の場合、足で踏む力に油圧を加えタイヤの内側から制動をかける構造になっている。それに対して、バスなどの大型車は車体が重く強力なブレーキが必要なため、エアブレーキという空気圧を使ったブレーキを採用している。圧縮した空気が送り込まれて油を押すことで何倍もの力でタイヤの回転を止めている。ブレーキから足を離すと溜まった空気が外に排出され、プシューと音がする。

電車の運転免許は1度取得したら更新の必要はない……運転士の免許は国家資格、そして取得がとても難しい。また、取得までに長い期間が必要となる。運転手になるには駅員・車掌をそれぞれ1～2年ほど経験し、その後、約9ヵ月間の厳しい教習期間があり、合計3年かかる。そのため、1度取得したら免許の更新の必要はない。ただし、運転士になった後も鉄道会社においてシミュレーターを使った講習や運転技術チェックを行い、事故が起こらないように努めている。

最新のトンネル掃除は人も機械も使わない……使うのは長さ60cmのヒモ。布で作られた何の変哲もないヒモが勝手に掃除をしてくれる。車が通ると風が発生する。その風を利用してヒモを揺らし、トンネルを綺麗にしている。ヒモは風圧で360度回転し、摩擦で壁面の汚れを落とす仕組みになっている。電力や燃料を全く使わず風圧だけで掃除することから、このヒモは「風ほうき」と名付けられた。掃除した跡がいくつもの円形となっている。風ほうきが届かない部分は汚れたままになっているが、全体の80～90％を掃除することで明るさを保持している。壁面が汚れているとトンネル内の照度が下がり、ドライバーにとって危険なため、定期的に掃除を行っているが、風ほうきを使えば24時間365日働き続け、5年以上取り替える必要がない。今後はカーブミラーや高層ビルなど掃除が大変な場所に多様化していく予定とのこと。

空港の滑走路は平らではない……中央部分が高く、両脇が低く、中央から脇に向かって傾斜している。これは雨の時に水はけをよくするためである。水たまりがあるとブレーキが効きづらい、またはハンドル操作ができないことがあり、事故につながる危険性がある。そのため、滑走路には傾斜を付けて水が脇に流れるようにしている。

車が買える自動販売機……アメリカにあり、2015年11月に世界で初めて設置。高さ約10メートル、5階建ての巨大な建物が車の自販機で、中には最大20台の車を収容することができる。ガラス張りの建物になっていて、中に車が収納されているのが分かる。事前に申し込んでもらえるコインを入れ、タッチパネルで選択。7日間の試乗運転で気に入らなければ返品できる。ちなみにイタリアにはピザの自販機がある。味が4種類で1枚約600円、3分で完成。このピッツァは冷凍ではなく、小麦粉からこねて焼き上げる本格派で、その工程をガラス窓から見ることが出来る。

大型船を停泊させるために必要な水先人……東京湾に入る時には、スーツを着た職業・水先人(パイロット)の人が必要になる。水先人とは特定の港で船長の代わりに船を誘導する専門家。大型船にとって港は危険地帯。航路を外れると座礁や漁船との衝突などの危険がある。しかし、船長が世界中の全ての港の地形や海流を把握することは不可能。そこで、地形などを知り尽くした水先人が、多くの船が行き交う港で大型船を安全に誘導する。そんな水先人の腕の見せ所が着岸。船体を横にしたまま港に着ける必要があり、これが一番難しい作業。小型船のタグボートに無線で指示を出し、大型船を横からゆっくり押して着岸させる。目印になるのは着岸場所にある目印の一本の旗。この旗を見ながら、あとは経験と感覚で目視にて着岸させる。

飛行機は手作業洗浄か自動洗浄機か……成田空港においては、機体を傷つけないという目的で、手作業でやっている。また人がやることで、汚れに隠れた異常を発見できる。飛行機一機を洗うのに8人ほどのスタッフで約8時間かけて丁寧に洗浄。自動洗浄機もあったらしいが、結局細かい所は手作業。747の引退によりこの機械も解体。ちなみに「ジャンボジェット」とは、ロンドンの動物園にいたアフリカゾウの「ジャンボ」に由来する。最後は鉄道事故にあった死亡したが、それまでサーカスで活躍していた。747の代名詞になった。

普通の車両と「弱冷房車」の設定温度の違い……冷房の体感温度には個人差があり、「冷房で冷えすぎる」という意見があったため「弱冷房車」が導入されている。事業者により設定温度は多少異なるが、弱冷房車は温度を1～2度高めにしてあり、「普通の冷房車が26℃で弱冷房車が28℃」など。ちなみに弱暖房はない。個人差がないから。

パンダの色が白黒な理由……パンダは中国の内陸部、雪が積もる地域に住むから、大部分が白。ところどころが黒いのは、日陰に入った時に一体化するため、つまりカモフラージュ。そして顔の模様については従来、寒い冬に目や耳の温度低下を防ぐため、太陽光から熱を吸収しやすい黒色をしているという説や、目の下が黒いのは雪山での強い反射光を吸収する役割があるという説があった。後者については野球選手が目の下を黒く塗るのと同じ理由で、地面に反射する太陽光の眩しさを抑える働きがある。これらの説は最近の研究で変わりつつある。耳が黒いのは凶暴性や攻撃的な意志など敵を威嚇するためのものだという。また、目の周りの黒色を含む顔の白黒パターンは、カモフラージュではなく、互いを見分けるなど同種間での「コミュニケーション」に使われているという。

人は死後、約20秒間は意識がある……医師は心肺停止を確認して死亡宣告をするが、即座に脳が死ぬわけではない。脳には心臓が止まる前に送られた酸素や栄養分がある。次の補給が足りなくなった時点で脳の活動が低下し始める。そのため、心臓が止まった時点で脳が死ぬわけではなく、そこにはタイムラグがあり、それが約20秒だとする考えである。サム・パーニア医師がこの論文を書いたのだが、実際に危篤から蘇生した63人は、心肺が停止した後も完全な意識を保ち、周囲の会話や死亡宣告まではっきりと聞いていた事が確認された。その証言内容は現場に居合わせた医師や看護師も認めるほど正確なものだったという。臨終し20秒後までは、都合の悪い話はしないほうがいいかもしれない。

犬は昼行性だが昼も夜も寝る理由……祖先が夜行性の狼であるように、元々は夜に群れで獲物を狩り、昼間は体力を回復させるために睡眠を取っていた。しかし人と一緒に暮らすようになり、夜に食べ物を探す必要がなくなり、徐々に昼行性の人の生活に合わせて夜も寝るようになった。昼に寝る習性が現在も残り、昼も夜も寝るようになった。

ネコの「グーパー」「階段落ち」の理由……グーパーに関しては「ミルキング」と呼ばれ、子猫の時、母猫のミルクの出を良くするためにおこなっていたものの名残。人懐っこく甘えん坊な猫がやる。そして階段落ちは、首の周りの臭腺から出るにおいをすりつけ、マーキングしているのだという。

イワシの大群が踊る理由……八景島シーパラダイスでのショー。イワシの群れが音楽に合わせて華麗に水槽を横断。まるで踊っているようだが、その仕掛けはバックヤードにある。音楽は聞こえていないが、外からの指示に合わせてイワシのエサを専用の筒に投入。イワシはエサに群がる時も集団行動を崩さない習性があり、それを利用して場所移動させているのだ。ちなみにイワシの水槽の中にサメを入れておくことで、あんなに大きな固まりとなって群れるのだという。

40種類の花が咲く木が作られた理由……アメリカにある”Tree of 40 fruit”がそれ。アプリコットや桜、桃、アーモンド、ネクタリンなどバラ科の植物だけで構成されている。芸術品としても高く評価されている木だが、他にも目的があって、「希少な品種を守るため」。限られた場所で保存しやすい。現在、環境が変化して植物が絶滅の危機に晒されている中で、保存という観点から学者がコンパクトな土地で多くの種類の植物を残せるように研究がされている。

ネコの指は前脚が5本で後脚が4本……四本っぽいけど、ちょっと離れたところに「狼爪」(ろうそう)という指がある。親指のようなもの。木を登る時に前足を使い、その時に滑り止めになるため、これがあると便利。しかし後ろのほうはあまり使わず、退化して4本になったという。ちなみにイヌも同様で、猟犬は伸びすぎた植物が狼爪を引き裂くことがあるため、切除する場合もある。

フクロウは足が長く地上を歩くこともある……夜行性で「森のものしり」として親しまれるフクロウだが、足が非常に長く、体の半分ぐらいが足。立派な足でトコトコと歩く姿は非常にかわいらしい。ちなみに生まれた直後は歩くが、大人になるとほとんど歩かなくなる。

明石ダコは正確に言うと明石ダコではない……1963年に通称「サンパチ冷害」が発生し、記録的な寒波が日本全国を覆った。温暖な明石海峡の水温も4度まで低下、限界の水温5度を下回り、ほとんどの明石ダコが死滅。その後、熊本から持ってきた約37000匹10トン以上ものメスの天草ダコを明石海峡に放流した。現在のはほとんどが天草ダコが生んだ子孫である。大量に放流された天草ダコは明石の風土に馴染み、今の高級ブランド「明石ダコ」を支えている。ちなみに生物学的にはどちらもマダコで、漁場も変わらないので相変わらずおいしい。

体が左右でオス・メスに分かれた生き物がいる……そういうものを「雌雄モザイク」と呼び、1万分の1の確率で発生する。クワガタの場合は顎が左右でオス、メスに分かれ、明らかに長さが違う。鳥類や甲殻類、クモ類でも確認されている。爬虫類や両生類ではあまり見かけないが、これはヘビやカエルはオス・メスを簡単に見分けられないからかもしれない。

サイの角はただのイボ……昔から工芸品や漢方薬となり、とても高く売れることから乱獲されてきた。そのため5種のサイは全て絶滅の危機にある。シカやウシの角はカルシウムだが、サイの角は皮膚の一部が硬くなったもので、髪の毛や爪と同じケラチンという成分でできている。何らかの要因により角がなくなっても、髪の毛や爪と同じように再び新しい角が伸びてくる。ありたがって漢方薬として飲んでも、そのへんのおじさんの爪を煎じて飲むのと大差ない。ちなみに、サイには前歯がない。主食である牧草を食べるのに必要がなく退化したといわれている。

チーターは自分より小さな動物しか襲わない……何となく狩りといえば大きい動物のイメージだが、チーターは違う。大きい動物と一緒にいるとチーターは襲わない。反対にチーターがシマウマに追い払われるという状況になってしまう。また相手となるガゼルやインパラは体力もスピードもあるので、基本的に子供や体の弱い者、年老いた者を標的にしている。襲う時は喉元に噛みつき反撃を受けないように窒息させてから食べる。

世界最大の植物の種……オオミヤシという、セーシェル諸島原産の植物の種である。樹齢はヤシ科植物中最長で、雌は500年、雄は1000年といわれる。果実は長さ45cm、重さ30kgある。この果実が木から落ちると割れて中から巨大な黒い種が出てくる。長さ32cm、幅30cm、厚さ16cm、重さ2.7kgという桁違いのスペック。よく生きてこれたな。

ペンギンは夫婦になると一生連れ添う……愛情表現は豊かで、羽繕い、鳴き交わし、デート、一緒に寝るといった風に、徐々に距離を縮めて愛を育んでいく。つがいになるまでは三角関係や略奪愛など派手だが、一旦子どもが生まれると次もそのカップルで子どもを産む確率が90％以上、離婚率はわずか3％。

カラフルなバラは色水を吸わせて作っている……レインボーローズというのがそれ。品種改良ではなく、茎を4つに分け、違った色の水を吸わせ、白いバラを色付けしているのだ。

かつてニュージーランドには白い花しかなかった……1億年前にゴンドワナ大陸から分裂してできたのがニュージランドなので、独自の進化を遂げた動物たちを見ることができる。今ニュージーランドにある色とりどりの花は全て外来種。ニュージーランドは意外と緯度が高く、国土の大半が北海道と同じ緯度。温度が低く、昆虫の種類は限られ、夜行性の蛾に頼らないと生き残ることができなかった。蛾は夜行性なので月明かりで一番よく見える色が白色。蛾が白い花に寄り付いたため白い花が残ったと考えられている。ちなみに、ニュージーランドには約1800種類の蛾がいるとされ、紙幣にも蛾が描かれている。

水族館にイカが少ない理由……共食いをしてしまうこと、飼育が難しいことが挙げられる。壁に当たっただけで傷ついてそれが原因で死んでしまうこともある。また、大切に飼育しても寿命は1年ぐらいと短いことも理由の1つである。

水族館の水槽はエイのおかげでキレイ……水槽には白砂が敷き詰められている。魚を綺麗に見せる反面、コケが生えると目立ってしまう。エイは餌を探す時に砂の中に隠れている貝を探すために砂を掘り返す。これにより砂の上についているコケの増殖が抑えられるのである。だからエイのおかげ。

コイはどこで噛んでいるのか……いつも水面に口をパクパクさせているが、一体どこで咀嚼しているのだろう。その答えは喉の奥にある「咽頭歯」。カニの甲羅やタニシの貝殻など、吸いこんだ硬い物をここで噛んで食べる。砕いたものはエラぶたから吐き出す。10円玉を曲げるほどの力があり、水草やミミズ、カエル、昆虫類、甲殻類、貝類、小魚など、口に入るものならほとんど何でも食べる。他にもキンギョ、フナなどが同じ歯をもつ。

渡り鳥が移動する方向が分かる理由……食糧や繁殖などの事情に応じて何千キロという長い距離を移動する。毎年同じコースを飛び、北半球では北で繁殖し、南で越冬。迷わずに移動できる秘密は、生まれつき持っている体内時計。昼は太陽の位置、夜は星座の位置から現在の位置と向かう方角が分かるという。これに加え、地磁気や風向き、地形の情報なども参考にして、正しい方角に飛ぶことができる。渡り鳥が星座を参考にしていることを示す実験結果として、プラネタリウムの中に渡り鳥を入れてみたら、鳥たちは常に星座の一定方向を目指して飛んだという。渡り鳥には、昼間に移動する鳥もいれば、天敵を避けて夜間に移動する鳥もいる。渡る時期をどのようにして知るのかと言うと、時期がくると体重が増加することから、脳下垂体から分泌されるプロラクチンという就巣ホルモンが関係していると考えられている。

カメレオンは死んだ時、体色は何色をしているか……答えは「決まった色はない」。日の当たる明るい葉っぱのところで死ねば、保護色の明るい緑色をしているし、日の当たらない地面で死ねば、暗い茶色をしている。環境の条件が同じであれば、カメレオンの色は、体調がよいと明るい色、悪いと暗い色になる。死ぬときは衰弱していることが多いため、暗くくすんだ色で死んでいることが多いという。ちなみに、カメレオンの体色の変化は、皮膚の色素細胞が分泌されたホルモンによって色が変わる仕組みになっている。

年をとるとまつ毛も白髪になる？……実は、まつ毛も髪の毛などと同じように白髪になる。しかし、他の場所に比べて白髪になりにくいという。それは、目元はまばたきなどでよく動いているので血流がよく、栄養が豊富で老化しにくいため。

靴下の角度が90度ではなく135度の理由……手編みから機械編みへの製造方法の転換によるもので、手編みの時は90度だったが、それが機械化されて135度になった。機械で編む時、履き口部分から回転しながら筒状に編んでいく。そして、かかとの部分は筒状の半分だけを往復で編む。かかとを編み終わるとまた回転してつま先まで筒状に編んでいく。この製造工程の中で最も手間なのが往復編みのかかと部分で、ただの回転編みに比べて往復編みは作業スピードが半減する。90度の靴下を作ろうとすると、往復編みをするかかと部分の面積が増えて、編む時間も長くかかってしまう。つまり、靴下が135度である理由は、機械化による生産効率を考え、かかと部分を小さくしたためである。

「グニャグニャ文字認証」の裏の役割……あれはCAPTCHAと呼ばれるが、その裏で「書籍のデジタル化」に知らず知らず協力させられている。何人もの人が「この歪んだ文字はこう読む」という記録が残れば、コンピュータがそれを覚えて読めるようになる。最終的には古い文献などをデジタル化することが出来るようになる。つまり、コンピュータに取り込む文字を増やすという壮大な計画に世界中が協力させられている。1日で400万語以上の単語の解読に成功、その仕事量は1500人以上の人間が週に40時間働く労力に匹敵。

美容師のハサミは一度落とすと使用不可……文房具のハサミは刃の部分が平らで面と面で押しつぶして切るのに対して、美容師のハサミは刃が凹んでいて点と点で鋭く切ることができる。つまり、接地面積が小さくなるため、力が加わりやすく切れ味がよくなる。枝毛にならないようにだが、この工夫は職人でないと行えず、落としたら修理してもらうまで絶対に使ってはいけないことを、全国で教育されている(理容師に聞いてみたら全然そうでもないらしい)。

洋服のSサイズとLサイズの値段が同じ理由……布の量が増えた分よりも、実際には人件費やメーカーの利益、輸送費、包材費など他の費用が圧倒的に多いため、布の多少の差であれば同じ値段で売っても問題ない。また、生地が余っても他に使うこともできない。Lサイズの人が損だと感じて買わなくなるよりは、いっそ同じ値段で売った方がよいのだ。牛丼とは別の話なのである。

世界には「無重力結婚式」がある……水中結婚式やらスカイダイビング結婚式やらあるが、10000メートルまで上昇、そして一気に急降下、無重力で行われる結婚式というのもあるのだ。指輪の交換は指輪が飛んで行かないようにワイヤーで腕としっかりつないでおく。そして、誓いのキスは逆さまで行われる。最後に、無重力の中でブーケトスが行われる。この無重力結婚式の費用は約280万円から。ちなみに「宇宙結婚式」はまだないらしい。

漢字の「とめ・はね・はらい」は特に決まりがない……小学校では学習指導要領に「学年別漢字配当表」で示された字形を標準として指導することが定められている。あくまで参考で「この形が正しい」というものではない。それを「正しい形」と勘違いした先生が多かったため、厳しく指導されていた。2016年に文化庁が見解として、字を認識できれば、それほどとめはねはらいを問う必要なし、と言った。

埼玉県民のための鉛筆「10B」がある……戦後から書写教育が盛んで、県内の小・中・高生が参加する展覧会がある。より字を綺麗に書けるようにと2008年に三菱鉛筆が埼玉県民向けに「10B」の鉛筆を発売した。ちなみに10Bは最も柔らかくて濃い。三菱鉛筆の「ハイユニ」には10Bから10Hまでがある。

印鑑の色は何色でもいい……法律で判子の色は定められておらず、銀行の口座開設や遺言書など、判子の色は青色や緑色、ピンク色、金色など、何色でも問題はない。ただし、一般的には判子の色は朱色で、異なる色を使うと窓口の人が困った顔をする可能性はあるので、朱色が無難。なお朱色なのは、血判状の名残から。誓いのかたさの表れとして、指の一部を切り、自分の血で捺印していたのだ。もっとも、魔よけの色であり、神社の鳥居やダルマにその色が使われている。また、変色しにくい顔料が使われていて、長期間保存しても変色しにくく、偽造されにくいのである。

収集日の前日にゴミ出しすると犯罪になる……ゴミの収集日が月曜日に決まっている場合、月曜の朝は余裕がないからと日曜日の夜に出すことは犯罪になる。悪質な場合には罰金刑や逮捕されることもある。これは、廃棄物処理法の16条に「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない」と定められているため。違反すれば「5年以下の懲役又は1,000万円以下の罰金を科す」ことができる。実際、ゴミ出しの取り締まりを強化していた兵庫県では、指定された回収日時以外に何度もゴミ出しをした主婦ら3人に対し、3～5万円の罰金刑を科したという事例がある。

プラスネジとマイナスネジの使い分け……しっかり締められるプラスネジが使えない所にマイナスネジが使われる。プラスネジのデメリットは、プラスの所にゴミが入るとネジを回しにくくなるところ。さらに、プラスの所が腐食してしまうとネジが回せなくなり、二度と抜けないネジになってしまうところ。つまり、汚れやすい所、サビやすい所ではプラスネジは使いにくい。例えば、水をよく使う場所や汚れが溜まる場所では、プラスネジではなくマイナスネジが使われる。それ以外の場所ではプラスネジが使われる。

お日様のにおいとは……天気の良い日に干した布団を取り込んだ時のあのにおい。あれは、太陽に含まれる紫外線や熱が、綿を作るセルロースや、洗濯後に残った汗や皮脂、洗剤の成分などをわずかに分解し、アルデヒドやアルコール、脂肪酸などの揮発性の物質に変化したものである。その香りを嗅ぐことで、気分の良いとき特有の脳波(α波)が表れる。どこか幸せになるあの匂いには科学的な根拠があった。つまり、ダニの死骸のにおい、という2ちゃん特有のアレは嘘である。

銀行が午後3時で閉まるのはなぜ……これは銀行法という法律で原則として定められている。ただし延長も可能で、午後5時まで営業しているところもある。伝票とかお金の金額の確認をするので、3時という早い時間に閉まるのだ。閉まった後は現金や書類を金庫室に保管し、一日が終わる。

線香花火を長持ちさせる2つの工夫……まず、火薬が入った根本の部分を軽くひねり、火薬を固める。火薬がまとまり、少し長持ち。そして、火をつけたら真下ではなく45度に傾けて持つ。火の玉との接触点が増え、火の玉が上っていくことで火種が落ちにくくなる。ちなみに、線香花火の名前の由来は、江戸時代に膠(ニカワ)で練った黒色火薬を稲藁の先に塗って火をつけ、香炉に線香のように立てて遊んだことからとされる。

黒い花火がある……実は必ず黒い花火も打ちあがっている。キレイな色の花火が連続して上がる時に一瞬真っ黒になるシーンがある。その時、光らないような黒い花火を上げて、一瞬の無の空間を作って、また華やかな世界に転じていくアクセントとして利用している。黒い花火は江戸時代に火薬の調合ミスで色が出なかったことから誕生した。

警察官が競い合う腹話術のコンクールがある……交通安全教室で見ることができるのが警察官のショー。毎年大会を行い、技術を高めているのだ。ちなみに、腹話術師・いっこく堂は子どもの頃に警察官の腹話術を見て腹話術師になろうと心に決めたという。

火事のとき放水で狙う場所は……実は火元の部屋じゃなく、その上。火が上がって延焼するのを防ぐため。最近の耐火構造のマンションは気密性に優れていて火が横に広がることはあまりなく、部屋の中が燃え尽きて終わる。そこで被害が広がらないように上の方に放水する。また、外から部屋へ直接放水してしまうと火元を消すために室内で活動する隊員の邪魔になってしまう。

カレーのシミを劇的に落とす方法……洗剤で洗う前に天日干しをすること。カレーのシミの元はクルクミン、ターメリックに含まれる色素で、これは紫外線により分解される。天日干しの前に洗剤で洗ってしまうと、洗剤とクルクミンの成分が反応して落ちにくくなる可能性が大きい。

食品サンプルの技術は日本の医療を支えている？……人間の動脈を再現した血管、その名も「カテーテルシミュレーター」が作られている。血管に管を通すカテーテル手術のトレーニング用に開発された。カテーテルは血管などの中を通す器具で、練習は人体ではできないため、食品サンプルの技術を応用してシリコン製のトレーニング用模型が作られた。これにより、手術時のリアルな感覚を身に付けることができる。現在、人間の血管をリアルに再現できるのは食品サンプルの職人のみとされていて、進歩が目覚ましい3Dプリンターの技術でも再現できないと言われている。

シールタイプの印鑑がある……スマート印鑑という名前の商品で、0.34ミリの世界最薄のシール。12枚入りで410円。使い方は簡単で、貼りたい場所を決めたらスマート印鑑のシールを貼って、上から指でこするだけ。最後に台紙をめくったら完了。普通の印鑑で押したように爪でこすってもはがれない。

おならをしてもバレないクッションがある……サイレントクッションなる商品がそれ。クッションの中に活性炭が入っており、においを3割ほど軽減する。また、真ん中には消音材が入っており、音を8割削減。8500円。高い。

抜けなくなった指輪は消防署で外してくれる……昔どうしようもなくなって消防署に連絡した人がいたが、外してくれたという。抜けなくなってしまった指輪を外す方法はいくつかある。1つ目の指輪の外し方は、石鹸水を使い指輪を滑らせて外すやり方である。2つ目は、タコ糸を使い指を細くして外すやり方である。最後の手段がリングカッターといって、指と指輪の間にリングカッターのツメを入れ、円盤状の歯を回転させ少しずつ指輪を削って切断する。当然本来の業務ではないため、緊急通報ではなく、普通に相談しよう。

遺灰を宇宙にまく「宇宙葬」がある……生前に星が好きだった人のために、会社によって行われている。遺灰はロケットの先端に入り、打ち上げはアメリカで行われる。100キロ離れた宇宙空間に到着すると切り離され、カプセルのまま宇宙に撒かれる。ただしずっと宇宙を漂うのではなく、再び地球に落ちてくる時にカプセルごと摩擦熱で溶けて消えるため、ゴミになることはない。この宇宙葬の値段はおよそ50万円からとなっている。

最新のハサミに応用されるとある技術……ベルヌーイの螺旋というのがそれ。厚手のものを切る時、根本でも刃先でも同じように切れるハサミがあって、そこに使われている。従来のハサミと刃のカーブが違い、根元から刃先まで切断に最適な刃の開き角度(約30度)を常に保つゆるやかなカーブを持っている。ベルヌーイの螺旋の代表的な例として、オウムガイの殻や台風の渦、隼が獲物に近付く時の飛行などが挙げられる。ちなみに「ベルヌーイの定理」を見つけたのは、彼の甥っ子で、別人。

排水口のぬめりはアルミホイルで簡単に防げる……十円玉を靴の中に入れておくとにおいが取れる的なトリビア。アルミイオンがバクテリアや細菌の繁殖を防ぎ、排水口にぬめりが付きにくくなる。だから10円玉でも同じ。

「ダイヤモンド」でも金づちで強く叩くと割れる……世界一硬い物質と言われているダイヤモンドだが、瞬間的な力には弱い。ちなみに硬いのは「ひっかき傷に対する硬さ」の話、つまりモース硬度の話である。ちなみにロードローラーで引いた場合、鉄板とロードローラーにダイヤモンドの跡が残る。ゆっくりとした力には強い。

子どもが買った宝くじが当たった時……親に使う権利は、ない。法律によると、当せん金を受け取ることができるのは宝くじを購入した本人と決められている。未成年の子どもであっても、当たった本人のお金になるので、親が当せん金を使う権利はない。ただし財産の管理権はあるため、子どもが無駄遣いするのを防ぎ、貯金させることはできる。

火事の消火に使った水道料金は誰が払うのか……火元の住人に明らかに過失があった場合にも、火元の住人は水道料金を払う必要はない。これは水道法によって定められている。払わなければならないのなら、「消火活動やめてもらっていいですか」となりかねないからだ。水道局がお金を負担するようになっている。

5円玉と50円玉に穴があいている理由……1949年から発行されはじめたのが穴あき5円玉。当時は猛烈なインフレで、大量にお金をつくらなくてはならなかった。材料費節約のため5円に穴を開けた。50円玉は1955年から使われ、100円玉はその2年後。しかし、100円玉とデザインが似ているから、穴を開けた。

耳に指を入れるとしゃっくりが止まる……水を入れたコップの上に割りばしをどうこう、とか、驚かすと、とかいろいろあるが、横隔膜と耳の奥は神経でつながっており、しゃっくりが出た時に耳の奥を強めに30秒ほど押して刺激すると神経の興奮がおさまる。すると横隔膜の痙攣もおさまり、しゃっくりが止まる。

冷蔵室と冷凍室の正しい入れ方……地味に役立つ知識。冷蔵庫は冷気を循環させるために隙間を作り、パンパンに詰め過ぎない。一方、冷凍室は中にある物同士で冷やすため隙間を作らない。それぞれ適した収納で電力の節約ができる。

掃除機の使い方……フローリングに掃除機をかける時、「強」は意味がなく無駄。メーカーは標準を「弱」で設計しており、平らでホコリが浮いている場合には標準の「弱」で十分ホコリを取ることができる。「弱」と「強」は消費電力量が約4倍も違い電気代も高くなる。ちなみにコードの最後の方に色テープがしてあるが、これは「もうすぐ終わり」という意味ではなく、「ここまで出して使用して下さい」という意味。掃除中に無理に引っ張り、断線の危険や発熱によるコードへの負担をかけないため。

エアコンの室外機は日陰にする……室外機が陽に当たった状態で使用すると、室外機の温度が上昇しエアコンの効率が下がり、余計な電力を消費してしまう。室外機に日陰を作り、温度を下げることで節電になる。

量販店で家電を買うならいつがいい？……水曜日。週末の土日に多くの商品が売れ、その売れ行きを見てメーカーが次の週の価格を再検討する。その新価格が付けられるのが水曜日の夕方になることが多い。価格が下がる可能性もあるため、水曜日がお得になる。

電気ポットのコードが磁石式である理由……以前は磁石を使ったコードではなかったが、電気ポットのコードに足を引っ掛けて、ポットの中に入ったお湯で火傷をするという事故が起こったため、事故防止で磁石式でとれやすいコードになった。

入院費の基準は患者数に対する看護師の数で決まる……4段階に分かれており、看護師の割合が少ないほど料金は安く、多ければ料金は高い。入院患者7人に対して常時看護師1以上を配置する7対1看護配置は、より重症な患者さんに対して十分な医療が提供されるようにするため、2006年の診療報酬改定により導入された。

看護師は脈を測る時にこっそり呼吸数を測っている……目線は胸元を見ており、呼吸数を測っている。患者が意識して呼吸数が変わるのを防ぐため。教科書にも「呼吸を測定することをさとられてはいけないので、呼吸測定については患者さんに説明してはいけない。さりげなく測定する。」と記載されている。

保険証を見ればどんな職業か分かる……保険者番号の左から2ケタは法別番号と呼ばれ、職業によって分かれている。国民健康保険はこの2ケタがない。その次の2ケタは都道府県の番号になっている。

湿布をはがしてすぐに外出すると危険な場合がある……モーラステープとロキソニンテープというのが湿布薬に入っている成分。ケトプロフェンが入っている湿布は、紫外線と反応しアレルギーを起こすことがある。光線過敏症というのがそれで、湿布を貼った肌の部分がかぶれ赤くなったり、かゆくなったりする。はがして4週間は直接紫外線に当たることを避けよう。

錠剤が1錠ではなく2錠セットなのは……誤飲を防ぐため。昔は縦と横にミシン目が入っており、1錠ずつ切り離すことが出来た。しかし口に入りやすく、高齢者の人などが包みを外さずに包みごと誤飲する事故が多発した。包みには角があるため、誤飲すると消化管を傷つけてしまう。そのため、1997年以降、誤飲防止のために切り離せないようになった。

暗いところで本を読んでも目は悪くならない……未発達の子どもの場合は注意が必要だが、ある程度の年齢になると目が悪くなることはない。落ちたように感じるのは疲れるから。暗い場所にいれば瞳孔は開くが、近くのものを見るため閉じようともする。混乱して疲れるのだ。ただし、「テレビやゲーム、パソコンを長時間見続けていると目が悪くなる」とも言うが、こちらは本当。長時間同じ距離を見続けていると目のピント調節機能が衰えてしまい、視力の低下につながる可能性がある。

非常ベルが鳴っても逃げない理由……かなり多いという。脳が警告を楽観的な方向に解釈するため。今まで重大な災害が起きていないことから、今回も大したことないと勝手に解釈してしまう。何か起こるたびに反応することによる疲れやストレスを回避するために、脳が防御作用で過小評価する傾向があるという。しかし、これが助かるかどうかの境目。いざという時に行動できる人になろう。

お見合い写真が本人と違いすぎても詐欺罪ではない……当然だが、詐欺とは「金品などを、故意に、他人をだましとって盗むこと」であり、お見合い写真の詐欺は金品を奪うものではないから、詐欺ではない。犯罪でもない。腹が立つが。

プロポーズに失敗したら返却できるレンタル婚約指輪……名古屋にあるジュエリーショップ「ヴァンモア」では、好きなデザインを選び、指輪を2万円でレンタルできる。失敗したらお店に返却でき、成功したらまた改めて買いに来る仕組み。突然告白したくなった男性客に需要があるとのこと。

エレベーターに鏡が付いている理由……あれは身だしなみチェックのためではない。車椅子の人が鏡を見て、後方を確認して車椅子を上手に動かせるように鏡が設置されている。車いす専用のボタンがあるところには鏡が設置されている。また、車いすの人用のボタンを押した場合は、この鏡があるエレベーターが着くようになっている。ちなみに、エレベーターの外側に鏡がある理由は、待ち時間を短く感じさせるため。

痩せて見える鏡「シェイプアップミラー」……お店で試着した時はよく見えたのに、家に帰ると少し違って見えるという経験をしたことがある人もいるかもしれない。痩せてみえる鏡、8万円を使っている可能性がある。裏側にある金具のネジを締めることで、表面が前面に湾曲した鏡で、映っている物を縮小して見せる、凸面鏡になる。金具が付いているのは頭、腹、脚の3ヵ所で、それぞれで調節が可能。もともと、大手ファストフード店から女性用トイレに設置したいということでつくられたもの。まだ痩せて見えるから注文しても大丈夫という安心感を狙って、売り上げアップを図ったと考えられる。

学校の美術室だけ窓の配置のルールが違う……美術室は北側に窓があるように、つまり右側から光が差し込むようになっている。これは、南側に窓があると時間が経つにつれ影の形や角度が変わってしまい、デッサンが難しくなるから。

多くの人が知らずに損している火災保険……不測の事故で壊れたテレビやパソコンの修理なども可能な場合がある。例えば飲み物をこぼしてパソコンが故障した場合、自宅の敷地内で自転車が盗難された場合など、わざとではなければ、修理や盗難に関しても保険の請求ができる。火災保険は自動車保険と異なり、等級制度がないため、適応されてもその後の保険金額が変わらないのも特徴。

肩凝りを放っておくと目が小さくなる……後頭部のところにある筋肉、後頭筋がその原因。人間の筋肉は肩から頭までつながっており、肩がこると後頭筋も固まる。そうするとリンパの流れが悪くなり、顔がむくんで目が小さくなる。頭皮全体の揉みほぐすなど、頭の筋肉をストレッチすることで後頭筋の固まりを和らげ、顔のむくみが取れ、目が大きくなる。

アボカドが売れれば売れるほど水不足になる……例えばトマトは1個あたり13リットル、モモは87リットルの水が要るのに対し、アボカドは123リットルもいる。収穫できるようになるまでに5年かかり、大きくなるとさらに水が必要になる。生産国であるチリやアボカドはもともと水が豊富にあるところではなく、地下水をくみ上げて生産を行っているが、それも限界に達してきており、地下水が取水制限されるなどの状況になっている。近年導入されたのが日本の技術で、魚の養殖に使った水をろ過してアボカドの栽培に再利用するというもの。水不足の改善が期待されている。

路線バスも乗れる人数は決まっている……実はちゃんと定員がある。では、なぜ通勤ラッシュで捕まらないかというと、まだ定員に達していないから。一般的な大型バスの定員は72～78人程度。実はかなり大人数に設定されているため、ラッシュ時でも定員オーバーにならないのだ。捕まったバスもあるという。

日本一長いトイレットペーパーは1km以上ある……株式会社クリンペット・ジャパンが製造している業務用の「ミドルジャンボ1000」というトイレットペーパーで、長さが約1km。商業施設や公園に設置されている。1.2kmのものもあったが、大きすぎて入らないので日本からはなくなった。

夫が家事を手伝わないという理由で離婚できる……法律では夫婦は家事を互いにしなければならない。家事を拒み続けると、それに違反としたとして正当な離婚理由になる。また、それが理由で妻が精神的苦痛などを受けた場合には慰謝料が発生する。辛い。

自転車専用エアバッグがある……身に付けるエアバッグ「ホーブディング2.0」(5万4000円)という商品。マフラーのように首に巻いて装着。首元に付いているセンサーが急な振動を感知するとエアバッグが0.1秒で膨らみ、ヘルメットのように頭をカバーしてくれる。自転車用ヘルメットより衝撃吸収性が3倍高い。でもやっぱ高いわ。

そばに広い駐車場がある家は泥棒に狙われやすい……車の中からなら怪しまれずに長時間の下見ができるため、家族構成や外出時間などを駐車場でチェックされる。怪しい車がないかチェックすることが大切。泥棒に入られやすい時期は春や秋。気候がよく窓を開けたままにする家が多く、行楽シーズンで留守にする家が多いことがその理由に挙げられる。また、泥棒はたいてい作業着姿ではなくスーツ姿だという。町中でも怪しく見えず、営業マンになりすまして侵入する泥棒もいる。

夫が勝手に作った借金は妻に返済義務はない……ドラマで取り立てに苦労しているのを見るが、夫が勝手に高額なものを買ったりギャンブルなどで作った借金は妻に返済義務はない。ただし、車やマイホームなど家族のための借金は妻にも返済義務がある。夫婦で高い買い物をする時と、夫を選ぶ時はよく考える必要がありそうだ。

サラリーマンはお金に困ったら給料を前借りできる……これは覚えておきたい雑学。ちゃんと法律で認められている。ただし、いつでもできるわけではなく、ケガや病気・出産など、やむを得ない場合に限る。その他の理由で前借りしたい場合は会社次第。一番いいのは前借りしなくていいぐらい稼ぐことだが。

台風が日本に上陸していない年もある……実は毎年上陸しているわけではない。過去30年間(ちなみに気象庁が「例年通り」というときの例年は30年である)の太平洋上での台風の発生で一番多いのが36個、一番少ないのが14回。しかし30年で3回も一度も上陸しなかった年がある。

料理のレシピには著作権がない……レシピパクったパクられたもありそうだが、肉や野菜の切り方、水や塩の分量、焼くか蒸すか、その時の火力などの情報になるが、これらは誰にでも思いつくことなので、著作権の対象にはならない。貴重なレシピは門外不出にする必要がある。コカ・コーラやケンタッキー・フライドチキンなどではレシピはごく一部の人しか知らないという。

鍵が刺さらない時、回らない時の対処法……まずやっちゃいけないのが潤滑油などをさすこと。鍵穴には黒鉛の粉などの「乾式」の潤滑剤が入っている。油などをさすと油に埃がついて粘着し、すぐに作動不能になる。そこで「キースムーサー」という潤滑材があればいいが、なんと鉛筆で代用可能。普通のギザギザの鍵の場合は、ギザギザの所を鉛筆で黒く塗る。ディンプルキーの場合は、ブツブツの穴の所を黒く塗る。その後、鍵穴に鍵を入れて抜き差しする。これを繰り返すことによって、鉛筆の粉(潤滑剤)が鍵穴に入る。これで鍵の刺さり方、回り方はスムーズになったはず。

一番風呂は体にあまりよくない面もある……気持ちがいいが、健康に良いとは言えない。温泉でもない普通のお風呂では、お湯にミネラル分がほとんどない。そのため浸透圧の関係で体内のカリウムやナトリウムが体外に出てしまう。一方、人が入ったお湯の場合、汚れだけでなく、その人から出たミネラル分も溶け込んでいる。そのため体内のミネラルは失われにくいのである。汚いが。きたない。

世界一頑丈な宝石は翡翠……モース硬度でいえばダイヤモンド、もしくはロンズデーライトだったりだが、あれはあくまで傷の付きにくさ。ヒスイはそれほど硬くはないが、ダイヤモンドのように割れやすい方向というものがない。ヒスイが鉱物の中で最も割れにくい性質を持っており、頑丈さではダイヤモンドを凌いで世界一なのである。

カキの渋を抜く方法……柿の渋いのはタンニンという物質が原因。渋柿をナイロン袋に入れ、ウイスキーなどアルコール度数が35度以上のアルコールと一緒に入れ、二晩ほど密閉しておけば渋は抜ける。果肉の中の細胞が口の中で壊れ、中のタンニンが流出して渋味を感じる。渋抜きはタンニンを水に溶けなくさせるもので、アルコールにはこの作用がある。タンニンには、未成熟な柿の種を、鳥などに食べられないようにする働きがある。

色鉛筆が綺麗に消えない理由……芯の材料と作り方の違いがある。黒鉛筆は黒鉛と粘土を混ぜて、1,000～1,200度の炉で焼き固めて作る。色鉛筆は顔料の粉に、書き味をよくするロウ、固めるための合成樹脂、合成のりなどを混ぜて、乾かしてできる。黒鉛筆の字が消しゴムで消えるのは、紙の表面のみについた黒鉛の粉が消しゴムに引っ付いて取れるから。これに対し、色鉛筆は摩擦熱で原料のロウが溶けて紙の繊維に染み込んでいるため、消しゴムでは綺麗に消すことができない。最近では特殊な成分を混ぜたものも出てきている。

フリース素材とは何か……もともと羊から刈り取られたとき、途中で切れていない繋がった状態の羊毛のこと。そこから転じて、毛布のような感じで、織物が見えないぐらい厚く起毛した布地をフリースと呼ぶようになった。素材は羊毛に限らず、近年大ヒットしているのはポリエステル素材のもの。軽量で保温性があり、簡単に洗濯ができ、速乾性がある。ただし、摩擦に弱く、静電気が起きやすい、毛並みが乱れやすいので、あまり強くこすらないように。

植物油の「コレステロール0」は当たり前……というのももともと植物油にコレステロールは含まれない。バター、ラードなど動物性のものには入っている。ちなみに食品から摂取するコレステロールが2割で、肝臓など体内で作られるコレステロールが8割、しかもそれが3割に増えても、体内でつくられる量を7割に減らし、バランスをとる。健康な人がとりすぎても問題はないという。敬遠されていた卵は1日1個までと言われてきたが、厚生労働省のコレステロール摂取基準がなくなり、1日に食べても良い量の制限がなくなった。

日本には「バナナ狩り」がある……イチゴ、ブドウ、リンゴなどは有名だが、バナナ狩りもある。愛知県の「稲沢バナナ園」だけで、収穫はノコギリを使い、青いままのバナナを取る。その場で楽しめない代わりに、バナナチップス、バナナの茎カレーなどを食べることができる。

今のコーヒーの味が飲めなくなる理由……今コーヒーを作っている地域では地球温暖化が原因で、すでにコーヒー豆を栽培できなくなってきている。地球温暖化の影響でコーヒー栽培に適さなくなる土地が、2050年には中央アメリカの48％、ブラジルの60％、東南アジアの70％にも達すると予想されている。特にアラビカ種はもともともう少し涼しいところで作っていたが、高地に栽培地を移すことで対応してきた。しかしこれ以上、今と同じ品質のものを提供できる保証はないという。

江戸時代の「黄身返し卵」の作り方……現存する江戸時代のレシピ本「万宝まんぽう料理 秘密箱」(1785年刊行)の中に驚きのゆで卵のレシピが載っている。それが黄身と白身が逆転した「黄身返し卵」である。産み落とされて3日ほど経過した有精卵の気室側に穴を開け、ぬか味噌に3日間漬ける。ぬか味噌で温まった卵は孵化が進み卵黄の膜が破れて、黄身と白身が混ざって反転が起きるという。しかし少々難易度が高く、成功率も低い。現在、ストッキングの中に卵を入れ、ブンブンゴマの要領で回転させる。そうすると卵黄膜が破れ中身が遠心力で入れ替わる。これを偏らないように菜箸などで転がしながら茹でると、「黄身返し卵」が完成する。ちなみに破れたかどうかは懐中電灯で確かめよう。普通の卵は光を当てると明るいが、黄身返し卵はそれが暗くなる。また、黄身のほうが白身よりも比重が重いため、回転により黄身が外側に偏り、反転が起きる。

韓国がマネできない「モチクリーム」の技術……韓国はスイーツの墓場と言われ、韓国の会社が海外のものを真似してつくって安く売るから、売れないのだという。しかし、この「モチクリーム」という、冷やした大福(おもち)にクリームやチョコを入れたスイーツは非常に製造が難しく、真似できないから韓国でも人気だという。もともと手作業で作る必要があり、1個につき3分かかっていた。しかし、韓国での膨大な需要に応えるため、繊細なモチクリームの機械化に成功。独自開発した機械で1個0.5秒というスピードで大量生産を実現。さらに、冷やすと硬くなるおもちを柔らかいまま冷やせる企業秘密の酵素を使用している。大福にクリームが入ったお菓子と言えば、日本では雪見だいふくだが、海外ではモチクリームだという。

唐辛子の一番辛い部分は……じつは実とか種ではなく、種がついている「ワタ」という部分。正確には胎座という部分。ここにカプサイシンが多く含まれ、非常に辛いという。

皮ごと食べられるバナナがある……もんげーバナナとかいう、ちょっとエロティックな名前のバナナがそれ。岡山県産のバナナで、普通のバナナより皮が薄くて軟らかく、皮に苦味がない。1房ではなく1本が648円(税込)と普通のバナナと比べるとかなり高いが、皮も食べられる美味しいバナナはとても魅力的。

白菜を美味しく食べる方法……白菜は外側の葉っぱが旨味成分などの栄養分を作り、内側の葉っぱに送っている。これは収穫後も続いている。そのため、受け取り手がいないように先に内側を食べることで、外側の旨味などの栄養が送られることがなく栄養が外側に残り、最後まで美味しく食べられる。

ミニトマトより小さい「マイクロトマト」……パチンコ玉より小さい0.9～1.0cmほどの大きさ。しかし小さい種もあるし断面もトマト。味もトマトだが、糖度がとても高く、甘さはスイカに匹敵。1パック約100粒入って約3000円と少し高め。実の色は赤色、オレンジ色、黄色のものがある。その甘みと見た目を生かしてサラダの飾りやケーキのアクセントなどに使用される。

栗は英語で「マロン」ではない……英語で「チェスナット」(“chestnut”)である。フランス語で「シャテーニュ」(châtaigne)と呼ばれるものが栗である。日本の栗のようにイガの中に2～3個の小さな種子が入っているのが「シャテーニュ」と呼ばれ、イガの中に1つの大きな種があるのが「マロン」(marron)と呼ばれる。その大きい栗が砂糖漬けにする菓子「マロングラッセ」に使われ、それが日本に入って来て栗のことを「マロン」と呼ぶようになった。勘違いが多い。

日本のフルーツが美味しい理由……実は世界中から注目されている日本の果物。折角木にできた実をカットして減らすところに秘訣がある。この作業には全国共通のルールがある。果物の木は葉っぱで光合成をして、そこでできたブドウ糖を果実に送る。実が多すぎればブドウ糖を分けてしまい、1個の実のブドウ糖が少なくなり甘味が減る。葉っぱに対してどのくらいの果実を残せばよいかは経験的に分かっており、「葉果比」という基準ではかる。実一個に対し何枚の葉を残すか表したもの。農業試験場の栽培データによりわかっている。1枚1枚の葉が大きい甘柿や巨峰は葉の枚数が少なくても光合成が十分できるが、デコポンなどの柑橘類は葉が小さいため多くの葉が必要となり、実を間引く。

紙コップの自販機で味が混ざらない理由……昔はちょっと混ざっていたが、新しいものは絶対に混ざらない。コーヒーを注文すると、パウダー状の飲料の素材がストックされている場所の下に紙コップがセットされる。パウダー状の素材にはコーンスープ、抹茶ラテ、ココア、クリーム、砂糖など。コーヒーはクリームと砂糖が紙コップに入れられるが、同時にコーヒー豆を挽いて素早くドリップ。その後、クリームと砂糖が入った紙コップにコーヒーが注がれ、棒で撹拌。紙コップの中で調理するというのが味が混ざらない理由の一つ。コーヒーとコーラの原液は別のノズルを使って注がれる。お湯や冷水、炭酸水、氷、シロップもそれぞれ別。そのため、コップに混ざる前に味が混ざることも無い。最後のひと工夫として、調理が終わった後にかき混ぜ棒をお湯で洗浄。どんな飲み物を混ぜても、その直後にかき混ぜ棒を毎回洗浄して味が残らないようにしている。徹底した区分けと洗浄が、秘密なのだ。

魚介がプラスチックで壊滅危機……別名、2048年問題。Scienceに、2048年までに天然の魚介類が壊滅してしまうという報告が発表された。50年間の海洋調査や魚群記録のデータを解析した結果、世界で漁獲された魚種の29％が10分の1の漁獲量に減少していた。大きな問題の1つがプラスチックで、プラスチックは分解が難しくて自然に置いた時に土に還っていかない。毎年800万トンという莫大なプラスチックが海に廃棄されている。

酢豚にパイナップルを考案したのは中国人……箸でカレーぐらい許せないのがパイナップルだが、あれは中国人が考案したらしい。地域によって差はあるがパイナップルは中国では一般的な食材で、中華料理店の冷蔵庫にはパイナップルがたくさん入っている。しかし、パイナップル入り酢豚は好き嫌いが分かれるところ。中華街でも酢豚にパイナップルの入っているお店と入っていないお店の両方がある。諸説あるが、清の時代、上海で酢豚を出すとき、当時は珍しくて高級食材だったパイナップルを入れることで、高級感を出そうとした。脂っこい酢豚をさっぱりさせ、食欲を増進してくれるのである。ちなみにブロメラインというタンパク質分解酵素が肉を柔らかくしてくれるので、理には適っている。ハムの上に生パイナップルを置いておくと、ハムに穴が開くほど。熱に弱いため入れるのは仕上げの段にしよう。

広島のもみじ饅頭は伊藤博文がきっかけで誕生……一説だが。伊藤博文が宮島の名所・紅葉谷の旅館「岩惣」の茶屋で休憩していた時、給仕した娘の手を見て「なんと可愛らしい、もみじのような手であろう。食うたらさぞ美味しかろう」と冗談を言ったのを岩惣の女将が聞きとめ、和菓子屋がこの話をヒントにもみじ饅頭を考案したという。

カボチャは英語で「パンプキン」ではない……パンプキンとはハロウィンで使う皮がオレンジ色のカボチャのことで、これは主に飼料用や観賞用に使われる。日本人が煮物などで食べる皮が緑色のカボチャとは種類が違う。皮が緑色のカボチャは英語で「スクウォッシュ」”squash”である。大正時代に日本に入ってきていた「パンプキンパイ」の料理名がきっかけで、カボチャをパンプキンと呼ぶようになったといわれている。ちなみにアメリカ人でもこの勘違いをしている人はいるようで、パンプキンパイはパンプキンではできていない、という記事があった。

日本初の冷凍食品は「冷凍いちご」……1930年に戸畑冷蔵(現：日本水産)が発売した「イチゴシャーベー」とされている。もともとアメリカにおいて、あまり日持ちのしないジャム加工用のイチゴを輸送に適するために冷凍にしたのが冷凍食品の始まり。アメリカのものとは違い、イチゴそのものを味わう商品であった。この後東京オリンピックを機に注目され、広く普及していった。

エスプレッソの本当の賞味期限はたった10秒……抽出した直後はキレイに3層に分かれていて、上からクレマ、ボディ、ハートと呼ばれる。この状態ではコクや旨味があるが、あっという間に混ざって苦味が優先する状態に変化してしまう。最初の3層に分かれた状態が続くのがたった10秒である。10秒経つと完全にコーヒーが分離し、おいしくない。淹れたてだからこそ楽しめる、ぜいたくな一品なのだ。

「コーヒー牛乳」はこの世から消滅している……コーヒー牛乳の「牛乳」という名称が使えるのは生乳100％のものだけ。生乳とは牛やヤギの乳のうち、搾ったままで、加熱殺菌などの処理を行っていないものをいう。生乳以外のものが混ざっているものに「牛乳」の表記はできないため、「コーヒー牛乳」という商品は成立しない。そのため、現在では正確には「コーヒー入り乳飲料」となるが、「コーヒー乳飲料」「カフェ・オ・レ」「カフェ・ラッテ」「ミルクコーヒー」などと表記している。このきっかけとなったのが2000年に起きた戦後最大の集団食中毒事件で、雪印乳業(雪印メグミルク)の牛乳を飲んだ約1万5000人が下痢や嘔吐の症状を訴えた。これにより牛乳業界は規制を厳格化し、生乳100％の飲み物以外に「牛乳」という名称を使うことができなくなった。

ツナ缶はマグロだけでなくカツオも含まれる……「tuna」を英和辞典で調べると「マグロ」と書いてあるが、「tuna」はスズキ目サバ科マグロ族に分類される魚の総称。マグロ族にはマグロやカツオが分類される。つまり、ツナにはマグロの他にカツオも含まれる。実際に流通しているツナ缶にはカツオも使われている。マグロに比べてカツオは漁獲量が多く値段もお手頃なため、世界的にみると約7割のツナ缶がカツオを使用している。

日本一のウニの産地は人工の「ウニ牧場」……岩手県のウニ牧場では草原のように昆布が生い茂り、大量のウニが放流されている。一見普通の漁場にも見えるが人工的に造ったもの。もともとは岩盤が干上がっていた所で、そこに株式会社ひろの屋は穴を掘って昆布やワカメが溜まる仕組みを造った。十数kmに及ぶ岩盤を削り、昆布で「ウニ牧場」を造った。その結果、実入りが良く濃厚な甘みと旨味を持つウニが誕生した。

唐揚げはヨーグルトで柔らかジューシーになる……乳酸菌のおかげ。乳酸が肉の繊維を柔らかくするため、広がった繊維の隙間に肉汁がたまりやすくなる。作り方は簡単で、鳥もも肉1枚(300g)にヨーグルト大さじ3杯を塗り、10分ほど置く。その後、洗い流して、いつものように揚げるだけ。食べ比べをしても、いつもの唐揚げより柔らかくジューシーであるのが分かるくらい美味しくなる。いわゆるマリネと同じですね。

茨城県にはご当地グルメの「メロンカレー」がある……水を一切使わずにメロンの果汁のみで煮込むためルーの7割がメロンで、色はメロンの緑色。そんなメロンカレーが食べられるのは酒趣(しゅしゅ)というお店で値段は700円となっている。しかし思った以上にメロンっぽいが、本当に大丈夫なのだろうか。

サンドウィッチ伯爵の子孫がサンドイッチ店を開いている……サンドウィッチ伯爵はサンドイッチを発明したわけではない(ローマ時代には「オラフ」という似たような食べ方があった)が、大のギャンブル好きで常にゲームをしながら食べていたことがきっかけで名前が付いたといわれている。そのサンドウィッチ伯爵の11代目の子孫である第11代サンドウィッチ伯爵ジョン・モンタギューが開店したアール・オブ・サンドウィッチ(Earl of Sandwich)という名前のサンドイッチ専門店がある。その名の通り「サンドウィッチ伯爵」という店。現在32店舗がチェーン方式で営業。

サンドイッチで最高の具材はきゅうり……温暖な気候で育つきゅうりは、寒い気候のイギリスでは栽培に適していない。さらに、産業革命の影響で農地が次々に工場地帯となってしまい、きゅうりがより貴重なものになり、ほとんど輸入に頼るしかなくなった。また、イギリスの伝統的な喫茶習慣であるアフタヌーンティーも貴族の社交場として発展していった。そこで最高のおもてなしとして出されたのが、きゅうりのサンドイッチであった。新鮮なきゅうりを提供できることは、貴族が招待客に自分は広大な土地と温室を持っていることをアピールできる富の証であった。自分のステータスを表すものとして貴重なきゅうりのサンドイッチが最高のおもてなしとされ、今も残る文化となっている。

食パンには「耳」もあるが「目」もある……食パンの断面にある細かい気泡の穴のこと。もともとパンは生地の段階で細かい空洞があり、その中には炭酸ガスが溜まっている。これを加熱すると炭酸ガスが膨張してパンも大きくなる。食パンは型に入れて焼くため生地は上へ伸びる。生地が上へ伸びることで中の穴も伸びていく。そのため、食パンの目が縦に伸びていることが、中まで火が通っていて生地がしっかり練り込まれている証拠である。つまり、目を見るだけでモチモチ食感の美味しいパンだとわかる。

分厚いイクラの瓶には重要な役割がある……らっきょうや食べるラー油の瓶詰めは厚さが2ミリであるのに対して、イクラの瓶詰めは7ミリと他の瓶詰めの3倍以上もある。この分厚いイクラの瓶には重要な役割がある。1つ目は強度。そしてもう1つ大きいのは、イクラは値段が高く量が少ない、また1個1個が小さな粒であり、分厚い瓶がレンズ効果として働き、貴重なイクラを大きく見栄えを良くする効果がある。他にも重いため、高級感があり、沢山もらった気になるという効果もある。ちなみに、ジャムやハチミツの瓶が五角形や六角形などの複雑な形をしているのは、光が反射する面が多くキラキラと輝くため高級感が増すから。化粧品や香水の瓶も同じ。

食後のフルーツは胸やけや口臭の原因になる……フルーツは消化吸収が早く約30分で腸にたどり着くが、あくまで空腹時のこと。胃の中にはまだ他の食べ物が残っている状態で食べると、他の食べ物の消化を待たなくてはならない。例えば、肉や魚といったタンパク質は消化に4～6時間。フルーツは発酵しやすく、胃にガスが溜まりやすいため、胸やけや口臭の原因になる恐れがある。フルーツは食前に単体で摂るのが良い。朝食はフルーツのみという女性もいるが、朝は胃の中に何も入っていない状態なので、理にかなった食べ方ということになる。

回転寿司で注文よりレーンの方が美味しいネタ……ハマチやタイのような腹の濃厚な味のところが少ないネタ。公平性のため、あえてレーンに流している。注文で頼んでも腹の部分のネタは出てこないため、運よく流れているのを見つければラッキー。ハマチの場合、背中の部分の青い皮が見えているネタはあっさりした味で、腹の部分の白い皮が見えているネタはこってりした味。タイの場合、背中の部分の身に赤い部分が多いネタはあっさりした味で、腹の部分の身が白いネタは脂がのっている。

牛肉のランクA5の「A」は肉の質には関係ない……AとBとCがあるが、歩留まり等級といって、消費者には意味がない。生産者にとっては重要な意味があり、一頭の牛から取れる牛肉の量をランク付けしたもので、Aは肉付きの良いもの、Bは標準のもの、Cは肉付きの悪いものを表わしている。肉質にはついては数字が重要な意味を持ち、霜降りの度合いや色、光沢などを基準に肉質が悪い「1」～肉質が良い「5」が決定される。そのため、A5・B5・C5は肉質は同じということになる。「ランク5」でも問題ないが、A5のほうがお客さんにとって印象が良い、分かりやすいとの考えで「ランクA5」と表示している。

日本で初めてペットボトルで売り出された商品……実は醤油なのだ。1977年にキッコーマンから発売。その5年後に清涼飲料水、その3年後にお酒がペットボトルで販売。1996年に1リットル未満は作らないという自主規制の緩和により、500ミリリットル以下の小型のペットボトルが販売され、広く普及した。

パンのセルフサービスは広島の「アンデルセン」が発祥……現在当たり前なのだが、これは苦肉の策。アンデルセンは原爆に耐えた建物を買い取って1号店として改装したことでも有名。その時、豪華でとても大きなショーケースをイタリアで買い求めたが、店の柱の位置関係で予定していたスペースに収まらなかった。そこで仕方なく、パンをお客さんにとってもらい、レジに持ってきてもらうやり方を始めた。始めてみるとケースではくもって見えづらかった焼きたてのパンも並べられるというメリットもあり、パンのセルフサービスは全国に広まっていった。

プッチンプリンのカラメルソースは最後に入れる……カラメルソースはプリン液より比重が重いため、後から入れても底に沈み、綺麗な層になる。カラメルが重いなら先に入れたほうが早いのではとも思えるが、カラメルの上から素早くプリン液を注ぐと混ざってしまい、綺麗なプリンにはならない。1日15万個を生産しないと追い付かないプッチンプリンは早く生産する必要があり、カラメルソースを最後に入れるのは美しいプリンを素早く生産するための工夫なのだ。世界一売れたプリン、としてギネス登録されているのも、伊達ではない。

モンブラン誕生のきっかけ……発祥は、1900年代初期のフランスとされている。その誕生のきっかけは、マロングラッセという砂糖漬け栗のお菓子を作っている時であった。煮込んでいると、よく割れて使い物にならない栗が出てしまう。これを捨てるのはもったいないということで、マロングラッセでは使えない栗をすりつぶしてペースト状にしたものを使用した「モンブラン」というケーキが誕生。

内臓を食べるサンマと内臓を食べないマダイの違い……消化時間の違い。サンマの餌は小さな動物性プランクトンで、約30分。一方、マダイの餌はエビやカニ、小魚などかなり大き目で、消化までに約10時間。マダイには胃があり、食べた餌を10時間かけて胃でゆっくり消化している。そのため、内臓を食べようとしても胃の中に食べた餌が残っており、苦みの原因となるため内臓を食べない。サンマは胃のない魚という意味の無胃魚(むいぎょ)で、エサが小さいので消化する必要がない。体内に餌が残っておらず、内臓まで美味しく食べることができる。

ウニの漢字の意味の違い……ウニには表記が三つあるが、「海胆」は海の腸という意味で、これを訓読みするとウニになる。「海栗」はいがぐりに似ているから。そして「雲丹」はあかいものを指すことば。「海胆」「海栗」の字をあてるときは、海の中で生きているウニのことを指す。一方、「雲丹」の字は、ウニを加工した食品のことを指す。

イタリア料理のカルパッチョは画家の名前に由来……発祥国イタリアでは、生の牛肉の薄切りに、チーズまたはソースなどの調味料をかけた料理のこと。お店のオーナーがメニュー名を悩んでいたとき、たまたま近くで開かれていたのがイタリアの画家ヴィットーレ・カルパッチョの絵画展であった。その中に赤と白を中心にした色使いの絵があり、牛肉の赤とマヨネーズの白に見えたことから、そう命名されたらしい。ちなみに最近では日本の和洋折衷を真似て、生魚でつくるカルパッチョもイタリアで食べられている。

切っても涙が出ない玉ねぎがある……スマイルボールというヤバい名前の玉ねぎがそれ。ハウス食品が開発した玉ねぎで、10年以上の研究を重ねて、催涙成分だけを少なくすることに成功した。ちなみに硫化アリルは辛さの成分でもあり、食べても辛くない。これによりイグノーベル賞を受賞。

京都で骨が多いハモが食べられる理由……その数なんと3500。ハモはめちゃめちゃ骨が多く、骨切りという作業をしなくてはならない、調理師殺しの魚なのだ。わざわざ骨の多いハモを食べるのには理由がある。その理由の一つとして、他の魚と違って陸に上げても、長時間生き続ける生命力を持っていることが挙げられる。ハモは水から上げても、皮膚呼吸だけで丸一日生きることができる。瀬戸内海で獲れた魚を京都まで運ぶのに時間がかかったため、日持ちするハモが重宝されていた。大阪湾や明石海峡で獲れたハモを、夏に内陸の京都まで生きたまま輸送できたため、京都でハモを食べる文化が発達したとされている。

タコのオスとメスの見分け方……足の吸盤を見ることで見分けることができる。メスの吸盤は比較的小さく同じ大きさの吸盤が2列に並んでいるのに対して、オスの吸盤は時々大きな吸盤がある。大きな吸盤は、縄張り争いやメスをめぐって、オス同士の喧嘩になった時に武器として有利だとされている。他にも、立派な吸盤をメスに見せるためだという説もある。ちなみにオスは、8本のうち1本だけ足先に吸盤がない。これは交接腕と呼ばれ、交尾する時に使用するもので、オスがメスに精子の入った精包を受け渡すために特殊化した腕である。この交接腕の有無でもオスとメスを見分けることができるが、上記の大きな吸盤の有無で見分ける方が分かりやすい。

おからは下処理がなくなり昔より格段に美味しくなった……水分が多く、昔はすぐに腐っていた。そのため、下処理にひと手間が必要で、おからを殺菌のために一度ゆでていた。ゆでた後は、布袋に入れて水にさらして洗っていた。旨味が逃げて美味しくない。しかし現在では冷蔵技術や保存法が進歩したため、その下処理が必要なくなり、おからの旨味を逃さずに美味しく調理できるようになった。

サイコロステーキはわざと不揃いにカットしている……といっても名店のカットステーキである。肉を美味しく感じるポイントは肉の繊維の向きにある。肉の繊維を縦にして口に入れると、縦の繊維に沿って噛むことになるため、柔らかい肉はさらに柔らかく感じ、肉の旨味を十分に感じることができる。食べている人は気付いていないが、箸でつまむとき自然と肉の幅が薄い方を持つ。これにより、肉の繊維を縦のまま口に入れることになり、肉をより美味しく食べることができる。

ステーキ(肉)の焼き加減は10段階ある……下から、ロー、ブルー、ブルーレア、レア、ミディアム・レア、ミディアム、ミディアムウェル、ウェル、ウェルダン、ベリー・ウェルダン。肉好きなら知っておいて損はないだろう。自分の好きな焼き加減を探すのも一つの楽しみ方であるが、店の人は美味しい肉の焼き方を知っているので、店では「おまかせ」で頼むのも一つの手である。

寿司はもともと「握る」ではなく「漬ける」だった……もともと寿司を塩や醤油、酢に漬けることが多いことから「漬ける(つける)」と呼んでいた。かつては「にぎり寿司」ではなく「なれ寿司」、つまり魚を塩と米飯に漬けて発酵させた寿司が主流で、冷蔵庫などがなかった時代に長期保存が可能な食べ物であった。滋賀県の「鮒ずし」など、日本各地に郷土料理として残っている。現在でも、寿司屋のカウンター内側の調理場のことを「つけ場」という。本来は「漬け場」が正しいが、漬けることが少なくなった現在では「つけ場」と表記されることが多い。

フランスの牡蠣を日本が救った……フランスではカキは国民的な食材の一つ。しかし1960年代の終わりから1970年代初頭にかけて、寄生虫などの病気により絶滅の危機にあった。そこで宮城のカキの稚貝を移植したら、相当に生命力が強い彼らが病気に打ち勝った。それ以来、フランスで流通するカキの相当部分は日本由来のマガキであるという。東日本大震災の津波により宮城県のカキ養殖施設が壊滅状態に陥った時には、フランスのカキ養殖業者達がかつて日本に助けてもらった恩返しとして、養殖施設の復旧を支援したという逸話が残っている。

ラ・フランスはフランスではすでに絶滅している……「ラ・フランス」は日本独自の呼び名で、その名前は「フランスを代表する果物」に由来する。本国フランスでの品種名は発見者の名前から「クロード・ブランシェ」となっている。ラ・フランスは他の洋ナシの品種に比べて実を付ける期間が1ヵ月程度長く、また病気にかかりやすく、栽培に手間がかかる。そのため、栽培しても割に合わないことから、フランスでは栽培を諦めた。つまり絶滅した。現在ラ・フランスを作っているのは日本のみで、全体の約77％が山形県。日本にラ・フランスが持ち込まれたのは、フランスで絶滅する寸前の1903年で、日本の農家が研究を重ねて、生産を安定させてきた。

全世界の美味しい料理には科学的な共通点がある……トロの握り寿司、ピザ、ハンバーガー、チュニジアなどで食べられるクスクスなど、共通点がある。それは、三大栄養素が全部入っていること。母乳に入っている成分と同じで、人間がこれらを普遍的に好むのは理由があるということだ。

大根おろしに熱した鉄の棒を入れるととても辛くなる……辛み成分であるアリルイソチオシアネート、つまりからし油由来で、すりおろしたり切ったりすると細胞が壊れて出てくる。熱した棒を入れるとさらに細胞が壊れ、辛味が増す。

1つの卵で2つの目玉焼きを作る方法……卵を凍らせ、殻をむき、半分に切って、切った面を下にして焼く。

豚肉にハチミツを塗ると美味しい生姜焼きになる……知ってて普通に役立つ雑学。豚肉にハチミツを塗ると美味しい生姜焼きになる。うまみや水分をコーティングしてくれるのである。

唐揚げをカラッとおいしく揚げる方法……小麦粉をまぶしたあと、冷蔵庫に入れて寝かせておくだけ。衣が水分を含むため、ベチャベチャの衣にならないのだ。

ハンバーグにお麩を入れるとジューシーになる……パン粉の1.5倍以上の吸水力がある麩を使うことで、ハンバーグがとてもジューシーになるのだ。

ご飯は冷たいまま食べたほうが太りにくい……デンプンを含む炭水化物は冷たいほうが吸収されにくい。温かいご飯を一気に食べると体は脂肪を溜め込もうとする。つまり、温かいご飯を早食いする人は太りやすい。一方、冷たいご飯は消化されにくく、ゆっくり吸収される。最近では冷やご飯専用のレシピもある。

カレー粉やレトルトカレーはインド生まれではない……18世紀頃、イギリス人がインドからスパイスを持ち帰り、簡単にカレーが作れるように「カレー粉」を作り、売り出したのが始まりなので、カレー粉はイギリス。現在では、日本と同じようにイギリスの家庭料理の一つに「カレー」が挙げられるほど普及している。一方、さらにカレーを食べやすくした「レトルトカレー」は日本が発祥。1968年、大塚食品が世界初の市販レトルト食品「ボンカレー」を発売。関連会社の大塚製薬が持っていた点滴液の加圧加熱の殺菌技術を応用したものだった。当初は賞味期限は数か月だったが、アルミを使った新パウチを開発し、大幅に伸びたため全国発売。

「ネギマ」の名前の由来……ネギとマグロ。ネギマ鍋という、トロを美味しく食べるための料理がもと。現在、焼き鳥が「ネギマ」と呼ばれるようになった理由は、ネギマ鍋がネギとマグロの串焼きに、さらに、材料のマグロが鶏肉に変わり、名前だけが残った。

「心臓に毛が生えている」の語源……図々しいという意味のことば。当然比喩で、心臓に毛が生えた人などいない。江戸時代に使われていた「肝(きも)に毛が生える」という言葉に由来するとされている。肝は度胸や勇気、精神力などの象徴とされていた。「肝臓」ではなく「心臓」になったのは、西洋流の思考法が定着して、心臓を「心」の象徴的根源と見なすようになったことに由来すると推察される。

「地下足袋」の名前の由来……足の裏にゴム底がつき、足の指が親指と残りの二股に分かれている作業労働用の足袋で、足のつま先に力が入りやすいのが特徴。「地下」は当て字で、もともとは「直」だった。履物を履かずに「直に地面の土に触れる足袋」という意味である。他にも、地下の炭鉱で使用していたことから「地下で使う足袋」に由来する説もある。あぁ＾～、やはり大勢で糞まみれになると最高やで。もう一回やろうや。

「ポンジュース」の名前の由来……日本一(NipPON ichi)になるようにという願いをこめている。また、オランダ語の”pons”のように果樹になじみのあることばから取ってもいる。POMになっているのは、英語で文旦の「pomelo」(ポメロ)や果樹園芸学・果樹栽培法の「pomology」などに由来。

できちゃった婚は英語で……ショットガン婚という。婚前交渉にあまり寛容でなかった時代のアメリカにおいて、娘の父親が憤慨して妊娠させた相手の男にショットガンを突きつけて結婚させ、責任をとらせたという話に由来する。少し物騒な話だが、銃社会のアメリカならではのエピソード。ちなみにおめでた婚、授かり婚などともいう。

「ハレウッド」の名前の由来……岡山県は日本で最も晴れが多い。岡山県は映画のロケ地として使用されることが多い。映画『るろうに剣心』『ALWAYS 三丁目の夕日』『八日目の蟬』など。「ハリウッド」とかけてハレウッド。ちなみに本場ハリウッドも晴天が多いため、映画の聖地になったという。禁酒法で酒場が寂れ、西部劇にぴったりだったというのもある。

「牛耳る」の語源……古代中国、諸侯が集まって「これから俺たちは戦うぞ」と誓いを立てる時、盟主が牛の耳を斬って(執って)その生き血をすすった。そして「俺は飲んだぞ。次はお前だ」とリーダーの立場の人がみんなを引っ張った。この牛の耳を執る儀式で結束を固めたことから、リーダーになることを「牛耳を執る」といい、そこから転じて、組織などを思いのまま動かすことを「牛耳る」と表すようになった。

ジーパンの語源……第二次世界大戦の直後。ジーンズに縫い目(ステッチ)があるが、生地と生地を縫い合わせるステッチもあれば、1940年代前半の大戦中に作られたジーンズは物資削減のため、バックポケットのステッチが糸ではなくペンキで描かれたものもあり、それを「大戦モデル」と呼ぶ。そして、ことばが誕生したのはこの大戦モデルから間もない1950年頃。ジーパンは日本に駐留していたアメリカ軍により伝えられた。アメリカ軍兵士のことを正式名称”Government issues”からその頭文字を取って”GI”と呼んでいた。GIがはいていたパンツだから「GIパンツ」と呼ばれ、その頭文字を取って「Gパン」となった。ジーンズパンツの略ではないのだ。

「あっち向いてホイ」の語源……元は祇園のお座敷遊びで、落語家の六代・桂文枝(当時：桂三枝)が毎日放送のバラエティ番組『ヤングおー！おー！』で紹介して花柳界以外で広まったとされている。その後欽ちゃんが番組のつなぎとしてやるようになり、全国に広まった。

「きんつば」の名前の語源……「きんつば焼き」の略称で、和菓子の一つである。つぶし餡(あん)を厚く四角形に切り、溶いた小麦粉を薄く周囲につけて鉄板で表面を焼いたもの。当時は表面が白っぽくて形は円型だった。その形が刀の鍔に似ていたことから、「銀色の鍔」で「ぎんつば」。その後製法が京都から江戸に伝わると、生地の材料が米粉から小麦粉になり、また、「銀より金のほうが縁起が良い」という理由から、次第に「ぎんつば」から「きんつば」と呼ばれるようになり、今に至っている。

「一人相撲」の語源……相手もいないのに自分だけが空回りしていること、また、実りのない物事に必死で取り組むこと。もともと相撲用語の一つで、ひとりで相撲をとる真似をすること。実際に一人で行う相撲が、愛媛県今治市の大山祇(おおやまづみ)神社で、豊作を願う神事として行われている。一力山と呼ばれる力士の対戦相手は目に見えない稲の精霊で、決まって3本勝負を行う。勝敗は決まっていて、必ず稲の精霊が2勝1敗で勝つことになっている。稲の神様の機嫌をとり豊作を願う行事なのだ。

「序の口」の語源……物事が始まったばかりのこと。もともと相撲用語の一つで、力士の順位表である番付の一番下の階級のことである。そこから一般的に使われるようになった。ちなみに勇み足も相撲用語のひとつで、相手を土俵際においつめながら、勢い余って土俵の外に足を踏み出すことを意味する。そこから転じて、調子づいて自ら失敗したり、やりすぎたりした時などに使われる表現である。

「探偵小説」が「推理小説」に変わった理由……探偵の「偵」の字が1946年に常用漢字の前身の当用漢字から外されたから。「探偵小説」という言葉が使えなくなり、「探てい小説」ではなく、「推理小説」という言葉が採用されるようになった。現在はもういちど偵の字が入ったため使えるのだが、既に推理小説が普及したため、変わっていない。

テニスの「サービス」の意味と由来……サーブはテニスの見どころの一つ。速い人では時速200kmを超え、そういう打ち返せない好サーブのことを”サービスエース”とも言う。これは、テニスが貴族のスポーツであったことに由来する。召使いがボールを投げ入れていたところから、サービスという動詞になったのだ。

「料亭」と「割烹」の違いと語源・由来……どちらも日本料理の高級な店というイメージであるが。料亭はお座敷で料理を食べ、芸者遊びを楽しむ。割烹はカウンター方式で味わう。料亭のほうが先で、江戸時代中期、浅草が発祥とされている。当時は料理茶屋と言われていたが、1897年「風俗画報」という雑誌にて料亭と呼ばれるように。一方割烹は1927年創業の京都市祇園にある料理屋とされ、料理に特化した形態をなぜ割烹というかというと、「割」は包丁を使って切ったり裂いたりという意味で火を使わない料理のことを言い、「烹」は煮たり焼いたり蒸したりと、火を使う料理のことを言うから。

「冷たい」の語源……爪が痛い、の爪痛しに由来するという。「枕草子」の文中に「つめたし」と記されていることから、1000年以上前には「冷たし」に変化して用いられていたと考えられる。本当かよ？

「かっぱ寿司」の名前の由来……かっぱ巻き専門店ではない。長野県長野市に1号店がオープンしたとき、ベルトコンベヤーではなく水路のようなものを作り、水の流れを利用して寿司が入った寿司桶を回していた。そんな寿司桶がかっぱの頭の皿のように見えたことから、店名を「かっぱ寿司」と名付けた。現在では水流レーンは廃止されたが、その名前だけが残った。

「たらい回し」の語源……人や物、権利などを、順送りにすること。「たらいを使い回していた」ことに由来するのではなく、「傘回し」や「皿回し」と同じように曲芸の一つであったことに由来する。曲芸師があおむけに寝て、足でたらいを回していた。そして、そのたらいを順番に隣の人に受け渡していく様子からきたのだ。

SMAPとは何の略か……結成は1988年。sports,music,assemble,peopleで「スポーツと音楽を愛する人々の集まり」という意味である。結成以前は12人からなるスケートボーイズというグループで、当時人気だった光ゲンジのバックダンサーとしてダンスやローラースケートをしていた。このうち6人が選ばれSMAPのメンバーになった。その後、森がオートレーサーに転身するために脱退し、現在の5人グループとなった。しかしこの雑学ももはや彼らが解散した今では役に立たないものとなった。

DVDとは何の略か……「デジタルビデオディスク」と「デジタル多用途ディスク」と表記してあるものがある。1995年、東芝やソニーなど10社がDVDの規格統一で合意したとき、ビデオディスクとしての利用が中心であったことから「デジタルビデオディスク」”Digital Video Disc”と紹介された。しかし使用目的はビデオに限らないという意見もあり、1997年にDVDフォーラムの規約で「デジタル多用途ディスク」”Digital Versatile Disc”の略と定められた。

「お払い箱」の語源……不要になったものを捨てることや解雇すること。元々「お祓い箱」と書き、伊勢神宮で信者に配られるお祓いの札を入れておく箱を意味していた。札や薬などが入っていて、「お祓いを受けたとてもありがたい箱」であったが、「お祓い箱」の中の札は、毎年新しい箱に入った新しい札に取り換えられるため、古い箱が不用なものになってしまった。そこから「お祓い」と「お払い」をもじって現在の「お払い箱」となった。

「うだつが上がらない」の「うだつ」とは……中世の建築用語に由来する言葉で、漢字で「梲」や「卯建」と書く。木造建築で妻(屋根の側面の三角形の部分)にある梁の上にたて、棟木(むなぎ)をささえる短い柱をいう。目立つ物ではないが、家をささえる大切な役割をしている。家を建てるときに棟上げすることを「うだつをあげる」というようになった。

古代エジプトは猫のせいで滅んだ……古代エジプトの人々にとって猫は神聖な存在であり、とても大切にしていた。そして、猫を殺すことは絶対に許されなかった。その証拠に紀元前1350年頃の壁画には女王が猫と一緒にいる様子が描かれていたり、街の至る所に猫の墓が造られていた。またエジプト神話にはバステトという猫の女神が登場する。この古代エジプトにおける猫崇拝を知っていた隣国のペルシャ帝国は、紀元前525年に猫を盾にして攻め込んだ。猫を殺せないため攻撃できない状況になり、結局戦争で負けて滅んだといわれている。飼い猫が死ぬと眉毛をそり、飼い犬が死ぬと全身の毛を剃ったという。ちなみに、猫は古代エジプト人が初めて家畜化した動物。

アメリカ議会で野次が起こらない理由……トランプ大統領で何かと騒がしいアメリカの議会では絶対に野次が飛ばない。発言者の妨害となるような野次や罵声などの行為は規則で禁止されているため。また、大統領は国民が直接選んだもので国家元首であり、野次って卑しめるようなことは絶対に許されない。そもそもアメリカの議会、特に上院は、共和党と民主党でどちらに決まるか法案が分かっている。それが60人対40人で決まるのか6人対4人で決まるのかは一緒であり、事前で話し合いをして、どちらにしろ共和党の言う通りになるので「6人と4人だけ出ましょう」などと決めて、閑散とした状態で行われる。ちなみにイギリスは日本と同じで、声が大きくユーモアのセンスがある議員たちが控えてさえいる。

映画や大学の人気ランキングの裏側……まず映画。日本国内の歴代興行収入ランキングのトップ10には1993年より前の作品は入っていない。これには1993年に映画の入場料が1800円になったことが関係していて、1993年より前は入場料が1500円と安かった。そのため、過去作の方が不利なランキングなのだ。そして大学。大学の志願者ランキングは、2017年は近畿大学が上に来ている。確かにマグロの完全養殖などで人気になったが、慶応は入っていない。実は、受験料は1回分で同じ学部のA日程・B日程・C日程の3回の試験にエントリーすることが出来るシステムがある。この場合、総志願者数は1人ではなく3人でカウントされる。複数の学部を併願する場合も同じようにプラスしてカウントされる。そのため、この志願者数ランキングは人気をそのまま表しているとは言えない点がある。

将棋の駒で最高級の木は王将と金に使われる……プロ棋士が公式戦で使う将棋の駒は最高級の材木である「ツゲ(柘植、黄楊)」が使われている。成長に時間が掛かるツゲは、木目が細かく緻密で、道管が均一に分布する。そのため加工後の狂いが生じにくい。また、乾燥後の比重は0.8で硬く、黄色みを帯びて美しい。こうした特徴により、古来、細工物の材料として親しまれ、将棋の駒の他、印鑑や版木、そろばんの珠、三味線のバチ、彫刻、ブローチなどに用いられてきた。高いもので1組108万円もするという。

大臣は兼任しても給料は上がらない……なんとなく上がりそうだが実は上がらない。「特別職の職員の給与に関する法律」の第14条に、兼任の大臣の給料は支給されないとある。権力のある政治家がお金のために大臣を兼任するようなことがないように、法律で定めている。ちなみに、国会議員の推定年収は約2100万円で、さらに大臣に就任すると約750万円プラスされて年収は約2850万円となる。大臣は兼任してもしなくても同じ金額ということになる。

サンタクロースには奥さんがいる……その名はミセスクロース。英語圏ではお馴染みの存在で、およそ100年前の1919年のアメリカのポストカードにもその姿が描かれている。年老いた白髪の女性で、サンタクロースと同じく赤と白の衣装を身にまとい、メガネをかけた姿で描かれることが多い。各地で行われるクリスマスパレードなどのイベントでもミセスクロースを見ることができ、子ども達にも大人気である。彼女は普段、愛する夫のためにカップケーキを焼いたり、サンタの衣装を洗濯したりしている。夫婦仲は良好なようで、クリスマス・イブにはプレゼントを届けるサンタを見送る姿が描かれている。

大仏の姿勢で分かる修行の状態……茨城県にある牛久の大仏がその立ち姿で有名だが、日本には立っている大仏が多い。一方、鎌倉の大仏は座っていて、福岡県にある世界一大きな涅槃像(釈迦涅槃像)は寝ている。そして、座りはどうやったら人を救済できるかをいろいろ瞑想している。立ち姿は修行が終わって、立って積極的に人に伝えている状態。そして寝ているのは、全ての煩悩が消え、全ての苦がなくなった状態で最も悟りを開いている高度な状態。

明治政府が暦を変更した理由……西洋文化を取り入れたい明治政府にとって外国と条約を結んだり、会合の約束をする時に暦が違うのは不便であった。表向きにはなっていないが、明治政府が暦を変えたもう1つの理由が予算削減のため。明治6年は閏月があるはずの年であり、役人の給料を13ヵ月分払わないといけなかった。近代化政策で財政難であった明治政府は、西洋の暦である太陽暦に合わせることで支払いを事実上踏み倒したのである。明治5年12月3日を明治6年(1873年)1月1日にすることで、明治5年12月と明治6年の閏月の給料2ヵ月分を払わずに給料の大幅カットに成功した。これに対して「こんな乱暴なやり方はないだろう」と怒った人もいた。

最高級の将棋盤には日本刀が使用される……たった1人の職人によって、その伝統が受け継がれている。日本刀を使って将棋盤の目を刻むのだ。これは江戸時代の「太刀盛り」という目盛りづけの技で、切れないように刃先を丸く加工した日本刀に漆を塗って、将棋盤に升目を付けていく。最高品質とされる太刀盛りの将棋盤と印刷の将棋盤を見比べると、その違いは歴然で、太刀盛りの方が線が細く立体的に見える。反りを利用して刀が入り、刀が離れる時に漆が刀から落ちて表面張力により丸い球形の線の連続になる。

将棋盤の裏にあるへこみ……通称「血だまり」ともいう。正式名称は音受けで、対局中に横から口を挟む第三者の人間の首を切って、引っくり返した盤を台にして首をそこに置いて血を溜めたという言い伝えがある。もちろんこれは言い伝えで、実用上の目的としては、盤に駒を指したときの音が良くなるように。他にも製造工程で盤にひびやゆがみが入らないようにという目的も。ちなみに脚は伝統的な建築物の装飾に用いられる八角形だが、その形はクチナシに似ており、第三者が口を出すなという意味がある。

離婚式がある……これから離婚をする夫婦、または既に離婚した旧郎旧婦を対象にしたサービスで、家族や友人の前で「再出発の決意」を誓い合う前向きな式である。離婚をする夫婦は新郎新婦ならぬ旧郎旧婦と呼ばれる。初めに離婚に至った経緯の説明がされ、離婚届への署名が行われる。ブーケトスも行われ、受け取った人は円満に離婚できるとう。またお色直しならぬお色崩しもあり、旧婦が旧郎に向かってパイ投げを行う。白いパイ生地で顔を包むことで、無垢な状態にリセットする意味合いがある。「最後の共同作業」は結婚指輪をハンマーで叩き割るという式である。

宝くじに当たったお礼で建てられた神社がある……阿蘇にあり、「宝が来る」という意味の宝来宝来(ホギホギ)神社がそれ。神社の建てられるきっかけになったのは、当選岩という大きな岩。そこにもともと倉庫を建てるつもりだったのだが、岩を壊す前日、夢にその岩が出てきて、「なぜ岩を取り壊そうとするのか」と聞かれた。「生活にお金が必要」と答えると「だったら宝くじを買え」と教えられた。それがなんと、お告げ通り高額当選。お礼として、そのお金で建てられたのだ。お祈りには独特のスタイルがあり、「ホギホギ」と呪文を唱えながら参拝するというもの。年間9万人が訪れ、この神社を訪れた人から当せん者が出ている。その当せん者がさらに寄付することで、神社のスケールもさらにアップしている。

ウェディングケーキが3段の理由……実はちゃんと意味があるのだ。1段目(1番下)は、披露宴に来てくれたゲストのため。2段目は、披露宴に来られなかった人たちのため。3段目は、将来生まれてくる子どものため。または、1年目の結婚記念日のため。18世紀イギリスのヴィクトリア女王ご成婚の時に登場した3段重ねのシュガーケーキが始まりといわれている。その当時のケーキは「豊かさ、幸せ」の象徴でもあり、その幸せを列席者全員で分かち合って食べるということに意味があった。

無音で踊る盆踊りがある……愛知県東海市大田町で開催される夏祭り「ザ・おおたジャンプフェスティバル」の中で行われる盆踊りで、2009年から実施されている。流れる音楽はなく、やぐらの太鼓も叩いているふりで、踊り手が手を叩く音だけが聞こえる。主催者は踊りに必要な楽曲をFM電波で発信し、参加者はその電波に携帯ラジオの周波数を合わせ、イヤホンで聴きながら踊っている。もともと町おこしのために深夜までできる夏祭りを考えたが、周囲への騒音対策として無音の盆踊りとなった。

「奈良の大仏」は千葉県にもある……有名なのは東大寺の大仏であるが、千葉県にも奈良の大仏がある。仏像が建つ地名の「奈良」から「奈良の大仏」と呼ばれている。かつて、この地域が奈良村と呼ばれた平安時代、平将門が奈良県の大仏に対抗して、この大仏を作ったといわれている。ただし、発音が違い、奈良県は奈良↓の大仏であるのに対して、千葉県は奈良↑の大仏と発音する。

モネの「睡蓮」は上下逆さまで展示されていた……モネはフランス20世紀を代表する印象派の画家で、晩年の睡蓮の池には、87億もの値段がついた。長年「上下逆さま」の間違った展示がされていたことで話題となった。正しい向きにしてみると分かるが、この作品は睡蓮と水面に映る草や雲を描いたものだった。逆さまだと分かった理由は「睡蓮の葉の形」で、モネの他の睡蓮作品では手前にある葉は丸くて縦の幅が長いのに対して、奥の葉は楕円形で縦の幅が短い。睡蓮の縦の幅で遠近感を表現していた。問題の絵はこれが逆になっていたことで作品が逆さまだと分かった。

ホルンだけ音が後ろ向きに出る理由……ホルンは古く、その原型は「角笛」だった。狩りに行く時に馬に乗りながら吹いて、後ろの仲間に「獲物を発見した」「獲物を捕らえた」などの合図を出していた。その名残でホルンだけが後ろ向きに音が出る。

大相撲の土俵に埋められているもの……俗に「土俵には金が埋まっている」と言われるが、これは「土俵で出世すれば金が入ってくる」と取的(とりてき：幕下以下の力士)を励ますための比喩表現である。実際には縁起を担ぐ意味で勝栗や昆布・洗米・スルメ・塩・カヤの実の六品が埋められている。これらは神様への供物であり、本場所初日の前日に行われる土俵祭りで、土俵の中央に15cm四方の穴を掘り、そこに「鎮めもの」として埋めることになっている。土俵祭りは、土俵の神様を呼び寄せ、土俵の邪気を払う意味もあり、五穀豊穣、国家安泰、土俵の無事を祈る儀式で、埋められたものは場所中はずっとそのままになっている。

皇室用財産で唯一国宝になった正倉院……皇居や京都御所など皇室がお使いになる皇室用財産は国内に15件あるが、貴重な土地や建物でありながら国宝には指定されていない。そんな皇室用財産の中で唯一例外で国宝になったのが正倉院。実は世界遺産に登録されるためには、その国の文化財に指定されていなければならないという条件がある。そのため、特例で正倉院を国宝に指定した。そのおかげで正倉院を含む「古都・奈良の文化財」が世界遺産に登録された。

明治天皇が西郷隆盛を激ヤセさせた……彼は鹿児島の脂身のついた豚肉、スイカが大好きだった。現存する軍服のサイズからは、181センチ、110キロもあったという。そんな彼を心配して、明治天皇はドイツ人医師ホフマンに相談、彼を痩せさせる方法を提案する。一つはひまし油を飲む方法で、もう一つは狩猟で山野を駆け巡り、運動するというもの。西郷隆盛は痩せることに成功、肥満の治療を目的とした狩猟を晩年まで楽しんだという。

かつて天皇は池に映った月でお月見をしていた……平安時代に嵯峨天皇が始めたことで有名になった。お月見は平安時代に貴族が始めたとされているが、直接月を見るものではなかった。池や川、あるいは杯に映して月を見ていた。天皇は神で1番上の人であり、その1番上の人がさらに上を見るのはおかしい。だから下を見下ろすのが普通だった。彼はどうしてもお月見をしたかったがため、わざわざ離宮であった京都・大覚寺に周囲1キロにも及ぶ大きな人工の池(大沢池)を造った。そして、その水面に映った月でお月見を楽しんだ。これは今でも残っている。

アルファベットに書き順がある理由……英語を戦後、全国で教えるようになったが「書き順がないと教えられない」との声が上がり、文部省が決めたという。つまり英語圏の人々は、アルファベットの書き方なんて知らないし、考えたこともない。

岡山県の児島地区でデニム生産が盛んになった理由……エドウィンやビッグジョンなど40種類のオリジナルブランドがあり、その国内シェアはなんと90％。その理由は、この土地が干拓地だったこと。元が海であるため土地に塩分が残り、米作りには不向きであった。その塩分に強いのが綿花で、児島地区はもともと綿花の生産が多かった。綿でかつては学生服を作っていた。しかし、学生服が合成繊維などに変わり、作るものがなくなった。岡山県内には井原地区で藍染めの生産が行われており、その技術があった。厚手の生地を服に仕立てる技術があり、綿もあり、染料もあり、デニム作りの全てが揃っていたため、岡山県でデニム生産が盛んになった。現在も200社以上の関連業者が存在しており、世界でも稀なジーンズ産業集積地である。そんな児島地区は「ジーンズ発祥の地」と呼ばれている。

「One for all, All for one」と石田三成の関係……実はこの精神を掲げたのが石田三成。旗には「大一大万大吉」(だいいちだいまんだいきち)と書かれていた。「1人が万民のために、万民が1人のために尽くせば、天下の人々は幸福(吉)になれる」という意味である。時代を越えて立場も違うが、石田三成はラガーマンと同じ精神を持っていたことが分かる。

なぜ新月と満月に大潮なのか……まず海面は、月の引力のためにふくれ上がったり、引力が小さいため盛り上がったりする。だから同一の時間に満潮の場所が地球には二か所ある。だが太陽も、月の引力の36％の力で海面を引き上げる。そこで、太陽、地球、月と並ぶとき、太陽、月、地球と並ぶときがそれぞれ満月、新月で、月と太陽の引力がプラスされ、海水面に対して最大の引力が働くから大潮なのだ。

なぜ琵琶湖は土砂流入で浅くならないのか……湖は長い年月で見れば、最終的に湿地になる。河川から絶え間なく土砂が流れ込んでいるからだ。だが琵琶湖はそうではない。実は年間1ミリの割合で沈下し続けており、浅くならない。北のほうの平均水深は45メートルだが、南は4メートルしかない。昔から北側が沈下し、南側が盛り上がり、北に移動しているのだ。

なぜ台風には目があるか……台風は中心ほど気圧が低く、風が流れ込んでくる。そしてその風はらせん状に上空に巻き上げられる。しかし、回転軸の中心部分は強い遠心力が働き、振り回されて水平方向からは空気が流れ込むことができない。そのため、流れ込めるのは垂直方向の上と下だが、下は海面や地面があるため、上からのみ空気が流れ込める。下降気流ができるのだ。雲がなくなり、ぽっかり青空がのぞく。これが台風の目。

大型で並みの台風？……そういう表現はとてもおかしく聞こえるが、実は台風の大きさと強さを表す基準がある。それによれば「大型」とかいうのは影響範囲の話。台風の物理的な大きさ。そして「並み」は台風の風の強さ。一番危ないのは「超大型で猛烈」な台風。

ヒョウはなぜ夏に降るのか……それは、ヒョウを降らせる雲が積乱雲だから。積乱雲が発達すると、水蒸気を多分に含む空気が上昇気流で吹き上げられ、上空で冷やされて小さい氷になる。これが雲の中を落下し、雲のなかの水滴と結びつき、大きくなる。上昇気流が激しいとなかなか落下せず、粒も大きくなるというわけ。なお夏といっても、あまりに暑いと落下中に溶けるので、5,6月、9,10月のほうがよく降る。

なぜ包丁を砥ぐときに水が必要なのか……砥石は柔らかい岩石の中に細かくて硬い鉱物の粉が散りばめられた構造をしている。刃物は固い粒で次第に削り取られ、一方、硬い粒も砕けたりする。その後、鋭くとがった新しい粒が現れる。抜け落ちた粒も砥石と刃物の間に残り、刃物をきめ細かく磨くのに一役買う。だが、あまり硬い粒や柔らかい脱落した粒がたまると、砥ぐスピードが遅くなる。だから水を使う必要がある。料理の職人なんかは、包丁や砥石を何種類も使い分けている。

茶碗の底に足がある理由……陶器をつくる段階でひびやゆがみが入らないようにするためのもの。台の上に置いて1000度の熱を加えるが、素材は粘土なので熱が入るほど縮む。その段階で、もし底が台についたままだと、ヒビが入ったりゆがみができたりする。それを防ぐためのものなのだ。

直流ではなく交流を一般家庭で使う理由……変圧しやすいから。送電線から電気を送る時、変圧器を用いて変換するのだが、交流のほうが変圧しやすいのだ。まあ、あれだ。相互誘導。

マッチはなぜ一度濡れるとダメなのか……マッチの頭は硫黄、松やになどの可燃剤、塩素酸カリウム、二酸化マンガンなどの酸化剤、ニカワやデンプンなどの粘着剤が混ざっている。マッチ箱の赤い部分は赤リンであり、これが発火してマッチの頭が燃えるのだが、一度水に濡らすと、酸化剤の塩素酸カリウムが溶けてしまっており、火つきが悪くなる。

セッケンを塗ると鏡が曇らないのはなぜ？……まずセッケンによって、鏡の上の脂肪などをとれば、油膜が落ちて見えやすくなるのは当然。また、セッケンは界面活性剤で、水の表面張力を弱める働きがある。表面張力で盛り上がり、凸レンズ上になって様々な向きに光を乱射していた水が表面張力を失い、一枚の平らな水の膜となるのだ。

100円ライターの中に仕切りがある理由……胴のプラスチック内部に仕切りがある。まず100円ライターの燃料はもちろんガス。それも高圧ガスを液化したもの。だから強烈なガスの圧力がかかる。1立方センチあたり13キロ。直射日光、高温、火気が駄目なのは、破裂しないようにするため。仕切りはこのガス圧を分散させるためのものなのだ。

なぜタバコの火は消えにくいか……火薬の原料である硝石が含まれており…というのはデマ。巻紙に細かい通気孔があり、容易に酸素が供給されるから、が正解。ではなぜ炎をあげて燃えないのか、というと、タバコの葉には無機物が15％も入っているから。どちらかというとくすぶっているという方が正しい。

なぜチーズ用のナイフが波型なのか……モノを切るとき、刃とモノの面が密着するとなかなか切れない。定規でこんにゃくを切りにくいことからもわかるだろう。普通のナイフでチーズを切ろうとすると、切り口と刃がくっついて切れない。だから密着面をできるだけ小さくしようとし、波型になるのだ。

なぜお茶で薬を飲んではいけないのか……お茶に含まれるタンニンという物質が、薬の有効成分が胃壁に吸収されるのを妨げてしまう。さらに薬の種類によっては、成分が変質するおそれもある。やはり薬は白湯か水で飲むのが良いようだ。

アユはなぜ友釣りできるか……友釣りとは、おとりアユの尻尾の後方にスレバリをしかけ、おとりアユを攻撃する本命を釣る方法。アユは珪藻を食べているが、エサは少ないので強烈な縄張り争いが起こる。それを利用してのこと。

学ランのボタンの裏側に穴が開いている理由……あれは金ボタンというが、裏側には小さな穴が二つ空いている。あれは、メッキをしたとき、ちゃんとボタンが沈むようになのだ。そして穴が二つなのは、メッキ液がちゃんと流れ出やすくするため。

なぜサーフィンを沖合でしないのか……沖合の波は上下運動のみ。つまり風にふかれて斜め上に押しあげられるが、またすぐ重力で元に戻り、同じところを動いているだけ。大きなうねりに乗っても前に進まず面白くない。これが海岸になると、上下運動のバランスが崩れ、波頭が崩れ、岸辺に向かって押し寄せるようになるから、前に進む。

なぜ金属バットにウレタンが入っているか……音のため。金属バットの内部は空洞なので、何も詰めていないと鋭い金属音がする。だが、木製バットの音に慣れてきたため、キーンという音はどうも違和感がある。そこでできるだけこれに近づけるため、ウレタンを入れているのだ。

なぜ日本刀に溝があるか……異論はあるだろうが、真剣勝負では長いほうが有利。だが長くし過ぎると重くなってしまう。この二律背反を解決するのが溝。強度を低下させずに、肉厚の峰のほうに溝をほって重量を減らし、振り回しやすくしたのだ。

なぜのどちんこがあるのか……正しくは口蓋垂といい、口を開けると奥でぶら下がっている。飲食物を飲み込むとき、鼻に逆流しないように咽頭の後ろの壁に貼りつく。また、発声のときの共鳴器官としても働くという説がある一方で、盲腸のような役に立たない遺物という説もある。なぜかわからないが人間にしかないのも面白い。ちなみにちんこは「小さい子」という意味で使われてきたことばでもあり、朝から夜まで行われていた子ども芝居のことを「ちんこ芝居」と呼んでいた。

なぜ最低血圧が重視されるのか……最高血圧とは、収縮で血液を押し出しているときの血圧で、最低血圧は、拡張して肺から血液を受け入れているときの圧力。最低血圧は同時に、末梢血管での抵抗力や動脈の弾力を含む血管の状態を反映するものでもある。だから最高だけ見て最低を見ないのは、けっこう危ない。

なぜやせの大食いが多いのか……統計にあるわけではないが、やせの大食いとはよく言ったもの。これは、動物の世界に見られる一般的な傾向で、体が小さいほど体積に占める表面積の割合が大きくなるため、多くの熱を奪われてしまい、結果たくさん食べる必要がある。つまり人間もやはり動物なのである。

なぜ人間は一年中発情期なのか……昆虫などは、フェロモンによって交尾のタイミングが制御されており、1年の中でいつが発情期なのか、決まっている。普通の哺乳類もメスの匂いを嗅がないと、交尾することがない。しかし人間は大脳が発達しており、見るだけで愛を感じられるようになった。また2本脚で直立するため、対面位での性交が可能になった。この体位では、女性のほうが簡単にイケるようになったという。だから人間の性行動は他の動物のようにメスの排卵周期に左右されない複雑・多様なものになったのだ。

なぜアルビノの目は赤いのか……アルビノは遺伝性の異常で、メラニンをつくるための酵素が生まれつき全くないかほとんどない人。眼の虹彩にも網膜を裏打ちする膜にもメラニンがないため、血の色が透けてみえる。白猫・白犬の目が赤くないのは、彼らがアルビノではないから。ちなみにアフリカのどこかには、アルビノを食べると永遠の命が得られるという噂があり、現在もアルビノが人身売買されているという。恐ろしい。

なぜ年を取ると忘れっぽくなるのか……皮膚などの細胞と違い、脳細胞は生まれたときから変わらない。細胞の数が増えるのではなく、電気信号の伝わり方が複雑になることが、知能が高くなるということ。しかしある年齢に達すると、木の葉がパラパラと落ちるように、神経細胞が死滅していってしまう。特に海馬をやられると、昔のことは覚えているのに、現在のことを覚えていないという状態になる。

なぜ男性に色盲が多いか……色盲になる因子を持ったX染色体はわずか5％。色盲かどうかに関わらず結婚が行われるとすれば、男性の場合、一つしかないX染色体に色盲があれば、色盲になってしまう。だから色盲の男子は男子の5％になる。女性の場合、両方のXが色盲の因子を持たないと色盲にならない。5％の5％なので、0.25%になる。実際女子の色盲は0.3%。男子の色盲は、母親が色盲または色盲の因子をもつときに生まれ、女子はそれに加えて父親が色盲である場合に生まれることになる。

なぜお酒を飲むと酔っ払うのか……これは、お酒に入っているアルコール分が、脳の関所(脳関門)をフリーパスで通過し、新皮質をどんどん麻痺させていくから。本当は関所では有害な物質が通らないようになっているが、なぜかアルコールだけ特例で入って行ってしまう。

なぜアンコウはつるし切りにするのか……身が極端に柔らかいから。まな板の上に載せても、ぐにゃぐにゃしているからすぐに落ちてしまう。やむを得ず、つるして包丁で捌くのである。ちなみにアンコウは上質なチーズのような味だという。一度食べてみたいものだ。

魚肉を酢に浸けると白くなるのはなぜか……赤身でも浸けると白く変色する。まず、魚にはタンパク質が含まれており、それは酢によって凝固する。魚肉を浸けると身がしまるのはそういうわけ。そして白くなるのは、表面反射が強くなり、赤や青の光をよく反射してしまうから。

なぜカキはrのつく月に食べるのか……つまり9月から4月の間にせよという。カキは普段オスメスがないが、4月から7月にかけ産卵を始める。その時期は生殖腺が発達し、味が落ちるばかりか毒素も含む。産卵直後も一種の栄養失調にあるため、おいしくない。ところが秋が深まってくると元気もりもり。グリコーゲンなどのおいしい成分がたくさん蓄えられる。

日本人はなぜパンをブレッドと言わないのか……サンドイッチ、トースト、ホットドッグなど、たくさんの外来語があるのに、なぜブレッドとは言わないのか。実はパンはもともとポルトガル語。キリシタンが日本に伝えた。これが定着してしまったのだ。ちなみに江戸のパンは世界で最も質が良かったようだが、食べる人がおらず、タダ同然で売られていた、と、ドン・ロドリゴは書いている。

なぜ梅干しにシソを入れるか……梅干しは、江戸時代までは薄茶色だった。シソの葉が入ってなかったからだ。江戸時代になって、現在の赤いものが出現する。梅をずっと出しっぱなしにするとシワシワが生まれる。ここに塩もみしたシソを入れ、残った梅酢につけ込むと鮮やかに発色する。着色が主な目的だが、シソ糖という独特の甘みもついて、味がまろやかになる。また、シソはわずか11グラムで、100リットルの梅酢を殺菌できる。長期保存という目的もあるのだ。

なぜ丼もののタクアンは二切れなのか……語呂合わせのため。一切れは「人を切る」三切れは「身が切れる」四切れは「死」をイメージさせて縁起が悪く、二だけ何もないのだ。

なぜウエハースがアイスについているか……単なる飾りではない。アイスクリームは冷たく、食べ続けていると本来の味がわからなくなってしまう。ウエハースはその冷えた味覚を元通りにするためのもの。

お茶の色がなぜ緑色にかわったか……茶色といえば当然飲む「お茶」の色である。だが、よく考えれば日本茶を総称して緑茶というのに、黒味を帯びた赤黄色を茶色というのはなぜだろうか。それは、昔はお茶の葉を鍋や釜で炒って、日干しにしたものをお茶として飲んでいたので、緑色ではなく、まさにお茶は「茶色」だったから。お茶の色が緑に変わったのは、江戸時代の中期、宇治地方で今の煎茶が生まれてからであった。

なぜお茶は種類によって温度を変えるか……玉露は50、煎茶は上等が70で普通のが90、ほうじ茶は100度がよいとされる。これは、お茶に入っているカフェイン、タンニン、アミノ酸などの栄養について、種類によってどれだけ含まれるかが異なるから。玉露はテアニンが多く含まれるが、このアミノ酸は50度で出る。タンニンは70度から出始める。だから50度にして苦くならないようにするのがいいし、タンニンが多い煎茶を熱湯でいれるとタンニンが一気に出てまずいので、70度付近で出す。番茶はタンニンもアミノ酸も少ないので、熱湯で出す。

なぜ玉露は最高にうまいのか……深い甘みは、アミノ酸のひとつであるテアニン由来。しかしテアニンは日光に当たり分解するため、日光を遮って育てる必要がある。また、日光が遮られると新芽は少ない光を求めてたくさんの葉緑体をつくり、鮮やかな緑になる。玉露は普通の茶と比べ、新芽を一回しかつめないし、手間暇がかかるので、そのぶん高い。

なぜ寿司のご飯をウチワで扇ぐか……ナマ米の主成分は消化しにくいベータ澱粉。しかし熱を加えることでアルファ澱粉という、消化のよいものになる。ところが、時間が経ってくると、次第にベータ澱粉に戻って行ってしまう。これを防ぐには急速に冷やせばよい。つまりアルファ澱粉を維持するため、ウチワで扇ぐのだ。もう一つ、扇ぐことでご飯の表面が乾き、形が崩れにくくなるという作用もある。

なぜぬかみそに古い釘を入れるのか……ナスやキュウリの色素が分解されてしまうのを防ぐため。鉄のイオンが色素と結合して鮮やかになり、また空気中においても変色しない。

なぜ夏にないのにナツミカンなのか……ナツミカンはナツダイダイとも呼ばれ、もともとは夏の果物だったから、冬には食べられなかった。しかし農業技術が発達し、本来なら待たなくてはならない「酸味・苦味」をうまく処理できるようになったため、わざわざ半年も実をつけさせるという無駄をしなくてよい。品種改良により、現在では薬品処理をしなくても、ほどよく酸っぱく甘いナツミカンがなるようになった。ちなみに山口県萩市はナツミカンが名産のため、ガードレールの色もオレンジ色になっている。

なぜ絹ごし豆腐というか……豆腐にはいわゆる綿ごしと絹ごしがある。綿のほうは型箱に布をしき、豆乳を流し込んで水分を外へ流すため、豆腐に布目ができる(木綿豆腐ともいう)。ところが絹ごしはそのまま固めたもので、布も敷かないし、水分を出すこともしない。これは、綿に比べて舌触りが滑らかなので、絹と呼ばれているから。絹布でこしているわけではないのだ。ちなみに濃い目の豆乳を使うから、絹のほうがお得かもしれない。

醍醐味の語源……貴族などが昔食べていた「蘇」の味付けの一つが醍醐味だった。他にも4つあり、全部で五味と言われていた。ちなみに醍醐味はその5つのうち、最高の味のものを言い、現代では固型チーズやヨーグルトである。

最近の干しシイタケにはビタミンDがない……ビタミンDは丈夫な骨や歯をつくるのに必要な補助栄養素で、不足すると骨が軟化、くる病になる可能性がある。しかし最近の干しシイタケには、本来シイタケにあるはずのビタミンDがほとんどない。これは、自然乾燥ではなくオイルヒーターで乾燥させているから。シイタケにはエルゴステリンという物質があり、これに紫外線が当たるとビタミンDができる。そこで、買ってきたものには天気の良い日に太陽に当たってもらい、ビタミンDを含むシイタケに変えればよい。

なぜビンの中身は詰まっていないのか……ああ、もう少し詰めてくれよ！と思ったあなたは、瓶ジュースを飲む権利がない(そんなことはない)。実はめいっぱい詰めると、外気の温度が上がったとき、中の液体が膨張してビンが破裂する可能性があるから。空気の隙間をつくり、危険を防止しているのだ。

なぜコンビーフ缶詰は台形なのか……コンビーフ、つまり”corned beef”。牛肉にトウモロコシ状の粗塩や硝石を刷り込んで、殺菌加熱して乾燥させたものなので、汁気はない。このような食品を円形の缶に詰めると、取り出すときにスムーズにいかない。つまり別に円でもよいのだが、便利さを考えて台形にしているのだ。

なぜ草食動物にツノが生えるのか……あれは日本の自衛隊のような、非常に専守防衛的なもの。その証拠に、肉食動物にはツノがない。群れの中での優位性、性的な優位性の主張のためにある。また、春に生え、秋に立派になり、春に落ちるシカの角などは、メスを取るためのオス同士の争いの道具にすぎない。

なぜヘビは足がないのに歩けるか……その秘密は一列に腹側に並んだウロコにある。腹のウロコは他のところと違い、横に細長く四角い。ヘビはこのウロコを立て、後ろに倒すことで進む。前から後ろへ、順送りにこの運動を続けるが、寝ているウロコを倒す時には抵抗がかからぬよう少し体を持ち上げ、後ろに倒す時には腹をしっかりくっつけている。ウロコが角ばっているヘビは、その角を使って木登りもできる。

なぜゾウの耳は大きいか……簡単に言えば巨体のための温度調整。ゾウの原産はキリマンジャロ。昼と夜の温度差が20度にもなる、過酷な場所。夜は巨体で熱をたくさん発生させられるからいいが、昼は暑い。ゾウは耳を大きくし、ラジエーターとして放熱しているらしい。耳に向かう血液と出てくる血液では、出てくる血液のほうが数度低い。

カモノハシはなぜ哺乳類なのに卵を産むか……哺乳類は胎生、乳を飲んで育ち、恒温、肺呼吸、骨格を内側に持ちセキツイがある、などの特徴を持つが、カモノハシは単孔類といって、爬虫類のように腸も尿道も生殖器も同じ一つの穴に集まっている。卵を産んでそれをかえしてから乳を飲ませて…というかなりのかわりもの。一応分類上は哺乳類ではあるが、変温動物で卵を産む、下等な哺乳類と言われている。ちなみにオーストラリアにしかカモノハシは住んでいない。

なぜハトは自分の巣に帰れるのか……伝書鳩といって昔から使われてきた彼らだが、なぜ帰ってこれるのか。それは、地磁気を感じているためという説がある。ハトに磁石をつけて飛ばしたところ、晴れの日にはほとんど帰ってきたが、曇りだと全然帰ってこなかったらしい。首の磁石は地磁気の検出を妨げていることから、太陽という補助的な視覚による飛行も行っているようだ。

海鳥は海水を飲んでも大丈夫なのか……人間が海水を飲むと、脱水症状になって死んでしまう。しかし生物のすごいところ、ほとんどの時間を海上で過ごす海鳥は、鼻孔ちかくに塩腺という器官があり、海水の中の塩分をここでこすことができる。人間には当然ないから、海水だけでは5日間しか生きられない。ただ、多少の真水があれば、海水1に対し真水2の割合で、飲料水として使用可能ということを付けくわえておこう。

なぜタンチョウヅルの頭は赤いか……まずその名前、タンチョウとは「頂きの赤いこと」という意味で、文字通り頭が赤いが、あれは赤い羽毛によるものではない。肉瘤という小さな肉のコブが裸出したもので、このコブの表層にある無数の毛細血管に血が流れているために赤く見えるのだ。

なぜヘビは冬眠するか……それはヘビが変温動物だから。外気の温度と体温が同じになってしまうので、呼吸数も脈拍も少なくなって、動くことさえままならない。そうなる前にヘビは秋ぐらいから冬眠の準備を始める。地中に穴を掘って潜り込み、死んだようにトグロを巻いて、じっと潜んでいる。冬に寒さに凍えて獲物を探すより、こっちのほうが効率がよいのだろう。

なぜカエルは喉をひくひくさせるか……カエルには人間のように肺の呼吸作用を助ける横隔膜や肋骨がない。鼻の穴をあけ口の中を大きくして空気を入れ、次に鼻の穴をふさぐと同時に口をすぼめ、空気を肺の中に押し込んでいる。つまり喉をひくひくさせているのが、カエルの呼吸なのだ。それだけでは不足しているので、皮膚からも酸素を取り入れる。なお、カエルが水を飲まないのは、皮膚からも水を取り入れており、飲む必要がないから。

秋の虫はどうやって鳴いているのか……コオロギやキリギリスたちのことである。体長が4センチの虫がなぜあんなにきれいに鳴くことができるのか。その秘密は羽にある。右前羽にはバイオリンでいう弓にあたる摩擦片があり、左前羽には弦にあたるヤスリがあって、これをこすると音が鳴る。さらに、音を大きくするための発音鏡という膜もついている。バイオリンでいう胴である。ちなみに鳴くのはオスだけ。その音を聴いてメスが引き寄せられる。

なぜモンシロチョウは菜の葉にとまるのか……モンシロチョウはアブラナ、ハクサイ、ダイコンなどのアブラナ科の葉の裏に卵を産む。それがサナギになり、その葉を食べ、いずれ一人前になるのだが、昆虫学者によれば、アブラナ科の植物の葉に含まれるカラシ油(揮発性)のにおいをかぎつけてやってくるらしい。だから、ちょうちょ　ちょうちょの歌のように、サクラにとまることはない。

なぜヒラメやカレイの目は片側にあるか……まあめっちゃ種類が多く例外もあるが、目が左側ならヒラメ、右にあればカレイである。もちろんヌマガレイは右にあったり、ヒラメ科なのにダルマガレイと呼ぶなどの例外もある。さて、どうして目が寄っているかだが、実は幼少期は両方にある。成長に従い、片側に二つ寄るようになる。実はもともと、カレイやヒラメは両方に目がある生き物だったが、外敵に襲われたりするうち、海底の砂に体を横たえるようになった。そうすると下側の目がだんだん数万年かけて上に移動。今でもそれを個体としてもう一度繰り返しているという。

なぜイセエビは鳴くのか……人間に掴まれると、悲しそうな声でギーギーと鳴く。実はあれ、あの長い触角の根本のところを、頭部の炭酸石灰がたまってできた硬い殻とこすって出してるだけで、鳴いてはいない。だが海中でもこの音を出して仲間に連絡したり外敵を威嚇したりしている。ところで「カマクラエビ」とも呼ばれていたが、茨城県南部の岩礁に分布していたから。

なぜカツオはハイスピードで泳げるか……平均時速27キロ。なぜそんなに高速なのか。まず、体型断面が、最も抵抗が少ない円形であること。そして、赤身で、酸素を使う効率の良い反応を筋肉中で行う。さらに、尻尾の形が三日月形で、いわば高性能なスクリューになっていること。この3つの要素によって速く泳げているのだ。

なぜムツゴロウは干潟に住めるのか……本家は有明海に住むハゼの一種。だが水が引いてしまっても干潟の上でキョトンとできるのはなぜだろうか。魚がどうして空気中にいられるのか。それは、ムツゴロウのエラ穴が小さく、口の中に海水を入れても、漏れないようになっているから。この海水に空気中の酸素をとかし、それをエラで取り入れているのだ。さらに血管が皮膚近くにあり、皮膚からの酸素を簡単に血管に取り込むことも可能。

ナマズやドジョウにヒゲがある理由……川や湖沼の底は日中でも暗いため、彼らはヒゲで周りの様子を探りながら生きている。それだけでなく、食物を探す時にも役立ち、ヒゲで触っただけで味がわかるという。

フグはフグの毒で死なないのか……フグは互いに噛み合ったり共食いしたりしないが、相手の毒で死なないのだろうか。実はフグの肝臓には、システインと呼ばれるアミノ酸が多分に含まれ、これがテトロドトキシンを消してしまう。だから共食いをしても中毒死することはない。さすがだ。

なぜジャガイモを馬鈴薯というのか……ジャガイモの原産は南米のアンデス山脈。しかし日本には1598年にジャガタラ(ジャカルタの古称)から渡来したので、ジャガイモとかジャガタライモと呼ぶように。昔の日本の学者がこれを漢字でバレイショとしたためである。だがなぜこの漢字なのかというと、中国にのみある馬鈴薯という名前の、ジャガイモとは関係ない植物からとったという。今は本物のバレイショは絶滅。なぜ誤解したかというと、ジャガイモは土の中で鈴のように根っこを太らせているため、中国の馬鈴薯と同じと考えてしまったらしい。

孟宗竹という名前の語源……タケノコでおなじみのモウソウチクは、日本では最も大きく、高さ10メートル以上にもなる。その名前は、孟宗という中国人に由来する。彼は三国時代の呉の人で、大変な孝行息子だった。冬、親に大好きなタケノコを渡そうと探し、竹林の中で祈ったところ、またたくまにタケノコが出てきた、という故事から、モウソウチクという名前になったという。

なぜ松の木にワラが巻いてあるのか……松を害虫から守るため。マツに群がる害虫は、寒さが厳しくなると温かいところで暖を取る。それが幹の皮の中、落ち葉の下など。ところが途中にワラが巻いてあると、害虫はこの中で冬を越そうとする。だから2月ぐらいにこれを取り外し、そのまま焼いてしまえば、簡単に撲滅できる。

サツマイモはなぜサツマなのか……フィリピンのルソンから中国の福建省に1594年に入ってきた、南アメリカ原産のサツマイモ。これは6年後に沖縄、そして10年後には三浦按針によって長崎にもたらされた。しかしこの段階では、それほど広く知られるようにならなかった。時代は1698年、薩摩藩が琉球国王からもらったサツマイモを、種子島で栽培。やがて直接サツマで作られるようになり、以降、爆発的に日本に広まった。当初は持ち出し禁止だったが、ツルを髪の毛に結いこんで持ち出した人もいる。薩摩のイモなのでサツマイモという。だがなぜか、鹿児島ではカライモという。鹿児島から入ってきたと思われる四国では琉球イモと呼ぶ。

レンコンに穴が開いている理由……ハスは当然ながら根っこを泥の中に浸けている。そうすると空気が足りない。そんな厳しい状況下でも生きられるよう、葉っぱの中心部に2つの空気穴がある。さらにそこから取り入れた空気は、茎を通る。茎にわざと穴を開けておき、空気がレンコンの穴を通じて、隅々まで行き渡るようにしている。造化の神はやはりすばらしい。

なぜ高山にお花畑ができるのか……高山の気候はきびしい。低温、強風、土壌の弱さ、どれをとっても過酷である。その証拠に、ヒマラヤなどの頂上では、コケさえも生えない場所がある。しかしやや生存のための条件がよくなってくると、冬は土の下にある根っこだけで生きている植物のみが生えてくる。これらの花たちにとっても、生育できる期間はあまりに短い。はやく花を咲かせ、実をつけなければいけない。だからどの花も一斉に花を咲かす。生育に適した場所も少ないからこれも一緒のところに生える。それがお花畑になるのだ。

なぜ正月に鏡餅を飾るのか……鏡というのは古代から神器として大事にされたもので、また餅は古くから神様に備える食べ物とされていた。お正月は年神様が家にくると考えられていたからなのだが、年神様とは五穀の神様のことで、五穀とはコメ、ムギ、マメ、アワ、キビ(もしくはヒエ)などの穀物。鏡餅の上に載せる橙は家が「代々」長く続くようにという願い、うらじろは常緑シダ植物で、長寿を願う意味がある。また、ゆずり葉は新葉が成長してから古い葉が落ちるため、「親子葉」と呼ばれ、縁起が良いとされる。コンブは「よろこぶ」とかけ、正月に限らずいろんな祝儀に使われる。

なぜ正月におとそを飲むか……もともと、「屠蘇」とは、死者も蘇るという意味。中国の医者、華佗が処方したもので、山椒やミカン皮、肉桂皮など7種類を生薬にくだいて袋に入れ、みりんに浸したもののこと。不老長寿の薬効にあずかり、1年の無病息災や長寿を願って、元旦に飲むわけだ。冬には風邪をひきやすいし、ご馳走で胃がもたれがちになるため、「本物の」屠蘇は有効である。もちろん、「本物」であることが大事で、お酒なら何でもよいわけではない。

なぜひな祭りは3月3日にするのか……お雛様をかざって女の子が美しく育つように願う桃の節句。もともとは中国の行事で、元来は「上巳の節句」といい、陰暦3月の最初の巳の日、災厄を払いのけるお祓いが行われていた。これが平安時代に伝わり、紙で人のひな型をつくり、厄払いをするため、このひな形に災いなどを入れて川に流した。最初は平安貴族だけだったが、室町にはひな人形を飾るように。一般に広まったのは江戸時代から。なお節句とは節目のことで、季節の変わり目になる日。

なぜ新学期は4月に始まるのか……新学期を4月からとする制度は、1887年に文科省の指示で、高等師範学校(筑波大学の前身)、官立女子師範学校(お茶の水)などが、国の会計制度にならったのがはじまりという。会計制度は言うまでもなく国の歳入・歳出計画＝予算の年度だが、これが4月1日から3月31日になったのは、1886年から。それ以前は10月だったり7月からだったりした。この理由は、当時の税収の主力であった地租の納期に合わせるためと言われているが、詳しいことはわかっていない。

なぜこいのぼりを立てるのか……鯉のぼりといえば、中国から伝わった五節句のひとつ、端午の節句に、五月晴れの青空をバックに立てるアレ。もともとは紀元前中国に遡り、楚の国の貴族、屈原は、衰退しつつある祖国のために尽力したが、デマにより放逐され、憂憤の心を抱いて湖南省・汨羅江(べきらこう)に投身自殺。これを哀れに思った国民たちが、紙の鯉をつくって屈原を祀った。それが後に日本に入り、室町には武士の家で行われるように。庭先に吹き流しをたてて祝うようになった。やがて江戸時代、町家でも紙の鯉を飾るようになり、現在でも受け継がれている。加えて、鯉の滝登りということばがあるように、鯉は威勢の良い縁起物、立身出世をかけて、男児の立身出世を願っている。

なぜクリスマスは12月25日なのか……キリストの生誕日とされているが、その証拠は何もない。研究者によれば、12月のユダヤは雨期にあたり、聖書にしるされた誕生の状況と矛盾する。また、紀元200年ごろのクリスマスは5月20日に行われたという記録もあり、紀元300年に今の期日になったという。当時、ケルト人、ゲルマン人などは、冬至を区切りとするお祭りを行っており、これがキリスト生誕と結びついたのではないか、と言われる。

なぜクリスマスに七面鳥を食べるのか……あまり一般化していないが、欧米ではすごく身近だという。七面鳥の原産はアメリカ。その新大陸にメイフラワー号で乗り込んだのが1620年のこと。移住当時は凶作で、七面鳥を捕まえて食べてようやく飢えをしのぐような悲惨な状態。やがて生活も安定したころ、その当時の苦労をしのんでクリスマスに七面鳥を食べる習慣が定着。正確な時期は明らかでないが、これが結びつきであるという。

なぜ年末に第九が流れるのか……ベートーベンの第九は日本では大晦日の代名詞ともなっている。もともとは1943年、東京音楽大学(東京学芸大学)で学徒出陣の壮行会に、たまたま第九が演奏。それから、戦後間もない1947年の大晦日に、東京芸大の学生たちが戦没追悼のための第九演奏会を開催。毎年末に演奏し続け、NHK公共楽団も演奏するようになった。これが一般化した理由は面白い。どこの交響楽団も金欠で団員の生活はあっぷあっぷ。しかし第九の演奏は何百人という合唱団員を無料で加えることができて、チケットを売りさばく親類の数も多くなり、多くの収入が見込める。正月のモチ代かせぎに最適というわけだ。

なぜ進水式にシャンパンを割るのか……海の神様を鎮めるため、昔は人身御供を捧げていた。しかし人の命は地球より重い、ということで、ギリシア・ローマ時代になると、人血の代わりに赤ワインを船のへさきに叩きつける儀式へと変化。これがシャンパンに代わり、習慣化したのである。

なぜ茶の席では回し飲みをするのか……茶道。それは日本のおもてなしの心。以下略。回し飲みをするのは、茶道が平等の精神を体現しているため。にじり口があるのも同じ理由で、身分や階級、格式などを全て取り払い、平等・対等なのだということを、参加者に知らせるためなのだ。それにしても、下克上、群雄割拠の世に、上下を完全に取っ払った茶道が出来上がったのは、まことに興味深い。

なぜ茶柱は縁起がいいのか……お茶を飲んでいる時に茶柱が立つと、縁起が良いというが、なぜだろうか。これは一説に、江戸時代の遊女と関係がある。遊女に客がつけば、彼女たちはまずお茶をたててもてなす。つまりお茶を立てることは、客がついたことを意味する。このお茶を立てるが、茶を立つ、になり、やがて、茶柱が立つになったという。茶柱が立つほど、いっぱい客が来るから、縁起がよい。

なぜ神前でかしわ手をうつのか……正直なところ、その由来ははっきりしない。ただ、魏志倭人伝に「日本人は目上の人にかしわ手をうって敬意を表していた」とあり、歓びや感動の表現としての行為が、いつしか礼法として固定したのではないか、という説がある。

なぜお盆に盆踊りを踊るのか……お盆。正確には盂蘭盆会(うらぼんえ)。いろんな食物を祖先の霊にそなえて餓鬼に施し、祖先の冥福を祈る精霊祭、と辞書にはあるが、なぜ盆に踊るのか、その理由は「盂蘭盆経」という経典にある。昔、目連という名前の釈迦の弟子が、修行の後、自分の母親が地獄におちて苦しんでいることを知った。その苦しみを解放しようと修行をさらにつみ、最終日の7月15日に、盆に供え物を盛ってお祈りした。その結果母は地獄から極楽へ移り住むことを許された。目連やその家族、友人たちは喜びのあまり踊りだした。これが盆踊りのもとらしい。

なぜ墓石に水をかけるのか……墓参りのとき、水を墓にかける。墓石をきれいにするためではなく、ちゃんとした理由がある。人間は善悪の業因により六つの世界を輪廻する。そのうち餓鬼界には水がなく、喉が渇く。ご先祖の誰かがそんな苦しみを味わっているかもしれないから、渇きをうるおす意味でかけているのだ。ちなみにお酒は駄目だと、筆者は幼いころに習った。ただ、温度差で墓石にダメージがいくため、特に夏はあまりかけすぎないようにしよう。

なぜのれんをかけるのか……江戸時代には飲み屋に限らず、どんな店にものれんがあった。これは様々な心理的効果を狙ったものなのだ。まず、店の中が見えないことから、「のぞいて中を見てみたい」という衝動を起こさせる。しかし完全にドアではなく、くぐるだけでよいため、心理的障壁も取り除ける。さらにのれんに屋号を刷り込むことで、宣伝にもなる。時代が下るにつれのれんをかける店は少なくなったが、店内に客を誘う力があるということで、縁起物として重宝されているのだ。

なぜ三味線にネコが使われるのか……柔らかく繊細で細い音が出るとか、ネコの皮はなめしやすいという説もあるが、そうした理由は最大のものではない。他の動物に比べて皮に傷が少なく、しかも捕獲しやすいからなのだ。ネコの代わりに犬でもよいのだが、犬は登録制で、野良犬は少ない。

なぜ大学の帽子は四角いのか……あれは俗に「角帽」という名前があるほど。そもそも公式の帽子として角帽を採用したのは東京大学。当初は卒業生の山口勘之助という人と、その友人だけが被っていたのだが、これが全国に広まり、文科省の認めるところとなった。なぜ四角いのかというと、これは東京帝国大学の学部が、医学、法学、文学、理学の4つだったことに由来する。当然これ以外の学部の人が被っても良いが、現在ではほぼ絶滅。一度も被らない人も多いとか。しかし慶応大学のものは丸く、これは太平洋戦争突入直前、学生が軍事教練を課せられたとき、大学予科生が被っていたものをそのまま本科生に採用したため。

なぜ病院の看板に宣伝文がないか……どこに行っても目に付くほど多いが、どれを見ても病院の特徴とか売り文句は入っていない。これは医療法にある項目によるもので、医師の看板や広告には「…文書その他いかなる方法によるを問わず、何人も左に掲げる事項を除く他、これを宣伝してはならない」とされているから。技能とか病院の特徴を宣伝すると、法律違反ということになるのだ。

なぜ女性は手袋のまま握手するのか……日本人には握手の習慣はないようだが、向こうは親愛の情を持っていることを示す手段として、握手をする。ところが女性に関しては、手袋をつけたまま握手をするのがマナーだという。不潔だとかそういうのではない。昔、ヨーロッパでは女性は男性の「所有物」とされており、夫や恋人以外の男性が直接女性の肌に触れるのは、所有権の侵害になったという。その習慣が今も残っているらしい。

なぜパスポートの紋章は菊なのか……明治時代に発行されはじめたパスポート。実は当時、日本帝国海外旅券章と呼ばれ、やはり菊の紋章だった。これは政府の印章をそのまま用いたもので、天皇家の御紋章と同じ。大正時代になると名前は変わるが、やはり紋章はそのまま。しかし終戦後、連合軍の占領下におかれたときから、日本は独立国とは認められず、パスポートは発行できなくなった。サンフランシスコ講和条約が発効されてはじめて許されたのだが、慣れ親しんできた菊がよいだろうということで、再び菊が使われるようになったのだ。

なぜイギリスの切手には国名が印刷されていないのか……万国郵便条約という国際間の取り決めで、どこの国の切手も必ず国名を印刷する必要がある。しかしイギリスに限っては印刷されてない。まず、世界初の切手はイギリスで発行された。当時は万国云々なんてないから、国名も印刷されなかった。他の国が発行しはじめても、本家というプライドにより、取り決めを拒否、現在でも印刷していないのだ。

なぜ雑誌の発行日と発売日は違うのか……月刊誌の発行日は必ずその号の月の一日づけとなっている。そして発売日は必ずそれより前の月になっている。昔からの慣習で理由はないらしいが、読者は一日でも早く読みたい、輸送関係の時間差が必要であるなどを考えて発売日を速めたのだろう。当然一致させてもよさそうだが、すでに固定しているため、混乱を防ぐ目的でこうしている。実際に同じにした社もあったが、新刊が売れ残りと勘違いされ、送り返されたという。

なぜビーナス像にアソコの毛がないのか……陰毛好きの男諸君、が、いればの話だが、いたら激怒だろう。ビーナス像はどのビーナス像でも、例外なくアンダーヘアがない。当時のお役人も頭が固かったから？ノー。なんと恥丘(ビーナスの丘)の毛を剃ることが、美しい女性の必須条件とされていたから。無毛が当たり前、ということでした。

競馬にはナイターがないのか……実は2020年現在はもうある。昔はなかった。馬が鳥目だから、という理由ではない。競馬法施行令という法律があり、そこにちゃんと「日の出から日の入りまでにせよ」とあるのだ。競馬は一種のギャンブルで、夜間に行うと刺激が強く、公共の秩序が乱れる可能性があるから。法律の改正などにより、普通にナイターは行われるようになった。

なぜ将棋の駒には王将と玉将があるか……豊臣秀吉のためだったといわれる。彼は自分が天下をとったため、同じ存在が現れることを嫌った。相方の総大将が同じ名前なのは気に食わないということで、「玉将」から「てん」をとって王将にしたのだという。つまりもともと、将棋は玉将しかなかったのである。

なぜ鎌倉の大仏に大仏殿がないのか……奈良にはあるのに鎌倉にはない。暴風雨に晒されっぱなしの大仏様を見るとなんとも心が痛い。実は1252年、鋳造された当初はちゃんと大仏殿があり、そこに収まっておられた。しかし250年後、鎌倉地方を大地震が襲い、大津波で大仏殿は流失。再建の話が持ち上がったこともあったが、結局具体化せず、今に至るのである。

細川高国の命はお菓子より安い？……細川高国は室町時代の武将。管領まで出世し政治を握ったが、三好元長と細川晴元の連合軍に敗れ、切腹させられている。彼は死後「お菓子より安い命」と言われてしまった。実は高国、2人に追われて摂津の紺屋(布を紺色に染める職業)に逃げ込み、じっとカメの中に隠れていた。追手は近所の子供に「教えてくれたらカメのお菓子をあげる」というと、子どもは正直にばらしてしまった。子どもにとっては高国の命よりお菓子のほうが大事だったのである。

なぜ江戸時代に遊郭が大人気だったのか……当然、江戸時代の男たちがスケベだったとか、そういうことではない。現在のソープよりもさらに大繁盛だったのだが、これは江戸の人口比率によるもの。男性は32万、女性は18万。男性が圧倒的に多かったのだ。嫁さんをもらえない男たちがワンサといたから、人気だったという。

なぜ江戸時代の女性はお歯黒をしたのか……黒に他の色を混ぜてもなかなか変色しないことから「夫以外の男には惚れません」ということを意味しているという。お歯黒には虫歯を防ぐ効果があったようで、お歯黒は古鉄のクズやお茶の汁、フシなどを粉末にして混ぜたもの。フシとは、昆虫が寄生して一部が異常に発達した植物。大量のタンニンが含まれ、虫歯を防いだという。つまり苦いのだろう。

なぜ徳川幕府はタバコ禁止令を出したのか……江戸時代のたしなみとして、タバコがあった。しかし徳川家康はこれを禁止、1607年、15年、17年に続けてタバコ禁止令を出したが、効果がない。なかなか厳しいおふれだったのに守られなかったのは、今も昔も、一度覚えたタバコの味は忘れられないことを物語る。しかしなぜこんなにしつこく。実は当時の火事の一番の原因がタバコだったから。材木でできていたうえ、防火設備もお粗末だった。

なぜ江戸時代の旅人は枕を持参したのか……よほどの金持ちでない限り、一人部屋なんて使えない。ほとんどの人は相部屋だった。とういうことは盗難に対しての万全の対策が必要。枕の中に貴重品を入れて寝たのだ。これだと、泥棒も枕に手をかけねばならない。さすがに頭が動けば起きるから、盗難防止にかなり効果的だった。ところで旅枕は木も箱の上が布で覆われ、木の部分は空洞。中にソロバンや帳簿などを入れ、商人は歩いたという。

なぜ私娼が寺や神社の前に集まっていたのか……江戸時代、遊郭が有名だったことはご存じ。𠮷原という場所にあったがここは幕府公認の遊郭。これとは逆に法の目をかいくぐって売春したものもいる。それが私娼。しかし大っぴらにできないので、寺や神社に集まったのだ。もともと私娼の取り締まりは町奉行がやっていたが、彼らの権限は寺社には及ばない。この盲点をついたのだ。しかし1746年以降は、制度を改正、取り締まれるようになったという。

なぜ儒学者たちは赤穂浪士(あこうろうし)たちを非難したか……赤穂浪士の討ち入り事件は、1702年に起きた。これをテーマにした小説・戯曲は、100近くも発表。中でも碁盤太平記と仮名手本忠臣蔵は人気。だが反対に儒教学者たちは強く反対したのだが、これはなぜだろう。彼らは「武士にあるまじき行為」と赤穂浪士たちを強く非難。「浪士たちの目的は主君の仇をうつこと。目的を達したのに自決しないのは、世間の称賛を期待し、切腹を免れるためである」というのだ。うーむ。

なぜ腹を切る風習が生まれたのか……切腹。日本男児とあらば一度は…と思うが、絶対痛いだろ、あれ。切腹は日本独自の自殺方法で、平安末期に生まれたという。最近で最も有名なのは三島由紀夫だろう。なぜこんな痛そうな方法をするのかというと、生命の本体、魂がお腹の中にあるとされていたから。腹を切り開いて魂を見せ、白黒はっきりさせるという観念が生まれたのだ。

手柄を立てたのに切腹させられた武将がいる……徳川家康が武田勝頼と対峙していたときのこと。家康の家臣、大須賀五郎左衛門の甥の小吉が、敵の将兵の首を取った。ところが家康は彼に切腹を申し渡した。なぜこんなことをしたのだろう。実は、小吉の行動が命令を下す以前の抜け掛けだと知ったから、申しつけたのだ。抜け駆けの行動はきびしく禁じられていた。改めて家康の軍法に対する厳しさを実感するエピソードである。

赤穂浪士たちの墓は一つ足りない……東京・高輪の泉岳寺には四十七士のお墓があるが、なぜかお墓の数は46、これはなぜだろうか。討ち入りしたときにはちゃんと47名いたのだが、屋敷を後にする時は1人欠けて46名。この理由はいくつか説があるが、討ち入りの結果を赤穂に知らせるため、わざと逃がしたという説が最も有力。ただ1人切腹を免れたのは「寺坂吉右衛門」で、身分が低かったためかお咎めなしで、83歳まで生きたという。

なぜ打ち首になる者に金を与えたのか……江戸時代、取調中の未決囚は、判決まで牢屋に入れられていた。そして罪人が打ち首決定で牢屋を出る時、1分金を与えるのが一般的。なぜ今から死ぬ者に金を与えたのだろう。実は死刑執行後、死体の後始末をするのは非人。彼に一分金が支払われたという。金を渡すのは刑場の入り口、ここで金を払うときれいに首を洗ってもらえたが、払わないと無造作に捨てられたという。首を斬られた後はせめてきれいに洗ってほしい、という罪人の気持ちが、一分金にはこめられていた。

なぜ遊女は厚化粧をしたのか……あれは、私たちは感情のない人形と同じですよ、という意思表示がこめられていた。遊郭の経営者にとって、遊女は商品にすぎない。遊女が反抗したり客と心中でもしようものなら、商売にならない。厚化粧をさせて人形に仕立てようとしたのだという。一応遊女たちにしても、泣く泣く身を売っている。だから「金を払ってくれれば体は売りますが、心までは売りません」という意思表示を厚化粧で表現したのだ。

なぜ「変」「乱」「役」という使い分けをするか……本能寺の変、島原の乱、承久の乱、いろんな事件が起こっているが、なぜこんな使い分けをするのだろう。まず変のつく事件は、本能寺の変、桜田門外の変など。この二つは、「突然、ある人物を襲った」という点が似ている。乱のつく事件は応仁の乱や島原の乱。この二つは「国内で起こった大がかりな戦」という点で共通。そして役は文永の役やら西南の役。外敵や内乱のために政府が国民を動員した事件を乱という。ただ、必ずそう使い分けろというわけではなく、一般的に以上のように分類しているだけ。

なぜ西郷隆盛の銅像に犬がいるのか……東京の上野にある銅像、なぜか犬を連れている。この銅像を観察すると、小刀と一緒に束ねたヒモのようなものを、帯の間に挟んでいる。このヒモはウサギを取る時の罠で、犬は彼がかわいがっていた猟犬なのだ。だから銅像と一緒に犬もつくったのだ。愛犬の名前はツンといい、作者は高村光雲。智恵子抄を書いた高村光太郎の父親である。

なぜ東海道は五十三次なのか……江戸時代に日本橋から京都の間に53の宿場を設けたのは周知だが、旅人は全ての宿場に泊まり、53日かけたわけではない。東京～京都間は500キロ。一日平均25キロ歩いても20日あれば十分。事実は2週間ぐらいで歩いていたらしい。なぜ53もの宿場を設けたのか。実は『華厳経』という仏教の経典に、「53人の優れた人物を訪ねて教えを乞う」というシーンがある。悟りを開くには修行を積まねばならないという意味だが、この53という数字が採用された。もしかしたら東海道の53を踏破すれば、悟りが開けるかもしれない？

駅弁第1号は全く売れなかった……我が国で最初の駅弁は栃木県の宇都宮駅。明治18年に東北本線が大宮から宇都宮まで開通した記念として売られた。しかし現在のような折詰でなく、ごま塩をふった梅干し入りのおにぎり2個、タクアン2切れを竹の皮に包んだだけのもの。20人分しか売れなかったのだが、これはまず値段。5銭という値段だが、米1升が6銭5厘ということを考えるとかなり高価。そして客の絶対数。乗降客じたい60人程度で、そのほとんどが弁当持参。ちなみに駅弁三種の神器と呼ばれる卵焼き、カマボコ、魚料理をつめ、ご飯を別のところに入れた現在の駅弁は、それから4年後に姫路駅で売られることに。

海軍兵学校は戦時中も英語を教えていた……戦時中、わが国では英語排斥の運動が高まった。野球でさえ英語禁止になったのに、海軍兵学校ではずっと英語が教えられてきた。これは当時の校長である井上成美中将が排斥を反対したためで、敗戦を迎えた後、生徒たちが民間人として英語を活用するだろうと考えたという。

なぜ三浦按針という名前をつけられたのか……日本に最初に来たイギリス人はウィリアム・アダムス。航海士だった彼は太平洋横断中に遭難、現在の大分県、豊後に流れ着いた。これが1600年のこと。航海、天文、造船に造詣が深く、世界情勢に詳しかった彼を家康はもてなした。三浦按針は彼の日本名であるが、このうち三浦は彼に与えられた土地の名前から来ている。一方で按針とは磁石の針で船の航路を決める水先案内人のこと。つまり彼の職業を名前にしたのだ。

芭蕉の句のセミはニイニイゼミ？……静けさや　岩にしみいる　蝉の声　という句が有名だが、研究者によればあのセミはニイニイゼミということで結論が一致したらしい。なぜわかるのだろう。芭蕉がこの句を読んだのは、山形市の郊外にある立石寺というところ。1689年の5月27日(旧暦)だったが、これは7月13日にあたる。これらの情報から割り出すと、ニイニイゼミという答えが出るのだ。

なぜ夏目漱石は東大の講師をやめたのか……母校である東大の講師になったが、なぜ短期間で辞めたのだろう。「私が講義をしている時、教室に犬が寄ってきてずっと吠え続けていた。うるさくて授業にならなかったので、やめようと思った」というのが言い分だったという。ユニークすぎて、当時もネタになったという。

なぜ「猫も杓子も」というのか……いろんな説があるが、有力なものは次のようなもの。まず、ネコは神主さん、シャクシはお坊さん、つまり神様や仏様に仕える偉い人までが、という意味。もしくは、新潟県のある地方で、まずい顔を「猫づら」とか「杓子づら」ということから、器量のよくない人までも、という意味。まだ定説はない。

なぜ「沽券にかかわる」というのか……なぜ体面や人格の意に「沽券」というのだろう。沽券とは江戸時代に土地や建物を売買するための売り渡し証文で、今でいえば権利書。町民たちが土地を売り買いした私有地を沽券地といったのだが、つまり庶民にとって沽券は何よりも大事なものだった。それが転じて今でも使われている。

なぜ「きりたんぽ」というのか……秋田県のきりたんぽ。炊きたてのご飯をつぶして餅のようにし、杉の串や竹串に円筒形に塗りつけて焼いたもので、これを鶏肉、さといも、ごぼう、ねぎなどとともに煮たもの。秋田県のある地方では、丸いものを「たぽこ」といい、これがたんぽになったという。そしてきりは「切り」で、たんぽを鍋に入れる時に串を引き抜いて切るから「きりたんぽ」になったらしい。

なぜごまかすことを猫ババというのか……猫がフンをしたあと、土砂をかけてそれを隠す習性からきているという。また一説には、江戸時代に猫好きの欲張りばあさんがいたから猫ババ、というのもあるが、どうも怪しい。

「べらぼう」ということばの語源……江戸時代から東京の下町ではべらぼうということばが使われていた。これは、江戸時代の見世物に出た、全身黒くて頭がとがり、目は赤く、あごが猿のような奇形の人間をベラボウと言ったのに始まるらしい。また一説には「ヘラの棒」で、ヘラは飯粒を潰して糊にするときに使うが、この程度にしか役に立たないで、飯だけは食う人間ということで、使われたのがはじまりとも言われる。「べらんめえ」は「べらぼうめ」の訛りである。

なぜサバの押し寿司を「バッテラ」というか……大阪寿司の代表ともいうバッテラ。なぜこんな外来風の名前なのか。バッテラの歴史は古くはなく、明治なかばのこと。その頃、コノシロという魚が異常繁殖、大阪の魚市場が大漁に沸いたが、あまりの余りように処分にこまるあり様。そこに寿司屋が目をつけ、酢でしめてすし飯の上にのっけて売り出したところ、大人気。バッテラという由来はその形にある。ポルトガル語で「ボート」という意味のバッテラと名付けられた、というのもその形がボートに似ていたため(大阪は安土桃山時代から貿易しており、ポルトガル人は多かった)。文明開化を表すようなことばなのである。ちなみに薄いコンブは後世にしかれたもので、湿度を保つためのもの。

七夕をなぜ「たなばた」と読むか……それは、織姫がいつも機を織っていたからだという。織姫の使っている手織り機が「棚機」(たなばた)だったという。本来は旧暦の7月7日夕方をさす「しちせき」と読むのが正しい。

すき焼きの語源……室町時代からあったのがすき焼きだが、当時はカモシカ、ウサギ、カモなどの肉を鉄板の上で焼くだけのものだった。それが戦国時代の中頃には南蛮焼きとなり、江戸時代にすき焼きになった。すきとは農具の「鋤」であり、スキの上に肉を載せ、これを焼いて食べたからすき焼きになったという。ただ、鳥やウサギは食べても、仏教の教えで豚肉は食べなかったという。

月とスッポンの語源……一説ではあるが、満月もスッポンも同じ丸だが、中身はまったく違っているので、まったくかけ離れたことを意味する例えになったという。他にもいくつかあるが、これが一番有力。釣鐘と提灯というのが同義語。

海千山千の語源……竜がいると信じられてきた時代。竜はもともとヘビで、海で千年、山で千年修行し、辛苦をなめたもののみが竜になる、という言い伝えがあった。それが転じて、長い年月生きて、経験をつみ、多かれ少なかれ悪賢くくるため、人間にも使われるように。

阿漕の語源……三重県津市の「阿漕町」が語源だという。ここは昔、とれる魚を伊勢神宮にそなえるしきたりがあったので、一般人は禁漁区だった。しかし平次という土地の人は、魚を取り続けた。それを売って金にし、病気の母親の薬代にしていたのだ。しかし度重なる密猟がバレてしまい、捕まったという。そこで同じことが度重なることを「アコギ」といい、やがて、限りなくむさぼるという意味になった。

飼い主よりも偉い犬がいた……スタビー軍曹というのがそれ。WW1で毒ガスを食らうが手厚い保護で生存、毒ガスにとても敏感な犬になった。何度も毒ガスの危機から兵士たちを救ったほか、英語とドイツ語の聞き分けができたため、わずかなイントネーションの違いからスパイを察知し、スパイ逮捕にも役立った。彼はその後犬として初めて軍曹に昇進し、アメリカの歴史に名前を刻んだ。ちなみに飼い主よりも犬のほうが階級が上だったという。スミソニアン自然史博物館によって剥製にされ、現在は国立アメリカ歴史博物館に展示されている。

江戸時代の怪談話の幽霊は庶民が作ったヒーロー……江戸時代には数々の怪談話が創作された。皿屋敷はお菊がお皿を数えて一枚足りない例のアレ。実はこの時代、高い位の武士が女中に手を付け、口封じとして殺す事件が日常的に起こっていた。殺された人は憤慨したが、理不尽な権力に歯向かえない。そのうっぷんを晴らすため、庶民は怪談話として幽霊をつくり、自分たちの力の及ばない権力に向かっていく話をつくった。怪談が日本中に広がると幽霊への恐怖から凄惨な女中殺しは減ったと言われている。つまり庶民にとってのヒーローは、幽霊なのだ。

箱根ロープウェイは「箱根山戦争」をきっかけに誕生……ゴンドラ全面ガラス張りで、箱根の自然を空から楽しめるアレだが、実は箱根のバス路線をめぐる、小田急と西武の争いが関係している。1950年代当時、小田急は箱根の東側、一方、西武は西側の芦ノ湖周辺に縄張りを持っていた。2つの巨大企業が箱根の観光客を奪い合い交通網を広げていった。そして、西武が芦ノ湖と早雲山を結ぶ専用のバス路線をつくり、その路線に小田急のバスが通るのを拒んだ。これにより争いが激化し、その熾烈な争いは注目を集めて当時ニュースにもなった。この小田急と西武の争いは「箱根山戦争」と呼ばれ、訴訟問題にまで発展。しかし10年以上続いた戦いは、西武専用のバス路線が無理なら空からと、小田急側が空にロープウェイをかけ、戦いは終結。今では箱根を一周できるゴールデンパスが話題になっている。

海外なのに「日本語」が公用語の地域がある……太平洋に浮かぶパラオがそれ。街中のいたる所に日本語の看板があり、「こんにちは」と日本語で挨拶すれば「こんにちは」。第一次世界大戦後、多数の日本人が移住し、パラオ人と共に道路や病院、学校などを整備し、パラオの発展に貢献した。そんな日本人に敬意を表して、1982年に州の憲法で公用語をパラオ語、英語、日本語に制定。現在は日本語で話す人は減ったが、ゾウリ、デンワ、(ビールを飲むこと)ツカレナオス、(美味しい)アジダイジョウブ、(飛行場)スコオジョウという。日本の名字も多く、また子どもに日本風の名前をつけるパラオ人も多い。中には元は名前だった「マサヒロ」が孫の代で名字になっている人もいる。

清水寺は400年後に向けて山を入手している……現在の清水の舞台は1633年(寛永10年)に徳川家光の寄進により再建されたもの。舞台に使われているケヤキ材は耐用年数800年で、現在の400年後となる。伝統を守るという考え方から既に山を入手し、そこで約6000本のケヤキの植林を行っている。ケヤキは真っ直ぐ育てるのが難しく、使えるのは1割程度。4改修の際にこれらの木が使われるかもしれない。

織田信長は豊臣秀吉を「サル」とは呼んでなかった……容姿から後世ではサルと呼ばれてた設定になっているが、実は「ハゲネズミ」と書かれた書物が残っている。織田信長は奥さんのねねにあてて「あのハゲネズミが君よりもいい女性を手に入れられるわけないんだから、堂々としていよ」と書いている。というかサルと呼んでいた記録はない。しかし宣教師や朝鮮人の書物には「偉い人に会いに行ったらサルがいたよ」みたいな記載もあるので、サルに似ていたことはほぼ間違いない。また、当時の織田陣営や豊臣陣営は、生まれの干支であだ名をつけていたようで、秀吉の親友である前田利家は戌年生まれなので、「イヌ」と呼ばれていた。そしてお察しの様に、秀吉は申年生まれなので当然あだ名も「サル」となる。織田家ではサルと呼ばれていたのだろうか？ちなみに明智光秀のことを果物の金柑とかけて「金柑頭」(んは読まず、きんかあたま)と呼んでいたという。ハゲっていうな！(諸説あり。「光」の字の下半分と「秀」の字の上半分を合わせると「禿」という漢字になるので、こう呼ばれていたという説も)。

週間文春はネタを買わない……スクープ連発、訴訟されているがその訴訟費用や賠償金を払っても、まだ売り上げが勝るから怖いものなしであるという。しかしタレコミは基本的にせず、ちゃんと取材を行う。金の絡む情報取引はいつも信憑性に乏しいからだという。近年では文春砲と自分たちで言い出す始末。芸能人だって人間なのだから、プライベートぐらい…とは思うが。

大学は本来神が呼びかけた人が学ぶ場……12世紀のヨーロッパが起源とされ、勉強したい人が集まる場であった。また、キリスト教聖職者を養成する「神学」、医師を養成する「医学」、法律家を養成する「法学」の3つの学部が中心。神が特別な能力を与えた人に、特別な仕事に就くように勧めたとされる。神学は精神が弱って困っている人、医学は体が悪くて苦しんでいる人、法学は正義を侵されて困っている人を救うため。普通の人とは違った能力が必要で、一部の人を選んで神は能力を与えたとされる。そういう人たちが集まって学ぶ場が本来の大学であった。

宝くじで「111111番」が1等になったことがある……抽選方法は、ルーレットを回して矢が刺さった数字が当選番号になる仕組みで、イカサマなどができない。これが全て1になったことがある。1988年の近畿宝くじ。当たった人も二度見どころか三度見だろう。

小便小僧だけでなく小便大人もある……ベルギーにある小便小僧の像は有名だが、チェコの首都プラハに、身長2メートルの大人二人が向かい合って小便している像がある。携帯電話で好きな文字をリクエストすると、腰が動きだし、水面にその文字を書いてくれる。この像は街中で平気で用を足すチェコの男性が多いことを見かねた芸術家が2004年(平成16年)に制作したもの。ちなみに、かがんで放尿する小便少女の像もベルギーの首都ブリュッセルにある。

年末の荒修行「行者の火渡り」は熱くない……無病息災などを祈願して行われる火渡りだが、実は炎の温度が800度なのに、全く熱くないという。火渡りでは薪を燃やすが、松が使われることが多い。木の種類によって熱の蓄え方が違い、松は灰が多く、温度が上がりにくい。そして、足の裏は皮膚が厚い上に水分量が多く、熱がすぐに伝わりにくい。しかも、足の裏に塩を擦り込むことによって、ますます熱が伝わりづらい状況を作っている。このように全てが熱を伝えづらいシステムになっているため、熱くないのである。しかし恐怖感は十分。10万積まれてもやってみようとはおもわないものである。

相撲は国技ではない……実は日本の法律で国技は定められていない。「国民に深く親しまれ、その国の文化にとって特に重要な位置を占める」という考えがあり、これが日本における相撲とされている。公的には相撲は国技ではないのだが、国民には広く愛されているから、実質国技。

日本の首都は東京ではない……一般的に日本の首都は東京都または東京とされているが、東京が首都であることは法律には明記されていない。これは明治時代、京都から東京に遷都する際、遷都反対の声を考慮して法律に明記されなかったという説が有力とされている。

昆布がなかったら大阪城は築けなかった……そのぬめり成分にある。石垣は昆布のぬめりを潤滑剤にして、運ばれたのだ。そして、このときの昆布により、それまで大阪になかった「昆布だし」文化が定着。ちなみに、昆布のぬめり成分はアルギン酸という食物繊維。最近、日本人にぴったりのダイエット食品として見直されている。昆布を分解できるのは日本人の腸内細菌しかない。そのため、日本人にとってとても良い食材であると言える。

かつてピラミッドの頂上にカフェがあった……ピラミッドは歴史的遺産のほか、娯楽施設という一面もあった。1938年にはピラミッドの頂上にカフェが。「ティファニーで朝食を」ならぬ「ピラミッドで朝食を」という、ピラミッドの上で朝食を食べるというものだった。ピラミッドの頂上で撮影された写真も残っている。しかし現在は登頂禁止となって、閉鎖。

日本の伝統色に鼠色、茶色、藍色が多い理由……日本色彩研究所が選定した300の色にはさまざまなものがあるが、その中でも鼠色、茶色、藍色は圧倒的に多い。これは江戸時代後期に庶民の贅沢を規制した奢侈(しゃし)禁止令が出されたから。庶民に「身の程」をわきまえさせるために、絹の着物を着ることが禁止され、木綿と麻のみが許された。また、使ってよい色も制約が設けられ、それが鼠色、茶色、藍色であった。しかし、江戸っ子はお洒落であり、その倹約令の中で工夫しようとした結果、鼠色、茶色、藍色に少しずつ色の違うバリエーションができ、現在に至っている。ちなみに、灰色を鼠色と表現したのは火事が多い江戸で「灰」という表現が嫌われたため。

新橋の地名が由来の「新橋色」がある……サラリーマンの街として有名な港区新橋。明治時代になると色んな染料が日本に入ってきた。それが当時の新橋の芸者さん達に好まれたことから「新橋色」という名前に。新橋色はわずかに緑がかった明るい青色で、新撰組の浅葱にちょっと白が混じったような色。ちなみに、現在でもゆりかもめ新橋駅にはテーマ色として新橋色が使用されている。

同じ選挙区に同姓同名の候補者がいたことがある……2010年の宮城県気仙沼市議選において、同名の候補者が二人いたことがある。公明党の村上すすむと社民党の村上すすむで、特別に投票用紙に所属政党も書きこんでもらうことで区別した。政党名が書かれていない場合はどちらの村上か不明であるが、獲得票数に従って分けられた。結果は2人とも見事当選。社民党の村上すすむの事務所に公明党の村上すすむのお弁当が間違えて配達されたという同姓同名ならではのハプニングもあった。

日本初の通販はトウモロコシの種……日本初の通販は1876年の『農業雑誌』に掲載された商品でトウモロコシの種であった。アメリカ産の甘いトウモロコシの種を全国各地の農家に届けるため。お金は先払いで1袋10銭(2000円ぐらいか)。後日、トウモロコシの種は郵便で届いた。これがきっかけとなり通販が全国に広がっていった。

日本ではノーベル賞の賞金に税金がかからない……賞金は現在800万スウェーデン・クローナで日本円にして約1億円。配当金やテレビ番組の賞金と違い、ノーベル賞の賞金は非課税で、所得税法にわざわざ明記。湯川秀樹がノーベル物理学賞を受賞した際、国内でノーベル賞に課税するかしないかについて話題となり、法律が改正されたという経緯が。ただし経済学賞に関しては「ノーベル基金から交付される金品」に入っておらず(ノーベルの遺言になかった)、経済学賞のみ現在の法律では課税対象となる。

徳川家茂は甘いものが好物で難病の脚気になった……14代将軍である家茂は、羊羹、氷砂糖、金平糖、カステラ、懐中、三色菓子などの甘いものが好きだった。そのため、残存する31本中30本が虫歯にかかっていた。糖分の代謝によりビタミンB1を使い、不足して脚気になってしまう。そのため20歳という若さで死んだという。

東京・日枝神社には火事にならないすごい技術が施されている……株式会社日興が開発した特殊な液体。木材だけでなく紙類でも燃えなくなる効果が。主な成分は、無機リン酸、硫酸アンモニウム。熱を加えると木材の水を吸収する働きがある。木材の表面を炭に変化させて燃焼を抑制。火が消えて温度が下がると吸収した水分を元の木材へ戻す性質がある。そのため、表面が炭になるだけで中の木材は燃えない。ガソリンをかけても燃えない。また、新聞紙にこれを塗って燃やすと、表面の一枚が燃えるだけ。他にもいろんな神社で、この液体が用いられている。

おみくじの「平」……一般的なおみくじは大吉、中吉、小吉、吉、末吉、凶、大凶の7種類である。他にも半吉や末小吉、小凶、半凶などを加えた12種類のおみくじもある。しかし、厳島神社や氷川神社には、「吉でも凶でもない、穏やかな運勢」をあらわす「平」があるのだ。どちらかというと、プラスの意味になる。

箱根の富士屋ホテルは日本人が20年間も宿泊禁止だった……1878年創業の老舗で、日本初の本格的リゾートホテルである富士家ホテル。ヘレンケラーやチャップリンなども宿泊に来ている。その理由は独特な建築様式。屋根は神社やお城などに用いられる千鳥破風や唐破風など日本ならではの造りが施され、館内の至る所に和の彫刻が施されている。一方、入り口には日本最古の回転扉があり、さらに内観はモダンな雰囲気が漂う外国のような空間になっている。和の要素だけでなく西洋の文化をいち早く取り入れたのだ。さらに、外国から船で来る客のため、クローゼットは広く、ドアノブの位置を日本平均より10センチほど高くした。その代わり日本人の来店は禁止。外国人に来てもらうために、ライバルである奈良屋旅館と話をし「うちは外国人専用にしたいので、外国人は全て富士屋ホテルに回してほしい。その代わり、日本人は全て奈良屋旅館に回す。この条件を受け入れてくれるなら毎年報酬を支払う」という約束を取り交わした。これにより富士屋ホテルには多くの外国人が宿泊するようになった。2001年に廃業、現在はカフェとして存続している。

赤いスイートピーは当時なかった……松田聖子の名曲であるが、当時赤い色のスイートピーはなく、白やクリーム色が主流だった。赤系のものは存在していたが、流通してはなかったのだ。しかしこの歌が大ヒットしたことをきっかけに、およそ18年の歳月をかけて改良され、2002年に鮮やかな赤い色のスイートピーが誕生。作詞をした松本隆も「実は当時、スイートピーに赤はなくて、発売した後に“ないよ、そんな色”って教えてくれた人がいて“やばいな”と」「花屋さんが、品種改良してむりやりつくってしまったみたい。今は赤いスイートピーは売ってますね」と秘話を明かしている。

華厳の滝は水量を人工的に調整している……落差97メートルを一気に落ちる、日本三大瀑布とされている。水量は、なんとコンピュータにより管理されている。下流に水力発電所があり、電力供給や防災などのために、滝の上流にある中禅寺ダムで水量が調節されている。その水量は平均で毎秒3tとされている。少ないときには毎秒0.3t、台風など増水する時期には毎秒30tもの水が流れる。

クッパがピーチ姫をさらう理由……クッパは大魔王で、コクッパなる子どもたちがおり、ピーチ姫にはお母さんになってほしいから、さらっているのだという。実の息子は「クッパJr.」のみとされているため、ほかはコクッパは養子ということになる。また、クッパは孤児であり、その子ども達に自分と同じ思いをしてほしくない。幸せな家族を築くため、クッパはピーチ姫を母親として迎え入れたいと考えている。一応インターネットで広まっているのはそのような設定だが、これらはあくまで設定から推測されるものであり、公式情報ではない。後に「クッパの子分」(クッパ7人衆)という設定に変更されているなど、公式の情報にも一致しない点がある。子ども思いのお父さんなのだ。

田中角栄「東京タワーは建築物ではなく広告物である」……1958年に完成して以来、東京の街を見守ってきた東京タワー。電波塔としての役割を終えても、観光客の数は減っていない。実は田中角栄と深い関係がある。当時の建築基準法では31mまでだった。東京タワーを建築物とみなせば、高さ333mのものを建てることは出来ない。そこで、当時、郵政大臣であった田中角栄が機転を利かせ、「東京タワーは建築物ではない。広告物である」として、建築基準法の適用外であると担当の大臣に主張させ、計画を押し切って実際に東京タワーが建設された。当初は380メートルの予定だったが、資金不足で333メートルに。クレーンで鉄骨を上に運ぶ以外、職人たちがすべて手作業で造りあげ、その高い技術力は世界中で賞賛された。

ティンパニは打楽器の王様……ティンパニは打楽器の王様と言われ、一番偉い人がなる。曲の盛り上がりで叩くことが多く、影響力も大きいため、他の打楽器はやりたくなくなるという。

バイオリンの第一と第二の違い……第一はメロディばかりを弾いているが、第二はほとんどメロディを弾くことがない。第二バイオリンはそのぶん当然地味なのだが、楽譜がややこしいことも多く、難しいとされる。

コンサートマスターと指揮者……コンサートマスターとは、オーケストラの演奏をとりまとめる職をいい、細かな音だしのタイミングを指示するなど、オーケストラには絶対に欠かせない。一般には第一バイオリンの首席奏者がこの職を担う。

指揮者が突然舞台の上で死んでしまったことがある……ベルディの歌劇「アイーダ」の上演中に54歳の指揮者シノーポリが突然倒れ、死んでしまった。別の指揮者が来るまでコンサートマスターが立って指揮を行った。指揮者というには本当はお飾りでよく、プロのオーケストラであれば指揮者は素人でも演奏が成り立つ。また、下手な指揮者の場合には皆がコンサートマスターの方を向くということもある。

ピアノとオーケストラ……本来オーケストラにピアノは入らない。音域がかぶっており、ピアノでできることはほとんどオーケストラでできるから。ピアノと一緒に演奏するのは、ピアノがソリストとしてとても活躍するときであり、ギャラは当然弾む。

オーボエはハゲる……あくまで俗説であるが、他の管楽器に比べ吹き込む穴が小さく、力をこめるため、はげやすいらしい。本当かはわからない。

宝塚音楽学校の生徒は自衛隊の訓練に参加する……オリエンテーションの一環として。自衛隊の基本動作である行進などの訓練を受け、入学式において、新入生が心をひとつにして入場する姿を見ることができる。現在では、伊丹駐屯地で行われるのではなく、自衛隊の教官が音楽学校に来て訓練を受けるという情報や、自衛隊の訓練への参加自体が行われなくなったとの情報もある。

折り鶴の歴史は安土桃山時代までさかのぼる……最も古い折り鶴は、日本刀の鞘に差し込む小刀の柄の部分「小柄(こづか)」に描かれた金の折り鶴。つまり400年前には既に折り鶴があったとされる。江戸時代中期の寺子屋の様子が描かれた絵には、男の子が折り鶴を折っている姿が描かれている。それまで武士社会のものだった折り鶴が多くの人に伝わったのは、紙を比較的自由に使うことができた寺子屋などからであった。また、女性の着物の絵柄にもよく描かれていた。遊びだけのものではなく、息を吹き込むことで厄や災いを折り紙に吹き込み移して水に流していたとも言われている。現在では、特に千羽鶴を、病気快癒・長寿の願いを込めて入院患者へ贈る習慣がある。

私立大学は寄付金が多い人を優先的に入学させてもよい……法律上の話。一つの会社のようなものであり、どのような人を合格させるかは大学側の自由であるため、優先的に寄付金が多い人を合格させても違法ではない。寄付金が多い生徒を集めて、より充実した大学にするということも考えられる。しかし、寄付金集めを優先すると国から貰える大学への補助金が取り消されるため、実際には行われていないという。

「ウッチャンナンチャン」は最初「おあずけブラザーズ」だった……フジテレビの深夜番組「オールナイトフジ」内で結成した片岡聖子と井上明子のユニット「おあずけシスターズ」をもじったものだった。本来はその後「ちょうなんず」(両方とも長男だった)とするつもりだったが、美術さんに「いやもうウッチャンナンチャンでセット作っちゃったから無理だよ」と言われ、しょうがなくウッチャンナンチャンのままに。

お米屋さんは選挙で選ばれていた……戦後まもなくのこと。お米の値段を不当に上げたり、粗悪な米を混ぜたりしないようにするため。第二次世界大戦中から戦後まではお米は配給制で、お米屋さんはなくなっていた。その後、配給制度がなくなり、民間でお米屋さんを始めることになった。当時、お米屋さんになりたい人は立候補し、大都市で500人、それ以外では300人の票が必要で、信頼されている人しかお米屋さんにはなれなかった。1951年、52年の二回だけであり、それ以降はコメの供給が安定したため、廃止。

姫路城の瓦紋のアゲハ蝶は逆さまで未完成のまま……2015年、24億をかけ5年半の「平成の大修理」を経て、綺麗な姫路城が復活。しかしわざと未完成の部分もある。天守の最上部分に丸瓦があるが、その瓦紋は関ケ原の戦い後の城主である池田輝政の家紋でアゲハ蝶になっている。このアゲハ蝶がいくつか逆さまになった「逆さアゲハ」のままのところがある。「建物は完成と同時に崩壊が始まる」という故事があり、これは鎌倉時代の「徒然草」に記された考え方。1989年にはここから、姫路市は市のチョウとして「ジャコウアゲハ」をとっている。要するに陽明門の柱と同じ考え方なのである。

兵庫県竹田城の石垣は上の石が外側に出た工夫された石垣……普通石垣は斜めに上がるほど小さくなるつくりだが、竹田城は違う。下の石よりも上の石を外側に出しながら斜めの形状を築いている。このため一般的な石垣に比べて竹田城の石垣は登りづらい。これは当時活躍した石工たち(穴太衆：あのうしゅう)の技術によるもの。現在でも穴太衆の末裔である15代目が滋賀県の栗田建設として存続している。

オイルショックの時、高速道路で花見をしていた人達がいた……1973年、原油価格が70％上昇する第一次オイルショックが起きた。当然ガソリンの価格も高騰。田中角栄内閣が「紙節約の呼びかけ」をしたこともあり、「紙がなくなる」という根拠の無いデマが流れ、トイレットペーパーの買い占め騒動が起き、日本中のスーパーからトイレットペーパーが消えたのは有名な話。そんな騒動と同じ頃、高速道路では車が通らないことをいいことに、道路の真ん中に敷き物を広げて高速道路で花見をする人もいた。

全ての都道府県が朝ドラの舞台になっている……朝ドラで放送されたのは全部で95作品。作品によっては複数の県が舞台になっているものもあるが、一応全ての県が登場する。一番多く登場するのは東京都。

ディズニーランドで一番高額なお土産は500万円以上する……東京ディズニーランドで最も高価なお土産は、スワロフスキーがおよそ3万個あしらわれたシンデレラ城、そのお値段514万。買っていく人は「たまにいる」とのこと。ちなみに他の雑学であるが、パーク内には「隠れミッキー」だけでなく「隠れドナルド」もいる。ディズニーシーのキャラクターグッズなどを販売するロストリバーアウトフィッターに隠れている。アトラクションの記念写真は後日買うこともできる。カウンターでフォトキーカードをもらい、専用サイトにアクセスナンバーを入力することで、30日以内まで購入することが出来、自宅に届けてくれるサービスがある。目隠しをして食べるコース料理がある。「ディズニー・ダイニング・ウィズ・ザ・センス」は、魔法のアイマスクで目隠しをすることで、味覚などが研ぎ澄まされ料理をより楽しむことが出来る。雨の日限定のパレードがある。「ナイトフォール・グロウ」と呼ばれるパレードで、キャラクター達は雨に濡れてもよい専用のコスチュームで登場。フロートと呼ばれる乗り物には雨よけが付いている。また、通常のパレードには出てこない映画「美女と野獣」のベルが登場する。雨や風が強すぎると実施されないこともあり、なかなか見ることの出来ない「幻のパレード」。

折りたたみ傘は日本発祥ではなくドイツ発祥……1928年、ドイツのハンス・ハウプト氏が「ポケットに入るぐらいの傘」として、世界初の折りたたみ傘を考案。商品化したのは傘専門メーカーのKnirps(クニルプス)。最近の傘はすごく、傘にプリントされた針を北に合わせると、太陽の向きから時刻がわかる傘だとか、水滴がつかないよう、折りたたんだときに内側にくる傘がある。

浅草の風神・雷神像は頭と胴体で時代が違う……風神・雷神像の頭が江戸時代のもの、体が明治時代のもので分かれている。これは1866年(慶応元年)に起きた田原町の大火で雷門が消失してしまったため。この時、奇跡的に風神・雷神の頭部だけが焼け残った。その後、1874年の修復で新たに胴体が作られ、現在の風神・雷神像となった。

劇団四季のライオンキングのマスクにある工夫……ライオン・キングは1万回を超える日本最長ロングランを更新中。ライオンのマスクは被った後でも動かせるよう、コントローラーで俳優が操作できる。また、パッと見は木に見えるマスクだが、F1のボディと同じ素材カーボングラファイト製でできていて、丈夫な上に軽く、マスクの重さは1kg未満。ちなみに王の座を奪おうとする悪役スカーは、わざと非対称につくられており、非対称の人間は本能的に嫌われるという結果を利用したもの。生け花では、非対称のほうが大胆で躍動感があり、迫力を感じるという。マスクを非対称にすることで、敵役であることとその迫力を伝え、観客を魅了する効果がある。

ピザがきっかけでパックマンが誕生した？……パックマンが発売されたのは1980年。ゲームの開発者がピザを頼み、ピザを1ピース取ったその形が面白いと思い、そこからパックマンが生まれた…。これは後付けのリップサービスで、マスコミが面白おかしく広めたもの、しかしもう本人もそれでいいと認めている。また、目などを付けることも考えたが、そのような追加をするとキリがないということで切り捨てたという。

長崎市の猫はほとんど尻尾が曲がっている……8割ぐらいが曲がっているという。曲がった尻尾の種類には、曲がり尻尾型、短尾型、お団子型がある。江戸時代、日本で唯一西洋に開かれていたのが出島で、当時オランダの船が海上保険に入る条件として、「猫を乗せる」というものがあった。一説では船内の荷物をネズミから守るために、猫を乗せることが海上保険の加入条件だったという。出島に上陸した海外の猫が繁殖して、尻尾の曲がった猫が多くなった。一説では、尻尾の長い猫は年を取ると、尻尾が二股に分かれて猫又という化け物になるという迷信が広まった。そこで、尻尾が短く曲がった猫が重宝され、庶民の間で広く繁殖されたという。

マリオにヒゲが付いている理由……当時の映像技術では16かけ16のドット画で描く必要があった。しかし、その制約の中でマリオに口を細かく描くマス目が足りなかった。そこで、まず鼻を描き、そのすぐ下にヒゲを描くことで口を省略した。ヒゲを付けることで、口がそこにあることを認識させた。マリオにヒゲが付いているのは、当時の映像技術の中で口を表現するための工夫だった。

関東大震災がきっかけで生まれた美容法……二重まぶた整形手術なのだ。長野の天才眼科医である内田は、顔にやけどをした人達をなんとか治療したいと思い、容姿について考えていく中、目が大きい美人は、二重まぶたである人が多いという結論に達した。アジア人特有の蒙古ひだという目頭の皮膚を取り除き、まぶたを二重にして目を大きくするW法という術式を考案。災害が美容に繋がるとは驚きである。

新しい葬儀のかたち「ドライブスルー葬儀」……乗車したままタッチパネルでご記帳。その後、案内に従いお焼香を行う。お焼香はボタンを押すと祭壇の花飾りが点灯。参列の様子はスクリーンに映し出され、誰が来ているか分かり、カメラを通して遺族と挨拶ができる。ありがたくなさそうだが、この葬儀は高齢者など参列が困難な人のために開発されたもの。現在ではまだ珍しい葬儀のかたちだが、今後、高齢化社会が進むにつれて一般的になるかもしれない。

選挙カーにオープンカーは使えない……オープンカーでの演説は何となく品位にかけるから、という理由だそう。同じく屋根のない船での演説は認められている。また、道路交通法により、選挙カーは運転者以外のシートベルト着用義務が免除されている。

ボクシングの世界チャンピオンになったらベルトは買い取り……ベルトはもらえず、買い取りとのこと。約20万前後。防衛した場合は最初に買ったベルトを使い回す。次の新チャンピオンがベルトを新調し、買い取るという。ちなみに、チャンピオンになるとベルトに自分の写真入りのバッチが付く。

パトカーの色は昔、真っ白だった……1950年、日本に初めて導入されたパトカーは、今のツートンカラーではなく、白一色だった。当時、日本で生産される車はほとんどが白色だったため、パトカーも白色になったが、一般の車とパトカーの見分けが付かなかった。そこで、5年後の1955年から一目でパトカーだと分かるように、現在のような白と黒のツートンカラーに統一。また、当時はまだ道路舗装が普及しておらず、車体が汚れやすかったため、汚れを隠すために下半分を黒色にしたという。

2000円札は数十年新しく製造されていない……2000円札は2000年に開催された沖縄サミットと西暦2000年のミレニアムを記念して作られたお札。表面には沖縄の守礼門、裏面には源氏物語絵巻第38帖「鈴虫」の絵図と詞書および作者の紫式部の肖像が描かれている。製造は2000年と2003年に行われただけで、数十年新しい2000円札は作られていない。滅多に見ることがなくなった2000円札だが、デザインのモチーフとなった沖縄では「みんなで使って広めよう二千円」として積極的に使用する運動が実施されており、2000円札が優先的に出るATMが設置されているなど、2000円札を絶やさないための活動が行われている。

クリスタルキングの名曲「大都会」は「福岡」のこと……「あぁ～ 果てしない 夢を追い続け～」ではじまるあの歌であるが、実は東京ではなく、福岡のことをさしている。当時、長崎県で活躍していたクリスタルキングには「福岡」が大都会だった。元クリスタルキングで作詞を行ったハイトーンボイスの田中昌之氏が言うには「都会の女性は怖い、平気で人をだますことが出来る」とのことで、「あぁ～」は福岡の女性にだまされ、思わず吐いたため息だった。

ピサの斜塔は建設途中に地盤沈下で斜めに傾いた……1173年に着工したが、何度も工事を中断し、199年後の1372年に完成と、非常に長い期間にわたって建設工事が行われた。高さ約55m、8階建てで大理石でできている。最初から斜めに設計されていたわけではなく、建設途中で傾き始めた。工事が始まった頃は真っ直ぐ立っていたが、3階ぐらいまでの高さが出来上がった時、地盤沈下が発生して塔が傾いてしまった。その後、慌てて軌道修正を行い、倒れずに完成させた。そのため、塔は途中から角度が変わっている。近年傾きが増加し、一時立ち入り禁止に。その後工事が行われ、5.5度の傾きが3.39度に是正。入れるようになった。

パラオとバングラデシュの国旗は左寄り……パラオは日本人に敬意を表し、第二公用語を日本語にしている国。国旗の丸がちょっとだけ左にずれているのは、「日本に謙遜したため」という説もあるがこれは間違い(パラオ人が公式に否定している)。風になびいている時に丸が真ん中に見えるようにするため。同様にバングラデシュの国旗は緑に赤だが、これも左にずれてて、同じ理由。

ゴジラの鳴き声は楽器の音を加工して作られた……「ゴジラ」という言葉は「ゴリラ」と「クジラ」を掛け合わせた造語。ゴジラの鳴き声は、クジラの鳴き声のようにも聞こえるが、クジラではなく楽器の音を加工して作られたもの。その楽器とはコントラバス。コントラバスの弦に滑り止めに使われる松ヤニを塗り、皮手袋をはめた手でこすった音が元になっている。その音を重ね、質感の調整などを行って加工することでゴジラの鳴き声が作られている。

浅草には人力車のための標識がある……例えば、「駐停車禁止」の標識に「人力車を除く」の文字があり、「人力車以外は駐停車禁止」の意味、つまり、「ここには人力車を止めてもよい場所」ということになる。これは人力車を利用している人が安全に乗り降りができるように設置されたもの。このような標識が浅草には数多く見られる。

浅草寺のおみくじは凶が3割である……おみくじの筒から出た番号の引き出しを自分で開けて、くじを取るという仕組み。大吉から凶まで決まった割合で入っており、凶は3割と多い。伝統的なおみくじは、3割が凶であるが、おみくじの割合は各神社仏閣に任されているため、その割合を変えているところもある。浅草寺では、100枚中3枚と最も少ない末小吉を引いた人は、最もレアなくじを引いたとも言える。

空海は人々を救うために井戸を掘った……空海は平安時代のお坊さんで、中国の唐から帰国した後、京都を訪れた。そこで、疫病や飢饉に苦しむ人々を目の当たりにすることになる。唐から持ち帰った技術で井戸を掘り、人々のために祈祷を行った。これは新しい井戸を掘り、綺麗な水を確保することで疫病の対策になったとも考えられる。実際にその井戸は残っており、冥界に繋がっていると信じられ、古くからの信仰の対象となっている。

どっどど　どどうど　どどうど　どどう……宮沢賢治「風の又三郎」の冒頭の一節。「どっどど　どどうど　どどうど　どどう　青いくるみも吹きとばせ　すっぱいかりんも吹きとばせ　どっどど　どどうど　どどうど　どどう」が全部である。かりんとは何なのか。バラ科の落葉高木で、その果実はカリン酒などの原料になる植物。リンゴに似ている。

MADテープ……1980～90年代にかけて、カセットテープをメディアとして製作された音声MAD。ダブルカセットの録音機能と停止ボタンを駆使して、アニメーションや特撮、時には童謡やドラマなどの音声を切り張りして製作される。つまりMADとは何かの略ではなく、「狂っている」という意味のmadがもとになったもの。

オウム真理教在家信者死亡事件……1988年9月におこった事件。死んだ在家信者は、9月より教団が開催する修行に参加していたが、突如大声をあげて暴れだした。麻原彰晃は頭を冷やすように言えと弟子に命令し、この在家信者を風呂場に連れて行かせ、頭を浴槽の水につけるなどさせたが、その過程で意識不明に。その知らせを聞いた麻原は、すぐに駆けつけ自らエネルギーを送る等し、他の信徒が人工呼吸などの蘇生処置をおこなったが、そのまま死亡してしまった。これがバレると教団に悪影響が及ぶのは事実で、麻原は「いよいよこれはヴァジラヤーナに入れというシヴァ神の示唆だな」とつぶやいた。

なぜ夜に爪を切るとダメなのか……親の死に目に会えない、と言われている。真実ははっきりしていないが、昔は照明が発達しておらず、今のように機能的な爪きりもない。暗がりで爪を切るとどこに飛んだかわからなくなることから、親にいただいた体の一部を粗末にしたことへの戒めだとも、もしくは暗がりで刃物を使うような不用心な人は、そもそも長生きできないからだとも、江戸時代にお城の夜間の勤務を「夜詰め」と呼んでいて、重要な仕事のため、たとえ親が死にかけになっても家に帰れなかったことからだともいわれる。

クロイツフェルト・ヤコブ病……病状がアルツハイマー病に似ている病気で、全身の不随意運動や急速に進行する認知症をもつ。いろんな型があるが、変異型というものは異常プリオンタンパク質を含む食肉、つまり人肉を食したためにかかるとされ、世界中で問題になった。かつてニューギニアで行われていた食人の文化に起因するクール―病も、類縁疾患に含まれていた。

戸塚ヨットスクール……愛知県知多郡美浜町にあるヨットスクール。神奈川の戸塚にあるわけではない。1976年、オリンピックでも通用する一流ヨットマンを育てる目的で建てられたが、「戸塚ヨットスクール事件」といって、訓練生の自殺、行方不明、傷害致死事件などが起き、警察の捜査が入り、校長以下15名が逮捕されることとなった。近年もスクール生の自殺や未遂事件が発生している。スパルタ指導も健在で、4歳の子供であろうと指導に従わなければ海へ投げ込まれるという。入校金は324万円、生活費は毎月12万。こんなところに子どもを入れたがる人は、相当にスパルタなのだろうか、それとも何かの事情があるのだろうか。

クリスマス休戦……WW1、1914年のクリスマスに、ドイツとイギリスの兵士たちが休戦し、クリスマスを祝ったという出来事。この頃戦争の長期化が予想され、また物資の不足から、年明け3月ぐらいには大規模な停戦をすることがわかっていたためか、自然とドイツ側の兵士が塹壕から手を振り、武器を捨てて出てきたという。両軍の戦死者の遺体を回収し合同埋葬式を行ったり、酒、タバコなどを交換したり、記念写真を撮影したり、サッカーの試合をしたりした。ただし停戦しなかったところもあり、クリスマスを祝おうと塹壕を出たところを殺された兵士もいる。”Dragon Night”ドラゲナイは、クリスマス休戦がもとになっている。一日だけ非日常を日常にして、その後また殺しあう、というのは、どういう気持ちだったのだろうか。

環境エンリッチメント……飼育している動物の正常な行動の多様性を引き出し、動物の福祉を改善するため、飼育環境に対して行われる工夫。例えばわざと餌を取りにくいところに置いたり、ばらまいたりすることなど。餌を決まった時間にあげないのもこれの一つ。また、池やジャングルジム、ボールなどをおくのも。本物の森林で録音した音を聞かせたりするのも。

「鯖街道」の名前の由来……福井県小浜市から京都市上京区までの約72kmの道。サバといえば福井県の若狭湾で、そこで獲れたサバを京都まで運んだ。塩でしめて徒歩で運ぶと、1日ぐらいなのでちょうどよい塩加減になったという。つまりサバを運ぶのに使ったから、鯖街道なのである。

全仏オープンの審査制度に再審査がない理由……テニスでは、審査が不服の場合、申し立てを行い再審査を申請できる。しかしテニスの四大大会の中でも、全仏オープンだけは再審査がない。実はこれ、他が普通のテニスコートなのに対し、全仏オープンは赤土で、ボールがどこに落ちたかを、ちゃんと確認することができるためだという。

国民の祝日一覧……元日(1月1日)、成人の日(1月第2月曜日)、建国記念日(2月11日)、春分の日(春分日)、昭和の日(4月29日)、憲法記念日(5月3日)、みどりの日(5月4日)、こどもの日(5月5日)、海の日(7月第3月曜日)、山の日(8月11日)、敬老の日(9月第3月曜日)、秋分の日(10月第2月曜日)、体育の日(10月第2月曜日)、文化の日(11月3日)、勤労感謝の日(11月23日)。積極的に有給を取りにくいため、このように祝日を先進国中最多にしている。

ぎっくり腰は「魔女の一撃」と呼ばれている……突然腰部に激痛が走る疾患で、正式には急性腰痛症という。運動不足(急な運動)、年齢によるものなど、いろんな原因がある。当然原因を特定できない腰痛もある。何にせよ非常に痛いらしい。欧米ではあまりの痛さに「魔女の一撃」という名前がついているほど。

リンチは人名……リンチ、正規の法的手続きをとらず、民衆や団体内において行われる暴力的な私的制裁。私刑。1770年代、アメリカバージニア州で私的法廷を主宰していたCaptain Wiliam Lynch(キャプテン・ウイリアム・リンチ)の名前が語源である。リンチは私設法廷で正規の手続きによらず、残酷な刑罰を加えたことから、そのような刑罰を「lynch law」と呼ぶようになった。

オオウミガラス……海鳥の一種。かつて北大西洋と北極海にいたが、1840年代に絶滅。全長約80cm、体重5kgに達する大型の海鳥で、ウミスズメ類の中では抜きん出て体が大きな種類だった。属名"Pinguinus"の通り、本来はこの鳥が「ペンギン」。しかし羽毛や脂肪を採取するため、8世紀ごろから乱獲。最後の繁殖地が天災により失われたことによりオオウミガラスは既に絶滅寸前であったが、そのため却って希少価値がつき、標本は収集家や博物館に高値で買われるようになり、一攫千金を狙った者たちによって残ったオオウミガラスも次々と狩られていった。

森鴎外と脚気……森鴎外は森林太郎(もりりんたろう)という名前で医者としても活躍していたが、日清・日露の戦争を控え、兵士の健康を維持する大役を担った。そして当時の軍隊において最大の健康問題が脚気流行。彼が書いた「日本兵食論大意」によって陸軍医総監である石黒は「脚気は栄養不足ではなく伝染病によって起こされる」と信じ切っていた。そのため海軍が麦飯を食べて脚気を治してしまったのにもかかわらず、陸軍では4万人もの脚気患者を出してしまう(これは戦争で銃に撃たれて死んだ人よりも多い)。彼はずっと脚気がビタミンB1不足であるということを認めなかったという。現代の薬害エイズにも通じるものがある。ちなみに彼、好物は「饅頭茶漬け」なかなかの奇人である。他にも、自分の嫁と自分の母の仲を良くさせるため、2人にすごろくをさせたこともある。そこで勝負させるなよ。さらに、「大発見」という作品に、「ヨーロッパ人もハナクソをほじる」と書いてある。やはり奇人。

塹壕足……世にも恐ろしい病気の名前。泥にぬかるむ塹壕で戦っていたWW1時代の兵士たち特有のもので、ブーツの中に入ってきた水をそのままにして何日も過ごすことで、重篤な水虫や凍傷を引き起こし、循環器系の障害がおきたという。酷い場合は足を切断することもあった。現在は燃料気化爆弾などのおかげで、塹壕を使用せずに済むようになったが、それが良いかどうかはまた別問題。ちなみに塹壕での生活は、砲撃音によるストレスなどによって、「シェルショック」という精神病も引き起こした。動画も残っているが、非常にショッキング。

天下三名槍……御手杵、日本号、蜻蛉切の3つ。オテギネは室町時代にできた槍で、重さ30キロ前後。普通の人には持つことさえ敵わないようなもの。しかし1945年、空襲にあい、天下三名槍のうち一つだけ消失。現在は有志により複製品がつくられている。日本号は太兵衛(母里友信という酒豪の武将)が持っていたもので、もともとは天皇が室町幕府将軍の足利義昭に下賜、その後織田信長を経て豊臣秀吉に渡され、福島正則にわたる。「この大盃の酒を飲み干せばなんでもほしい物をやる」と彼に言われ、本当に飲み干して太兵衛がもらい受けたのが日本号。蜻蛉切は本多忠勝が愛用したことで知られ、槍を立てていたところに止まった蜻蛉が当たって真っ二つになったという伝説がある。

火炎放射器の主な用途……火炎放射器といえば何となく「相手を燃やして殺すのだろう」というイメージがあるが、それは正しくない。もともと毒ガスの代わりとして洞窟や塹壕に引きこもる兵士に有効打を、ということで、焼死させられなくとも、空気を奪って酸欠にしてしまえばよい、という発想なのだ。ちなみに火炎放射器をもつ兵士はそれだけ狙い撃ちされやすく(当たれば爆発するとかそういうことではなく、放っておくと危険だからだ)、志願兵も少なかったとか。

サーロ……ウクライナ料理。簡単に言えば豚の脂身の塩漬け。ボルシチなどと並び、ウクライナの代表的な伝統料理。

黒田官兵衛の兜にこめられた意味……黒田官兵衛。別名黒田如水。戦国一の知将とも目される彼の兜はなぜかお椀の形だった。銀箔を施した上から透漆をかけた「白檀塗」が特徴的な艶のある赤褐色を作り出したとされる。お椀は戦場においては「敵を飲み干す」という意味合いを含み、知略に富んだ軍師として、また勇猛果敢な武将として黒田如水の戦いぶりを物語るアイテムとなっている。ちなみに改名したのは出家したからである。

空城計……兵法三十六計の一つである作戦。あえて自分の陣地に敵を招き入れることで敵の警戒心を誘う計略のこと。野戦で敗れた場合、多くは敵が圧倒的に有利である。城に逃げ込んでも補給を絶たれ、降伏させられるであろう。逆に言えば、相手に対し自軍の戦闘能力を錯覚させればよいのだ。例えば、敵軍に攻め寄せられた際に城門を開け放ち自ら敵を引き入れようとすれば、優秀で用心深い指揮官ほど逆に警戒する。三国志演義では諸葛孔明が用いた。野戦で魏に負けたとき、城門をあえて開け放ち、自分は楼にのぼり一人琴を奏でた。司馬懿は最終的に彼の奇策を見破れず、城内に踏み込まなかったという。正史では趙雲が用いた。日本では戦国時代、徳川家康が窮地を逃れた際の事例がある。三方ヶ原で敗れ、壊滅状態で浜松に逃げたが、あえて大手門を開き、内と外にかがり火をたかせ、太鼓を叩かせたという。武田軍はそのまま退却していった。

へし切長谷部……織田信長が持っていたという刀。自分へ敵対を働いた観内という茶坊主を成敗した時、台所へ逃げて膳棚の下に隠れた観内を棚ごと「圧し切り」(刀身を押し当てて切ること)にして斬殺したことで、その際用いられた大切れ物の刀に「へし切」の異名が付けられた。その後豊臣秀吉を経て黒田長政に下賜された…とも、黒田孝高が小寺政職の使者として信長に面会した折、中国攻めの策を提言した褒美として信長から彼に与えられたとも。

親日国のポーランド……日本人からはほとんど知られていないが、ポーランドの人達はかなり親日であるという。そのきっかけになったのが日露戦争。ポーランド独立の英雄として後に語られることになるピウスーツキは、日本に「日本とポーランドが手を携えてロシアと闘おう」といった。ポーランドがシベリア鉄道の破壊やロシア軍に徴発されているポーランド兵の脱走・投降工作をする代わりに、日本は独立運動への支援を行う、という具体的な提案だった。結局日本はポーランド人捕虜のための収容所をつくり、そこで特別にポーランド人を厚遇。日本海海戦で日本がバルチック艦隊を破った時には、ポーランド人捕虜全員が万歳を叫んだ。その後第二次世界大戦。ナチスに追われた6000人ものユダヤ人に、日本へのビザを発給して救った、リトアニア領事代理の杉原千畝は、ポーランド人にはよく知られている。彼の任務はポーランド軍との協力関係を結ぶこと。防共協定を結んだばかりのドイツがソ連と不可侵条約を結んだことに不信感を募らせ、情報収集を強化する必要性を感じた日本。大戦前からドイツに情報網を張り巡らせていたポーランド。杉原はポーランド軍参謀本部の情報将校たちや、リトアニアにおけるポーランド諜報組織「ヴィエジュバ」、さらにはロンドンでの亡命政府傘下の軍事組織「武装闘争同盟」と接触して、情報を収集。一方でポーランドの諜報員は、日本や満州国のパスポートを得て自由に行動することができた。ちなみにポーランド、阪神淡路大震災にて、被災した60人の子どもたちを招き、慰めてくれた。

京セラドームで禁止された「ある行為」……東京ドームでもヤフオクドームでも大丈夫なのに、京セラドームでは禁止されている行為がある。それがジャンプ。ドームはライブに使われることが多いが、地盤が弱く、観客が一斉にジャンプすると、周辺が震度3から4になるという。ジャンプ禁止のライブか…。

スターボード艇優先の原則……二隻の帆船が互いに接近し、衝突するおそれがあり、風を受ける舷が異なる時、左舷に風を受ける帆船が進路を避けなければならないとする原則。右舷にステアリングボードを装備していた大航海時代、右舷に風を受けて走行している帆船は、船体を左に傾斜した状態で進行し、ステアリングボードは機能しづらい状況となる。したがって、左舷に風を受けて走行している帆船のほうが、より衝突を回避する能力の高い状況にあることになるため、右舷に風を受ける帆船の進路を避けることとされたことが起源という。これは現在でも、海上衝突予防法として継承されている。この法律により、全世界共通で海上では右側通行である。ちなみに科学的理由はないが、慣習的に(航空法は船舶の法律がもとでつくられたため)航空機も同じである。

ぺんぺん草とは何なのか……田端、荒れ地、道端などいたるところに生える草。4枚の白い花弁を持ち、茎から何本も花弁が出ている。必ず見たことがあるだろう。このぺんぺんとは三味線をはじく擬音語で、花の下に付いている果実の形が、三味線のバチによく似ている。実はこれ、春の七草のひとつ、ナズナのことなのだ。ナズナは荒れ地でも容易に根をはるため、転じて何も残っていないことをぺんぺん草も生えない、と形容するのだ。

工場の出口……世界で初の実写商業映画。モノクロ、無声、そしてドキュメンタリー映画。労働者たち(女性)がリュミエールの工場から出てくるシーンは有名で、かの映像の世紀にも用いられた。全部で800フレーム、毎秒16フレームで、50秒間。1895年だからわずか約100年前。

イサドラ・ダンカン……20世紀を代表するアメリカのダンサー。非常に舞踊がうまく、身体表現のカタそのものを変革したとも言われる。また大のカメラ嫌いで、イサドラの舞踊を記録した動画映像は屋外で隠し撮りされたものが一つ存在するのみ。即興的なものが多く理論化できなかったことが惜しい。スカーフが自動車の車輪に巻き込まれ、イサドラは転倒して惨死。イギリスの著名な作家バーナード・ショーに結婚を申し込み「あなたの頭脳と私の肉体を持ったこどもが生まれたらどんなに素晴らしいか」というと、彼は「私の肉体とあなたの頭脳をもったこどもだったら大変です」と答えたという逸話が残っているが、これは少々眉唾。

ごちそうさま……ご馳走とは贅沢な料理のこと。料理をもてなしてくれたことに対する感謝のことば。ご馳走の「馳走」とは本来走り回るという意味で、奔走することを意味していた。昔は客の食事を用意するために馬を走らせ、食材を集めたことから「馳走」が用いられ、さらに走り回って用意するところから、もてなしの意味が含まれるようになった。あいさつとして用いられるようになるのは江戸時代後半。

トイザらスのあのRが反対になってる理由……最近アメリカのトイザらスが倒産したから、もしかしたら使わない雑学かもしれないが。あれは子どもが書き間違えて、逆に書いてしまうのを再現したのだという。当然ながら教育者や、小さな子供をもつ親には批判されたが、人々の関心をひく名前だと、ラザラス氏は確信していた。

ユニバのアレ(地球儀)の向きに関する雑学……ユニバーサルスタジオジャパンを訪れると、右奥のほうでゆーっくりと回っているアレ。地球のオブジェ。あれは地球の自転とは反対、つまり時計回りに回っているが、その理由はなんだろう。答えは”UNIVERSAL”のスペルが読みやすいため。自転通りに回っていたらスペルが”LASREVINU”となってしまい、アレ？アレ？となるのだ。

トラツグミ……体長は30cmほどでヒヨドリ並みの大きさ。頭部から腰までや翼などの体表は、黄褐色で黒い鱗状の斑が密にある。夜の森で細い声で鳴くため、昔から「鵺鳥」(ヌエドリ)と呼ばれ、気味悪がられてきた。トラツグミの声で鳴くとされた架空の動物はその名を奪って鵺と呼ばれ今ではそちらの方が有名となってしまった。

鵺……ヌエ。日本で伝承される妖怪、あるいは物の怪。「平家物語」などに登場し、サルの顔、タヌキの胴体、トラの手足を持ち、尾はヘビ。「源平盛衰記」では背が虎で足がタヌキ、尾はキツネになっており、さらに頭がネコで胴はニワトリと書かれた資料もある。「ヒョーヒョー」という、鳥のトラツグミの声に似た大変に気味の悪い声で鳴いた、とされる。古事記や万葉集にも記述がある。あくまで「鵺の声で鳴く得体の知れないもの」で名前はついていなかったが、現在ではこっちのほうをヌエと呼ぶ。つまり本来はこの怪物はヌエではなく、鳥のほうがヌエだったのだが、いつのまにかこの怪物がヌエになり、鳥のほうはトラツグミと呼ばれるように。

左党・上戸がなぜ酒豪をあらわすのか……まず左党。別名左利き。これは、江戸時代の大工に由来する。右手に槌、左手にノミを持っていたため、左手を「ノミ手」といった。この「ノミ手」が「飲み手」と同じ発音だったため、ダジャレみたいにして酒豪を表すように。で、上戸は律令制の時代にあった階級制度がもととされる。各家庭の階級が人数や資産で分かれており、上から大戸・上戸・中戸・下戸と分かれており、上戸は上流階級で、下戸は最下級の家を表す。婚礼の際に飲むことができる酒の量は当然上の階級の方が多く、飲む人を上戸と言うようになったらしい。ちなみにウワバミのように飲む、というのも同じ意味であるが、英語では魚に例えられる。

たくあん……大根を糠と塩などで漬けた漬物。正式名称は沢庵漬け。江戸時代に臨済宗の沢庵(苗字です)が考え出したという言い伝えがある。「初めは名も無い漬物だったが、ある時徳川家光がここを訪れた際に供したところ、たいそう気に入り「名前がないのであれば、沢庵漬けと呼ぶべし」と言った」と伝えられている。別の説では「混じりけがないもの」という「じゃくあん漬け」あるいは「たくわえ漬け」が転じたとも。外国人はこのにおいを嗅いだことがないため、臭いと感じるらしい。

ロードランナー……カッコウ科の足の長いトリ。和名はオオミチバシリ。だいたい全長50センチぐらいで、体重は300グラムぐらい。滞空時間が限られているかわり、地上での生活を主とし、最高時速32キロで走ることができる。42キロで走ったという例も報告されている。もちろんダチョウの時速70キロに及ぶべくもないが、飛ぶことができる鳥が出せる最高時速としては、当然最高。飛ぶことができはするが、そんなに上手ではなく、長くは飛べない。ワーナーブラザーズによって1949年にアニメ化され、現在も放映中。「コヨーテとロードランナー」(“Wile E. Coyote and the Road Runner”)というタイトル。

20世紀フォックス……ロサンゼルスを拠点とする映画会社。21世紀フォックス(ニューヨークに拠点をおくエンターテインメント企業)の傘下。1934年、フォックス・フィルムと20世紀映画が合併したことでこの名前となった。有名なのは猿の惑星、インデペンデンス・デイ、アバター、カンフーパンダ、サウンドオブミュージック、スターウォーズ、ダイハードなど。ちなみにフォックス・フィルムはウィリアム・フォックスにより設立されたものであり、別にキツネが好きだったからではない。でも名字がキツネとかほんとうらやましい。もしかしたら前世の筆者かも。2020年のニュースによると「フォックス」の名は外されることに。新たな名前は「20世紀スタジオ」。保守色が強いFOXニュースのイメージを打ち消すため。バラエティー雑誌によると「ネズミ(ミッキーマウス)がキツネ(フォックス)を殺した」とのこと。

セイヨウウスユキソウ……ヨーロッパ各国において「エーデルワイス」の呼び名で知られている植物。8枚ぐらいの白くて割と大きい花弁があるように見えるが、実は花弁ではなく変形した葉っぱ。本当の花弁は真ん中の直径5ミリぐらいの黄色い筒状のもの。名前はドイツ語のedel(高貴な、気高い)と weiß(白)に由来。薬草としても重要で、乱獲され続けたため、現在は野生株を見ることがほとんど不可能。客寄せのために植えられたものがほとんど。

ポアの意味……日本の某オウム真理教が使っていたことば。殺人を正当化する為に使用したものとされる。本来のチベットにおけるポワとは、死に瀕した者の耳元で経文を唱えてあげるなどして、死後に迷う事なく良い来世に向かわせる為の特殊な作法のこと。つまり「殺害しろ」って言ったわけじゃなくて、「ポアしろ」って言っただけだからセーフ理論を貫こうとしたのだ。

生き残るために人を食べることは犯罪か？……ミニョネット事件というのがそれ。19世紀に漂流船上で起きた食人のための殺人事件とイギリスで行われた裁判事件を総称していう。つまり生き残るために人を食べたが、それは犯罪に当たるかどうか、という話。艇内にはカブの缶詰2個以外食料や水が搭載されておらず、雨水を採取したり漂流5日目に捕まえたウミガメなどを食い繋ぐも漂流18日目には完全に底をついた。19日目、船長は、くじ引きで仲間のためにその身を捧げるものを決めようとしたが、船員の1人が反対した為中止された。しかし20日目、船員の中で家族もなく年少者であった給仕のリチャード・パーカー(17歳)が渇きのあまり海水を飲んで虚脱状態に陥った。船長は彼を殺害、血で渇きを癒し、死体を残った3人の食料にしたのである。結局カルネアデスの板にはあたらないとされ、謀殺罪として死刑が宣告された。しかし、世論は無罪が妥当との意見が多数であったため、当時の国家元首であったヴィクトリア女王から特赦され禁固6ヶ月に減刑。

リアル・バトルロイアル、アナタハンの女王事件……サイパンの北方約117キロに位置するアリアハン島にておこった事件。この島に派遣された32人の男と1人の女「比嘉和子」と共同生活していくうちに、男性達がその女性を巡って争うようになり、男性が次々に行方不明になったり殺害されたりした。自給自足だったのだが、銃が見つかってからは公然と殺害行為も起こる。行方不明者と合計で13名(女性絡みが3名、他は過酷な生活環境による過労死)が死亡したと考えられる。

八甲田雪中行軍遭難事件……八甲田山への行軍訓練中に、210名中199名が死亡した事故。日本の冬季軍事訓練における最も多くの死傷者が発生した事故であるとともに、近代の登山史における世界最大級の山岳遭難事故である。吹雪だったため周りのことも全く分からず、足先から凍死する者、小便を垂れ流してそのまま小便ごと凍傷になった者、気が狂って川に飛び込んだり崖から落ちたりする者など、現場は地獄絵図。体感温度は吹雪と風でマイナス50度。貧弱な装備、雪に対する知識の無さ、上層部の無能、様々な要件が絡んだ不幸な事故と言わざるを得ない。Wikipediaの記事が本当に読ませる。名文。

ニュージャージーサメ襲撃事件……1916年にアメリカで起きたサメによる獣害事件。当時はサメが人を食べるという認識がなく、数人が食われ、1名が重傷。これをきっかけにサメに対する認識が変わり、また映画「ジョーズ」のきっかけとなった。終わりはあっけなく、海上で漁をしていた剥製業者の船の網に、2.5mほどのホオジロザメがかかった。殺して持ち帰り、剥製業者がサメの胃を裂くと、中から人間の骨と思われるものが出てきた。つまり別にマタギが殺したわけではないのだ。

個体数に反して絶滅した「リョコウバト」……北アメリカ大陸東岸に棲息していたハト目ハト科の渡り鳥。鳥類史上最も多くの数がいたと言われたが、乱獲によって20世紀初頭に絶滅。1810年にケンタッキー州の営巣地の群れについて、22億3000万羽以上と推計がされた記録もある。だいたい50億匹がいたらしいが、肉が美味で、また羽が羽根布団の材料になるということから、乱獲。保護すべきとの声もあったが、それでもまだ莫大な数がおり検討されなかった。その間にもリョコウバトの数は減り続け、密猟が絶えなかった。ヒナまで乱獲される事態まで起こった。1890年代には姿がほとんどいなくなり、保護も試みられたが時すでに遅し。そのかつての個体数とは裏腹に繁殖力の弱い鳥類であり、小さな集団では繁殖できず、繁殖期は年に1度で、しかも1回の産卵数は1個だけ。いったん減った数を戻すのは困難だった。

風船爆弾……日本はアメリカ本土を爆撃したことが一度もない、と思われがちであるが、実はあるのである。それがこの風船爆弾。和紙とこんにゃく糊でつくった水素に爆弾をつめ、ジェット気流に乗せてアメリカ本土を攻撃。9300発中アメリカに到達したのは1000発と言われ、ピクニック中の民間人6人を殺傷せしめたのが唯一の戦果。しかしアメリカ軍は士気の低下を恐れ、緘口令を敷いたり、細菌学者400人にガスマスクをつけさせ、風船爆弾の調査をさせたりしたため、当初目的としていた「後方かく乱」の効果はあったようだ。1948年戦後初のアドバルーンが日本劇場屋上であげられたが、風船爆弾を連想するとのことで、GHQにより禁止させられた。

アメリカは存在しない日本軍と戦ったことがある……ロサンゼルスの戦いという。WW2中の1942年、ロサンゼルス市で行われたアメリカ陸軍による軍事作戦。日本海軍の艦載機による空襲が行われたと誤認したアメリカ陸軍が対空砲火を中心とした「迎撃戦」を展開、その模様はラジオ中継されアメリカ西海岸のみならずアメリカ全土をパニック状態に陥れた。しかし実際に日本海軍がそうした空襲を行った記録はなく、騒動の真相は未だ不明のまま。交戦勢力が面白い。日本軍は実在せず、アメリカ軍はなし。なおこうなるに至った経緯は、日本軍が太平洋岸地域で頻繁に貨物船などの撃沈を行っていたからで、度重なるアメリカ本土への攻撃によって慎重になっていたから。なにしろ上層部は日本軍上陸後のことまで考え、まずロッキー山脈で食い止め、それに失敗したら中西部のシカゴで阻止することを検討していたから。買いかぶり過ぎですよ。西海岸一帯においては、黄色人種である日本人と日系アメリカ人に対する人種差別を背景にした日系人の強制収容までもが行われていた(ほかの国は違う)。結局のところ本当に日本軍は航空機を飛ばしておらず、また風船爆弾は実用化されておらずで、しかし実際にいくつもの光を見た人もいて、謎なのである。UFOなのではないだろうか。

台湾の果物屋で見る「自殺」「他殺」とは……主に台湾でしか使われない中国語で、大きい果物のところに貼ってある。とても怖い漢字であるが、実は他殺とは「店で既に切ってある果物」、自殺は「まだ切っていない果物」のことなのだ。

ベイカーベイカーパラドクス……「思い出したい事柄の周辺は次々に想起されるのに、肝心の事柄が思い出せない」という現象。「その人の職業がパン屋(baker)というところまで思い出せるのに、ベイカーという名前が思い出せない」というジョークから。この理由として、人間の知識は一定の規則によって構築されているから、があげられる。例えば「人」は「大学生」の上位概念であり、「生物」はの下位概念である。しかしこのネットワークにおいて、「個人名」は他の概念と結び付けにくく、貧弱なネットワークしか構築できない。そのため個人名を想起するのにはかなりの努力が必要で、容易に忘却してしまうのだと考えられている。

かしわと鶏肉の違い……鶏肉のことを、中部地方、関西地方、九州地方で「かしわ」と呼ぶ。落葉して茶褐色になった「かしわ(柏)」の木の葉の色によく似ていたことが、「かしわ」の語源という説もあるように、本来の「かしわ」は「ブロイラー」とは違い、茶褐色の羽が特徴的な日本のニワトリ(鶏)のことを指していた。現在では、中部地方の一部、関西地方、九州地方などでは「ブロイラー」を含めた鶏肉全体のことを指す言葉として「かしわ」という呼び方が定着し、今でも使われている。

伊達巻きの語源……オシャレという意味の「伊達」から来ている説もあるし、着物の伊達巻きに由来するなど、さまざまである。あの甘さは当時糖分が貴重だった人々の、年始の歓びを表すもので、筆者は大好きである。白身魚のすり身に溶き卵とダシを加えて、みりんや砂糖で調味して焼き上げる。材料は簡単に揃うのにつくるのが難しいおせち料理の筆頭であり、既製品を買う人も多い。ちなみに右巻きのほうが「エネルギーが入って縁起がよい」らしいが、ひっくり返すと左巻きにもなりませんかね？

ディンゴ……オーストラリアにのみ生息する、タイリクオオカミの亜種。現在では混血が進んでディンゴ・ハイブリッドとなってしまっているが、純血なものも一部存在する。広い意味での野犬に当たり、英語圏では”wild dog”が用いられることも多い。多くは黄褐色の体毛と垂直に立った耳をもつ。中型から大型犬ほどの大きさで、性質は獰猛。イエイヌと違って吠えない。アボリジニに飼われ、残飯処理や抱かれて眠ることで毛布代わりに用いられていたという。ヒツジなど家畜を襲うため、南東部には「ディンゴフェンス」という5000キロの柵がある。

ハーレム……ハレムとも。イスラム社会における女性の居室のことである。この名称はトルコ語からイスラム世界の外側の諸外国語に広まったもの。原義は「禁じられた場所」。これは女性は貞操を守るためとのムハンマドの教えによるもので、後世のムスリムたちが家屋に「ハーレム」の空間をおいた。イスラムの教主であるカリフの権威が絶頂に達したアッバース朝においては「千夜一夜物語」に半ば伝説化して語られたような非常に大規模なハレムが営まれていた。ちなみに日本語だとlとrの区別がないためわかりにくいが、アメリカのマンハッタンにあるハーレムとは全く関連がない。

369歩兵連隊……ニューヨークのハーレムにいた、黒人のみの志願兵部隊。フランス国防軍の指揮下に入り、フランスの軍服を着て戦った。“Harlm Hellfighers”(ハーレムの地獄の戦士)といわれ、勇猛果敢で恐れられた。すこし前まで奴隷制があった祖国のために戦う黒人部隊は、黒人の地位向上に大きな役割をはたした。この中には「ミスター・ボージャングル」と呼ばれる、タップダンスのうまいおっさんがいて、彼は超高額ギャラの最初の黒人エンターテイナーというだけではなく、実質的なハーレムの市長、とも呼べるほど、人望が厚かった。1949年に死去したときの葬儀の映像では、3万人もの人間が沿道で葬列を見送ったという。

ラプソディ・イン・ブルー……アメリカの作曲家であるガーシュインが作曲した、アメリカ芸術音楽の代表作。ピアノ独奏と管弦楽のための音楽作品で、ラプソディーには「狂詩曲」つまり「民族音楽風で叙事詩的な、そして自由奔放なファンタジー風の楽曲」という意味がある。彼は「クラシックを学んでいない作曲家」であり、それを気にしていたようで、モーリス・ラヴェル(ボレロの作曲家)に教えを請うたりしている。

ナチス式敬礼……右手を上げる例のアレ。WW2以降は、「ナチ賛美・賞賛」と見做され民衆扇動罪で逮捕・処罰の対象となる。オーストリアでも同様な法律があり、取り締まりの対象になっている。タクシーをとめるときなんかに日本人がやってしまいがち。ローマ帝国のローマ式敬礼を、ムッソリーニがファシスト党やイタリア軍で復活させたものを、ナチスが更にドイツで採用したもの。隠語として88とも呼ばれる。これはHeil HitlerのHHで、ドイツ語のアルファベットでHが8番目であることから。学校では生徒は人差し指のみをあげ、ナチス式にならないようにしている。

木酢液……もくさくえき。木材を炭にしたときに生じる乾留液の上澄みのこと。外見は赤褐～暗褐色の液体。ほとんどが水分であるが、木材由来の有機酸が含まれ弱酸性を示す。昔は染料の媒染剤として使われていたが、現在は農業利用(畑にまいて肥料としたり、獣害を対策したりするため)のみに用いられる。

道明寺粉……水に浸し蒸したもち米を干して粗めにひいた食品。大阪の道明寺で最初につくられ、保存食になったのがきっかけとされる。現在では蒸した糯米を乾燥機で乾燥し、荒く砕いて篩で粒を揃えて製造したものが「道明寺」という商品として一般的に流通している。桜餅としての使用が最も多い。つまり粒感のある桜餅のことを、関西地方では道明寺と呼ぶのである。

カール・ユーハイム……戦前の日本で活躍したドイツ出身の菓子職人、実業家。WW1中に捕虜として連行された日本に留まって、日本で初めてバウムクーヘンをつくり、マロングラッセを販売した人物として知られる。堅い樫の木でできた薪など、材料集めに難航したという。当然ながら味は日本人向けになっており、外国のものと比べ、バターの使用量が少ない。

関白の語源……成人の天皇を補佐する官職のこと。実質上の公家の最高位。その語源は中国前漢の宣帝が、上奏はすべて実力者霍光が「関(あずか)り白(もう)す」ようにした故事に由来する。かの豊臣秀吉も、関白になっている。

旧帝大は9つあった……学歴板においては常識となっている用語「旧帝大」。1886年に公布された帝国大学令によって設立された大学のことであり、七帝大である北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州と、外地の京城(韓国植民地にあった地名、旧称)と台北(台湾)の2つを合わせたもの。昔は旧帝大ではなく九帝大とも言われていた(9つあったため)が、外地のほうの大学は閉鎖されてしまったため、旧帝国大学の略称としての旧帝大が用いられるようになった。

フット・イン・ザ・ドア……小さなことを一度承諾すると、大きなことでも断りにくくなる、という人間の性質を利用した心理的テクニック。これを多用しているのがファッション専門店で、まず近づいてきて「何をお探しですか」と聞く。この後、わざわざ合いそうなものを持ってきて、試着してみますかと尋ねる。お似合いですよといい、最後にお買い上げですかと聞く。この一連の流れは研究されつくしたもので、まず「何をお探しですか」と聞かれた時点で終わりなのである。

ドア・イン・ザ・フェイス……「フット・イン・ザ・ドア」の例の逆であり、大きな(断られること前提の)お願いをした後、本当の目的だった小さな要求をする、という手法。例えば彼氏に突然エルメスのバッグを買ってもらうのは無理であるが、コーチならその十分の一で可能。最初に「エルメスのバッグ買って！」と頼むと当然断られるが、断るときの罪悪感を利用して、「ならコーチ、お願い！」と頼むのである。さすがに何度も断るのは申し訳ない、という心理を使う。当然ながらあまりに大きいお願いだと、二人の関係性を壊すことにもなりかねない。

ひょんなキッカケでとんでもない成果になった発見例……ポリエチレン：誤って入った酸素により合成成功。リゾチーム：フレミング教授の研究室は培養された細菌だらけ。風邪気味だった教授はクシャミを一部の培養皿に思いきりかけてしまうが、その皿だけ細菌の繁殖が止まっていた。人間の唾液に入っているリゾチームの殺菌作用のため。ペニシリン：フレミング教授が病原菌の培養皿を放置したまま2週間でかけてしまう。すると菌が皿一面に広がっていたが、一部だけカビの繁殖が見られ、その部分は菌がなくなっていた。カビの抗菌作用を疑い、カビの成分を調べペニシリンと命名。ナイロン：研究者が試作品をまとめて溶かしてガラス棒につけどれだけ伸びるか研究室を走り回ると、伸びるだけじゃなく材料の強度も増していた。テフロン：冷媒の研究のために詰めたガスをボンベにつめ一晩放置した翌日、栓を開けても何も出ないのでボンベを振ってみると、謎の白い粉が落ちてきた。これが後にテフロンとわかった。全体的に薬品の扱いが雑すぎる。失敗から学ぶこともいっぱいあるのだろう。

純正律と平均律の違い……そもそも、ドの周波数を倍にすると1オクターブ上のドになる。ドの3倍は1オクターブ半上のソになる。ソの3倍はレ、レの3倍はラ、ラからミ、ミからシ、シからファ、ファからドとなる。これらを1オクターブに持ってきたものが(つまりドの3倍のソなら、さらに二分の一にして最初のドと一個上のドの間に持ってくる)ピタゴラス音階。最初のドの周波数を1とすると、1,9/8,81/64,4/3,3/2,27/16,243/128,2となる。これがピタゴラス音階。ミとファ、シとドの間だけが半音で、後は全音。だが、これだと移調のさい、違う音階になるのだ。そこで平均律が出てきた。1オクターブを等比数列的に12個に割ったのが平均律。人間の耳にも等間隔に聞こえるため、移調は自由自在に。ところが当然きれいに調和した音程は、同じキー以外にない。美しいハーモニーを得るためには、できるだけ単純な周波数の比が必要。そうして生まれたのが純正律。ドを1、１つ上のドを2としたとき、1,9/8,5/4,4/3,3/2,5/3,15/8,2となるようにした。

オイフォン……静かな場所で脳から聞こえる耳鳴り。シーンとかミーみたいな音。無響室とか静かな部屋、あるいは湿原にいればすぐに聞こえる。ジョン・ケージの4分33秒の作成に至った。蝸牛の有毛細胞の振動で起こる音であるが、科学的にどういう風にして聞こえるのか、まだよくわかっていない。

電車と機関車の綱引き……日本国有鉄道が行った。EF15電気機関車とD51蒸気機関車を背中合わせに連結し、綱引きによる起動力の比較が行われた。結果は電車の圧勝。

味の素の原料……さとうきびの糖蜜を原料に発酵法でつくっている。他にもキャッサバ芋やトウモロコシからつくることもあるらしい。糖分は発酵してグルタミン酸ナトリウムになる。だから甘くない。

腎移植殺人事件……医療行為を利用した、医者による日本初の殺人事件。周囲からは病弱な妻をいたわる理想的な医師と評された医師が、架空の腎移植の話を患者に持ち掛け、腎臓提供者の家族が多額の謝礼を欲しがっていると嘘をつき、自分の口座に2500万を振り込ませた。しかし発覚を恐れ、患者を「手術前の検査」で毒物を注射し殺害。なぜ医師が、であるが、大学の医師は安月給で、妻の病気の手術代にあてたかったからだという。どんな事情があっても、医者という特権を利用し患者を殺すのは、卑劣である。結局17年の懲役に処され、妻とも離婚。

鉛筆の”F”……鉛筆にはBやらHBがあるが、実は”F”というのがあるという。これらは芯の濃さと硬さを表す。HはHard(硬い)、BはBlack(黒い)、そしてFはFirm(しっかりした)という意味である。FはHとHBの中間の濃さと硬さを持った芯。

メアンドロス柄……新石器時代に装飾として開花した模様。ラーメンの器のふちに描かれている「雷紋」であるが、それと同じものがギリシアにもあるのである。西洋ではギリシアが起源と主張する人も多い。

ダーマトグラフの語源……紙、ガラス、金属、フィルムなど、どこにでも書くことができるダーマトグラフ。美術に用いられるが、その語源は”dermato”は「皮膚」、”graph”は「書く」を意味する。もともとは皮膚に書く目的で開発され、医者が切開に使うものだった。昔は木軸だったが、現在は軸を削らなくてもよい紙巻になった。

くしゃみを止めるツボ……鼻の下のへこみの部分を押すと止まるらしい。というか実際に止まった。かとちゃんぺである。三叉神経という神経、顔の中にあるが鼻の下にもある神経を刺激すると、くしゃみが止まる。

プリンをスムーズに出すコツ……プッチンプリンのように皿にプッチンのための空気抜きがあればよいが、そうでないものに関しては、皿にプリンをカップごと載せたまま、自分が回転すればよい。遠心力でプリンが傾くことで空気が入り、うまく皿に載る。

ソフトバンクのお父さん犬の犬種……一代目「カイくん」はすでに死んでしまったが、あの犬種は北海道犬(ほっかいどういぬ)。縄文時代にマタギとして縄文人が北海道に連れ込んだものが、そのルーツだという。

木の「ツボ」……人間がツボを刺激されて気持ちよくなったり痛みが和らいだりするように、木にもツボがあるという。木の内部の電圧が格段に高くなっている部分を刺激すると、潜在能力が引きだされ、1.7倍も甘くなるという。

地鶏の定義……若鶏と地鶏、なんとなく地鶏のほうが高いイメージがある。きちんと定義がある。まず、1平方メートルあたり10羽以下で生育していること。出荷される日数が、ふ化後75日以上、最後に父親が在来種純系、つまり天然記念物であるということ。肉が硬くておいしいのはそういう理由なのである。ちなみに天然記念物のクオーター、つまり孫は地鶏と呼べない。地面で育つから、地鶏なのである。地元ではない。

記憶をなくすほど酔っても家に帰れるのは……実は脳には、お酒に強い部分と弱い部分がある。海馬は弱く、新しい記憶をつくれなくなってしまう。ところが「ナビゲーション・ニューロン」という神経細胞、道のりを覚える神経細胞はお酒に強く、家に帰る意思さえあれば自力で帰ることができるのである。

犯人が被るジャンパーは誰のジャンパーなのか……そもそも被るのは犯人の意思次第。まれに拒否する人もいる。外に報道陣がいない場合は、帽子で顔を隠すことも多い。報道陣がいる場合は同伴刑事、もしくは現場にあったジャンパーで隠すが、そのためだけにあえて持ってくることはないという。毛布でもタオルでも、顔が隠せれば何でもいい。

双子同士が結婚したら……子どもは似るのだろうか。さまぁ～ずの神ギ問によれば、かなり微妙、というか、むしろ似ていなかった。DNAの受け継ぎ方は子どもは4通りあるが、受け継ぎ方が同じであれば似るし、そうでなければ似ない。つまり普通の兄弟と同じで、なんとも不思議な結果ではあるが、これが生命の神秘なのである。

所轄と警視庁の「対立」……ドラマとかでよくある演出、両者が権力を奪い合って対立する構図であるが、多くの警察署員が人事で両者を行き来するため、露骨な対立は少ないと言われている。ちなみに警視庁は隠語で「母屋」、所轄の警察署は「ハナレ」という。

管理官……凶悪犯罪が発生したとき、捜査を指揮するための役職、いわばとある事件を解決するための総監督。ドラマでは「キャリア組、若い超優秀なエリート」が就任することもあるが、実際には犯罪捜査に秀でたベテランが就く場合が多いという。

野球のサヨナラの「バツ」印……あれはバツではない。「未知数」という意味での「X」、つまりエックスなのだ。勝敗が確定しても、9回のウラが3アウトになるまで続けていたら、あと何点入るかわからないため。サヨナラ・ゲームのことをエックス・ゲームと呼ぶのはそういう理由。元々はアルファ「A」と書いており、それを「a」と崩して書いていたら、いつのまにかXになってしまったという。

生クリームとホイップクリームの違い……生クリームは動物性脂肪、つまり生乳のみを原料にしたもの。ホイップクリームは動物性脂肪に植物性脂肪を加えたもの、または植物性脂肪のみ。

仁義を切る……任侠、テキヤなどが、初めて顔を合わせたときにあいさつすること。識字率が低かった時代の、身分証明の有効な手段であり、都合で旅人(たびにん)になった者でも、土地土地の親分のところを訪ねれば無料で旅行できたという。ところが一言でも言い間違えたりすると、袋叩きにされ、殺される可能性もあった。俗にいう「お控えなすって」である。

ものが濡れるとなぜ色が濃く見えるのか……そもそも乾いた物体の表面は凸凹している。光が乱反射することで白く見えるのだ。物体の色や形をどこからでも見れるのはそのため。紙や布が濡れると繊維の隙間に水が入り込み、乱反射が起こりにくくなる。光は乱反射ではなくむしろ、布や紙の中に入って透過しやすくなる。つまり濡れたときの色こそ本当の色なのだ。

ビックカメラの語源……日本の家電量販店。ビッグカメラではなくビックカメラであるが、一説によれば創業者がバリ島を訪れたときに、現地の子どもが使っていた「ビック」というスラング(ビッグをもとにした、「中身も大きい」という意味)がもとだという。

ディラックという単位がある……古典力学のポアッソン括弧式とハイゼンベルクの非可換物理量との類推に気付き、量子力学そのものの簡潔な定式を行ったディラック。彼は非常に無口であり、友人たちに「ディラック」という単位をつけてイジられていたという。1ディラックは「1時間に1語発音すること」。

親の七光りは何が光るのか……権力を持つ親の恩恵にあずかること。だが親が光ってどうするのだろう。実はこのことわざ、「親の光は七光り」ということわざが略されたもの。親の光がまぶしすぎるが故、子どもにまで影響を与えるという意味。木村拓哉の娘であるKOKIは母親も有名人なので「親の14光」とネットで叩かれていた。

YMCA……ヴィレッジ・ピープルによる歌。ゲイをコンセプトにメンバーが集められたのだが、YMCA(キリスト教青年会)は若者のための宿泊施設。相部屋のこともあるためゲイの巣窟とされ、ゲイを表すスラングにもなっている。この曲もゲイソングである。日本では1979年に西城秀樹がカバー曲「ヤングマン」を発売、オリコンで80万枚を超す大成功。振りつけは西城秀樹が考え出したもので、ヴィレッジ・ピープルはやらない。

カルトン……個人顧客を相手にする店舗で、顧客の支払いの時に使う小さな皿、お盆などの総称。つまり店に置いてある、紙幣とか貨幣を置くためのお盆なのだ。アレに名前が…。

ロコモコ……ハワイの料理。日本でいう丼ものに近い。飯の上にハンバーグと目玉焼きを載せ、グレイビーソースをかけたもの。ルーツは完全には明らかになっていないが、学生向けに安く簡単に作れるメニューとして考案されたものだという。観光化したハワイにとってはれっきとした郷土料理とアピールしておいたほうが何かと得なのだろう。

風呂敷の語源……風呂に入る前に衣を脱いで置いたからフロシキらしい。ちなみに唐草模様の風呂敷は泥棒をあらわすためのお決まりになっているが、もともとはめでたいもの、犯罪には全く関係しなかった。明治から昭和にかけて大量生産されたのだが、忍び込んだ泥棒はまず物を運ぶための風呂敷を探したという。唐草模様は古代エジプトで生まれ、シルクロードを通って日本に来た。

ドラフトの意味……ドラフトは「選抜」または「草案」という意味がある。語源は「ひっかけるための鉤」であり、そこから「荷物を引く」という意味に。高校野球児を引っ張るから選抜に。

やぶさかではない……漢字で吝かと書く。意味として「乗り気がしないがしょうがなく」みたいに使われることが多いが実は肯定的。「どちらかといえばやりたい、むしろ喜んでする」ぐらいの意味である。要するに「悪くない」と同じ使い方。

コンクリートとアスファルトの違い……アスファルトは原油を減圧蒸留した残りかすである。コンクリートは、セメント(石灰石を焼成し、粉砕したもの)に砂利や水を混ぜ固めたもの。つまり全く原料が違うのだ。

ボヘミアニズム……自由奔放な生活をすること。そういう生活をする人をボヘミアンという。もともとは「ボヘミア人」という意味であるが、15世紀フランスのジプシーが主にボヘミア出身であったところからついたという。パリ、ロンドン、ニューヨークなどに多く住んでいたので、これら都市では芸術が発達した。

鏡開き……神様や仏様にそなえた鏡餅を下げて食べる年中行事。手や木槌で割るのが正式とされるが、刀で割ると切腹を連想させて縁起が悪い。現在ちゃんとそのように行う家庭も珍しいが、神社や寺では行うところもある。

ペヤング焼きそばの語源……「ペア＋ヤング」で、カップ麺を高いと感じた若いカップルに食べてほしいという願いをこめてつくられたという。

竜田揚げの語源……醤油で下味をつけた肉や魚に片栗粉をつけ、油で揚げた料理を竜田揚げというが、その語源は知られていない。醤油による肉の赤い色、衣の白い色を、紅葉の名所、竜田川にうかぶ紅葉に見立てたものだという。「この差って何ですか」では、第一次世界大戦後の食糧難で、鯨肉の臭みをとるために醤油とみりんに漬け込んだ料理が「軍艦・龍田」でつくられたから竜田揚げと紹介されていたが、この根拠として提示された文献は1939年のもの。つまり嘘っぱちなので、信用ならない。

着物と浴衣の違い……形状、構造は実は同じで、下に襦袢という下着を着るかどうかで決まってくる。夏の夕涼みや洒落として着るのが浴衣、つまり花火大会に着ていくのは浴衣だ。一方着物は長襦袢を着た上で着る。

「三国一の花嫁」の三国はどこか……広辞苑によれば、日本・唐・インドの中の一位である。日本ではこの三つの国イコール世界だったのだろう。今でいえば「二百国一の」ということになるが、さすがにそこまでいくと、相当に一番に違いない。

太陽以外の恒星で最も明るいのはどこか……それがプロキシマ・ケンタウリ。ケンタウルス座の方向にある恒星で、太陽系に最も近い恒星として知られる。つまり、太陽を除く恒星のうち、地球に最も近い。しかし暗すぎるため地球から肉眼で観測することは不可能。

バンドウイルカのバンドウとは何か……バンドウイルカといえば聞き覚えがないが、まあ日本で俗にいうイルカのことである。標準和名の「ハンドウイルカ」は北九州から能登半島の呼び名で、もともとは「半道」と書き、これは「中途半端」という意味。クジラとイルカの中間で中途半端だったからそう呼ばれていた。しかし今ではバンドウイルカという名前のほうがよく使われる。イルカの中でも特に泳ぎが達者である。イルカは傷ついた仲間、ときには別種でさえも助けようとする習性があり、サメに襲われそうになったダイバーの周りを回り続け、攻撃から護った例、溺れた人間を沖まで運ぶ例などが報告されている。まあ、そうでなかった例が報告されてない(死んでるから)だけだと思うんですが。

秋の日は釣瓶落とし……秋の太陽は急速に暮れていくという意味のことば。釣瓶とは、井戸水をくむために縄の先につけ、井戸の中に降ろす桶のこと。それが滑り落ちるように日が暮れる様から。秋の日の鉈落としともいう。

天災は忘れたころにやってくる……日本における大事な教訓のひとつ。災害を忘れたころに自然災害は起こるものだ、という戒め。本当にそうなのか、ではなく、心構えの話である。科学者の寺田寅彦のことばとされることが多いが、本当に言ったのかはわかっていない。彼は関東大震災以降地震研究に興味をもち、文明が進むほど自然災害の被害が増大することを看破していた。

ヒヨコがニワトリになると白くなる理由……エサの話ではない。実は黄身の色なのだ。黄身の中に浸かりながら大きくなっていくため、色素が体に染み込んで黄色くなる。しかし時間がたつと毛が生え変わり、白くなっていく。黄色いのは親鳥から夜でも見えやすいようにという説もある。

鶏のトサカの役割……生物学的には肉瘤と呼ばれ、血液の色が透けたもの。基本的にはオスにしかなく、他のオスに対する威嚇、メスへのアピールを果たしているというが、もっと大事な役割は体温調節。ゾウの大きな耳、キツネの大きな尻尾や耳と同じく、ラジエーターとしての役割を果たしている。タンチョウヅルにも同じようなトサカがある。

乾がなぜ「いぬい」か……干支に由来する。江戸時代以前、方角は十二支であらわされていた。北が「子」、南が「午」、東は「卯」、西は「酉」なのだが、中国もそのころ同じように方位を八卦であらわしていた。東西南北の他に、北東を「艮」、南東を「巽」、南西を「坤」、北西を「乾」と呼ぶ。乾の方角が日本では「戌」と「亥」の真ん中だったため、いぬいなのだ。

曲げわっぱ……スギやヒノキなどの薄板をまげて作られる円筒形の木製の箱。日本中で工芸品になっているが、秋田県や青森県のものが特に有名。軽量で持ち運びがしやすく、香りも高い。原料が天然の木だけに傷みやすいのは欠点だが、良さが再認識され、人気が高まっている。

電車が電線一本で走れる理由……まず電気を流すには、どこかで回路が出来上がる必要がある。その回路とは意外なことに、「電線、電車、電線」ではなく、「電線、電車、レール」なのである。パンタグラフを通して電車のモーターに電気が流れる。それがレールを伝わって変電所に戻る。

LNG(液体ガス)はどうやって気体に戻すのか……とってもエコな方法を使っている。具体的には、マイナス162度で気体に戻るということで、パイプに海水をかけて戻す。

下水が浄化されるまでの仕組み……最終的にポンプ場に行くまでの道のりを見てみる。まず下水は、下水道管を通って、自然の勾配で下水処理場まで降りていく。途中、下りていった水をくみ上げるときに、固体物などを細かく砕くから、下水が詰まることはない。下水処理場では「沈砂池」というところがあり、ここで下水の中の大きなゴミを取り除く。次に最初沈殿池にいき、大きなゴミを沈める。そして反応タンク。ここは下水をばっ気することで、バクテリアや微生物が集まった活性汚泥に分解をしてもらう。有機物は酸化して無機物に変わる。ばっ気をしないと反応が速く進まない。そして最終沈殿池。反応タンクでできた泥をここで沈殿、澄んだ水と分離する。最後に紫外線やオゾンで消毒をして終わり。汚泥はケーキ状になって肥料として再利用。めちゃくちゃエコであることがわかる。

どうして晴れているのに雨が降ることがあるのか……天気雨というが、上に雲もないのに雨が降るのはまことに不思議な話。実は天気雨を降らす雲は上空2000mにある。雨粒が到達するまでには10分ほどかかる。それまでに雨雲が消滅・移動すると、晴れているのに降雨するように見える。動物の結婚とこれを結び付けるのは世界中で見られ、日本で「キツネの嫁入り」というのはイタリアやイギリスも同じ。アフリカでは「猿」「ジャッカル」、ポーランドとかあのへんは「ユダヤ人」「ジプシー」。韓国は「トラ」、ブルガリアでは「クマ」。

そもそも日食と月食はなぜ起こるのか……太陽が欠けて見えるのが日食、月が欠けて見えるのが月食。日食には皆既日食と金環日食がある。地球と月は公転しており、毎日、太陽、地球、月の位置関係が変化する。日食は、太陽と地球の間に月が入り、太陽、月、地球の順に並ぶことで、太陽が月に隠れ太陽が届かなくなるのだ。このとき、月や地球の軌道が楕円形であることにより、月と太陽の見掛け上の大きさは日々変化する。皆既日食は月が地球に近い時に起こり、真っ暗になる。一方金環日食は月が地球から遠いときに起こり、太陽を隠しきれず、輪っかになる。地球の公転軌道と月の公転軌道は5度傾いており、一直線に並ぶことはほとんどない。珍しいのだ。一方で月食は太陽と月の間に地球が入り、月が欠けて見える現象。これは月の満ち欠け(太陽の光が当たっていない場所が見えないため起こる)とは違う。月食が起こる時間に月の見える場所ならどこでも見られる。しかし月が完全に地球の影に入る皆既月食でも、月は赤色に見える。なぜなら地球の大気によって屈折した光が、波長を変えながら(エネルギーを減らして赤色になりながら)届くため。

1日が365日だと発見したのは誰？……実は名もなきエジプト人達。彼らはナイル川の氾濫が定期的に起こることを知っていた。毎年洪水の前になると、東の空にシリウスという明るい星があるのに気づいたのがきっかけ。星空を観測するうちに、星の見え方が365日で1周しているとわかった。ちなみにこのとき、微妙に間隔がずれてしまうことにも気づき、うるう年も導入。シーザーがこれをローマに持ち帰り、2月に1日分足したのがきっかけ。

S&W M39……アメリカのS&Wという銃器メーカーがつくった自動拳銃。世界中の警察でよく用いられており、使い勝手のよさからあえて最新自動拳銃からこちらに変えるところもあるほど。有名なバリエーションとしてMk.22があり、特殊部隊向けにサプレッサーが装着されている。これはハッシュパピー(犬に与えるおやつ)とも呼ばれ、おやつを与えた犬が黙り込むように、撃たれた人間が死んでおとなしくなることから呼ばれる。

ぶどうはどこが一番おいしいのか……なんとなく一番先のように思えてしまうが実は違う。逆三角形の上側、つまり房の切り口に近い側のほうが甘くなる。友達とぶどうを分けるときにはこれを知っておくとお得だろう。

M134……アメリカでつくられたガトリング銃。電動。いちおう固定砲台ではなく銃なのだが、最大100発/秒の発射速度を誇り、当然ながら人間が被弾すれば痛みを感じる前に死ぬ。そのため”Painless Gun”(無痛ガン)とも。本体重量が18kgもあり、多数の弾薬やバッテリーが必要。携行するのはちょっと無理っぽい。対ヘリ制圧武器なので、人間に撃つことは想定されていない。

スケープゴート……ある過失の責任を取らされ「身代わり」になる個人、集団のこと。簡単にいえば「生贄」のこと。気候不良による飢餓から目を向けさせるために支配者が異教徒を魔女狩りしたが、あの犠牲者はまさにスケープゴートである。旧約聖書に登場する、人々の罪を背負って世に放たれるヤギがもとになっている。

劣化ウラン弾……比重が19と大きい劣化ウランを主原料とする合金をつかった弾。ウラン濃縮を行い核燃料としての低濃縮ウラン燃料を得た後の残さであるが、半減期は数億年。わずかながら残留する放射性同位体による内部被ばくなどが問題になっているうえ、重金属としての毒性もある。湾岸戦争で米軍が本当に使用したうえ、NATOによる空爆でも用いられたことを認めた。

渋谷の待ち合わせ場所になっているあの電車……熊本電鉄5000形という型のものなのだが、通称は「アオガエル」。その形と色が青ガエルに見えることから名前がついた。2020年、忠犬ハチ公の生まれ故郷である秋田県に移されることが決定され、もはや待ち合わせの場所ではなくなる。

モーラー……1975年に発売されたオモチャ。モールでできており、鼻の先のとがった部分を引っ張ることで、まるで生きているかのように自由自在に操ることができる。爆発的なヒットで200万個を売り上げた「流行りのおもちゃ」なのだが、今ではその名前を覚えている人も少ない。

トロール人形……北欧、特にノルウェーの伝承に登場する妖精の一種であるトロールを人形にしたもの。トロールは凶暴かつ低知能だが、深い傷を負っても回復できる。日常生活でものがなくなった際は「トロールのいたずら」と呼ばれる。お土産としてトロールの人形が売られているが、あまり玄関とかに置きたくない風貌をしている。日本でも大昔に流行ったらしい。ちなみに「ムーミンはトロールの一種」という伝説もあるが、こちらは作者トーベヤンソンが「トロールと言う名前だがトロール族ではない」と否定。

地球ゴマ……地球の歳差運動のような運動を行う流行りのおもちゃ。普通のコマは回転を止めずに本体に触ることが困難。しかしこの地球ゴマは、回転する円板部分と軸が分かれており、軸を容易に傾けることができる。航空機のオートパイロットやジャイロスコープにも同じ仕組みが使われているため、子どもへの説明としては最適。日本では1960年～70年代に最盛期を迎えたが、今では廃業。

スリンキー……ばね状のおもちゃ。両手で端を操ったり、階段から落としたり、縦波横波をつくったり、半円状にしてメモを挟んだりする。文章で説明するのは困難。筆者はこれの虹色バージョンを「ジャスコ」で買ってもらった覚えがある。レインボースプリングというらしい。流行りおもちゃだが、しばらくするとばねが絡まって用をなさなくなる。

ポッピンアイ……1980年代に流行したおもちゃの名前。弾力性のあるゴムが素材。中がくりぬかれた半球の形をしており、裏返して机の上におき、弾力で元に戻った時の反動で高く飛ばす。

なぜマングースとハブの戦いが行われるか……マングースという動物が、沖縄や奄美大島のハブを退治する目的でアメリカから導入されたが、全然やっつけてくれない上、固有種や果樹園を食い散らかした。ハブにやられてしまうことも多く、かつてはハブとマングースを戦わせる見世物も行われていたが、現在はマングース対ウミヘビの水泳大会に。説明が難しいが灰色・キツネ色で中型、ネズミをかわいらしくしたような風貌。侵略的外来種ワースト100に指定。現在は捕獲・駆除が進み、持ち込ませない仕組みも整ってきた。

幽霊文字……JIS基本規格に入っており、パソコンで入力することはできるが、典拠がどこにもない文字たちのこと。広い意味で言えば12文字で、資料の写し間違いによるものだと考えられている。しかし”彁”という文字だけは、どんな資料を見ても元となる感じが見つからず、本当にわからないため、狭い意味でいえばこいつだけが幽霊文字。他にも”墸”とか”閠”とか。読み方が書いてないことから察してほしいが、典拠さえわかっていない漢字に読み方を当てるなど不可能。まさに「幽霊」文字なのだ。

永井隆……長崎の医学博士。放射線分野を研究していた。唯物論者だったがキリスト教に改宗。長崎市にいたところ被爆するも、そのまま医大の診察室で診察を続け、自らも頭動脈を切断する重症を負いつつ救護活動に励んだ。原子爆弾の恐怖を何よりもわかっていたのは彼だけに、どんな気持ちで診察に当たっていたのか推しはかることはできない。退院と入院を繰り返していたが、とうとう被爆による影響で白血病になる。医学生に白血病の最終段階を見せて、見識を深めさせようとした。

お弁当の上の抗菌シートの仕組み……あんなうっすいシートを敷くだけで抗菌なんてふざけるな！と思った方々は、弁当を食べる資格がない(そんなことはない)。実はワサビやカラシのツーン成分、アリルカラシ油が含まれている。お弁当の中でその成分が広がることによって、抗菌しているのだ。ただし黄色ブドウ球菌はその濃度では繁殖を抑えることができないため注意。殺菌ではなく、生えてしまったカビは死なない。カラシ濃度の成分を濃くすると殺菌になるが、今度はお弁当のほうに味が移るから、難しい話である。

リットルとポンドをごちゃ混ぜにして起きた航空事故がある……民間航空の歴史に残る有名な事故を起こした旅客機「ギムリー・グライダー」による事故。フライトに必要な給油量の計算をする際、リットルとかポンドとかがごちゃごちゃなって、足りないままフライトに出てしまったことが原因。リットルとキログラムによる比重0.803(kg/L)ではなく、扱いなれたリットルとポンドによる比重(lb/L)を使用してしまった。パイロットや給油要因は装置の演算に疑問を抱き再計算を3回ほど行ったが同じ計算結果。経由地のオタワで燃料を再計測したが、このときも誤った換算係数を用いてしまい、致命的な不足に気付かず再出発。奇跡的に着陸に成功し死者はなかったが、ヤード・ポンド法とメートル法の混用による「ヒューマンエラー」であったことには変わりがなく、アメリカの独自強硬路線であるヤードポンド法への批判はますます高まった。

フレーメン反応……ネコ、ウシ、ゾウなどの動物にみられる生理現象。匂いに反応して唇が引きあがる。フェロモンを取り入れるヤコブソン器官を空気に晒し、より多くのにおいを取り入れるためと言われる。他のネコのお尻を嗅いだとき、口が開くのはこのため。マヌケな面なので飼ってる人は知ってるはず。

川が真緑になる日がある……アイルランドにキリスト教を広めた聖人、聖パトリックの命日である。シカゴで行われる「緑の日」が特に有名で、フルオレセインという(顕微鏡観察や入浴剤に添加する着色料として用いられる蛍光色素)緑色の無害な色素を川に投げ込み、川を緑色に染め上げる。

町田市の境界線は何度も変わっている……東京都町田市は神奈川に食い込み、その形から「東京の盲腸」「神奈川県町田市」などと散々に呼ばれる。郵便物さえ神奈川県町田市で届いてしまう。この勘違いは町田市の河川改修によるもの。実は境界線を河川にしていたが、度重なる氾濫を防止するため流れをゆるやかにした結果、川沿いに互いに飛び地が出来てしまった。それを徐々に統一しているため、何度も何度も境界線が変わっているのである。

がっぷり四つの語源……力勝負という意味。相撲用語で、簡単にいえば「組んで取る相撲」のこと。押し相撲と対比的に用いられる。両者が互いに上手と下手を取り、胸を合わせた状態。「がっぷり四つと行こうか！！」という風に使われる。

胡散臭いの「胡散」とは何なのか……疑わしいを意味する漢語「胡乱」(うろん)に由来するという説が有力。茶碗の一種で、黒の釉をかけた天目茶碗の「うさん」からする説、ポルトガル語で怪しいという意味の”Vsanna”(ウサンナ)からするという説、香辛料の名前という説まであるが、どうも使われ始めた時代が合わず、また胡散という香辛料も実在していなかったため、「胡散臭い」。

暗号を「解読せずに」解く方法がある……それがサイドチャネル。暗号装置の動作状況を、物理的な手段で観察すること。簡単にいえば暗号をアルゴリズムで解くのではなく、動作中の消費電力とか認証にかかる時間などを解析して解く、「搦め手」のことだ。最近では音響解析攻撃と言って、キーを打つときの音の違いを分析してパスワードを絡めとるものまで。

ソーシャルハッキング……人間心理のスキをついたハッキング。強固な暗号をかけて安心している会社から「現実世界で」暗号の鍵を抜き取ったりすること。ハッキングといえばパソコンの前でやるイメージが強いが、詐称して電話をかけてパスワードを聞いたり、ATMで前の人のパスワードを凝視して暗記したりする。ディスプレイ周辺に貼られた、IDが書かれた紙を盗み見たり、意外に原始的な方法も有効である。つまりハッキングする前にはハッキングが終わっていることが多いのだ。

標準軌……鉄道線路の軌の間隔が1435mmであるものを指す。ヨーロッパ、北アメリカ、東アジアを中心に世界中で最もよく使われる。多少の差異は問題にならないが、例えば中東では標準軌の電車から広軌の電車に乗り換えたりする必要がある。広軌を使っているのは風により横転しないようにするためで、北欧などでは根強い。

アレルギーの検査方法……簡単なのがパッチテストで、アレルゲンを皮膚に貼り、赤くなっていないかを確かめる。お酒の強さもこれである程度判定可能。一方病院で行うのはプリックテストで、アレルゲンを皮膚に一滴たらし、これを針で刺して15分後に反応を見る。ラテックス―フルーツ症候群と言って、ラテックスアレルギーの人が、ラテックスと組成の似た果物でアレルギー反応を示す病気もある。判定は医者に任せよう。

高潮の発生原因……風による吹き寄せもあるのだが主なのは気圧低下。気圧が低下するということは、そのぶん海を押し下げる力が、周りに比べて弱くなったということ。中心付近の空気が海面を押し上げる、「吸い上げ効果」が起こる。これが高潮になるのだ。

スカイゲートブリッジ……関西国際空港の連絡橋のこと。長さはおよそ4kmで、世界最長のトラス橋として知られる。100年に1度の大地震や台風にも耐えられる、という設計であったが、2018年9月4日に台風が来てタンカーが衝突、片側の道路が破断した。

我が子を食らうサトゥルヌス……フランシスコ・デ・ゴヤによる作品。ローマ神話に登場するサトゥルヌス(農耕と時間の神)が、「お前は将来自分の子どもに殺される」という予言を受けて恐怖し、5人の子どもを次々に食べていく様子がリアリティをもって描かれている。今知られているのは修正された版であり、オリジナルバージョンではサトゥルヌスの陰茎が勃起していた。自分の子を食べて興奮する趣味は…ない！

凍天……しみてん。福島県名物の揚げ菓子。お餅を水で戻し、ドーナツ生地でくるんだものを揚げてできる。

赤こんにゃく……滋賀県の名物こんにゃく。三二酸化鉄という食用の添加物でこんにゃくを真っ赤に染め上げたもの。レバーにも似た色でなんとなく辛そうだが、全く辛くない。刺身の場合は酢味噌で食べるといいらしい。

IR推進法……カジノを中心に宿泊施設や商業施設、テーマパークなどを一体的に整備する「統合型リゾート」("Integrated Resort”)の設立を進める法律。2016年に施行された。正式名称は「特定複合観光施設区域整備法」。カジノ解禁につながるので「カジノ法」とも呼ばれる。治安悪化、ギャンブル依存症増加などが叫ばれるが、国の監視のもと民間事業者が運営すると規定。日本人の入場料は数千円なので、客層は十分限定されそうではあるが。

避難に重要なサランラップ……実は避難のさい、サランラップを持っていけばいいという。お皿に巻くことで洗い物を減らしたりできるほか、保温のためにお腹にまくという用途もできる。意外に「家族の写真」ははぐれた時の確認用に使える。一番よいのはこれらを予め確認し、ひとつのバッグの中に入れておくこと。

3つの種類の蕎麦……日本のそばには3つの種類がある。その違いによって美味しい食べ方も違うという。まず、蕎麦は実を石うすで挽いて製粉するのだが、このとき「中心(柔らかい部分)」から順番に製粉される。一番最初のものを一番粉と呼び、そこから三番粉まで。「更科蕎麦」は一番粉しか使わない。ビールでいえば一番搾りだ。色が白く、そうめんのような見栄え。しかし栄養価や風味は低く、たっぷりつゆをつけて食べる。次が「藪蕎麦」。蕎麦の実の外皮を使っているため少し蕎麦ぽい色。つゆの味付けが濃いのが特徴で、こちらはつけすぎると辛い。最後に「田舎蕎麦」。二番粉、三番粉を用いるため、我々がよく知っているお蕎麦の色。風味や栄養価に優れ、何ならつゆはつけないぐらいでもいいらしい。

河川が満タンにならない「堤防決壊」もある……堤防決壊ということばのイメージからするに、何となく「河川が堤防の高さを越えたら決壊だろう」という思い込みがあるが、実はそうでない決壊もある。実は堤防決壊には3種類ある。「河川が堤防の高さを越える」のは越水、まあ越水も決壊だが、イカニモな決壊である。堤防の水位が上昇し、水圧により河川水が堤防に染み込んで、河川裏側の堤防が壊れるのを「浸透」、河川水によって堤防の下部が浸食され、堤防が滑り始め、ついに河川側の堤防が壊れるのを「浸食」という。こちらのほうが目に見えないため厄介。

伊藤博文とふぐの関係……中国の地理書に「食べると死ぬ」とまで書かれた河豚であるが、日本でも縄文時代にはすでに食べられていたという。文禄・慶長の役で九州に終結した武士たちがフグを食べて中毒死したことがきっかけで、豊臣秀吉が食べることを禁止して以来、ふぐ食発覚は家禄没収のような重たい罰が与えられた。ところが明治時代、日清戦争の講和会議のため山口に来た伊藤博文が食べてから、解禁されたとか。一番おいしい魚をというお触れだったが、このときはあいにくの大しけ。そこでフグしか差し出すものがなかったため、いわば「苦肉の策」であった。

お風呂のおもちゃが子どもに危険？……水を入れるアヒルのおもちゃ(ラバーダックなんていう)、子どもは大好きだが、レジオネラ菌という細菌が中にはうじゃうじゃいるという。お風呂のお湯の温度は彼らの生息には最適。新生児、高齢者などがレジオネラ肺炎にかかるリスクが大いにあるという。定期的に洗浄しておくことが大事なのだ。

「トロ」の語源は無名の日本人……1879年創業、日本橋にある「吉野鮨本店」にいた客がきっかけ。もともとは痛みやすく、脂の多いトロは嫌われており、「大アブ」「中アブ」などと呼ばれていた。ネギと一緒に鍋に入れてネギマにしていたぐらいの下魚だったのだが、お店の常連さんである三井物産の社員が来店、「口に入れるとトロッとしている」という理由で「トロ」と改称。これが美味しそうだと言う話題を呼び、大人気に。

ピザハットの新人研修で教えられていること……答えは抜け道講習。店長さんや先輩に連れられながら、混んでいない道を教えられるのである。あまり表通りで見ないのはそういう理由だったのだ。

ほっともっとの「のり弁当」の工夫……いつも食べているから気付いたのだが、途中からのりに切れ込みが入っていた。こうすることで途中でのりが切れて、ご飯を食べることができる。

ウイダーinゼリーのサンプルを置いた場所……食べずに栄養を補給できるということをアピールするため、歯医者のところに置かせてもらったという。歯が治療して数時間、ものを食べられない人もいるからだ。

ハリーポッターの「水中シーン」……撮影は陸上で行ってCGにすればいいのに、とも思うが、わざわざ役者に負担の大きい水中撮影を行ったのだ。これは、水中の中での髪の動きを風で再現するのが、どうしても難しかったから。ちなみにこのとき、魔法でえら呼吸をしている設定だったため、ハリーの口から泡が出るのは駄目だった。撮影は何度も繰り返したという。

ボリショイサーカスは存在しない……旧ソ連のサーカス団として有名だが存在しない。現在は「ロシア連邦サーカス公団」だが、来日したとき、旧ソ連には有名なボリショイ劇場とかがあったのでこう名付けられた。ちなみにボリショイはロシア語で「大きい」。日本語で「大きいサーカス団」。

オリンピックの聖火リレーはヒトラーが生んだ……1936年のベルリン大会のこと。ヒトラーはオリンピアとベルリンを聖火リレーで結び、アーリア人が古代ギリシャを受け継ぐ民族であることをアピール。しかも、第二次世界大戦ではこれを逆にたどりドイツが侵攻したことで、聖火リレーには国威発揚と戦略上の目的があったという。

国際連合の「連合」は……United Nationsが国連。これは枢軸国に対する「連合国」であるから、実は第二次世界大戦のものがそのまま残っていることになる。実際国連憲章には「敵国条項」が残っており、イタリア・ドイツ・日本が再侵略を企てれば、国際安保理の許可がなくても兵を出せるという。

オリンピックをはじめて五輪と呼んだのは？……読売新聞の記者、川本信正氏。見出しに掲載する時「オリンピック」が長いのでなんとか略しようと生まれたのが五輪。

大坂はなぜ大阪になったか……オオサカということばは15世紀に初めて登場。そのときは「オサカ」と呼ばれ、小さい坂と書いていた。そのうち小さいより大きいほうが縁起が良いとのことで大坂に。しかし商業が盛んになると、商人たちは「坂」は土に返るから縁起が悪いと考え、大きくなるという意味の「阪」を用いた。正式には1871年に、大阪という漢字に。

テニスの「0」はなぜラブなのか……テニスは独特で、15にはじまり、30、40と加算される。無得点のゼロにも「ラブ」とつけられている。最も有力なのはフランス起源説で、0が卵に似ていたから、フランス語で卵のラブとつけられたという。本来なら15、30、45、60で時計をもとにしていたが、45が言いにくいため40にした。

自由の女神像のモデルは誰？……もともとアラブ人女性をもとにしたという。バルトルディという彫刻家、設計者は、エジプトからスエズ運河に建設する灯台の案を求められ、巨大な女性像をデザイン。アラブ人の農婦がもとだったという。その後独立100周年を記念し、フランスが贈る像の設計を求められ、この像をもとに自由の女神像を設計したという。

鈴虫が通話中に聞こえない理由……「ごめん、ちょっと鈴虫がうるさいな」「え？聞こえないけど？」実は鈴虫の音色は高すぎて、携帯電話の通話ではカットされてしまうのだ。他にもセミの声も聞こえないという。4000Hz以上の声は聞こえない。

胃液はなぜ胃自身を溶かさないか……pHでいえば1、か2ですね…な胃液。なぜ胃を溶かさないのだろう。それはまず胃内部の表面に、抵抗力の高い層が貼りついているから。そして代謝が盛んで、溶かす以上に再生するのだ。

パイナップルやキウイのゼリーが珍しい理由……今ではもう珍しくもないが。実はパイナップルやキウイにはタンパク質を分解する酵素が入っており、ゼラチンを溶かしてしまう。たらみとかが売ってるあのゼリーは、一度果物を加熱して酵素を失活させてからつくっている。味を落とさずに加熱するのは難しく、調整が求められる。口の中でパイナップルを転がすとビリビリするのも、分解が進むため。

マゲを結えない力士は引退？……十両以上の力士のみ許される大銀杏だが、これを結えなくなると引退という都市伝説がある。実際は別にそういうことはないが、暗黙の了解として、土俵入りの露払い、太刀持ちは大銀杏の力士がすることになっている。大正時代の名横綱である栃木山は結えなくなったことを理由に引退したとも言われる。

江戸時代、おならを肩代わりする職業があった……おしっこ筒を持つ職業に続く衝撃の職業。ホントの話。身分が高い女性に同行し、オナラを肩代わりするという。「科負比丘尼」(とがおいびくに)なんていう立派な別名もあり、オナラだけでなく、みっともない行為の過失を負う役割もしていたという。屁でもない雑学。

天気予報の177はもともと……実は大隈重信のものだったという。日本では1890年に電話がスタート、1番は東京都庁、160番は岩崎弥太郎(三菱グループ創始者)などだった。当時はお金持ちしか加入できずたったの200人。で、大隈重信は177番目に加入してこの番号となった。

ツイッターの「小鳥」はわずか600円……デザインを頼むとき、ツイッター側がわずか600円(6ドル)以下で募ったから。当時はそこまでブレイクするはずではなかったはずで、デザイナーとしても予想外だったに違いない。

日本からの移民がアロハシャツをつくった……ハワイでは結婚式の正装ともされるアロハシャツだが、実は日本人がつくったという。20世紀初頭、パラカという開襟シャツを着用していたハワイ人たちだったが、日本からの移民は着物や浴衣をほどき、パラカ風にしていたという。これが地元で人気になり、観光地としてハワイが発達すると、次第にアロハシャツの需要も拡大。

グアム島はもともと「泥棒の島」……マゼラン一行がグアムに来た時、島民は彼らをもてなし、水や食料を提供。そのとき同時にマゼランたちの持っていた積み荷を盗んでいった(島民からすれば物々交換のつもりだったという)。マゼランは激怒、この島を「泥棒島」と命名。これを知った長老が、現地のことばで「グア・ハム」(私たちは持つべきものを持っている)と怒ったことから、グアム島になったという。

チューインガムはマヤ人が発明した……1916年に日本に入ってきたガムだが、起源はマヤ文明まで遡る。彼らはサポディラという、巨木からとった液を煮詰めた「チクル」を噛む習慣があったという。この習慣はメキシコ・インディオに引き継がれ、16世紀にスペインが征服すると、移民の間にも広まった。

野球の監督がユニフォームを着ている理由……野球は1839年、ニューヨーク近郊のクパーズタウンで誕生したという。そのころはキャプテンになる人物が同時にチームを指揮していた。当然選手なのでユニフォームも同じで、選手を引退した後もチームを指揮するうち、監督というポジションを確立したという。ちなみに現在も監督がユニフォームを着るように、というルールはないようだ。サッカーがスーツなのは、あくまで監督が指導者だから。19世紀半ばにイギリスで始まったが、そのときは学校教育の一環として、先生が監督をしていた。

関西と近畿はどう違うのか……関西は一般的な用語で、近畿は法律用語。定義を遡ると、関西は平安時代「近江逢坂関以西」、鎌倉時代は「鈴鹿・不破・愛発以西」、江戸時代には「箱根関以西の国」とされていた。近畿は皇居の所在地に近い国々が語源で、現在の教徒、大阪、滋賀、兵庫、奈良、和歌山、三重を含む地域を意味する。

天気図にも衣替えがある……夏と冬の境目、5月1日と11月1日だ。冬用のは日本がわずかに中心にあり、夏用は日本が北側で、南側の海上が広くなっている。当然、台風の動きを伝えるため。

背広はイギリスの仕立屋街に由来？……背広の語源はいくつもあり、有力なのは明治時代初期の日本の仕立て屋に由来するというもの。「上着の背広が広い」という意味。市民服を意味する”civil clothes”がなまったという説、ロンドンの仕立て屋街”Savile Row suit”がなまったというものまで。

世界で最も人間を殺している動物は？……年間に何人がどの動物によって命を奪われているか、というデータがある。第三位はヘビで五万人、第二位はヒトで47万5000人、そして第一位は「蚊」なのだ。世界中に生息し、マラリア、日本脳炎、デング熱などを媒介する。

コーヒーの飲みすぎで死ぬ？……カフェイン中毒である。アメリカ食品医薬局のガイドラインによれば、1日400ミリグラムまでが安全な摂取量。だから普通のコーヒーで4杯以上は危ないという。

ナメクジに塩じゃなく砂糖をかけたら死ぬのか……水分が85％を占めるナメクジ。浸透圧の関係で水分が外に出て縮んでしまうのだが、その死因は水分不足というよりも、塩で固まった粘膜が呼吸孔をふさいだ窒息死が主。砂糖をかければ、塩ほどではないが縮んでしまうという。

カメラ撮影で目が赤くなるのはなぜか……フラッシュ撮影をすると目が赤くなる現象を「赤目現象」という。網膜に集まっている毛細血管をフラッシュが照らし、赤く見えるのだとか。暗い場所で撮影すると頻繁に起き、水晶体の澄んでいる子ども、瞳孔が青や緑の白人を撮影した場合によく発生する。

韓国には「ブラックデー」もある……バレンタインデーとホワイトデーで何ももらえなかった人達が集まり、互いの悲しみを分かち合うという。4月14日、黒い服を纏い、黒みそで炒めたチャジャンミョンという料理を食べるのだ。

植物「ラン」の由来は？……一口に蘭といっても2万種の原種と6万の人工交配種がある。東西を問わず、ランは高貴な花として重宝されてきた。英語では”orchid”(オーキッド)というが、語源はギリシャ語の”orchis”で、意味は「睾丸」だ。ある種のランは2つの球根を持ち、うち1つから芽を伸ばして花を咲かせる。これが睾丸にそっくりということでなのだが、何とも、うーむ。

MI6がママさんスパイを募集？……007シリーズのジェームズ・ボンドが所属する、イギリスのスパイ機関MI6。2015年にママさんスパイを募集し始めた。ママさんネットワークを使って情報を広めたり収集したりするため、またはハニートラップとしての要員。男女平等を果たし、情報機関としての信頼を得るのも目的だという。

ミミズは後進できない……ミミズは蠕動運動で前に進むのだが、これを補助するのが全身に生えた毛。この毛は一定の方向にしか生えないため、なんと後ろ向きに進めない。前に障害物があると、遠回りしなくてはならないのだ。

日本初のキャラメルは「禁煙用」だった……森永製菓の創業者である森永太一郎が1889年に発売したのが、日本初。その用途は「禁煙」。大正博覧会で「禁煙を欲せらるる紳士淑女のため」と書いてあり、これで人気になった。実際、「煙草代用」という広告まで森永が出していた。

「パキスタン」は略語だった……主要な地方名を組み合わせたものなのだ。Pはパンジャブ州、Aはノース・ウエスト・フロンティア州(アフガン)、Kはカシミール、Sはシンド州の頭文字を取り、TANはバルーチスターン州だという。

吉田茂が飼い犬につけたユニークな名前とは……サンフランシスコ講和条約を締結したときの日本側首席全権が吉田茂。彼は現地でケアンテリアという珍しい犬をつがいで購入。オスに「サン」、メスに「フラン」、最初の子犬に「シスコ」と名付け、かわいがったという。

カボチャの語源は「カンボジア」……日本でカボチャの栽培が始まったのは16世紀のこと。カンボジアからポルトガル人が大分に持ち込んだのが始まり。当時はカンボジアから持ち込まれたということで「カボチャ」と呼んでいたが、実際の原産国はアメリカ大陸。コロンブス交換により持ち込まれ、経由して日本に来たという。…しかし、今食べているカボチャは当時の「日本カボチャ」ではない。明治時代に入ってきて北海道で栽培された「西洋カボチャ」なのだ。でこぼこがなく、ほくほくした食感である。オーストラリアではこの西洋カボチャを”kabocha squash”と呼んで日本特産としているのだから、もうわけがわからない。

酒のチャンポンは本当に酔うのか……悪酔いしやすいというがこれは嘘。酔うか酔わないかはアルコールの総量にのみ影響されるから、濃度の違いは問題ではない。ところが酒の種類が変わると気分も変わり、多く飲んでしまうという意味では、確かに「酔いやすくなる」だろう。

ストレートは変化球でフォークボールは直球？……実はストレートこそ変化球なのだという。力学的には水平投射されたものは放物線を描くのが普通。ストレートは人為的にバックスピンをかけ、まわりの空気から上向きの力を得る、いわば不自然な球なのだ。一方でフォークボールは普通の直球なのだ。で、なんでそんな普通の球を超一流選手が空振りするかというと、ピッチャーの心理的な作戦に引っかかっているから。フォークボールはストレートと投球フォームがほとんど同じなので、「ストレートだろう」と思って打ちに行く。しかしボールは下がるから、タイミングがずれて打てない。逆にいえば、フォークボールがくると予測すれば打つのは難しくないし、見送ればボールになる球なのだ。

O型は蚊に刺されやすいというのは迷信……実は都市伝説。O型の血を好むことはわかっているが、刺されやすいかとなると話は別。むしろ服が黒い人、汗臭い人、特に足が臭い人はよく刺されるという。

保釈金の金額は誰が決めるのか……保釈とは、被告人が確実に出頭することを保証するために払う金のこと。逃亡や証拠隠滅をしないという約束で裁判所に払う金とも言える。この金額は、弁護士と裁判官が面談し、財産や罪の種類を考慮して決める。一旦決定すると現金か小切手で、一括で払わなくてはならない。逃亡したら没収となる。

アメリカの州についた「ニックネーム」……それぞれ特徴をとらえたニックネームがある。カリフォルニア州はゴールドラッシュで沸いたため「黄金の大地」、バージニア州は新大陸最初の入植地だったため「古くからの領土」。ユニークなところでは、インディアナ州の「アメリカの田舎」、ミズーリ州の「証拠を見せろ州」、ルイジアナ州の「ペリカン舞い降りる地」など。その大半は由来さえ明らかでないという。

玉入れの高さが4.12mになったワケ……1996年、全日本玉入れ協会が決めたことで、「アジャタ」という競技として生まれ変わった。100個の玉を入れるタイムトライアルで競われる。このカゴの高さは4.12mとされる。これは初めて玉入れ選手権が開催された北海道和寒町(わっさむちょう)でこれまでに記録された最低気温マイナス41.2度に由来するという。

徳川家康、実は短気だった説……鳴かぬなら鳴くまで待とう時鳥、という句で有名な家康だが、実は三方ヶ原の戦いでは武田軍の挑発に我慢できず出ていって、返り討ちにあったりしている。若い頃は血気盛んで軽率だったという。まあ、その失敗がのちの忍耐になったのかもしれないが…。

カタールの国旗は世界一横長……横の長さは縦の2.5倍以上、スポーツ大会ではバランスを考え、わざと調整しているぐらいだ。白とえび茶の2色。白は平和、えび茶は戦争で流れた血を意味し、9つのギザギザはイギリスと保護条約を交わした9つ目の国であることを示す。

マムシがマムシに噛まれるとどうなるのか……死なないのである。出血毒をもつヘビは自分の毒に抗体があるため、同じ種類の毒を打たれても死なない。ちなみにコブラは例外で、毒が強すぎるため抗体が追い付かず、「自分で自分を噛んで死んでしまったコブラ」の例も報告されているという。

卵の鮮度を割らずに知るコツ……光に当てること。新鮮なものは透き通り、古いものは黒ずんでいるという。また、10％の食塩水に入れる方法も有効。古くなると水分が抜けて気室が大きくなり、浮いてくるのだ。ナマで食べるのはやめよう。

逆立ちで食べると食べ物は逆流するのか……実は食べ物が胃までいく原動力になっているのは重力だけではない。食道の周りの筋肉が収縮する、蠕動運動もである。だから逆立ちをしてもちゃんと胃まで運ばれる。

白髪を抜くと増えるのは本当か……デマ。そもそも髪をつくる細胞であるメラノサイトの働きが低下、メラニンが含まれない髪が多く生まれるから白髪が増える。白髪を抜いても白髪しか生えてこないのだから、デマである。これが勘違いの原因になったようだ。

富山弁「おちんちんかく」……富山弁は割と穏やかな方言であるが、例えば「だいてやる」という危なそうなことばがある。これは「(お金を)出してやる」という意味。女性に使うと勘違いされそうだ。他にも「おちんちんかく」というのもあり、これは子どもに対し「おとなしく正座(鎮座)しなさい」という意味。男はみんな「かいている」から、やはり勘違いされそうである。

パフェとサンデーの違い……最近ではほとんど差がないが、語源は違う。パフェはフランス語の「完璧」からで、サンデーはアメリカで日曜限定で売られていたことに由来する。

全米ナンバーワンの映画がいっぱいある理由……実はあの売り文句、本当なのだ。ただ、一週間だけでも一位ならば、一位と言ってよいから、単純計算で年間52本のナンバーワンが生まれる。他にも「初日の興行収入1位」「女子高生動員数1位」とか言ってみたり、うまく被らないように公開時期をずらしたりしたものもある。全米ナンバーワンが、今年最大のヒット作ではないのである。

ムダ毛は剃ると本当に濃くなるのか……これはデマ。一度も切られたことがない毛は先端が細くなっているため、太く見えない。一方で剃ってしまうと、1本の断面が太くなり、濃くなったように感じてしまう。

左投げをサウスポーと呼ぶ理由……Southpaw、つまり「南」「手」である。かつてアメリカの球場は、ホームベースが北西に来るようにつくられていた。そのため左投投手の手は南側から繰り出されるのだ。

美人でなくとも「美人認定」してくれる？……秋田県湯沢市が小野小町の生誕の地とも言われる。ここでは「美人証明書」を発行してもらえるのだが、これに検定はない。1枚315円、男でも買うことができる。

選挙スタッフのおやつ代は500円……公職選挙法でちゃんと定められている。他にも弁当は1つ1000円、宿泊料は1万2000円など。ちなみにポスターを張るだけの人には実費での支給が許されない。こんなに細かいのは、収賄防止のためだという。

なぜ「2番目」を意味するセカンドが「秒」なのか……そもそも英語の”minute”「分」はラテン語の「1番目の小さい部分」を意味する”pars minuta prima”に由来する。一方で秒を表すセカンドは「2番目の小さい部分」を意味する”pars minuta secunda”に由来。1時間を最初に、古代バビロニア人が考えた60進法によって分け、その後1分を1秒に分解したのだから、これで正しい。

「ライバル」の原義は「互いを高め合う人」ではない……外国人に教えたくなる日本語。英語の”rival”は最初、”rivalis”(小川を共同で使う人)という意味があり、日本語のライバルと似た意味だった。それがいつの間にか、水を争い合うようになったのか、「対抗者」という意味に限定されるように。

Good byeのGoodは「神」のこと……「良い」という意味ではないのだ。「神が汝とともにあれ、神様があなたをお守りくださいますように」という”God be with ye”から来ている。17世紀にはすでに”be with ye”が”bye”に、18世紀に”God”が”Good”に。神の名前を直接口に出すことを遠慮したといわれる。

アメリカ「合衆国」なのはなぜか……つまり、合州国でもよさそうなのに、という話である。実は合衆国ということばは、中国に通じたドイツ人宣教師により訳され、中国から日本に伝わったという。合衆国としたのは、「独立した州どうしが団結して経営する」という意味を含ませたかったから。合衆国が初めて文献に出るのは1844年の望厦条約。日本では1854年の日米和親条約で「亜米利加合衆国」と記されたのが最初。

ちくるの語源……先生にちくるぞ！のちくる、これは「チクっとさす」からではない。実はちくるは倒語で、「口」を逆に読んで、動詞にしたものだという。

声を出さずに「号泣」はできない……テレビとかでおおげさに「この後、〇〇号泣！」とテロップが入るが、あれは間違っている。というのも号泣とは「大声で泣くこと」だからだ。ただ涙を出すだけでは号泣できないのである。「号」は「怒号」や「号令」のように「声」という意味がある。

役員と執行役員の違い……意外に知られていない。そもそも役員は、会社の重要事項、運営方針を決める権限を持つ人達。会社法では、監査役と会計参与がないなら、役員＝取締役ということに。役員は従業員ではない。かつて従業員だった人も、一度それをやめて経営を担うことになる。一方で執行役員には、特に法律による規定はない。役員とは違い、決定事項を実践し、業務に専念する場合が多い。つまり経営を行わない従業員ではトップである。

トンネルはなぜ奥に行くほど暗いのか……目を順応させるため。明順応よりも暗順応のほうが時間がかかるのだ。そもため入口を明るく、出口を暗くすることで、目の順応速度に合わせるのである。なおトンネルのオレンジ色のナトリウム灯は寿命が長く、チリなどの影響も受けにくい(また、波長が長いので遠くまで届きやすい)という理由で使われていたが、最近では蛍光ランプの品質向上で、白色のものが利用される。

野口英世は改名していた……もともとは「野口清作」(せいさく)といったのだが、これは坪内逍遥の「当世書生気質」に登場する「野々口精作」にそっくり。彼は優秀な医学生だったが、好奇心で遊郭に足を踏み入れ堕落、最後に自殺してしまう。これだと自分だと勘違いされかねないということで、わざわざよその村の「清作」の家族に頼み、野口と同じ村の別の「野口」の籍に入ってもらい、強引に2人目の「野口清作」になってもらった。その上で「同姓同名の人が同じ村に2人いるから」と、役所に行って改名したのだ。

大きな古時計が刻む時間は、実際より10年長かった……「100年経っても」と歌い継がれてきたあの歌だが、原題”Grandfather’s clock”ではおじいさんは90歳で死に、時計も90年で止まった。しかしNHKが、訳詞担当者に「児童合唱団が歌いやすいように」と要望、ゴロの良さから100年に書き換えたという。

トランプのスペードのエースだけが大きいのはなぜか……トランプ、英語では”playing card”という。これは日本に来た外国人が「トランプ！」(切り札！)と叫んでいたのを勘違いしたことに由来する。それぞれのエースを並べると、なぜかスペードのものだけ大きく、複雑。これは、17世紀イギリスでトランプに税金がかけられていたことに由来。政府は税金を納めた証拠として、どれか1枚のデザインを複雑にし、偽物を防ごうとした。その名残だったという。

じゃんけん「最初はグー」は志村けんが言い出した……「8時だヨ！全員集合」のコーナーで、志村けんが最初に言ったことから流行したという。もともと、飲み会で酔いが回り、ジャンケンのタイミングが合わず「最初はグーで揃えよう」と提案したのが始まりのようだ。

郵便番号の振り方が不規則な理由……電話番号の市外局番が、北海道の01から沖縄の09まで振られているのに対し、郵便番号は不規則。これは郵便物が主に鉄道で輸送されていた名残。最も多かった東京から振り始め、東海道線や山陽線にそってつけていたため。

お金を扱うのになぜ「銀行」なのか……つまり「金行」といえばいいのに、という話。明治初期、英語の”bank”をどう訳すかを話し合ったのが福沢諭吉ら。当時は最も銀が流通しており、中国が銀本位制を採用していたことから、銀行になったようだ。「行」は中国語で商店や市場を意味する。

アイシャドーは虫よけだった……おしゃれではないという。エジプトのナイルではハエが大量発生。人間の目から出る水分を求めハエが集まり眼病になる人が相次いだ。そこで目の周りにアイシャドーを塗り、虫よけとしたのだ。魔除けの意味もあるという。

男性が美容室で髪を切るのは違法だった……1978年の旧厚生省によれば、美容師は男性にカットのみのサービスをすることを禁じ、理容師が女性にパーマするのも駄目。つまりかつては違法だった。これが2015年に改正。

本についている栞は日本語で何と呼ぶか……本に挟む栞を英語では「ブックマーク」と呼ぶ。日本語では「枝折」と呼ぶ。これは、山道を歩くとき、枝を折って目印にしていたから。ちなみにページを三角に折るのは「ドッグイヤー」と呼ぶ。では本に付属しているアレの名前は？答えは「スピン」。業界用語で、和製英語。英語で本の背を表す”spine”とする説が有力。

「ブルガリ」のつづりが”BULGARI”でなく”BVLGALI”の理由……高級ブランド、ブルガリだが、つづりが間違っているように見える。もともとはギリシャの伝統を継ぐ銀細工職人ブルガリさんが1905年にイタリアで開いた。彼はギリシャ語に”U”がないこと、ラテン語では「ウ」に”V”を使っていたことから、BVLGALIとしたのだ。

めがねの「鼻あて」は日本人が発明した……ザビエルが日本の大内義隆に献上したものがはじめとされるが、当時は鼻当てがなく、使いづらかった。そこで現在の鼻当てが発明。鼻が低い日本人ならではの工夫だが、これが世界中の眼鏡に用いられるようになったのだ。

アパートとマンションの違い……何となくマンションのほうがでかそうなイメージがあるが、建築基準法でもその差は明確でない。貸主や不動産会社が判断し命名しているだけなのだ。ただし、構造を判断材料にはできる。マンションは鉄骨や鉄筋コンクリートで造られているものが多く、階数に制限はない。アパートは2～3階建て、木造または軽量鉄筋造のものが多い。

一つまみとはどれぐらいの量なのか……親指、人差し指、中指で同時につまんだ分量、目安は小さじ4分の1ほどとされる。また、少々は親指と人差し指でつまんだ分量で、小さじ8分の1ほど。ひとにぎりは親指以外の指で握ったぐらいで、塩なら40～50グラムほど。

節分にはなぜ豆をまくのか……平安時代の「追儺」(ついな)という行事に由来する。これが民間に広まったのだが、悪魔のような鬼の目「魔目」をめがけて豆を投げ、魔を滅することができると信じられたから。節分は季節の分かれ目のことなので、1年に4つある。

バドミントンの審判は判定を「放棄」できる……めちゃくちゃ速い上、羽も小さい。わからないときは線審は両手で目を塞ぎ、「わからない」と表現するのだ。線審がこれをしたとき、判定は主審に一任。しかし主審もわからなければ、「レット」といって、プレーはやり直しになるのだ。

レッドカードが生まれたのは「ことばの壁」から……1966年のワールドカップ・イングランド大会からだといわれる。ラフプレーの絶えない大乱戦となり、アルゼンチンの主将が退場宣告をされたとき、ドイツ語しかわからない主審に対しスペイン語の通訳を呼ぶように要求。ところがこれが、主審を威嚇していると誤解されてしまった。結局線審が仲裁に入ったのだが、ことばなしに合図することの必要性を痛感。警告なら「黄」退場なら「赤」を出すことを信号をもとに取り決めた。これが1968年のメキシコ五輪で採用。

自動車のメーターが180kmまでしかない理由……安全上の理由から。高速で最もきついのは6％勾配の道だが、これを時速100kmで上がるには、平地を180kmで走れる力が必要なのだ。また、危機回避という意味もある。

ウエディングドレスはなぜ白なのか……イギリスのヴィクトリア女王が結婚した際に白だったから。その後、中流・上流階級の女性がそれにあやかろうとして、白いものを着るように。そこから「純潔」をあらわすようになり、世界中の国々で着られることになった。なお日本で普及したのは高度経済成長期。

スーパーのレジ袋がうまれたきっかけ……実は「梨狩り」だったという。梨を狩って袋に入れるのだが、このときは竹のカゴ。これが女性客のストッキングにひっかかるとの苦情が出た。そこで透明なポリエチレンの袋に取っ手をかけて使ったら大評判。1972年に特許が取得され、瞬く間に全国に広がっていった。

化粧品の”DHC”とはそもそも何なのか……”DHC”は化粧品やサプリメントを売る会社。実は「大学翻訳センター」の略だという。翻訳業を生業にする会社として創業、その後は大手の翻訳・通訳会社へ成長。化粧品販売に着手したのは1980年で、DHCオリーブバージンオイルを開発したのが最初だった。

ワイシャツの前後の裾が長い理由……ワイシャツの裾がパンツを兼ねていたころの名残だという。当時はワイシャツも下着になっており、長い裾の前後をボタンでとめ、大事な部分を守っていたという。ちゃんとした下着が普及したのは1930年代のころ。日本にはふんどしがあったが、それまで欧米の男性は、ノーパンだったのである。

「上野の西郷さん」の除幕式で奥さんが口にしたひとこと……写真嫌いの西郷隆盛は写真を残していない。誰もが知るあの西郷どんの肖像画は、本人をモデルにしたものではなく、弟やいとこの顔を参考につくったもの。1898年に完成した上野公園の銅像も、高村光雲が絵を見ながら制作。西郷の奥さんは「こげんなお人ではなかった」と漏らし、周囲を驚かせたという。

八百屋の語源……井原西鶴の本には、「須田町、瀬戸町の青物屋」とあり、野菜を売る店は青物屋と呼ばれていた。これがのちに「青屋」になり、やがて「やおや」に。「やお」にはもともと数が多いという意味があったため、八百という漢字をあてがったようだ。別の説では、江戸時代、季節や天候の影響を大きく受けていて、一年中野菜を収穫することができなかった。そのため、野菜以外にも、たまご、木の実、乾物、海藻などを販売していた。「数が多い」ことを「八百」(やお)といい、「八百屋」になった。

セーラー服の襟はなぜあんなに大きいのか……150年ほど前に制定された、イギリスの水兵の服がもと。あの角襟は、そもそもなんだったのか。水兵は当然めったにお風呂に入れず、髪の毛も伸びっぱなし。汚れた長髪で服が汚れないようにするためのものだという。だがそれ以外にも、両手で襟をつまんで頭の後ろに立てると、強風の中でも声が聴きとれたという。胸元がＶの字に開いているのも特徴だが、これは海に落ちたときのためのもの。破れるため、喉が閉まることがない。

鼻をつまむと味覚が変になる理由……口に入れた食べ物のにおいは、鼻と喉が繋がっているため鼻にもいく。鼻をつまむと鼻腔の空気が入れ替わらず、味が判断できなくなってしまう。

食後すぐの歯磨きはやめるべき……酸性の飲食物が増えた影響で、食べた後は口の中が酸性。エナメル質が溶けている。30分ほどたてば唾液が再石灰化を促すが、これより前に歯を磨くと修復前に歯が傷つくことになる。

鳩が首を振って歩く理由……鳩、というか鳥は眼を動かすことができない。そこで頭を動かさない時間をつくることで、モノをとらえるのだ。つまり首を振りたいわけではない、頭を動かさないようにするため、この歩き方が最善なのである。

グリルとソテーとローストの違い……肉の焼き方の差である。まずグリルは網焼きのこと。表面に焦げ目をつけ、余分な脂を落とす。ソテーとは、フライパンにバターなどを入れ、短時間で火を通しつつ、水分を飛ばすもの。軽く炒めるイメージだ。ローストとは、大きな塊肉を串に刺して直火で焼いたり、オーブンで加熱したり。原始人の持つマンガ肉のイメージ。

1割引きと10％還元はどっちがオトクなのか……例えば10万のものを1割引きで買えば、これは9万円で買える。10％還元は、10万円を払えば1万円分の買い物ができるということ。つまり、差額の1万円を11万でわったものが割引率、9.1％になる。ポイント還元は買った店でしかできないことを考えても、やはり割引のほうがオトクなのかも。

遠野物語の地で「カッパ捕獲許可証」を発行？……柳田国男が発表した「遠野物語」の地、岩手県遠野町。ここではなんと2004年から「河童捕獲許可証」が発行されている。210円で、有効期限は1年間。カッパを捕まえてもよいとのことだが、「生け捕りにする」「頭の皿は傷つけず、水をこぼさない」「エサは新鮮な野菜を」など7つを守る必要があるという。

プロデューサーとディレクターはどちらが偉いのか……プロデューサーはいわば統括役の人。企画、スポンサー、スケジュールの管理などを行う。一方でディレクターは「現場監督」、カメラや照明さんに指示を出す。どちらが偉いのか、一般にはプロデューサーであるが、場合によってはプロデューサーとディレクターが兼任のことも。

アルプス一万尺の「こやり」とは何なのか……原曲は独立戦争の”Yankee Doodle”であるという。沢山の替え歌が世界には存在するが、「こやり」とは何なのか。というかそもそも、何の歌なのか。まずアルプスとは日本アルプスを指す。その一つ、槍ヶ岳の北西の岩場が「こやり」、小槍と書く。ここで踊るのだ。

女性が男性よりも膀胱炎にかかりやすい理由……尿道の長さが異なるから。女性は3センチ、男性は16センチほどだという。尿道口から細菌が侵入しやすいのである。なお役割も異なる。男性のは膀胱の尿を出すための通路、かつ精液の通り道となる。一方で女性の尿道は尿の排出のためだけのもの。

シンガポールは最も「国語を使わない？」……シンガポールは70％が華僑、13％がマレー系、8％がインド系という構成。マレー語が公用語だが、独立記念日や式典の時に歌う国歌「マジュラー・シンガプーラ」のときしか使わない。国歌の意味も知らず、ただ声を出すだけの人もいるようだ。公用語はほぼほぼ英語だが、マレーシアから独立したという背景があり、公用語をマレー語にしている。

松阪牛はビールや焼酎を飲んで育つ……血行をよくし、皮下脂肪を均一にするマッサージなどを受けて育つ彼ら。実は食欲増進のため、ビールや焼酎を飲んで育つのだという。こうして霜降りが入る絶品牛肉に仕上がる。

大学の「大東亜帝国」「中東和平」とはどこか……大学は様々にランク分けされる。例えば旧帝大、例えばマーチなど。響きが面白いのがこの2つで、大東亜帝国は「大東文化・東海・亜細亜・帝京・國學院」である。中東和平は「中央学院・東京国際・和光・平成国際」である。

雛人形を早く片付ける必要があるのはなぜか……それはひな祭りのできた理由に由来する。もともとは穢れを人形にして、流すという祭りだった。江戸時代になると人形をつくる技術も発達、流さずに片付けるように。早く片付けないと穢れが残るという解釈が生まれ、そのようになったのだとか。

人類初の動力飛行はライト兄弟のどっち？……乗る順番をコインで決めた結果、兄オーヴィルが初飛行だったという。最後の4回目の飛行は兄ウィルバーが乗り、256メートルを記録したという。

唇が赤いのはなぜか……表皮が極端に薄く、真皮がほとんど。毛細血管を流れる血液が透けて見えるのだ。つまり、くちびるが赤いのは血のせいなのだ。唇が紫色になるということは、相当にヤバイのではないか。

パッションフルーツとキリストの関係……パッション、情熱という意味のようだが、実はキリスト教で「受難」という意味が。1600年頃、南米を旅行中の宣教師が、この花のめしべをみて十字架のキリストを想起。思わず「パッションの花だ」と叫んだことがきっかけだという。パッションは次第に激しさの度合いを増し、語義を変えていった。

竹や笹が一斉に開花する不思議……60年に1度しか開花しない。不思議なことに広い範囲の個体が一斉に開花するという。理由は諸説ある。例えば毎年種をつけると動物に食べつくされるが、ある年に大量にまけば子孫を残しやすいから、とか。ちなみに地下茎を長い期間かけて伸ばし、他の植物を排除するから、サイクルが長いと考えられている。

9つの島なのに「伊豆七島」という不思議……東京都の島嶼部の伊豆諸島、有人島は全部で9つ。しかし式根島と青ヶ島は含まれていない。式根島に関しては、江戸時代までは無人島だったが明治時代に人が住み始めたから、というのが有力。青ヶ島は本州から最も遠く、八丈島の属島とみなされていたのが理由だという。明治時代の行政用語だった伊豆七島は、最近はほとんど用いられない。

医者の聴診器は子どもの遊びから生まれた……誕生以前は医師が胸などを叩いて音を聞くしかなかったが、聴診器が生まれてから問題は解決。フランスの医師ラエンネックは、子どもが木の棒を耳にあてて遊んでいるのを見て、ひらめいた。紙を筒状に巻いて女性の胸に当てたら、見事に心臓の音が聞こえたのだ。これが聴診器になった。

なぜ船の速度は「ノット」なのか……1時間に1海里、つまり1852メートル進む速さが1ノット。ノットには結び目という意味がある。16世紀ごろ、船の速度を測る方法として、結び目をつけたロープを用いていた。28秒経過するまでにいくつ結び目が繰り出されるかを数えたのだ。これがノットの語源なのである。

盲腸炎は盲腸の病気ではない……大腸と小腸が繋がる、横に倒したT字型を盲腸という。ここが痛くなる病気が盲腸炎、というのは勘違い。正確な病名は虫垂炎だ。虫垂は盲腸の末端部から垂れ下がる突起。この部分が細菌に感染し、炎症を起こすのだ。虫垂は退化し役割のない器官と考えられてきたが、現在ではリンパ組織が集まり、生体防御をしているとされる。

紙幣に書かれた記号の色が違う理由……よく見てみてほしいが、色が異なるのだ。これは番号を全て使い切ったため。インクの色を変えてA000001から始めている。他にも、紙幣の仕様変更のときに色が変わった例もある。

マジックカットの秘密……どこからでも切れま…せん！旭化成パックスという会社が登録商標を有する。その秘密は無数の穴にある。穴のサイズは0.5ミリと極小、これが1ミリ間隔でジグザグに空いている。当時、この会社の専務が新幹線に乗って、おつまみパックが切れず、結局ツマミ無しでビールを飲んだことがきっかけだという。

電話の呼びかけはかつて「おいおい」だった……現在の電話はすぐに繋がるが、当時は交換手につないでもらう必要があった。また、電話のときのよびかけは「おいおい」「申す、申す」とかだった。いつのまにかおいおいは使われなくなり、申す、申すが省略されたもしもしになったのだ。

助教授が准教授になった理由……きっかけは2007年の学校教育法改正。大学教員に「准教授」「助教」「助手」が誕生、それまでの助教授は多くが准教授に移行。かつての助教授は教壇にも立っていたが、教授を助ける仕事と勘違いされることが多かった。さらに助教授の「助」を英語に訳すと”assistant”となり、誤解も生じる。英語で”associate”にあたる「准」の字があてられた。

東京タワーは戦車の鉄でできている……朝鮮戦争で廃棄された米軍の戦車90両を解体、くず鉄とし、これを鋼材にした。1000～1500トンもの鋼材が、展望台より上の部分に使われた。これは重量では3分の1を占める。

サボるの語源は木の靴……女性が履く靴に「サボ」がある。もともとはフランス語で木靴の意味で、農民などが履いたもの。20世紀初頭のフランスでは労働運動が盛んに、履いていたサボで機械を壊し、生産を停止させた。これがサボタージュということばを生んで、動詞にしたのだ。

どっこいしょは仏教用語？……日本では昔から、山に祖先がいるとされ、信仰として山に登る風習があった。このとき、「六根・清浄」(ろっこん・しょうじょう)と唱えていた。これが転じてどっこいしょになったとする。一方で柳田国男は別の説を唱える。相手の行動や発言をさえぎる感動詞、「どこへ」が語源としたとする。

誤用される「破天荒」……豪快で大胆な様子という意味で使う人が大半だが、本当は「誰もなしえなかったことをする」という意味。天荒とは雑草がはびこる未開の地のこと。唐の中国で科挙の合格者が出なかったため「天荒」と呼ばれていた荊州に、及第者がはじめてでた。この故事からついたという。

サザエさんの視聴率が株価を左右する？……半年間のサザエさんの視聴率と東証株価指数(TOPIX)の推移を調べると、確かに視聴率が高いと下落、低いと上昇したという。これは景気がいいと外出する家族が増えるからだと説明される。サザエさんの視聴率が下がったら、株は買い、なのだろう、か…？

エジソンはモールス信号で女性にアピールした……最初の妻メアリーを病気で亡くした後、38歳の彼は知人に女性を紹介してもらうように頼んだ。3人のうち18歳のミラーを選び、ミラーの手の平にモールス信号でプロポーズ。ミラーはこれを、顔を赤らめながら受け入れたという。

戦国時代の馬は「ポニー」だった？……たくましい騎馬隊のイメージがあるが、実際には体高130センチほどの在来種しかいなかった。147センチ以下がポニーであるから、なんとも見栄えのしない戦いだっただろう。撮影に使われるのはサラブレッド。1700年代に西洋の馬が入ってきた。

長時間のサイクリングは精子を殺す？……第25回欧州ヒト生殖学会議で、驚くべき結果が発表。トライアスロン選手たちでもとくに1日40キロ以上を走った者は、正常な精子の割合が4%以下。サドルの圧迫と摩擦、体温上昇、運動のストレスなどが精巣に障害をもたらす可能性があるという。

メキシコ地元新聞「議会がマルちゃんした」の謎……早々に審議を打ち切った議会について、地元新聞が「マルちゃんした」と報じたという。このマルちゃん、東洋水産のあのキャラなのだ。マルちゃんの即席めんは1990年頃からアメリカからメキシコに輸出。一躍大人気になり、メキシコでは日本の即席ラーメンを「マルちゃん」と呼ぶように。簡単にできる、すぐできるという意味で使われるように。2006年ワールドカップでは、メキシコ代表の速攻重視作戦を、「マルちゃん作戦」と呼んだ。

冷や酒と冷酒は何が違うのか……冷や酒は燗をしない、つまり常温で飲むお酒のこと。一方で冷酒は冷やして飲むもの。昔は冷蔵庫がなく、熱しない状態が「冷や」だった。しかし普及し始めると、冷酒と言う新しいジャンルが誕生。

イカやカニはなぜ「杯」なのか……杯ということばからトロフィーの形状をイメージしてほしい。銅の部分が丸く、水などを注ぎこむことが可能なはず。この形がイカやタコの形に似ているから、「一杯」「二杯」と数えられるのだという。

大阪と京都だけ「府」がつく理由……1868年には10の「府」があった。もともと府とは、政治の拠点、大都市のこと。政府が幕府直轄地の中でも特に重要なものをそう称したのがはじまり。ただし太政官布告といって「東京、京都、大阪以外は府としない」旨を発表。東京府は太平洋戦争中、東京市と併合し東京都に。その名称だけが引き継がれることとなったのだ。

シマウマは縦シマではない……縞模様で有名なシマウマだが、あれは横シマというのが正しい。生物学的には、背骨に沿って平行な方向を縦と決めている。つまり頭と尾を結ぶ背骨が横になるのが大半の動物なので、シマウマは横縞なのだ。

甲子園球場の土は春と夏で異なる……選手たちがプレーしやすいようにとの配慮。春は黒土と砂を同じ割合で混ぜる。雨が多い時期のため、水はけを良くしている。夏は黒土のほうが少し多く、太陽からの照り返しで白いボールを見やすくするため。

紙幣の中の肖像画も年をとる？……最も多くの紙幣に登場するのが、イギリスの20ポンドにも用いられる、エリザベス2世。イギリスを含む16カ国で使われている。この紙幣たち、エリザベス女王が描かれたときの当時の年齢で、肖像画が変わるのだ。

宅配便の中の手紙は違法……郵便法違反。「日本郵便以外の事業者が信書(個人的な手紙)を送達すること」は厳しく罰せられる。手紙やはがき、請求書など。これを判定するのは総務省だが、基準はとてもわかりにくい。ただし主従関係として、「柿が熟したので送ります」とか「商品を気に入ってもらえると嬉しいです」のようにはっきりしていれば、大丈夫だという。

月の土地は2700円で買える……宇宙条約では国家が月を所有するのは禁じているが、個人が所有するのは禁じられていない。これに目をつけたのがデニス・ホープ氏。彼は1980年、サンフランシスコの行政機関に所有権の申し立てを行い、受理。ルナ・エンバシー社を設立し、月の土地の販売、権利書を発行し始めた。1エーカーで2700円、日本でも購入が可能。購入すると権利書、地図、憲法の3つが贈られるという。現在は金星や火星も販売し始めている。

全国のおみくじの7割をつくる神社があった……山口県の女子道社で、女性の地位向上を目指すための資金とし、神社をつくっておみくじを生産し始めた。ハワイにまで送られているというから、驚きだ。

世界初の電子メールのメッセージは”QWERTYUIOP”……1971年に誕生した電子メール。キーボードを左から押したものを送信したので、これが世界初。

リポビタンＤはなぜ助かった後に飲むのか……ファイトォ～！一発！の掛け声で知られるアレ、なぜ助かった後に飲むのだろう。ピンチの最中に手渡す、ポパイのような使い方でもいいではないか。実はこれ、誇大広告にならないようにしているのだ。疲労回復と滋養強壮が効能とうたう以上、のちの疲労を予防する効果はない。もしＤを飲んだ後に崖を登ると、薬事法に引っかかる恐れがあるのだ。

クラーク博士は破産していた……本国に戻ったクラーク、世界一周航海の船の上を教育の場にしようと、洋上大学の構想を建てた。しかし資金難でとん挫。非合法の高山投機にも手を出したが会社は倒産。財産どころか信用をも失い、失意のうちに生涯を終えたという。

100万ドルから1000万ドルに値上げした神戸の夜景……実際に額を計算した人がいた。関西電力の副社長が、摩耶山から見下ろす一帯の電気代を調べると、119万ドル(当時は1ドル360円)だった。その後、2005年にもう一度計算すると、その額は1000万ドル以上だった。ちゃんとしたソースがあっての値上げなのだ。

ルンバには地雷探知の技術が応用されている……アイロボット社が発売したルンバ。マサチューセッツ工科大学で人工知能を研究する3人の科学者が創業。彼らの開発したロボットは同時多発テロや湾岸戦争、東電原発でも活躍。ルンバ初号は2002年に発売され、地雷探知ロボットの技術を掃除機用に進化させてつくられた。

格下げされたスキージャンプ「K点」……K点が知れ渡ったのは1988年の冬季長野五輪。日の丸飛行隊が大活躍し、Ｋ点越えの大ジャンプの見出しが躍る。Ｋ点とはドイツ語”Kritischer Punkt”の略で、これ以上飛ぶと危険だという極限点を指していた。ところが技術や道具の進化で、一流選手にとってＫ点はもはや目標ではない。そこで長野から8年後のトリノ五輪では、K点に代わり「ヒルサイズ(HS)」という、安全に着地できる最大距離の目安、つまり2番目のK点が採用。ドイツ語で建築基準点を意味する”Konstruktionspunkt”の略。

大相撲の殿堂・国技館の住所は「横網」か「横綱」か……両国国技館の所在地は墨田区の「横網1丁目」。横綱の間違いではなく、ちゃんと横網。漁師が網を横に干していたという説がある。貞享年間にはすでにある、歴史ある住所なのだ。そもそも当時の最高位は横綱ではなく大関。

ウォシュレットは「洗うトイレ」ではない……なんとなくwashとtoiletとかかってそうだが違うらしい。TOTOによれば、レッツ・ウォッシュをさかさまにしたものだという。このもとになっているのはブリジストン。石橋という創業者の名前を逆にしていたから。

災害対策の概略・煙からの避難……火事や地震などで煙が出ている場合、ハンカチ、タオルなどで口を抑え、できるだけ吸い込まないようにする。可能であれば水でぬらすのが良いが、なければ唾液などでもよい。一酸化炭素中毒などで瞬時に気を失い、死にいたる可能性もある。

災害対策の概略・災害時に持つべき「リュック」……不安定なガレキを歩くため、両手が塞がっていないことは前提条件。大きいリュックなら、背中を落下物から防ぐことも可能。ポケットが多いと様々なものを整理して運べる。

災害対策の概略・災害時の声かけ……ガレキに埋まった人を探索するために大声を出すことになるが、要救助者が声を出せない場合もあるため、「ものを叩いて音を出してください」と呼びかけることが重要。また同時に声かけをすると音や声を聞き逃す恐れがあるので、順番にし、他の人は音を聞く役割に回るのがよい。ガレキの中に人の気配がある時はすぐに助けると崩落の可能性もある。材木などで予め補強するべき。

災害対策の概略・ジャッキの活用……車に搭載されているジャッキは、下敷きになった人の救出に活用できる。隙間にジャッキを入れ、アップさせて救出のための空間をつくる。またバールを使って、テコの原理で隙間をこじ開けたりも可能、車の中をのぞいてみるのがいいかもしれない。

災害対策の概略・震災時の道路災害……大きく分けて三つ。地震で亀裂が入る被害、液状化現象による被害、そして道路自体が横や縦にずれる被害。被害の大きさによっては、全く車が走れなくなることも。無理に走行しようとすると、亀裂に車がはまったり、余震で倒壊する建物や看板に巻き込まれたりする危険がある。また、車を一斉に使おうとすれば、渋滞で緊急車両が通れなくなる可能性がある。

災害対策の概略・災害時の治安……強奪や暴行が発生することがある。大部分の市民は冷静に行動するが、一部がそういう行動に出ることも考える必要がある。デマにより治安が乱れることもある。外部から震災にかこつけ、略奪や強奪をはかる不審者も出没しうる。

災害対策の概略・ビルへの避難……ガラスや看板などの落下物から逃れるには、ビルに避難するのが一番。しかし、避難したビルの柱にX字状のヒビ、斜め方向に深いヒビがある場合は、すぐに隣のビルに移るべき。こういった柱のヒビはせん断破壊といって、柱内部の鉄さえも切れており、すぐに壊れる。もう一つ、夜間に移動するリスクを避けることが可能。人々の心理が不安定で、何が起こるかわからない。女性は絶対に一人では外出すべきでなく、男性と共に行動しなければならない。

災害対策の概略・災害時ラジオの活用……正しい情報を得ることが最重要課題と言ってもよいほど。テレビを見るのもままならないため、乾電池で起動するラジオで情報収集するのがベスト。ラジオは地域の情報を伝えてくれる上に、デマから惑わされることも防いでくれる。できれば、常に携帯しておくこと。ちなみに全国で震度5弱以上の地震が発生したら、「緊急地震速報」として、即座にテレビやラジオで流れる。震度4以上の揺れが想定される地域に警報を放送する。地震直後の注意喚起も流れるので注意。

災害対策の概略・避難所以外での避難……まずは明かりをつくる・探し出すのが大事。飲料水や食料は近くの「避難所外被災者」として届け出をし、救援物資を確保する。治安にはくれぐれも注意。

災害対策の概略・地震発生翌日の行動……大きな余震が考えられる。倒れかけた建物や落下物には絶対に近付かないこと。また、けが人や生き埋めの人がいるため、救助・救援にあたる。当日は気が動転して気が付かなかった自身のケガや体調にも、十分配慮する。

災害対策の概略・救助を呼ぶために……大声で叫ぶのが定説っぽいが、体力を消費するため音を立てるほうが効果的。レスキュー用の笛、口笛などもよい。携帯電話が発信する微弱な電波を拾い、レスキュー隊が助けに来ることもある、携帯は待ち受け状態にすること。ペットボトルや雨水を少しずつ含むのも大事。逆に救助側としては、AED、圧迫止血、他の人を助けに呼ぶ、倒れている人の手を握る、などがある。

災害対策の概略・高所にいる人の救助……2階(地上4メートル程度)なら、骨折はあっても死ぬ可能性は低い。3階以上だと、下が植え込みやクッションでないと、大けが、最悪命の危険がある。ハシゴがあれば最もよいが、雨どいを伝って下りる、ベランダから飛び降りるのではなく、手でぶら下がって身長分下に伸ばすなども有効。

災害対策の概略・消毒の必要性……けが人の治療に必要な消毒液だが、なかなか入手できない。ウイスキーのようなアルコール度数が高いお酒は、避難的な消毒液となる。きれいな水で洗うこともよい。ただしできるだけ早く、避難所に移動することが望ましい。

災害対策の概略・地下街は地震に強い？……これは間違い。確かに地表より、揺れは一段階ぐらい低くなる。しかしショーウィンドウのガラスが割れ、停電になり非常灯が消えれば真っ暗。火災が発生すれば逃げ場もない。地上への階段で人々がパニックになり、将棋倒しの可能性も。

災害対策の概略・無人店舗でのお金……被災地で無人のコンビニやスーパーがあって、そこの商品が必要な場合、商品名、氏名、電話番号、あとで料金を払うことを書いたメモを必ず残すこと。ただしこれはあくまでも緊急避難的な行為。しないのが一番よい。

災害対策の概略・放置車両の利用方法……災害時、乗り捨てられている車に触れることは原則禁止だが、傷病人を収容したり、シートカバーを使ったり、ライトを点灯させたりすることは緊急避難的に可能。逆に自分が放置する場合は、道端にとめ、鍵はつけたままにするべき。緊急車両の移動の際、自車が邪魔になるときに動かすことが可能だからだ。

災害対策の概略・震災時の施錠……長時間家を出るなら、家の鍵は閉めておくべき。というのも震災後は治安が悪くなるから。また、玄関の近くに隠しておくのも良くない。

災害対策の概略・ガムテープの震災時の活用法……モノを貼り付けるだけでなく、ヒモの役割にも、包帯の代用品にもなる。最近では、ボランティアが名札代わりにもしている。ビニール袋と合わせて服がわりにもできる。

災害対策の概略・被災所のパニック状態……大量の被災者が一時に押し寄せることで、我先にと避難空間になだれ込み、勝手に自分の空間を確保する行動に出る。お年寄り、障がい者、外国人が後回しにされるのも、よく見る光景だ。

災害対策の概略・震災時の娯楽……被災地はストレスの塊である。プライバシーもなく、環境が一変するため、ほとんどの被災者にはゲームなどの娯楽が必要になる。特に子どものストレス緩和に効果的である。また、歌も有効であり、元気づけのための歌が心を支えてきた。

災害対策の概略・野営の注意点……やむを得ず野営する場合は、屋根があり、風を防げるよう壁に囲まれた場所を探すこと。また、新聞を服の下に巻き付け、体温を保つ。焚火も有効だが、火災にならないようにする。

災害対策の概略・避難所に備蓄された食料……その量は地域住民への配分が前提で、せいぜい3日程度しかもたない。地域住民以外の避難者は対象になっておらず、食糧不足が考えられる。自分で一週間程度の量は持ってこよう。

災害対策の概略・長期間避難の影響……狭い空間で長い時間じっと動かないことで、エコノミークラス症候群になるおそれがある。適度な運動と水分補給がコツである。車中泊の場合、数時間に一度は外に出るようにする。できれば足を伸ばしておいたほうがいい。

災害対策の概略・入口から出れない場合……入口がガレキなどで埋まってしまった場合は、何かを窓にぶつけて脱出しよう。木造家屋の場合、屋根の瓦が地震で落下している場合もある。天井を材木で突き破って脱出する方法も確かめたい。

災害対策の概略・地震数日後の火災……要注意。「通電火災」といって、地震発生後数日たち、電力が復旧すると、電源がオンになったままの電熱機器から発火することがある。阪神淡路大震災のときにも起こった。

災害対策の概略・高層ビルへの避難……高層ビルの屋上にヘリポートがあれば、救助を期待できる。しかし、火災の上昇気流などで着陸やホバリングが難しくなる可能性もある。強風や余震による揺れで落ちないように、屋上中央部にいるほうがよい。

災害対策の概略・階下からの引き上げ……階段が崩壊しててやむを得ず引き上げる場合、消火栓から出るホースは強度と長さから見て最適。屋内から階下への移動には、ベッドシートをねじって使用することも可能。

災害対策の概略・崩壊する歩道橋……大地震発生後の歩道橋が崩壊するかは、鉄筋コンクリートにＸ字状の亀裂や鉄骨がむき出しになっているか、鉄骨造の場合はケタが外れているかどうかでわかる。

ビールかけは日系二世選手の行動が起源……優勝が決まった後にするアレだが、1959年の南海(ソフトバンクホークスの前身)がパリーグで優勝した当時に遡る。ハワイ生まれの日系二世カールトン半田選手が突如、他の選手にビールをかけた。アメリカのマイナーリーグでのプレー経験があり、そこでのシャンパンファイトを真似たのがきっかけ。

テキーラは火山活動で生まれた……リュウゼツランの茎をしぼった汁を発酵、蒸留してつくるテキーラ。なんと偶然に生まれたとか。18世紀、メキシコのテキーラ村で山火事があった。焼け跡の黒焦げのリュウゼツランの株から良い匂いが漂っていたので汁をなめると、なんとも上品な甘さがあった。この汁を使って甘いお菓子をつくり、植民地としていたスペイン人たちは、株を発酵蒸留して酒をつくった。これがテキーラのはじまり。ちなみに製造工程に決まりがあり、テキーラ村やその周辺でつくったものしか、テキーラと呼べないらしい。

ソフトボールが野球より大きなボールになった理由……ソフトボールは野球よりもバットが細く、ピッチャーは下投げ。ボールも大きい。1887年、アメリカのハーバード大学とエール大学の間でフットボールの試合が行われた。名門同士の対決はかなり伯仲したが、エールが勝利。喜んだエールのOBが、近くのボクシングのグローブをハーバード側に投げたところ、ほうきで打ち返された。これがもとになったという。

ケンタッキーは毎年、鶏を供養している……1974年から毎年、東伏見稲荷神社、住吉大社を会場に、それぞれ鶏への感謝と供養のための「チキン感謝祭」を行っている。

品川駅が品川区にない不思議……港区にあるのである。江戸時代、要所だった品川宿付近に駅を建てようとしたが、どうにも用地買収が面倒だったので、開通を急いだ政府が宿を避けて港区に建設した、とする説がある。本当かどうかちょっと怪しい。開設当時、目黒川の河口付近は「品川湊」と呼ばれており、計画段階ではこの地域が「品川県」だったため、というのが真相のよう。ちなみにこの駅の南には「北品川」があるが、こちらは「品川の北にあったから」というわけではなく、東海道の品川宿である北品川に基づいている。目黒駅は目黒区ではなく品川区にある。開設時も目黒村ではなく大崎村にある。地元の農民が反対したため、目黒川沿いに鉄道を建設するという計画が変更されてしまった、という伝承があるが、こちらも根拠がない。

自分をくすぐってもくすぐったくない理由……くすぐったいのは首筋、脇、足の裏などの太い動脈が走る部分。自律神経が細かく分布していて、敏感になっている。ここを他人にくすぐられた時だけくすぐったく感じるのは、脳の予測システムが大きく関係する。つまり、予測と実際の結果が一致しないため、くすぐったいのだ。他人からの刺激が脅威であり、対抗しやすくするためと考えられる。

男も乳がんになる……女性にとっての死亡原因になる乳がんだが、放射線やエストロゲンの増加、遺伝などで起こる。男でもなりうる。健康診断の項目に入っていないため、胸の痛みやしこり、色の変化に気付いたら、すぐに受診する必要がある。

下痢止めと下剤を同時に飲むとどうなるか……結果は、下剤のほうが強く作用する。あくまで便は出す方が自然ということだろう。下痢止めは腸の働きを抑えるもの、下剤は活発にするものだが、腸はたぶん活発なほうがいいのだろうな。ちなみに下痢と便秘を繰り返す人は整腸剤を飲んだ方がいいという。また下痢止めが家にない場合、左側を下にして寝ると消化器官の負担が軽くなり、便意を抑えられるようになるらしい。胃もたれのときは逆で、体の右側を下にして横になるといい。胃の出口は右側にあるので、食べ物がスムーズに流れて消化が早くなるのだ。

銀閣寺に銀を貼らないことは予定されていた……予定はあったが資金がなかった、とか、池に反射した太陽光が当たる姿から、とか、金閣寺と名前を合わせるためだけ、とかいろいろある。2007年に調査によれば、銀の成分は外壁からなく、一方で漆塗りがほどこされていたことが明らかに。銀は最初から貼るつもりはなかったのだろう。

国際的日本人俳優に由来する映画用語……セッシュウ、というのがそれ。日本初のハリウッドスター、早川雪洲(しらかわせっしゅう)に由来する。身長を調節するための木箱のことなのだ。彼はアメリカで、チャップリンをしのぐ人気を誇り、「グレート・セッシュウ」と呼ばれた。ラブシーンのような撮影時には、背を高く見せるため台に乗って撮影していた。そこで日本でも「セッシュウ」と呼ぶように。では身長はというと、175センチ。アメリカ人俳優と比べてもそん色なかったが、彼は自分をより大きく、魅力的に見せるために台を使ったのだ。ぜいたくなやつめ。

ブレザーの語源……フォーマルな印象ながら軽快な雰囲気ももつジャケット「ブレザー」。その語源はボート競技とされる。ケンブリッジとオックスフォード大学が戦う時、ケンブリッジ側が真紅のジャケットを着用。「オー、ブレザー」(おお、燃えるようだ)と観客が叫んだのがルーツだという。もう一つ、イギリスの軍艦「ブレイザー号」に女王陛下が乗る際、乗組員が敬意を表し、紺色のジャケットを着用したというもの。

「コーチ」は野球グラブがルーツだった……「C」をモチーフにしたハンドバックを中心とした高級ブランド。1941年、マンハッタンで創業した革工房による。夫妻は野球のグラブをヒントに、極厚レザーのバッグを開発。使い込むほどしなやかになるとし、男性からの人気を得た。

ビーチサンダルは日本発祥……明石市の企業が開発。1952年のこと。復興のために来日したアメリカ人鉱業デザイナー、レイ・パスティンが考案、会社の技師長と知り合って開発。ビーチウォークの名でハワイで売ったら一躍ヒット。1955年には日本人向けに改良し、売り出した。

演奏に18時間以上かかる曲がある……エリック・サティという演奏家が作曲。1ページ分の、拍子記号も小節線もない楽譜に並んだ52拍分の音を840回繰り返す「ヴェクサシオン」がそれ。イヤガラセという意味で、確かに演奏者にとってはイヤガラセ以外の何物でもなかろう。

ワリカンを考えたのはあの人だった……割り前勘定、つまり平等に分けること。江戸時代後期に活躍した戯作者・浮世絵師の山東京伝といわれる。彼はとにかくケチで、必ず勘定を頭割りにした。知人らは「京伝勘定」と呼んだという。ちなみに「カンパ」はロシア語の「カンパニア(政治活動のための募金活動)」が由来。

パンダの消化器は草食動物のそれではない……まさに肉食動物の平均の長さ、6メートルほどしかない。草食は40メートルもある。もともとは肉を好む雑食だったが、竹や笹を食べるようになった。消化器は草食に適さないため、1日14時間、最大12.5キロを食べ、それでもわずか17%しか消化できない。

トリュフ・ハンターが犬になった理由……昔はブタを使っていた。トリュフの香りが、オスのブタが出すフェロモンに似ているとの理由で、メスのブタを使っていたのだ。トリュフに含まれる「アンドステロール」のおかげ。しかしトリュフが大好物で、探し当てたものを食べてしまうため、イヌになったという。

ギザ十にはなぜギザギザがあるのか……1951～1958年に生産された十円玉が「ギザ十」。そもそもギザギザのついた硬貨は、五十円玉、百円玉、五百円玉もある。なぜ十円玉のうちギザ十にのみギザギザがあるのか。実は硬貨のギザギザは、外縁を削り取られないようにというほかにも、最高額面の貨幣であることを示す意味があった。当時は十円玉が最高の硬貨。

サッカーのスローインが両手投げになった理由……ルールでちゃんと決められている。両足を地につけ、両手で投げ入れるように、と。もともとは片手だったが、ウイリアム・ガンという選手が、あまりの強肩でスローインを軽く50メートルは飛ばしたため、さすがにこれはないだろうとのことで改正。1882年から両手投げが義務化されたのだ。

なぜ「姉妹都市」なのか……フランス語、ドイツ語などで「都市」が女性名詞だからとする説が有力。しかしロシア語などは男性名詞なので、ロシアのハバロフスクと新潟市は「兄弟都市」と呼ぶ。近年では性別をなくす向きがあり、「友好都市」と呼ぶケースも増えているよう。

ギブスなのかギプスなのか……日本では発音のしやすさからギブスと呼ばれるが、元々はオランダ語で「石膏」を意味する”Gips”が正しい。つまりギプスなのだ。

富士山山頂は誰のものなのか……実は浅間大社(せんげんたいしゃ)のものだった。8合目より上の土地のうち、登山道や観測所跡を除く部分は、全部浅間大社の私有地。徳川家康が浅間神社に贈与していた書類が残っている。古くから境内として管理していたが、GHQによる政教分離の新憲法施行で強制返還(それまでは国が貸与していたが、それが問題になった。借地料を支払わずに貸していたため、神社に特権を与えていたとみなされた)。これでは宗教活動に必要な土地が足りないとし(富士山が御神体だから)、訴訟をして勝訴、その30年後の2004年にまた私有地になった。こんなに間があったのは住所問題。富士山山頂は県境未定地域で、国から神社への登記ができなかったのである。江戸時代の記載でも、駿河と甲斐の国境は決めないとされていた。結局山梨の県民反対運動が起きながらも、(「富士宮市に浅間神社があるので静岡のもの」論があったため)決まらないままに登記完了、私有地になった。登記しないと第三者に対抗できないとはいっても、そもそもここらへんを領有しようとする者がいないため、まあいいかということに。

死刑は休日には執行しない……死刑には法務大臣のサインが必要。確定した日から6か月以内が原則とされるが、実際には数年から10年程度経過してから。確定死刑囚は現在100人前後もいる。土日、祝日、年末年始は執行されない。

木枯らし1号が吹くのは東京と近畿だけ……初めて吹く北寄りの強風を木枯らし1号という。意外に知られていないが、東京と近畿のみ、このアナウンスを行っている。定義は東京と近畿では微妙に異なるという。

蚊取り線香は昔は棒状だった……1890年に蚊取線香が誕生したときのこと。仏壇線香のノウハウでつくられたはよいが、40分ほどですぐに燃え尽きてしまった。そこでトグロをまくヘビに着想を経て、現在のダブルコイル型が確立。現在では1本で7時間も持つように。

夫の代わりに出陣した戦国武将の嫁がいる……北条家に仕え、武蔵の日尾城城主だった諏訪部定勝。彼は人望厚く勇猛だったが、酒をあおっていびきをかいているところに、武田軍が来襲。全く起きないため、妻が武装して兵を指揮、見事に持ちこたえてみせたという。

板垣退助のあのことばは、板垣退助のものではない？……板垣死すとも自由は死せず。板垣退助が刺客に対し言い放ったこれが、自由民権運動の象徴として有名になった。しかしこれ、実際はジャーナリストが行った演説の題目「板垣死すとも自由は亡びず」が、彼のことばとして世間に広まったものだという。

日本なのにパスポートが必要な土地があった……神奈川県の横浜ランドマークタワーを望む高台にある「根岸住宅地区」である。ここには米軍に接収された米軍住宅地があり、米軍人や家族が暮らす。日本の飛び地もあるため日本人も住んでいるが、出入りの際は顔写真入りの通行証を掲示しなければならない。

やまびこの「ヤッホー」の正体……諸説ある。まず、山じゃなく海に起源を求める説。海の男たちの掛け声として”yo-heave-ho”があり、これを明治時代以降の人が聞いたからとする。そしてもう一つが、漫画「ブロンディ」を起源にするもの。主人公のブロンディが子どもたちに「ご飯ですよ」と叫ぶときの”yoo-hoo”を「ヤッホー」と訳したからというもの。

キラキラネームの元祖は森鴎外だった……キラキラネーム、DQNネーム。明治の文豪森鴎外は自分の5人の子どもに、洋風の名前をつけた。長男は「オットー」、長女は「マリー」、フリッツ、アンヌ、ルイ。若い頃にヨーロッパで本名の「林太郎」に難儀した経験からという。ちなみにオットーさんも、自分の子どもに洋風の名前を付けた。

なぜ自転車を「チャリ」と呼ぶのか……チャリンコ、チャリと呼ぶ理由は何だろう。一つは擬音説。ベルの音がちゃりんちゃりんだったという安直なもの。もう一つは韓国語説。チャジョンゴからチャリンコになったという。名古屋らへんでは「ケッタ」「ケッタマシーン」ともいう。これはペダルを「蹴る」ことから来ているようだ。

丸善ジュンク堂の「ジュンク」とは……日本の書店でも名前が割と面白い丸善ジュンク堂。これは「丸善」「ジュンク堂」の2つが2015年に合併したもの。ジュンク堂は何なのかというと、父親から引き継いだ「大同書房」の名前が古臭く、苦肉の策で「工藤淳」をひっくり返して「ジュンク堂」にしてOKを得たとかいう、信じられない由来。

日本ワインの容量は海外よりも少ない……海外は750mLが一般的、日本は720mLしかない。この微妙な差には、日本酒が関わっている。日本酒は180mL単位が標準的。日本でも生産をということになったが、いちいち750mLの瓶をつくるのはコスト的に良くない。そこで、日本酒4合分である720mLのものを流用したのだ。

コーヒーに入れるあのミルクみたいなやつは何なのか……コーヒーフレッシュという、あのミルクのようなもの。あれは水9割に植物性油脂1割を乳化して混ぜたもの。香料、着色料、保存料も入った、まさにミルクの代用品なのだ。一定面積以下の小容器は表示を省略できるため、生クリームとかと勘違いされる原因になっている。

小岩井農場の名は創業者3人の「頭文字」だった……1891年から営業している日本最大の民間農場。実は人名を組み合わせたもの。鉄道が普及してきた明治半ば、東北の荒野を見て、鉄道事業で田畑を潰してきたことを悔い、「鉄道の父」である井上勝は、日本鉄道副社長の小野義眞(ぎしん)と三菱社長の岩崎彌之助(やのすけ)に相談。3人の名字をとって小岩井になったのだ。

鉄道運転士の「出発進行」は実は発車の合図ではない……出発信号機が緑、つまり進行になっていることを確認することば。あくまで駅通過や走行中にも使われる。ほかにも、減速、注意、警戒などがある。

人は死後24時間たたないと火葬できない……墓地、埋葬等に関する法律第3条にそう書いてある。これは、人の呼吸や心臓の拍動が停止しても、細胞が完全に死ぬまでには24時間かかるから。間違って火葬しないようにという考えなのだ。

日本映画初のキスシーンはGHQがつくらせた……毎年5月23日はキスの日。1946年、「はたちの青春」という、日本初のキスシーンのある映画が封切りされたことにちなむ。二人がちょっと唇を合わせただけだったが大きな話題に。映画館は連日満員になったという。ここにはGHQが関わっている。当時は映画にもGHQの検閲があり、「完成した脚本が前に見たものと違う」と口を挟み、無理やりキスシーンを入れさせたため。

ミニストップの「ミニ」は「小さい」ではない……”minute”つまり、近くの街角にあって、ちょっと立ち止まれるという意味。

さようならはもともと接続詞だった……あいさつのことばである「さようなら」。元来は接続詞で、「左様ならば」(そういうことならば)からきたこれが「ごきげんよう」「のちほど」と結びつき、別れの表現に。

キリンビールのラベルには隠し文字がある……キリンの工場にいったときに聞いた雑学。伝説の動物「麒麟」が描かれているが、頭には「キ」「リ」尾の部分に「ン」が隠されている。偽造防止とも遊び心とも言われるが、1933年には既にラベルに描かれていた。「エビスビール」も同様で、毎日出荷される瓶の数百本に一本、ラッキーエビスがある。通常のものは右手に釣り竿、左手にタイだが、ラッキーエビスはカゴの中にタイが入っている。

選挙の告示前に増える「2連ポスター」の謎……公職選挙法の話。選挙告示前に選挙ポスターを張ることは禁じられている。なのに、選挙の前から街のあちこちにポスターが出るのはなぜか。それは建前上「個人の政治活動用ポスター」ということにしているから。またこの法では、任期満了日まで半年を切ったら、立候補予定者がポスターを張ること自体が禁止される。しかし抜け道があって、「個人の」活動用は駄目だが「政党の」活動用はOK。選挙の半年前になると、個人ポスターの代わりに1枚の布ポスターに政党幹部などと並んだ「2連ポスター」が使われる。あくまで政党の活動用という名目だ。

閉店セールを毎日やってる店、違法じゃないのか……景品表示法では有利誤認は禁止。「毎日夕方には閉店してます」という店の言い分もあるが、「閉店するから安くする」という売り方は、架空の価格からの値引きを装う二重価格と本質的に同じ。しかし消費者庁が処分したことはない。限りなくグレーながら、野放しなのだ。

辛党は辛い物好きのことではない……酒好きのことなのだ。未成年に辛党はいないはず。

大統領は棟梁だった……英語の”president”を訳したもの。1853年のペリー来航の時に幕府の役人たちがどう訳すか考えあぐねた。そもそも選挙による民主的な権力者も日本にはおらず、またアメリカの政治にも詳しくない。当時は「国王」という意見もあったが、「町人だったフィルモアを王位で？」と意見が出て議論は振り出しに。「では、町人の中で最も偉いのは？」という話になり、最終的に「棟梁」が選ばれた。棟梁とは大工の頭で、家を一軒建てられる身分。しかしそのままのことばでは呼ばず、字を書き換え、日本の将軍と釣り合うように大をつけた。

クリスマスをXmasと表記する理由……X’masと書くこともあるが略語ではないので正しくない。「クロス」から来ているというのもガセ。そもそもChristはキリスト、masは祝祭日を意味することば。ギリシャ語ではキリストを表す時カイの文字から始める。つまりChristをカイに置き換えたのがXmasなのだ。現在欧米ではこの表記はほとんど用いられない。ところが表記を短くしたい日本はXmasをつかうケースが多い。宗教の制約にとらわれないからである。

世界史上最も高額な紙幣とは……ハンガリーで1946年に印刷された「10垓ペンゲー」である。つまり10^21ペンゲー。ハンガリーではインフレが進み、朝400円だったパンが夕方には800円になるなど。一枚一枚が紙くず同然だったため、ケタを増やした結果高額紙幣が生まれたのだ。

猫にドッグフードは駄目……ドッグフードに毒があるわけではない。猫はタウリンというアミノ酸をとらなくてはならないのだが、自分の体で造ることができない。ドッグフードにはタウリンが入っておらず、病気になってしまう。一方でキャットフードを犬に与えると、動物性たんぱく質が足りずに病気に。

車の運転手が酔わない理由……車の動きを予想して体が勝手に傾くため。予測できない場合に三半規管と視覚情報がズレ、酔うと考えられる。

チュッパチャップスのロゴはあの画家がつくった……サルヴァドール・ダリなのだ。彼は1968年に依頼を受け、ナプキンにヒナギクを書き、採用。そのロゴは1988年に現在の形となった。

天津甘栗は天津産ではない……かつての中国のほとんどの栗は天津に集められ、天津港から出荷されていた。これに由来する。中国には様々な栗があるが、最も焼き栗に適しているのが中国河北、万里の長城付近でとれるもの。本来はこれのみが「天津甘栗」と呼んでよいのだとか。

日本一低い山はどこか……熾烈な争いが繰り広げられているという。これまでは4.5メートルの天保山が一位だった。二位は仙台の日和山で、6メートル。ところが大震災でこれが削られて消失…と思ったら、削られて高さが3メートルに。見事一位の座に輝いたのだ。ちなみにこれは人工的なもの。築山である。ちなみに山とは国土地理院の定義では「地元住民が山とみなしていたか」「自治体が山と読んでいたか」「国土地理院が山だと記載できると判断するか」が基準。日本一低い自然の山は、徳島県徳島市にある「弁天山」だ。標高6.1m。山頂まではなんと階段で13段。即登頂できる。頂上にはおみくじを引く場所と祠があるようだ。夏前にはしっかり山開きも行うし、さらに「登頂証明」ももらえる。

軍艦島の人口密度は東京23区の9倍もあった……100年にわたり、石炭によって日本の発展を支えた軍艦島。1959年には5259人が住んだが、その密度は1平方キロあたり8万3600人、当時の東京の9倍、今と比べても約6倍なのだ。

県よりも大きい「市」があった……岐阜県の高山市。もともと2005年に旧高山市が周囲の9つの町村を合併してできたのだが、2178平方キロで日本最大面積。東京都と同じサイズ、香川や大阪よりも大きいのである。

不老不死のクラゲが存在する……体長は大きくても1センチのベニクラゲがそれ。普通のクラゲは体力がなくなると海水に溶けて死ぬ。しかしベニクラゲは肉団子になり、細い枝状のポリプを伸ばす。ここに再び若いクラゲが形成、分離して泳ぎ出すのだ。死から再生までは2か月ほど。奇跡の不老不死を実現しているのである。

飛行機の機内で起きた犯罪はどこの法律で裁かれるのか……例えば、日本の航空会社が運航するフランス行きの飛行機が、中国上空を飛んでいた際にオーストラリア人とフィリピン人がケンカ、フィリピン人がケガを加えたとしたら。答えは日本。航空会社が属する国の法律に従う。ただしこれは離陸から着陸まで。着陸後はフランスの法律に従う。

ローソンのミルク缶の正体……ローソンの起源はアメリカの牛乳屋さん。そこでついでに日用品を販売し、チェーン展開を進めていった。ミルク缶はこのときのミルクを表している。

立ち食いソバは「ソバ」ではない……蕎麦粉100％のソバのことを「十割そば」、八割に小麦二割のものを「二割そば」と呼ぶ。スーパーで売っているものに関しては、蕎麦粉の含有量が三割未満のものはソバだといえないと、JASが決めている。格安の立ち食いソバ屋では、蕎麦粉二割小麦粉八割という「八二ソバ」を提供。もはやソバ風味のうどんだが、着色料などを使ってうまくソバっぽく見せている。

松竹梅は優劣のことばではない……値段が高い順にそうなっているから勘違いしがち。もともとは中国で3つの画題を指す「歳寒三友」(さいかんのさんゆう)、冬の寒い季節に友とするべき3つのもの、に由来する。竹と松は寒さに耐え緑を保ち、梅は美しい花を咲かせるところからだ。これが日本に伝わり、ごく近年から優劣のあるものになってしまった。

定規とモノサシの差……定規は線を引いたり紙を裁断したりするためのもの。だから杓子定規という。一方物差しは、「てめえの物差しで測るな」というように、長さをはかるためのもの。

婚姻届けの受付窓口が24時間空いている理由……日中に働くカップルがいつまでたっても結婚できないから。もしも片方が提出前に死んでしまったら、相続の権利も認められなくなってしまう。そういうトラブルを避けるためなのだ。離婚届、出生届なども同様の理由。

銭湯のオケはなぜ「ケロリン桶」なのか……まず1963年、全国の銭湯では、木のオケからプラスチック製のオケに切り替える必要があった。衛生面、耐久性の観点からである。しかもそのオケに広告を出してもらえば、金も稼げる。富山県の内外製薬がこれに名乗り出た。「ケロリン」は桂皮とアスピリンを配合した鎮痛剤で、痛みがケロリと治るからこう命名されたという。多くの人が目にする風呂桶はまさに格好の宣伝の場。

「エリーゼのために」はテレーゼのために書かれた……ベートーヴェンが作曲したこの曲。楽譜に「エリーゼのために4月27日」という記載があったから名付けられた。だが長い間、そもそもエリーゼとは誰なのか、という疑問が。筆跡研究家が20世紀に入って確認すると、テレーゼとも読めることが明らかに。ベートーヴェンが結婚したがっていた、弟子のテレーゼこそ、この曲をささげた相手だと結論付けられた。しかしさらに、2009年、「エリーゼ」と呼ばれていた、ベートーヴェンの知人の妹エリザベート・レッケルのためのものという説も登場。結局どっちなのか、わかってない。

皇族にはなぜ名字がないのか……今上天皇(2018年10月現在)の名前は「明仁」、皇后陛下は「美智子」。しかし両陛下とも、名字がない。これは2000年間皇室が続いてきたことに由来する。当時天皇家に従う証として、豪族には氏族をあらわす姓が与えられた。これは皇族と公家(臣下)を区別する意味もあった。天皇にはその必要がなかったのだ。

アップル社のリンゴが欠けている理由……biteとbyteをかけているとか、エデンの禁断のかじられたリンゴだとかいろいろあるが、実は単純、「サクランボと間違われないようにするため」らしい。ロゴマークのデザイナーであるロブ・ジャノフはそう答えている。いろいろなリンゴをいろいろな角度で眺めながらアイデアを構築していき、最終的に「かじった部分がある」「かじった部分がない」の2パターンをスティーブ・ジョブズ氏に差し出した。すると彼は後者を選んだ。ちなみにリクエストもまたシンプル。「可愛いロゴにしないでほしい」。ちなみにリンゴなのは、ニュートンが万有引力を発見したときのリンゴに由来する。Apple社の創業時のロゴマークは「第三の共同創業者」と言われるロナルド・ウェイン氏がデザインしたもので、ニュートンがリンゴの木に寄りかかって本を読んでいる姿が描かれている(複雑だ！覚えられるか！)。また、自伝書で「果実食主義の食事の一つであるから」とも記されている。

美女のみをリストラした徳川吉宗のするどい思惑……享保の改革で大奥の女性たちをリストラした。女中の中から50人、飛びきり可愛いのを選ばせた。当然彼女らは大喜びだが、吉宗は「彼女たちを家に戻せ」とリストラ宣言。当然猛抗議だが、これには訳があった。美しければ大奥を出ても嫁ぎ先には困らないだろう、という思惑なのだ。

タマゴの白玉と赤玉、栄養価は同じ？……ニワトリの種類で色が変わるという。実は、与えるエサの条件が同じなら、栄養価も同じになるという。かつては赤玉のニワトリのほうが飼料代がかさんだころがあったが、今では改良され、差もなくなっている。

マグロのトロは江戸時代には捨てられていた……腐りやすいために刺身にすることもなく、しょうがなく漁師が食べていたという。その後も、マグロといえば赤身、油が多いトロは最も安い部位。冷凍技術の向上により、現在は高級とされている。

タコさんウインナーを考案したのは誰か……NHKのテレビ番組「きょうの料理」の講師として知られる尚道子(しょうみちこ)氏。昭和30年代から食べられるようになったウインナーだが、ノウハウがなく、加工しないものはハシで掴みにくかった。そこで切れ込みを入れたという。

輸入牛を日本で育てると国産牛になる……国産牛とは日本で屠殺されたもの。どんな種類でも、日本で生産されれば国産牛なのだ。国外で生産されたものについては、生まれが国外でも、日本に運ばれてから3か月間育成されれば、国産牛になる。

沖ノ島に女性が入れない理由……宗像大社の女神の1柱である田心姫神(たごりひめのかみ)が祀られており、現在世界遺産にもなっている。ここでは航海の安全を願い、膨大な奉献品が保管。自由な立ち入りは禁止だが、男性のみ、禊をして一年に一度、200人が入れる。女人禁制なのは神が嫉妬するからとか、泳ぐ体力がないからと言われる。詳しいことは明らかでない。

種子島に来たのは「ポルトガル船」ではない……「鉄砲記」によると、100人ほどが乗った船が漂着、乗っていた中国人と村の主宰が筆談で対話したという。つまり中国船がきて、そこのポルトガル人、フランシスコ・ゼイモトが手にしていたのが鉄砲なのだ。

絶食してもうんちはでるか……出る、が正しい。腸内菌、腸の粘膜、微生物の残骸などが含まれており、むしろそっちのほうが多い。ミルクしか飲まない赤ちゃんがうんちをするのも同様の理由。

ブランドのルーツは「焼き印」……ブランドというのは”brand”と書くが、これの語源は”burnd”、つまり英語で焼き印を押すという動詞。牧童が牛に焼き印を入れ、自分のと他人のを間違えないようにしたという習慣に由来する。

奈良公園がシカのフンだらけにならない理由……清掃員が清掃しているということでもないのに、なぜだろう。それはコガネムシのおかげ。150種いる日本のコガネムシのうち、3分の1がここに集まっている。フン虫とも呼ばれる彼らは、シカがフンをするとすぐに潜って、1日で分解。その際ハエの生んだ卵も食べるため、ハエも発生しない。

指揮棒で命を落とした指揮者がいた……リュリという作曲家がそれ。当時は作曲家が指揮者を兼任していた時代。彼は今よりも長い「指揮杖」をつかい、床をドンドン叩いて拍子をとっていたが、あるとき自分の足をさしてしまい、その傷が原因で死んだ。17世紀のことである。

東京消防庁本部の高さは119メートル……うまいことできている。1976年に完成した。鉄塔本体までの高さは111メートルで、塔の上に7.5メートルの避雷針を建てる予定だったが、宣伝効果を考えちょっと長くし、119メートルとした。ここは消防署でも入電数が一位。

シューベルトの「未完成」はなぜ完成しなかったか……シューベルトの交響曲第7番「未完成」。なぜか最初の２楽章までしか完成していない。いろいろ説はあるが、どうも「これに何かを足すと不完全になってしまう」ということで、あえて未完成のまま残したとする説が有力のよう。

日本最長の渋滞の長さ……1995年12月27日、名神高速・秦荘(はたしょう)パーキングエリアから、東名高速・赤塚パーキングエリアまで、日本最長となる154キロの渋滞が起きた。東京から静岡までとだいぶん長い。原因は愛知県の豪雪による通行止めで、渋滞解消までには23時間かかったという。

ドバイには住所が存在しない……砂漠の民ベドウィンが遊牧民で、定住する習慣がなかったからとされる。エリア名、建物名はあっても、番地のような細かいものがない。郵便物は基本的に勤務先の私書箱などに届く。そのため地図がないと、目的地まで案内してもらえないという。

外食店の看板に赤が多い理由……マクドナルドやケンタッキーもそうだが、確かに赤系のが多い。目立つという理由のほかにも、食欲を誘うという効果もあるという。色彩と心理の関係は、思っているように深いらしい。

文具メーカー「ゼブラ」の商標が、シマウマのマークの理由……アフリカに生息するシマウマは、外敵から身を守る武器がない、穏和な動物。いつも群れになって協力し、生活を守っている。創業者の石川徳松は、シマウマのように社員が団結することを願って商標とした。

歌舞伎座がないのに歌舞伎町の理由……終戦後、焼け野原になった一帯を、アミューズメントセンターを中心とした一大商業地にする予定。その中心が歌舞伎座。建設は進み、最終的に歌舞伎町とも命名。しかしトラブルで劇場建設は中止。いったん決めた名前を変えるわけにもいかず、歌舞伎劇場のないままに発達、現在日本一の歓楽街となった。

パソコンのキーボードはトイレ便座よりも汚い？……イギリスの雑誌が2008年発表。市内の普通のオフィスのキーボードとトイレ便座について、微生物の量を調べた。33枚のうち、その4枚は健康被害を及ぼす危険があるほど汚れており、なんときれいに掃除をしていた便座の5倍のバクテリアが見つかった。手垢、ホコリのつきやすい構造をしている。一度掃除するのがいいかもしれない。

ドリンクバーは何杯でもとがとれるか……200円だとすると、1杯の原価はおよそ5円なので、40杯は飲む必要がある。ただ、茶葉に湯を注ぐタイプ、果汁100%ジュースは原価が高いので、これを飲むのもいい。

江戸時代の「ふんどしレンタル」サービス……当時、様々な日用品がレンタルできた。「損料屋」(そんりょうや)という人気の職業だったという。衣料品、炊事用具、寝具、蚊帳などの季節品をはじめいろいろレンタルされていたが、最も「ふんどし」が利用されていた。当時は布が貴重で、1本6000円もしたという。レンタルで安いし、洗濯せずに返すこともできた。当時はオシャレ向けで、普段から着用する人は少数派だったようだ。

タイヤメーカーが「ミシュランガイド」で格付けするようになった理由……フランスのタイヤメーカーであるミシュラン社がなぜお墨付きを与えるのか。発行された1900年、ドライブが普及し始めたのだが、当時の道路は粗末、車も頻繁に故障。そこで、安心してドライブを楽しむよう、ガソリンスタンド、工場の場所の把握は不可欠だった。タイヤの需要を見込みたいミシュラン社が、ホテルやレストランの紹介もついでに載せ、無料配布したのがきっかけだという。本来は道路地図だったのである。

「一姫二太郎」の本当の意味……一人の女の子と二人の男の子、ということではない。最初が女、次が男がいいという意味。男より女のほうがよく育つといわれていたことが背景にある。また、女は我慢強く順応性が高いとされ、育児に慣れていない親にとっては、その順番だと苦労が少ないということ。一方、家を継ぐのが男とされる時代での、慰めとしてつくられたことばだとも。

すっぱ抜きの「すっぱ」……特ダネを書くことをスッパ抜くという。なんと忍者に由来するという。忍者は戦国時代、関東では「乱破」(らっぱ)、伊賀や甲賀で「素破」(すっぱ)といっていた。隠密に情報収集したり、不意に刃物を抜くということから、出し抜いて暴くことをこう呼んだという説である。

頭に「たんこぶ」ができるのはなぜか……人間の体は何か二ぶつかると、皮膚の下の血管が破れて血が溜まることがある。お尻などではあまり膨らまないが、硬いところをぶつけると、すぐ下の硬い骨に阻まれ、血の塊が内側に広まらず、外に膨らんでたんこぶとなるのだ。すねとかでは「こぶ」ができる。

関節の「ポキッ」は何の音か……昔から様々な説が考えられてきた。カナダのアルバータ大学の研究が2015年、その論争に終止符を打った。ポキッと鳴った瞬間の関節内で起きている現象を映像にしたのだ。急激に関節が引き離され、滑液の圧力が減り、炭酸飲料のようにガスが生じ、その圧力をもとに戻す力で滑液が流れ込み、音が出るということがわかった。1940年代の仮説が正しいとわかったのだ。

くしゃみはおまじないだった……くさめというのが古い言い方で、これは「休息万病」(くそくまんびょう)を早口で言ったものだという。くしゃみは、鼻から魂が出てくる不吉な現象だと忌み嫌われ、くしゃみをすると「くさめ」と唱えたという。英語圏でもこれは同じで、くしゃみをした人に「神のご加護を」というという。偶然だがなんとも不思議な共通点だ。

リレーの最後をなぜ「アンカー」というか……アンカーって錨のことやんけ。足引っ張ってどうする！という話。実はアンカーとは綱引きの一番最後の人。最も体重が重い人が選ばれ、唯一ロープを肩にかけることが許された。そこから、のちの競技にも使われるようになったという。

ベジタリアンとはもともと「菜食主義者」にあらず……vegetableが語源と思われがちだが、実は「活発な、力強い」というラテン語のベゲトゥス(vegetus)からくる。つまり本来は「健康で力強い人」という意味なのだ。

一日を「ついたち」と呼ぶ理由……一日は「月立ち」(つきたち)の音便化した読み方、もともとは朔と書いた。これは月の満ち欠けのことで、太陰暦でいう一日目のこと。新月のことをそう呼び、太陰暦では朔を含む日を、月の始めという意味で「朔日」と呼んだ。新月に月が立つ日ということで「月立ち」となり、これが「一日」になったという。

神社で柏手を打つ意味……柏手は魂振(たまふり)ともいい、音を出すことでお参りを神にアピール、呼び出しているとされる。柏手で招き寄せた神様と自分の魂を振り合わせるという儀式なのだ。

さいたま市はなぜひらがななのか……そもそも埼玉とは、埼玉郡にちなんだ地名。古墳群があるここらへんは古くから「幸魂」という字で認識され「さきたま」とよばれていた。事実、今でも「埼玉」とかいて「さきたま」と呼ぶ地名が残っている。こういう背景から、「埼玉は行田市(ぎょうだし)周辺部の埼玉郡が起源」という考えが根強く、県内に同じ地域があるとまぎらわしいうえ、あつれきが生じかねない。妥協としてひらがなになったのだ。

ベートーベンの髪がボサボサの理由……バッハ、モーツァルトなどみな一様に豪華な白い巻き髪をしているが、あれはカツラなのだ。ルイ14世がかつらを愛用して以来、王侯貴族はみなかつらをつけていた。バッハらは、彼らをパトロンとしていたことから習ってかつらをしていた。しかしベートーベンはボサボサの髪。彼は自分がつくりたい曲をつくり、その曲を望む相手に売っていた。その意思表示なのである。

プロレスの「リング」はなぜ四角いか……リングといえば丸のはず、なぜ四角いのかという話。そもそもはオリンピック競技でもあるレスリングのリングを見ているとわかる。もともとは四角ではなく丸だったのである。人が手をつないで輪をつくって、その中で戦ったというのが定説。だがやがて、観客が見やすいよう高い所に上がるようになり、落ちないようロープが張られ、ロープを張りやすいように四角になったのだ。

バナナと人間のDNAは50％も一致している……他にもチンパンジーとは99％、ネズミとは97％一致するという。確かに本当ではあるらしいのだが、そもそも多くの生物は受精など、基礎の部分で共通している。激安アパートと高級マンション、天井や柱、壁がある点で共通しているように、「半分は同じ生物」とは言えない。また、DNAの配列場所が異なっていても一緒にするかとか、入れ替わっていても一緒にするか、という問題もある。

戦艦大和のラムネ工場……巨大さゆえに出番もなかったらしいが、船員の楽しみがラムネ。消火用に炭酸ガス発生装置があり、それをシロップ、水を混ぜてラムネができた。配給は上官が優先だが、ラムネ当番だけは自由に飲めたという。アイスクリーム工場まで完備されたこの軍艦、人々には皮肉で「大和ホテル」と呼ばれた。

沖縄だけNHK受信料が安い理由……他の都道府県よりも400円安い。受信料を財源とする公共放送の設立が、民間よりも遅かったことが関係する。「テレビは無料」という意識は現在もあり、やはり支払い率はワースト1だという。

貧乏ゆすりの意外な効能……2015年、ロンドン大学の研究者が驚くべきことを発表した。7時間以上座る人は3時間以下座る人より死亡リスクは1.3倍増えていたが、貧乏ゆすりを多くしていた人は死亡リスクが上がらなかったとするもの。血流を促したり、股関節に刺激を与え軟骨を再生したり、たくさんのメリットがあるのだ。

「馬鹿」はサンスクリット語？……シカをウマと偽ってどうこうというエピソードはこじつけらしい。とはいえ馬鹿の語源ははっきりせず、有名なのが、サンスクリット語で「愚か」という意味の”moha”を音写した「莫迦」である。有名ではあるがちょっと考えにくい。柳田国男は、愚かな様子を意味する「烏滸」(おこ)が語源だと主張する。他にも、白楽天の詩「おごった邸宅をつくった馬スイの家系は落ちぶれた」に由来するという説も。

笑点のテーマソングには歌詞があった……立川談志による命名「笑点」は笑いのポイントという意味。彼は当初のテーマ曲「笑点音頭」の歌詞を自らかいて、「笑いのポイント笑点だい～」と歌っていた。現在の笑点だが、これには「ゲラゲラ笑って見るテレビ～」という歌詞があったのだが、30年以上前に数か月間このバージョンが流れたのみ。

徳川綱吉はカラスを流罪にした……綱吉が江戸城を散策していた時のこと。上からカラスが糞を落とした。腹を立てたが、自らの生類憐みの令のせいで死罪にはできない。そこで流罪とした。特別な籠に入れられ、伊豆新島に護送。罪人同様に放たれたカラスは、もといた江戸の方角に飛んでいったという。

アメリカで「腰パン」をすると罰金刑？……腰パンはアメリカの刑務所で、囚人がベルトを取り下げられ、囚人服をダブダブにして着ていたのが由来とされる。1990年代にヒップホップ黒人を中心に盛んになった。ただ、多くの自治体では「腰パン禁止条例」が施行されている。ズボンを腰より8センチ下げて歩くと、2万円の罰金が科せられる、という州もある。

ディズニーランドの「舞浜」はマイアミがルーツ？……ディズニーランドに電車で行くときに利用するJR舞浜駅は、ディズニーランドが誕生するときにつくられたもの。周辺の「舞浜」という地名もそのときに誕生。もともとは「ディズニーランド前駅」とつける予定だったが、ディズニー側からNGが出た。ウォルトディズニーワールドのあるフロリダ州の「マイアミビーチ」がもとになり、舞浜。という感じの説が有名で、オリエンタルランド創立50周年記念誌「50 STORIES」にもそう書かれているが、浦安市の公式ホームページには「浦安の舞にちなんで舞浜と名付けた」とある。これは1975年11月29日の町議会において、当時の町長である熊川好生が発言したもの。浦安市のホームページもかつてはマイアミビーチ説だったが、今では書き換えられている。

遺憾ということばの意味……まことに遺憾だ、という言い方をするが、もともとは「残念だ」というぐらいの意味。謝罪ではないのである。直接的な責任を回避したいという心情はあるのだろう、非常に便利なことばなのだ。

算数記号はそもそも何を意味していたのか……最も古いのは「足す」と「引く」プラス記号はラテン語の”et”(andの意味)が、マイナス記号は”minus”のmが変化したといわれる。これらは1489年にドイツの数学者ビドマンが著した算術の本で初めて登場。1631年には、イギリスのオーレッドが著した「数学の鍵」の中に「かける」が初登場。十字架を斜めにしたものと考えられる。1659年には「割る」記号が登場。分数の分子と分母を「・」に置き換えたという説が有力。

コオロギの鳴き方で気温がわかる……変温動物なので、気温が高いほどよく鳴く。コオロギが鳴く回数を15秒間数え、これを何度か行った平均値に8を足す。それに5をかけ、最後に9で割ると気温がわかる。ヴァンクリーブという化学者が発見した。

折れた木製バットは割りばしになっていた……プロ野球などで1年に消費されるバットは20万本。かつては焼却されるか捨てられていたが、現在は箸などにリメイクされている。アオダモの木は硬くてしなりもあるため、箸に最適。また、球団ロゴを無償でつけてよいと承認されたこともあり、人気に。

稲妻はなぜギザギザなのか……地面から雲に向かって電気が流れるとき、空気の水分が多い部分を流れたがる。そのたためにギザギザが走るのだ。高温になった分子は激しく揺れて、光や音をもたらす。

ニシンの卵はなぜ「カズノコ」なのか……回遊魚であるニシンは日本各地で捕獲され、地域で様々な呼ばれ方をする。最も多いのが「カド」(イワシ)。このカドの子が転じてカズノコになったという。

丼(どんぶり)のルーツ……江戸時代初期にあった「慳貪屋」(けんどんや)がもと。この店では食事を1杯ずつ鉢に盛って売っていたが、この「慳貪ぶりの鉢」がどんぶりに転じたという。一方丼という漢字は井戸を意味していた。井は井桁で、真ん中の点は釣瓶。物を投げ込んだドブンという音と「どんぶり」が似ていたため、この字を採用した。

秋葉原はもともと「あきばっぱら」と呼ばれていた……1869年に秋葉らへんで起きた大火事の後、火除けの神様のための「秋葉神社」が建てられた。その敷地は火災時の緩衝地帯で空き地として残され、「秋葉の原っぱ」という意味で秋葉原(あきばっぱら・あきばがはら)とあてられた。明治中期、その一帯が貨物駅になると、秋葉神社は移転されたが、秋葉原という名はそのまま。

対抗戦はなぜ「紅白」なのか……源平合戦に由来する。平氏が赤、源氏が白をなびかせ、お互いを区別したのだ。これがもとになり剣道の対抗戦が「紅白試合」と名付けられ、やがて1945年「紅白音楽試合」というNHKのラジオ番組となり、現在の紅白歌合戦ができた。

県境を綱引きで決めるところがある？……静岡県と長野県の境にある兵越峠(ひょうごしとうげ)では、10月の第4日曜日に綱引き合戦が開催。遠州軍と信州軍に分かれ、「国境」を決める。勝った側は1m奥に決めることができる。1987年に町おこしの一環として始まったのだ。もちろん正式なものではなく、「国境」の立て札の横には「行政の境に非ず」という立て札が置かれている。

菅原道真はギリギリで試験に受かった……26歳のとき、「方略試」という、当時最難関の国家試験で「中の上で及第点」つまりギリギリ合格だった。秀才の彼のことだから、きっと悔しかったに違いない。これをバネに33歳のとき、文章博士に就任するなど、ついに学問の最高位まで上り詰めた。

渋谷のモヤイ像はなぜ「モヤイ」なのか……1980年、伊豆諸島の東京都移管100年を記念して新島から寄贈されたもの。モヤイはもともと「共同作業」を意味する新島の方言なのだという。モアイがもとではないのだ。

“高校ペン児”の聖地が高知県にあった！……実は高知県で、全国からの「高校ペン児」が熱戦を繰り広げる「まんが甲子園」が開催される。まんが神社という神社が2010年に建設され、優勝祈願をしてもらうことができる。ご利益は確かにあるようで、敗者復活戦で復活した漫画が勝ち上がり、見事準優勝したという。

不況時だからこそと命名された「ハッピーターン」……植物由来のタンパク加水分解物に塩、砂糖、アミノ酸を配合した「ハッピーパウダー」は中毒性が高いと評判のお菓子、ハッピーターン。1976年、第一次オイルショックの真っただ中にあったが、お菓子で世の中を幸せにしたい！と送り出された。幸せが戻ってくるように、という願いを込められたものだったのだ。

「まぜるな危険」はなぜ危険なのか……洗剤と漂白剤を混ぜることで塩素ガスが発生するから危険なのだ。具体的には、塩素系漂白剤に配合された次亜塩素酸ナトリウムと酸性の洗剤が中和をして発生する。塩素ガスは最悪の場合、死にも至ることがある。

大企業には瓶詰めラムネはつくれない？……大企業と中小企業が共存するための「分野調整法」があり、飲料の分野では、ラムネをはじめ6つの品種が指定されている。中小企業が中心になっている市場に大企業が参入する際は、影響度をよく配慮せよというもの。大企業はラムネをつくることができないのである。身近では豆腐もそう。

飲料の250mLと350mL缶が同じ値段で売られている理由……缶ジュースはおもにその2つだが、値段が同じだと不公平感がある。しかし実際、飲料そのものの材料費というより、運搬費や電気代のほうが値段に対するコストの多くを占めるため、同じ値段でも儲けは変わらないのだとか。

小便小僧の正体……本家はベルギーブリュッセルの「ジュリアン坊や」がもと。12世紀半ば、フランドル地方の王様が死んだとき、生後数か月の王子が、兵士を鼓舞するために戦地に行った。彼は立って小便をして兵士たちを鼓舞、見事戦いに勝った、とかいう伝説。もしくは、市庁舎に爆弾が仕掛けられた時、ある少年が小便で爆発を防いだという話も。なんにせよ国をおしっこで守った「英雄」だったのだ。なお現在の導火線はおしっこ程度じゃ消えないので、すぐに逃げよう。

1から666…までの和に見られる驚きの規則性……まず1から66までの和を求めてみよう。2211になると思う。1から666までの和を求めると、222111である。1から6666までの和だと、22221111になる。では1から66666だと…？なんと222221111なのだ。この後、ずっとこんな感じで続いていく。誰が見つけたのだろう、すごい規則性である。なおこれ、高校数学を用いて証明することができる。「1がn個並んだ数」を「f(n)」と表すと1+2+3+\cdots +6\*f(n)=2\*f(n)\*10^n+f(n)とできる。まず、f(n)がnを使った式で表せることを示す。f(5)=11111=99999/9=(100000-1)/9となることから分かるように、f(n)=(10^n-1)/9とできる。また、1からxまでの和が(1+x)\*x/2となることから、左辺=(1+6\*f(n)) \* 6\*f(n) /2となる。左辺-右辺を計算し、これがゼロになれば、左辺=右辺であることが分かる。これは簡単に証明できる。

孫の手はもともと「仙女の手」だった……中国の伝説「神仙伝」に登場する仙人の女「麻姑」(まこ)に由来するという。彼女の爪は鳥のように長く、それで背中をかくととても気持ちがよかったという。これが日本に伝わり、ことばのゴロからいつの間にか「孫の手」と呼ばれるように。なお「隔靴掻痒」はもどかしいという意味だが、その逆に、思い通りに進むことを「麻姑掻痒」(まこそうよう)という。

ハゲにまつわる珍しい駅名……2016年に廃止されたが、北海道に「増毛」(ましけ)という駅があった。高倉健主演の「駅 STATION」の舞台にもなっている無人駅。知る人ぞ知るハゲの聖地となっていた。他にも、千葉県銚子電鉄に、「髪毛黒生駅」(かみのけくろはええき)ができた。メソケアプラスという頭皮シャンプーの会社が、2015年12月から命名権を購入、お披露目のさいには本物の昆布でできた切符が販売、すぐに完売した。

「日本国」という山で起きた珍騒動……新潟と山形にまたがる555メートルの山を「日本国」という。江戸時代、この山でとれたタカを将軍に献上すると、大変喜んで「山を日本国と名付けよ」と仰せつかったことに由来するらしい。その日本国で2015年、「日本国征服証明書」という、日本国に登頂したことを示す証明書を発行しようとしたら、これが批判を浴びた。山の世界では昔から登頂を征服と呼んでいただけなのだが、確かに字義がやばい。結局「日本国登頂証明書」となったのである。不謹慎だと叩く方も叩くほうだが。

富士五湖の水は湧き水ではなかった……2010年にそういう結果が出た。5つの湖の周りの湧き水と湖の水の成分を比較すると、ほとんど一致しなかった。富士山の湧き水は普通、伏流水が玄武岩を通って流れるうち、バナジウムを多く含むようになる。湖水のバナジウム含有量はその100分の1だったのだ。実際は、富士山の山肌から雨水が流れ込んでできたものだとみられる。

英語の”guy”は爆破犯がルーツ？……国教会を優遇する国王に反発したカトリックの「ガイ・フォークス」という男が、王の爆殺を企てたものの摘発、処刑されてしまう。ガイはもともと彼の名前由来で、変な男、悪い男という意味で使われていたが、やがて「男性」をさすように。現在では彼を自由の戦士と英雄視するものもいるようだ。「アノニマス」などのハッカー集団は、彼の顔をもとにしている。

水星の気温差は600度もある……水星は太陽系でもっとも内側をまわる惑星。当然ながら昼の地表の温度は430度にも達する。水は存在しない。ところが自転周期がゆっくりなので、夜になると熱はほとんど失われてしまう。夜はマイナス160度にもなるため、気温差で言えば600度もあることになる。

金星は硫酸の雲で覆われていた……望遠鏡で金星を見ると真っ白だが、これは雲によるもの。二酸化炭素がほとんどで、地表の気圧は90気圧もある。そして地表は460度。上空50～70キロを覆う厚い雲は、なんと濃硫酸でできている。黄鉄鉱などが二酸化炭素や水と反応し、亜硫酸ガスを増やして濃硫酸の雲を形成したと考えられている。遠い昔は地球と同じような環境だったが、太陽が近いため海が蒸発、二酸化炭素が放出され、気温が上昇していった。温暖化の未来の姿とも言われている。

鉛筆一本で書ける線の長さは？……HB一本で、50キロを引くことができるという説がある。しかしこれは現実的ではない。鉛筆の先っぽを0.6ミリに削り、1ミリまで使ってからさらに削るという方法で、芯の全長の6割を使うという方法では、HBで530メートルにしかならない。

日本の海岸線の長さは世界で6位……国土は61番目なのに海岸線は長い。また、領海と排他的経済水域を合わせれば全世界で6位。立派な海洋国なのである。

トイレでは「考える人」の姿勢がいい？……肘をひざにつけるこの方法だと、直腸らへんがいい感じにまっすぐになって、便を出しやすくなるという。括約筋も緩む。便秘に悩む人はこのポーズをとってみてはいかがだろうか。

ニワトリが生む卵は年間で280個……1匹では1日に1個が限界だというが、数日間卵を産んだら1、2日休むから、実際は280個が限界だという。

歯ぎしりの力は100キロにもなる……かみ合わせの悪さで起こるとされた歯ぎしりだが、現在は否定されており、根本では不明な部分も多い。精神的ストレスを解消するために行われているというのが有力。硬いものを噛んだ時にかかる力は、1本につき10～20キロ。ところが歯ぎしりは激しい場合、100キロにも及ぶ。程度の差はあるが、成人の8割は行っているというデータもある。しかしそれを自覚する人は1割にも満たないのだそうだ。

1年半だけ放送された幻の「ラジオ体操第三」……1946年にNHKラジオで放送が始まったが、普及せず1年半でお蔵入り。戦後の混乱という理由もあったが、それ以上に動きが複雑すぎて、音声だけで覚えにくかったのだ。しかし最近、うつ病と生活習慣病の予防になるとして、注目されはじめている。

カラスの水浴びは本当に「カラスの行水」なのか……カラスに限らず、多くの鳥は水浴びをする。汚れや傷、虫を放っておくと保温性や防水性が落ちるからだ。だがカラスは比較的長い方で、2～3分かける。意外にきれい好きなのである。

ハリケーンに女性の名前がついていた理由……第二次世界大戦のころ、熱帯低気圧を調査しにいった米海空軍の隊員が、自分の妻や恋人の名前をつけたことに由来する。女性のように予測困難だったからという説もある。しかし男女平等という観点から、1979年以降は男女交互につけられている。6組のハリケーンリストがあり、1年に1組ずつ、6年周期で名前が使用されている。

犬が他の犬のお尻を嗅ぐ理由……犬の世界における大事な挨拶。肛門腺という臭腺があり、ここから出るフェロモンを嗅いでいる。いわばこれが顔の役割を果たす。人間でいえば名刺交換のようなものなのだ。

つまようじに溝がある理由……この溝は滑り止めではなく、偶然の産物だという。当初はのこぎりで切断していたが、精度がイマイチで切断面が毛羽だってしまった。そこで砥石で切断したら、今度は摩擦で切断面が焦げて黒くなった。それならばと、切断面の下に「こけし」に見立てた溝をつけたのだ。この部分で折ってつまようじ置きにするという説もあるがそれは間違い。しかし落語家が頭のこけし部分をつまようじ置きとして使い、実用新案登録して副収入を得たという。

ボーナスの起源となった、江戸時代の慣習……日本におけるボーナスは、江戸時代に商人や職人が盆暮れに支給されていた「お仕着せ」(季節に合わせた衣服)が起源であるという。明治には三菱商会が、社員に報奨金として金を支給。これがボーナスになったのだ。当時は企業の業績が良い時に出す「賃金の補足」という意味合いだったが、戦後はインフレが進み、生活困難を補填する「一時金」という支払いが中心になった。

野球はかつて21点先取のスポーツだった……19世紀最初の野球規則では、9イニングではなく、両チーム同数のアウトという条件で、21点を先取した方が勝ちだった。しかしストライクもボールもなく、1日かけても試合が終わらないこともしばしば。そこで1857年、9回終了時に得点が多いチームの勝利と改正。サヨナラ勝ちもなかったという。現在のようになったのは1880年のころ。

大根は怒っておろすと辛くなる……昔からいうが、これは半分正しく、半分間違い。辛いのは細胞が壊れ、イソチオシアネートができるから。だから力を入れると細胞がたくさん壊れ、より辛くなる。つまり力任せにおろすと辛くなるのだ。一方でゆっくり円を描くとまろやかになる。ちなみに先端部分のほうが辛い。

食卓用ナイフの先が丸い理由……危険防止という理由ではないという。リシュリューが、貴族たちが尖ったナイフの先で歯をほじるのを見て激怒、先が丸いのをつくるように命令。貴婦人たちはこれをこぞって注文した。

ワイキキビーチは実は人工だった……ハワイ語で「水が湧く」を意味し、もともとはタロイモやバナナが生産されていた。1898年に自治領になると、ここをリゾート地にすべく、大規模な土地開発が始まった。1901年にはモアナ・ホテルが開業、湿地帯だった海辺はカリフォルニアから運ばれた白砂で埋め立てられ、人工のビーチに。

日本人の祖先は船でやってきた？……沖縄と大陸が繋がった陸橋でやってきたといわれていたが、当時の海面の高さ的にこれは否定されている。人類学者海部陽介氏が唱えるのが、日本人の祖先が3万8000年前以降、大陸から船でやってきたというもの。対馬、沖縄、北海道の3つのルート。

睡眠中にトイレが遠くなる理由……健康的な成人なら5～8時間おきにトイレに行く。だが不思議と、8時間眠ってもトイレには行きたくならない。これは、腎臓の働きが低下するからではない。眠りにつくと、脳下垂体から腎臓に指令を出す「抗利尿ホルモン」が分泌され、この働きで、腎臓は尿の量を減らしている。寝ている間も尿はつくられるのだが、量が少ないためトイレが遠くなる。

敵陣でタカ狩りをしてて殺された戦国武将がいた……中川秀政は油断しすぎて命を落とした。彼は朝鮮出兵をし、防衛を任されていた。しかし戦いの合間にのんきにタカ狩りをしていたところを囲まれ、死亡。討ち死にした場合は家督が継げないという理由があったため、あくまで「陣中巡視中に襲撃されて戦死」と報告したが、これがウソだと露見。削封されて弟があとを継いだという。

アメリカで進む「ゴキブリサイボーグ化計画」……DARPAが主導し研究されている。昆虫は自在に飛び回り、自分より重いものも運べる。身体能力が高い。そこで、触覚や筋肉を制御し、捜索活動やテロ防止に役立てようとしている。特にゴキブリは病気にかかりづらく、長時間生き延びられる理由で、サイボーグ化の対象となっている。

なぜ読売ジャイアンツのみが巨人「軍」なのか……12球団のうち軍とつくものは巨人のみ。これはジャイアンツの昔の呼び名から。1934年は「大日本東京野球倶楽部」、その後「東京ジャイアンツ」「東京巨人軍」と名を変えた。実は他にも名古屋軍、大東京軍等、軍がつくものは存在していた。戦時体制のため、軍隊にならったのだ。しかし各球団が名称を変えるなか、巨人軍のみが現在まで受け継がれているのだ。

阪神タイガースは「阪神タイガーズ」が正しい……英語の発音をそのままカタカナ読みにしている。sの発音は有声音か無声音かで変わるが、”tiger”は”s”を「ズ」と読むのが正しい。前々からおかしいという意見はあったが、最初から「ス」なので今もこのままだという。

青信号は「進め」ではない……道路交通法によれば、「進むことができる」が正しい。青になったら周囲の状況を見て、注意して進もうね、というぐらいの意味で、進めという命令は意味しない。なお、なぜ「進んでよい」を表すのに青(というか緑)なのかというと、止まれを意味する「赤」とは、色相環でほぼ反対に位置しているから。同様に「注意して進め」である黄色は、赤とも青とも離れた色だから。

紙幣を物差しがわりに使う小技……まず硬貨は、1円玉の直径は2センチ。5円の直径は5ミリである。一方で紙幣は1000円札の横幅は15センチ、1万円は16センチ。1000円を3つに折れば5センチだし、1万円札は半分に折れば8センチ。さらに官製はがきの横幅は10センチ。ないときに活用してみよう。

妻を「奥さん」「女房」と呼ぶ理由……まず奥さんは、武家などでは入口から少し奥のところを奥と称し、配偶者を「奥様」と呼んでいたことに由来するが、本来ならこれは相手の妻のことになる。自分の妻をこう呼ぶのは変なのだ。続いて「家内」は家の中を指すことばで、「女は家の中にいることが多い」という、男尊女卑的な思想が含まれている。そして女房は、「独房」のように「房」は部屋の意味があり、平安時代の役職だった。

宇宙人からメッセージを受け取ったときのガイドラインがある……万が一にもない話だが、国際天文学連合により定められている。まず、むやみに返信しないこと。個人あてのメッセージと思っていても、向こうは地球人の代表と思うかもしれない。そこで、返事をせずに各国の天文機関に連絡するのが正解。国立天文台とか。連絡を受けた機関は通知をし、首脳が協議する場所が設けられる。

硬貨と違い、紙幣に製造年がない理由……硬貨は固いため簡単には損傷しない。そこで品位を明確にするために製造年を入れていた。その名残が現在も残っている。一方紙幣はもろく、1万円札でも3～5年しかもたない。寿命を迎えたものは新しいのに交換するため、わざわざ1枚ずつトシを記載しても意味がないのだ。

サイコロの1の目が赤い理由……人類が最初にギャンブルに使ったのはサイコロだと言われている。六面体で、1から6までのしるしがついているのは世界共通だが、1が赤く塗られているのは日本だけだという。真相は明らかではないが、1926年に和歌山のサイコロ製造業者が、1の目を日の丸に見立てて赤く塗ると大ヒットしたのがもとらしい。

アメリカの大統領選挙が11月第1火曜日の理由……アメリカがかつて農業国だったことに由来する。農繁期を避け、収穫を終えて冬が到来する前の時期として11月。そして、日曜は安息日で、投票所は都市にしかなく移動手段も馬車だったため、移動に時間がかかった。だから火曜日なのだ。

アメリカンコーヒーは薄いコーヒーではない……濃度が薄いコーヒーではなく、あっさり浅炒りのコーヒーなのだ。つまり豆の焙煎の方法なのである。コーヒーは炒られることで色が濃くなる。深煎りだと濃厚だが、浅煎りだと酸味や香りが引き出し、さっぱりとした味わいになる。

ピースサインがNGになる国がある……例えばギリシャでは、手の平をみせたピースは相手を侮辱するサインである。かつて犯罪者が2本指でモノを投げたことに由来するそうだ。また、自分側に手の平を向けるピースは、イギリスやオーストラリアでは性的な表現に由来する揶揄・侮辱になるという。

バツ(×)がペケと呼ばれる理由……マレー語の「不要」(ペッギ)を語源とする説がある。江戸時代末期、横浜の商館にいた商人たちが使ったのが、売り込みのときの「ペッギ」。これがペケになったとするもの。中国語の「不可」(bu ke)に由来するという説もある。

船の名前に「丸」をつける理由……諸説はあるが、「麿」を語源とする説。平安時代には自分のことを麿といい、大切にしていた刀にも「麿」とつけた。これが転じて丸になったという。他にも朝鮮語で役所を意味する「マロ」説、おまるを語源とする説もある。

へなちょことはそもそも何か……未熟な人、取るに足らない人をあざけってへなちょこという。これは漢字で「埴猪口」とかく。明治時代の新聞記者である野崎左文(さぶん)が言ったことばに由来する。彼は「開花楼」という料亭にいったところ、店主がつくった素焼きのお猪口があった。これに酒を注いだらジュウジュウと泡が立ったかと思うと、猪口に酒がしみて少し減ってしまった。呆れて「見かけによらない品だな、へなちょこだ」と言ったという。へなとは粘土のことだという。

心臓がんがない理由……ほとんど聞かない。理由は様々あるが、心臓の温度にあるという。がんは35度で最も繁殖しやすい。高熱には弱いのだ。心臓は最も体温が高く、40度以上ある。死滅してしまうのだ。また、心臓をつくる横紋筋ではほとんど細胞分裂が起こらず、細胞が増殖しにくい。というか、人間のほとんどの臓器を覆う「上皮」にできた悪性腫瘍を「ガン」と呼び、それ以外の部位のものは「肉腫」というのだが、心臓にはそもそも上皮がない。わかりやすさのために「心臓ガン」と形容することはあるが、それはそもそも医学的にガンではないのだ。

ホクロから長くて太い毛が生える理由……ホクロは皮膚の細胞異常で起こる。表皮の下の、メラニンをつくる細胞が何らかの理由で活性化、皮膚が異常に生じて黒ずむ。この色素性母斑細胞が盛り上がったのがホクロの正体。体毛も同様に、表皮の細胞が変形したもの。細胞が活性化すると毛根に影響が与えられ、太くて長い毛が生えるというわけ。母斑細胞は毛の根本の毛嚢に集まるため、毛も生えやすい。

九九はもともと9の段から始まっていた……もともと9の段から始まっていたから九九というらしい。紀元前7世紀春秋時代には既に使われており、日本でも奈良・平安の貴族の教養の一つだった。上流階級が独占するためにわざと覚えにくく、九九から始まっていたらしい。江戸時代には商人も使うようになり、覚えやすい小さな段から始まった。

アマゾン川の地下に、アマゾン川よりもでかい川が流れている……地熱を研究した結果、地下4キロにアマゾン川より広い、全長6000キロの地下水脈があると発表した。ハムザ川と名付けられたこの川、1年で10～100メートルしか進まないという。

日本の標高は国会が基準？……日本の土地の高さを示す「標高」は、東京湾の平均海面を基準としている。東京の平均海面を地上に固定するため「日本水準原点」がつくられた。これが国会の前庭に設置されている。

雨がっぱと河童は何も関係がない……レインコート、雨合羽。伝説上のカッパと関係がありそうだが無関係。「合羽」と書き、ポルトガル語の「カパ」(capa)の当て字。織田信長や豊臣秀吉らは、ポルトガル人が着ていたカパを真似、羊毛で同様のものを作らせ、権威の象徴としていた。江戸時代以降は油を塗った紙カッパが登場。明治時代にはついにゴム引きのマントもできた。

「春」という字はどうして性的なことばに使われるのか……売春、買春、春画などの性的なイメージも含む。陰陽五行によると、1年は陰陽が巡っている。春は冬の陰から夏の陽に変わる時期なのだ。そして陽の象徴は男性、陰は女性とされており、陰から陽に気が高まると、女性が男性を求めるようになるという。そこからきたらしい。

カロリーゼロでもゼロカロリーではない……健康増進法によれば、「控えめ」「ダイエット」「ロー」などと書いてあるものは100mLあたり20kcal以下、「カロリーゼロ」「ノン」「無」などは5kcal未満と定められている。実際にゼロカロリーではないのだ。

自分と同じ名前を子どもにつけられるか……海外では子どもに自分と同じ名前をつけ、親はシニア、子はジュニアと付記することがあるが、日本はどうだろう。同じ戸籍内で親と同じ名前は認められていない。例えば兄弟、祖父母と孫の関係でもダメ。また、読み方が違っても漢字が同じなのは認められない。

ペットに遺産相続はできるか……結論からいえば、法律ではペットはモノなので、できない。しかし、ペットの世話をしてくれる人を見つけ、「最後までペットを見届ける」という前提で誰かに相続することは可能。最近ではペット信託という方法で、死後新たな飼い主になった人に、財産を養育費と言う形で譲渡するものもある。

海も階段も「国道」になる……日本の国道には、自動車が走れない国道もある。1965年制定の「一般国道の路線を指定する政令」によれば、海上の区間があっても、フェリーで結べれば国道になると定めている。愛媛と大分を結ぶ国道197号もその一つ。それから階段も国道になる。青森県の国道339号線がそれ。建設の際急すぎたため、地元の人達が使っていた階段をそのまま一部とした。

将棋の「歩」の裏の「と」の正体……この駒の字は「崩し字」と呼ばれる。「と」とは「金」が略されたものである。実際に金将と動きは同じ。他にも、金と同じ読みの「今」を当てたが、これが「と」に似ていたからという説もある。

沖田総司はイケメンではなかった……新撰組では天才剣士かつイケメンだったというのが相場だし、実際にイケメンが演じることが多い。ところが実際は写真が残っておらず、それどころか「ヒラメ顔で、笑うと愛嬌がある」と文献に残っており、決してイケメンではなかったというのが真相のよう。逆に土方歳三は、「モテテて困るんですよ」という手紙を親戚に送っている。確かにイケメン。ネットで写真を調べると出てくる様々な写真は全て偽物、合成、役者なので信じないようにしよう。

紀元をあらわす”A.D.”は何の略か……紀元前”B.C.”は”Before Christ”の略であるが、紀元は”After Death”であるという、というのは間違い。キリストの誕生後、つまり紀元1世紀を表す際に使われる。それならば”After Christ”で”A.C.”となりそうなものだが。実際はラテン語の「主の年」、”Anno Domini”の略なのだ。

ゴルフのキャディーはもともと貴族だった……クラブを選んだりプレーの助言を与えてくれる「キャディー」の語源は、フランス語の「カデ」(cadet)だとされる。カデは貴族の第2子以降を意味し、しっかりした家柄の若者を指していた。スコットランド王メアリー・スチュアートが、フランス貴族出身の若者、カデにクラブを担がせてゴルフをするようになった。こうしてスコットランドでキャディーに変化。

ニホンウナギの故郷はマリアナ諸島付近？……現在食べるほとんどは養殖だが、天然ものの生態は長い間謎だった。親のウナギは川でとれるが、産卵場所が明らかでなかったという。しかし2009年、東京大学などが、マリアナ諸島でニホンウナギの卵を世界初採取。一帯には「海山」という海中の山があり、ウナギはそれを目印に集まっていたという。彼らは毎年夏、新月の日に散乱し、黒潮などに乗って日本にくることがわかっている。

応援の「フレー」は何の意味なのか……英語”hurray”がルーツだと言われる。フーレとレの部分に強いアクセントがあるようだ。日本語での語源は1905年、野球チームとして初渡米の早稲田大学が持ち帰ってきた応援方法「カレッジエール」がもとだという。それまでは拍手喝采を無秩序にやっていたが、以降は「フレー、フレー、ワセダ」というハイカラな方法に。

雛人形のお内裏様の位置は、昔は左右逆だった……今ではひな壇に向かい、左に男、右に女を飾る。当然左右逆でも間違いではない。日本では古来から「左が尊い」とされ、向かって右が男だった。これが逆転したのは1928年の、昭和天皇即位の礼だったという。右を上位とする国際儀礼に従い、天皇が向かって左、皇后が右に並んだ。これに雛人形メーカーが追従したのだ。

相撲番付に書かれた「蒙御免」(ごめんこうむる)……相撲用語「蒙御免」は「許可を得て興行をしています」という意味である。勧進相撲で「御免」は寺社奉行の興行許可を得たことを表す。江戸時代初期の相撲といえば「辻相撲」といい、町の道端や河原で行われ、集まった人からご祝儀をもらうというスタイルだった。勝敗をめぐって喧嘩になることも多く、幕府は何度も相撲を禁止するお触れを出した。そんな中幕府から許可を得て、寺社や神社などの建立、修繕などのため、寄付を募る名目で勧進相撲が行われまた。この名残が今の番付に「蒙御免」と言葉として残っている。

板チョコの溝は何のためにあるのか……割れやすくするためではない。製造工程において発生する、熱の伝わり方の違いによるものだ。板チョコを平板にするより溝をつけたほうが、冷えた金型と接する面積が広くなり、より早く冷却できる。

とんがりコーンや工事現場のコーンは何なのか……まずとんがりコーンの原材料はとうもろこしで、これは英語で”corn”(コーン)だからコーンなのだ。しかし工事現場のコーンは「円錐」(コーン、cone)が語源。ギリシャ語の「松かさ」がこれは語源である。ソフトクリームのコーンはトウモロコシが原料ではない(小麦)ため、あれは円錐のほうのコーンである。ちなみに英語ではポーク(poke)とかコルネット(cornet)とも。第2次世界大戦後、日本にソフトクリームが伝わってきて、ブームになった。そこである問題が起こった。コーンが不足してしまったのだ。当時の日本では、アイスのコーンといえば輸入品だった。しかしコーンは高価で、なおかつ輸送中に湿気てしまったり、破損してしまったり。1953年ついに国内ソフトクリーム総合メーカーの日世が、日本で初めて国内産のコーンの生産を手掛けた。改良に改良を重ね、今では国内でトップシェアを誇っている。

荷造りするときの「プチプチ」の正体……名前を気泡緩衝材という。その名の通りクッションの役割を果たしている。エアーキャップという別名もあるようだ。あのプチプチをポップコーンに変えた会社がある。確かにプチプチは使い道が難しいため、食べることができるようにすればお互いに得だろう。

楽譜はなぜイタリア語表記か……アレグロ、フォルテ、などの指示語をはじめイタリア語がたくさん書き込まれている。オペラもソナタもコンツェルトも全部イタリア語。もちろん、ドイツ語圏の作曲家も全部イタリア語で書いている。これはクラシックの本場がイタリアだったこと。17～19世紀はじめの音楽家がイタリアに憧れていたため。一度定着するともう離れなくなり、共通語となっているのだ。

菓子業界の会社名の由来……カルビーはカルシウムのカルとビタミンのビから由来する。キャラメルコーンで知られる東ハトは、創業当時の「東京製菓」に、社長が好きだったハトを入れた。ロッテはドイツ文豪ゲーテの「若きウェルテルの悩み」のヒロイン「シャルロッテ」に由来する。湖池屋は、湖のように大きくとの願いから、創業者小池氏の「小」を「湖」に変えたという。UHA味覚糖は、お菓子が持つ楽しさ・ときめきを意味する「遊波(遊食と波の造語)」と、商品名の「七色の飴・味覚糖」から来ている。

大学いも・大学ノートの「大学」ってどこ？……東大であるらしい。一つは、大正時代に東大の赤門前で大学いもを売ったところ大好評だったという説と、お金がない学生が売り出したという説。一方大学ノートについては、罫線が入ったノートがあれば便利なのに、という東大前の洋書店の主人の声にこたえ、舶来の罫線入りの紙でノートをつくったのがはじまりという説がある。もしくはフールスキャップという洋紙が使われており、東大に入る人しか使えないという説も。

塩の味を示す「しょっぱい」と「辛い」の境界……国立国語研究所の調査によると、東日本では「しょっぱい」、西日本では「辛い(塩辛い)」と表現することが多いという。静岡県西部の浜名湖に境界があるという。ここは江戸時代、船着き場に検問があり、行き来が厳しかった。

母親を「おふくろ」「お母さん」と呼ぶ理由……鎌倉・室町時代、一家の主婦は家庭内で大きな権力があり、財物を入れた袋を母親が所有していた。そこからおふくろさんとするもの。一方でお母さんは、平安時代に上流階級の奥方に住んでいた「北の方」が語源だという。これに敬称をつけて「おかたさま」になり、お母さんとなったという。

テントウムシの模様は、敵にアピールするためのもの……足の関節から、アルカノイドを含む黄色い汁を出す。これが臭くて苦く、とても食べられないという。一度そのまずさをしった敵は学習、二度と食べなくなるという。だからこそ派手な色にし、食べられませんよアピールをするのだ。

大柄な客は、飛行機でも二席分の料金をとられるのか……基本的には標準体型を想定して設計されているが、デブはそうもいかない。力士やレスラーも同様。だが一般には、確保した全部の席ぶんの運賃はとらないという。余分にとった席の半額を加算した運賃を払う。

自分の本籍地は好きな場所に移せる……かつては戸籍の管理場所を示す場所として重要だった本籍地だが、今では住民票などで把握できるため、現住所と本籍地が違っていても問題ない。甲子園球場などは2011年現在で700人もいるという。

目は10代から老化が始まっている……老眼、正確には老視と呼ばれる。水晶体の厚さを変える毛様体が衰え、水晶体を十分に厚くできなくなるのだ。この低下は早くも10代から始まっており、だんだんと低下する。

国会議事堂の主なき銅像の台座……中央広間の四隅には、議会政治の基礎となった功労者たちの銅像がある。板垣退助、大隈重信、伊藤博文の3人だ。だが4つ目の台座にはおかれていない。理由は、4人目を人選できず将来に持ち越したとも、政治に完成はないからとも言われるが、不明のままである。

韓国の名字は5つだけで全体の半分？……例えばキムという苗字は最も多く、これが20％になる。日本の名字は30万ながら、韓国には300しかなく、しかも同じ名字の人が多い。1位が21％、2位は「李」で15％、朴、というように5位までを足すと、全部の半分にもなる。だから人を呼ぶときにはフルネームまたは下の名前が多いという。会社では肩書で区別する。

イギリスという国は存在しない……日本でいうイギリスは「グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国」、略して”UK”である。外交上は1つの国だが、イングランド以外の国には英語のほかの公用語がある。イギリスという呼び名は、江戸時代に伝わったポルトガル語「イングルス」に由来するという。

海苔を扱う店がなぜお茶も売るのか……管理法がほとんど同じだから。乾燥に弱いため、常に乾燥したところに保存する必要がある。そのほか、香りを守るため、温度を低くしたり直射日光を避けたりという部分も似ている。また、ビジネス上、仕入れ時期が海苔は11～3月、お茶は4～10月で、一年途切れずに商売できる。

エベレストの標高は測量ごとに変わる……8848メートルと書かれていることが多いが、これは1954年の測量によるもので、公式。ただし1999年、GPSで測ると実は8850メートルだと判明。さらに2005年には中国が、雪氷の厚さを差し引いた8844メートルと発表。測量ごとにコロコロと変わっているのだ。

電車の運転席が左側の理由……複線の場合は基本的に左側通行で、運転席は車体の左。まず車線変更で追い越すことがないため、反対車線に注意する必要がない。さらに、安全走行のための標識は左にあるため、左のほうが見やすい。また、対向列車とすれ違う際の心理的なプレッシャーにもならない。

「学芸大学駅」に学芸大学がない理由……東急東横線にある駅。東横線が開通したのは、1927年。このときは東京府青山師範学校、その後1943年に東京第一師範学校に改名。駅名もそれに従い青山師範駅、第一師範駅と変わっていった。1952年には学芸大学駅に改称されたが、大学は1964年に移転。ちなみに学芸大学駅の隣にある「都立大学駅」にも東京都立大学は存在しない。こちらもやはり大学が移転してしまった例だ。

馬のサラブレッドは1馬力ではない……ワットが蒸気機関の性能を示すためにつくったのが1馬力。250キロの荷物を1秒に30センチ引く力と定義されたが、メートル法をつかう国では換算が大変。フランスでは75キロの荷物を1秒に1メートル移動、と定義。つまりフランスの1馬力はイギリスの0.986馬力になる。サラブレッドが全力疾走するとおよそ3馬力。人間でも瞬間的には1馬力を出せるという。

宝くじに税金はかかるのか……当選金付証票法によれば、宝くじの当選金には所得税がかからないと決まっている。しかし、雑誌が行う懸賞に関しては課税対象になるうえ、一時所得の扱い。会社員なら年末調整と別に、確定申告が必要。

「運動会」はもともと海軍の訓練だった……原型は1874年に東京築地の海軍兵学校寮で生まれた競闘遊戯会だと言われる。軍事色の強い競技、例えば障害物競走や綱引き、政権争奪騎馬戦、圧政棒倒しなども行われた。当時は娯楽も少なく大好評、その後1883年、東大が運動会と称して開催。全国に広まったのだ。

干した布団を叩いてはいけない理由……ダニは55度で20分加熱しないと死なないため、ダニ退治は難しい。さらに叩くとアレルゲンが表に出てきて逆効果。布団を叩いたうえで丁寧に表面を掃除機掛けするのがよいという。

コーヒー機器「メリタ」と「カリタ」……なんとなく紛らわしい。メリタは1908年にドイツで発生した。創業者であるメリタ・ベンツ夫人の名前がもとで、ろ紙を使ったドリップ法「ペーパードリップ法」を開発した。扇形の一つ穴が特徴だ。一方カリタは日本の会社で、ドイツ語のコーヒーの綴り”kaffee”とフィルターを組み合わせた名前。メリタとは全く関係がない。扇形の三つ穴が特徴である。

日本初の五輪中継で使われた「実感放送」……苦肉の策である。窓口になっていたアメリカの放送局が放送権で委員会ともめ、中継ができなくなったのだ。そこで、アナウンサーが実際に競技を見た後、スタジオで生中継さながらに実況する「実感放送」、10秒6という記録にも関わらず、アナウンサーは1分間以上かけて放送をしたという。

折り紙の技術が宇宙開発に使われていた……ミウラ折りという折り方である。縦の折れ目にジグザグに傾斜をつけ、折り目が重ならないように畳める。また、折りたたんだ一端を引けば、すぐに全体を開ける。これが日本の人工衛星のパネルの畳み方に採用されたのが2000年頃。NASAも現在、プロの折り紙アーティストの協力を得て、宇宙開発に応用する研究をしている。「キリンチューハイ氷結」のパッケージがミウラ折り。

指切りげんまんの「指切り」は本当に切っていた……江戸の遊郭で生まれたことば。好意を抱く男性に対し、誓約の証として自分の小指を切ることがあった。ここからくる。一方でげんまんは「拳万」ともかき、拳で1万回殴るという意味。

ドングリは何の木の実なのか……ドングリの木は存在しない。カシ、ナラ、クヌギなど、ブナ科の植物の果実の総称である。諸説あるが、栗のようにおいしくはなく、そのまま食べられないことから、鈍な栗＝ドングリとなった説、古くからコマとして使われ、コマの古い呼び名「つむぐり」から来たものなど。

世界で最も高い木は自由の女神より高い……レッドウッド国立公園にあるのがそれ。高さ115.55メートルで、自由の女神像(93メートル)よりも高いのである。樹齢は600年。一番低い所の枝でも、なんとビル25階に相当する。

大分県にUSAがある……大分北部、国東半島(くにさき)の付け根に、人口5万6000人ほどの宇佐市がある。市名をローマ字表記するとUSAなので、自由の女神の縮尺版もある。

3Dプリンターは日本発祥の技術……1980年に日本の会社が「立体図系作製装置」という名前で特許出願。しかし当時は周囲の目は冷ややかで、製品化に至らなかった。だが、これに目をつけたアメリカのメーカーが莫大な金を投資して実用化。特許権による収入はゼロだったが、イギリスのランク賞財団から表彰されている。

宇宙に行くと身長が伸びる……地上で測定している時と異なり重力がかからない。なんと7センチも伸びた人もいたそうだ。ちなみに、就寝時にも地上で背中は伸びている。朝測った時の方が高いのはそのためだ。

人気コーヒーチェーンの店名の由来……スタバは、メルヴィルの「白鯨」に登場するスターバックという登場人物から。タリーズコーヒーは、創業者のタリーという名前から来ている。サンマルクカフェは、キリスト13番目の伝道師「聖マルコ」(フランス語でサンマルク)から。コメダコーヒーは、実家が米屋で、父親への尊敬の念があらわれているという。

東京の複数の区にまたがるJR板橋駅の住所はどうなっているのか……板橋、豊島、北の三つにまたがっている。実は駅長室が板橋区なので、住所は板橋区になっている。

日本の最深部といわれる「八戸キャニオン」……地下施設を除いて、日本一深い所にあるというのが、八戸石灰鉱山、別名八戸キャニオン。海抜はなんと170メートルで、地表から200メートル掘り進めたところだという。その広さはなんとグーグルマップからでも確認可能。

献血がいつも呼びかけられている事情……最大の理由は有効期限。輸血用の血液にはいくつかの種類があるが、赤血球製剤という外科手術用の血液はわずか21日、血小板製剤は4日しかもたない。新鮮な製剤を確保するため、継続的に協力を呼び掛けている。

宝塚には男子部があった……戦後は本当にあったという。1945年に創設、合計25人が女子と共にレッスン。しかしファンからの強い反対もあり、1954年には解散、デビューとは至らなかった。

なぜ腐ってないのに豆腐なのか……豆腐は中国で2200年前に生まれた。日本には奈良時代に、中国に留学した僧からもたらされた。そのために名称も中国のもの。豆腐の「腐」は腐るという意味ではない、ブヨブヨして柔らかいものという意味だった。一方で納豆は、寺の台所に当たる納所(なっしょ)でつくられていたから。

ステンレスがサビにくいのは、もともとサビてるから？……高温に強くさびないことで有名なステンレス、20世紀初頭にイギリスで開発された。”stain”はサビという意味だけに、さびないのだろうか。じつはそうではない。クロムがサビたもの、正確には、クロム酸化物が合金の表面に膜をつくっているためで、もともとサビているのだ。

日本はなぜ「ジャパン」なのか……英語ではジャパン、フランス語でジャポン、スペイン語でハポンと呼ばれている。その起源はマルコポーロにある。彼は東方見聞録の中で、日本が”Zipangu”と呼ばれていることを紹介。これがジャパンとなったのである。

名刺は昔、本当に刺していた……古代中国(20～280年頃)にさかのぼる。誰かの家を訪ねる時、当時は紙がなかったため、自分の名前と要件を記入した木片を持参していた。不在の場合はそれを門前の箱に刺していたという。これが日本に伝わったらしい。

英語の”finger”は8本しかない……人差し指は”index finger”、中指は”middle finger”、薬指は”ring finger”、小指は”little finger”という。親指に関しては”thumb”と呼ぶ。つまりフィンガーは8本しかないのである。

歌舞伎界はなぜ「梨園」とよぶのか……唐の時代、楊貴妃にゾッコンの玄宗は、芸能に力を入れた。音楽や舞を子弟に学ばせていたのだが、この庭園に梨が植えられていたことにちなみ、彼らは「皇帝梨園の弟子」と呼ばれたという。のちに梨園は芸能全体をさすようになり、江戸時代は演劇界をさしたが、明治以降は歌舞伎のことを梨園と呼ぶようになった。

アンパンマンのあんは「つぶあん」か「こしあん」か……やなせたかし氏によれば、あれが脳であることから、均質なこしあんではなく、でこぼこが多いつぶあんだそう。

宝石と金の「カラット」は全く別物だった……宝石のカラット(carat)は質量の単位で、1カラットは200ミリグラムとされる。一方金のカラット(karat)は、純度を24分率でわけたもの。24Kなら純金、18Kなら4分の3というようにだ。

ボクシングのサンドバッグに砂は入っていない……ボクシングが日本に伝わったのは1920年代。当時、アメリカでサンドバッグは「ヘビーバッグ」と呼ばれていた。運ぶ際に中身が抜かれていたため、日本人は「ヘビーだから重いんだろう」と考え、中に砂をつめた。これがもとになっているという。

肉食動物は野菜不足にならないのか……ライオンなどは生肉を食べている限り、栄養不足にはならない。タンパク質、ミネラル、ビタミンなどがほとんど含まれているからだ。また、消化器官は非常に短いため、仮に野菜を食べても消化できず、排出されてしまう。ただし、少し消化された状態なら、食べることができる。ライオンは草食動物をとらえると、まず内臓と、その中に残る草を食べてビタミンを吸収しているのだという。

参勤交代の大名列にはサクラがいた……莫大なお金をかけて練り歩くのだが、経費節約も行っていた。実は江戸を練り歩く大名行列の半数以上は、渡り者と呼ばれるアルバイト、つまりサクラ。宿場から江戸までだけ雇い入れ、行列が終わると解散させていたのだ。

相撲の行司が差している短刀は自害のためのもの……本物の日本刀の短刀が差してあるが、これは、軍配を差し違えたときに、責任をもって切腹する覚悟をもつ、という意味。実際に差し違えた場合は、理事長に進退伺を出すことができる。

警察が110番で、消防が119番のわけ……まず警察が110番なのは掛け違い防止のため。昔はダイヤル式だったため、一番距離が短い1と、かけ間違いを防ぐため最も長い0が採用。一方で119は、最初は112だったが、かけ間違えが多かった。ダイヤルの距離が長く使われていなかった9を採用したのだ。

バターはもともと「薬」だった……バターの歴史は古く、メソポタミアにまで遡る。当時は食べるだけでなく、傷薬としても使われたうえ、目薬や髪油にも使用(傷口に塗ると空気を通さなくなり、傷口が永遠に治らなくなるが…)。6世紀フランスからこれがヨーロッパに広まり、同じころ、インド、中国を経て日本にも来た。バターは「蘇」と呼ばれ、とても高貴な食べ物だったのだとか。

サザエさんの登場人物の名が海産物になった理由……長谷川町子氏の作品。1946年から連載を依頼された彼女は、西新の自宅付近で百道浜を散歩しながら構想を練った。そのため海産物にちなむ名前になったのだとか。1966年に放送がはじまると、ノリスケ、タイコの息子がイクラという名前で登場するが、これは脚本担当の娘がイクラ好きだったからだとか。ちなみにサザエさんの最終学歴は「あわび女子学園卒業」。

新婚旅行をなぜ「蜜月」と呼ぶのか……蜂蜜を発酵させた蜂蜜酒と関係がある。古代から蜂蜜は重宝されてきた。古代ゲルマン人たちは、強精の効果があることを知って、結婚してから一か月は蜂蜜酒を飲んでいた。これが英語の「ハネムーン」の由来になり、やがて蜜月となったのだ。

ラブホテルの売り上げは国防費と同じ……日本に3万軒あるというラブホテル、稼働率の平均は1日で2.5回転、すごいとこなら8回転もある。不況に強いビジネスと言われるのも納得。その売り上げは4兆7000億円ともいわれる。これは2015年の防衛費、4兆9801億円とほぼおなじ。ラブホテルの儲けと国防費は本当に同じなのである。

植物にも「血液型」がある……ABO式の血液型は動物にもあるし植物にもある。例えばブドウ、ゴボウ、ダイコンなどはO型、昆布やスモモはAB型だという。

医者は自分を診察できるか……医者が自分を診察することを「自己診察」という。しかしこれ、健康保険法に基づく医療制度で認められていないため、やる意味があまりない。では全額負担ならいいかといえば、それも駄目。「医師でなければ医業をしてはならない」と医師法に書かれているため、自らを診察するのは医療行為ではあるが「業」でなく違反という見方もある。普通は他の医者に診察を依頼し、治療を受けるのである。

紙の「A判」「Ｂ判」の違いとは……Ａ判とはドイツから輸入した国際規格。A0は841かける1189ミリ。Ｂ判とは日本独自の規格で、江戸時代の美濃紙の大きさがもとになっている。以来1980年代まではＢ判だったが、今ではほとんどＡ判になっている。

おやつはなぜ昼間に食べるのか……江戸時代の時刻は今と異なり、日の出と日没を境に六等分、1日は12等分されていた。真夜中の九つから始まり、明け方の六つ、五つ、四つ。四つまで数え、そして正午は九つから再び始まり、四つまで数えてまた真夜中に戻る。そして、昼間の「八つ」に食べる間食が、「おやつ」なのだ。

「こけら落とし」の「こけら」とは……材木を削った時の木くずのこと。昔の民家の屋根はこけら板という薄い削り板でふかれていたので、新築工事の終わりに木くずを払い落とす風習があった。これにならい、劇場の落成を「こけら落とし」と呼ぶように。

デニム、ジーンズ、ジーパンの違い……デニムとは本来生地のこと。フランス語の「セルジュ・ド・ニーム」(フランスのニーム地方の丈夫な綾織り)に由来。ジーンズも元々は生地の名称。アメリカで重宝された綾織りの綿織物の原産地「ジェノバ」に由来する。ジーパンはGI(米兵)パンツからきた和製英語とされる。

京都駅ホームの数字の謎……0番線から33番線まであるが、1番線と15～29番線が抜けている。1997年には1番もあったが、改築でその手前に路線とホームが追加されたため、1より数字が小さい0になった。また新幹線乗り場(11～14)と30番の距離が離れているため、間違わないよう番号を離した。30番台を採用したのは、この番線に設置された山陰本線の「さん」にちなんだのだとか。

福神漬けの命名秘話……当時人気の戯作者である梅亭金鷹(ばいていきんが)が、ダイコン、ナス、カブ、ウリ、シソ、レンコン、ナタマメの7つを七福神に見立て福神漬けとなった。それが日清、日露戦争の兵隊の携帯食に採用され、味が広まったという。

アカペラとは「聖堂風に歌うこと」？……正確にはア・カペラと区切る。カペラはイタリア語で礼拝堂。つまり礼拝堂風に、という意味なのだ。カトリック教会では礼拝のさいに歌う賛美歌に伴奏をつけなかった。

小指を曲げると薬指も一緒に曲がる理由……指令を伝える神経が同じだから。さらにいえば、動かす筋肉も同じだから。しかしピアニストのように、訓練次第でそれぞれを別に動かすことは可能。

ピンハネしていいのは「利益の1割」だけ……ピンはポルトガル語の”pinta”からくるという。16世紀に日本に来たトランプの一つで、かるたの語源にもなった「カルタ」の1の札をさす。ここから、利益の1割をはねるという意味で、ピンハネになったという。

串団子はなぜ4つ刺しなのか……団子は関東では1つの串に4つと決まっている。その理由は江戸時代の書物である「甲子夜話」(かっしやわ)に見られる。江戸中期に鋳造された四文銭がきっかけ。団子といえば1本で5つ刺しておいてお代5文が相場だったが、混雑した店先で、四文銭1つなのに1本持っていく、いわば盗人が急増。苦肉の策として1本4つにしたという。

チョコラBBの「チョコラ」は何か……なんと「チョコレート入りコーラ」だという。もともとチョコラは、創業者がエーザイの前身である研究所時代、チョコ入りのコーラを販売しようか考えていた際に用意した商標。実際には商品化しなかったが、子どもにも親しみやすい名称だったので、ビタミン剤チョコラBBになった。

「サブウェイ」は「地下鉄」由来の名ではない？……1965年にアメリカで創業したサブウェイ。潜水艦の形のパン、つまりフランスパンにハムや野菜を挟んだ伝統的メニュー「サブマリンサンドイッチ」が関係する。この”sub”に、お好みでという”way”をつなげたものなのだ。現在世界一店舗数が多い飲食店チェーンである。

タクシーに乗る「お化け」の正体……タクシー業界には隠語が存在する。例えば「工事中」は警察の取り締まり、実際の工事の場合は「本工事」という。「お化け」は長距離の客のこと。びっくりするほどうれしいということでおばけ。「流れ弾」は、長距離客を載せる確率の高い乗り場で近距離客に当たること。「ワカメ」はふらふらしているということで、酔っ払いをさすのだそうだ。一方で「回送」をさすこともある。海藻とかけているのだ。

Yahooの原点は相撲？……Yahooというのはならずものという意味で、相撲に深い関係がある。もともとは創業者が、自分たちでよく使うURLの住所録を使ったのがはじまり。これを進化させたデータベースとして提供したのである。当初はジェリー(創業者の片割れ)の「曙」(akebono)という名前のワークステーションに、検索エンジンはデビッドの「小錦(konishiki)」という名のコンピュータに置かれていたという。二人は1年京都に滞在したことがあり、相撲ファンだったという。

陰毛はなぜ縮れているか……人種を問わずもじゃもじゃなのが陰毛である。デリケートな部分を守るためという説もあるが、有力なのはフェロモン説。陰部や脇に多く分布するアポクリン腺から、異性を惹きつけるフェロモンが出ているのだとする。毛を縮れさせるとこの周りに多くの空気が入り、多くの異性にそのにおいをかがせようとしているのだとか。フェロモンは尿にも入っており、陰毛はそれを付着・拡散させるためとも。

眠いときに目をこする行動のメカニズム……赤ちゃんにも見られる自然な現象。眠くなると血圧が下がる。まぶたの皮膚は薄いため、血圧が下がるとはれぼったくなり、重くなる。それを軽減しようとするため。また頭がすっきりしているときに比べ、眠くなると涙腺の活動が減少し涙が減る。涙の分泌を促そうとする。

日本人女性の5％は乳首が2つより多くある……例えば豚には12個、猫には8個の乳首がある。一方人間の乳首は2個だけ発育、他の乳首は胎児期に消失する。しかし中には思春期や妊娠時期に目立ってくる人もいるとか。これを「副乳」という。多くはわきの下、乳首の下内側に見られるという。黄色人種に多く、日本人女性なら5%の割合。

温泉まんじゅうの「茶色」は温泉の色……群馬県の伊香保温泉には、色が異なる2つの源泉が湧いている。一つは鉄分が多い「黄金(こがね)の湯」。もう一つはメタケイ酸を含む無色透明の「白銀(しろがね)の湯」。1910年に創業のお菓子店「勝月堂」が、黄金の湯と同じ色のまんじゅうをつくったら、昭和初期に天皇への献上品に選ばれ、全国に知れ渡った。

ネジが右回しの理由……効き腕に関係する。締めるときのほうが強い力を必要とする。右利きにとっては、手首からひじにかけての部位を内向きに動かすより、外向きのほうが強い力が発揮できる。そのため右回しなのだ。

「寝る子は育つ」は科学的に証明されていた……成長ホルモンは夜のほうが多く分泌され、脳の発達にとっても大事だ。睡眠はレム睡眠とノンレム睡眠が繰り返すが、大人の場合、レム睡眠の割合は20～25％に対し、新生児は睡眠時間の半分、胎児期には100％がレム睡眠。脳の神経回路をつくるために必須だからだといわれる。

数千人規模の「フットボール大会」……アッシュボーンという町で開催される大会である。現在も年に2回開催される「ロイヤル・ショローブタイド・フットボール」の起源は12世紀。川を境に北と南に分かれ、乱闘状態でボールを追いかけまわす。ゴール間の距離は5キロ、真ん中の街はもちろん、野原や川をフィールドを数千人が駆け回る様子は圧巻だ。

ランドセルを日本で最初に背負ったのは誰……大正天皇だったという。ランドセルはオランダ語で「ランセル」という、兵士が背負う布製のカバンで、幕末に西洋式の軍隊制度をとったときに伝わった。皇太子嘉仁(よしひと)親王、のちの大正天皇に、当時の内閣総理大臣だった伊藤博文がお祝いとして贈ったという。

宝くじ売り場が判明するしくみ……みずほ銀行が販売を受託している。銀行では宝くじを配布するさい、届けたくじの番号を記した明細表を添付。抽選後、銀行はこの情報をもとに当たりくじが出た販売業者を調べて連絡、業者もどの売り場かを銀行に報告して、当選場所がすぐに判明する。

「バンドエイド」誕生物語……当時、紡績工場で働いていたディクソンは、妻が非常に不器用で、台所に立つたびにけがしているのを悩んでいた。その都度包帯を巻いていたが、自分がいないときにも手当てができるように、テープと包帯を合体させたバンドエイドを開発。1920年のことである。

清水の舞台から飛び降りた「元祖」は誰？……死んだつもりで思い切ったことをする、という意味のことば。実際に飛び降りた人も多くいるよう。「宇治拾遺物語」には忠明(ただあきら)という検非違使が、清水の橋のたもとで複数の若者とケンカをし、飛び降りて難を逃れたという。江戸時代には、ここから飛び降りると願いがかなうといわれるようになり、未遂も含めれば234人が飛び降りたという。1872年に禁止令が出されて以来数は激減。ちなみに死亡率は15％ほどだったそうだ。

骨の数は大人より赤ちゃんのほうが多い……骨の重量は体重の20％以上を占める。人により個体差はあるが、だいたい206個の骨がある。これに対し新生児は350個以上の骨があるという。いくつかが癒合して1つになるため、全体の骨の数は減少。だいたい思春期ぐらいにはできあがるという。

日本人は確実にお酒に弱い……日本人の4割は低活性型、6～7%は非活性型だという。モンゴロイド系には多くみられる特徴で、白人やアフリカ系黒人には低活性・非活性型は存在しない。

「子持ちししゃも」の正体……シシャモは北海道太平洋沿岸のみに生息する日本の固有種。産卵のために特定の川にあがる短い時期、沿岸に集まったものを捕獲する。特に鵡川(むかわ)のものが最高とされる。ただ一般に子持ちししゃもとして出回る9割はカラフトシシャモの標準和名「カペリン」で、ノルウェーから輸入。最近では貴重な本物シシャモは「本シシャモ」と販売される。

ペンギンは昔空を飛んでいた……ペンギンが潜水するときに使う「フリッパー」という翼は、飛翔する鳥と同様に、一部が癒合したり少なくなったりしている。軽量化して大きな羽をつけるために進化したもの。竜骨突起という突起は、羽ばたくための筋肉がつく部分。こういう根拠で、もともとは飛ぶことができる潜水鳥類だったという。南半球では天敵の哺乳類が繁栄しておらず、また深い所まで潜水するには重い方が有利ということで、翼を失ったと考えられる。

童謡「通りゃんせ」にまつわる説……行きはよいよい帰りは怖い、という歌詞があるが、これも諸説ある。例えば「7歳になるまでは神の子」とされたが、お祝いをしてからはそうでなくなり、「神の子」でなくなるのが怖いという説。また、怨霊神となった菅原道真の様子を書いた絵巻を神社で目にして怖くなったという説も。発祥地は神奈川県小田原市の菅原神社か、埼玉県の三芳野神社という。

千葉県に位置する「上総」は、なぜ「下総」より南なのか……それは都との位置関係。京都に近い方が「上」だったのだ。現在では陸路だと下総のほうが京都に近いが、古くは三浦半島から上総のある房総半島へ船で渡る道のほうがメジャーだったため、このようについた。

北アルプスの「野口五郎岳」はやはりあの歌手に？……実は関係がないという。野口という集落から良く見え、山全体、あるいは目立つ部分が岩石でごろごろしているところから「ごろお」の当て字で五郎になったという。同じく北アルプスには「黒部五郎岳」も存在するが、このどちらを選択するか迫られたのが実際の野口五郎。結局芸名にするなら標高が高い方がということで、野口五郎岳が選ばれたという。

1円玉の植物は何なのか……1955年に最初に発行されたのが一円玉。表と裏のデザインは公募だった。表は「若木」が描かれているが、これは50円玉の菊、100円玉の桜と異なり、どんな花かまでは特定されていない。あえて架空なのだという。伸びていく日本の願いを込めたものになっている。

オナラを我慢すると口臭がきつくなる……オナラの7割は空気で、10％はガス、20％は血液からのガスが腸に染み込んだもの。オナラを我慢すると、再び腸の壁を通って血液に溶け込む。大半は空気だがガスは口臭の原因になることも。

氷の天使「クリオネ」は実は恐ろしい生き物だった……愛くるしいルックスで人気になっているが、一皮むくと恐ろしい。肉食性で、捕食の際はバッカルコーンと呼ばれる6本の奇妙な触手を伸ばし、えさをとって養分を吸いつくすのだ。ただ飢えにとても強く、1年は何も食べないで生きることができる。

ネクタイのルーツはクロアチア傭兵だった……17世紀の三十年戦争のとき、フランス軍にクロアチアの傭兵たちが従軍。家族や恋人から無事に帰還するよう願ってスカーフが巻かれていた。この習慣がフランスでファッションになったという。「クロアチア人」を意味する「クロヴァット」が、現在のネクタイの起源になったという。

太平洋と大西洋、てんがつくかつかないかが違うのはなぜか……まず太平洋は、波も風もない穏やかさと言うことで、マゼランによって”Mare Pacificum”(平穏の海)とラテン語で名付けられた。これが和訳されたのが「太平洋」。「天下泰平」に由来する。一方で大西洋はヨーロッパの西の海上にある伝説の大陸アトランティスがもと。”Atlantic Ocean”を和訳するとき、日本人はそもそもアトランティスを知らなかったため、ヨーロッパの西の大きな海ということで、大西洋にした。西の果てを意味する「泰西」が大西になったという説もある。「泰」には大きいという意味があったから。

AMとPMは何の略か……ラテン語の”ante meridiem”、”post meridiem”だという。つまり正午より前か後かということである。なお、時刻表示の後にAMPMを置くのが正しい。

「ちちんぷいぷい」は何の音？……春日局が幼少期の徳川家光を鼓舞するのに言った「智仁武勇は御世の御宝」が変化したとする説、昔ばなし「屁こき爺」に由来するという説もある。昔、日本一のオナラができるといってしまったおじいさんが、殿様の前で様々な音色のオナラをする。そのうち最も苦手だったのが「ちちんぷいぷい」だったという。これに感心した殿様が褒美をくれたため、善いことを招き入れるということばになった。野獣の「ブッチッパ！！」には絶対に敵わないと思う。

「ごまかす」と「ゴマ」に関係はあるか……一説には江戸時代の「胡麻胴乱」というおかしが元だという。これは小麦にゴマを混ぜていて、大きく膨らんで香ばしく焼きあがっているものの、中身はスカスカでがっかり。また、密教で護摩をたくが、弘法大師空海がたいたありがたい「護摩の灰」の偽物を売り歩いたという説もある。

修正液にまつわる逸話……アメリカのテキサス銀行ではたらくグラハムは有能の反面、タイピングが苦手。そこで、1951年、画家の用いていた美術用修正液をヒントにタイプ用の修正液をつくり大ヒット。2500万ドルという遺産は息子マイケルにうけつがれたのだが、実は彼、「モンキーズ」のメンバー。マイケルはこの後、この大金を元手に、今のMTVの先駆けとなるミュージック・ビデオを放映するテレビ番組を制作したという。

NORAD名物「サンタクロース追跡プログラム」は間違い電話がきっかけ……1955年にかかってきた間違い電話がもと。コロラド州の量販店が新聞に「サンタと話そう」という広告を掲載したところ、記事の電話番号に誤りが。子どもの問いかけに機転を利かせた大佐が、「レーダーによれば今は北極から南に向かったよ」と答えた。子どもは大喜び。この一件以来、NORADは毎年、サンタ追跡のサービスを行うようになったという。

衆議院本会議場入口横にある「酸素ボックス」……1966年、長時間の審議に疲れた議員に吸ってもらおうと提案された。公衆電話ボックスを改造した室内には、椅子と医療用酸素ボンベが置かれている。一方で会場のイスの下には防災頭巾が。その理由は天井のステンドグラス。災害でこれが落ちてきても大丈夫なようにした。

甲子園で敗者復活から優勝したところがあった……1918年の夏、第三回大会で優勝した愛知一中(現在の旭丘高校)。1回戦を勝ち上がった6校だけでは準々決勝が成立せず、やぶれた6つから4つ選んで敗者復活をするやり方が前年から実施されていた。くじで敗者復活戦に出場、決勝まで進んだ。そしてなんと優勝。なお敗者復活は、この大会を最後に廃止されている。

日本一短い川はどこか……和歌山県の勝浦町には日本一の落差を誇る那智の滝があるが、もう一つ「ぶつぶつ川」がある。13.5メートルという短さで、「正式な河川」として日本一短い川に指定されたのだ。

野球の「エース」は人の名前だった？……レッドストッキングスに所属していた、アサヘル・ブレイナード投手に由来するとされる。当時の野球のルールは、上手投げ禁止、投手はチームに1人だった。ブレイナード試合は57試合中56勝1引き分け。この投手のあだ名「エイサ」が「主戦投手」の代名詞になり、いつしか「エース」になっていたという…なんてのは当然民間語源であり、実際はラテン語の”assis”(同一性)とか”as”(青銅でできた1ポンドのコイン)が語源のよう。あ～つまんね。

奥の手は右手か左手か……左手である。左のほうが尊いという日本の思想に基づく。大事な手ということで左手なのだ。中国は「右に出る者がいない」というように、右のほうが尊い。

OKの正体……実ははっきりしていない。一つは、第7代アメリカ大統領アンドリュー・ジャクソンに由来する説。教養がない彼は、”oll korrect”と間違えて書類にOKと書いていた。これが広まったという。もう一つ、ビューレン大統領の再選を目指した”OK club”からくるというもの。大統領の故郷”Old Kinderhook”からくるという。

サングラスは裁判官の表情を隠すためのもの？……15世紀よりも前の中国で、裁判官が表情を隠すためにかけていたとされる。証拠の真偽をどう判断しているのか隠す必要があったため、ススでいぶした石英のレンズをかけていたという。

世界一短いエスカレーター……神奈川の川崎駅にある。段差にするとわずか5段しかない。プチカレーターという愛称で知られ、ギネスブックにも登録されている。ちなみに日本で一番長いのは香川県丸亀市のニューレオマワールドにある「マジックストロー」で、96メートル。

新人をあらわす新米はお米と無関係……新前掛けという商家のことばが語源だという。かつては新しい奉公人が入ると、「お仕着せ」という制服のようなものが配布された。このとき同時に前掛けがもらえるのだ。大坂の船場などではこれを「しんまえ」と呼んでいて、やがて新米になったという。

たった290円で新幹線に乗れる路線がある……例えば最も短い区間である東京上野間でも、乗車券160円、特急券の自由席840円、1000円となる。しかし博多駅から博多南駅までは290円で乗ることができる。地元住民の不便を解消するために誕生し、正式には在来線の扱いだ。

2つの県にまたがる宿がある……実は日本に2件ある。1つは、熊本と大分をまたぐ「杖立観光ホテルひぜんや」である。熊本側にあったが、増築をして大分に食い込んでしまった。そして2つ目は、群馬と長野の間の「渋峠ホテル」。こちらも増改築をした結果、長野にまたがってしまった。

ビンタとは何なのか……頬を平手で打つことをびんたと言うが、これは純粋な日本語。ビンは「鬢」(びん)、つまり左右側面の髪の毛のこと。「タ」は一説には頬を意味する「端」だという。つまり頭部の一部をさす言葉だったのだが、いつのまにかそこを打つという意味に。

ファスナー、ジッパー、チャックの違い……ファスナーは1891年にアメリカで生まれた、靴紐を結ぶ不便さを解消するためのもの。1921年にはこれを閉めるときの擬音”zip”から、ファスナーをジッパーと命名、これが普及。対してチャックは、巾着をもじった日本発の呼び名。1927年、広島ではじめて国産ファスナーが生まれ、これを小銭入れに取り付けて販売、その商品名がチャック印だったという。

大根役者はなぜ「大根」なのか……いろいろある。まず、ダイコンはどんな食べ方をしても当たらない。そのほか、根っこの白い部分を素人っぽい縁起の「しろ」にこじつけたという説がある。江戸時代の歌舞伎で、6代目尾上菊五郎が、俳優に対する悪態として使ったのがきっかけだとか。英語では”ham actor”といい(ハムレットに由来するという)、フランスではカブに例える。

冠婚葬祭の「冠」とは……これは元服という男子の成人の儀式のこと。12～16歳のころ、髪を整え、冠をかぶり、大人の服を着て幼名を改めた。元服して初めて冠を被ることを「初冠」(ういこうぶり)といった。この冠なのである。

総スカンは関西弁だった……周りに嫌われることを総スカンという。実は「総好かん」からきている。関西を中心に1930年ごろから使われ出した。英語の俗語で「腐敗」と言う意味の”skunk”に由来する説もある。

力士と関取は何が違うのか……同じ相撲取りのようだが、大きく違いがある。力士は相撲取りの総称、日本相撲協会に入門し、合格すれば力士になる。関取は十両以上の力士のこと。序ノ口から幕下までは給料をもらえない。

「ヘタレ野郎」の「へたれ」とは……上方の落語にあるという。落語には、見習いとか前座のような身分があるが、前座のことを「へたれ」という。特に、二つ目に昇進できるのに、わざと前座に居座る落語家のことをさすそうで、「屁垂れ」という字があてられることもある。

関西で学年次を「〇回生」と呼ぶ理由……1877年東大の場合、各学年では履修するカリキュラムが決まっており、単位を取得しないと進級できない「学年制」がとられていた。一方で京大は、1897年創立の際、ドイツの大学をモデルにし、各学年で習得するカリキュラムを決めず、一定の単位を取れば卒業できる「科目制」を採用。学年という意識が薄くなり、「〇回生」となったという。

最後の出演者を「トリ」という理由……大トリということばでも知られる。その日の売り上げをまとめて受け取り、他の演者に給料として配分した。このように売り上げを「トル」ことが由来になったという。

黒船は本当に黒かったか……防水、海水による腐食ということで、コールタールが塗られていた。来航した外国船のほとんどは黒い船だったという。しかし庶民はこれに驚愕したという。

砂糖には賞味期限がない……食品衛生法、JAS法によれば砂糖には賞味期限がない。水分を多くふくまないため、菌で傷むことがないのだ。きちんと管理すれば数年はもつという。あまりにも乾燥したところに置くと固まるが、一度紙の上に広げ霧吹きをかければ元に戻る。もしくはカーペットの上に放置するか、日光が当たる所に置いておく。黒砂糖は水分が多いため、賞味期限がある。塩ならレンジでチンでOK。

千手観音の手は42本しかない……左右21本ずつで実際には42本のみ。胸の前で合掌する手、鉢を持つ手を両腕で一本と数えると、合計では40本。それにも関わらず1000なのは、40本の手が25の世界(仏教でいう全ての世界)を救うから。

ゴリ押しの「ゴリ」とは……川魚の「ゴリ」に由来する。水底の石にへばりついている。ゴリを捕まえる時にはワラの束を川底につけ、雑巾がけをするように前に進みながら追い込む。ゴリ押し漁から「ゴリ押し」になった。

3年で28連敗したプロ野球選手がいた……193年、大洋ロビンズに入団した権藤正利選手。サウスポー。1年目には15勝をあげた期待のホープだったが、きゃしゃな体つきでスタミナがなく、胃腸も弱かったため、3年目からスランプに。28連敗だった。しかし巨人戦で奇跡が。先発した権藤投手は自らタイムリーを放ち、4安打に抑えて完封勝利したのだ。これには味方総出で胴上げ祝福、相手ファンまで拍手を送り、優勝したかのような熱気に包まれたという。

虫歯があると宇宙飛行士になれない……これはほんとらしい。宇宙で船外活動をするとき、服の中は0.3気圧に減る。虫歯があって気泡ができると、歯を内側から圧迫し、猛烈に痛む。歯が破裂するケースさえあるという。ただ、完璧に治療していけば大丈夫で、歯に詰め物があっても問題はない。自分の歯が痛み出したケースに備え、ペンチで自分の虫歯を抜く訓練も行うという。

スルメが「アタリメ」と呼ばれる理由……江戸時代にある。当時のギャンブラーが、スルメでは「擦る目」で縁起が悪いため、当たりが出る目ということでアタリメと呼びだした。めでたい席では縁起物である。

日本人女性がパンツをはくきっかけになった大火事……当時は腰巻などで覆うだけのものだったが、1932年の日本橋白木屋百貨店で発生した火災がその習慣を変えた。着物の裾が乱れるのを抑えようとして網から手を放し、体重を支えきれなくなって落下死した(逃げ遅れて焼死したとも)という。これがきっかけでパンツの着用が進んだという。

地図に描かれた海岸線は干潮か満潮か……国土地理院発行の地形図では、満潮時の海岸線が基本。その理由は、地形図が主に陸側で用いられるから。土地として日常的に使える範囲が示されるのである。一方で航海用の海図は、干潮時の海岸線が使われる。満潮時には隠れる島や陸地が見えないと、座礁を起こしかねない。

温泉マークの湯気はもともと直線だった……温泉マークの最古の例は1661年、群馬県安中市でおこった、農民の土地争いに関する評決文に残されている。地図記号としては1887年ごろの地図で、丸い湯船から3本の湯気が立ち並んでいる。その後いくつかの変更を経て、2002年になって、湯気が曲線となりおなじみのデザインとなった。

マンガで有名な「亀有」はもともと亀無だった……こちら葛飾区亀有公園前派出所の舞台、東京の亀有。だがここはもともと「かめなし」という地名だった。これは周辺の土地が亀の甲羅のような形を「なし」ていたから。しかし1645年に江戸幕府が地図を作成する時、「なし」では縁起が悪いという声が地元からあり、改名されたという。

「オカシラ付き」は尾頭か御頭か……尾頭付きが正しい。頭から尾まで、つまり丸々一匹ということを意味する縁起物なのだ。盛り付けは基本的に頭が左に来る。箸を右手で持つため、その方が食べやすい。

ぜんざいとおしるこはどう違うのか……関西と関東で基準が異なる。関西では粒あんのものをぜんざい、こしあんのものをおしるこという。対して関東では、汁気があればおしることくくられ、粒あんを使っていれば田舎汁粉などと呼ぶ。餅や白玉が入るとぜんざいと呼ぶのだ。

「虹」が虫へんである理由……古代中国の人達は虹を見て、天空を貫いて双頭の龍が姿を現し、山をまたいで川の水を飲んでいると考えた。龍は大きなヘビの形をしており、昔はヘビも虫の仲間だと考えられていたから。「貫く」という意味の「工」が合わさり、漢字になったのだ。

畳のサイズは関西と関東で異なる……関西で昔から使われてきたのは京間で、大きさは191かける95.5センチ。一方で関東は江戸間といって、176かける88センチと、違いは歴然。徳川家が幕府を開いて江戸は発展、住宅の需要は急増、住宅が小型化し畳も小さくなったという。

50Hzと60Hzの周波数があるのはなぜか……西日本では60Hzで、東日本では50Hzなのである。日本が電気を使い始めた明治時代にある。発電機について、関東は50ヘルツのドイツ製を、関西は60ヘルツのアメリカ製を用いた。これが現在でも違う。電気製品は全国に対応するが、産業用のものだと片方でしか使えないものもある。

缶切りは缶詰の発明後50年後に発明された？……イギリスで1810年に缶詰が発明された。それから半世紀たった1858年に、アメリカで缶切りが発明。それまでは無理やり斧やノミ、銃弾などで開けていた。当時の缶切りは現在と異なり、キリ状の先端を蓋の真ん中に突き刺し、刃をコンパスのように回して蓋を切る仕組み。現在の形のものは1861年に勃発した南北戦争の後に発明されたという。発明者はエズラ・J・ワーナー。実は缶詰を発明させたのがナポレオン。当時は遠征まっさかり。問題になったのが食料の補給である。当時は塩漬け・酢漬け・燻製などの保存食が一般的であったが、これらの食物は味が単調である上、腐敗することも多かった。ナポレオンは携帯食のアイデアを募集。1804年、フランス人のニコラ・アペールが、アイデア募集に応じてビン詰を発明、しかし重たくて割れやすい。で、イギリス人のピーター・デュランドが1810年に缶詰を発明。”Tin Canister”といって、ブリキでできていた。殺菌処理がうまくいかず、中身が発酵してしまって爆発したり、密封時に使用したはんだに含まれる鉛で鉛中毒になる人がでたり、といった失敗もあったようだ。

二十世紀梨はゴミ捨て場から拾われた……この品種が生まれたのは13歳の少年が親戚の家のゴミ捨て場で見つけた梨の若木がきっかけ。これを育てて食べてみると、甘くて果汁に富んでいた。1898年、来たるべき世紀の王者になる果実ということで、「二十世紀」と命名。鳥取県で栽培が始まったのが1904年、以後名物となっている。

シロクマの毛は白くない……大根が白いのとか紙が白いのと一緒。透明な毛の中心が空洞になっており、光が乱反射するために白く見えるのだ。またホッキョクグマの地肌は赤ちゃんのときはピンクだが、大人になるにつれ黒っぽくなる。太陽熱を効率的に吸収するためだと考えられている。トナカイやアルパカなども同じ。

宇宙を旅した酵母でできた日本酒があった……2005年に高知県原産の6種類の酵母が、ソユーズロケットに搭載され旅だった。10日後に地球に帰還した酵母をつかい、宇宙酒が醸造。土佐宇宙酒審査会が認定した厳しい基準をクリアし、見事2006年に発売。翌年の鑑評会では金賞をとった。希少性だけでなく、味も高く評価されたのだ。

「無花果」と書くのにイチジクには花が咲く……イチジクの原産はアラビア南部。紀元前14世紀には地中海沿岸まで広まった。その後日本にはポルトガルを通して江戸初期に。花がない果物、とは書くものの、花が咲かないわけではない(じゃないと受粉できない)。花が実の中に隠れて咲くという構造で、外から見えにくいのだ。

クジラとイルカの違いは大きさのみ？……同じクジラ類の仲間。4メートル以下ならイルカ、それ以上がクジラとされている。ただ、これに該当しないものもあり、例えばコマッコウやゴンドウクジラ類は、4メートル以下だがクジラ。シロイルカは和名がイルカだが、体長は4メートル以上ある。

魚が乗客の列車がある……見た目は普通の通勤電車だが、「鮮魚」という行き先案内。時刻表にも掲載されていない貸し切り列車が、近畿日本鉄道にある。その正体は、三重県でとれた魚を奈良や大阪に運ぶ商人のための「鮮魚列車」。1963年に運航開始。

オリンピックではフランス語が英語よりも優先される……フランスのクーベルタン男爵の功績により、今でもフランス語が優位にある。第一公用語がフランス語なので、公式文書に食い違いがあれば、フランス語版が優先となる。開閉会式で最初にアナウンスされるのもフランス語。各国選手団のプラカードにも、フランス語の国名がトップに表示。

七福神に日本出身の神様がいる……商業が発達した室町時代に誕生した福神信仰に由来するのが七福神。江戸時代後期以降、恵比寿、大黒天、弁財天、毘沙門天、布袋(ほてい)、福禄寿、寿老人に固定された。その中で恵比寿のみが日本出身で、他はインドや中国出身である。

カフェラテとカフェオレの違い……フランス語がカフェオレ、イタリア語がカフェラテ。どちらも「ミルク入りのコーヒー」という意味。一番の違いはコーヒー部分で、浅煎りの豆をこしたドリップコーヒーを使うのがカフェオレ、深煎りの豆を高圧で抽出したエスプレッソコーヒーを用いるのがカフェラテ。分量についても、カフェオレはミルクとコーヒーを同量使うが、カフェラテはミルクの量がかなり多い。

スペースシャトル打ち上げ延期の理由は「キツツキ」だった……1995年6月に打ち上げ予定だったディスカバリーだが、この延期理由はキツツキだったという。なんと外部燃料タンクを覆う断熱材に、155か所の穴が開いていた。発射台を探索するとなんと巣まで発見。フクロウの模型や笛でキツツキを追い払ったが、修復が間に合わず延期になったのだとか。

乃木将軍の一声で生まれた、日本初の女性専用車両……1912年に乃木希典の声で実現されたという。当時は中央線の沿線に名門女学校が多く、電車で痴漢行為が横行。女学校や父兄から鉄道会社にクレームが殺到。当時の学習院院長だった乃木将軍が、上層部に対策を要求して生まれたのである。

ラグビーとサッカーが別競技になったきっかけ……ラグビー高校の生徒がフットボール(サッカー)の試合中、突然手でボールを持って走り出した、というのは俗説。19世紀初頭、まだルールが決まっていなかったフットボールでは、手を使うことも認められた。しかし1845年に成文化されたラグビー高校のルールは、手に持って走るのがOK。一方で新興のイートン高校ではこれが禁止。その後ルールがそれぞれ整備され、別の競技になったという。

レモンが酸っぱいのはビタミンCのせいではない……レモンにビタミンCは100グラムあたり45ミリグラムしかない。確かにビタミンCも舐めると酸っぱいのだが、本当の酸っぱさはクエン酸によるもの。

梅干しがアルカリ性食品である理由……梅干しは間違いなく酸性の食べ物なのだが、なぜかアルカリ性食品である。というのも、食品を燃やした灰がどっちのpHかによって、酸性・アルカリ性が決まるからだ。ナトリウムやカリウムを多くふくむ梅干しは、体内ではアルカリ性になる。一般に野菜、果物、牛乳はアルカリ性、肉や魚は酸性である。

「アルプススタンド」の命名由来……1929年に増設された席で、8000人程度が収容できるアルプススタンドは、甲子園球場にある。応援する人達の白いシャツがアルプスに見えたという説が有力。岡本太郎の父親で漫画家の岡本一平が名付けたという。

カレーを一晩寝かせるとおいしくなる理由……まず、具材の中の糖質やタンパク質、アミノ酸などの成分が絡み合って、独特のコクが生まれるから。また、余熱で加熱し、辛さのトゲトゲが減るから。さらに、ジャガイモのでんぷんが溶けてカレーにとろみがつき、舌の上に残りやすくなるから。

演歌はもともと「演説の歌」だった……自由民権の運動家たちが、自由や平等を広めるため、思想を歌に乗せて説いた。これが演説歌であり、その後時代とともに政治色はなくなり、男女の情愛などを歌う「艶歌」となったが、艶という漢字が常用でなかったため、「演歌」となったという。

くさかったから草津？……奈良時代の行基により発見されたともいわれる草津温泉。昔はクサズと呼ばれており、さらに語源はクサミズ。臭水と書いていたのが転じたという。硫化水素の強い匂いが水にあったため、そう呼ばれていた。草津というのは当て字で、江戸時代に定着した。

きんぴらごぼうの「きんぴら」とは……人の名前なのだ。坂田金時、別名坂田金太郎は、昔ばなしの金太郎にもなっている。彼の息子が豪傑となり大活躍する、という内容の歌舞伎が江戸時代に大流行。そこから強いもの、丈夫なものを金平と呼ぶようになり、ゴボウの歯ごたえ、強精作用に結びついて、きんぴらごぼうが生まれたという。

「お転婆」と書く「おてんば」の正体……ばあさんが転ぶわけではない。有力なのは、江戸時代に公用だった馬「伝馬」(てんま)が元気がよかったため、「お伝馬」がもとになったという説。他にも、女の子が早足で元気に歩く音「テバテバ」が擬音化したとか、さらにはオランダ語で手に負えないという意味の”Ontembaar”(オンテンバール)から来たというユニークなものまで。

イヌは「ケンケン」鳴くから犬だった……はるか昔の中国では、イヌは「ケンケン」と鳴くと表現されていた。そのため日本語でも「犬」の音読みが「ケン」だという。同様にニワトリは「ケー」となくから「鶏」(けい)、キツネは「コン」となくから「狐」(こ)となったという。キツネはコンとは鳴かないだろ！いい加減にしろ！また、猫は「ミャオ」であり、今でも中国語では猫はmaoである。

年齢を表す「才」は「歳」の略語ではない……才は川をせき止めるセキという象形文字、切った材料のことを表していた。その後は人の素質という意味に。対して「歳」は「刃物」(戌から「一」を抜いた字)と「歩」を合わせたもので、鎌の刃で作物を刈り取るまでの時間、つまり一年を表していた。戦後、歳の画数が多いため、才が便宜的に使われるようになった。

九十九里浜は実際、17里しかない……だいたい66キロしかない。ただ、現在の1里＝3.9キロというのは明治時代の基準。それまでの距離はまちまちで、本当に千葉周りの基準では九十九あったという説もある。地元には別の伝説も残る。源頼朝が、測量のために矢を放ち、99本目の矢で砂浜が終わったから、だという。

日本酒「正宗」の名前はシャレから生まれた……1804年、灘の酒造業者が「臨済正宗」にある「正宗」の文字がセイシュウと読み、「清酒」に通じるという理由で縁起を担いだ説が有力。以降、正宗という名前の酒が急増し、明治政府は酒の一般名詞としてとらえたという。

マグロは泳ぐのをやめると死んでしまう……エラ蓋を自分の力で動かすことができないのがマグロ。そのため、他の魚と違い、常に口を開けて泳いで、海水を取り込む必要がある。泳ぎを止めると酸素不足で死んでしまうのだ。その結果、睡眠をとらずに泳ぐことができるようになったが、夜間は代謝を低くして睡眠のかわりとしている。

ルームランナーはもともと拷問用具だった……英語では「トレッドミル」(踏み車)という。19世紀初め、イギリスの刑務所として懲罰として使われていた拷問器具がルーツ。中空の大きなシリンダーの外側にはステップがあり、人が手すりにつかまって歩いていた。1865年監獄法では、16歳以上の囚人はみな、最初の三か月これをしなければならなかった。1950年代にワシントン大学で心臓や肺の疾患を診断するための医療用トレッドミルが開発、現在のランニングマシンとなった。

車の「助手席」の起源……その席に助手が座っていたからだという。ただなぜかは諸説あり、一人ではエンジンがかけられなかった(スターターが助手席側にあった)からとか、タクシーの乗り降りを助けるためという説がある。ちなみに英語では”shotgun”という物騒な名前がついている。これは、ショットガンを持った用心棒が横に座っていたからだという。

結婚式で流れるあの歌、実は別れの歌だった……ボディーガードの主題歌「I will always love you」だが、歌詞を見れば明らかなように別れの歌。「愛してるけどあなたの邪魔にならないように去って行く」という悲しみを表現する。これはまさに選曲ミスだろう。

自分の芸名をオークションにかけた芸能人がいる……故・樹木希林氏がその人。もともとの芸名は悠木千帆だったが、著名な芸能人が参加するオークション番組で、自分の名前を出品。37歳の女性が2万2千円で買い取ったが、使い道には困ったという。その後「樹木が集まって稀な木をつくる」ということから、樹木希林という芸名を考え使い始めた。

「ねこふんじゃった」はロシアでは犬のワルツ……作曲したのは19世紀ロシアのピアニストであるルビンシュタインだという。世界各地で弾かれるが、日本と同じ猫が登場するのはフィンランド「ねこのポルカ」、ルーマニアの「黒猫のダンス」など。ドイツやベルギーはノミのワルツで、スペインは「チョコレート」、デンマーク「王女の足」など、意外な名前がつけられている。

「雨模様」とは雨が降りそうな様子……どうも、小雨が降っているだとか、今まさに降っているというような状態で用いられることが多いことばだが、「模様」は「催い」(もよい)という、今にもしそうなという意味のことばから派生したもの。雨模様といえば「もうすぐ雨が降りそう」という様子なのである。最近では誤用のほうが定着。

ノーベル賞に数学賞がない理由……どうも自分の恋人を数学者に奪われ(寝取られ)、その恨みでノーベルがつくらなかったから、という説がある。ただこれは単なるゴシップとも考えられ、歴史的な証拠は見つかっていない。

ゴルフのスコアに鳥の名前がつく理由……1903年から使われ出した。それまで誰もなしえなかった、ロングホールのパー(標準打数)が破られたとき、打ったボールがまるで小鳥の飛ぶように見えたため、英語の幼児語で鳥を意味する「バーディー」となった。その後、パーより2つ少ないスコアを、小鳥より強いタカである「イーグル」3つ少ないものを、ずば抜けた飛行力を持つアホウドリ「アルバトロス」と呼ぶようになったのだ。

虹の色が7色だと決めたあの科学者……実はニュートン。日本でももともと、室町時代の書物には「虹は5色」などと書かれている。ニュートンは光学も研究しており、調和がとれた7と言う数字を虹の色だとした。日本でも幕末に、蘭学を通じてこれが入ってきたため、虹は7色という認識ができた。

ホタルの光には方言がある……ちょうど中部山岳地帯が境目らしい。西日本では2秒に1回、東日本では4秒に1回光るという、方言がある。よく見かけるゲンジボタルも、同じ種なのに発光パターンが異なる。かつては遺伝子の違いという説が有力だったが、近年では温度が影響しているという説が注目されている。東西のホタルをそれぞれシャーレに入れて実験したところ、温度が同じなら、共通のパターンで光ることが明らかに。地球温暖化のせいか、中部地方では「3秒に1回」光るものも出現。

お年玉を入れる「ぽち袋」の「ぽち」とは……ぽちとは関西弁の「ぼちぼち」「ぽちぽち」のこと。少しだけという意味だ。祝儀袋ほど大げさではないが、料亭や旅館の働く人に感謝をということで、気軽に少額渡す時に入れる袋として、明治時代に生まれた。ちなみにこれっぽっちの「ぽっち」も同じ語源という。

医者の肩書きは自由だった……内科、整形外科、眼科…いろいろな科があるが、実は医師免許を持っていれば、どれを名乗ってもよい。これは自由標榜制と呼ばれ、保健所に掲げれば違反にならない。当然、眼科の医者が産婦人科を突然名乗っても、法的には問題がない。ただし麻酔科のみは別。麻酔科標榜医の資格を取る必要がある。

ピーナッツは「ナッツ」ではない……ナッツとはクルミやアーモンドなど、食用になる木の実のこと。ピーナッツはマメ科植物の落花生の実のことである。コロンブスがスペインに持ち帰り栽培が始まった。アフリカからアメリカには奴隷により運ばれ、定着。

第一回冬季オリンピックのとんでもない正式名称……もともと1924年に試験的に行われた冬季五輪だが、正式名称を「第8回オリンピアードの一部として、IOCが最高後援者となり、フランス・オリンピック委員会がフランス冬季競技連盟とフランス・アルペンクラブ共同でシャモニー・モンブラン地方で開催する冬季スポーツ大会」という非常にややこしい名称。天気に恵まれて大成功し、公式に容認された。

自分の妻を「かみさん」と呼ぶ理由……諸説あるが、昔の人が妻を「山の神」と親しみを込めて呼んでいたことというのが有力。山の神様の標識として用いられた杓子が女房の権威の象徴であることから、山の神というようになったと柳田国男は主張している。

トヨタはもともと「トヨダ」だった……創業者の豊田佐吉の名前から「トヨダ」を名乗っていた。ところが1936年、アメリカへの輸出のために英語で「トヨダ・マーク」を作成することになり、懸賞募集した結果、「トヨタ」のマークが採用。社名もかえる必要が出てきた。濁点がないほうがことばの調子がよいこと、総画数が末広がりの八になること、また、創業者の名字から離れることで、社会的企業に成長するという期待を込めた。

道路の”T字路”と”丁字路”はどっちが正しいのか……実は丁字路が正しい。それは、日本でアルファベットが普及する前から「ていじろ」と呼ばれていたから。道路交通法も丁字路と表記している。当然漢字の形が道の形にそっくりだったため、丁という漢字が用いられることとなった。

白くないのに「シロサイ」……サイにはシロサイとクロサイがいるが、どちらも灰色。唇の形が違い、クロサイは上向きの尖った唇、シロサイは角ばった唇をしている。シロサイは現地の言葉で”Widje Rhinoceros”である。この”widje”はオランダ語で「広い」という意味で、口の大きなサイということを意味。それが英語に訳されたとき、”white”になり、日本語でも同じように直訳されたのである。

「じゃがりこ」の「りこ」は人の名前だった……開発担当者の名前が「りかこ」で、彼女がおいしそうに食べているのを見て、友人が「じゃがいも」と「りかこ」でじゃがりこという名前を発案。女子高生が持ち歩けるというコンセプトでつくられ、当時としてはかなり異色だったという。

箱根駅伝はもともと「アメリカ大陸横断駅伝」の予選だった……1920年に第一回の箱根駅伝が開催当時はオリンピックで戦える長距離ランナーを育成する目的。金栗四三(かなぐりしそう)という、日本マラソンの父とも呼ばれる人物らにより計画された。当初はアメリカ大陸横断駅伝という壮大な計画が練られその予選会だった。箱根がルートになったのは、ロッキー山脈の山越えを想定していたため。

レギュラーとハイオクは何が違うのか……ノッキング(異常燃焼)のしにくさを示す尺度、オクタン価の高さの違いがある。ハイオクはハイオクタンの略で、96以上がハイオクとされている。エンジンの汚れを除く洗浄剤が添加されているのも特徴。なおレギュラー車にハイオクを入れても問題ないが、逆だと駄目だという。

アポロチョコの商標登録はアポロ11号月面着陸よりも前だった……1969年に人類初月面着陸を遂げたアポロ11号。この形をイメージしてアポロチョコがつくられたのだが、名前の登録自体は1966年。その名前はアポロ11号ではなく、太陽神アポロンだった。その後宇宙飛行計画「アポロ」に呼応し、アポロ11号をもとにつくったという。

両国国技館の土俵の下には焼き鳥工場がある……相撲界ではニワトリが縁起物だった(2本足で立ち、手をつかないから)。それにあやかり土俵の下には焼き鳥工場がある。全自動焼き機で一場所平均5万本が支給される。冷めてもおいしいように工程に工夫をしているという。ちなみに屋根から地下には貯水タンクがある。浸水地域だったためだという。

その昔、花王の月のマークは逆向きだった……今では右向きだったものが左向きになっている。上弦の月であり縁起がいいからだという。

ボウリング場のボールはプロ並みには曲げられない……ボールに回転をかけることでストライクを取ったりするシーンを見る。だが、それをボウリングで支給される「ハウスボール」で行うのは困難。というのも、プロの使うボールはウレタンなどの素材、摩擦係数が大きいものでできている一方、ハウスボールは摩擦が起きない。プロが投げてもあまり曲がらないという。

ラムネとサイダーの違い……入っている容器の違いだという。もともとは全く別の飲みものだった。日本のラムネの先駆けは1868年に長崎で売られた「レモン水」と言われ、英語の「レモネード」がなまって「ラムネ」になったという。一方でサイダーはリンゴを発酵させた微発泡の酒を意味するフランス語「シードル」(cidre)が英語読みになったものという。

新体操はそもそも何が新しいのか……リボンやボールを使って美しさを競う新体操は何が新しいのか。1930年代にソ連で誕生、女子の新しい体操の方向を示すものとして普及し、1984年ロサンゼルス五輪から女子の正式競技に。ヨーロッパでの競技名”modern gymnatics”を訳して新体操となったといわれる。

トランプのババ抜き、なぜババなのか……ジョーカーを加えるのは日本独自のルール。欧米ではジョーカーを用いない。理由は単純、このゲーム発案時、まだジョーカーは発明されていなかったから。そのかわりにクイーンを抜いて勝負するため、「婚期を逃した女性」を意味するオールド・メイドという。これが日本に伝わり、「お婆抜き」と呼ばれたようだが、いつの間にかジョーカーが加えられ、ジョーカー＝ババという認識になった。

英語はアメリカの公用語ではない……英語は連邦政府、各州政府、公的機関で使用されるが、憲法には公用語の規定がない。現在では50州のうち31州が英語を公用語としている。

車は左、人は右を定めたある人物……日本では、車は左側通行、人は廊下などを右側通行と決まっている。それまでは「車も人も左」という決まりだった。これに異議を唱えたのがマッカーサー率いるGHQで、「車は右、人は左」と安全面で提唱した。しかし全ての標識を左側通行用から右側通行用に変えるのは並大抵ではいかない。結局車に関しては左とし、人のルールを変えることで右となったのだ。ちなみに最初左だったのは、武士が刀を左側の腰に差しており、右側だと当たってしまうかららしい。世界では今90％が右だが、この趨勢をつくったのがナポレオン。マスケット銃を、左半身で構え、右手で引き金を引いたため、敵を左に回すほうが狙いやすいという理由で、左にスペースがあく右側通行を広めた。

博多どんたくの「どんたく」とは……1949年から開催されるようになったどんたく、その語源はオランダ語の”Zondag”(ゾンターク：日曜日)に由来する。一昔前の日本では土曜日の午後休日を「半ドン」と呼んでいたが、これは半分ドンタクという意味。

金メダルはいくらぐらいするのか……少なくとも6グラムの純金で銀メダルをメッキするという決まりがあるため、特殊な液体でメッキをはがすと銀メダルが出てくる。価値を算定すると、金が5万5000円、銀が3万1000円、銅は325円という。

一般人でも犯罪者は逮捕できる……逮捕状を必要としない「現行犯逮捕」に限り、老若男女、犯罪歴、国籍を問わず誰でも逮捕できる。ただ、軽微な罪については、犯人の住居や氏名が明らかでなく、逃亡するおそれがある場合についてのみ。

ジュンブライドの6月、実は挙式が少ない……ギリシャ神話のヘラ、結婚の神が守護する6月に結婚すると幸せになれるという言い伝えが、ヨーロッパにあった。雨が多い梅雨、6月に挙式するカップルが増えるよう、ブライダル業界がその伝説を広めた。しかし実際、季節がよい春や秋の挙式が多く、6月の挙式は6～8位。意外に少ないようだ。

ティーシャツは「Tシャツ」なのにワイシャツは……Yシャツではない。Tシャツはその名の通りTの字が形に似ているから。YシャツはY字だから…？というのは間違い。実はYシャツは日本独自の呼び方で、”white shirt”がなまったもの。

エレベーターの定員は体重65キロが基準だった……日本エレベーター協会によれば、一人当たりの体重を65キロとして定員を決めている。ちなみに世界的に見れば、日本の基準以外には大きく分けて欧州と北米の基準がある。欧州はイギリスに基づき、1人当たりは75キロ。北米はアメリカ・カナダに基づいて72.5キロ。

三角定規の丸い穴の用途……あの穴はまず、紙と定規がくっついて取りにくくなるのを防ぐため。穴が空いていると空気が逃げて、動きやすくなる。また、変形を防ぐ効果もある。温度変化で収縮しないようにしている。四角い穴だと角に負担がかかりひび割れの危険もある。

イスラム教徒は断食するのに太る……その理由は簡単。断食の反動で、日没から夜にかけてガツガツ食べてしまうから。肥満が深刻になっているエジプトでは、「軽い食事を」と呼び掛けているが、あまり効果はない模様。

辞書にも載っていることば「ウザイガキ」とは？……漢字で書くと「有財餓鬼」。飢えている餓鬼の中でも特に、物を食べられる餓鬼をさす。財産を多く持ちながらケチな人、守銭奴を表すこともある。

色鉛筆が削って売られている理由……その理由は簡単で、芯の色を確認するのが難しいから。一般に12色、24色とまとめて売られていることが多く、削る手間を省くという理由もある。

関西はなぜエスカレーターの右側に立つのか……諸説ある。1967年に梅田駅でエスカレーターが設置されたが、右手で手すりを持つ人が多かったため、右立ちのアナウンスした結果定着したというもの。1970年の大阪万博で、ヨーロッパの主流だった右立ちを徹底したというもの。最近では歩行禁止が呼びかけられている。

切手よりも大きいのに「小切手」という理由……そもそも小切手の切手とは、江戸時代の米切手に由来する。蔵屋敷の米が入札で売却された場合、落札者に発行した保管証書のこと。現在でいう小切手のように使うこともあった。明治時代にはチェック(いわゆる小切手)が伝わった時、米切手より小さかったため、小切手と呼ばれるように。

テニスのウィンブルドン選手権は、下着までも白……ドレスコードがある由緒正しき大会、ウィンブルドン。出場者はみな白いウエアを着用する必要がある。1884年第一回女子大会で優勝したモード・ワトソン選手が白いウエアを着ていたためそう決まったのだが、なんと下着の色まで白に統一するという徹底ぶり。ちなみにこのほか、ダブルス競技では「二人の服装の色は同じにせよ」という決まりがあるのだが、ある2人が「紺色と白の服」と打ち合わせたところ、ネガポジになってしまった。試合後に罰金を取られてしまったという。

インドの紙幣には17か国語が描かれている……インドは数千年にわたる民族移動の結果、330もの言語が国にある。方言の違いまでいれれば1652種。現在ではヒンドゥー語、英語のほか、17が公用語になっている。そのため紙幣にはこの全ての言語が書かれている。

「しょっぱい」が「イマイチ」の意味なのはなぜか……不器用で相撲が弱いという意味の、大相撲の隠語につく。負けたほうは塩がまかれた土俵に倒れるから、しょっぱい＝弱いという意味に。この隠語は力道山を中心にプロレスに転向した多くの力士により広められた。

「四六時中」はもともと「二六時中」だった……昼と夜を六つに分けていた江戸時代の時刻法に由来する。つまり、昼と夜の刻があわさって1日が12刻(2かける6)になるため、二六時中になった。ところが1872年に24時間制が採用、4かける6で四六時中となった。

とどのつまりの「とど」とは何か……動物のトドではない。出世魚のボラなのである。ボラは一般に、ハク、オボコ、イナ、ボラ、トドというように進化する。最終的にという意味で、「トドのつまり」なのだ。

ピン芸人の「ピン」とは何か……ポルトガル語の”pinta”に由来する。カルタの1の札を指し、ピン＝1の意味が定着。ピン芸人といえば「1つの芸しかもたない」という意味で、ピンからキリということばにもなった。

水泳競技に「クロール」がない理由……クロールで競うのは「自由形」と呼ばれる競技。当初は自由形しかなかったが、主流はクロール。しかし1900年に背泳ぎ、1904年には平泳ぎが独立し、1956年にはバタフライが加わった。文字通り泳法は自由だが、最も速いのがクロールなのでクロール＝自由形なのだ。

ハットトリックの「ハット」はクリケットの帽子のこと……サッカーで、1試合に1人が3点以上決めることをハットトリックというが、その由来はクリケット。クリケットは野球に似ており、1チーム11人で競う。投手が連続3球で3人をアウトにすれば、ハットトリック。これは非常にまれなこと。この記録に敬意を表し、クリケットの投手に帽子が贈られたことから、ハットトリックという名前に。

アメリカはアラスカを5セントで購入した……もともとロシアの領土だったが、1867年に皇帝アレクサンドル2世がアメリカに売却。その価格は720万ドル、つまり1ヘクタールで5セント、二束三文である。当時のアラスカは不毛の地で、購入の提案した国務長官の名前から「スワードの冷蔵庫」と皮肉られたが、まさか金や石油が眠っていることとは思わなかっただろう。

シロアリはゴキブリの仲間……アリはハチの仲間でシロアリはゴキブリの仲間と、実はまったく種類が違う。アリの祖先は2億年前に登場。シロアリは３億年前から出現。ちなみに羽アリは４枚の羽が同じ大きさなのに対し、シロアリは前羽の２枚が大きい。

「目から鱗が落ちる」は聖書のことばだった……ユダヤ教のパウロはキリスト教を迫害していたが、天からの光に打たれ失明。しかし弟子になり視力を取り戻す。ここに、「たちまち目からウロコのようなものが落ち」という表現がある。他にも豚に真珠、砂上の楼閣という表現がある。

猫舌は猫だけにあらず……そもそも人間以外の動物は熱いものが苦手。火や電気でものを調理し、温かいまま食べる人間が異常なだけ。しかし熱い食べ物を苦手とする代表が猫なのは、猫がそれだけ身近だったということ。江戸時代には猫舌ということばがあり、当時から上流階級のペット、ネズミを捕まえる家畜として飼われていた。

国道の番号はどんなルールで決められるのか……番号は１度ではなく、２回にわけてつけられた。１回目は1952年で、東京を中心に1から58番まで。国道1号は東京から大阪、2合は大阪から九州、3号は九州の北から南へ。その後、翌年に二回目。3桁の番号を用いて北から南にナンバリング。101から244までなので、59～100までは欠番。

消防車は夜ぐらいサイレンを止められないのか……なんともクレーマー気質な雑学。しかし実際、真夜中のサイレンに対する苦情は多いという。出動時にサイレンを鳴らすことは法律で決められている。道路交通法第13条、14条にも書かれており、深夜とて例外ではない。また、その音の大きさに関しても記載があり、大きすぎても小さすぎても駄目である。

バレンタインにチョコレートを渡す原点とは……日本のお菓子メーカーによる販売戦略がもと。洋菓子メーカーのモロゾフが1936年の英字紙に「バレンタイン(愛しい人)にモロゾフのチョコを贈ろう」という広告を掲載。戦後には1960年、森永製菓が「バレンタインはチョコの日」という広告を打って大々的にキャンペーン。こうして定着していったのだ。もっとも、バレンタインとかホワイトデーに無縁の人には、無用の雑学である。

柿ピーの黄金比率は6:4……亀田製菓の柿の種とピーナッツの比率は何度か変わっている。当初は7:3だったが、一時期は5:5で、現在は6:4になっている。これは消費者の声にこたえたもの。70％の人がこれを支持している。

トイレットペーパーのシングルとダブル、どっちがお得なのか……メーカーの価格はほとんど同額。シングルは1ロールで34回、しかしダブルでは21回となり、シングルのほうがお得である。

静岡を「お茶の県」になったのは武士のおかげだった……幕府の崩壊で江戸から駿府に集団移住した徳川家の家臣が関わっている。1869年に廃藩置県、廃業した武士たちは、地元の農民さえ見向きもしなかった牧之原台地に、茶畑を開墾。農業の素人だったため最初は苦戦したが、開墾の成果は徐々に現れるようになる。後年「深蒸し茶」の原型が考案され、芳醇な香りをもつ「静岡牧之原茶」が全国に広まった。ちなみにこれを提案したのは勝海舟。彼は農業の知識を商人から学んでおり、ここがお茶栽培に適していると見抜いた。江戸城の無血開城をし、徳川慶喜とともに静岡県の駿府に移住した後の話である。そのほか彼は新潟で日本最古のワイン醸造所をつくることにも貢献している。米作をしていたが、豪雪や洪水で失敗…北方村の大地主・川上善兵衛は、そんな厳しい状況を彼に報告。やせた土地でもつくれるブドウでワインをつくろうと提案。これにより善兵衛が新潟に開いたのが岩の原葡萄園である。

書類送検の「書類」は何の書類か……被害届、告訴状、告発状、犯罪現場の調書、指紋などの鑑識資料、弁護士の意見、供述調書などがある。これらが送られ、検察官たちが審議、起訴不起訴を決定する。

ゲジゲジの正式名称は「ゲジ」……ゲジゲジ。体長は3センチと意外に小さく、15対の足をもつ。ゴキブリなど害虫を退治する益虫なのだが、いかんせん見た目が気持ち悪い。毒もそんなに持っていない。その正式名称は「ゲジ」で、ゲジゲジが俗称として広く用いられるのだ。陰陽道では、天狗星が人間の食べ物を求め下界に降りることを「下食日」(げじきにち)といい、この日は悪日である。このことばとゲジゲジの不気味な姿が結びついて、ゲジと名付けられたという。

ファンタはコカ・コーラの代用として生まれた……ドイツではコカ・コーラが大人気だったが、戦時中の原材料不足で飲めない。そこでコカ・コーラボトル社は代替品としてファンタを開発。現在のファンタの味と共通する部分がほとんどない、おもに乳清とリンゴ果肉からできた果実フレーバー(無果汁)の炭酸飲料が誕生、大変な人気となった。その後第二次世界大戦が終わり、コカ・コーラ社が商標を買い取り。1955年にイタリアで販売され、ヨーロッパ全土に広まっていったのだ。

政府公表の報告書が「白書」と呼ばれる理由……その起源はイギリスにある。政府が公表する報告書の表紙が白いことから、「ホワイト・ペーパー」と呼んでいた。これを直訳し、白書としたのだ。日本初の白書は1947年の「経済白書」だが、表紙に白書の文字は記されていない。経済白書ということばは1951年にはじめて登場した。

オーケストラの音合わせにオーボエが使われる理由……弦楽器に比べ管楽器はピッチが揺れ動かない。さらにオーボエは、管の抜き差しによりピッチを調節することができず、他の楽器に合わせられない。音が響きやすいという理由もある。442Hzのオーボエが使われるのはそのためなのだ。

空の上は地上よりも酔いやすい……低酸素状態になるため、アルコールを分解するのが遅くなる。酒の効果は約2倍にまで強まるため、酔いやすくなるという。

牛乳パックの容量が中身の牛乳より小さい不思議……計算すると950ミリリットルと、実は1リットルという内容量よりも小さい。側面部が膨らんで、正方形の断面が円形に近付くためである。このように設計された牛乳パックのあの形を「ブリックパック」という。

曲の「さわり」とはどこのことか……答えは「冒頭」ではなく、「サビ」の部分だ。浄瑠璃の代表的な流派である義太夫節の中で、一番の聞かせどころをさす用語が、さわり。現代風にいえばサビなのである。

「別腹」は存在する……デザートは別腹なの、ということばがあるように、別腹というのは実際にあるのだそう。まず心理的に、同じ味のものを食べると満腹感が出るため、甘味を感じた瞬間に食欲が蘇る。それから実際に空きスペースが誕生するというもの。満腹でも、おいしそうな食べ物を見ると胃が活動し、食べ物を小腸に押し込む。いったいどういうことかというと、実際の「満腹」と、脳が感じる「満腹」は違うのだ。「もう食べられない」と理性的な指示を出すのは脳の「満腹中枢」だが、逆に「食べたい！」と煽るのも脳の「摂食中枢」だ。このため、胃袋はいっぱいの状態であっても、摂食中枢の働きが満腹中枢の働きをかき消してしまえば「食べようぜ！」という指示通り動かざるをえない。また「パフェはおいしい」「飲んだあとのラーメンはうまい」という経験によってこれは強化され、毎回入ってしまう。別腹をつくる働きをする「オレキシン」は、血糖値が低いと分泌されると思われていたが、最近の説では「うわ。おいしそう！」と思うと同時に分泌されるものらしい。「食べたい」と思っただけで、「それなら、ここにどうぞ」とスペースを作ってくれるなんて、実に都合のいいシステムだ。だが健康にはあまりよくない。別腹をそもそも登場させないぐらいでおさめておくのがちょうどよい。

演歌における「こぶし」の起源……拳を握りながら歌うということではない。もともとは長唄や民謡などの伝統音楽の歌い方で、「小節」という漢字があてられていた。基本となる旋律の真ん中に装飾的な細かい節を入れる技法。これが演歌に取り入れられたという。世界中の音楽に見られるが、共通して言えるのは幼少期からの訓練がモノをいうということ。後天的にこぶしを手に入れ、人を感動させるというのは結構難しいらしい。

ビール大瓶はなぜ中途半端な633ミリリットルか……これは1940年の酒税法によるもの。当時のビールメーカーは、ビールの容量を統一するため、使われていた大瓶の容量を調べた。最大で3.57合(643ミリリットル)、最小で3.51合(633ミリリットル)だった。そこで、一番少ないものに合わせれば、それよりも大きい瓶も使えるということで、633ミリリットルが採用。

カーネル像は日本だけにしか置かれていない……KFCが日本に上陸したのは1970年代。当時日本人にはなじみのないフライドチキンをなんとか広めるため設置。本人もこの像をたいへん気に入っていたという。

女性の声はなぜ「黄色い」のか……仏教のお経に由来するという説がある。中国から朝鮮を経由して仏教が来たわけだが、当初お経にはメロディーがあり、どの箇所を高くしたり低くしたりを示すため、お経の横に色で印がついていた。一番高い音が黄色だったからだとする。他にも、江戸時代末期に色で声を表現するのが流行したという説もある。

飛行機事故の生還率、エコノミークラスの方が高かった……飛行機事故が起こる確率はめちゃくちゃ小さい。1日に1回飛行機に乗っても、2万1000年以上かかる計算になる。しかし万が一を考えるなら、エコノミークラスのほうがお勧めだ。ファーストクラスは49％、ビジネスクラスで56％、エコノミークラスで69％だった。これは飛行機の前部か後部かという違いである。運賃が高いほど生存率が低いのは皮肉なものだ。

オシドリ夫婦実は仲良くない……仲睦まじい夫婦を「おしどり夫婦」と呼ぶが、一夫多妻で知られるのがオシドリ。夫婦関係が続くのは交尾期間の半年足らず、一年ごとにパートナーも変わる。春秋時代、深く愛しあいながらも悲劇の生涯を送った夫婦の墓を守る木の上に、「鴛鴦」(えんおう)、つまりオシドリのオスとメスが鳴き続けたという故事に由来する。

アラビア数字はアラビア起源ではない……古代インドにある。もともとは古代インドの数詞を省略するためにうまれたが、アラビア商人たちがインドとの商売でこれを使い、世界中に広めたという。ゼロを導入することで位取りが可能になったのがすごく画期的。

ドイツ国歌が3番だけしか歌われない理由……歌詞の内容にあるようだ。1番はドイツ語文化圏の統一を願う内容が、ナチを連想させるため。2番はドイツのワインと女性のすばらしさを歌っているが、ことば遊びに終始しているため。3番は「統一と正義と自由」に基づく幸福を歌っており、東西ドイツ統一を願う国民の思いにピッタリ。

「けりをつける」は「蹴り」ではない……過去・詠嘆の助動詞「けり」である。和歌や俳句のようにシメでけりをつけることから転じたという。ちなみにけりをつけるのは自分だけで、かたをつけるのは他人と自分。

豚の貯金箱が定番になった理由……14世紀イギリスで陶器は”pygg”という粘土で作られていた。19世紀ごろ、イギリスの陶器職人に「pyggの貯金箱をつくってほしい」という依頼があったが、これをブタと勘違いしてつくったのがきっかけだという。日本では江戸時代につくられるようになった。ブタは多産の象徴で縁起がよかったからだ。ちなみにイスラーム圏では、ブタは不浄なので普通の貯金箱。世界的にも豚が最も多いらしい(世界62か国、13000の貯金箱をもつ「世界の貯金箱博物館」によると)。

シュウマイの上にグリーンピースが乗っている理由……1967年、学校給食用のメニューを企画するなか、ショートケーキのような見た目を楽しんでもらえるようにのせたのがきっかけだという。当時はグリーンピースの輸入量が増えた時期でもあり、瞬く間に広がった。他にも個数を数えやすくするため、とか、蒸し具合を確かめるためという説もある。

リンカーンのあのセリフ、実はリンカーンが考えたものじゃなかった？……「人民の、人民による、人民のための政治」が有名だが、これはオリジナルではないという説がある。1384年、ウィクリフという宗教家が発行した聖書の序文に書かれていた…。その後牧師のセオドア・パーカーが引用し、これを孫引きした形でリンカーンが使用した、というのが「実はこうでした」という真相だという話だが、そんなことはない。ウィクリフの古英語で書かれた著書の中にはそんなことばはない。

中国語で「愛人」は正式な配偶者のこと……古代中国で生まれた漢字は遅くとも5世紀には日本に来た。その後、中国語と日本語は独自に発達。全く意味が異なる同形異義語が生まれることとなった。その一つが愛人(ai ren)で、中国では正式な妻を意味する。他にも「老婆」は中国では「妻」のくだけた表現になるし、挨拶はなんと拷問という意味だという。

沖縄県民としりとりするとややこしくなる……2001年刊行の「沖縄語辞典」によれば、「ン」ではじまることばが143個もある。ンで終わったのにしりとりが終わらないということがありえるわけだ。

「弱冠18歳の女性」は誤用だった……「礼記」がかかれた中国では20歳を「弱」といい、この年齢になった男性は冠を被る、いわば日本でいう元服のような慣習があった。そこで20歳の男性を「弱冠」という。最近では20歳前後の若い男性をさすこともあるが、女性や30歳の大人に使うのは的確ではない。特にほめるニュアンスもないので、むやみに使うのは控えて差し上げろ。

鳩の漢字に隠された「九」の秘密……その鳥の鳴き声を表すものが漢字には入るという。つまりハトの場合、「ク」と鳴くから、鳩と書くのだとか。「ハト」というのは飛び立つ「ハタハタ」という音から。他にもカモは「鴨」と書き、コウと鳴くから、カラスは「鴉」と書き、ガと鳴くからなどいろいろある。

遅く生まれたのに「早生まれ」の理由……辞書によれば「1月1日から4月1日までに生まれた子ども」が早生まれ。これは、同じ年度の中で比べるのではなく、同じ年の中で比べるから。そもそもこのことばは「数え年」という考え方から生まれたことば。ところが1950年に、年齢を満年齢で表すように制定され、意味もわかりにくくなったという。

リンカーン大統領は、少女の助言でヒゲを生やした……11歳の子どもから手紙をもらったという。「あなたのお顔はやせすぎなので、ヒゲを生やしたほうがいいと思います」という内容。これに従いヒゲを伸ばし、イメージアップのためか見事当選。米国で初めてヒゲのある大統領となった。

回転寿司が時計回りになっている理由……その理由は右利きが多いから。右手で箸をもつため、左手の方が取りやすいはず。また、左手で取る場合、好みのものかどうか判定する時間が、右回りのほうが長いのである。利き目の多くが右だからという理由もある。

「東京音頭」はもともと「丸の内音頭」だった……今も盆踊りの定番になっている東京音頭。1933年に発売され、レコードは120万枚を超える売り上げ。丸の内界隈を活性化させるために生まれたご当地ソング「丸の内音頭」を改変し、これになったという。

缶コーヒーの「微糖」「無糖」「甘さ控えめ」の基準……100ミリリットルあたりの糖分量で決まる。まず2.5グラム以下が微糖。無糖は0.5グラム以下。甘さ控えめには特に基準がなく、メーカーが決めてよい。

父親思いの娘がつくった「父の日」……母の日が誕生したのは1909年だが、母の日があるのに父の日がないのはおかしい！と疑問を抱いたドット夫人。父の誕生月である6月、教会の牧師に礼拝を頼み、これを機に「父の日」制定となった。彼女の母は、父が南北戦争に行っていた苦労がたたり、6人の子どもを残し亡くなっていた。父はその後再婚もせず、子どもたちを働き通しで育て上げた。そんな感謝の思いがウィルソン大統領に届いて1916年に父の日制定、1972年には国民の祝日となった。ちなみにアメリカや日本では6月の第3週だが、台湾では「88」が「パパ」と同じ発音なので、8月8日が父の日である。

木星や土星の1日はわずか10時間……水星の場合は自転周期が地球時間でいう59日。金星は1日が1年よりも長い。一方で木星や土星は、自転が非常に早く、10時間で1日が終わる。

ボジョレーヌーボーの解禁日はなぜ11月第3木曜日か……もともとは11月11日だった。そもそもボジョレーヌーボーは、フランスブルゴーニュ地方南部のボジョレー地区でつくられた地酒。この地区でもっともはやい収穫のワインが11月11日。その後いったん15日に移ったが、この日が土日だとワイン運搬業者が休めない。そこで1984年、フランス政府が11月の第3月曜と定め、今に至る。

ニワトリは順番を守って「コケコッコー」と鳴いていた……非常に社会的で、階層化された動物。オスは強い順に序列を決め、エサを食べたり交尾をしたりの優先権が与えられる。ニワトリは体内時計で鳴くのだが、トップのオスはそのタイミングを決める優先権ももつ。順番はちゃんと決まっているようだ。

寿司屋の湯呑み茶碗があんなに大きい理由……これは屋台のころに始まったサービス。屋台では一人で職人が切り盛りするため、できるだけ茶のおかわり回数は減らしたい、という苦心の結果。お茶が出るのは、ネタの油を熱いお茶で一度洗い、次の寿司を新鮮に味わってもらうためといわれる。そのため冷たいお茶も出ない。

「シカトする」の語源……花札の10月の絵柄の「シカ」に由来する。この鹿はそっぽを向いており、またこの札が10点なので「シカのトオ」略して「シカト」。もともとはばくち打ちの隠語で「無視する」という意味だったが、1955年あたりから若者の間で使われるように。

お年玉はもともと「餅」だった……昔は年始に新年の魂を神様にもらうとされていた。それを象徴するのが餅。年神様が、依り代である鏡餅にとりつくと、そこに「御霊」が宿る。その年の魂「年魂」(としだま)になった鏡餅を、家長が「御年魂」として分け与えたのがはじまりなのだ。江戸時代にはすでにこの風習があったが、その後品物やお金も渡すように。

工事現場の「安全第一」の起源……1906年にアメリカで誕生したもの。製鉄会社USという世界規模の会社。ゲーリー社長はそれまでの経営方針であった「生産第一、品質第二、安全第三」を、「安全第一、品質第二、生産第三」に改めたのだ。不況の中この選択は大きな批判を生んだが、製品の品質が上がったことで生産高も向上。不況からいち早く脱出したのだという。

野球殿堂に「正岡子規」が入っている理由……彼は学生時代から野球に熱中。野球を題材にした俳句や歌も残っている。それだけでなく「打者」「走者」「死球」などの用語もつくって、日本野球の創成期に大きな影響を与えたという。

野球の三振が”K”の理由……スコアブックには、三振は「Ｋ」と表記される。これはアメリカで始まったことで、1861年にスコア記入方式を創案したヘンリー・チャドウィックが定めた。”Strike out”なので”S”でもよさそうだが、これだと「犠打」(Sacrifice)や「盗塁」(Stolen base)もあり紛らわしい。Strike outの中で最も目立つ”K”が採用されたのだ。

約55年かけてゴールしたマラソン選手がいた……日本が初めてオリンピックに参加したのは1912年。ストックホルム五輪のことだった。短距離走の三島弥彦選手、そして日本マラソンの父である金栗四三。金栗選手は当時の世界記録を27分上回るペースの記録を予選で出していたが、本選は予想外の暑さでダウン。途中棄権。記録上は行方不明と扱われ、「消えた日本人」として注目された。その後、ストックホルム五輪の55周年式典に招かれた彼は、「54年8か月6日5時間32分20秒3」かけてゴールテープを切った。

開会式の「ハト」が焼き鳥に？……オリンピック憲章にはあらゆる規定が成文化されているが、その中にはかなり細かいことまで記載されている。例えば閉会式や開会式については、「開会式でのオリンピック組織委員長の祝辞は最大で3分」とか、「聖火への点火に続き、平和を象徴するハトを飛ばす」とか。そんな中、1988年のソウル五輪の開会式で、聖火台点火より先にハトが放たれてしまい、聖火台にとまって炎に。焼き鳥が完成したのだ。

ビル入口の足元の「定礎」とは？……定礎株式会社の略であるというネットジョークが有名。あれは、西洋建築のコーナーストーンに由来する。建物の基準になる礎の位置を決め正確に建築するためのもの。明治時代にはじまったという。今では正面玄関近くに配置するのが普通。建設当時をしのぶタイムカプセルも埋め込まれている。新聞や設計図、写真などが入っている。

人間よりウサギが多い島がある……広島県竹原市から船で12分、大久野島がそれである。かつて毒ガス工場があり、地図から消された島とも言われていたが、現在では瀬戸内海国立公園に指定。2010年で26人が住んでいる。そして人口の30倍以上、700羽のウサギも生息。かつて小学校で飼われたものが野生化したと考えられている。

日本一人口が少ない自治体は東京にある……しかもベスト3が全部東京。一位は青ヶ島村。人口は2015年現在167人。第2位は利島(としま)村で307人など。

サッカーがきっかけで勃発した戦争がある……サッカー戦争というのがそれ。1969年には、エルサルバドルとホンジュラスの間で起きた。ワールドカップメキシコ大会の出場権をかけた両国が対戦したことがきっかけとされるが、あくまで導火線の一つに過ぎなかった。もともと国教、移民、貿易摩擦で長年にわたり緊張状態が続いていた。しかし、国民のサッカー熱を利用したという側面も否定できない。

愛知県に伝わる「便所開き」の謎……家などを新築した際、トイレで茶を飲むという風習が、稲沢市の南部を中心に残っている。これは便所開きと呼ばれ、近所の人や知人を招き、一人ずつ抹茶とお菓子を食べるもの。便所の神様に感謝する、健康保持を願うなど、理由は様々。当然ながらトイレをそこで済ませるのはNG。近くのトイレを借りて用を足すという。

キリンは世界一血圧が高い生き物……人間の最高血圧はせいぜい健康体で120mmHgである。しかしキリンの場合、心臓に近い所では260mmHgにもなる。その理由は当然首の長さ。血圧がないと、頭まで血を送れないのだ。

数字の7はなぜラッキーナンバーなのか……旧約聖書の「神は世界を7日で造った」という記述から、7が完全とされるようになった。さらに新約聖書では神聖視され、幸運を招く数字に。また1885年、メジャーリーグの試合が起源という説もある。優勝をかけた大事な試合、ホワイトストッキングスの選手が7回に打ち上げたフライが、強風にあおられホームラン。ラッキーセブンということばが流行したそうな。

法廷のイラストを描くのはいったい誰か……日本の裁判では裁判長の許可を得ない写真撮影は禁止。しかし我々が知りたいのは被告の表情、態度。そこで、「法廷画家」が採用されている。法廷画家になるための知識はいらない。各新聞社やテレビ局がオーディションを行い、似顔絵がうまいか、速く正確かどうか、などを基準に、漫画家やイラストレーターを採用。絵が得意な社員が担当するケースもあるという。

モミジを眺めるだけでなぜ「紅葉狩り」なのか……自然の中で季節の花や植物を求め、美しさを鑑賞することを古くから「狩り」と表現する。潮干狩り、蛍狩り、キノコ狩りなどだ。紅葉狩りもその一つ。歴史は古く、7世紀ごろに貴族たちがやっていたのが、江戸時代に庶民に広まったからだそう。

「雷は金属に落ちる」は間違い……避雷針が金属でできているからそう思い込みがちだが、実は違う。雷は周囲よりも高い所に落ちる性質があるので、すぐに屈もう。時計などを外す必要はない。

家に引きこもるだけの祭りがある……それが鎌倉時代から600年以上にわたり岡山県新見市で行われる「かいごもり祭」。1332年、配流された後醍醐天皇が国司(くにし)神社で休息したところ、地区の男性たちが警護のために神社に集まり、女性が家に篭ったのがきっかけ。かいごもりとは「みんなでこもる」という意味。宮司が行う儀式の最中に物音がたったり火事が起こったりするとよくないということで、住民は物音や火の気をたつのだという。

女性が排卵する卵子は人生でわずか400～450個……誕生時に蓄えられる卵子は200万個であるが、初潮を迎えるまでは卵巣の中で眠り続け、その半分はほとんど成長が止まり、残りも自然に減少する。思春期には30万個にまで減り、その後も1か月に1度の周期で約1000個ずつ減少。結局女性で排卵されるのは400～450個という。

沖縄県民は大分県民の4倍トイレットペーパーを消費する……日本人一人当たりの年間消費量を調査したところ、年間で50ロール、月で4ロールを消費していたことがわかった。また都道府県別では、トップが沖縄で6.19ロール、ビリが大分の1.5ロール。つまり4倍もの差がある。

フィリピンには「離婚制度」がない……バチカン市国をのぞいてただ一つ、フィリピンのみがない。互いの合意のうえで離婚届を出しても、成立することはない。裁判所に「婚姻無効」の申し立てをし、認められる必要があるのだ。フィリピンはカトリック教徒が8割以上。カトリックは離婚が禁止なのだ。宗教と結婚を結び付ける考え方から、婚姻制度の導入に反対しているのだ。

ちやほやするの「ちやほや」とは……10世紀平安時代にまで遡る。時の天皇一条天皇の中宮で関白藤原道隆の娘、中宮定子が読んだ和歌に、「みな人の花や蝶やといそぐ日もわが心をば君ぞ知りける」(みんなが花だ蝶だと浮かれている日も、あなただけは私の心を知ってくれているのですね)というのがある。この「花や蝶や」が「機嫌を取る」と言う意味になり、江戸時代に「蝶や花や」と入れ替わり、ちやほやとなったらしい。

パソコンの「バグ」は本当の虫だった？……マシンの内部にひっかかっていた蛾が原因でプログラムが動かなくなっていたという、黎明期のハーバード大学でのエピソードがもと。以降、虫を意味する”bug”が、プログラムの異常動作を意味するようになった。ちなみに”debug”(デバッグ)は「虫取り」という意味。…以上のエピソードはジョークの一つであり、実際の歴史ではない。1870年代、トーマス・エジソンはこう書いている。”It has been just so in all of my inventions. The first step is an intuition, and comes with a burst, then difficulties arise—this thing gives out and [it is] then that "Bugs"—as such little faults and difficulties are called—show themselves and months of intense watching, study and labor are requisite before commercial success or failure is certainly reached.”(それは私の発明の全てにおいて問題であり続けた。最初のステップは直感で、続いて爆発的な作用が起こる。そして困難…bugsという、小さな失敗だとか困難…がやってくる、以下略)と。bugという専門用語はCOBOLを開発したエンジニア、グレース・ホッパーにより使われはじめた。彼女はハーバード大学での業務に携わっていた時、一匹の蛾が真空管の中に入っていたのを見た。これを注意深く取り除くと「バグ」は消え、これがbugの語源になった…というものだが、実際は彼女はその「バグ」(蛾)を見つけていない。しかし彼女はこのエピソード…ジョークをいたく気に言い、話しまわっていたという。

「ベーゴマ」はもともと貝でできていた……ベイブレードというおもちゃは現在子どもたちに大人気。コマを回転させて対戦するものだ。これはベーゴマを現代風にアレンジしたもの。ベーゴマは平安時代、ばい貝の貝殻に砂や粘土を詰めて、ヒモで回して遊んだのが起源。名前も「バイゴマ」だったが、これがなまって「ベーゴマ」に。明治時代には貝が鋳物になったが、裏の渦巻き模様は貝のころの名残。子どもたちがコマを強くするため、角が生まれたという。

「ずぼん」とはくから「ズボン」なのか……違う。フランス語で女性用下着を意味する「ジュポン」に由来するという。さらに語源を遡るとアラビア語「ジュッパ」(ゆったりした服)にたどりつくが、これがポルトガル経由で日本に伝わったのが「襦袢」だった。

エイプリルフールに嘘をついていいのはなぜか……最も有力説は、1564年にフランスで太陽暦に変更した際、新年を春(3月25日～4月1日)から1月1日に変更することに反発した人達が、「ウソの新年」と騒いだのがきっかけだという。他にもインドのお坊さんは3月の終わりまで修行をするのに、4月1日にはもとに戻るからとも。大正時代に伝わったという。

チューリップとは「ターバンに似た」花？……チューリップとはトルコ語でターバンを意味する「トゥルバン」が起源。1554年、オスマントルコ駐在のオーストリア大使によりヨーロッパに伝わった際、通訳がトルコのターバンを引き合いにしたところ、花の名前と勘違いされ、今にいたるという。日本への伝来は1861年ごろ。

母の日にカーネーションを贈る理由……1908年、ウェストバージニア州の教会で、日曜学校の女性教師ビージャスが、母親の命日に、感謝をあらわす礼拝を行ったのがきっかけ。このとき、母が好きだったカーネーションをささげたことがきっかけだという。また、母を亡くした人は白いものを、健在な人は赤を胸に飾るのが本来の習わしだが、現在では赤いものが主流。

雨が少ないボツワナの通貨単位は「雨よ降れ」……南アフリカやジンバブエが隣にあるボツワナ。内陸国で年間平均降水量はわずか300ミリ。そのため国旗はライトブルーを地色とし、水や雨に対する国民の渇望を象徴。1976年以降、「プラ」が通貨単位だが、これはツワナ語で「雨よ降れ」を意味するという。

「ボイコット」の語源は人名……イギリス陸軍大尉チャールズ・ボイコット。彼は退役後、アイルランドの土地管理人だったが、1880年に地代を値上げ、小作人たちは彼を組織的に排斥し始めた。その結果財産を没収、命からがら逃げてきたが、この事件が当時の新聞で報道され、「ボイコット」(boycott)となった。

スペイン南部に住む「日本さん」たちの正体……スペイン南部、コリア・デル・リオという人口3万人ちかくの町には、”Japon”(ハポン)という、日本という意味の名字の人達が600人もいる。1613年に伊達政宗が部下の支倉常長(はせくらつねなが)をイスパニアとローマに派遣した「慶長遣欧使節団」に由来。この使節団は国王フェリペ3世に迎えられ、法王にも謁見。一説によると、その時に帰国せず、とどまった人の子孫が、名字をハポンに変えて帰化したという。ちなみにハポン姓の彼らに伝わるのが独特の稲作技術。ヨーロッパの稲作といえば、もみをじかにばらまく方法なのだが、この地域では日本と同じように苗床をつくる風習がある。ヨーロッパのどこでも見られない風習だ。使節団の残留者が教えたのだろう。さらにいえば、ハポン姓の赤ちゃんたちにはみな、蒙古斑があるという。日本の外交史に大きな足跡を残しているのに、歴史の因果で長らく表舞台に出ることがなかった使節団だが、現在も研究が進められている。

ツイッターのつぶやきが140文字の理由……それはSMS(ショートメッセージサービス)の文字制限に由来する。SMSの文字制限は160文字。そのうち20字はユーザー名の表記に、残りがメッセージ用になった。ただし英語も日本語も同じく1文字なので、日本語のほうがより情報量が多い。

ジグゾーパズルが生まれた理由……1760年代のヨーロッパ、子どもたちに「国境線」を教えさせるために生まれたもの。当時は戦争が激しく、国境線が何度も変わっていた。子どもたちに普通に覚えてもらうのは難しいので、ゲーム感覚で覚えられるようにしたのだ。

「しゃぶしゃぶ」の語源……しゃぶしゃぶは大阪の老舗「スエヒロ」が1957年に発案。女性従業員が雑巾をたらいで洗っているのを見て、着想を得たという。

曲のサビの「サビ」の語源……なんとワサビだとか。寿司にワサビをいれることを「サビを利かせる」というように、音楽の一番の聴かせどころを「サビ」というように。

歩行者用信号のデザイン変更……1つは、人物の周りを赤や青で光らせていたのを、最新版では逆に背景を黒くし、人物が浮き出るようにしたこと。もう1つは、人物を太らせ、見えやすいようにしたこと。

ランドセルが分厚い理由……1つには教科書や文房具など、たくさんの教材を入れやすくするため。そしてもう1つは、後ろ側に転んでもケガしなくて済むように。直接頭を打つことを防いでいるのだ。

爆笑は一人ではできない……本来は「大人数がどっと笑う」というのが爆笑。スタジオが爆笑！は正しいが、「昨日このネタみて爆笑したわwwww」とは言えない。1人の場合は大笑いというのが正しい。

横断歩道のとある工夫……実は前のものと比べ、縦線がなくなっている。これは水はけを良くするため。ラインにより水がさえぎられ、溜まって車がスリップするのを防いでいる。

湯飲み茶碗に取っ手がない理由……コーヒーカップやティーカップにはあるが茶碗にはない。というのも、熱さを手で握って確認するためである。日本茶の多くは60度が適正な温度。湯呑みを触って人肌程度ならちょうどいい。なぜティーカップに取っ手があるかというと、その当時、お砂糖がものすごく固くて溶けにくく、カップをしっかり支えて混ぜる必要があったためという。

無人パーキングが精算済みの車を見分けられる理由……かつては入場時に出てくるチケットを受け取り、出る時に料金を払うのが一般的だったが、これにより渋滞が生じる。そこで、パーキングを出る利用者が、車に乗り込む前に精算機で支払いをすませる新しい形のものが登場。入口に設置されたカメラがナンバーを読み取り、入場時間と車両情報を記録している。出口のカメラが再びナンバーを読み取って、精算済みだとわかったときのみ、ゲートバーが上がる。

ティーカップの受け皿「ソーサー」の意外な用途……17世紀のヨーロッパ。現在よりも底が深いソーサーが用いられていた。カップを置くだけでなく、ここに飲み物を注いで冷まして飲んでいたのだ。カップの底にたまった茶殻、豆かすが口に入るのを防ぐ役割もあったという。

選挙にまつわる隠語あれこれ……候補者が先頭に立って、商店街を練りあるくパフォーマンスは「桃太郎」。朝の通勤時間帯に演説や挨拶をすることは「朝立ち」。候補者がのる選挙カーは「宣車」。また、その車にのってアナウンスする女性は「ウグイス嬢」、それに対し男性は暗い色のスーツなので「カラス」など。当選直後から「鬼」と化す政治家もいる模様。

国会議事堂の「議員食堂」が議員におこなう「ツケの回収」……選挙が行われると3分の1の議員は交代する。議員食堂ではツケが効くが、議員バッジを外して去って行く議員から代金をもらい損ねては大変。そこで、選挙前に食堂の職員が慌てて回収しに回るのだ。未払いのままいなくなった議員はいないという。

スーツのポケット上部のフタの役割……あそこは「フラップ」(翼)と呼ばれる部位で、中に入れるのは間違い。実は雨よけのためのものなのだ。フラップが初めてついたのは17世紀末フランス。市民の間で流行っていた、もともと軍服のカザクという上着に、雨水を避けるための水除けとしてついた。礼服やタキシードには無いことも多い。

ユーロ紙幣に描かれた架空の建物の理由……7種類全ての表面に建物、裏には橋が描かれている。これは国を特定しないという意味をこめてのもの。

スーパーやデパートの天井にある、天井と垂直なガラス板の理由……このガラス板は「防炎壁」といい、建築時法の施行令で設置が定められている。火災がおきると煙は天井を這うように動くが、この壁があると煙の拡散を防げる。その時間でみんなを避難させるのだ。

コンビニがレジ袋に対して行った「エコ」……実はビニール袋を薄くしたのだ。セブンイレブンでは1999年から行っており、これによってビニールの消費量を4分の1カットできたという。

電源プラグの差し込み歯に空いた「穴」の理由……丸い穴が空いている。これはコンセントにプラグを刺した後、奥の突起にひっかかって抜けにくいようにするためだ。名前を「ポッチ」という。

実印や銀行印に「さぐり」がない理由……さぐりというのは捺印の際に上下をわかりやすくするための、くぼみのこと。認印にはよく彫ってあるが、大金が動く契約をするときのハンコにはない。というのも、一度「間」をつくることで、本当に印鑑を押してよいのか、再度確認させるためなのだ。

サッカーにおける「グリーンカード」……イエローカードは警告、レッドカードは退場。そしてグリーンカードはフェアプレーの際に出る。相手選手がケガをしたとき、手を貸すなど、助け合いの精神の大切さを伝えるためのカードなのだ。日本では2004年から、12歳以下のサッカー大会で導入されている。

サッカーボールが白黒になっていた理由……1950年代までは白や茶色一色だったが、1960年代の世の中の状況に合わせ、白と黒の二種類となった。その理由は白黒テレビでもわかりやすくするため。無地のボールだと見えにくかったのだ。現在ではカラーテレビなので、緑の芝に同化しないカラフルなものが売られている。ちなみにバレーボールのあの模様は、回転がわかりやすいという理由のようだ。

革靴がタブーでエナメル靴が良い理由……西洋のパーティや式典では、男性はエナメル靴を履く必要がある。革靴を選びそうだが、これは女性に対して失礼と言うことでタブー。というのも、革靴に塗る靴墨が、女性のドレスを汚してしまう可能性があるからだ。

デパートの1階に化粧品売り場がある理由……化粧品は匂いがきついため、2階より上だと空気が充満してしまう。1階という出入りの激しいスペースで売れば、定期的に外に匂いが逃げて、換気が楽なのだ。ただし最近は空調設備の向上で、2階以上に置かれる例も多い。

タバコと飲み物の自販機の違い……タバコの場合は取り出し口を押すが、飲み物の場合は引く。なんとなく引く動作が面倒だが、これはゴミが内側に入らないようにするため。清潔に保てるように考えられているのだ。

「寝耳に水」の「水」は何の水か……これ、耳に水が入るという意味ではないのだ。洪水のことを指している。洪水の被害は昔から多く、寝ている人が洪水を聞いてびっくりして飛び起きたということから、これが生まれた。

ホストクラブでシャンパンが売られる理由……ウイスキーや焼酎もあるが、売り上げの70％を占めるのがシャンパン。オシャレで女性に好まれるという理由もあるが、もう一つ、炭酸なのでボトルキープができないというのが大きい。必然的に新たな注文が入りやすくなるのである。

自販機に貼ってある「住所」の謎……これは緊急通報用のためのもの。事件や事故があったとき、どこで起きたのかを確認することができる。ここを読み上げるだけで済むのだから早い。通報のさいはまず自販機を調べてみようという、かなり有用な雑学である。ちなみに自販機はほとんどが183センチなので、不審者がどれぐらいの高さか比較してわかる。ちょうど導入され始めたとき、日本の軒先がそのぐらいの高さだったからだという。京都では景観を損ねぬよう、わざわざ茶色に塗っている。

首相官邸の巨大な池の用途……2002年に新築されたときに、危機管理センターと共に備えられたのがこの池。実は10分もたたないうちに水を全部抜くことができる。下はヘリポートになっており、ヘリが着陸できるのだ。ただ屋上にもヘリポートはあるため、そっちが使えなくなった時の緊急用ではある。

沖縄でバックアップを取る会社が集中している理由……100社以上のデータが沖縄にバックアップされている。というのも、沖縄県は地震が少ないから。さらに停電が起きても数日間は稼働でき、震度6以上の地震にも耐えられる。津波のために海抜40メートル以上の場所に設置。まさに万全の体制である。

水道のレバーが「下げると出る」から「上げると出る」になった理由……一つはレバーの劣化で水が出っぱなしになることを防ぐためなのだが、もう一つはものが落ちてレバーにぶつかっても水が出ないようにするため。阪神淡路大震災のときに、上から落ちたものがぶつかってレバーが下がり、水が出っぱなしになった。集合住宅では漏水が起き、一戸建てでも水があふれた。それを防ぐため、2000年に規格が変わった。

日本酒をつくる「杜氏」(とうじ)が食べてはいけないもの……酒を仕込むのは10月から4月までなのだが、この時期に絶対に食べてはならないのが「納豆」。これを食べると納豆菌のせいで酒造りに支障が出るとされている。実際に失敗したという例はほとんどないらしいが、現在でも納豆を食べないしきたりが残っており、ある種のゲン担ぎになっている。

がん細胞を発見する犬……アメリカでは十数年ほど前から、犬の嗅覚でがん細胞を発見する研究が行われてきた。どうにも匂いがあるとは想像しにくいが、犬なら嗅ぎ分けることができる。日本にも特訓中の犬がいる(2008年現在)。訓練は簡単で、4つに健康な人の息が入ったパック、1つをがん患者の空気の入ったパックを用意して、5つから選ぶのだ。早期でも嗅ぎ分けられる。

五重塔や三重塔が建てられた目的……法隆寺の五重塔、京都・東寺の日本最大の五重塔など、全国にたくさんあるこいつらは、実は住居ではない。中に入っても軒を支える仕組みもなければ床もない。お墓なのだ。釈迦の骨をここに保存しておく。住居ではないため、階を区分けする必要もない。高い塔にしておけば、仏閣に足を運ばずとも参拝できる。どこから拝んでもよいよう、4面が全て同じつくりなのだ。

戦後初のベストセラーは「英会話」の本だった……1945年9月に発売され、わずか3か月で350万部を達成した。「日米会話手帳」という英会話の本で、「これからの日本人には英会話が必須」と考え出版。日常で頻繁につかうことばが記載されている。実際に外国人とのコミュニケーションに一役買ったそうだ。

江戸時代の「キス」の遠回りな言い方……確かに「口吸」とか「接吻」という表現はあったが、そういう性的な表現はだいたい比喩的に表現される。実は「刺身」と呼んでいたという。刺身の赤身の色が、唇の色に似ていて、柔らかな感触がキスを連想させたため。

ペットボトルは缶よりも保存性が悪い……大きな理由の一つに、まず光を通す。光酸化により、例えばお茶のうまみ成分テアニンが、苦さのもとになるカテキンとなる。そしてもう一つ、粒子レベルで空気が入ってしまう。樹脂には一日あたり0.033ミリリットルという酸素透過量がある。品質に大きな影響はないが、酸化する懸念がある。消費者への配慮から、ペットボトルのほうは少し短く賞味期限を設定している。

日本のパスポートに隠された偽造防止のための技術……表紙にはICチップが埋め込まれているほか、ブラックライトを当てることで、顔写真の隣に同じ写真が浮かび上がるのだ。確かにこれだと偽造は難しいだろう。

空港の入国審査場の「外国人」が”alien”から”foreigner”になった理由……その理由は1979年に大ヒットした映画「Aliens」。この映画のイメージが強烈だったため、外国人という意味ではなく地球外生物と結びついて、不評に。単語を変更したのだ。1990年に変更。

電車の中吊り広告、雑誌名が広告の下に書かれている理由……遠くからでも手前の広告と重ならずに雑誌名が読めるから。上にしてしまうと隠れるおそれがある。

コンビニが明るく見える理由……だいたいどこもこれをやっているらしい。入口に平行な向きに蛍光灯を設置しているのだ。窓の外から店内を見たとき、天井の光が当たらない部分が目立たなくなるのだ。

住所がないショッピングセンターがある……銀座の一角にある高速道路の高架下、銀座インズをはじめとしたこの地域には、なんと住所がない。高架下の一帯は区の境界がない、「境界未定区域」である。かつては皇居のお堀があり、それが区の境目になっていた。1950年から埋め立てが始まったが、どこの区に属するか決めないまま今に至る。

カップラーメンの容器にある「普通」「上級」の違い……それは麺の重さに対するかやくの重さ。つまりかやくの量。上級では麺の15％以上、標準では麺の6％とJASにより決められている。ただしこの区別、現在は廃止されている。

大阪のタクシーの8割以上が黒塗りの理由……ハイヤーとして使うため。ハイヤーは冠婚葬祭に用いられるイメージ的に、高級感がある黒がほとんど。タクシーをハイヤーに変えて合理的に活用している。普通のものをハイヤーとして使うこともできるし、車体に貼られている広告をはがし、表示灯を外して変えられるものも。東京にハイヤー用の車が4000台あるのに対し、大阪には200台しかない。商売上手な大阪人らしい発想だ。

ガラスに網が貼ってある理由……なんというか、金属の線が入った窓ガラスを見る。あの線は何のためにあるのだろうか。泥棒や不審者の侵入を防ぐというより、実は火災のときに窓から炎が広がるのを防ぐためにある。普通のガラスは炎の熱で割れ落ちるため、炎が燃え広がる。ところが網入りガラスの場合、中に入った網が脱落を防ぐ。延焼を防ぐためなのだ。

電車のつり革の工夫……以前は丸いタイプが主流だったが、三角形のタイプが増えた。その際、持ち手を窓に垂直にしたのだ。人間は最もリラックスした状態では手の平が体を向いている。手を上げた状態でも同じで、吊り革の持ち手が窓側に平行だと、掴むときに手首をひねる必要がある。その負担を軽減するため。ちなみに平行だったのは、日本の電車がもともと乗客が少しでも乗れるよう、進行方向に向かって立つことを想定していたため。

ボールペンのキャップに穴が空いている理由……これは使う人のことを考えたもの。1990年頃、子どもがキャップを飲み込んで窒息死する事故がヨーロッパで起きた。日本では1996年にJISで定められた。ちなみに穴が空いていないキャップでは、キャップについたクリップが喉につまったときに空気を通す隙間をつくるから。

鯉のぼりがカラフルになった理由……鯉のぼり作りの職人が、カラーテレビで五輪マークを見て、黒と赤以外の色をつくった。これが1965年にはまさに「飛ぶように」売れたという。

ごま塩の塩粒が大きい理由……あれは実は最初から大きいのではなく、わざわざ大きく固めているのだという。それには理由がある。ごま塩を振りかけたとき、ゴマと塩が均等に出るようにするため。そのまま瓶に入れると塩が次第に下に沈んでしまう。塩を固めて粒を大きくし、ゴマとの比重を同じにしている。

インスタントラーメンの袋麺とカップラーメンの容量が違う理由……袋麺の場合は麺は90～100グラム。一方でカップラーメンは80グラム。それは、もともとカップラーメンがおやつ用に開発されたものだったから。

菜箸をヒモでぶら下げておく理由……菜箸がばらけないようにすることに加え、ヒモを使ってどこかにぶら下げて、乾燥させるため。普通の箸と違い、調理用に使われるため、こまめな乾燥が大事。

セーターははじめ防寒用ではなかった……1891年アメリカで生まれたのが最初だが、このときは減量のためだった。世界の服飾の歴史をまとめた「服飾大百科事典」にはそう書かれている。アメフトの選手が汗をかいて減量するためのもの。だから”sweater”なのだろう。羊毛でつくられて温かいため、やがて防寒服になった。

「鉢合わせ」の語源……鉢とは僧侶が家々を回りお米やお金をほどこされる托鉢に用いる、平たくて底が浅い器のこと。ここから派生し、植木鉢の鉢、そして鉢合わせの鉢が生まれた。鉢合わせは、鉢の形が人間の頭に似ていることからそうついた。鉢どうしがぶつかると音を立てて割れることもあることから、会いたくない人と出合い頭に会う時を「頭と頭が合う」「鉢と鉢が合う」「鉢合わせ」となった。ハチマキも漢字で「鉢巻」と書くため語源。

電車の車両と車両の間のドア……あれは「貫通扉」という。実は扉は水平でなく、扉を吊り下げるレールに少し傾きがあり、自然に閉まるようになっている。風の吹き抜きを防ぎ、温度管理をするため、連結部の騒音が響くのを防ぐため、そして火災発生時、煙が隣の車両に移るのを防ぐために設置。2004年に地下鉄の火災対策基準を改定したことで、通達された。その後は地上の電車にも採用。

ティーカップの飲み口がやけに広い理由……のみ口がアサガオのように広がっている。紅茶はもともと高級品で、19世紀イギリスの貴族の間でティーカップが生まれた。色の濃い紅茶が多く出回ったが、どんよりしていて見た目が良くない。そこで底を浅くし、飲み口を広げ、光を取り入れることできれいな色を出した。紅茶の色が内側のふちに反射し、「ゴールデンリング」という金色の輪が浮かぶことがある。この輪ができた紅茶は良質の証だという。

マンションや団地のエレベーターの奥の壁にある扉……たまに、エレベーターの奥側の壁の下に、小さな高さ1メートルほどの扉がついているのを見る。これは上の階で亡くなった人や、倒れた人を運ぶためのもの。スペースが足りないため、もしものときはここを開放し、必要なスペースを確保する。

自動販売機「あったか～い」の完成秘話……今では当たり前のようについているホットドリンクだが、1973年までは存在しなかった。ポッカコーポレーションの創業者が、養老サービスエリアで寒さに耐えつつ冷たいものを飲んでいるトラックの運転手たちを見た。日本の物流を支える人達が、短い休憩の間に飲めるコーヒーを、と感じたことが、開発のきっかけ。そのため1号機は養老サービスエリアに設置された。

段ボールはもともと着用するためのもの……1856年にイギリスで生まれた段ボールだが、クッション性をいかした使われ方はしていなかった。むしろ、人が身につけるものだったという。その理由の一つは紙のシワが風通しを良くするからで、もう一つは汗を吸い取るから。シルクハットの「裏打ち用汗取り材」として開発されたのだ。クッション性が注目されるようになったのは20年後。片面に厚紙をつけて補強。日本では1909年、大量生産に成功した。成形される前の段ボールは「ペーパーボード」だが、これを「ペーパーボール」と聞き違え、さらに紙の形から段ボールと呼ばれるように。

ファミレスは節約のため「2階」をつくらない……これはあえてつくっていない。人件費や建設費を節約するためなのだ。フロアを複数つくると、厨房をどうするか、エレベーターはつくるか、配置はどうするかと様々な課題が出てくる。中には1階を駐車場にするものもあるが、やはり食事のスペースは1フロアしかない。

乾パンの中に氷砂糖がある理由……糖分補給というのもありはするが、もっと大きいのは唾液分泌を促すということ。ぼそぼそしてて食べにくいので、甘いものを舐めて唾液を出し、飲み物なしでも食べやすいようにとの工夫。同じ理由で金平糖が入っていることもある。

マンホールについている2段の突起の意味……デザインとは全く関係がない。取り換え時期を決めるためにある。というのも、この突起のすり減り具合をチェックすることで、取り換える時期を考えているのだ。目安は突起の一段目で、3ミリすり減ってきた時に取り換える。環境にもよるが、交通量が多い交差点なら10年に1度取り換える。

アルミ缶の上部が細くなっている理由……強度が増すこと、缶がスリムに見えること、そして重要なのがコスト節約。缶の上蓋を小さくしても、飲み口のサイズは変わらないため飲みやすさは変化しない。上蓋を小さくして軽量化、アルミを節約。実際、1200トン、缶でいうと6億本分の節約になっている。

江戸時代の武士の「寝方」……不意に襲われた場合を想定し、少しでもダメージを受けないように利き腕を下にして寝たのだ。たとえ上側の手をやられても、下の利き腕で戦えるという理由。

クリアファイルの下部にある小さな三角形の意味……上の方には丸い切れ込みがあり、これは指をひっかけて開きやすくするためのもの。下のほうの切れ込みは、下の溶着部分が裂けるのを防いでいる。クリアファイルの下の部分は熱でシートを溶かして接着している。三角形の切込みをつけることで、ファイルを開く際、切込みより上の部分が開くため、溶着部分へのダメージが減るのだ。

豆乳と無調整豆乳の違い……大豆固形分6％以上、大豆タンパク質3.0%以上、砂糖や香料を入れて飲みやすくしたものが調製豆乳、一方で大豆固形分8%以上、大豆タンパク質3.8%以上、原料は大豆と水だけなのが無調整豆乳とJAS規格にはある。であるから、無調整豆乳のほうが微妙に栄養価が高い。なお、「調整豆乳」ではなく、「調製豆乳」が正しいよう。

低脂肪乳のほうが安い理由……わざわざ牛乳から脂肪を抜く手間があるはずなのに、低脂肪のほうが低い理由。それは、低脂肪乳はバターや生クリームをつくったあとの「残りカス」だから。乳製品で最も高価なのは乳脂肪で、コストの大半はそっち。残りカスのほうは安くで取引される。しかも一旦脱脂粉乳の状態で流通するため、液体のままの生乳より輸送コストが安い。

VLBI……”Very Long Baseline Interferometry”、超長基線電波干渉法の略で、天体からの電波を利用してアンテナの位置をはかる技術のこと。クエーサーが放った電波をいくつかのアンテナで受信する。アンテナの位置が違うため時間差(遅延時間)がうまれる。遅延時間に電波の速さをかけ、天体の向きを考慮し、アンテナの距離がわかる。このような観測を多くの天体に行い、位置関係を求める。数千キロ離れたアンテナの距離もわずか数ミリの精度ではかることができる。これを用いるのは地殻変動を観測するとき。つまり、「ハワイは日本に年間数センチ近づいている」などというアレは、おもにVLBIやGPSを用いて知っているのである。

チェーホフの銃……小説における技法の一つ。ストーリーの中で登場するものに無用なものがあってはならない、というもの。ロシアの劇作家「アントン・チェーホフ」の「ワーニャ伯父さん」で原理が利用され、早い段階に持ち込まれた拳銃が、終盤にいくにつれて重要なものとなっていく。いわば伏線の手法の一つ。ただし実践するのは非常に難しい。対義語はおそらく「燻製ニシンの虚偽」。

豊胸手術を見破る方法……月曜から夜更かしで紹介された手法。部屋を暗くし、LEDライトを横から照らすと、なんと赤く光るのである。豊胸に使用されるシリコンに反応して赤く光るという。ただしこれは、皮下脂肪や乳腺が非常に薄い人に限っての話で、シリコン自体が化学反応して発光するのではなく、光が内部で反射し続けて増幅されるためである。また、光が赤くなるのは血管のためである。手に光を当てても赤く光る。懐中電灯を立てて、上にペットボトルを置くと明るくなる、という災害時のアレと同じ原理。

殺人未遂罪に関する雑学……たとえばあなたが友人から毒をもらい、自分の母親を殺そうとした。しかし、その毒とは毒ではなく、ただの水だった。この場合あなたは殺人未遂にあたるか、と言う問題。これは当たらないのだ。というのも、水で人間が死ぬというのは普通考えられないため「不能犯」になる。不能犯とは、行為者が犯罪を意図して実行したけど、その行為から結果の発生は不可能な場合のこと。簡単にいえば、デスノートとひらがなで書いたノートに人の名前を書き殺そうとしたとか、風船を相手の頭にぶつけて殺そうとした、という例と同じ。一応呪い殺した場合も不能犯になってしまうらしい。

ライム病……ノネズミやシカなどが保有し、マダニが媒介する病気。人獣共通感染症の一つ。全米の発症例のうち、ニューヨークがその20％を占める。マダニにかまれることで起こり、最初は赤く腫れるだけだが、徐々にインフルエンザに似た症状が数週間ほど続く。体内循環で病原体は全身に周り、心疾患、関節炎、眼症状など多様な症状が現れる。アヴリル・ラヴィーンやジャスティン・ビーバーが発症し、苦しんだことで有名。

クエンチ……MRIを冷却する液体ヘリウムが、何らかの原因で突如気化すること。爆発のような音が特徴。クエンチ管から排出されるようになってはいるが、ヘリウムは1Lあたり1500円と非常に高価、再充填代も含めれば1000万ほどかかる。Youtubeには患者が緊急停止ボタン(重要な金属などがくっついたときなどに使う)を押してクエンチが発生した動画があるが、音だけ聞けば相当まずっていることと勘違いするだろう。実際まずっているのだが。

ランチパックの「ピーナッツバター」味にピーナッツの焼印がある理由……アレルギーのため。他の味と勘違いして、アレルギーがある人が食べてしまわないようにという思いやりである。

バチカン市国には軍隊がない……キリスト教精神を基調とする正義に基づいて、武力紛争の回避を提唱する。スイス衛兵と呼ばれる警察・軍を兼ね備えた組織はある。ただしここを攻めてもうまみがないうえ、世界中のキリスト教信者から批判を受けることが明確なので、日本と違い軍隊を持つ必要もない。

二重内陸国……内陸国の中に存在する内陸国。いわば、国境線を最低二回超えないと海にたどり着けない国。現在世界にある二重内陸国はリヒテンシュタインとウズベキスタンのみ。内陸国には、海に接続するための回廊が与えられる。しかし回廊によって他国の領土が分断されて、飛び地ができることがある。ダンツィヒ回廊の場合は東プロイセンが飛び地になり、第二次世界大戦の開戦原因のひとつとなってしまった。

いぶり漬け……秋田県の内陸に伝わる漬物。野菜を煙で燻し乾燥させてつくる。漬物のことを「がっこ」と呼ぶことから、「いぶしたがっこ」でいぶりがっこ。郷土食として知られる。おもにダイコンであり、見た目は小さい伊達巻に似ている。食べてみたが「煙臭く、塩味の強いダイコン」であった。おつまみにはちょうどよい。

連帯保証人と保証人の違い……「連帯保証人には絶対になるな」と教えられた人も多いと思うが、その重さについて本当にわかっている人は少ない。「債務者が借金を返せなくなった時に代わりに返す」という認識では甘い。その定義は「保証人」で、連帯保証人は保証人に認められる「催告の抗弁権」(金融機関に対し「いや、まずは張本人に請求しろよ！」と文句を言う当たり前のような権利)、「検索の抗弁権」(「いや、債務者はまだ財産持ってるはずだから！！」と主張する権利)、「分別の利益」(保証人が複数いる場合、借金を平等に割った金額のみ返せばよいだろうと主張する権利)の3つが認められない。つまり、金融機関がまっさきに連帯保証人だけに取り立てに来た場合は、その人は100％の借金を肩代わりしなければならない、という、とんでもない契約なのだ。主債務者が民事再生手続きをとって借金の一部を支払えば済むことになっても、連帯保証人の責任は従来のままで全額回収。あまりに辛いため自殺を選ぶ連帯保証人もいる。こんな悪法のような法律が通っているのは預金者のお金が焦げ付くのを防ぐためであるが、あまりに辛い。

ラジオ体操第二はどんな体操なのか……ラジオ体操第一が「日本の全員向け」であるなら、第二はテンポも運動量も多い、「職場で行うことを目的とした体操」である。高齢者、妊婦、小学生には少し辛い。

ブラインド・タッチはタッチ・タイピングと呼ばれるように……ポリティカルコレクトネスのため。ブラインド(blind)は目が見えない人、盲目の人を指しており差別用語であるとして、使用されなくなった。ただしブラインドタッチ自体が和製英語であり、本来のタッチ・タイピングが正しい呼び名なので、悪いことばかりでもない。

スプロール現象……都心部から郊外に向け、無秩序に開発が拡散していく現象。道路、上下水道、学校などのインフラが整わないまま虫食い状態に宅地化が進むため、農地の荒廃、交通渋滞、災害に弱くなるなどの都市機能の低下が起こる。計画的な都市計画が求められる。

「暗殺」の本来の意味……行為者側の望む方向に社会を変える目的で、政治的な影響力を与える人物を殺害すること。つまり我々が考えがちな、「密かに・夜に殺す」と言うような意味はない。犬養毅のも東京駅での暗殺だし、ケネディ大統領も公で殺された。

カリにある変なイボの名前……それが真珠様陰茎小丘疹。陰茎亀頭冠、いわば「カリ」と呼ばれる部分にイボ状の何かが存在する症状。男性の65％に自然発生する生理現象。気になる場合はレーザー治療も可能であるが、保険がきかない。逆に自分で「治療」しようとすると危険である。感染もしないし被害もないため、放っておいて構わない。

「どじょう」ののれんが「どぜう」の理由……泥鰌を丸ごと料理した鍋、開いた泥鰌を煮込んでゴボウとともに卵とじにした鍋(柳川鍋)などがあるが、のれんには「どぜう」の文字が。旧かなづかいでは本来「どじやう」「どぢやう」が正しいが、4文字だと縁起が悪いということで、発音が近い「どぜう」を採用。

ボクシングが”boxing”の理由……box、つまり箱である。これはリングが正方形だったことではなく、握りしめた拳が箱のように見えることから来ている。

「年寄りの冷や水」の「冷や水」……江戸時代、隅田川から来ている。ここは冷たいと評判で、真ん中からすくった水は夏でも、小さな氷のかけらが浮くほどだと言われていた(絶対話盛ってるわ)。ここで年寄りが泳ぐと体調を壊すということでできたことばだという。

不知火の原因は何なのか……不知火といえば、九州地方、八代海や有明海に現れる妖怪だ。海岸から数キロ先の沖に「親火」という火が出現する。これが左右にわかれ数を増やし、数千もの火が横並びになる、という。決して近づくことはできず、近づこうとしても遠ざかっていく。大正時代にはこれを解明しようという動きが出て、不知火の時期は海水の温度が最も上昇すること、干潮で干潟ができること、夜中の急激な放射冷却という条件で、船の灯りが異常屈折して生じる、と解説された。確かに動画を見ても不気味で、蜃気楼であると説明されても納得はできない。これは妖怪と勘違いもおかしくはない。

報道管制が敷かれるようになったのは、マスコミの痛い失敗のせい……瀬戸内シージャック事件という、1970年に起こった事件がある。これは旅客船乗っ取り事件で、警官が犯人を狙撃して人質を救出したことで有名。当時最新の散弾銃を犯人が持っていたのは、直前に銃砲店から強奪していたため。停泊していた「ぷりんす号」に乗り込み、乗客や船員が乗ったまま出航させた。狙撃は右腕を狙ったが左胸に当たり、犯人は病院に搬送されたが死亡。世論の多くは「やむを得ない」という風潮だったが、見せしめだとかやりすぎだという意見も。マスコミにはさんざん追及され、バッシングに耐えられず狙撃手は警察をやめてしまったという。なお、ジャックされた船の様子をラジオで報道されているのを聞き犯人が逆上したため、報道管制が敷かれるようになったのもこの事件以降のこと。

ダカール・ラリー……毎年1月に南米大陸で行われるラリーレイド競技大会。もともとはフランスのパリを出発し、セネガルのダカールを終着点としていたため「パリダカール・ラリー」略してパリダカと呼ばれてもいる。1979年から開催されていたが、そのころから「世界一過酷なモータースポーツ競技」。政治情勢的に不安な国を通ったり、救護施設のないサハラ砂漠を縦断する競技で、出場者の半分以上はリタイア、死傷者も出た。そのため「全ての完走者が優勝者」が共通認識となり、最終日は「ビクトリーラン」と呼ばれている。なおサッチャー元首相の息子が一時行方不明になったり、地雷を踏んで逃げ遅れたドライバーが焼死したり、盗難にあったり、銃撃されたり、様々なドラマが絶えないものでもある。

副業の確定申告について……学生であっても確定申告をする必要が出てくることがある。確定申告とは、自分の収入を国に申告すること。申告しないと所得税から逃れたとし脱税になるため、必ずする必要がある。学生や主婦の場合は年間38万円をこえる「収入」(利益から経費を引いたもの)があった場合に必要。よくいう「年収103万の壁」についてであるが、これは「給与控除の額65万円」と「基礎控除額38万円」をたしたもの。アルバイトの場合はこの2つを超えた場合に課税対象となる。ブログは「給与」ではないため、結局38万円を超えたら申告する。なお超した分にのみ課税なので、そんなに多くはない。さらにいえば、ブログとバイトをあわせて130万以上の所得があれば、扶養家族から離れ、国民健康保険や国民年金に1人で入る必要が出る。経費がかさむのでこっちは駄目。サラリーマンの場合はまた別で、年間20万円以上の収入の場合、確定申告が必要。

電話番号が090で始まる貸金業者には注意……電話番号が090で始まる業者は法律に違反している。許可を得ないままやっている可能性、つまり闇金である可能性が非常に高い。というのも、貸金業には固定電話が必須だから。090といえば携帯電話の番号で、あえてそっちにかけさせる業者はいない。

カイザーロール……硬い生地で覆われたロールパンの一種。生地が王冠のように折りたたまれているためこの名前がついた(諸説ある)。伝統的なオーストリア料理で、オーストリアではバターやジャムとともに食べるが、サンドイッチ・バーガーのためのバンズになることもある。

任天堂64の”64”とは何なのか……ニンテンドウ64といえば「64」がつくソフトでおなじみであるが、「64ビットCPU」から名前が付けられている。そのため3Dポリゴンの演算能力もまあまあ高く、1996年に存在していた他のハードより大幅に高性能。ただクロックが下がるため実質32ビットモード。特に「スーパーマリオ64」はこの時代のゲームの最高傑作との誉れ高い。

四畳半フォーク……恋人だけの貧しい暮らしを描いたフォークソングのこと。純情的な内容が多い。主に1970年代の日本の歌のジャンルである。社会への反抗表明だった社会派フォークが、安保闘争の挫折を経てこっちに流れ込んできたもの。荒井由実(ユーミン)氏が批判的に用いたのが初とされる。社会の貧困層～中産階級の人々に支持された。

分福茶釜(ぶんぶくちゃがま)……日本の昔話の一つ。もともとはキツネの恩返しをもとにしたものだといわれる。群馬県館林市に伝わる伝説。和尚さんが茶釜を買って持って帰り、火にかけたところ茶釜が動き出した。気味が悪くなったので古道具屋に売った。古道具屋はそのお金で鯛を買ったが、しばらくするとなくなっている。途方に暮れた彼だったが、しばらくするとタヌキが茶釜を背負ってやってきて「すみません、タイを食べたのは自分なのです」と白状。実はこの茶釜、他のタヌキとの化け比べでもとに戻れなくなった仲間なのだという。同情した道具屋はタヌキが元に戻るまでの間、家に泊めてあげた。タヌキも、「綱渡りをする茶釜」で見世物小屋を開くことを提案。これが成功し道具屋は繁盛、タヌキも寂しい思いをせずに済んだ、というお話。柳田国男によると、もとの「キツネの恩返し」をもとにすれば、動物と人間の交流を物語る作品の根幹には「動物援助」の考えがあり、選ばれた人間に対し、神の使いである鳥獣が富を与えるのだという。

東映映画のオープニングに出ているあの岩場はどこ……実は犬吠埼(いぬぼうざき)といって、銚子半島のさきっぽに出ている岬である。世界灯台100選にもなった犬吠埼灯台がある。東映の映画のオープニング映像である「荒磯に波」はここの岩場で撮影されたが、現在崩落の危険があるため立ち入り禁止。

ソクラテスは何をあおって死んだのか……ドクニンジンという、セリ科の有毒植物のひとつだといわれる。コニインという神経毒を含むため、中枢神経に作用、呼吸ができなくなる。鎮痛剤としても使われてきた一方、毒殺にも用いられており、ソクラテスが最後にあおった毒はこの汁だったという。葉っぱや根っこは腐ったような(カビのような)匂いがあるため、それで見分ける。

「スジャータ」の語源……飲料の会社名として知られるスジャータであるが、実は「めいらくグループ」が本当の会社名である。スジャータは商品名なのだ。その由来は、死にかけの釈迦に乳粥を飲ませてあげた女の子の名前だという。

昔、両親を殺すとより罪が重かった……親等上、父母や祖父母など、上の身分の人間を殺害することを尊属殺という。ローマ法や唐の法律でも特に厳しく定められ、一時期は世界中の国がこれを認めていたが、やがて「親子の葛藤により起きた殺人」という背景に鑑み、普通の「特別の情状」が存在すると考えた場合の殺人罪で取るようになり、現在では韓国、中国、フランスなどわずかな例を見るのみ。儒教的な思想が強く、これを破ることは社会秩序と人倫の破壊であると考えられていた。日本ではかつて1908年制定の明治刑法により、自己または配偶者の直系尊属を殺害したものについては、普通の殺人罪は「3年以上懲役or無期懲役or死刑」なのに対し、「無期懲役or死刑」という非常に重たいものになっていた。

尊属殺法定刑違憲事件……娘が実の父親を殺害した事件。中学生のころから彼女は父に性的暴行を受け続け、5度の出産と5度の流産を経験、さらに避妊手術まで受けさせられた。子どもを連れて逃げても追いかけてくる。ある日、同居解消の説得(全てを知った上で彼女にプロポーズをした恋人がいて、その恋人と暮らすから出ていってくれないか)の際「お前が出ていくなら子どもは俺が全員殺す」と言われ、かっとなって父親を絞め殺し、そのまま自首、という、非常に後味の悪い事件。この女性の罪をなるべく軽くするため、弁護側は(国選弁護人だと裁判ごとに担当が変わってやりにくいという理由で、わずかジャガイモ一袋の値段で名乗り出て)親子二代で担当、検察側も、なんとか軽くできないかと奮闘した。具体的には、まず死刑か無期懲役のうち軽いほうの無期懲役を選択、「心神耗弱」で無期懲役を懲役7年にし、さらに「長年の虐待その他個別事情」で酌量減刑して懲役3年6か月にしたはいいが、刑法25条により「3年以下でなければ執行猶予がつけられない」と、どれだけ条文操作しても実刑になってしまうことが問題に。そのため前代未聞の「尊属殺人の法を違憲と主張」し、通常の殺人罪を適用する方向に動き出した。その結果裁判官は異例の「違憲判決」(この根拠は「命の重さの差」ではなく「尊属殺の罰が重すぎる」という理由である)を出し、懲役2年6か月、執行猶予3年となった。その後、これが本当に違憲か話し合われたが、焦点になったのは「尊属殺と普通の殺人で差がつくのはおかしい、法の下の平等に違反しているか」ということ。財布と命では命が大事だから、恐喝罪より殺人罪のほうが重いのと同様で、尊属殺と殺人罪に差をつけてしまうと、「親のほうが命の価値が高い」ことになり、平等でなくなると主張。しかしそれは認められなかった。ただこの後、尊属殺が適用されたことはなく、普通の殺人罪で裁かれた。1995年に「古いので消しちゃっていいか」となり削除。日本の法曹界近年まれにみるレジェンド判決であり、高校の公民でも大学の法学部の授業でも必ず学習する有名な例である。

仏壇や位牌は差し押さえができない……まず仏壇や位牌が取引の対象にならないことがひとつ、もう一つは国民が有する信仰自由の権利を国が害することになるから。ただし浅間神社による「富士山所有」の訴訟はこれが争点となり、いわば神社にとってみれば富士山の国への返還は「仏壇を差し押さえられるのと同じ」であったと主張した。

すだちとかぼすの違い……名産地、大きさ、味、全てが違う。まずかぼすはテニスボールぐらいの大きさで、大分が全国の9割を占める。味は香り控えめ、爽やかな酸味が特徴でジュースになる。すだちは徳島が9割。ゴルフボールほどの大きさがある。味というより香りが特徴で、お吸い物やマツタケと合わせる。

フグはなぜ薄造りなのか……河豚の刺身といえば、皿が透けて見えるほどに薄く盛られている。薄造りは料理の先人たちが生み出した技術で、歯ごたえのあるフグを楽しんで食べることができる、最も良い方法なのだ。フグの肉が硬いのは身を守るため。フグは威嚇で体を膨らませるため、あばら骨の代わりに内臓を守る強い筋肉を得た。決してケチっているためではない。習熟にはかなりの年月を要すると言われている。

23分間の奇跡……ジェームズ・クラベルの短編小説。1981年に出版。アメリカが負け、どこかの国に占領された未来のことを描く。その国から女教師がやってきて元教師を追い出し、早速「あなたたちは忠誠ということばの意味を何一つ知らない」と指摘、愛国心に国旗なんて不要だと教え、国旗を切り刻んで子どもたちに配る。父親(国に反抗した)が国に無理やり連れ去られたことで教師に反感を持っていたジョニーに対し、「あなたの父親は『間違った考え』を直すために大人の学校に行っているんだから、いいことだ」と言う。ジョニーは釈然としないが引き下がる。「キャンディーが欲しい」と神様ではなく私たちの指導者さまに祈りなさいと言い、生徒が目をつぶっている隙にキャンディーを席に配った。ジョニーはそれに気づき難詰するが、彼女はジョニーをほめ、「キャンディーは神様ではない誰かがくれるのだから、神に祈っても意味がない」と教える。この頃には彼女の洗脳技術もあり、子どもたちはすっかり先生に従い、ジョニーさえも洗脳されてしまった。子どもたちを教え終わった先生が時計を見ると、23分経っていた。世にも奇妙な物語でもドラマ化されている。意味を教えない教育が洗脳と同じであることを皮肉交じりで教えた名作。

クリスマスのトナカイは生物学的にはメス……というのもオスは12月ごろは角が抜けているから。メスしかありえないのである。使いどころがない。ちなみに一匹一匹正式に名前がついているが、覚えている人なんてクイズ研究会の人達だけだろう…。

エプン語……言語学に関する実験で人工的につくられた言語。「強調構文をつくるには、常に文頭の3番目に-nogがつく」とか「否定節では、動詞が主語の前に移動する」という異常な特徴を持つ。チョムスキーが唱えた普遍文法(赤ちゃんにはどの言語にも対応できるような普遍的な何かがあり、母語を学ぶとそのうちいくつかが選択され、特化していく)の説を証明するためにつくられた。そのため、普遍文法に存在しない統語規則を持つ言語は、習得が非常に困難であるといえる。言語的サヴァンの青年にこれを学ばせ、その習得を分析するというように使用された。

ダツィ料理……ブータンで広く食べられているチーズ料理の総称。赤米とともに食べられる。唐辛子を火にかけ、水とチーズで煮たあと、トマトやニンニクを入れる。かなり辛いことで知られ、この料理だけでなくブータン料理は世界で最も辛いらしい。外国人向けのホテルでは辛さが少ないものを選ぶ。

ユトランド半島……デンマークの先っぽ、というかドイツの一部とポーランド全域を含む半島の名前。「ジュート人が住む地」という意味。半島の付け根にはキール運河があり、船の航行を容易にしている。デンマーク語は北欧系だがドイツ語の影響を受け、とりわけユトランド方言はその影響が強い。

チクシュルーブ・クレーター……メキシコ、ユカタン半島(メキシコ湾、カリブ海の間に突き出ている半島)にあるクレーター。地磁気の異常、重力異常によって小惑星の衝突が確かめられている。これらはきれいな円弧を描いており、その中心からの距離は160キロ。フレデフォート・クレーター、サドベリー・クレーターに次ぐ、世界で三番目に大きい規模の衝突。恐竜を含む大型爬虫類などが絶滅した、白亜紀の大量絶滅(K-Pg境界)の最も有力な原因と考えられる。地震の規模はマグニチュード11、津波は高さ300メートルと考えられている。

サドベリー・クレーター……カナダのオンタリオ州にある、地球で2番目に大きな衝突跡。しかしクレーターは浸食され強く変形しており、そのときの大きさは直径200キロほどあったという。火成岩・角礫岩・堆積岩がつぶれた楕円形に同心円状に並ぶ、非常に特殊な地質構造である。18億5000万年の隕石の衝突でこうなった。

根流しとは何なのか……「根」とは毒のこと。毒を川に混ぜることで浮かんできた魚を取るやばい方法。山椒(魚にとって神経毒)の木の皮を焼き、シキミの実やタデとともに鍋で煮ることで毒が完成。水中の酸素が薄くなり、しびれる。ただし水無川のような水量が少ない川に流す必要がある。現在これを行うと、水産資源保護法違反で逮捕。

ドバイは石油国ではない……GDPに占める石油産業の割合はわずか1％しかない。しかしそれがわかっていたため、「世界最大の貿易拠点に」という明確な戦略が打ち出され、国づくりが進められてきた。ヒト・モノ・情報が真っ先にここに集まるように金融業界の整備も進め、観光名所をつくり、治安を良くし、そのかいあって現在それが実現。世界まれにみる「観光国」になったのである。

ザッハトルテ……オーストリアの伝統的な菓子。というかケーキ。チョコレート生地にチョコレートバターケーキを塗りアンズ味のジャムを塗って、さらにチョコをかけた甘そうなお菓子。ザッハーさんがつくったお菓子(トルテ)である。

ラジオで曲のことを「ナンバー」という理由……ジュークボックスに由来するという。昔はレコードプレーヤーとたくさんのシングルレコードが入ってて、コインを入れてボタンを押すと、その曲をかけてくれるという仕組み。つまり曲がナンバーと同義だったのだ。単に曲目のことを英語で「ナンバー」と呼ぶからという説もある。

デザインに赤い十字を用いると法律違反……赤十字は「ジュネーブ条約」と「赤十字の標章及び名称等の使用の制限に関する法律」により罰則付きで禁止されている。単に病院や医療を象徴するものではない。戦地や紛争地で活動する救護員、施設を攻撃してはいけないというジュネーブ条約で定められている。日本でも、赤十字社などの組織遺骸が用いることを禁止している。商標としてではなく(単にデザインとしても)適用される。他にも赤い新月のマークもある。十字が傾いていたり角丸になっていても駄目。

おさん狐……美女に化けて、妻帯者や恋人がいる男に言い寄ってくるキツネの妖怪。浮気相手の女性を「女狐」と呼ぶことがあるのは、この妖怪が発祥だという。鳥取県や広島県に伝わる。

ワイシャツの襟の汚れを落とす方法……あれは油汚れなので、部分的に濡らし、食器用洗剤をなぞるようにかけ、1分ほど放置してやさしくもみ洗い(もしくは毛先がいたんだ歯ブラシでこする)した後、普通に洗濯機にぶち込めばOKである。ワンステップ足すなら、もみ洗いで酸素系漂白剤を溶かしたぬるま湯に30分つけておくとなおよい。

ガサ入れの語源……なんとも安直。「探す」の「さが」を逆にしたという。法律用語としては、犯罪捜査、税の滞納処分などを、権限を有する公務員が行うこと。憲法35条で、「逮捕を除く捜索に関して、令状なしに住居、書類、所持物を調査されない権利をみなが有する」とされている。

イスラエルに行くために「二重パスポート」がもらえる……外務省に対して申請すれば貰うことが可能。というのも、イスラエルと敵対関係にあるイラク、レバノン、リビア、サウジアラビアなどの国々に行った記録があると、入国が認められないから。というか、日本はただでさえイスラエルに警戒されているので、用事もあまりないと思うが。

テルアビブ空港乱射事件……1972年にイスラエルのロッド国際空港で起こった事件。その発端はパレスチナ過激派テロリスト4人が旅客機をハイジャックしてここに着陸させ、逮捕されている仲間317人の解放をイスラエルの政府に求めた事件。しかし政府はこれを拒否、テロリストを制圧した。パレスチナ解放人民戦線(PFLP)は「報復」として空港の襲撃を計画したが、この空港の警戒を潜り抜けるのは難しいと判断。日本赤軍の奥平に協力を依頼し、日本人による襲撃が行われた。3人が乗り込み、スーツケースから取り出した自動小銃を取り出して乱射。手りゅう弾を投げつけた。これにより26人死亡、73人が重軽傷を負った。結局2人は射殺され、1人は取り押さえられた。実行犯が全く関係ない日本であったことに世界が驚愕し、非難。この事件以降、搭乗時の手荷物検査が世界的に強化。ターミナルでの警備も強化。日本人がイスラエルに行くときに目的などを厳しく聞かれるのはそういうわけ。

“volcano”の語源……英語らしくない綴り、発音であるが、これはイタリア語由来。「ヴゥルカーノ」と発音する。さらにいえば古代ローマ神話の火の神”Vulcanus”(ウルカヌス)から来ている。バルカン砲のバルカンも同じ語源。

何日君再来(ホーリー ジュン ザイライ)……”Hérì jūn zàilái”いつの日君帰る。中国語の歌。1937年の映画の挿入歌になり、全中国で大ヒット。テレサ・テンがこれを復活させ、台湾、中国、香港、シンガポールのみならず、全世界の中国人が愛唱する。本作は日中戦争時に流行、「中国人の、日本への徹底抗戦意識の減殺」という、亡国の歌であると見るものがいた。日本軍は、「君」の中国人の発音が「軍」と同じなので、抗日戦に敗れ重慶に逃げた蒋介石に向けた歌であると悪意的に解釈。ASKAが歌ったときにはめちゃくちゃ盛り上がってみんなで歌っていたため、たぶん人気なのだろう。

歌舞伎の「千穐楽」に「秋」を使わなくなった理由……なんとも難しい漢字をわざわざ使うのは、「秋」に含まれる「火」の字が火事を連想させて、縁起が悪いから。

ガスコンロに右強火力と左強火力の2種類がある理由……実はガスコンロは二種類ある。最大火力が、向かって右の炎が強いのと、右が強いの。わざわざメーカー側ではこの二種類をつくっている。その理由は壁の向きに合わせるため。例えば右強火力バーナーなのに右側に壁があったら、壁が火力で焦げてしまう。そのため必ず反対側になるようにつくっている。型番-Rと型番-Lがある。

ダンクシュートの「ダンク」……バスケットボールの専門用語。ボールをバスケットの真上から強く叩くシュートのことをこう呼ぶ。ダンクは”dunk”で、これは「パンなどをコーヒーに浸す」という意味がある。正しくはダンクショット。

死刑判決の時に、裁判官が先に判決を述べる理由……普通は「被告人は、無罪である」か「被告人を、〇〇年の懲役とする」というように判決が行うのだが、死刑の場合は例外。「〇〇という理由で、死刑とする」と言うのだ。これは、判決の理由を聞いてもらうため。一人の人間の命を国家が奪う重みについて、きちんと認識してもらう意味がある。

高層ビルの屋上に1周敷かれたレールの役割……本当になんか、変なレールがあるのだが、これは窓ふき用のゴンドラを設置するためのもの。

車のボンネットは乗る前に叩いたほうが良い……JAFも一般ドライバーに対し推奨しているという。その意味は猫をひかないようにするため。車の下にある、部品と部品のほんのわずかな隙間から、子猫がエンジンルームに入り込むことがある。冬に暖を求めてのことなのだが、これによって走行中のタイヤに巻き込まれて死んだり、焼け死んだりするのである。

ほぼ確実に晴れる状態は「1円玉天気」……気象予報士がたまに使う表現なのだが、これは「これ以上崩れない」から。1円玉はそれよりも小さくできない(崩れない)のである。

業務用の青い食品用ラップを開発した理由……わざわざ青くした理由ということだ。これは実は混入防止のため。青い食べ物はめったにないので、目立つ色にすることで、混ざってもすぐにわかるようにしている。異物混入は信頼を損ねるので、こういう地道な対策が本当に大事。輪ゴムの色が毒々しい緑や赤なのと同じ。

地下鉄で加速・減速を効率よく行うための線路の設置方法……駅に到着する直前を微妙に上り坂に、発車した直後を下り坂にする。つまり駅側から下向きの勾配をつくるのだ。重力による調節と言うことである。

最高気温が最も低い県庁所在地はどこか……意外にも意外、実は沖縄県那覇市で、2001年8月9日の35.6度。これ以上に平均気温が上がっても、たぶん沖縄が一番低いのだろう。というのも沖縄は海風が強いため、気温が高くなりにくいから。

東京証券取引所の電光掲示板は回転速度が変わる……一定の速度ではない。あれはその時の株の取引量によって決まる。つまり、速く動いているかどうかを見れば、取引量がわかるというわけだ。

コウテイペンギンが均等に暖まるためにする行動……なんとも愛くるしい。何匹かで固まって過ごすのだが、暖かい内側と寒い外側が定期的に入れ替わるのだ。平等こそが幸せであると本能的にわかっているのかもしれない。

高速道路渋滞防止のための「LEDライト」……ラーメン屋などの看板に設置されている、あの規則的に動くライトみたいなやつを道路の横側に設置した。これは進行方向に進むのだが、そのときの速さは制限速度と同じ。だからこれを見た運転手は無意識的に、このライトの速さと同じ速さで進みたくなる。渋滞が起こりがちな上り坂などで導入し、さっそく効果を上げているという。

恐竜が前かがみに描かれるようになった理由……よく考えたら、もっと背を伸ばすというか、ちゃんと歩いてもよい気がする。なんであんな歩き方をするように描かれているかというと、尻尾を引きずった跡が、恐竜にないからだ。当然仮説ではあるのだが、化石を調べてそこまでわかるのだから、たぶんそうなのだろう。重心的にもあの歩き方のほうが安定していそうである。

木製の車いすが開発された目的……なかなかに見られないが、そういうものも一部ある。これは、空港の保安検査場をスムーズに通過するため。金属が使われている車いすは、調査にだいぶ時間がかかる。そのため最初から木製でつくり、通れるようにしているのだ。

体操選手は握力をあまり鍛えない……それは彼らが怠けているからではない、握力を鍛えてしまうと、回転しにくくなるのだ。鉄棒を握る力が強いと回転ができず、難易度が上がってしまうのである。

高層ビルの周りに植えられている常緑樹(街路樹)の役割……景観保持だとか涼しくするというよりも、ビル風を軽減させる効果がある。

ドレッシングの日が「8月24日」になっている理由……下側に「8月31日」831で野菜があるから。同様に、ケーキの日は「1月22日」であるが、これは上に「1月15日」があり、イチゴが乗っているから。

速度オーバーの警告音を車が廃止した理由……昔の車には、速度がオーバーすると警告音が鳴るものがあった。安全のためであったが、なぜかこれは廃止。実はそのブザーの音が単調で、眠気を誘うからなのだ。

バスケットボールの試合で使うのは「使用済みボール」……新品のボールは非常に良く滑るため、手に持ちにくいためだという。とはいっても黒ずんだり空気が抜けたりしているものではない。ある程度使用され、手になじみやすいものを審判が選ぶのだという。しかしルール上、明文化されているわけではない。

プレハブ住宅がつくられたもともとの目的……1959年、大和ハウスの創業者は「学校の教室が足りない」という相談を受け、「移動教室」を提案。人数が膨れ上がった学年が小学校から中学校に進学する際に、教室も一緒に移設させるというアイデアで、持ち前のプレハブ技術で実現。しかしなお、ベビーブームの子どもたちという社会的問題を機にかけていた。彼はある時鮎釣りをしていたが、たくさんの子どもが川べりで遊んでいた。「家が狭くて居場所がないから外で遊んでいる」のだと。そうか、家庭でも同じ問題が起こっているんだ、子どもの居場所がないということは、親の居場所もないだろう。でも大きな家に住み替える余裕はない、こうして、「子どもたちの勉強部屋」として、プレハブ住宅がつくられたのだ。10万で実現できるとあり大ヒット。

兵庫県尼崎市が経済の活性化のために行った「あること」……市外局番を大阪市の06と同じにしたのだ。20世紀に入ると電話が普及し始めるが、当時の市外局番は07。大阪との取引が大半だったのに、大阪への連絡は大変不便だったという。そこで、「市内全域、一括して大阪局の管轄区域に編入してもらおう」という声が上がり始めた。結果、1954年に実現。市外通話の約6割を占めていた大阪との通話代が、14円から7円になるというメリットも。経済活動が大きく盛んになった。もっとも、2億円の工事費は尼崎市が払ったという。

コックスバザール……世界一長い天然の砂浜をもつ海岸線があるところ。その長さはなんと125キロ。ベンガル湾に面しているが、ベンガル湾も世界一大きい湾。

なぜ報酬を「スイス銀行」に振り込むのか……スイス銀行と呼ばれる個人銀行は、顧客の情報の守秘義務に関してとくに厳しい。刑事事件が起きても、原則として顧客の情報を漏らさない。たびたび世界的に批判を浴びているが、金融業で生計をたてていただけのことはある。

レスリングとボクシングに共通する「身だしなみ」のルール……オリンピックに関してだが。実はヒゲが禁止。というのも、もつれあったときに眼球を傷つける恐れがあり、危険だから。

電車の乗務員室の扉付近は「潰れやすい」……潰れにくいほうがよい気がするが。むしろ逆なのである。潰れやすくすることで、衝撃を吸収する。乗客や乗務員への被害を少しでも軽減するのだ。

ホンダの本社ビル(青山ビル)の各階にバルコニーがある理由……バルコニーとビルの真ん中に窓がある。だから、地震でガラスが割れても、下を通る通行人がケガをしない。他にも思いやりがある。交差点の角から相当に引いて建てられている。本当はそこに建物が建てられるはずなのに。これは、交差点の見通しを良くして、事故が起こらないようにと配慮したから。このような考えは創業者である本田宗一郎氏の考え。ほか、緊急災害のときの備えとして、1万食の食料と飲み水も常備。

缶入り飴のサクマドロップが「防災グッズ」……糖分補給という目的だけではない。もし動けなくなった時でも、この缶を振ることで大きな音が出せるからだ。

陸上の短距離種目で第一レーンを使用しない理由……1500メートル走、3000メートル障害などで使うため、他のレーンに比べてコンディションが悪い。使うと2～9レーンに対して不平等になってしまうのだ。逆に、極力ここの使用頻度を減らすことでなるべく傷つけないようにするため、という目的もあるようだ。

駅弁が炊き込みご飯の理由……時間がたってもご飯が硬くなりにくいから。買ってからしばらくして食べる人のことも考えてそうしている。

最新のアロンアルフアに色がついた理由……昔は透明だったのだが、今のは色があえてつけてある。これは透明だと、どこに塗ったか見えずに手で触ってしまうから。

柄が短い老眼鏡が開発された理由……柄というか、側面のあの棒みたいなところ(耳にかけるところ)である。あそこが長いと、白髪染めをするときに邪魔になってしまうのだ。お年寄りのニーズに的確に答えた商品。

災害救助犬のストレスを解消するために……災害救助犬は当然、生きている人間を探すのが仕事。そして、それに悦びを感じている。ところが甚大な被害が出た地域などでは、なかなか生存者が見つからず、やっと発見したときには既に息絶えていた、というようなことがある。これにはかなりの、目に見えてわかるほどのショックがあるようで、死体ばかり見つけた災害救助犬はついに救助に行くことを嫌がるようになるという。そのため、スタッフがわざと瓦礫にもぐり、一芝居うって救助されたフリをするのだ。メンタルをズタズタにされながらも、人のために役立っているのである。

男性のおしっこは、出てから2センチのところで180度回転している……本当の本当に無駄な知識。だがそもそも回転するのは尿をまっすぐにしかも長く飛ばすためだと考えられている。尿道は縦に細いのだが、外に出た瞬間に水流の断面は円形になろうとする。そのため、縦長の断面と横長の断面を繰り返す波が生まれ、回転しているように見えるのだとか。女性のオシッコが飛び散りやすいのは、尿道の短さによるもの。水流の外側と内側の速度の差、男性なら尿道が長いのであまりないが、女性は短く差が大きい。空気を巻き込んで水流が乱れ、飛び散りやすいのだという。

カーネルサンダースのかけている眼鏡は本物の老眼鏡……度がちゃんと入っているのだという。神は細部に宿るというが、それを実践しているケンタッキーの鑑。

野口英世の自伝は作り話だと本人が語った……あんなものは作り話だ、と吐き捨てた。人格者のように描かれることが多いが、実際は研究資金を芸者遊びにつぎ込んでみたり、禁煙のはずの喫煙所で喫煙し同僚から嫌われていたなど、クズエピソードが多い。研究成果と人格は比例しないものだ。

地上でうろうろするアリはみんな「おばあさん」……若いアリは巣の中だけで生きている。オスに関してはもっと悲惨で、女王アリと交尾をするためだけに生まれて死ぬ。

ずーっと未来永劫同じ曜日の日がある……4月4日、6月6日、8月8日、10月10日、12月12日は、なんと全て同じ曜日になるという。2月2日が違うのはうるう年があるため。

人工呼吸を練習するためだけの人形がある……生徒にやる気を出させるため、「ありがとう」としゃべる機能がついたものもあるが、非常に高価で400万以上する。一家に一台はほしい。

「男は度胸 女は愛嬌」の続き……坊主はお経。江戸時代には、度胸がない男、愛嬌がない女、そしてお経さえ読めない坊主がたくさんいたため、このことばができた。

真珠はアサリからもとれる……アコヤガイからとれるものが真珠とされているが、要するに二枚貝が防衛のために炭酸カルシウムをまとえば良いだけの話、アサリからも取れるという。その確率は1万分の1と非常に低い。さぞ高価だろうと思ったら、宝石としての価値は1円もないという。

フランス人もマクドナルドを「マクド」と呼ぶ……関西人もマクドと呼ぶ。よって関西人はフランス人。マックはフランス語で「売春婦のヒモ」という意味があるためそう呼ばれる。

「微妙な三角関係」は韓国語で……ビミョウナサンカクカンケイという。トリビアすぎる。「マッサージ30分無料」は「マッサージサムシップンムリョ」である。

思春期の定義……医学的には、金玉、キンタマの容量が4ミリリットルを越えた時点だとされる。これはうずらの卵とほぼ同じ大きさ。

江戸川乱歩は話のオチを思いつかず謝罪した……「悪霊」という作品の結末がどうしても思いつかずに、紙面で読者に謝罪したことがある。まさに「意外な結末」。

ティラノサウルスは痛風にかかっていた……当時の骨を調べると、痛風だったという症状がみられるものが。当然、原因は肉の食べ過ぎ。そりゃ凶暴化するはずだ。それでいいのか恐竜くん。ちなみに体重が重すぎて、足の骨が重量に耐えられなくなるため、走れない。コンピュータによる計算では時速27キロが限界だという。

ネバーランドに子どもしかいない理由……なんとも恐ろしい。ピーターパンが、成長した子どもを殺しているからだという。漫画、アニメ「約束のネバーランド」が「ネバーランド」なのはそういうわけか。

ガードレールの端っこの丸まっている部分の名前……袖ビーム。なんともどうでもいい。ビームとは梁のこと。直角方向に力を受けるための長い部材を指す。

マラソン選手が乳首に塗るためのクリームがある……走っていると乳首がすれてめちゃくちゃ痛いのだ。これ本当。そこで摩擦から皮膚を守るためのクリームがある。アマゾンでも売ってる。同様の効果を狙う「男性用ブラジャー」というギリギリのアイテムもある。

「母」の中にあるてんてん……母という漢字の中にはてんが2つあるが、これは乳首を表す。よろしく。

宝くじの高額当選者にのみ配られる本がある……主な内容としては、「誰に知らせるか」「もしものときの遺言状のまとめかた」など、意外に役立つことばかり。取り乱したり、みんなに暴露したり、突然仕事をやめたりようにという至極まっとうな内容が書かれているが、その忠告も虚しく、使い果たして破産するものも中にはいるようだ。他人からの嫉妬で人生がめちゃくちゃになった者も海外にはいる。結局、身の丈以上の金を望まない方がよいのかもしれない。

「訓読み」の「訓」は……音読み。

こめかみの語源……米をかんでいるときによく動くから「こめかみ」。だが実は、何を食べていても良く動く。

ゾウリムシの語源……英語名「スリッパ小動物」から来ているのだが、スリッパを知らなかった京大の教授が「ゾウリ」と訳したのがきっかけ。ゾウリに似ているからではない。

ダヴィデ像の目はハート型……ミケランジェロの彫刻であるダヴィデ像はハートの目である。割礼器具を模したものだとかいろいろあるが、結果的にハートっぽく見えていると言うのが正しいよう。

「壁」に関する雑学……壁に体の側面を密着させて立ってみよう。すると、密着していない側の足は、上がらなくなってしまう。また、壁につま先をつっつけると、背伸びができなくなる。それから、座った状態で壁に背中をつけ、額を誰かに押されたままだと、立てない。

競馬の馬の9割は胃潰瘍……イギリスの”Equin Veterinary Journal”の調査にある。馬はストレスに弱いデリケートな生きもの。しかし過酷なトレーニングのせいで、その9割が胃潰瘍になっている。一生懸命に走るが、同時にレースを楽しんでもいるので大丈夫だという。本当か…？なお胃潰瘍は程度の軽いものであるといい、目に見える症状はない。内視鏡検査によって明らかになった。しかしかわいそうだ。

オーケストラでのギャラはどうするか……実は演奏量、担当パートに関わらず、みんな同じギャラ。当然、第一バイオリンとシンバルも同じギャラだが、シンバルが一度しかならない曲もある。効率がいいといえばいいが、暇といえば暇。

社会契約論のルソーは露出狂だった……女の人に見せるのをどうしても我慢できない、と自分の日記に書いていた。それにより捕まったこともある。業績や頭の良さと、性的嗜好は関係がない。

アゴと肘は絶対にくっつかない……それは人間の骨格上の話。めちゃくちゃアゴが出ていても無理。どんな天才にも、どんなアスリートにも無理。

結婚式のご祝儀に偶数は駄目は嘘……マナー講師やらがつくったであろう嘘である。偶数であっても「対」という意味があり、縁起がいいとされる。八は末広がりで縁起もいいし。

稲川淳二の本業はデザイナーである……怪談話で知られる稲川淳二。元々はデザイナーであり、そっち方面では優秀らしく、グッドデザイン賞を獲得している。いつの間にかタレントになり、そして怪談話をするようになった。字が非常に特徴的なのも面白い。

西郷隆盛の本名は隆盛ではない……西郷隆永だという。偉い人に勘違いされたのをそのまま受け入れたという。男気があるやら、臆病やら。

峰不二子のスリーサイズは全部ぞろ目……下から88.8、55.5、99.9。日本人離れしすぎやろ。

モハメド・アリがボクシングを始めたきっかけ……自転車を盗んだ相手をぶちのめすため。盗むときはちゃんと相手を選ぶようにしよう。

山田耕筰の本名は……山田耕作。自分の頭に「毛」がないことに悩み、作の字に「ケ」を入れたという。まさに名前負け。

ブルース・リーの叫び声だけのカラオケがある……冷静になると頭おかしいが、ストレス発散にはなるかもしれない。それは「燃えよドラゴン」という歌。本当に「アチャー、ホッ、ハッ」から始まる。トリビアの泉では桑名正博さんに歌ってもらっていた。

一青窈の「もらい泣き」は再生速度を遅くすると……平井堅が歌っているように聞こえる。サビの部分がマジで似ている。使う機会がない。

ブッシュ大統領の草の根運動……演説中にあくびをした男の子に対して、「私の演説は長かったけど、これからも支持してください」という手紙を出したことがある。本当に残っている。「愛しのタイラーへ」からはじまり「お父さんによろしくお伝えください」でしめている。彼の父は後援会の主催者だったため、面目が潰れるとの配慮から側近に手紙を出すことを勧められたという。

ブッシュ大統領の顔面パンチ……イェール大学の卒業アルバムに、ラグビーの試合で彼が相手の顔面にパンチを入れている写真がのっている。当時から「手段を択ばない男」という評価で、それをよく表していた写真だったのだろう。なお、最初は野球をやっていたが活躍できなかったため大学でマイナーなラグビーを選んだが、ラグビーでも活躍できなかった。学業も駄目駄目だったが、飲み会サークルに精を出していたという。「将来大統領になるなんて思いもしなかった」と当時の人達は語る。なお、「ホワイトハウスはどんなところ？」と聞かれ、「白いよ」というやっつけ神解答も生んでいる。

ブッシュ政権はホワイトハウスを引き離す時……クリントン政権にホワイトハウスを引き離す時、イヤガラセのためにドアノブを取り外した。

ロックミュージシャンの忌野(いまわの)清志郎は身の上相談された……母親に、「子どもが最近ギターに凝りだして困ります」と、新聞に身の上相談を投稿されたという。いつでも親には理解されないのが子どもである。

マギー司郎は偽札製造の容疑者にされた……劇場で手品をやって、ただの紙を一万円札に変えるマジックをしたところ、容疑者扱いされた。客が通報し、警察がやってきて取り調べをされてしまった。「本気で信じてしまう人は結構いる」とのことで、宿の仲居さんにこれをやったところ、白い紙の束を持ってきて「これに一万円札を印刷してください」と言われたという。

ジョンレノンとオノヨーコが名前を呼び合うだけのCDがある……「ウェディング・アルバム」というのがそれ。本当に22分間、ただただ互いの名前を呼び合う。世界一有名なバカップルである。

チャゲアスの二人の距離は2メートル10センチ……実際らしい。この距離が最もちょうどいいからだというが…。今や距離どうこうの話ではなくなってしまった。

「１・２・３・ダー」は商標登録されていた……アントニオ猪木が登録していた。オリジナルなのはいいとして、どうやって著作権料を取るというのだろう。

服部半蔵は部下の忍者部隊にストライキを起こされている……二代目の服部半蔵のことである。家康の姪をもらい、調子に乗って部下の妻に手を出したり、それを指摘した部下の給料を横取りしたり、けっこうどうしようもない人物だったという。ストライキの件は「徳川実紀」に書かれている。忍者とその親族、1000人以上のストライキを受け、反省するかと思えば10人を死罪に。そのうち逃亡した2人の1人は切り捨てたのだが、まったくの別人。それを咎められ、江戸時代にクビにされてしまった。名誉挽回をかけた戦いでは逃亡し、75歳まで何食わぬ顔をして農民として生きた。雲隠れの術が得意だったのだなぁ。

清少納言は股間を丸出しにしたことがある……女であることを証明するためだったという。事件は1017年のこと。朝廷での務めを終えた彼女はその後、尼として出家し、兄・清原致信(きよはらのむねのぶ)のもとで暮らしていた。このとき、兄は源頼光と対立しており、あるとき頼光は致信に暗殺者の一行を送り込んでくる。結局一家はこれで惨殺、そして清少納言も殺されそうになってしまう。当時、このような謀殺の場面では女性は見逃されることが多かったが、そのときの彼女は男と勘違いされてしまったのだ。出家していたため化粧していなかっただろうし、ゆるりとした着物で、女性であっても体型がよくわからない。僧兵と勘違いされても仕方がない状況だった。彼女はすぐさま股間を出し、自分が女性だとわからせたのだ。案の定「女は斬れぬ」といって、一行は引き上げていったという。…清少納言、なんとしたたかな女性だ。ちなみに彼女、けっこう腹黒いことも書かれている。枕草子の270段「人の上言ふ腹立つ人こそ」には「人の悪口をいうなという人がいるけど、あれって本当に困るよね！」とある。彼女いわく「人の欠点ほど、話題にしたくなるものはないでしょう」とのこと。その後に「でも、いつも人の悪口ばかり言っていると、自分が嫌われてしまうから、仕方なく言わないようにしている」と綴られている。

ファーブルは小鳥を撃ち殺したことがある……ファーブルの地元であるフランスでは彼はほとんど無名。フランス人に彼を紹介すると「なんで昆虫学者が…」と絶句するという。

弘法大師は字の失敗を筆の失敗にしたことがある……威厳を保つのは難しい。なお、筆の選び方にもめちゃくちゃこだわっていたという。失敗した字は「應」の字。

ウルトラマンと仮面ライダーは、握手したことがある……わからなくもないがサイズ的に問題ないのだろうか？

さんまのまんまの「まんま」は犬ではなく犬型宇宙怪獣……そもそも犬にも見えないが。宇宙船が故障し、さんまに飼われているという設定。

子連れ狼……1970年代の漫画、およびそれを原作とするドラマやテレビ。柳生一族の手で妻を失い、残された息子とともにさすらいの旅に出た「拝一刀」(おがみいっとう)。挿入歌としてつくられた「しとしとぴっちゃんしとぴっちゃん」は筆者の祖父が小さい頃から歌ってくれた曲。「悲しく冷たい雨すだれ　幼い心を凍てつかせ　帰らぬちゃんを待っている　ちゃんの仕事は刺客ぞな」という、刺客である父親の帰りを雨に濡れながら待つ息子の、なんとも悲しい曲である。3番まであるが、はじめは全部擬音語。「ぱきぱきぴきんこ　ぱきぴんこ」って何だよ。乳母車にはマシンガンが装備されており、敵は当然全滅。ソリにもなる。

最初から最後までずっと青い画面だけの映画がある……タイトルも”blue”。前衛芸術だというが、よくわからん。

中国ではパンダに性教育ビデオを見せる……興奮させて交尾させようとしているらしい。効果あるんだろうか？

浦島太郎が助けたカメはメス……浜に上がるのはメスだけ。理由はもちろん産卵。産卵をしにきただけなのに子どもにいじめられるなんて、災難にもほどがある。

シロアリはボールペンの線の上を歩く……インクとフェロモンが似た成分で、勘違いしてしまうらしい。これほどまでに役に立たない雑学も、なかなか珍しい。

恐竜のゲロの化石がある……その価値は1億円。吐しゃ物はすぐに分解されるため、化石として残ること自体が珍しい。

ハサミで手招きし、メスを連れ込んで交尾するカニがいる……シオマネキという種類。大きなハサミを振る行為が求愛行動になっている。大きければ大きいほど、メスを魅了するという。英語でも”Fiddler crab”(バイオリン奏者のカニ)と呼ばれ、ウェービングの様子を表している。中国語では古来から「招潮子」と呼ばれている。動画を見てみるといいが、こいつ自身が小さい上に動きも速くないので、めちゃくちゃかわいい。

ミジンコは危険を感じると頭が尖る……少しでも食べられにくくするためなのだそうだが、結局意味もなく、ほとんど食べられてしまう。なお、ものすごく頭が尖るように進化した「ダフニア・ルンフォルツァイ」という種もあるが、こいつも結局食べられる。

ザリガニの交尾……オスがメスを仰向けにして、手と手を取り合う。完全に正常位でした本当にありがとうございました

10メートル以上の高さから飛んでも死なないカエルがいる……「トビガエル」という。普通のカエルならば、高さが3メートルもあれば、内臓が破裂して死んでしまう。しかしこいつは、両手両足に水かきがあり、これがパラシュートの役割を果たす。水泳選手も、落ちても死なないのだろうか？

タコはビンの蓋を開けることができる……意外に賢いのだ。脳が非常に大きく、犬や猫と同じぐらいの知能がある。ちなみにタコといえばタウリンだが、タウリンにはそんなに疲労回復に効果なし。みんな、あのCMに騙されているのだ。

ゾウリムシはお酒につかると毛が全て抜ける……アルコールという劇薬に対し、少しでも触れる面積を減らすため。自ら脱毛するという機能がもともとゾウリムシにはある。なんとも便利だが…？

ウニの口には名前がある……アリストテレスが「提灯みたいだ」と言ったので、「アリストテレスの提灯」という名前がある。

ノミは高く飛び跳ねるがうまく着地できない……自分の身長の300倍の距離を飛ぶことができるが、本来は寄生するためにジャンプするため、着地は本当にめちゃくちゃ。人間のサイズになったらと考えるが、結局着地の時点で死ぬだろう。

犬の水の飲み方……舌の表側ではなく、裏側に丸め、すくって飲んでいる。やたら飲みにくそうなのはそういう理由なのだ。飲むというか、かじるような感じ。

チーターは尻尾を回しながら走る……時速100キロという速さを維持することができるが、このスピードで曲がろうとすると転ぶため、バランスを保つために尻尾を回している。最高速度でいられるのは5秒程度。つまり一瞬に全てをかけているのだ。

「マウスが死ぬほどの毒」という単位……貝類などの毒素の強さをはかるさいに共通になっている単位。「マウスユニット」というのだが、「マウスが1匹死ぬぐらいの量」が1マウスユニット。

サメは乾電池に驚いて逃げる……サメの頭には「ロレンチーニ器官」という、電流を感じ取るための器官があるのだが、乾電池の電流は彼らにとってみれば超巨大魚なみ。ダイビングのさいは必須かもしれない。

ゴキブリは夏の季語……確かに「象徴」ではあるかもしれないが、「風物詩」とは考えたくないし、ましてや「季語」と認識さえしたくない。これからもしない。

ホタルイカはホタルイカ科ではない……ホタルイカモドキ科。日本でホタルイカが見つかるよりも前に、ヨーロッパで別のホタルイカが見つかっていたため。非常に紛らわしいのだが、ホタルイカモドキ科には「ニセホタルイカ」がいる。めちゃくちゃ珍しいので写真はほとんど存在しない。

驚いたときに体が細長くなるフクロウがいる……アフリカオオコノハズクという。面白画像で有名。マジで細いしブサイクだが、かわいい。

牛のような模様の馬がいる……特別な品種ではなく、本当に単なる偶然でそのような模様になるのだとか。いっそ、ウシと偽ってウマを売ればどうだろうか。

闘犬の反則技「変態」……そのまんま、交尾のこと。相手が戦意喪失するということで反則となる。

カンガルーとワラビーの中間は……「ワラルー」大型のものをカンガルー、小型をワラビーとしたため、こう呼ばれた。画像が非常にかわいい。

ヒトデは全身を縄で縛られても抜け出せる……ヒトデの腕には1ミリほどの骨が無数に並んでいる。その骨の間全ては関節になるため、腕をつかって移動できる。動画を見ればわかるが、マジで問題なかった。さらにこの腕には再生能力もある。

ペンギンの足は長い……あの「もこもこっ」としたところにちゃんとしまってある。骨格を見てみるとわかる。

スターウォーズのテーマ曲には日本語の歌詞がある……およげたいやきくんの子門真人が歌っている。「い～け～はるかとおく～」から始まる。イメージを壊すからやめてくれと本家からクレームがついて、お蔵入りになった。聞くことはできるが、本当にださいので注意。

サザエさんのエンディングテーマは一番の歌詞ではない……「二階の窓を開けたらね　朝の光が差し込んだ」から始まるのだが、歌詞ではサザエさんの家は「二階建て」しかしアニメは一階しかない。設定が食い違うため、しょうがなく二番を使っている。

カーペンターズの関西弁バージョンのCDがある……全編にわたり関西弁にわたってアレンジされた「涙の工務店」がそれ。”Yesterday Once More”は「あのエエ頃　もういっかい」などタイトルからさんざん。ただ割と翻訳は忠実、演奏も原曲に近いため、筆者は普通に気に入った。

芝刈り機が草を刈る音だけのCDがある……ニュージーランドの人にとっては、芝刈り機の音は郷愁を誘うもの。日本人でいうところの虫の音。都会に出た若者に、故郷を思い出してほしいという意図でつくられた。

コンサートで寝てる人を起こすための曲がある……ハイドンによる「交響曲第94番　驚愕」。当時は酔っ払いが観客にいたため、鑑賞の態度が非常に悪かった。

カラオケで般若心経が歌える……歌えるというか、読む、といったほうがいい。ただ今でも読めるかはわからないし、ようつべにいくらでもよいものが転がっている。覚えるならそれを使おう。般若心経は266文字の短いお経なので、広く親しまれ、法事では最もよく読まれる。

オリコンCDランキング1位が槇原敬之の「No.1」に対し……2位はZARDの「もう少しあと少し…」これぞトリビア。

楽譜に「指揮者が倒れる」という指示が書かれた曲がある……カーゲルが書いた「フィナーレ」という楽曲がそれ。演奏の途中で指揮者が死んでしまうという設定。

サザエさんのエンディング曲ぽいアメリカの歌がある……フルーツガムカンパニーの「バブルガムワールド」がそれ。イントロがマジでそれにしか聞こえない。ただ、心地よい音程なんかはとっくに出尽くしているため、本当にパクリなのかどうかは、議論の余地あり。

世にも奇妙な物語のテーマ曲を怖くなくする方法……手拍子を叩きながら聴くこと。あのテーマ曲(「ガラモン・ソング」)に使われる不協和音は全部手拍子のタイミングと被る。音が打ち消し合って怖さが減る。本当に怖くないのでためしてみよう。これぞトリビアの泉という感じですこなのだ。

おならの音を集めたレコードがある……「ワンダープーランド」という名前のレコード。屁だけが本当に集まっている、どうしようもない曲。

フォルテの最上級は「フォルテシシシシモ」……そこまで強く弾けねえよ！という感じ。音ゲーに同じタイトルの曲があるのでだいぶ有名に。音楽記号はfffff。調べてみると「フォルテシシシシシモ」というffffffの曲もあるようだ。

日本最初のハンバーガーチェーン店はマクドナルドではない……ドムドムバーガー。1970年、町田にできた。その翌年にマクドナルドが三越にオープン。ただ最近はめっきり売り上げも減ったようで、下手するとその名前を知らない子どもの方が多いだろう。月日は残酷ですね。

ビールの泡はビールなのか裁判で争ったことがある……泡ばかり出す店があり、客がこれを訴えた。酒学の権威である学者が調査したところ「泡のほうがアルコール度数が高い」と突き止めたため「泡もビールである」という判決が。ただ、ジョッキに泡しか入ってなくてもこうなるのだろうか？ちょっとおかしい気もするが。

ニュートンが万有引力を発見するきっかけになったリンゴはまずい……非常にばかばかしくて好き。食用のために品種改良されたものではなく、食べると砂のような味がするという。まああのエピソード自体嘘なんですけどね。ちなみにフックはニュートンより先に気付いていたが、実験が上手なのに理論が苦手だったため、先を越されてしまった。

おからが産業廃棄物かどうかの裁判があった……豆腐工場から出るおからは年間70万トン。しかし食用になっているのは、そのうちわずか5％である。簡単に言えば、無許可で豆腐工場から有償でおからを買い取り、豚の飼料にするための会社をした人がいた。「不要物を処理しただけだ！」と主張し、最高裁まで争われたがこの人は負けた。あまりに再利用率が低いため、産業廃棄物になっても仕方がないとはいえる。

つまようじの誤飲のための対策……対症療法ではあるが、パスタの生めんをつまようじとしたスーパーがあった。これなら間違って飲み込んでも大丈夫だ。ちなみに韓国は環境保護のため、紙コップや割りばしの使用が禁止されており、トウモロコシのデンプンからつくられたことがあった。しかしすぐに柔らかくなり、使い勝手は良くない模様。

力士が食べる食事は全部「ちゃんこ」……相撲大辞典にそう記載されているのだが、現在では「相撲部屋で食べるものは全部ちゃんこ」となっている。

日本初のカレーにはカエルが入っていた……日本にカレーを伝えた料理人は中国にいて、中国ではカエルが食べられていた。これを応用したと言う。1872年創刊の「西洋料理指南」に掲載されているカレーのレシピには材料に「カエル」が記載されている。カエルは鶏肉に似ており、クセがなくて食べやすいとは聞く。しかしあの見た目よ。食べられるとは思えない。

ヨーグルトの上にたまる水分の名前はホエー……健康食品としてでかい顔をするヨーグルトだが、実はホエーのほうが栄養価が高い。タンパク質、ビタミン、ミネラルなどを含み「完全栄養素食品」と呼ばれている。他にも納豆や玄米、牛乳、バナナ、卵などがある。

かまぼこに関する新聞がある……「水産練製品新聞」という。新聞とはいっても発行は月一。そんなに話題がないような気がするが。

牛乳を浄水器に通すと透明になる……ジュースなども同様である。色素だけがろ過されてしまうのだ。見た目は透明なのに牛乳の味がする、という不思議な体験ができる。

麦茶と牛乳と砂糖を混ぜると……コーヒー牛乳の味になる。割合は麦茶と牛乳が同じずつ。麦の成分がコーヒーに似た香ばしさを出すそうだ。なので、濃い目の麦茶のほうがそれらしくなる。ウッソ～と思うが、「麦芽コーヒー」というコーヒー牛乳と区別がつかないような麦茶牛乳があるので、たぶん本当にコーヒー牛乳で、しかも美味しいのだろう。

ジンジャーエールはめちゃくちゃ過冷却が起こりやすい……十分に冷えたジンジャーエールを冷蔵庫から出すと、過冷却現象が起こる。あらゆる飲み物の中でも最も過冷却が起こりやすい。もちろんただの偶然。

ウェディングケーキは花嫁の頭の上に投げつけ割っていた……古代ローマの風習。子宝に恵まれるという理由で行っていたが、意味が全く分からない。ケーキの割れ具合がいまいちだったときは何度もぶつけていた。ちなみに当時のケーキは、今でいうところのスポンジとかクッキー。生クリームベタベタのものではない。

リアルゴールドにブラックライトを当てると光る……本当に黄緑色に、怪しく光る。これでシャンパンタワーをやったら映えそうだ。リアルゴールドの中のビタミンB2が、紫外線を吸収して可視光線として吐き出す。人間の目には光って見えるのだという。

パパイヤの種はワサビ味……パパイヤを食べたことがないのだが一応。辛味成分である「イソチオシオン酸アリル」が入っているため。

みかんをみかんネットに入れて回転させると……みかんが弾けて割れる。遠心力に皮が耐えられなくなり、割れてしまうのだ。ただ、こんなに使う機会がない果物系の雑学もかなり珍しい。風船にみかんの皮の汁をかけると、ミカンの皮に含まれる「リモネン」という油が、天然ゴムの中の「イソプレン」と似ているため、融け合う。それにより風船は形を保てず、割れる。

お米には「チンコ坊主」という種があった……北海道の道央で明治時代から大正時代にかけて栽培されていた。食べられる大きさまで成長すると、男性の股間の高さにまで成長した。ペニスの名を冠する米とか、食べたくないなあ。

開封した瞬間に中身がほとんど飛び出す酒がある……「るみ子の酒」という銘柄。こちらは酵母菌が生きたまま入っている。中でアルコール発酵を起こし、炭酸ガスが発生するため、何も知らずに開封すると中身ごと吹き出す。

バナナの皮をむき実の中心を指で押すと……見事に三つに分かれる。もともとバナナの実は3つの果肉から構成されるため。

骨なし魚は中国の工場で一本ずつ骨を抜いている……一匹当たりの骨抜き時間は2か3分。また、手作業で抜いた後はX線にかけて、ひとつ残らず見つけることが可能。魚をレントゲンにかけているのと同じ。学校給食や病院食で死ぬほどお世話になる。

皮をむいたニンニクの粒を電子レンジで温めると……回る。なんとも雑学らしい雑学でよろしい。電子レンジで温めると、粒の中の水蒸気が外に出ようとする。しかし皮が硬いために水蒸気が抜けず、加熱され続ける。皮が内圧に耐えられなくなった段階で一部が弾け、噴き出した水蒸気の勢いで、回る。

無農薬農法の合鴨は害虫駆除が終わると食べられる……害虫を食べることが合鴨の役割だが、だんだん大きくなってくると、合鴨が通るたびに稲が踏みつぶされる。せっかく大きくなったのだから食べようぜ、というわけ。合鴨、かわいそう。

焼肉で牛の歯茎を食べるのは法律違反だが、乳首は食べても良い……舌、頬肉以外の頭部を食用にしてはならない、と法律で決まっているから。こちらトリビアの泉由来だが、歯茎と乳首を比べるセンスが、たまらなく好きだ。ちなみに金玉、キンタマさんの皮も食べることができる。美味しいらしい。

北海道には「ヤリキレナイ川」という川がある……アイヌ語が語源。語源は「魚の住まない川」「片割れの川」という意味。北海道夕張郡を流れる、石狩川水系の全長5kmの川。「ヤンケ・ナイ」「イヤル・キナイ」と呼ばれていたが、時々氾濫した川を住民が「ヤリキレナイ川」と呼び始めたのがきっかけで現在の名前に。そう聞くとすごく大きいイメージだが、全然。ヤリキレないほど小さな流れである。やりきれねえ。

埼玉県の中には東京都練馬区がある……恐ろしいことに理由がわかっていない。一部の市民が合併に反対すると、こういう事例がおこるそうな。

ヤギに足の裏を舐められるという刑がある……苦しくはないが、死ぬほど恥ずかしいらしい。「拷問全集」にある。

渋谷には昔、ロープウェイがあった……渋谷の東急百貨店の西館から東館へと走っていた。無駄を極めた古き良き時代。

アルゼンチンには昔の丸の内線が走っている……運転席の表示などは全部日本語のまま。運転手いわく「文字は読めないけどカンで運転している」ホンマかいな。この丸の内線は現在日本に帰ってきている。20年ぶりの帰還だそうな。

サッカーのユーゴスラヴィア代表で名前が全部「ビッチ」だった……1998年フランスワールドカップ、ドイツ対ユーゴスラヴィアの試合のこと。キーパー以外の全員の名前に「ビッチ」がついていたことがある。なお正しくは「ヴィッチ」である。ビッチは雌犬、およびそれに準ずる汚いことばになってしまう。空気を読めなかったキーパーの名前は「クラリュ」しかし控えのキーパーはレコビッチだった。

台湾の非常口のマークは「必死」……何がといえば日本よりも足の長さが左右で違うため、めっちゃ頑張って逃げているように見える。どうでもいいな。ちなみに台湾の歩行者用信号機は、赤が近づくと急ぐ(台湾人は赤になっても急がないが)。現地では「小緑人」という愛称が。他バージョンもあり、赤のときに彼女に告白、青になると二人で歩きだす、かなり可愛いものも。

ライオンの糞がまかれた道路がある……JR紀勢線ではシカとの接触事故が相次いでいた。そこで、専門家に意見を求めたところ「ライオンの糞が鹿よけになる」とのことで、液状化させたライオンのフンを線路にまいた。確かに効果はあったそうだが、雨で流れるという致命的なエラーがあり断念。

モンゴルでは互いの足がぶつかると必ず握手する……かなり面白い雑学。足がぶつかると将来は敵同士になると考えられていて、それを避けるために握手をするそう。トリビアの泉では実際にモンゴルで怖そうな人に実験を行っていたが、何度ぶつかっても握手していた。最後は不機嫌になっていたが…。

通天閣は昔、凱旋門とエッフェル塔をくっつけた形をしていた……凱旋門の上にエッフェル塔が乗っかったような形。派手が好きな資産家が自分でデザインを決めたらしい。しかしまあものすごいインパクトだ。この通天閣は戦争の材料不足で解体されてしまった。

ベルリンの壁は一人の男の勘違いで崩壊した……壁が東西を分断しようとも東ドイツから西ドイツへの亡命は止まない。ついには旅行の自由、言論の自由を求める大規模デモにまで発展。頭を悩ませた旅券局長ラウラーは「外国旅行を無条件で認める」「出国ビザを遅滞なく出す」という規制緩和を出すが、この政策を閣議に通す前に発表したのがシャボウスキー。彼は事前の会議にしっかり出席できず、報道解禁前の内容を記者会見で述べてしまう。「それはいつからですか？」という質問に対し、『遅滞なく』の部分を勘違いし、「出国規制を今から緩める」と言ってしまったのだ。これは大々的に報じられ、ニュースを知った民衆は次々にベルリンの壁に詰めかける。それと何も知らされていない国境警備隊。なすすべもなくついに壁は開放。

国旗が緑一色の国がある……リビア。当然、全部緑。カダフィ大佐の「明日までに国旗をつくれ」という無茶ぶりに対応したため、このようなことになった。現在ではちゃんとしたものがつくられている。

シャンゼリゼ通りのカフェではカニカマが人気……EUやアメリカでは魚を食べるほうがヘルシーと考えられており、食材として汎用性が高いカニカマが非常に人気。意外にグローバルな食材だった。

中国では赤ちゃんが「股間だけ切られた」ズボンを履く……そこらへんで放出されるのはたまったものではないが、おしりだけ見えた赤ちゃんも可愛い。ただ経済発展すると衛生意識も高くなる。じきに見られなくなるだろう。

全米一臭い靴を決めるコンテストがある……ロッテンスニーカー(腐ったスニーカー)コンテスト。アメリカぽくて非常によろしい。コンテストは完全に審査員の主観。臭いのが面白いのは万国共通なのだろう。

静岡県には「月まで3キロ」という標識がある……月という静岡の地名だ。だいぶ有名。実際の距離は38万キロ。太陽系の惑星を並べてちょうどすっぽりぐらいの距離。

ヌーディストビーチ見たさに乗客が片側に集まり沈没した船がある……男は悲しい生き物である。

アメリカには軽犯罪者を恥ずかしい刑罰で裁く裁判官がいる……チコネッティ裁判官という。例えば警察官をブタ呼ばわりした男に対し、禁錮3日間か、ブタの隣で「これは警察官ではない」と書かれた看板を持って2時間立たされる罰かを選ばせた。アダルトビデオを盗んだ少年に対し禁錮30日と12か月の保護観察期間か、ビデオ屋の前で「悪(アダルトビデオ)を見るな」と書かれた看板を持って4時間座る罰かを選ばせた。落書きに対し、上半身に自分がやった落書きと同じものを描かれ街を歩かされる刑を処した。この刑罰によって異常に再犯率が下がるそう。自らが罰を選ぶ、辱めをうけるというのが効果的だそう。

東京都のふぐ料理店では、毒を捨てるゴミ箱に必ず鍵かけが義務付けられている……各々の店で徹底して鍵をかける。これは「東京都令記集」になっている。他の食品に混入したりしないためらしい。かけているかどうかまれに保健所の人が来るらしく、かけてないばあいは30万円以下の罰金、もしくは懲役6か月以内の懲役。大都市がある都道府県ではこういう条例がある。絶対守ってないだろ。

オーストラリアの鬼ごっこは男女に分かれ、捕まえたらキスをする……なかなか過激だ。実際のその理由を子どもに聞いてみたら「誰が一番人気なのかわかる」「誰が誰を好きなのかわかる」「キスしたいからに決まってるじゃん」とのこと。やっぱり過激すぎる。

アメリカの有名マウンテンバイクメーカーの2005年モデルの名前……なんとヤクザシリーズ。アイアンホースという名前の会社のマウンテンバイク。製品もちゃんと「組長」「若頭」となっている。組長が25万円ほど。今は売っていない。

北海道には「ヒマラヤ」と紛らわしい山が3つ並んでいる……カタカナでかくと「ヒラヤマ」「ヒマナヤマ」「ヒマラヤマ」。平山、比麻奈山、比麻良山。なぜにこうも紛らわしいのか。

京都の保津川の川下りでは、船頭が上流まで戻るのに電車を使う……船でわざわざ上がったりはしないのだ。船に関しては、わざわざクレーンで引き上げている。やっぱり大変だ。

テレビ欄で番組を語りすぎている地方新聞がある……思いやり。新潟の地方紙「三條新聞」がそれ。テレビ欄に2ページを費やし、「番組を見ていない子どもでも内容の3分の2がわかるように」との意図。ネット時代には全く意味がなくなったが。

山形県山形市の人は「〇〇でした」と電話をかける……「もしもし、田中です」が普通なのだが、ここの人達は「もしもし田中でした」と名乗る。経緯は謎であるが、「バスが来た」と同じように状況を表すことばとして使う。現在完了形みたいなもんだろうか？

ライオンズクラブの会員は互いの名前にライオンをつける……「大西ライオン」みたいな感じか？ライオンズクラブは世界最大のボランティア団体で、191か国に140万人もの会員がいる。日本でも清掃や献血などを行っている。英語の「ミスター」の代わりに「ライオン」をつけるようになったのがきっかけ。ちなみにボランティアが終わったあとは、万歳のかわりに「ウオーーー」と雄たけびを3回あげる。

ツタンカーメンの墓をつくった人達の出席簿がある……欠席理由も書かれていて「二日酔い」とか平気であったりする。奴隷が働いていたイメージがあるが、実際はそうでもない。王様の墓なのだから、もう少しちゃんとした仕事をする人を雇えばよかったのに。

ケニアの小学校では「はとぽっぽ」が振り付けありで歌われている……日本の歌、として学んでいるそうだが、日本人は振り付けありじゃ歌わないよ。音楽の教科書にのっている。日本語で意味がわかりにくいため、振りをつけて歌うとのこと。

香港の結婚披露宴は開始直前まで麻雀をする……香港では麻雀は誰でも親しみがあるゲームとして広まっている。日本でいうところのスマブラみたいなもん。そら盛り上がるわな。

タイの軍人はくじ引きで決まる……徴兵。赤を引けば兵隊に、黒だと家に帰ってよい。まあ公平ちゃ公平。テレビにもその様子が取り上げられ、非常に盛り上がるそう。青春の2年間がかかっているため、その様子は悲喜こもごも。タイには若者が多すぎて、全員を兵士にすると軍事予算が圧迫される。くじ引きは引いた後にショックを受け、倒れる人もいるそう。運が良いと考えるか、悪いと考えるかは本人次第。大半の男子は嫌がっているというが、逃げると10年の懲役。

18世紀ミイラは汽車の燃料になっていた……ミイラに使用されていた樹脂がとても燃えたそう。ミイラはほかにも、肥料、薬、絵の具としても使われた。絵の具の場合は「ミイラ色」という。

震度は平成7年まで、気象庁の職員が感覚で発表していた……あっ今のは震度3だな、というように感覚で決めていた。実際に当たるのか試したところ、意外にちゃんと当たっていた。阪神大震災の際、従来のシステムでは6までしか計測できず、「震度7の地域がある」とわかったのは3日。震度発表を震度計で行うようになった。

東京～大阪間を14分で移動できる列車が開発されていた……超音速滑走体、別名真空チューブ列車というのがあった。秒速700メートル、つまり時速2500キロ。カメとカエルが載せられ実験が行われた。燃料はニトログリセリン。ちゃんと生存していたが、さすがに人間を載せると内臓破裂の可能性もあるということで、中止に。

日本全国の小中学校の給食を一日でカレーで統一する計画があった……1982年1月22日。しかしその実施は2割。既に献立が決まっていて、変更できなかったという。本来は12月24日、戦後に学校給食が復活した日にする予定だったが、休日に被っていた。カレーライスになったのは、全ての県での子供の人気メニュー1位で、材料が手に入りやすいから。

江戸時代にスフィンクスの前で記念写真を撮った武士がいる……1864年、フランスの横浜港への入港を禁止させるため、34人の武士が代表としてパリに行く途中にとったもの。「三宅復一(またいち)の日記」として現存している。「明日は待望の三角山、巨大首塚だ」と。彼は写真を撮ったときには、スフィンクスからずり落ちていた。

大日本帝国憲法は泥棒に盗まれたことがある……憲法の草案が入ったカバンが盗まれただけで、憲法を盗むのが目的というわけではなかった。泥棒もその価値がわからず捨てていた。それが後に見つかり、3年後に施行。

コンタクトレンズは昔、10円玉と同じ大きさだった……現在のコンタクトレンズの約3倍の大きさ。目の中でコンタクトレンズを固定する方法が「上下のまぶたで抑える」だけだったため。

江戸時代のお金「寛永通宝」は昭和28年まで使えた……明治以降は1円の1000分の1の価値があった。ちなみにネットで見ると100円ぐらい。全然珍しくないようだ。

千円札の夏目漱石は喪に服している写真、五千円札の新渡戸稲造は結婚式のときの写真……夏目漱石が服している相手は明治天皇で、新渡戸稲造は息子の結婚式である。

忍者が足音を立てないための工夫……自分の手の甲の上に足をのせて歩く。

総理大臣のオナラが新聞の一面を飾ったことがある……1930年の新聞である。「ガスが出て気分が良くなる」と書いてある。浜口雄幸総理大臣が下腹部をピストルで狙撃。主治医は「オナラが出るかどうかが生死の分かれ目」と報告。日本中の国民がオナラを待っていた。泊まり込みで容態を見守っていた医師と家族の前で、彼は屁をした。「オナラ万歳！」と家族は手を取って喜ぶ。「実にいい屁を放ちましたね」「屁を放ってほめられるもんかねえ」「天下に頼まれたもので、他に例を求めてもないこと」という会話も。医師は「秋の夜や　天下に響く　屁一つ」という句を残している。

江戸時代、寝ぼけて切腹して死にかけた武士がいた……長島藩藩主の息子、松平石見守忠章という、武芸や勉学に励む真面目な子ども。父親とケンカをしてストレスがたまっていたことがきっかけだった。目が覚めると刀を握り、腹に突き刺していた。寄ってきた家来に対し「バカなことをしてしまったが大丈夫」とアピール。手当てを受け、一命をとりとめた彼は、(嫡男としての資格を取り上げられたが)64歳まで生きた。居眠り中の切腹には、くれぐれもご注意を。

江戸時代、罪を犯したものの額に「犬」と書かれる刑があった……犯罪を犯すたびに一画ずつ入れ墨をされ、めでたく「犬」が完成したあかつきには、死刑。人間じゃないので死罪としてもOKという理論だが、犬も殺してはいけない。

股間を大きく見せるためのポケットがヨーロッパにあった……16世紀ヨーロッパのこと。男性のズボンに、自分の股間を大きく見せるためだけのポケットがあったという。いつの時代も考えることは皆同じで、今でも似たようなパンツはある。ヨーロッパは他にも奇異に見える風習があり、例えば男女が決闘する際、男性のみハンデとして、ヘソまで穴に入るという重すぎるハンデが法律で定められていたり、18世紀フランスでは頭に模型の船をのせる髪型が流行ったり、よくわからない。

夫に捨てられる妻は再婚した夫の家に大勢で殴り込み……室町時代の話。離婚されたということで、再婚した夫の家に大勢で殴り込んで、家財道具を傷つけるという風習があった。本当にめちゃくちゃにするのではなく、儀式としてそれなりの節度は持っていたと言うが、それでも下品な習慣であることに変わりはない。

国会で泥酔、女性議員のアゴに噛みついてクビになった人がいる……泉山三六という人。他の党の女性議員の手を握ったり抱き着いたりして、最終的に左アゴにかみついたという。これを受け、「議場内粛正に関する決議」が可決されたほど。普通に犯罪行為じゃないか…。

内閣総理大臣の基本給は月およそ200万……法律で決まっている。2005年では2257000円だが、2018年でもそれほどは変わらない。ちなみに、2015年に財政破綻した夕張市の市長の給料は15万円。交通費なども全くでない。

ローラースケートの発明者は止まり方を考えておらず重症……ジョン・マーリーンという人。仮装パーティーに参加したとき、バイオリンを弾きながら滑ってみたはよいが、止まり方がわからなくて鏡に激突、大けがをしたという。その後も発明品を様々残したが、絶対にローラースケートに関する発明はしなかったという。ただこの人の考えたローラースケートはそんなに広まらなかった。

乗客のオシッコを集めて助かった飛行機事故がある……これは日本の話。油圧機器に水分が必要だったが、国内線なので少量の水と紅茶しか積んでいなかった。足りなかった分を乗客の尿でまかなったという。まあ、こんな状況なら無限に出る気がする。

手術用ゴム手袋は……看護師を思う医者の恋心から生まれた。1890年当時、手術では手を直接使う。超強力な消毒をしていたが、これで手が荒れている看護師を見た医師が、恋心のすえに生み出したのがゴム手袋。

貝の研究者が商店街で新種の貝を見つけた……1983年のこと。商店街の魚屋さんに「つぶ貝」として売ってあった貝を見て、新種だと気づいたという。学会で論文としても発表している。こんな珍しいこともないとして、この貝を「マレエゾバイ」と名付けた。

甲子園球場のアルプススタンドの下には温水プールがあった……昔は甲子園球場、総合スポーツ施設として、球場以外にも様々な施設があった。その一環として3塁側のアルプススタンドの下に温水プールがあった。なぜなくなったのかは不明。

裁判官に会うきっかけ作りに100回以上訴訟を起こした男がいる……女性裁判官に恋をしてしまったため、会いたいからと訴訟を起こした。112回目で、諦めた。恋する男子のパワーはすごいわね。

セメダインの語源……ライバル商品だったイギリスの「センダイン」を追い抜くため、「攻めるメンダイン」でセメダインに。セメダインの社史にある。接着剤ということばをつくったのもセメダイン。

NASAの大失敗……18年間かけ、土星に探査機を無人で到着させることができたが、なんと実験装置の電源を入れ忘れていた。4000億円が投じられていたのにもったいない話だ。誰か今から行って、つけてきてくれないか。

国際競技場には「女性用立ち小便器」がある……東京オリンピックの際、各国の選手が使えるように中途半端な便器を生み出したようだ。

マラカナンにはなぜ公衆電話があった……ブラジル、リオデジャネイロにある世界最大規模のサッカースタジアムがマラカナンだ。ジーコはこのスタジアムで開催された公式戦にて333得点をし、この記録は破られていない。8万人も入ることができる。両サイドのゴール裏には公衆電話があり、これは国際電話にも対応。取材にきたマスコミ関係者がかけたり、あるいはゴールを決めた選手がその場で報告するなどの理由であった。携帯電話が普及し2007年に撤去。ちなみに1950年ワールドカップブラジル大会で、ウルグアイ代表との試合で逆転負けした「マラカナンの悲劇」もこのスタジアムのこと。

大相撲の力士は全員本場所中にまわしを洗わない……なんかそういう慣習らしい。縁起とかそういう類の話ではあるのだが、最終日ともなるとめちゃくちゃ臭くなる。他にも、立会前に土俵に落ちていたゴミを捨てに行って、負けた選手もいる。なんとも杓子定規。相撲はこういう意味が分からないしきたりがおおすぎる。女性の方は土俵から降りてください！

プロ野球で入団するはずの助っ人外国人が別人だったことがある……しかもなぜかめちゃくちゃ活躍し、チームを優勝にまで導いたらしい。東京オリオンズ(現在の千葉ロッテマリーンズ)のこと。メジャーリーガー獲得を目指しヤンキース球団と交渉、「ロペスならいいぞ」と言われ、ヘクター・ロペスが来るのかと大喜び。しかし彼が来た時、ロペスが右打ちなのに対して左打ち。アルト・ロペスという名字が同じだけの全くの別人だった。しかし首脳陣はおおらかに構え、彼を採用。0.289 23 74の好成績を残し、何事もなかったかのように契約を更新。1970年のリーグ勝利に貢献した。

卓球のラケットはどんなに大きくてもよい……ルールブックには、ラケットの大きさ、形状、重量は任意とする…と書いてある。平坦でなおかつ硬ければ選手の自由。つまりどんなに大きいものでも、グリップが長いものでも構わない。しかしながら唯一「材質」に関してはルールがある。科学の発展によってできた新素材をラケットに使うと、スマッシュが強すぎてラリーが続かなくなってしまう。そういう「勝つためだけの方法」を阻止するため、天然素材の木を85％以上使わなければならない…と決まっている。確かに木のものしか見たことがないが、それは公正にゲームをするためのものだったのだ。

ライフガードの驚愕の助け方……溺れている人を助ける時、一度沈めてパニックを解消してから救助するという。逆にさらにパニックになりそうなものだ…。

フルマラソンの国際大会、途中で大便をしたのに優勝した選手がいる……大津市のびわ湖毎日マラソン、アメリカのフランク・ショーター選手が大会新記録で優勝。便意を催した彼は、観客が持っている、紙でできた小旗をちぎっていく。そして16キロ過ぎたところで用を足しにコース外れの茂みに入っていった。この間二人に追い抜かれたが、わずか20秒で用を足しコースに復帰。あっという間に追い抜き、2時間12分3秒で優勝。ちなみにこの2年前の大会でもうんこをして優勝。

メジャーリーグで素人を集めて試合をした球団がある……観客のヤジに耐えられなくなったタイ・カッブ選手が観客をボコボコにしたことで、無期限の出場停止。それに不満を持った同僚の選手が一斉にストライキ。監督はどうしようもなくなり、とりあえず集めた素人集団で試合に臨んだ。結果はもちろん惨敗だったが、意外と5回までは2点リード。スポーツというのはなんともわからないものである。

偽物の聖火ランナーが大喝采を浴びたことがある……1960年ローマ大会でのこと。新聞にも載っている。堂々とやられると気づかないものらしい。バカランナーはオリンピックを見に来ており、友達の「オリンピックのトラックを1周したら100ドルやる」というアホな賭けに乗ったそうだ。ちなみにこれは警備が軽かったために起きたこと。現在は大変警備が厳重なので、行うことができない。なおこの4年前のメルボルンオリンピックでは、獣医学を学んでいた学生が、「聖火リレーはナチ発祥」ということに抗議するため、偽の聖火リレーを行ってそのまま立ち去ったことがある。実は彼、本物の聖火リレー運営の人と知り合いだったのだ。大学では祝福をもって迎えられたという。

競輪の自転車はバックで走れる……ブレーキが付いていないため、バック方向にペダルを回すことで停止する。逆に言えばバックで走ることも可能。値段はだいたい40万円ほど。公道で走るには危険すぎるな。

元日本代表のゴールキーパーが蹴ったパスが風で運ばれ、そのままゴールしたことがある……1999年、ヤマサキナビスコカップのこと。その動画は実際に残っている。相手のミスキックでボールがGKのもとに。力いっぱい蹴ったボールは風で予想以上に飛び、ゴール。敵のゴールキーパーもこれにはガックリ。「ああ入っちゃったんだな」ぐらいにしか思わなかった一方、入れられた側のキーパーは「まさか入るわけないだろうと思っていたのが入っちゃった。穴があったら入りたいという気持ちだった。奥さんもその話題には一切触れてこなかった」と。

走り幅跳びの助走の長さに決まりはない……何メートル走っても良いのである。だいたい同じところから走って跳ぶが、ルール上はそうなっている。「助走路は最低40メートルを確保せよ」以外に決まりはないのだ。トリビアの泉では実際に42.195キロぶん、走り幅跳びの選手に「助走」させたが、2.07メートルの記録。自分に合った助走距離で跳ぼう。

剣道には面をつけたまま顔の痒いところをかくためだけの道具がある……いわば、顔用の孫の手。自分ではかけないのでまああり。「フェイスピック」といって、カタログにもある。さらにいえば長いところまで手が届く「スーパーピック」まで。喉の下や奥が痒い時に伸ばして、使うことができる。値段は420円。

郵便配達員は昔、陸上競技大会への出場が禁止だった……走りの「プロ」であるという理由で、禁止。同様に、牛乳配達員、新聞配達員、魚屋も禁止。世界一を決める大会にプロが入れないのもなかなか不思議。

プロ野球で、一回の送りバントが3人連続のエラーでホームランになったことがある……1982年、巨人vs中日の試合。無死1・2塁で巨人の攻撃。3番打者のバントに対処しようとしたが、投手の悪送球で3塁へ送球のつもりが外野へ。レフトはこれをトンネル。やっと本塁に送球されたが投手がミスキャッチ、という3回。ミスがミスを誘発というのはありがちだが、プロ野球でこれはすごいなあ。悪送球の鑑。プロもトンネルをするとは。

背泳ぎには唇で鼻を塞ぐテクニックがある……唇を突き出し、鼻から息を大きく吸って唇を吸い込む。鼻に水が入らないようにするためなのだが、バサロ泳法という、背泳ぎの最初にバタフライキックで潜水して進み抵抗を減らすものとともに併用。ただし非常に危険なので、15メートルまでと決まっている。

メジャーリーグで、チームを強くしようと催眠術をかけたチームがあった……1950年の出来事。実際に新聞には「ブラウンズが、選手の敗北主義的な姿勢、劣等感を取り除くためにやとった心理学者は、催眠術の力を披露した」とある。そして催眠術をかけられたチームは、相変わらず連戦連敗。3年後には球団自体が消滅。催眠術は球団そのものを、眠らせてしまったのだ。このチームは大リーグ史上最弱のチームと言われている。心理学者は途中で解雇されたが、催眠状態を解かずにチームを去って行った。

甲子園の応援にゾウを連れ込んだ学校があった……1951年の甲子園。兵庫県鳴尾高校。もちろん全くの相談なし。速攻で強制退場させられてしまった。このゾウは阪神パークから借りたもの。しかし応援を受けた高校は5対0で完勝、準優勝までしている。甲子園での不正は迷惑なので絶対にやめよう。

棒高跳びには「禁じ手」がある……棒を地面に刺し、素早くよじ登って、バーをこえるというもの。その名前は「木登り法」。確かに高く跳べるかもしれないが、助走もいらないしもはや別の競技じゃん。けが人も多発し正式に禁止。

ゴルフ場のキャディはアマチュア相手にはこっそりヘルメットをかぶっている……アマチュアが相手であると危険なので、サンバイザーの形をしたヘルメットをかぶっているのだ。まあこれは許してほしい。当たったら死ぬし。

中日ドラゴンズは昔チーム名の綴りを間違えていた……ユニフォームのチーム名の綴りである。本来ならば”Dragons”なのだが、”Doragons”になっている。現在は飾られている。

テレビを見てて自分の出番を知った選手がいる……1972年ミュンヘンオリンピックのこと。テレビで自分のレースが始まっていることを知った選手がいた。しかも「選手たち」。選手村でテレビを見ていて気付いたという。この2人はアメリカ国内の選考会で驚異的な9秒台を出し、「金メダル間違いなし」の評価を得ていた。本番前にテレビを見ながらストレッチしていた2人の目に、自分たちの名前。部屋を飛び出してコーチに駆け寄って報告すると、コーチがレース時間を間違えていたことを知った。すぐに向かったが当然間に合わず、失格となった。

ボクシングの世界タイトルマッチで足がつってダウンしたレフェリーがいる……2005年、WBAスーパーフェザー級試合の決勝のこと。試合中ではなく、最終ラウンドのゴングが鳴ってからダウン。すっころんだというほうが正しいかもしれない。

アメリカではボールの代わりにジャガイモを投げた選手がいた……もう何が何やら。1987年の試合のこと。フィリーズ対ビルズ、5回表1対0。負ければ最下位のビルズ。だがキャッチャーのデイブは、ミットの調子が悪いと嘘をつき、前日カバンに入れておいた、皮をむいたジャガイモを忍ばせてホームへ。牽制を装ってジャガイモを3塁へ。ジャガイモを3塁手の頭上を越えて、ランナーは本塁へ突入。ホームベースを踏もうとしたランナーにタッチ。ミットの中にはボールが。審判はランナーをセーフとし、デイブは球団幹部に呼び出されてクビとなった。ちなみにルールブックには「ジャガイモを投げてはならない」という決まりはない。さあ、どっちが正しいのだろう？

大相撲で1日おきに勝ちと負けを繰り返すことを「ぬけぬけ」という……相撲大辞典にもそう書かれている。星取表には白と黒が並ぶ。関取で3人しかいない。1990年が最も最近。その人によれば、ぬけぬけは中日を過ぎ、10日くらいから意識し始め、稽古をしなくなってしまった。朝まで飲んでいても勝つし、稽古をやっても黒星のときもあったそう。なんとも不思議な現象である。

初老と呼ばれるのは40歳から……「初めて」「老いる」という意味であったら、20代後半ぐらいからがいいかもしれない。

高層ビルと超高層ビルの違い……60メートルを過ぎるかどうか。つまり航空法による安全灯を設置するかどうかが基準となる。

ハンガーを頭にかぶると勝手に首がまわる……面白いほど回るからやってみよう。

自分の利き目はトイレットペーパーの芯でわかる……覗くときの目が反対側から見える方が利き目。鏡に向かって正面で立ち、トイレットペーパーで目を隠してみよう。もっと簡単な方法としては、自分の顔の数十センチ前に人差し指を出す。これを見ながら片目を交互に閉じる。指が「動かない」ほう、つまり今見ている片目が利き目。利き目とは無意識に使っている目のこと。これが存在する理由は明らかになっていない。ただ、右利きが多いことと、右目が利き目が多いことは関係するらしい。なお日常では、映像を目で整理して認識するため、取り込む際の左右のズレは支障をきたさない。

鼻毛は抜かない方がいい……毛根の近くにある神経が刺激されることになる。医学的には「傷口」と同じ扱いになってしまうから、抜かないほうがよいのである。痛みがあるかどうかは関係がない。

爪の根本の白い部分の名前……ネイルマトリックスという。日本語では「爪母」と書く。細胞分裂することによって、爪をつくる役割がある。だからここが傷つくと、爪が変形したり、変な生え方をしたりする。

ひとりぼっちの「ぼっち」の語源……独り法師ということばからきているため、実はお坊さんのこと。

広辞苑には「おおまんこまん」ということばが載っている……「おお」とか「まん」って、何だよ。漢字では「大満地小満」という意味。磐次磐三郎(ばんじばんざぶろう)という、狩人の元祖といわれる伝説上の人物。ちなみに「大穴」のあとには「大当たり」があるが、これよりも夢がある。

テンガロンハット……カウボーイなどが身につけている、あのへんな帽子。西部劇を見ていればわかる。ここに水を汲んだりする場面もあるが、その由来は「10ガロンの水が入る」ということから。但し37.85リットルもの水が入るはずはない。カウボーイは皆背が低く、自分を大きく見せるためにかぶっていたと伝えられる。帽子を見れば、その収入がわかるというぐらいまでお金をかけていた。入ったのはせいぜい0.3ガロン、1.3ガロンほどである。

ボラード……岸壁に設置して船を繋いだり、道路や広場に置いて自動車の侵入を阻止する目的でつくられる、地面から突き出した杭。本来の意味は前者だけだったが、今では様々な構造物を指す。簡単にいえば、港岸にあるあの、へんなツッパリである。

用心棒の語源……戸を抑えるつっかえ棒のこと。引き戸に使われているが、あれ、反対側開ければいいだけだからたぶん何の意味もないと思う。

のれんの竿を通す部分の名前……あれに名前がついてたのかよ。「乳」という。犬のお乳のように規則正しく並んでいたから。お寺の鐘を、お寺の鐘についている時は「乳」と呼ぶ。

面白いということばがあれば……面黒いということばもある。当然ながら「つまらない」という意味。

OK牧場は心理学用語……意外や意外。コミュニケーションの方法として提唱されたモデルの一つ。自分と相手に関して「OK」であるかどうか、4通りに分ける。例えば相手も自分もOKなら「一緒にやって行く」、自分がOKだが相手がOKでない場合は「排除」など。ガッツ石松もこれにはびっくり。というか最近の子は「OK牧場」を知らないであろう。

バッハとは日本語に訳すと……小川。だから小川さんのつくった曲なのだ。これマジ？業績に対して名前のスケールが小さすぎだろ。

「きっとばか」という四字熟語がある……急度馬鹿とかく。外見は厳しく見えるが内面が愚かな人。利口そうに見えて実は馬鹿な人。

お釈迦さまはサンスクリット語で……「ばかぼん」。ばかは幸福、ぼんは持つという意味がある。バカボンと書くと、あれになってしまう。

ケチで頑固な性格のことを「肛門性格」という……心理学のれっきとした用語。フロイトが主張するリビドー発達段階のうち2つ目「肛門期」において、どこでも大便をしてしまうような子や、親に厳しくしつけられたせいで大便をため込む(幼少期は大便＝お金　らしい)よりも、欲求を我慢して自己規律ができる子のほうがよいとされる。そうして前者の子は次第に、頑固になったりケチになったりする。であるから、そういう性格を肛門性格と呼ぶらしい。くさそうである。

スーパーのレジ先にある、買ったものを袋に入れるための台……「サッカー台」。梱包することを英語で”sack”ということから。アレに名前があったのか。ちなみに、レジに店員さんが2人いて、そのうち1人が袋詰めをしてくれるケースもある。このような場合、レジ打ち担当を「チェッカー」、袋詰め担当を「サッカー」と呼ぶ。また日本語で「作荷台」(さっかだい)と呼ぶこともある。発音が一緒なので、サッカー台に寄せて漢字を考案したのだろう。ちなみに、あそこに置いてある、切り取れる袋にもちゃんと名前がある。「ミシン目ロールポリ袋」である。「タイミーパック」という商品が有名なことから、「タイミー」と呼んでいるスーパーもある。ミシン目ロールポリ袋を設置するスタンドは「ロール袋スタンド」や「サッカー台用ロール器具」と呼ばれている。こちらに関しては正式名称がなく、メーカーによってまちまちのようである。

筆の先端の名前は「命毛」……これがないと綺麗な文字が書けないことから。ハゲてるおっさんの頭の毛も、命毛だろうか？

ヒマラヤ杉は杉ではない……実はスギ科ではなくマツ科。しかし最初に訳した人が間違えたそうで。

「～」の正式名称は……波線、ではない。波ダッシュ。「から」でも出てくる。

ナポレオンが被ってる変な帽子の名前……ビコーン。三角帽子、山形帽、二角帽子とも呼ばれている。ナポレオン時代の将軍、参謀将校は日常的に着用していた。少なくとも第一次世界大戦までは正装用だったとか。しかもこれ、世界のほとんどの海軍においてである。ナポレオンが愛用していたのはビーバーの毛皮からつくられたもの。なお日本でも、宮内庁車馬課に属する者の正装には二角帽が用いられる。

アタッシュケースはNHKのニュースでは「アタッシェケース」……アタッシェというのはフランス語で「大使館に派遣される専門職の人」という意味。その人達が持っていたケースということで、アタッシェケースといったほうがよい。NHK日本語アクセント辞典にもそう載っている。

ホノルルマラソンはなぜ日本人参加者がとても多い……ハワイ州オアフ島で開催されるマラソン大会がホノルルマラソンだ。2018年で46回目。高温、強風という気象条件やアップダウンの差から、「世界記録が決して出ない」ともいわれる。しかし世界規模レベルになっている理由は、時間制限がなく、また、当日満7歳以上の健康な人ならだれでも参加できるから。フルマラソンに初参加の人達も大勢参加する。ランナーのうち半分以上が日本人。日本航空(JAL)が主催し、その他スポンサーもほとんどか全てが日本企業。

「思う壺」のツボは博打でサイコロをいれるツボ……熟練のイカサマ師ともなれば、テクニックによって好きな数字を出すことができたからだという。

あみだくじの語源……阿弥陀如来のアミダ。むかしのあみだくじは中心から放射状にひかれていた。これが阿弥陀如来の後光に似ていたことからついた。

「ブーム」の語源……ハチのブンブンという羽の音。オックスフォード英英辞典に載っている。蜂や昆虫がブンブンと群れることから。もともとは”bommen”(ボメン)というオランダ語の虫の羽音を表す擬声語の動詞が、14世紀に英語にきたもの。

女心と秋の空はもともと「男心と秋の空」……女心は秋空のように移り変わりやすい、ということばであるが、実はもともとは「男心と秋の空」ということばだった。女性に対する、男の心の移り変わりやすさについてのものだったのである。

スポイトのつまむ部分の名前は「乳首」……オランダ語の「ニップル」を訳したもの。訳さなければよかったのに。

カチンとくるの語源……怒りを表す「カチンときた」の語源は、米をついてできた餅「かちいい」から。さらにいうと、これをもう一段階柔らかくした表現は「こちんときた」。

銀行員がいう「抱いてください」……本当は「ダイテください」。ダイテというのは代金取立手形のこと。簡単にいうと、顧客などから代金取立てを依頼された手形のことをいう。つまり、資金にすることを依頼された手形のこと。

おならは音がしない場合おならと言えない……「音を鳴らす」から来ているのだそうな。だから本当は無音の屁は屁でもないのである。じゃあ何か。すかしっぺ？

“LION”は”NO17”も商標登録している……ロゴをさかさまにするとそう読むことができるため、ライオンはNO17も商標登録しているという。

金鳥は毎年、虫のためにお祓いしている……それだけでなく、他の殺虫剤メーカー20社ほどが集まって、集団でお祓いを受けるという。ちなみにあの鶏のマークは、「鶏の口のように小さくてもいいからトップであれ」という創業者の理念から。潔い。

メガネドラッグの社員は全員眼鏡をかけている……お客さんの気持ちを理解するため、という理由。ちなみにその由来は、元々やっていた薬屋の片隅でメガネを売り始めたことから。

JRの仮眠室には「絶対に起きられる」目覚まし時計がある……ベッドと一体化していて、時間になったら背中の下の袋が膨らんで、背中が上がって無理やりにでも「起こす」。誰か筆者にくれ。

時刻表検定がある……というか今は既に廃止。鉄道オタクがそれだけ市民権を得たことの証左でもあった。ちなみに合格率は4割以下で、かなり難しかったらしい。

「宮内庁御用達」は今、勝手に名乗っている……宮内庁が名乗ることはない。明治24年には「宮内省御用達」と名乗ってよいという制度があったが、これは戦後、廃止。今まで御用達だった業者、出入りするようになった業者たちが勝手に宣伝しはじめた。出入りしたこともない業者が勝手に使っている例もある。ただし「使用をやめてくれ」とは言っていないらしい。法律としてはこういうものを使わせないという事項がない。

消防署は今、滑り棒ではなく階段で出動している……時間をはかったらそんなに両者に差がないうえ、滑り棒は危ない。

ウルトラマンは倒した怪獣たちを供養したことがある……1970年に初代社長がなくなり、そのころに怪獣がらみの撮影中の不幸な事故が続いた。そこで怪獣を供養したという。ウルトラマンタロウ役の俳優らが一列に並び、前の怪獣たちの遺影に手を合わせた。子どもたちからも別れを惜しむ花が投げ込まれ、「怪獣さん安らかに」という墓碑が建てられて終了。平和を守るウルトラマンは、罪悪感とも戦っていたのである。仏教徒かよ。ちなみにこのお墓は既に閉園している。当然泣いている参列者は一人もいなかった。

福沢諭吉の一万円札は3種類ある……大蔵省、財務省、国立印刷局で異なる。もともとは大蔵省だったが、これが財務省に代わり、2003年には国立印刷局に変わったから。国立印刷局のものは一番流通数が少ないが、価値は全て1万円。

卒塔婆専用のプリンターがある……その名も「おとば用人」。坊さんが筆と墨を使って書くより、はるかにきれいで長持ちする。

和式トイレ用のウォシュレットがある……和の雰囲気を壊さない流線型のフォルム。実際にボタンを押すと、後ろからノズルが出てきて洗浄。いやーきついっす。現在は製造が中止されており、試すことはできない。客の要望があったことで開発したが、誰だよ、そんなこと言ったの。

ウルトラマンはカラータイマーを取られるとしぼむ……カラータイマーはエネルギー源で、その残量を示すものでもある。怪獣に人質を取られてしまうのだが、その交換として自分が人質に。カラータイマーが怪獣に取られ、しぼんだ。風船みたいにテラッテラに。しかしこの後、別のウルトラマンが取り返し、無事に助かった。

ヘリコプターはエンジンが止まっても墜落しない……機体の上のプロペラにより、空気を受けて回転させることができる。これによって緩やかに着陸可能。早い話、パラシュートのプロペラ版である。ただし、後ろについている小さなプロペラ(テールローター)は、メインのプロペラ(メインローター)が回転することで生まれる機体への反作用を抑える役割があるため、ここを壊されると機体がグルグル回り、コントロール不能になって墜落してしまう。

ミケランジェロの「最後の審判」にはふんどしが描き足された……ミケランジェロの弟子ミカエロが描き足したという。裸だなんて不謹慎だと叩かれたことからなのだが、その後「ふんどし画家」と呼ばれたそうだ。酷い話。ちなみにもともとイエスは裸ではなく、描き足されたのはあくまで周りの人達。

将棋には804枚の駒を使うものがある……その名も大局将棋。209種類のコマがあるため、全部覚えなくてはならない。「天狗」とか「孔雀」「力士」「猛虎」など見慣れないものが混じっている。実際につくってみて、プロの棋士にやってもらったのだが、3800手、33時間もかかった。「二度とやりたくない」「負けたけど悔しさはない」と散々な評価。ルール上、一度使った駒は再利用できない。

頭に毛のないカットモデル人形がある……いや、毛はあった。ただし頭頂部は全く何もなく、側面にのみモファと毛が生えている。ヒゲ剃り、耳の周りの毛を切るという目的だったため、これで良いのだという。ここらへんは整髪が難しい。なお髪の毛は人毛。

自動墨すり機がある……手でするのが大変からだというが、そこまでするならいっそ、墨汁を使ってほしい。値段は1万8000円。水を注ぎ、電源を入れ、墨をセットするだけで良い。なお「ダブル」といって、二本同時にすってくれるものもある。3万円。1997年から2008年までで1万台は売れている。

ビニール袋に水を入れると火にかけても溶けない……熱が水のほうに伝わるため。いわば紙鍋と同じ原理である。子供だましにはちょうどいいだろう。

ゲートボールは子どもの不良化防止のためにつくられた……太平洋戦争後の物資不足でも子どもが遊べるようにとつくられたけども、結局子どもは見向きもせず、逆に老人たちによる独擅場となってしまった。

自首した銀行強盗が警察に「また来てくれ」と断られたことがある……ニューヨーク州での出来事。指名手配されていると知り出頭したのだが、また裁判所も開いていない早朝だったため「あとで来い」と言われたそうな。心変わりしないだろうという考えで、こういった対応を日常的にしていたという。なんともお役所体質である。

国会議員はJR全線にどれだけ乗ってもタダ……給与小六法に書いてある。講演会を全国で行うため、交通費が莫大になる。そこで個人の負担にならないようにこういう法律がつくられた。その費用はどこから出ているのだろうか？

「日本の道100選」は104個ある……国土交通省が制定したものであるが、「良い道が多すぎたため選別できなかった」ということ。心構えが適当すぎる。

「ライオンキング」は公演する地方に合わせ、セリフを方言に変えている……ティモンとプンバァは田舎出身。方言を話させることで観客に「シンバが遠くまで旅をしてきた」と思わせることを狙っているという。原作ではブルックリン訛でしゃべるが、それをうまく表現しているという。ちゃんと細かくイントネーションの指定がある。

注射針の痛みを減らすための工夫……先端の角度が2段階になっている。先端の薄い部分は刃物のような役割。ここで皮膚を切り開いている。最近ではバイオミメティクスを利用、つまり蚊の注射針を参考にしたものもできており、まさに「痛くない注射針」が利用されている。

お地蔵様と閻魔様は同一人物……人物ではないが、まあ。地蔵に手を合わせるのは、地獄に落ちた人を閻魔大王に助けてもらうためだという。

雪男を探しに行ったが見つからず、イルカを研究して帰ってきた教授がいた……東大の小川鼎三(ていぞう)教授である。1959年の夏、ネパールでの現地調査が行われることに。しかし学術的な確証は得られず、ガンジスカワイルカの研究に、と書かれている。1950年代はヒマラヤで目撃情報が相次いで、科学者たちによる研究が行われていた。1959年は暖冬で雪が降っておらず、足跡がなかったため成果も得られない。そこで小川教授が、ガンジス川のカワイルカを調べようと提案。その生態はあまり知られていなかったのだ。結局カワイルカも捕獲できずじまいだった。

全自動金魚すくいロボットがある……「金魚すくい達人の技をロボットで再現しよう」という試みのため、500万円と2年をかけてつくられた。しかし全然すくえるようにはならなかった。ちなみにあのへんな網のこと「ポイ」という。知っていても得はないが、損もない。そんな感じ。

医学的には「反射神経」は存在しない……我々が反射神経だと聞いているものは実際には「逃避反射」「防御反射」とよばれるもの。辞書には載っていて言葉には存在するという不思議。

古い卒塔婆を処分するための機械がある……名前はそのまま「卒塔婆処理機」。以前は境内で焼却していたが、消防法が改正、供養焼却できなくなった。宗教のしきたりよりも法律を優先させる法治国家の鑑。

水の入ったグラフに茶こしをかぶせさかさまにしても……水はこぼれない。子どもには受けるかもしれないが、大人は「表面張力」ということばを知っている、汚い存在である。

公園の蛇口にビー玉を置いて水を出すと……ビー玉は浮いたままで落ちない。あの噴水式のやつですよ。確かにめっちゃ浮くのに、ビー玉はずれたりしないのだ。これはビー玉が浮いて、中心からずれると、ずれた方向に水が移動。これがビー玉に対しジェット噴射の役割を果たし、ビー玉は元の位置に戻る。これを繰り返すため。最初に見つけた人はすごいと思う。

糸電話の糸をバネに変えると、声にエコーがかかる……これ、本当にエコーがかかる。マジでちゃんとかかってて感動。紙コップの底を震わせた声は、バネを伸び縮みをさせる。声が前に動くということは後ろにも動くということで、後ろに戻った声がまた進んで…と、いくつもの波が来る。これによってエコーがかかる。

特許庁で行われる「くじ引き」……同じ商標が同時に申請された場合は、福引のくじで決めている。年間に13回ぐらいはあるらしい。みんな同じようなタイミングで思いつくんだなあ。

国会で証人喚問を受けると日当が払われる……4時間未満の場合で1日19000円、4時間以上の場合は23200円。期間内に国会に出頭しない日でも1日3000円。さらに交通費も宿泊費も出る。割といい金額である。

暗算用の、珠のないそろばんがある……つまり枠だけ。無くても変わらないような気がするが。

ひらがなの「あ」だけを書いていると無意識に「お」になる……これは脳の記憶する部分が混線するためだという。署の達人でも天才でもこうなってしまう。日本語をある程度知っている外国人にさせてみても同じなのだろうか？

「働」という漢字は日本で生まれ中国に輸出された……元々「動」が中国から伝わり、これににんべんがついて、中国に輸出された。「国字」と呼ばれる。

空港で売っている飛行機のおもちゃは落ちないようにつくられている……飛行機が落ちるというのは縁起が悪いため、どう頑張っても落ちないようにできているという。

「にわにはにわにわとりがいる」は92通りの意味の取り方がある……庭とかハニワとかニワトリとかそこらへんを駆使すればそうなるらしい。調べてないからわからん。「4月1日は日曜日で祝日です」が外国人にとっては最難関の文章だという。このトリビアに近い。

三匹の子豚はもともとオオカミを子豚が食べる話だった……オオカミ好きとしては何とも泣きたくなるトリビアであるが、原作はそんな感じ。長男と次男はオオカミに食べられてしまい、末っ子だけがうまいことやっつけて、オオカミを煮て食べる。ちなみに家の材料だが、たまたま通りかかった人からもらった材料を使っただけで、「末っ子は器量がよい」というような話でもないという。

携帯電話で通話中の2人が同時に歌うと絶対に合わない……情報を変換する際に若干のタイムラグがあるため。相手の遅れに合わせるとさらに遅れてしまう。

扇風機「弱」の回転速度よりもヘリコプターの回転速度のほうが遅い……弱で1秒13回転、一方ヘリはその半分しかない。それでもちゃんと空を飛べるのだから不思議。

非常ベルのランプの大きさは「限りなくBに近いAカップ」……めっちゃ突き出ているようだが、意外にそうでもないらしい。女性に教えたくはない雑学である。

弁護士バッジの裏には、バッジをなくした回数が書かれている……しかも、けっこう思いっきり。「再〇」の〇の回数が、なくした回数である。

ジャポニカ学習帳のカメラマンは花に女性の名をつけ、呼びながら撮影する……そのほうが花がきれいにうつるから、らしい。元カノの名前とか、元妻の名前をつけて愛でていたりいなかったり…。完全に変態じゃないですか。ちなみに最近は、昆虫の写真を載せない。親から「気持ち悪い」というクレームが入るためだという。時代も時代だなぁ。

農林水産省には「きのこ係長」がいる……各都道府県の林業担当者や消費者からの「きのこ」に関する問い合わせを全て担当。ちなみに2008年現在、部下はいないらしい。

政治家は反感を買わないよう高級なビニール傘を使う……選挙運動のために超高級な傘を買うより、ビニール傘を買う方がいいらしい。名前は「かてーる」。勝てるにちなみ、選挙専用だという。なお7000円もする。

米をもちもちに炊く方法……当然もち米を使うのが一番なのだが、まずは切り餅から。切り餅を1個レンジで温め、炊いたばかりの米にすぐさま投入して混ぜれば、だいぶそれっぽくなる。それもない場合は片栗粉。水を少なめに炊いて、炊き上がったらすぐに片栗粉を振って混ぜる。米1合当たり片栗粉大さじ1ぐらい。素早く混ぜるのがコツ。米粉があればなおよい。

放射線は一般的にどのように観測されるか……シンチレータ(蛍光をしめす物質の総称)を使う。粒子が衝突すると、そのエネルギーを吸収して発光する。そのため放射線の検出に用いられる。放射線が当たるときに出た光を電気に変換、これを増幅することで検出するという原理。ダークマター観測のための実験装置などでも用いられる。

ワイオミング事件……電波ジャック事例のひとつ。ワイオミング州で発生。発生時刻、実行犯は不明で、「発生時の映像」とされる映像のみが流布している。ニュース映像が突然にホワイトノイズになり、「333-333-333 We Present A SPECIAL PRESENTATION」と書かれた映像が出る。その後意味不明なメッセージなどが写り、再び333-333-333～に戻るなどが、6分にわたり継続。電波ジャックという異常さもさながら、モノクロ映像、メッセージの意味不明さ、生物感のないアニメーション映像など、かなり不気味。ただし現在、作者がフェイクであると暴露。不気味すぎるのは変わりないが…。

飛行機のチケットに”SSSS”があれば注意かもしれない……この記号は、”Secondary Security Screening Selection”つまり「二次的なセキュリティチェックの対象者になった」という意味。具体的には、カバンの中身や旅行計画の質疑応答、ボディチェックなどが課せられる。念のため空港には早めに行こう。FBIのテロ対策ウォッチリストに名前がある乗客には印刷されるが、名前の記載がない人にも無作為に実施される。直前に航空券を購入した人や、片道だけしか購入していない人、危険とみなされている国からアメリカに帰国する人は、よりSSSSの対象になる可能性が高いだろうと専門家は言う。

シュモクザメの語源……頭部が左右に張り出して、その先端に目と鼻孔がある、かなり変な形のサメがシュモクザメである。これは鐘を打ち鳴らすための「撞木」(しゅもく)の形に似ているため、その名がついた。英語では”Hammerhead”(金づち頭)である。ちなみにシュモクバエというハエもおり、やはり似た形。30～50度の広い立体視野をもつ代償として、頭部正面には広い死角がある。頭部を左右に振ってこれを補っているという。また、サメとしてめずらしく、群れをなして行動する。フカヒレの材料になっており、ワシントン条約にて規制の対象となった。

緑色なのになぜ「青信号」なのか……実は当初は「緑信号」と呼ばれていた。1930年に信号機が導入されたときには、法令には「緑信号」との記述が。つまり当初は緑だったのである。しかし、当時の新聞では「青信号」として認識。1947年には法令にも青信号とある。大和言葉では、「赤・青・白・黒」が基本になる色。この青は今でいうところの青と緑、両方を表していた。だから緑の野菜を「青菜」、緑色の竹を「青竹」と呼ぶ。青汁も緑色。

「ゲテモノ」の「げて」って何？……悪食な人のことを「げてもの食い」という。その由来は明確にはわかっていない。「外道」が語源説、経典以外の本をさす仏教用語の「外典」(げてん)、自分を卑下して言う「下等」(げら)など、さまざまに考えられる。ちなみに骨董品にも「下手物」(げてもの)という用語があり、これは下手な作品をさす。

「うんともすんとも」の「うん」「すん」……「うん」は同意の意味や鼻息で、「すん」は「うん」とゴロを合わせた同様の鼻息の音。江戸時代に流行った「うんすんカルタ」という和製トランプという説もある。「ウン」が1で、「スン」が最高だった。やがて別のが流行ると、文字通り「うんともすんとも」言わなくなったという。

全身の血管はどれぐらいの長さがあるか……静脈、動脈、毛細血管など全てを繋ぐと、およそ10万キロもの長さになるという。つまり地球を2周半できるほどの長さ。ちなみに、心臓から出た血液がもう一度心臓に戻るには30秒かかる。大動脈を通る時には秒速1メートル。他にもある。腸の内壁は表面積が大腸で100平方メートル、小腸は200平方メートルにもなる。テニスコート一面分ぐらいの大きさがあるのだ。また、脳は千数百億の神経細胞があり、これらを全てつなぐと100万キロにもなる。見えないほど微細な構造が入り組んでいるため、スムーズにはたらくのだ。

長風呂をすると手足がしわしわになる理由……人間の皮膚は何層にも分かれているが、最も外側の大きな皮膚は角質層といわれる。肌の水分を保ち、細菌やウイルスの侵入を防ぐ。ここは死んだ細胞でできており、水分を含むと膨らむ。指先や足の裏は角質層が厚く、水を吸うのだ。水の中のものを捕まえたり、濡れた場所で滑りにくくするなど、狩猟のために必要だったという。

恥ずかしいときに顔が赤くなる理由……交感神経が活発になるため。これは防衛反応が呼び覚まされるためだといわれている。しかし、顔が赤くなることと命の危険は関係がない。実は「人間の社会的な生きものとしての防衛本能」だという説がある。誰かが顔を真っ赤にすると、「こいつ怒ってるな」と気づく。それ以上責められることがなくなり、防衛できるという考え方だ。

花粉症は日本特有……スギによるものに限定すれば実は日本のみ。スギ花粉症が初めて確認されたのは、1964年。場所は日光市。この頃から大気汚染が厳しくなり、多くの人の免疫機能に影響を及ぼすようになったという。

赤ちゃんに蒙古斑がある理由……蒙古斑とは、赤ちゃんのお尻に先天的にできる青あざ。メラニンをつくるメラニサイトは普通、皮膚の表皮のみにある。しかし母胎にいるとき、それらが表皮より下の真皮に留まることがある。それが蒙古斑なのだ。ちなみに高校生までには完全に消えるらしいが、まれに消えないパターンもあり、手術するという。

満腹になると耳が遠くなる……空腹で食欲がある時はオレキシンというホルモンが分泌される。オレキシンは脳を覚醒させ、食事で得た糖分を筋肉に取り込む作用がある。食事によりオレキシンの分泌量が減るとリラックス。結果、周囲の音が聞こえなくなることがある。空腹で眠れないのはオレキシンが分泌されているからなので、糖分を少しとるとよい。

冬眠中の動物はずっと寝ているのか……答えはノー。ひとくちに睡眠と言っても、リスみたいな小動物の場合は、持続的冬眠と中途覚醒を数日スパンで繰り返し、2か月ほど眠る。中途覚醒中はエサを食べたり排泄したりする。そしてクマは中途覚醒をしない。ただし、冬眠中は体温が下がらず、音や振動ですぐに目覚めるようだ。

クジラはなぜ潮をふくか……あれはクジラの息であり、噴気孔から吐き出された息が、外気に触れて急激に冷やされ、霧状になる。つまり、海水を吹いているわけではない。

ネコはどうして毛づくろいをするか……あれは身体をきれいにするため。ネコの舌には突起があり、これをブラシのようにして、細かい汚れをとっているのだ。また唾液には殺菌効果もある。そのほか、毛がふわふわになって体温調節できるとか、気持ちを落ち着かせる、仲間同士のコミュニケーションになるなど。

タコの心臓は3つある……タコの大きく膨らんだ部分は頭じゃなくて胴体で、タコは3つも心臓をもつ。ひとつめは全身に血液を送る。残る二つは「鰓心臓」と呼ばれ、左右のエラの近くにあり、エラに血液を送る補助的な役割がある。またタコには脳も9つあり、足に脳同様の神経組織があり、胴体と連動する。

イヌやネコにも味覚はあるのか……酸味や苦味などを持っているため、腐った食べ物を避けている。味蕾は人間が1万個あるが、イヌは2000個、ネコには500個しかない。イヌは雑食で甘さを感じる機能があるが、ネコは肉食動物なので甘さをほとんど感じない。ネコが甘いものを食べる場合は食感を楽しんでいるのだろう。

普通のこんにゃくと刺身こんにゃくに違いはあるか……普通のものはこんにゃくいものにおいが強いため、加熱をして食べる前提である。一方で刺身こんにゃくはそのまま食べられて、クセがなくにおいも控えめ。メーカーによっては貝殻由来のカルシウムを用いて、臭みを消しているとか。ちなみに白こんにゃくも黒こんにゃくも原材料、栄養価ともに同じ。昔は生のこんにゃく芋を潰して作っていたのだが、この過程で芋の皮が混じり粒になる。また、むかしは凝固剤として藁灰（わらばい）などを燃やした木灰汁（もくあく）を混ぜていたため、全体的に黒い色に。しかしこんにゃく芋は保存がきかないため、これを粉にする技術が江戸時代に生まれた。製粉の際に皮はとれるため白くなる。当然、原料のこんにゃく芋は白いこんにゃくも黒いこんにゃくも同じであり、何かを加えているというわけでもない。だから栄養価も味も同じ。当然最初は不人気。今でも西日本では黒こんにゃくのほうが主流。細いこんにゃくは、関西では「白滝」ではなく「糸こんにゃく」と呼ばれ、やはり色は黒い。現代の黒こんにゃくの色は海藻からとったもので、皮ではない。

アイスクリームやハチミツは腐らないのか……アイスには賞味期限の表示がいらない。冷凍で保存するため品質が劣化しないのだ。マイナス18度以下なら微生物は繁殖しない。また、ガムについては、特定保健用食品のものは賞味期限が書かれているが、そうでなければ存在しない。水分がほとんどないため、常温で保管すれば品質は変わらないからだ。また、ハチミツも高い殺菌作用を持つため、基本的に腐らない。

ウィスキーのソーダ割りがなぜハイボールなのか……いろんな説があるが、西部開拓時代、アメリカの鉄道では、棒の先にボールをつけ、それが上がっていれば進み、そうでない場合は止まるという信号があった。そこで、列車の到着を待つ駅員がバーボンを飲みながら待機、ボールが高く上がった時に炭酸水を入れて一気に飲んだから、というものがある。他にも、イギリスのゴルフ場でハイボールを飲んでいたら、高く打ち上げられたボールが飛んできたから、というのもある。

納豆はかき混ぜると美味しくなるか……当たり前だろ。実際のところ、納豆の表面から成分(グルタミン酸、糖の一種であるフラクタン)が溶けだし、舌に触れる量は変わる。また、粘り成分が空気を含んでまろやかになり、面積が増える。美味しいと感じる人は多くなるようである。

日本橋は「にほんばし」か「にっぽんばし」か……日本橋と言う地名、橋はいくつかあるが、東京と大阪のものが特に有名だろう。東京にあるのが「にほんばし」、大阪にあるのが「にっぽんばし」だという。この違いはどこから来たのだろうか。飛鳥時代までは「日本」と書いて「やまと」と呼んでいた。平安時代になって、中国の読み方「ニッポン」を真似するように。江戸の町人がせっかちなので「にほん」に変わったため、江戸では日本なのだという。

なぜ日本人はおじぎをするか……立って頭を下げるおじぎを指示したのは天武天皇。682年、中国の立ち礼を参考に、宮中では土下座やひざまずいたり、という礼を廃止。貴族や武士がこれを重要視し、室町になると礼法の流派が現れた。これが江戸時代に庶民にも流行し、誰もがおじぎやマナーをするようになった。

なぜ人の前を通るとき手刀を切るか……手の平に武器を持っていないことを示すためという説、相手と自分の縄張りを区別し、不安を抱かせないようにと言う説がある。相撲で勝った力士が懸賞金をもらうときに行うのも手刀で、こちらは軍配に向かって左、右、中央の順に手を振り、神々への感謝を示す。

なぜ鈴木という姓が多いか……ルーツは物部氏。彼らは熊野地方に神社を建てた。その収穫祭では稲穂を高く積み上げてそこに1本の木の棒を立て、翌年の豊穣を願った。この棒を「ススキ」と呼んでいたのだ。やがてこれを行うリーダーを「ススキ」と呼ぶようになった。鈴木一族は全国に散らばり、熊野信仰の不況と農耕の伝授をした。ちなみに佐藤…とか藤がつく名字は、藤原氏が栄えすぎて別の名字になったもの。

和室の床の間は何のためにあるか……あれは一説には、掛け軸をかける壁と置物を載せる机を組み合わせた「押し板」というスペースがもと。これが床の間に変わり、美術品や武具などを飾る場所に。だが一般人の家に床の間がついたのは明治以降とかなり遅い。床の間は正式名称を「床」(とこ)という。

なぜ北海道はあんなに広いか……実は複数の県に分かれていた。北海道の開拓がはじまり1882年、札幌県、函館県、根室県の3つに分かれたのだ。しかし人口に差が生じて不都合だったため、1886年には北海道庁がおかれ、ひとつに統合された。

オリンピックのサッカーが開会式より先に始まる理由……オリンピック憲章に「オリンピックの競技期間は16日を越えてはならない」とあるから。1996年アトランタまでは開会式後に行われていたが、めちゃくちゃ過密なスケジュールになるため、選手の体調面を考えサッカーだけ先にしている。

サッカー、オリンピックとワールドカップの違い……オリンピックを主催するのは国際オリンピック委員会で、ワールドカップはFIFAで、国際オリンピック委員会の傘下機関である。W杯には出場経験がなく、プロアマあらゆる選手が選ばれることができる。しかしオリンピックの場合、無条件で出れるのは男子の場合は23歳以下。年長の選手は「オーバーエイジ」枠として3人まで出られる。ちなみにFIFAは「国際Aマッチデー」を規定しており、選手に拒否権はない。オリンピックは、クラブチームの意向により選出を拒否できる。

ゴルフクラブとカントリークラブの違い……ゴルフクラブは文字通り「ゴルフに特化した」施設。しかしカントリークラブは、水泳、テニス、乗馬などスポーツ全般を楽しむ施設。ただ日本では名前だけカントリーとついているものも多い。

オリンピックの周期が4年に1度の理由……そもそもは8年に1回だった。太陽暦の8年は太陰暦で8年3か月となり、周期が近い。そのため両方を用いるギリシア人にとって8年は特別。これをもとにクーベルタン男爵が4年に1度にしたという。

武士がまげを結っていた理由……実はルーツは飛鳥、平安時代の貴族。彼らは烏帽子や冠を被るのだが、それを固定するために、伸ばした髪の毛をまとめ、頭の上で結ったもの。ここにかぶせたのだ。この髪の毛の束を「もとどり」と呼び、もとどりのある髪型を「まげ」と呼ぶように。ちなみに当時はこれを外すのは、裸になるぐらい恥ずかしいことだとされていた。これが武士や町人にも広まり、当たり前になった。まげといえば、左右と後頭部の髪だけ残して頭を剃ったのを想像するが、この剃り上げた部分は「さかやき」と呼び、実用的な理由がある。武士の場合は戦場で兜をかぶっていたが、これがなかなか蒸れるため「もとどり」の部分だけ残して剃ったのだ。ところでまげ全般を「ちょんまげ」なんて言うが、あれは間違い。ちょんまげは江戸時代に髪が少ない老人が結った、小ぶりなまげをさす言葉。

クレオパトラは美人じゃなかった？……世界三大美女にも数えられるほど美人のイメージが強い彼女だが、後世の人が思い描くほどのものではなかったという。しかし素晴らしい魅力をもっていた。数か国語を話せて、教養があり、しかも小鳥のような美しい声をもっていた。トーク力は抜群だったという。英雄を魅了するだけの知性とコミュ力があったということだろう。

ナポレオンがつくられた偉大な日用品……一般的な筆記用具として黒鉛があったのだが、フランスは黒鉛の主要産地であるイギリスと戦争状態にあり、黒鉛の輸入ができなかった。そこでナポレオンはニコラス・コンテという画家兼学者に、鉛筆を発明させた。黒鉛の粉に粘土を練り込んで焼いたものだ。他にもイタリア、ロシアなどの戦争に持っていけるように、びん詰めの食料保存も発明。ちなみに彼の甥っ子であるナポレオン3世も公募でマーガリンをつくらせている。隣国との戦争で不足したバターの代用品としてである。

アインシュタインのおかげでGPSができた……当たり前のようにその恩恵にあずかっている。彼の一般相対性理論はGPSの位置調整に使われている。GPSの運動速度は秒速4キロと非常に速いため、特殊相対論によって時間の進み方が遅くなる。一方で高度は2万キロなので、地球の重力場の影響が小さいことから、一般相対論により地上よりも時間の進み方が速くなる。つまり特殊相対論と一般相対論で互いに逆の効果をもたらす。この補正をせずに1日放置すると、位置情報が11キロもずれるほどの時間差になるため、不可欠なのだ。

恐竜はなぜ巨大になったか……6600万年前に絶滅するまで地上の支配者だった恐竜たち。現在最も大きいものは、キリンのように長い首を持つパタゴティタン・マヨラム。全長は37メートル、60トンほどの体重だったという。陸上で現在最も大きいものでも、アフリカゾウで6メートル。海ならシロナガスクジラの30メートル。恐竜が巨大化したのは、一年中温暖な気候で植物が繁殖、体が育ちやすい理想的な環境だったからだという。また、変温動物なので体温を維持するのに必要なエネルギーが小さいというのもあるし、生きている限り成長し続ける。巨大になるほど捕食されにくくなり、高い位置のエサも食べることができる。

月に酸素がないのはなぜか……酸素をはじめとする地球の分子は常に運動しており、引力がないと表面に残せない。地球からは太陽風の影響をうけ、月までちゃんと空気が流れているのだが、月は地球の4分の1ほどの大きさ。引力が小さいため、気体を残せない。

ベランダ、テラス、バルコニーの違い……似ているようで全く違う。ベランダは部屋の外にせり出したもので、屋根があるのが特徴。バルコニーも同じだが、二階以上で屋根がない。下の階の屋根の上にある場合はルーフバルコニーという。テラスは建物の1階で外にせり出したスペースのこと。周囲の地面より高くなっており、ここに屋根があればベランダになるが、テラスと呼ぶケースも日本にはある。

ショベルとスコップの違い……JIS規格でちゃんと定められている。ショベルは掘る部分が平らで足をかけられるもの、スコップはかけられないもの。しかし大きさの違いとして認識するケースのほうが圧倒的に多く、大きければスコップ、小さければショベルというのが関東、関西はその逆となっているようだ。ちなみにショベルは英語、スコップはオランダ語である。

おしぼりはいつ生まれたか……日本発祥の文化。そのルーツは驚くほど古くて、平安時代にはすでにあった。貴族が客人を招いたとき、濡れた布を提供していたのがはじまり。江戸時代には、旅人のために宿屋の玄関に、木綿の手ぬぐいと水が入った桶を用意した。旅人がそこで濡らした手ぬぐいを絞って、手足の汚れをふき取ったことから、「おしぼり」という名前になったという。

フェンシングの審判は「電気」が行う……床面にはアルミニウムなどの通電性のある金属が貼られている。これが電気審判器に接続されており、床面に接触した剣の突きや斬りでは信号を出さないのだ。ちなみにメタルジャケットにも同様のしくみがあり、ここで感圧することができる。これもまた判定になっている。

ロブスターは不死身？……まず不死身の定義による。死ぬところを見られなければ当然不死身であるし、細菌感染も不死身に入れるのか、寿命だけなのかという定義もある。非常に老化が遅いという研究はあるが、不死身ではないようだ。「脱皮を繰り返すことで不死身」という説が有力だが、これについては消化器官と外殻のみで、全身を脱皮することはないという。また、脱皮の際に体力を使いすぎて死ぬ個体もいる。

水戸黄門は7人いる……徳川光圀を「黄門様」と呼ぶのは、彼が権中納言で「水戸黄門」と称されたから。実は水戸藩にはこの位になった歴代藩主が7人おり、つまり水戸黄門は歴史上7人いることになる。ちなみに水戸黄門の語源は、中国古代の宮廷の扉の門が黄色に塗ってあったことから。秦や漢の時代には、この門の中で働く役職として「黄門侍郎」があった。日本で中納言の異称とするのは、職務内容が類似するため。

4年目の甘エビのエビは全てオス……生まれたときは性別がないが、4年目になると全てがオスになる。そして、オスの甘エビとしてメスと交尾した後、5年目からはメスとして生きる。甘えびの寿命は10年で、3回ほど産卵する。メスになって産卵するようになると、卵に栄養が取られてしまう。つまり、大きくて栄養が詰まった甘エビ＝美味しい甘エビは、オスであるというわけだ。ちなみに、オスとメスの見分け方は、足先が2本に分かれていればオス、1本だとメスらしい。とはいえ、料理として提供されるときに足は切り取られているので、食べるときに区別するのは不可能といえるだろう。

地球の自転速度……赤道で測ってみると、だいたい時速で1700キロ。空気も同じ速度のため、これを感じることはない。新幹線が300キロ近くあると考えると、その六倍なのだ。

ミシンの語源……縫うための機械という意味である”sawing machine”の”machine”が転訛したもの。アイザック・シンガーにより実用化され、日本はペリーが持ち込んだものが初だとされる。

月でゴルフをした地球人がいる……それがアラン・シェパード。アポロ14号に船長として乗り、月面でゴルフをした世界初の人物でもある。だいたい200メートルは飛んだという。他にも、岩石採集用のシャベルを槍投げのように投擲したり、けっこう遊んでいる。13号の事故で再び世間の月面への興味が高くなったことで、これらはテレビで放映されてしまった。アメリカ人として初めて宇宙に出た人でもある。

日本の年号で最も長く続いたのは……意外や意外、これは昭和なのだ。その次が明治で、次になると室町時代の応永。34年近く続いた。意外にも短いのである。この時代は足利義持を中心に安定した時期だったので、改元の必要もなかったものと思われる。

中国語で「はいチーズ」は……「ナス」なのだ。もちろん「一二三」という直球のものもあるが、「ナス」なのは”qiézi”という発音により、口が「イ」になるから。

位置について、よーい、ドン！は誰が考えたか……氏名はわからないのであるが、これは全日本陸上競技連盟が懸賞ををして、採用されたものであるという。それまでは「ケツ上げろ」などと大声で叫び、その後傘か何かを振り下げてスタート、としていた。

ジュゴンとマナティの違い……まずジュゴンは海に住んで海底の水草を食べる草食動物で、大きさは3メートル、体重は450キロ程度。長い毛と短い毛で全身が覆われており、寒さや攻撃から身を守れる。また聴覚にも優れる。マナティは海面付近の水草を食べ、河口や沿岸に分布し、大きさはジュゴンと同じぐらい。尾ひれの形を見ることで簡単に区別できる。ジュゴンは綺麗な三角形をしており、マナティは丸みを帯びたうちわ型。人魚伝説となっているのはジュゴンのほう。

ゴジラの形をした岩がある島に、ゴジラは戻っていった……伊豆大島には「ゴジラ岩」というゴジラのような形をした岩があり、観光名所になっている。ちなみに映画「ゴジラ」では実際に、さんざん暴れた後にゴジラが三原山の火口に戻り眠っている。

ウォーターゲート事件……1972年に民主党本部のウォーターゲートビルで起きた盗聴事件。1974年にはニクソン大統領が辞任するに至った。侵入、裁判、もみ消し、司法妨害など様々なエピソードを含む。1972年の大統領選挙のさなか、ニクソン共和党政権の野党であった民主党本部のビルに、何者かが盗聴器を仕掛けようとし、警察に逮捕されたことがきっかけ。犯人たちはニクソン大統領再選委員会の関係者であり、ニクソンやホワイトハウスは無関係だと主張するも、それに反する証拠が次々と露呈。さらに、もみ消しに関わっていたという音声までもがわかった。テープ提出を拒絶、調査委員会もなぜか解任など、明らかな司法妨害があった。このためニクソン大統領はアメリカ史上初の任期中辞任をしたのだ。

ロシアの誕生日の祝い方……なんとも不思議であるが、「前祝い」は絶対に禁止。ましてやプレゼントを渡すなどもってのほか。事前のそうなることを仮定して祝ったりすると、それが実現されなくなるという古くからの風習なのだとか。また、誕生日を祝ってもらいプレゼントを受け取る代わりに、本人がパーティを主催するという。つまり自腹で人を呼び、最高にほめてもらうという日なわけだ。うーん、なんともなあ。

電車のドアの引手が一番下にある理由……なんともスレスレのところに引手があるのだ。これ実は、障がい者のためとかではなくて、電車が線路上で止まった場合、電車のドアは自動では開かない。駅員が外側から開けやすいようにとのこと。

鳥に耳はあるのか……出っ張っている耳は存在しない。というのも抵抗が生じるから。クジラやイルカと同様である。鳥の耳は我々と同じように目の後ろにある。フクロウの仲間は特に発達している。

黒船から日本を守ったのは「お相撲さん」……日米和親条約を結んだ日本。ナメられっぱなしの日本は調印後の祝賀会に力士たちを連れて行った。贈答品として贈る米俵を、25～30人の筋肉隆々の男たちが素早く運んでくる。1つ60キロの重さなのに、宙返りをする人もいたという。米兵たちはこれに黙ってはおらず、3対1のハンデありで彼らに挑むが、ほんのたやすく返り討ち。ペリーの日記には記されておらず記録は日本のみだが、確かに提督にしてみれば脅威で屈辱だったに違いない。

アリはなぜ巣に戻れるか……最初にエサを見つけたアリがなぜ巣に帰れるかという話だ。疑問はまだ解明されていないが、有力なのは「太陽コンパス」を用いた方向認知をしているというもの。つまり、太陽の方向を基準にして、方向を決めているということだ。具体的には複眼により偏光させて、その光のベクトルによって方角を認識するという。さらにいえば、自分が巣からどれだけの距離を歩いてきたかを把握する「経路積算能力」までも備えている。距離と方角を同時に認識して、迷うことがないのだという。

扇子は昔、メモ帳だった……扇子が誕生したのは平安初期。木簡を持ち歩くために片端を綴じて使ったのがきっかけ。これを檜扇(ひおうぎ)という。当時は男性が使っていたが、やがて絵が描かれるようになり、装飾品として女性も使うように。その後は竹や木の骨組みに片面だけ紙を貼ったものが登場し、現在の原型となる。

犬を3回散歩させないと違法……イタリアのトリノに実際にある法律。1日に少なくとも3回犬を散歩させないと、虐待と言うことで違法になってしまう。また、ペットの毛染め、尻尾の切断などはどんな理由があっても禁止。散歩は自転車で行うのも駄目。家族の一員としてペットをしつける法律があるかわりに、権利として同伴も広く認められているのだ。

ハワイと日本の歴史的関係……初めてハワイに上陸したのは次郎吉という人。アメリカの捕鯨船に助けられてハワイの地を踏んだ。ジョン万次郎よりも2年早くアメリカ人を見たことになる。彼は1年ハワイに滞在し、シベリア、アラスカ経由で日本に戻ってくる。その後5年幕府に監禁された。1867年に日布親善協定を締結し、翌年には移民第一号である153名がハワイへ。この後も積極的に移民を受け入れたため、現在でも日系人は多い。ハワイ王国の国王カラカウアは1881年、世界一周旅行を計画。最初の訪問国は日本だった。このとき、王国の安泰をはかるために、自分の姪っ子と日本の天皇の縁談を持ち出した。アメリカは当時ハワイの攻略を狙っていた時期であり、日本はアメリカとの対立を避けるために丁重にお断り。真珠湾攻撃という歴史を経て、その後1990年代には小錦や曙のようなハワイ出身力士も誕生。現在でも日本語の通じる有数の観光地として、交流が続いている。

クジラの歯をプロポーズに使う国がある……それがフィジーである。大きければ大きいほど価値が高い。結婚式、葬式のほか、首長どうしでいさかいを収めるためにも交換される。いわば市場にのらずに、「交換するため」だけの財なのだ。

スズメバチの変わった生存方法……ハチというと花の蜜のイメージだが、スズメバチの幼虫はタンパク質をとって生きる。基本的に肉食なので、幼虫を養うために、別の昆虫を捕まえてきて与えなければならない。セミ、トンボ、バッタ、ハエ、クモなど、多くの昆虫類がエサになっている。

最も平均体温が高い動物……なんとなんと、ニワトリなのだという。豚やヤギが39度だが、ニワトリは41.5度。ニワトリだけでなく、基本的に鳥類はみな高い。

裁判官の持つ木槌の名前……英語で「ガベル」という。しかし日本の法廷でこれを使うことはほとんどない。裁判長が静粛を求めるほど荒れていないのが実情か、この木槌は全然使われないという。いわば、裁判長の権威とか公平なジャッジという心構えを表すための象徴となっている。

ピアノの生産台数日本一はどこか……静岡県だという。山葉寅楠(やまばとらくす)という現在のヤマハ株式会社の創業者が静岡県で製造を開始したのがきっかけ。音楽教育の必要性と楽器産業の将来性にかけた彼の思いは、現在の日本でも活きている。

クアラルンプールは「クアラルン・プール」ではない……マレーシアの首都、東南アジア有数の世界都市に数えられるクアラルンプール。KLと略すのは、区切り方が”Kuala Lumpur”だからであり、「クアラルン・プール」ではない。その土地は「泥が合流する場所」である。多民族が共存するマレーシアらしく、多彩な文化が混ざりあっている。

数え年……生まれてからかかわった暦年の個数で年齢を表す方法。つまり、生まれた年を1歳とする。以降、元日を迎えるごとに1歳ずつ「年を取る」。だから12月31日に生まれた子は、1月1日には2歳になっている。これに対し満年齢が我々が普段用いるものだ。本来七五三や年祝いは、数え年で行われてきた。

台湾では結婚式を二回行うことがある……「1回目は新婦側の友人・知人を招いて行われる婚約式で、2回目は新郎側の友人・知人を招いて行われる結婚式」という2回。ただ、しきたりに厳しくない場合、新郎新婦が同じ地域出身の場合などは、最近は一回で済ませることもあるという。ゲストがめちゃくちゃ多く、200人越えは普通、500人のところなどもある。また、2次会なんてものはなく、家族や親戚と過ごすという。ゲストは服装がかなり自由で、ジーパンにスニーカーなんて人もいる。

しりとりで最強なのは何なのか……『「しりとり」徹底分析！最強キャラ(文字)解説＆５つの「驚愕」＆最長の増殖しりとりへ挑戦』というQiitaの記事では、Pythonで解析し、どれが最も強いのか調べている。しりとりは先に有限な全単語が与えられている場合「ゼロサムゲーム」になる。この記事では、「X」で終わる単語数を「攻撃力」、「X」から始まる単語数を「守備力」とした。まず「ル」と「ズ」は非常に有効であることがわかった。ズで終わる単語はルの半分だが、ズで始まる単語はルの5分の1、そのため「～～ズ」リストを作れば、ルの五倍の速度で圧勝できる。そのほか、ルよりも「ヌ」「ネ」「ヘ」で始まる単語が少ないこと、「ン」はトラップで最高の性能であること(ンで終わる言葉が最も多い)。

詭弁の概略・詭弁の特徴のガイドライン……2ちゃんに貼られる「ごもっとも」なコピペ。詭弁を見抜くための15個の「特徴」が例示されている。例えば「キツネは子育てするか」に対し。否定論者が「子育てしないキツネがいたら」(仮定を持ち出す)。「時として子育てしないキツネもいる」(稀な反例)。「将来子育てしなくなる保証はない」(有利な将来を予想)。「キツネが子育てしたいはずがない」(決めつけ)。「子育てしないという見方が一般的だ」(自論の支持を資料を示さず訴える)。「その点トッポっていいよな」(関係ない話)。「子育てすると支配者層に有利だろう」(陰謀論)。「何キツネごときにマジになってんの」(土俵から降りる)。「キツネが子育てって言うやつは社会に出てない」(見解を述べずに人格否定)。「結局キツネを母キツネが一匹で育てるようにすればいいんだな」(無理な相談)。「キツネが子育てってきみガイジやな」(レッテル)。「ところで子育てって何だ？」(解決した話を蒸し返し)。「キツネが子育て論は既に以前に論破されてるぜ」(勝利宣言)。「子育てといってもいろいろあるだろ」(細かいミスを指摘)。「キツネが子育てしないと認めないかぎり進歩はない」(新しい概念こそ全て)など。個人的には「8割の人間がキツネが子育てしないって言ってるんだが？」(数の暴力)「生物学者が子育てしないって言ってたぞ」(権威主義)「これがソースな」(そのソースのどこがなぜ自論を担保するのか説明を一切しない)も付け加えたいところ。ただしこのコピペ、前件否定が入っていない。詭弁は論理学では数十種類もあるが、それら全部に通じた論理学の先生でもたぶん「全く詭弁言わない」ってのは無理だと思う。それぐらいに間違いやすいのだ。

詭弁の概略・前件否定……「PならばQでない、Pでない、よってQでない」という形の、めちゃくちゃ陥りやすい詭弁の形。まあ必要条件とか十分条件のすり替えの話である。「植物は哺乳類ではない。キツネは植物ではないから、哺乳類ではない」というのがその例だろうか。植物であることは哺乳類でないことの十分条件だが、必要条件ではないのだ。

詭弁の概略・白馬非馬……中国の「伝説の詭弁」。白馬とは「色の概念と形の概念を組み合わせたもの」で、馬は単に「形の概念」である。白馬を見たときに「白」「馬」というように別々に知覚するから、白馬と馬は違う概念だ、としたもの。屁理屈である。兒説(げいせつ)という弁舌家がこれを用いてみんなを論破したのだが、彼が白馬にまたがって関を通ろうとしたとき「おら、馬を通すなら通行料を払え」と言われこれを展開。「じゃあ今君がまたがっているそれは色なのかな？違うね、馬の部分にまたがってるんだよね」と返され、結局お金を払わされたという話。

詭弁の概略・白馬は馬にあらず……公孫竜という弁舌家が戦国時代に発表した説。上の笑い話的なのとは違い至極真面目な話。「馬を連れてこい」と言ったとき、必ず白馬がくるとは限らない。茶色でも黒でも赤でもありうる。しかし「白馬を連れてこい」といえば白馬しか来ない。だから馬と白馬は別なのだ、という教え。彼が生きた戦国時代はまさに下克上、儒家のいう「礼」が廃れたせいでこんなになっていると考えた。これを深くしたのが公孫竜。彼は「名家」というところに属し、「名」と「実」、つまり名称と中身の関係をはっきりさせることを信念としていた。つまり「国王と呼ばれる者には国王の中身を、大臣には大臣の中身をもつべきだ」と考えたのだ。奴隷が庶民の領域を侵したり、大臣が国王を脅かしたのは、中身が名称から乖離するからけしからんのだと。彼が主張したかったのは「中身と名称は一致させるべきである」ということで、そのために「軽々しく白馬と馬を同義語として扱うな」と言ったのだ。こう聞けばなるほど、ただの詭弁ではないことがわかる。

インナーシティ……大都市の都心付近に位置し、住宅、商店、工場などが混在する地域。都市の内部にあるが、治安悪化によりその都市全体の市民との交流が隔絶された「低所得地帯が密集する場所」として問題視される。語義でいえば江戸の城下町とか城郭都市内部とかを指すのだが、「インナーシティ現象」という時の意味とは異なる。一般に都市は機能分担がされているが、ここは孤立してしまっている。地価が同心円状に下がるのに対し、ここらへんはずっと低いまま。欧米は移民により高度経済を支えていたため結構問題。日本にはない。強いて言えば日雇い労働の寄せ場あたりだろうか。

Nice boat.……カオス状態の流れを変えたいとき、猟奇的なシーンとかで使われる用語。テレビアニメ「School Days」の最終回が突如中止になり、「都合により番組を変更してお送りしています」というテロップと、フィヨルドをバックに船のたたずむ映像のみが流された。これを見た外国人がキャプチャ画像とともに放ったことばが元ネタ。実は予定日の前日、少女が父の首をオノで切りつけ殺害するという、ある意味「次回予告」みたいな事件が起きていた(主人公の生首を持ったヒロインがヨットで遠海に進むオチ)ためであるが、なんともこうがっかりというか失望がその2単語に現れているため、現在でもよく用いられるスラングとなっている。例えばポプテピピックでも「蒸気船が川を下る」というどこぞの蒸気船ウィリー野郎のネタを放送しようとしたが、大人の事情によりボード画像になる、というパロディネタに。ちなみに背景は世界最長のソグネフィヨルドである。

この世の終わりみたいなインスタの投稿……有史以来に人類が手にした知性、そして築き上げた文明を放擲したリリックと、生物の原理に立ち帰ることを強要する破壊的なリズムを特徴とする飲み会コール。その名の通りインスタグラムに投稿された、イキリ大学生のものである。解説はするが、日本語がわかることがこんなにつらいとは思わなかった。「いっきっきーのきー」で始まり合いの手は「ｵﾏﾝｺ」「ｵﾁﾝｺ」「ｱｲｱｲｱｲ」、続くは日本語を冒涜し、言語の構成原理を尽く無視した「おっぱいまんこまんこちんこｱｲ」。まさにネット史に残したい名句である。締めは四度もの「ｵﾏﾝｺｯ!ｼｮｯﾊﾟｯﾋﾟｨｰ/ﾅﾒﾀﾗﾎｯｹｯｷｮｰ/ｽﾞｯｺﾝﾊﾞｯｺﾝｽﾞｯｺﾝﾊﾞｯｺﾝ/ﾁﾝｹﾞｯ!ﾏﾝｹﾞｯ!」。これにはネット民も「英霊が守りたかった日本」「撮影者の一人勝ちで草」「ゆかりが一気飲みできたらこんなことにはならなかった」「それぞれの親と一緒にみたい」「あした巨大隕石降って来るってわかったら自分も同じことするかもしれない」とキレッキレの皮肉で応酬。

哲学のような何か概略・ハードプロブレム……物質の集合体である脳から、どのようにして主観的な意識体験(クオリア)というものが生まれるかという問題のこと。科学がこれから正面から立ち向かうべき問題として提起されたが、今の科学では答えを出す方法すら見つけられていない。それは「クオリアとはいったい何なのか」「物理学のモデルでは、クオリアはどこに位置付けられるか」というところがわかっていないから。科学的な方法が適用できるかどうかさえわかっていない。対義語は「イージープロブレム」で、これは21世紀の脳科学が扱っているほとんどの問題。例えば「物質としての脳がなぜ思考や記憶、判断できるのか」とか。

哲学のような何か概略・クオリアという概念はどこから登場するか……よく考えたら「脳に何の影響も与えないはずのクオリア」の概念を、脳が語ることができるのはなぜだろうか？これは大きな矛盾ではないだろうか。さて、では「脳はどこからかクオリアの情報を仕入れてきた！！」と主張するのがよいのだろうか。結局「脳がクオリアから何らかのフィードバックを受け、物理的な変化を起こした」としか言えなくなるだろう。でもそんなのはやはりおかしい。これを「現象報告のパラドックス」と呼ぶ。「クオリアは物質に作用しないから考えなくたっていいんだ！」という考え方に大きな衝撃を与えてしまった。

哲学のような何か概略・言語ゲーム……哲学史最大の言語哲学者として知られるヴィトゲンシュタインが用いた表現。言語とは客観的な根拠によるのではなく「伝統的・文化的に決められた生活様式というルール」を根拠として述べているにすぎないのだ、と主張する。例えば「ぼくは人間だ」といったときの「ぼく」が「黒人」だった場合、この文は正しいのだろうか？もちろん今では正しいが、正しくない時代や場所が存在していた。ぼくが死にかけの人だった場合、植物人間だった場合はどうだろうか。結局言語とは「決めつけ」に過ぎず、ことばの根拠を示そうとしていくらことばをつくしても、その説明のためのことばさえ、根拠がないルールをもとに述べられているにすぎないのだ。

哲学のような何か概略・クオリアは脳の状態を変えうるか……これまた難問。まず、脳のある部分をぶっ壊せばクオリアがなくなるのだから、脳がある状態になればクオリアが生じると考えるのは当然として、その逆はあるのだろうか？もっと具体的にいえば、クオリアが脳の分子や原子に物理的な作用を与え、動作を変えることはあるのだろうか。もし「ない」としてしまうと、クオリアなんて結局無用の長物であり、なくてもよかったのではないか、となってしまう。「何の役にも立たないクオリアがなぜ存在してるんだ！」という疑問につながり、不自然である。しかし逆にこれが脳に影響を及ぼしていると考えると、それは科学に反することになる。いわば「第五の力」を認めなくてはならなくなる。だから現在の科学では「何も与えません」という立場をとっているのだ。このような考え方を「随伴現象説」と呼ぶ。

哲学のような何か概略・実証主義……科学的な命題、仮説、理論は全て、経験的事実に基づいて構成されるべきとする考え方。つまり「経験された事実として認識されるまで何も信じないぞ！」ということ。例えば「10cmはどこでも10cm！」という考え方さえ「ほんと？それは実証されたの？」と主張し、アインシュタインの相対性理論の構築に大きな影響を与えた。

哲学のような何か概略・初期値鋭敏性……カオス理論を成り立たせている性質。初期値を少しでも変えることで全体のふるまいが大きく変わってしまうというもの。いわゆるバタフライエフェクトである。ところが「初期値を完璧にする」というのは人間には不可能である。当たり前だけどどんなデータでも正確に測ると無限に続いていく。原理的に「完璧な測定」なんて不可能なのである。だから「どんな完璧な天気予報システムがあっても未来は予測できない」ことになる。

哲学のような何か概略・時間の矢問題、なぜ時間は片方向にのみ進むか……なぜ時間が片方にしか進まないのかという問題。マクロの世界では「時間は不可逆」だが、ミクロの世界では「可逆」である。例えばある粒子が別の粒子にぶつかって弾け飛ぶという映像がある。これを逆再生しても、たぶん不自然ではないだろう。ミクロレベルでは時間が正か負か言い当てることはできない。で、結局「ミクロでは時間の矢の向きが読み取れないのに、それから構成されるマクロで読み取れるのはなぜか」という問題は、100年前から提起されて以来、解決されていない。さてそれでは時間を反転すると世界はどうなるだろうか？そりゃ滝は上に登り、SとNの磁石は離れ、彼女は去っていく。そんなめちゃくちゃなことが起こるはず。たいていの人は「物理法則も逆転した」と考える。しかし、実は力とは時間の2階微分なのだから、時間の符号が変化しても変わらない。ためしに「指でボールを離し転がす」という映像を見てみよう。これを逆再生しても何ら不自然はないはずだ。それでは「ボールを軽く押すと坂を転がり、やがて止まる」という映像。これもまた物理的には不自然ではないはずだ。空気の粒子がボールめがけて飛んできて、ボールを突き飛ばす。坂道を上ったボールが、指で止まる。ボールにはちゃんと下向きの重力がかかっている。いやいやそうはいうが、コーヒーに溶かしたミルクが元に戻ったり、老人が赤ちゃんに戻ったり、そんなのはやはりおかしい。この問いかけは「なぜ正の時間でエントロピーが増大するのか？」という問題に行きつく。

哲学のような何か概略・確率論的世界の奇妙なパラドックス……「確率的な現象」など存在しないというのはもはや古典的な世界観である。確率と言えばゲームをしてみよう。一方の箱には「右手袋」が、もう一方には「左手袋」が入っている。どちらにどっちが入っているかはわからないが、どちらかを開けてみるとどちらかが出てきて、どっちが出てくるかは確率的に50％。これは簡単なはず。ここで我々は「いやいや、実際にどっちが入ってるかなんて箱を開ける前から決まってるでしょ」と考える。だから「確率的にしかわからないというならそうだけど、確率的な事象なんてないさ！」と主張したくなる。だが量子力学はそれにNOを突き付ける。手袋ぐらい大きければともかく、電子とかあまりに小さいものになると、「なぜそれがここにあるのか」という説明を、「手袋を入れた人がいるからさ！」というようにはできなくなる。ある箱を開けて右回りの電子が入ってても、「なぜ左じゃなくて右なのか」という理由を「原理的に」知ることができないのだ。そんな結論を批判したのがアインシュタインで、「神はサイコロを振らない」とまで言い切ったが、結局ボーアさんを論破することはできなかった。全ての現象は結局、確率的にしか記述できないのだ。

哲学のような何か概略・宇宙は4つの力で全て説明できる？……宇宙の全ては4つの力で記述される。それは、宇宙をなす素粒子に4つの力が働いているからで、むしろ「4つもかよ！」という気持ちらしい。現在この4つを統一して説明する理論は、ない。弱い力は陽子と中性子を結び付けている力である。まず原子核には陽子だけでなく中性子がある。実はこいつ、15分ぐらいすると「バァン！」と壊れてしまう。具体的には「電子と反ニュートリノを放出し、陽子になってしまう」。このとき出てくる電子をベータ線と呼ぶので「ベータ崩壊」という。逆に、陽子に電子と反ニュートリノを与えると中性子になることも確かめられた。であれば、陽子と中性子が互いに電子・反ニュートリノを押し付け合いながら入れ替わっているといえる。強い力は中間子という粒子が交換されることで働く力で、めちゃくちゃに強大な斥力で反発する陽子どうしを結び付けている力。弱い力がこれを担っていると当初考えられてきたが、力としてあまりに「弱い」ため、こっちの「強い力」が正しいことがわかった。湯川秀樹はかつて「電子だと軽すぎて陽子が結びつかない。じゃあもう少し重たい未知の粒子があるんじゃね。そいつを陽子どうしでキャッチボールしてんだ」と考えた。こいつは「電子より重く、陽子より軽い」ということで「中間子」と呼ばれたのだが、来日したボーアに語っても「ふーんあなたってそういう、未知の粒子が好きなんだ」と相手にされなかったそうな。しかし宇宙からたまたま飛んできた放射線の中に、中間子と近い重さの粒子が見つかったことで、彼はノーベル賞を受賞した。ただしこのときの「キャッチボール」により働く力は、現在では「強い力の種類のひとつ」とされており、他と区別するため「核力」と呼ばれているのでご注意。

哲学のような何か概略・ベータ崩壊の説明……ビリヤード玉を空中で「アチョー！」して2つに分解すると、その二つともともとの1つの運動について、運動量保存則やエネルギー保存則が成り立つはずだ。しかしベータ崩壊については成り立たなかった。これをボーアさんは「もはや原子核の中の世界では、エネルギー保存則も運動量保存則も成り立たない」と言った。パウリがこれに待ったをかける。「いやいや！エネルギー保存則が成り立たないとかおかしいから！」と。そこでボーアは「なら、別の三つ目の粒子があるんやわ」と、粒子Xの存在を勝手に仮定！つまりベータ崩壊するとき、未知のX粒子が飛び出していると考えたのだ。これが1930年、別名を「パウリの救済策」と呼ばれる、ニュートリノの予言である。

哲学のような何か概略・光は波なのかそれとも粒なのか……物質は波でも粒子でもあるということをわかりやすく示してくれる実験が「二重スリット実験」。電子銃の前にはボードが置かれ、そこにはスリットが2つ。ボードの奥にはスリットがある。「2つの穴が開いた板に向かい電子を飛ばすと、その奥のスクリーンには何がうつるか？」ということ。まず、大量の電子を発射すると、スクリーンにはきれいな縞模様ができる。これは「干渉縞」。電子が波と考えれば何の矛盾もない。では電子1個を発射した場合はどうだろうか。結論をいえばスクリーンにはポツンと小さな点が現れる。ってそりゃそうだ。電子が粒だと考えれば矛盾はない。あ、追加実験として、AとBにそれぞれ「電子が通ったかどうか観測するセンサ」を置くとしよう。当然、電子1個を飛ばすと、AかBかわからないがとりあえずどっちかのセンサしか反応しない。そりゃまあ当然。つまり最初の実験では「電子は波」となり、2つ目の実験では「粒」となった。それで終わりだろうか？実を言えばそんなことはない。かなり強引になるが、例えば電子が波だとしても「ものすごく細い波だからこそ点として現れたのだ」と説明することは可能だし、逆に電子が粒だとしても「Aを通った粒子の大群と、Bを通った大群がぶつかり合って縞模様になっている」といえなくもない。ところがだ。3つ目の実験がどうしても説明できなかったのである。電子銃から電子1個を何度も発射し続けたとしよう。当然スクリーンにはぽつぽつ小さな点が増えていくハズ。不思議なのはその結果。点の集まりが、干渉縞の模様と同じになってしまった。不思議なことに、可能な限り同じ条件で電子1つを飛ばしても、点はあっちこっち、きまぐれな結果を残す。なのにどうして干渉縞なのか。まず、確実に言えるのは「干渉縞の波の振幅が高い場所に電子がいっぱい飛んでくる」こと。で、当たり前だが点の集合が縞模様になるということは、電子の飛んでくる確率が高い場所と低い場所の2つがあるということを示す。この「高い場所」とは、電子を波と見立てたとき、その波が高い場所ということになる。「電子1個を飛ばしたとき、その電子は、波が高い所でよく観察され、低い所では観察されにくい。波がない所では観測されない」ということになる。それでは実験3の結果はなぜ起きたのだろうか？実は、わからないのだ。干渉縞とは「Aを通り抜けた何かとBを通り抜けた何か」が干渉して起こる模様。だから当然、BをふさいでAだけで実験しても、ランダムな模様にしかならない。さらに、2つのスリットの位置関係を変えると、干渉縞の模様も変わる。では打たれた電子1つ1つは、一体何と干渉したのだろうか？あ、それなら、電子が通ったかどうか観察するセンサをいたるところに取り付けてみよう。それならばわかるだろう。というのも実はうまくいかない。電子を観測することは結局「電子を何かにぶつけて軌跡を変えること」に他ならない。電子が到着するまで電子を観測してはならないのだ。科学者たちはこれを「コペンハーゲン解釈」により解決した。つまり、「電子は波でも粒子でもある」という解釈である。「観測される前は波だけど、された後は粒になるんだ！」ということである。

哲学のような何か概略・いったい「自己」はどちらの脳にあるのか？……1960年頃、てんかん患者の治療として、左右の脳を繋ぐ脳梁を切断する手術が行われた。これは大成功だったのだが、本当に影響がないのか確かめるため、ある実験を行った。簡単にいえば「左右の脳のうち一方の脳にだけ文字を見せ、それをことばで話してもらったり、手で取ってもらったりする」ということ。例えば眉間のところに紙を置いて、右に「コップ」という文字を、左にいろんなものを置く。こうすると、右目で見たものは右脳に入り、左目で見たものは左脳に入る。また、右手を司るのは左脳で、左手を司るのは右脳。さて、先述のような実験を行い、「眼を閉じてください。左手で、今あなたが右目でみたものを手に取ってください」という。すると彼は、手探りでコップの形をしたものを選び、手に取ることができる。次に彼に「今さっき何が見えましたか？何を取ればいいかわかっていましたか」と聞くと、彼は何と「何も見ませんでした。何を取ればいいのかわかりません」という。明らかに「コップ」を右目で見て、左手でそれを選んで手に取っているのに！それはなぜかといえば、言語機能を支配しているのが左脳だからだ。左脳には「コップ」の文字情報が伝わっておらず、何も見なかったと答えるのだ。逆に、左目に「スプーン」の字を見せ、左手で見たものを取ってもらう。そうすると彼の左手はまったく動かない。右脳に文字情報が伝わらないから何を取ればいいかわからないからだ。でも、「何を取ればいいかわかっていますか」と聞くと、「はい、スプーンですよね」と答えるのだ。科学的にみれば、そりゃあまあ当たり前なのだ。しかしこれが「私」という、厄介な問題に変貌することがある。例えば体をスパッと切り急速冷凍する。右半身をスカイツリー前、左半身を東京タワーの前に持って行って、同時に解凍したとしよう。このとき「私」はどっちの景色を見るのだろうか。つまり、「私」は、右脳と左脳、どっちにいるのだろうか？もし片方だけだとすれば、もう片方は「哲学的ゾンビ」ということになりはしないだろうか？それに「なぜに、なぜ右じゃなくて左なのか」という問題も生じてくる。

哲学のような何か概略・道具主義……科学理論の役割は結果の予測だから、予測と結果に整合性があれば「理論はどうでもいい」とする考え方。例えば実験結果とたまたまあう方程式があったけど、その方程式は全然非現実的で、しかも実験と全然関係のない数式だとする。これを世の中に発表すべきだろうか。道具主義者はこれを「当たり前だろ」という。人間は理論の正当性を決める絶対的基準を持たないのだから、そんなの考えたって意味がない、とするのだ。ニュートンさえ逆二乗を「前提」として式に入れている。

哲学のような何か概略・輪廻転生とダライラマの話……輪廻転生を信じるかどうかは自由であるが、その証拠としてチベット仏教の「ダライラマ」がいる。民衆を救うため何度も輪廻転生して世界を救っている、というダライラマ制度は、1578年、モンゴルの王族アルタン・ハンから「ダライ・ラマ」という称号を与えられるところから始まる。ん、つい最近ですね…？当時チベット仏教は4つの宗派で分かれて争っていたのだが、「カギュ派」が、「あ、師匠の生まれ変わりを立てれば、みんな師匠についてきてくれるんじゃね」と考えた。そこでいきなり他人の家に上がり込んで「この子、師匠の生まれ変わりなんですよ！」と持ち掛ければ、そりゃあもうお国柄すぐに信じてくれる。子どもを教育し、師匠の生まれ代わりとして祭り上げたら大ヒット！こうなると他の宗派は面白いからこれを真似しだす。何ともこう、嘘っぱち嘘八百の、すがすがしい話である。さて、真似し始めた他の宗派でも、特にゲルク派はうまくやった。モンゴル民族アルタン・ハーンに取り入って、「あなたの子孫がモンゴルと中国を統一します！」と予言したのだ。エセ予言者は「ダライラマ3世」という称号を与えられる。次の4世はあまりに露骨。アルタン・ハーンの親戚からダライラマを選出したのだ。これにはゲルク派内部から「やりすぎでしょ！」という批判が出た。しかし5世の時代になると、対抗勢力をぶっ潰してチベットの支配者になることに成功。1642年、ダライラマ政権が誕生。9世のころともなるとこの制度の欠陥がはっきり見えてきた。みんな自分の子どもを差し出すし、みんな生まれ変わりを必死に探すのだ。どれが本物かわからないから、作法を決めて選抜試験をする。「第23回、チキチキ！ききダライラマ、生まれ変わり決定バトル！！」を開くのだが、これがクイズ形式で「生前使っていたお箸はどれでしょう！」みたいな選択問題。最後まで残った子どもが生まれ変わりになるのだ。そのうち不正が始まり、問題の流出はいいほうで、暗殺も起こり始める。チベットと聞くと何とも神秘的なイメージであるが、こうした現実があると知ると、なんか幻滅する。真理を極めるのに必死だった宗教国家でさえこうなのだから、輪廻転生について本気で考えるのはよしたほうがいいかもしれない。

哲学のような何か概略・物質か物質じゃないか……自転車は物質だろうか。そりゃそうだ。じゃあ、自転車が自転車なのはなぜだろうか。例えば自転車をパーツごとに分解して「これは何でしょう」と聞くと、半分の人はサドルを見て「自転車？」と答えるかもしれない。それではパーツをさらに化合物に分解したら、もう何なのかわからないだろう。こう考えると、自転車が自転車だと確実にわかるには、「人間がペダルをこいで進める乗り物」という「性質」が必要だとわかる。つまり自転車とはあくまで「複数の部品の構成によって発生した性質について、人間が便宜的に名前をつけただけ」だとわかる。自転車という存在は確固たるものというより、観念的なものなのだ。同じく自転車のサドルだって、単体に分解したら存在が消える。さらにいえば鉄だって、原子核と原子である。さらにこれもクォークになる。ある要素と別の要素が集まってできた性質(システム)に、Xという名前をつける、ということを人間はしており、そういう存在を「物質」と呼ぶに過ぎない。鉄を物質と呼ぶなら、国家だって自転車だって、宇宙だって物質だということになる。逆に「会社」が物質ではないとするなら、鉄だって陽子だって、便宜的な存在になってしまう。

哲学のような何か概略・反証可能性……ポパーという科学者が唱えた科学思想。「おら、間違ってるじゃねえか！」と証拠を突き付けることが反証。その可能性である。ポパーは「人間が観察により科学理論の正当性を証明することは原理的に無理」「観察によってできることは反証のみ」とした。だからと言って彼は「科学理論は反証によりつくられるべき」とは言っていない。「理論というのは反証でしか検証できないのだから、正当な科学理論は反証で検証されるはずだ」と言ったのだ。つまり実験や観察を行い反証される可能性がある理論が「科学」だとしたのだ。ただこれ、結構妥協である。つまり科学なんて「今のところ反証されてない仮説にすぎない」という、敗北宣言でもある。この考え方にも結構ヤバい弱点があった。例えば反証して「触りもしないのにボールが勝手に坂を上がった！」と言ったとしよう。果たしてそれを受け入れる人間はいるだろうか？「いや、君の実験が間違ってただけだと思うよ？」と言われておしまいである。実験には数えきれないぐらいの前提条件がある。仮に科学理論と違う結果が見つかっても、その理論をただちに否定することにはならない。だから理論と違った結果が出ても「前提が間違ってたんじゃねえの？」といくらでも言い逃れできてしまうのだ。じゃあ前提を正しくしよう！と息巻くのは自由だが、それが間違ってないか確かめるための実験をし、その実験が正しいかどうか確かめる実験を、とすると、結局完璧にいつまでたってもたどり着けないのだ。言ってしまえば全ての科学は「反証不可能」な疑似科学なのである。ポパーはこれをちゃんと気付いていて、「このような疑いを乗り越えて何らかの理論をたてるには、どこかで疑いを止める地点を決断する必要がある」と言っている。「ごちゃごちゃうるせえ！これは正しいんだ！絶対に正しいんだよ！」という思い込みによってしか成り立たないのだ。そしてそれは、全ての理論体系について当てはまることである。

哲学のような何か概略・ウィグナーの友人……シュレーディンガーの猫の発展版。太郎と次郎がいる。太郎は実験室の中でシュレーディンガーの実験をやり、次郎は太郎の実験が終わるのを待つ。さて、実験が終わり、次郎が部屋に入ってきた。「実験終わったみたいだね」「うん」「なるほど、生きてたのか。僕にとっては今、結果が確定したよ」「いや次郎何言ってる、僕からすれば5分前には確定していたよ」「そんなの知るもんか」状態が確定したのは、一体いつなのだろう、と考えると、もしかすると世の中の「波動関数」には、主観的な何かがあるのかもしれない。

色彩学の概略・虹の七色の青の外側に紫がくる理由……よく考えたら不思議である。最初は赤、その後、黄色になり、緑、だんだん青みがかかり青。R、G、Bの順番で推移しているのに、最後にBとRの混合である紫が来ている。まず人間の錐体細胞はRGB(俗にいう光の三原色)しか感じ取れない。そのとき、それぞれの細胞の感度と光の周波数とをグラフにとってみると、緑と青はピークが1つしかないのに対し、赤だけ、400～500nmの小さい波長のところにもピークがある。つまり紫を見ると青と赤が両方感じられるのだ。青よりも波長が短い光である紫を、ちゃんと青と区別して認識できるのはそういうわけ。もし人間の赤錐体細胞がこうでなかったら、虹は6色しかなかったに違いない。

色彩学の概略・光の三原色と色の三原色が異なるのはなぜか……RGBとCMY(シアン、マゼンタ、イエロー)、前者を混ぜればどんどん明るくなり、三つ混ぜると真っ白、一方で後者は混ぜていくと暗くなり、ついに黒になる。それぞれ加法混色、減法混色と呼ぶ。そんな風に異なるのはなぜだろうか。それは、色の三原色とは「光」ではなく「物体の色」に対してのものだから。普通の物体は自分では発光せず、外からの光を反射することで姿が見える。その物体の色は、全ての成分を含む「白色光」の中から特定の波長を吸収し、残りを反射することで現れるのだ。例えばマゼンタは赤と青が混じったところに現れるが、これは見方を変えると、全ての色が混ざった白から、緑を除いたものであるともいえる。白色の光のうち緑のみを吸収し、残りを反射することでマゼンタに見えるのである。色の三原色は、全ての色が混ざった状態から光の三原色の1色を除いた残りが示す色になっている、ということ。このように「赤とシアン」「緑とマゼンタ」「青とイエロー」のような関係を、互いに「補色」という。絵の具を混ぜ合わせると、混ぜるたびに吸収される成分が増えて、黒になってしまう。

色彩学の概略・同じ白色光でも全く違うものがある……上で「全ての成分を含んだ白色光」とかいたが、そんなものは存在しない。蛍光灯も太陽光も電球も同じ「白」だが、そのスペクトルを見ると全く似ても似つかないのである。外で見たときと部屋で見たときでは、全く違う色に見えてしまうことがある。インテリアを選ぶ場合なんかは特に注意したい。

色彩学の概略・単純なRGBの組み合わせでは表せない色がある……人間の錐体細胞の感度は複雑な関係をもつため、単純に表すことはできない。特定の色の「強度」をマイナスにすればよいのだが、それはあくまで数学の話。特定の色の強度をマイナスにする、つまり光を吸い取る光源なんてないので困る。そこで、3原色をうまく組み合わせ、全ての色を表現できる指定方法が考えられた。それがXYZ色度図である。RGBのかわりにXYZという数値の組み合わせで色を表す。完全なRGBではなく、Xには青の、Yには明るさの情報も盛り込まれている。しかしこれも完ぺきではない。色を3次元で表示する必要があって、頭で考えたり紙の上で表したりが難しいのだ。そこで今度は、X、Y、Zの各要素がどれだけ入っているかの割合(2つ決まれば1つは確定する)で表示、残りの1つの軸で絶対値を表示する方法が考えられた。絶対値を示す軸には、主として明るさ情報を表すＹを、色を示すのにはＸとＹを使うのが一般的で、Yxy表色系と呼ばれている。Y軸の明るさは表示せずとも影響が少ないので、普通はxy平面のみが描かれる。さてこれで今度こそ、と思いきや、チャートの形がいびつで、緑の領域がやたら広いという文句が。図の上で違った位置にある2つがそんなに違って見えないとか、すぐ近くにある色なのに全然違うという問題がある。そこでL\*a\*bというものも考えられた。

色彩学の概略・マンセルの色立体……上のような論議の中で生み出された、感覚的に理解しやすい表色系。しくみは極めて単純で、色の要素を「色合い(色相)」と「明るさ(明度)」と「鮮やかさ(彩度)」の３つに分け、3次元表示したものだ。美術の教科書とかに載っている。

色彩学の概略・色をディスプレイ上で表現する方法……ブラウン管でも液晶でも、光の混合で色をつくるので、RGBがもとになる。RGBそれぞれをどれぐらいの強さで出すかを数式で指定すればよい。よく6ケタの16進数が用いられるが、これは、はじめの2ケタが赤、次が緑、最後に青の強さを256段階で表すものである。例えば”bfffcf”は”191/255/207”のように。一般的には各色256段階、つまり1670万色あればほぼ完全に自然の色を表現できる。フルカラーとはこれのことである。Webで用いられるGIFはわずか256色しかないが、これは少し特殊で、適当に選んだ256通りの色に番号を付けた表(カラーパレット)を準備し、「何番の色」という方法で色を指定している。容量を減らせるがなんとも非力な気がする。しかし実際はそうではなく、あまり必要のない色を削除し、良く使われる256色にのみ絞って表現することで、フルカラー以上の表現力を持たせることが可能なのだ。甘く見るなよ。

色彩学の概略・プリンターはなぜCMYか……それは当然、減法混色による色表現、つまり自分で発光しない色素をつかった色表現だからである。例えば凹版印刷の一つグラビア印刷では、版に切った溝の中に塗料を入れて紙に転写するが、元の写真をCMYの3色に分解し、それぞれに版をつくり、一色ずつ印刷する。溝の深さでインクの量が変えられるため、これを利用して諧調表現を行っている。版が高価なので写真とかに使われる。オフセット印刷というのもある。金属などの表面を化学処理し、疎水性と親水性の部分をつくり、これに水とインクをかける。これを紙に転写するのだ。実際は原版からいったんゴムシートなどに転写し、もう一度紙に移し直している。原版を作る際、感光材を塗った金属板に原画を映して露光し、感光剤のない露出部分のみを腐食処理する、という、写真製版の技術が使え、新聞を初めとして現在最も普及している。ただしこっちはインクが「ある」「ない」の2階調しかない。そこで新聞のように、画像をドットで表し、その点の密度を変えることで細かい濃淡を表現できる。解像度は犠牲になるがしょうがない。

色彩学の概略・補色残像ができるのはなぜか……それは明順応・暗順応と同じ原理である。感光物質が暗い所にいるときに大量につくられたため、明るいところに出ると目がくらむ。しかしだんだんこの物質が壊れ、まぶしさを感じなくなる。逆に暗い所に入ると何も見えないのは、感光物質が不足するから。同様のことが錐体にも起こるのだ。例えば赤をずっと見ていたとすると、赤錐体細胞は徐々に慣れてきてサボり始める。突然に白い部分に目を移すと、さぼっていた赤に感じる物質は急に動くことができず、白の中から赤の要素が抜けて、その補色のシアンが見える(実際には緑の物質の働きが強調され、緑がかってみえる)。医者の服が青緑色なのはこのため。

色彩学の概略・カメラはどのように色を感じるか……人間が写真を最終的に見るため、人間と同じ仕組みのほうが都合がよい。まずレンズからの光は、フィルム(網膜にあたる)のうえで像を結ぶ。カラーフィルムには、赤に反応してシアンに発色する層、緑に反応してマゼンタに発色する層、青に反応してイエローに発色する層が重なっている。これにより、補色で形成された「ネガ像」が生まれる。これをもう一度印画紙に焼き直すと、補色の補色、つまり元の色が再現されたポジ像になるというわけ。ビデオの場合は光の強さが信号として記録されるが、ここに色を判定する能力はない。レンズから入った光を3原色に分解し、それぞれの光の強さをはかる。例えば赤のフィルターを通すと、元々赤い光は通過するが、その補色の光は全く通り抜けられない。光の強さをはかる部分には、半導体素子の一つである「電荷結合素子」、略してCCDが用いられる。デジカメなどには1つしかないが、大型カメラには3つあるものも。これは光を電気に変える素子で、まあ人間の目に近い。

色彩学の概略・画素数とは何か……CCDが持つ受光部の数を画素数と呼び、これが大きい方が高性能である。例えば200万画素のCCDを考える。タテヨコが2：3とすると、受光部の並びは、縦に1100、横に1700である。これを印刷すると、その通りの点の数で構成されることになる。これをA4に引き延ばすと、1センチ当たり140個ぐらいの点(ちょっと粗い)である。2Lとかハガキのサイズなら十分である。人間の網膜にある錐体の数はだいたい700万個。うげえ。

色彩学の概略・黒体について……蛍光灯とかは鋭い発光(ピーク)になるが、それにたいし白熱電球とかロウソクの炎は、全く発光のしくみが違う。これらは自身のもつ熱で発光するのだ。波長スペクトルはかなり連続的になることが特徴。ただ、熱が光になるといっても、数千度という物体の話である。その理想形が「黒体」であり、外部の影響を全く受けず、外からの光を全く反射しない物体で、自身の熱によってのみ光を発する。例えば鉄を熱するとだんだん赤くなり、次に黄色、そして白くなるのを見たことがあるだろう。強く熱することを「赤熱」というが、実は赤みの抜けた青白い光が、最も高温なのだ。

色彩学の概略・色温度とは何か……上の関係を利用し、光源の色を温度で表現できる。「色温度」がそれ。ある光源の色温度が6000Kといえば、それだけで波長分布のグラフを示さずとも共通の認識ができる。注意すべきは、色温度が5000Kでも、それはあくまで5000Kの黒体と同じ色の光が出るということであり、光源が5000Kというわけではない。例えば普通の白熱電球は3200Kの色温度だが、本当にその温度というわけではない。恒星は多種多様な色温度の見本であり、星の発光は黒体輻射にかなり近いため、色が星の温度を反映する。横軸に星の色(または温度)、縦軸に本当の明るさ(同じ距離に置いたときの明るさに換算)をおいた「ヘルツシュプルング・ラッセル図」である。

インピーダンスの概略・インピーダンスは何がすごいのか……インピーダンスは電気的な性質を知るのに役立つ。交流回路における抵抗、コイル、コンデンサは全てそっくりなふるまいを示す。抵抗に交流をかけると、電圧に比例し、電圧変化と同じ波形の電流が流れる。これは当然。コンデンサは、電圧が上がっていくうちは電流が流れ込むが、電圧の上昇が頭打ちになると電流が小さくなり、電圧の増加が止まると電流もゼロになる。電流が減少し始めると、今度は蓄電したものを吐き出すため、逆方向に電流が流れ、結局電圧と同じような波になる(要するに積分である)。コイルも同じ。交流回路では、抵抗と容量をひとくくりにし、電圧と電流の関係をまとめて扱うのだ。これこそが「インピーダンス」の考え方である。ただそのためには虚数を使い、電圧と電流がずれない「抵抗的な成分」と、電圧と電流が1/4波長ずれる「コンデンサ的な成分」の2つの要素で表す。これはRC直列回路でなく、RC並列回路で真価を発揮する。

インピーダンスの概略・なぜコンデンサに周波数が関係するのか……まず、回路中でコンデンサに電圧をかけるとする。徐々に増加する電圧をかけてやれば、充電が進んで一定の電流が流れるようになる。ここで、電圧が増加する割合を減らしてみよう。単位時間内により少しの電圧しか上がらないわけで、電流も小さくなるはずだ。電圧の変化を極端に小さくしたのが直流であり、この場合は電流はゼロである。つまり「電圧の変化と電流」が比例関係になることがわかる。交流の周波数が高いということは、電圧の変化が速いということ。だから周波数が高いほど、容量に流れる電流は大きくなるのだ。別の言い方をすれば、コンデンサとは「低い周波数の波を通しにくい」ということで、これがRC回路のローパスフィルタに使われている。

インピーダンスの概略・材料工学におけるインピーダンス……プラスチックでもセラミックでも金属でも、たいていの材料は「導体」と「絶縁体」の性質を併せ持つ。ただそのどちらが強くでるかというだけの話なのだ。では回路に置き換えるとどうなるか。実は、抵抗とコンデンサの並列状態だといえるのだ。電気を流さない絶縁体は誘電体と言えるので、コンデンサとして表すことができる。材料に電極を付けてインピーダンスを測れば、その材料の抵抗と容量を知れる。ただ注意すべきは、コンデンサと違いこれらの材料は、周波数を変えると抵抗とか容量の値が変化してしまう。これは材料の中で、電荷が分かれる「分極」によるものだ。例えばある程度自由に動けるイオンがある場合、低い周波数ではこのイオンが右に左に動いて、容量の値を大きくするが、周波数が高くなると動きがついていかず、その分容量が小さくなるのだ。

液晶の概略・液晶とは何か……液体と液晶の違いを考える。まず「結晶」の中の分子は「決まった向き」「決まった位置」に整列し、固定されている。しかし液体はおのおの勝手な向きをもち、勝手な位置にいる。では、この両方ではなく、片方だけが決まっている状態はないのだろうか。まず「分子の位置だけ決まってて、向きは決まってない」。うーんこれはちょっと無理がある。では逆ならどうか、と考えたら、実はそれが液晶なのだ。流動性があり見た目が液体だが、分子の向きについては制約がある。非常に面白い性質を持つのだが、それは後述。

液晶の概略・結晶の面白い性質……液晶の中には、結晶を加熱して溶解する途中で出てくるものが多く、熱の刺激で発生するという意味で「サーモトロピック結晶」と呼ばれる。とはいっても液晶になるためには、分子が向きをそろえやすい性質をもつ必要がある。そのためには対称性があまりよくない形がよい。正方形とか球形だと向きがはっきりしないので困る。向きにより分子の間の作用が変わる必要があるのだ。そしてもう一つ、分子が自由に形を変えては困るので、変形しにくい「剛直さ」も必要だろう。その代表格とし、亀の甲が複数重なったものを基本骨格に、端っこにルーズさを出すための「ヒゲ」がついた分子が使われている。さて、もう一個の液晶が、何かの液体に溶かすと、完全な溶液になる手前の、一定の濃度範囲で液晶になる「リオトロピック液晶」である。界面活性剤を水に溶かしたときに見られるが、これは親水性部分を内側にしてできた「チクワ型」とでもいう構造体が層状になるためである。濃度が低すぎると普通のミセルになるため、うまく調整する必要がある。

液晶の概略・液晶ポリマーとは……リオトロピック液晶の中の一風変わった種類の液晶。剛直な構造を骨格に持っており、適当な液体に溶かすと向きがそろって液体の性質を見せるのだ。これを細い穴から引っ張り出して繊維にすると、強度が高い繊維になる。実は「ケブラー」という繊維もその一つで、液晶状態の硫酸溶液から繊維がつくられている。

液晶の概略・ネマティック液晶……今まで説明を行ってきた類の「分子の向きが揃った」液晶。位置がバラバラだけど向きだけは一直線にそろっている。ネマティックとは線虫のことで、土の中に沢山いる1mmぐらいの虫を想像しよう。ネマティック液晶の中でちょっと特殊なのが「コレステリック液晶」である。分子が全部同じ向きをむくのではなく、隣り合う分子間で向きを少しずつ変えるのだ。コレステロールの仲間で最初に見つかったためこう呼ばれる。この原因は不斉炭素原子にあり、鏡像異性体の片方だけからなる物質は、分子が集まる時に特徴的な配置をする。不斉炭素原子のうち例えば1つの腕が異常に大きいとすると、これらを集めてコンパクトにするのはなかなか難しい。全ての分子を同じ向きにすればいいという問題ではないからだ。これを避けるために分子たちは向きを少しずつ変え、理想的には螺旋形になる。コンパクトな繰り返し単位が作れない場合の詰め込み法として非常に有利なのだ。コレステリック液晶は、螺旋が1回転するごとに元に戻るという面白い構造なので、特定の波長の光(円偏光)を反射する特徴をもつ。つまり螺旋の周期に応じて色がついてみえる。この着色現象こそ、液晶発見のきっかけだった。ある種のコレステロールで、特定の温度範囲で鮮やかな色がついていることがわかったのだ。

液晶の概略・スメクティック液晶……スメクティックは「スメクタイト」という粘土鉱物から由来している。ネマティック液晶の一つである。層状になっているのが特徴で、分子の移動は同じ階層間でしか許されない。動ける範囲が2次元に限られている。そのため流動が起きにくく、ちょっと見た感じでは固体に見えるぐらいである。これらの液晶では、層の「方向」という新しい基準ができるため、分子が層方向に垂直なものと傾いているものが区別される。前者は円盤という意味のディスクから「ディスコティック液晶」と呼ばれる。面白いのは単にCDがばらまかれている構造だけでなく、CDが縦に重なって平面状になっているもの。平板間の引力が強いため柱になる。そして柱と並行の方向には電気を非常によく通し、横方向にはほとんど流れない特徴がある。

音の概略・なぜ音の単位がデシベルなのか……dB、つまり「ベルの10分の1」である。ベルは、人間が聞くことができる最小の音を基準にし、その何倍のエネルギーを持つかを対数で表したもの。だからdBが10増えたら(Bが1増えたら)エネルギーは10倍になる。振幅で言えば3.16倍になる。これは人間の耳の感じ方によるもの。音のエネルギーが10倍から100倍になったときと、1から10倍になったときで同じだけ大きくなったと感じる(対数的)のだ。人間がやっと聞くことができる音が0dBとすると、ささやき声は30、普通の会話は60、にぎやかな街中が80、電車が通過するときのガード下が100である。

音の概略・1/fゆらぎとは何か……基本周波数に対し周波数2倍の振動が1/2、4倍が1/4というように、強度が周波数に比例して下がっていく振動のこと。つまり波をフーリエ変換したとき、周波数特性でいったときのピーク(基本周波数)の2倍の部分の成分が、基本周波数の成分の1/2の大きさ…などのようになっているものである。小川のせせらぎ、木の葉のざわめき、虫の声、そよ風の強弱、炎の揺らめきなどもこうなっている。

音の概略・ホワイトノイズとピンクノイズ……ホワイトノイズは「全ての周波数成分が均等に含まれた振動」である。これはもはや音色ではなく、ただの雑音。光が全ての波長を含むと白になることからこう呼ばれる。ついでに1/fゆらぎの音も自然界にはたくさんあるため、バックグラウンドのノイズとして現れることが多い。この場合、周波数パターンを光に当てはめるとピンクになるためピンクノイズと呼ばれる。周波数が低い赤色が強く、青に向かうほど弱いためピンクになる。

音の概略・音はどんな気体の中を速く伝わるか……例えばバネの先に重りを付けたものを考え、この振動の速さの要因を考えてみよう。それを決めるのはバネの硬さと、オモリの重さである。バネが固い、つまり変形に力が必要なほど、振動が速くなる。そしてオモリが重いほど、動きが鈍くなり振動が遅くなる。同じことは音の波にも言え、媒質が硬いほど、媒質が軽いほど、音は速く伝わるのだ。重さに関しては言うまでもなく、重い気体より軽い気体のほうが速い。では「硬さ」とはなにか。これは「圧縮のしにくさ」といえる。気体を圧縮すると、それだけ多数の分子が閉じ込められて分子の衝突回数が増える。これはマクロ的には「圧縮に抵抗する力」になる。ここで注意するのは「気体の体積を半分にすると圧力2倍になるから、気体の種類に関わらず硬さは同じになる」という思い込みである。それはあくまで温度一定でしか成り立たない。音の振動はめちゃ早なので、圧縮に伴う熱の出入りが間に合わず、断熱圧縮が起こる。さて、気体中での音速を分子量とともに計算してみると、例えば水素では1300m/sを超える。空気はこれの4分の1で、二酸化炭素中では300m/sになってしまう。

音の概略・地震のときに縦波が横波より早く伝わるのはなぜか……液体とか固体の中でも上のことはいえる。弾性率(1%変化させるために必要な力の大きさ、例えば10^11[N/m^2]スケールなら、1%の変形のために1cm^2あたり10トンの力が必要)と密度が関わってくる。まず全ての固体において、圧縮・引っ張りに対する弾性率が、ズレに対する弾性率より数倍大きい。これは、固体の両端を持って変形させるとき、ズレるように変えるのと、押し縮ませるのとではどちらが楽か、と考えれば直感的に理解できそうだ。鉛筆を押し縮めるより、折るほうがよほど簡単である。結果、地盤は圧縮や引っ張りに対し「より硬い」ことがわかる。だから縦波のP波は横波のS波よりも速く伝わるのだ。

音の概略・音の減衰を抑える工夫……紙などを丸めて円錐形にするだけでもだいぶ違う。これを進めたのが伝声管である。単なる中空の長い管だが、音はその中に限定されて広がらないため、数十メートルなら楽々会話ができる。これのいいところは曲がりくねってても大丈夫なところで、今でも船とかでは活躍しているようだ。しかし必ず減衰は起こってしまう。空気が圧縮・膨張を繰り返す過程で生まれた熱として、音が逃げていくからだ。そのほか気体の粘性でもエネルギーを失う。液体とか固体ではかなり状況は違う。なぜならそれらは硬く、大幅に圧縮・断熱されないためだ。高速を遠くまで伝わるということで、例えばクジラの歌声が数百キロも遠くの仲間に届いたりするのである。人間も魚群探知機のために超音波を使っているし、音を使って建物のひびわれを探すのも、やはり同じものだろう。ここからが面白いのだが、それでは音を遠くまで伝えるには、空気よりも固体で間を満たすのがよいのだろうか。実は全然違ってて逆なのだ。これは、固体と気体の境目で、音の受け渡しがうまくいかないためである。気体から伝わった振動は、重たい金属原子をほとんど振動させることができない。イルカやクジラの会話が成り立つのは、間に気体がないからである。それならばと、固体に直接伝えられた音を、固体に直接耳を当てて聴いてみるのは有効である。壁に耳を当てれば隣の物音が聞こえるとか、木の幹に耳を当てて水の流れを聞くとかである。骨を通じて固体の振動が直接鼓膜の奥に伝わる、一種の骨伝導である。

音の概略・糸電話を伝わるのは縦波か横波か……縦波である。まず声が空気に高圧部と低圧部をつくる。これはコップ底のふくらみやへこみになり、それにつられて糸の張りやたるみが生まれ、これが縦波として向こうに伝わるためである。受信側ではこれと逆のことが起こっている。まあ横波も働くんだけど、縦波より遅れる上、減衰しやすいため主役にはなれない。糸電話の糸をバネにしたバネ電話にエコーがかかるというのは有名な話だが、それは糸電話の縦波の音速(500m/sほど)に比べ、バネの音速が10m/sと非常に小さいから。反射音が何度も届くためエコーになる。

音の概略・冬のほうが遠くまで音が聞こえる……屈折のためである。空気の温度分布を考える。昼間は地面が太陽で暖められているため、上空に向かうほど温度は下がる。温度が高いと空気は膨張して密度が低くなり、音が速く伝わるため、空気は上に向かって屈折する。しかし夜は地面のほうが冷えるため、空気は上に行くほど高温になる。はじめ上方に向かって放たれた音も、障害物が少ない上空を進みながら次第に降りてきて、遠くの人にまで届く。

音の概略・クジラやイルカはどのように音を伝わらせているか……実は上の現象、海でも同じことが起こる。海面付近で温度が高く、深くなるほど冷たくなるのは普通。一方、水圧の増加に伴い水の弾性率は増していく。その為、深くなるほど音速が大きくなるという状況もあるのだ。この両方の影響で、水深1000メートルぐらいの音速が最も小さく、それより浅くても深くても音速が大きくなる。ここらへんで音を出すと音が閉じ込められ、より遠くまで伝わることになる。これがいわゆる「音のチャンネル」であり、クジラとかイルカはこれを利用して、遠くの仲間たちと連絡している。

音の概略・音のレンズをつくることもできる……大きな風船の中を二酸化炭素で満たしてみよう。二酸化炭素は重いため音は遅くなる。これが凸レンズのような働きをして、音を集めることができるのだ。逆に水素やヘリウムなどを使えば、形は凸レンズなのに、凹レンズの役割をする風船をつくれる。光の場合、どんな材料を使っても真空より光速が大きくなることはないため無理だが、音なら可能なのだ。

音の概略・吸音材のしくみ……音は違う媒質に入るのが苦手で、例えば空気中の音は鉄に10万分の1しか入らないし、空気中で叫んだ声は、水に潜る人には1000分の1しか届かない。つまり30dBも小さくなる。こういう場合音はほとんどが反射しているといってよい。しかし薄い膜とか繊維とかで、反射の割合がぐっと下がる場合がある。これらの素材が音を受けて振動を起こし、音が反対に抜けていったり熱になって吸収されたりして、反射に回るエネルギーが減るのだ。グラスウールなどはまさにその代表で、これらが吸音材と呼ばれる。

音の概略・無音室のしくみ……当然吸音材を壁に貼るだけでは反射をなくすことは厳しいが、壁を楔形の木の板で埋めてやると、楔形の側面で音が反射を繰り返し、元の方向に戻ってこない。奥に向かうほど反射の回数が増え、内部に詰まった吸音材でエネルギーが吸い取られる。これを施したのが無音室であり、音に関する精密な実験を行うときに使う。面白いのは、昔の工場によく見られるノコギリ屋根に同じ効果があることだ。外の灯りを効果的に取り込んだり、空気の循環効率を高めたりといろんな働きがあるが、防音まで兼ね備えた、非常に機能的な形なのだ。無音室に近いのが、縫い針をいっぱい束ねて先端から見ると真っ黒に見えるアレである。針の先端が円錐形なので、光が針の側面で反射を繰り返し、来た方向に全く帰ってこない。電波に関して同じことをやれば「電波暗室」も作れる。

音の概略・自由端反射と固定端反射……その違いは、壁の端っこが閉じているか閉じていないかである。これを説明するため、いくつかの粘土を等間隔で結んだバネを考える。この装置を「底がある筒」と「底抜けの筒」にそれぞれ入れて、筒の入り口からピストンで押し、縦波を一つつくってみよう。前者のほうだと一番端の、底に最も近い粘土は動くことができないから、反射して戻ってくるときに位相が逆になって戻ってくる。これが固定端反射。しかし後者だと底の粘土は動くことができ、バネがビヨーンと伸びることが可能であるから、位相は変わらずに戻ってくる。これが自由端反射である。これらはちょうど、ロープの端っこを固定し、反対側を上下に振って波を送った場合(固定端反射)と、ロープの端を固定しない場合(自由端反射)にあたる。

音の概略・なぜメガホンは円筒ではなく円錐形か……自由端反射は、筒の出口で圧力が急激に開放され、外と同じ圧力に戻ることで起こっていた。逆に言えば圧力の変化を少なくすれば反射を減らせる。そのためには急にスパッと筒を切るのではなく、徐々に広がる形にすればよい。上の例でいえば筒の底の粘土の動きが、他の粘土と「完全に同じではないけど、自由端ほど違うともいえない」ぐらいの状態にすればよいのだ。音が効率よく外側に出てくることになる。伝声管の口、トランペットやクラリネットなどの楽器の先端がアサガオ型なのも同じ理由。

音の概略・音と光の回折の長さ……音と光を比べてみると、例えば440Hzの音の波長は、空気中では80センチ近くもある。これは光で言えばテレビのUHF放送、携帯に使われる極超短波の領域で、可視光線に比べ100万倍も長い。光にとって完全に陰になる場合でも音は平気で回り込む。

音の概略・ドップラー効果が活躍する場面……ドップラー効果で物体の(例えば救急車の)速度を測ることができそうだが、これは外乱の影響がありうまくいかない。その代わり電磁波の世界ではめっちゃ活躍している。例えばスピードガンとか、速度違反取締の速度計は、電波の反射によるドップラー効果を利用している。そのほか、ドップラーレーダーといって、反射波の周波数変化を測定して対象物の動きを調べることができるものもある。これは気象観測、天体観測で用いられる。星からの光を測り、波長の変化を測って星の遠ざかる速度を測っているというわけ。

界面活性剤の概略・表面張力はなぜ起こるか……まず液体の分子は非常に仲が良く、互いに集まろうとする性質がある。多くの仲間に囲まれるほど安定で、バルク(表面の対義語)は非常に安定である。しかし界面(液体表面)は空気とか仲の悪い液体がいるため、片側からのみ強く引っ張られて不安定な状態になっている。これをできるだけ解消するため、液体は表面を減らそうとする。液滴が丸くなるのは表面積が最も小さいためであり、表面に一円玉が浮かぶのも、水面にできたくぼみを減らそうとする力が働き、上に載ったものを押し上げるから。つまりこれら全部、バルクより界面のエネルギーが高いことで起こる現象なのだ。

界面活性剤の概略・界面に吸着するとは……バルクよりも界面に物質が多く集まる必要がある。これを「界面に吸着する」という。例えば水と油を考えよう。水と油は混ざり合わないため界面は一つの面になる。少しでも混ざり合う場合は、界面領域で、徐々に組成が変わる。次に、水に別の物質…例えばアルコールが溶ける場合を考える。アルコールは油には溶けないので水の中にのみ入る。水のバルクではアルコール濃度は一定だが、界面領域では徐々に(水が減るのに伴い)量が減ってきて、油が100％のところでは濃度はゼロになる。だが、このときのアルコールの減り方は、水に対する濃度という見方をすると、界面領域ではむしろ「増えて」いる(例えばバルクでは水100にアルコール10だが、界面領域では水10にアルコール5、というように)。これが「界面に吸着された状態」である。ただ、いつでもこうなるわけではなく、バルクと同じだったり、バルクより低くなることもある。この場合界面に吸着するのはアルコールではなく、溶媒である水ということになる。これをアルコール側から見ればマイナスの吸着、「負吸着」していることになる。

界面活性剤の概略・界面活性と界面不活性……界面不活性になるのが、水に食塩などの無機塩を溶かした場合。濃度が高くなるほど表面張力が増加する形になる。イオンは周囲を水に取り囲まれることで安定度が大きく増える。表面が純粋な水に近い状態であるのに対し、バルクはイオンが溶けて安定化しているから、表面とバルクのエネルギー差はかえって大きくなり表面張力が増える。アルコールはその逆で、水の表面に多く集まる性質があるため、濃度が高くなるほど表面張力が減る「界面活性」を示す。これをさらに極端にすると、「濃度が非常に低いところでも界面活性するが、濃度が高くなるにつれその変化が小さくなる」(グラフでいうと下に凸の左半分)界面活性剤のパターンになる。界面活性剤を水に溶かすと、親水基(小さい部分)は水になじむが疎水基(長い部分)は水になじまないため、疎水基が空気中に突きだす形で出てくる。表面への吸着がめちゃくちゃ強いため、低濃度でも大きな界面活性を示す。ところが濃度が高くなると事情が違ってくる。水中で界面活性剤同士が疎水基を内側に、親水基を外側に向けて集まり、全面が親水性の塊、ミセルになってしまう。こうなるともう界面活性がないため、いくら濃度を高くしても意味がない。

界面活性剤の概略・界面活性剤の用途……界面のエネルギーを下げるという定義からくる作用である。濡れ、染み込みをよくし、洗浄などの効果を高める。もう一つ、性質が異なるものどうしをよくなじませる効果もある。水と油のような液体を混ぜて乳化させたり、固体の粉末を液体に分散させたり。皿に油がついていると水をかけても全然落ちない。ここで界面活性剤をかけてやると、食器の表面が水で濡れることになる。また布の繊維間の隙間を管に見立ててみると、管と水の相性がよくないときは、液面が引っ込んで全然水が浸透しない。洗濯するときでもこうだと困るのだ。だから洗剤には界面活性剤が入っている。逆に2つのなじみを減らすことも可能で、固体どうしの摩擦を減らして潤滑効果を出せる。例えば金属製のギアと車軸の間に界面活性剤を塗ることで疎水化し、焼きつきを防いでくれる(サビの防止にもなる)。疎水基どうしの相互作用がすくないため焼き付きが起こらないのだ。これをもっと小さくするため、水素をフッ素で置き換えたタイプのものもある。

界面活性剤の概略・浮遊選鉱……洗剤の泡を利用して鉱石を分ける面白い方法。鉱石には様々な不要物が混じっている。有用な鉱石とそうでないものは表面の状態が違うため、一度粉々に砕いた後、適当な界面活性剤で処理して水に分散させ、ここに泡を吹き込む。そうすると有用な鉱石の表面だけを疎水性にすることができ、そうなった鉱石の粉が泡にくっついて浮かんでくるのだ。

界面活性剤の概略・界面活性剤を利用した殺菌……ある種の陽イオン型界面活性剤を微生物に付着させ(微生物の表面はマイナスに帯電していることが多いため、吸着しやすい)殺菌している。

界面活性剤の概略・樟脳ボート……シャボン玉以外の、界面活性を利用した遊び。樟脳は界面活性剤ではないが、水にわずかに溶けて表面張力を下げる働きがある。発泡スチロールで中空のボートをつくり水に浮かべ、ここに樟脳を入れる。ボートの後方に、針で小さな穴をあける。すると樟脳が漏れ出して、水に溶けていく。ボートの後ろ側では界面活性が働いて表面張力がなくなるため、より高い表面張力を持った前方の水に引っ張られる。つまりボートが勝手に動き出すのだ。これはアルコールでも代用することができる。

量子力学基礎の概略・波動関数って結局何なのか……量子論に登場する波動関数だが、実は普通の波に関しても使うことができる。このような波には「周期的に変化する」「微分値も元の波と同じような変化をする」「位置による変化と、時間による変化が同じ形になる」などの特徴があり、これらを数式にしたのが「波動方程式」。これを解くと、波の状態を表す波動関数が登場する。実は高校物理に登場する正弦波が、波動関数そのものなのだ。ところが量子力学の場合、波動関数がどんな形なのかサッパリ見当がつかない。とりあえず波動方程式をたて、それを解いて波動関数を導くしかない。でも普通の波動方程式は、電子の「粒子」の性質を含まないのでボツ。両方盛り込んだ「シュレーディンガー方程式」が用いられる。で、これを解いた波動関数だが、実は2乗した値が、その場所で電子が見つかる確率を表す、ということが、ようやく後世になって判明した。つまり、電子は空間にぼわっと広がっているというより、「どこにでもいる可能性があり、捕まえてはじめて居場所がわかる」という性質のものだった。波動関数(の2乗)は、空間のどこかに電子を捕まえに行った時、そこでうまく電子が捕まる確率を示したものだった。その意味で結論を言えば、波動関数とは空間で電子が飛び回る場所、つまり電子の「軌道」を表すものだと言える。

量子力学基礎の概略・シュレーディンガー方程式は厳密には解けない……実は「原子核が1個、電子が1個」の場合しか数式的に解けないのだ。そしてその答えは沢山でてくる。波動関数(軌道)には特徴的な3つの整数が含まれ、これらが全て整数になったときが、波が空間にうまく収まって安定な状態になる。つまり、何週回っても同じ位置に山や谷がくる場合である。これらの整数は「主量子数」「方位量子数」「磁気量子数」と呼ばれる。主量子数は正の整数ならどんな値でもとれるが、他の2つは制限がついて、これを守らないと式中のルートの中がマイナスになってしまう。主量子数は軌道のエネルギーを表す。大きいほど電子は外に広がるため、これを原子核を囲む殻に見立て、K、L、M…と呼ぶ。これに対して方位量子数や磁気量子数は、空間での軌道の広がりとかその方向を表す。例えば、方位量子数が0,1,2,3…の軌道のことをs,p,d,f(sharp,principal,diffuse,fundamentalの略)と呼ぶ。波動関数は空間に広がっているが、はっきりした丸とか四角になって見えるわけではない。等高線ならぬ等高面として表す。s軌道は球状になっており、2sとか3sの場合、波動関数がゼロ、つまり電子の存在しない部分がある。これを「節」「節面」などと呼ぶ。p軌道は複雑で、数学的には虚数を含んだ形になるため、そのまま図に表せない。pxとpyという二つの軌道に組み替えることで位相が違う部分(虚数部)を消す。p軌道はよく「ダンベル型」というように、真ん中に電子がない節面があり、その両側で符号が逆になる。また主量子数が大きくなると、さらに新たな節面が途中にできて、マトリョーシカのような入れ子になる。d軌道は磁気量子数が5つあるので全部で5種類。まあ画像で調べてみよう。

量子力学基礎の概略・動径密度分布……電子が原子の中心からどのぐらいの距離にいる可能性が高いのかを示したグラフ。1s軌道では中心から0.05nm付近が最も高くなっている。他の軌道でも、波動関数の形に応じて何か所かの極大点が見られる。電子の分布確率はけっこう偏っていて、特定の距離の近辺にいる確率は割かし高い。古典的なモデルも案外間違いではなさそうだ。

量子力学基礎の概略・電子が2個以上の場合の波動方程式の計算……シュレーディンガー方程式を厳密に解けるのは水素原子モデルの場合のみである。それ以上の場合は厳密な計算を諦め、何らかの近似を行うしかない。よく使われるのは、とりあえず適当な波動関数の形を仮決めしておいて(この中には、値が決まっていないパラメータがいくつか入っている)エネルギーが最も小さくなるようにパラメータを選ぶ。当然、はじめにどんな波動関数を設定するかが重要である。最も単純なのは、全ての電子について水素原子の波動関数が成り立つと考え、水素の波動関数を掛け合わせて表現する方法だ。当然まるっきり元のままとはいかないから、他の電子のマイナス電荷の影響で、原子核のプラスが一部隠されて小さくなるという条件をつけてやる。もうかなり乱暴な近似であることは確かなので、水素の波動関数にこだわらず、とにかく電子1個の波動関数の掛け合わせで全体の波動関数が表されるという設定だけでスタートすることに。とりあえず適当な波動関数を仮定して計算、そこから出た波動関数を使い計算、を何度も繰り返す。さらにこれに「電子のスピン」を考えてやって、実験事実と合う結果が得られるのだ。当然、水素原子の場合と同じように1sとか2pとかの軌道が出てくるが、原子番号が大きい原子は原子核の電荷が大きいため、エネルギーは段違い。

量子力学基礎の概略・VB法とMO法……化学結合に関する近似の方法。「原子価結合法」(VB法)と「分子軌道法」(MO法)がある。どちらもシュレディンガー方程式を使って計算するが、基本となる考え方は違う。VB法は各原子が結合するための「手」を伸ばして隣同士がつながるイメージだが、MO法は初めから、分子全体の軌道を考える。積み木を建てるとき、パーツの決まった場所に接着剤を塗って固めるのがVBで、積み上げた後で隙間に接着剤を流し込むのがMO法。

量子力学基礎の概略・VB法の詳しい説明……例えば2個の原子が電子を持ち、その電子が入れ替わったり元に戻ったりして共有されて結合ができると考える。だから結合は隣の原子との間にだけできる。中学・高校のイメージと同じだ。計算においては、各原子が結合に関わる電子を1個持った軌道を考え、この2つを徐々に重ねていく。すると電子はもともとの場所を離れ、互いに入れ替わったりするだろう。これを化学結合と考える。さてここで「結合状態の波動関数」を作りたいのだが、結合状態では「電子が元の場所にいる状態」「入れ替わった状態」が混在するので、これらを足して全体をつくる。電子の交換に関する2つの状態の組み合わせで近似するということ。当然、2つの状態がどういう比率で組み合わさるかはわからないため、エネルギーが最小になる比率をコンピュータで求めて決める。こうして出てきたエネルギーとか原子間距離はかなり実際と食い違っているため、近年は近似を高める工夫が進んでいる。

量子力学基礎の概略・VB法と有機物……有機物に見られる炭素の結合である。炭素原子は2sに2個、2つの2pに1個ずつの電子が入っている。VB法だと、はじめから2個の電子で埋まっている軌道とか、空っぽの軌道は結合に関わらないため、最初からないことになってしまう。ここで編み出されたのが「混成軌道」という考え方。sとかpをいくつか集め、新たな軌道に組み替えるのだ。結果的にエネルギーの低い安定なものができるとすれば、何でもありなのだ。sp^3混成軌道をつくるには、sと3つのp全てを使う。その結果、正四面体に配置された4つの軌道ができる。手の数、メタンの形の矛盾をうまく説明できる。しかしこれでも、ベンゼンなど芳香族の化合物の性質を表現できない。sp^2混成軌道のうち2個で炭素どうしが環状につながれば(残りの1つは水素と結合)、六角形構造は説明できる。問題は各炭素に1個ずつp軌道が残っていることだ。普通に考えれば隣の炭素くんのp軌道と繋がって二重結合になる、というところだが、ベンゼンの性質を調べると、6個のC-C結合は全て同等だとわかった。大きな矛盾が発生した。そこで生まれたのが「共鳴説」。ベンゼンのp軌道の結合は一か所に固定されず、絶えず入れ替わっていると考える。かなり苦し紛れだが、直感的に理解しやすいため有機分子の分野ではよく用いられる。

量子力学基礎の概略・MO法の詳しい説明……分子全体に大きく広がった軌道を考えるもの。これが「分子軌道」で、ここに電子が入り、分子全体に広がって飛び回ることで結合ができると考える。当然近似は必要である。例えばある原子の近くに電子がいれば、分子軌道はその原子の原子軌道に似るはずだ。となると、分子軌道は原子軌道の寄せ集めだといえる。p軌道とかd軌道で波動関数の組み換えをやったように、原子軌道の組み換えで分子軌道を求められる。スタートは個々の水素原子の原子軌道で、これらを足し合わせて、新たに分子軌道をつくる。例のようにシュレーディンガー方程式に放り込み、エネルギーが最も小さくなるように波動関数を求める。原子軌道を足し算すると、山と山、谷と谷がうまく重なり、全体で一つの塊になる。これに対し引き算のほうは電子の入れない状態ができ、2つのゴムボールが押し合ったようになる。最後に、こうして得られた分子軌道に電子を入れていって分子ができる。その時、エネルギーが低いところに電子が入れば安定になるし、そうでないと不安定になるから、電子はエネルギーの低い軌道に優先的に入る。ただし「同じ軌道にはスピンが逆の2個の電子しか入れない」という規則は、分子軌道にもそのまま当てはまる。

量子力学基礎の概略・結局VB法とMO法は何が違うのか……答えから言えば、VB法は必ず2個の原子核に電子が1個ずつ分配されるのに対し、MO法では電子2つが一方の原子に集まった状態も考える。VB法では共有結合のみを、MO法では共有結合とイオン結合半々を考えているということ。実際の化学結合でいえば、普通に共有結合として扱われる結合の大半は、この中間である。例えば同じ原子が繋がった分子にイオン性はほとんどないが、原子の種類が違うようなとき、いくらかのイオン性が出てくると考えられる。VB法もMO法も両極端の近似法であるといえる。最近では様々な条件を取り込めるため、どちらにせよ現実的な解が出せるようになっている。

量子力学基礎の概略・ヘリウムが2原子分子にならない理由……水素分子の場合、結合性軌道という安定な軌道に電子が2つぴったり収まって安定している。同じように1s軌道の足し合わせで分子軌道をつくれるヘリウムの場合だが、実は2原子分子にはならない。というのも、結合性軌道が既に満員なので、残りの2個は反結合性軌道に入るしかなく、エネルギー的に差し引きゼロ。分子を作っても何の得にもならないのだ。

カメラの概略・ピンホールカメラ……カメラの礎をなしたカメラ。箱に小さく穴を開けるとよく見える。視力が悪い人が目を細めながら遠くを見るのと同じ。目に入ってくる光の量は少なくなるが、網膜に映る像のボケ具合は小さくなり、よく見えるようになるのだ。ただしピントが厳密に合うわけではない。いわばピンホールカメラで見える像は「ボケ具合の小さい点の集合体」であるから、レンズと違いボケているのは確実。その代わりとしてレンズと異なり、ピント合わせは必要ない。どうやればピンホールカメラで鮮明な画像を撮れるだろうか…当然、穴を小さくすればよい。ただ光には回折という厄介な現象があるため、そう簡単にいかない。ボケ径がピンホール径よりも大きくなってしまう。とはいうがどのみち同じように回折が起こるのなら、結局ピンホール径は小さいほうがボケが小さいように思える。実はそうでもないのが難しい点で、光の干渉による強弱の縞模様は、ピンホール径を小さくすると徐々に弱くなってしまう。つまり、ある程度大きい方が、真ん中に像が集められ(真ん中は光の山と山で強め合う)、しっかり見えるのだ。ピンホール径が無限小の場合、球面波は1つしか通れないため、180度全ての方向で光の強さが同じになり、光は無限に大きく広がってしまう。

カメラの概略・レンズでも回折・干渉が起こることがある……レンズはピンホールカメラと違い光が一点に集まるからボケが出ないと書いたが、それは回折や干渉を受けない場合の話。厳密にいえばレンズでの回折や干渉を考えなくてはならない。平行光線がレンズにより一点に集められるのだが、ガラスでは光の速度が落ちる。凸レンズは中心部が分厚く周辺はうすいため、周辺に入った光のほうが速くレンズを抜けて先を進むことになる。結果、初めはまっすぐだった波面が、レンズを抜けると曲がり、焦点に集まる。これ結局、光の波の個々の場所で球面波が発生していると考えることができる。レンズを通り抜けると、球面波が焦点に向かい進行方向を変える。焦点はレンズからやってきたいろんな球面波が重なることになる。焦点の周りには光の強い部分、弱い部分が生じるのだ。これを見てみると中央に明るい円、その周囲に同心円状にいくつかの光の環が見えることになる。ピンホールと似ているというか、実は全く同じ。ピンホールの場合は穴を抜けた光がそのまま進むが、レンズでは一点に集まるというだけ。

カメラの概略・ピンホールとレンズのにじみの大きさ……まず径が大きくなると光の滲みは少なくなるから、現実のレンズ・カメラの光の滲みは、ピンホールに比べずっと小さい。例えば直径3センチ、焦点距離10センチのレンズだと、滲みの半径はわずか3マイクロメートルもないのだ。ただ、ピンホールカメラがもともと「ボケてるのがデフォ」なのに対し、レンズのこの滲みは修正がきかない。にじみがそのままボケの大きさになる。小さくてもアラが目立つのだ。もちろんレンズの直径が大きいほど、焦点距離が短いほどボケが小さくなるのはピンホールの場合と変わらない。つまり直径と焦点距離が、カメラの解像度に影響する。

カメラの概略・望遠レンズと広角レンズ……焦点距離が長いのが望遠レンズで、短いのが広角レンズである。当然、望遠レンズのほうが像は大きくなる。つまりそれだけ景色が拡大されて写るということ。これは「望遠」だ。一方で像が小さいと、それだけ広い範囲が写せるから「広角」。通常は肉眼で見たときに近い写真が撮れる焦点距離(35ミリフィルムカメラなら50ミリ)のレンズを「標準レンズ」とよび、それより長いか短いかで分ける。デジタルカメラの場合は撮像素子がフィルムより小さく、同じ焦点距離のレンズでは写せる範囲が狭いため、標準に値する距離はもっと短い。ただ、違いはそれだけではない。焦点距離の大きい望遠レンズを使うと、狙ったものよりも遠くにあるものや近くにあるものが、著しくボケてしまう。もちろん広角レンズでも、厳密に言えばピントがあうのは特定の距離のものだけなのだが、人間の目で識別できないぐらいボケが小さければ問題はない。この「事実上ピントが合っているといえる距離」を被写界深度という。広角レンズは被写界深度が深いのだ。

カメラの概略・被写界深度を用いた撮影のテクニック……人物だけを強調して写したい場合、野原の中の特定の一つの花だけを強調させたい場合などは、絞りを開き気味にして、少し離れたところから望遠レンズで狙うと、前景・背景がうまくボケてくれる。逆に旅行の記念写真で、手前と遠くの両方を鮮明にしたい場合は、広角レンズを用いて少し絞ったほうがよい。ただ、コンパクトタイプのデジカメは、元々焦点距離が非常に短いレンズがついており、レンズの径も小さいためあまり被写界深度を浅くできない。

カメラの概略・遠近感も望遠レンズと広角レンズで違う……例えばダンボール箱を2つのレンズで写したとする。焦点距離の長い望遠レンズは角度が狭く広角レンズは広いため、広角レンズのほうが箱の奥行きがよく見える。つまり、広角レンズを使ってやると非常に奥行きのある写真に仕上がるのだ。望遠レンズはノッペリした画像になる。このような特徴を使えば、広角レンズにより、本当は広くない部屋を、実際以上に広く見せたりできる。またマラソン中継などで、本当はめっちゃ離れてるはずの後続がすぐ近くまで迫っているように見えるのも、選手の前方のかなり離れた中継車から、望遠レンズで撮影しているためだ。奥行きが圧縮されて見える。

カメラの概略・レンズ・カメラのF数(f値)とは……焦点距離を口径で割った値のこと。口径が大きいほど、また焦点距離が長いほど像は「明るくなる」(口径が2倍になると集める光の量は4倍なので4倍明るくなるし、焦点距離が半分になると像の面積は4分の1になり、4倍明るくなる)ため、これらをひっくるめて扱っている。F数が小さいほど明るいレンズであることを意味し、例えばF=1.4なら、F=2の2倍明るい。また同じレンズでも絞りをきかせれば口径は小さくなるため、F数もどんどん大きくなる。カメラレンズの絞り環に目盛ってある数字、実はF数である。F数が小さいと暗いところの撮影ができるほか、シャッタースピードが速くなるため、高速で動く物体を捕らえやすくなる。

カメラの概略・写真の解像度を高くするためにはどうしたらよいか……レンズの解像度による部分が大きくなる。一般に高性能なカメラとは「収差が小さいカメラ」であるが、収差のないレンズは存在しない。そこで実際は、性質の違う多数のレンズを組み合わせ、収差をできるだけ減らすよう設計されている。この「収差の補正」がしっかりされているのが高性能なレンズだ。では「収差のない」理想的なレンズなら解像度は無限なのだろうか？実はそういかない。レンズで回折・干渉による光の滲み出しが起こるからだ。1つの点を見てみると、ボケて見える。そのため2つの点を徐々に近づけていくと、途中で「これは1つの点にしか見えないぞ？」という部分が出てくる。これがカメラの分解能である。レンズの焦点距離が長いほどボケは大きくなる、またピンホールと同様、口径が大きいほど光は中心に集まり、ボケが小さくなる。ということはF数が小さいほど分解能は高くなる。F=1.4のレンズの場合ボケの直径は1.88マイクロメートル。分解能は0.94マイクロメートル(波長550nmで)。これを、2点を見込む角度で表すと、今度はレンズの焦点距離は関係なく、口径だけで決まる(焦点距離が長いほどボケ直径は大きくなるが、その時の広がり角度は一定なので当然)。人間の分解能が60’’であるから、口径4mmのレンズ(35’’)と比べれば、目の十数倍の能力だといえる。カメラだけでなく望遠鏡や顕微鏡などに関しても同じことがいえる。これらの場合は対物レンズの像を接眼レンズで拡大するのだが、接眼レンズの倍率をどれだけ高くしても、対物レンズで解像できないと意味がない。

カメラの概略・レンズ以外に解像度を決める要素……フィルムや撮像素子の能力がレンズの能力に追いつかないと駄目だし、プリンターの解像度も気になる。F=2.8としたとき、コンパクトデジカメは8メガピクセル、一眼レフタイプデジカメの場合100メガピクセル、35mmフィルム一眼レフの場合250メガピクセル。撮像素子の大きさが違うため、カメラによって全体の画素数には大きく違いが出る。プリンターのほうはどうだろうか。インクジェットの解像度を表す”dpi”という単位が使われる。1インチに何ドット打てるかということだが、1ドットがそのまま1画素になるのではない。印刷の濃さはドットの密度で表すため、例えば数千dpiでも、実質的には1インチで300個程度の画素しか表示できない。これ以上解像度を上げても人間の目ではわからない。そこでこれを基準にプリンターの画素数を計算すると、L版に印刷したときの画素数は150万、A4だと870万で、これがプリンターの性能をフルに引きだす時に必要になる画素数である。

カメラの概略・カメラのシャッターにも二種類ある……レンズの部分に取り付ける「レンズシャッター」と、フィルムの直前に取り付ける「フォーカルプレーンシャッター」である。レンズ・シャッターは絞りにそのままフィルム機能を持たせたようなもので、コンパクトカメラによく使われる。一方フォーカルプレーン・シャッターは、フィルム面に蓋をすることになるためレンズ交換が容易で、速いシャッタースピードも出しやすいため、もっぱら一眼レフ。フォーカルプレーン・シャッターは先膜と後膜という2枚の膜でできていて、それぞれの膜には露光用の窓があいており、これが受光部の前を高速で横切る。低速シャッターの場合、まず先膜が全開し、後膜が動いてシャッターが閉じる。後膜がスタートするタイミングを遅らせれば、いくらでもシャッタースピードは小さくなる。高速シャッターの場合は先膜が全開する前には後膜がスタート。スリット状の開口部が受光部を横切る形になるわけで、後膜のスタートを速くしてスリットを狭めれば、簡単にシャッタースピードをあげられる。

カメラの概略・フォーカルプレーンシャッターのイタズラ……一見完璧に見えるフォーカルプレーン・シャッターだがひとつだけ欠点がある。受光部の全面を同時に露光するわけではない(場所により露光のタイミングがずれる)ため、動くものを撮影すると歪む場合がある。その極端な場合が、UMAとされた「スカイフィッシュ」である。虫の飛ぶ速度がシャッターの閉じる速度よりも速いため、虫が尾を引いて見えるのだ。ではレンズシャッターの場合この問題が起きないかというと、実はそうではない。デジカメは電気的なオンとオフをシャッターとして使うのだが、CMOSという撮像素子を使った場合、画素を構成する受光素子が順番に動作して信号を送るため、場所により露光のタイミングがずれてしまう。

カメラの概略・スミア……デジカメに多く用いられている撮像素子「CCD」で起こる現象。画面の中に、極端に明るい部分があると、そこから縦に光の筋が走る現象。CCDは全画素で同時に露光して電荷を蓄え、一斉にこれを通路に移してから順次送り出す。強い光がずっと当たり続けると、大量に発生した電荷が縦に繋がった通路にあふれ出してしまうのだ。これは個別に信号を送るCMOSではおこらない。syamuさんの「和歌山勝浦に行ってきた」のホテルで起こってた現象と思われる。

カメラの概略・スリットカメラ……陸上の着順を決める写真判定に使われるカメラ。背景が全く写っていないだけでなく、選手の姿も歪んでいる。普通のカメラがフィルム全体で光を受けるのに対し、スリットカメラでは、フィルムの前に縦に細長いスリットがついており、これを通してゴールライン上の映像だけを記録するようになっている。撮影時にはスリットではなくフィルムが一定速度で移動するのだ。普通のカメラだと、撮った時点から後に逆転が起きたという可能性を排除できないが、スリットカメラだと気にしなくていい。なぜなら記録されているのはゴールライン上の映像のみで、そこを通過する選手の姿が時間と共に記録されているからだ。スリットカメラでとった写真の横軸は、空間的な横方向ではなく、時間を表している。選手の姿が妙なのはそういうわけ。

ガラスの概略・ガラスは液体？……ガラスは固体でも液体でもない、「アモルファス」という状態に属する。結晶のような長距離秩序はないが、短距離秩序はある物質の状態。教会のステンドグラスなんかは、長年経ったことにより微妙に下のほうが厚くなっている。普通の固体は温度を上げるとどこかで液体になるが、ガラスは元々配置が乱れているため、固体と液体の境目がないのだ。だが、実はガラスをなす二酸化ケイ素にも、いろんな結晶の形がある。常圧で最も安定なのが水晶。三角柱に巻き付くように螺旋を描いているため、偏光を回転させる働きがある。しかし温度が573度を超えると酸素が2つのケイ素の真ん中に近付いて、ケイ素も直線的に配列し、「高温型水晶」となる。きれいな六角柱にはならない。温度が900度ぐらいになると「トリジマイト」という形になり、さらに1500度になるとクリストバライトという結晶になる。1713度を超えるとドロドロの液体の状態になり、ここからそこそこの速さ(1時間で数十度ぐらいのペース)で冷やすとそのまま石英ガラスとして固まる。

ガラスの概略・石英ガラス……純粋な石英ガラスは熱に強く、余計な成分が溶けだしたりしないため、坩堝とか、試料容器とかフラスコとかに使われる。日常で石英ガラスにお目にかかることはない。成型が難しいとか加工が大変なためである。普通はナトリウムとかカリウム、ホウ酸などを混ぜ、ガラスをやわらかくしたものが出回る。最も普通のガラスはナトリウムを十数パーセントまぜた「ソーダガラス」である。もちろん純粋なものではなく、炭酸ナトリウムとかの形で入れる。不純物として鉄が含まれることが多く、青緑に色がつく。断面が確かに青緑に見えるはずだ。鉛も、酸化鉛という形で入れられることが多く、屈折率が高くなる。表面での光の反射が多くなりツヤがよく出てくるほか、全反射を内部で起こし、キラキラ輝くようになる。最近では毒性のない亜鉛、バリウムなどがクリスタルガラスとして開発されている。そのほかホウケイ酸ガラスというのがあって、これは二酸化ケイ素にホウ酸を混ぜたもの。強度があって薬品や温度変化にも強いため、化学実験の器具に用いられる。「パイレックス」という名前でおなじみ。

ガラスの概略・ガラスはなぜ透明なのか……ものが透明であるためには「可視光線を反射しない」「吸収しない」「散乱しない」の3つが必要である。金属のような自由電子がない場合は反射は起こらないし、半導体のような性質がなければ吸収が起こらないため、あとは散乱である。散乱は、状態が不連続な部分で起こりやすい。結晶の場合、方向が違う多数の結晶が集まるところで起こり、白く濁る。しかしガラスは最初から原子の配列がでたらめなので、境目がない。また、どっちを向いても同じ顔をする。レンズやプリズムに用いられるわけだ。

ガラスの概略・なぜガラスは割れやすいか……ガラスの表面には目に見えないひび割れが隠れている。このひび割れ、押し縮める方向の力がかかっても問題はないのだが、引っ張る方向にかかると、そこからどんどん伸びて割れてしまう。結晶の場合、部分的に構造が違う部分とかでひび割れが止まるのだが、ガラスは境界が存在せず、すぐに割れてしまう。逆に言えばフィルムを張るなどして保護し、強度を何十倍にもできる。熱に弱いのも同じ理由で、外と中の温度差により引っ張りの力が生じるためだ。

ガラスの概略・アッベ数……分散率の逆数。これが大きいほど分散が小さい、つまり、波長による屈折率の差が小さいということになる。ガラスの成分により変化し、鉛が入ると小さく、バリウムやリンが入ると大きくなる。光学機器に望みの性能を持たせるには、レンズなどの屈折率やアッベ数を厳密に選ぶ必要がある。天体望遠鏡の「色消しレンズ」はその代表例である。19世紀前半にできた最初の光学ガラスは「クラウンガラス」「フリントガラス」である。クラウンガラスは、ソーダガラスの親戚だが、ナトリウムではなくカリウムとカルシウムを含む。溶かしたときの粘性が高く、閉じ込められた気泡で王冠のように膨らむことから名付けられた。屈折率はそこそこだがアッベ数が大きい。フリントガラスは鉛ガラスの一つで、ケイ素と同じぐらいの鉛を含む。特に分散が大きいことが際立っている。これだけでは特性を表せないのも事実で、例えば波長による屈折率の変化が普通のガラスと大きく異なる「異常分散」という性質をもつガラスもある。

ガラスの概略・水ガラス……正式には「ケイ酸ナトリウム」という化合物の水溶液で、水飴のようにドロッとした、無色透明の液体である。ケイ酸ナトリウムは二酸化ケイ素と水酸化ナトリウムを一緒に高温で溶かすことで生まれる。普通のガラスはケイ素と酸素がガッチリネットワークを作っているが、ここにナトリウムと酸素が入ってくると、酸素が負イオンになり、ケイ素と酸素の結合が途切れ、ネットワークが途絶える。結果的にガラスが柔らかくなり低い温度で溶けるようになる。その比率によっては「メタケイ酸ナトリウム」と呼ばれる状態になり、結晶を作ることもできるように。水ガラスの親戚が陶芸に使われる釉薬である。普通は長石などの天然の鉱物と灰を混ぜてつくるが、鉱物の主成分はケイ素の酸化物で、灰はアルカリ成分を含む。これを焼き物に塗って焼くと、アルカリ成分が鉱物に入りこみ、ケイ酸ナトリウムなどの溶けやすい成分がつくられ、実際にとけて焼き物の表面を覆うのだ。

ガラスの概略・ケミカルガーデン……高校の科学部とかが展示物としてよく出してるアレ。試験管に入った透明な液体の中で、青とか黄色の木の枝がニョキニョキのびてるやつ。あれ、適当に薄めた水ガラスに金属塩の粒(硫酸銅とか塩化コバルトなど)を沈めて放っておくだけでできる。金属塩は弱酸性なので、表面付近は酸性になる。すると中和されてゲル化し、金属塩の表面に皮膜ができる。このとき、皮膜を挟み外側は水ガラスだが、内面は薄い金属塩の溶液になり、浸透圧が違う。よって外側から内側に水がどんどん入ってきて、内側の金属塩溶液が出ていく。これの繰り返しで枝が伸びるのだ。

キノコの概略・キノコの分類の変遷……動けないものを植物、動けるものを動物と2つに分ければ、キノコやカビは植物に入れるしかなかった。しかし、生物界での彼らの役割は「分解者」であり、植物は「生産者」なので実は全く違う。わかっているだけで数万、確認されてないものを含めその数倍はあるとされる菌類。現在は「動物界」「植物界」とならび、「菌界」という呼び方をするのが一般的。

キノコの概略・キノコとカビの違い……菌類の体は「菌糸」でできている。胞子をばらまく器官として大きな菌体(子実体とも)をもつものをキノコ、持たないものをカビと呼んでいる。しかし実は2つに区別はなく、よくわからないような小さい子実体をつくるものもいるし、大きな子実体をつくるキノコでも、菌の大部分はカビと呼ばれるような、菌糸の集まりなのだから。

キノコの概略・菌類の分類……「藻菌類(そうきんるい)」、「子嚢菌類(しのうきんるい)」、「担子菌類(たんしきんるい)」の3つである。担子菌類は、担子器、担子柄と呼ばれるこん棒のような器官の先に胞子をつけるもの、子嚢菌類はそのかわり「子嚢」という細長い袋の中に胞子をつくる種類。顕微鏡を使わないと見分けがつかない。とはいってもシイタケとかマツタケのようなのは、みんな担子菌である。担子器とか子嚢はほとんどが4つ、または8つの胞子をつくるが、例外はつきものである。キクラゲは担子菌だが、いくつかの部屋に分かれた違う形の担子器をつくったりするし、担子胞子の数が2個のものもあるし、子嚢菌である酵母も、体全体が袋である。担子菌や子嚢菌は有性生殖を行う。ややこしいのは「藻菌類」に入っていた種類。以前はミズカビとかケカビが代表だとされていたが、今ではミズカビなどは「原生生物」のくくりになっており、残ったものも、複数にグループ分けされている。ややこしいので省略する。

キノコの概略・キノコの養分の取り方……キノコはよく地面からにょきっと生えているが、地面の奥深くで木の根っこと繋がっている場合とそうでない場合に分かれる。生きた木の根とつながるものの代表がマツタケとかシメジで、これらのキノコは、木の根を菌糸が包み、「菌根」という共同体をなし、そこから菌糸が地面に向かって伸びて、あのキノコをつくっている。養分は木の根から取るが、木のほうにも病害の防止などメリットがあるようだ。これに対して木と関係なく生えるものは、土の中の有機物から養分をとっている。例えばマッシュルームと呼ばれているツクリタケが代表例。さらにいえば、樹の幹から生えるシイタケやヒラタケがもう一つの仲間だ。サルノコシカケもその一つで、数年にもわたり成長し、本当に人が座れそうな大きさになるものもある。これらの仲間はもっぱら寄生であり、生きた木を嗄らしたり、材木をボロボロにしたりするため、林業では嫌われている。木に生えるキノコは、セルロースやリグニンのどちらかを主食としている。リグニンはベンゼン環に水酸基がついたフェノールを基本とする高分子、ポリフェノールの一種で、セルロースの骨格の周りを固め補強している。そのほか、動物の糞のうえに生えるもの、別のキノコの上に生えるもの、松ぼっくりに生えるものなどいろいろ。変わったところではセミの幼虫やガの蛹に生えるものもおり、「冬虫夏草」(とうちゅうかそう)と呼ばれる。冬の間は虫なのに夏は草に変わったという意味で、昔ばなしの「魔法で人間が植物になる」とか「不老不死のパワーをもつ」という言い伝えがあるのは、そのせい。

キノコの概略・キノコのどこに胞子ができるか……マツタケやシイタケは、傘の裏側のヒダの表面に胞子がある。サルノコシカケの仲間にも同じようなものがあるが、こっちはヒダではなく、管孔という部分に胞子をつくる。そのほか針状になっているものも存在する。なんにせよ表面積を稼ぐことが利点なのは間違いがない。キクラゲの仲間や多くの子嚢菌にはヒダがないものも多く、体の一部、あるいは全体の表面に胞子をつくる。ちょっと変わっているのが「腹菌」と呼ばれる仲間で、腹の中に胞子ができ、お腹の中が胞子になって量を稼ぐ。担子菌に似てはいるが、担子菌がキノコを伸ばした後で胞子を成熟させるのに対し、こっちは腹の中。このタイプは、伸ばしたキノコの頭部分に臭い粘液を出し、これでハエなどを呼び寄せて胞子を運んでもらうことで、ばらまく効率を上げている。

キノコの概略・毒キノコの見分け方……「茎が縦に裂けるものは大丈夫」「ナスと一緒に煮れば毒が消える」「派手な色」「虫が食べているものなら大丈夫」「銀のスプーンの上で加熱して黒くなれば毒」みたいな、一般に膾炙するものの中に真実はほぼない。信じていたら命がいくつあっても足りない。まずテングタケの仲間である「タマゴテングタケ」「シロタマゴテングタケ」「ドクツルタケ」などには、茎の根本にはっきりとした「ツボ」を持つ。ツボのあるキノコは食べないようにしよう。日本で最も中毒例が多い「ツキヨタケ」はシイタケ、あるいはムキタケに似ているが、縦に割いて紫色のシミがあるのが特徴。食用にそっくりなのが「ニセクロハツ」と呼ばれるキノコで、外見からは簡単に区別できない上、中毒死する毒も持つ。ポイントは「傷をつけたとき、色が赤くなったまま黒くならない」場合は食べないのがよい。シメジに似た「イッポンシメジ」と呼ばれるキノコで、1本でポツンと生えるからそう呼ばれる。代表格は「クサウラベニタケ」で、ヒダが赤っぽいのが特徴。以上を抑えておけばだいたい中毒の危険は消えるはず。むやみに怖がる必要はなく、カエンタケを除けば、触るぐらい、あるいはちょっと味見するぐらいなら大丈夫である。

吸着の原理・吸着はなぜ起こるか……脱臭炭で匂いをとったり、シリカゲルが水を吸ったりするアレである。なぜ起こるのかといえば、エネルギーが低い安定なほうに向かうからだ。例えば水分子が空気中を飛び回る状況より、どこかで仲間どうしくっついた方が安心するというのが、温度を下げて水蒸気が液体になるということであり、同じように、水どうしで手を繋ぐよりガラスのほうが居心地が良い場合に、吸着が起こる(厳密にいえば水分子はくっついたり離れたりで平衡状態にあり、全体として一定の数の水分子がガラス表面にいる)。吸着量は圧力と温度で変わるため、吸着等温線、吸着等圧線という二つにより図示される。吸着等温線は圧力を変えたときの吸着量のグラフで、圧力が低ければ急激に吸着量が増え、途中で中だるみ、最後に一気に増大する。まず最初に急増するのは、固体表面がほぼ裸だからだ。表面積のぶんだけ気体分子が覆うことができる。しかし空席がなくなるのが真ん中で、気体分子は既に着席している分子の上に乗っかるようになる。吸着量の伸びは今一つ。圧力がさらに上がると、気体分子同士が空中でも手をつなぐようになり、もはや「液化」状態である。急上昇は液化に向かう段階を示す。

吸着の原理・負吸着……表面の濃度が、相内部よりも低い濃度になるという現象。吸着とは、気相・液相の物質が、それと接触する他の相(液相・固相)の界面で、相の内部と違う濃度を保ち平衡に達する現象である。この「違う濃度」は普通、表面の濃度>相内部の濃度なのだが、これが逆になったものと考えればよい。気体の吸着では観測されず、液体からの吸着に特有である。液体中では溶質は溶媒分子に取り囲まれている(安定だから)。ここに第三の成分である固体表面が登場する。溶質分子は溶媒分子に取り囲まれるべきか、固体表面に鞍替えするかを判断し、ここで「固体の方がいい」とすれば固体表面に吸着する。これが普通の正吸着。とはいえ、固体表面にくっつくのは溶媒分子も同じである。もしも溶媒分子のほうが、溶質分子より吸着しやすかったら。固体表面は溶媒で覆われ、溶質分子に入りこむ余地はなくなる。これが負吸着である。つまり溶質にとっての負吸着とは、溶媒の正吸着のことなのだ。

吸着の原理・吸着が起こる「居心地の良さ」は何で決まるか……それは互いが引き合う力であり、大きく、分散力と静電力に分かれる。前者はファンデルワールス力の中心になる力で、あらゆる物質に働く。一方で静電力は電荷の偏りを持つときにできる。電場にイオンか双極子が近づくことで吸い付くのだ。

吸着の原理・クロマトグラフィー……化学成分を分離したり、精製したりするときに行う手法。クロマトグラフィーの「クロマト」はギリシャ語の「色」”Chroma”からきており、学校の授業に出てくる「ペーパークロマトグラフィー」は、インクの色成分を分離するためのものなので、まさにクロマトグラフィーの原点である。方法により分類され、たとえば移動する相により、ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー、超臨界流体クロマトグラフィーなどがあり、あるいは固体相により、紙をつかうペーパークロマトグラフィー、粉末を塗布したものを使う薄層クロマトグラフィー、筒状の容器を使うカラムクロマトグラフィーなどに分かれる。さらに、成分が両相に分配される原理(インクが紙か、水かに分配される)により、分配クロマトグラフィー、吸着クロマトグラフィー、イオン交換クロマトグラフィーなど。

吸着の原理・高速液体クロマトグラフィー……HPLCとも。シリカゲルやアルミナなどの充填剤を、内径3mm、長さ10cmほどの金属の管に詰め込んだもの。これらは極性が大きいため、極性の高いものがよく吸着する。そこで、極性の低いヘキサンなどを移動相として用いると、極性の高いものだけがしっかり吸着し、きれいに分配されるのだ。移動相と固定相は違う性質にする必要があるのだ。ということは逆に移動相に水を使い、固定相の極性を低くしても、ちゃんとクロマトグラフィーとして働くはず。これは「逆相クロマトグラフィー」と呼ばれる。実はHPLCでは逆相のほうが多く用いられるが、それは逆相で使う高極性溶媒のほうが、多くの種類の試料を溶かせるからだ。

吸着の原理・超臨界流体クロマトグラフィー……SFCとも。超臨界流体をクロマトグラフィーの移動相に利用したもの。よく扱われる二酸化炭素だと、31度、72気圧ほどで超臨界流体になってしまう。HPLCの出口に圧力が下がらないためのバルブをつける必要があるぐらいで、しかも出口のバルブを抜けると二酸化炭素は普通のガスになるため、乾燥した試料を簡単に回収できるオマケもつく。

結晶の概略・宝石として珍重されるための条件……世の中で宝石になっているもののほとんどは結晶である。宝石には「見た目が美しい」「硬い」「産出量が少ない」という条件があり、これらを満たすには結晶であることが大事。見た目の美しさには屈折率が関係し、これが大きいと内部での全反射が起きるため、うまくカットしてキラキラ輝く。普通、屈折率は密度が大きいほど大きいので、原子の詰まった結晶が有利なのだ。

結晶の概略・主な宝石の成分……ダイヤモンドは炭素だけからなり、最近半導体としても注目されている。ルビーやサファイアは酸化アルミニウム(錆びたアルミ)であり、不定形のものが白色顔料になるアルミナで、結晶化したものはコランダムと呼ばれる。ここにクロムが混じったものが赤色のルビーで、鉄とチタンが混じったものが青色のサファイアである。ただ、赤以外のものは全部サファイアと呼ぶため、高級腕時計などに使われるサファイアはほとんど無色。ルビーはレーザーに用いられ、クロムの電子が励起するときに赤い光になる。地球で最も多いのは「ケイ酸アルミニウム」で、つまり長石である。ここにベリリウムを含むと、透明性のある六角柱になり、「ベリル」と呼ばれ緑色である。これの緑の濃いものがエメラルドで、鉄が混じって青色になったものがアクアマリン。トルマリンは、ケイ素とアルミニウムのほかにホウ素やら鉄やらが混じった酸化物。熱を加えると電気的中性がくずれるため、電気石とも呼ばれる。スピネルはマグネシウムとアルミニウムの酸化物だが、これと同じ結晶構造全部を指すことばになっている。その中には鉄の酸化物で、磁性材料として有名なマグネタイトなどがある。また、柘榴石(ガーネット)はこれまた同じ結晶構造の一群の酸化物の総称で、ケイ素のほかにカルシウム、鉄、マンガンなど、様々な元素を含む。レーザーの発振に使われるYAG(イットリウム-アルミニウム-ガーネット)とか、メモリー材料の基板となるGGG(ガリウム-ガドリニウム-ガーネット)などもその一つ。こうしてみると、ダイヤを除いてほとんどが酸化物であることがわかる。

結晶の概略・大部分の結晶が透明な理由……そもそも透明とは、物体の内部で散乱や吸収されなかった光が外に出てくることで起きる。表面での光反射が起こらず、光を散乱することもない(原子やイオンの並ぶ間隔は光の波長の1/1000程度である)。これは例えば、波長が5メートルの海の波に直径5ミリの棒を立てても、波に何の影響もないようなものだ。結晶の中に光の波長程度のゆがみがあれば、光が散乱されて白く濁るが、完全な結晶では光はほとんど散乱しない。そのため透明ということ。

結晶の概略・金属光沢が起こる理由……金属には自由電子がたくさんあり、光という電磁波に引きずられて振動する。電子は光の電場を打ち消す方向に振動するため、光はそれ以上奥に入れない。一方で振動する自由電子からは新たな電磁波、つまり光が出るため、結局入ってきた光をそのまま送り返す形になり、光が反射することになる。これが「金属光沢」である。

結晶の概略・光の吸収には何が関係するか……実は、結晶の中の電子のエネルギー状態が関係する。絶縁体や半導体では、電子の取れるエネルギー状態は飛び飛びになっている。低い所は電子でいっぱいだが、高いところはほとんどカラッポで、その間にはバンドギャップ(電子が取れないエネルギーの状態)がある。一階がいっぱいで、二階はカラ。外からエネルギーをもらわないと電子は飛び上がれない。この「エネルギー」になるのが「光」である。バンドギャップの大きさは物質によりさまざまで、ギャップが小さければ、エネルギーの小さい赤い光でも吸収できるが、ギャップが大きくなると、エネルギーの大きい紫の光でも不足し、紫外線が必要になる。つまり、バンドギャップの小さい物質は可視光線を吸収して不透明になり、バンドギャップの大きい物質は可視光線を全部透過して透明になるというわけ。バンドギャップが小さいと熱エネルギーでも飛び上がりが起こるため、多少は導電性が出る(ケイ素とかゲルマニウムなど)。だから非常に乱暴にいえば「電気を通しにくい物質ほど光を良く通す」ことになる。酸化物の結晶とかダイヤモンドはその例である。

結晶の概略・結晶の多くに色がついている理由……結晶中に微量に含まれている不純物のため。例えばルビーの赤色はその典型で、コランダム自体は無色透明だが、微量に(1％以下)含まれるクロムが青系を吸収するため、赤く色づく(まあ赤い光を出すという性質もある)。ほか、加熱などで構成原子・イオンの一部が離脱したり移動したりして、そこが光を吸収して色がつく場合もある。例えば酸化チタンの結晶は加熱で酸素の一部を失い、青っぽくなる。

結晶の概略・結晶の構造を見るための方法……光の波長よりも小さい構造をどう「見る」のか。そのためには波長の短いX線とか、電子線を使う。最もよく使うのがX線で、これを例えば銅に当てたとき、発生するX線の波長は0.15nmである。結晶の中の原子やイオンの間隔もこのぐらいなので、ちょうどうまくX線を散乱してくれる。

結晶の概略・X線回析の方法……まず、原子1個だけにX線を当てても散乱されるだけ。ところが複数の原子が並ぶ場合、それぞれの原子からの散乱X線の波が重ね合い、干渉を起こす。それは、散乱されたそれぞれのX線が通ってきた距離が違うため、山と谷がずれるからだ。ある特定の方向では光路差がなくなり、散乱線どうしが強め合う。その「特定の」とは、原子が並ぶ面に鏡を置いて、反射させた方向なのだ。つまり、あたかも原子の面で鏡面反射されたかのように、その方向にだけ特別強い散乱線が出る。これがX線の回折現象だ。原子が列になった場合を考えてみる。この場合、一番上の結晶でできた散乱波と、その下の結晶でできた散乱波とが打ち消し合う場合を考えなくてはならない。原子が一列だけだったら「入ってきた向き関係なく、鏡面方向に回折していた」が、3次元になるとさらに、「特定の方向から入ったものだけが回折する」ことになる。これは、1列目で回折されたX線、2列目、3列目…で回折されたX線が通ってきた距離の差が、X線の波長に一致した場合のみ起こる。この性質を利用すれば、回折の起こる方向を調べることで、結晶面の間隔を知ることができる。

結晶の概略・電子線回析の方法……電子線の波長は100kVの場合0.0037nm、めちゃくちゃ小さい。X線回析との違いを見てみる。波長の短い電子線は、1波長ぶんに相当する光路差はほんとうにわずかなので、非常に浅い角度の照射で十分。例えば、30度の角度で回析が起こる結晶の場合、100kVの電子線ではたった0.7度。1メートル先でも1センチ余りにしか広がらない。

結晶の概略・顕微鏡の明視野法と暗視野法……まず我々が普通に想像する「ザ・光学顕微鏡」は前者であるが、世の中には変わったものもあって、その例が暗視野法である。試料を斜めから照らし、わざと光を対物レンズに入れないようにするのだ。こうすると、試料がない部分からは光が全く来ないので、顕微鏡の視野の背景は真っ暗になり、その中に散乱光で光った視野が見えることになる。暗視野法では、リング状に開いた形の絞りを用いる。これを入れると試料を通った光が全て対物レンズの周りに逃げていくからだ。光を使う限り、光の波長より短いものを見ることはできない。光から得られる位置の情報には、必ずその波長程度の曖昧さが含まれるため、光の波長程度のボケが必ず起こる。しかし「散乱」に関しては、光の波長レベル、あるいはそれより小さい構造のほうが効果が大きい。なぜなら、光の波長より2ケタも小さい粒子からも、強い散乱が起こるからだ。暗視野法では、普通にやるとぼやけて見えない微細な構造、微粒子、キズなどが見える(存在が確認できるレベルではあるが)。身近な例としてはチンダル現象がある。暗い部屋をバックにすることで光の波長より短い塵からの散乱光が見える、という暗視野照明の一つだ。

結晶の概略・位相差顕微鏡……試料を通った光が直接光と回折光に分かれることを利用した顕微鏡。この2つの光は実像を結ぶところで一緒になるのだが、実は位相が違う。回折の過程で、屈折率の異なる物質を通ってきたためだ。位相の差は明るさの違いになって姿を表す(光の干渉)。見えないはずの位相の変化を、見えるように変換するのが位相差顕微鏡。生体試料などには無色透明なものも多く普通の顕微鏡ではよく見えないが、そのような試料でも、位相が変化した回折光は出ているから、これを使うことで観察できる。具体的には、回折してくる光の多くが1/4波長程度のズレを起こしていることを利用し、直接光を右か左に1/4だけずらし(ずらすと1/2のズレあるいは0のズレになり、最も暗いパターンと明るいパターンのどちらかを見れる)、なおかつ回析する光と強度を同じぐらいにすれば、位相差による明暗のコントラストをつけ、観察することができる。

結晶の概略・偏光顕微鏡……物質を通過したり反射したりすると、光の振動方向が揃ったり、ぐるぐると方向が回転しながら進んだりする。これが「偏光」。これを意図的につくれる素子が偏光板であり、偏光板を使い、試料の偏光に対する性質を見るのが偏光顕微鏡。最もよく使われるのはヨウ素である。ヨウ素分子の列がスリットのように働き、特定の方向に振動する光だけが通過する。だが実は「偏光」という性質、単純に一方向にだけ振動する光が起こしているのではない。いろんな向きに振動する光が無数に重なった結果生まれている。偏光板の角度と透過光の強度をグラフにとると、ちょうど0度から90度に放物線を描く。だから例えば、「0度と90度の2枚の偏光板を重ねる」と何も見えないが、「0度と45度と90度の3枚」を重ねると、光がなんと50％も通るようになる(70%かける70%)。偏光顕微鏡はこれを利用する。2枚の偏光板を直角にすると何も見えないが、3枚目の偏光板を試料によって代用することで、試料のどの部分がどのぐらい偏光するかを利用し、光のコントラストを得て、試料を観察するのだ。

結晶の概略・微分干渉顕微鏡……機械のほうで光を2つに分け、試料に照射、それを干渉させる顕微鏡。試料の厚みに応じた位相のずれを観察することで、斜めになった部分、段差の部分、性質の変化する境界の部分がくっきり縁取りしたように観察できる。その原理は簡単。ちょっとだけ位置をずらした2つの光を試料に当てる。左の光と右の光、それぞれで像ができるが、例えば試料の厚みが違っている部分(斜めになっている部分)があると、その部分は光の光路差で干渉が起き、コントラストがついてみえる。段差のない部分は普通に位相がないまま合流する。

結晶の概略・レーザー顕微鏡……普通にレーザー顕微鏡といえば「光源にレーザーを使った光学顕微鏡」ではない。全く別物である。レーザーを試料のところに導き、対物レンズで試料上に焦点を結ばせる。試料から反射した光は途中までは同じ経路を戻り、ビームスプリッタで検出器のほうに向かう。ちゃんと焦点が合っていた場合はピンホールを通過して検出器に入ることができる。ただこのままでは一点の情報しか得られないため、偏光素子と可動鏡により、レーザー光の方向を変えられる。このシステムを使いレーザー光で試料をくまなく走査し、それと同期させて検出器の信号をディスプレイで表示すれば、焦点の合う部分だけが明るく光った図が描ける。対物レンズでどのぐらい光を小さく絞れるかが最小面積になるから、当然光学的な制約は受ける。しかし、試料からの光で直接像を結ぶわけではないため、普通の顕微鏡よりヒトケタぐらいは小さいものを見れる。

鏡の概略・光学機器に使われる鏡は普通の鏡と違う……家にある鏡は、ガラス板の裏側に銀をメッキしたもの。しかしこれではなく、表側にメッキした鏡が使われる。というのも、鏡での光の反射は「裏側」で起こるのだが、実は表面のガラス部分でもごくわずかに反射する。二重に反射すると具合が悪いのだ。しかも、空気に触れると銀は黒ずむため、たいていはアルミが蒸着されている。反射式の天体望遠鏡の鏡もそうだ。

鏡の概略・望遠鏡と顕微鏡の違い……どちらも対物レンズと接眼レンズを筒の両端につけただけのもの。違いはどこにあるのだろう。その答えは筒の長さ。といっても見た目の長さではなく、レンズの焦点距離と比較した長さ。顕微鏡の筒の長さは、対物レンズと接眼レンズの焦点距離の和よりずっと長くなる。観察の対象物は対物レンズのすぐ近く(焦点よりは遠い)にあるので、その実像は焦点からかなり離れたところにある。望遠鏡よりもずっと長い筒が必要になる。顕微鏡は望遠鏡と違い筒の長さが固定されているため、ピントを合わせるために筒全体を動かし、物体と対物レンズの距離を変え、実像ができる位置を調節する。もし望遠鏡のように筒の長さを変える方式だったらどうだろう。確かにピントだけならそれで合うが、それだと倍率が変わってしまう。顕微鏡は対物レンズにも倍率が刻印されているが、それはその顕微鏡限定の倍率である。長さの違う他のものにつけたら倍率は嘘になってしまう。顕微鏡は筒を長くすれば、いくらでも倍率を上げることができる。しかしあまりに上げ過ぎても像がぼけたり、レンズの性能からくるアラが目立って、使い物にならなくなる。

鏡の概略・望遠鏡の倍率とは何か……顕微鏡は、例えば1ミリのものが10センチに見えるなら倍率は「100倍」になる。だが望遠鏡の倍率はどういえばいいのだろう。月を見るとして、その直径は3500キロ。これを基準にするのだろうか、否。望遠鏡の筒の中にできる月の実像の直径は、焦点距離80センチの対物レンズを使った場合7mm。これを10倍の接眼レンズで拡大すると7センチになる。月の直径は3500キロだが、月までの距離は38万キロもある。3500キロのものを38万キロかなたにおいたときと、直径7ミリのものを20～30センチのところに置いたときでは、後者のほうが見える像は3倍も大きい。これをさらに接眼レンズで拡大したものが、望遠鏡の倍率である。つまり、遠くから見たときの見かけの大きさとの比較(人間が裸眼で見たときの月の見かけの大きさ)なのだ。

鏡の概略・望遠鏡で近くのものを見ることはできるのか……結論をいうと、できる。望遠鏡の倍率は、対物レンズの焦点距離を、接眼レンズの焦点距離で割った値になる。筒の長さを変えられるため、顕微鏡と違い対物レンズや接眼レンズの倍率を決めることはできない。例えば物体までの距離が近いと、実像の位置は対物レンズの焦点から次第に離れていき、しかも大きくなるため、倍率も大きくなる(当然、筒は長くなる)。つまり望遠鏡の倍率は無限遠方を見たときにのみ成り立つのであり、近くの物体に対しては、その時の筒の長さも考えて扱う必要がある。ま、筒自体が長くないんで、あまり近くのものは見れないが。

鏡の概略・なぜ焦点距離50ミリのレンズが「標準」なのか……例えば、10メートル離れたところから1メートルの高さの物体を写真に撮るとする。レンズの焦点距離が50ミリとすると、その実像は5ミリになる。35ミリサイズのフィルムに写したとすれば、フィルム画面の7分の1ということ。これをL版の印画紙に焼くと、フィルム上で5ミリだったものが2センチの大きさになる。これを20センチ離して見たときの大きさは、10メートル離れたところから1メートルの像を見るときとほとんど同じ。つまり、50ミリのレンズを使って撮影すれば、感覚的には実際の景色と同じなのだ。

鏡の概略・映写機の原理……外部の景色の実像をフィルム上につくるのがカメラとすると、その逆が映写機である。スライドなどの実像を、外部のスクリーンに投影する。光路が逆なだけでカメラと全く同じだ。焦点距離が短いレンズでは大きな映像を投射できる。これはスライド映写機でも、映画館の大型のものでも変わらない。ランプの前にあるレンズはコンデンサーレンズと呼ばれ、広がっていくランプの光を集め、効率よくフィルムに当てる。スライドの位置にランプの実像ができないようにする必要があるため、そうならないように焦点距離を定めている(逆にいえば、その制約さえクリアすればどんなレンズでもいい)。

ゴムの概略・ゴムはなぜ弾力性をもつか……絡まった高分子の鎖がそこそこ自由に動き回れるから。ポリエチレンとかポリプロピレンのような普通の高分子化合物は、鎖がしっかり固定されているので簡単には変形しない。ずれたら今度はずれた位置で固定され、元に戻らなくなる。ところがゴムは鎖の力が弱いので、ちょっとした力で変形する。ただし、単に鎖が絡まっただけの構造(生ゴム)では、伸ばした状態で固定しておくとどんどんそれになじんでしまい、完全には戻らなくなってしまう。そこでイオウにより架橋すると、元に戻る、よく見るゴムとなる。硫黄以外では酸素が候補になるが、酸素を入れてしまうと鎖がズタズタになってしまう、つまり燃えてしまう。加硫の程度を加減することでゴムの硬さは調節でき、生ゴムの質量の4割程度も入れれば、ほとんど弾力のない「エボナイト」というゴムができる。割れにくく、熱や薬品にも強い。ペンの軸とかボウリングの球、管楽器の吹き口に使われている。

ゴムの概略・ゴムの面白い特性……伸び率が大きいだけではない。ゴムは加熱すると一般的な物質と違い、縮むのだ。そのほか、引き延ばしたときは普通冷たくなるが、ゴムは発熱するし、元に戻したときは冷たくなる。ゴムを加熱すると分子鎖がぐしゃぐしゃになり、全体として縮んでくることがある。机の上に糸を伸ばして置き、適当なところをもって激しくゆすると両端が近づいてくるのと同じ。引き延ばしてみると、ぐしゃぐしゃになっていた鎖が引き延ばさされて並ぶようになるため、無理やり規則的に並ぶことで熱が放り出される。しかしこれをもとに戻そうとする力が働く(そっちのほうが安定)ため元に戻る時は熱を奪い温度が下がる。つまり、ゴムの弾性力は「エントロピーが大きい状態に戻ろうとするために発生する」といえる。普通の輪ゴムを使ってもこれは確かめられる。

ゴムの概略・シリコーンゴム……シリコーンを使ったゴムのこと。シリコーンとは、ケイ素と酸素が交互に繋がった高分子。ゴムといえばふつう炭素の鎖でできているが、シリコーンゴムは違うのだ。ケイ素には4本の手があるが、その全部が酸素に繋がるとガラスになってしまう。シリコーンは、4本のうち2本はメチル基などとつながっており、残りの2本でケイ素―酸素―ケイ素―とつながる。これを過酸化物を使い無理やり架橋させたのがシリコーンゴムである。その最大の特徴は熱や薬品への耐性で、化学実験のゴム製品によく使われる。また、硫黄を使わないので変な匂いがなく、食品に触れるような部分にも好都合。水筒のパッキン、ストロー状の飲み口、冷蔵庫のパッキンなどに使われる半透明のゴムはみんなシリコーンゴム。そのほか、成形手術で体の中に埋め込む型材にもなっているが、この用途については賛否両論のようで…。ちなみに「シリコン」と「シリコーン」は別のものなので覚えておこう。

ゴムの概略・熱可塑性エラストマー……架橋しなくても十分なゴム弾性を示す材料の一つ。エラストマーとは、弾力のある樹脂材料全般をさすことばで、ゴムとほとんど同じ意味であり、熱可塑性エラストマーはゴムと区別し、この両方をひっくるめてエラストマーと呼ぶ。基本構造はやはり高分子だが、結晶化しやすい部分と、しにくい部分とが含まれている。そのしやすさは、そこを形作る単位の構造で決まる。例えばポリスチレンと同じような構造なら硬くなり、普通のゴムに使われるブタジエンのような構造なら柔らかくなる。熱可塑性をもつため、普通のゴムと違い、加熱すると硬い部分の束縛が溶けて流動的になる。ここが最大のウリで、材料としてリサイクルできる。ただしいいことばかりではない。硬い部分の束縛は、化学的な結合をしたゴムほど強くないため、低い温度でも多少動いてしまう。こうなると一度変形すると元に戻らなくなるのだ。

磁石の概略・磁性とは結局何なのか……電流と磁界の関係を中学校で習う。まず、まっすぐな電線に電流を流すと、右ネジの方向に回転する輪っかの磁界が現れる。この磁力の向きを表す線、つまり磁力線の束を「磁束」と呼び、磁力の強さを「単位面積当たりの磁束の本数」、つまり「磁束密度」とする。次にコイルに電流を流すとする。右ネジの法則に従い環状の磁束が(コイルの線の1本1本について)現れるが、逆方向の磁束が打ち消し合うことで、結局一番外側のみが残る。磁石の磁性とは結局、その環電流のことにすぎない。電磁石はコイルそのものなのでそのままとし、永久磁石では、磁石を構成する物質が持つ電子の回転、スピンが環電流の源になる。

磁石の概略・電場と電束密度の関係……電気の正体は何かというと「電荷」である。電荷があるとその周りに電場ができ、別の電荷は電場の中で力を受けるのだ。いやそんな周りくどく考えんでも、電荷と電荷直接作用で引力・斥力はたらくってすればよくね、とも思うが、例えば100個の電荷がある場合は4950通りの組み合わせができて、面倒を見切れないのだ。電気の世界にも「電束密度」という考え方があり、電荷から電束というものが飛び出して(マイナスの場合は電荷に飛び込み)、その電束の密度で電場の強さが決まる、とする。いやとすれば電束密度イコール電場やんけややこしいことすんな、とも思うが、それは空間に何もないときの話であり、別の物質がくると様子が異なってくる。例えばコンデンサの中に誘電体がある場合。誘電体の内部で電荷がどれぐらい弱くなるか考えるのは結構大変だし、ひとかたまりの誘電体でも全体が均一かどうかわからない。そうすると電束の考え方が役に立つ。つまり、電束はコンデンサ中の電荷から発生するのだが、途中に誘電体があっても関係なく、コンデンサ上の電荷が変化しない限り永久不変だとするのだ。とりあえず電束密度というものが空間にあり、誘電体の内部では、電束密度を誘電率で割った強さの電場ができる、と考えることができて、複雑な状況が割と簡単にわかる。電束密度は人間が決めたものであり、電場こそが本質的な現象を示している。

磁石の概略・磁場と磁束密度の関係……巨大な磁石がつくる、均一な磁界を考えてみる。ここに磁性体(普段は磁性を示さないが、回転の向きがそろうことで示すようになる)を置く。磁束が発生する(ここで単位体積あたりの磁性の強さを磁化という)。当然、外部の磁束と同じ向きの磁束が磁性体の内部にできるわけだが、その内部では、電場の場合とは逆に、磁束は周りよりも強くなる。というのを考えるといろいろ(磁性体の種類により内部の環電流、つまり磁化が変化すると考えたり)めんどくさいので、磁性体のあるなしに関わらず、N極から出てS極に向かう永久不変なものを決めよう！という取り決めをした。これが磁場である。そして、磁場に透磁率をかけると磁束密度になると決めた。磁場は人間が決めたもので、磁束密度こそが本質的なのだ。

磁石の概略・電気と磁気の関係が逆になっている理由……それは、電気の起源がプラスやマイナス電荷であるのに対し、磁性の起源が環電流であり、そこから生じるNSの「組」だからだ。電荷は単独でも存在するが、磁性のほうはモノポールが見つかっていない。

磁石の概略・磁性を示すか示さないかの違い……まず磁性体の磁気の起源は電子のスピンである。スピンの向きがそのまま、電子の磁気の向きになる。これを「電子の磁気モーメント」という。電子の数が奇数の場合、ペアを作れない電子が一番外側の軌道に一個余るため、原子全体として磁気モーメントを持つことになる。ところがこれで終わりではない。内輪で相手が見つからないとなると、電子はもう別の原子とくっついてペアを作ってしまうのだ。大半の物質が磁性を持たないのはこのためである。ところが一部の原子ではそれが異なっていて、内部の軌道が埋まり切らないままに外側に電子が入っていく。一番外側の電子は他の電子とくっついてペアになるが、内側で余ったものはそういかない。結果、そのような電子を内側に持つ原子は、原子が集まった物質の中でも磁気モーメントを持つことになる。鉄、ニッケル、コバルトなどのいわゆる金属原子、希土類がそれにあたる。

磁石の概略・磁性にもいろんな種類がある……原子が磁気モーメントを持つからと言って即磁石になるとは限らない。各原子の磁気モーメントの向きがバラバラだと、全体として磁性を示すことはない。例えば溶液の中の金属イオンなどはその例である。これを「常磁性」という。常磁性の物質は磁場の中に置かれると磁化をもつ。磁場を取り除くと元に戻ってしまう。これに対し金属原子の結晶は、原子が互いに作用し、磁気モーメントの向きが特定の方向に揃えられる。このときの向きにより、外に現れる磁化は大きく変わる。まず全ての磁気が一方向に揃うのが「強磁性」で、鉄などが相当する。逆に、右向きと左向きが同じだけできると、外からは全く磁化が見えない。これが「反強磁性」で、マンガンとかクロムの一部の酸化物がこれに当たる。また、逆向きのものが混在しているが、その総量に差があり、全体として一方の向きの磁化が残るのを「フェリ磁性」といい、フェライトという鉄系の化合物が代表格。

磁石の概略・キュリー温度……強磁性、反強磁性、フェリ磁性の物体が常磁性になってしまう温度。実はこいつら、温度を上げるとみんな常磁性になってしまうのだ。鉄でいえば770度ぐらい。

磁石の概略・強磁性・フェリ磁性を持つ全てが磁石になると限らない理由……物質内部の磁気モーメントの状態はどこでも同じであるように見えるが、実はそんなことめったにない。エネルギー的に不利だからだ。例えば2本の棒磁石を近づけると、互いにNSを逆にしてくっつく。これは安定だからだ。もしNSの向きを同じにしようとすれば、無理に力をかける必要がある。磁性体の内部で全ての磁気モーメントの向きが揃うというのは、実はとても不安定なのだ。だから、普通の磁性体の内部は、磁気モーメントの向きの違ういくつかの部分に分かれていて、これを「磁区」という。磁区と磁区の境界で突然方向が変わるのではなく、ある幅の中で徐々に向きが変わる。これを「磁壁」という。このような磁区構造ができると、一つ一つの磁区は磁気モーメントを持つのに、全体として磁化は現れなくなる。これに磁場をかけると、磁場と同じ向きの磁気モーメントを持つ磁区が勢力を増し、磁壁が移動する。バランスが崩れることで磁化を示すようになるのだ。これだけなら常磁性と大差ない話だが、その磁化の大きさは段違い。常磁性体の数百倍から数万倍はあるのだ。常磁性体は磁石にくっつかないが、強磁性体、フェリ磁性体はくっつく。そしてもう一つ常磁性と違うのは、磁場の増加に対し磁化の増加が頭打ちになること。全体が一つの磁区になるとそれ以上は磁化が増えないからだ。

磁石の概略・永久磁石の完成方法……純粋な鉄は、加えた磁場を取り去ると磁区が元に戻ってしまう。確かにこれはこれで使い道があって、例えば電磁石、変圧器の鉄心、磁気記録用の鉄心など。しかしここでは磁石が目的なので、軟磁性では困る。そこで不純物を入れたり材料を工夫したりして、磁壁が自由に動くのを邪魔してやり、いったん磁化してしまえば簡単に戻らないようにする。これで永久磁石が完成する。鉄の磁壁移動を邪魔するには炭素などを加える。つまり鋼だ。縫い針などを磁石でこすり、針を磁石にするアレは、縫い針が鋼だからこそできる芸当。また希土類は、磁気モーメントの向きをそろえる力が強い上、磁壁が動きにくい性質があり、非常に強力な磁石をつくる。サマリウム・コバルト磁石や、史上最強のネオジム磁石がこれにあたる。

磁石の概略・ヒステリシスループ……永久磁石に磁場をかけたときの磁化の変化を示すグラフ。横軸に外からの磁場、縦軸に磁化(または磁性体内の磁束密度)をとる。磁束密度は外から加えた磁場と、磁性体の磁化によるぶんの合計なので、磁化を縦にとった場合よりも右肩上がりになる。初めは均等な磁区構造だから磁化はゼロで、磁場をかけると磁壁が移動し、磁化が進む。そして最終的には全く磁化が増えなくなる。ここから磁場を減らすと、軟磁性材料では元に戻るのだが、永久磁石はそう簡単に磁壁が取れないため、高い磁化を保ち変化する。磁場がゼロになったところでも残留磁化があり永久磁化として機能する。しかし逆方向に一定の磁場をかけると、ついに磁化はなくなってしまう。このときの磁場の大きさがその磁石の「保持力」である。

磁石の概略・永久磁石をつくるもう一つの方法……それが微粒子化である。つまり、磁性体を粒子にしてしまえば、磁区構造もなくなるだろ、という考え方だ。基本的には1ミクロン以下になれば、粒子全体が一つの磁区になる可能性が出てくる。しかしこれ、外部から磁場をかけたとき、磁壁の移動で磁化することはできない。1つ1つの磁気モーメントをひっくり返すことが必要になるので、なかなかに大変。特に、粒子が特定方向に磁化されやすい性質を持つ(磁気異方性をもつ)場合はヤバ大変だ。ちなみに磁気異方性には結晶構造が要因のものと、粒子の形が要因のものがある。強磁性体やフェリ磁性体は多かれ少なかれ結晶磁気異方性をもつが、中でも安価な永久磁石に使われるバリウムフェライトなどでは、結晶の特定の一方向だけに強く磁化される性質がある。一方で磁気テープのような記録材料に用いられる酸化鉄などでは、粒子の形がものをいう。

磁石の概略・微粒子のヒステリシスループ……磁気異方性を持った粒子が磁化する様子を見てみよう。現実的にするために、磁化しやすい方向(磁化容易軸)から少しずれた方向に磁場をかけてみる。まず初期状態では、磁化容易軸が左上をむいているとし、ここに右向きの磁場をかけていく。だんだんと磁場を強くすると粒子の磁化は少しずつ回転しはじめ、限界を超えると一気に反対側に倒れる。この時点ではまだ、磁化容易軸のほうに引っ張られ、磁化は磁場よりも少し下を向いている。さらに磁場を強くすると磁化はほとんど磁場をむくが、ここから磁場を減らすと、磁化は最終的に磁化容易軸の方向に向き直り、磁場がなくなったところで、最初とは180度逆方向を向いて落ち着く。磁化の変化はとても極端だから、微粒子一個のヒステリシスループは永久磁石と比べ長方形に近い(磁化容易軸と磁場の向きが一致していれば完全な長方形)になる。これは理想的な形なので、微粒子を集めて磁石をつくれば完璧、…とはいかないのが残念なところ。微粒子により、磁化に必要な磁場とか磁化の大きさが異なっているため、少しずつ違うヒステリシスループが重なることで、結局「なで肩」になってしまう。

磁石の概略・磁化の測定……ヒステリシスループを測定するにはどうしたらいいだろう。磁性体の磁化を測ろうとすれば、磁場をかける必要がある。その磁場の中で、試料が持っている磁化のみを取り出すにはコツがいる。その一つが試料を振動させることだ。外部磁場を加えるための大きな電磁石の中に試料をセットし、一定の周期で振動させる。そして、試料の近くに設定したコイル(サーチコイルという)に、電磁誘導の原理で流れる電流を測ることで、試料の磁化を知ることが可能。ヒステリシスループは外部磁場を変えながら測定するため、当然ながらサーチコイルには外部磁場による電流も流れる。しかし、試料の振動と同じ周期で振動する成分だけとってやれば(フィルタをかければ)、試料だけの磁化がわかる。この装置を「振動試料型磁力計」(VSM)と呼ぶ。なかなかにすごい。このほか、外側の電磁石を回転させることで磁化した試料によじれる力を与え、その力を「よじれ計り」で計測する「トルクメーター」もある。

電池の概略・金属電極を溶液に浸したときの反応……このときの溶液には、電子を他から引き抜ける酸化型の成分と、還元型の成分のペアが溶け込んでいるとする。この二つは電子を出し入れし、酸化型と還元型を行ったり来たりする。それでは、この酸化還元対はどのような時に電子を出し、どんな時に電子をもらうのか。それは電子のエネルギーレベルで決まる。酸化還元対がもつ電子のエネルギーレベル(酸化還元電位)よりも高い(負に大きい)エネルギーレベルの物質が相手だと、その相手から酸化型成分が電子を受けとる。一方で、酸化還元電位よりも低いエネルギーの物質が相手のときは、還元型成分が相手に電子を与える。代表的な酸化還元対には、2価の鉄イオンと3価の鉄イオン、写真の現像液の主成分であるヒドロキノンと、その酸化型であるキノンのペアなどがある。次に相手の金属について見てみる。金属にも電位があり、これは金属中の電子のエネルギーをあらわす。アルミニウムや亜鉛は比較的高い(負に大きい)電位で、金や白金は低い。金属の場合この電位を「フェルミレベル」と呼ぶが、まあ溶液の酸化還元電位と同じ意味だ。金属を水槽に、その中の電子を水に例えると、フェルミレベルは水槽中の水面といったところ。この金属を溶液に溶かしたとき、金属のフェルミレベルよりも溶液の酸化還元電位が低かったとしよう。電子は金属から溶液に動き、酸化型成分を還元する。結果、金属中は電子が不足して電位がプラスに偏り、逆に溶液はマイナスに偏って、金属のフェルミレベルと溶液の酸化還元電位が一致したところで電子の移動が止まる。金属中のプラス電荷と溶液中のマイナス電荷は界面に集まってくる。金属の内部から界面を見ると、金属側のプラス電荷が溶液側のマイナス電荷を完全に打ち消しているため、内部だけを考えれば、電位の差は生じない。

電池の概略・半導体を溶液に浸すとどうなるか……半導体にはエネルギーバンドがある。n型では伝導体の近くに、不純物のつくるドナーレベルというエネルギー順位があり、ここの電子が伝導体にうつっていくらかの電流が流れる。このとき、半導体の電子のエネルギーを表すフェルミレベルは伝導体の底あたりにある。この半導体を、そのフェルミレベルよりも低い酸化還元電位をもつ溶液に浸すと、半導体から溶液に電子が移動し、フェルミレベルと酸化還元電位が等しくなる。半導体側では、内部で電子が不足し電位がプラスになるのだが、その電子はもとはといえばドナーレベルにあったもので、そのドナーレベルは半導体の中にバラバラ撒かれているのだから、プラス電荷が界面に集まることはできない。結果、半導体の電位は、界面から内部に向かいパラパラと下がり、エネルギーバンドが曲がることとなる。

電池の概略・太陽電池の動作原理……溶液に浸した半導体に光を当ててみる。すると、価電子帯から伝導帯に電子が飛び上がり、励起された電子はバンドの曲がった斜面に向かい半導体内部に転がり落ち、価電子帯に残った正孔は界面へ転がりあがる。奥に入った電子はそこで行き止まりになるため、次々に励起された電子は、奥の方にどんどんたまる。一方で界面に来た正孔は、エネルギーが十分低いため、溶液中の還元型成分から電子を引き抜き消滅する。結果、半導体の奥の方は次第にマイナスに偏って電位が上がってくるため、バンドの曲がりは小さくなる。そして、励起された電子が転がらなくなり元の場所でウロウロするため、真下(エネルギー的には真下だが空間的には同じ場所)の正孔と再結合する確率が高くなり、励起のスピードと再結合のスピードが釣り合うところで安定する。照射する光が充分に強ければ、最終的にはバンドの曲がりが完全になくなる。ここで、同じ液の中に別の金属電極(対極とよぶ)を浸して湿式太陽電池の構成にし、半導体と金属の電位差を測る。電圧はつまり電子を流そうとする力であり、それはフェルミレベルである。金属対極のフェルミレベルは液の酸化還元電位と同じなので、半導体電極と金属対極の間の電圧は、半導体と金属のフェルミレベルの差ということになる。そしてこれは、元々の半導体のフェルミレベルと液の酸化還元電位の差と同じ。これがこの電池の最大電圧で、開放電圧と呼ぶ。つぎに半導体と金属対極を電流計でつなぐ。電流計は理想的には短絡なので、半導体に溜まっていた電子が対極に入り、ここで溶液中の酸化型成分へと移る。すると半導体のフェルミレベルは光を当てる前の状態に戻る。このときの電流を短絡電流という。

電池の概略・太陽電池における電子の「旅」……電子の旅は価電子帯から始まる。光を吸収してここから伝導帯に飛びあがり、坂を転がって外に出てくる。外の回路を通り金属対極に入り、液の酸化型成分にうつり、還元型に変化させる。還元型成分が液中を漂って半導体電極の表面に達すると、電子は価電子帯の中に残っていた正孔に飛び移り、完全に一周して元に戻る。液でも、対極で酸化型が還元型に、還元型が酸化型になるため、原理的には永久に使えることになる。ただ、電流を流すと元に戻らないものもある。例えば水の電気分解をする電池は、対極に移動した電子が液中の水素イオンに与えられるため、水素イオンが水素ガスになり出ていってしまう。半導体自身が分解される例もある。大部分の半導体は、水溶液中で表面に集まった正孔のために酸化され水中に溶けだすため、湿式太陽電池に使える半導体は現在、酸化チタンのみ。

電池の概略・酸化チタンの泣き所……価電子帯と伝導帯のバンドギャップが大きいということ。それだけエネルギーの大きい、波長の短い光が必要になるため、紫外線じゃないと電池にできない。可視光線にそれは4％しか含まれないため、どんなに頑張っても効率を4％以上にはできないのだ。ここで登場するのが「色素増感」という考え方。色素というからには色を持っている、可視光を吸収するということ。そして光の吸収には、やはり半導体と同様「励起」が関わっている。色素の内部には半導体のようなバンドの曲がりがないため、励起された電子を転がして外に出すことはできない。それならば、可視光の吸収だけを色素にさせ、励起した電子をすぐに半導体に渡せばいい、という考え方をしたのだ。グレッツェル教授(ヒトケタ％だった湿式太陽電池の効率を10％以上に上げた人物)の考えた太陽電池も、色素増感太陽電池の一つだった。その原理は簡単。色素が光を吸収し、半導体の伝導帯に電子を移す。そこからは湿式太陽電池と変わらない。

真空の概略・真空をつくると分子の数はどうなるか……よく見られる油回転真空ポンプ(ロータリーポンプ)でつくれる真空は、分子の数は10兆個、トリチェリの実験で使った水銀管のあの空間の中にも、これぐらいの水銀電子が漂っている。さらに拡散ポンプというタイプのものを一緒に使えば2ケタ減らして1000億個。ここまでなら十数万で実現可能。さらに高価なものをそろえていけば、100万個まで減らせる。数千万円の分析装置にはこれが実装されているものも。地球でつくれる最高の真空度はたぶんこの1～2ケタ下で、宇宙空間ではわずか数千個。

真空の概略・真空にするポンプのしくみ……ちょっと減圧するだけなら掃除機でもできるが、圧力を2ケタ以上下げるならやはり真空ポンプ。油回転オイルは、オイルを入れた胴体の中でロータを回転させてガスをかきだす仕組みになっている。原理的にはピストン式のポンプと変わらない。ロータが回って部屋が広くなったところにガスを引き込み、さらに回転させて部屋を狭くし、引き込んだガスを別の出口から放り出す。油がないと効率が悪くなるらしい。これで減圧した後、さらに油拡散ポンプというのが用いられる。油を加熱して蒸発させ、ノズルから噴き出すことで流れを作り、それに巻き込んでガスを運ぶ。油の蒸気は元の液体に冷却されて戻るため、何度も循環させる。こいつの難点は単独で使えないこと。大気圧のところにいきなり拡散ポンプを持って行っても、多量の空気分子におされ、一方向の油分子の流れができないのだ。さらに真空度を上げるためにはかなり高価なものも必要。その一つがターボ分子ポンプ。名前に反し構造は単純で、沢山の羽が扇風機のように周り、空気を吸気口から排気口に飛ばす。

静電気の概略・静電気の正体は実はわかっていない……単純に言ってしまえば「プラスとマイナスの電荷が流れないでじっとしている」状態なのだが、その電荷の正体、それがたまっていく過程などはよくわからないらしい。接触とか摩擦により、一方からもう一方のほうに電荷が移動する。しかし、金属のように自由に動き回れる電子はないため、どこからきてどこにいくのか、わかっていないという。まあ、どこかに電子を出しやすい部分と受け取りやすい部分があるのだろう。接触とか摩擦と別に、細かく破壊することで帯電するケースもある。水の場合はこれが滝で見られる「マイナスイオン」らしいが、それが体にいいのかもわかっていない。

静電気の概略・静電気のプラスとマイナスはどう決まるか……プラスに帯電しやすいものがアスベスト、ガラスなどで、負に帯電するものはテフロンとか塩化ビニル。しかしその順序もこれまたちゃんとわかっていない。金属について見れば、単純に電子のエネルギーという考えで説明がつくらしく、電子の飛び出しやすさの順序とほぼ一致する。一方で金属以外の絶縁性の物質に、帯電列を決める性質はない。強いて言えば天然物はプラス、人工合成物はマイナスに並ぶ。なお、電子を与えるとか受け取るといっても、そんなのは表面の原子数1万個に1個ぐらいの割合でしかない。イオン化などとはレベルが違う。

静電気の概略・帯電列に水が入ってない理由……それは、水が反応性の高い液体だからである。完全に純粋な水を用意し、それを破壊帯電させるまで純水なままで保つのが、限りなく困難なのである。さらにいえば、空気中の水蒸気からも電荷を受け取らないようにしなければならない。

静電気の概略・なぜ静電気は電圧が高いのか……摩擦帯電でも数千ボルトになるし、電気コップでは1万ボルトを超える。でも感電死した人なんて聞いたことはない。それは、静電気で高いのは電圧だけであり、実際に蓄えられている電気量が微々たるものだからだ。ここで平板コンデンサを考える。電極の大きさを1cm角とし、ここに10億分の1クーロンを蓄える(100Ｗの電球を1秒つけたときの電気量が1億クーロン)。さて、このコンデンサの間隔を1マイクロメートルにしたら、電圧は1ボルトとなる。1mmだったら1000ボルト、1メートルともなれば100万ボルト。ほんのわずかの電気量で超高電圧が発生する。引きはなすのに使ったエネルギーが電圧として蓄えられるのだ。静電気の場合もこれとだいたい同じで、指先とドアノブの距離が近づくと、空気の絶縁が破れて、火花を飛ばして放電が起こる。体にたまった静電気がノブに引き寄せられ、地面に逃げることとなる。電気量はわずかだが電圧が高いため不快な感覚を催す。ただもう一つ原因があって、ごく短時間に集中し、狭い面積に電気が流れることも原因。だから「バチッ」を避けるには、広い面積を通し、徐々に電流が流れるようにすればよい。

静電気の概略・雷を発電に利用できないか……雷は電圧1億ボルト、そして電流数万アンペアというけた違いの大きさをもつ自然現象である。落雷を発電にできないかと考える人がいてもおかしくはない。ところが、その電流と電圧の大きさに反し、落雷の持続時間はたったの1万分の1秒。エネルギーとしては300kWhで、一軒家で使う平均月電力と同じぐらいである。ただここで注意が必要なのは、雷のその巨大なエネルギーの大部分は電圧によるもの。電気量でみると、10万アンペアが1万分の1秒なわけだから、たった10クーロン。しかも1億ボルトもの電圧を受けて壊れない装置などこの世にないため、まあ無理っぽい、そのうえ10クーロンはコストに比べ利用価値がない。本来は効率が悪いとされる、熱エネルギーの形で取り出すことを考えたほうが得だろう。

静電気の概略・バンデグラフ……摩擦帯電を利用した静電気発生装置。バンデグラフは人の名前。科学館に置いてあるほか、教材用に出回っているため割と有名だろう。塔のてっぺんに金属球がついた、あの装置の名前である。上下のローラーにゴムベルトをそれぞれかけて回転させると、ローラーとベルトの摩擦で静電気が発生する。ローラーの材質は上下で違っており、例えば上をエボナイト、下を塩化ビニルにしておくとか。下で発生したプラス電荷(ゴムベルトにはプラス電荷が帯電する)はゴムベルトで上に運ばれ、金属球に蓄えられる。一方で上で発生したマイナス電荷は、下に設置された金属片を通し地面へ逃げ、電荷がなくなったゴムベルトは再びプラスを受け取る。これを持って装置を運転すると髪の毛が逆立つとか、別の金属球を近づけて放電が起こるとか、結構面白い。手作りも可能。大型のものは人工雷を発生させることも可能で、落雷被害の研究とかに使われている。そのほか、ここの球体にイオン発生装置を組み込み、そのイオンを高電圧で加速する装置が、素粒子の世界で使われている。

静電気の概略・静電気による引火事故……静電気火花による引火事故は多い。火薬、有機溶媒はもちろん、小麦粉などでも粉塵爆発を起こす危険がある。そのため、人体に対しても装置に対しても、十分な静電気対策がとられる。意外に知られていないのは「有機溶媒自体」で発生する静電気だ。有機溶媒には導電性がないため、しっかり静電気をため込んでしまう。例えば容器に入ったそれを別の容器に移し替えるときに起こる。研究室程度の規模ならまだしも、工場のようにトン単位の溶媒が扱われる場所では、実際に有機溶媒の静電気による爆発事故も起きている。これを防ぐため、パイプに窒素を満たし、燃焼が起きないようにしている。

静電気の概略・半導体の静電破壊……半導体のうち「絶縁膜」と呼ばれる部分で起こる、非常にやっかいな問題。ここは最も静電気に弱く、ちょっと高い電圧がかかるだけで電流を止めきれず、破壊されてしまう。とはいっても火を噴くわけでもなく、ただ静かに壊れるのでかえってたちが悪い。静電気の電気量はごくごくわずかだが、相手が微細な半導体素子となると、その電流でも被害が出る。

静電気の概略・電場とは何か……空間に電荷を置いた際に考えることができる、仮想の空間のこと。電場は「場」なので、電場そのものがエネルギーを持つわけではない。電荷が置かれて初めて「場」が現れるのだ。

静電気の概略・電気のポテンシャルとは何か……1個のプラス電荷が空中にポツンとある場合の静電場を考える。これがつくるエネルギーを考えよう。そのエネルギーを山の高さで表したものが「ポテンシャル」である。「そこに置かれた電荷にエネルギーを与える能力」ということである。ポテンシャルは中心付近で非常に大きく、遠いほど緩やかに減っていく。それでは、これらの電荷が受ける力はどうだろう。この力は、電荷のエネルギーを小さくすることで発生するものなので、エネルギーの小さくなる程度が激しいほど、つまり、ポテンシャルが急激に小さくなるほど、力は小さくなるはずだ。これを言い換えれば「電荷が受ける力の大きさは、ポテンシャルの山の斜面の傾きと一致する」ということである。

静電気の概略・静電場中の双極子……双極子はプラスとマイナスの電荷がセットなので、もしプラス部分のエネルギーとマイナス部分のエネルギーが同じ大きさなら、双極子のエネルギーはゼロになってしまう。電荷のエネルギーはポテンシャルの山の高さだから、2つの点のエネルギーの違いというのは、2点間の山の高さの差、つまりポテンシャル斜面の傾きに他ならない。つまり、電荷の場合にはポテンシャル斜面の傾きは力の指標だったが、双極子の場合はエネルギーの指標になるのだ。双極子が受ける力は、斜面の傾きのそのまた傾き(2階微分)で表される。

色彩学の概略・色の吸収と発光……ものに色がついて見えるためには発光、あるいは光の吸収しかない。光の吸収とはエネルギーをもらうことであり、高いエネルギーを収めるための状態が、物体に揃っているということである。これと逆が発光であり、いずれにせよ「底辺と頂上のエネルギーの差」は物質によりとびとびの値をとる。原子とか分子のもつ振動・回転のエネルギーは小さく、マイクロ波とか赤外線ぐらいしか吸収・放出できない(これを原理にするのが電子レンジである)。しかし電子のエネルギー変化はたいてい可視光線から紫外線の領域にあり、物体に色がつくとなると、ほぼ電子のエネルギー変化によるもの。

色彩学の概略・発光スペクトル……例えば、原子状の水素の発光と光吸収の様子を、光を波長ごとに分解したスペクトルで表してみる。原子状水素は強烈な加熱や放電をして励起状態にすると、特定の波長の光を出す。これが水素の「発光スペクトル」である。逆に、基底状態の水素に白色光を当てると、特定の波長の光が吸収され、通過してきた光に暗いスジが現れる(吸収スペクトル)。そしてその波長は、発光の波長とぴったり一致するのだ。ただ、そんな特定の波長が抜けた光を見ても、人間には恐らく「ああ白色光だ」としかわからないだろう。

色彩学の概略・幅広い吸収により色がつくられる……人間が色を感じるためには、鋭い吸収ではなく、もっとごっそり、ある波長付近の色を消す必要がある。これは、原子を繋いで分子にしたり、原子を液体や固体にすることで簡単に可能である。複数の原子が繋がることで振動や回転など複雑な運動が起こるようになる。その激しさに応じてエネルギーを持つ。例えばまあ、分子が複雑になるとエネルギーが増え、吸収される光の波長も連続的になり、赤の領域がごっそり抜けることで、補色のシアンが見えたり、とか。

色彩学の概略・有機物で可視光線を吸収させる方法……大半の分子や固体、液体が吸収する光の波長は紫外線の領域なので、せっかく幅広い吸収を起こしても色がついて見えない。空気、水、アルコール、エーテル、ベンゼン、多くのものは無色である。だから染料や顔料になる物質には、そうなる理由がちゃんとある。まず有機物でいうと、「惜しい」例がベンゼン環や二重結合をもつ化合物だ。こいつらもともと状態のエネルギー差が小さいから、ちょっと細工をするだけで簡単に吸収が可視光線の領域になる。その細工とは例えば、別の物をくっつけること。ベンゼンをニトロベンゼンにすると波長の長い青色領域を吸収するようになり、橙色になる。他にも二重結合とかベンゼン環を重ねることで基底状態のエネルギーを高め、長い波長の光も吸収できるようになる。有機色素の面白い所は、構造をちょっと変えるだけで色がガラッと変わるところ。例えば青色顔料の銅フタロシアニンに塩素をつけると、色が緑に変わる。

色彩学の概略・無機物で可視光線を吸収させる方法……無機物の主役は金属だ。天然の鉱石の色もほとんどは金属イオンによるもの。しかし金属そのものには、ほとんど色がない。なぜ発色が起こるのだろう。簡単にいえば、金属イオンを取り囲む別の原子や分子(配位子という)の影響で、元々ほぼ同じだった電子のエネルギーに高低差ができ、これがちょうど可視光線のエネルギーに相当するため。どんな電子でもいいことはなく、外に向かっていろいろな方向に広がった「d軌道」に入っている電子のみに限る。つまり、d軌道に電子を持つ「遷移金属」でなければ、着色は起こらないことになる。配位子による着色現象はかなり複雑なので、原理は省略する。

色彩学の概略・染料と顔料の違い……着色に用いる色素は普通固体の粉であるが、普通はこれを水に溶いてペースト状にしたり、サラサラの液体にして使う。このとき、溶媒に溶けて溶液になっているのが「染料」、そして解けずに固体の粒子として分散するのが「顔料」というのが一般的。だが、これだと困ることもある。例えば「分散染料」というものがある。溶けずに分散していてなお「染料」とは。「溶ける」「溶けない」とは違った区別の仕方を考える必要があるだろう。ここでポイントが染料の「染」の字。顔料の場合、粒子が塊の上に乗っかって着色をする。繊維に強く結びつくわけではない。つまり、何らかの作用によりしっかり固定されたのが「染料」で、そうでないのが「顔料」といえそうだ。分散染料とは結局、最初は顔料のように塊として乗っていて、後からだんだん分子がばらけ(散乱して)染料になるということ。色の鮮やかさ、光沢、そして繊維との相性でいえば、当然染料のほうが上ということになる。しかし顔料は寿命が長く、また乾いた後の水濡れにも強い。

色彩学の概略・なぜ交通標識の「止まれ」や赤い看板は変色しやすいのか……それは赤色が紫外線で変色しやすいから。無機物の顔料は、何万年も構造を維持できる(色素の分子が集まって塊をつくるから、表面の一部が壊れてもへっちゃら)のだが、有機物の染料は分子が1個1個ばらばらで、破壊に弱い。紫外線を吸収すると色素分子の電子のエネルギーが励起、これがもとに戻らず、途中で分子内の化学結合を切ってしまうことがある。赤い色を出すということは、その補色となる青系の色をよく吸収することを意味する。当然、余計な紫外線まで吸収するのだ。

超臨界流体の概略・超臨界流体について……液体と気体の境目は「分子同士の相互作用の強さ」「体積が一定かどうか」という判断基準があるが、例えば圧力がめっちゃ高い気体があったらどうだろう。それを区別する方法としては、その物質を加熱したり冷却したりすること。そこで沸騰・凝縮が起これば、はじめのものが液体か気体かがわかる。しかしある特殊な状態だとその変化さえ起らない。これが「超臨界流体」と呼ばれる状態で、もはや液体と気体の区別がない。例えば水を密閉し、真空にした容器の中で加熱する。300度にすると、3ケタも違ってきた密度がかろうじて数倍にしかならなくなる。さらに加熱するとついには同じになり、そこが超臨界流体となる。二酸化炭素でいえば、31度、72気圧であり、わりかし起こりやすい。典型的には温度と圧力を横、縦にとったグラフで表す、一番右上の状態図に超臨界流体がある。この領域でいうところの左下の点が「臨界温度、臨界密度」の点である。

超臨界流体の概略・超臨界流体の特異な性質……ある面では気体と液体の中間の性質で、またある面では流体に近く、さらにある面では液体に近い。分子レベルでものを考える時に出てくるのが、分子の数、動きの速さ、分子どうしの相互作用である。分子の数はマクロには物質の密度として現れる。分子の動きの速さは拡散係数というもので表され、例えば水にインクが溶けて拡散していく指標がそれ。気体の場合は一瞬で起こるから大きくなり、液体は気体よりはるかに小さい。分子同士の相互作用の例には、粘土や表面張力がある。超臨界流体は分子の数が液体に、分子どうしの相互作用は気体に、分子の動きの速さは中間レベルといえる。液体のように密度が高いのに、粘りはなくサラサラしている。

超臨界流体の概略・超臨界流体の性質の何が都合がいいか……密度が多いといろんなものを溶かしこむことができる。しかも、圧力をちょっと変えただけで密度が大きく変化し、溶解能力も変わる。つまり溶解性も変化させられる。サラサラとした動きは、複雑な形をした機械部品の隙間にも入れることを意味する。それより小さな、活性炭とかシリカゲルにも出入りできる。さらに、気体と同じように、他の超臨界流体や気体と自由に混合できるし、その中でものを燃やすことだって可能。

超臨界流体の概略・超臨界流体の用途……奥まで入りこむ性質、ものをよく溶かす性質を利用し、主に「固体から特定の成分を抽出する」ことに用いられる。この分野では特に二酸化炭素が活躍している。身近な例としてはコーヒー豆からのカフェインの除去がある。加熱すると大事な香り成分なども一緒に出るし、食品に有機溶媒を使うわけにもいかないから、超臨界二酸化炭素は重宝される。圧力や温度を調整すると、香り成分を損なわずカフェインのみを取り出すことができる。そのほか、ドライクリーニング(水ではなく有機溶剤を使うクリーニング法)でも活躍している。「液体」は使わないうえ、取り出した時点で洗濯物は完全に乾いているため、正真正銘「ドライ」。

超臨界流体の概略・超臨界水……めちゃくちゃ活性が高い臨界状態の水。特に酸素などの酸化物を含ませると、ほとんどの有機物が即座に分解するため、PCBやダイオキシンをもきれいに分解できることになる。ところがあまりに活性が高いため、容器や配管までやられてしまう。ステンレスの容器やバルブもすぐに駄目になるし、ニッケルやチタン系の合金は丈夫だけど高いしで、なかなか民間が参入しない。それでもなにせ「水」なので、そのものの安全性は文句なし。そのほか、廃プラスチックのリサイクルにも用いられる。プラスチックを構成する分子を分解し、元の小さな分子にしてしまおうというわけ。

水の電気分解のとき、イオンを溶かす理由……水だけでは電流が流れないので硫酸ナトリウムなどを溶かしたが、そもそもそれはなぜだろう。電流に関係するのは水素イオンと水酸化物イオンだけであり、どこにも塩が出てこない。なぜだろう。それは水素イオンが素直に電極から電子を受け取らないからだ。実は、陰極から出ていく電子が一定以上のエネルギー、つまり電位をもたないと水素イオンに受け取ってもらえない。水素イオンが電子をやり取りする電位が酸化還元電位だが、それよりも陰極のエネルギーが負に大きくならないと、電極から水素イオンへの電子の移動は起こらない。同様に水酸化物イオンの酸化還元電位よりも正に大きくならないと、電子を出さない。電圧を上げていってもなかなか電流が流れ始めないのは、この一種の「しきい値電圧」を超える前だからといえる。壁はそれだけではなく、活性化エネルギーの問題が残っている。つまり、電子が活性化エネルギーを超えないと物質が還元されない。その原因はいろいろで、例えば反応の途中でエネルギーがでかい中間物ができるとか、電子が飛び出すのに勢いが必要だとかいろいろ。電位をもっと上げてやればついに分解が始まる。活性化エネルギーの山の高さは、電極の種類とかその表面の状態でも変化する。大雑把にいって、同じ材質なら表面が凸凹しているほど小さくなる。さて、塩を溶かす意味だが、これは、外から加えた電圧を電極近くの狭い部分に集中させるため。電荷が低くなった山を楽々越えて水に移り、効率よく電極反応が進むのだ。

ろくぶんぎ座……うみへび座としし座の間に位置する星座。航海とか天体観測に使う測量器具のひとつ。全体的に暗く、星といった並びもこれといった特徴がなく、見つけにくい星座の一つ。ポーランドの天文学者・ヘヴェリウスが1690年に設定したのだが、実は彼、天体観測に愛用していた六分儀を自宅の火災で失ってしまい、それを偲んでつくった。そのため神話などは伝わっていない。

リーグ・アン……フランスにおけるサッカーの1部リーグ。モナコ公国はサッカーにおいてはフランスに入るため、モナコのクラブも参加できる。20のチームがそれぞれ2回、ホーム・アウェイで対戦し順位を決める。シーズン終了後は、リーグ・アンの下位とリーグ・ドゥ(2部リーグ)の上位2チームずつが自動的に入れ替わる。イングランドのプレミアリーグ、スペインのリーガエスパニョーラ、イタリアのセリエA、ドイツのブンデスリーガのように、UEFAランキングで1位をとったことはないが、まあまあハイレベルとはいえる。2018年現在、ゴールキーパーの川島永嗣(えいじ)が所属しているチームもここにある。

GIS……”Geographic Information System”の略、日本語では「地理情報システム」。地球上の事物をコンピュータの地図上に可視化、情報の関係性、傾向をわかりやすく導く目的がある。要するに「駅から徒歩10分圏内の物件」「犯罪率が高い地域」「店舗出店に最適な場所」など、場所に関する問いの答えをビジュアルに表現できるシステム。

エノコログサ……漢字で「狗尾草」と書く、イヌの尻尾に似た草。夏から秋にかけてつける花穂は猫がじゃれつくことから「ネコジャラシ」と呼ばれる。実は穀物の粟の原種とされ、交雑も起こる。全世界の温帯に分布し、日本でも荒地・畑地に分布する。縄文時代後半に粟作とともに伝わったものとされる。現在食用として認識されていないが、いちおう食べることは可能。飢饉のときにカラスムギなどとともに食用としたこともあった。

自在鉤……いろりの上から下げ、鍋とか釜をつるすために使う。普通は竹筒と鉤つきの棒からなる。アレに名前が。自在鉤はオカマ、カギドなどと呼ばれ、火の神がいる場所と考えられていた。これにより鍋と火の距離、つまり火加減を調節する。

縄文杉は実は「固有名詞」……屋久島に自生する、最大級の屋久杉。実は種の名称ではなく、個体名。キツネに「モッケイ」と名付けるようなもん。屋久島を代表する木として知られ、世界遺産に包含されている。年齢は古くとも4000年以下とされている。

MAN WITH A MISSION……日本の5人組ロックバンド。頭はオオカミ、体が人間の「究極の生命体」5人で構成される設定。外見から「オオカミバンド」という身もふたもないあだ名をつけられている。公式設定としてはとある博士のマッドサイエンスにより生まれ、ヒトラーやスターリンに利用されることとなり、罪の意識にさいなまれた博士が南極に氷漬けにした。凍結中はオオカミならではの聴覚で世界中の音楽を聴いていた(まあ、オオカミはせいぜい数十キロ先までの遠吠えしか聞き取れないので嘘と思われる)が、2010年、地球温暖化の影響で氷河が溶け、バンドを開始。国籍も年齢も本名も非公開である(という設定だったが、以前に活動していたバンドで発表した曲と収録曲が同じだったことから、全員バレてしまった)。実はオオカミの顔も全員違う。

ラングドシャ……フランス語で”langue de chat”つまり「猫の舌」という意味で、猫の舌の形をしているからそう呼ばれるビスケット。バターと同量の砂糖を加え、小麦粉、卵白などを加えてつくりオーブンで焼き上げる。軽く口の中で溶ける食感が特徴。日本では北海道銘菓「白い恋人」が特に有名で、ホワイトチョコレートをはさんでいる。

インターナショナルオレンジ……航空宇宙産業で定められている鮮やかな朱色のこと。なぜこの色なのかというと、目立つため。航空法により「60メートル以上の電波塔などにつけよう！」とあるため、例えば東京タワーの赤はこの色である。スカイツリーは航空障害灯をつけているためその必要はない。よくわからない人は「宇宙服のあのオレンジ色」と言えばわかってもらえるだろう。万一地球に不時着したときに見つけやすい色だという理由から。航空業界や宇宙産業で採用されている。さらにさらに、「ブラックボックス」(フライトデータやボイスデータを記録するレコーダ)もオレンジ色。黒じゃないのだ。

モネダ宮殿……チリの大統領官邸。もともとはスペイン植民地の造幣局の建物として着工されたが、その後チリ大統領が使用するように。しかし大統領の住まいは別のところにある。1973年に起きたチリ・クーデターでは、アジェンデ大統領が執務していたここに空軍が爆撃。大統領は銃で自殺を遂げた。その後大規模な再建が行われた。モネダは「多額のお金」「造幣局」という意味。

信濃……日本海軍の航空母艦の名前。第二次世界大戦で最大の航空母艦だが、それはなぜかというと大和型、武蔵方に次ぐ大きさの戦艦として計画されたから。その後しかし、アメリカが大型空母を多数つくっているという情報を得たため、急遽空母に変えたのだ。1944年11月19日に竣工するが、11月29日、護衛されて航行中、紀伊半島潮岬沖合でアメリカの潜水艦に雷撃を受け、魚雷4本が命中。浸水が止まらず沈没。なんと竣工から沈没までわずか10日という短命極まりない運命だった。日本初の航空戦艦ではあるが、いわば苦肉の策だからねえ。

ジルベスターコンサート……大晦日に行われる、クラシック音楽のコンサートのこと。「ジルベでダイク」といえば、それは「ジルベスターコンサートでベートーヴェンの第9番交響曲を演奏する」という意味。ジルベスターとはドイツ語で「大晦日」という意味で、英語では「ニューイヤーズイブコンサート」と呼ぶ。日本で最も有名なものといえば東急のものだが、福岡サンパレスでも毎年行われている。

別々の名前で呼ばれる山脈が南極にある……それがやまと山脈だ。南極大陸にあり、昭和基地から30キロ南西に位置し、最高峰は「福島岳」の2470メートル。ベルギーのファビオラ王妃にちなみ「クイーン・ファビオラ山脈」とも呼ばれる。1937年に存在自体は発見されていた(ノルウェーの航空隊により)が、詳細な調査が行われず「1937年山脈」と呼ばれていた。その後、日本の南極観測隊がこれを調査、踏破し、やまと山脈と命名。同時に「福島岳」「白瀬氷河」とも命名。ところがベルギーはこれを譲らず、「俺たちのほうが先に存在を視認したんだ、空中写真も撮った！」と発見の優先権を主張、別々の名前で呼ばれている。

プラタナス……スズカケノキ属の植物の総称。北半球に自生する樹木であり、日本では街路樹としてよく知られている。ほとんどは水辺や湿地で見られ、栽培時には干ばつに耐性がある。プラタナスの語源はギリシャ語の「広い」であり、大きな葉に由来する。世界の四大街路樹は「プラタナス・ニレ・ボダイジュ・マロニエ」である。

いいところで「次回に続く！」ってするアレ……それはクリフハンガー。作劇手法の一つ。劇中の感極まる場面、盛り上がる場面、要するにクライマックスなどで物語を中断し「つづく！！」としてしまう結末のこと。つづくとするけど次回作をつくるつもりはあんまりなかったり、あったり。語源は1910年代のアメリカで流行った連続活劇のオチで、主人公が崖からぶら下がった絶体絶命のシーンで劇が終わったことから、「クリフにハンガーする(ぶらさがる)」からきている。自由に物語の結末を想像させることができるのだが、当然ながら批判も多い。ちなみにアメリカは、俳優との契約がシーズンごとなので、契約交渉が失敗するとその役者は次のドラマに出なくなる。だから、誰が黒幕になってもいいようにする必要がある。「お前が黒幕だったのか！！」と、顔の見えない人に主人公が語り掛けるアレも、ちゃんとそういう理由があったのだ。

耳学問……人から聞きかじった知識のこと。自分で学べ、という話である。大量の情報が一瞬で得られるネットでは耳学問も簡単だが、知識をアウトプットできる人、お金に換えられる人、適切に披露できる人は驚くほど少ない。というか大抵の人は耳学問さえしない。

トロンプルイユ……シュルレアリスムにおいてよく用いられた手法、技法。フランス語で「眼を騙す」という意味である。要するにだまし絵で、例えば壁とか床に架空の窓や風景を描き、存在するかのように見せかけるもの、平面作品にものを貼り付けて、絵の一部が外に飛び出すようなもの、エッシャーの滝などである。日常のいろんなところにトロンプルイユは用いられている。例えば木目やレンガの絵がプリントされたタイルやカーペットなんかは、遠めからでは本物と見分けがつかない。和室の壁に塗られているジュラク壁も、実は天然の土ではなく、砂粒に色土とスサをまぶして化学糊で固めた顆粒を素材につくられたもの。騙された！とか偽りだ！とさえ思わなければ、エコに健全に暮らすことのできる技法である。きっと気分次第なのだろう。だまし絵といえば気分も悪いが、フランス語の発音そのままに言うだけで、ハイセンスなイメージさえする。ものごとはいつだってだまし絵のように、捉え方次第で良さと悪さが逆転する。優れた建材にあえて上手にだまされてみるのも、これまた色んな意味で、時代に即した「エコ」のひとつかもしれない。

アノマロカリス……カンブリア紀中期、バージェス動物群の代表ともいえる動物。海生生物、この時代としては最大かつ最強で、カンブリア紀の生態系の頂点に位置していた。19世紀末に発見されたエビのような化石の正体なのだが、みんな「なんでエビの尻尾しかねえの？頭部ねえやん！」ということで「奇妙なエビ」(アノマロカリス)という学名が与えられた。その後、ロッキー山脈のバージェス頁岩の中から軟体組織を含む化石が出土し研究が進んだことで、それまで別の化石だと思われていた「エビ・クラゲ・ナマコ」は、実はアノマロカリスの「触手・口・胴体」とわかった。最大で2メートル、三葉虫を主食にしていたと思われる。

ルイ・ブライユ……フランスのアルファベットの点字開発者。3歳のとき、父親が使っていた錐を目に刺してしまい、全盲に。その後はパリ王立盲学校に1819年に進学、夜間に命令が出たときに使われる「ソノグラフィ」という12点の暗号を知り、アルファベットを表すには6点あれば十分ということに気付いた彼は、現在の6点式の点字を発明した。さらに楽譜や数式の書き方も定めた。現在では彼の生家は「点字博物館」として公開されており、盲人に光をもたらす彼の遺徳を偲んでいる。「点字」を表す語は多くの国で”Braille”(ブライユ、ブレイユ)だが、これも彼の名前にちなんでのこと。

ユースホステル……プロイセンのリヒャルト・シルマンが創設した、青少年の旅に安全・安価な宿泊施設を提供しようという運動と、それによりうまれた宿泊施設。海外では、素泊まりまたは朝食付きで3000円以下と非常に安価で泊まれ、古城、歴史的建造物、豪華な邸宅など宿泊施設も結構いい。現在では世界の80か国に5500施設があり、そのうち3分の2がヨーロッパにある。日本はたった200施設ほどしかないが、1泊2食で5000円ほどと魅力的。

チャイ……茶を意味することばだが、狭義には、紅茶に砂糖とミルクを加えてひと煮たちさせたもの。インド式というかインドで非常に親しまれており、大量の砂糖とミルクで味付けするのが特徴。香辛料をいれることもある。

日本語のフォント大別……明朝体、ゴシック体、筆書体、デザイン書体に大別できる。明朝体は横線より縦線が太く、横線の右端に三角形の山(これを「ウロコ」とよぶ)がある。ゴシック体は横縦の太さがほぼ同じでウロコもほとんどない。筆書体は、筆で書いた文字を再現したもので、行書体や隷書体が含まれる。デザイン書体にはポップ体と手書き風書体が含まれる。研究発表やビジネスでは明朝体とゴシック体のみを使う。これは当然、情報を受け取りやすくするためだ。新聞や小説、論文では明朝体を使うのが当然であり、これは読み手に負担を与えないため(可読性が高いのだ)。ただし、学会発表のポスターとかプレゼンのスライドでは、遠くからでもよく見えるゴシック体を使うのがよい。また、小見出しだけをゴシック体にし、目立つようにさせることもある。

欧文のフォント大別……セリフ体、サンセリフ体、スクリプト体、デザイン書体に大別できる。セリフ体は”Times New Roman”に代表され、日本語の明朝体みたいなもん。サンセリフ体は日本語のゴシック体に対応し、”Arial”や”Segoe UI”などが有名。スクリプト体はいわゆる筆記体で、デザイン書体は手書き風書体など。日本語の場合と同様、セリフ体が最もよく公式に使われる。

「国際苦味単位」という単位がある……IBUと略されることもある。何に使うのかというと、だいたいはもう1つ。ビールの苦味を測るための単位とされている。ビールの苦味はホップによりもたらされるが、その苦味の成分の中で最も苦くかつ量が多い「イソフムロン」の割合で定義される。スコヴィル値と違い、決して主観的なものではなく、計算式までちゃんとある。

天体望遠鏡の像は全て逆さま……それは性能優先のため。地上望遠鏡はわざと正立像にしているが、そもそも空の星に上下の向きはないため、これでいいのである。ごくごく弱い光を集める必要がある天体望遠鏡では、間に入るレンズの数はなるべく少なくしたい。ちょっとしたレンズのゴミも光のロスも重大な問題なので、接眼レンズと対物レンズのみでできている。昔ガリレオがつくった望遠鏡は、対物レンズが凸レンズ、接眼レンズが凹レンズの正立タイプのものだったが、これは見える範囲が非常に狭く、目を中央に置くと、斜めから入ってくる光を見ることができない。現在ではオモチャの望遠鏡とかオペラグラスにしか使われない。

天体望遠鏡の2つのタイプ……屈折型と反射型である。それぞれ得意とする対象物が異なる。屈折望遠鏡は対物レンズを凸レンズにしたもので、大口径化は困難。対物焦点距離は長く、惑星を見るのが得意である。一方で反射望遠鏡は対物を放物面の鏡にしており、大口径化は結構簡単。焦点距離は短く、星雲などを見るのが得意である。望遠鏡の性能は対物レンズ、または鏡の直径であり、これを「口径」と呼ぶ。分解能も集光力も全部口径により決まる。これに対して倍率はいくらでも大きくすることが可能で、しかし倍率だけ高くてもボケやすいため意味がない。反射式のほうが圧倒的に有利そうだし、事実世の中の大望遠鏡のほとんどは反射式。なのに店には屈折望遠鏡がたくさんある。なぜだろう。実は反射望遠鏡は鏡を使うため、周辺に行くほど像がぼける「コマ収差」という宿命がある。アマチュアの世界ではシャープさが求められ、特に写真の世界で有利なのだが、プロは美しい写真を撮るより、いかに微弱な光から情報を得られるかが重要なので、反射式を用いる。実際、日本がハワイにつくった口径8.2メートルの反射望遠鏡が世界最大だが、多数の鏡を組み合わせたものとしては10メートルのハワイのケック天文台が最大のよう。

電池の概略・電池はなぜ動作するか……電池の基本構成は正・負の電極、そして電解質。電極には電位差がある必要がある。では例えば亜鉛と銅を置き、その間を電球でつないだら、電球はつくだろうか。答えは否。亜鉛と銅、電位が違うのはそうなのだが、少し電子が移動しただけで銅の電位は下がり、亜鉛は上がる。電子の動きは電位差のつり合いと共に止まってしまう。そこで電解質だ。亜鉛にできた電子の穴を埋め、銅にたまった余分な電子を取り除くのが電解質の役割である。例えばボルタ電池でいえば、負極で亜鉛から電子が出ていき孔があくが、亜鉛そのものが陽イオンとして溶けだすため、孔は取り去られる。一方で正極では、銅に移った余分な電子が液体の中の水素イオンと結びついて水素ガスになるため、余った電子は液体の中の水素イオンと結びついて、水素ガスになって出ていくため、余分な電子はなくなる。

電池の概略・電池の性能を表す3つの指標……電圧、容量、エネルギーである。電圧は電位差なので、金属板2つを決めれば勝手に決まる。ところが現実そうはいかない。電池の内部抵抗が起電力の一部を消費するためだ。この影響は流れる電流が大きいほど大きくなるため、内部抵抗の大きい電池は大電流には向かない。容量はどれぐらいの電気を蓄えているかで、電池の外装に1200mAhとか書いてあるのがそれ。1200mAの電流を1時間流せるという意味。これを決めるのは電極材料の種類と量。例えば1gの亜鉛には9×10^21個の原子が入っており、1個の原子が2つの電子を出すため、1gで18×10^21個の電子を出せる。1mAhは2.25×10^19個なので、800mAhとなる。金属としては軽くて価数が大きいものがよいからアルミニウムが理想なのだが、アルミニウムは表面に酸化膜ができるため溶けださない。亜鉛とかリチウムが用いられる。正極材料としては酸化剤ということで二酸化マンガンが使われる。最後にエネルギーは、単位時間当たりのエネルギー、電力を表す。

電池の概略・小学校で学んだ「回路」の厳密な答え……小学校の理科では、電池を2個直列につなぐと2倍の電圧になるため電流が2倍、並列の場合は変わらない、と習った。しかしこれは内部抵抗がないときの話で、電池を直列につなぐと起電力は確かに二倍だが、内部抵抗も二倍なので、電流は二倍よりわずかに小さくなってしまう。一方で並列の場合、内部抵抗の影響は半分になり、つないだ豆電球は電池一個のときよりわずかに明るくなる。

電池の概略・電池の並列接続はしないほうがよい……複数の電池の状態が同じということは考えられないため、内部抵抗が小さい電池を電流が優先的に流れ、事故の原因になりやすい。古くなって電圧が下がった電池が混ざる場合も同様である。特にスイッチを切った状態だと、弱い電池に逆方向の電流が流れ大変危険。

電池の概略・乾電池のしくみ……液体チャプチャプのボルタ電池、ダニエル電池だと扱いにくいため、液を繊維に染み込ませたりゲルにしたりして固定、缶に密閉したものが開発された。最も歴史が古く完成されているのがマンガン電池で、それに対し、容量を大きく、大電流が流せるように改良されたのがアルカリ電池である。どちらも負極は亜鉛、正極は二酸化マンガンだが、その詰め方が違う。マンガン電池では、亜鉛の缶の中に正極合剤(二酸化マンガンを炭素の粉と練り合わせたもの)と電解液を詰め込み、電気を取り出すための炭素棒を真ん中に突っ込んだ形。電解液は塩化アンモニウムなど弱酸性の液。一方でアルカリ電池は外側が正極合剤で、内側が樹脂を使ってゲルにした粉末亜鉛。亜鉛をたくさん詰め込むことができ、また粉末にすることで速い反応にもついていける。電解液は水酸化ナトリウムなど。このほうが抵抗が小さく大電流に有利。正極と負極の間には「セパレータ」と呼ばれる多孔質の膜があり、ここに電解質が染み込んでいる。正極と負極が短絡するのを防ぎ、イオンは行き来できるが、電子は行き来できない。

電池の概略・リチウム電池……負極を亜鉛のかわりにリチウムにしたものがリチウム電池。カメラ用のずんぐりした円筒状のもの、直径2センチあまりほどと、とても薄いコイン型電池が出回っている。リチウムは軽く、1gあたりの容量でいえば亜鉛の5倍にはなるから、重さあたりの容量はずば抜けている。同じ二酸化マンガンとの組み合わせで3ボルトも得られる(マンガン電池は1.5ボルト)。しかしこれだけ電圧が高くなると水が電気分解してしまうため、電解質として水溶液ではなく、有機溶剤を使わなければならない。しかもその有機溶剤には水が入っていてはいけない。少しでも水が入っていると電気分解で酸素と水素が発生、電池が破裂することになる。どうしても電池自体は高価になってしまう。また、リチウムの溶剤には引火性のものが多く、取り扱いも注意。乾電池を分解して炭素棒を取り出す遊びは、リチウム電池に関してはやめたほうがよいだろう。

電池の概略・酸化銀電池……電卓などの小型機器に使われるボタン型の電池。負極はマンガン電池と同じく亜鉛だが、正極は酸化銀、電解液はアルカリ水溶液。とにかく安定性が高く、数年放置しても温度が変わっても特性が変わらない。大電流は取り出せないが、用途が時計とか電卓なので問題はない。

電池の概略・亜鉛空気電池……負極は亜鉛だが、正極の酸化剤として空気中の酸素を使う電池。といっても、酸素を電解液に触れさせただけでは反応しないため、触媒を正極側に仕込んである。正極剤が不要なので負極剤をたくさん詰め込める。同じ大きさの酸化銀電池の倍は長持ちする。補聴器用の電源として普及しており、コンビニでも売られている。使う前に勝手に反応が進まないよう、正極の外側にはシールが貼ってある。

電池の概略・電池の記号と種類……記号がないものは「マンガン電池」、Lは「アルカリ電池」、Sは「酸化銀電池」、M,Nは「水銀電池」、Cは「リチウム電池」、Pは亜鉛空気電池である。これらの記号の後ろには電池の形を表す表示(丸い場合はR、角型はFなど)さらに数字が続くがこれは単なる登録番号。もう一つ”CR2022”などと4ケタのものは、コイン型、ボタン型の電池に多くみられ、最初の二ケタがmm単位の直径、後の2ケタが0.1mm単位の厚さを表す。

電池の概略・二次電池とは……一次電池は反応が進むと、電流を逆に流してももとに戻らない電池。二次電池はそうではなく、充電が可能な電池。代表例には鉛蓄電池、リチウムイオン電池がある。

電池の概略・鉛蓄電池……鉛と酸化鉛の電極を硫酸に浸した簡単な構造の電池。値段が安く電池としての特性も優れているが、電極が鉛とかなのでとにかく重く、電解液は硫酸なので手軽には使えない。それでも、これに変わる価格と性能をもつ電池がないので、今でも車のバッテリーなどに使われている。

電池の概略・ニッケル水素電池……負極の還元剤を水素(というか、水素を大量に吸い込んだニッケル系合金)、正極をニッケル酸化物にした電池。電圧は1.2Vで、以前から使われてきたニッケルカドミウム電池が有害だったため、こちらに代替されてきている。両極ともに重い金属を使うためかなり重量がある。パソコンのバッテリーなどにも用いられるが、基本的に重くなりがち。しかし単三程度の大きさなら重さも気にならないため、最近普及しつつある。

電池の概略・リチウムイオン電池……俗に「リチウム電池」と呼ばれているが、一次電池のほうと区別しよう。正極はリチウムを含むコバルト、ニッケル、マンガンなどの酸化物で、負極は炭素。これらを導電剤と練り合わせ、正極をアルミ箔、負極を銅箔に塗り、くるくる巻いて容器に入れたもの。電池に少しでも水が混じっていると水が電気分解して酸素と水素を発生し、どんどんと膨らんでくる。また、有機溶剤には引火性のものが多いため液漏れには注意。

電池の概略・燃料電池の原理……電極で反応する物質を電池内部で蓄えるのではなく、外から供給できるようにした電池。その意味ではむしろ「発電装置」と言った方がいいかもしれない。最近注目されている電気自動車はこれを使っており、水素ボンベから水素を供給、空気中から酸素を供給し、これらを反応させることでエネルギーを取り出す。正極や負極には触媒作用の高い白金やパラジウムが使われている。

ハードディスクの基本構造……情報を記録する膜がついたディスクが何枚か入っており、ディスクの半径方向に駆動できる磁気ヘッドで情報を読み書きする。ヘッドで円弧を描くようにディスクが動く方法がとられているのが小型機。ディスクは1分で4000～1万回転する。情報はヘッドからの磁界でディスクの磁性体を磁化して記録、再生時には磁化したディスク表面から漏れ出る磁界をヘッドで読み取るのだが、そんな微弱な磁界をどう読みとるのか。まず、ヘッドとディスクはできるだけ近づけたいが、回転させれば上下に動くから、ヘッドをミクロン以下の距離でコントロールするのは不可能。そこで「浮上ヘッド」という方法がとられる。ヘッドをバネ仕掛けでディスクに軽く押し付けておき、ディスクの回転に伴って起こる風の力で浮き上がらせるのだ。ハードディスクの駆動中に衝撃を与えるのが駄目なのはそういう理由。ディスクの磁性膜はフロッピーディスクと比べはるかに高密度である必要があるが、基本的にはカセットとかフロッピーと同じである。一個一個の磁性粒子が磁石であり、これをNSまたはSNの向きにしてデータを記録する。N極が左向きの粒子の集団と、右向きの集団があるが、同じ向きが続く部分を0、向きが変わる部分を1とする。例えば”SN-NS-SN”なら”01010”というように。ディスクには、ヘッドとぶつかっても壊れないよう、アルミナなどの硬い粒子が入っている。ちなみにディスク上のデータ領域…つまり、ディスク上でデータが書きこまれる領域の大きさは、ディスクの円周方向と半径方向でかなり違う。円周方向は、ヘッドに送り込む信号の反転を速くすればいくらでも小さくできるため、書き込み限界は主にディスク側で決まる。一方で半径方向は、ヘッドを動かす機械の精度が影響するため、回転方向ほどは小さくならない。具体的に見てみる。最小の磁化領域の円周方向の大きさが30nm、半径方向の大きさが300nmとすると、1平方インチ当たりの磁化領域の数は700億個。これがそのままデータの数になるため、1平方インチあたり70ギガビットとなる。1ビットは2進数で0か1で、これが8個集まると256通りの数字が表現できる。この8ビットを1倍とと呼び、データ量の基本になる。例えばアルファベット1文字が1バイト、漢字は2バイトで指定される。最初のハードディスクの記録密度は1平方インチあたりで数キロビットだったが、現在では市販のものでも3TB(1兆990億バイト)のものが平気で売られている。

分散系の概略・微粒子分散系……何やら難しい響きだが、要するに固体や液体の小さな粒子が、液体に混ざっているもののこと。たとえば牛乳は脂肪の粒子が水に分散したもので、マヨネーズも同じ。バターやマーガリンは逆に、水系の粒が油に分散したもの。ドレッシングも同じ。化粧品や塗り薬も同じ。自転車のベアリングに塗るグリースでは、油の中に粘度を高める薬剤や水が分散している。これらの例は、液体中に液体粒子が分散したもので、エマルション(乳濁液)と呼ばれる。固体の粒が液体の分散したものもあり、ペンキや絵の具がその例。塗料とか墨汁、撥水剤(テフロンの微粒子が溶剤に分散している)、磁性流体(磁性をもつ微粒子を油に分散させている)なども。

分散系の概略・なぜ分散が可能なのか……液体同士ならともかく、重たい固体がなぜ液体中に分散するのだろうか。これには二つの要素が関わっている。まず一つに、粒子が十分に小さい、ということ。だいたい0.1マイクロメートル以下。これよりも小さいと、自分の重さで沈む速度と、周りの液体分子の衝突により揺り動かされる(ブラウン運動)速度が同じになり、素直に沈めなくなる。もう一つは、粒子同士がくっつかないこと、つまり「粒子同士の相性より、粒子と溶媒の相性がよい」ということ。水と油は攪拌してもすぐに2つの層に分離するが、それと同じことが固体の分散系でも起こる。それでもどうしても相性が悪い溶媒を使わないといけない場合もあり、界面活性剤を使って仲良くさせるのが、最も手っ取り早い。水と油ならまだしも、固体粒子の分散となると、なかなか適当なものが見つからないため、結局は絨毯爆撃になることもある。ただ、さらに試練があって、粒子間の分子間力を振り切る程度には粒子を不仲にしないといけない。例えば粒子表面に電荷を持たせたりする。電荷をもった粒子が、互いに反発して凝集しなくなればよい。ただ、分散系の場合は周りに溶媒があるため、空気中の電荷の反発とは違う。まず、粒子がプラスの電荷を帯びているとすると、粒子の電荷の周りには溶媒中のマイナス電荷が集まってくる。これは粒子のすぐそばにあるが、一部は液体の中に広がっており、全体としては電荷がない状態。これがいわゆる電気二重層で、電荷を蓄えるコンデンサーみたいなもん。さて、このような電気二重層の衣をまとった2つの粒子が接近したとする。すると、マイナス電荷の群れが重なってくる。つまり、互いの電気二重層が重なり合い、お互いの中に侵入する。この重なりにより反発力が生まれ、粒子が離れることとなる。ところが液体の中に沢山のイオンが溶け込んでいると、多くのマイナスイオンが粒子のすぐ近くに寄ってくる。つまり電気二重層が薄くなるため、凝集してしまうこともある。最初から粒子が多い場合はさらに凝集しやすい。安定に分散するための条件は非常に難しいため、なかなかひとことでは言えない。

フラクタルの概略・フラクタルとは何か……一部分を拡大すると全体と同じように見える、という複雑な形。自然界のいたるところにみられ、子の形、あるいはこの形を扱う考え方のこと。1975年にフランスの数学者マンデルブロが初めて提唱した。”fruction”(破片)と同じ語源。代表的なものに「コッホ曲線」があり、コッホ曲線で囲まれたのが「コッホ島」。雪の結晶のような形が生まれる。これを二次元にしたのが「シルピンスキーのガスケット」で、三角形に穴を開けていく。3次元になると「メンガーのスポンジ」と呼ばれる穴だらけの立体になる。1次元におけるフラクタルも考えることができて、線を3等分し、真ん中を消す操作を繰り返してつくられる。毎回1/3ずつ消えていくため、線はどんどんスカスカになり、見にくくなる。これをカントール集合という。

フラクタルの概略・フラクタルの次元……まず普通にいえば、0次元は点、1次元は線、2次元は面、3次元は立体である。これを言い換えると「長さ、面積、体積」となる。ところがフラクタルとなると、次元の考え方を大きく広げないとうまく説明できない。例えばカントール集合の長さを見てみる。最初の線の長さを1mとすると、次は66.7cm、さらに44.4cm、29.6cmとなっていく。いずれ長さが0になるのは明白だ。つまり、同じ操作を無限回繰り返してできるカントール集合の長さはゼロ。となると、これは1次元と言えない。が、0次元の点でもないから、カントール集合の次元は1より小さい、0.…ということになりそうだ。コッホ曲線も同様、長さは無限大になるが、面積なんてあるはずがないから、次元は1.…となる。

フラクタルの概略・フラクタルの次元の求め方……まず1次元の場合、長さ1/2の線は2個含まれている。1/3なら3個だし、1/11なら11個。つまり、長さと個数がきれいに反比例している。2次元の場合、長さ1/2の正方形は4つ含まれるから、長さの2乗と個数が反比例している。3次元の場合は長さの3乗と個数だろう。ではフラクタル図形はどうだろうか。まずカントール集合だが、これは元の図形の中に1/3のミニチュアが2つ含まれている。そしてこの関係は、元の1/3のミニチュアの中でも、その次でも変わらない。コッホ曲線では、1/3の大きさのミニチュアが4つ含まれているし、シルピンスキーのガスケットでは、1/2の大きさのミニチュアが3個。ミニチュアの「大きさ」と「個数」の関係をグラフにしてみて、その縦軸と横軸を対数目盛にして、その直線の傾きが「フラクタルの次元」となる。例えばカントール集合の次元は0.63、メンガーのスポンジは2.73となる。複雑さが増すほど、スカスカ度が減るほど、次元が大きくなることがわかる。

フラクタルの概略・きっちりしていないフラクタル……例えばフラクタルの木という図形がそれにあたる。上に行くにつれ、枝分かれで枝の数が2倍になる図形のことだ。この場合、枝がどこで分かれるかを特に限定しないため、ミニチュアを何個か組み合わせても全体の形は作れない。海岸線の地図と同じである。ではフラクタル次元はどうなるだろう。ミニチュアが何個含まれるかという考えは使えそうにないから、「ハウスドルフ次元」というものが提唱されている。長さとか面積とか体積のような何らかの量(「測度」とよぶ)を調べたとき、その値がゼロでも無限大でもなく、ある有限の値になるポイントを探すというもの。まあ簡単にいえば、対象となる図形を円で覆う(3次元なら球で覆う)。大きな円なら一つだけで全体を覆ってしまうが、円が小さくなると当然、必要な数は増えていく。円と円が重ならないように注意すれば、円の直径を全部足したものが、その図形の大雑把な長さを、円の面積を全部足し合わせたものが図形の面積を表すことがわかる。円を無限に小さくすれば、元の図形の長さとか面積を求めることができる。これを膨らませると、「長さ」、長さの2乗である「面積」などと同様、これらの測度のどこに、ゼロでも無限大でもない、有限の値になるポイントがくるか調べればよい。例えば長さの1.5乗が面積ならハウスドルフ次元は1.5である。

フラクタルの概略・自然のそこらじゅうにあるフラクタル……フラクタルの木は少し形を変えてやり、ある範囲内で枝の長さをランダムにすると、よく見る樹の形となる。葉っぱでも「羽状複葉」という、多数の葉っぱが集まったようにみえる、1枚の葉がこのような形をしており、ヤマウルシ、ハゼノキなどウルシ科の植物が有名。この羽状複葉の中の小さな葉っぱ状のものが、さらに鳥の羽のようになったものが「2回羽状複葉」であり、さらにこれが分裂して「3回羽状複葉」もあり、ナンテンとかセンダンがある。シダの仲間には4回、5回のものもある。これと似たように細かく枝のように分かれていくのが、川の形や雷、雲の形。このような「同じパターンの繰り返し」はコンピュータの得意分野なので、簡単に本物らしい木や雲、稲妻を描ける。

プラズマの概略・プラズマとは何なのか……ガスが電離し、正負に帯電した粒子が混合した状態のこと。プラズマ中の粒子は帯電しているため、電場や磁場にも敏感に反応する。その点で他の三態と大きく異なっている。また、プラズマの中では粒子が激しく動いているから、そこそこに密度が高ければ互いに衝突して発光する場合が多い。プラズマは何もテレビに限ったものではなく、雷にも、太陽にも、星と星の間にも、実は宇宙的にみれば普遍的なのだ。

プラズマの概略・自然界のプラズマ……宇宙規模で考えたときに最も目立つプラズマは、太陽をはじめとする恒星だろう。太陽の温度は表面でも6000度、水素やヘリウムなどが電離し、巨大なプラズマとなっている。一方、星と星の間の空間はほぼ真空で、物質はガス状だが、ここに恒星から飛び出してきた粒子や電磁波がぶつかるとガスは電離、プラズマになる。地球でも電離層がプラズマだし、雷もプラズマ。

プラズマの概略・プラズマをつくる方法……地球でプラズマを作るとなると、それなりの細工が必要。最も簡単なのは気体をどんどんと加熱すること。加熱によりエネルギーが与えられて電子がはがれる。このとき、プラスイオンと電子は互いにくっつこうとするが、それを上回る熱エネルギーを与えると、いよいよ電離する。ちょっとしたプラズマなら数千度もあれば十分で、身近なところではロウソクとかガスバーナーがある。しかしあまり効率がよいとは言えず、プラズマの使い勝手もよくない。そこで普通は電気エネルギー、つまり電場の力を借りる。基本的に雷と同じ原理で、電場により加速した電子を他の原子にぶつけて、その衝撃で電離させるのだ。その最も単純な方法は、電流を流して加熱したフィラメントから出てくる電子、熱電子を使うもので、電子顕微鏡とかブラウン管の電子銃と原理は同じ。ただ、今回の目的は電子をつかったプラズマの生成なので、電子銃の先にガスの入った部屋を用意し、そこでプラズマをつくる。ガスの圧力が高いと、電子が十分に加速される前にぶつかってしまって電離が進まないため、普通は低圧にする。また、加熱をせず、電極の間に高電圧をかけて雷のように放電させる方法もある。電場として直流ではなく交流を使う方法もある。この場合、電子は一方向に飛ぶのではなく、電場の方向が切り替わるにつれていったり来たり、激しく往復する。えぇ、十分に電子が加速する前に方向が反転するのでは？と思うかもしれないが、心配無用。例えば10cmで10kVをかけたとする。かなり周波数を高めにして1GHzとしても、電圧の方向が切り替わる間に、電子は秒速17000kmまで加速されるのだ。この速度は800eV以上に相当し、原子や分子から電子をはぎ取るには十分。

プラズマの概略・放電のいろいろ……グロー放電は「発光」を意味するグローがそのままついている。火花を伴わない、比較的おとなしい放電に入る。普通は内部の圧力を1mmHgぐらいにし、電極に数百～数キロボルトの直流電圧をかけて現れる。放電の状態は一様ではなくて、光り方が違ういくつかの部分に分かれている。陽極側には明るく光る部分があり、陽光柱と呼ばれている。ここからプラスイオンが電場に沿って移動し、陰極にぶつかって陰極から電気が叩き出る。アーク放電はさらに電流が上がった場合に起こり、電子が大量に供給され、プラズマ部分の導電性も高く、全体が激しく光る。そのため電流が大きい反面電圧は低く、大気圧でも放電する。その最大の特徴は派手な火花で、弧を描くように火花が飛ぶからアーク放電と呼ばれる。乾電池の両端に炭素棒や鉛筆の芯をつないで接近させると火花が飛ぶアレもアーク放電。乾電池でも、やり方によっては鉄板に穴があくぐらいのパワーが出る。火花放電はグロー放電とかアーク放電のような「連続的な」放電ではなく、瞬間的にピカッと光って終わりのもの。静電気がまさしくそれ。コロナ放電は、電極の一方が針状や線状の時に、その周辺に強い電場が集中して起こる放電。平面どうしの場合に比べ放電が起こりやすくなる。雷に対する避雷針も、針の先へのコロナ放電を優先的に起こさせているといえる。

プラズマの概略・プラズマの温度……気体の温度を上げていくと電離を起こすことから、プラズマって高温だというイメージがある。確かに加熱するだけでつくったものは高温だが、では電場を使ったものはどうだろう。そもそもその前に、温度というものを考えよう。温度というのは、物質を構成する粒子の激しさを表す尺度。全体として平均を見る、つまり熱平衡状態での電子の分布を見る。プラズマの中でも、アーク放電でできるもの、気体を加熱してできるものは、この熱平衡に近い状態にあり、「熱平衡プラズマ」などと呼ばれる。圧力が高く衝突が頻繁に起き、全体が同じような状態に平均化される。そのため例えばアーク放電での温度は数千度ある。一方、グロー放電など低圧のプラズマでは様子がかなり違う。まず電場により加速される電子やイオンだが、軽い電子が加速されるのに対し、重いイオンはその数千分の一しか速度がない。それでも運動エネルギーという点では違いがなく、最初の段階では温度は同じといえる。問題は、電荷をもたない中性の原子や中性子があること。こいつらは室温と同じ温度で、かなりもたもたしている。直径が大きいイオンはこいつらにぶつかって速度を失うため、やがて低い温度にならされてしまう。これに対し、直径が小さい電子はぶつかることがないため、温度は高いまま。その結果、低圧プラズマの中では、「電子の温度は高く、イオンや原子の温度は低い」アンバランスな状態にある。これが「非平衡プラズマ」である。電子は10000度だが、原子は数十度という低温。いや、電子が10000度って危ないでしょ、耐えられんわ！という声も出そうだが、温度と熱は違う。つまり、いくら10000度の電子があったとしても、それがごくごく一部でしかなければ、熱エネルギーは少ない。極端な例をあげれば、太陽で起こる核融合と同じ現象を地上で起こすには、1億度以上が必要になる。しかし、圧力のほうは10万分の1もないので、普通の容器でも全然問題がない。というより、肝心のプラズマが容器で冷やされないよう、磁場などで閉じ込める必要があるほど。

プラズマの概略・プラズマの範囲は広い……宇宙空間から太陽の中心部まで、プラズマは温度でいえば8ケタ以上、密度では25ケタにまでわたる。しかしプラズマはプラズマ、似たような性質を示す、同類の状態だ。三態ではこうとはいかないから、プラズマがいかに様々な環境で存在できるかがわかる。

プラズマの概略・蛍光灯の原理……水銀蒸気を含んだ低圧の管の中で放電を起こしてプラズマをつくり、そこから出てくる紫外線を、管の内側に塗られた蛍光塗料に当てて可視光線に変える仕組み。低圧、非平衡なので、グロー放電の一種である。蛍光灯を塗らなければ紫外線を発するランプになる。

粘度概略・粘度の単位……粘度は2つの要素の比で表される。単位面積の2枚の平行な板を互い違いにずらすために必要な力であり、「ずり応力」とか「せん断力」と呼ばれる。だから単位は圧力と同じになる。もう一つは、2枚の板をずらす速さに関わるものだが、単純な速度ではない。同じ速さでも2枚の板が接近していると抵抗はおおきいから、板の間隔も加味した速さ。具体的には、2枚の板の相対速度を板の間隔で割った値。これを「ずり速度」「せん断速度」といい、速度を距離で割ったものなので、単位は時間の逆数となる。粘度は「ずり速度」で「ずり応力」を割った値なのだ。粘度の単位としては”P”(ポアズ)がよく知られており、100分の1の「cP」(センチポアズ)が使われる。例えば水の粘度はほぼ1cPである。これに対し、正式な論文ではPa・s(パスカル・セカンド)が使われている。

粘度概略・粘弾性……粘性と弾性の両方を併せ持つ性質のこと。ガラスでもプラスチックでも、ほとんどの物質がこれを持つのだが、たいていのものはどちらかしか現れない。子どものおもちゃである「スライム」、寒天、ゼリーなどは際立った粘弾性を見せてくれる。つまりゲル。そして面白いのが、物性においての粘弾性が、RC回路の電気回路とそっくりということ。実際に数式を用いて表すと、この両者は全く同じ形になる。電圧が「変形」(歪み)、電流が「力」、抵抗が弾性率の逆数、容量が粘度。

粘度概略・粘度を測る方法……適当なずり速度を与えたときのずり応力を2枚の板で調べればよいのだが、板には必ず端があり、この部分の流れが乱れてしまう。また、板を常に一定の速度で動かすのも無理。だから、回転運動を利用した「粘度計」が用いられる。

粘度概略・ずり速度で粘度が変わる……水などの単純な液体では、ずり速度を変えても粘度は変化しない。2倍のずり速度で動かせば2倍のずり応力を受ける。このような素直な流動を「ニュートン流動」という。世の中には一癖二癖ある液体もあって、これらの流動の様子を表すため、横軸にずり速度、縦軸にずり応力をとった流動曲線が使われる。流動曲線の傾きが粘度になって、傾きが急なほど粘度が高い。ニュートン流動では線形になるが、こうなることはめったになく、頑張って形を維持していたけど、応力に負けて壊れる(降伏値という)とか、下に凸の曲線になるダイラタンシー流体とかいろいろ。

粘度概略・層流と乱流……整然とした流れを層流、時間とともに不規則に変化する流れを乱流と呼ぶ。層流か乱流かどう決まるのだろうか。それは、流体の部分部分がでたらめに動こうとする性質と、それを阻止して全体を同じ方向・同じ速さにまとめようとする性質との綱引きで決まる。当然最初からデタラメには動かないが、何らかのきっかけでそうなるということ。いったん動き出したらそれを維持する性質は物体が重いほど強くなる。流体の場合は、密度が大きいほど乱流になりやすい。一方で、乱れを阻止しようとするのが粘性そのものだ。粘性が高いほど層流になりやすいといえる。つまり、粘度と密度は逆の働きをすることがわかる。そこで粘度を密度で割った値を考えると、それがそのまま層流のできやすさ、乱流のできにくさを表すことになる。これを動粘度というが、空気のほうが10倍大きくなる。その結果、同じ状態で流れる場合水のほうが乱流になりやすいことがわかる。ただ、層流か乱流かを見積もるには、流れの速さや通路の幅も考えなくてはならない。流れが早いほど乱流になりやすくなる。管の中を流れる場合は、管が太いほど乱流になりやすい。

粘度概略・レイノルズ数……動粘度、流れの速さ、通路の幅を全部盛り込んだ数字。流れの速さと通路の幅が分子、動粘度が分母に来るから、数値が大きいほど乱流になりやすい。例えば直径1センチの管を秒速5センチで水が流れているとすると、このときのレイノルズ数は500になる(水の粘度は1cPだが、グラムやセンチを使った単位に合わせると0.01となる)。このくらいだとほぼ層流だが、管が20センチになったり、秒速1メートルになったりすると、レイノルズ数は10000で、ほぼ乱流になる。同じ考え方は止まった流体を別の固体が移動する場合にも使う。この場合、通路の幅に相当するのが魚とか船の大きさ。例えばメダカがゆっくり泳ぐときのレイノルズ数は500だが、ジェット機の周りでは1億。

量子テレポーテーション……2個ペアになった光子や電子を用いた技術。その一方だけを捕まえて状態を決めたら、もう一方も勝手に決まってしまうことを利用する。例えば1つの光子を2つに分ける(変な話だが、エネルギーが半分になるなら2個に分けてもいい)。このとき、分かれてできた2つの光子は元の1個の特性を分け合うことになるから、飛び出す方向は左右対称、偏光の状態は対になる。つまり、偏光状態が逆なのは確実だが、実際の状態がどうなっているかは測るまでわからない。ペアをつくるもう一つの例は、元々別だった2つの光子を絡み合わせる方法。これにはハーフミラーというのを使う。この鏡に、両側から同時に光子を当てると、それぞれの光子は反射と透過が半々の状態になる。出てきた側からすると、鏡の右側だけに2個の光子が出る場合、左だけに2個が出る場合、両側に1個ずつ出る場合(２通りある)の4つがありうる。4つは均等に混ざり合っており、2個の光子を区別することはできない。全体として1つの状態ということは、出てきた2個の光子は当然ながら1つの状態を2つに分けたペアになっているということ。つまり、1個の光子を2つに分けた状況が、元々関係がなかった2個の粒子の間でもつくられている。このようにつくったペアはどこまで行ってもペアで、ある時点で一方を観測すると、もう一方も勝手に決まってしまう。この考え方でいえば、光よりも速く情報が伝わることもあることになる。

量子テレポーテーションの応用例……情報を花子が送り、太郎が受け取るとする。初めにAとA’というペア粒子を1個ずつ太郎と花子に送る。花子側は、送りたい情報を持った粒子Bを別に用意しておき、BとAとを絡み合わせる。ここで出てきたXとかYの状態を1つに決めるような測定はせず、混ざった状態だけを調べて、その結果を太郎に連絡する。この情報はAとBの絡み合いで生まれたものだが、太郎がはじめに貰ったA’はAの片割れなのでAの運命を引きずっている。そこで、花子から受け取ったAとBの絡み合い情報と、A’とを使い、太郎のほうでBを再現できる。情報を持つのはBだが、Bは通信経路に乗らない。乗っているのはAとBの絡み合った結果であり、これを盗んでもA’がないとBが取り出せないので無意味。つまり、通信の邪魔はできても、情報を盗むことはできない、究極の暗号技術なのだ。

ノー・ノー・ボーイ……日系アメリカ人の作家、ジョン・オカダが執筆した小説。第二次世界大戦から戦後にかけての日系アメリカ人の生活を主題とした小説。1943年、日系人の強制収容所で行われた調査の中に「アメリカに忠誠を誓い、日本への忠誠を放棄するか」「米軍に従事する意思があるか」という2つの質問があり、日系人はこれにはいかいいえで答えるよう迫られた。このとき2つとも返事が”Yes”なら軍役適格者は米軍兵士として戦場に送られた。一方で両方とも”No”だった人は収容所に留められた。この主人公の日系二世イチロー・ヤマダは2つの質問にNoと答え、2年間投獄された。しかし親友のケンジは志願を選び、戦場で片足を失い、それが原因で死んでしまう。イチローは刑務所を出ると郷里のシアトルに戻るが、戦争、そしてアメリカと日本という2つの国へのそれぞれの想いによって、友人や家族が引き裂かれていく現実に直面し苦悩する。作者は実際には志願して従軍しているため、ノーノーボーイではない。

横浜事件……1942年、当時の雑誌「改造」に掲載された論文が摘発されたことがきっかけで起きた、編集者や言論人など60人以上が逮捕された事件。多くは拷問を受け、4人が監獄で死亡している。これにより雑誌は休刊に追い込まれた。戦時中の最大の言論弾圧と言われているが、今日では全て冤罪だったことが明らかになっている。不当に拘束されたことに対する補償金「刑事補償」も支払われている。それはあくまで遺族が裁判を起こしたため。裁判所の責任を認めさせようとした。しかし裁判所はこれを「過去の記録がない」(裁判官自らが記録を燃やしておきながら)として棄却。その後平成15年に第三次再審請求が認められたが、事件から60年たっており、元被告は全員亡くなっていた。その後裁判所が「刑事補償」の支払いを認めた決定の中で「検察や裁判所にも過失があった」ことを認める。しかし遺族の一部は「時間がかかりすぎた。最近まで再審を認めなかったのも裁判所の責任だ」と改めて裁判を起こした。

会話の2つの表現スタイル……コミュニケーションには2つのスタイルがある。目的型と回避型である。目的型は前向きで積極的に未来に進もうとする考え方。回避型は、消極的で保守的、批判めいた会話をする。これは単にスタイルで優劣や善悪はない。しかし互いに理解できず、反発、対立の原因になる。目的型の代表には芸術家や漁師がある。未来にどんなプラスの状況が実現しているかをはっきりイメージする。回避型の代表は医者や教師で、リスクに対して慎重に対処する。これを知ってコミュニケーションに励む場合、目的型の人間にはプラスの面を正確に伝え、回避型の人間には不安やマイナス要素を打ち消す方向で伝えるのがよい。

エピソード記憶と意味記憶……実は記憶には2種類あって、幼い頃の記憶とかがエピソード記憶。知識の記憶が意味記憶。エピソード記憶は特に覚えておこうと意識しなくても自然に覚えているもの。高度な働きをもち、忘れにくいという特徴がある。ほとんどの人が3歳ごろの体験を覚えていないのは、エピソード記憶が生まれたときから備わっていた能力ではなく、後から獲得した能力だからだという。意味記憶は学習により得られる記憶。通常「記憶力」という場合、こちらを指す。全く別の記憶の部類に属すこの2つだが、接点がないわけではない。例えば記憶を行う際、五感をフルに使うとよいといわれるのはこのため。歌にしたり実験してみたり。

語用論とは……ことばとその意味を、我々が普段行っているコミュニケーションの場面に即して、考えていく学問。例えば「東京の天気はどう？」と聞かれ「大雪だよ」と答えるのと、「ちょっとおつかいに行ってきて」と言われ「大雪だよ」と答える場合を考える。どちらも返事は全く同じだが、前者が単に事実を述べているのに対し、後者は拒否というニュアンスまで含む。ことばと、そのことばが用いられたコンテクストから意味が生じるのだ。一方で、「文字通りの意味」のみを扱う学問を「意味論」という。

わかりやすく美しい図をつくるための3つの原則……美しいとかわかりやすいは言語化しにくく、体系的に学ぶのが難しい。しかし鉄則を知っていれば、失敗することはなくなるはず。まず「一番伝えたいことは何か」を的確にとらえる。例えば「世界中に生息するキツネの数は年々減少しており、100年前と比べて3割減少した」という文章があれば、このうち「100年で3割減少」が最も大事。だから30%減少の図だけを乗せればいいことになる。次に「ルールと要素を可能な限り減らす」こと。「キツネとイヌは混血するがキツネとオオカミは混血しない」ことを伝えたいなら、それに関する表をつくるより、「キツネ×イヌ=OK、キツネ×オオカミ=NG」という図をつくったほうが速い。文字サイズ、色数、線の種類、線の太さ、マージン、形など、全ての要素を最小限のルールで作成するのだ。最後に「デザインの4つの基本原則を守る」こと。これは後に説明する。

デザインの4つの基本原則……わかりやすさと美しさを併せ持つ図を簡単につくる魔法はない。結局、基本的な原則を体に染み込ませるしかない。4つとは「近接・整列・コントラスト・反復」である。近接とは、関連要素は近づけそうでなければ離すこと。整列とは、全ての要素を意識的に配置すること。コントラストとは、要素と要素を明らかに異なる形にすること。反復とは、要素の一貫性を保つこと。あらゆるデザインについてこれがいえそうである。

スライド作成のテクニック……まず、規則正しい図を使う。円や三角形でも長方形でも、対称となる軸が多いほうが安定して見える。長方形を使う場合も黄金比にすると美しい。全体の形をシンメトリーにしよう。左右対称な図で要素を表現できる場合、積極的にこの形に収める。情報を囲む際は一重にとどめよう。情報をグループとして見せるための最も簡単な方法は「囲む」こと。囲む以外にも「近づける」「同色にする」という表現でできる。囲む場合は二重以上に囲まないことを徹底し、それより多い場合は近づけたり同じ色にしたりを心がける。線を使うのは最低限にしよう。線が少ないほど印象として複雑になる。色は「ベース・アクセント・ポイント」の3色に絞ろう。最も多くの面積で使われるベースカラー、キーとなる部分で使うアクセントカラー、ごく一部の目立たせる箇所で使うポイントカラーの3つ。文字はサイズ2種類、書体2種類に統一しよう。欧文と和文それぞれ1種類、サイズはキャプション用の小さいものを1種類、見出し用を2種類に抑える。矢印は最小限の大きさに抑えよう。実は矢印は、小さくても控えめな配色でも、視線を誘導するのに十分だ。最低限、どちらを向いているかわかるぐらいでいい。吹き出しは角丸とツノを小さくしよう。角丸を使う場合はRを小さくし、3～4pxにする。平面的に表現しよう。よほど複雑な内容でもない限り、関係性は全て平面的に表現する。図版の構成にオリジナリティは不要だ。

酒酔い運転は心神耗弱になる？……酒を飲んで酔っ払ったら、正常な判断ができなくなり、その結果飲酒運転をして捕まった。さてこの場合、心神耗弱によって減刑を期待できるだろうか？答えは、できない。これはちゃんと判例がある。「原因において自由な行為」と呼ばれ、運転をする予定でありながら飲酒した時点で、飲酒運転時に心神耗弱であっても、減刑事由にならないとする。いわゆる刑法39条第2項の適用条件であるが、適用できる例がそんなにない。責任無能力者になった、酩酊している未来の自分を犯行に走らせる目的で、飲酒した時点で犯罪を誘発させる行為をして実行させているから、実行行為と責任能力が同時に成り立つのだ。難しい話だが結局は簡単、「人を殺すために酩酊状態になっても、これは適用できないよ」ということ。そりゃあそうだ。

表現の自由はどこまで許容されるのか……表現の自由は日本国憲法21条1項に定められており、「国民が国家から侵害されない憲法上の権利」とされている。原則として国家は表現の自由を制約できない。しかし例外的に、他人の権利を侵害する表現の場合、制約される。その例が名誉棄損罪やわいせつ物頒布罪である。他にも、食品衛生法や不当表示防止法もある。北朝鮮や中国では国民に人権は保障されていないし、ロシアにもほとんどない。結論をいえば「犯罪性がある場合は規制される」ということになる。それでは「性器の魚拓をとった芸術物」はどっちか、千円札をめちゃくちゃ精密に模写したものはどうか(赤瀬川原平)、と言われれば、それは非常にグレーな問題になる。グレーだからこそもめているのである。ではあるが「侵害」が成り立つ必要条件として、「政治権力による介入」あるいは「暴力を示唆して表現をやめさせようとすること」のどちらかが必要なのは間違いない。「表現の自由・言論の自由に反している！」と主張して、芸術家などへの脅迫電話を繰り返すことは、表現の自由でもなんでもない、ただの犯罪だ。

そもそも「敬語」は「敬語」なのか……敬語とは誰かを敬うための語である、というのが一般的な認識であるが、それは正確に言えば正しくない。確かに敬意を表す場面で用いられるが、それが何のために、という説明が根本的に出てくるのだ。目的がわからないから「敬意は態度で示せばいい、言葉遣いなんて適当や！」が生まれてくるのだ。古文を読んでいればわかるが、基本的に日本語は主語を言わない。中学校でも絶対に習わないが、「いったん主語が特定されたら、次の主語が出てくるまではその主語が主語としての地位を継承する」というルールがある。例えば「ウチのキツネのモッケイは最近元気が有り余っている。散歩に行けるからだろうな」という文章があるとする。このとき、2文目の主語はもちろん「モッケイ」なのだが、いちいちそれを言ったら「だからこいつキツネなんか飼ってんだよ頭悪い」と皮肉られること請け負いである。そしてもう一つ、主語を省略する文法規則があって、それが敬語だ。敬語表現が存在するため、さっきのルールがあるのである。例えば「キツネを飼うことをお考えください」と言えば、主語が相手であることが明瞭になる。「先日ご来訪のさいにご説明申し上げた文章についてご理解くださるならすぐ進めます」という文も、日本語ならすぐに敬語表現からわかる。つまり敬語なんて本来は敬意を表すためのものじゃなく、動作主体や名詞の所有者(父といえば自分のだし、ご尊父なんて言えば相手の父である)を特定するためのもの。敬意なんてのはどうでもいいはず。

源泉徴収票の読み方……会社に入ると年末に必ず受け取るのが「源泉徴収票」である。しかしその読み方を知っている人間は驚くほど少ない。まず「支払金額」とある部分。そこがいわゆる年収。会社が支払った額面金額(税金や保険料を引かれる前の額)である。その横にある「給与所得控除後の金額」が、実質的にみんながもらえる年収である。控除とは要するに「引き算すること」。例えば支払金額が600万として、そこから「税金を計算するうえで差し引く分」が控除である。サラリーマンにとっての「経費」みたいなもん。税金は基本的に、「収入から経費を引いて残った分」に色々計算して決まる。こいつがあるおかげで、ある年収をこえて一気に所得税が上がるということが起こらないようになっている。所得税は累進課税であるが、そのときの速算表には「課税される『所得金額』」とある。つまり、所得税は所得に課されるものであり、収入に課されるものではない。支払金額から、給与所得控除といろんな所得控除を引いたものが「課税される所得金額」となる。

6/8拍子と3/4拍子の違い……二つの拍子は入る数が同じでも、そもそもの意味が全く違う。まず6/8拍子だが、これは「1つの小節の中に8分音符が6つ分」という意味で、まず8分音符を基準にして数えていること、そして、大きなくくりでいえば2拍子の考え方(複合拍子といって3/8が2つというとらえ方)をする。3/4拍子は「1つの小節の中に4分音符が3つ分」であり、こっちは3拍子。つまり2拍ととらえるか3拍ととらえるかという違い。

“woman”の”wo”には何か意味があるのか……結論から言えば、ない。古い英語では”wifmann”とつづられ、これは”wif”(female)と”mann”(person)による造語である。このような組み合わせを用いたのは英語以外にない。つまり”woman”とは「妻となる側の人間」「女性の側の人間」という意味に由来する。”wif”がやがて”wife”として独立するが、”wifmann”の”f”は口唇化(wの直後も口を丸めること)により脱落する。これはwillの否定形がwon’tになるのと同じである。”womb”(子宮)と”man”(男)で”woman”とかいわれているが、wombとwo-につながりはないもよう。

借用書なし、口約束で貸したお金は相手から取り返せるか……トラブルのもとである「借用書なし」でのお金の貸し借り。相手が「そんな金は借りていない」といった場合、取り返せるのだろうか？まず、契約の成立には書面が必要という誤解があるが、実は日本の法律では、口約束でちゃんと成立する。契約書は口頭での合意があったことの証拠に他ならない。ゆえに、「100万円を返すね」という約束をもって契約が成立したとする。いわゆる結婚の契約である「婚約」も同じで、「結婚しよう」「うん」で成立する。借用書がなくとも貸し借りした証拠があれば請求は可能である。貸した日時や金額、返済の約束を中心に証拠を固める。特に「振り込みの記録」は相当に強い証拠となるし、「返すから」というメール、「通帳からお金を出した記録」も証拠となる。そのほか、手帳や家計簿のメモ、知人や本人の証言、「相手は貯蓄ゼロなのに～万円の出費があった」という証拠でも、ちゃんと証拠になる。貸したお金の請求権の時効は10年なので、まず内容証明を送り、「支払督促制度」という手続きをとろう。それでは返すつもりがないのに「必ず返す」と言った場合、詐欺罪になるのだろうか？これは確かに該当する。ただしその証明はけっこう難しい。100万を借りた次の日には行方をくらました、というような場合は詐欺罪になるだろう。

ネイティブスピーカーでさえ間違う英単語……”literally”はその代表。例えば”I’m literally starving to death”と使われる。「文字通りで」というニュアンスがあるが、この例文でいう”literally”は本来の意味と真逆のニュアンスで使われてしまっている。つまり「文字通り餓死しそう」ということを言いたいのだろうが、”literally”は「文字通り厳密に」という意味があるため、例文を正確に訳すと「文字通り餓死してしまっている」のだ。つぎに”ironic”、これは本来、「意図されたものとは辛らつなまで正反対」という意味がある。例えば「交通違反取締の警官が、自分の駐車違反切符の支払いを忘れ免許停止」という場合が皮肉である。しかし現在では、単に奇妙な偶然の一致、間が悪い場合に用いられている。日本人でもいるな、「皮肉」の使い方知らない人。ironicの正しい使い方については現在でもウェブで議論が続いており、それだけに専念したウェブサイトまで存在する。次に”enormity”、これは「道徳的な境界を超えた邪悪さ」という意味があるのだが、”enormous”と似ているせいで”enormousness”という意味で誤用される。うってつけの例がブッシュ大統領が言った”Couldn’t believe the enormity of the situation”(この状況のヤバさは信じられなかった)だが、たぶん彼は「この状況の重要さは信じられなかった」と言いたかったんだと思う。最後に”ultimate”、もともとの意味は「連鎖の最後」という意味なのだが、「もっともすぐれた」という意味で使われることの方が圧倒的に多く、英語辞典ではこれを反映している。

アンビグラム……最近有名になってきたことば遊び。180度回転させても意味が通じる字体のこと。装飾性が強い文字はアンビグラムに向いている。中には90度回転させるものとか、字画のそれぞれを順番に読むと別のことばが完成するもの、複数の見え方に見えるものなどがある。非常によくできているが、実は誰にでも書ける。

家具と家電、どこに金をかけるか……金かけられるのはせいぜい1か所か2か所。てことは結局何かの基準がないといけない。まず、家具は「生活を快適に」、家電は「生活を便利に」過ごすためのもの。てことは、家具は「使う時間が最も長いもの」、家電は「時短の効果が一番高いもの」であればよい。家具は「ベッド」または「椅子」のどっちかにかける。もったいないからベッドが椅子がわりという人はもうノータイムで寝具に金がかけられる。睡眠の質はまさに生活の質。椅子を選ぶ場合、その上で何をするか考えよう。椅子やソファをそこそこの価格に抑えても、座り心地はクッションでなんとかなる。家電は洗濯機一択。洗濯乾燥機を買おう。洗濯機だけは他の家電に置き換えることができないのだ。コインランドリーは高価だしめんどいのでそれがいい。

グーグル検索の裏技……”OR”はどちらかがヒットする。”キツネORオオカミ”で、どちらかの画像がヒットすることになる。フレーズ検索は”キツネ　オオカミ”のように囲む。2つのキーワードが続けて使われているサイトのみが表示される。ファイル形式を指定するには”キツネ　filetype:pdf”のようにする。そのほか、pptとかdocが指定される。あやふやな場合は”\*”を入れる。”キツネに\*飯”というように。

困った時、国からもらえるお金……21世紀、なかなか厳しい。特に若い世代を取り巻く労働環境はより厳しくなっている。ブラック企業にはまりうつ病になったりすると、割とすぐに貧困になるというムリゲー。しかし日本社会には手厚いセーフティネットがある。2017年3月の知識だが紹介したい。まず医療保険に入る前に知るべきは「高額療養費制度」。急に病気になって医療費が払えなくなったら！という不安はあって、それを解決するために医療保険がある。これ簡単にいえば「100万の治療費がかかっても、自己負担は9万で済む」みたいなすごい制度。ただ、公的な医療保険は適用にならず、差額ベッド代や先進医療については、全額自己負担になる。医療保険との違いはそこ。うつ病でも給付されるのが「障害年金」。身体的な障害でしか対象にならない気がするが、実はうつ病や統合失調症でも障害年金が選択肢になる。金額に関しては、厚生年金と国民年金のどっちに入ってるかで変わる。本気で受給を考えているなら「年金事務所」に相談してみよう。良い対応が望めない場合は「社労士」に申請を代行してもらう方法もある。会社で働けなくなった時は「傷病手当金」をもらう。何かの事情で会社を休む場合はもらえる。基本的にサラリーマン向けの制度で、国民健康保険にしか入ってないフリーランスは対象外。支給期間は1年半が最長で、月給の2/3とめちゃくちゃ手厚い。うつ病での休職でも対象になる。注意としては、原則「会社在籍中にのみ申請できる」こと。最悪のパターンだと「うつ病になって会社を辞めた後、制度を知って申請するも受給できない」。失業時には「失業保険」がもらえる。これは会社をやめて再就職するまでの期間もらえるもの。金額は「以前の給料」で変わる。なお、晴れて再就職できた場合は「再就職手当」ももらえる。万人のための「生活保護」。ほとんど知られていないが、持ち家があっても、若くても、働いてても、車があってももらえる。基本的に「最低生活費に足りない分を支給する」ものなので、普通に生活が苦しければ足りない分が受給される。リテラシーとしてこれだけ知っておけば、生きるのに不安を感じなくて済むはずだ。

自己言及のパラドックス……うそつきのパラドックスとか、クレタ島のパラドックスともいう。「私が今言っていることは嘘です」という類のもの。解決できないとされていたが、文章に「レベル」を設けることで、とりあえず解決することはできる。例えば「私が今言っていることは嘘です」という文章は、「私がふだんから言っていること」をレベル0とすると、それより上位のレベル1に属し、「私が云々嘘です」という文章の「嘘」は、レベル0のことばについてのみ適用される。嘘とか本当ということばを使う場合、それらのことばを使っている文章よりも低いレベルの文章にしかかからない、とするのだ。

日本の新聞社の特徴……読売、産経、毎日、朝日の4つと、よく聞く共同通信社、時事通信社について解説する。まず読売新聞。ギネスにも認定されている、世界一発行部数の多い新聞。ザ・大衆紙という感じ。まず「わかりやすい」。そのかわり難しいことには突っ込まない。そのためどちらにもつかない中道な記事が多い。そして「事件の読売」とも言うように、みんなが関心をもつ事件の報道に力を入れている。政治的なところでいえば「長い物には巻かれよ」という感じで、与党として君臨し続けた自民党の肩を持つ。産経新聞は「保守！！」である。日本で唯一無二といってもよいぐらい「保守本流をひた走る新聞社」である。自民党は保守政党だが、産経は自民党にもちゃんと噛みつく。日本のためにならないと思ったら少しでも噛みつくのだ。毎日新聞は…なんとも不思議。革新派ではあるが、社内には保守的な人もいる。ほとんどは革新派だが中に保守派がいるという感じ。ただし年に1か2度スクープを叩きだす。なお、経営が難しくなってから、聖教新聞を印刷していることでも知られる。ぶっちゃけ、特徴がない。朝日新聞は非常に左翼。慰安婦問題の発端をつくった(作者の吉田清治が著書「私の戦争犯罪・朝鮮人連行強制記録」にて、女性を「強制連行」して慰安婦にしたという体験を発表。これは後に作者が作り話だと述べたのに、朝日新聞がスクープとして、従軍慰安婦ということばで報道)悪名高い新聞社だが、甲子園のスポンサーでもある。あえて言えば「朝日新聞だけ読み続けたら思想が偏る」と思う。そのほか、「椿事件」といって、「テレビ朝日の取締役である椿貞良氏が公の場で、『自民党気に食わないから偏向報道しようぜ！！』って言ってしまったせいで、放送免許がはく奪された」事件もある。偏向報道するぜ宣言をするとは…。共同通信社は意外に知られていないが左翼。であるから、おのずと地方紙も左翼的な記事を掲載する。時事通信社はもともと共同通信社と同じ会社だったが、戦後GHQからの解体命令を避けるため、自ら分裂した。右翼的な印象はあまりなく、やはり共同通信社と同じ会社というイメージ。

格闘ゲーマーいわく「光は遅すぎる」？……1F(フレーム)は1/60秒である。ということは、日本人とブラジル人が同じタイミングで対戦しようとしたら、どう頑張っても3Fはずれてしまうことになる。実際には変換のさいのラグがあるため、もっと大きくなる。光は秒速30万キロで、1秒で地球を7周半してしまうのだ。しかしコンマ1秒では地球を半周さえできない。1Fを争う格闘ゲームの回線ではこれが致命的なのだ。3Fといえば早い弱パンチなら当たり判定が出ている時間である。確かにそうなのだが、光が遅すぎるとはパワーワードも過ぎる。

一見すると関係のない2つのデータに相関性を見出すプロジェクトがある……名前を”Spurious Correlations”という。例えば、「アメリカの科学・テクノロジー・宇宙に関する支出」と「首吊り自殺数」は一致している。「水泳プールでの溺死数とニコラス・ケイジの映画出演数」も上下具合が一致している。「アメリカ人1人あたりのチーズ消費量」と、「ベッドシーツに絡まり死亡する数」がほぼ一致。「アメリカ人1人あたりのモッツァレラチーズ消費量」と「アメリカの土木工学博士号授与数」が一致。「アメリカ1人あたりのチキン消費量」と「アメリカの原油輸入総量」が相関している。チキンを焼くための燃料需要が関係しているのだろうか？このプロジェクトは疑似相関を皮肉ったものであるというのは明白だが、あえて何かの因果性を見出してみても面白いだろう。

香典……仏式の葬儀で、抹香の代わりに死者の霊前に備える金品のこと。お葬式にかかる費用に対する、相互扶養のような役割があるとされる。費用といえば葬儀の費用、お坊さんへのお布施、飲食費、香典返しなどをあわせて150万とも言われる。そういった家族の出費の助けになるようにという気持ちである。縄文時代にはすでに埋葬の形跡があり、鎌倉時代に今のような方法で葬式をするようになった。昔は食べ物、特に米をお供えしていたという。香典にはまずお金が必要だ。そして、そのお金をつつむ香典袋(不祝儀袋ともいう)、その袋をつつむ袱紗(ふくさ)、そのほか、袋に名前や内容を書き認めるための筆ペンが必要。書き方とかは調べてみよう。

自由律俳句は俳句じゃないのか……自由律俳句、特に無季自由律俳句は、「ただの文じゃん」という批判をうける。韻文をかじれば自由律への理解も深まるのだが、それは詩の文脈に自らを置いていて「詩を嗅ぎ分ける能力」があるためで、そうでない人々には勘違いされがちだ。しかしはっきりいえば、自由律俳句は俳句。俳句を俳句たらしめているのはリズムと季語。例えば”妻の遺品ならざるはなし春星も”は春の俳句で、暗天に輝く星さえも妻が残したもののように思える、という意味の美しい句。この句が「夏」でも「冬」でもなく「春」なのは、その心情の微妙な危うさにある。そしてもともと俳句とは連歌から生まれた遊びだった。「俺からいくよ！しりとりの『り』！！」の「り」の部分、つまり連歌の一番最初を取り上げたのが俳句なのだ。つまり俳句とは「決められたメロディーで、お題を1つ選び替え歌をつくる遊び」といえる。自由律俳句のフロンティアを切り開いた男たちはむしろ、俳句に芸術性を求め「定型の放棄」にたどり着いたのだ。つまり「替え歌には限界があるから俺たちは自分で曲も作る」という発想。さらにいえば、「お題を選ぶのもナンセンスだな？ことばに意味と情景が宿るんだ」と。例えば季語には「木流し」とか「竹婦人」みたいな、素人さんが情景を読み取れないものもある。しかしながら彼らは、現前するリズム、とやらを捉えることに腐心した。尾崎放哉の「咳をしても一人」は3/3/3で分かれる。ぽつと虚空に消えていくようなメロディーが、咳の音と重なる。「花火が上がる空のほうが町だよ」は4/3/6/4だろうか。「あらしがすつかり青空にしてしまつた」は8/5/6だろう。季語の持つ膨大な情報量に頼らない上、リズムもなかなか親しみがない。だからこそ鑑賞者に深く入り込んでいく。どこまでも純粋で、どこまでも人間本位な詩である。「うそをついたやうな昼の月がある」「打ち損ねた釘が首を曲げた」「水飲んで尿して去る」「こんなにもうまい水があふれている」「ついてくる犬よおまへも宿なしか」「風ふいて一文もない」「父によう似た声が出てくる旅はかなしい」「けふのべんたうは野のまんなかで」など、筆者のお気に入り。

業務用スーパーで買った安い鶏肉を超ジューシーにする裏技……めちゃくちゃ簡単。安価なお肉を「発泡酒」につけこむだけだ。ビールでもいいが安価な発泡酒がオススメ。炭酸とアルコールの成分が肉をやわらかくしてくれるのである。解凍したもも肉をスジ切りし、発泡酒をひたひたになるまでかけて半日漬ける。これだけでめちゃくちゃやわらかい鶏肉になってくれる。

脱税は可能なのか……脱税といえば知能犯が巧妙に行うというイメージがあるが、そもそも頭が本当に良い奴は、脱税がいかに割に合わないものかを知っている。節税に知恵を絞ることはあれ、脱税に手を染めることはない。よく「脱税は殺人より難しい」と言われる。その理由は、脱税とは「開業届」という容疑者宣言をしたうえで、確定申告書という証拠を当局に提出する犯罪だからだ。脱税は結局2種類しかなく、「売上を少なく申告する」「費用を多く申告する」のいずれかである。前者は反面調査が非常に簡単なので、経費調整で取引が多岐だから煩雑、と考えられている。費用の水増しが脱税によく使われる。しかしその実際は逆で、売上の調査を完全に行うのは簡単ではない。

10分でわかる近代美術史・その1……近代美術の夜明けは通説的には1874年、フランスの第1回印象派展に始まる。印象派は1870年代にフランスで起きた絵画の流れ。絵の具の進歩により戸外での描画が可能になり、「光」をとらえる印象派が生まれた。つまり印象派とは写実主義である。マネ、ピサロ、ドガ、セザンヌ、モネ、ルノワールなどがあたる。当時は落伍者とされ、審査制度に落ち続けた彼らが自分たちの展覧会を企画。これが印象派展である。印象派の特徴は色彩分割。画面を一様に塗るのではなく、光を捉えるため筆のストロークを短くして色を塗り重ねた。その後、ニュートンやゲーテによる色彩学を取り入れることで、点描画に発展する。点描画は「ネオ印象派」「新印象派」と呼ばれ、代表作がスーラの「グランドジャット島の日曜日の午後」である。これが1886年のこと。ただ、手法に力点がおかれているため「表層的すぎる」という批判が相次いだ。また、様々な画家が独自路線を追求しはじめたため、フランスでは定着せず。その後フランスはポスト印象派に移行していく。R・フライがイギリスで企画した展覧会「マネとポスト印象派の画家たち」(1910年)に由来する呼称である。代表的な画家にゴッホ、ゴーギャン、セザンヌがいる。一方でネオ印象派はベルギーやスペインで膾炙し、トーロップ、フェルデ、モレン、レメンなどがいる。フェルデはアールヌーヴォーの画家である。さて、ポスト印象派の巨匠ゴーギャンは、1888年、素朴な絵画表現に魅せられ、遠近法を無視したべったり塗りの表現法を採用した。これを「クロワソニズム」「プリミティヴィズム」という。自然を忠実に写し取るのではなく、描き方で画家の気持ちを表現する「表現主義」を生み出した。またゴーギャンは、実際には存在しないはずの天使などを絵画に登場させた。架空の存在を描き内面を表すことを「象徴主義」という。代表作にして、最後の作品が「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこに行くのか」である。その後、現実と人間の内面を融合させる統合主義に行きつく。脳内のイメージと現実を「統合」して画面に再構成する。抽象画と写実画の中間とでもいえる。人間の内面に焦点を当てるという意味では象徴主義も統合主義も同じだが、象徴主義は文学に由来する、非常に非常に大きなうねりだった。1886年にモレアスが発表した「象徴主義宣言」がそのはじまり。

10分でわかる近代美術史・その2……さて、ゴーギャンと並び近代美術に多大な影響を与えたポスト印象派の画家がセザンヌだった。セザンヌ最大の功績は、絵画に多視点を取り入れたことだ。これはピカソとブラックのキュビズムへ継承される。ルネサンス以降で最初にこの描画を始めたのはセザンヌ。ブラックは彼に感銘を受け、風景画を作成、それを見たマティスが「小さなキューブによる絵のようだ」と語ったことがキュビズムの語源。一方でピカソはアフリカの原始芸術に魅せられ、独自に多視点描画を取り入れた「アヴィニョンの娘たち」を1907年に完成させた。キュビズムを進めると対象が分解され、何を描いているのかわからなくなる。さらに、分解により色をなくしたキュビズムは何を描いても同じような絵になってしまった。こうして人気は失われてしまう。ただ、ピカソとブラックは突破口として「コラージュ」の手法を開発。これはのちに、「ダダ」という手法に引き継がれた。ドイツ(ドイツ語圏)でもフランスと同様、旧態然としたアカデミズム主導の画壇に反発する若手の芸術家が現れた。彼らは新たに自分たちの組織をつくった。このようなグループを「分離派」と呼ぶ。分離派には3つのグループがあった。1つ目が、シュトゥックが1892年に組織したミュンヘン分離派、1897年に設立されたクリムト率いるウィーン分離派。3つ目が、1899年に結成された、リーバーマンとクリンガー率いるベルリン分離派。新しいものを受けいれる素地が育ったドイツでは、世紀末という時代性と、内相的な性格とが相まって、人間の内面をえぐるような象徴主義と表現主義が花開いた。最大のウィーン分離派はアールヌーヴォー様式の影響を受け、クリンガーによりシュールレアリスムへとつながった。1910年前後のドイツでは、ドレスデンの「ブリュケ」、ミュンヘンの「青騎士」などの、表現主義を代表するグループが誕生。しかし1930年代にナチスが台頭すると風向きが変わってくる。1933年にナチが政権を握ると、近代絵画は精神病患者の描いたものとし「退廃芸術」のレッテルを張られた。さらに、ナチは推奨される芸術を集めた「大ドイツ芸術展」を開催、翌日に「退廃芸術展」を開催し、近代絵画を晒し者にした。ちなみにヒトラーも画家を目指していた。彼は近代絵画を嫌っていただけあり、極めてアカデミックな作品を描いている。この頃、イタリアは自国の歴史が重荷になり、先端技術の導入において、他国に後れをとっていた。そんななか、機械文明を賛美した「未来派」が台頭する。未来派は1909年、詩人マリネッティがフィガロ紙に「未来主義創立宣言」を発表したことに始まる。戦争と機械文明がもたらすダイナミズムやスピードを礼賛したものであり、「疾走する自動車はサモトラケのニケより美しい」という有名な句を残した。未来派の高慢で偏った思想は、ムッソリーニに「私の恩師」と言わしめるファシズムの父、ソレルが前年に著した「暴力論」の影響があり、極めて右翼的で過激的だった。これらの運動はのちにファシズムと結びついていく。1910年には「未来派画家宣言」「未来主義絵画技術宣言」に、ボッチョーニ、セヴェリーニ、バッラ、ルッソロなどが著名。画面に動きやダイナミズムを取り入れようとした。それまで一瞬の光をとらえてきた微分値的な絵画の常識を破り、時間を取り入れた積分値的な絵画の作成を目的にした。

10分でわかる近代美術史・その3……1910年前半、上の流れの当然の帰結として「抽象絵画」が生まれる。現実とは異なる理論にのっとってつくられる、独立した存在である。創始者にはチェコのクプカ、ドイツのカンディンスキー、オランダのモンドリアン、ロシアのマレーヴィチなどがある。「事物の表層にとらわれず、その裏の本質をとらえる」という目的で始まった抽象絵画は、歴史的には4つの流れが土台になっている。まず、コーギャン・ポン・タヴァン派、そしてナビ派から始まる、色彩の破壊と再構成。ゴーギャンの「見たままの色彩を使う必要はない」という考えが、色彩を現実の縛りから解き放った。その結果、自由な色彩を使う「フォービズム」が誕生する。2つ目はピカソとブラックによる空間の破壊と再構成。キュビズムである。3つ目はイタリアの未来派による時間の破壊と再構成。未来派は機械化やスピード化を賛美し、画面に動きを取り入れた。4つ目は、表現主義、象徴主義にみられる内省的な絵画の成熟。抽象絵画は画家の主観に頼る。「美とは何か？」「普遍的な美は存在するか？」という問題提起に繋がった。その結果、モンドリアンによる「新造形主義」、マレーヴィチの「シュプレマティズム」、デュシャンの「レディメイド」などの芸術論が生まれた。このように、フランスを基点に絵画の自由と自立を求める運動が発生し、抽象絵画に繋がった。一方、芸術にはイギリスのアートアンドクラフツ運動を起点とするもう1つの潮流があった。工芸などのものづくりを基本とし、生活に密着した製品に芸術性を入れることを目指す芸術家たちである。産業革命により画一的で粗悪な製品が出回ったことを受け、手工芸を見直そうとしたのだ。1861年に設立されたモリス商会がこれを牽引。この運動は「アールヌーヴォー」に繋がっていった。1900年前後に西側諸国で起きたもので、特に1900年のパリ万博で隆盛を極めた。アールヌーヴォーでは、ガラスや金属など近代的素材を使い、時代に即した新たな芸術を生み出すこと、「絵画」「建築」といった縦割りを改め、分野の垣根を取り払うこと、芸術家の個性を尊重し、実用品などの製作を通して社会生活に浸透させることの3つを目指した。特に、最初のアールヌーヴォー建築であるタッセル邸、ティファニーのランプ、ミュシャ、ロートレックのポスターが有名。大きな特徴に、植物や昆虫などの有機的なモチーフと曲線美があるのだが、パリ万博以降は「過剰で安っぽく表面的」と批判され、アール・デコという、デザインをシンプルにした芸術が生まれる。1925年のパリ万博のタイトルに由来するが、やはり万博以降すたれてしまった。

10分でわかる近代美術史・その4……純粋芸術の抽象化と工芸芸術の総合化が進んだのが、1900年代のロシアである。ロシア・アヴァンギャルドと呼ばれる芸術運動が展開された。過去の芸術を「ブルジョア的」だと否定した。その背景にはプロレタリアートの増加があった。1905年の「血の日曜日事件」により隆盛を極めた。ロシア・アヴァンギャルドには2つの主流がある。1つはマレーヴィチに代表される「シュプレマティズム」、2つ目はタトリンの確立した「構成主義」。そもそもロシア・アヴァンギャルドは、ロシア伝統の素朴な絵画への回帰を目指す「ネオ・プリミティヴィズム」にはじまる。ロシアの画家ラリオーノフは、1909年から「ダイアのジャック」「ロバのしっぽ」など、「ネオ・プリミティヴィズム」を基盤としたグループを結成し、ロシア・アヴァンギャルドの端緒を開いた。ネオ・プリミティヴィズムはその後キュビズムや未来主義を取り入れ「立体未来派」と進む。これが後に「シュプレマティズム」という芸術思想を生み出した。唯一絶対的な美は人間の感覚の中にあると考える。自然を模倣した絵画を否定し、さらには対象物を描くことさえも否定する。このような絵画を「無対象絵画」と呼ぶ。そのため特徴は正方形や円などの幾何学模様。一方で産業革命以降の工業労働者の増加は、工業素材を組み合わせ、新たなものを作り出す「構成主義」となった。その基礎を築いたのがタトリンである。なかでも400メートルの高さを誇るタトリンタワーは構成主義の象徴的な作品になった(完成しなかったが…)。このようなロシア・アヴァンギャルドはソヴィエトのプロパガンダに使われるようになった。このような運動が「グラフィックデザインの父」と呼ばれるロトチェンコや、インスタレーションの祖であるリシツキーなどの芸術家を生み出した。しかし1934年、ソヴィエトが「社会主義リアリズム」のみを唯一の芸術だとしたため、ロシア・アヴァンギャルドは終焉を迎えた。

抽象絵画は一体何がすごいのか……その魅力に気付くためには、19世紀まで遡ろう。当時の芸術家たちは、目に映るものをどう表現するか悩んでいた。古い芸術に反発して個人の自由と想像力を大事にしたロマン主義、美しいものだけでなく目の前の光景を描こうとした自然主義などだ。そんな中、モネやルノワールは、自然の光をそのまま、筆のタッチにまかせて描き出し、印象派と呼ばれるように。その流れを受け、近代絵画の父であるセザンヌが誕生する。彼は自然を幾何学的に見ることに興味を持ち、「複数の視点からみた世界を重ね合わせる」方法を確立した。「ラム酒の瓶のある静物」はそれ。そのセザンヌからピカソが影響を受け、キュビズムを確立。「マ・ジョリ」という作品はまさにそうだ。楽器を弾く女性をモチーフとしているが、もはや何が描かれているのかわからない。さて、ここで登場するのがモンドリアン。彼は伝統的な画風であったが、パリに滞在していたときに出会ったキュビズムに強い衝撃を受けた。ピカソらの理論を踏まえた上で、その先を目指そうと没頭。「炊飯器と静物2」は、ピカソの絵と同時期の1912年に描かれ、小さな四角形や三角形という形で画面が覆われている。そして制作を続けるうちに、ある考えにたどり着く。今までは物をどのような形で描くか悩んでいたけれど、その形そのものこそが美しいのではないか？と。こうして、四角形、直線、一色の図形からなる絵を描き上げた。初めて、絵画から「物を描く」考え方がなくなった(新造形主義)。ということで、一見誰もが描けそうな絵でも、芸術家が悩み抜いた末の表現なのである。テキトーに描いても芸術にはならない。

権利の行使には義務が伴う？……誤解されがちなことば。「義務を果たせば権利が付与される」という意味ではないことに注意。近代の自由主義ではそれは正しくない。例えば日本にも「一定額以上の納税で選挙権が与えられる」という暗黒の時代があったが、「権利を義務の対価」とすると、その考え方を肯定することになりかねない。実はもっと単純な話で、例えば我々には選挙権がある。投票所に行き、国政の代表者を決めるための投票者を行う「権利」がある。そして国には、我々が選挙権を行使できるよう、選挙を実施する「義務」がある。私人間での契約も同じ。私がメロンパンを買ったら、店員からそれをもらう「権利」がある。一方で店員はその「義務」をおう(民法ではこれを債権・債務という)。いやいや「お前がメロンパンをもらうにはお金を払う必要があるはずだ、やはり権利は義務の対価だ」という人がいるだろうが、それは売買契約という双務契約の例だから「たまたま」そうなっただけ。例えば贈与だったら、一方的に権利だけ有して、相手が義務を負うだけだ。「してばっかりで申し訳ないからこっちもお返し」というのは、道徳的価値観としてはすばらしいが、憲法に書くことではないし、書いてはならない。もちろん権利と権利がぶつかって双方の利益調整を行う必要は出てくる。しかし、権利が義務の対価だ、という考え方の間に、何ら関係性はない。

島の「ケルト」と大陸の「ケルト」は別物だった……歴史上の民族としての「ケルト」は、近代につくられた「ケルト的なもの」とは全く違う、という話は知られていたが、「そもそも島のケルトはケルトじゃないし、中世以降のケルトは自称しているだけだった」ことがわかった。旧来の説として知られているのは、ケルト人はローマに大陸から追い払われて島の片隅にしか残らなかった。ケルト人の移住により製鉄技術が広まった、というもの。しかし最近の研究でわかったのは、ハルシュタット文化やラ・テーヌ文化(ケルト人の文化とされる)の伝播に人の入れ替わりはなく、移住を伴わないこと。そして、ケルト人の分布と製鉄の伝播はずれている。さらに、遺伝子調査したら大陸側のケルト人が島に渡った痕跡がなかった。ケルト語圏とケルト人の行動範囲もほとんど重なっていない。もともとケルトとは、ローマ帝国が記録した「ケルタエ」が元の名称。ケルタエとガリアは多くの場合同じものとして扱われるが、ローマの記録によるケルト人は紀元前までで消滅している。それ以降、例えば中世以降のケルトは断絶されている。とはいえ、ラ・テーヌ文化のような、ケルト人の文化とされる文化は「人の入れ替わりがない」文化である。また、ケルト語が伝わるのにケルト人が必要というわけではない。ちょうど「日本に中国から文化が伝わったけど中国人の移住がない」ようなものである。中国を大陸ケルト、日本を島ケルトとして考えてみる。両者を一緒に扱うのは適切ではない。ただし中世の「ケルト文化」とやらは断絶があり、ごく最近「復興」されたものである。その結果、実際は紀元前3000年くらいの遺跡だった巨石群をケルト文化のものと誤認してしまったのだ。

日本神話のあらすじ……昔々、「高天原」(たかまがはら)という神々のすみかに5人の神様がいた。彼らを「別天津神」(ことあまつかみ)といい、登場そうそう隠居をカマしてしまう。というのも仕事がないからだ。次に大地をつくり生を生む7人が登場し、そのうち2人がイザナギとイザナミである。この二人は「国をつくって管理せよ」と命ぜられ、天沼矛(あめののぼこ)という矛を授かった。これを海に突き立てかき混ぜると、矛から滴り落ちた海水が島になった。この島は実在するかどうかわかっていない。そこに家を建ててセクロスすると、日本列島が生まれた。ここに二人は17人の神を生んだのだが、最後の神、火の神カグヅチを生んだとき、イザナミがアソコを火傷して死んでしまう。彼女の遺体は現在でいう島根と鳥取の県境にある比婆山に葬られた。イザナギは、黄泉の国に行ってしまった彼女を連れ帰ろうと、黄泉の国の入り口である黄泉比良坂を通り国に行く。しかしイザナミは黄泉の食べ物を食べ、既にそこの住人になってしまっていた。「黄泉の神に相談するから待っててほしい」というイザナミだが、イザナギは待ちきれずに覗き見してしまう。そこにはショッキングな姿のイザナミが。約束を破って見られたイザナミは怒って彼を追いかける。イザナギは全力で逃げるが、その時に桃やらを投げつけて撃退。最後まで追いかけたが、イザナギは岩石で出入り口を封鎖。イザナミは「私はこれから毎日1000人ずつ殺す」といい、イザナギは「ならば1日に1500人産ませよう」といった。これにより人間に寿命が生まれた。黄泉の国から帰ったイザナギは禊払いを行う。左の目を洗ったときにアマテラス、右の目を洗ったときに月読命(ツクヨミノミコト)、鼻を洗ったときにスサノオが生まれた。この3人は分担して国を治めることになったが、スサノオはイザナギからの統治の命令に従わず、母イザナミの国に行きたいとずっと泣いていた。これを見てイザナギはスサノオを追放。スサノオは母に会いに行く前にアマテラスに報告。アマテラスはそれを察知し、荒れているスサノオに対峙するため男装をし、完全装備で待ち構えていた。「なんでここに来たの？」「母の国に行きたいと言ったが追放されてしまった。本当だ」「じゃあお前が本当に清い心か、どうやって調べるか」「ならば、誓約を交わし子を産もう」という。これは吉凶を判断する占いの一つ。誓約の結果「心が清いから上品な女の子が生まれた、私の勝ちだ！」といい、スサノオは大暴れ。アマテラスはこれを寛大な心で庇ったが、さらに悪行するからぶちぎれて天岩戸に引きこもってしまう。太陽を司るアマテラスが職務放棄したため夜の世界だけになり、いくつもの災いが起こってしまう。これを解決するため神々は祭りを行うことに。このときにつくられた鏡と玉が三種の神器の2つとなる。祭りではアメノウズメが踊り手で、胸を露わに、服の紐を陰部まで押し下げるとんでもない恰好に。これには神々も爆笑。あまりの騒ぎに「何が起こっているか」と聞いてきたのですかさず鏡を出して「あなたよりも尊い神がいる」と答える。気になって外を覗こうとしたら、力持ちの神に引きずり出された。この引きこもりの原因はスサノオにあるとされ、スサノオは手足の爪を引き抜いたうえで追放されてしまった。彼は罪を償うために女神に供え物を求めに出たが、女神が供え物を自分の体から取り出したため、わざと供え物を汚したと勘違い、提供してくれた女神は殺された。このとき出てきたものが蚕、稲、粟、小豆、麦、大豆である。これらは別天神により地上に授けられ、五穀の種の起源となった。ちっともこりないスサノオだったが、ともかく旅を続け出雲に降りたった。川の上流から箸が流れてきたのでたどると、美しい娘とその両親が三人で泣いている。「毎年ヤマタノオロチがきて娘を1人ずつ食ってしまう。この子は最後だ」と父がいう。スサノオはその娘、クシナダヒメに一目ぼれし「その子を私に授けてほしい、私はアマテラスの弟だ」という。父は「ならばヤマタノオロチを退治してくれたら娘を差し上げよう」と。スサノオは酒によりヤマタノオロチを爆睡させる。その間に切断、退治した。解体の途中にヤマタノオロチの体内から見つかったのがアメノムラクモノツルギで、三種の神器の1つ。すっかり落ち着いたスサノオは新婚のための宮殿をつくる場所を探し、須我神社をたてた。

数の大きさ……万、億、兆、京、垓(がい)、杼(じょ)禾予が正しい(入力できない)、穣(じょう)、溝(こう)、澗(かん)、正(せい)、載(さい)、極(ごく)、恒河沙(ごうがしゃ)、阿僧祇(あそうぎ)、那由多(なゆた)、不可思議(ふかしぎ)、無量大数である。恒河沙とはインダス川の砂の川、阿僧祇とは数えきれないという意味、不可思議とは常識で理解できないという意味。「形骸上場交換制裁、悟空が葬儀でユウタをふかし、感無量」で覚えよう。

数の小ささ……一、分・割、厘(りん)、毛(もう)、糸(し)、忽(こつ)、微(び)、繊(せん)、沙(しゃ)、塵(じん)、埃(あい)、渺(びょう)、漠(ばく)、模糊(もこ)、逡巡(しゅんじゅん)、須臾(しゅゆ)、弾指(だんし)、刹那(せつな)、六徳(りっとく)、空虚(くうきょ)、清浄(せいじょう)となる。「分割リンボー支笏で美戦車仁愛。秒で爆発蒙古逡巡。周遊男子は刹那でリットル。空虚な清浄」で覚えよう。

茶の種類……煎茶：お茶の新茶を蒸し、これを揉んで乾燥させる。本来の甘味や渋味のバランスが取れたもの。深蒸し煎茶：お茶の葉をよりじっくり蒸して、渋味をやわらげマイルドさを引き出した。入れたときの緑色が鮮やかで、手早く味が出る。玉露：緑茶に覆いをかけて直射日光を避けて育てたもの。まろやかで濃厚な甘みがあるが、高価。抹茶：玉露と同じように日光を避けて育てた新茶を蒸した後、揉まずに乾燥させ、葉脈を除いて石臼で挽いて粉としたもの。番茶：夏か秋に摘んだ大きくて硬めの茶葉で煎茶と同様に仕上げる。おにぎりによく合い、実は栄養もいい。ほうじ茶：番茶を火で炒ってつくる。香ばしくさっぱりしているので、食後茶として最適。玄米茶：玄米を炊いて炒り、煎茶や番茶とまぜたもの。玄米独特の香ばしさがお茶と調和し、カジュアルな味になっている。

雲の種類……雲は大きく三種類に分かれる。上層雲は5～13km、中層雲は2～7km、下層雲は地上から2kmで見られる。上層雲は3つ。巻雲：すじ雲とも。白いペンキをハケではいたように見える。光線の屈折の具合で「かさ」が見える。これができた次の日は天気が悪くなりやすい。巻積雲：うろこ雲とも。英語では”mackerel sky”(サバ雲)。巻層雲：うす雲、かすみ雲とも。空一面を薄いベールのようなもので被う雲。日暈をつくる。中層雲も3種類。高積雲：ひつじ雲とも。秋によく見ることができ、何にしても見ていて楽しい。高層雲：おぼろ雲とも。太陽の光はすりガラスを通したようにぼんやり見え、空が灰色になる。月がこれにかかると「朧月夜」(春の季語)と呼ばれる。雨の前、巻雲や巻層雲の後に現れる。乱層雲：雨雲、雪雲とも。厚いのでこれに覆われると暗くなる。下層雲も3種類。層積雲：まだら雲、うね雲とも。やや厚めの雲が集まったもの。畑のうねのように見える。「天使のハシゴ」をなすのはこの雲。あまりとらえどころがないため「どの雲にも属さない雲こそ層積雲だ」というジョークがある。積雲：晴れの日によく出ている雲。雲といえばまずコレ。青空に単体で浮かんでいるアレ。層雲：きり雲とも。雨が降った後に山を見上げると出てくるやつ。最後に積乱雲。地上から13kmのどこでも起こりうる。

子孫……一般に「ひ孫」ぐらいまでしか知られていない。子、孫、曾孫(ひまご)、玄孫(げんそん・やしゃご)、来孫(らいそん)、昆孫(こんそん)、仍孫(じょうそん)、雲孫(うんそん、鶴の子とも)。その後は「雲孫の子、孫」と続く。ただまあ雲孫を見るまで生きる人なんていないのだから、覚えなくても損はない。「現存在は来航する浄運寺」で覚えよう。

誕生石一覧……1月：ガーネット。硬度が高く研磨材にもなる赤い石。2月：アメシスト。魅惑的な紫色の水晶。これを飲んでからワインを飲むと「悪酔いしない」と伝えられる。3月：アクアマリン。海水のような青色を呈する宝石。宝石として使用されるものの多くは青色を濃くするための加熱をされているが、やりすぎると透明になる。4月：ダイヤモンド。宝石として使われるものは2％であり、残りは黄色を帯びてしまっている。58面からなる「ブリリアント・カット」が特に有名。5月：エメラルド。クレオパトラが愛用していた、高貴な緑の宝石。モース硬度が高いくせに非常に衝撃に弱い。ヒスイも5月の誕生石だが、ヒスイと呼ばれる宝石はいくつもある。正式には「硬玉」「軟玉」と呼ばれるもののみがヒスイ。ヒスイに似た石は「キツネ石」と呼ばれる。6月：ムーンストーン。長石の一種。半球場にカットされ、乳白色の一筋の光が浮かび上がる。予知力を授けるという。真珠も6月のもの。7月：ルビー。アルミニウムの一部がクロムになった酸化アルミニウム。置換率が上がるとピジョンブラッドと呼ばれる非常に赤いものになるが、それ以上置換率が上がるとただの灰色の石になる。インドでは精神に強い影響をもたらすものとされ、額にみんなつけている。8月：ペリドット。緑色の宝石。かつて紅海に幻の島「トパゾン島」のうわさがあった。紀元前3世紀、ここからとれた宝石がエジプト王家に献上され、トパーズと呼ばれていた。しかし実際取れていたのはペリドットだったという。現在のゼベルゲット島(昔のトパゾン島)でトパーズはとれないこと、歴史書の「トパーズを紙やすりで研磨した」とあるがトパーズは硬くて研磨できないことなどが理由。9月：サファイア。深い青の宝石。ギリシャ語の「青い」に由来する。ちなみにピンクサファイアも存在する。10月：トルマリン。電気石ともいう。シンハラ語の「多くのものを持つ」に由来。最も色彩の変化に富み、無色、赤、青、緑、黄、紫、褐、黒、1つの結晶で複数の色をもつものまで存在。ウォーターメロントルマリンといって、スイカのような色をもつトルマリンもある。オパール。光が入り込み干渉が起きるため、表面が虹色に見える。11月：トパーズ。古くから知られている透明な宝石だが、色彩は白、黄、青、ピンクなど様々。本来は無色だが、これに人工的に放射線を照射し発色させる。シナモン色のトパーズが一番有名。フランス語で「レモン」という意味。12月：タンザナイト。普通は褐色や灰色という地味な色だが、キリマンジャロのふもとでは青紫のものが出てくる。見る角度により青になり紫になり灰色になる。トルコ石。水色で透けない宝石。紀元前3000年頃、古代エジプト王朝の女王がトルコ石でできたブレスレットを使っていた。実はイランやエジプトでしかとれないが、トルコ経由で地中海に持ち込まれたことがきっかけでこう呼ばれる。ラピスラズリ。日本語では「瑠璃」ともいう。産地は世界に数か所しかないため貴重。だが数千年前から使用されており、ツタンカーメンの棺やシュメール文明のモザイク画、正倉院にある装飾(シルクロードを伝わってきた)。日本では群青、ヨーロッパではウルトラマリンという絵の具に使われている。

諸兵科連合……近現代の陸軍において、「複数の兵科を組み合わせ、互いの能力を最大限発揮できる部隊をつくろう！」というドクトリン。陸自では「諸職種連合」と呼称される(日本は平和主義なので兵科ということばはないよ！！)。例えば歩兵科は機動力に優れ、あらゆる状況へ対応できる柔軟性を持つが、敵火力には非常に脆弱。機甲科は優れた火力と不整地走破性、防御力を持つが、小回りが利かない、歩兵からの攻撃に脆弱。航空科は高い機動力と対地攻撃能力をもつが、対空兵器にはとても脆弱。砲兵科は圧倒的な火力による制圧力をもつが、最低射程内に入られると手も足も出ない。

ダークマターはなぜ存在するとわかっているのか……星や惑星など、普通の物質の5、6倍ほどのダークマターが、宇宙にはあるとされている。でもどうして見えないはずのダークマターの存在を予言できるのか。一つは星の動く速度から。星の速度は重力が強いほど大きくなる。そのため以前では、我々のいる天の川銀河の星の速度は、外に行くほど遅いとされていた。ところが実際には、外も中心部もそう変わらない速度で動いていることがわかったのだ。ということは、外側に何かがあると仮定できるのだ。それこそがダークマター。ほか、重力レンズ効果からも予言される。さらに、銀河が集団を組んで束縛されていることも根拠になる。宇宙には1000億以上の銀河があるが、それらは50～数千個程度の群れをつくり「銀河団」になっている。それがさらに集まって「超銀河団」をつくっている。かと思えば何もないところもあり、ちょうど石鹸のようになっているのだ。宇宙の大構造からもダークマターがあることは間違いないとされており、いまや99％以上の科学者が存在を信じている。さらに、宇宙論や素粒子論部門でも、存在が示唆されてきた。例えば銀河はビッグバン直後に、素粒子からつくられた水素やヘリウムなど、普通の物質が集まって発生した。それらを集めるためにも、普通の物質による重力よりももっと強い重力を生む何かが必要なのだ。

宇宙はどこから発生したか……ビッグバンによって生まれたとは言われているが具体的にどんな感じなのか。まず、宇宙は無から生まれたとされている。物質も何もない状態からどう生まれるのか。実は「無」といっても本当に何もないわけではない。ゆらぎといって、物理的に可能な限りエネルギーを抜いた状態から生まれたのだ。エネルギーは抜くだけ抜いても、振動、つまり「ゆらぎ」が残る。この「ゆらぎ」は、素粒子の生成と消滅が繰り返されることで起きているため、物理的に消すことはできない。無と有の間をゆらいでいる状態ということだ。そこから「トンネル効果」により、突然パッと生まれたと考えられている。最初の宇宙が生まれた後、火の球になるわけだが、この急膨張をインフレーションという。急激に宇宙が大きくなるということは、それだけ密度が小さくなり、温度が急に冷えることを意味する。水でいうときの、氷点以下になっても凍らない「過冷却」状態に陥り、その間莫大なエネルギーが潜熱として蓄えられる。水だったら凍るときにその潜熱が吐き出されるが、インフレーションでは真空の相転移により、莫大な熱エネルギーが解放され、ごくわずかだった宇宙が直径1センチにもなった。それでは、物質はどこからきたのか。全ての物質は、インフレーション時代につくられた莫大なエネルギーがもとになっている。ビッグバン以降、宇宙の膨張とともに素粒子ができ、それが陽子や中性子、やがて原子に、物質生成が進んでいった。その間、それらの粒子は光を通さないぐらいに非常に濃密な状態で宇宙を飛び回っていたが、「宇宙の晴れ上がり」が起こり(宇宙生成後30万年後とされている)しかるべきところに落ち着いた。そして星ができ、銀河ができ、人間などの生物が生まれた。

じゃんけんに勝つためにはどの手を出せばいいのか……数学者の芳沢光雄氏の出版した「ふしぎな数のおはなし」によると、実際に700人以上に11567回じゃんけんをしてもらって調べた結果、グーが4054回、パーが3849回、チョキが3664回だった。つまり、パーを出し続けるほうがいいのだ。1対1の時だったら、同一人物が同じ手を出す確率は1/4以下なので、あいこになった時には、その手に負ける手を次に出すと勝率が高い。

耐凍戦略……南極や北極といった氷点下でも、昆虫や魚たちは凍ることなく生存している。そんな彼らがもつ戦略のこと。おもに2通りあり、まず、血液中にアルコール、グリセリン、糖などを生成して、血中に不純物を沢山つくることによって融点を下げる方法。これは塩分の多い海水が凍らないのと同じ理由である。もう一つは血中に非常に特殊なタンパク質をつくることで、血中の水分が氷結晶の成長するのを防ぐ方法。このタンパク質を「不凍タンパク質」と呼ぶ。実は不凍タンパク質は現在大変注目されている。例えば癌の手術のとき、摘出部位を凍らせ、摘出部位の回りの正常な細胞には不凍タンパク質を注入するなどして凍らないようにする。より安全な手術になるだろう。また、化粧品としてクリームなどに不凍タンパク質を入れることで、凍傷を防止したり、食品に入れることで味が落ちないようにしたり。

日本人の音感覚はとても独特？……よく漫画で「しぃーん」という文字表現を書き込むことがある。静寂とは音がない状況であるはずなのに、あえて音を使って静寂を表現する。なかなか趣があるだろう。音もなく降り積もる雪のことを「しんしん」、かすかな風の音を「そよそよ」というのも、それと同じだろう。音というのは非常に身近ながら、音響学が生まれたのは100年前のこと。全然年を取っていないのである。

ドラッグ・デリバリー・システム……略してDDSとも。ナノサイズの小さな容器でお薬を包んで、血液に運んでもらって、患部でとまってすぐ溶ける、ものすごい仕組みのこと。例えば高分子ミセルで抗がん剤を包み、がんのところに直接運んでもらう。人間の血管には、小さな分子が通れるぐらいの穴がいっぱい開いている。分子としては高分子ミセルは大きすぎるため通れないのだが、がん細胞は、増殖に必要な栄養や酸素を多く取り込むため、血管の穴が大きい。高分子ミセルが通れるのだ。他にも、アルツハイマー病に効く薬を脳に運ぶ仕組みも研究されている。脳はバリア性が高く、普通の高分子ミセルでは脳腫瘍などには使えない。しかし、特殊なものを使うことで、アルツハイマーにも有効になるかもしれない。

刺身は「新鮮なほどおいしくなる」わけではない……刺身のおいしさの要素といえば、結局「食感」と「うま味」である。歯ごたえとか歯ざわりに関係するのは鮮度のよさ。ところが、新鮮であるがゆえに、うま味のなさが目立ってしまう魚もある。鯛やヒラメなどの白身魚は淡白で食感がいいが、うま味がない。そのため買ってからある程度放置したほうがおいしい。白身魚は筋線維が赤身より多いため、歯ごたえがいい。赤身魚は筋肉にうま味成分がたくさん入っていて、とろりとした食感に。刺身に関係するうま味成分はイノシン酸。ATPが分解されてできたものなので、魚が生きている間はすぐにエネルギーになってしまうという理由でイノシン酸が少ないが、魚が死ぬといっぱい出てくる。つまり、時間をおくと味が濃くなっていく。実験の結果、だいたい水揚げから7～8時間ほどおくのが一番おいしいようだ。

たたら製鉄……日本で伝統的に行われてきた製鉄法。鉄は自然界には純粋なものがほとんどなく、大半は化合物である。主な原料は鉄鉱石で、掘り出したものを精製し、不純物を除いて鉄にしている。「もののけ姫」に出てきたアレがたたら製鉄で、粘土で築いた炉の中に、砂鉄をたくさん入れて、木炭を燃料にして1400度以下の低温で燃焼させる。鞴(ふいご、たたら)で炉の下から空気を吹き込み、木炭と砂鉄を交互に装入して、3昼夜1操業で銑鉄と鋼をつくるのだ。6世紀後半に朝鮮半島から伝えられ、時代とともに進化し、技術的には江戸中期に完成した。明治以降は増大する鉄需要に追いつけずに衰退したが、技術の伝承は行われている。たたら製鉄のたまものの1つが日本刀。玉鋼(たまはがね)と呼ばれる鋼は極上のもので、炭素含有率はわずか1％と、純度が極めて高い。これを使えば、強靭で切れ味鋭い、美しい刀が完成する。ちなみに鉄鉱石ではなく砂鉄を使うのは、体積当たりの表面積が大きくなるため。

失敗学……世界中のいろんな失敗事例を分析し、次につなげようとするポジティブな学問。「失敗学のすすめ」は2000年にベストセラーとなった。いずれの失敗も結局、分析すると「未知」「無知」「不注意」「手順の不遵守」「誤判断」「調査・検討の不足」「制約条件の変化」「企画不良」「価値観の不良」「組織運営の不良」の10個に分類することができる。どんな失敗でも、これらのいくつかが重なったことで起こるものだ。

活性酸素とは結局なんなのか……普通の酸素に比べて非常に反応性の高い酸素のこと。不対電子を持つ酸素分子のことで、いわば「ラジカルになった酸素」のこと。最近ではめっきり悪者としてしか扱われないが、実はよい面も悪い面も両方持っている。例えば、ばい菌を殺したり、がん細胞を殺したりすることも可能だ。しかし悪い面でいえば、動脈硬化を引き起こすことがはっきりわかってきた。また、がんの原因にもなる。実際に今使われている抗がん剤というのは、活性酸素を体の中に無理やり作り、それでがん細胞を殺しているのだ。活性酸素はまず強い光を浴びることで発生する。かつては「太陽にあたると体にいい」ということが言われていたが、紫外線はエネルギーが強いため、それが癌の原因になる。放射線に当たるのも同じ。それから意外にタバコも駄目。タバコの煙を吸うとかなりの活性酸素が体内に入り、吐き出した煙にはほとんどない。つまり、体内で大体が反応してしまう。活性と言われるだけあり、非常に反応性に富んでいて、DNAも障害をうけている。しかし癌に簡単にならないのは、防衛するためのシステムが体に備わっているからだ。もともと地球上の生物たちにとって酸素とは毒だったのだから。

動物と昆虫とでは「歩く」概念が全く異なる……同じ「歩く」でも、実は全く違う歩き方をしていることに気付いている人はなかなかいない。昆虫には頭を使うほど脳細胞がないが、イヌやキツネ、ネコなどは脳みそを使って歩く。例えば四本足の動物はどんなにゆっくり歩いても、2本の足が同時に浮いている。歩く速度により浮かす足も違うが、そこらへんは成長に従い覚えていく。イヌを例にすると、子犬のときはめちゃくちゃだが、そのうち消費エネルギーが最小になるような、楽な歩き方を覚えるのだ。そのため例えば足を1本ケガすると、3本で歩けるようになるためにはずいぶんと時間がかかる。ところがゴキブリなどは違う。脳で歩いていないから、どの足をハサミでちょん切っても、木ったとたんに5本足用の歩き方になる。神経回路網がそうなっているからで、もう1本切れば4本用になる。ロボット的な発想に近い。昆虫はそんなに頭が良くないのに、シンプルな仕組みで群れとして秩序を保っている。なかなかに自然はよくできている。

ポリエチレンテレフタレートを分解する細菌がいる……2016年3月、驚くべき研究論文が”Science”に掲載された。なんと、ペットボトルの原料であるPET樹脂を分解・代謝するバクテリアを探し出すことに成功したというのだ。そのメカニズムまで解明されており、分解に用いている2種類の酵素を特定し、その仕組みまで解明された。実はPETの再生率は4％しかない。リサイクルや処理に専用の設備、そして莫大なエネルギーが必要なのだ。どうやってそんなものを探し出したかというと、大阪の堺市にあるリサイクル用のペットボトル集積場で試料を採取したから。PETだけを食べて生きられるバクテリアを見つけ出したのだ。現在これは「イデオネラ・サカイエンシス」と名付けられている。

イエネコの起源は中東である……実はリビアヤマネコが起源であることが、ミトコンドリアの解析から判明した。リビアということはアフリカが発祥地…と思いきや、中東なのだ。人間が農耕を始めたのが1万年以上前の中東とされているが、その頃からネズミに悩まされ、それをエサとするネコを飼い始めた。その愛らしさから次第に愛玩用になり、キプロス島では人間と一緒にネコが埋葬されて骨として見つかっている。その後、バイキングや貿易商人たちとともにヨーロッパを旅してまわるネコも増え、新大陸アメリカにも上陸。一方で仏教徒とともにシルクロードを旅した猫がアジアに向かい、日本までたどり着いた(というのが定説であったが、2019年3月のニュースによると、弥生時代には既にいたらしい。遺構から骨が発掘されて判明した)。現在100品種が存在すると言われ、その経緯は「レトロウイルス」の痕跡を調べることで調査できる。レトロウイルスの中には、生殖細胞に入り込んで子孫に代々受け継がれているものがあり、染色体の同じところに感染する特性を持つ。そのため、あるレトロウイルスが同じ場所に感染しているか調べることで、共通の祖先かどうかがわかるのだ。その調査(19種1414匹を1年間かけて調査)によれば、ヨーロッパのヨーロピアン・ショートヘアと北米のアメリカン・ショートヘア、アメリカン・カールは、共通の祖先をもつ品種だと判明。これまでアメリカン・ショートヘアは、メイフラワー号に乗って北米に上陸した、元・ヨーロピアンショートヘアだと推測されていたが、それが遺伝学的に証明できた。さらに、ヨーロッパの品種では40％、北米では55％の猫が持っていたレトロウイルスを、アジアの品種はわずか4％しかもたなかった。中東で家畜化され、ヨーロッパ方面に向かったイエネコだけがこれに感染してアメリカに伝わったのに対し、アジアでは、これと違う系統のイエネコが広まっていったことがわかったのだ。

放線菌……土壌微生物の一種。雑木林や公園など、我々の身近にある土に生息する。生物学上では「原核生物」に分類されるが、遺伝子の数が多く、原核生物の中では最終進化形とされている。これまでに2800種が発見されており、抗生物質の元となる化学物質を8000も創り出してきた。普段は菌糸状なのに、栄養が悪くなると胞子を形成するという複雑さもあり、基礎研究分野では重要な研究対象になっている。結核の特効薬である「ストレプトマイシン」も放線菌から作られている。生物資源からつくられる高性能バイオプラスチックの開発などが現在、進められている。ポリ乳酸に変わる「熱に強くて強度も高い」プラスチックが作れれば、…夢は広がるばかりだ。

目で見た人の動きを真似る細胞がある……その名も「ミラーニューロン」。他者の行動を自分の脳内で鏡のように映し出す神経細胞のこと。この細胞は無意識的に働く。マネすることで動作の意図や意味が深く理解できるからだという。自分の手を動かす時、脳の中では「手を動かせ」という命令が出る。そして、動いている手の動きを目で確認すると「これは自分の体」という一体感が生まれる。これが他者の動きを見たときにも働いており、無意識のうちに自分と他人の動きを一致させる性質を生んだのだと考えられている。

戦時中、ワインは軍事利用されていた……ワインからとれる「酒石酸」が、潜水艦探索用ソナーの発信源として、軍事兵器に利用されていたことがあった。山梨県では、その開発生産のためにワインを作っていた時代があったのだ。といっても、酒石酸をつくることが目的なので、残ったワインは酸が抜けておいしくない。あまりにまずくて飛び跳ねるということで、「ラビットワイン」とまで呼ばれていたらしい。

鳥類の小さな脳に秘められた驚くべき能力……鳥類といえば人間との共通点はあまり見つけられないようだ。しかし、人間と同様に視覚を中心に認知を行うし、昼行性という共通点がある。マウスやサルよりも研究しやすい。それに、例えばカラスは道具を「つくって」「使う」ことができる。道具を「使う」動物はたくさんいるが、例えば針金の先を曲げてフック状にし、筒の中のエサを釣り上げる、というような、道具を「つくる」動物はそんなにいない。そういう点で人間と鳥は似ている。そのほか、訓練によって絵の上手・下手を判断できるハトとか、経験や訓練で未来予測が可能になったカケスとか。ドイツのある研究室で「鳥は自分のことを認識できるのか」という実験が行われた。鳥の体にこっそりマーキングをして鏡を見せる。「あれ？何かついてるぞ？」という素振りを見せれば、認識していることになる。たった一例だったがカササギ(カラス科)の実験で認識できた。これまでパスしているのはイルカ、ゾウ、大型類人猿のみ。なかなか知能が高いといえる。

納豆の糸にガンマ線を当てるとブヨブヨになる……納豆の糸、ポリグルタミン酸に放射線を当てることで、寒天のようなゲル状になる。それを凍結乾燥させると白い粉末状の樹脂ができる。これが「納豆樹脂」と呼ばれる新素材で、吸水性、可塑性、生分解性に優れている。納豆樹脂1gで3g以上の水を貯えることができる。この性質を利用し、紙おむつや化粧品の開発が進んでいる。大量生産は糸をかき混ぜて…とはいかない。さすがに大変である。キャッサバを利用し、発酵プラントで納豆菌を培養している。今では1日に1トンは生産できるように。

コウモリは割と人間に近い親戚……哺乳類の祖先は「食虫類」といって、鼻の先が長く伸びた「吻」で、土のミミズや昆虫を食べている小型の動物だ。それが何度かにわたり多用に分岐進化してきたと言われるが、その中で我々人間を含む霊長類と、コウモリを含む翼手類に分かれたという。つまり、人間とコウモリは親戚筋なのだ。また、全哺乳類の中で最も個体数が多いのはネズミだが、次に多いのはコウモリ。

遺伝子が恋愛を左右する？……遺伝子はあくまで要因の一つでしかないが、血液型占いよりよほど信頼性が高く、また科学的なデータが集まっているのが事実。MHC(主要組織適合性複合体)遺伝子が相性を左右するという。MHCは、白血球などにある、タンパク質を作るための遺伝子の複合体である。人により何千、何万通りもあるのだが、MHCの型が似ていない相手に惹かれることが、ある実験でわかった。44人の男子学生に同じシャツを2晩着てもらい、50人の女子学生にその匂いを嗅いでもらって、好感度を採点。「とてもいい」から「とても嫌」まで10段階で評価する。すると、MHCが似ているほど採点はきつくなり、かけ離れているほどよい結果が出た。同じ実験を男子学生どうしで行っても、全く同じ結果が出た。つまり、私たちは性別に関係なく、自分と違うMHC型をもった相手に惹かれるのだ。何となくフェロモンの話に似ているが、フェロモンの正体がMHCというわけではない。MHCはあくまでフェロモンの「運び手」だという。体内で匂い物質を抱え込み、汗とともに体外に出る。そこでMHCが脱ぎ捨てられ、中の物質が揮発して匂うというわけだ。さらにいえば、「ゲイ遺伝子」なる、同性愛を引き起こすための遺伝子があったこともわかった。ショウジョウバエを用いての実験で判明したのだという。

カラスは「遊ぶ」……鳥類は基本的に賢いが、その上でカラスはとびぬけて賢く、思わぬ行動を見せてくれる。最も興味深いのは遊びに類する行動。例えば、電線に留まっているカラスがいきなり逆さにぶら下がって、しばらくして電線を掴んでいる足をパッと放す。落ちるのかと思えば、サッと翼を広げて飛んでいく…というような行動をする。公園の滑り台で遊んだりもする。足を開いて翼でうまくバランスをとって滑り、下まで行ったらまた上に行って滑るのだという。雪が積もった斜面を繰り返し背中で滑るものも。ボールをフェンスにぶつけて、弾ませたり、転がして追いかけたり、高い所から物を落として、地面に落ちる前にキャッチしたり、遊びのような行動をするのだ。こういう行動は親鳥や仲間に強制されたり、教わったりするものではない。また、特定の役割や機能を持つとも考えられない。シカの耳の中に、シカのフンを詰めたりするイタズラもするのだという。賢くて強食だからこそ暇が生まれる。だから遊ぶのだろうか？

蚕以外の「蛾」もシルクをつくる……我々は昔からシルクを衣料として利用し、保温性や肌触り、光沢、美しさから、常に珍重してきた。さらに抗菌性や紫外線の影響を防ぐなどの機能があることが分かり、非常に注目されている。カイコはカイコガ科に属するガの一種で、同じ科の「クワコ」が人間に飼育されるようになってできた。4000年以上前からカイコを飼い、その幼虫がつくる繭をほどいて「シルク」として利用してきた。品種改良により、今ではクワコよりも体が大きく、繭生成量も最大で10倍に。しかし、幼虫はエサの桑葉を与えられるまで待ったり、成虫になっても飛ぶことさえできなくなっている。このように屋内で飼われるカイコを家蚕(かさん)と呼び、それ以外の繭をつくるガ類を「野蚕」(やさん)と呼ぶ。つまり蚕以外のガもシルクをつくるのだ。例えばヤママユガ科の「ヤママユガ」は、別名「テンサン」とも呼ばれ、緑の綺麗な繭をつくるため、かなり高価。同じ科にインドの「タサールサン」がおり、独特の風合いでとても人気。黄金色の繭をつくる「クリキュラ」も注目中。ちなみにシルクはクリーム状にすると、「静菌作用」といって、菌を増やしも殺しもしない作用がある。5年経っても全くカビが生えないという例も。繭は身を守るための蓑、カビが生えても困るし、乾燥しても困る。さらに紫外線からも守ってくれる。カイコの幼虫から繭を外して紫外線を浴びせると、ほぼ100％奇形になり、4割は死んでしまった。さらに実験では、家蚕より野蚕のほうが遮断力が強いことが判明。

1g中の微生物の数は地球の人口より多い……栄養が豊富な場所で、という前提付きではあるが、例えば我々の家の庭先でも、1g中には10億もの微生物がいる。植物や動物の死体、排泄物を分解するし、汚れた川や湖、海岸も綺麗にしてくれる。さらに、自然界にない工業廃水なども浄化してくれる。微生物がいなければとっくに地球はゴミだらけ。といえど、特殊な環境に生きている微生物もいる。例えば人間が手を入れると溶けるような強い酸性・アルカリ性とか、1000気圧、凍り付くような冷水、100度もの熱水、高濃度の塩の中、本当にあらゆる環境に彼らは住んでいる。

20代男性は殺人率が高い……犯罪心理学という学問で研究が進んでいるのが「殺人」について。自分の地位や立場を守ろうとするために、他の人を殺してしまう、あまりに逸脱している。国別、性別、年齢別に、人口100万人あたり何件の殺人があるか調べてみると、全体の人口100万人あたりの殺人率は、日本では10人、アメリカで95人、イギリスで20人ほど。しかし、どの国、どの文化でも、殺人率は圧倒的に男性のほうが女性より高く、さらに20代前半の男性に鋭いピークが。30歳代から急激に減少する。この形は統計がある限り、どこの国や文化でも共通している。男性が殺す相手は、圧倒的に男性だという。男性が男性を殺す事件が一番多いのだ。そしてその理由は、最も多いのが「自分の面子を守る」。それも、第三者から見たらくだらない理由の面子、名誉なのだ。酒場で馬鹿にされた、罵られた、ジュークボックスに金を入れたのは俺が先だ、など、口論に端を発するための葛藤だ。本当の理由は自己顕示欲の表れだろう。日本で1955年に起きた殺人のうち、男が男を殺した273件のサンプルでは、190件がくだらない口論によるもの、51件がお金がらみ、29件が性的嫉妬。これを説明する理論がダーウィンの「性淘汰の理論」である。同じ種に属しながらなぜメスとオスはいろんなところで異なるのかを説明する理論で、配偶者の獲得を巡る同性の競争、異性のえり好みという2つのプロセスが作用していると考えられる。鹿の角はオスにしかないが、それは戦うための道具。一方でクジャクの綺麗な羽、カナリアの美しい歌声は、メスに対する求愛となっている。これらが人間の葛藤の背景にあるというのだ。配偶者の獲得を巡る競争は男性においてのほうが強いから、「口論で勝ちたい」「高い評価を得たい」という欲求が、男性のほうが強いと考えられる。20代前半は繁殖にさしかかる時期なので、何に対しても自己顕示欲がピークになっている時期だといえる。また、世界的、歴史的に見ても、男性が女性を殺すのは、その逆に比べ圧倒的に多い。日本の55年のサンプルでは、夫婦に限っても、妻が夫を殺したのが24件で、その逆が85件。そのうち62件は奥さんの浮気や家出など、つまり、夫が妻をコントロールできなくなった場合。これは配偶者防衛の現れだとされる。メスは自分が子供を産むため、自分の子であることが確かだが、オスはその確信を持てない。そこでメスの行動をコントロールすることで、確実に自分の精子で受精した子を残そうとするのだ。

江戸で生まれた植物学「本草学」……本草学(ほんぞうがく)という学問が江戸時代に生まれた。主に薬用の観点で、植物を中心に動物、鉱物などを研究する。当時は薬による治療が中心で、その成分の多くは植物由来。戦国時代までは、明日のわが身がどうなるかわからなかった。しかし江戸幕府になり世の中が落ち着くと、「養生すれば長生きできる」ことがわかるように。しかし日本には、文献や資料が不足していた。それで当時つながりがあった中国で、江戸時代より少し前に「李時珍」(りじちん)が著していた「本草綱目」(ほんぞうこうもく)をもとに、研究がスタートした。しかし今では信じられないことに、当時の人々は、日本にある植物がすべてその書物にあると思っていた。しかも、実にインチキな絵が描かれていたのに、それを頼りに研究していたのだ。その後、本草綱目にない植物があると気付いたのがかの貝原益軒。彼は黒田藩に仕え福岡に住むまで、様々なところを歩いて回った。自身の見聞をもとに照らし合わせ、「そもそもこの書物は完ぺきではない」ことに気付いた。独自の結果をまとめ「大和本草」を出したのだ。

イヌの起源はインドオオカミ、アラビアオオカミ……オオカミが人間に飼われ、家畜化されるようになる過程でイヌに変化した、ということは、DNAで調べてみると間違いない。ところがいつ頃イヌになったか、はっきりしていない。2万年ほど前にイヌの骨が発見されているから、それより前だということは確か。古いイヌの骨はユーラシア大陸で多く発見されている。ユーラシア大陸には4種のオオカミがいるが、中でも小型のインドオオカミ、アラビアオオカミが家畜化されイヌになったという。その後、各地のオオカミとかけあわさり、いろんな種類ができた。DNAを調べてもそうだという。人の移動と共に混血し、適応することで、様々な犬種ができたのだ。ところで、元々オオカミといえば他の動物を襲う存在だ。なぜ人間が飼うようになったのか。実はオオカミは体が大きくなく、大型の猛獣から狙われやすい。人間は武器を使って集団行動するから、大型猛獣も昼は恐れて襲わない。よって、人間が住む場所はオオカミにとっても非常に安全。さらに雑食性が高い肉食動物だから、夜になると、人間が残した骨、内臓などの残り物を漁るようになったのだろう。最初は追い払われていたが、夜に野獣の襲撃があるとオオカミが吠えることで「意外に役立つ」ことがわかり、いつしか飼育するようになったという。そのうち、オオカミの優れた嗅覚や聴覚、足の速さを利用するようになって「イヌ化」した。牧畜を始めた人間は彼らを牧畜犬として、農耕を始めた人間は彼らを番犬として利用。番犬だけだったが、その代わりに食用としても用いるようになった。日本犬の一部は東南アジアのイヌと同じ型の遺伝子を持つ。縄文人により日本にもたらされたが、その時には殺されて食べられていたようだ(骨が発見されてわかった)。つまり、弥生人とかそこらへんの人々にとって、イヌは食用だった。6世紀ごろ、仏教の伝来と共に、ウマ、ウシ、ニワトリなどの肉とともに、イヌも食べることが禁じられてしまった。明治時代以降は欧米の動物愛護思想の伝来でほとんどなくなった。

細菌感染症は実は減っていない……俗に伝染病といわれる病気は、人類の科学の力で既に克服したと思われているが、実はそうではない。今では抗生物質ができて、医者までもがそう考えるようになった。例えば日本などではそれは事実だったのだが、近年、抗生物質への耐性をもつ細菌が出現。大きく分けて2つの要因がここにある。まず、細菌の数が非常に多く、遺伝情報の変化が簡単に起こるから。そしてもう1つの要因は、細菌が染色体と別に持つ小さな遺伝体、「プラスミド」。実はこっちのほうが大事。プラスミドを持つ細菌から持たない細菌に、プラスミドは移行する。しかもそれは、全く異なる細菌間でも起こりうる。どういうことかというと、とある細菌がもつプラスミドには、様々な薬に対する耐性の遺伝子が乗っている。その細菌が他のものと接合し、乗り移るというわけだ。こうして「多剤耐性菌」が生まれてしまう。一番実害が大きいのは、抗生物質を使ったばかりに耐性がない菌が皆殺しにされ、耐性菌集団に置き換えられること。まさに細胞側による逆襲というわけだ。

ネズミもゾウも、心臓は15億回打って止まる……人間も含め、世の中のいろんな生物を見ると、本当に多種多様だ。どれもこれも同じ生命なのに、こんなにも多くの種類がいる。さらに、動物によって「時間」は異なるらしい。心臓が1回打つのにかかる時間、呼吸するのにかかる時間、物を食べてからそれらが排泄されるまでの時間、そして寿命にしても、動物によって大きく異なる。例えば心臓が打つ周期を心周期というが、ヒトはおよそ1秒。ところがハツカネズミは1分間に600～700回、ネコで0.3秒、ウマで2秒、ゾウは3秒。実は体重の0.25乗に比例して時間が長くなることがわかっている。大雑把に言えば、動物の時間は体長に比例する。時間が4分の1乗に比例ということは、体重が2倍になると時間は1.2倍長くゆっくりになるということだ。体重が10倍になると時間は1.8倍。例えば30gのハツカネズミと3tのゾウでは体重が10万倍違うから、時間は18倍違い、ゾウはネズミより18倍時間がゆっくりということになる。我々は物理的な時間だけを絶対だと思うところがあるが、それはいわば人間だけの決め事。他の動物にはそれぞれの「時計」があるのだ。さて、動物の寿命も、実は体重の4分の1乗に比例する。哺乳類の場合、いろんな動物の寿命を心周期で測ると、だいたい15億。つまり、哺乳類の心臓は一生でみな、15億回なのだ。ゾウとネズミを比べればゾウのほうがずっと長生きだが、心拍数を時間の単位とすれば、全く同じ長さだけ生きて死ぬことになる。一生を生きたという感覚は、ゾウもネズミも同じなのだ。15億回という心拍数からすると、人間はだいたい26.3歳。縄文人の寿命は31歳だったという推測値があるから、本来の人間の寿命なんてそんなものかもしれない。

魚の増殖と養殖の違い……増殖とは、人の手を加えて飼育すること全般を指す。増殖にも養殖と栽培漁業の2つがあり、前者は卵から稚魚、成魚になるまで全過程を管理する方法で、後者は稚魚まで育てた後に放流し、帰ってきたものを取る方法である。日本で一番多いのはハマチで、スーパーや料理屋のものはたいていが養殖。タイやホタテもほとんど。淡水魚ではアユやニジマスが有名だがウナギが代表的で、99％が養殖である。逆に、栽培漁業の代表はサケ。養殖の起源は春秋時代末期、范蠡(はんれい)によるもの。今から2500年前には既に考え方があったようで、「范蠡養魚経」(はんれいようぎょきょう)という書物に、コイの飼い方、増やし方がのっている。

テトロドトキシンはフグ特有のものではない……フグの卵巣に含まれているのがテトロドトキシンだが、生まれた有毒の稚魚を無毒で育てると、成長しきったころには完全に無毒になる。ところが、そのフグにエサとしてフグの肝臓とか卵巣を食べさせると、その瞬間から毒化してしまう。さらに、カエル、イモリ、貝、カニなどからもこの毒が取れることから、食物連鎖によってフグに毒が溜まっているとわかったのだ。つまり、テトロドトキシンはフグに特有のものではなく、何らかの機構でフグが蓄えるだけだという話。フグ中毒の症状として、まず唇や口の周りが痺れる。それから頬や手足がだんだん痺れてくる。最終的には呼吸が麻痺、呼吸困難から呼吸麻痺になり死に至る。意識がなくなることはないから、かなり辛い。といえど、呼吸麻痺が収まるまで、人工呼吸を続ければ治ってしまう。中毒症状の発現には3時間かかるから、夕食に食べて夜に痺れ、朝までに死んでしまうパターンが多いようだ。

ピロリ菌は胃癌の原因になる……ピロリ菌といえば、胃潰瘍や慢性胃炎など、胃の病気を引き起こす細菌だとされている。しかし、実は胃がんの発症にも関係していることは知られていない。ある大規模な疫学調査によれば、ピロリ菌に感染していない人は、100％胃癌にはならないという結果が出ている。逆に、胃がんはほぼほぼピロリ菌が原因だという。ピロリ菌とは正式名称を「ヘリコバクターピロリ菌」という、胃の中でも生きられる特殊な細菌。全人類の半分が保有し、日本人も人口の半分が感染しており、特に50歳以上は8～9割が保有している。一度感染すると、除染しない限りは一生保有することに。ピロリ菌はアンモニアをバリアのようにして酸を中和するため、強い胃酸の中でも生きていくことが可能。さらに、自分の住む環境を良くするため、胃酸をコントロールすることがある。胃の細胞を間引きして、胃酸の量を少なくするのだ。体の表面にあるミクロの注射針を刺して、毒素を細胞に送り出す。この毒素はヒトのタンパク質であることを装うため、細胞の中を自由に動く。侵入に成功すると、次に細胞の増殖を制御する分子とくっついて、機能を狂わせてしまう。がんに繋がる異常な細胞の増殖を引き起こすのだ。通常、このような状態になると、人の体は「アポトーシス」というシステムが働いて、細胞が自爆して体を守ろうとする。しかしピロリ菌にとっては、この自爆こそが間引きになり、結果的に胃酸の量を減らすことができるのだ。なお、ピロリ菌の毒素は地域ごとに強さが異なるが、日本人が保有するものは不幸なことに悪性。抗生物質により殺すことができ、感染者の95％は除染できるので、駆除しよう。

社会や文化の違いにより、認知症は病気でなくなる？……病気というものは文化や環境により、とらえ方、考え方が全く違う。認知症の症状に関しても、地域によっては病気ととらえるが、病気とみなされないところもある。例えば、自分の能力で競争に勝つのが正しいとされるアメリカでは、人間の独立性、自立性を失うと、それが死を意味するとまで考える。だから、自尊心の高い人が少しでも忘れっぽくなると、それだけで「病気」と思ってしまう。一方で沖縄のように敬老思想が強く、老人が暖かく看護され、尊敬されている地域では、徘徊、幻覚、暴力などの周辺症状がない限り、認知症であっても「老いの過程にある正常な人間」と見られる。また、調査によるとアメリカでは「認知症を恐れる理由」として「自己の独立性が失われるから」という回答が圧倒的だが、日本では、認知症になったら延命措置を拒否する理由に「周りの人達に迷惑をかけたくないから」と答えている。徹底した「自己」の意識か、「つながり」の意識かという違いがある。

アルツハイマー病の薬ができるかもしれない……アルツハイマー病とは痴呆の代表的疾患であり、大変な難病である。脳が委縮し、神経細胞が失われ、知能が著しく低下する認知症。物忘れなどから始まり、進行すると記憶や判断能力が衰え、痴呆になり、死に至る。誰でも高齢になるとかかりやすくなるが、初老期に発病する人も多い。物忘れはやがて自己中心的な性格になり、身の回りの人に嫌疑をかけるように。場所や時間が分からなくなり、古い記憶も失われ、徘徊、見当識障害など、異常行動が見られるようになる。大脳のうち、知的機能を司る前頭葉で特に顕著に症状が現れる。神経細胞の外側に「老人斑」というしみ状の物体が多く見られるようになるのだ。また、脳神経細胞の中で、細い線維が異常に絡まり、ねじれあう「神経原線維変化」という状態になる。これらが認められて初めて判定がなされるのだ。発症のメカニズムとしては、アミロイドβという物質、タンパク質が大量に蓄積することだと考えられている。ということは、これを減らせばいいことになる。KMI429と名付けられた化合物はアミロイドβペプチドを作らせないようにしたもの。動物実験では、蓄積されたものの排出も進み、病気の進行抑制にも有効なことが確かめられた。病気の根本的な治療薬ということで、希望が出てきている。

悪玉コレステロールは決して悪いものではない……人間の細胞は60兆個あり、その骨格はコレステロールでできているほどで、体には必須なのだ。コレステロールは脂質なので、水溶性のリボタンパクという入れ物に取り込まれて細胞に運ばれるのだが、それには2つの種類がある。いわゆる、悪玉と善玉。善玉コレステロール、HDLは、体内の不要なコレステロールを回収する掃除屋で、悪玉コレステロール、LDLは細胞にコレステロールを供給する運び屋。ただ、細胞にコレステロールが行き届き、LDLが過剰になると、動脈硬化のもとになる。といっても、活性酸素と結びつくことで酸化したLDLが動脈硬化を起こす(LDLが過剰になり、体内を循環するようになると、一部が血管壁の内側にも入り、活性酸素と結びついて酸化する。これを白血球のマクロファージが食べて処理してくれるのだが、あまりに数が多いと、マクロファージが際限なく食べてしまい、しまいには食べ過ぎで死滅。その死骸が血管壁にたまっていって、壁を内側に盛り上げるというわけ)。LDLは悪玉と呼ばれているが、本当の悪ではなく、酸化LDLが本物の悪なのだ。LDLが酸化しないためには、ポリフェノール、とりわけ赤ワインは体に良い。色素成分となるアントシアニン、苦味や渋味成分のタンニン、カテキンなど、数多くのポリフェノールを含む(ポリフェノールと呼ばれている物質だけでも、7000種以上ある)。実際に、ある程度お酒をたしなむ中年サラリーマン10人を被験者に、実験を行なったところ、LDLの酸化を防いでいることがはっきりと証明された。4週間にわたる実験で、最初の2週間をコントロール期間とし、それまでのばらつきを取り去るため、食事も全員同じ。純粋なアルコールに近いウォッカを毎日一定量、体重1kgに対し0.8g飲んでもらった。後半はウォッカを赤ワインに変えた。そしてそして実験開始前、ウォッカ飲酒期間終了後、赤ワイン飲酒期間終了後の早朝空腹時に、血中のLDLが酸化し始めるまでの時間(ラグタイム)を測定した。すると、実験前のラグタイムは49.1分だったが、赤ワイン飲酒後では54.7分と、10％も結果が伸びた。動脈硬化を防ぐ効果があったことになる。白ワインにもポリフェノールは入っているが、赤ワインに比べはるかに低い。ブドウの皮や種を途中で取り除くのが白ワインなのだが、ポリフェノールはむしろそちらのほうに多く入っている。また、太陽を浴びるとポリフェノールが増えるから、赤道に近い地域のもののほうが効果的だという。

ゴマが体にいいことが人間実験でも証明された……活性酸素を防いでくれるという作用がある。マウスで実験はされていたが、人間でもその効果が確かめられた。激しい運動をすると大量の活性酸素が体内で発生する。人間に激しい運動をさせた時、ゴマの成分である「セサミン」を投与したときとしないとき、そして活性酸素を防ぐビタミンEを投与した場合の3パターンで活性酸素の量を計った。大学の学生数10人に実験台になってもらい、セサミン、ビタミンE、そしてプラセボを、運動する2時間前に飲んでもらう。もちろん二重盲検法。結果、セサミンを飲んだ人は、何も飲まない人の3分の1まで活性酸素を抑えることができた。また、ビタミンEはあまり効かなかった。セサミンはゴマの成分「ゴマリグナン」を形成する物質で、酸化を防いでくれる。肝臓に行って初めて働く成分である。肝臓は他の臓器よりもいろんな働きがあるから、一番活性酸素が生まれてしまう。しかし、ゴマリグナンはゴマ1粒に対して1％しか含まれておらず、その上セサミンとなるとごく少量。殻をすりつぶして食べると効果が高くなる。ゴマ油もとてもいい。さらに効果を上げるには、すぐに血中で効くビタミンEとの併用が最高。

「匂い」は直接脳を揺さぶる……匂いを捕らえるのは嗅覚だが、視覚が大脳新皮質で識別されるのに対し、嗅覚は大脳辺縁系。下等動物ほど発達している。また、同時に情動、欲動、記憶をコントロールしているため、匂いがすぐさま感情に結びつく。人がリラックスしているときの脳波にはアルファ波が多い。ある匂いをかがせてアルファ波が増えれば、その「におい」はリラックス効果があるとわかる。その代表例がラベンダーとかジャスミンだ。そのほか、においには脳を活発化させる働きがある。本人が好きなにおいだと、P300(刺激後、0.3秒で現れる脳波の総称)の大きさが増えた。

頭が良い人は「前頭連合野」が優れている？……人間の前頭連合野は他の動物に比べてものすごく発達しており、脳の3分の1を占めている。サルは15％で、ネコは1.5％と、ネコの額ぐらいしかない。脳の中にはまず外からの情報を受け取る所がある。次にそれを認識するところ、さらにそれをもとに考えたり行動したりするところと、大きく分けて3つぐらいに分かれる。機能面でいうと入力、処理、出力ということ。外から入ってきた情報は感覚野に伝えられ、その情報は感覚連合野に伝えられ、認知されて初めて情報になる。感覚の情報が脳の前の前頭連合野に集まり、ここで考えたり、判断したり、つくったりという「頭を使う」活動をすることになる。ということは、何かの問題が起こったとき、自分のもつ情報を駆使して、それに適切に対処できる人間が「頭が良い人間」だと言えないだろうか。しかし実際には、記憶力がいい人のことを「頭がいい」という傾向があるが…。

依存性薬物には3種類ある……簡単に「薬物依存」といっても、その薬物には3種類ある。まず、脳の働きを穏やかにするもの、つまり鎮静効果・抑制効果がある物質。俗にいう「ダウナー」である。アルコール、モルヒネ、精神安定剤、睡眠薬など。それと逆に、興奮作用があるもの。これが「アッパー」。コカインや覚せい剤、MDMAが有名。最後に、幻覚などを起こす物質で、マリファナ、LSD、シンナーなどがある「サイケデリック」。これらの依存性物質は体内に入り、脳の中枢神経組織に作用する。そして、多幸感、陶酔感、快感をもたらす。だから使用を繰り返すうちに、それをまた味わいたいという気持ちになる。甘いもの、辛いものが好きでやめられない、というときの「やめられない」とは基本的に違うわけだ。

ニコチンは鎮静作用と興奮作用の2つがある……タバコに含まれるニコチンは面白く、興奮と鎮静という2つの作用がある。朝起きて頭がぼーっとしているとき、夜、車を運転している時などは、1本吸うと頭がすっきりする。これは興奮効果の表れ。逆に、興奮しているときに吸えば、沈静化する。こういうのを「二相性の効果」という。そして、その時の状態に応じて自分の望むレベル、いいレベルに調整できるという「調節作用」もある(どちらかというと、興奮効果のほうが優位)。タバコ依存なんて言うが実際はニコチン依存で、それは実験により確かめられている。例えば喫煙者に対し、本人にはわからないように、タバコに含まれるニコチンの量を微量、中等量、大量と分けて吸ってもらうと、みんなそれらを判別でき、しかもニコチンが少ない方を吸うのを嫌ったという結果が出ている。また、いくつかの量のニコチンを含むタバコを吸った場合と、同じ量のニコチンを静脈に注射した場合を比べた実験もあり、効果の長さや強さがとても似ている。そのほか、本人にはわからないようにニコチンの量を減らしてタバコを吸わせると、明らかに喫煙本数が増えたという結果が出ている。

解剖学の歴史……解剖学のはじめはギリシャ・ローマ時代。この時代には人体解剖は禁じられてきた。ローマ時代、大量の著作を残した医学者にガレノスという人がいるが、彼は剣闘士の傷口を覗いて内部を観察していたという。サル、ネコ、ブタなどの所見をそのまま人体に当てはめて理論を組み立てなくてはならなかった。これを1期とすると、2期はある程度解剖できるようになった1300年以降。1543年、アンドレアス・ヴェサリウスが出版した「ファブリカ」(組み立て)という本。ヴェサリウス自身の成果をもとに、精密で美しいイラスト入りの700ページのもので、それまでの医学の権威を根本から揺るがした。人間の背景にはイタリアのある地方の風景が一つ一つ丹念に描かれ、筋肉の全ての図を並べると、後ろにその地方のパノラマが浮かぶ仕掛けになっている。とはいえ、これにも泣き所が。当時は防腐処置も冷凍技術もなかった。不眠不休で3日間かけて解剖したわけだから、必ずしも十分な内容ではない。時には動物の解剖で得た所見を人体に当てはめた部分も見られる。例えばへその両脇を縦に走っている「腹直筋」だが、人間の場合はみぞおちの少し上までしかない。しかしこの本では胸の上部まで延びている。サルか何かを借用したのだろう。もう一つ、解剖する遺体の不足もあった。まだ「解剖は神様の意志に反する」という考えがあり、処刑された者の遺体しかなかった。ヴェサリウスは裁判官と仲良くなり、自分の都合に処刑期日を合わせるなど、便宜を図ってもらっていたようだ。墓を盗掘していたような形跡もある。その後、解剖学の興隆とともに遺体の入手困難は深刻化。イギリスでは医学校の近くの下宿が、行商人などを絞め殺して横流しするようになり、1832年にはアナトミカル・アクト(解剖大法)といって、遺体の入手を合法化する法律ができた。これが第3期。日本では明治以来、刑死した人や行き倒れの人を解剖していた時代があり、本人の意向は無視されていた。

陸上競技のタイムにおける限界値……現在でもいろんな競技のタイムは縮み続けているが、どんなに人間が頑張っても絶対に越えられない、限界値というものが存在する。100mなら、男性は9秒37を超えることはないし、10000mなら23分36秒89を超えることはないし、マラソンなら1時間48分25秒を超えることはないという。これは人間の筋肉量とかから算出される理想的なもので、どんなに理想的な状況が揃っていても、これを超えることがないとある程度保証されている数値。ただ、そのレベルまで到達するには、あと数百年、数千年かかるかもしれない。

「人間はジレンマに弱すぎる」ことを示した実験があった……恋愛とか人間関係においてはみな「論理でははかれないことがある」ことを知っている。しかし、どう考えても論理的な選択を、一時の情とか欲によって阻害されることがある。そういうことを示した実験がある。東大の駒場キャンパス、論理学の授業で行われたもの。200人以上にコメントシートを配り、名前と、1000円か1万円のどちらかを書いて提出させた。このとき、1万円と書いた人間が全体の2割以内なら、1000円と書いた人には1000円を、1万円と書いた人には1万円をプレゼントする(実際にプレゼントされるわけではないが、そういう体で)。ところが、全体の2割以上の人が1万円と書いた場合は、全員お金はもらえない。そのことに鑑みれば、1000円と書いてみんなで1000円を貰おう、…と考えるのが、一番合理的なはずだ。ところが実際の結果は違った。3割もの東大生が「1万円」と書いたせいで、誰もお金を手にできなかったのだ。いわば、全員が得をする「集団的合理性」と、個人の得を優先した「個人的合理性」が衝突し、ジレンマを起こしてしまったのである。日本で最も頭が良い集団だとされている東大生、当然ながら受験勉強には論理力が必要なはずだが、彼らとてそのジレンマを克服することはできなかった。人間の心理は論理的に説明できないことが多いというが、ここまで実験できれいに証明されるとは。

システムの巨大化・複雑化と「ヒューマンエラー」……安全問題の専門家の間ではずっと前から知られていた「ヒューマンエラー」ということば。もともとはアメリカで生まれたものなのだが、1979年のスリーマイル島原発事故、86年のチャレンジャー号の事故などの分析報告に登場し、浸透していった。日本でも化学プラント災害が発生したり、管制官のミスで大惨事が起きた時期だ。これらの巨大で複雑なシステムでは、人間のちょっとしたミスが大きな事故になってしまう。例えば馬に乗っていた時代なら1馬力をコントロールするだけでよかった。現在では、500人の乗員乗客を乗せたジェット旅客機を、たった2人が操縦しなければならない。1人の人間がコントロールするエネルギーが、昔に比べて格段に大きくなってしまったのだ。これを防ぐにはどうしたらいいか。厳しい訓練を受け、バリバリ働いてきたパイロットとはいえ、人間だから間違わない保証はない。ということは、事故を分析して、事故に至るまでのプロセスを調査することで、事故が起きないための「仕組みづくり」を整えることが必要だろう。そのためには日本のように、重大な事故を起こした人間をスケープゴートにする仕組みは良くない。2001年に起きた駿河湾上空でのニアミス事件では、管制官が便名を言い間違えたことがきっかけで、乗員乗客100名が重軽傷を負ったが、管制官2人は有罪になり、失職したという。具体的に対策といえば、システム全体を視野に入れる必要がある。ヒューマンエラーとは機械操作をする人間と、そのシステムとのかかわりによっておこるものなのだから。押し間違いを防ぐため、ボタンをわかりやすいデザインにしたり、切迫した状況でも冷静に判断できる教育をしたり、そうやって措置を繰り返すことで、事故の芽が1つずつ摘み取られていく。エラー防止の科学もなかなかに奥が深い。

パーソナルスペース……人がそれぞれ持っている空間。人の体を取り巻く、目に見えない空間領域。ここに他人が来ると不快に感じる。一種の縄張り意識という理由で説明され、標準的には腕を伸ばしたぐらいの距離が範囲だとされている。逆に手でいつでも触れる距離というのは緊張感が強くなるという。ついでにいうと、対話をするときの座る位置でもこれが関係し、真正面に向かい合って座ると話しにくくなるが、真横でも何か気持ちが悪い。ホールという文化人類学者は「大昔、草原地帯を駆け回っていた頃の人間は、ものすごく広い空間を自分のために利用していた。しかし現代人は狭い空間に慣れるように自分を飼い慣らし家畜化した」と述べている。パーソナルスペースへの侵害が生理的な変化を及ぼすことが確かめられており、例えば満員電車ではアドレナリンが多くなったりする。人込みでイライラするのはそういうわけ。また、トイレで隣に誰かがいるとなかなかオシッコが出ないのも、たぶんそういう理由。こうも影響が強いと、パーソナルスペースの欠如で病気になる例も考えられそうだが、実際に囚人がその例だという。強制的に狭いところに押し込められるから、高血圧、心臓疾患などになる人が多い。パーソナルスペースは相手によりその広さが変わってくるが、基本的に親密な関係だと距離はかなり近く、逆に軍隊とか会社のような縦社会で広くなる傾向がある。役職が上に行くほど、下のものに対し空間を大きくとるようで、部下もまた、目上の人には距離をおく。時代劇などで、顔も見えないぐらい遠くの殿様に家来が謁見しているシーンがあるが、あれはその極みだろう。逆に言えば、空間を大きくとれる人はそれだけ権威があるということで、オフィスで大きな机や個室を持つのもその欲求の現れ。有名な話として、ケネディが大統領に当選したという報告が来た瞬間、彼の支持者たちがさーっと10mほど遠ざかったという。

日本は本当に「インド哲学的」なのか……インド哲学。ひとことでいうのは大変難しいが、とりあえずひとことでまとめると「人間と切り離れた神は存在せず、また、人間も世界と切り離されていない。世界が神であり、人間はその一部」というような考え方。西洋思想とは大きく違う。では、日本人が西洋思想に馴染まないからといって、インド哲学にはなじむと直ちに了解してよいのだろうか。仏教思想が根付いていると日本ではよく言われるが、実際のところそうではないようだ。というのも、日本の仏教の形は仏教全体から見て非常に特殊であって、本来の仏教とは全く異なっているから。平安時代末期まではインド的だったのだが、鎌倉時代に道元、法然、親鸞などが出てきたことで、念仏とか座禅という形ある実践だけが継承されてしまった。インドというと何となく神秘的なイメージを持つ人も多いが、実際ではしつこいぐらい徹底的に議論をする。仏教思想にはもともと、論理学的な認識に立って世界を考えるという態度がある。その点、日本人には日常でも宗教でも議論というものがあまりない。論理学、認識論、世界観に対しては非常に冷淡で、ことばを尽くすことをしない。だからこそ情感的な俳句、茶道などができたのだが、それとこれとは別だろう。さて、インド哲学は、世の中の「科学で解明できないことがら」全てを、人間のことば、つまり論理で解明することを目的としない。ことばというのは人間が作り出した不完全なものだと考えるからだ。だからこそ論理を重ね、論理を超えたところで一度それを壊してみる、批判し、再反省する。そしてことばや論理を超えたところで「直観」により何かを掴もうとする。生命とは何か、自然のプロセスとは何かというものを言語でない形でとらえる。仏教用語でいう「般若の知」「空」「無」である。

スポーツを習慣づけると積極的な性格になる……スポーツ心理学でわかってきたことらしい。一般的にはスポーツとは健康維持のためのものだが、誰にでも経験があるように、スポーツをして汗をかくと非常に気持ちがいい。実際、身体だけでなく心の健康にも大きく影響している。例えばジョギングなどを一定期間続けると、自己イメージがポジティブになるというデータが出ている。専門的には「自己有能感」という。これは男性ホルモンの分泌が多くなり、行動的、積極的になりやすいからだと説明される。そのほか、ストレス解消だとか、知的活動によいとかも聞くが、これらも実際は本当だという。どんな運動がいいのかというと、基本的には全身を使う運動。ジョギングとか歩くとか水泳とか。動くことで生活の適応条件を満たすという面があり、それにのっとっている(極端な例として、あらゆる刺激を遮断して動かずにいると幻覚症状が出るという極端な実験結果も出ている)。

緊張をうまくエネルギーに変える方法論……スポーツをする上で、能力をフルに発揮するための心構え。数々の、様々な競技の「プロ」が望む方法論だが、結局結論は一つ。「ポジティブに考える」ことだけだという。これを示す実験として、親指の内側にある「母指内転筋」を収縮させる場合を考える。電流を流して無理やり内転させる場合と、思い切って力を入れる場合では、前者のほうがより強く収縮した。「全力を出す」なんて言っても、身体的な限界の8割ほどでしかない。かなりトレーニングした選手でそれなのだ。体のリミテーションが「生理的限界」だとすれば、さしづめ「心理的限界」でもいえる限界があるのだという。乱暴な言い方をすれば、この限界を取っ払うことで、あと2割ほどはスポーツの記録が伸びる可能性がある。緊張をうまくエネルギーに変えるには、「こんな大勢の人の前で失敗したら」と考えるよりも「こんなに多くの人が自分を見てくれている」と思う必要がある。不安が緊張を煽り、緊張が不安に結びつくマイナスの循環に陥る前に、緊張を「よし、準備状態がうまくできた、これでいける！」ととらえたほうがいい、ということだ。ではどうしたらいいのか、といえば、やはりトレーニングに尽きる。日頃の練習での失敗や成功を記録し、こうしたらうまくいった、こういう悪い状況もこう考えると結果が出た、というように、現象をポジティブに解釈する構えをつくることが大事だ。

生まれつきの気質は住環境に影響を及ぼす……人間の性格には、もって生まれた気質がある。大きく分けて3種類。まず、人と人とに隔てを置く「孤立型」、置かない「融和型」、そして堅くしつこい人間である「粘着型」。だいたいは一生ついて回るとされ、その気質により住まいの考え方は大きく違ってくるという。その次にあるのは「気性」。これは子供の頃住んだ家に影響を受ける。「強気」とか「弱気」「勝気」というのがそれだ。そしてその気性がまた、住宅選びにも影響を与える。強気の人間は非常に自信満々だが、勝気の人間とは違い人の言いなりになりやすい。弱気な人間は本来神経質といわれているが、例えば強気の人間、勝気の人間の中に弱気の要素があると、特に強気、勝気になりやすくなる。本当に強気の人間はハタから見てもそうは思えないが、実は弱気なところがあったりして、家の選択でいえば「とある大物政治家の家は敷地2600坪、軽井沢に別荘が3つ」というような。負けるものか！と劣等感を補おうとして大きな家と建てるというわけ。逆に弱気な人間についていうと、こんな立派な人がと思う人にも弱気な面がある。広いところが怖すぎるとか、高所恐怖症だったりとか。当然ながら生まれる国も住環境に大きく作用し、日本は「集団的人間」、つまりみんな一緒に仲良く生活するが、フランスとかでは「個人主義的人間」といって、自分の部屋をもち、扉や窓などで強固に個人個人が分けられている。アメリカは「協力的人間」だという。人間そのものがもつ気質や気性にあわない物件をいくら勧めても無駄ということで、不動産業の人には大いに役立ちそうな雑学だ。

ジュウシマツの歌には複雑な文法構造がある……言語を持つのはヒトだけ。他の動物と比較し、どうやって言語機能が進化したか知ることはできない。しかし、言語の起源を生物学的に研究することはできる。ジュウシマツは縄張りアピールと求愛の時に鳴く。オスは縄張りを持たないため、求愛の歌のみを歌う。8種類ほどの音素を持つのだが、その組み合わせは特に複雑で、歌うたびに異なる配列をとる。例えば、aからgまでの7つの音素を組み合わせ、ab、cde、fgという3つの「単語」を構成しているが、これらの単語が特定の文法で配列され、1つの歌になる。面白いことに、音素や単語、文法が個体ごとに全く違っており、それぞれ自分だけのオリジナルソングを持つ。ヒナから成長するまでに学習により獲得されるといい、歌の学習には2段階ある。まず親鳥の成熟した歌をきいて、歌や発声のモデルをつくる段階、そして実際にでたらめな歌を歌ってみて、モデルと自分の歌の誤差を修正する段階。つまり自分の耳で聞きながら音を調整しているということで、歌が完成する前に聴覚を失ったり、他の種に育てられたりすると、歌を歌うことはなくなる。音声自体を学習する動物は地球広しといえどヒトとジュウシマツ以外にない。ところでジュウシマツはペットとして昔から人気があるが、実は250年ほど前に長崎にインドからコシジロキンパラという鳥を輸入し、飼いならしたものだという。とはいえ、コシジロキンパラは全然複雑な歌を歌わず、8つの音素を持つがいつも同じ順番で歌う。本来は同じ種なのに、どうしてそれほど異なっているのか。1つの答えとして性淘汰がある。クジャクでいうところの立派な飾り羽根がジュウシマツの歌だった、と。実際、メスに複雑な歌と単純な歌を聞かせて生殖行動を調べたところ、複雑な歌をきいたグループのほうが、産卵までの日数が半分で済んだ。複雑な歌を聴くことが生殖活動を刺激するのか。歌を歌っていると天敵に見つかりやすいし、歌うための神経回路を維持するための脳の負担が必要となる。それにも関わらず歌っている個体は生存力が強い個体ということになり、メスをひきつける。これを「ハンディキャップの原理」という。面白いことに、オスが単純な歌しか歌わないコシジロキンパラでも、そのメスは複雑な歌を好む。野生種であるコシジロキンパラにとって、ハンディキャップには限界がある。捕食者からの危険がなくなったジュウシマツだからこそ、可能な進化だったと言える。さて、これらのことをまとめると、ヒトの言語も求愛行動がきっかけだったと言えないだろうか。複雑な音の繋がりを好む傾向が我々の祖先にあり、音声による求愛が複雑化し、それが言語になった、ということだ。ヒトの言語を文法と意味に分けたとき、文法はジュウシマツの歌と同様、相手をひきつけるための歌をコントロールする能力として身についたと考えられる。その「文法」に「意味」はどう組み込まれたか。そこらへんまではまだわかっていない。

万葉集と火葬の関係性……既に亡くなった文学評論家・山本健吉の論文に「詩の自覚の歴史」がある。それによると、万葉集が生まれた時代、死のとらえ方に関して一つの大きな変化があったという。ちょうどこの頃、日本で火葬が行われるようになった。土葬から火葬に代わり、人々の死生観が変わったのだ、と。古墳時代にはこの世とあの世は繋がっていたが、死者が焼かれてしまうと「一度きりの生」ということを強く意識するようになったということで、日本における詩歌の誕生に関わっているという説である。万葉集はほぼ日本全国各地の歌があり、約半分は詠み人知らず、そして必ずしも身分が高い人だけではない。例えば防人による歌は多いが、彼らは主に東から連れてこられた農民だという。

江戸時代に日本中を駆け巡った傑作和船「弁才船」……弁才船(べざいせん)という聞きなれない単語の船は、江戸時代に大活躍した超傑作の和船である。明治時代に鉄道が生まれるまで、交通や輸送の手段としては水運が最も効率のよいもの。今日では「千石船」なんていう弁才船はその代表で、まさに主力だった。日本史で学ぶものといえば菱垣廻船とか樽廻船だが、実はこれらは弁才船の派生型に過ぎない。技術の特徴として「接ぎ合わせ」(はぎあわせ)がある。何枚もの板を繋ぎ合わせてつくられており、船材の大きさに制約されず、ほぼほぼ同じ構造でつくれた。外観上の特徴はなんといっても1本の帆柱に1枚の大きな帆を張ること。順風でしか走れないとはよく言われていたが、同じ形式の西洋の船に比べ逆風での性能は優れていたという。

水中考古学……文字通り、海、川、湖など水底に沈んだ、人類の生活の痕跡を研究する考古学。例えば古代人の貝塚、古代都市、石切り場の跡など。ユネスコでは「少なくとも100年水中にあった遺跡」を、水中文化遺産としている。ということは、タイタニック号、アレクサンドリア海底遺跡などがそれにあたる。そのほか、13世紀モンゴル軍の「元寇船」、カリブの海賊の舞台で有名なジャマイカの遺跡「ポート・ロイアル」などがある。

邪馬台国九州説・畿内説にはそろそろ決着がつき始めている……ズバリ、畿内説が圧倒的に有力だという。3世紀前半ごろ、畿内に強大な権力があったことが、近年の調査で明らかになった。まず、「鉄」について。鉄は刃物の材料になる貴重な金属なので、たくさんあるところに大きな権力があったといえる。以前は九州の勢力が大陸からの鉄の流通ルートを支配していたという説だったが、鉄がたくさん出土する遺跡が京都北部で見つかり、日本海側の北近畿から大阪平野方面への、北周りの流通ルートがあったことがわかった。その上、当時の権力のシンボルだった「三角縁神獣鏡」が一番多く出土しているのが奈良盆地らへんということも根拠になる。この鏡、中国の不老長寿などの思想が織り込まれ、「魏志倭人伝」では皇帝が卑弥呼に鏡を100枚与えたと書かれており、卑弥呼が当時の最高権力者だとする説の支えになっている。当時の権力者たちは勢力を誇示するため、何か立派なものをシンボルとして持った。何をシンボルとするかで同盟関係も確認できた。それ以前では九州で銅矛、近畿から東海では銅鐸とされていたが、ある時点からこの鏡がシンボルになった。銅鐸などは時と共に巨大化し、一番立派な1m40cm近くのものができた時点で、突然に消えている。つまり、新たなシンボルとして鏡が急に登場したと考えられ、しかも中国の文献によると、そのあたりが卑弥呼の登場時期と重なっている。勢力争いの「倭国乱」が終結し、卑弥呼が代表者になって手打ち。とすると、近畿東海九州のシンボルを廃止し、全国的な統一シンボルを用意しようという動きがあってもおかしくないはずだ。さらにもう一つ「巨大な墓」も根拠になる。中国の史料によると、240～249年に卑弥呼が亡くなったと書かれており、ちょうどその頃、飛躍的に大きな古墳、箸墓古墳が奈良盆地に出現する。それ以前の墳墓はいくら大きくても80mほどなのに、箸墓古墳は280mもある。さらに決定的なのが、三角縁神獣鏡が魏国でつくられた証である。実はこの鏡、中国では1枚も出土していない。だからそれまでは「日本で独自につくられたのだ」とか「魏と対立した呉国の手によるものだ」と言われていたのだが、真ん中にある紐通しの穴の形が、中国の銅鏡の中では珍しく長方形だとわかった。それからはこの穴が、魏の皇帝直属の工房の工人による特別な技術だとわかった。

明治の動乱の時代、「出雲」が重要な役割を果たした？……出雲といえば古代ロマンの地として、あるいはパワースポットとして話題になっているが、実は明治時代に大きな影響を及ぼしたという。江戸時代の後期、国学が本居宣長により大成、それが平田篤胤に受け継がれ、復古神道が台頭した。これが尊王攘夷運動とか倒幕運動のイデオロギーになり、明治維新で新政府が樹立されると、皇祖アマテラスが祀り上げられていた、とされているが、実はそう単純ではない。「出雲」といえば、出雲大社の主宰神である「オオクニヌシ」を連想する。古事記や日本書紀の中には、オオクニヌシが、アマテラスの孫・ニニギに国土を譲り隠退した「国譲り」が伝わっている。日本書紀をちゃんと読むと面白い記述があり、正史とされている日本書紀には、それに添えられる「一書」という形で、多くの異説が書き溜められている。国譲りに関して言うと、本文と異説では内容がだいぶ異なっているのだ。本文では国土をすんなり譲るのに対し、「一書第二」では、オオクニヌシがアマテラスの使者から「あなたが行うという『顕露の事』(平田によると「この世での治世」)はアマテラスの孫・ニニギが治めるようにしましょう。その代わりあなたは『神事』を治めてください」とある。オオクニヌシは「私が治めるこの世のことは、ニニギが治めるべきです。私は退いて『幽事』(あの世を治めること)を担当しましょう」と返答したのだ。平田篤胤によれば、この世の治世者もいずれは死んであの世に行くのだから、「顕」より「幽」が偉い、つまりアマテラスよりオオクニヌシのほうが偉いのだと主張した。伊勢神宮のもと、全国の神社をピラミッド的に編制した国家神道とは違った解釈になっている。彼独特の神学が投げかけた波紋は大きく、明治初期の宗教論争を引き起こすことに。1867年の大政奉還に続き、新政府は「祭政一致」を標ぼうするわけだが、いったいどの神を主宰神とするかで争いが起きた。オオクニヌシを神道事務局の祭神にするかでモメた。復古神道に基づく「出雲派」と、それを国体に反するものだとする「伊勢派」に分かれたのだが、純粋な神学論争として見れば、出雲派に有利である。危機を感じた伊勢派は、天皇の勅裁をあおぐように働きかけ、第二次世界大戦終戦まで国家神道として国家主義思想を支えたのだ。

古代の日本は性別にとらわれていなかった……ドイツの思想家エンゲルスの著書「家族・私有財産・国家の起源」によれば、男女差別は国家成立とともに発生するという。日本はその例外で、平安時代までは差別がなかったという。例えば持統天皇とか推古天皇のような女性の天皇はたくさんいたが、中国は則天武后のみだ。それなのに平安時代を機に、女性の天皇はぱったり途絶えてしまった。奈良時代に律令が入り、日本はそれをもとに法律をつくった。中国では男性の皇帝しか認められていないのだが、日本では「女性の天皇の子どもも同じ」という一文をわざわざ追加し、女帝を認めたという。つまり古代日本では、政治の世界に性別がなかったことになる。それなのにどうして女性は表舞台から姿を消したのか。とはいえ、平安時代は摂関政治全盛期。天皇の母である「国母」は、表舞台に出られなくなったかわりに、父や兄弟を摂関として代行させていたのではないかと考えられる。藤原道長の娘・中宮彰子は、4人もの天皇を補佐、国母としての権限をいかんなく発揮した。北条政子も、夫が亡くなった後に擁立された若将軍の後見人となって活躍。なぜ政治の表舞台から女性が姿を消したのだろう。実は平安時代から結婚という制度が整い、家という概念が生まれた。今でいう「会社」のようなものである。例えば道長の家には200人以上が住んでいたという。そこで、女性は政治の場である朝廷ではなく、「家」という会社を支える副社長、専務として腕を振るうようになった。事実、鎌倉初期までは、夫が亡くなると財産は全て妻が一括で相続していたという。

アマゾン川流域には「第五の文明」があった？……南米の文明と言えばインカ、アステカ、マヤなどだが、ボリビアアマゾン、アマゾンの上流のほうで最大規模の遺跡が発掘されている。例えばアンデス山脈の東、 アマゾンの河口から4000kmのところに「モホス大平原」という低地がある。ジャングルではない流域一帯に、巨大な遺跡群があるというのだ。広さはおおよそ本州ほど。ここらへんは雨期に冠水し、乾期に平原になるという特殊な地域なので、水のコントロールは非常に大事。そして、そのための技術を彼らは持っていたようだ。例えば、氾濫原になって居住地や耕作地が冠水しないようにする土木技術。人工的に盛り土をした居住地跡は「ロマ」(スペイン語で「丘」)と呼ばれており、大きいものだと直径700m、その数は2万もある。それだけのロマとロマを人々は「テラプレン」という道路網で移動していたようだ。放射状に延びており、雨期には島のように点在するロマ同士を結んでいる。テラプレンの脇は運河になっていたり、その他、人造湖も2000個存在する。治水目的でつくったとされるが、非常に大規模な魚の養殖をしていた痕跡もある。最も大きいもので、湖の一辺が20kmもあるというから驚きだ。そして、この人造湖のほとんどは正方形、長方形で、同じ方向を向いている。理由は現在もわかっていない。 アマゾンで発見されている古代遺跡の人骨の研究により、「民族大移動」のパラダイムは大きく変わってきている。定説通りベーリング海峡を渡り、北米、南米と人類が移動したというよりは、複数のルートで移動したというほうが正しい。というのも、南米のほうが恐ろしく古い遺跡を沢山持っているからだ。

蝦夷進出の目的は、支配ではなく交易だった……蝦夷世界への進出は、古代の国家政策においてとても重要な位置づけだったという。進出は6～8世紀に行われたが、その一番の目的は交易であり、領土支配のためではないという。奈良、平安時代は都の貴族が地方に派遣され、各地を治めていたのだが、そんな中、東北にいった地方長官だけは、政府の力を蝦夷の地域に浸透させる任務をプラスアルファで任されていた。そんな中、蝦夷の世界で不足する物資を提供するかわりに、現地の情報や特産品を得るという取引が行われていたのだ。この時代に築かれた城柵も、戦いに備えたものというより、地方を治めるための役所として設けられたものだった。そんな良好な関係だった蝦夷と朝廷の間に何があったのか。どの国でも共通することだが、集団どうしは上から権力で抑えられないと、絶えず抗争してしまうものらしい。朝廷はそれを利用し、朝廷に味方する集団に称号やものを与え、敵対集団と争わせた。その時代に、敵同士でありながら友情を育んだ、蝦夷側の英雄アテルイと、征夷大将軍・坂上田村麻呂が登場するのだ。結果、朝廷は蝦夷との戦いのため、相当な国家予算をつぎ込んでいった。現在でいう岩手県盛岡市あたりまで支配地が及んだのだが、人的資源の消耗は大変なもの。桓武天皇の時代には反省し、さすがに積極的な遠征は控えている。

イギリスの近代都市づくりはコレラが進めた……コレラは大陸諸国から情報としてイギリスにまず伝わった。誇張されきっていたため、当時の医学誌によると「イギリスは完全なパニックになった」らしい。別名を「青い恐怖」といい、全身が真っ青になって死亡率も高かったとか。政府は何としてもこの疫病を上陸させまいとした。その1つが14日にわたる検疫だったのだが、そもそも物がこれを運ばないこと、体内潜伏期間が14日を超えないことも政府は知っており、あまり意味がなかったよう。1831年結局コレラが上陸してしまう。ところがここからが面白い。まるで見当はずれな論理や観点から、意外にそれが正しい方向に進んでいったという。一番のポイントはコレラが不道徳な病気だと認識されたことだ。コレラ患者には酒飲み、老人、虚弱者が多く、彼らが道徳的に劣っているとされていたから、そんな等式が生まれた。だから、「この不道徳な病気を退治するには、不道徳な人間の生活環境を道徳的に上げるべきだ」とされ、その結果都市整備がされたのだ。例えば最初は割と簡単に、飼っていた豚や糞などを除去したり、空気を除去するために木を燃やしたり。コレラは空気感染しないのだが、都市の行政管理という面でみれば大変意味があったといえる。コレラの感染ルートが水だと指摘したのはジョン・スノウという医師だが、彼は「スコットランドのコレラ被害が重度なのは、スコットランド人が愛飲するウイスキーと一緒に飲む水のせいだ」と指摘したのだ。かわった視点だが、実はスノウ、筋金入りの禁酒運動家。「水によりコレラが感染する」説が、愛飲家を攻撃するための格好の材料になったようだ。ただ、結果的には大正解。一方、ロンドンではテムズ川という水源に下水やゴミが投げ捨てられており、とても飲める状態ではない。市民は水のかわりにビールを飲んでいた。その方がコレラにかからないという報告もされたため、禁酒運動家による「酒＝コレラ」は説得力をなくしていった。この「水か酒か」「病気か道徳か」は結局、紅茶の大衆化により解決した。紅茶は病原菌まじりの生水の代用品になり、いわばコレラへの予防薬となった。さらに、飲酒癖から抜け出す道徳的な飲み物としても認知された。同時に、衛生改革の柱として上下水道が整備され、テムズ川も綺麗になった。

神話はいつごろ生まれたのか……めちゃくちゃに早くから。人間がホモサピとして、ものを考えるようになったころ、少なくとも3万5000年前には既に、というのが答え。遺跡や遺物などから、後期旧石器時代、クロマニョン人が神話を持っていたことが推察される。万物を生み出す大地を女神として崇めていたのだ。狩猟・採集が中心だったから、生活に必要な獲物である動物など、全ては大地から生まれたのだ、人間も同じように大地の子だと考え、大地を女神としていたという。実際、女神像が多く見つかっており、乳房、腹、股間などが極端に誇張されている。日本でも土偶が出土しており、この考えはあった。しかし縄文時代中期に土偶は破片として、いろんな場所でパーツとして出土している。これは女神を殺すことを意味していた。栽培という行為、例えば焼き畑でも、大地である女神の体を害することから始まる。女神は殺されても、その破片から作物が出てくることを表現したと思われる。農業の中心が稲になると、神話も五穀の始まりを説明するものに変わっていき、それが日本神話として伝わっている。例えば古事記ではオホゲツヒメ、日本書紀ではウケモチという女神が乱暴な男の神により殺され、その体から作物が、とある。

アマテラスはめちゃくちゃ慈悲深い……天上の神々を支配していた最高神・アマテラスは、世界中のいろんな神話と比較しても非常にユニーク。例えば他の世界の神話に出てくる最高神がみんな男性なのに、アマテラスは女神だ。また、ヤハウェ、ゼウスなどは自分に背くものに容赦なく罰を与えるが、アマテラスは徹底して慈悲をかけている。弟・スサノオが天上で悪さをしても、罰さずに許す。しかし彼の乱暴がエスカレートし、機織りしていた女神を殺してしまってから初めて激怒、天岩戸に隠れてしまう。ちなみに、彼女の孫であるホノニニギが地上にやってくる際に稲を一緒に持ってきたため、稲をつくるという労働自体は日本人にとってはご褒美で、生きがい。ギリシア神話とか旧約聖書のような「労働とは罰」という考え方がないのも面白い。

縄文時代と弥生時代では犬の扱いが違った……イヌといえば人間にとって最も身近な動物。縄文時代の当初から日本にいたことは明らかであり、しかも非常に大事にされていた。当時のイヌの大部分は人間のように埋葬されていた。稀に解体した痕がある骨は残っているが、食料とされたのだろう。しかし基本的には狩猟用として飼われていたようだ。その中にはケガをしたものもいたようで、背骨が折れて肋骨とくっついていたり、前脚が1本折れていたものも。骨折が癒着したイヌも多くみられるから、狩猟犬として役に立たなくなっても、大事にされていたようだ。ところが弥生時代になるとガラリと扱いが変わる。まず、埋葬されない。骨もバラバラの状態で出土している。食料とされていたのだろう。それにイヌの種類も変わる。縄文犬は体高40cmくらいと小型で、前頭部にくぼみがないためキツネのような顔立ち。また、四肢は太く、短く、たくましい。よく「オオカミが家畜化したもの」といわれるが、縄文犬は大きさも骨も違うから、当初からイヌだったことがわかる。一方弥生犬は前頭部にくぼみをもち、頬骨が張り出している。朝鮮半島からの渡来人に連れられて日本にやってきた、と考えた方が自然だろう。イヌを食べるため、ブタと一緒に連れてきたのだろう。そしてこの時期の犬がその後の日本犬の基礎になったと思われる。縄文犬は次第に弥生犬と同化して消えていった。

インカ帝国の「神殿更新」……古い神殿を壊し、その上に新たな神殿を建設すること。インカの素晴らしい文明発達の核になったとされている。おそらく100年の間に数回ほどは造り替えられているというから驚き。それに、新たな神殿は古いものより一回りほど大きくなっている。なぜこんなことをしたのか。一つ考えられるのは、社会的、経済的、技術的に大きな刺激になっていたのではないか、ということ。一つの神殿をつくってそのままにすると、社会生活はある意味変化がない、マンネリズム的なものになってしまう。しかし、一つの神殿の上にもう一回り大きいものをつくるとすると…。労働力が必要なので、人間を増やさなくてはならない。人間が増えれば食料も増やす必要があるから、農業も進歩してくる。技術も進歩する。社会的な「進歩圧」がかかるわけだ。さらに、こうした作業が大規模になっていくと、分業化したり順序だてたりするためのオーガナイザーも必要になってきて、指導者とか権力者が生まれる。また、神殿が大きくなれば、それにあわせた儀式を神官が考える。前は3人上がれば十分だった祭壇も大きくなって10人規模になると、10人の儀式を考えるようになる。なんで10人なのかという理屈も考える。そういう風に宗教思想とか宗教体系が複雑化していって、神の像を壁にかいたり、石に彫ったりする。そんな風に、神殿更新を核として文明が発達していったといえるのだ。

大和朝廷はどのように日本統一を成し遂げたのか……日本の古代史は意外に知られていない。我が国が誕生するまで一体どんなことがあったのか。今の日本人のもとができたのは弥生時代の終わりらへん。縄文人はもともと北から日本にわたってきた人達で、狩猟、漁撈(ぎょろう)を中心に生活していた。そこへ紀元前2世紀ごろ、水稲耕作をもった弥生人たちが、朝鮮から渡ってきた。その弥生文化が日本国内で交流し、ひとつにまとまったものになったのが、3世紀中ごろ。その時期、奈良盆地に今の天皇家の先祖にあたる大和朝廷が生まれたという。なぜ大和朝廷は統一を成し遂げたのか。その最大の要因は「首長霊信仰」にある。つまり、一つの信仰のもと全ての日本人をまとめたのだ。有力豪族の祖先を「首長霊」として祭り、その霊が、自身の子孫だけでなく、庶民も守ってくれるとする発想だ。そして大和朝廷は「天皇霊」(すめらみことのみたま)と呼ばれる大王の首長霊を最も尊いものとし、これを頂点にして、豪族たちの首長霊の序列をつくった。アマテラスを最も一番偉いとし、神々の序列をつくったわけだ。これを一方的に上から強制するのではなくて、確かに序列はあるが、各地方、各氏族の神を一番大切にしていい、と、それぞれの自立性を残しながらまとめた。誰でも、自分たちの神様の系列をたどるとアマテラスになるというのだから、国民の間に自然と一体感が生まれる。日本が珍しいのは、一つの国家が分裂せずに続いていることだ。他民族から征服されることなく、村の首長がそのまま大きくなる形で国が統一されたというのは、他にない珍しい例だ。その上日本は行政指導が意外に強く、それも政治家が独裁的に決めるのではなくて、いろんな企業の意向を、なんとなく役人が調整する仕組みになっている。表立った議論をしなくても、みんなが望むような政策がとれるということで、そこらへんは古代の日本の政治そのものであるといえよう。

車道に自転車が増えると事故は減る……逆のように思われる雑学。車道を自転車がたくさん走るようになると、車も人も自転車に注意し、ルールを守る人が増えて事故の減少につながるのだという。というのも、車道と歩道では、車道での自転車事故のほうが少ないのだ。交通事故総合分析センターに依頼したデータによると、2011年に発生した自転車事故14万4108件の発生場所は、車道が1万3236件、縁石とか柵で分離されている歩道が1万3626件と、わずかに歩道での事故が上回っている。特に沿道のコンビニなど、駐車場に出入りする車が、歩道を走る自転車をはねるという、歩道上での事故が増えている。逆に、車道で車と並走して起こるひっかけ事故は1578件と、わずか1％程度なのだ。

エビと貿易黒字……日本は世界的な工業製品輸出国だが、国内には資源がなく、加工貿易をとっていた。世界全体の貿易バランスを考えると、輸入するとそれに見合う輸入をしなくてはならない。そのための輸入商品として、割と高価なエビをたくさん買うようになった。エビの収穫によりマングローブの伐採が激しくなっているが、東南アジアには本来資源保護の制度が島ごとに存在していた。例えばアラフラ海のアル諸島では、ナマコの資源保護をやっている。ナマコは動かないから取りやすいが、全部とるといなくなってしまう。そこで、自分たちの村の沖合を半分に分け、今年はこちら側、来年は向こう側、という制度を続けている。自然と共に暮らす彼らは「根こそぎ」という考えを持たず、エビ漁や養殖でこの掟を無視して暴走する人がいる現実から見ると、その制度や考え方はある意味新鮮だ。そのほか3か月禁漁をするとか、ヤシをある程度しか採っていけないなど、島々には数々の掟があるという。

なぜ茶畑ではプロペラを回すのか……風が吹くと霜が降りない、というのは確かにそうだが、じゃあなぜそうなのか。実はあれ、お湯をかき回すことと同じなのだ。上の空気はあたたかく、下の空気は冷たくなるから、かき混ぜることで下のほうの空気の冷気を逃がし、暖かい空気を持ち込んでいる。

現存する最古の芸術は「洞窟壁画」……洞窟壁画といえば、スペインのアルタミラ、フランスのラスコーのものが有名である。野牛、シカなど野生動物の絵が多いのだが、それらは鋭い観察眼で描かれており、まるで生きているような躍動感に満ちている。有史以前の人々は狩猟生活を送っており、狩りとは生きる糧そのもの。狩りの対象である動物が頭に常にあったのだろう。ではなぜ彼らは洞窟に入って絵を描いたのだろうか。最初から絵を描こうと思ったわけじゃなく、探求心から入っていって、奥に描いた。洞窟と言えばがらんとしたトンネルを思い浮かべるかもしれないが、実際壁画が描かれているのは、背丈に届かないぐらい天井が低く、奥深くまで続いているようなところ。そこに、獣の脂でできたランプをつくり、暗闇に。洞窟壁画は自然の岩肌にそのまま描かれているのが特徴なのだが、ランプを持って入ったとき、その炎で岩の凹凸にできた陰影が、動物の姿に見えたのではないだろうか。そしてその姿をふとなぞった、それが洞窟壁画の始まりだという。約3万年前に見つかった世界最古の壁画洞窟は、フランスにあるショーヴェ洞窟壁画だ。つまりここで芸術は「突然に」生まれた、と。

能の歴史……能、歌舞伎や人形浄瑠璃文楽よりも先にユネスコの無形文化遺産に登録された、日本の伝統芸能。能の発祥は室町時代以前で、江戸時代に始まった歌舞伎に比べ、300年ほど長い歴史がある。派手な演出の歌舞伎に比べ、伝統を重んじる雰囲気があるが、それが残念ながら若者の能離れを引き起こしているようだ。もともと能は中国伝来の物まね芸である曲芸・散楽から発展した「猿楽」や、農村から都市に進出した「田楽」などの大衆芸能から誕生した。それが現在のような形になっていった背景には、室町時代に第一人者となる観阿弥が出て、足利義満に子の世阿弥とともに寵愛されたことがきっかけ。特に熱狂的だったのは豊臣秀吉。彼は見るだけでは飽き足らず、自分でも習って演じるぐらいの愛好者だった。有力なパトロンがついたからこそ興隆したといえる。とはいえ、なぜ有力者や高貴な人々に好まれたのか。なんといっても世阿弥の存在が大きいだろう。彼は稀代の天才で、能を上流階級の人の鑑賞に堪えられるレベルの芸術にした。「源氏物語」「平家物語」「伊勢物語」など、古くから人々になじみのある既存の物語の要素をたくみに取り入れ、違う角度から再構成した。例えば亡霊みたいなのを登場させてストーリーに語らせたり、旅する僧を登場させ、名所案内にしたり。そして、能のストーリーや風景描写などに和歌の要素を取り入れたりもした。「ここには古今和歌集の有名な和歌が使われている」「掛詞になっている」などに気付かないと、完全に理解したことにならない。そういう部分が知識欲をくすぐるところでもあったのだろう。上流階級の教養を競う場でもあったからこそ、洗練されていったのだろう。

イメージ上の忍者と実際の忍者の違い……忍者研究についていうと、これまで愛好家が関連本を出すことなどはあったが、学術的には全く研究されてこなかった。そもそも「にんじゃ」なんて呼び方は昭和以降のもので、それまでは「しのび」「しのびもの」という名称だった。また、忍者が活躍した戦国時代、彼らの役割は戦闘ではなくプロの諜報員。敵をかく乱するために火術を使うというよりも、味方側の損害を防ぐため、敵の城に忍び込み、兵糧の残り、城の構造、敵の人数などの情報を取って戻ることだった。そのためには装束も黒装束ではなく、農民や武士に多い柿色や紺色の衣装だったとされる。忍者に必要な能力と言えば3つ、まず臨機応変に対応できる「知恵」、そして「記憶力」、最後に、人から上手にいろんなことを聴く「コミュ力」。どれも現代で重要な能力だから、忍者というのは有能でないといけない。

「武士道」の定義とは……武士道に経典や教義はない。これといった明確な定義がないのだ。あえて簡単にいえば2つの言い方がある。1つ、鎌倉時代、武士の台頭と共に「強くて勝つ者が武士のあるべき姿」とされた武士道。もう一つは、江戸の天下泰平の世の中で、統治階級としての武士の在り方を追求した武士道。現代人が思い浮かべるのは後者のほうだ。江戸時代に入ると、主君への忠義というよりむしろ御家や組織を守ることが大事とされるようになった。それゆえ、主君の命令にどうしても納得がいかない場合、主君が誤ったことをしていると思った場合、自分の命をかけてでも主君を諫める、廃位に追い込む(押し込め)ことも実際にあった。一方それに失敗し、餓死させられたり切腹させられたりする家臣もいる。その考えの根本には「道」(どう)というものがあった。1642年、斎藤親盛という武士による教訓書「可笑記」という文献は、当時の一般庶民の間でもベストセラーになった。「嘘をつくな」「約束守れ」などの訓戒、自分を律するための訓戒がたくさんある。それはすなわち「後ろ指をさされない人間であれ」という教えであり、西洋のような契約社会ではなく、ときに口約束で何かを済ませる日本の武士道精神といえよう。

ポリネシア人の起源はなんと台湾……ポリネシアといえば、太平洋北端のハワイ諸島、南端のニュージーランド、東端のイースター島の3つを結ぶ、三角形の海域に浮かぶ島々のこと。なんとここに住むポリネシア人の起源は、台湾人であるという。5000年前、台湾を起点にフィリピンやインドネシアに南下し、その後3500年前には、海洋航海技術に長けた人々が、ニューギニア北東にある沿岸部や一帯の島々に進出。これがラピタ人。ラピタ人が直属のポリネシア人の祖先である。ラピタ人は太平洋各地に広がる世界初の航海民族で、バヌアツ、ニューカレドニア、フィジー、トンガ、サモアの島々に拡散し、ラピタ文化を展開。しかし2000年前にその姿を消してしまった。いったいどんな風に航海したかというと、カヌーを改良したダブル・カヌー、大きいものになると30mにもなるそれに乗り、新天地開拓のため、家畜、食料、植物などをのせて旅をした。鳥の飛ぶ方角、太陽の向き、風、波などを最大限に利用したと考えられている。

ポリネシア人には肥満が多い……日本では肥満はデブと呼んで蔑まれるのだが、例えばポリネシアの中のサモアという国は、80％以上の人が肥満だという。これ実は遺伝的なもので、過酷な航海をしているうちに、より少ない栄養で脂肪を蓄えられるようになった人達が、高カロリーな西洋食を受け入れて肥満になってしまった結果だという。

僧が庶民と結びつくようになったきっかけ……お坊さん、僧侶が葬式に関わることは、今では当たり前のように思うかもしれない。ところが古代の僧は基本的には「官僧」、つまり官僚僧で、鎮護国家の祈祷に従事するのを第一義とし、穢れの忌避が義務付けられていた。ところが、鎌倉時代にそうした官僧世界を離脱した「遁世僧」が登場。彼らが新しい仏教を開き、それまでの厳しい戒律…穢れをまとってはいけないという決まり…に縛られず、葬式を行うようになった。僧侶が葬式に携わることは、実は革命的な出来事だった。寺の存続も危ぶまれることがある現代、人々の暮らしに根差した「生活仏教」に変わっていく必要がある。例えばアメリカでは「困ったときにはまず教会」といわれ、実際に行くと信者であるかどうかに関わらず、住まいや地域について事細かに教わることができる。教会が地域の情報ターミナル兼救済センターだったということだ。地域に根差す「生活相談所」になれば、明るいのかもしれない。

現代人のミトコンドリアDNAは、ある一つのグループの女性たちまでさかのぼる……分子人類学といって、遺伝子を調べることで人類の進化やルーツを探る学問により、わかったことがある。人類の進化研究といえば、従来は人骨の形態を調べることだったが、骨の形態は環境にも左右されるため、ミトコンドリアのDNAを読み解くほうがよい。ミトコンドリアは一つの細胞の中に、多いものだと数百個、数千個と、膨大に存在している。細胞内の核に含まれるDNAよりも規模が小さいため、調べるのも容易、そして突然変異も速いから、経過が蓄積されやすい。また、母親のミトコンドリアDNAだけが子どもに伝わり、父親のものは全く受け継がれない。調査の結果、世界各地の集団や民族のミトコンドリアDNAを似たものどうしで分類すると、大きくいくつかのグループに分かれる。それをさらに統合・分類して数万年さかのぼると、一つに集約される。系統樹のように先祖を辿っていくと、人類の共通の祖先は、およそ20万年前のアフリカが起源だとわかった。そして、全ての現代人はアフリカに住んでいた一つの女性グループのミトコンドリアだとわかったのだ。それが「ミトコンドリア・イヴ」。突然変異がだいたいどれぐらいの時間で起きるか計算すると、だいたい20万年前になるのだが、そこから「20万年」という数字が出てくる。また、現代人のミトコンドリアDNAを調べると、一番多様性があるのがアフリカで、アフリカの20万年前の地層から出てきた化石の骨を調べると、我々と同じかそれより原始的なものが出てくる。ミトコンドリア・イヴが生きていた時代には、当然他の女性たちもいたのだが、彼女らは途中で女系が途絶え、受け継がれなかったという。ミトコンドリアDNA以外にルーツを探る方法があるとすれば、Y染色体の解析だろう。その結果、現代ではほとんどの女性のミトコンドリアDNAは、昔から南米に住む人のものだった。しかし男性のY染色体では、8～9割にヨーロッパ人の遺伝子が含まれていることがわかったのだ。男女で人類の移動経路が違うということ。

現存する法隆寺は二代目だった……法隆寺というと、厩戸皇子(聖徳太子)ゆかりの寺であり、現存する世界最古の木造建築物であることは有名。しかし、実は二代目ということは知られない。日本書紀には確かに法隆寺が「焼けた」という記述があるが、再建したとまでは書かれていない。この解釈やらを巡って学会で争いが起こったのだが、1939年に旧法隆寺の塔の痕跡が発見され、現在は再建説が有力のよう。では、現在の法隆寺は火災の後に「再建」されたといっていいのかというと、なんかそういうわけでもない。通常の再建とは違い、場所が旧法隆寺とは異なっている上、伽藍配置も大きく異なっている(現存するほうは、塔と金堂が東西横並びで左右非対称、真ん中に空白があるが、古いものは手前に塔があり、後ろに金堂がある、南北縦一列の伽藍配置。大陸型とでも呼ぶべき、中国・韓国伝来のもの)。現在の法隆寺は古いものと対比して「天皇オリジナル型」でもいうべき型である。日本書紀の記述によれば、法隆寺で670年より前に1度、火災が起こったという記述がある。このとき「大雨フリ雷鳴ル」と、2度目の火災のことを形容しているが、面白いことに蘇我馬子と物部守屋の戦いのときにも、同じ表現が出てきている。雷のせいでないのなら、一体何なのか。焼失する前から、新・法隆寺の建設計画があったと考えられる。日本書紀には旧法隆寺が焼失したと書かれているが、現存する法隆寺の金堂の天井板が、火災より三年も前に伐採されていたことが明らかに。計画はこれをさらにさかのぼることになる。厩戸の没後のこと、皇位継承問題が起こり、舒明天皇は厩戸の息子である山背大兄皇子を退けて天皇になった。つまり、天皇と厩戸一族には大変な確執があったのだ。厩戸一族は父の教えを守って争いを避け、集団自殺を旧法隆寺ではかった。厩戸は没後も人々たちにたいへん篤く信仰されていたから、ここが聖地になっては困る。そこで、法隆寺を全く異なる性格のものに変え、法隆寺から厩戸の血統色を抜こうとした。これが「計画」の真相であって、つまり日本書紀にある2度の火災も「放火」でないかと考えられるというわけだ。放火犯は2度目の放火で焼失に成功した。厩戸信仰を天皇家の威信にすり替える、大変な高等戦術だったといえる。

どんなに医学が進歩しても、恐れと祈りはなくならない……病気を治すための技術、医術は年々目覚ましいほどに向上している。このままいくと、世の中のあらゆる病気に対し、誰もが恐れを抱かずに済むのだろうか。医史学、つまり医療における歴史学をひも解くと、その答えがわかるかもしれない。現代は医療機器や技術が発達し、方法も膨大にあるが、それでも「病気が怖い」という気持ちは決してなくならないだろう。そして、その怖さを鎮めるために「神に祈る」という行為も、やはり変わらないだろう。例えば疫病に関していうと、古代では「天皇の失政に対する神からの怒り」だとされていた。だからこそ東大寺に僧侶たちを集めて読経させたり、聖武天皇による鎮護国家思想が進められたりした。疫病以外の病気になった時は、怨霊の仕業だとされていた。平清盛はマラリアで死んだのだが、当時の原因は彼の独裁に反感を持つ者の怨霊だと言われていた。ただそういう時代は平安時代で終わり、戦国時代になると天皇の支配力が弱まったことで、疫病が広まっても別の原因があるとされるようになったし、蘭学により医学ということば、考え方が生まれたりもした。しかしながら、病気に対する恐れはやはり、現在でも全くなくなっていない。そのことを現代の医者も患者も、よく知っておくべきだろう。

日本の喪服は昔白色だった……それが、黒、白、黒と変わっていったという。古代の喪服が白かったことは「日本書紀」「隋書倭国伝」などで明らかになっていたが、それが平安時代ではなぜか黒に。718年に養老喪葬令が出て、「天皇は直系二親等以上の喪では『錫紵』(しゃくじょ)を着れ」となったことがきっかけ。注釈書によれば「黒染めの色」のことなのだが、これは中国の「唐書」で「皇帝は喪服として錫衰(しゃくさい)を着る」とあり、これを真似したものとされている。ところが、唐でいう「錫」とは、灰汁処理した目の細かい麻布のことで、つまり白なのだが、なぜか日本人は金属のスズと解釈し、スズ色、つまり薄墨に染めてしまった。平安時代には「哀しみを色の濃さで表現する」というようになり、源氏物語でも「自分が先に死んでいたら妻はもっと濃い色を着るのに、自分は妻の喪だから薄い色しか着られない」と嘆いている。その後平安後期で黒が一般的になったのに、また白が復活した。これは室町時代のことで、(その理由ははっきりしていないが、庶民たちは染める金がないからか、一貫して白のままだったからだとされている)途中江戸時代に水色が登場するが、基本は白。明治維新を機にヨーロッパの喪服を取り入れて黒になり、現代にいたる。

江戸時代の江戸の街に凝らされた工夫の数々……江戸時代の江戸の街、まず、道路が複雑に入り組んでいるところに武士や大名屋敷が、整然としたところには町人の住まいがあった。防衛上の理由、迷路型や鉤型の道路にしたほうが有利で、町人が整然としたところに住んでいたのは、幕府が小さな土地に効率的に住まわせようとしたからだ。地図を見ると、武士や大名の屋敷は「山の手」(台地)、町人は「下町」(低地)というように地形的な面からも分けられる。当初は水道や下水道が不備だったから、町人は山の手に住んだら生活がままならない。だから日本橋や銀座に集中的に住んでいたのだ。一方で大名や武士は井戸を掘ったり水を引いたりする金を持っていたから、幕府が強制的に台地に住まわせた。ちなみに、江戸は「徒歩交通都市」であったことがわかっている。歩くことが主な手段だったから、江戸城を中心につくられた江戸の街の広さは、だいたい6km。徒歩に換算して1時間半で、これは一つの都市としての限界、そして情報伝達の限界である。1時間半といえば、東京圏サラリーマンの通勤時間ぐらい。家康はこの範囲に都市を限定することで、狭い日本を広く感じさせ、鎖国への反感を持たせないようにしたと考えられる。

色に対するイメージは国や人種を超えて共通している……人間は100万とも800万ともいう数の色を識別できるとも言われている。色は「下品」「高級」「暖かい」「冷たい」というような印象をもたらす。ゲーテはかつて「赤は威嚇的な恐ろしい色。夕焼けの色は恐怖や危険、闘争を象徴する」とか「黒は悲しみの色」と述べているが、これを世界的に調査したことはほとんどなかった。しかし調査の結果、若者の色彩感情はよく似ていた。例えば「晴れた日の空の色は？」という質問に、70％は「ごく薄い青」、「危険を表す色は？」で「赤」、「孤独」は「黒」とか。また、「最も好きな色」では青がトップになり、緑、赤、黒、と原色を好む点で共通している。

お茶は果実の形で日本に伝わってきた……実は、どんなきっかけで人間が茶を飲むようになったのか、よくわかっていない。ある説によると、中国に武陵山という、薬草がよく採れる山があって、そこに住む民族がその薬草を飲用していたのが起源だという。昔は薬だったという説もあったが、それには確たる証拠がない。一番はっきりしているのは紀元前29年、漢の文書で、召使に対して「お茶を買ってこい」というパシリの記録。そして、唐の時代に書かれた「茶経」という茶の専門書が、世界初のお茶の専門書。日本人が茶を飲み始めたのもその頃だと考えられ、遣唐使とともに渡ってきたらしい。このときどういう形で茶が中国から伝わったか、だが、お茶の種子は非常に乾燥に弱く、1週間もたつと乾燥して芽が出なくなる。なら苗木という説もあるが、早くても10日かかる航海で、貴重な真水を与え続けるわけにはいかない。なんと果実の形でだったらしい。

紅茶はもともと中国南部でつくられてきた……チャノキといえばチャノキ一種なのだが、製法が異なるから緑茶、紅茶、烏龍茶などのように味が異なってくる。日本の緑茶は発酵させない、紅茶は完全に発酵させる、烏龍茶の場合は発酵を途中でとめて熱を加えるのだ。紅茶といえば、東インド会社がお茶を中国からイギリスに輸入する過程で、船の中でお茶が発酵して紅茶になったという話がある。そんなのはまるっきり嘘。実はもともと中国の南部で紅茶がつくられており、それを彼らが買って帰っただけなのだ。その後、イギリス人は植民地のアッサム地方でチャノキを見つけ、紅茶を作らせるようになった。中国の茶の葉よりサイズが大きく、誰もそれをお茶の木だと思わなかっただけ。中国にしてみれば輸出品がなくなったということで、発酵を途中でやめたウーロン茶ができた。紅茶のほうが実は先輩なのだ。中国には現在、お茶の専門家でも数えきれないほどのお茶の種類がある(少なくとも800ほど)という。

「年金破綻」の嘘……老後の収入といえば何といっても年金、ところがあまり評判が芳しくない。マスコミや金融機関もみんな不安を声高に叫ぶ。年金制度の破綻自体は何十年も前から言われていた。金融機関が不安をあおるのは当然で、そうしないと自社の商品が売れないからだ。しかし、公的年金のことをちゃんと調べると、頼りないものでも破綻寸前のものでもないことがはっきりわかる。例えば「毎年赤字だ！」と言われることについて。年金財政自体は赤字というわけではない。赤字なのは国の一般会計で、赤字だからこそ毎年国債を発行して穴埋めをし、その借金の合計が1000兆円以上ある、ということ。公的年金の場合は、借金どころか貯金が200兆円ほどもある(2014年)。これが年金特別会計と呼ばれるもの。日本の年金制度は単年度決済で、毎年入ってくる年金保険料で年金を払う仕組みになっている。最近は少子高齢化が進んできたため、「出」のほうが多いから、確かに赤字だとはいえる。とはいえど貯金を崩せば済む話で、すぐに借金しなくてよい。現実、毎年この貯金から5～6兆円が補填されている。もちろん何もせず崩すだけならいずれなくなるが、年金の積立金を運用して増やしている。この運用にも誤解があるようだ。公的年金の運用は年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がしているのだが、01年に運用し始め、14年末までの13年であげた利益の累計は50兆円ほど。リーマンショックがあった08年こそ9.3兆のマイナスだが、それ以外では毎年黒字である。マスコミは赤字のときしか報道しないので、「うまくいってないな」という印象をもたれてしまう。意外や意外、まだまだあと数十年は安泰といってよいようだ。

のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳根の母は死にたまふなり……玄鳥は「つばくらめ」と読む。斎藤茂吉による短歌。喉が赤い玄鳥(つばくらめ、ツバメのこと)が二匹仲良く並んで我が家の梁にとまっているのに、自分の母は亡くなってしまった、という内容。二羽のツバメを母と自分に見立て、ツバメは睦まじそうなのに、母は逝ってしまったのだ…そういう嘆き、哀しみが今にも伝わってくる。

関東学生連合チーム……箱根駅伝に出場するチームの一つ。略して「学連」なんて呼ばれている。箱根には前年大会でシード権を獲得した大学10校、そして予選会を通過した大学10校、および学生連合チームが出場できる。チームは1校から1名が選出され、毎年10月の予選会で出場権を得られなかったが、個人成績が優秀な選手が選抜される。一応「オープン参加」という名目だし、区間記録を出すこともないだろう。

除夜の鐘は107回と1回に分けている……108回をつくというのが決まりの除夜の鐘だが、実は107回を大晦日までについて、残りの1回を新年につくというのが一般的らしい。つき始めは様々だが、とりあえず新年になってから(なった瞬間につくところも含めて)つくという。「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」のときの「鐘」、実は東大寺の初夜の鐘(そやのかね)、つまり午後8時、その日最初につかれる鐘だったという。

日本のクリスマスは山口から……山口県山口市で日本初の「クリスマス祝い」が行われたことを記念するイベント。1551年、ザビエルは山口の地でキリスト教の布教活動を行ったのだが、そこからキリスト教は広まり、翌年には宣教師が日本人を司祭館に招いて、クリスマスを祝ったのだという。1991年に焼失した山口サビエル記念聖堂が再建説された時に注目され始め、「日本のクリスマスは山口からフェスタ」が開催されるように。日本郵便では、毎年12月限定で山口市が「クリスマス市」となることを認め、期間中だったらクリスマス市あてにしても郵便物を届ける体制をとっている。

酒気帯び運転の定義……呼気1リットル中に含まれるアルコール濃度が0.15mg以上検出された状態のこと。酒酔い運転は「明らかに酔っている運転」なので、酒気帯び運転のほうがまあ、軽い。呼気中アルコール濃度はお酒の強さ弱さには関係がなく、「時間がたっている」「酔っていないと自分で言っている」などは無効となる。ここで気になるのはお酒が弱い人のことだが、お酒に弱くて少しでも酔ってしまう人は、たとえ呼気1リットル中のアルコール濃度が0.15mg未満だとしても、酒酔い運転で検挙される可能性がある(酒気帯び運転にはあたらない)。酒気帯び運転の場合、免停90日という重たい罰が待っている。酒酔い運転の場合は免許取り消しプラス、免許欠格期間3年となる。また、運転手だけでなく、「お酒を飲んでいると知っていたのに車両を提供した人」には、運転手と同じ罰則が与えられる。さらに、運転手が酒を飲んでいると知っていたのに同乗した人にも、懲役や罰金が待っている。ちなみに酒を飲んでいて事故を起こした場合、自分のけがや車両破損について、自動車保険を支払いを求めることができない(被害者のケガのぶんについては、被害者救済の観点から払われる)。そもそも道交法の第65条には「何人も酒気を帯びて車両等を運転してはならない」とあるから、どのぐらいまでなら大丈夫という問題ではない。運転自体を控える必要がある。

横断歩行者等妨害等違反……青切符、一般違反行為にあたる道路交通法違反の条件。行政処分は基礎点数2点であり、反則通告制度、徴収金は普通自動車で9000円となる。簡単にいえば「道路横断しようとしている歩行者などの横断おの妨害をする行為」。信号機がある横断歩道では、信号機に従って通行すれば問題がない(ということは、さすがに歩行者側が赤信号なのにこちらが譲る必要はないということ)。横断歩道を通行しようとする歩行者などがいないことが明らかな場合を除いて、横断歩道の直前で止まらなくてはならない、また、横断歩道がないところで横断中の歩行者がいるときは、その歩行者の通行を妨げてはならない。車側にとっては何とも理不尽な法律で、「明らかに横断しようとしていなかったのに違反金を取られた」とか、「歩行者が横断しなかったのに違反だといわれた」というケースも。警察官に対してゴネればとりあえず徴収金は免れるが、2点加点なので理不尽感が否めない。

医者が明かす「自分が患者なら受けたくない手術」……世の中にある様々な病気、そしてそれに対する手術法。メリットよりデメリットのほうが大きいというものもある。例えば「食道がんの手術」。食道がんの場合、食道亜全摘術といって、食道およびリンパ節を切除し、胃を持ち上げて残った食道を繋ぐ、という大手術になるため、まず医者の腕により大きく差が出る。中村勘三郎のように、合併症の危険もある。60歳をこえて受けたくはないという。それと同じように多くの医者が受けたくないと答えたのが膵臓がんの「膵頭十二指腸切除術」。大腸がんの権威で、神奈川県立がんセンターの赤池氏ですら、この手術には否定的。切除率の低さ、合併症の頻度、そして負担を考慮すると受けたくないと話す。前立腺がんも意外に受けないという医者が多かった。というのも、甲状腺がんや前立腺がんは進行が遅く、手術しなくてもそのまま人生が終わるからだという。80歳以上で亡くなった男性の多くには、前立腺がんが見つかっているという。がんと並んで脳の手術は受けたがらない。破裂したら大変だからと手術を進める医者もいるが、手術による死亡率は現在5％程度で、10年以上に動脈瘤が破裂する確率は1～2%である。頸椎は神経に影響を及ぼすことがある。「手のしびれ」というような理由で手術をする人もいるが、良くなったという声はほとんどきかない。むしろ、より悪くなる可能性があるという。そのほか、扁桃腺の摘出、盲腸手術、胆石の手術なども、ぎりぎりまで逃げ回るという。扁桃腺は免疫のかなめだし、盲腸もあったほうが腸内環境がいいことがわかった。胆石は昔は胆のうがんの原因とされていたが、今は関係ないとわかった。遅らせてもよいものはなるべくやらないのが鉄則で、例えば腰痛(脊柱管狭窄症)の手術を受けたのに、腰以外のところに問題があることが多いせいでさらに苦しむ…ということが考えられる。まとめておくと、膵臓がん、食道がん、前立腺がん、腰痛、未破裂脳動脈瘤、足壊疽(知識不足で無用な切断が行われている上、再手術の可能性も非常に高い)、胃ろう手術(人間の尊厳にかかわる)などである。

ヘルプマーク……義足や人工関節を使う患者、難病の患者、知的障害、身体障害、妊婦さんなどが自由に使うことができるマーク。東京都が作成したピクトグラムで、周りへの配慮を求めている。非常によく目立つので、見かけたら席を譲ってあげたり、もしものことがあった時に備え、心構えをしておこう。せっかくのマークも認知されないと意味がない。

重湯……おもゆ。伝統的な流動食の1つ。多量の水分を加えよく煮たおかゆの上澄み液のこと。お粥とはいうが実質、水である。塩やダシを加えて味を調えるのだが、「病人食」というだけあり、やはり、マズいらしい。ただ、水分とデンプンしか入っていないため、消化はとてもよく、水分と糖分が効率よく補給できる。

ウィリアム・サイディズ……アメリカの数学者。幼い頃から神童だ天才だと言われていたのに、隠遁生活に入っていって、結局何も残せないまま死んでしまった人。早期英才教育により知識欲を植え付けられた(当時としては非常に珍しい育て方だった)彼は、生後18か月でTimesを読むことができ、8歳までには8つの言語(うち1つは彼が発明した言語)をマスター。そのほか、3歳でタイピングを覚えたり、4歳の時にはホメロスを原書で読んだり、8歳でMITに合格したり、10歳のときに論理学の教授の原稿を「段落がおかしい」と訂正したり。1914年、16歳のときにはハーバード大学を卒業し、数学教授に就任するが、学生や大学への不満が募り、ボストンに帰郷。ハーバードのロースクールに通い直すも、1919年中退。1921年には殻に閉じこもり、路面電車の切符や雑誌を集める趣味に没頭し始め、ついに脳卒中で46歳、死去。

駅メロに「転調」が多い理由……数々の駅メロを手掛けてきた塩塚博によれば、彼の駅メロには「転調が多い」「偽終止が多い」という。途中でキーを変える転調、また、「完全終止のように見せておいて、主和音でない和音で終止する」偽終止などは、「ちょっと違和感や緊張感を盛り込んで、刺激や覚醒効果」を狙うためだという。そろそろ発車しますということを伝えるためのものなのだから、安らぎだけではだめで、かといって不安をあおるものもだめ。なかなかに難しい。

全米アイスホッケーリーグに出場した架空の日本人がいた……その名も「ツジモト・タロウ」。1974年のNHLドラフトにおいて、バッファローのセイバーズで正式に指名された、架空の日本人アイスホッケー選手である。ドラフト手続きの遅さにうんざりした人が、リーグに対してジョークをかますことを決意。チーム名は「トーキョー・カタナズ」という設定である。ドラフト11巡目、日本アイスホッケーリーグ(JIHL)のトーキョー・カタナズ(東京にアイスホッケーチームはなかったのだが…)でスター選手の「ツジモト・タロウ」を指名。NHLはこの指名を正式に登録し、雑誌もこれを鵜呑みにした。なかなかに面白い。

三重の飛地があったことがある……それがダハラ・カグラバリ(#51)。かつてバングラデシュにあった、インド領の飛地。整理番号で51番の土地は非常に珍しく、バングラデシュ領内にあるインド領の中のバングラデシュ領の中にあるインド領。面積はわずか7000平方メートルと小さく、誰も住んでいなかった。このほかここらへんは飛地があまりに多かったため、統治の難しさによりインド・バングラデシュ両政府は162の飛地を交換、飛地はバングラデシュのものになった。

人間のような形をした化合物がある……その名も「ナノプシャン」。ガリバー旅行記に登場する「リリパット」の住人「リリプシャン」と「ナノ」をかけた造語であり、実際、身長2nmほどしかない。簡単にいえば、人間のような形をした芳香族化合物についたあだ名であるが、科学雑誌の表紙も飾ったことがある。頭の部分は簡単に構造が変わるため、王様、パン職人など、様々な職業のナノプシャンが完成。確かに似ていますねえ。このほか、ペンギンに似た「ペンギノン」、車に似た「ナノカー」などもある。

フィネアス・ゲージ……アメリカの人。究極に運が悪いのだが、運がいい人。何と彼、事故にあって大きな鉄棒が頭、というか左前頭葉の大部分を貫通、破損したのに、生還したのだった。生理学の理論を覆したとまで言われ、「脳の特定の部位の損傷が人格に影響を及ぼすことを示唆した初めての事例」となっている。つまり生き残りはしたのだが、性格は悪い方に変わってしまった。冒涜的なことばを喜んで口にしたり、欲望に忠実になったり、発言が幼稚になったり。彼の友人をして「もはやゲージではない」と言わしめたほどだった。

アメリカで交通違反をするとどうなるか……日本では全国一律の内容で処罰されるが、アメリカは州により道路交通法が異なる。また、州でもカウンティ(郡)が違えば、罰金が異なることもある。アメリカといえばカーチェイスのようなイメージだが、取り締まりは日本と同様、あるいはそれより厳しいという。フリーウェイの上りから下りにさしかかるところ、合流後のアクセルを踏み込む場所などに、スピードガンを構えた警官がいる。違反した際にはどんなことが起こるのかというと、パトカーはパトランプを点滅させるだけ、つまりサイレンは鳴らさず、ゆっくり後ろについてくる。こうなると諦めて車を路肩にとめるのだが、絶対に両手はハンドルの上。また、警官を待たずに出ていってしまうと、銃を持っていると思われてとても危険だ。日本では「標識が見えにくかった！」「一時停止してた！」とゴネる人も多いのだが、訴訟大国のアメリカはそうはいかない。否応なしに切符を渡されて終わりだし、「文句があるなら裁判所にどうぞ」。いや、出廷する気がなくても、切符にはすでに出廷日が書かれているというのだ。

ブラウン運動にまつわる誤解……日本語の文献でブラウン運動を説明する際「水で花粉が動くアレ」と説明されている事例のこと。実際には花粉ではなく、水を吸って破裂した花粉から出る微粒子の運動である(花粉はでかすぎる)。専門家でも間違いを犯すこと、権威に惑わされてはならないことなどの警鐘となっている。1827年、ブラウンは花粉を観察していたのだが、細かい粒子が不規則に動いていた。これがなんかいろいろあって、「花粉が動いた」という誤った内容に変化したという。例えば長岡半太郎が1910年「ブラウンが、研究していた花粉が生きるように動くのを発見」などと言ったり、1949年の物理学読本という本では「花粉が絶え間なく運動する」、NHKラジオの「やさしい科学」という番組でも、東大物理学教授が「花粉がフラフラ動く」と形容。彼は寺田寅彦に薫陶をうけた物理学者だったが、そんな彼でも誤解にとらわれていた。湯川秀樹も同じ間違いをしている。

日本にも100年後には消えてしまう島がある……モルディブ共和国が温暖化でヤバいという話は聞くが、広島県にある無人島「ホボロ島」は、まさにそんな感じ。地元では、嫁入りしてきたこの島が、松や周囲の島の励ましにもかかわらず、だんだんやせ細るという伝説があった。実際、少しずつ小さくなっているようだが、その要因は温暖化というより、島を構成する凝灰岩が、ワラジムシ目の動物に食べられているからだという。100年後にはこの島は消滅する予定である。無人島なのが救いか。

ヘルニア……体内のある臓器が、本来あるべきところから出てしまった状態のこと。でべそのことを「臍ヘルニア」と呼んだりするが、最も有名なのは椎間板ヘルニアだろう。背骨のクッションである椎間板、その中にある髄核というゲル状の組織が、外に飛び出てしまった場合のこと。その主な原因は椎間板への強い圧力。大きな負担がかかることで、線維輪(せんいりん)という、髄核を覆っている組織が破綻し、やわらかい髄核が出てくる。これが神経に当たることで様々な症状が起こる。急に重たいものを持ち上げる、中腰、激しいスポーツなどがきっかけになることは少なくないが、喫煙、遺伝、精神的なストレスなどが関与しているとも指摘される。MRIで検査するのが基本で、これに感覚検査、筋力検査などを加味して判断する。治療は観血的治療と保存治療に分けられるのだが、前者は手術治療のことを、後者は投薬、注射、コルセット、リハビリなどをさす。激烈な症状や麻痺などでない場合、まずは保存療法を選択するのが基本。症状としては坐骨神経痛ともいう足の痺れや痛み。ヘルニアが突出する部位により、下半身のどこに症状が出てもおかしくない。咳やくしゃみをするだけで激痛が走ることもあるという。

ガセの語源……にせもの、まやかし、嘘。元々テキヤの隠語の「お騒がせ」を意味する「ガセ」から来ているから、本物でないのに人騒がせということで、今の意味になったという。ガセネタということばとともに、1920年ほどから使われていることがわかっている。

世田谷一家殺害事件……2000年の大晦日にかけて起こった殺人事件。一家4人が殺害された痛ましい事故だが、大晦日にあったこと、その残虐性、犯人の異常な行動などにより、めちゃくちゃ話題となった。公園のフェンスから犯人は侵入、子ども部屋に寝ていた長男を絞殺、続いて異変に気付いて上がってきた父親を殺害、3階の屋根裏部屋で寝ていた長女および母親を殺害した。長男が絞殺された以外、3人はみんな柳刃包丁と文化包丁で殺されている。犯人は執拗に、何度も被害者たちを刺している。奇妙なのはそこからで、犯人はなんと家族4人の死体の横で、食事をとったり、トイレにいったり、ネットをしたりとくつろぎ始めたのだ。手をケガしてその場で治療するなど、犯行を隠す様子はまったくない。なんと9～10時間程度、ずっと被害者宅でくつろいでいたということになる。そのため指紋、血液、大便に至るまで、いろんな証拠が残っているのだが、今も犯人は見つかっていない。

名古屋妊婦切り裂き事件……1988年3月に発生した猟奇的な未解決事件。被害者は28歳の妊婦で、31歳の夫と2人で暮らしていた。夫は妻の体を気遣って退勤直前に電話をしたが、いつもと違い全然繋がらない。自宅に帰ってみると鍵は施錠されておらず、部屋の明かりもついていない。赤ちゃんの泣き声が聞こえる、産まれたのか、と思い電気をつけると、そこに飛び込んできたのは息絶えた妻、妻の股下で泣く赤ん坊だった。救急車を呼ぼうとしたが電話がどこかに隠されてしまっていたため、下の階に話して電話を借り、救急車を呼ぶ。改めて部屋に戻り妻の亡骸を見ると下腹部からみぞおちにかけて切り裂かれ、子宮の中にはダイニングキッチンになかった電話、そしてミッキーマウスのキーホルダーが入れられていた。女性の死因は絞殺で、死亡後に腹を切り裂かれ、赤ん坊を取り出されたと推察された。2000円が入った財布以外何も持ち出されておらず、また犯人の手がかりもまったく見つかっていない。2003年に時効が成立し、未解決事件入りした。被害者の夫と赤ちゃんは好奇の目に晒されたため、1999年に国外に移住。

徳島男児行方不明事件……松岡伸矢くん行方不明事件とも。1989年に発生した未解決事件。母の実母が急死したため一家で葬儀に参列。その後一家(茨城県牛久市に家があった)は会場から1時間離れた、香川県坂出市の親戚の家に泊まっていた。事件は一家が朝の散歩を終えて帰ってきた後に起こった。父はその男の子(松岡伸矢くん)を家に残し、下の子を家に連れて行った。そのとき息子はまだ散歩したそうな顔だったから、迎えに行くために玄関に戻ると、忽然と姿を消していたという。その間はわずか20～40秒。すぐに周辺を探したが全く見つからず、家族、親戚、地元の消防団をもっても消息はつかめないまま。最初は山に向かって迷子になったと言われ、警察署や有志の一般市民まで動員されたが、やはり見つからない。その後3か月間必死の捜索が行われるも、ついに消息を掴むことはできないまま。親戚宅の周囲に人家はなく、100m離れたところにある農家は「車さえ見かけなかった」と証言している。さらに、一家が親戚宅に泊まっていることを知っている者もいなかったという。会社をやめて自営業になった父親を中心に捜索は続き、両親は50回以上テレビに出た。よせられた情報によると、男の子は怪しい男性に連れられており、手には大きな傷を負っていたという。翌月に寄せられた情報によると、やはり男に抱かれていたようで、発見者が男の子の顔を覗き見ようとすると、顔を隠して車に乗っていってしまったという。また、この子が失踪、捜索が行われると同時に、親戚の電話にテープレコーダーを取り付けたのだが、一家が家に帰る前日の16日、奇妙な電話があった。徳島弁のアクセントで「奥さんはいますか？」という女性の声。母が電話を取るとその女性は「ナカハラマリコの母親です」と名乗り「成蹊幼稚園の月組の父母です、幼稚園で見舞金を集めたのですが、どちらに送ればいいでしょうか。もう帰ってくるんですか？」と。成蹊幼稚園は彼の姉が通っていた幼稚園。「明日返ってきます」と伝えたが、その後連絡がない。数日たって問い合わせたところ、見舞金を集めた事実はなく、ナカハラマリコという子もいないという。父から電話をかわるとき「誰かわからないけど徳島弁だよ」と言っているが、茨城県にいて松岡さんの親戚宅の自宅の電話を知ってるのも変な話。徳島県にいて幼稚園の名前を知ってるのはおかしい。しかしこれが手掛かりになることはなかった。ちなみに「親族が間違えて殺してしまった」という仮説がある。この家の親戚は「事件を忘れたい」として現地を売却している。また彼は「ここには来ていない」と答えているが、畑に埋めてしまえばわからない。警察犬もさすがに敷地内では追跡できない(そこらじゅうからにおいがするため)。

福島女性教員宅便槽内怪死事件……1989年に福島県で起こった未解決事件。不気味すぎる。小学校の女性教員Aが、住まいにしている小学校に隣接した住宅に帰宅、トイレに入って何気なく中をのぞくと、靴のようなものが見えた。すぐに表に回ってみてみると、汲み取り口の蓋が空いており、人間の足が。すぐに先生たちを呼び、警察に通報。彼らは便槽から人物を引っ張り出そうとするが、なかなか取れない。重機で周りを掘り起こして出したところ、男性はすでに死亡していた。真冬だというのに上半身裸。遺体はその場でホースの水で洗われ、検案では「凍え」および「胸部循環障害」と判断された。争った形跡や外傷もない。身元はすぐに判明。現場から車で10分ほどの村内に住む26歳の男性Sだった。警察は「のぞき目的で入ったが出られなくなった」と判断、事故死として処理されたが、疑問もある。まず彼は村で両親、祖母との4人暮らし、好青年だった。仕事は隣町の原発保守で、営業主任。明るく人望もあり、村長選挙では応援演説を頼まれるほどだった。「彼がのぞきなんて」とみな話す。また女性は大喪の礼で24～27日まで休暇をとっており、県内の実家に帰省していて留守。女性と男性は後述するように知人であり、留守だと知っていたらのぞきをする目的で侵入する意味はない。男性の足取りにも疑問が残る。遺体発見される4日前の24日から足取りが途絶えていた。23日に先輩の送別会に行き、24日深夜1時に店を出た。その日の午前10時、父は「ちょっと行ってくるからな」という、男性の声を聴いている。それから4日間、ずっと足取りがないのだ。また、靴のうち片方はAの自宅付近の土手で発見されており、これも不可解である。さらにマンホールの直径は36cmしかない。男性の平均肩幅は40.4cmであり、女性並みに小柄としてもギリギリだ(同世代の女性の平均は36cm)。普通に考えれば入るのをためらうほどだし、侵入を試みても途中であきらめそうだ。事件後、村ではある噂がささやかれていた。事件直前に行われた村長選挙はとても厳しいもので、それに絡んで殺されたのだろう、という内容だ。彼が応援演説に途中から出てこなくなったことから憶測を呼ぶ(金のばらまきに嫌気がさして、関わらなくなったらしい)。噂が噂を呼び、次第に村では犯人捜しが始まるようになる。真相解明を求める4000人の署名が集まって、提出されている。しかし警察はあくまで事件性はないと取り合わず、捜査しなかった。どうやって彼は入ったのか。例えば誰かが意識不明にして無理やり押し込もうとしても、マンホールの狭さから自分で入る以上に困難なのは間違いないだろう。そしてもう1つ気になる事実がある。SとAは、Aの恋人男性を通じて知り合いだった。そして以前Aがいたずら電話に悩まされていたことがあり、Sは恋人男性と一緒にそれを録音、警察に届け出ていたのだ。結局警察はうごかなかったが、Sの知人によれば、Sは犯人をほとんど突き止めた様子だったという。いたずら電話の主が誰だったのか、そしてこれは事件に関係あったのか。今となっては確かめるすべはない。

福島県原町市女性失踪事件……1994年2月19日に起こった未解決事件。歯科医院で助手をしていた増山ひとみさんが、勤務先から帰宅途中、行方をなくした。彼女は3週間後に結婚式を控え、この日が最後の出勤。午後1時ごろ、車で帰宅するひとみさんの姿を同僚がみたのが最後。車は市内のコンビニ裏の駐車場に放置。車には鍵がかかっており、財布、ジャケット、そして指輪が保管されていた。免許証や保険証、現金も奪われておらず、警察は事件の可能性とみて捜査している。事件発生前、彼女の婚約が決まってから、自宅には毎晩無言電話がかかっており、車に傷がつき、家に落書きをされたり。無言電話については彼女が失踪したと同時になくなったと彼女の父は証言している。また、のちに発見されたひとみさんの手帳に、1月25日付けで「○○という女からTel」というような内容のメモが。失踪当日、職場に「増山ひとみさんという方はいますか？」という若い女性からの電話があり、ひとみさんは時計の身ながら話していた(彼女は時計を見ながら話していたという)。それ以降は足取りがわかっていない。1995年1月4日、失踪から1年後、実家に中年女性からの電話が。「はい増山です」「もしもし、お姉ちゃんだよ？」「はい？」「お姉ちゃんだよ」「誰ですか」「お姉ちゃんだよ」「どちら様ですか？」「ひとみです」「は？」という会話録音が残っている。一家は失踪後、不審な電話を録音する習慣があった。この電話はテレビで公開されたが、イタズラか、事件と関係があるのかわかっていない。

熊取町若者七人連続怪死事件……1992年6月から7月、大阪府熊取町で17～22歳の若者7人が、一週間ごとに水曜・木曜に自殺していたのだ。A、17歳、6月4日、自宅そばのたまねぎ小屋で首を吊り自殺。中3でほとんど登校せず、パチンコに行っていた。Bよりも暴れもんという評価。卒業後は美容師の専門学校に行くが中退。事件時は無職。1991年、BやCと暴走族を結成。シンナーをともに吸っていた。B、18歳、6月10日、かつて住んでいた家の納屋で首をつって自殺。不良たちの間では有名。暴走族のチームでは特攻隊長をしていた。当時妊娠中の彼女がおり、新しい住まいまで全て決まっていた。Aの葬儀では「なんで死んだんや」と悔しがり「俺たちはしっかり生きて行こう」と話していたのに、6日後に自殺。C、17歳、6月17日、農作業小屋で首つり自殺。高知出身、野球出身で、野球の強豪高校に進学するが中退。その後Bと知り合い、Bの父が経営する土建会社でBとともに働いていた。Bが自殺した当時は三重県で旅館手伝いをしていたが、自殺のしらせを聞いて戻っていた。彼はしばらく友人と会っていたが、以前付き合っていた女性に会ったとき「もうすぐ他の男性と結婚する」と聞き、ロープはないか、と友人に尋ね、6時間後に首を吊った。D、22歳、6月25日に森で首吊り自殺。E、19歳の女子大生。7月2日、胸を果物ナイフで刺して自殺。大阪体育大学に進んだ。大学進学して陸上をしていた。遺書はなかった。実は5人の自殺の前に2人が死んでいた。4月29日、X、17歳、板金工。4月29日、ため池に落ちて死亡。AやBの後輩で、在学中に交流があった。Yとは同級生。Y、17歳、5月29日、シンナー吸引による心不全で死亡。AやBとはよくつるんでいた。これだけならただの自殺なのだが、これらの死には不審な点がある。まずAの「借金を返してほしい」というメモ以外、遺書がなかったこと。Cの手首はなぜか後ろで縛られていた。警察は衣服の乱れのなさ、縛り方が自分だけで結べるものだったため自殺としたが、どうしてこれから死ぬ人間が手を結ぶのか。Dは小高い栗の木でシャツに首をつっていたが、その木の枝はものすごく高いところ。Eは住宅地の、グラウンドを背にした道路で、ナイフで首と胸を刺していた。なぜこんな目立つ場所で自殺したのか？また、彼女は自己ベスト更新したばかりで喜んでいた。当日血だらけの状態で発見された彼女は、違う、違うと呟いていたという。B、C、Eは3人とも「車に追われている」と話していた。Bは「白いクラウンに追いかけられている」と母にもらし、母がCに尋ねたところ「何度かそういうことがあった」と。様々な仮説があるが、真相はわかっていない。

井の頭公園バラバラ殺人事件……1994年4月23日に起きた未解決事件。東京都三鷹市の井の頭公園で男性の足首が見つかった。公園の池のゴミ箱7か所で、27個の「断片」が見つかった。袋は小さい穴がある水切り用の黒い袋、半透明の袋の二重で、漁師らが使う方法できつく縛られていた。発見されたのは手足と胴体の一部だけ。死体は司法解剖されたが、27個のパーツは全身の3分の1ほど。死体のひとつひとつは同じ長さで切断されていた。肉を削ぐなど、太さも揃えられていた。従来の場合は遺体の切断に時間がかかるため、関節あたりを切断するのだが、この事件では関節も臓器も関係なく、電動のこぎりのようなもので均一に切られていた。ゴミ箱の蓋にちょうどぴったりの大きさだったのだ。遺体はとてもきれいな状態だった。念入りに洗われ、付着物は一切なかった。血液までもがすべて抜かれていた。これらの作業は一般家庭では不可能なほどの大漁の水と医学的知識が必要である。手足の指紋は念入りにすべて削られていた。事件から3日後、DNA鑑定から遺体は公園の近くに住む一級建築士・川村誠一さんのものと判明。死因は確定できなかった。毒物ではない(骨髄から何かが出てこなかった)。交通事故の場合は手足に傷が残るだろうが、発見された遺体には傷がなかった。1か所だけ外傷があったのだが、それはろっ骨の一部にある筋肉組織の出血。肋骨が損傷しているわけでもないのに、なぜそこから出血しているかも不明。川村さんは4月24日の夜、昇進祝いということでお酒を飲み、11時ごろに新宿駅で別れて行方不明。1995年1月11日、行方不明になる直前の4月20日午前0時過ぎ、彼が吉祥寺駅近くで2人の男性から殴られていたという証言が。また23日午前4時ごろ、井の頭公園で不審な男(ポリ袋を持っていた)が目撃。2009年に時効成立。

多摩保母殺人マンホール死体遺棄事件……1997年1月14日に起こった事件。多摩市役所に「マンホールから汚水が溢れている」という連絡があり、腐乱死体が発見された。腐乱が進み、はげ落ちた肉片が詰まったため。鑑識の結果、遺体は保育士の八木橋富貴子さんのものと判明。歯型で判明した。死後数か月が経過、司法解剖をするも死因は特定されていなかった。彼女は1年前から行方不明者として捜索願が出されていた。マンホールの直径は60cm、深さ3m。自宅からわずか200ｍのところで、夜間はほとんど人通りがなかった。八木橋さんは1996年2月27日、勤務先の保育園を出た後、同僚を別れ、スーパーで買い物をした。21時には集金人が彼女を目撃していたが、それを最後に不明に。3月1日には捜索願が出され、2月27日の日付が入った食べ物が。服装はワンピース、セーターで、靴は履いていなかったが、同僚と別れたときと服装が違っていたため、帰宅して何者かに連れ去られたとみている。警察は交友関係を洗い、複数の容疑者を対象とした。八木橋さんと交際していた男性(マンホールの開け方を知っている、市役所職員)が疑われたが、事件との関与を完全否定。室内は荒らされたり争ったりした形跡はなかったが、いつも持ち歩いていた巾着がなくなっていた。貯金と750万はいった通帳はあった。希望していた年長組の担当を実現したこともあり、現在の子供たちが卒園したら青森に帰る、と話していた。八木橋さんが不明になってから2日後までに、父に無言電話が6回あったが、今も事件は解決していない。

横山ゆかりちゃん行方不明事件……1996年7月7日に起こった事件。横山夫妻の長女ゆかりちゃん(4歳)が行方不明になった事件。パチンコ店に両親は子どもとともに来店。母と父はそれぞれ一列違いのパチンコ台に座った。その間彼女は暇つぶしに店内を散策していた。パチンコ台を見たり、景品コーナーで品物を見たり。正午になり、母は店内で弁当を買い、次女とゆかりちゃんを連れて駐車場の車内で食事をした。このときはお腹がすいていなかったらしい。その後パチンコをしていたら、ゆかりちゃんが「もう一度食べたい」とやってきた。そこでゆかりちゃんを出入り口の長いすに座らせ、弁当を持たせた。午後1時40分ごろ、父は座っている彼女を見ている。しばらくすると母のところに来て「～～のおじちゃんがいるよ」(～～は聞き取れず)と。「ちゃんと座っててね、ついていっちゃだめよ」と伝えたのだが、午後1時50分ごろ、ゆかりちゃんが姿が見えなくなる。駐車場や国道にはおらず、午後2時10分に通報。事件から2日後、機動隊員70名をつかって捜索したが見つからなかった。聞き込み捜査では、失踪と同じ時刻に、「白い乗用車に4歳くらいの子が乗り込んだ」という証言があったが、それで終わり。パチンコにはたくさんの人がいたが、彼女に注目している人はいなかった。しかし防犯カメラでは「サングラスの男」をとらえていた。男は1時27分に入ってきた。白っぽいシャツ、夏なのにジャンパー、ニッカポッカ風のズボンをはいていた。歩き方ががに股で、左の脇を締めるような歩き方。男はまずトイレに入り、その後店を徘徊。ちょうどこのときゆかりちゃんとすれ違っている。1時33分、ゆかりちゃんの座っていた長いすに座った。しばらくタバコを吸い、ゆかりちゃんの真ん前にある灰皿を使っている。やがて男はゆかりちゃんに話しかけるようなそぶりを見せ、右手で3回、外を指さした。ゆかりちゃんは困ったように、ワンピースの裾を手で持ってひらひらさせた。1時42分、ゆかりちゃんを残して席を立った。つまり彼はそれだけで店を後にしている。その後ゆかりちゃんは「～～のおじちゃん～～」と話している。そして1時45分ごろ出入り口方面に向かった。カメラの死角だったため、彼女の姿はなかった。同年12月6日、解析結果をもとにイラストが描かれた。鼻が高く、頬骨がはって、顎がつきだし、頬がこけている。サングラスの男は誰なのか、ゆかりちゃんはどこなのか、今もわかっていない。

長岡京殺人事件……1979年5月23日に起きた未解決事件。長岡京市のスーパーでパートをしていた主婦2人が、仕事終了後に近くの竹林にわらびを取りにいき、そのまま消息不明になった。その2日後、山頂付近が遺体となって発見された。Aが絞殺、Bが刺殺。2人のリュックには空の弁当箱、ワラビ、財布が入ったままだった。検死の結果、死亡時刻は正午過ぎから2時半までの間。金を奪われた形跡はなかったが、Aの衣服のポケットから「オワレている 助けてください この男の人わるい人」と走り書きがされた、事件当日より2日前のレシートが発見。だがどちらの荷物にも鉛筆がなく、後日の捜査で芯の先端のみが見つかっているが、鉛筆はなかった。Aは30か所が殴打され、肋骨が折れていた。Bは50か所以上刺され、包丁が刺さったままだった。犯行現場は木や竹が生い茂り、昼間に暴行事件も起こっていた。遺留品は包丁のみで指紋もルートも解明されずじまい。1994年に時効成立。

加茂前ゆきちゃん行方不明事件……1991年3月15日、三重県四日市市富田在住の加茂前(かもぜん)ゆきちゃん8歳が行方不明になった事件。板金工場で働いていた父夜勤では睡眠中。当時小学2年の彼女は午後2時に友達と別れ帰宅。彼女はいつも父を起こさないようにしていたため、気付かなかった。午後2時半には母が家に電話を入れ、ゆきちゃんが出ている。その後次女が帰宅したときには彼女の姿はなく、あたたかいココアが机の上に置きっぱなし。午後4時頃父が起きてきて、ゆきちゃんがいないことに気付くが、友達といつも遊んでいることが多かったので、さして気にも留めなかった。その後みんなが帰宅して来るが、彼女だけ戻ってこない。午後8時に警察に連絡し、独自に捜索するが見つからない。そもそも不審な点が多い。ココアが暖かかったこと、自転車が置きっぱなしだったこと、いつもきていたジャンパーも家にあったこと、など。またこの日、友人の遊びの誘いをなぜか断っている。その後も番組に出たりビラを配ったりした。無言電話が頻繁に来るようになった。事件から3年後、間違った宛名で一家に怪文書が届く。非常に不気味な文書だったが内容はわからない。長いので一部だけ。「ミゆキサンにツイテ ミユキ カアイソウ カアイソウ(以下略)」。簡単に言うと「外国で売春婦になってミユキは生きている」というような内容。カタカナが混じった非常に読みにくい文章。だがこの人自身はそれについてよく思っていないようで、「事件が大きいので決して急ぐべきではないと思う。八つ裂きにしてやりたい」と述べている。2003年10月、一家に不審な電話が来る。自分の身長や外観的特徴を述べた。この中の「パンチパーマ」は、関係者にしか知らされていない情報だった(目撃情報で「白いライトバンにパンチパーマの男が乗っていた」というものがあった)。現在でも有力な情報は届けられていない。

中標津町オートバイ変死事件……1999年10月22日午後5時ごろ、北海道根室支庁中標津町(なかしべつちょう)に住む木村悟さん16歳が変死を遂げた事件。彼は両親に「友人の家に行く」といい出発したが、その後行方不明。3日後、標茶町の車道の脇で転落死していた。遺体のそばには盗まれたオートバイがあり、「無免許でオートバイを運転していたが、カーブを曲がれずに立木にぶつかり、転落死した」として、司法解剖もしていない。死因は「頚椎骨折で即死」とした。しかしのちに「頭と胸部打撲の失血死の可能性が高い、48時間は生存していた可能性がある」と修正。しかし多くの疑問が残る。まずヘルメットについて。被っていたとされるフルフェイスヘルメットが、顔の右横に、きちんと置いたようにして放置されていた。誰がヘルメットを脱がせたのか。あるいは彼が生きていたとしても、頚椎骨折なら麻痺のため、自分で脱ぐことはできないはずだ。またヘルメットにはへこみや傷がなく、きれいだった。彼が使用していたメガネもまた、遺体発見時には見つからなかったが、11月6日、現場に行ったときに見つかっている。彼の足の先に、傷もなく置かれていた。事故当時ヘルメットがなければメガネが壊れているだろうし、ヘルメットをかぶっていれば脱げることはないはず。また、軍手、靴、靴下が、不自然に脱ぎ捨てられていた。もし彼が即死なら、誰がどんな目的で脱がせたのか。警察の調べではバイクは立木にぶつかったとされているが、衣服にも体にも外傷はなかった。道外に投げ出されているのに傷がないとはどういうことか？また、バイクのスイッチは「切」になっていた。事故の衝撃で自然に切られることは考えられない。つまり彼が乗っていたバイクはうごいていないことになる。医学博士の上野正彦氏はこう述べる。「背中の死斑の出現が軽度なので、頚椎骨折とするより、胸、腹腔内臓器損傷による失血死とするのがよい。いずれにせよ本件遺体は死因と所見が一致しない」と。また、彼を探して同級生や教諭も車などで探したが、その後ようやく3日後に発見。「ゆっくり走ったので見落とすことがない」と述べている。事故当時、悟さんへのイジメをしっていた教師は「誰かに連れ去られたらしい」と発言していたにもかかわらず、その後知らないと述べた。2003年、遺族は被疑者不詳の「傷害致死事件」として警察本部に告訴したが、検察は「単独死亡事故」と認定。2006年に刑事事件としては公訴時効が成立。

タケノコ掘り行方不明事件……2005年4月29日、香川県坂出市でタケノコ掘りの最中、大西有紀くん5歳が行方不明になった。このとき、彼は母とタケノコを掘りに来ていた。参加者は60人で町のレクリエーションイベント。午後1時20分ごろ、彼はタケノコを掘り始めた。しかし突然立ち上がり、もう一本見つけてくる、と言って母の元を離れた。数分後彼を呼んだが返事はない。友人に助けを求め、竹林を探し回った。やがて警察も捜査、警察犬まで導入したのに見つけられない。白昼、60人がいる中で消えてしまったのだ。失踪直後から3000人を動員したが、遺留品が一切なかった。捜索の結果、彼が山に迷い込んだ可能性は極めて低いことがわかり、池の水を抜いたが見つからない。一つだけ大きな謎が残った。遊歩道の外れ、竹林の中にあいた空間で、警察犬のうち1頭がぴたりと足を止め、動かなくなったのだ。次の日に4頭を導入したが、やはり同じところで立ち止まった。警察犬は足や靴との摩擦で発生する匂いを辿る。たとえ誘拐で匂いが変わっても追尾できる。ということは摩擦が途切れてしまったということ。車が入ることもできない。かといってヘリコプターを白昼導入しても、60人に気付かれないというのは無理だろう。謎を残したまま、未だに行方はわかっていない。

岡山地底湖行方不明事件……2008年1月5日に起こった行方不明未解決事件。岡山の地底湖で遊泳していた高知大学3年生、名倉祐樹さんが行方不明になった。一緒に洞穴を訪れていた仲間から通報があった。学生は洞窟探検サークルに入っており、13人で新見市を訪れていた。不明の男子学生は、5人で11時半ごろ洞穴に入り、午後2時半ごろ着衣のまま遊泳、行方がわからなくなった。なお届け出をしていなかったという。地底湖は底が30m、また入り口は1本で、下に5ｍ降りたところに湖があった(一度落ちたら出られない)。捜索は連日行われ、湖に到達するだけで3時間を要した。機材も搬入できず、ボートは半分浸水した状態。湖面からの声はドームに吸収され、岸の隊員には届かない。のべ6日にわたり懸命の捜索をするも、2次災害の恐れがあり終了。その後名倉さんのサークルでは不可解なことが起きた。5人いたのに地底湖で泳いでいたのは1人だけ。溺れるところを誰も目撃せず、また状況説明がニュースでころころ変わる。「タッチした」という声は聞こえたのに助けを求める声がなかった。救助を行わず、現場に誰も残さないまま帰って来た。また、遭難事故では隊長が記者会見するのが普通だが、しない。探検部のページから部長と副部長の名前が消されていた。探検部は女性が多く、部内でトラブルが起きやすい。いつもは報道合戦を行うマスコミが、部員に全く取材を行わない。被害者の知人を名乗る人物が、高知大学のリモートホストから2ちゃんねるに削除依頼。被害者のmixiに勝手にログイン、日記を全て削除した。なぜ地底湖で彼は泳がなくてはならなかったのだろうか？まして季節は一月。泳ぐという発想が考えにくい環境である。名倉さんとともに入洞した人数も、5人、4人、13人と訂正された。「探検に必要な装備は整えていた」という発表があったが「命綱はありましたか」と聞かれたのに「答えられません」と。

ピーターの法則……組織構成員の労働に関する社会学の法則。簡単にいえば「無能な人がどうして社会に(会社に)多いのか」を説明するための理論。能力主義のピラミッド社会では、人間は極限まで出世する。よって、有能な平社員は、無能な中間管理職になる(能力的に中間管理職のほうが高いというわけではない。これまで得た技術が新しい仕事に役に立たずどこかでは無能になるという意味)。その結果各階層は、最終的に無能な人間で埋め尽くされる。その組織の仕事は、まだ出世の余地のある人間が遂行する、というもの。なかなかにユーモアのある法則だが、プルチーノという経済学者はこれを計算機によりモデル化。様々な昇進ルールを比較すると、最も優秀な者と最も無能な者を交互に昇進させる方法、無作為に選ばれた者を昇進させる方法が、最もよくピーターの法則から逃れると発表。イグノーベル賞経営学賞を受賞した。かなり、ブラックである。

家族が自宅で亡くなった時に救急車を呼ぶと……結果：遺族はさらに辛い目にあう！病院で家族を看取ることになれば理想なのだが、家で看取った場合、どんな風にするのがいいのだろうか。実は、往診してくれる医師を見つけて頼んでおくのが一番よい。在宅で死亡した場合、主治医が死亡診断書を書いてくれれば何も問題はないが、救急車を呼んでしまうとまずいことになる。救急車が駆け付けたときに死亡した場合、救急は警察に連絡するから、家族を運ぶかわりに警察官が来て、事情聴取をされてしまう。要するに、だれかが殺したのか、という疑問を晴らすため、家族全員から事情をきくのだ。それもなかなか丁寧に、しつこいぐらいに質問する。殺人犯として扱われたという声もあるほどで、数時間に及ぶ事情聴取のあと、やっと解放されることになる。これを受けないで済む方法はたった1つ、絶対に救急車を呼ばないこと。そのかわり、亡くなったら主治医を呼んで、死亡診断書を書いてもらえばいい。往診してくれる医師には、在宅医療に携わっている人も多い。通常、往診の依頼は在宅医療の依頼と受け取られやすいから、明確に、万が一のときだけ往診をお願いできるか(死亡診断書を書いてくれるか)を聞いておこう。

更迭……こうてつ。人事処置のこと。高い地位についている人間の役職をとき、別の人間を当該役職にあてること。大臣、幹部、大使、警察、自衛隊、大企業などにおいて使う。解かれる人間についてネガティブなケースに用いられることが多いため、実質的には「左遷」と同じニュアンス。

5人テストをすれば、問題の85％を発見できる？……Webサービスやアプリなどの開発、運用に携わっている人間なら、ある意味で常識になっていることば。誰か5人でテストを行うと、ユーザビリティ上の問題のうち85％を発見することができる、らしい。しかしこの出どころはあまり知られていない。ユーザビリティ評価の目的は問題を見つけることであり、その手法にはユーザテストとヒューリスティックテストがある。ユーザテストは実際のユーザにシステムを使ってもらい、問題を抽出する方法、ヒューリスティックテストは専門家が問題を抽出する方法。どちらにもメリット、デメリットは存在するが、どちらにしろ「何人でテストすればいいのか」はかなり難しい。過去の研究データから数学的モデルを形成すると、被験者数と問題発見率はポアソン分布により説明できることが判明した。というのも、複数の試験者がいた場合、彼らは独立にバグ(問題点)探しを行うため、Aがバグを見つけたかどうかは、Bが同じバグを発見できるかどうかについて独立だからだ。ポアソン分布のパラメータであるラムダは、「一人の評価者が見つけるユーザビリティ上の問題の個数」を「システムに存在する問題の総数」で割ったものになる。このモデルの使い道は、「評価者とあと1名追加すると、どの程度新たな問題を見つけられるか」ということを考えることにあり、例えば評価者が1名だったとき、問題を30個見つけたとする。評価者が2名だったとき、2人で合計50個の問題を見つけたとする。そうするとラムダは2-(50/30)=0.33となり、問題の総数は30を0.33で割った90になることになる。当然、それなりの分散はあるはずだが、推定精度は評価者の数が増えるにつれ向上するはずだ。評価者の数と推定精度を示した表によると、2人とか3人のときはかなりブレがあるが、5人以上の評価者から得られたものなら、それなりに信頼できる(ブレ11%)ことがわかる。で、結局何人がコスパがいいかだが、中規模のプロジェクトの費用対効果だと、ユーザテストの場合は3.2人、ヒューリスティック評価の場合は4.4人のとき、最大になる。これは「5人で85%」の裏付けをしていることになる。とはいえ、コストと利益のバランスは実験当時(1993年)と変わってきている。仮置きの数字の妥当性にはいささか疑問があり、これを鵜呑みにするのは危険だろう。ただ、5人でテストをすると方向性ぐらい見出せるのは経験則的にも割と事実で、ある意味妥当かもしれない。

子ども叱るな来た道だもの老人笑うな行く道だもの……永六輔の「無名人 名語録」に収録されたことば。永六輔が各地を歩いて、無名の人達により口に出されて広まっていることばをまとめたものの1つ。浄土真宗の熱心な信者(専門用語で妙好人という)のことばということだが、その人のオリジナルかどうかはわからない。実は続きがあり「来た道 行く道 二人旅 これから通る今日の道 通り直しのできぬ道」。ネットでは「ニワカ笑うな来た道だもの、古参嫌うな行く道だもの」として知られているが、まさにそうだと思う。アーメン。

パソコン買いたいけどよくわからない用語の説明……かなり的確でわかりやすいと思われる説明。コアは「おっさんの数」、スレッドは「ペンの数」(デュアルコア4スレッドはおっさん2人が両手にペンを持ってる)。周波数は「ペンを動かす速さ」、ターボブーストは「おっさん残業時の腕の速さ」、ストレージは「机の引き出しの大きさ」、メモリは「机の大きさ」、グラボは「色鉛筆」、OSは「おっさんの話す言語」、水冷式PCは「魔剤(おっさんの効率が一時的に上がるが、寿命の前借り)」。拡張性高い。フリーズは「机からものが落ちて仕事めちゃくちゃ」、HDDクラッシュは「引き出しが開かなくなって仕事めちゃくちゃ」。

四駆自動車(4WD)は二輪駆動より雪道の制動距離が短いのか？……JAFによって実験が行われていた。二輪駆動、四輪駆動ともに2種ずつ実験をしている。スズキのワゴンR(790kg)、トヨタのプリウス(1370kg)が二輪で、トヨタのC-HR(1470kg)、トヨタのランドクルーザープラド(2090kg)。まず、上り坂(9%と20%)を登り切れるか？という実験、そして、平坦路と下り坂(9%)で、40km/hからブレーキをかけ、ABS作動下での制動距離を計測するという実験。雪道なので新品スタッドレスタイヤを装着している。その結果、9%の坂道は全て登りきれたが、20％のものは4WDだと安定して上れたのに対し、2WDは途中でスリップして上れなかった。平坦路の制動距離はみんな大きな差はなかったが、下り坂の制動距離は、車両重量が大きいものほど長くなり、軽いものと比較するとその差は10mもあった。車両重量が最も重いランドクルーザープラドの下り坂の制動距離は、平坦路に比べ2倍になった(40mにも)。4WDだと坂道の上りも下りも万能と思いがちだが、車両重量が大きくなる分、下り坂だと制動距離が長くなる。慎重に運転しよう。

ドクターヘリの利用には金がかかるのか……かからない。救急車と同じ。ただし、個人で搬送依頼することはできない。また、救急車と同じく、ヘリの中での治療費は3割請求される。ドクターヘリの維持費はとても高いため、都道府県単位での維持・管理になる。それに、全ての自治体が持つわけじゃないから、周辺との提携運用になる。例えばBで大規模な災害が起こった場合、AはBの患者を搬送する。その場合は共同運航の締結を根拠にするため、Bに料金の請求はない。隣にCという、ヘリを持たない県があると、搬送依頼にはそれなりの金額が請求される。また、県が広い所(北海道とか沖縄)は自衛隊が対応することも多く、この場合自衛隊から自治体への請求はない。

ただしいお尻の拭き方……2行でまとめると、「排便をした後はお尻の粘膜が脱出するから、それをもとに戻さないまま拭くのは間違っている。ウォシュレット洗浄もその後から」。「いつまでもお尻が綺麗にならないという人はだいたい何か間違っている」。大便が出ると直腸の粘膜が裏返りながら出てくるが、若い人は直後にスルスル引き込まれる。だから温水洗浄便座で洗っても痛くないかもしれない。でも、調子に乗ってジャージャーしてはいけない。排便後すぐに洗浄すると、粘膜が刺激され、浮腫を起こし、鬱血、そして、痔・エンド。したがって排便後はきちんとお尻の筋肉をしめよう。きれいにならない場合、粘膜がめちゃくちゃになっている可能性がある。これは若い人でも大切。ウォシュレットを使って「痛い！！」と思う場合、まだ粘膜が収まっていない。

色覚異常(色盲、色弱)の割合は人種や国により異なっている……色盲、2017年から日本遺伝学会により「色覚多様性」という呼び名になった色覚異常だが、日本においては男性で5％、女性で0.2%の割合というのは有名な話。ところがフランスや北欧では男性10%、女性で0.5%であり、アフリカ系なら2～4%ほど。ミクロネシア連邦のピンゲラップという島の人達は、なんと12人に1人が錐体細胞を持たない、つまり1色覚者。人口が20数年に減ってしまい、その生き残りに1色覚者がいたため、近親婚を繰り返した結果、比率が高くなったと考えられている。そのかわり、明かりの強さを見分ける力は非常に強い。

色覚異常者のためのウェブサイト設計……色弱、色盲(色覚多様性をもつ人々)への配慮。前景色と背景色の色差、明度差を一定以上にするようW3C(ワールドワイドウェブで使用される技術の標準化を推進するための団体)がガイドラインを示している。R、G、Bの明るさを256段階で表す。明度差、表示されたときの明るさの差は、(R\*299+G\*587+B\*114)/1000で計算し、125以上が望ましい。色差は表示された際の色相の差を表す。RGBそれぞれの前景色と背景色の差を取り、合計したもの。500以上が望ましい。これらの対応を行うことにより、色覚異常があっても読みやすい表示ができるという説がある。加えて、白黒コピーしかできない状態など、多彩な環境でのアクセシビリティを確保できる。

反復説……動物胚の形が受精卵から成体の形に複雑化することと、自然史における動物の複雑化との間に、並行な関係を見出したとする説。簡単にいえば、「動物は成長段階を、生物の進化の過程を経るのと同じような形で過ごしている」というもの。例えば哺乳類の発生が実例にあげられる。初期に形成される鰓烈は哺乳類では使われずすぐにふさがることから、哺乳類が魚類を経て進化した証拠であり、その時期の胚は魚類の段階の姿である、と主張される。19世紀当時、とても斬新な考え方だったといえるが、今はなかなか進展がない。この考え方はダーウィニズムと同じように、曲解に近い形で社会的な広がりを見せた。例えば子供は大人に比べ進化的に前の段階だとか、原始的種族は進化の段階が低い状態にあるとかいわれ、ナチスのレイシズムに利用されることもあった。

カップラーメンの蓋を簡単にする方法……カップ麺の蓋。割り箸を上に置いてみたり、後入れ液体スープを置いたりするが、なかなかに固定は難しい。途中で蓋が開いてしまうこともある。そこで、材質が発泡スチロールみたいなカップ麺限定なのだが裏技がある。沸騰させるのに使ったヤカンで、蓋の上から縁をなぞるのだ。そうすると発泡スチロールが溶けて蓋ができ、食べる時に簡単にはがせる。

「合格体験記」の信頼性が高くない理由……中学理科では「光合成対照実験」というものを行った。葉の「ふ」のない部分とある部分を比べることで、光合成に葉緑体が必要だということを調べる、アレだ。あれのことを「対照実験」なんて呼ぶ。合格体験記には、反実仮想となる統制群が事実上存在しない。その教育論が本当に合格の要因なのかわからない。よって信頼性がない。これには既に名前があり「ホランドの因果推論の根源的な問題」と呼ばれている。同一人物が同時にある処置をされた場合とされない場合を経験できないために、因果関係が主張できないというもの。しかしながら以下の3つの理由で、合格体験記は非常にもっともらしく聞こえる。まずセレクションバイアス。これは特にエリート校の教員や校長に強く当てはまるもので、教育政策のための統計分析でも初歩的な知識。実際に効果のない教育論が、その教育を受ける・受けない集団の特徴により、効果があると見えてしまうことをさす。ズバリ「開成高校の東大合格者率が高いのは、開成高校の教育が優れているからだ！！」に対する「いやそれ本当？開成高校に、学力が高い生徒がいっぱい集まっているからってだけでしょ。」という反論である。実際に、一般的なアメリカの大学ランキングと、ブルッキングス研究所が発表したセレクションバイアスをある程度考慮した大学ランキングを比べてみると、両者のランキングの顔ぶれは異なる。また、エリート高校の学習効果に目を向けてみても、ニューヨークとボストンのエリート校は、学力維持どころか、むしろ下げてしまっているという研究もある。そして2つ目の要因が、逆の因果関係。例えば「東大生の多くはピアノを習っていた。だからピアノは学習効果が高い」というアレ。それは違うでしょ、「ピアノを購入し、習わせることができるぐらい裕福だから東大に入っただけだ」と。3つ目の要因は、欠落変数バイアス、別名、第三の要因。考慮していない第三の要因が、「教育成果」と「ある教育政策を受ける・受けない選択」の両方に影響を与え、実際はその考慮してない要因が教育成果をもたらしているのに、あたかもその教育が成果をもたらしたかのように見える現象をさす。その要因のもっとも代表的なものが「遺伝の力」。遺伝によって学力が高い子供が東大に入ったことを、いろんな人達が見逃しているということである。ということは、実験群と統制群をうまくランダムに割り振れば、これらの3つの理由から逃れることができるのだろうか。実際、研究者は多くの対象者を集め、ランダムに割り振ることで問題に取り組んでいる。特定の個人を見るだけでは因果関係を立証できないが、多くの人間を集めれば、ある教育を受けた場合と受けなかった場合という反実仮想的な状況を作り出せる。

拘留と勾留の違い……拘留は刑法16条に規定された刑罰の一種であり、「拘留は、一日以上三十日未満とし、刑事施設に拘置する」とある。つまり、こっちはれっきとした法律用語。勾留は、逮捕に引き続いて行われる被疑者の身柄拘束のこと。つまり、有罪後に行われるのが拘留で、前に行われることがあるのが勾留。もう少し広く身柄を抑えられることをいうなら「身体拘束」という。勾留の時間制限は10日間、やむを得ない事由がある場合のみさらに10日間延長可能。勾留は証拠隠滅や逃亡を防止するためのものであり、取り調べの手段として行うものではない。むしろ、身体拘束による心理的な圧力で供述が歪むならば、取り調べは可能な限り身体拘束を行わないべきだろう。

終末医療が医療財政を圧迫しているのは本当か……ネットでよくきく言説で、これをエビデンスとして「だから安楽死制度を整えよう」「終末医療は100％の自己負担にしよう」という意見などにつながりがちである。実は高額医療費が医療保険や財政を圧迫するという言説は1950年代から繰り返されており、また終末医療が医療費を圧迫するという言説も、特に珍しいものではない。だが、死亡前1か月の医療費が医療費に占める割合はわずか3％。死亡前1年間と広くとらえた場合でさえ、老人医療費の11％にしか過ぎない(老人医療年齢階級別分析事業のデータを布川哲夫氏がまとめた)。しかし、死亡前1年間を終末期とするのは、なかなか実感にあわないはずだ。2000年以降は1か月のデータが使われている。医療経済研究機構が2000年に出した報告書では、全死亡者の死亡前1月の医療費は7859億円、国民医療費のわずか3.5％に過ぎない。また、厚労省保険局は2005年7月、2002年度の「終末期における医療費」は9000億円ほどと発表し、これは医科医療費のうち3.3%ほどしか占めない。さらにいえば、統計上、その中には救急救命を目的とした急性期の超濃厚医療で、結果的に心筋梗塞とか脳卒中で死んだという人の治療費さえ含まれている。本当の意味での終末期となると、2％もないだろう。もう一つ勘違いされがちなのだが、日本の高齢者の健康度は世界一である。介護保険との関係で言えば、75歳の要介護・要支援の割合はおよそ3割だが、裏返せば7割は後期高齢者でも健康ということ。

肩甲骨ダイエットのウソ……脂肪をみるみる減らせる肩甲骨ダイエットだが、医者によればそれは全くの嘘。定期的に話題になるこの方法、どういうことかというと、肩甲骨付近の筋肉を動かす運動やストレッチを行うことで、褐色脂肪細胞を刺激し、脂肪の燃焼を促進させ、結果、痩せるというもの。褐色脂肪細胞(BAT)は低体温になることで燃焼する性質があるから、体を冷やせば痩せる…なんてテレビ向きで子供だましな方法まで提案されている。ロシアに住む人はなぜ痩せていないのか？と疑問に思うのが普通。脂肪を燃やすには運動が一番。脂肪燃焼にはノルアドレナリンの分泌が必要。そのためには運動が必要。ノルアドレナリンにより脂肪が分解され、それがエネルギーになる。必要以上に脂肪をとり、ノルアドレナリンが分泌されないと肥満になる。とはいえ、寝ているのに脂肪を燃焼する動物がいる。それが冬眠動物、そして赤ちゃん。彼らは褐色脂肪細胞により、熱を発生させている。どういうことかというと、褐色脂肪細胞は熱を生み出すついでに、白い脂肪(WAT)の燃焼も手伝う。これは事実。とはいえ、赤ちゃんのころにあったBATも、成長するにつれてどんどん減っていってしまう。これを活性化したところで無意味なのだ。褐色細胞はダイエットに使えないというのが常識だったが、Cellに” Developmental Origin of Fat: Tracking Obesity to Its Source”(2007年)という論文が掲載。この論文の内容はともかく「脂肪細胞を刺激すれば簡単に痩せられる！！」というキャッチーなフレーズがメディアを賑わした。まず、刺激する方法と言えば研究段階であるが、少なくともストレッチぐらいで刺激とはいかない。背中を冷やしたり、もんだり、叩いたり、それぐらいで痩せられるなら苦労しないだろう。そしてもう一つ、刺激したとして、そもそもの数が少ないのだから、やはり無意味である。では、もはや簡単に痩せられる方法はないかというと、実はないこともない。褐色脂肪細胞とよく似た脂肪細胞が確認された。それは「白色から褐色細胞のような細胞に変わる」細胞であり、筋肉にもなることができる共通の幹細胞からつくられることも判明。2012年に転機が訪れた。ハーバード大学の研究チームにより、この脂肪細胞に「ベージュ脂肪細胞」と名前がついて存在が明示され、Cellで発表されたのだ。褐色脂肪細胞のそっくりさんだが、発生が異なる上に働きも異なる。運動によって白色脂肪細胞がベージュ脂肪細胞に変化するのだが、その変化を促すのがイリシンというホルモン。内臓脂肪よりも皮下脂肪に多いと言われている。体温よりも低い27～33度で活性化するから、冷やせば痩せる！！と思うのはやはり間違い。悲しいお知らせだが、ベージュ脂肪細胞を増やすには運動するしかない。ハードな運動をすれば増えるし、たくさん運動すれば普通に痩せる。つまり、簡単に痩せる方法なんてない。背中を動かしても、体を冷やしても、肩をストレッチしても、ほぼほぼ無駄である。あ、ただ、体のラインを美しく見せるための手段として、肩甲骨ストレッチは非常に有効とされている。

なぜ嫉妬することを「焼きもちを焼く」というのか……嫉妬することを「妬く」ということから、洒落で「餅」が添えられたという。別の説では「妬く気持ち」が「焼きもち」になったとも。

熱に浮かされると熱にうなされる、どちらが正しいのか……熱に浮かされる、が正しい。病気で高熱のためにうわごとをいうことから転じて、のぼせ上がるという意味でも使う。平成26年度の調査によると、本来の言い方である「熱にうかされる」だが、2割の人が間違って使っていた。うなされるのは「悪夢」であり、「悪夢にうなされる」というなら正しい。

鶏肉は本当にヘルシーなのか……豚バラ肉、鶏もも肉、鶏むね肉、ささみでカロリーとタンパク質、脂質を比べてみる。最もカロリーが多いのは豚バラで、皮なし100gで434kcal、逆に鶏肉は全て100～110kcalと非常に優秀。最もタンパク質が多いのはささみだが、他の部位もほとんど変わらない。豚バラは10g前半。脂質は豚バラが最も高く40g、しかし鶏肉は1ケタ台で、ささみが最も少ない。ということは、ささみが最もコスパがいいことになり、その次に鶏むね肉が来る。鶏もも肉は油のうま味が多いがカロリーは少ないため、味が大事な人に。脂肪を落としたければとりあえず鶏肉食ってろ。ササミは最強だけど味が淡白だから、一般人は鶏肉ならどこでもいいぞ。ただ、皮と脂身は駄目よ。

「日本が韓国から文字を奪った」のはデマかもしれない……ハングルは1446年、李氏朝鮮第4代国王の世宗という人が「訓民正音」という名称で広めたもの。ところが19世紀にはほぼほぼ死んでしまう。李氏朝鮮はそもそも成り立ちが明の属国。国号ですら明から賜ったものなのだ。ところが1880年、福沢諭吉により派遣された井上角五郎は「朝鮮の独立と啓蒙のためには、朝鮮語による新聞の発行が不可欠」という教えを実現するため、ハングルの普及に努めた。そして1886年1月、井上の尽力によりできた「漢城周報」は、朝鮮歴史上初のハングルによる公文書だった。つまり、死に体だったハングルを普及させたのは日本人だったというわけ。朝鮮語で辞書を最初に編纂したのも朝鮮総督府。韓国側は「1910年以降、日本帝国はことばや文字を韓国から奪った」と主張するが、その成り立ちからして嘘だという。さらに1921年には、桂太郎が朝鮮総督府にあてて「ハングルを奨励するよう」に作成した文書が残っている。「閣甲一一内閣書記官別府木下長谷川別紙内閣總理大臣請議朝鮮總督府及其ノ所属官署職員ノ朝鮮語奨励手當給與ニ關スル件ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請儀ノ通閣議決勅令第三百二十六號明治三十一年勅令第六十八號中左ノ通改正ス」。また、日本による統治中に普通学校で使用された教科書はハングルが併記されており、きちんと教育されていた。筆者は『もう』ネトウヨではないから、これを錦の御旗にしてパヨクとやらを論破するつもりもないし、そこらへんの思想に踏み入るつもりはない。ただ、事実ではないだろう、というだけである。

ハングル(韓国語)の同音異義語という問題……日本には漢字がある。かつての韓国にも漢字はあったが、もはや今は使われていない。それがもたらす最も大きな問題といえば、やはり同音異義語だ。日本だと「キシャノキシャ、キシャデキシャ」なんて、言葉遊びみたいな風になるが、それをハングルは本当にやっている。「童貞」と「同情」が同じだったり、「戦死」と「戦士」が同じだったり、「読者」と「独自」が同じだったり、「意識」と「儀式」、「全力」と「電力」など。「素数」「少数」「小数」は3つとも同じだという。有名な韓国高速鉄道・KTXの枕木15万本が全て不良品だったというケースでも、「防水」を「放水」(水を減らすこと)と聞き間違えて起こった。吸水性のスポンジを埋設栓に用いてしまったため、雨水が凍結、膨張し、コンクリートにヒビが入ったのだ。さらに複雑なものになるともうお手上げで、「首相　水上　受賞　授賞　手相　随想」これは全部「수상」の1種、「事情　私情　査定　射程　射精」これは全部「사정」の1種、「伝記　電機　電気　戦記　前記　転記　伝奇　前期　全期　戦期　前騎　転起　戦旗　前紀　田器」　これは全部「전기」の1種。言語に優劣が存在するとは思わないが、漢字があってよかったなとは全力で思う。

ジャガイモが煮崩れしなくなる方法……じゃがいもを一旦皮を付けたまま全部弱火で茹でて、お湯から出して一晩冷蔵庫でさます。その後、皮をむいて投入。これだけでいいらしい。強火じゃなくて弱火でじっくりがコツ(野菜を60度近くで熱すると、細胞壁にあって細胞を接着しているペクチンと、細胞が死んで溶けだす金属イオンなどが反応し、ペクチンが熱分解されにくくなる)。1回冷やすことでデンプンが老化するらしい。春雨、ビーフンなども米粉を加熱し整形、その後冷やして煮崩れを防いでいる。めんどくさいなら適当に皮とって切って、ボウルに水入れてレンチンでも大丈夫。

なぜメシウマという感情が脳に残っているか……メシウマ。シャーデンフロイデ。人の不幸は蜜の味。そういう事柄はいろんな国のいろんな言語で言い表すことができる。脳にはそんなに余裕があるように思えないし、必要のない感情ならばとっくになくなっているはずだ。どうしてメシウマなんて感情が残っているのか。これを説明する理論がある。まず、みんながリソースを1払って共同体を保っているとする。水でも食料でもいい。肉体的に脆弱な人間ができた唯一の事柄が共同体だ。生き残るためには共同体の維持は不可欠。ところが、リソースを払わない人間が出てきた。こうなるとみんな「こいつが払わないなら自分も…」となってしまう。それだとみんなが死んでしまう。つまり、共同体を壊すという行為は種の保存上とても都合が悪く、これを悪いもの、好ましくないものと思う機能が発達することで、生き延びるのが有利になったというわけだ。「みんなのためにリソースを払わず、タダノリする人は制裁されなくてはならない」という下地が出来上がると、そこから排除する圧力が生まれる。もしくは、そういう圧力が生まれなかった集団はみな、もう滅んでしまったのかもしれない。しかし制裁には「逆ギレ」「復讐される」というデメリットがある。そのデメリットを乗り越えるほどの何かがなくては、みんな制裁には走らない。だからこそ「バッシングに快感を持たせる」ことで、バッシングしやすくした。その快感こそがシャーデンフロイデなのだろう。さて、こうした理想主義的な要素が強い社会では、自分が何かを達成したり実現したりというよりも、なるべくバッシングを受けないようにするのが最善となる。ほどほどに目立たないように、自分の利益は仲間だけでおすそ分け。日本はそういう戦略が最も適応的である。もしかしたらこれが幸福度の低さにつながっているかもしれない。

コーンポタージュ缶の上手な飲み方……2016年、新潟国際情報大学では「缶入りコーンポタージュの粒コーン飲み干しに関する研究」という論文が出た。コーンポタージュの粘性を再現した液体を用いて、「缶を大きく傾け、少ない回数で飲み切る」「缶をあまり傾けず、多い回数で飲み切る」の2つのやり方をシミュレーションしたところ、前者より後者のほうが、残ったコーンが多かった。角度が小さいと流速が小さくなり、段差でコーンがひっかかりやすいと考察している。逆に言えば、コーン缶の段差をなくせばよいことになるが、あの段差は缶の上と側面の接合部なので、完全になくすことは難しい。それでは、内側部分にでっぱりを、ということになり、既に特許が出願されている。一般人がやるならば「飲み口の下を少し潰しておくだけ」でいいらしい。

ふざけるを「巫山戯る」と書く理由……それは元々の「ふざける」の意味を抑える必要がある。実は「男女がいちゃつく」という意味で「ふざける」と使われていた時代があった。「巫山(ふざん)」という山が中国にあったらしい。この字を使った語に「巫山の夢」とか「巫山の雷雨」というものがある。「中国、楚の国の王が夢の中で巫山の神女と契りをかわした」という故事である。このことから巫山に「男女がいちゃつく場所」というイメージができたのだろう。だから「巫山で戯れる」ということで「巫山戯」なのだが、発音的にも「ふざんけ」でピッタリ。うまいこと当て字をしたというわけだ。本来のこのような由来から考えれば「巫山戯るな」は「いちゃつくな」という意味で使うのが適当なように思われる。

同棲予定のカップルがやっておきたいチェック……よく「経済性」とか「顔」なんていうが、それ以上に筆者が大事だと思っているのが「食べ物の好み」について。そんな感じの事柄をまとめたツイート(チェックリスト)があったので、ここに貼っておこうと思う。「生活環境」は実家暮らしか独り暮らし歴。「部屋の電気」はつけっぱなしか消すか。「食器洗うタイミング」は直後はシンクにためるか。「実家の親」は付き合いが多いか少ないか。「味付け」はソースかけるかかけないか。「趣味」は干渉してほしいか一緒にしてほしいか。「プレゼント」は実用的なものかペアルック・特別なものがいいか。「休日」は外に出るか中か。「トイペ」はシングルかダブルか。「バスタオル洗う頻度」は毎日か何日か使った後か。「怒った時」はちゃんと言うかため込むか。「食事中スマホ」は気になるか気にならないか。「SNS」はほぼ利用しないかずっと使いたいか。「おなか」は弱めか強めか。「サプライズ」は大好きか大嫌いか。「冷房」はキンキンに冷やすか冷やさないか。「トイレの便座」は使用後降ろすか降ろさないか。「米」は硬いか柔らかいか。「寝る時」は明かりをつけるかつけないか。「宗教」は親族に熱心な人がいるかいないか。「季節行事」は熱心かそうでないか。「リモコン」は置きっぱなしかどこかに戻すか。「騒音」は気になるか気にならないか。こうやって列挙すると本当に細かいことかもしれないが、だいたいからして恋人と付き合う理由は経済性とか顔なのに、別れる理由なんてのは今列挙した事柄の積み重ねなのだから、本当に大事だと思う。ルームメイト選びにも使える。

弁護士業界のロゴにある剣と天秤は何なのか……法と正義の女神であるテミスが持っているやつ。力の象徴である「剣」、そして公正さを表す「天秤」である。これらを両手に持っているところに由来するという。ちなみに唐澤貴洋弁護士の事務所「Steadiness」には剣と盾があるが、あれはたぶん「ネットの悪芋たちと戦い続ける」70年契約を表したものだろうと言われている。アルファロメオのマークもこれに似ていて、十字(クロス)はミラノ市の市章、ヴィスコンティ家の王冠をかぶった大蛇は、異教徒であるイスラム系のサラセン人を飲み込んだ図とされている。

粉飾決算……会計用語の1つ。会社が不正な会計処理を行い、虚偽の財務諸表を作成し、収支を偽装して行う決算報告のこと。「紛飾」と書かれることが多いが、「粉飾」が正しい(おしろいを塗るイメージで覚えておけば間違いない)。女性に例えて「化粧直し」と呼ばれることもある。典型的には、損益計算書の経常損益などを操作し、実態より良く見せるのが目的とされる。ほか、負債を簿外計上したり、資産を過大計上したり。手法としては「二重帳簿」が典型的。脱税するために実態より悪いかのように偽装するものは逆粉飾決済と呼ばれるが、これも粉飾決算に含む。具体的な手法として知られているのは、収益の架空計上。実際にない売り上げ、翌期に計上されるべき売り上げを前倒しするなどのケースが考えられ、結果、貸借対照表に架空の売掛金など、資産性がない資産が計上される。ほか、売上高と経費を同額計上したり、外部企業と互いに請求書を立て合ったり。これらはかなり単純なので会計監査のときに発覚する可能性が高い。もうちょっと複雑なものになると、通謀した外部企業に在庫を転売し、決算した後に買い戻す「押し込み」、複数の仲間企業で不良在庫を転売し決算後に買い戻す「循環取引」など(ただ日本でも連結企業会計が一般的なので、もはやこれらの子会社を使った手法は通用しない)。「はれのひ」「ビックカメラ」「東芝」「てるみくらぶ」「ライブドア」「カネボウ」「山一証券」など、いろんな企業がやってしまっている。

酔いつぶれた人の命を救う4回のチャンス……まず、イッキはさせない。短期間で大量のアルコールをとると、処理が間に合わなくなり、急性アルコール中毒になる。焼酎やウイスキーなどは命にかかわるから、絶対にイッキさせてはいけない。コールがなくても「見えない圧力」「暗黙の了解」が問題なのだ。そして、酔いつぶれた人は絶対に1人にしない。窒息転落水死凍死事故、泥酔した人は一人になると何をするかわからない。合宿などでは「見回る人をつけとくから大丈夫だ」なんていって、つぶれ部屋に放り込むこともあるが、とんでもない。数回見回ったあと、みんなが寝静まった朝方亡くなることがよく起きている。「息が苦しそう」「冷たい」「変なイビキをかいている」「つねっても反応しない」は危険信号。すぐに通報しよう。そして、寝かせる時は、あおむけでなく横向き。吐しゃ物が出てきて窒息死することがある。また、目を覚ますまでは必ず誰かがそばにいること。最後のチャンス。おかしいと思ったら躊躇わずに救急車を。世間体を気にしている場合ではない。つねったり名前を呼んだりしても反応がない場合、それは昏睡状態だ。今「死」と身近なところにいる。

TBTF……”Too big to fail”、つまり「大きすぎてつぶせない」という意味のことば。でかすぎるから、どんなにヤバくても潰せない銀行のことを言う。2000年後半のサブプライム問題をきっかけに世界的に注目された。リーマンショック(リーマン・ブラザーズ)の破綻では、世界の金融システムは深刻な危機に落ちいり、各国の当局はその対応に迫られた。一般にTBTFな金融機関は政府による救済が想定されている。

ベティ・ブープ……アメリカのアニメ映画に登場する架空の少女キャラ。セックスシンボルとして根強い人気を保っている「ベティちゃん」だが、日本では単にTシャツとか筆箱みたいなグッズとして登場。ポパイのオリーブみたいなエッチな服で、おそらくみんな見たことがあると思う。

確定申告にはe-Taxを利用しよう……e-Taxといえば、ネットで簡単に確定申告することができるという仕組み。実はそれどころじゃない利点があった。2020年度から、確定申告にe-Taxを利用すれば、控除額が10万円もアップするのだ。青色申告者の基礎控除額は55万円になってしまうということで、これを利用するとトントンの65万円に。逆に「e-Taxで申告しないと、青色申告特別控除額が10万円減る」といったほうが早いだろうか。10分もかからないということで、電子のほうに移行したほうがやっぱりいいのかもしれない。脱税もなくなるし。税制の面倒なとこはこういう細かい変更で、たまに税務署が出す広報資料を読まないと…(使命感)。

山本五十六の「五十六」は何なのか……56番目の子供、とかなら面白いし、確かそういうジョークがあったような気もするが、実際は「当時の父親の年齢」。母親も45歳とかなり高齢。このことを公にされた時、彼はかなり不機嫌になったという。そりゃそうだ。

フギンとムニン……北欧神話に登場する一対のワタリガタス。オーディンにいつも付き添っている。フギンは「思考」、ムニンは「記憶」を意味している。オーディンに様々な情報を伝えるために、世界中をいつも飛び回っているという。ラッカムが描いた、楽劇「ニーベルングの指環」のための挿絵にも描かれている。エースコンバット7のラスボスの名前の由来。

コンビニ弁当の卵黄は卵黄じゃなかった……セブンとかでも「濃厚チーズのカルボナーラ風ドリア」みたいな商品の上のとこに卵黄が乗っかっている。生の卵黄は大丈夫なのかな？と思いきやあれ、卵黄じゃなくて、卵黄型の卵黄ソース。卵黄型にソースを固め、冷たい状態ではスプーンですっと切れるのに、熱を加えると溶けだしてとろりとなるのが特徴。逆に卵黄だったら、温めすぎて卵黄が固くなってしまうだろう。開発はやはりというべきかキューピー。ちなみにコンビニで販売されている「ゆで卵」も同じで、普通のゆで卵ではない。

安来節……やすぎぶし。島根県の民謡。いわゆる「どじょう踊り」で全国的に有名になった。あのヘンなひょっとこ顔である。一説によるとここらへんの名産である鋼をつくるためのたたら吹きで原料になる「砂鉄」をすくうための所作を踊りに取り込んだものとされ、どじょうとは「ドジョウ」(泥鰌)ではなく「土壌」なのだと。ただ、探偵ナイトスクープでは実際にドジョウがすくえてしまうことがわかった。どっちでもいいのだろうか。

FOX1……戦闘機がセミアクティブレーダー誘導空対空ミサイル(AAM)を発射した時、搭乗員が友軍に向けてコールする符牒。アメリカ軍とその同盟国軍で使われる。FOXは”Foxtrot”の略であり、フォネティックコードで「F」を意味する。このFは”Fire”のことである。赤外線誘導空対空ミサイルの場合は「FOX2」で、アクティブレーダー誘導空対空ミサイルは「FOX3」(航空自衛隊だと機関砲を発射した場合)。ジョークでFOX4もあり、これは体当たり。

ジャミング……無線通信やレーダーによる情報伝達の阻害。「電波ジャック」「電波妨害」とも。民間の通信ジャミングはどこの国でもだいたい違法行為であり、軍隊に対するジャミングは交戦の意思があるとみなされる。無線は電波の送受信によって通信を行っているため、同じ周波数帯域の電波が飛び交っていると混信が起こる。つまり、通信規格よりも高出力の電波を送信すれば、通信を妨害できる。それがもし暗号化されていないアナログ放送なら、既存の放送局と同じ周波数帯によって、自分の主張を放送できる。また、人工衛星から送信される電波を混信させることで、GPS航法も妨害できる。さらにいえば、レーダーも電波の送信と反射波の受信で姿を取得するため、攪乱できる。ノイズをまき散らせば走査を不可能にできるし、欺瞞信号を発して誤認させることも可能。なんにせよ、ジャミングは電波を発信する行為なので、発信源を特定させるリスクを避けられない。発信者が拘束されたり、施設が破壊されたりする危険がある。周波数帯が変わればジャミングは回避されてしまう。筆者が通信関係に興味を持ち始めたのは、どう考えてもエースコンバットの「ネベラジャマー」なんですが。

唐揚げは中国由来なのか……宮崎や鹿児島ではサツマイモのことを「唐芋」という。中国から来たからそう呼ぶのだが、じゃあ唐揚げも同じなのか。「中国から伝来したのは唐揚げという料理ではなく、唐揚げに用いる技術(下味をつけること)」なのだが、とりあえず中国から伝来した「揚げる技法」から「唐揚げ」になったという。唐揚げは空揚げとも書くことがあり、一説によると「衣がないか少ないなど、衣が空」であることから「空揚げ」になった。ただ、漢字表記としては「和漢精進料理抄」(1697年)や「普茶料理抄」(1772年)において、「空揚げ」よりも「唐揚げ」のほうが先に出現している。

やってみせ言ってきかせてさせてみせ……山本五十六による名言。人の上に立つ指導者としての心構えを示した、かなりよい歌。「やってみせ 言ってきかせて させてみせ ほめてやらねば 人は動かじ」が全文。かと思いきや実は2番3番がある。「話し合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば 人は育たず」「やっている 姿を感謝で 見守って 信頼せねば 人は実らず」。で、これにも元ネタがあり、米沢藩主である上杉鷹山の「してみせて 言ってきかせて させてみる」である。しかしまあ、いつの時代も人材教育は非常に難しいことがわかる。これを実践できていた指導者はいったい何パーセントいただろうか？

はっぱをかける……強いことばによって激励する、気合を入れること。はっぱは漢字で「発破」とかき、土木工事で爆薬を使って爆破することや、それに用いる火薬を表す。「葉っぱ」と誤表記されることもあるが、葉っぱをかけても強さはない。

脊髄損傷の治療法がついに公的医療保険の適用対象になる……札幌医科大学の研究チームが開発した薬がそれ。スポーツで脊髄損傷を負った40代の男性がベッドに横たわっている動画がある。彼は四肢がほとんど動かず、寝たきりのまま搬送された。しかし1か月半後、その薬を点滴で投与。翌日、男性は麻痺していた肘や膝を屈伸できるようになり、その日のうちに車いすで移動できるほどに。1週目で自分の足で歩きはじめ、6週目には階段の昇降がスムーズにできるようになり、12週目では普通の歩き方に。退院する24週目には、けがで一度はほぼ動かなくなっていた手指を使って、特技のピアノ演奏を披露。脊髄損傷は1年で5000人が新たに患者になるとされ、後遺症を抱える患者は10万にもなる。傷ついた神経の機能を回復させるのは難しいとされ、手術、リハビリ以外に有効な治療はなかった。研究チームが投与したのは「間葉系幹細胞」(MSC)を使った薬であり、これは神経、血管、内臓など様々な組織に分化できる幹細胞。骨髄液の細胞1万～10万に1個の割合で存在する。普段から血液中に出て体内を回り、傷ついたところに集まって治す性質がある。ところが通常は数が少ないから、治りが止まってしまう。そんな細胞を人為的に採取し培養、体内に戻すのが治療のコンセプト。寝たきりだった人間が仕事に戻れて社会復帰。13例という少ない治験例なのに認められたのは、効果が大きいからと副作用がないから。脳梗塞の患者にも適応できるという。これからに期待だ。

ウォレスとグルミット……イギリスのクレイアニメ作品。しかし実は粘土ではなく、プラスティシン(カルシウム塩、ワセリン、脂肪酸を合成したパテ)でできている。乾かないので何度も利用できる上、無色のものを買えば色付けもできる。出来上がったモデルを少しずつ動かし撮影するコマ撮りにより制作。主人公はとぼけた発明家のウォレスと、しっかり者の犬グルミット。実は「ひつじのショーン」と同じところが制作しているのだが、それもそのはず、実はこのアニメに登場し、そこから独立して一作品になったのだから。

車を初めて運転する人が気を付けるべきこと……まず、車の運転は「道交法」というルールを軸に、正しいコミュニケーションをとりながら事故を未然にふせぐように運転するべし。これを意識しないと、よくある自己中心的なドライバーになってしまう。「道が空いてるんだからもっとスピード出せよ」「追い越し車線にいるなら飛ばせよ」「車間距離つめろ」「ウィンカーは曲がる直前で出せばいい」みたいな。車を運転するうえで、車両感覚は非常に大事。目視がきかない部分を正しくイメージする感覚だ。そこで、自分で運転席に座り、他人に色んなところに立ってもらって「運転席から見ると、そこはこうやって見えるのか」と認識すること。バンパーのギリギリに立ってもらい、当たる位置を確認する。これをすると右左折でバンパーギリギリの感覚がわかる。左右ドアミラーの死角。前輪と後輪の位置。後ろの右端・左端。そして、後輪が通る位置を計算して車を動かすことも大事。前輪ではなく後輪を意識しないと、内輪差で車体を当ててしまう。バックの練習は広いところでしよう。絶対に教習所で教えてくれないけど、早朝で誰もいない、そして広い駐車場に行って、一人で練習しよう。なるべく車を入れる方に車を寄せること。自信がなければ切り返しまくっていい。最初は難しいけど結局慣れなのだ。交通ルールは絶対に堂々と守ろう。慣れたドライバーは国道を制限速度プラス20kmくらいで走るし、右左折もスピードのせて曲がる。でも、どんなに煽られても制限速度で走っていればいいし、逆に怖ければマイナス10kmでもいい。初心者マークをつけてる人にクラクションを鳴らす人なんて、ロクな人間じゃない。初めての運転練習は深夜か早朝がいい。交通量が少ない時間帯に運転し、コツをつかむのが重要。慣れても大事なんだけど、車間距離はちゃんとあけておこう。一般道では速度-15mで、高速なら速度と同じメートル。だいたい白線5つぶんぐらい。

タワークレーンは誰がどうやって持ち上げているのか……高層ビルを建てるときに使うクレーンだが、あれはどういう仕組みなのか。低層ビルならクレーン車で最上階まで資材を運べるが、高層ビルはそうはいかない。タワークレーンの一連の流れは以下の通り。組み立て、クライミング、解体。組み立ては足場の組み立てのことで、ビルの成長に合わせ、尺取虫のようにクレーンを這い上がらせるのがクライミング。解体では、親亀・子亀・孫亀という方式で屋上から分解していく。つまり、一回り小さいクレーンを親クレーンの横に設置し、それで親を解体する。子クレーンは隣に設置した、さらに小さいクレーンで解体する。最後に残った孫クレーンは人間が分解し、エレベータで地下に降ろす。

エスカレーターのしくみ……エスカレーターとはラテン語の”scala”(階段)と英語のエレベーターを組み合わせた造語で、1895年にシーバーガーという考案者が名付けた。搬送能力がエレベーターの段違いである。階段の下にモーターがあって、それにより段と手すりを同じ速さで動かしている。傾斜角は30度のものが主だが、それより大きかったり、小さかったりする。多くのものは時速1.8キロだが、最近ではチェーン連結部分を曲がるようにして、傾斜部で速さが最大になり、乗るところ、降りるところで最小にするような仕組みのものも出ている。

エレベーターのしくみ……11月10日はエレベータの日だ。1890年、凌雲閣に日本初の電動エレベーターがオープンしたことを記念してのもの。紀元前のローマでは手動エレベーターがあったということで、意外にその歴史は古い。現代のものの多くは釣瓶式と呼ばれる。人が乗るかごと、バランスをとるためのおもりがワイヤーにより繋がっていて、まるで井戸のつるべのようだ。モータにかかる負荷は半分で済む。そのほかにも2つあって、油圧式は階下にあるジャッキを大きくしたり小さくしたりを油圧で行うもの、巻胴式(まきどうしき)は1つのモータでかごのみを上から支える方式。最近のエレベータはコンピュータ制御が導入されており、時速50キロ以上で動きながら、床に立てた10円玉が倒れないほど。かごについた加速度センサーが揺れを感知し、ローラーとレールの力関係を調整するのである。また、高層ビルでは待ち時間が問題になる。100階のビルともなると、70台以上のエレベーターが必要とされる。スカイロビー構造といって、エレベーターを途中の回で乗り換える方式がとられている。鉄道の運行と同じである。

自動改札機のしくみ……あのしくみを実現しているのが、ソニーが開発した、非接触型ICカード技術である”Felica”である。ICカードと、それを読み書きするリーダーおよびライターからなる。JR東日本のSuicaを例にとって説明しよう。まず自動改札機にカードをかざすと、そのカードが正しいものかを判定し、入金額を読み取る。日時や駅名も同時に書き込む。この一連の操作はわずか0.1秒以内に行われる。カードにはアンテナとICチップが入っており、自動改札機から出てくる電波をアンテナが電気に変え、ICチップを作動させる。このような技術は一般にRFIDと呼ばれるが、Felicaは複雑な一連の処理を一瞬で行ってしまう点で、だからこそ楽天エディとかnanacoとかWAONに使われているのだろう。

ETCのしくみ……高速道路の渋滞は大気汚染や騒音を引き起こすため、解決は急務であった。それを解決したのがETC、”Electronic Collection System”である。車両に設置された装置と、料金所のアンテナとが無線で通信使、車両を止めずに料金支払いを済ませるシステムである。システムを利用するには二つの準備が必要となる。ETCカードと、それを読み取る車載器である。カードにはICが内蔵され、課金情報、クレカ情報などが書き込まれている。ゲートを通過すると、車載器がゲートとやり取りし、データを更新する。情報はシステムセンターにも送られ、契約したクレジット会社に通知される。当然、カードさえあれば他人の車でも利用できる。道路と車が対話するという意味では、VICS(道路交通情報通信システム)、”Vehicle Information and Communication System”がある。渋滞や交通規制などの情報をリアルタイムに送信し、カーナビなどに表示するのだ。情報はビーコンと呼ばれる発信施設の電波や光、またはFM放送から車に伝えられる。

ボールペンのしくみ……先端に金属ボールが埋められており、これが筆の役割になってインクを紙に運ぶ。安価なものでも、先端はミクロ単位の加工がされている。意外にデリケートなので取り扱いは注意しよう。とはいえ、その構造はバラエティーに富み、技術的には飽和しているようでも、新たな工夫が付け加えられる。その1つに加圧ボールペンがある。普通ボールペンは逆さにすると文字が書けないのだが、インクの芯の空気圧を高め、常にインクがボールに向かうようにした。もう1つ、消えるボールペン、フリクションを見てみよう。実はインクに秘密があり、ロイコ染料、顕色剤、変色温度調整剤を用いている。摩擦で温度が上がると、調整剤が働いて色を消すのだ。つまり、高温になると顕色剤が調整剤のほうと仲良くなって、色が消える。

形態安定加工シャツのしくみ……形態安定とは「形状記憶」「ノーアイロン」などと呼ばれる繊維加工の総称。洗った後に干すだけでアイロンが不要になる。そもそもなぜ服にシワができるのか。綿繊維はセルロース分子が緩やかに結びついてできているが、内部には大小さまざまな隙間がある。洗濯するとこの隙間に水が染み込み膨張、変形するのだが、そのまま乾かすと、繊維が変形したまま固定されてしまう。これがシワだ。シワをつくらないためには膨張を抑えればいい。その解決策として考えられたのが、架橋反応だ。繊維と線維が結びつくように、分子に橋をかける。最初はホルマリンが利用された(ホルマリンで人体などを漬けるのも同様の理由)が、現在では肌や環境にやさしい素材が考え出されている。ちなみに、形態安定加工されたシャツは「濡れ干し」が基本。しずくが垂れるくらいが理想。水の重みでシワが自然に伸びるからだ。

紙おむつは技術のたまものだった……1990年を境に、軒先に「布おむつ」が干される風景は激減した。良質な紙おむつにとって代わられたからだ。紙おむつは表面材、吸収材、防水シートの3つの層でできている。肌にもっとも近い「表面材」は直接肌に触れて尿をキャッチする部分で、不織布が使われている。真ん中には吸水材がある。尿を吸い取って固形化する。主な素材は高分子吸水体だ。自重の50倍もの水を吸い取ることができる。高分子吸水体はSAPと呼ばれる高吸水体性樹脂でできており、最初は粉末だが、水を吸うとゲルになる。SAP内部はイオン濃度が高く、外部は低いため、浸透圧で吸収する。防水シートは尿や臭いをもらさないための砦で、通気性を遮断しないように前面通気性シートが用いられている。肉眼では見えないミクロの穴がいくつもあり、水蒸気のみを外に出す。現代科学の粋が紙おむつには詰まっているのだ。

電気ケトルのしくみ……コーヒーカップ1杯の水がわずか1分で沸騰する便利さから、電気ケトルはブレイクした。電気ポットとの違いだが、保温機能があるかないか。電気ケトルは小型で、保温機能がない。当然使用電力は大きく、小柄なのに1kWを超える消費電力のものも。例えばある機種だと、コーヒーカップ1杯、140ミリリットルで23度の水がわずか50秒で沸くという。1450Wの機種なので、熱効率が100%なら、30秒ほどで沸く計算になる。その構造はとても単純。シーズヒーター(ニクロム線を絶縁体で包み、金属パイプの中に包んだヒーター)を底面にくっつかせ、それで加熱する。電気ケトルは沸騰と同時に電気が切れるのだが、これは温度センサー(サーモスタット)がついているため。サーモスタットは、2種類の金属を張り合わせた「バイメタル」という構造をもち、異なる金属の熱膨張率が異なることを利用し、温度が高まるとたわみ、スイッチが切れるようになっている。

冷凍冷蔵庫のしくみ……1930年、国産第1号の電気冷蔵庫が発売された。標準価格は720円、小さな家が1つ建つほど高価なため、業務用か富裕層にしか売れなかった。翻って今では100％、隔世の感がある。冷却の原理は単純で、水が水蒸気に変化するときに気化熱を奪うのと同じ。冷凍冷蔵庫は圧縮機(コンプレッサー)と、二つの熱交換器(冷却器と放熱器)からできている。庫内におかれた冷却器で冷媒が蒸発して気化熱を奪い、庫内を冷やす。気体になった冷媒はコンプレッサーの力で液化されて放熱器に運ばれ、庫内で奪った熱を放出する。この繰り返しである。冷たい空気は下に落ちるという性質を利用し、以前は冷凍室が最上段にあったのだが、今は逆だ。取り出し頻度が高い野菜室は下にあると使いにくいため、冷凍室が最下段にある。これを実現するため、冷やした空気を強制的に循環させ、それぞれの領域を最適に冷やす構造になっている。これを間冷式という。一方で、アウトドアで冷蔵庫を使いたい場合に重宝するのが「ペルチェ方式」の冷蔵庫だ。異種の導体や半導体の接点に電流を流すと、熱が発生または吸収されるというペルチェ効果を利用したもの。つまり、2種類の半導体を張り合わせて通電させることで、冷却部を内側に、放熱部を外側にできる。省電力と小型化が可能。

洗濯機のしくみ……国産初の噴流式洗濯機は1953年に発売。大卒国家公務員の初任給が8000円に満たない時代に、3万円近い価格だったが、大ヒットした。それだけ洗濯は大変な仕事だったのだ。洗濯機は現在、大きく3つに分かれる。噴流式(水流式、渦巻き式とも)は水の豊富な日本で普及している。水流で洗濯し「揉み洗い」を擬している。軽くコンパクトで、洗面所に置くのに適しているが、洗濯ものが絡んだりよじれたりしやすい。攪拌式は北米で普及しており、攪拌翼と呼ばれる板を往復運動させる。棒でかき混ぜる洗い方を擬している。一度にたくさん洗えるが、大型で重くなる。ドラム式は欧州で普及している。横向きドラムが回転して洗濯する方式で、叩き洗いを擬している。生地が傷まず水量も少ないが、洗濯時間は長い。近年は日本でも、乾燥機と一体の洗濯機が売れているため、ドラム式は人気に。

除湿器のしくみ……家庭用に市販されているものには2種類がある。コンプレッサー方式とデシカント方式だ。前者はエアコンの冷房と同じで、エアコンの室内機と室外機をコンパクトにまとめた構造。空気を冷やすと結露するが、その結露を取り出して排出することで除湿している。実際、エアコンも冷房時にはしっかり除湿してくれる。デシカント方式の「デシカント」(desiccant)とは「乾燥剤」の意味。実際に乾燥剤が使われている。乾燥剤で吸い取った空気中の水分はヒーターで熱せられて乾燥剤を離れるが、熱交換器で室温に冷やされ、結露・排出される。両者とも一長一短。コンプレッサー式は能力が高いが、冷却が基本原理なので低温時には能力が落ちる。デシカント方式はシンプルな構造で軽量・静音で、冬にも強い。しかしヒーターを使うため電気代がかかる。いずれにせよ、両者とも、利用すると室温を高めることがわかる。特にデシカント方式はヒーターを使うため部屋を暑くする。夏は困る。夏の除湿にはエアコンが最適なのだ。ところで、エアコンを梅雨時に除湿モードで運用すると寒くなる。実は除湿といっても「弱絵冷房除湿」をしているからだ。そこで、高級エアコンには再熱除湿機能がついていることがある。室外機で排出する暖かい空気の一部を室内に戻すことで、室温を下げずに除湿できるというわけ。

マウスのしくみ……パソコンの操作に不可欠であるマウス。1961年、アメリカのダグラス・エンゲルバート氏により考案された。その後、彼のアイデアがアメリカのゼロックス社で発展し、そこに訪れたアップル社のスティーブ・ジョブズがそれを見てひらめいたという。視覚的に操ることができるコンピューター、マッキントッシュである。これはパソコンの世界ではとても有名な話だが、現在のパソコン操作の基本アイデアは、すでに半世紀も前にできていたのだ。マウスがコンピュータに与えた恩恵は計り知れない。キーボードでコマンドを入力して操作する(Linuxとか)のが当たり前の時代に革命を起こしたのだ。「マウス」という名称は、まるでネズミのようだと開発者がコメントしたことにちなむ。指の動きを検出してコンピュータに伝えるのがマウスの仕事だが、その動きは縦と横の2方向に分かれ、その移動量をボールの動きで検知した。これがボール式マウスである。細かな動きに対応できなかったり、埃が詰まったりする欠点があった。現在は光学式マウスが普及しており、机と非接触でも移動量を検知できる。LEDから出る光を机に当て、その反射光をイメージセンサーで読み取る。当然ながら机がガラスだと使えない。マウスのように、体の動きで入力位置を指定する機器を「ポインティングデバイス」という。タッチパッド、トラックボールなどが代表的。

電線はなぜ3本で1セットか……電柱を見上げると、電線が3本で1セットになっているのに気づくはずだ。なぜだろう。その答えは「三相交流を採用しているから」。3本の電線の合間を、交流がタイミングをずらして流れている。このズレのおかげで、3本の電圧を足し合わせると、互いに打ち消し合ってゼロになる。電線の終端で3本を結べば、結び目の電圧がゼロになって、電流は流れない。つまり、電流の帰り道がゼロになるという意味で、大変便利なのである。普通の交流(単相交流)なら3往復、全部で6本が必要になる所、3本で済ませるのだから。

電動アシスト自転車のしくみ……1993年に第1号が発売されて以来、年々電動アシスト付き自転車の売り上げは伸びている。免許いらずで、自転車のように手軽に乗ることができるのが、その人気の理由だ。実は様々な現代技術の集大成で、例えば上り坂ではペダルを踏む力を助けてくれるのに、平坦な道ではあまり助けない。さらに電動モーターは軽くてコンパクト。これらの理由が、実は中国との政治問題で有名になったレアアースを利用した、強力なネオマグのおかげだとは知られていない。電動アシスト自転車のエンジン部分である「ドライブユニット」には、モーター、トルクセンサー、制御ユニットなどが内蔵されている。さらに、前輪の部分にはスピードセンサーがあり、速度を自動的に測ることができる。制御ユニットは、トルクセンサーとスピードセンサーの両方から走行条件を判断し、適切な電流をモーターに送ってアシスト力を調整しているのだ。高機能のものになると下り坂で充電ができるものまで。なぜこんなにも高性能なのかというと、それは日本の法律に理由が。電動アシスト自転車はあくまで「アシスト」であり、電動自転車とは違う。道路交通法では、「人の力を補うための原動機を用いる自転車」と定めている。人の力を補う以上の原動機を搭載してはならないのだ。例えば時速10キロ以下では、人力を1とした場合、最大2までしか補助してはならない。時速24キロを超えると補助はしてはならない。踏み出したときの低速時には強くアシストし、ある程度出たらアシストをなくすように定められているのだ。法律が技術の粋を生み出した、数少ない例である。

ゴミ収集車のしくみ……ゴミ収集車の中身を見てみよう。よく目にするのが「クリーンパッカー方式」の収集車、略してパッカー車である。おもに燃えるゴミを収集するのに利用される。後部に回転板が2枚配置され、これが組み合わさって回転することで、ゴミを運転席側に押し込む。収集が終わったら、詰め込んだゴミを仕切りの排出版で外に押し出す(ダンプカーのように荷台を斜めにするものもある)。パッカー車のほかに目にするのが、プレスローダー方式のゴミ収集車だ。ゴミを入れると後部でそれをすくい、車内に押し込むときに強く圧縮する。ゴミ収集車には他にもいろんな方式があるが、その理由は集めるゴミ・集める地域に適した方式と大きさが要求されるから。そしてもう一つ、隠れた理由がある。実はゴミ処理施設の建築費が高騰している。公害対策のために高度な技術が要求され、また、燃やした廃熱で発電するシステムを併設することも求められる。小さな自治体ごとに処理施設を設けるのは困難ということで、いくつかの自治体がまとまってゴミ処理施設をつくり、一手に処理するという方式(ネットワーク方式という)が一般的になっている。そのためには当然、多様な収集車が必要になる。家庭からのゴミは小型のもので中継施設に集め、そこでさらに圧縮して大型のゴミ収集車で運ぶ。このように、ゴミを効率的に移動させているのだ。

ロケットはなぜ飛ぶのか……実は簡単に理解できる例えがいくつかある。作用反作用の法則を利用している。ボウリングの球を持ってキャスター付き椅子に座る。座って足を浮かせたまま、ボールを前に投げてみよう。作用反作用で椅子ごと後ろに行くはずである。ペットボトルロケットはまさにそれを利用したおもちゃの一つで、圧縮された空気の力で水を放出し、その反動で飛ぶ。圧縮空気に相当するのが燃料で、水に相当するのが噴射ガスだ。ジェット機も同じ原理ではあるが、ロケットと違い酸素があるところでしか飛べない(ロケットは液体酸素を積んでいるため、宇宙でも飛行できる)。

潜水艦はなぜ潜ることができるか……第一次世界大戦時、ドイツが実用化し通商破壊に用いた潜水艦、Uボートはあまりに有名だが、1世紀たった今でもその役割は健在。偵察衛星からもレーダーからも捕捉されにくいため、情報収集、中枢攻撃、通商破壊など様々な任務をこなすことができる。そんな潜水艦の浮き沈みの原理はどうなっているか。実は海水をタンクに注入したり排出したりしている。海水を注入して潜り(「沈み」といってはいけない。潜水艦が沈むのは撃沈するときだけなのだから)、排水して浮上する。このタンクをバラストタンクといい、排出には圧縮空気を利用する。水中において、通常の潜水艦の原動力になるのが電気モーターだ。燃焼のための空気を必要としないからである。バッテリーは、浮上中にディーゼル発電機で充電するのが一般的。スノーケルマストという長い管を水面に出して空気を取り入れ、発電機を回すものもある。潜水艦の最大の利点はその隠密性であり、浮上するのはあまり好ましくない。そこで原子力潜水艦が登場した。原子炉がタービンを回して推進力を得、また、発電もできる。空気が必要ない上、食料と燃料が尽きるまで、何年でも潜水していられる(実際、そんなに長く潜ることはない。乗員のメンタルを考えてのこと)。近年開発されたのが「AIP」という推進力を用いたもの。積載した液体酸素と燃料とを化学反応させてスターリングエンジンを加熱し、発電する。熱効率が大変によいので、原子力ほどではないが長い潜水も可能。日本の最新鋭潜水艦に利用されているのもこれ。

家族、親、夫などが亡くなったときの「手続き地獄」……実は死亡後やるべきことはたくさんある。まず死亡直後、病院か警察で死亡診断書(死体検案書)を受け取る。その後役所に死亡届と火葬許可申請書を提出。火葬場で埋葬許可証を受け取る(これは納骨の際に必要なので無くさないように！)。会社に死亡退職届を出し、死亡後14日以内にやるべきこととして、役所に世帯主変更届を提出。年金事務所に行って年金受給の停止をして、役所などで健康保険資格喪失届を提出。同時に、介護保険資格喪失届を提出する。葬儀が終わって落ち着いたら速やかに、公共料金各社に、電気・ガス・水道の名義を変更または解約してもらう。また、NHKの受信料は解約手続きしないと払い続けることになる。カード会社でクレカの解約をしてもらう。しないと会員費や年会費を払うことになる。家庭裁判所で遺言状を検認し、開封。相続人や相続財産を調査する。このとき同時に、死亡保険金を保険会社に請求する。3か月以内には、家庭裁判所にいって相続放棄や限定承認の申し立てを行う。これをしないと、期限が過ぎた後「借金」を相続することにもなりかねない。生活が落ち着いたら速やかに行うのは以下。法務局・税務署で、固定資産税・住民税などの支払い・請求先変更をする。通信会社で、携帯やインターネットプロバイダなどの契約名義を変更・解約する。警察で運転免許証を返却。役所でマイナンバーを返却。旅券課でパスポートを返却。4か月以内には、税務署で所得税の準確定申告を行い、納付する。10か月以内には、遺産分割協議書を作成、税務署で相続税の申告、納付を行う。遺産分割協議が終わったら速やかに、銀行で口座の名義変更(相続)、解約をする。証券会社で株式の名義変更(相続)、法務局で不動産の名義変更、登記(相続)、陸運支局で自動車の名義変更(相続)をする。2年以内には、役所などで葬祭費、埋葬費を受け取る。また高額療養費の払い戻しを請求する。じっくり考えて結論が出たら、名字を旧姓に戻したり、故人の血族との関係を終了させたり。5年以内には、年金事務所で未支給年金を受け取ったり、遺族年金を受け取ったり、寡婦年金を受け取ったり。

鼻の穴をほじると大きくなるのか……豪快に鼻をほじっている人を見て「ほじると大きくなるよ」というが、あれは本当なのか。結論から言うと、鼻の穴の大きさや鼻の形は遺伝によるものがほとんど。うつぶせで寝たり、塩分が多い食生活をとっていると、後天的な影響はあるとされているが、ほじったぐらいでは大きくならない。お腹の皮膚は太ったり妊娠したりして割れることがあるが、鼻の穴らへんの皮膚は非常に硬い。相当に強い力を継続的にかけ続けないと、伸びない。

深川めし……東京の深川で伝統的に食べられている郷土料理。ざっくりと切った葱と生のあさりを味噌で煮込んで熱いご飯にぶっかけた、漁師が発明した料理。深川は江戸時代は猟師の街として栄え、江戸前の魚介類や海苔などをとる人達がたくさんいた。忙しい合間にも手早く作れ、しかも栄養価も高い。埋め立てがが始まり、海が遠くなり、時代の流れの中で一度消えてしまったのだが、現在は名物として農林水産省の郷土料理100選にもなっている。白みそと赤みそのバランス、あさりのエキス、ぜひとも一度食べてみたいものである。

ビュリダンのロバ……同じぐらいに悩ましい選択肢AとBがあると、過度に合理性のある人はそのどちらも選べず、最も悪い選択であるCを選んでしまうというジレンマ。自由意志と知識の問題を論ずる際に登場する、中世の物語の主役。具体的にはジャン・ビュリダンによる「理性・理論・合理性には自由意志が必要」であることを主張するために用いられた比喩。空腹の驢馬が左右二方向の辻にたっている。それぞれの道の先には、同じ距離の場所には同じ量の干し草が置いてある。ロバはどちらも良いなと考え、どちらを選ぼうか悩んでいるうちに餓死してしまった。なんともバカげた話のように思えるが、こういうことは実はよくある。過剰に合理的な人々は時としてロバのように最悪の結末を迎えるのだ。

魔女裁判で150人を告発した子ども、アビゲイル・ウィリアムズ……魔女裁判といえばキリスト教、西洋の負の歴史である。それを語るときに欠かせないのがアビゲイルという女の子のこと。彼女のことを語る前に、まずセイラム魔女裁判について話そう。1692年、植民地時代のアメリカ。ボストン近くの村セイラムで、2人の女の子が奇妙な病にかかった。腕や足をねじり、交差させ、激しく身体を揺らし、のたうち回った…今でいうけいれんである。困った牧師サミュエル・パリスは、そんな彼女たち…愛娘のエリザベス・パリスと、姪っ子アビゲイル・ウィリアムズ(11歳)を医者のところに連れて行くが、原因はまるでわからない。医師と同じく彼女たちを見たディアーダ・ローソン牧師は、その時の様子を以下のように書き残している。「発作中の動きは、常人にはあり得ないような格好で身体がねじれると言う点、そして同じ人間が正気の状態ではとても出せないような驚異的な腕力をふるって暴れるという点から見ても、超常的としか言いようのないモノであった」と。17世紀のことなので悪魔の存在を疑わない者もいたし、事実医者は原因は医学的なものではなく、何らかの魔術的なものだろうと示唆した。しかしセイラムは清廉潔白をむねとする敬虔なピューリタンの村である。その村の牧師の娘とその姪が悪魔憑きなどというのは、名誉や信仰にかかわるもの。とうてい看過できるものではない。が、瞬く間に同じことをしだす子どもたちは増えつづけた。村の人達が彼女たちを詰問すると、アビゲイルはそれに対してこう答えた。「自分たちにパリスの奴隷・ティテュバが降霊術の儀式を教え、それをやったのだ」と。こうして悪魔の存在がでっちあげられ、ティテュバを含めた立場の弱い女性の名前3名が「魔女である」として逮捕。1692年3月、逮捕された女性たちの尋問が行われ、そこでティテュバは自白を行い、残りの2人も共謀者であると証言してしまう。結果彼らは絞首刑、あるいは刑務所で死亡。その後もアビゲイルらは告発を続け、およそ200名もの村人が魔女とされた。そのうち19名が処刑、1名が拷問中に圧死、2人の乳児を含む5名が獄死している。収束に向かったのは1692年10月。ボストンの聖職者から知事に上告が出されたことで州知事が魔女裁判を知り、裁判の停止を命令した。こんな騒動を起こした張本人、アビゲイルだが、その行方はわかっておらず、文書による記録もない。噂では、他の少女と船でセイレムを去り、ボストンで売春婦になったとされている。

「仏の本様」をなした仏師、定朝……定朝(じょうちょう)は平安時代後期に活躍した仏師である。寄木(よせぎ)造り技法の完成者とされ、現存する確実な遺作は平等院の本尊木造阿弥陀如来坐像であり、現在国宝として指定されている(逆にいえばそれ以外には確実なものがない)。運慶・快慶らの登場によって鎌倉新様式が成立するまでの一世紀以上もの間、まさに一世を風靡した、とまで言える、日本仏像史をかたる上では絶対に欠かせないほど重要な坐像だ。2.85mと巨大な姿ながら、なぜに造立に関する記録が残っていないのかはわからない。柔らかな曲線と曲面、瞑想的ながらまどろむような表情、彫りが浅く並行して流れる衣など、それまでの重みや物質感を廃した、非常に優美な造形が特徴(これは12世紀の人気スタイルだった)。彼の仏像は平安時代の貴族の好みにも合致し「仏の本様」とたたえられた。

フランス語でつくられ、ロシア語で歌われ、中国で歌われた「国歌」……それが「インターナショナル」。1871年のパリ・コミューンのときにつくられたフランス語の詩に曲をつけ、のちにロシア語に翻訳したものが1906年、ロシア社会民主労働者党により「党の歌」として採用。1917年に十月革命でボリシェヴィキ政権が誕生。紋章、国旗の制定は難航したが、国歌は最も早く決められた。すでに二月革命の直後にレーニンが「インターナショナル」を国歌にするよう提言していたこともあり、1918年に国歌に(以後、1943年までソ連の国歌)。臨時政府時代に事実上国歌となっていた「労働者のマルセイエーズ」も革命の歌ではあるが、現にフランスの国歌として(しかもフランスはブルジョワによる国である)歌われており、よろしくない、とのことだったのだろう。”Э́то е́сть на́ш после́дний И реши́тельный бо́й. С Интернациона́лом Воспря́нет ро́д людско́й!”(これぞ我らの最後にして 決定的な戦いだ インターナショナルと共に 人類が立ち上がる)という力強い一番のサビが特徴。そして実はこの歌、共産党を象徴するものだとして、中国でも共産党全国代表大会や共産党地方各級代表大会など重要な大会で歌われてきたのだ。最近では「立ち上がれ、餓えに苦しむ奴隷たち！」「古い世界をぶち壊そう、奴隷たちよ、立ち上がれ！」「救世主など現れたことはなく、神や皇帝にも頼れない！」「労働の果実を奪還し、古い思想を打ち壊そう」「これが最後の戦いだ、明日までに団結せよ、インターナショナルを実現せよ」などと過激のせいで「禁止」とまではいかずとも「あまり歌わないようにね」というお達しを出しているのだが。思想とともに歌が伝わる、面白い例である。

スペシャルオリンピックス……知的障碍者の自立や社会参加を目的に、日常的なスポーツプログラムを提供する国際的な組織。いつもどこかで活動していることから複数形になっている。その始まりは、1962年にケネディの妹が自宅の庭を開放し、35人の知的障碍者を招いてデイキャンプをしたこと。その後はケネディ財団により全米に広まり、現在では50万人のボランティアが150以上の国々で参加している。失格になった参加者にも、4位以下にも全員リボンが贈られるが、これは「参加することに意義がある」というオリンピック精神に基づくもの。また表彰式は最下位から発表され、最後まで拍手がなりやまないように工夫されている。

シュニッツェル……ドイツ、オーストリアの肉料理。イスラエルでも盛んに食べられる。一般には「子牛のカツレツ」であるが、現在では豚肉や鶏肉も使われる。薄く切った肉をミートハンマーで叩いてさらに薄くして、小麦粉、溶き卵、パン粉で揚げる。日本のとんかつのようにたくさんの油を使用しないためヘルシー。その起源は祝い料理であり、今ではオーストリアで最も人気のある食べ物。

アニメでよくある「登場シーンの使い回し」には名前がある……バンクシステムという。日本のアニメ・特撮で使われる用語。鉄腕アトムで用いられたのが初で、手塚治虫が命名した。締め切りとの戦いがけっこうハードなので、ザコキャラがやられている様子とか、発進・合体・必殺技・変身などを使いまわすのだ。手抜きと思われる可能性があるので、映像をズームアップしてみたり、何か書き加えたり、バージョンアップさせたり、いろんな対策が取られている。

三途の川の「三途」って何？……この世とあの世とを分ける境目にあるとされる川。三途は仏典に由来し、餓鬼道・畜生道・地獄道を意味する。三途の川の渡し船の料金は六文と定められており、仏教の葬儀の際には六文銭を持たせるのが決まりだった。ここの近くには「賽の河原」があり、親に先立って死んだ子どもがその報いで苦を受ける場所とされる。

バチスタ手術とはどんな手術か……海堂尊の小説「チームバチスタの栄光」で出てくる「バチスタ手術」。だがどんなものなのか知っている人は意外に少ない。正式には「左室縮小形成術」と呼ばれ、そのなかの一種だ。拡張型心筋症という病気の治療法であり、この病気は心臓の筋肉の細胞の性質が変わって心室の壁が伸び、心臓内部の空間が大きくなるというもの。血液を送り出せなくなるため、5年生存率は半分、10年生存率は3割しかない。バチスタとはこれを開発したランダス・バチスタという博士の名前に由来する。心臓を切り取って小さくするのではなく、左心室に心筋に沿ってメスを入れ、それを左室壁に巻き込んで縫い付ける…という、ことばだけ聞いてもめちゃくちゃ難易度が高そうな方法である。なぜそんなことをするかというと、膨らみ過ぎて風船のように薄くなった左心室の「容積」を小さくし、そのぶん心臓の収縮を強くさせることができるからだ。彼は学会発表にて「バレーのボールをサッカーのボールに変えるようなものだ」と、サッカー大国ブラジルらしいジョークで締めくくっている。一般的に2020年現在の成功率は6割程度。かなり難しいのだ。

さかさま素数「エマープ」……エマープとは、素数でありかつ逆から数字を読むと元の数と異なる素数になる自然数のこと。例えば1097は素数で、7901も素数なので、エマープである。語源は”prime”の逆さつづり”emirp”であり、日本語では「数素」という訳をされている。13,17,31,37,73…がその例。無限に存在するかどうかはわかっていない。エマープと普通の素数をあわせると「回文素数」ができあがるが、その逆は必ずしも成り立たないのが面白いところ。例えば151は51と15にわかれるが、両方とも素数ではない。

ニコチンは代謝されるとコチニンになる……コチニンとはタバコ属に含まれるアルカロイドで、ニコチンの代謝物質である。当然、ニコチンのアナグラムでつけられた。尿から排泄され、血中半減期が30時間と長いため、血液、尿、唾液などからとって検査する「コチニン検査」がある。こちらは主に保険会社で使われており、保険契約の際に簡易的に行うことができる。ただし受動喫煙の可能性を排除できない。

タップダンスは暴動がきっかけ？……モダンダンスの一つ・タップダンス。革靴で床を踏み鳴らす、あのダンスである。一説によると、アメリカ南部の黒人たちが(白人に「ドラム禁止な！」と言われ)暴動を起こし、足を踏み鳴らして音を出したことがきっかけとされるが、そういうのはどうも怪しいと決まっている。たぶん嘘だろう。現在ではブロードウェイミュージカルにも見られる。ちなみにタップダンスの神様である「ボージャングル・ロビンソン」(ミスター・ボージャングルと呼ばれていた)の誕生日にちなみ、5月25日は毎年「タップダンスの日」とされている。

健康ランドで女性が着てるあの変なのは何か……日帰り温泉、スーパー銭湯、健康ランドなんかにあるアレである。「ムームー」という、ハワイで伝統的に女性が着る民族衣装。フラダンスのときに着られることもあり、Tシャツを引っ張ってだらんとさせたような、よくいえばゆったり、悪く言えばずんだらしい(見た目が悪い)デザイン。というか語源がハワイ語の「短く切る」なので。西洋のドレスをハワイ流にアレンジしたものが発祥とされるが、それなら「民族衣装」っていったい何なんだろう、という気持ちにさせられる。

梅の木学問と楠学問……学問の種別。江戸時代の末期にはあったことばなのだが、現在はほとんど死語。梅の木は成長が速いが大きくないため、そこから転じて「大成しない学問のこと」を梅の木学問という。一方で楠は成長が遅いが大成するため、「大成する学問」のことを楠学問という。大学受験はどちらかというと梅の木学問のようだが、人によってクスの木に育たせることも可能である。

藤沢周平……日本の小説家。1997年に死去した。江戸時代を舞台に、庶民や下級武士の哀歓を描いた時代小説で特に有名であり、特に、架空の藩である「海坂藩」(うなさかはん)を舞台とした作品群が有名。代表作に「暗殺の年輪」「たそがれ清兵衛」「蝉しぐれ」などがあり、菊池寛賞や紫綬褒章を受賞している。第69回直木賞受賞作である「暗殺の年輪」は短編小説集。例えば「暗殺の年輪」は、藩の人たちになぜか冷ややかな視線を送られる主人公の下級武士・馨之介が主人公。なぜ彼が冷ややかに見られるか、というと、藩の重臣の暗殺に失敗して切腹した父親が関係しているようだ。そんな彼は父と同様、重臣の暗殺を依頼される。暗殺依頼をきっかけとして父の死の真相を調べ、そのせいで徐々に心が歪んでいく主人公の物悲しい様子、彼に手を差し伸べる幼馴染の健気さが印象的。

日本メーカーによる初の旅客機「YS-11」……YS-11(「ワイエスいちいち」「ワイエスじゅういち」と呼ばれる)という航空機は、日本航空機製造が近距離・中距離用の国産旅客機として開発した「第二次世界大戦後初の国産旅客機」である。正式には「ワイエスいちいち」と呼ぶ。YSのYは輸送機、Sは設計の頭文字。1954年に計画があがり、1959年に日本航空機製造が開発担当として設立。設計にはかつて零式艦上戦闘機等を開発した設計士達が携わっている。製造請負は各部品メーカー、組み立ては三菱重工業(新三菱重工)が行った。1965年にANAにて運航されるが、1974年に生産停止。国内では2006年に民間機としての最終飛行を行って退役した。2019年現在、世界でも自衛隊が2機を運用しているという、かなりレアな航空機であるが、ネットオークションの「ヤフオク」に本物のこれが出品されて話題になった。開始価格は3500万円、即決価格は5000万円で、状態は「目立った傷や汚れなし」で出品されていた。出品者によると、「現在同機はスリランカにて駐機しており、日本に専属のパイロット、整備士がおり、月20万円にて雇用可能。スリランカより日本まで責任を持って飛行運送いたします」と。そんな模型みたいなノリで出品するな。結局これは落札されずに終わったもよう。滑走路が家にあるところのほうが珍しいと思うんだけど、誰が乗るんですかね…。ちなみにこれ以降の日本製航空機となるとMRJ(Mitsubishi Regional Jet：三菱リージョナルジェット)がある。三菱航空機を筆頭に、開発・製造が進められている小型旅客機だ。初飛行は2015年で、運用開始は2020年と予定されている。日本製の小型旅客機として計画が開始されている。YS-11以来の完全な日本国産の旅客機だが、YS-11がプロペラなのに対し、こっちは噴射式のターボファンエンジン搭載の機体である。

偶然？陰謀？27クラブの謎の死……27クラブとは「27歳で死亡したポピュラー音楽のミュージシャン、俳優、アーティストの一覧」だ。薬物乱用、アルコール依存、殺人、自殺、交通事故など、暴力的な手段で死んでいることが多い。統計学では特にこの年に多く死んでいるかどうか検出できなかったため、残念ながら？ただの思い込みと思われる。ブライアン・ジョーンズ、ジミ・ヘンドリックスなど、1969年から1971年の間に相次いで27歳で死去した人達がもとだとされる。ウィキペディアにいっぱいまとまってるんだけど、確かにこれ、偶然というか、そうなる人達をもってきた感じはする。

梅の種の中身は「天神様」という……梅の種の中身(仁という)のことを天神様と言うことがある。天神様とは菅原道真で、彼がこれを好んで食べたことからこう呼ばれている。呼ばれてないだろ。ウメの実には青酸が入っており、胃酸と反応してシアン化水素になるため、たくさん食べるのは駄目。「梅は食うとも種(さね)食うな、中に天神寝てござる」という格言もあるぐらい。つまり起こすと罰が当たることとかけているのだ。罰が「死」とは重たいですね…。

「大人」を「おとな」と読むアレに名前はあるか……ある。熟字訓(じゅくじくん)という。「大人」とかいて「おとな」と呼んだり、「明日」とかいて「あす」と呼んだりするアレ。文字ではなく、熟語単位で読み仮名があるためこう呼ばれる。「梅雨」「雪崩」「吹雪」「疾風」など。難読漢字には異常に多いけど、そもそも読める人が少ない罠。こういう読み方をするのは日本だけかもしれない。中国語は基本的に一意に対応している。しいていえば英語の不規則なフォニックスがそれにあたるだろうか。日本人はよく英語の単語を初見殺しだと言うが、それをいうなら英語圏の人達はもっと思っているはずである。類推できないのだから。しかもそういう単語に限って身近だし。かわいそうだ。

壮絶！203高地争奪戦……203高地は中国・遼東半島に位置する丘で、日露戦争で日本とロシアが激戦をかわしたことで知られる。1904年の晩秋、世界の耳目は極東の半島先端、旅順のロシア要塞に集まった。この要塞への第１回総攻撃で空前の死傷者を出し、第２回総攻撃でも散々な結果に終わった乃木希典率いる第３軍が、これを最後と第３回総攻撃に踏み切った。11月26日午後1時、日本軍将兵が堡塁に突撃を開始し、日露両軍入り乱れて銃声、砲声がとどろいた。乃木も幕僚たちもここが天王山だと十分に理解していた。これに敗れればこれまで有利に進んでいた戦況が一変してしまう。ロシアもそれを知っていて、要塞を補強していた。要塞周辺は、みるみる日本軍将兵の死体で埋まっていった。そして同日夜、乃木は総勢３１００人余の志願兵からなる決死の白襷（しろだすき）隊を投入するが、これがかえって敵の標的になり、なぎ倒されてしまう。最後の総攻撃も失敗に終わるかとみられた翌２７日、乃木は決断した。主要攻撃目標を、旅順港を見下ろす203高地に切り替えたのだ。この日、乃木は日記に、１行だけ書いた。「二◯三攻撃ヲ第一師団ニ命ズ」と。海抜203mの名もなき小山だが、日露戦争を象徴する激戦地になっている。実は第3軍の編成当初、203高地は戦略的要衝とはみられず、陸軍中央が用意した地図に陣地すら書かれていなかった。しかしここに注目したのが海軍。旅順港にこもるロシア太平洋艦隊をせん滅するため、この上に観測所をたて、山越えで艦隊を砲撃しようとした。なぜ乃木はここに主力を突撃させたのか。せめてここだけでも取らなければ陸軍全体の士気にかかわると考えたのだろう。それだけにここの争奪戦は熾烈を極めた。第3軍の砲兵部隊は28cm榴弾の砲撃をし、28日には第1師団の一部が山頂に達したものの、逆襲を受けて壊滅。以後、両軍は死傷も構わず次々と兵力を注ぎ込み、砲弾を撃ち込んだ。そして12月5日、ついに203高地は落ちた。旅順港を見下ろす山頂には直ちに観測所が設置され、港内に停泊する旅順艦隊各艦を砲撃、その全滅をようやく確認できた。だが乃木の心は晴れなかった。この戦闘での死傷者は1万7000人、その中には彼の次男も含まれていた。後備歩兵第１旅団の副官だった保典は11月30日、至近弾を浴びて戦死した。それを乃木が知ったのは12月1日である。翌2日、乃木は日記に、「東京ヨリリンゴ二箱送リ来ル。一ツハ保典ノ分ナリ」と書いた。この時の乃木の気持ちはどんなものだっただろうか。6日、彼は203高地に黙然と立った。両軍の死体が散乱する凄惨な戦場。

ビルトイン……建築段階から予め家具や設備などが壁面に組み込まれている方式のこと。収納家具や設備機器が一体化していることを指す。機能的で見た目もすっきりとおさめることができる。主なものには、コンロ、食器洗浄機、オーディオ、エアコン、クローゼットなどがある。

三大ピアノソナタは作品の良し悪しとは無関係に選ばれた……実は無関係だったりする。ベートーベンのピアノソナタ第8番「悲愴」、第14番「月光」、第23番「熱情」なのだが、作品の評価とは無関係であり、レコード会社の販売戦略がもとだという。当時のLPレコードに収録でき、かつ名前が目立つからとのこと。ひでえ話だ。

ジョージ・アダムスキー……UFO研究家。彼自身が「宇宙人と会見した」と言い張っており、コンタクティー(なんか、そういう経験がある人)の第一人者となっている。宇宙人と空飛ぶ円盤の遭遇を書いた本がベストセラーになり、あまたのコンタクティーが生まれることとなった。彼の撮影した「空飛ぶ円盤」は、いわばUFOの典型的イメージになっており、彼の撮ったこの形のものを、彼の名にちなんで「アダムスキー型」と呼ぶ。

ダージリン・ヒマラヤ鉄道……ダージリン地方を走る世界遺産鉄道。世界最古の山岳鉄道であり、建設が始まったのが1879年。イギリスが紅茶の輸送をするために建築し始めた。レール幅は610mmとめちゃくちゃ狭く、1999年にはゼメリング鉄道についで世界で2番目となる「鉄道の世界遺産登録」。さらに2005年、2008年には他の鉄道も遺産に加わり、現在は「インドの山岳鉄道群」となっている。蒸気機関車は110年にわたり使用されており、小型さからトイトレインと呼ばれる。ただ、故障は日常茶飯事だという。現在はディーゼル機関車に全部置き換わったが、それを残念がる声もあり、一部ではまだ蒸気機関車が使われている。

岡倉天心……日本の思想家、文人。美術評論家として活動し、ボストン美術館の部長をしたり、英文で著作を書いて美術史を記述したり。英語が得意だったためフェノロサの助手となり、彼の美術品収集を手伝った。また、ニューヨークで英語で「茶の本」(The Book of Tea)を出版し、日本の茶道を外国に広めた人でもある。彼の業績について説明する前に、まずどういう人物だったかを紹介したい。天心は明治維新の直前に、当時に開港地であった横浜に生まれた。父親が貿易商をしていたということもあり、幼少の頃から大変に外国になじみがあった。ほとんど最初のバイリンガルだと言ってよいほど英語に堪能で、さらにアンテナも張っていた。彼の同年代には新渡戸稲造や森鴎外がいるわけだが、彼はは明治維新を境に横浜から東京に移り、やがて明治10年に日本に初めてできた官立の大学・東京大学に、第一期生として森鴎外などとともに入る。このとき、アーネスト・フェノロサというお雇い外国人おとても仲良くなり、2人で日本の近代美術行政を開拓した。例えば国宝制度は彼によるアイデアだし、東京藝術大学の美術学科の前身、東京美術学校も彼がつくった。彼の考え方は面白く、斬新である。中国やインドに一年間滞在して、植民地化されていくアジアの現状を見て、「西洋に対してアジア諸国が結束して向かっていかなければならない」と考えたのだ。明治時代、日本人は伝統を切り捨てて欧米文化を取り入れようとしていたのだが、彼はそれは非常に狭い価値観だと思っていたようだ。日本の伝統文化を守ることをしっかり考え、そのため、東京美術学校を日本美術の専門にしたのだろう。当然逆風もあった。その学校の校長をしていた彼だがスキャンダルに巻き込まれ、自身の学校を追い出されてしまう。しかしバイタリティーはすごい。横山大観などその後の日本の近代美術を継ぐ弟子たちを引き連れて、日本美術院という組織をつくった。そのように活躍していた彼だが、やはり時代の流れに逆らうことはできなかったようだ。西洋化していく日本に居場所を見出せなくなり、後半生をアメリカのボストン美術館の仕事に捧げることになり、そこで世界に向かって日本の伝統文化がどういう意味を持つのかということを、英語で発信する。それが茶の本。日本で茶というと茶道の手引書みたいなイメージがあるが、そうではない。この本は茶道、茶を通して日本あるいは東洋の世界観や自然観を、非常に幅広く説いた本なのである。茶の本とならんで新渡戸稲造の「武士道」が海外では人気だった。しかし彼はそれと真っ向から対立するように、武よりも文、和の精神というものが日本、あるいは東洋の根本なのだと説いた。この2冊は日露戦争前後に相次いで出されたため、非常に大きなセンセーションを巻き起こした。

乾坤一擲……けんこんいってき。運を天に任せ、一世一代の大勝負に出ることの例え。「乾坤」は「天地」で、「一擲」は「さいころを投げること」という意味。天地をかけ一回サイコロを投げるということで、伸るか反るかの勝負に出ることを言う。韓愈の詩が元ネタ。

シークレットサービス……アメリカ大統領の警護を行う執行機関。南北戦争で、偽造通貨の横行に対する防諜機関として創設されたのがもとだが、その後は大統領とか大統領候補、大統領の家族、高位の外国人訪米者の警護をずっと行っている。日本に大統領が行く場合は、警視庁警備部や軍と協力し、エアフォースワンやマリーンワンなどの内部、大統領専用車両から警護を行う。仕事は当然、非常に過酷。24時間睡眠なし、昼食と夕食はなく、夜中の3時に雨に打たれながら数時間外に立ち続け、タクシーで空港へ行き、最後は大都市へと向かう飛行機に4時間搭乗する。このお決まりのコースを数日連続で繰り返す。もっと正確に言えば、子供の誕生日パーティーや卒業式には出席できず、休暇は取れず、結婚記念日も祝えない。当然、独身の人のほうがうまくやれる。勤務はシフト制で、2週間単位で昼勤、深夜勤、夜勤に就く。この6週間のサイクルが終わると2週間のトレーニング期間に入り、それが終わると再びサイクルが始まる。時差がある場所に移動し続けるのは過酷なので多くは4年ほどで退職してしまうらしい。彼らは非常に特殊な立場にいる、というのも、物理的には大統領のすぐそばでいろんなことを見聞きするのに、意見はほとんど言わない。大統領に尋ねられたときは答えるが、はっきりした意見は言わない。ビル・クリントンが92年の選挙活動の際、自身の運動のため、有権者に触れあうことを目的としてジョギングを始めたのだが、当然護衛官はそれに付き合わなくてはならない。銃と無線をもったまま5kmを走るのだ。次のブッシュ大統領はもっと本格的なランナーだ。1.8kmを6分とかなりのハイペースだが、警護ははるかに楽だった(キャンプデービッドやら)。

ボリス・パステルナーク……ロシアおよびソ連の詩人・小説家。詩集「我が妹 人生」はロシア語で出版された文学でも最も影響力が大きかった作品のひとつで、出版されたゲーテ、シラー、シェイクスピアなどの作品は未だに人気が高い。また、「ドクトル・ジバゴ」の作者としても名高いのだが、これはソ連では発禁、彼がノーベル賞を受賞することが決まった時、ソ連とKGBの反対の末にノーベル賞の辞退が決まってしまった。彼は西側の出版社に原稿を託し、1957年、イタリアでようやくドクトル・ジバゴが出版。こののち、彼の息子が1988年、ノーベル文学賞を代理で正式に受賞。

ドクトル・ジバゴ……パステルナークの小説、1957年出版。ロシア革命の混乱に翻弄されながらも、恋人ララとの愛を失わない、主人公の医師ユーリー・ジバゴの運命を描いている。ソ連では自国の社会像が赤裸々に込められた、いわば「ロシア革命に批判的な作品」として扱われていた。1957年にイタリアで刊行され、世界的に知られることとなってからソ連で話題に。受賞すれば亡命を余儀なくされると考えた彼は「母国を去ることは死に等しい」と言い受賞を辞退したが、委員会はこれを認めず一方的に賞を贈った。公式的には辞退扱いになっていないが、政治的な理由で受賞を辞退した世界初の例となった。まあ確かに「革命が正義だ！革命が正しい！」みたいな時代に「人は革命の中でも愛を失わない」みたいな作品をかけば、そりゃあ、という感じではあるが、そこがやはり小説家なのだろう。書かずにいられなかったに違いない。

あごあし付きとは何か……食事代と交通費が先方持ちであること。あごあしの「あご」は食べるときに噛み砕くところから、食事の意味。「あし」は「足代」で、交通費の意味。もともとは寄席芸人の隠語であった。

マニラアサはアサではない……マニラアサはバショウ科の植物で、丈夫な繊維が取れるため、繊維作物として非常に重要である。マニラはフィリピンの都市で、分類上はアサではないが、繊維がとれることから、代表的な繊維作物である「アサ」の名がついている。フィリピン原産で、ボルネオ島やスマトラ島にも広く分布。植物繊維としては最も強靭であり、太陽光や風雨にも非常に高い耐久性を示す。船舶を留めるためのロープをはじめ、紙幣や封筒の紙にも用いられる。

ディアスポラ……ギリシャ語で「まき散らされたもの」という意味の”diaspeirein”で、パレスチナ以外の地に移り住んだユダヤ人たちを指すことば。英語でも”the Diaspora”として表記されていたが、当時は「バビロン捕囚後にユダヤ人がパレスチナ以外の土地へ離散している状態」を意味していた。いまでは難民とは違い、離散先での永住と定着を示唆している。近年では、「アメリカ・メキシコ国境における下層移民の分裂」「海外の華人」など、広い枠組みで用いられるようになった。つまり、それまで難民というくくりで一緒に扱われていたユダヤ人たちに「ディアスポラ」という名称を与えると、それが今度は意味拡張し、ふたたび難民みたいな扱いになった、という面白いことばである。現代では「出稼ぎのために個人や集団でどこかに行く」「強制的に移住させられる」「脱出に迫られて逃げる」こともディアスポラと呼ばれる。多くの場合は近代植民地主義の負の遺産である(例えばアフリカ人とか東南アジア人とか)。

カイツブリ……カイブツリ科に分類される鳥類。全長は26センチで、カイツブリ科の中では一番小さい。その和名は「水を掻いて潜る(掻きつ潜りつ)」が転じたとするものがある。漢字で書くと「鳰」(水に入る鳥)であるが、これは潜水して獲物を捕食するため。1回では15秒も潜水、巧みに魚や昆虫、貝類を捕まえる。琵琶湖は古くから本種やカイツブリ目の構成種が多かったため、「鳰海」(にほのうみ)の別名がある。これは「水鳥が集まる湖」という意味で、現在はカイツブリは滋賀県の県鳥にもなっている。

善は急げには続きがある……「善は急げ悪は延べよ」、良いことは急いで行え、そうしないと気が変わってしまう。悪いことはしばらく延期せよ、そうすればそれを実行しないで済む、という意味のことわざ。実は続きがあったのだ。

回転寿司屋にある、お茶の粉が入ってるアレの名前……棗(なつめ)。もとは茶器の一種で、抹茶を入れるために用いた、木製漆塗りの蓋物容器。植物のナツメの実に形が似ていることから、その名がついたとされる。かつて村田珠光に塗師が納めたものが最初とされているが、これは確かではないらしい。スシローにあるアレは、たぶん棗を模したもの。しかし木製のものは高いので今はプラスチックになっている。

NISA……毎年、一定金額の範囲内で購入した金融商品の利益が非課税になる制度のこと。通常、株式とか投資信託などの金融商品に投資した場合、これらを売却して得た利益や配当には税金がかかる。これがないのがNISAの特徴。日本では特に「積み立てNISA」といって、少額からの長期・積立・分散投資を支援するための非課税制度のこと。購入できる金額は年間40万円までで、購入方法は買い付けに限られている。

上橋菜穂子……東京出身の児童文学作家、SF作家。立教大学で文学の博士課程を取得している(文化人類学専攻で、アボリジニを研究していた)。最も有名な作品は「獣の奏者」であり、こちらはアニメ化もされた。NHKで放送されていたため、筆者と同世代なら知っている人も多いかもしれない。そのほか「精霊の守り人」もProduction I.Gによりアニメ化されたり、「狐笛のかなた」(こてきのかなた)、最近では「鹿の王」で第12回本屋大賞になったりしている。「獣の奏者」は、決して人と心が通じないとされていた獣「王獣」を操ることができる、類まれな才能をもった少女・エリンが主人公。ある日、戦闘用の獣である闘蛇が何頭も一度に死に、その責任を問われた母は処刑されてしまう。孤児となったエリンは蜂飼いのジョウンに助けられて暮らすうちに、山中で天を翔ける王獣と出会うのだが、それがやがて王国の運命を左右する立場になることになる…。

デノミネーション……通貨単位を表すことば”denomination”から。日本語では通貨単位を切り下げることを意味する。なぜそんなことをする必要があるのか。それはインフレのときにわかる。ハイパーインフレのような急激なインフレが起こった時、例えば昨日まで100円で買えたキャベツが翌日には10000円になる、といったような状況になると、ちょっとした買い物にも大量の紙幣を持ち歩かねばならず、計算も記帳も煩雑になってしまうだろう。経済に支障をきたさないため、これまでの100円は新1円にします、というように行う。例え事前告知されていても多くの場合は社会が大混乱に陥る。そもそもハイパーインフレとは何か。需要と供給のバランスが崩れ、短期間のうちに物価が急激に上昇、その結果通貨の価値が大暴落するということだ。敗戦や革命、政府の混乱時といった時に起こりやすく、近年ではアルゼンチン、ブラジル、ユーゴスラビア、ジンバブエなどで起きた。こちらはもう記帳が煩雑とかいうレベルではなく、国がやっていけなくなるおそれがある。輸入価格の暴騰はもとより、国際機関や他国からの借金が膨大になり国家として破綻し、デフォルト(債務不履行)。2020年現在、日本国債の9割は日本銀行などが持っているため、海外に対して借金をしていない。そのためあまり心配しなくてはよい。それでデノミだが、ちゃんと効果があるのか、というと、ないというほうが多い。しかし第一次世界大戦後のドイツで急速にインフレを終息させた「レンテンマルクの奇跡」などは、数少ない成功例である。

サケ科の「脂鰭」はなぜついているか……あぶらびれと読み、サケ科の魚にある、背びれと尾びれの間の変なヒレのこと。その役割は学術論文にもまとめられており、ここを切除する前後で泳ぎ方の違いを観察したところ、切除されたほうはされてない方よりも尾びれの振幅が大きくなった。つまり、これがついていたほうが効率よく遊泳できることがわかったのだ。水の流れによる渦を整えるための整流板の役割を果たしていると考えられる。また、神経の分布が見られることから、尾びれの前方で流れを感じ、複雑な流れの中で尾びれをコントロールするセンサーとして働いているとも言われる。

Blu-rayに規格争いで負けた規格がある……それがHD-DVDだ。DVDフォーラムでバチバチ議論が行われ、最終的にBlu-rayに負けてしまった。ソニーや松下電器、東芝が中心に開発していたが、市場がBDを選択したことで陣営の中心の東芝が全面的な撤退を発表、規格争いが終結。読み取りに使われるのは405nmの青紫色レーザーで、DVDよりも波長が短いレーザーを用いるため、高密度の記録が可能。ここに関してはBDと変わりないのだが、記録層の厚さが異なる(HD DVDは0.6mmだがBDは0.1mm)。HD DVDは現行のプレス施設を流用できコスト面では有利、BDは薄いため傷に弱い(とされていたが、TDKの開発したDURABIS技術などによりこれを克服)、BDは記録層が薄く、記録密度を上げるのが容易なため、一層25GBの記録ができるのに対し、HDDVDは15GB、高密度なので最大転送速度が速いBDは53.95Mbps、しかしHDDVDは36.55Mbpsなど。要するに「薄く・速く・多い」BDが勝ったということである。

アフォガート……バニラ風味のアイスクリームやジェラートにエスプレッソ(というかコーヒー、紅茶、リキュールなどもあり)をかけて食べるスタイルのデザート。イタリア語で「溺れた」という意味。日本ではバニラアイスにエスプレッソをかけたコーヒーアフォガートが知られる。なお「アフォガード」は間違い。アイスクリームがコーヒーに溺れているためこう呼ばれる。アイスとコーヒーさえあればすぐに作ることができる。お好みのアイスクリームを用意し、コーヒーを少し濃い目にいれて、あとは器に注ぐだけ。薄くすると味がぼやけてしまう。甘味と苦味、冷たさと熱さのコントラストこそがアフォガートをアフォガートとしているのだから、すぐに食べてしまおう。

藤本英雄……ふじもとひでお。通算367試合で200勝87敗という成績を持つ選手。年間防御率0.73、年間完封19、通算防御率1.90、通産勝率.697が歴代1位(2016年現在)のほか、200勝投手で唯一100敗していない、25歳という史上最年少で監督就任、日本球界で初めてスライダーをマスター、日本球界史上初の「完全試合」達成など、この実績は今なら神とあがめられるはず。戦後の過渡期という理由からか、全く話題にならないのが残念。完全試合達成のときはほとんど誰も新聞記者がおらず、写真、映像もまったく残っていない。話題にならないのはそれのせいじゃないですかね…。

左甚五郎……ひだりじんごろう。江戸時代に活躍した伝説的な彫刻職人。そもそも実在さえ疑われているが、彼の作品があるのは間違いがない。なぜ実在を疑われているかというと、安土桃山時代から江戸時代、ゆうに300年もの幅を持ち、「彼がつくったとされる」作品が残っているからだ。また出身地問題というか、どこかしこが「うちが左甚五郎の出身地です」と言ってはばからないのも理由だろう。実際には「優れた彫刻職人の代名詞なのでは」とする説さえある。近年ではとりあえず実在したことは確実ということで、全国に点在する100の作品は彼の作品だという。実在したと仮定して1594年に生まれ、1651年に死去した。有力と言われている説では「岸上甚五郎左義信」という人物が、左甚五郎のモデルである。なぜ左なのかというと、彼より右に出るものがいないからとか、左ききだったからとか、大酒飲みだったからとか、右手がなかったから、とかいわれる(最後のはさすがに嘘のようだ)。彼のつくったあまりにリアルな動物たちは「夜な夜な歩き回る」という伝承があるほどで、例えば1592年に再建された秩父神社の「つなぎの龍」には「毎晩田んぼを荒らしている」という言い伝えがある。それはそれは偉大というイメージだが、実際には酒が大好き、毎食一升・おやつに5合呑んでいたというのだから相当なもの。普段は酒飲みだがノミを持つと豹変する、そんなスーパースターぶりがうけ、落語の題材としても有名になった。たとえば「木彫りの鯉」というエピソード。京都に召喚されたその道中、左甚五郎は追い剥ぎに会い、身ぐるみ剥がされ無一文になってしまう。なんとも情けないやら哀れやらな展開だが、ある庄屋に助けられ、屋敷に世話になることに。すると驚くことにそこには彼の偽物がいた。料理が下手だ、酒がまずいなど、モンスタークレーマーそのもののふるまいをしている。本物の左甚五郎はなんとかして自分が本物だと示したいが、ふんどししかないので信じてもらえない。そうこうしているうち、左甚五郎の名を聞いた遠州の殿様が「左甚五郎に何か彫ってほしい」と頼みに来る。これだ！とばかりに彼は偽物とともに鯉を彫った。偽者のほうはとても生き生きした鯉をつくるが、本物のほうはなんだか不格好。だめだこりゃ、な雰囲気の中、彼は「両方の鯉を水の中に入れる」ことを提案。そうして水の中に入れてみると、偽物のほうはすぐに腹を見せて浮き上がったのに対し、本物のは今にも泳ぎ出しそうな様子。水の中に入った状態で、歪んで見える鯉を計算して作った彫刻だったのだ。彼の「鯉は水の中にあってこそ鯉と言えましょう…」というセリフがオチの、人気の噺である。日光東照宮で「見ざる聞かざる言わざる」の「三猿」についで有名なのが「眠り猫」。これも彼の作品。この彫刻の裏には雀の彫刻がすえられている。なぜだろうか。これ、実は深い意味合いがある。「猫が居眠りしていれば雀と共に共存していける」という平和の願いが込められているのだ。つまり、「警戒心の強い猫すらも安心して眠りに付ける世の中の到来」を意味し、さらに「天敵である猫が眠っている時にスズメが安心していられるように、弱い者も安心して過ごせる世の中である」と。それだけ江戸幕府が平和であり、それが末永く続くように、という意味もこめられている。猫の彫刻は非常に珍しいため、国宝にも指定されている。

冠水瓶……かんすいびん。演説とか講義のとき、机の上に載っているアレの名前。よく見るのは講演会や国会である。ガラスのフラスコみたいなやつに水が入っており、コップが蓋になることで埃を防ぐ。最近ではペットボトルの水に紙コップを置いただけの簡素なものもあるため、「瓶」とはいえなくなっている。アレに名前が。

マヌルネコ……中央アジアに生息するネコ科の哺乳類。名前はモンゴル語で「小さい野生ネコ」という意味の「マヌル」から来ている(正確にはモンゴル語でも「マヌル」は「マヌル」という意味なのだが…)。夜行性でげっ歯類や鳥類を食べることで知られている。ネコ科なのでかなりネコに近いのだが、顔が毛で真ん丸なところが違う。かなりまんまる、モフモフしているが、それはステップや半砂漠に住んでいるから。モンゴルや中国などの中央アジアは冬、かなり冷え込むのだ。マイナス50度にもなる気候を耐えるには、脂肪と毛が必要になる。じっとりとした目つき、ふてくされた顔は「ブサかわ」と言われ人気なのだが、実は希少な野生ネコ。マヌルネコの目は普通のネコの目と違い、丸い形のままに収縮する。また耳も個性的。小さめの丸い形で顔の横についており、身を隠すところが少ない環境で、岩陰から獲物をのぞき見できる。このような独自の進化を遂げてきた、かなりレアな猫さんなのだ。

NICU……”Neonatal Intensive Care Unit”の略。新生児集中治療室のことをいう。出生体重が一定未満(これは病院により異なるが、だいたい2000グラム前後)の赤ちゃん、集中治療が必要な赤ちゃんなどが入院する。日本で生まれた赤ちゃんのうち4％ほどが入院するということなので、決してマレではない。筆者も入院していた。

新日本プロレス……日本のプロレス団体。創業者はアントニオ猪木で、事業内容はプロレスの興行である。1971年、日本プロレスにクーデターを画策したとして、アントニオ猪木が除名、永久追放されてしまう。これを受け「新しいのをつくってやる」と実際につくったのが彼。リングドクターを取り入れて健康管理をするという点で、他の団体とは大きく違う。

スウェーデンリレーは結局何メートル走るのか……まちまち。第1走者が100メートル、その後200、300、400と、走者の番号が増えるにつれ、100メートルずつ走る距離が伸びる。アンカーは400メートルを走るということだ。合計1000メートルの合計タイムを競う。世界選手権や日本選手権での実施はなく、だいたい体育祭とか記録会で行われるのが普通。1910年代にスウェーデンで人気があったこの形のメドレーのことを、発祥の地の国名をとりこう呼ぶようになった。男子は1分48秒27が日本記録。1000メートルでと考えるとエグい。

羅生門効果……ひとつの出来事で、人々がそれぞれに見解を主張すると、矛盾が起きてしまうという現象。心理学とか犯罪学で使われることがあり、黒澤明監督の映画「羅生門」に由来する。作中の殺人事件について、被害者の関係者3人がそれぞれ別の証言をして捜査が行き詰まったのがもと。英語でも”Rashomon effect”となっている。要するに「船頭多くして船山に上る現象」である。

お菓子作りに使うチョコは板チョコとは違う……お菓子を作るときに使われるのが「クーベルチュール」というチョコ。”couverture”はフランス語で「覆い」という意味。キャンディーやケーキなどの表面を覆うためのチョコレートであり、板チョコとは全く違う。クーベルチュールチョコレートの成分は、板チョコとは違い、国際基準で含有率が決まっているほどの厳しさなのだが、おもに脂肪分が普通のよりも多い。「総カカオ固形分35％以上、カカオバター31％以上、無脂カカオ固形分2.5％以上、カカオバター以外の代用油脂は使用不可」、これを守られていない場合は認められない。なぜ脂肪分が多いのかというと、コーティングのさいに薄く覆うことができないため。加熱して使うものがほとんどなのでテンパリングしてないことも多く、自分でする必要がある。

エケコ人形……南米のボリビアにおいて、アラシタの祭りで売られる人形。アラシタの祭りというのは、アンデス地方で1月24日に行われる、「エケコやミニチュア品をいっぱい売ろう祭り」のこと。穀類、缶詰、紙幣、大学の学位記、原付、パスポートなど本当に様々なものが売られるが、エケコはそんな中でも特別な位置にある。というのも、エケコに自分の手に入れたい物品のミニチュアを持たせ、タバコをくわえさせることで、本当にその物品が手に入る、という言い伝えがあるからだ。意外に、かわいい。

エオルス音……針金とかに空気が当たる時に起こる音のこと。針金の背後に生じるカルマン渦が針金を振動させ、音を出す。電線が木枯らしの中で鳴るときの音。アレに名前。日本人はこれを「虎落笛」(もがりぶえ)と形容し、冬の強い風が柵に吹き付けて発する、笛のような音だとした。高浜虚子の「虎落笛/眠に落ちる/子どもかな」がある。

メッサーシュミット……ドイツに本社を置く航空機・自動車メーカー。第二次世界大戦中につくられた、ドイツ空軍の主要レシプロ戦闘機Bf-109や、世界初の実用ジェット戦闘機のMe262などが有名。実は、世界で初めてフレックスタイム制を導入した会社としても知られる。会社名は創業者の名前。

テルミドール……フランス革命の革命暦で「熱月」(7/19～8/17ごろ)を意味するフランス語で、オマール海老などの身を半割りにし、クリームソースやチーズをかけて焼いた料理のこと。1894年にパリのコメディ・フランセーズ劇場で上演された「テルミドール」の名にちなみ、近くのレストランが料理名に用いたのが由来だと言われる。

アマチュア心溢れる火山観測法で世界を驚かせた日本人がいた……三松正夫(みまつまさお)は昭和新山の成長を記録し続けたアマチュア火山研究家。彼は昭和新山が産声をあげた1943年、壮瞥郵便局長を務めていた。その年の暮れ、麦畑を底から激しく鳴動させる地震が頻発して、やがて大小17回におよぶ激しい火山活動がつづいた。活動がほぼ停止したのは太平洋戦争が終わった直後、1945年の秋だ。その間2年も経たないうちに、400mを超える山ができてしまった。戦時中だったためにこの驚異のできごとは当局によって厳重に伏せられ、世界の大ニュースになるはずの大事件も、地元と周辺の人々が知るばかり。戦況が怪しくなる中、彼は突然噴煙を噴き出して活動をはじめた昭和新山に、いても立ってもいられずに通い続けた。明治末の有珠山噴火を体験していた彼は、地域の安全や科学の進歩のために、まずは何をおいても正確で客観的な記録を残さなければならないという思いに突き動かされたのだ。こうした発想や行動の大胆さには驚くほかない。調査では、火口近くにいるときにいきなり爆発があって岩石が降り注いできたり、熱い地面で何足も靴をつぶしたり、崩れる火山灰に巻き込まれかけて死を覚悟したこともあった。郵便局舎の裏に糸を横に何本も張り、それを基準にして山の隆起のようすを正確にスケッチしつづけた。一般人はフィルムを持たず専門の観測機器もない。彼が独自に編み出した定点観測の手法だ。やがてその経過を一枚の図面に落とし込む。これが世界の研究者を驚かせた「ミマツダイヤグラム」。また、毎日地域をまわる郵便配達員から集める、大地の小さな変化などの報告も三松の調査の精度と価値を高めた。さらに信じられないことに、火山活動が落ち着いた1945年の秋、三松は、私財をなげうってこの山をまるごと買い取ってしまう。面積は42ha。このとき三松は、世界でただひとりの活火山所有者となった。の食料にもこと欠く戦後の混乱期に、用意したのは2万8千円。ほぼ全財産だった。硫黄の盗掘から山(といえば簡単だが、要するにこの山は「誕生から急成長の過程が世界ではじめて正確に観測された隆起型火山の標本」である！)を守りたかったというのが三松が繰り返し述べた理由だが、同時に地域のリーダーのひとりとして、畑を失ってしまった農民たちを助けるためだった、とも、戦地でふたりの息子を亡くした三松にとって、この山がもう自分の息子のような存在になっていたとも。1960年、当時は「有珠新山」と呼ばれていたこの山に、彼は名前を付けることを勧められた。その気になれば三松山とでもつけられたのだが、彼はそうしない。研究の師である田中館秀三東北大学教授にネーミングを依頼して、昭和新山という名前を考えてもらった。

予報円……天気予報の用語。台風とか暴風域を伴う低気圧の中心が、12,24,48,72時間後に到達すると予想される範囲を円にしたもの。天気予報で見るアレの名前である。アレに名前が…。気象庁では、台風や低気圧の中心が予報円に入る確率を70％としている。

残心……日本の武道・芸道で用いることば。心が途切れないという意味だが、意識すること、技を終えた後、くつろいでいながらも注意を払っている様子のこと。余韻を残すという美学でもある。例えば弓道における残心は、矢を射たあとも姿勢を保ち、目は矢が当たった場所を見据えること。茶道でも日本舞踊でもとにかく何でも用いられる。

拒否権を発動しすぎて、「いいえおじさん」というあだ名がつきまくった外務大臣がいる……アンドレイ・グロムイコというソ連の外交官。28年間にわたりソ連の外務大臣を務め、ミスター・ニエット(いいえおじさん)の異名で呼ばれた。ゴルバチョフ政権から外務大臣を担当したのだが、それ以前の1946～1949年に安全保障理事会のソ連代表を務め、この間に何度も何度も拒否権を行使したため、ミスター・ニェットと呼ばれたのだ。

デジタル万引き……書店やコンビニなどで販売されている書籍や雑誌の内容を、カメラやスマホで撮り、購入せずに情報を得る行為。窃盗罪や著作権法には違反しないが、店によっては何らかの賠償請求をされたり、客ではないとされて建造物侵入罪が成立する可能性がある。ただ、今ではこの表現が行き過ぎという指摘を受け、日本雑誌協会はこの語の使用を自粛している。

火車……かしゃ。悪行を積み重ねて死んだ者の亡骸を奪うとされる、日本の妖怪。伝承地は特定されていないが、全国にこの言い伝えがある。猫の妖怪が正体とされることがある。岩手県の遠野でも同様の言い伝えがあるし、宇治拾遺物語にもこの話がある。経済状態の切迫を意味する「家計が火の車」という表現、この火車により亡者が責め苦を受けることに由来しているという。

四大節……旧制度の四つの祭日。1927年に制定された。四方拝(1月1日)、紀元節(2月11日)、天長節(4月29日)、明治節(11月3日)である。これらの日はかつて祝日であり、学校で祝典などを行った。四方拝(しほうはい)は元旦に行われる儀式であり、現在も行われているが一般公開はされていない。天地四方の神々を拝す儀式のことで、その年の災いを祓い、豊作を祈願する、というもの。紀元節は日本書紀が伝える「神武天皇即位」とされる日である。1966年からは「建国記念の日」として知られる。天長節は775年、光仁天皇即位時、誕生日を天長節と称して祝うようになったのがはじまり。その後1868年に行事として復活した。明治節は天長節にならって明治天皇の誕生日を祝い始めたもの。のちに祝日法が施行されこの名は廃止、天皇誕生日になった

アンティキティラ島の機械……沈没船からサルベージされた、古代ギリシア時代の歯車式機械。復元されたその機構から、天体の運行を計算するためにつくられたものだと考えられている。最古の複雑な科学計算機と考えられており、多くの歯車がかみ合うことで計算を行う。クランクを回転させると機構が太陽や月などの天体の位置を計算するしくみ。X線分析の結果、道具の表面に3500以上の文字が書かれているのが見つかり、古代ギリシャ人が天体観測やオリンピックの時期を知るためなどに使っていたことが判明している。いわば「世界初のコンピュータ」であり、古代の漢学に関する研究をみても、これに匹敵するほどに素晴らしいものはない。我々がここから考えるべきことは「どうしてここまで優れた技術があったのに、それが後世にそのまま引き継がれなかったのか」ということだろう。きっと、最新技術だけが突出しても意味がなくて、もっとそれが社会に膾炙する必要があるのだろう。

分子構造がヒマワリに似すぎている物質がある……それが「サルフラワー」。サンフラワー(sunflower)は英語で「ひまわり」という意味で、これに”sulfer”(硫黄)をかけて「サルフラワー」と呼ばれている。お～かっこいいな、だけでは許されないので、ちゃんと特性も調べられている。有機半導体として働くことがわかっているほか、結晶の隙間に水素を取り込める、という予測もある。

マンフレート・リヒトホーフェン……ドイツのパイロット。第一次世界大戦参加各国で最高の撃墜記録(80機)を誇るエースパイロットとして知られている。乗機を鮮やかな赤で塗装していたことから、「レッドバロン」とか「赤い悪魔」の異名で呼ばれた。紳士的な態度であり、自らの撃墜を他の者が勝手に自分の功績としても「敵が撃墜されることに意味がある」と争わなかったが、部下の撃墜が他の者の功績になることに関しては「指揮官には、自己へとは別の責任がある」と絶対に譲らなかった。最後はオーストリア軍の地上部隊から銃撃を受け、肺・心臓を貫通した弾で致命傷、そのまま死亡した。

文豪・太宰治の娘もまた小説家になっていた……娘・津島佑子(つしまゆうこ)は小説家であり、太宰治の娘。なぜ名字が違うのかというと、そもそも太宰治は本名ではないから。津島修司というのが彼の名前。とはいえ、1歳のときに父を失い、母子家庭に育った。しかも3歳上の実の兄は病没。母と姉の女系家族に育った。1967年に成人式を迎え、富士五湖で父の文学碑を見た。母子家庭の育ちだからか、1971年に「謝肉祭」という第一作品集を刊行し、母子家庭のテーマを繰り返し描いた。「山のある家 井戸のある家」では次のように記している。「父についても、どうか、だれにも聞かれないように、といつも願っていました。父はいませんと言えば、それはなぜ、とひとは聞きます。事故で死んだ、と答えれば、なんの事故、とさらに聞かれます。そうなると返事に困ってしまいます。「自殺」とはどうしても自分の口から言うことはできませんでした。今でも言いたくない言葉ですが。そのうえ、よその女のひとと一緒に死んだなどとは、どうしてもひとには知られたくないヒミツでした」と。また、「幼稚園のころ、母に聞いたことがあります。お父さんはなんで死んだの？　母は一瞬、考えてから、うん、心臓が止まったから、と答えました」とか、「父が小説家だったということは、家に本があったので、早くからわかっていました。でも、それ以上のことはわからないままでした。父方の親族は、父自身が実家から勘当されていたので、会ったこともありません」。「一度だけ、ラジオの前に坐らされ、これは子ども向けのものだから、と父の書いた小説をもとにしたラジオドラマを聞かされたことがありました。びっくりするほど、それは珍しいことだったのです。ラジオドラマが終わってから、母におもしろかったと言えばいいのか、つまらなかったと言ったほうがいいのか、迷ったことをおぼえています」。さらに、「その後、父にはほかの女性とのあいだに娘がいることも知りました。私とは異母妹ということになります。そのことにも、私はいやな気持は持ちませんでした。もしかしたら、異母兄とか、ぞくぞくと私の知らない兄弟姉妹が現れるのかもしれない、と期待したりもしました」とも。やはり、かなりリアルな感想である。自分の父親が有名な文豪でも、早くから死んだ(しかも自殺)ことが影響を与えている。

冥王星を発見し、冥王星に「行った」男……それがクライド・トンボーという男。アメリカ・イリノイ州生まれの天文学者。家が貧しくて大学に行けなかったが、天文学に深く魅了され、父の農場に放置してあった古い機械の部品で22.5cmの望遠鏡をつくって天体観測をした。その後、海王星の外側の惑星の探求を続け、1930年にいよいよ冥王星を発見した。当時「惑星X」と言われその存在が予想されていた冥王星だが、あまりに暗かった。望遠鏡で見つけるためにはとても暗く、また距離が離れているため、視覚的にもほとんど動かない。彼は異なった日に同じ空を撮った2枚の写真を比較することを考案。それぞれの写真には5万～50万の星が写っていたのだが、その中でもさらに、光が動いた点がないかどうかを探したのだ。どんな小さな動きでも、1点に焦点を合わせて2枚の感光板をスクリーンの上に素早くかわるがわるに映せば発見できるはずだ。たいへんに骨の折れる作業を行い、ついにふたご座の中に冥王星を発見した。彼のこの偉業をたたえ、遺灰の一部は2006年に打ちあがったニューホライズンズのコンテナに収められた。”Pluto”と命名した理由は、プロートーがローマ神話の黄泉の神で、人々から自身を見えなくすることができたためだという。冥王星を発見した天文学者は、冥王星を探索する無人探査機に乗って、今も太陽系をただよっている。

鉄腕アトムは2003年に完成する予定だった……手塚治虫の原作によれば、2003年4月7日が鉄腕アトムの誕生日。1952年が原作なのでしょうがないといえばしょうがないが、見通しが甘すぎる。そのためアニメ版の放送開始日も2003年4月から。世界最高の人工頭脳を持ち、人間同様の心を備えているという設定だが、これは実現できておらず、また10万馬力のパワーも実現できていない。お茶の水博士は、この時期に「ロボットにも人権が必要だ」と考えるいい人。

三元豚は何が「3」なのか……実は種類。三種類の品種の豚を掛け合わせた、一代雑種の豚のこと。食用にする豚としてはバークシャーやランドレースなどがあるが、これらの純粋種を単独で食用とはせず、普通は3種類以上の豚をかけあわせ、１代限りの雑種とするのがほとんど。各品種の長所を併せ持つ豚を生産するためであり、このような豚を「ハイブリッド」と呼び、その中で特に３種のものを「三元豚」と呼ぶ。

シャーレとペトリ皿は何が違うか……同じです。違いはない。微生物の培養実験で用いられる、ガラス製の平皿。寒天培地を平板にするために発明され、その後広く科学実験で使われるようになった。ドイツの細菌学者ユリウス・ペトリが開発したため、ペトリ皿という。シャーレはドイツ語で「皿」という意味なので、ペトリ皿を「皿」とだけいうとシャーレになる。

パウンドケーキのパウンドは重さの単位だった……バターケーキの一種パウンドケーキ。小麦粉、バター、砂糖、卵をそれぞれ1ポンドずつ使うことから「パウント」(ポンド)ケーキと名付けられたのだとか。イギリスでは18世紀初頭にレシピに登場し始める。レシピを見てみたら確かにだいたい同じ比率だった。こんなもの食べたら太っちゃうよ…。

ノルディック複合……冬季オリンピックでも競われる、「スキーの王様」と称されるほど難しいスポーツ。スキージャンプとクロスカントリースキーの両方を戦い、その成績の組み合わせで順位を争うというもの。どういう方法でこの2つを組み合わせるのかというと、それが「グンダーセン方式」だ。スキージャンプをまず争い、飛形点と飛距離点の合計ポイントによって順位を決める。このポイントをタイム差に換算し、ジャンプの成績順に、タイム差をつけてクロスカントリーをスタートさせる。クロスカントリーのフィニッシュライン通過順に、ノルディック複合の総合成績が決定、というように。

金田一耕助……横溝正史(よこみぞせいし)の推理小説に登場する架空の探偵。初登場は「本陣殺人事件」で、長くにわたって活躍した。ただ、頭はフケだらけ、よれよれの着物と袴、形の崩れた帽子、足元は爪が飛び出ている下駄ばきなど、普通に清潔感がなくてきたないと思う。この服装が母性本能をくすぐるため女性受けはいいらしいが、意味が分からない。いつも眠そうだが事件の時は真剣な目つきに変わる。彼が出てくる作品で最も有名なのが「犬神家の一族」だろうか。

平安神宮は明治時代に完成した……どうでもいいけど割と面白い雑学。京都にある平安神宮は、桓武天皇と孝明天皇を祀っている。ちなみに明治神宮は大正時代に完成した。

ラテラノ条約……1929年に、ローマ教皇庁がムッソリーニ政権下のイタリアと調印した政教条約。バチカン市国の建国を定めたもので、ラテラノ宮殿が名前のもとになっている、1870年にイタリアがローマを占領後、政府はときのローマ教皇ピウス9世に対し、ラテラノ宮殿とバチカンの占有を認める代わりに、政府に年間30万リラを払うことを要求。教皇庁は、カトリックが特定の政治権力の影響を受けないことを理由にこれを拒絶、イタリアと教皇庁の関係は断絶し、教皇は自らを「バチカンの囚人」とした。しかし1926年、ムッソリーニはバチカンに歩み寄りついにこの条約が締結。バチカン一帯をバチカン市国とし、イタリアから政治的に独立すること、バチカンは永世中立であること、国内の政党の争いにくみしないことを求めた。

キャレル……研究や個人学習のため、図書館に設置される仕切りのある席のこと。かつては修道院の机付きの個室を示していた。現代では照明やネットワーク環境も完備されている。プライバシーの確保度合いが高いため、図書館ではかなり人気の席。

居抜き物件……過去に入っていたお店の内装や厨房、什器などの設備が残ったままの物件のこと。看板を付け替えるだけで出店できる状態になっているものを言うことが多く、物件によっては「厨房だけあります」など一部居抜きのものも。これに対し、床、壁、天井、内壁などが何もない、建物だけの物件を「スケルトン」と呼ぶ。また、総理が変わっても前と同じ閣僚が再任する内閣を「居抜き内閣」と呼ぶ。ラーメン屋なんかはとくにこれが多く、次々いろんなお店が入っては潰れを繰り返しているところもある。居抜き物件で安いからといって入っても駄目、潰れるには潰れる理由があるのだから。

永山基準……1968年に19歳の少年・永山則夫が相次いで起こした拳銃による連続殺人事件「永山事件」をもとにできた、死刑の基準。「犯罪の性質・犯行動機・残虐性・被害者の数・遺族の感情・社会的影響・犯人の年齢・前科・犯行後の情状」という9項目についてそれぞれ見て、それらを総合的に考察したとき、罪と罰の均衡から死刑をやむを得ず行う。ただし最近では、事件発生時に被告が少年でも、特別な情状酌量の余地がない場合「原則は死刑適用、例外は死刑回避」という判断が示され、変化を遂げつつある。この判例以降、4人以上の殺人犯に対しては、裁判所が心神耗弱、自首、未必の故意、無理心中などの情状酌量を認定し、無期懲役に減刑して判決を言い渡した事例を除けば、原則死刑判決を適用している。一方で「1人だけを殺せば死刑にはならない」という傾向もあったが、最近では「強姦・強盗なども、目的を伴い、殺害方法もとりわけ残虐なら死刑」というケースが見られる。

お礼参り殺人……要するに逆恨み殺人。例として、JT女性社員逆恨み殺人事件をあげる。加害者の男MはJTの女性社員への強姦致傷を起こし、この事件をネタに女性を恐喝したが、女性から警察に通報されたことで逮捕・起訴され、懲役刑となった。この通報を逆恨みしたMは、出所後に(7年たっていた)彼女を刺殺。刑事事件の被害者が犯人を告発したがために殺される、という何とも不条理な筋書きに、世間は震撼する。

昔の日本は台風を台風と読んでいなかった……台風は”typhoon”の訳語としてうまれた、ごく新しい言葉だ。それも1956年のこと。ではなんとよんでいたのか。野分(のわき、のわけ)である。台風の古い呼び方で、野の草を吹き分ける強い風。日本海軍の駆逐艦の名前にもなっているし、夏目漱石の小説でもあるし、源氏物語の巻名にもなっている。それほどに古いことば。ただし野分と台風が同じかというとそういうことではない。野分は「暴風」そのものをさす名称だ。ちなみに明治時代のはじめには「タイフーン」「大風」と表していた。さらに英語の”typhoon”はアラビア語で「嵐」という意味がある”طوفان”(tufan)、あるいはギリシャ神話に登場する最強の怪物・テュポンに由来するという。

クイナ……ツル目クイナ科の鳥。特に日本では沖縄本島の「ヤンバルクイナ」が有名。生息地域は日本だけでなく世界中にいるのだが、あまり飛ぶのが得意でないため、絶滅した種も多い(ヤンバルクイナも飛べないし、日本で唯一の飛べない鳥である)。体長は23～30cmとけっこう大きい。鳩ぐらい。ずんぐりとした体型、がっしりした足、そして何といってもくちばしの色が特徴的。上のくちばしは黒く、下は赤い。この色はツル科であることを表しているようで、繁殖期には鮮やかな赤になる。羽毛はオスもメスも同じ色で、顔の周りから上半身、腹部にかけては青みを帯びた灰色。額から尾羽まで茶褐色をしており、黒い斑点が入っている。「夏は来ぬ」(なつはきぬ)という唱歌に出てくる。「楝（おうち）ちる　川べの宿の門（かど）遠く　水鶏（くいな）声して　夕月すずしき　夏は来ぬ」…クイナの鳴き声で夏が来た、という歌だ。スウェーデンなど北欧からイランや中国など広い範囲に生息する。スウェーデンで繁殖し、冬季には南のアフリカ大陸に移動するなど、冬には温暖な地域に渡りをする。日本では、北海道および東北北部で繁殖し、冬季には本州の関東以南でよくみられることから「冬鳥」とも。水鳥なので沼、水田などによくいる。半夜行性で警戒心が強いため、人間の見えるところにはめったに出てこない。1981年までヤンバルクイナの存在が知られていなかったのはそのため。鳴き声は「クックックッ」あるいは「クィックィッ」というような感じで、そもそも「クイ」と「なく」から「クイナ」になったという信じられないような話もある。

チェスボクシングは文学作品が元ネタ……チェスとボクシングとを交互にやるチェスボクシング。絶対に混ぜてはいけないであろうものを混ぜる暴挙なのに、このわくわく感は何なんだろう。チェスのラウンドからスタートし、次のラウンドでボクシング、その次のラウンドでチェスと交互に繰り返していき、11ラウンドまで戦う。勝敗はチェスで勝ってもボクシングで勝ってもOK。チェスのラウンドが4分間、ボクシングのラウンドが2分間を11ラウンド繰り返す。え、待てよ？じゃあチェスのラウンド中に休憩すればいいのでは？と思うかもしれないが、それを防ぐために持ち時間がある。12分という持ち時間なので、チェスのラウンドで何もせず座っていると、チェスラウンドの3つ目、全体でいうと5ラウンド目で負けてしまう。かなり過酷である。最終ラウンドに近付くほど思考力がなくなって、チェスの手はだんだん意味不明になっていく。実は、エンキ・ビラルという小説家・映画監督が書いた「ニコポル三部作」というSF3部作の中の1つ「冷たい赤道」に登場している。世界大会も行われているというから驚きだ。ヨーロッパではいまだにニッチなファンがおり、今でも世界大会を見ることができる。ちなみになんと日本も同じことをしていた。テレビの企画なのだが、将棋のプロ棋士である先崎学八段VSボクシング元世界チャンピオンの井岡弘樹。将棋ラウンド中に、先崎が残り1手で井岡の玉を詰ませたのだが、次のラウンドで無念のKO…井岡弘樹に軍配が上がった。

中原中也の詩・サーカスの意味……中原中也による「サーカス」は国語の教科書にも載っている有名な詩だが、詩の意味があまりわからない。「幾時代かがありまして/茶色い戦争がありました/幾時代かがありまして/冬は疾風吹きました 幾時代かがありまして/今夜此処でのひと盛り/今夜此処でのひと盛りサーカス小屋は高い梁/そこに一つのブランコだ/見えるともないブランコだ/頭倒(さか)さに手を垂れて/汚れた木綿の屋根のもと/ゆあーん　ゆよーん　ゆやゆよん/それの近くの白い灯が/安値(やす)いリボンと息を吐き/観客様はみな鰯/咽喉(のんど)が鳴ります牡蠣殻と/ゆあーん　ゆよーん　ゆやゆよん/屋外は真ッ暗　暗(くら)の暗/夜は劫々こうこうと更けまする/落下傘奴(らっかがさめ)のノスタルジアと/ゆあーん　ゆよーん　ゆやゆよん」。サーカス小屋の空中ブランコを描いたものらしい。「いくつもの時代」「茶色い戦争」「冬は疾風」から、すでに戦争というものは遠く離れ、平和な時代になっていることがわかる。観客がイワシのようになって(口を開けて)その様子を見守る。遠く離れた時代に起こった戦争の落下傘のようだと思いながら。「ゆあーんゆよーんゆやゆよん」これこそまさに日本語の神髄。サーカスの空中ブランコの、長いロープがたわみながらゆっくり大きく揺れている様子が、こんなにも美しく現れている。ちなみに「日本の名詩、英語でおどる」というアーサー・ビナード氏による本に、この詩を英訳するときの苦労が述べられている。「日本語は、擬音語と擬態語が実に豊富で、工夫すれば造語もできる言語的環境だ。それに引き替え、英語にはオノマトペが乏しく、増やそうにもなかなか増やせない。一番のネックは、スペルだ。英語を母語とする人間でも、活字で知らない単語に出くわすと、その発音がおぼつかない。発音記号を解読したとしても、やはりだれかに聞かないと、確信は持てない。辞書に載っているような新出語でさえそんな具合なので、できたてホヤホヤのオノマトペ造語はもっとおぼつかない。意味が通じるかどうかという問題も立ちはだかっているが、それ以前に、書き手が考えた発音の通りに果たして読まれるかどうか、保証はまったくない。“Yooaaan Yooyohhn Yooyayooyon”ーなんのことかさっぱりわからない。でも、少なくとも空中ブランコの雰囲気ではない」彼はこれを音楽とみなし、それを音楽として感じてもらうために原語の日本語通りにしようとしたが、発音が伝わるかわからないのでやめたとのこと。結局”Seeeee Saaaaaw sea and saw”としたらしいが。シーソーはあのシーソーだが、これで行ったり来たりする感じを出すのと、それから「見る」「見た」という意味もあるので、サーカスの最初の「幾時代かがありまして」とうまく共鳴する。

台覧試合……皇族が直接観戦している武道やスポーツの試合のこと。広義には「高貴な人」が見るという意味だが、現代ではその意味では使われない。天皇が観戦する場合は「天覧試合」と呼ぶ。甲子園、相撲、野球、テニスなどが今まで台覧されている。明治時代から皇族の邸宅で剣術の台覧試合が行われている。2009年には甲子園を徳仁親王(皇太子)が観戦して話題になったほか、実は1953年、ニュルブルクリンクのドイツグランプリを皇太子昭仁親王が観戦したりしている。

アオザイ……正装として着用する、ベトナムの民族服。ベトナム語で「長い上着」という意味。女性用アオザイの美しさは世界的に認知されており、「女性が着用する服の中で最も美しく見える」とまで言われる。ドレスのような服だが、体のラインがそのまま見えるため、相当自信がないと着れないとも思う。オーダーメイドも可能だがが、安く作るなら市場に行こう。ホーチミン3区のタンディン市場は服飾がメインで、採寸や縫製までしてくれる。しかも観光客値段ではなく安い。ベトナム語を話せないと駄目だけども。本場では最近、卒業式や結婚式など正装だけでなく、たんにオシャレとして着ることもある(アオザイでバイクに乗る女性もいるほど)。ちなみに男性用のアオザイもあるが、こちらはもうほとんど見る機会がなく、結婚式での新郎ぐらいしか着ない。それも最近はスーツに変わってきている。

「ちょっとだけよ」で流れる曲、実は悲しい歌だった……タイトルは「タブー」。キューバの作曲家による1930年代のラテン音楽。日本ではもっぱら「８時だョ！全員集合」のコントのBGMとして知られ、とくにペレス・プラード楽団による官能的な演奏のため、加藤茶がセクシーなポーズをとり「ちょっとだけよ」「あんたも好きねぇ」と観客に語り掛けるときに流れる。ゴールデンタイムに放送されしかも高視聴率だったため、曲名や歌詞を知らず、メロディーだけ知っている人も多い。しかしその歌詞はとても悲しい。黒人奴隷が白人女性に恋をする「タブー」を歌ったもの。曲のイメージが曲の良さをスポイルしてしまった例だ。

箱物行政……行政による、施設開発だけに頼ったまちづくり。街にどかんと施設を建設して地域活性化につなげようとするものだが、例えば新しくて立派な庁舎、よくわからない交流施設、公共施設が入居する再開発ビルなど。学校、公民館、博物館、テーマパークなどの建設もこれ。マスコミが政府や地方行政を揶揄するときに使うため、ほとんどプラスの意味は持たない。とくに1990年代、バブル崩壊らへんのときにこれが乱立されて生まれた表現。公共事業を重視する行政姿勢をこう呼ぶようになった。コストパフォーマンスが良くないため批判されがちであるが、みんなが想像するようにどこぞの悪代官が陰謀を巡らせているわけではなく、現場での職員の行動によるものだったりする。補助金申請の締め切りが迫り、手段先行、目的後回しで事業が始まることがしばしばある。つまりハコモノ化を防ごうというインセンティブではなく、たんに「とにかく期限までに関係者の利害を調整して予算を作り、年度末までに予算を使い切り、書類をあげなければいけない」という意識で仕事をしているからだ、と。国からくる補助制度のほとんどは申請期間が短い。市町村担当者が普段から住民と交流を持っていてニーズを把握していても、間に合わない。実務上、とりあえず書類を作って申請をしてしまい、後から関係者を集めて話すこともある。関係者の中から良いアイディアが出ても、補助制度の枠に会わなければ却下される。そこで抵抗する関係者はあまりいない。普通の民間の人が貰えるお金を蹴ってまで、自分の意志を通すことはあまりない。したがって、うまくいったプロジェクトの大半は、すでに実施段階のものが制度の存在を知って「うちにください」と手をあげるものなのだが、そんなものに限って金を出す必要もない。

パレイドリア現象……心理現象の一種で、雲の形から動物や顔を思い浮かべたり、月の模様にウサギを見出したり、音楽を逆再生するとメッセージが聞こえてきたりするアレ。イタリア半島が長靴にしか見えないのもコレ。ランダムデータの中に何らかのパターンを認識する事例である。最もよくあるのが「顔に見える」という現象で、この能力により人間は生き残ることができたという仮説がある。ロールシャッハテストはこれを利用したもの。シミュラクラ現象とか、バックワード・マスキング(逆再生にしたときにはじめて意味がわかるメッセージを曲に仕込んでおく)とかも、これにより説明される。

積和公式・和積公式は何に使うか……まず第一に微分に使う。三角関数の微分をするにはこの計算が必要である。だが実は、航海術に三角比が必要だった関係で、もともとの加法定理とあわせ”prosthaphaeresis”(加減法)と呼ばれ、相当古くから知られていた。和を積に変えるという形態から、対数が考案される以前に、掛け算の計算を簡単にする用途にこれを使えないかという研究がさかんに行われていた。対数の考案者であるネイピアも、これをもとに対数を作り出したそうな。機能のうえでも数学の歴史のうえでも大きな役割を演じた、意外な重要性をもつ格式ある公式なのだ。

円錐台の側面積をエレガントに求める方法……プリンのような、コップをひっくり返したような図形「円錐台」の表面積を考えてみよう。言い方を変えれば、半径がr\_2の円錐から、半径がr\_1の円錐ぶんを切り取ったものである。このとき側面の長さをlとしよう。こいつを平面図に展開してみるとわかるが、結局「でかい円錐から小さい円錐を引いたもの」が、円錐台の側面積になる。つまりS=(r\_2 l\_2-r\_1l\_1)\piとなる。でもこれ、l\_2とかl\_1を求めておかないといけないので結構不便。ここは図形からl\_2:l=r\_2:(r\_2-r\_1)を用いて、l\_1とl\_2を排除してみる。すると、S=\pi(r\_1+r\_2)lとなり、非常に美しくなった。これを別のように解釈すると、S=\frac{1}{2}\times (2\pi r\_1 + 2\pi r\_2) \times lともできそうだ。つまり、展開図の内側の弧と外側の弧をそれぞれ「上底」「下底」、半径に架かる幅、母線を「高さ」とみることで、あたかも台形であるかのように計算できることを示す。さらにさらにS=2\pi \frac{r\_1+r\_2}{2}\times lとすることもでき、これは「母線の中間の点が回転してできる弧の長さに母線をかけると側面積になる、という、非常に有効なテクニックにもなる。

穴あきリングの体積を求める方法……5円玉のようなリング型の立体の体積を求めてみよう。リングの長さはl(l\_2-l\_1とも)で、高さをhとする。円柱をくりぬいた二つの円柱の差として求めることも可能だが、円錐台に関する知識を利用し、先に底面積を求め、それに高さをかけるという順序でやってみる。この底面積は上の公式より、「切り口(リングを半径方向に切った切り口)の断面の長さ」に「中間点の回転距離(この場合は全円)」となる。したがって底面積はS=l\cdot 2\pi \frac{l\_1+l\_2}{2}となり、体積はV=Shとなる。ところでこの式は、V=Sh=l\cdot 2\pi \frac{l\_1+l\_2}{2}\cdot h =lh(断面積)\cdot 2\pi \frac{l\_1+l\_2}{2}(回転距離)と表すこともできる。立体の回転部分の断面積に、同じ中間点の回転距離をかけると、立体の体積になるということを意味している。この公式、回転形状の立体に広く応用でき、「パップス・ギュルダンの定理」という名前まで与えられている。この原理を使えば、切り口の部分が円の、ほんもののドーナツ(用語で「トーラス」という)の体積を計算して出すことも可能だが、使いまわすためには重心が定義される必要があり、その証明には上級クラスの積分が必要なので、知識としてそういうものがあるとだけ知っておこう。

相乗平均(幾何平均)の使い方……相乗平均とは掛け算した積の平均で、対象となるデータをかけた値の累乗根で定義される。一般に「平均」と呼ぶとき、こっちではなく相加平均を意味する。なぜ「幾何」なのかといえば、それは幾何学が掛け算と密接につながっているから。面積がabの長方形に、どのように均等に辺を与えれば、それと面積が等しい正方形になるだろう。当然\sqrt{ab}だ。体積がabcの直方体なら、\sqrt[3]{abc}の辺をもつ立方体だろう。幾何平均は、掛け算、あるいは比率で変化していくような動きについての、平均の変化率を見たい時に使う。このようなケースでは、変化率をピックアップして単純に和の平均をとっても駄目。その代表が投資の分野である。資金が運用利率により増えたり減ったりするのだ。例えばとある投資信託Aについて、「初年度だった3年前が30%、2年前が10％、去年が20％という利回り」だとする。算術平均では平均は20％の利回りだが、算術平均をここで用いるのは適切ではない。というのも、もし投資信託の最初の価格が1だとすると、今の価格は1\times 1.3\times 1.2\times 1.1\times=1.716、1.716^{1/3}=1.197で、利回りは19.7%となることがわかる。同じサンプルについて相加平均である算術平均と幾何平均を比べると、算術平均のほうが必ず値が大きくなる。だから、運用を考える際の誤りになりかねない。同じ理由から経済状況の分析にも用いられ、例えば物価変動の動向、GDPの成長率はこれを使う。対数という観点から見ると、累乗根で平均をとる幾何平均は、必然的にその対数の相加平均になる。だから、対数が単位になる測定値の単純平均は、自動的に幾何平均になり、代表例としてdBがある。

三角形が力学的に強いのはなぜか……それは、辺の長さを3つ決めてしまうだけで、形までも一意的に決まってしまうから。三角形の合同条件である「三辺が等しい」である。これは三角形がひしゃげない形であることを示しており、例えば同じ辺から構成しても四角形では任意の形を取りうるから、容易にひしゃげてしまうことを意味する。三角形を用いた場合、いったん所定の辺の部材を組み合わせれば他の形状を取りようがないため、素材自体の強度まで耐えることができる。建物の耐震補強の筋交い(すじかい)とか鉄橋の橋げたなどいたるところに活用されている。

浮動小数点方式とは……コンピュータの内部で数のデータを保持するときに使われている方式。普通のが「固定小数点」といって、まあ我々がよく使うのは「0.00123」とか「1230」とかだが、これを「1.23E-03」とか「1.23E+3」のように表すのが浮動小数点表示である。ケタの長さにより小数点の位置が元の場所から変動する(Eの横の数字分、右に行ったり左に行ったり)のでこう呼ばれる。これにより、桁数の大きな数値を表す時にメモリを節約できるし、大小さまざまな値を、同じ型枠に入れ保存できる。一般的に使うコンピュータにはIEEE(アイトリプルイー)754という規格があり、これによれば「倍精度浮動小数点形式」という規格で、「指数部」が11ビット(2進数)、「仮数部」が52ビット、最初の「符号部」が1ビット(正なら0で負なら1)である。仮数部の型枠には52個までしか入らないので、それ以降を四捨五入(2進法で0捨1入)し「丸め」た、有限小数の近似値の状態で保持する。

IPアドレスと2進法……IPアドレスの本体は32ビットの2進数で、この32ケタの0/1の並びを読んで、各コンピュータがインターネット上の通信相手を識別する。人間が扱うときは取り違えやすいため、これを8ビットずつの4ブロックに区切り、それぞれ10進法に変換し、インターフェースで受け渡しする。32ビットなので42億もの識別番号を持てるが、これが足りなくなったため「IPv6」という規格の利用も始まっている。IPv6のアドレス長は128ビットなので、340に1兆を3回かけた数になる。

数学的帰納法は帰納法ではなく演繹法である……演繹とは、論理的な推論において、原理や法則を先にたて、そこから個別の出来事や現象を予測する方法である。推論が正常なら、まだ起きていない出来事も予言できる。これに対し帰納法は、個別の現象や出来事から、普遍的な法則を導く方法である。当然、どこまで言っても原理の正当さを完全に確定することはできない。演繹は理論から現象を導く「合理主義」、帰納は経験から理論を導く「経験主義」ともいう。では数学的帰納法はどうだろう。まず原理や法則は演繹と同じように与えられている。そして、そこから具体的な現象を見る時、個別の事象を直接ではなく、ある一か所のペアを取り出し、その間から相互関係のみを確認。あとはドミノ倒しにはるか遠くまで見渡せる。よって、根幹の機能においては「原理から現象」という演繹の一種であることが理解できる。なんともやっかいだが、「数学的帰納法」を「帰納法」と略してはいけない。

燻製ニシンの虚偽……別名を「論点のすり替え」。例えば「早く勉強しなさい」と親が言ったのに対し、子どもが「もう1時間やったよ」というのは正しい。「宿題は学校で終わらせてきたんだから遊びたい」も正しい。しかし「そんなこと言うならお父さんも勉強してよ」というのは論点のすり替えである。もっと実用的な例でいえば「車の使用に規制を設けるべきか」という議題に対し「車の排気ガスは大気汚染の主たる原因ではないから規制は必要ない」ならよいが、「車が駄目なら工場も駄目だ、工場を規制しろ」は駄目ってこと。やらかしがちなのは「捕まらないなら人を殺してもいいと思いますか」に対し「いや、捕まるリスクがあるから駄目」と答える例だろうか。捕まらないという前提が真なら、という話で問題提起しているのに、その部分を疑ってもどうしようもないのだ(といっても、まあこれも場合によるよね…前提が「もしキツネが空を飛べたら」なんて突然言われても、それは面白いだろうし雑談の議論なら交わす価値があると思うけど、真面目なディベートの場面で提起されても腹が立つだけだろうし…)。

相殺法……論題と無関係な論点を立て、相手の主張を否定する論法。「侮辱されて殴ったなら殴ったほうは犯罪じゃないだろ、侮辱したほうが犯罪だろ」が代表例。ありがちなのは「義務なしに権利を与えてはいけない」で、やりがちな誤謬である。義務を果たすかどうかと権利には関係がないはずである。そして「相手よりも不幸な例を引き合いに出して後ろめたくす奴www」もこの一種。「昨日こけちゃってさ、膝がすりむけて最悪だった」に対し「最悪とか何言ってんだよ、俺なんて借金200万、まだ返済し終わってないんだぞ」結局一番不幸な奴がチャンピオンになる不毛な対決なので、乗らないのがよい。

誤った類推……類推は話を分かりやすくするための代表的な方法だが、類推が完全に一致するわけではない。類推を置くだけで自説を立証することはできないのだ。それが議題の例に即していることを説明する必要がある。明らかに間違っていることがわかる例として「ボクシングの判定が素人には無理なように、じゃんけんの判定も素人に無理だ」。つまりどんなにもっともらしい意見だろうと、結局この意味不明な類推と本質はかわらないわけで。よくやらかしがちなのが「いじめは嵐と同じだ、待っていればいつか過ぎ去る！！」。なぜいじめが嵐と同じなのか、ちゃんと説明してもらう必要がある。あるいは例を出された場合は、「類推を使わずに説明してください」と言おう。

因果関係と相関関係と疑似相関……因果関係は「太陽が昇ったから明るくなった」など、一方の変化によりもう一方の変化を引き起こす関係のこと。相関関係は「地球の二酸化炭素の濃度上昇とともに地球の気温が上昇した」である。疑似相関は「相関関係のデータを見て、勝手に因果関係を結び付けてしまう」ことで起こる、一見相関関係に見えるできごと。よくあるのが「犯罪が多い国は刑務所が多いから、刑務所を減らせば犯罪が減る」みたいなの。犯罪が多いから刑務所が増えたのであり、刑務所を減らしても意味がない。ほか、Aという本流からBとCという結果が生まれ、BとCについて人間が勝手に因果関係を結び付ける例もある。例えば「朝ごはんを食べる子は成績がいいから、朝ごはんを食べよう」というような例。ほんとは「裕福な家庭は朝ごはんを十分に出せるし、教育にもお金をかけられる」だけかもしれない。ただ、100％間違いとも断定できない。「空腹で集中力が減るのを予防できるから勉強が捗るのだ」という因果を結び付けることも可能である(当然実証は必要であるが)。疑似相関なのか相関関係なのかの判定は、意外に難しいのである。

プロスペクト理論……リスクを伴う決定がどのように行われるかについての理論。行動経済学の用語、あるいは心理学の用語。人間は利益を堅実に得ようとするが、損失はギャンブル的に減らそうとする、というもの。例えば「100万無条件でもらえるorコイントスで表が出たら200万、裏なら0円」という選択肢の場合、前者を選ぶ人間が圧倒的に多い。しかし、(負債を100万円背負っていたとして)「そのまま100万支払うorコイントスで表なら借金チャラ、裏なら200万に増額」という場合、後者を選ぶ人間が圧倒的に多い。「損失回避」という用語で説明されている。

フレーミング効果……選択肢のフレーミング(構成)が異なると、意思決定もつられて変わってしまうという効果のこと。例えば「ある伝染病に1000人が感染し、放置すると全員死にます。A案、B案のどちらかを選んで助けてください」と言われたとする。その後質問を2回される。「A：300人が助かる。B；7割の確率で全員死ぬ」と、「A：700人が死ぬ。B：30％の確率で全員助かる」。1問目も2問目も結局同じことを言っているのだが、一問目ではほとんどがAを、2問目ではBを選択した。同じ選択肢でも違った結論になることがあるのだ。タウリン2000mg配合！も同じなのだろう。

議論と論題の種類……議論には4つの種類がある。広い意味でのディベートが「討論」、説得する相手は観客や審判である。2つ目が「競技ディベート」で、これは自分の思想の側でプレイできるとは限らない。「議決」は集団としての意思決定をするために行われ、多数決を用いることもある。「対話」は自分と違う意見を聞いて見識を深めるためのもので、結論が1つになる必要はない。論題の種類には3つあり、「事実論題」といえば、あることが真実かどうかを議論する。「神は存在するか」など。「政策討論」では、ある方針をすべきかどうかが問われる。「銃は規制されるべきか」など。「価値論題」はあるものごとが良いか悪いかを討論する。

NIMBY施設……”Not In My Backyard”の略。ニンビーと読む。「社会に必要だけどうちの近くには建てないで」という建物のこと。ごみ処理場、火葬場、墓地、刑務所、空港などがあげられる。これらは家に近いほどデメリットが大きいのに、家から遠くても享受できるメリットが大差ない。国が補助金を出して利益を調整することもあり、そのような方法を「正のインセンティブ」という。逆にできてほしい施設、コンビニとか公園をYIMBYという。

なぜ0.52を「レーテンゴーニー」と読むのか……日本語は機関銃リズムと呼ばれ、拍が全て同じ時間的長さを持つ。英語はモールス信号リズムといい、強い音節が長く発音される。2757を読むときに「ニナナゴナナ」だと、数字の切れ目がはっきりしなくて気持ちが悪い。ここは数字1つ当たり2拍ということで、「ニーナナゴーナナ」にしたいのだ。小数点も同じで、「レー/テン/ゴー/ニー」とすることで、リズムをとっている。では「レー/テン/ゴ・/ニ・」のように、休符を入れればいいじゃないかという意見もあるが、恐らく数字を読むアクセントの問題でそれが受け入れられないのだろう。例えば「レーテンゴーニー」を読むとき、ほとんどの人は「高・低・低・低」と読むだろうし、「ゴーナナニーゴーサン」は「低・高・高・低」で読むはずだ。これらの最小単位、つまり四拍子をつくらないと気持ちが悪いから、途中で休符を作りたくないのだと説明される。

俳句と四拍子の関係……俳句や短歌が5と7を使う理由は、川本晧嗣の「日本詩歌の伝統－七と五の詩学」によると、四拍子と関連しているという。適当な俳句をリズムに合わせて読んでみるといい。確かに四拍子でカウントできるはずである。ただし「言語」1999 年 5 月号で俳人の松林尚志がこの七五調四拍子説に反論している。松尾芭蕉はこのようなリズムの良い歌を「句に拍子ありてよろしからず」とし、あえて切り捨てているのだ。そもそも四拍子だけを重視するなら、最初から４文字や８文字で言えばいい。そうでないということは、仮に日本語の本質が四拍子でも、日本語の詩は四拍子ではないと示唆しているだろう。

「黒い猫」の英訳は何か……それは厳密に言えば”a black cat”ではない。実はそれと「黒い黒猫」は異なる構造を持っている。例えば日本語で「走っている車」は”a running car”だが、「通りを走っている車」になるととたんに”a car running on a street”で、語順が逆になる。「通りを走っていた車」だと”a car that was running on a street”となり、「句」の構造がはっきりしてくる。つまり、日本語は主要部が後に来て、英語は主要部が先行する。同じことが黒い猫にも言える。確かに形容詞と名詞の組み合わせに見えるのだが、実際は「走っている車」と同様、述語と名詞の組み合わせなのだ。日本語で「形容詞＋名詞」が関係節だといえるのは、日本語では形容詞が動詞みたいに述語になれることと、主要部後行型であること、関係節が関係代名詞を必要としないことの３点に由来する。だから「猫は黒い」という文から「黒い猫」を導くのは簡単だ。しかし英語は”The cat is black”から関係節をつくると”a cat that is black”になる。これが「黒い猫」の直訳で、これを”black cat”とすると、もはや関係節ではない。つまり日本語は英語と異なり、形容詞が名詞に結びつく理由を必要としない。関係節なのでそもそも結びつくのは当然で、その面、日本語のほうが文法的に一貫している。英語の形容詞はそもそも、英語の主要部先行という規則には合わないのだ。では”a black cat”に対応するのは何だろう。それは「黒猫」である。英語の形容詞は活用せず、述語になるには”be”が必要なので、日本語の観点ではほとんど名詞に等しいと言ってよい。つまり”a black cat”(あるいは「黒猫」)は、単に「猫に対する属性としての黒が付加された」というわけではなく、むしろ「チェシャ猫」という語に近い。中国語も日本語に似ている。

水無月の「無」は「ない」ではない……実は「な」は現代日本語の属格「の」と同じで、「水の月」という意味。神無月も同じで「神の月」。水無月の６月に雨が降るのは実は当然なのである。出雲では神が集まるから「神有月」と呼ぶというのは、「な」が使われなくなって生まれた俗説である。この「な」は現代にも生きており、「まなこ」は「眼の子」、まなざしは「眼の差し」、たなごころは「手の心」、みなとは「水の門」。このような複合語は、その中の単語が使われなくなるととたんに切れ目が感じられなくなる。「まつ毛」の「つ」も属格だし、「わがまま」だって「我のまま」、「キノコ」の「ノ」も属格、「いのしし」も「猪のしし(ししは獣という意味)」で埋もれている。日本語はヨーロッパの言語と違い音節が少なく、くっつけた後に別の漢字を割り当てるため、もうわからなくなる。「さかな」は「酒菜」だし、「おみおつけ」に至っては、最初「つけ」と呼んでいたがこれを丁寧に「おつけ」と呼ぶうちに切れ目がわからなくなって「みおつけ」さらにわからなくなって「おみおつけ」である(これに関しては異説もあるし、そちらのほうが有力なので話半分)。確かに単語の切れ目がなく、一語になってしまうのは構わない。問題はことわざだ。現代語に直さずにことばの塊にするのが普通だが、文法は現代語に直さないから問題になる。「情けは人の為ならず」だって、本当なら「情けは人の為ではない」とするのがいいだろうし、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」なんてもう、現代日本語話者がそのまま言えるようなものではない(言ってたら気持ち悪がられる)。ことわざの意味が変わっていくのも、そういう理由によるものなのかもしれない。

日本語に英単語・和製英語が入ってくる理由……英語礼賛の風潮もあると思うが、それよりも「目に飛び込みやすい」ということでたくさん使われるからだろう。新規開店と書くよりも新規オープンとしたほうが、印象に残る。すると必然的に名詞を多用する。日本語では動詞や形容詞は活用語があるので長くなりがちだからだ。項目を箇条書きにするときも体言止めが好まれるから、和語よりも漢語・外来語が好まれる。しかし、日本人は意味の広い英語の隙間を1000年以上かけて意味の狭い漢語で埋めてきた。今後英語由来の外来語を増やしても日本語や豊かにならないだろう。英単語は和語と同じく意味が広い。「新規オープン」では何ができたのかわからないし、「チェック」一つとっても、「検査」「点検」「照合」「確認」「検証」「解析」いろんな漢語に当てはまる。英語は楽だが曖昧である。おおまかにものごとをつかむ和語と細かく切り刻む漢語があるのに、ことさら粗い英単語を捨てるのは無益に思われる。

「させていただく」の違和感……させていただくというのは自分の行動について使われるが、ほとんどの場合は「謙譲語」で代用できる。例えば「する」を「させていただく」、「食べる」を「食べさせていただく」のように。その違和感が何に由来するかといえば、聞き手を無視しているからである。ただし、許可を得る場合、相手の意志に反して何かを実行するときに使う場合は、この限りではない。「何と言おうとさせていただきます」はおかしくないだろう。似た表現に「お～する」があるが、これは単純な謙譲ではない。話し手が聞き手に何らかの利益を与えない限り使えないからだ。「お泳ぎしました」は奇妙だけど「お送りしました」はOKという例である。

変な漢字……漢字は3500年以上の歴史を持つ、現存する最古の文字体系である。諸橋轍次による「大漢和辞典」には、我が国が誇る漢語研究の金字塔で、5万以上の漢字が収録されている。その中には見たこともないような奇妙な画を持つものもある。このような漢字のほとんどは、まだ画が固定化していない頃の非常に古い漢字が字典の中に生き延びたもので、いわば「漢字のシーラカンス」だろう。以下「今昔文字鏡」の番号とともに紹介したい。まず000117番、「ん」に似た「也」の古字。「了」を逆さまにした「チョウ」(000229)、「予」のさかさま文字である000234。「凹」に斜め線が2本入った001834、「工」の真ん中に、「S」を反転した部品を持つ唯一の漢字である008717、「弱」の半分を反転させたような部品を持つ009821、どうみても「V」が入っている041103、電話番号のマークみたいな2回転ループがある049023、海賊旗の骨みたいな部品をもつ049580。「邑」と左右対称の039270、そして最も奇妙なのが、「或」を書いて、その下にその上下逆さまの部品を組み合わせた011673、何とも気持ちの悪い漢字たちであったが、これが使われていた時代もあるのだ。

日本語における「世界一」は同音異義語の数……日本語の特徴とされるものの多くは、世界の言語の中では珍しくない。敬語の体系はバリ語やジャワ語のほうが発達してるし、擬音語や擬態語は韓国語のほうが豊富だし、ことばの性差は男と女がまず違う単語を使うヤナ語やヤニュワ語に及ばないし、助数詞はツェルタル語や中国語のほうが複雑だ。しかし同音異義語の多さに関して言えば、日本語が世界一だろう。普通、言語の中で同音異義語はそうそう発生しない。普通、文脈で区別できないものは音が変わったり捨てられたりし、1つだけが生き残るためだ。ただし字の違う同音異義語、例えば”queen”と”quean”は両方とも生き残った(後者は書き言葉の中でしか用いられなくなったけども)。日本語で最も同音異義語が多いのは「こうしょう」である。なんと45個。しかしこれら全てが最初から「こうしょう」だったわけではない。奈良時代には「かうしゃう」「かふしゃう」「かうしょう」「かうせう」「かうせふ」「くゎうしゃう」など10個を使い分けていたが、これがだんだん一体化した結果である。中国語の声調が、日本語に入ってきて全て失われたのだが、奈良時代には辛うじて違いが残っていたのである。同音異義語が増えて昔の日本人は不便でなかったのかといえば、たぶん当時は思わなかったのだろう。一般人は漢語を知らず、個人の語彙の中で同音衝突しなかったからだ。また漢字の知識もなかったので「大工」を「でーく」と呼んでいたほど。これが受け継がれなくてよかったと胸をなでおろすばかりだが、それにしても昔の日本人、あまりに発音に無頓着過ぎたと言わざるを得ない。そのせいで今の日本人は発音だけで「交渉」と「考証」を区別できないのである。その代わりに「科学」を「かがく」、「化学」を「ばけがく」と呼んだり、「売春」を「ばいしゅん」、「買春」を「かいしゅん」と呼んだりして、何とか言い換えている。

薬指には「名前がなかった」……現在「薬指」と呼ばれる第四指であるが、漢語すると「無名指」(むめいし)、つまり名前がない指という意味なのだ。親指を「拇指」、人差し指を「食指」などと呼ぶのに、薬指だけ名前がないのである。鎌倉中期に「薬師指」が現れ、江戸時代に「薬指」となった。なぜ薬指だけ特別な扱いなのだろう。ここは日本語以外に目を向けてみる。実はラテン語でも薬指を”digitus medio proximus”(中の隣の指)、”digitus annularis”(指環の指)、”digitus medicinalis”(医者の指)と呼んでいたらしい。日本語とうり二つである。かつて第四指を魔法の指とみなす考えは世界中にあり、次に示すようにその考えが現れている。まず、名前を呼ばない。「千と千尋の神隠し」のように魔法の世界では名前は力であり、名前を知ることは支配につながる。モンゴルでは今でも子供にわざと汚い名前(辟邪名)をつける。力を持つものの名前を呼ばない。古代中国では他人の本名を読んではならなかったし、日本は今でも天皇の名を呼ばない。第四指が魔法の存在なら、その名をみだりに唱えてはならない。フィンランド語、ブルガリア語、モンゴル語、全て「名前がない指」という意味でこれを呼ぶ。他にもサンスクリット語、ペルシャ語、ロシア語、世界各地の言語で「名無し指」と表現する。ラテン語の「中の隣の指」、英語の「三番目の指」も同じ発想だろう。それから、指輪の名前で呼ぶ。「ニーベルングの指環」「指輪物語」など、指輪は典型的に魔法の品であり、薬指につけるのがふさわしい。古代エジプト人は第四指が心臓に繋がっていると考えていたため、ここに指輪をつけていた。そして最後に医者の名前で呼ぶ。第四指には病気や傷を治す力があるとされていた。薬師指はもちろん、ラテン語でもドイツ語でも医者の指を意味する。仏教の薬師如来の像を見ると、左手に薬壺をもち、右手を前にかざし、右手第四指を必ず曲げている。薬を塗るための指、とだけ知られていた薬指だが、実は古代の魔術的な考えを、現代ににおわせるものだったのだ。

投手と打者……英語では”pitcher”と”batter”であるが、これを日本語に訳した際、「手」と「者」で分けていることに気付いただろうか。これらの接尾辞をもつ語を集めてみるとその理由がわかる。「手」としては「歌手」「騎手」「交換手」「二塁手」「選手」など。「者」は「医者」「演奏者」「王者」「加害者」「患者」「独裁者」など。つまり、手は何らかの任務を持つ肉体的な技能職を、者は一時的な役割や立場などを指す。訳した人(たぶん正岡子規)は、野球と日本語をよくわかっていたのだろう。

「左右」と「右左」……前者は漢語、後者は和語だが、なぜ語順が逆なのだろう。重要なものを先に言うというわけではないようだ(中国では右大臣が上だが、日本では左大臣が上だった)。実のところ文化とは関係がない。ことばにはことばの規則がある。それぞれの言語の発音が、和語を「みぎひだり」、漢語を「さゆう」たらしめている。というのもまず日本語では、二語を並列につなげる場合「母音で始まる語が前」「短い語が前」というルールに従う。これに従わなかった例に「鳴海」(鳴る＋海で母音が消えて融合)、「小雨」(融合を避けた例)などがある。「右左」は「みぎ」より「ひだり」が短かったためにそうなった。一方で漢語では、唐代の声調である「四声」で決まり、「左右」となったという。発音で語順が決まるのは世界的なもので、”man and woman”とか”salt and pepper”、”Tom and Jerry”、”Simon and Garfunkel”など、英語では強弱の二拍子や強弱弱の三拍子が好まれる。

音素を徐々に失った人間……コイサン諸語という言語がある。アフリカ南部の言語群を指すのだが、ここにはクリック音、つまり吸着音があることで有名である。吸着音は子音とみなされ、母音と続けて発音される。コイサン諸語、それから取り入れた周辺のバンツー諸語以外にはない。この中のグイ語には52の吸着音、38の子音、10個の母音、6つの声調があり、合計して106個の音素がある。そして最近の研究によれば、コイサン諸語が人間の最初の言語に最も近いらしい。つまり我々の祖先はみな吸着音を使っていたのだ。その後一般的に、東に行くほど少なくなる。日本語には二十数個しかないし、太平洋地域やアメリカ先住民の間にはもっと少ない言語もある。世界一音素が少ないのは、ニューギニア近くのブーゲンビル島固有のロトカス語、およびアマゾン川上流のピラハー語で、わずか11個しかない。大人になって新たな音素を学ぶのは難しいが、すでにある音素を捨てるのは簡単である。アフリカから離れるにつれ発音が簡単になるのは、人類が歩いた道を示しているということ。

「涼しい風」があるのに「涼しい飲み物」がない理由……人間には二つの温度感覚がある。皮膚で感じる温度と、自分の体温である。日本語はこれを「熱い・冷たい」「暑い・寒い」として使い分ける。「暑い」とは体温が正常より高いことで、皮膚の血流が増えて発汗する。この状態から体温が『望みどおりに』下がるのが「涼しい」である。一方で「寒い」は体温が低いことで、ここから体温が望み通りに上がることが「暖かい」である。熱いものを食べると体温が上がり暑くなる。体温が低いときはこれが快いので、暖かく感じる。つまり寒い時期の熱い飲み物は「温かい」といえる。熱いと暑い、暖かいと温かいは近い感覚なのだ。一方で冷たいものを食べすぎると、体温が下がって寒くなったりするし、胃も痛くなる。「冷たい」と「寒い」はかなり異なる感覚なのだ。冷たい水に入ると熱が奪われてしまい、涼しさを感じない。人間の体は発汗でしか温度を下げないから、「涼しい風」があっても「涼しい飲み物」「涼しいプール」がないのである。

世界の国々の教育状況……韓国は非常に受験が厳しく、かつての日本のお受験世代のようである。スウェーデンは福祉国家で名高いため、全部の学費が無料、しかも社会に出た人間まで気軽に学べる。受験制度はなく、高校での学業成績が加味される。しかし大学在学中の学業成績を重視するため、スムーズに卒業できる学生は4割ほどと厳しい。ドイツは日本と大きく異なり、小5から高3まではギムナジウムという一貫教育で学び、その卒業試験アビトゥーアをパスし、大学に入学できる。なかなか難しく、質疑応答を含むプレゼンもある。チャンスは2回で、合格できなければ一年のみ浪人できるが、それ以降は一生受けられない。アビトゥーアの資格を持っていれば基本的にどこでも入学できるが、入学制限のある学部に進学する場合は成績順になる。フランスはバカロレアといって、日本でいうセンター試験があるが、大学による二次試験はない。そのかわりバカロレアに「一般バカロレア」「専門バカロレア」など4つがあり、それぞれで問題が違う。ある意味免許と似ている。中国は大学進学だけでなく、海外の大学院への飛躍まで見越して受験に挑む。というのも、経済的な困窮が解消できること、語学ティーチャーなどのバイトで収入が得られることなど。ロシアは小学校から高校まで授業料が無料、一般的に高校卒業までは修了するが、広大な国土なので、キャンパスが居住地域にあるわけではない。多くが通信教育を利用し、昼間働いて夜に学習するのがほとんど。それだけ真剣ともいえる。また、入試は口述試験のウェイトが高く、ほとんど半分である。用意された箱から引いた封筒に問題が記載されており、その回答を口述にて回答するという手法がとられる。イタリアで受験というと、入学希望者が異常に多い一部の大学を指す。というのも、他の大学や小中高はほとんどが公立校で、入試そのものがない。そのかわり卒業は非常に厳しく、入試後の試験で基準を超えないと落第になり、落第が二回あると退学になる。また、高校卒業後に国家試験「マトゥリタ」が科され、この国家資格が大学の入試資格となる。大変に厳しく、専門書を持ち込み可能な試験を1日4時間、1か月にわたって行われる。高校は予備校のようなもので、試験対策がそのまま授業内容になっている。スペインで特徴的なのは受験が大学までないこと。義務教育は6～16歳までの10年間である。その後は高校2年、大学は5、6年ある。学校は公立、私立、半私立(義務教育の間、政府の援助が受けられる)に分かれ、貧乏人は半私立を受けさせたがるのだが、競争率が高いのもお約束。私立の学校でも入学試験はなく、高校も中学を卒業していることが入学条件となる。大学では受験があるが、高校の成績と、大学入試試験の成績平均点(公立の場合、住んでいる地域、兄弟がいるかなどで点数が決まる)で大学が決まる。

国際バカロレアの試験問題……フランスの大学入試資格である「バカロレア」とは異なるもので、世界共通の大学入試資格のことである。日本人でも、認定証書である「ディプロマ」を使い海外に進学できる。TOEFLのように試験を受ければいいというわけではなく、バカロレア認定された教育機関のプログラムを受ける必要がある。その問題はかなり日本の受験と異なっており、論述が多い。例えば”How do specific groups express their identity through particular uses of language? Base your answer on your study of the language and culture opinion.”(言語の固有の使用方法を利用し、特定の集団がいかにしてアイデンティティを表現するか、言語と文化について自分で学んだことに基づいて答えよ)、「演劇」の科目では「舞台に現れる方法と去る方法の効果について比較せよ」、歴史では「少数民族の迫害の主な理由は何か」など。日本ではしかし、2014年7月現在、ディプロマを高校卒業と同時に獲れる高校はわずか7しかない。授業が英語、フランス語などで行われるため、なかなかネックなのだ。

バカロレア資格の試験問題……今度はフランスのほうのバカロレアである。初日は哲学の問題だが、2016年のものを抜粋してみる。「道徳的信条は経験に基づくか？」「欲望には本来際限がないか」「マキャベリの『君主論』の抜粋を説明せよ」「人は常に自分の欲望を知るか」「人はなぜ歴史の学習に興味を持つか」。絶対にこんなの解けそうにないし、フランスの教育は素晴らしい！と思うかもしれないが、実は日本の大学入試と同様に、厳密な採点基準やテクニックがあり、書店には対策コーナーも設けられている。

なぜメタノールを摂取すると失明するか……エタノールは体内で代謝され、アセトアルデヒド、酢酸へと変わっていくが、これと同様にメタノールも体内でホルムアルデヒド、ギ酸に変化する。ホルムアルデヒドやギ酸は人間にとって猛毒なので死亡することもありうる。死ななかったとしても失明する可能性は高い。その理由として、アルコール脱水酵素(メタノールをホルムアルデヒドにする)が、肝臓に次いで網膜にいっぱいあることが原因。網膜では光を感知し、それを脳に伝えて映像化するための処理が行われているが、その処理は全て化学反応で成り立っている。レチノール(ベータカロテンを真ん中で真っ二つにしたやつ)というアルコールをアルコール脱水酵素が脱水し「レチナール」というアルデヒドに変え、これを変形したものを視細胞で光と反応させて光を感知している。つまり光の感知に、アルコール脱水酵素が必要不可欠なのだ。当然、メタノールも眼球でホルムアルデヒドに変化し、視細胞が破壊されてしまうので失明する。さらにいえば、メタノールを誤飲した場合はエタノールを飲むと、失明の危険性が減る。人間の代謝優先度はエタノールのほうが大きいので、エタノール分解中はメタノールが分解されず、肺から呼吸で外に出ていく。

光よりも速い物体はないのか……例えば、直径10万キロの円盤があるとして、これを1秒間に1回転させたら、端っこのほうの速度は簡単に30万キロを超えるだろう。これは起きないのだろうか。結論から言えば、起きない。アインシュタインの特殊相対性理論における運動方程式の範疇になり、簡単にいえば光速に近付くほど、見かけ重量が増大してしまうため、高速にたどり着かない。円盤の質量が増大することから、本来なら円盤を1秒で1回転させるだけのエネルギーを与えても、質量が増加した円盤を回す方にエネルギーが取られてしまい、一定以上加速できないようになっている。

有名な毒物の作用機序……黄リンはそもそも自然発火するので、食べると口や胃が焼ける。自然に発火するほど反応性が高く、体内の水分や胃液で高濃度のホスホン酸、リン酸を形成し、代謝阻害を引き起こす。オゾンは安定な形になろうとしてO-(スーパーオキサイドアニオン)を生成するが、これは一般でいう活性酸素であり、フッ素に次ぐ強力な酸化力を持つため、誤飲すると内臓が糜爛(びらん、ただれたような状態)し、内臓不全で死ぬ。ヒ素はヒ酸という形になり、体にあるリン酸とよく似ているためDNAなどに間違って取り入れられる。ところがリン酸よりも分解されやすく、制御が効かないところで勝手に分解し、DNAやRNAを破壊する。エチルグリコールは中枢神経系を麻痺させて死亡する。

川から湯気が出る理由……寒い所にいくと、温泉でもないのに川から湯気が出ているのが見えることがある。これは温度差によるもので、一般に陸地よりも水のほうが冷えにくい。気温に比べて川の水温が高いために湯気が見えるのだ。

車のナンバーのハイフンは何のためにあるのか……ない国もあるのだが日本にはある。あれは覚えやすくするためだという。いったん区切ることで覚えやすくしているわけだ。郵便番号や電話番号も同じ理由だという。

クラクションは押す強さで大きさは変わらない……なんとなく強く押すと大きい音が出そうな気がするが、実はそうじゃない。押している長さが違うだけで、音の大きさ自体は同じ。錯覚してしまう不思議な雑学である。

コーラに牛乳を入れると……透明になる。コーラの酸で牛乳のタンパク質が固まり、コップの下に沈む。そのため上澄みは透明の液体になる。味は…ナオキです…。

ドライアイスの上にスプーンを置くと……カタカタと振動して音がなる。ドライアイスから二酸化炭素が出ていくとき、スプーンを動かすためだという。

水の中に接着剤を入れると……ヘビのようにうねうね動く。これは接着剤の成分が溶けだすためである。

車の暖房は燃料を使わない……実はエンジンの熱を利用して温めているだけなので、燃料は使わない。しかし冷房は燃料を使う。冬は車の中で暖まるのがよいだろう。

換気扇掃除は暖かい日のほうがよい……油汚れは寒いと固まってしまうから、少しでも暖かい日のほうが、油がとれやすくなる。このとき、ドライヤーを使って温めてあげるとなお早く終わる。同じように窓ガラスの拭き掃除は、晴れている日よりも曇り・雨のほうがよい。乾燥しているときは汚れがこびりついて落とすのが大変だし、日差しが反射して汚れを見落としがち。曇るときは酢水でいけるが、どちらかというと鏡用の対処法か。

カイロは揉むと逆効果……かつては揉んで温めていたが、今では空気に触れるだけで暖まるよう、鉄粉を細かくしたり活性炭が入ったりしている。揉み過ぎると酸素を取り込むミシン目が詰まってしまい逆効果になるのだ。ちなみに、使い始めてすぐに必要なくなったら、ジッパーのついた袋に密封しておこう。長時間経った後でも復活して使える。また、使い終わったものは玄関に置いておくと、活性炭の効果で消臭できる。

書き損じはあんまり損しない……販売期間に限り、1枚5円の手数料で新品に交換してもらえる。同額の切手や他の郵便商品にも交換できる。しかしこれを知っている人が少ないのか、4分の1ぐらいの人は出したことがないという。

怪しい電話の番号がわかる……たぶん固定電話限定であるが。ナンバーディスプレイのない電話の場合、「136」を押してみよう。「ナンバーお知らせ136」につながり、かかってきた着信の番号がわかる。これはなかなかに有用な雑学である。

ダイソンの新商品は日本からまず販売する……イギリスメーカーのダイソン掃除機だが、日本の顧客は商品をきちんと理解してくれるということで、最近ではまず日本から販売を開始し、売れ行きを見るという。

掃除機の雑学あれこれ……部屋によって掃除機の掛け方を変えよう。じゅうたんの場合はまず一定の方向にかけた後、最初と垂直の方向にかけたほうが、効率よく汚れが落ちる。畳やフローリングは一方向だけでよい。普通に掃除機をかけるとダニやカビの死骸が飛び散るから、面倒でも最初に絞った雑巾で床を拭いてからかけよう。掃除機の排気臭は、重曹をまんべんなく床にまき、ラベンダーオイルを数滴たらした後、掃除機で吸おう。匂いの原因である酸性の成分を重曹が中和するため、匂いが消える。掃除機をかける前には一度部屋を暗くしよう。ダニは光を避ける性質があるから、一度暗くすることで出てきて、吸い取りやすくなる。掃除機は朝にかける。ホコリは夜のうちに床に落ちるので、朝にかけるのがベスト。ペルシャ絨毯は裏も定期的に掃除機をかける必要がある。もともと乾燥地帯で生まれたものなので湿度に弱い。定期的に掃除しないとカビが生えてしまう。ガラスの破片も掃除機で掃除できる。先にストッキングを少し余らせて装着する。スイッチを入れると先を吸い込むので、この状態でガラスの破片などを吸い込めば、あとはストッキングを取り出すだけで安全に片付けることができる。トイレットペーパーの芯でノズルを作れる。芯を斜めに切り、掃除機の先端にはめ、テープで固定。これだけでノズルになり、玄関、トイレ、サッシの掃除におすすめ。

巻いてあるカレンダーや模造紙の巻き癖を直す方法……冷蔵庫で15分冷やし、結露で少し湿らせた後、巻き癖の強い所を重点的にドライヤーで乾かしてから全体を乾かすと、すぐにまっすぐになる。よくできている。

簡単にパスタを中華麺にする裏技……水1リットル当たり重曹を20グラム入れ、2分長くパスタを茹でる。こうすると、重曹がかん水の役割を果たし、あの独特のモチモチ感と香りになる。ぜひとも試してみよう。

暖房を切る前に加湿器を切らないと駄目……エアコンを切ると急に温度が下がり、結露のもとになってしまう。加湿器よりエアコンを1時間後に切ることで、少し部屋を乾燥させる必要がある。

犯罪にまつわる雑学あれこれ……防犯カメラが白黒の理由。データ量がカラーより少ないからではない、節約のためでもない。暗がりでは白黒のほうが見やすいためである。銀行の観葉植物は、犯罪者の身長の目安にするために置いている。だいたい170センチほどのものが一般的。危険な時には「助けて！」ではなく「火事だ！」と叫ぼう。家を守るために出てきてくれる。空き巣が一番入るのは金曜日。家を留守にしがちだからだ。平日では月曜から順番に発生率が増える。塀の高い家は一度入ってしまうと見つかりにくいため空き巣に狙われやすい。高くしても中が見えるようにしよう。声をかけると空き巣を諦める傾向がある。「こんにちは」と声かけするのがよい。青にはイライラをおさえる役割がある。青い色の街灯を導入することで、犯罪率が減ったというデータもあるほどだ。空き巣は公園で下見する。家族構成や家を空ける時間などのチェックを公園で行う。スーツ姿、作業着でじっとこっちを見てくる人には注意しよう。カーテンの色がピンクだと、女性が住んでいると思われて危険なので、ぜひとも黒や茶色にしたい。室内にある盗撮カメラは、部屋を真っ暗にして携帯のカメラで探すとよい。携帯は赤外線を赤く見せてくれる。刑事ドラマと違い、刑事よりも鑑識のほうが立場が上である。そもそも、刑事が鑑識よりも先に現場に入ることはない。花を育てたり、放置自転車を処分するだけで空き巣の被害は減る。普段から庭に出ていろいろやっていると思うと、空き巣に入る気もなくなるのだろう。緊急じゃないけど警察に相談したい場合、「#9110」にかけてみよう。24時間営業のコンビニにもシャッターがある。これは暴動などへの緊急対応のためのもの。火事場泥棒からどさくさで商品を奪われないようにしている。カギは写真に撮ってアップしないこと。カギ番号がわかるだけですぐに複製されてしまう。かつてそういう事案も起こっている。居留守はしないほうがよい。もし相手が空き巣の場合、留守を使わないほうがよい。中に侵入され、命の危険が及ぶことも。インターホンで対応することが防犯対策になる。

レタスは包丁で切るのはよくない……包丁の金属に反応し、酸化して赤くなってしまうので、手でちぎろう。そのほか、レタスの鮮度を保つには、芯のところにつまようじを刺しておこう。これだけで鮮度が長持ちする。

ピーマンは縦切りにすると苦くない……輪切りにするよりも縦切りにしたほうが苦味・青臭さがぬけてよい。これはピーマンの繊維が縦に入っており、それに沿って切ると細胞を傷つけないから。ちなみに、ピーマンのへたが五角形のものより、六角形のもののほうが甘くておいしいので、子どもに食べさせるときのために覚えておこう。あと、苦いのは種とワタ、そして薄皮(軽く焼いて冷水で冷やせばここだけ剥がせる)。

コンディショナー(リンス)は毛先にだけつければよい……髪の毛は根元から5センチぐらいは健康な毛なので、コンディショナーは必要ない。痛みやすいのは毛先なので、ここに重点的に使ってあげよう。髪が薄い人には必要のない雑学である。

買い物袋が手に食い込んで痛い場合……単純だがけっこういい。ビニールの取っ手に一円玉を入れると、食い込み防止になる。確かにそうだけど、これは思いつかなかった。

領収書の棒線の意味……値段ヒトケタずつに縦の点線がある。あれは偽造防止のためだという。この棒線があることで、勝手に金額を変えられないようになっている。円締めやコンマも同様の理由。

キャビンアテンダントの正面の席には……15歳未満の子どもは座ることができない。非常時にCAさんの手伝いをする必要があるためである。

電卓の「AC」と「C」の違い……ACはオールクリアで、これまでの計算全てが消える。Cは「クリア」で、一つ前に入力したものが消える。

焼肉の後はガムを食べた方がいい……唾液で消化を促進するため、胃もたれしにくくなるという。焼肉屋でガムを配っているのはそういう理由である。

毛布はかけるよりも敷いた方がいい……意外に知られていない。上にかけるよりも下に敷いたほうが、布団の中の温度は2度前後変わるという。

インフルエンザ予防にうがいはあまり意味がない……全く知られていない。インフルエンザウイルスは20分もあれば細胞に取り込まれて増殖していくので、効果が薄いそうな。ただ、うがい自体は汚れや雑菌を流すため、風邪の予防にはめちゃくちゃ効果的。

駅員の白手袋は何のためなのか……あれは、電車の扉に挟まってもすぐに抜けるようにである。寒さを防ぐとか、指示が目立つようにという理由ではない。

おでんの具材を入れる順番……美味しいおでんを作るためには、味が染みやすいもの、例えば大根やこんにゃくが先で、味が出るもの、例えばはんぺんや昆布などが後。火が通りにくい順番ではないので、覚えておこう。

マスクでメガネが曇る時の対処法……ティッシュ1枚を細く折って、最後に半分に折ったものを、マスクと鼻の間に挟む。これだけで隙間がなくなり、メガネが曇りにくくなる。

加湿器は置き場所で効果が違う……理想的にはエアコンの下がいい。加湿された空気が一緒に流れるためだ。

ポットの温度に違いがあるのはなぜか……だいたい、70度、80度、90度の三つがある。あれはちゃんと用途を考えてのこと。90度はコーヒー、80度は煎茶が一番抽出しやすい温度になっている。70度は赤ちゃんのミルク用で、殺菌ができ、なおかつ栄養分も減らない。

すき焼きの肉をやわらかくする方法……簡単である。キウイかパイナップルをすりおろして上からかけるのだ。酵素がタンパク質をやわらかくしてくれる。

ふわふわのオムレツを簡単に作る方法……卵2個に対し、小さじ1ずつの小麦粉とマヨネーズを入れてみよう。小麦粉が型崩れを抑え、マヨネーズでコクが増える。

手ぬぐいの端っこがほつれている理由……ケガなどの緊急時にこれを割いて包帯の代わりにできるから、であるが、残念ながら知られていない。

ビンの商品は自販機で買うほうがいい……容量は同じなのだが、自販機のほうは運搬の際に割れる可能性を想定し、ビンが分厚くなっている。そのため自販機で買ったもののほうが壊れにくい。

しいたけは冷凍保存する……冷蔵保存よりも冷凍保存のほうがよい。栄養価やうま味が高まるという。

大根の煮え具合は箸で刺さなくてもわかる……マッチの火を近づけてみよう。火が消えたときは煮えておらず、火がそのままだと煮えている。燃えると水蒸気の速度が遅くなるため消えなくなる。ただ、これをやるぐらいなら箸でぶっ刺したほうが早い気もする。使う場面がない。

らっきょう玉……がま口の、金具の部分のこと。これは久々に役に立たなそうなのが来たな。アレに名前が。

郵便配達のバイクは……実はハンドルのグリップの中にヒーターが入った特別仕様。これにより郵便配達員の手がかじかむのを防いでいる。細かいところの気遣いが実に日本らしい。

朝日新聞のデザインは東京版と地方版で違う……東京版は桜、それ以外は葦になっている。こりゃあ役に立たない。けど好き。

餃子の王将には「両面焼き」がある……注文の際に「餃子両面焼き」といえば、パリパリの餃子を食べることができる。餃子の王将が近くにないので役に立ちそうにない。

IKEA開店前に行くと……一日中得ができる。併設されたレストランに開店から30分前に行くと、ホットドリンクが無料になる。しかも朝一でこれを手にすれば、もはや制限時間なしで飲み放題。これはもうやるしかないな。

チャイルドシートの代金は補助金が出る……多くの自治体で補助金が出るため、実質的に無料で買うことができる。6歳未満の子どもには着用義務があるが、守らない親が多いのでこうしている。しかし多くの雑学と同様、これがそもそも知られていないのが残念。防犯ブザーも補助金が出る。

郵便局の控えは持っておいたほうがいい……同じ住所に送る場合、前回の控えがあると60円引いてくれる。1年間有効だし、同じ住所に複数送る場合も割引がある。

野良猫の耳が切れている理由……避妊・去勢手術をした目印として耳を切っている。殺処分せずに繁殖を防ぐための不妊手術ということで、動物愛護団体もこれにはニッコリ。ジバニャン、もしかしてお前…。

飛行機代を安くするための裏技……確実に行くことがわかっているなら、75日前だと航空会社によっては最大で8割も安くなる。さらに旅行積立プランというのがあって、満期になるとサービス額を足した旅行券がもらえる。一番いいのは、こんな雑学を利用しなくても済むぐらいに金持ちになることである。

空港の草が短く刈り込まれている理由……あれは、鳥や人が隠れないようにするため。遅延のトラブルの原因を最初からなくしているのだ。

空港のレシートの裏がお得……手荷物検査のときに電子チケットをかざすと、座席番号などが書かれたレシートが出てくる。あれの裏を見てみよう。レンタカー割引とかコーヒー無料などがついてくることがある。

回転ずしを食べるなら「サーモン」がオススメ……カウンターのお寿司屋でも回転ずしでもほとんどネタの質が変わらないのが輸入もののサーモン。ノルウェーから空輸しているという点で両者は同じなので、ぜひともサーモンだけを食べよう。

高級レストランには2種類のメニュー表がある……値段が書いてあるもの、書いてないもの。例えば彼女をデートにつれていくとする。メニュー表を渡して「なんでも食べていいよ！！」と言われたはいいが、彼女の立場からすれば「さすがにおごってくれる人よりも高いものは…」と遠慮してしまうだろう。相手に気を遣わせないよう、値段のないメニュー表も用意しているのだ。

どん兵衛で茶碗蒸しが作れる……貧乏くさい雑学。残ったつゆ200ccをマグカップに入れ、2つの溶き卵を入れたら電子レンジで2分加熱するだけ。和風だしがしっかり効いた、おいしい茶碗蒸しの出来上がりである。

食器のシールを簡単にはがす方法……シールを水で濡らし、電子レンジでチン。あるいはお酢をかける。これだけで簡単に外れる。お酢は臭いので前者をお勧めする。そのほか、ドライヤーの温風でシール面を温めたら、濡れた布を当てて、その上からアイロンを当てていくという方法もある。

スパゲッティの一人前の量を計るには……ペットボトルを使おう。口のサイズが一人前なので、はじめからペットボトルに保管するのも賢いといえそうだ。

安いコーヒー豆を深い味わいにするために……フライパンで炒ってみよう。炒ることで苦味と香りが強く出てくることがある。

炭酸飲料の炭酸を抜けにくくする方法……ひっくり返して冷蔵庫で保管するだけ。キャップ部分の気密性が高くなって、炭酸が抜けにくくなる。

リモコンが故障か電池切れか判別する方法……スマホや携帯のカメラで見てみよう。赤外線が見えるので、そもそも電池がないのか、それとも赤外線が出ていないのかがわかる。

切符を間違って買ったときは……自動券売機にある払い戻しボタンを押して、間違えた切符を入れるだけで、お金が戻ってくる。窓口でいちいちいろいろやる手間を考えれば、知っておきたい。

病院の点滴は効果がないかもしれない……痛み止めなどを必要以上に希望する患者用に、医者がこれ以上は危険だと判断したとき、薬効がない成分を投与することがある。プラセボ効果を狙ったものであるが、馬鹿にするなかれ。小麦粉でガンが治ったみたいな、ウソみたいな話も報告されている。ただしこれを知ってしまった時点で、たぶんプラセボ効果は働かない。

海外の野球中継でも日本の広告が出ている理由……あれは放送局がCGで合成しているから。本場は無地のことも多い。

放送席！放送席！……ヒーローインタビューのときに必ず2回繰り返すアレにもちゃんと理由があった。音量調整のためである。様々な放送局で実況が中継されるため、局によって音量にばらつきが出ることがある。1回目の「放送席」は開始の合図、2回目の「放送席」は音量調整のためのもの。

バナナを黒くしない方法……皮ごと50度ぐらいのお湯に入れてみよう。味は変わらず、お湯の熱に対抗し、鮮度を回復しようとする。だから黒くなりにくくなる。通常5日しかもたないが、これが2週間に伸びる。ちなみにこれぐらいのお湯だと、浸けたあとに1時間放置すれば糖度が5度も大きくなる。バナナに含まれる「アミラーゼ」という消化酵素が深く関係している。バナナはでんぷん質を多く含む食材なのだが、アミラーゼによってそのデンプン質を糖に変えることができる。そのアミラーゼがもっとも活性化するのが40～50度の環境なのだ。当たり前だが熱湯だとべちゃべちゃになる。お湯の温度は5分間、40～50℃にキープしておく必要はない。バナナを投入した時点で40～50℃であれば、あとはそのまま放置しておけばOK。

マニキュアを塗るとボタンが取れにくくなる……ボタンを留めてある糸の部分にマニキュアを塗るととても頑丈になるのだとか。5キロの重さでも大丈夫に。

マンションに関する雑学あれこれ……マンションのベランダは禁煙。一般的にマンションの共用部分は禁煙であることが多いが、ベランダもそのうちに入っているから、禁煙になる。急行・快速列車の止まらない駅は、止まる駅に比べ、周辺の家賃が1～2万円は安いのだとか。住む分には別にどこでも変わらないので、そういう駅を探してみるのもよいだろう。内見(ないけん)は4回、昼と夜、平日と休日の4回が理想、何なら季節も違うともっといい。マンションの間取りは他の部屋も見よう。自分の部屋の上下左右を見る必要がある。自分の部屋の寝室の横が隣の家の風呂だったら、騒音の原因になるかも。配管は外にあったほうがいい。見栄えは良くないかもしれないが、中に隠してあるとトラブルが起きたとき対処しにくい。物件チラシのカースペースには要注意。普通自動車だと入らない(軽自動車なら入る)ことがあるから、広さを計っておこう。住んでいる街の地盤は「地盤サポートマップ」というサイトで確認しよう。

おにぎりにごま油を混ぜると硬くならない……油が入っているから、時間がたっても硬くならなくて済む。しかも、風味が出てくる。

紙幣に描かれた人物画の意味……なぜ野口英世とか福沢諭吉さんをお札に描くのか。それは偽造防止のため。人間の目は、人の顔や表情のわずかな違いにも違和感を持つため、偽造を見抜きやすいという。

紙幣と硬貨の違い……実は発行しているところが違う。紙幣は日本銀行が発行するが、硬貨は政府が発行している。

日本銀行でも個人向けの業務を行っている……なかなか知られていない雑学。日本銀行といえば「政府の銀行」「銀行の銀行」と言われ、個人向けの業務を行っていないイメージだが、支店が全国に32か所あり、ボロボロのお金の交換、国税・社会保険料・反則金の納付、国債手続きが個人でも可能。

お札を手の平に乗せると……自然に反り返る。手から蒸発した水分がお札の特殊な繊維の隙間に入り込み、変形するのだという。

東京よりも神奈川のホテルのほうがお得かも……東京では「宿泊税」が取られてしまう。主に旅館やホテルが対象で、10000円未満は非課税、10000～15000円は100円、それ以上は200円かかる。2017年1月からは大阪でも始まった。

街並みを見るだけで距離がわかる……電柱の1本1本の間隔の目安は電力会社により決まっている。電柱を数えればおおよその距離がわかるのだ。おもに写真から個人情報を特定したい人が使う雑学なのだろうか。

いらないリモコンは捨てたら駄目……リモコンの中にレアメタルの一種である「タンタル」があり、自治体によってはこれを回収しているときもある。

使いかけの香水を買ってくれる店がある……ネットで使いかけの香水(もういらなくなった)を買い取ってくれる会社がある。箱に詰めて送るだけで現金にできるので、ズボラな人間、もったいない人間にはいいかもしれない。人気の香水だと量り売りで買う人もいるためである。

生け垣には補助金が出る……知られていないが、多くの自治体で生け垣に補助金が出る。相場は1メートルで1万円ほど。空気の浄化、防音、災害時の延焼防止効果を見込まれてのことなので、ぜひ家に設置してみよう。

硬くなったパンをもとに戻す方法……食パンとかに使えるやつ。新しいパンで古いパンを挟み、半日ほど袋に入れて放置しよう。すると、カチカチだったパンがフワフワになる。

包丁でバターやチーズを切る時は……キッチンペーパーを巻いたまま包丁でカットすればよい。バターナイフにも応用できるし、ようかんを切る時にも使える。

通学路を守らないともしもの時に困る……通学路は、交通量などを目安に、より安全な道を学校が指定するものである。通学路以外で事故が起きても災害共済給付金が支給されない可能性がある。というのも、これはあくまで「学校の管理下」でのケガで支払われる。寄り道するのはよくない。

ダイエットのために階段を登るのは意味がない……階段を登っても健康によいわけではない。体重によるが、10階分を登ってもわずか25kcalしか消費されない。これは歯磨き10分と同じ。膝に負担がかかるデブにとってはむしろリスクである。

タクシーのサイドミラーはなぜ前にあるか……乗用車と同じように真横にミラーがあると運転手の顔は左右に向いてしまう(巻き込み確認などで)が、前についていれば顔は動かない。客への配慮で、視線が移動することによる不快感を与えないためなのだ。

落としものは郵送してもらえる……2017年4月から、「返還率が低い」「保管のコストがかかる」ことを理由に、落とし物を郵送するサービスが始まった。かつては現地まで取りに行ったり申請書を書いたりとなかなかに面倒だったので、よい変化である。

学校の視力検査に「2.0」はなくなった……今は1.0までしかはからない。というのもこれ以上あってもあまり変化がなく、1.0あれば日常生活は十分だから。

ペットボトルは猫避けにならない……全くならない。昔はそう言われていたが、全然駄目である。たまたま誰かがそうだったのがテレビで広まっただけということらしい。足つぼも駄目。エチレングリコールを、えさに、混ぜよう！

人工呼吸はしないほうがよい……感染症予防のため、原因不明のまま直接口に触れるのは危険。例えばその人がウイルスにかかってぶっ倒れていたとしたら。人工呼吸用のマスクがあるから、それをつけて行うのがいい。ただ、心臓マッサージだけでも生存の可能性は大分上がる。

ひじきに鉄分はあまりない……鉄分が豊富ということで食べなさいと言われていたひじきだが、成分を調査したら、鉄分はあんまり多くなかった。これまで調理法が鉄鍋だったことがその原因。今ではステンレスなので、鉄も出なくなってしまった。まあおいしいので許す。

サングラスで乗り物酔いを防止できる……車の中で流れる景色を見ていると、景色と体の揺れの不一致から、脳が混乱して乗り物に酔う。サングラスで情報や光を遮断すると、防止効果が期待できる。他にもアイスを食べると治るとか。

サービスエリアとパーキングエリアの違い……レストランとガソリンスタンドがあるのがサービスエリアで、ないのがパーキングエリア。ちなみにサービスエリアは必ず50キロ以内に1つはつくられている。エンプティランプが点灯して、50キロは走行可能だからだという。

スーツケースとかタンスにたくさん衣類を入れる裏技……服を裏返して入れるだけ。裏に縫い目があり、そのまま畳むとかさばるからだ。特に厚手の服に効果的。

旅行チラシは白黒のときのほうがお得……白黒広告はいわば急ぎである。急なキャンセルの空きを埋めるために急いで出している場合があり、通常よりも割引になる可能性がある。

ホテルが満室でも泊まれる場合がある……「3つの3とT」という法則がある。予約が取りやすいタイミングのことで、宿泊の3日前・当日の午後3時・チェックインの3時間前に、特にキャンセルが生まれる。TはTELで、キャンセルの電話のことだ。

ホテルの宿泊カードを書く理由……防犯というのもあるが、それよりも大きいのが感染症の拡大防止。万が一感染症が起こったとき、ちゃんと客を追うことができるようにである。

わさびに砂糖を入れると……実はより辛くなるし、香りが立つ。砂糖の成分がわさびの水分を吸いだすためである。もしかしてこれ、塩でもいいんじゃないか。

手に付いた油を簡単にとる方法……ポテチやフライドチキンを食べた後の油脂はなかなか取れない。実はポリ袋で拭くだけで簡単に取れる。ポリエチレンは油を吸着しやすい。おしぼりがない場合に試してみよう。

卵に関する雑学あれこれ……ゆで卵と生卵の見分け方。回してみよう。よく回る方がゆで卵である。また、殻がきれいなのがゆで卵。生卵の新しいのと古いのの見分け方。産卵後常温で1週間たったものは振ると音がし、塩水に入れると浮き、光を当てると黄身が離れてくっきり見える。卵を保管するときは尖ったほうを下にする。丸いほうに空気が溜まっており、そこを上にしたほうが黄身が空気に触れにくく、鮮度が保たれる。卵の殻の色と値段は関係がない。白でも茶色でも味や値段に差はなく、その違いはニワトリの色だけ。新鮮な卵は茹でると剥けにくい。新鮮な卵には内部に炭酸ガスが溶け込んでいるため、ゆでると膨張し殻にへばりついてしまう。これを防ぐには茹でる前にヒビか穴をあけるのがよい。生卵は全力で握っても割れない。全体を覆うように握っても、中の水分が反発して割れないらしい。プロレスラーでも無理だった。卵はむやみに洗ったら駄目。タマゴの表面にある呼吸穴や対雑菌の膜が壊れてしまうため。買ってきてすぐに洗うと、使う時には雑菌が…という事態になりかねない。調理する直前に拭くぐらいでよい。生卵よりもゆで卵のほうがすぐ傷む。たった3日しかもたない。生卵にはリゾチームが入っているが、加熱するとこれが失われ、殺菌作用が弱くなるため。醤油やだしつゆに漬け込んで味玉子にするという手もあるが、それでも4～5日以内には食べよう。ゆで卵を刻んでマヨネーズと和え、フィリングにして冷凍すると1か月は持つ。

無洗米はなぜできたか……水質汚染を防ぐため。とてもとても意外な雑学。とぎ汁には赤潮のもとになる成分が含まれており、これを家庭で沢山流すとやばい。洗うのが面倒だからということで、主婦の方々との利害も一致している。

時間にルーズな人に遅刻させない裏技……タイムサブミッシブという方法である。9時とか10時半みたいなキリのよい時間ではなく、中途半端な時間を指定する。無意識に細かい時間感覚になり遅刻が減るという。

ゼリーがパンパンに入っているのはなぜか……長期保存のため。空気が入ると酸化が進み、品質が早く落ちてしまう。真空でないものに比べ、パンパンのものは倍以上長持ちするという。

コンディショナー(リンス)はシャンプーよりも前がいい……シャンプーでごしごし洗うと髪にダメージをかける場合もあるため、先にコンディショナーでダメージを軽減してあげよう。

救急車のサイレンの音はだんだん小さくなっている……現場に近づくにつれ、だんだんと小さくしているのだ。それは場所が特定されて野次馬が集まるのを防ぐため。逆に消防車は、周りに火事の場所を教えるため音をぶちっと切れるようにしている。自分ちの近くで切れたら絶対気になるだろう。

薬を飲むときのお茶は駄目なのか……実はそれは昔の話。今はカテキンが影響しないような薬ができているから、市販薬の場合はお茶でも問題ない。ただ、飲み合わせが駄目な薬は存在するから、医療機関で処方されたものはきちんと医者に確認すること。あと、グレープフルーツジュースを血圧の薬と飲むと効果が強くなるから気を付けよう。

バスケやバレーをすると背が伸びるのか……と言われてはいるが、これを研究したものがないので、いかんせん医学的根拠には欠ける。

IH対応鍋の判断方法……基本的に磁石をくっつけてくっつくものがIH対応である。IHは磁場により電気を流し、その抵抗でものを温める仕組みだからだ。

コンビニの入り口にある線……扉には線が何本か描かれているが、これは強盗や不審者の身長の目安とするためである。

空港はなぜ免税なのか……空港内は実はどこの国にも属さない。出国手続きをするとき、輸出品扱いになり非課税なのだ。ちなみに街中の免税店はあくまで外国人観光客を対象とした消費税の免税。”DUTY FREE”は関税や消費税など基本的にすべて免税、”TAX FREE”は消費税など一部が免税。マニアックだが在日米軍基地内のスーパーも免税だったりする。

寝る前にコーヒーを飲むと……実はカフェインが30分後に作用してくれるから、よく眠れるようになるという。ただしあくまで「適量」である。4杯も5杯も飲むのはまずいですよ！

動物病院のペットは何のために飼われているのか……緊急時の輸血のため。だから大型犬が多いのか、なるほど。輸血のためだけに飼われるというのも気の毒ではある。

犬や猫が首をかしげる意味……キツネもオオカミもたぶん同じことをしていると思う。あれは音を聞き取ろうとしているから。なんにせよめちゃくちゃかわいい。

海苔をあぶる意味……あれはパリッとさせるためだけではない。実は炙ることによりうまみ成分が増えるのだ。グルタミン酸が3.5倍、イノシン酸が3倍ほど増えるという。

新書とは「新しい本」ではない……実は本のサイズのことである。新書のサイズは縦18センチで横11センチ、新しい本のことはそれじゃあ何と呼ぶかというと、「新刊書」である。

ロールケーキを綺麗に切るための裏技……糸を使い、縛るようにすればきれいに切れる。本当にきれいに切れるので、ぜひともお試しあれ。たぶんケーキとかサンドイッチとかでも応用できると思う。

よくある都市伝説雑学あれこれ……雨に濡れるとか帽子をかぶったままとかはハゲに関係がない。男性ホルモンの影響であるから、これらは無関係。人間の脳はわずか数パーセントしか使われていないってのも、ウソ。生きている限り脳は全部使われている。北半球と南半球で排水溝の渦は逆、にならない。確かにコリオリ力は働くが、それは台風のような大きなものでこそ。排水口の水の渦程度に働くようなものではない。

重複しない乱数の生成プログラム……「乱数を発生させた後、もし配列内に同じ数値があったらもう一度乱数をつくり」というのが一番わかりやすい方法だが、これ、めちゃくちゃ効率が悪い。ここでは方法を変えて、(C言語の場合)配列に数字を順番に設定、乱数を取得、乱数で配列にアクセスし、配列内部の値を乱数とし、使われた数値を配列の後ろにコピー、という方法を使うといい。もしくは「重なりのない数列に対し、乱数で発生した二か所を入れ替えて並びをばらばらにする」というのも、楽でよい。

C言語のポインタとは結局何なのか……ある変数型のアドレスを持てる「ポインタ型変数」を、ポインタと略する。ここにある変数のアドレスをセットすることで、そのアドレスに対し、データの読み書きをできるのだ。例えばint item=12とし、”int\* pointer”と宣言する。この後、”pointer = &item”とすれば、itemという変数のアドレスがポインタ型変数の”pointer”に代入される。で結局これ、お気に入り登録みたいなもんなのよ。「これいいな！」と思ったものを登録する機能が「ポインタ」であり、そのために使われるのが「ポインタ型変数」、そして、実際に登録されるページが「変数」。だから例えばprintf関数で(”%d\n”,\*pointer)とすれば、あるいは代入のときに”x=&pointer”とすれば、登録されたアドレスの中身の値(12)を使える。逆にお気に入り先に値を書き込むことも可能なので、この場合はお気に入りというよりもデスクトップにつくるショートカットに近い。”\*pointer=14”とすると、今まで12だったitem変数の値がpointer先輩により書き換えられ、14となる。ちなみに使うことは全然ないが、itemという変数のアドレスが知りたい場合はprintfで(“%p\n”,pointer)とすればいい。つまり、「pointerの登録先の値をいじくりたい」ときは\*pointerとし、「pointerの登録アドレスに関する操作」がしたいときはpointer、変数自体のアドレスを持ってきたい場合は&itemとしよう。で、具体的には「登録がしたい」場合は”pointer=&item”、「登録先の値がほしい」場合は”\*pointer”、「登録先の値を変更したい」場合は”\*pointer=1”、「登録されたアドレスが知りたい」場合は”pointer”である。全然難しくなかった。ちなみに配列の場合、アドレスはほぼ必ず隣り合っているので(マンションの101号室と102号室みたいなもん)、それを利用した驚くべきスーパープレイも見受けられる。

C言語の関数へのポインタについて……実はC言語では、関数にもアドレスが割り振られている。そのアドレスを格納するポインタが「関数へのポインタ」である。主に「関数をコールする際、引数として関数へのポインタを渡し、呼び出した関数の中でポインタが指す関数を実行する」ケースと、「関数へのポインタを配列に格納、テーブル化することでifやswitch文の条件分岐をなくしプログラムを簡単にする」目的で使われる。宣言は”戻り値の値(\*ポインタ名)(引数リスト)”というように行い、関数のプロトタイプ宣言とよく似ていることがわかる。例えば”int (\*f)(int n)”というようにである。あらかじめtypedefで新しい型名をつけると便利(例えば”typedef int(\*MYFUNC)(int n)”というように)である。

C言語では関数も#defineで宣言できる……簡単。#includeのあと、main関数の前で、”#define f(x)((x))”のようにすると、main関数の前でも使える。いちいち行を移動して書き換えるのもだるいので、3行目ぐらいで書き換えられるのは大きい。

プログラムの計算量を求める方法……計算量とは「そのプログラムがどれぐらい速いかを示す大雑把な指標」である。もう少し正確には「入力サイズの増加に対し、実行時間がどれぐらいの割合で増えるかの指標」。例えば入力サイズがnだとし、実行時間がnに比例する場合はO(n)と表す。計算量を求めることでアルゴリズムの性能が比較できる。手順は簡単。プログラム全体のステップ数を求め、最大次数の項以外を除き、係数を除き、O(\log{n})などがある場合は底を除く。一般にいえばO(1)<O(\log{n})<O(n)<O(n\log{n})<O(n^2)<O(n^3)の順に性能が悪くなる。なお、今求めたのは「時間計算量」である。実行時間に関する計算量だ。これに対し「空間計算量」は、メモリ使用量に関する計算量である。

なぜ三単現にsをつけるのか……素朴な疑問だが、本格的に問われてこなかった。まず英語は1500年を越える長い歴史を持ち、様々な変種が発達してきた。その中にはWeなのにsをつけるもの、絶対にsをつけないもの、and以降の2つ目の動詞だけsがつくものなど、一般に「誤用」とされそうな変種もある。この変種というのはvarietyの訳語で、アメリカ英語、イギリス英語、ジャマイカ英語、シンガポール英語など、本当に多数の変種がある。で、多くの言語にありがちなように、結局主流となった現在のルールが「正しい」とされてしまい、他は間違っているとされている。つまり三単現にsをつけるかどうかで文法の間違いを決めるのは、方言に価値をつけるようなもので意味がない。たまたまsがつくものが「生き残った」にすぎないのだ。

gnuplotの使い方……簡単。まずsin波を描画することを考える。そのためには”plot sin(x)”とうつ。複数のグラフを描画するには”plot sin(x)”と打った後、”replot cos(x)”のようにする。ファイルに出力することも可能で、.pngと.epsファイルがある。”plot sin(x)”とうち、”set terminal pngcairo”(解像度がぐっとあがる)、そして”set out “sin.png””のように。最後には”replot”と打つ。3行目の時点でsin.pngはできるが中身がカラなので、4行目の”replot”を入れるのだ。そのほか、グラフの体裁を整える設定もある。軸を変えるには”set xr[0:1]””set yr[-1:1]”とする。書いた範囲のところを表示してくれる。軸を対数にするには”set logscale y”のように。また線の太さを10にするとかは”plot sin(x) lw 10”、赤線にするのは”sin(x) lt rgb “red””とか、点で描画するのは”plot sin(x) with points”とか。2ごとに主目盛を入れる場合は”set xtics 2”で、主目盛間を5等分するように副目盛を入れる場合”set mxtics 5”、目盛の数字のフォントをArialで、サイズを24にする場合”set tics font “Arial,24””とすればよい。軸ラベルを変える場合は”set xlabel “t[s]””、x軸のラベルのフォントをサイズ24のArialにする場合は”set xlabel font “Arial, 24””のように。

エラーバーの付け方……簡単。グラフを三つ(平均、最高、最低)用意する。そいつらを全部一つのページにまとめ、「グラフ要素の追加」から「高低線」を追加、その後、最高気温の書式設定のところで「マーカー」を「組み込み」の真っ黒横線にし、最低でもこれと同じことをする。これで終わり。

エクセル、片対数グラフ上でフィッティングを行う……例えば、y軸を対数表示した片対数グラフを描いたら、それが直線になった。これに対してフィッティング直線をかけたい場合。で、これ実は簡単。例えばxの値がA2:A10にあって、yの値がB2:B10だとする。y=a\cdot e^bの形でフィッティングさせたいのだから、yの値の対数をとったデータはLN(B2:B10)なので、aはEXP(INTERCEPT(LN(B2:B10),A2:A10))で求められるし、bはこれをSLOPEにすればよい。

地球外文明からの信号だと勘違いされていた星がある……それがPSR B1919+21、こぎつね座の方向にある中性子星。世界で初めて発見されたパルサーであり、約1.337秒で自転する。質量は太陽の1.4倍だが、直径は10万分の1しかない。そのため密度は1立方センチあたりで7億トン、脱出速度は光速の2/3に達する。自転周期は100億分の1秒まで正確に合っており、そのため発見当初は地球外文明からの信号であると考えられていた。そりゃ、数秒に1回規則的な信号がきたら勘違いもするわな。

日本語はオブジェクト指向的？……オブジェクト指向ユーザーインターフェースについて述べておこう。簡単にいえば、対象物を先にユーザーに選択させることで、実行できるメニューコマンドの幅を狭め、使いやすくしようという発想だ。例えば文書ファイルを開けば、まずまっさきに文章編集のソフトが現れる。もしこれが逆で、「印刷」「編集」「色塗り」「演奏」「撮影」など、50個ぐらいの中から「文書」を選ばなきゃいけないとしたら、多分メンドクサイだろう。Windowsに何気なく実装されているのはこの技術なのだ。で、これを念頭に置くと、日本語は確かにオブジェクト指向である。「塩を…」といえば、99％の人間は「相手が塩を取りたがっている」ことを察するはずだ。

急なお通夜は平服で行くのが正しいのか……葬式マナーの一つで、よく言われる「葬式に喪服で参加すると、前もって用意していたと受け取られて失礼に当たる」だが、最近では通夜だけに参加し、告別式や葬儀に出ないケースも増えているため、お通夜でもフォーマルな喪服を着用するのが礼儀のようだ。ブラックフォーマルやブラックスーツが基本で、ネクタイ、靴、靴下も全部黒。ネクタイピンや結婚指輪以外の装飾品も外す。ただし出先などの場合、用意できなかったことを必ず関係者に伝えるようにする。勤め先から直接行く場合、コンビニや百円均一でとりあえずネクタイだけは黒のものを調達しよう。喪章は親族がつけるもので、参列者がつけるのは失礼にあたる。

通夜で必要なもの……香典とそして数珠である。香典は新札でないもの、数珠は自分の宗派のものを持参する。通夜に参列したときの流れも抑えておこう。まず、受付でお悔やみのことばを述べてから芳名帳に記帳し香典を渡す。そして棺のある部屋に入り、焼香する。焼香のやり方を知ろう。まず焼香の前には親族に一礼、右手の親指、人差し指、中指で、香炉の右側の抹香をつまむ。手を返し目の高さまで持ち上げた後、香炉の左に指をこすり合わせながら抹香を落とす。最後に親族に一礼して戻る。

オブジェクト指向とは結局何なのか……それは「考え方」である。C言語のポインタと同様に、C++の鬼門として扱われることがよくあるが、そもそもポインタとオブジェクト指向は全然違う。ポインタは実装であるのに対し、オブジェクト指向は「考え方」である。だから本とか人によって答えもバラバラ。でもひとことでいえば「プログラムを、手順ではなく、モノの作成と操作で見る考え方」である、と。例えば目の前にあるパソコンが一体どういうしくみなのかを、操作者が知っている必要は全然ない。「こういう『モノ』(object)をつくろう！」「そしてその『モノ』を使おう！」というのが考え方だ。で例えば、レーシングゲームを作るとする。「A車はAボタンを押すと走る、Bを押すと止まる」「B車はAボタンを押すと走る、Bボタンを押すと止まる」みたいなのを1万車種もプログラムできるかといえば、それはたぶん苦痛でしょうがない。なんとかプログラミングしても、「やっぱりCを押してバックする機能を作ろう！」とマネージャーが言い出したら。そうならないために、「車」を予め定義し、それを使った方が早い。つまり、「車」というオブジェクトをつくっておき、Aを押すと走る、Bを押すと止まるとする。A車は「車」をコピーし、外装だけ赤にする、B車は「車」をコピーし、外装だけ青にする、など。こうすれば、「Cボタンでバック」を追加するとき、「車」プログラムだけ変えればいい。「車」というモノを用意しておけば、大人数での開発も便利だ。「車」というプログラムは作成者だけが中身を知っていればよく、他の人は「Aボタンを押すと走る、Bボタンを押すと止まる」ということだけ知っていればよい(よくいう「これが何の機械かわからないけど、ここを押すと光る。それでいいのさ、のことである)。手順を全部書いたものだと、他のプログラマーも中身を理解しないといけない。ではレーシングゲームにトラックを登場させるとする。車と機能は同じだから、この機能は再利用すべきだろう。これもオブジェクト指向の考え方である。

オブジェクト指向の基本的な用語解説……オブジェクトとは、オブジェクト指向の根本だ。プログラミングにおいてはデータと処理の集まりを意味し、現実のもので例えれば、人間もオブジェクトであり、PCやスマホもそうである。人間には「名前」「性別」というデータがあり、何かを「見る」「聞く」「話す」といった処理を持つ。データと処理は区別して覚えておこう。クラスはオブジェクトの設計図のようなものであり、オブジェクトの中のプロパティ(属性、車でいえばメーカーとか排気量とか色とか)やメソッド(操作、車の例だと走るとか曲がるとか止まる)をひとまとめにしたもの。つまり「車は排気量・色・メーカーというプロパティを持ち、走る・曲がる・止まるというメソッドを持つ」という設計図である。以上をJavaで書くと”Class クラス名{ プロパティの宣言;void メソッド名(){処理;}}”となる。インスタンスとは、設計図からオブジェクトをつくる際に生み出されるもの。カプセル化とは、オブジェクトが持つデータや処理のうち、別のオブジェクトから直接利用される必要がないものを隠すことを言う。先ほどのレーシングカーの例でも出た、基本的な概念だ。継承とは、特定のオブジェクトの機能を引き継いで使うこと。レーシングカーの例でいえば「車からトラックを作る」である。最後にポリモーフィズム、クラスによって同一のメソッドで異なる処理が行えるという性質である。例えば車はどの車種でも、アクセルが右というふうに決まっている。プログラムも同じ処理の名前で動いてくれると、処理名を覚える必要もないし、ミスも減ってハッピーだ。

蒸発現象……別名「グレア現象」とも。ハイビームで両方から照らされている歩行者の姿が見えなくなってしまう現象のこと。自分の車のライトと相手の車のライトが同時に歩行者に重なった夜に起こる。特に雨の日は路面がぬれており、ライトが乱反射してさらに見えにくくなる。ドライバーからはまるで何もないように見えるため、横断する際には十分に注意する。逆にはねないようにも気を付ける。原因としては夜で視界が狭くなることと、人間の目は強い光を浴びるとその光に視点が集中し、周りのものがよく見えなくなる(そこから回復するのに3秒ほどかかる)ことだとされる。

先進ライト……対向車を検知し、ハイビームとロービームを自動的に切り替える機能をもつライトのこと。安全運転のためには不可欠になってきており、ハイビームが警察や行政により推奨されているが、対向車に気を遣ってハイビームにしたがらない人達、それから高齢者の強い味方である。

運転経歴証明書……運転免許を受けていたことを証明するカード。申請による運転免許の取り消し手続きを終えて5年以内の人だけが申請できる。金融機関などで本人確認書類として用いることができるとされているため、いちおう免許証の代わりになる。「運転はしないししたくないけど、免許証がないと身分を証明できない」という人達は、これを申請するのもいいかも。なお、有効期限切れなどで免許が失効した人は申請できないので注意！免許試験場か警察署に行けばできる。

交通事故の「3つの責任」……交通事故を起こした人、特に人をはねてしまったような運転者に降りかかる「刑事上の責任・行政上の責任・民事上の責任」のこと。これらは「懲役・免許取り消し・慰謝料」に対応している。慰謝料に関しては特に大変で、一般に死亡事故よりも重篤な後遺症が残った場合のほうが多い。働き盛りの医者をはねて5億円の慰謝料になったケースが日本で最大。若者の場合や前途多望の有能サラリーマンの場合特に多い。

ABS……Antilock Brake Systemの略。急ブレーキをかけたときにタイヤがロック(回転が止まること)してしまうことを防ぎ、車両の安定性を保つしくみ。プロドライバーはこれを自分の足で再現してみせる(相当に繊細なブレーキ・アクセルの感覚が必要なのでまあ化け物)のだが、そうでない人にもということでこの仕組みがつくられた。要するに「急ブレーキかけたときにハンドルが効かなくなる」という現象を防ごうということ。そして実は、できるだけ強くブレーキペダルを踏まないとこれが作動しない。音や振動がすることがあるがちゃんと作動している証拠なので、びびらず踏み続けよう。ポンピングブレーキはしないように、というかそんな余裕がないと思う。

金拍車の戦い……1302年に起こった戦い。今でいうベルギーらへん(フランドル地方)の民兵が、当時は無敵と言われていた重騎兵をぶっ倒した歴史的な戦いなのだが、日本では知名度がない。当時フランドルは毛織物が発達しており、ヨーロッパでも特に有名な地域だった。概念上はフランス王国の一部だったのだが、羊毛を輸入してくれているイギリスとのほうが関係が深く、フランドル伯領は事実上独立国的な立ち位置。そんな中、フランドル伯のギーが、自分の娘をイングランドに嫁がせようとする。フランス王フィリップ4世がこれを見逃すはずもなく、これをすぐに占領。最初は自ら乗り込んで政治するほどノリノリだったようだ。しかしその後の統治者が圧政を敷いてしまったため、民衆に反乱されてしまう。こうして起こった、フランドルの都市連合軍とフランス軍の間の戦いこそ、金拍車の戦いである。当時騎兵1ユニットは歩兵10ユニットと同じと考えられてきたため、それに換算すると1.6倍の戦力差があったことになる。フランドル側の歩兵も軍事訓練を受け、(裕福な土地柄らしく)武装はしていた。市民兵は川から水を引いて濠をつくり、地面をぬかるませてこれに勝利。戦場に落ちていた金の拍車を教会に飾ったことで、金拍車の戦いと呼ばれるようになったのだ。

Windowsのフォルダ内のファイル名一覧を出力する方法……例えば「BGM保存用」というフォルダに入っている音楽ファイルの名前をExcelとかに貼りつけたいとする。いちいち書くのは面倒だ。そんなときは「コマンドプロンプト」を起動、dir /B 出力したいフォルダのパス > ファイル名一覧を出力するファイルとすればよい。具体的には、dir /B C:\Users\test > C:\Users\test\Desktop\folders.csvというようにする。このほかtreeというコマンドもあり、tree /Fとして出力すると、フォルダの内容がツリー状、階層構造で出てくる。

人間が光合成できたらどれぐらい楽になるか……まず全然楽にならない。植物のように静止していればエネルギーを使わずに済むが、動物は動かなくてはならない。植物は重量(体積)に対する表面積がかなり大きく、しかも動かないから辛うじて光合成で賄えているのであり、単純に葉緑体を全身に埋め込んでも、人間はそれほど楽にならないと考えられる。具体的に計算してみる。10cm四方の葉っぱは1時間で60mgの二酸化炭素を固定できる。これが全て糖になるとすると、スクロース0.11mmolの砂糖、つまり37.6mgの砂糖となる。さて、光合成は光の当たる部分にしか起こらないから、高さ170cm、横幅60cm、厚さ25cmの直方体とすると、10cm四方の葉っぱの319倍の面積。つまり、人間の表面積では、最大効率で光合成を1時間すると、11.99gの砂糖が作れる。これは茶碗で5分の1程度のご飯と同じ。日本の平均年間日照時間は2000時間、平均で5.5時間。つまり1日お茶碗1杯ぐらいのカロリーは稼げる。実際は光が当たらない部分もあるし、ちょっとでも曇れば合成量は減る。なんとも世知辛い世の中だ。

伝説の冤罪製造マシーン・紅林麻雄……くればやしあさお。日本警察史上屈指の名刑事。難事件とされた「浜松連続殺人事件」を始め数々の難事件を解決した。中でも取り調べの腕前は一流で、「自白」をどんな凶悪犯からも引き出した。さらに推理能力も高く、被疑者が読んでいた本などから証拠を突き止める能力もあった。このような業績を残しつつ、1963年に惜しまれながら死去。…が、その正体は拷問王、そしてねつ造神。500回以上受けた表彰だが、実はそのほとんどがでっちあげと拷問による強制的な自白。たまたま現場近くに住む無罪の人間を捕まえ、焼き印を入れたり排泄物をバケツにさせたり、自作供述を作成させたり。現代にもこの手法は形を変えて生きており、不祥事としてたまに明らかになる。日本警察の負の遺産である。

ヒポクラテスの誓い……医者の倫理・任務についての、ギリシア神への宣誓文。現代の医療倫理の根幹をなす思想がうたわれている。紀元前4世紀の「医学の父」ヒポクラテスによるものと広く信じられてきたが、現在では彼よりも以前にこのテキストがあったことが判明している。現在日本の医学部で習うものと原典は異なる。ヒポクラテス以前の医学といえば、アスクレピオスへの祈りや呪術が主だったのだが、彼はこれを批判。病気は環境、生活習慣、食事によるものだと主張した。例えば食事療法に興味を持ち、キャベツなど野菜の効能に着目して「ヒポクラテススープ」をつくったり、ハーブを使ったアロマテラピーをしてみたり。9つある。「医神アポロン、アスクレピオス、ヒギエイア、パナケイアおよびすべての男神と女神に誓う。私の能力と判断にしたがってこの誓いと約束を守ることを」。「この術を私に教えた人をわが親のごとく敬い、わが財を分かって、その必要あるとき助ける」。「その子孫を私自身の兄弟のごとくみて、彼らが学ぶことを欲すれば報酬なしにこの術を教える。そして書きものや講義その他あらゆる方法で私の持つ医術の知識をわが息子、わが師の息子、また医の規則にもとずき約束と誓いで結ばれている弟子どもに分かち与え、それ以外の誰にも与えない」。「私は能力と判断の限り患者に利益すると思う養生法をとり、悪くて有害と知る方法を決してとらない」。「頼まれても死に導くような薬を与えない。それを覚らせることもしない。同様に婦人を流産に導く道具を与えない」。「純粋と神聖をもってわが生涯を貫き、わが術を行う」。「結石を切りだすことは神かけてしない。それを業とするものに委せる」。「いかなる患家を訪れる時もそれはただ病者を益するためであり、あらゆる勝手な戯れや堕落の行いを避ける。女と男、自由人と奴隷の違いを考慮しない」。「医に関すると否とにかかわらず他人の生活について秘密を守る」。「この誓いを守りつづける限り、私は、いつも医術の実施を楽しみつつ生きてすべての人から尊敬されるであろう。もしこの誓いを破るならばその反対の運命をたまわりたい」。要するに「恩師と親族に敬意を払います」「自殺や安楽死には加担しません」「身分や貧富で患者を選びません」「秘密は守ります」など。2500年も前にはこれが書かれていたの、すごくないですかね？世界医師会(WMA)によるジュネーブ宣言で現代化され、世界中に今でも伝わる。

正規分布とは……別名「ガウス分布」と呼ばれる分布であり、左右対称で連続型の確率分布である。最も代表的な分布の一つであり、測定の誤差、テストの点数はほぼほぼ正規分布に従う。また、コイン投げのように、反復試行の成功回数が従う確率分布も正規分布になる。その中でも特に「平均が0、分散が1」になるものが大事で「標準正規分布」と呼ばれる。そのグラフ(横軸x縦軸f(x))においてxが0からaまでの積分をすると、値が0からaのいずれかになる確率を示す(つまり、標準正規分布は正規分布を正規化したものといえる)。そしてこの中で「-\sigmaから\sigma」までの区間を「1シグマ区間」と呼び、ここに入る確率は68%、偏差値で言えば40から60にあたる。2シグマの場合は偏差値20から80のことで、99.7%が入る。

標準偏差とは……統計学の分野で、複数データ間でのばらつきを示す指標。分散の平方根である。これを使うと、データ間での特定データの希少性がわかる。実例に沿った例として売り上げを考えてみよう。A店は全国の店の算術平均を大きく超えている。このときAは優秀だといえるだろうか？それを確かめるために標準偏差を使う。例えば標準偏差が小さい場合は売り上げが拮抗していることになり、そこからとびぬけたAは確かに優秀だといえる。一部支店が高い売り上げを出していても、多くの支店の低い売り上げで平均が下がっているケース(標準偏差が大きいケース)は考えられる。このようなケースでは、平均よりも売り上げている店舗を称賛するよりも、売り上げの低い店舗を問題視するべきだろう。エクセルで標準偏差を求めるためにはSTDEV.P関数を用いればよい。ちなみにSTDEV.Sとの使い分けだが、Pの場合は「多数の店舗の中から無作為に選ばれた対象のみ(標本)についての標準偏差」で、Sは「母集団全体における標準偏差」である。

標準偏差をエクセルのグラフで表現する方法……棒グラフが最も基本的。まず平均値と標準偏差が算出された表を用意する。平均値に関する棒グラフを作成。その後グラフを選択し、「グラフツール」のデザインから「グラフ要素を追加」を選択、クリックすると現れる「誤差範囲」から、「その他の誤差範囲オプション」を選択。「誤差範囲の書式設定」下部の「誤差範囲」から「ユーザー設定」を指定後に「値の指定」をクリック、標準偏差を正の誤差として指定しよう。

正規分布の確率密度関数と累積分布関数……エクセルで使うNORMDIST関数。trueの場合は「累積分布関数」、falseの場合は「確率密度関数」が出力されるが、この2つは何だろうか。簡単である。累積分布関数とは「グラフの左端からその値までの積分値」である。例えばxを300とし、結果が0.5なら「左端から300までの積分値は0.5」つまり、値が300以下になる確率は50%であることを示す。「確率密度関数」は、値が300ピッタリになる確率を示し、めっちゃ小さいのが常である。これを利用すれば「310から290に入る確率」なんかも引き算で求めることが可能になる。

エクセルの「ソルバー」とは何か……まず有効化の手順を説明する。「ファイル」「オプション」「アドイン」「ソルバーアドイン」とクリック。「管理」が「Excelアドイン」になっていることを確かめた後、その右隣りの「設定」をクリック。「ソルバーアドイン」にチェックをつけてOKを押す。すると「データ」タブの「分析」グループに「ソルバー」が表示されて利用可能になる。売上計画や予算配分の計画を検討するときに利用するとよい。例えば「目標となる利益額」が決まっており、それに達するためにいくつ売ればよいかを策定するときに使うと、目安を計算してくれる。

エクセルで「ゼロ」を含めずに最小値を計算する裏技……MIN関数を用いて最小値を求めたいが、中にゼロがあるのが邪魔だ！という場面はよくある。実はそんなとき、SMALL関数とCOUNTIF関数を組み合わせて使うことで、効率を落とさずに作業できる。SMALL関数は「範囲の中である順位で小さいものを求められる関数」である。逆に大きいものを求める場合はLARGEを使う。COUNTIF関数は範囲の中からある結果に合致するセルのみを抜き出すもの。だから例えば”=SMALL(D1:D3,COUNTIF(D1:D3,0)+1)”とすれば求められる。

キーボードのFnキーの役割……でっかいキーボードだと全てのボタンがちゃんと入るが、ノートパソコンは厳しい。そのため、Fnキーを押すか押さないかにより処理を変えることで、1つのキーで2つの機能を持たせている。例えばだが「FnとF3」で「ミュート」、「FnとF10」で「別のディスプレイとの接続時に画面を切り換える」とか。

あまり使い方の分からないキーの使用方法……パソコンには様々なキーがあるが、使い方がわからないと一生使わないようなものもある。それを紹介する。まずAltキー。「オルトキー」と呼び、これとアルファベットキーを同時に押すと、キー操作だけでメニューを選べる。Homeキーはワードやメモ帳などで、行の先頭に移動する。Endキーは最後に移動する。Page Upキーは前のページを表示するときに使い、Page Downはその逆で、次のページが現れる。Escキーは実行している操作を中止するのに使われる。

絶対音感あれこれ……絶対音感といえば日本では「あると曲がすぐに耳コピできる」うらやましい能力として知られているが、その詳しいことはみんなあまり知らない。まず絶対音感といえど「何度か聞いてやっとわかる」レベルの人から、「鳴っている複数の音の音階がすぐにわかる」「周波数がわかる」というガチのレベルまでいろいろある。敏感な人は日常の環境音にも不協和音を見出し(雨粒とかも不協和音)ストレスをためるのだが、そのレベルはなかなかいない。普段は「心の耳を閉じる」ことで何とか平静を保っているが、「救急車のサイレンの音」とかはどうしても「聞き取れてしまう」のだという(赤を見て赤と思わないことが不可能なようなもんらしい)。絶対音感があって困るのは「移動ド」の考え方ができないこと。例えば主音がレの音について、相対音感を持つ人、あるいは何も持たない人は、レをドとみなして演奏したり聞いたりできる。しかし絶対音感の人達にとって「レは誰が何と言おうとレ」(固定ドの考え方と同じ)なので、例えばカラオケでキーを変えて歌うのがすごく難しいとか、BBクイーンズの「はじめてのおつかい」で流れてるあの曲(「ドレミファだいじょーぶ」。ドレミファドレミファ　ド・ド・ドレミファは全然音階と歌詞があってない)を聞いて気持ちが悪くなったりするらしい(相対音感と絶対音感は相反するものではないので、気持ち悪くならない人もいる)。また移調楽器の演奏も非常に難しいという。感覚としては「色の文字がその色とは違う文字で書かれているとき、文字の『色』を読め」と言われてわからなくなるアレ(ストループ効果)と似ているかもしれない。

長寿祝い……還暦が最も有名だが、実はもっと沢山ある。還暦は「生まれた年の干支に帰る」ことで還暦と呼ばれる。古希は70歳。これは杜甫の詩の一節「人生七十古来稀なり」から来ている。現代では還暦よりも本格的な長寿祝いとされている。「喜寿」は77歳で、これは「喜」の草書体が七を3つ重ねた形になっているから。「傘寿」は80歳で、「傘」の略字が八と十を重ねた形になっているから。「米寿」は88歳で、「米」をくずすと八十八と読めることから。「卒寿」は90歳で、略字が九十と読めることから。「白寿」は99歳で、「百」から「一」を引いて「白」になるから。そのほか、「百寿」は100歳、「茶寿」は108歳であるが、これは「茶」の字の草冠が二つの「十」に分解でき、下が「八十八」に分解でき、この2つを足してということらしい。また111歳は「皇寿」である。「99」は白と同じとして「王」は「十」と「二」に分解できるから、99と12を足して111である。一番長いのが「天寿」であり、「天寿を全うする」の「天寿」は本来、250歳である。

簡単に作れるチーズフォンデュ……チーズフォンデュというとすごくメンドクサイイメージがあるが実は簡単に作れてしまう。イオンで適当なチーズを買ってこよう。「トップバリュベストプライスゴーダチーズ」がおすすめらしい。耐熱容器にこのチーズと小麦粉(チーズが加熱されて分離するのを防ぐ)を入れて混ぜて、白ワイン(水でもよい)を入れさらに混ぜる。これを電子レンジ600Wで2分ほど加熱し、泡立てる。

セグメンテーション違反……プログラムのエラー。プログラミングをしている人で、特にCとかC++などをいじってる人がよく見る、むかつく警告。どこが違反なのか教えてくれないんだもの。簡単にいえばプログラムがメモリの変なところをいじろうとした際に現れる。具体的には、確保したメモリ領域を超えたところを操作しようとしたり、ヌルポインタを参照(これが例の「ぬるぽ」である)したり、割と些細なミスで起こる。かなり特定がめんどいこともあり「仕様です」と言い張ったり、丸投げしたりする人もいる。起きた場合はポインタ関係を洗い出してみよう。fscanfで取り出そうとしたけど値がなくて取り出せない場合とか、あとはscanfで%dとか%lfなのに&をつけ忘れた場合とか、見落としがちなので注意。

C言語のstrtokの使い方……なんともクセがあるが、使い方だけならすぐに説明できる。例えば”a,b,c”を”,”でくぎる場合、char型のポインタ\*str1,\*str2,\*str3と”a,b,c”が格納されている文字列Sを用いて、str1=strtok(S,”,”),str2=strtok(NULL,”,”),str3=strtok(NULL,”,”)とすればよい。実はstrtok関数、検索する記号の部分を”\0”で置き換え、先頭文字のアドレスを(str1とかstr2に)返しているから、このようになる。

C言語のファイル読み込みの時の「行指定」……ファイル読み込みをする場合、どこから読み取るかを指定したいこともあるだろう。そういうときはfseek関数を使ってみよう。fseek(fp,L2,SEEK\_SET)とすれば、FILE型の構造体ポインタ\*fpの読み込みを2行目から行う。これを利用し、ファイルのサイズを測ることも可能である。具体的にはSEEK\_CURを用いてあげて、その時点でのファイル位置表示子の値を出力させればよい。

時効の援用……借金を放棄する意思表示のこと。借金の返済義務は勝手になくなることがないのだが、時効を成立させることで義務をなくせる。意思表示以外に、「借金の最後の返済から5年以上が経過していること」、「時効期間の進行中に債権者からの裁判が起こされていない」という2つの条件が必要で、これらをクリアしていれば帳消しになる可能性は高い。ただ「5年」というのはあくまでクレカや消費者金融からの借金、銀行からの借金の話であり、これらは営利目的をもった商人のもの。信用金庫や公庫、(営利目的を持たない)個人からの時効期間は10年となるので注意しよう。時効が完成したらその援用をする旨を債権者に伝える必要がある。法律上その方法は定められていないため、何なら口頭でも電話でもよい。しかし「言った言わない」の水掛け論になるのを防ぐため、内容証明郵便を利用し「時効援用通知書」を送るのがオススメ。

執行猶予とは何なのか……刑務所にすぐには入らなくてもよいかわり、1年から5年という一定期間、社会の中で更生を促す期間のこと。これに失敗すると刑務所に入れられてしまう。基本的に3年が標準であり、5年とかはレアケースである。執行猶予になる条件もある。刑罰が懲役・禁錮3年以下または罰金50万円以下、なおかつ、初犯もしくは前の刑が終わって5年以上経過していること。「失敗」の定義だが、これは罰金より重いものである。例えば交通違反で切符を切られるがあれは罰金よりも軽い罪。罰金から可能性が出てきて、懲役や禁錮の罪になると必ず取り消し。執行猶予中は別に何をしてもよい。海外旅行に行ってもいいし、ギャンブルもできる。監視もない。

様々なソート……「ソートアルゴリズム　可視化」で調べるとわかりやすいのが出てくる。まずバブルソートは単純で、配列の要素を最初から最後まで見ていき、順序が逆の要素があれば並び替える。これをずっと繰り返す。シェーカーソートはバブルソートの改善版で、往復してスキャンできるようにした。コムソートはバブルソートの改良版である。データ数を1.3で割った整数部分を間隔hとする。iを0からn-h-iでfor文で回し、i番目とi+h番目を比べた時順序が逆になっていたら入れ替える。これが完了したら、hを1.3で割った整数部分を新たにhとして同じことをする。hが1になっていたらそこでソート完了。ノームソートは配列の要素を順方向に見ていって、順序が逆の要素を見つけたらそれをつかみ、つかんだ要素を一個手前と交換する。交換後も逆ならさらに手前にずらしていく。ずらし終わったら再び要素を見ていく。選択ソートは要素を順番に見ていき、最大値と要素を入れ替えることで行う。挿入ソートは要素を適切な場所に挿入して行う。シェルソートは適当に間隔hをきめ、間隔hをあけて取り出したデータ列に挿入ソートを適用させる。次にhを狭めていって操作を繰り返し、h=1になったら最後に挿入ソートをして終わり。クイックソートは配列から「ピボット」として要素を1つ選び、ピボットより左側の全ての要素がピボットより小さく、右側が大きくなるように入れ替えていく。ピボットの左から新たなピボットを選びこれを行い、右からも同様にする。これを繰り返してソート。バケットソートは配列の要素の値をインデックスとして直接バケツに移動、バケツの手前から順番に配列に戻すもの。基数ソートは、要素の1の位でバケットソートをし、次に10の位でバケットソート、としていくもの。メモリ使用量はバケットソートより少なくて済む。マージソートは配列を2つに分割、各々をソートし、二つのソートされた配列をマージする。

C言語の配列に多次元配列を渡す方法……例えばint arr[0][0]からarr[3][3]までの全ての要素を足し合わせ、その結果を返す関数があるとしよう。多次元配列の場合、要素数の省略は最初の[]にしかできないから普通にやるとプロトタイプ宣言でint arr[][3]となり、謎のマジックナンバー3が現れて気持ちが悪い。実はこういうときはint[size1][size2]と宣言し、Sum関数の中でsize1とsize2を使うことができる。こうすると配列サイズに依存しなくて済むし、書き方も気持ち悪くないしで便利。

C言語の文字列の比較……文字列は==で比較できない。==で比較できるのはポインタである文字列そのものではないからだ。そういう場合はstrcmpを使おう。strcmp(str1,str2)とし、この結果が等しければ0が出力、等しくなければそれ以外が出力される。

fscanfで読み込みすると勝手に改行される問題……実はこれ、ただしく処理されているのだ。というのも例えば、一行目の{3,2,5}を読み込んだ時、最後の5を読み込んだ後はバッファ内に改行文字\nが余っている。二行目は一行目の\nから読み込みを始めるため、改行されてしまう。fscanfとかfgetsは改行文字とかヌル文字が来た時に読み込みを中止するため、動作としては正しい。こういうときはfscanf(“%d,%d\n”)というように、最初から\nを含めてやるとよい。

fscanf、scanf、sscanfの代入抑止指定……入力データには含まれるがプログラムに使わないデータ項目は、ダミー変数に読み込んだうえで参照しない方法がよくとられるが、もっと簡単なのは代入禁止文字\*を使うこと。例えば、scanf(“%\*2c%d”,&h)とすると、最初の2文字が読み捨てられ、後ろの数字のみが代入される。10/16 30000という、月/日　売上金額のデータで、月と売上金額のみが欲しい場合は(“%d%\*c%\*d)としよう。

動画の1080pと1080iの違い……デジカメのカタログに書いてあるが意外に知られていない。実はこの規格、かつてのアナログテレビ時代の規格を引きずっている。例えばYouTubeの解像度は144pから1080pであるが、この数字は解像度、つまりピクセル度(pはピクセル度のpではない)だ。基本は480、つまり縦に480ピクセルの動画である。これはアナログテレビが実用的に実現できるほぼ一番高い解像度だ。それより低い144とか360とか240は480を割っていって使っていたもの。計算が簡単になるからだ。720と1080は「HD」と「高解像度だよ」というマークが入っている。1080というのは、アナログハイビジョンの走査線本数1125本から、ブラウン管周辺の黒い部分を抜いた数字として決まった。縦横比は16対9で、標準的なディスプレイとなっている。ところでアナログテレビでは、ブラウン管のガラス面の内側に塗った蛍光物質に電子ビームを当てて光らせていた。蛍光物質は電子ビームが通り過ぎて当たらなくなると光るのをやめるが、そこは人間の残像効果を利用してカバーする。ところが当時は技術が未熟で、上から下に一本の線を引くとき、一番下までいくと人間側の錯覚が終わり、画面がちらつくということが起こった。人間の残像効果は1/60秒しか持続しないから、毎秒60回なぞればいいのだが、それが不可能だった。そこで考えられたのがインターレース走査。走査線を1本おきになぞっていくのだ。クシのように間が抜けた画像を1/60秒に一枚完成させる。その次に、前回なぞらなかった走査線を電子ビームでなぞり同じようにクシのような絵をつくる。すると1/30秒に1回、絵が2枚完成。これをあわせ1枚の画像ができることになる。こうすれば人間の目はちらつきを意識しなくて済むというわけ。このやりかたはアナログハイビジョンおよび初期のデジタル動画に持ち込まれた。1080iのiとは「インターレース」(糸や指をからませる)の頭文字だったのだ。1080iという規格のデジタル画像は、上から1/60秒でピクセルひとつおきの画像を表示し、次の1/60秒で縦にピクセルひとつずれた画像を表示、1/30秒で1枚の絵を表示するよ、という意味。ところが技術が進むとこれも必要なくなってきた。一つ飛ばしではなく、上から順に走査していくやりかたをプログレッシブ走査という。インターレース走査に比べてプログレッシブ走査は、一枚の絵を一回の走査で一気に表示するのでちらつきが少ない。添え字のpは「プログレッシブ」の略である。

文字列から特定の文字を消すプログラム……例えば”HelloWorld”から”o”を消して”HellWrld”とする。”o”を消すのではなく”o”以外を残すと考えればラクであろう。具体的には元の文字列a[12]と移動先の文字列b[12]を用意し、a[0]からa[11]まで、それが”o”と等しいかどうかをチェックする。等しくない場合にbに代入する。そして最後にbにナル文字を挿入。

ストーカーによくある妄想……それがエロトマニアという、妄想性障害の一つ。自分が相手に愛されていると確信する。ストーカーの原因になる妄想症状の一つであり、れっきとした精神病である。この確信には何の根拠もないことも多く、しかも自分が相手に好意を抱いているという自覚さえない。厄介であるが、相手が自分に対して拒否・嫌悪の反応を示すと「誰かが妨害してきた」「愛ゆえの逃避行動」(嫌い嫌いも好きのうち)「自分を試している」などと解釈し、ますます行動が悪化することがある。

全角の文字列を1文字ずつ出力する方法……半角の場合は単純にforループ回してやればいいのだが、全角だと文字化けというか、2バイト必要な全角を1バイトずつ出してるから表記がおかしくなる。これを避けるには、putchar関数を利用すればいい。全角と半角の区別なく出力してくれる。

同人誌は別に二次創作でもエロでもなかった……同人誌、同好の士(同人)が、資金を出して作成する同人雑誌の略語。非営利的な色の強いものを含め「リトルマガジン」と呼ぶこともある。漫画の場合は小冊子ほどの、少ないページのものが多いため「薄い本」と呼ぶこともある。現在では二次創作市場の拡大で「同人誌とは二次創作である」というイメージが一般的で、「卑猥なものをさす」という偏見まで加わっているが、もともとは「新思潮」「白樺」「文学界」のように近代文学の発展に大きな役割を果たした。第二次世界大戦以降、赤塚不二夫や藤子不二雄、石ノ森章太郎などの漫画家が現れ、次第に漫画の同人誌が主に。

リアクタンスとは……結論からいえば「電流の通しにくさ」である。いやいやそれって抵抗やん。そう抵抗なのだ。交流回路でも抵抗を一般化したものがリアクタンスになるから、結局電圧を電流で割ったものになる。リアクタンスには誘導性と容量性がある。コイルのリアクタンスが誘導性リアクタンスで、これが大きくなると電流は小さくなる。ここまでなら抵抗と何も変わらないのだが、実はリアクタンスは周波数で大きさが変わってくる。いわゆるj\omega Lである。ここでLはコイルのインダクタンスであり、これはコイル固有のものなので、周波数で変化はしない。コンデンサのリアクタンスは容量性リアクタンスであり、これまた電流の通しにくさだ。さっきと違うのは、周波数が大きくなるとコンデンサのリアクタンスは小さくなるということ。いわゆる\frac{1}{j\omega C}である。そしてこの両者を位相で見るともっと違いが判る。誘導性は位相が遅れ、容量性は進むのだ。回路の負荷に電圧が印加されたとき、電流がすぐに流れず遅れて流れるものが誘導性である。コイルを使っているとかコンデンサを使っているとかでは判別できない(両方使ってるけど誘導性のものもある)。

コード理論概略・長調のダイアトニックコード……ダイアトニックコードとは、音階の音を1つおきに積み重ねてつくったコード。長調3和音のダイアトニックコードは「1・2m・3m・4・5・6m・7m-5」となる。4和音の場合は「1M7・2m7・3m7・4M7・57・6m7・7m7-5」となる。つまり3和音の場合、1,4,5番目に現れるのがメジャーコードで、2,3,6番目に現れるのがマイナーコードで、メジャーコードの3度を半音下げたもの。最後に7番目に現れるのがマイナーフラットファイブコードで、マイナーコードの5度を半音下げたものになる。4和音の場合、1,4番目に現れるのがメジャーセブンスコードで、メジャーコード上に長7度の音を乗せたコード。マイナーコードの上に短7度の音を乗せたコードがマイナーセブンスコードで、2,3,6番目にあらわれる。セブンスコードはメジャーコード上に短7度の音を乗せたコードで、長音階の5番目に現れる。マイナーセブンスコードの5度を半音下げたコードがマイナーセブンフラットファイブコードで、長音階の7番目に現れる。

コード理論概略・短調のダイアトニックコード……短調3和音のダイアトニックコードは「1m・2m-5・3aug・4m・5・6m・7m-5」となり、4和音の場合は「1mM7・2m7-5・3M7+5・4m7・57・6M7・7dim」となる。短調のダイアトニックコードのうち、長調に出てこないものを紹介する。まずはオーギュメントコードで、メジャーコードの5度を半音上げたコードで、短音階の3番目に現れる。4和音、まずはマイナーメジャーセブンスコードで、これはマイナーセブンの7度を半音上げたコードで、短音階の1番目に出てくる。メジャーセブンスシャープファイブコードはメジャーセブンスコードの5度を半音上げたコードで、短音階の3番目に現れる。最後にディミニッシュコードは、短3度間隔で均等に4つの音を重ねたコードとなり、短音階の7番目に現れる。

コード理論概略・ダイアトニックではないコード……まずはC6のように、長6度をメジャーコードに足したもの。マイナーコードに長6度を足したものがCm6。つまりどちらでも長6度を足す。ちなみにC6、Am7と同じ構成音である。Cm6は同様にAm7-5と同じ。Csus4は「サスペンデッドフォース」と呼び、3度の音であるミを半音上げて4度にし(suspend4)ファの音にしたような感じ。C7コードの3度を引っ張り上げると、同様にC7sus4となる。パワーコードはロックギターなどで用いられる。1度と5度しかないため、短調でも長調でもない、力強い響きが特徴。正式名称はComit3である。

コード理論概略・テンションコード……9度以上の音が追加されたコードのこと。一般的にであり、M7や6、m6もテンションコードとして扱うこともある。メジャーセブンスコードのテンションには9(ナインス)がある。長9度を乗せたもの。綺麗な響きが特徴。マイナーセブンスでは9と11がある。Cm7(9)またはCm9と表記する。しかしCm7(11)とは表記するが、Cm11とはしない。というのもCm11とすると、それは暗黙的にCm9(11)を指すからだ。セブンスコードにはさらに多くのコードがある。9、b9、#9、11、#11、13、b13の7つが乗っけることができるもの。シックスコードにも乗せることができるのが2つ。C6とかCm6に乗っけることができるのは9だけ。乗せるテンションに決まりはないのだが、「こうはしないほうがよい」というものはある程度ある。まず9度の音だが、メジャー系・マイナー系ともに、長9度の音を載せる。b9とか#9は普通使わない。11度はメジャー系では#11、マイナー系では11を載せる。13度では両方とも長13度の音を載せる。そのほか、Cadd9といえばメジャーコードのCに9のみをのっけたもの。Cmadd9でも同じ。

コード理論概略・コード進行の基本……覚えるルールは3つだけ。「コードにそれぞれトニック、ドミナント、サブドミナントがある」ということ、「この3つを切り替えてつなげることで曲が進む」こと、「あるコードを別のコードに置き換えることでバリエーションがつく」こと。トニックは主和音であり、最も「終わった」感じが強い。ドミナントは5度上に位置(トニックがCならG)し、「不安定感」がある(トニックに進みたがる)。サブドミナントは4度上であり「展開してる感」がある。順番としてはT、SD、D、Tと進むことで一つのフレーズになる。例えばD、Tというドミナントを使ったらトニックに進むのが基本。G(5)からF(4)に進むのは四度進行といってクラシックではNGだが、現代ではよく用いられる。SDはTやDを滑らかにつないでくれる。最後に三つ目のルール、「あるコードを別のコードに置き換えられる」だが、これはいわゆる「代理コード」であり、例えばトニックはダイアトニック・コードの中で、構成音が良く似た3や4と置き換えることが可能である。Cの場合はEmやAmに置き換えられるということ。またサブドミナントであるF(4)もDm(2m)に置き換えられる。

コード理論概略・コード進行の規則……いくつかあるのでそれを覚えてしまえばよい。まず「T」は1か6mのどちらでもよい。「D」は5のみ使える。「SD」は4か2mのどちらでも使える。2mから5へは進めない。4から6mへは進めない。元のコードから代理コードへは進めるが、代理コードから元のコードへは進めない。つまり1から6mはいいが、6mから1はNG。この際、1から6mに行ったことが1つの「T」と考える。同様に4から2mはいいが2mから4は駄目で、4から2mで一つの「SD」と考える。そして最後に、曲の始めと終わりは1が望ましい。これをCメジャーキーで説明すると、CはDm,F,G,Amの全てのコードに進める。DmはGには進めない。FはC,Dm,Gに進める。GはC,Amに進める。AmはDm,F,Gに進める。なおこれはメジャーコードの場合。マイナーコード進行の規則では、「T」は1mか6、「D」は5のみ、「SD」は4mか2m-5。2m-5は5にのみ進めて、4mから6へは進めない。基本的には規則は一緒で、コードの種類が変わるだけ。

コード理論概略・コードのEm/GとかEm on Gという分数表記……あれは簡単。Emというコードで、ベースがGの音を弾くという意味。ポイントとして、分数の分母(onの後ろ)はコード名ではなく音名ということ。ベースは1つの音なので、分母にAmとかG7とかがくることはあり得ない。

コード理論概略・コードの響きまとめ……コードを全部覚えようとすると20かける12で240種類を覚えることになる。しくみがわかっていればパターンは意外に少ない。ここではコードがもたらす響きについてCでまとめてみる。まずCは明るい感じでCmは暗い感じ。Csusは心の根底的な変化を表現できる。C+5(Caug)は浮遊感や不安定感がある。C-5はポピュラー音楽ではめったに出てこない。Cdimは不安や不穏な感じである。C6は抒情的・日本的な響き。CM7は豊かな響き、C7は解決感が強い(この場合、Fに移行)。C9はコードに豊かな響きを加える。洋楽によく登場する。C11は分数コード(Bフラット/C)とも解釈できる微妙な響き。C13はとてもジャジーな響き。C7(b9)はクラシカル、ジャジーである。C7(#9)はブルーノートを疑似的に表現しており、ジャズでは欠かせない。

Torブラウザの入れ方と注意……入れ方は簡単。「Download Tor」で検索して入れるだけ。初回起動時はセキュリティ設定を開くボタンが出現。「低い」がデフォルトだが、これを「高い」にしちゃうとめちゃくちゃ重くなる。Googleにログインする場合は、(たぶんGoogleがこっちのIPアドレスを抜き取っており、いつもと違うIPだと疑っているからか)何度もロボットではないチェックをさせられる。Torを使えば自分がどこからアクセスしたのかが分からなくなる。現実に置き換えると、自宅を出る時に家の人に「ベガスのABCホテルに行く」と伝え、そのホテルで「オランダのDEFホテルに行く」と伝え、を繰り返し日本で「香港のXYZホテルから来た」と伝えるということだろうか。これを逆にたどれば、日本のホテルで聴けば1つ前のXYZホテルがわかる。しかしXYZホテルが個人情報を明かさない方針だったら捕まらない。

プロキシとは……簡単にいえば「恥ずかしがりやなWebブラウザさん用交渉代理人」のこと。もう少し具体的に書くと、ホームページを見る時に使うWebブラウザの身代わりになって、ホームページにアクセスしてくれるサーバのこと。ホームページを見る時、まず、WebブラウザがWebサーバに「このページをくれ」とお願いを出す。するとサーバは「おけ」と返事。Webブラウザがページを画面上に出す。これが普通。ところがプロキシを挟むと、まずWebブラウザがプロキシに「このページをくれ」とお願いを出す。プロキシはそれをうけサーバに連絡、サーバがWebブラウザにページを渡し、表示。ページをくれとお願いする側を「クライアント」、お返事する側を「サーバ」と呼ぶ。プロキシを使うと身元を隠せるメリットがある。

LINEを既読を使わずに読む方法……実に簡単。機内モードで起動すればよい。電波を発信しないので相手に既読通知が届かないのだ。しかし一つ注意することがある。機内モードを解除した瞬間既読通知が届いてしまうこと。そのためLINEアプリを起動しない状態で機内モードを解除しよう。さらにいえばバックグラウンドで開いている場合にも同じく通知が届く。ちゃんと終了させてからにしよう。

交通違反切符にサインしないとどうなるか……「面倒なことになる」とは聞くが実際どうなのか。まず違反切符といっても「青」と「赤」がある。青は比較的軽いものにつき、反則金を納付するための納付書と共に渡される「交通反則告知書」である。一方で重たいものを非反則行為とよび、赤が渡される。これは「交通切符告知書」と呼ばれる。交通違反に不服であれば署名する必要はない(これに署名しないことは違法でも何でもない)。逆に言えば署名をすれば違反だと認めたことになり、撤回はかなり難しい。否認したからといって必ず起訴されるというわけではなく、実際は見せしめ的に何人かが起訴されているだけにすぎない。不起訴の場合は罰金を払う必要がなくなる。赤切符の場合もサインは拒否可能で、のちに検察庁への出頭要請が来るため出頭することになる。略式裁判に応じるように言われても、(略式裁判の有罪率はほぼ100％なため)正式裁判に持ち込むという意志を伝えると返され、後日の呼び出しを示唆されるようだ。その後半年以上要請がこない場合は不起訴となる。自分が冤罪だという意識があり、なおかつその根拠が提示できるならば、こういうやり方もありということ。ゴネ得感は正直否めない。ただ点数については残念ながら違反として停められた時点で付加されてしまう(警察官が100％正しいとする異常な制度)から、ゴールド免許を狙う人は要注意。

無許可録音のデータは裁判で証拠になるか……民事訴訟の場合は証拠能力(証拠の対象となる資格の大きさ)に制限はないとされている。そのため会話の無許可録音でも証拠となっているケースが認められてきた。有名なものとしては、銀座の料亭での会話をふすま越しに録音したテープを証拠として認めた裁判例がある(昭和52年7月15日)。ただし、その違法性が特に高いものに関しては否定されており、例えば妻が夫のノートを忍び込んで持ち帰ったものは否定されている(平成10年5月29日)。刑事訴訟の場合、民事訴訟とは対照的に非常に制限が強く、伝聞証拠についての証拠能力は原則否定される。ただ、無断で行ったからといって類型的に否定されるわけではなく、違法かどうかという面を問う。証拠能力に厳しい刑事裁判においても、一方当事者の同意を前提に行われた録音については、証拠能力を否定しないことの方が多い。

法律での「ソープランド」の位置づけ……ソープでも法律では生本番は認められていない。風営法上、ソープランドはあくまで「浴場業」の施設として個室を設けているため、本番行為については言及されていない。しかし売春禁止法では売春は禁止であり、場所を提供したものには重い罪が下される。であるから「お風呂場でたまたま出会った男女が自由恋愛の末に性行為」という扱いであり、その気になればいつでも摘発ができてしまう、なんとも微妙な位置にあるのだ。買春を行った人間が処罰されることはなく、お店側が刑事責任を負うことになる。民事責任についても、女性から持ちかけてきたことが前提なら、それを理由に責任を負うことはないと考えられる。ただし妊娠させてしまい、DNA鑑定で男の子どもだとわかれば、養育費は支払う必要が出てくる。本番行為について店側が「避妊具をつけてね」としていても、そもそも本番行為は違法なのでそれは無効になるだろう。だからゴムをつけずとも客に損害賠償請求をすることはできない(したら自分たちが捕まってしまう)はずである。ただそれは法律上の話。こわいお兄さんたちに囲まれて恫喝や暴行を受けるなどの可能性はある。密室での行為なので、女性から誘いがあったことを立証するのも難しい。やはりきれいに遊ぶべきである。

Lorem ipsum……ロレム・イプサム。出版やデザイン業界で使用される典型的なダミーテキスト。まだ正式な文章が出回っていない時に、書体やレイアウトをわかりやすく見せるために使われる。”Lorem ipsum dolor sit amet”から始まるラテン語みたいな文字列だが、1960年代の英米の出版業界から用いられてきた。ちなみに意味はまったくなく、でたらめである。古代ローマの哲学者キケロの著作からとられている。

なぜピアノの「ミ」の右上に黒鍵盤がないのか……いや、当たり前やろ、っていう話ではある。まず平均律は周波数が2倍になるまでの音を12個に分けたもので、現在のピアノは7つの音をスタメン、5つを控えにしたものだ。本当なら各キー毎につくられた鍵盤があれば弾きやすいのだが、「キーごとにピアノを作る」なんてやってられないから、例えば「ト長調はF#がレギュラーになる」というように、人間側が「ハ長調用鍵盤」に合わせているのだ。それにのっとって考えれば、そもそもミとファの間は半音で、黒鍵を置きようがないのである。

C言語でfcloseを呼び出さないとどうなるのか……基本的にはどうもならない。標準的な規格の場合、main関数から脱した時点で、開いているFILEオブジェクトは全てfcloseにより閉じられる。だから別にわざわざ呼び出す必要はない。ただし大量のファイルを開きっぱなしにしておくと、いつまでもそこに当たるメモリが開放されないままになってしまい、メモリが足りずにセグメンテーション違反になることはありうる。そんなに大量のファイルを開く機会がないので、実用上は問題がないといえる。

C言語の文字列ポインタの活用例……ポインタと配列は本質的に全く異なるものであるが、似てはいる。というのも文字列の配列で指定されるのはその文字列の最初の位置(アドレス)であり、scanfで文字列を標準入力させるとき、&が必要ない理由になっている。ポインタもその変数のアドレスを指し示すものだから、確かに似ている。だが文字列を扱う場合、配列にはない便利な点として、代入だけで文字列を変更することが可能である。例えばstr[]=”ABCD”;と初期化することは可能だが、これを後からstr=”IJKL”とはできない。しかし文字列型のポインタであればこれが可能であり、しかも文字列の長さに制限もない。配列サイズをあらかじめ確保する必要もない(文字列の終端はナル文字で判断できる)。ただし文字列リテラル(最初に\*strP=”EFGH”とかした場合の、EFGHにあたる部分)は書き換えることができないため、str[1]=’Z’とはできても、strP[1]=’Z’はできない。プログラムが動くことはありえるが、それはたまたま動いただけの話。メモリリークの危険もあるため、未定義の動作は使わないようにしよう。結論としては、書き換える可能性のある文字列はchar型で、可能性がないものはポインタでとするとよい。

C言語のメモリ動的割り当て……まず静的割り当てを説明する。これは配列である。例えばchar s[1000][100]を宣言すると、100Kバイトのメモリが確保される。このような割り当ては余ったときに無駄であり、拡張もできない。このような場合はむしろ、プログラムの実行中に必要に応じてメモリを確保するほうがよい。これが「動的割り当て」である。一般的にはmalloc()関数とfree()関数が用いられる。malloc関数はvoid \*malloc(size\_t size)の書式になっており、成功したときには確保したメモリブロックを指すポインタが、失敗時にはNULLが返される。例えばchar \*strと宣言し、str = (char \*)malloc(100)とすると、100バイト分の領域が確保される。これがもしint型の領域を50個というときはint \*nとし、n=(int\*)(malloc(sizeof(int)\*50);のようにsizeof演算子を用いるのが常道。その後、mallocで確保した領域を使い終わった後に開放するのがfreeである。free(p)のように、mallocで確保した領域の先頭アドレスがpに入る。確保した領域がプログラムの終了まで使われる場合は開放する必要がない。freeは返り値を持たずエラー管理ができないため、ちゃんと正しいポインタを返す必要がある。

関数ポインタ……関数もポインタにできる。関数を呼び出すということはメモリ上のプログラムにジャンプするということで、メモリ上に配置されている以上、そこには番地がある。この番地をさすものが関数名になる。使い方としては簡単。int (\*func[2])(int a,int b)、func[0]=add,func[1]=subとし、addがaとbの和、subがaとbの差など。ちなみにポインタは番地を指す変数なので、NULLポインタで初期化する。こうすれば関数を配列として定義することが可能になる。

C言語の構造体の使用手順……結局やり方さえわかればすぐ使える。生徒の英語と数学の成績についてのデータがあるとする。こういうときはstruct seiseki{int no;int Eng;int Math}と最初に宣言してしまう。これだと単に構造体の「型」をつくっただけで、領域が割り当てられない。そこでmain関数内で実際にデータを宣言し、メモリ上に領域を確保する。struct seiseki seito[20]のようにして初めて使うことができる。参照する場合はseito[2].noのようにすれば、2番目の生徒のナンバーがわかるなど。

職務質問は本当に「任意」なのか……任意と言えば逃げられるという風潮があるがそれは正しいのか。職質は警察官職務執行法第二条に規定されており、「云々について停止させて質問できる」とある。そして第三項には「法律の規定に寄らない限り身柄を拘束されたり答弁を強要されたりはない」とある。これを「任意」の根拠としているが、これは間違い。「職質を拒否してよい」という理由にはならない。逃げようとする者には一定の有形力の行使が認められている。過去には「進路をふさぐ」「自転車の荷台をつかむ」「腕をつかむ」が判例として認められており、「職務質問をうけるかどうかを選択できる任意ではない」と解釈するほうが自然。ここまでは一般的な解釈についてだが、法律的には職務質問は強制権限だと解釈できる。その根拠は行政手続法にあり、「行政が行う行為は手続き段階においても適法である必要がある」とされている。強い力をもつ行政はそのかわりに「手続きをちゃんとしてね」というカセを強いられているということ。強制権限には4つあり、そのうち「即時強制」が職質の説明に用いられる。他の3つについては前もって書面での実行通知が必要だがこれは必要ない。その代わり即時強制だけに関しては「即時強制をするには、それを行うための個別の法律がいるよ！」と規定されている。そして職質が即時強制になるために、警察官職務執行法があるといえる。つまり令状主義的な裁判所の手続きと違い、相手に何か命令を発する時間がないときに職質(停止させて質問)できるという強制権限である。市民側としては「そもそも職質を受けないように対策しよう」ぐらいしかなく、やましいことがなければ素直に受けた方がよい。

痴漢冤罪を防げるかもしれない方法……痴漢で起訴され、有罪になる確率はなんと99％以上(まあ痴漢に限らず日本の裁判はそんな感じ)。もし「この人痴漢です」と言われたら、「わかった、私は今から何も触らないからDNA検査(微物検査)をやってくれ！！」と叫ぶのがよいという(北村弁護士曰く)。もしこれでやらなければ裁判の際「いや警察くん、被告人がわざわざやっていいって言ってるのになんでやらなかったの」という話になるから、警察もせざるを得なくなる。

軽微な交通違反と免許証のしくみ……免許証所有歴が5年以上で、なおかつ過去5年間無事故無違反の場合が優良運転者(ゴールド免許)。過去5年間で軽微な違反が1件の場合が一般運転者(以下ブルー免許)。初回更新の際はブルー3年で、以上以外の場合は3年になる。つまり違反は1回までなら講習も60分で済むが、2回以上になると120分と倍になる。ゴールドの場合は30分で済む。

交通違反の点数特例……普通の人達のために「1年無事故無違反なら、それ以前の点数は累積されない」というのがある。これだけでなく、優良運転者だった人達の優遇のために加点の特例もあるのだが、これがまたなんとも厄介で覚えにくい。「過去2年間無事故無違反(ゴールド免許含む)でなおかつ軽微な違反(3点までの違反)であれば、その後の3か月間無事故無違反なら点数は累積処理されない」。違反実績としてはしっかり残るので、ゴールド免許の人も次の更新ではゴールドでなくなる。なんにせよ違反しないのが一番ではあるが、これに関してはもう運も絡むとしか思えない。ナビで案内された道が右折禁止だったとかあるし。

バイクでの左側すり抜けはよいのか……結論からいえば「グレーゾーン」。ただし違反になる例がある。まず路側帯に入り込んでのすり抜け。これは通行帯違反になる。黄色ラインを踏んでの右側からのすり抜けはもちろん違反。走行している車の間のすり抜けも駄目。右側の車が少しでも動いている状況ですり抜けたら「左側からの追い越し」になるので駄目。また目に見える高速度でのすり抜けも駄目。交差点30メートル以内でのすり抜けは「交差点30m以内での追い越し」と解釈されうるためグレーゾーン。車道外側線の外側ははっきり言及がないためグレーゾーンだが、上の要件を守ってのすり抜けなら捕まることはほとんどない。

追い越し車線をノロノロ走る車を左から追い越すのは……違反である。追い越しは必ず左側から行う必要があるためだ。しかし追い越し車線をずっと走るのも車両通行帯違反で、1点と6000円の反則金となる。ただあくまで「追い越し」が禁止なのであり、前述したように追い抜きに関しての禁則はないため、例えばノロノロ運転者の車の後ろで左側に車線を変更し、しばらく走ってから、速度を上げて「追い抜」けばよいことになる。当然その後で追い越し車線にすぐに戻るとこれは「追い越し違反」になるため注意を。

1年で交通違反とか免許取り消しってどれぐらい起きてるの？……これがまた非常に多いのである。平成29年度のデータになるが、免許の保有者は全部で8225万人。免許取り消しは(申請して自主的に取り消したものを除いて)44000人分。1日で120人が取り消されていることになる。免許停止はさらに多く27万件。交通違反の取り締まり件数は年間で648万件。その上位5位は速度違反、一時停止違反、携帯使用違反、通行停止違反、信号無視で、これで90％以上を占める。

文字列を”,”で分解して関数に格納するプログラム……strtok関数を用いる。例えば”abc,def”とか”xyz,123”を、コンマの前後で分け、前後をchar a[4]に、後者をchar b[4]に格納したいとする。ただしchar \*pointeraとchar \*pointerbが必要。まず、pointera=strtok(kakunou,”,”)とかpointerb=strtok(NULL,”,”)とし、strcpy(a,pointera),strcpy(b,pointerb)とすればよい。ファイル入出力とあわせて非常に強い味方になる。

数字ミスを減らすための様々な「工夫」……人間の注意力なんて、どんなに完全無欠な人間だろうとたかが知れている(そういう人も疲れているときはミスしやすくなる)ため、構造側を変えてあげることでミスを減らすのは大事である。まず、センター試験について説明しよう。センター試験の受験番号には「チェックディジット」という乱数が設けられている。具体的には「001B」「002G」「003X」などというように振り分けられるときのアルファベットの部分がそれ。受験者を管理するためのものではなく、1つ間違えて「001G」とマークしても、001Bの人に混乱を起こさないように設けられる。番号とアルファベットをたまたま両方間違え、しかもそれが前の番号と一致する、ということは極めて起きにくい。大学の学生証も同様。日本で起こった金融業界のヒューマンエラーとして最も影響力が大きい事件といえばやはり、2005年のジェイコム株大量誤発注事件だろう。証券会社のある一人の担当者が「61万円で1株売ります」と入力するべきところを誤って「1円で61万株売ります」と入力したために市場が大混乱した事件である。異常入力に関する警告が表示されたにもかかわらず、担当者はそれを無視してしまった。金銭が絡むことで起こるミスといえばクレカである。オンライン決済でクレジットカード番号を入力する際、やはり誰かはミスをしてしまう。誤入力した番号が実在する他人の番号と一致してしまったりすると、色々と面倒なことが起こる。クレカの場合は学生証とかよりも若干複雑で、多くの場合はLuhnアルゴリズムが用いられている。IBMの科学者であるハンス・ルーン氏が考えだしたもの。まず各桁の数字を全て足す。このとき、右端から数えて偶数番目の桁の数は2倍したものを足す、2倍した数が2ケタになった場合は、1の位と10の位の数は別々として足す。足した結果が10で割りきれれば正しい番号で、そうでなければ入力ミスとみなす。例えば19547という数字を考えよう。右から数えて偶数番目は2倍していくので、1,18,5,8,7となる。18は1,8に分かれる。1,1,8,5,8,7だ。足すと30で、これは10で割り切れるから正しい番号。当然、完全に記入ミスを防ぐものではなく、また悪意のある攻撃を防ぐものではないが、単純なミスを防ぐものとしては十分なので使われている。自分のやつでもやってみよう。

構造体のアドレス渡し……構造体も関数に対し、普通の変数のように引数にできる。アドレス渡しだけでなく値渡しも可能である。値渡しの場合、引数の独立性が保たれて安全なプログラムになるが、対象となる構造体の内容を全てコピーするため、無駄な時間も多い。そこで普通はアドレスを渡す。プロトタイプ宣言のときはfunction(struct seiseki \*student)とすればよい。そしてmain関数ではfunction(seito2)のようにアドレスを渡す。逆に関数からreturn文を利用し、関数から構造体を返却できる。リターン型が構造体になるのに注意。

クピドの悪戯 虹玉……日本のSF恋愛漫画作品。累計で100万部を売り上げ、テレビドラマもつくられた。「射精をし続けると『赤玉』が出て、そこで性的不能になる」という都市伝説をモチーフにした架空の病にかかった青年が主人公。彼は「紫色」の球をある時出してしまい、自分の射精回数があと6回しかないことを悟った。つまり射精とか小作りの機会は6回のみである。発想がぶっ飛んでるんですが。

「無事故」の定義……刑事処分や行政処分における事故、つまり点数を足されたり反則金・罰金となる事故として記録されるのは人身事故のみ。物損事故は対象にならない。モノを壊したことによる損害賠償は発生するが、それはあくまで民事の話で、「無事故無違反」の条件にはならない。ただし例えば「ぶつけた相手が『首が痛い』と言い出した」ような場合は人身になる(なっても、違反切符を切られない限りは点数引かれたり罰金なったりはしない)。逆に言えばぶつけられた場合は首が痛いと主張しておけば…。

制服警官女子大生殺人事件……1978年に発生した警察一大不祥事。現職の警視庁警察官による殺人事件である。まず犯人の巡査はパトロール中に発見した女子大生に恋をし、たびたび部屋を覗きに行った。女子大生もこれに気付き、婚約者に相談していたという。その後当日、「巡回連絡に来ました」と伝えてドアを開けさせた。巡査は部屋に押し入って強姦しようとしたが、この時必死に抵抗、ガラスが割れた。住人に気付かれたと思った巡査は殺害を決意し、ストッキングで首をしめて殺害した。勤務に戻ろうとした際、ガラスの割れ目から家主が部屋を覗いているのに気づき、「女性が殺されている、至急110番してください」と依頼、第一発見者を装った。しかし「所轄系無線を用いて至急知らせればいいのにどうして110させたのか」と聞かれ答えられなかったり、顔にひっかき傷があったことなどから犯行がバレてしまい、さらに空き巣なども巡回中に数件行っていたことが判明。警視総監を減給にしたり、幹部3名を処分したりと、かなり大きな規模での不祥事となった。犯人は無期懲役に。

警察のことを「桜田門」というのはなぜか……それは、警視庁が桜田門の前にあるから。桜田門とは1663年から皇居にある門の1つで、重要文化財。

原付は「自転車専用レーン」を走ってよいのか……駄目である。自転車専用レーンは車両だけでなく、歩行者さえも立ち入ってはならない。ということは原付は煽られながら走る必要があるということ。

スピードメーターの表示速度と実際の速度は誤差がある……実は表示のほうが5％ほど大きい。スピードメーターの数字はタイヤの回転数から計算される推定値である(極端な話、空ぶかしでもメーターが上がるのがその根拠)。メーカーが速度違反の際の責任を追及されないようにこうしていると思われる。

せまい日本そんなに急いでどこへ行く……1973年の全国交通安全運動の標語募集の大賞作品。年間を通じて、全国の交通安全スローガンとして登場し、国民の耳にこびりついた。大阪万博(1970年)の後、爆発的に起こったマイカーブームにより、交通死亡事故がうなぎ上りで増加した。そこで高知県出身の作家・岡本定之助がこれを考え出したという。現在は彼の故郷に石碑が立っている。

パッシングの意味……ヘッドライトを一瞬光らせる「パッシング」だが、そこにはいろんな意味がある。教習所では習っていない出来事の1つで、教えてもらうことはなかなかできない。基本的には「先に行きたいので道を譲ってほしい」という意味で、ほとんどがこの意味。それだけでなく、道を譲ってくれて「ありがとう」とか、警察のねずみ捕りがあるから(あるいは鹿や猪が歩いてるから)「気をつけろ」、道に「入れてください」、ヘッドライトが「まぶしい」、トンネルの出口付近では「ヘッドライト消し忘れてるよ(つけ忘れてるよ)」。

ハザードランプの意味……3つの意味が主にある。まず「前方で渋滞が起こってるぞ！」を知らせるため。追突されないよう、渋滞の最後尾の車はハザードランプをちゃんとつけるようにする。次に「駐車しますよ」。駐車に慣れていない場合に「今から駐車しますよ」と注意喚起を促す。最後に「ありがとう」。2回、3回ハザードランプを点灯することでお礼を示す。

誤差率の式の覚え方……誤差率は計測値(M)と真値(T)を用いて、(M-T)/Tに100をかけて表される。でもこれ、分母がどっちかとか、どっちからどっちを引くのかとかでけっこうごっちゃになる。まず、なぜM-Tなのか。M>Tのときに値が正になるのは当然だろう。だからM-Tなのだ。分母のTだが、これは以下のように考える。まずM=110でT=100のとき、誤差率が10%というのは明らか。こうなるには分母はTでなくてはならないはず。

原付の左折レーン専用の二段階右折について……「左折レーンに右ウィンカーをつけながら入り、直進する」というヤバいことをやらなくてはならないのだろうか。実はそうなのである(電話して確かめたので正しいはず)。なんというか危険極まりないので、直前で原付を停め、歩行者と一緒にエンジン切って歩くのが無難。これに限らず、でっかい道の場合は「二段階右折する必要がある」のか「してはいけない」のか初見でわからないので、極力右折しないほうがよい。

原付の速度違反について……基準は明確にあるらしい。しかしそれを言ってしまうと「そこまでなら大丈夫」という基準ができるので詳しくは言えないとのこと。だが「30キロ台で走っている人を捕まえることは絶対にない」らしい。速度の表示計の誤差も考えれば、40キロ前半なら捕まらないだろう。

原付でえらく煽られる場合……手で合図して先に行かせることも可能であり、違反でないという回答を得たが、それよりもいったん路肩に停めてから行かせたほうがより安全らしい。このとき、幅0.75m以下の路側帯には入らないこと、幅0.75m以上でも入る場合は一旦停止することに注意しよう。車道外側線なら思い切って入っていい。そもそも裏道を使うのが賢い。

パトカーもスピード違反で捕まるのか……結論からいえば、ありうるし、実際に、あった。2014年2月、京都府警のパトカーが高速道路を145km/hで走り、オービスに捕捉、運転していた警察官が兵庫県警に検挙されるという珍事が起きた。取り締まり地点の法定速度は80km/hだが、パトカーの緊急速度は100km/hであるため、45km/hオーバーでの御用に。違反点数は6点なので、警官なのに免停ということになる。「いちはやく通報者のもとに行こうとした」と述べたが、「それならうちのほうに連携連絡をくれればよかったじゃん」として検挙に。ところがどっこい、速度違反を取り締まるために走行するパトカーや白バイには制限がない(あったら取り逃がすことになる)。しかしこれには「赤色灯を点灯させよ」という決まりがある。厳密に言えば覆面パトカーは速度違反になってしまう。ただし1988年には「覆面パトカーが速度違反していても、取り締まりそのものは有効になる」という判例が出た。ちなみに駐車違反で違反切符を切られるという場面も時々起こりうる。空き巣の現場に向かった神奈川県警のパトカーが、被害者のマンションで事情を聴いている間、交差点に赤色灯をつけずに30分以上路上駐車、通報されて違反切符を切られてしまった。そのほか、三重県警のパトカーが一時停止の取り締まりをしていた時、通りかかった男性により通報、駐車違反になった例もある。制服姿、ヘルメットをかぶらずにオートバイを運転し取り締まりを行っていた。パトカーとて無敵ではないのである。

数を数えられれば数の概念がわかったことになるか……風呂場で子どもが「イチ、ニイ、サン」と数えるのを根拠として「うちの子は数がわかるのよ」とニンマリする親。でもそれは正しいのだろうか。実は数には2種類、集合数と順序数がある。就学時の子の中には、この区別があやふやな者もいる。集合数は「リンゴは何個？」で、順序数は「このリンゴは何番目？」である。「たがいに区別できる物体の集まりの中の物体の個数は、それらの物体の個性とか、何番目かとか、集まりをより小さい集まりに分ける方法とは無関係」、つまり「一対一対応による不変性」「順序に対する不変性」「分割に対する不変性」という3つの不変性を集合数概念の条件としたのがファインさん。スイスの心理学者ピアジェが「幼児における数概念の発生」という研究で多くの実験をした。その結果3つについてそれぞれ「花瓶と花により、花瓶に1本ずつ花をさすとき対応が持続するか」「一度左から数えたものを右から数えたらどうなるか」「おはじきを小さい容器2つに分割したら総量はどうなるか」を問えば、子どもが数を理解しているかどうかを確かめられそうだという。

how manyとhow muchの違い……まずhow manyは「車・ボート・リンゴ」、how muchは「ロープ・水・塩」など。これらの区別は簡単で、前者は個数とか台とかで数えられるが、後者は「はかられる」量(mとかkgとかLとか)である。だから複数形にするときもtwo carsとはいえるが、two ropesとはいえない(two meters of rope)。

おしくらまんじゅうをして焼け死なないのはなぜか……体温36度の子どもと36度の子どもがおしくらまんじゅうをしたら72度になった。ってそりゃ、こんな足し算したら焼け死ぬだろ。なぜこんなことができないのだろうか。いろいろな量の中には、足したり引いたりできるもの(外延量)と、しにくいもの(内包量)がある。長さとかかさとか重さは簡単にできるが、速度とか密度、温度は簡単にできない。その代わりかけたり割ったりはすぐにできる。外延量はmとかgとかLという単位がつき、内包量はkm/hとかg/cm^3が用いられる。温度に関しては温度と熱量を区別する必要があるため、17世紀ほどにようやく区別されはじめた。

長方形の面積はなぜ縦かける横か……よく考えたら確かに。これ実は、1センチ平方の正方形の面積を基準にしている。例えばタテ3m、ヨコ4mの長方形の面積は12m^2だが、これは12個の単位正方形があるということになる。だがこの求め方は自然的ではなく、中国では面積の単位を「歩」で表した。「歩」は本来長さの単位だが、1歩を「2歩四方」とした。

多角形の外角の和が360度になることの実感……多角形をなんでもいいからホワイトボードに書いてみよう。そして、書いた図形と同じような図形を描いて部屋を歩いてみる。すると、どこから歩き始めて1周しても、元の向きをむいてゴールするはずだ(西をむいてスタートすればゴールも西をむく)。

0の0乗は1なのか0なのか……電卓ではじいても答えは出ないが、一応「xのy乗」について、それぞれを限りなく0に近づけていくと、答えは1に収束しそうである。1と定義するのが自然ではある。

レタスだけのサラダをなぜハネムーンサラダというのか……ことば遊び。ハネムーンというのは新婚であり、”let us alone”(私たちを放っといて)である。これと”lettuce”(レタス)の発音が似ているためこう呼ばれるのだ。

河岸を変える……かしを変える。飲食や遊びの場所を変えること。お酒を飲んでいて2軒目、3軒目に場所を移したいときに「そろそろ河岸を変えよう」と使う。河岸は文字通りであり、積み荷の揚げ降ろしとか、人の乗り降りする場所をさす。

時を分かたず……時間を問わずいつでもという意味。「季節の区別なく」という意味の「時分かず」という古語がもとになっている。言葉的に「すぐに」という意味だと誤用されがちであるが、「時を分かたず警備が敷かれた」なら「ずっと警備が敷かれた」という意味なので注意。

底が割れる……嘘や隠しておきたいやましいことが相手に見破られてしまうこと。「実力をごまかしてもいずれ底が割れる」という使い方をする。

滋味……じみ。栄養のある食べ物とか、その味わいについて表現することば。「滋味深い料理」といえば、おいしくて健康によい料理のこと。体の栄養になることを「滋養」というように、「滋」にはうるおす、栄養があるという意味がある。

憮然……ぶぜん。失望や落胆をして何もできない様子、意外なことに驚いてあきれる様子。最近では「腹を立てている」という意味で使われることのほうが多い。

檄を飛ばす……自分の考えや主張を広く人々に伝えて同意を求めること。古代中国で使われていた「檄文」がもとになっている。「激励」と似ているからか「監督が檄を飛ばす」と使うことがあるが、厳密にいえばこれは正しい使い方ではない。

世間ずれ……実社会を生きるうちに苦労を重ね、世渡りの知恵を身につけていくこと。ずる賢さとか抜け目のなさというニュアンスもあるため注意しよう。決して「世間の一般的な考えから外れている」という意味ではない。

小春日和……小春とは旧暦で10月(10月から12月上旬ごろ)のこと。秋から冬に移り行く頃の、晴れた温かい天気である。春先の心地よい日のことではないので注意しよう。

奇特……きとく。ほかと違って優れているという意味。「奇特な人物」といえば「めったにいない感心できる人」という意味のことばなので、誤解されがち。

快哉を叫ぶ……かいさいをさけぶ。愉快だと思うこと、胸がすっとするほど気持ちがよいこと。「テストが終わって快哉を叫びたい」というように使う。思わず叫ぶほど嬉しいことがあったときにも使える。たとえばスポーツで点数が入って、観客が「快哉を叫ぶ」というような感じ。

人心地……ほっとした、くつろいだ気持ちのこと。ストレスから解放されてリラックスすることを「人心地つく」という。「一心地」ではないので注意。

面映ゆい……おもはゆい。嬉しくて照れ臭く、きまりが悪いという意味のことば。人前でほめられて照れを感じたときにつかう。類語には「くすぐったい」「こそばゆい」などがある。特に相手と面を向かって何かをする、されるのが恥ずかしいときに使う。

砂を噛む……面白みがまったくなかったり、味わいが感じられないことをたとえた表現。「やりがいのない仕事に砂を噛むような毎日だった」というように使う。

慚愧に堪えない……ざんぎにたえない。自分の行いの残念さ、恥ずかしさを反省すること。政治家などが会見でよく使っている。慚愧とは仏教用語、「慚」は自分を恥じること、「愧」はその気持ちを外に出すこと。

塗炭の苦しみ……とたんのくるしみ。泥にまみれ、火に焼かれるような苦しみという意味。「塗」は「泥」で、「炭」は「火」のこと。水火の苦しみという表現が類語。

お汲み取り下さい……事情を察してほしい場合につかう丁寧な表現。空気を読めない取引先とか上司とかに対して使う。例えば相手からの提案を断る場合、はっきり断ると角が立つため、「どうか事情をお汲み取り下さい」というとよい。ご斟酌くださいとも言い換えられる。

改めて敬服いたしました……目上の人の考えや実力を目の当たりにしたとき「見直しました」というと上から目線になってしまう。敬服という表現を知っていると便利である。同様の表現に「感服」があるが、これは目上の人に使うのは失礼という考え方があるようだ。

お相伴にあずかります……おしょうばん。お付き合いいたします、の丁寧な言い方。接待を受けるという意味では「御馳走になる」という言い方もあるが、「お相伴にあずかる」には、自分以外の主役の連れとしておこぼれにあずかるという謙遜の意味がある。ご一緒するとか、同席するという表現も使える。

ご進物……ごしんもつ。進物とは祝い事や季節のあいさつなどで贈る品物のこと。贈答品を表す類語はほかにも「付け届け」があるが、こちらは謝礼や義理のために贈るもののこと。

ご寛恕ください……ごかんじょください。「寛恕」とは咎めずに許すこと、心が広いことを表す表現である。相手からの許しを請う意味で「ご寛恕くださいますようお願い申し上げます」と使う。

笑納……贈り物をするときに「ご笑納ください」というように使い、「粗末な品物ですが笑って受け取ってください」という気持ちを表す。ただ、ある程度親しい仲でないと使うのは失礼になってしまうおそれもある。

厚誼……こうぎ。厚い情や親しみの気持ち。「格別のご厚誼にあずかりお礼申し上げます」というように使う。使えたらたぶんすごくかっこいい。

息災……無地で健康なこと。「おかげさまでみんな、息災に暮らしております」と使う。「無病息災」というように使う時の「息災」である。

いやが上にも……それに加えて、ますますという意味のことば。「弥が上にも」と書き、「ここまでおぜん立てされたらいやが上にも盛り上がる」というように使う。「否が応にも」は「否が応でも」「いやが応でも」ということばと混ざったと考えられる。

寝覚めが悪い……後悔したり嫌な気分になったりすること。悪夢を見て眠りから覚めたときのあの目覚めの悪さに例えている。「目覚めが悪い」とは言わないので注意。

寸暇を惜しんで……ほんの少しの時間さえ惜しむこと。「合格のため寸暇を惜しんで勉強する」というように使う。「努力を惜しまず」と混ざったせいか、「寸暇を惜しまず」と使われるようになってしまった。

押しも押されもせぬ……堂々としていて立派な様子をあらわす。「押しも押されもせぬ大スター」というように使う。押しも押されぬと間違うことが多いが、これは押すに押されぬと誤用したものと考えられる。

愛嬌を振りまく……愛嬌とは人から好かれるかわいらしさのこと。最近では「愛想を振りまく」というように使われるが、愛想とは好感がもてるふるまいのこと。ふるまいを振りまくわけではないので注意。

噛んで含めるように……相手が理解できるよう、丁寧に。子どもの口に何かを与えるさい、噛んでから子どもの口に含めたことから。噛んで含むとは言わない。含んじゃうと自分が食べてることになる。

足をすくわれる……相手に隙をつかれて、失敗させられること。最近では「足元をすくう」という言い方が定着しつつあるため、こう言わないことも多い。

人後に落ちない……じんごにおちない。他人に劣らない、周囲の人に先を越されないという意味。引けを取らないとか見劣りしないという意味。中国の詩人である李白の詩「気岸遥かにしのぐ豪士の前、風流あえて落ちんや他人の後に」(気位の高さでは豪傑をはるかにしのぎ、風流なことでは人後に落ちない)という一節があり、それが語源。

耳朶にふれる……じだにふれる。「耳朶」とは耳たぶのこと。聞き及ぶことを「耳朶に触れる」という。よいことでも悪いことでも使える。不快な話を聞いた場合は「耳がよごれる」という。

よんどころない……そうするより仕方ない、どうしようもないこと。「よんどころない事情がありますので本日は参加できません」というように使う。よりどころのことである。

汗顔の至り……かんがんのいたり。顔に汗をかくほど恥ずかしいという意味。「学生時代のことを言われると汗顔の至りです」というように使う。恐縮するときにも使える。

語るに落ちる……秘密をうっかり漏らしてしまうこと。最近では「語るほどの価値もない」という誤用が多いが、犯人が自白することを「落ちる」というのと同様だと知れば、覚えやすい。

一家言……いっかげん。その人独自の意見や主張のこと。また、見識のある意見のこと。「国際問題について一家言持っている」というように使う。「いっかごん」ではない。

長広舌……ちょうこうぜつ。長々とよどみなくしゃべり続けること。

独擅場……どくせんじょう。ある人にとって思いのままにふるまい、活躍できる場面や場所のこと。「独壇場」(どくだんじょう)と読むことばもあるが、意味は全く同じ。おそらく「土壇場」からの誤用であるが、むしろこっちのほうが定着してきている。

手元不如意……てもとふにょい。手持ちのお金が少ないこと、暮らし向きが楽ではないことをいう。懐具合とか暮らし向きが「手元」であり、「不如意」は自分の思い通りにならないという意味。誘いを断る時「財布が寂しい」のかわりに使ってみよう。

はばかりながら……目上の人に遠慮をしながらも意見を言いたい場合に使える表現。「恐れ入りますが」「出過ぎたことですが」と同じ表現。また「はばかりながらも私は専門家です」と、相手と比較すれば取るに足らないが、という謙遜をしつつ、主張をできる便利な表現である。

酸鼻を極める……さんび。鼻に痛みを感じて涙が出ることから転じ、ひどく痛ましい、悲惨な状態のこと。「酸鼻を極めた事件」などという。

碩学……せきがく。学問が広く深いこと。またそういう人のこと。なお知識が深くて豊かなことを表す表現には「博覧強記」「顕学」(けんがく)がある。

鼻薬を嗅がせる……はなぐすりをかがせる。賄賂を使うこと。「鼻薬をきかせる」とも。鼻薬は鼻の病気に使う薬だけでなく、泣きながら鼻を鳴らすこどもをなだめるために与えるお菓子という意味もあった。それが賄賂という表現に転じたのだ。

世界三大悪妻……ソクラテスの妻クサンチッペ、モーツァルトの妻コンスタンツェ、トルストイの妻ソフィアだという。クサンチッペは人前で夫を罵り、水をかぶせたりした。ソクラテスの命日である4月27日は彼女にちなみ「悪妻の日」とされているほど。コンスタンツェは浪費家で家事能力はゼロ。しかも夫の死の間際に温泉に出かけたとか、彼が没した後わざと楽譜を破き、断片にして1枚ずつ高く売ったとか、信じられないクズエピソードが残っている。ソフィアは夫の(財産を貧しい人に与えようとする)意思に反して、作品の版権を取得するなどの強欲ぶり。愛想をつかしたトルストイは82歳で家出し、そのまま亡くなった。ただ3人とも、エピソードの多くは後世の誇張とされている。変人の妻ということで妻も変人になるのだろうか、それとも、生活を守ろうとした「常識人」だったのだろうか？

世界三大喜劇王……チャップリン、ロイド、バスター・キートン。チャップリンは口ひげと山高帽子、(日本製の籐でできた)ステッキが特徴の喜劇王。ロイドはカンカン帽とセルロイド眼鏡。「要心無用」で時計台の時計の針からぶら下がるシーンが有名で、バックトゥザフューチャーにも引用された。キートンは「偉大なる石の顔」と呼ばれ、無表情でギャグを放つ姿が受けた。

世界三大文豪……神曲で知られるダンテ、四大悲劇で知られるシェイクスピア、そして若きウェルテルの悩みとかファウストで有名なゲーテ。ダンテの「神曲」はその後のあらゆる芸術に影響を及ぼし、文体が現代イタリア語の基礎になっているほど。イタリアでは知らない人がいない超有名人。シェイクスピアは「ブルータス、お前もか」「生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ」などセリフも多く、英語圏では重要な基礎教養となっている。ゲーテはシューベルトがファンだったことで知られ、ゲーテの詩であった「魔王」とか「野ばら」に曲をつけ、名作として残した。

ルネサンスの三大巨匠……ダヴィンチ、ミケランジェロ、あと一人はラファエロとされる。ダヴィンチは建築、土木、天文、物理、解剖学、芸術などで大活躍した超天才で、ミケランジェロは彫刻家として「ダビデ像」を残したほか、「最後の審判」を描いた。この二人は対立していたことで知られ、ヴェッキオ宮殿の向かい合った壁で別々の題材で作品を描いていたことで知られる(いずれも未完)。ラファエロは、20代半ばで描いた「アテネの学堂」で知られ、このときのプラトンとアリストテレスのモデルが、実はダヴィンチとミケランジェロだという。

世界三大肖像画家……ベラスケス、レンブラント、写楽だという。ベラスケスは17世紀スペインの画家で、「教皇インノケンティウス10世」は最高傑作の1つと名高い。国王フェリペ4世お抱えの画家であった。レンブラントは同じ時代に生きたオランダの画家。「テュルプ博士の解剖学講義」「夜警」で特に知られる。晩年は破産し、静かに息絶えた。東洲斎写楽は江戸時代後期の謎の浮世絵師で、わずか9か月で、当時の花形役者や力士の版画を数多く描いたが、その消息は不明である。特に役者30人の上半身を描いた「大首絵」が有名。

世界三大詩人……ダンテ、ペトラルカ、ボッカッチョである。ダンテは「神曲」の人。ロダンの彫刻の「考える人」は「神曲」の中の「地獄の門」をのぞきこみ苦悩する男である。ペトラルカはイタリアの抒情詩人で、「人文主義」(ルネサンス)の先駆けを担った。代表曲「カンツォニーレ」はラウラという女性にささげた恋愛の詩である。ボッカッチョもイタリアの詩人であり、代表作「デカメロン」。ボッカッチョはダンテを賛美しており、「神曲」の元の題名だった「喜劇」に「神聖なる」を表す冠詞をつけ、これを森鴎外が後に「神曲」とした。ペトラルカとボッカッチョは親交があり、かつてボッカッチョが若き日の愚行を悔いて「デカメロン」を焼こうとしたが、ペトラルカがそれを阻止したというエピソードが残っている。

世界三大建築家……20世紀を代表する建築の巨匠といえば、フランク・ロイド・ライト、ミース・ヴァン・デル・ローエ、そしてル・コルビジェである。ライトは「有機的な建築」をコンセプトに個人住宅を手掛け、アメリカ中西部に平屋建ての「草原住宅」の傑作を多く生み出した。旧帝国ホテルも実は彼が設計し、日本の建築家にも大きな影響を与えた。ローエは鉄・ガラス・コンクリートによる「高層建築のパイオニア」。ポリシーは”less is more”(より少ないことはよりよいこと)。ワシントン公立図書館、ベルリン国立美術館などを設計。コルビジェはフランスの建築家で、「近代建築の祖」といえば彼をさす。国立西洋美術館は彼の設計である。

世界三大テノール……パヴァロッティ、ドミンゴ、カレーラス。パヴァロッティはイタリアのテノール歌手。オペラはもちろんとし、ニューヨークでもロンドンでもいろんなとこでライブをした。クラシック音楽全体の人気を彼が支えていた。ドミンゴは艶やかな歌声と甘いマスクで大人気になった。歌劇場の監督や指揮者としても活躍。カレーラスは白血病を克服して舞台に復帰したやべー奴。ちなみに1990年7月、イタリアのサッカーワールドカップ前夜祭の日、彼ら三人が全員で集まるという夢の競演が果たされた。世界50国以上で中継され、8億人が楽しんだという。しかし世代交代を既に迎え、彼らは全員引退した。

世界三大予言者……ノストラダムス、エドガー・ケイシー、ジーン・ディクソン。ノストラダムスは著書「予言集」が有名で、「恐怖の大王」が1999年に来るというアレは外れてしまった。ケイシーは催眠状態に入り、病気の状態や治療法を伝えたり、アカシックレコードを読み、過去生を知ることができたという。ディクソンはケネディ大統領暗殺の預言を的中させて占い師になったことで知られ、多くの政治家が彼女の予言を頼った。

世界三大仏教遺跡……ミャンマーのバガン、カンボジアのアンコールワット、そしてインドネシアのボロブドゥール。バガンはミャンマー最初の統一王朝の跡であり、11～13世紀あたり。城壁跡に囲まれた2000以上の建造物である。アンコールワットは、12世紀にアンコール王朝のスーリアヴァルマン2世がヒンドゥー教の寺院として建立した。いったん放棄されたが彩度発見され、16世紀に仏教寺院に。ボロブドゥールはジャワ島の仏教遺跡、824年建立という。外壁の美しいレリーフが有名。

世界三大聖堂……バチカン市国のサン・ピエトロ大聖堂、ロンドンのウエストミンスター寺院、スペインのセビリア大聖堂(もしくはドイツのケルン大聖堂)。サン・ピエトロ大聖堂は326年、コンスタンティヌス帝が聖ペテロ殉教の地に建てた。現在の建物はルネサンス期にでき、ミケランジェロが主任を務めた。ウエストミンスター寺院はイギリス国教会の聖堂で、王室の戴冠式のほか、王族が埋葬される場所でもある。セビリア大聖堂はスペインで最大の大聖堂。1519年に完成。コロンブスの墓もここにある。ケルン大聖堂はゴシック様式の建築物として最大。

世界三大建築……パルテノン神殿、パンテオン、ハギア・ソフィアだという。

世界三大記念館……イギリスのヴィクトリー号、アメリカのコンスティテューション号、日本の三笠。ヴィクトリー号はトラファルガー海戦にて、ネルソン提督率いるイギリス艦隊の旗艦として活躍した。世界最古の現役艦である。コンスティテューション号はナポレオン戦争や独立戦争で活躍。1812年、イギリス軍艦のグリエール号の砲弾が樫の船体を貫くことができず、「古い鉄騎兵」とたたえられた。三笠はバルチック艦隊を迎え撃った艦で、1923年に退役した。1961年に復元され、現在横須賀で公開されている。

世界三大宗教……キリスト教、イスラム教、仏教。教徒数でいえばヒンドゥー教、儒教・道教のほうが多いのだが、世界中に信者がいることに鑑みこの選択のようだ。ちなみに筆者、宗教なんてのはしょせん「雨乞いRTAタイムアタック」とか「天の声実況生放送」「0人ではないオフ会を担うエンターテイメント」ぐらいとしか思っていない。それにより救いがえられればそれでいいのである

世界三大図書館……アメリカ議会図書館、大英図書館、フランス国立図書館。アメリカ議会図書館は世界最大と言われ、ギネスブックに認定されている。1億3000万アイテムを所蔵し、本棚は850kmにおよぶ。大英図書館は1億5000万アイテムを所蔵し、紀元前300年の史料から今日の新聞まで取りそろえる。グーテンベルクの42B、マグナカルタの原本、ビートルズの楽譜なども所蔵されている。フランス国立図書館は高さ100mのガラス張りビル4棟でできている。

世界三大ミュージアム……大英博物館、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館、エルミタージュ美術館。大英博物館は世界中の美術品や考古学上の発見など700万点が無料で展示されている。盗難してきたものとかが入ってることへの負い目だろうか。メトロポリタン美術館はニューヨークにあり、1870年に開設された私設の美術館。

世界三大劇場……パリにあるオペラ座、ミラノにあるスカラ座、そしてブエノスアイレスにあるコロン劇場。スカラ座は1778年に落成、客席は3600である。ボックス席の上に安価な「天井桟敷」が設けられていることが有名で、ここならたったの12ユーロ(1900円)で蝶々夫人を見られる。アリーナ席は170ユーロ(2万7000円)。オペラ座は「魔物が住む」といわれるほどに広い。ブエノスアイレスはタンゴ発祥の地だが、コロン劇場は意外にもオペラやバレエの殿堂。

世界三大映画祭……ベルリン国際映画祭、カンヌ国際映画祭、ヴェネツィア国際映画祭。ヴェネツィア国際映画祭はムッソリーニ政権がメディアを政治利用する目的で設立され、これに対抗してカンヌができた。カンヌはいまや権威・規模ともに世界一と言われる。最後にベルリン。こういうと「あれ、アカデミー賞は？」という声が上がるが、あれは前年にアメリカで劇場公開された映画しかノミネートしないため、国際映画祭とはいえない。

世界三大音楽祭……ドイツのバイロイト音楽祭、フィレンツェ音楽祭、オーストリアのザルツブルク音楽祭。バイロイトは最も古く、ワーグナーが自らのオペラを理想的な環境で上演するために建設した祝祭劇場にて催される。現在もワーグナーが上演されるが、チケットは入手困難。なお、客席から演奏者たちは見えず、反射板で跳ね返った音が客席に届く。ザルツブルク音楽祭はモーツァルト生誕の地で演奏され、小さな町がこの時期ばかりは世界の音楽界の中心に。フィレンツェはオペラ発祥の地。とはいえ作品は限定されず、様々なレパートリーが演奏され、世界のオペラをリードする。

世界三大ジャズフェスティバル……アメリカ東海岸のニューポート・ジャズフェスティバルに続き、西海岸でスタートしたモントレー・ジャズフェスティバル。これにスイスのモントルー・ジャズフェスティバルが加わる。日本でも盛んだが、1980年代後半を絶頂期に姿を消している。これにカウントされないが、モントリオール・ジャズフェスティバルは世界最大規模。150万人を集める。

世界三大カーニバル……ブラジオのリオカーニバルは盛り上がりすぎて死者まで出るほど。トリニダード・トバゴで行われるポートオブスペインで開催されるカーニバルも特徴。スチールドラムの演奏で知られている。アメリカではニューオーリンズのマルディグラ祭が最大規模。2005年に発生したハリケーンの「カトリーナ」被災を乗り越えて、盛大に催された。

世界三大音楽コンクール……モスクワのチャイコフスキー国際コンクール、ワルシャワのショパン国際ピアノコンクール、ブリュッセルのエリザベート王妃国際音楽コンクール。いずれも世界最高なのだが、最近ちょっとした異変が話題になっている。実はアジア人の活躍が目覚ましいのだ。西洋の音楽界はこれに反感と危機感を抱いているという。かつて巨匠ピアニスト・ホロヴィッツが「東洋人と女にピアノは弾けない」といったが、それはもう過去のもののようだ。

世界三大バレエ団……17世紀にルイ14世は自ら舞台に立つほどバレエに集中し、1661年に王立舞踊アカデミーを設立。これが現在のパリ・オペラ座バレエ団の前身。18世紀にはチャイコフスキーのバレエ演目がつくられ、ボリショイ・バレエ団はバレエ界の中心的な存在に。その後イギリスで1931年にロイヤル・バレエ団が創設。日本の熊川哲也、吉田都も活躍した。

世界三大音楽院……パリ音楽院、モスクワ音楽院、英国王立音楽院。1795年設立がパリ音楽院で、世界最古。その後ヨーロッパ各地にできた音楽院のモデルになった。ドビュッシー、ビゼー、エリック・サティ、ラヴェルなどが出身。モスクワ音楽院はラフマニノフ、リヒテルなど。英国王立音楽院は1822年、ジョージ4世のもとで創立された。エルトン・ジョンら。

世界三大バイオリン……まずはアンドレア・アマティを始祖とするアマティ一族がつくったアマティ。16世紀に現在のバイオリンの形状を確立した。孫のニコラはグアルネリ、ストラディヴァリらの優秀な弟子をつくった。ストラディヴァリがつくったのがストラディバリウスであり、オークションで数億の値がつくほど貴重。グアルネリがつくったのがグアルネリである。

世界三大ピアノ……現在のピアノの原型はシュタインヴェークがつくった。彼は1853年に自らの英語名を冠した「スタインウェイ」をつくった。その後、オーストリアのピアノメーカーによりベーゼンドルファーがつくられた。生産台数は少ないが「至福のピアニッシモ」といわれる音色が有名。また、ベルリンのベヒシュタインが3つ目。リストやドビュッシーらが絶賛。日本で唯一、東京都の杉並公会堂のみがこの3つを取り揃えている。腕さえあれば弾き比べができるかも？

世界三大旅行記……マルコポーロの「東方見聞録」、玄奘の「大唐西域記」(だいとうさいいきき)、そして日本人の僧侶・円仁(えんにん)による「入唐求法巡礼行記」(にっとうぐほうじゅんれいこうき)。最後の、日本人には全く知られていないが、元駐日大使のライシャワーが訳して海外で人気になっている。円仁、博多を出発しちゃんと長安にたどり着いた。

世界三大美書……ウィリアム・モリスが設立したケルムスコット・プレス。代表作の「チョーサー著作集」をはじめ、様々な美書を世に出した。その後「欽定訳聖書」を生むダヴス・プレス、「ダンテ著作集」で知られるアシェンデ・プレスも誕生。ダヴスプレスの創業者サンダーソンは、印刷所を閉鎖する際、活字が他人に使われないよう、全てテムズ川に投げ捨てたという。

世界五大ウイスキー……まず代表格がスコッチウイスキー。スコットランドで生まれ、世界各地に広まった。しかし最古の記録としてはアイリッシュウィスキーが元祖。アメリカを代表するのがバーボンウイスキー。他のウイスキーは麦原料だが、これはトウモロコシ。日本で初めてウイスキーをつくった人はスコットランドに派遣されてであるから、ジャパニーズウイスキーはスコッチの流れを引いていることになる。アメリカの禁酒法時代に急成長したのがカナディアンウイスキーである。

世界三大名水……世界的に有名なのが、聖母マリアのお告げで見出されたというフランスのルルドの泉。カトリックの巡礼地になっているほか、ローマ法王庁が正式に「奇跡」と認定した病気の治癒例もある。メキシコのトラコテの水、ドイツのノルデナウの水も同じく効果があるという。日本では大分の日田天領水が「世界三大名水の一つ」を名乗っている。

世界三大ハム……スペインのハモン・セラーノ、中国の金華ハム、イタリアのプロシュート。ハモンセラーノは「山のハム」という意味であり、山岳地帯の寒冷な空気で自然乾燥させる。数か月から数年かけゆっくりと乾燥まで仕上げる。プロシュートは白豚のもも肉を天然塩で塩漬けにした後、1年以上かけて乾燥・熟成。ハモン・セラーノとプロシュートはイオンに売ってある。ハモン・セラーノは甘みがあった。プロシュートはちょっと香りがきつかった。

中国三大火炉……中国南部の長江沿いは、すり鉢のような地形のため夏が猛暑となる。特に南京、武漢、重慶が、「かまどの中にいるように熱い」という意味で「三大火炉」と呼ばれる。しかしさすがは中国で、タクラマカン砂漠の北にあるトルファンは「火洲」という異名を持つ。低い所はマイナス154メートルにもなり、冬は厳寒、夏は猛暑。年間の寒暖差はなんと70度。最も暑い記録は49.6度。

アルプス三大北壁……標高3970m、北壁に高度差1800mの大岸壁があるアイガー山。標高4208mのグランド・ジョラス山、標高4478m、ピラミッド形で「悪魔の住処」と恐れられたマッターホルン山。

世界四大珍獣……ジャイアントパンダ、オカピ、ボンゴ、コビトカバ。オカピはシマウマのような縞模様を脚にもつキリンの先祖。コビトカバは普通のカバの10分の１ほどの大きさしかない小さなカバで、現在のカバの先祖とされている。ボンゴは乳白色の角とチョコレート色の縞模様が美しい「森の貴公子」。

中国三大珍獣……ジャイアントパンダ、ゴールデンターキン、キンシコウ。ターキンは全身が金色の毛で覆われたウシ科の動物で、体は牛、頭は羊。わずか数百頭しか生息しておらず、中国では「第一級保護動物」に指定されている。キンシコウは顔やお腹に黄金色の毛皮が生えているサルみたいな動物で、一説には「孫悟空」のモデルになったともいわれる。

世界三大美蝶……東南アジアのトリバネアゲハ、南米産のモルフォとミイロタテハである。トリバネアゲハは蝶でも最大の種類で、オスの翅は金色から黄緑色に光り輝く。ミイロタテハは採集できる数が極めて少なく、腐ったバナナを捕獲に使う(動物の糞や死骸に集まるという)。

世界三大カブトムシ……ヘラクレスオオカブト、ネプチューンオオカブト、そしてコーカサスオオカブト。

世界三大花木……漢字で「火焔木」と書くカエンボクは、文字通り炎の燃え盛るような姿をした花である。同じく火のように燃え盛る花を持つのがホウオウボク。沖縄では街路樹としてポピュラー。ジャカランダは初夏に青紫の花を咲かせる。満開の時期になると青紫の花吹雪が舞うため「熱帯の桜」ともいう。宮崎県が指定する「県の木」となっていたフェニックスが害虫で死んでしまったため、後継としてこの木が使われた。

世界三大美港……世界中に数ある港でも、どれが美しいか諸説ある。ただ、シドニー港とリオデジャネイロ港は必ずあがる。あとはサンフランシスコ港か、イタリアのナポリ港だろうか。

世界三大長寿地域……アンデス山中のビルカバンバは、古代インカ帝国伝説に彩られており、東欧コーカサスは健康によいとされる「カスピ海ヨーグルト」や「ケフィア」で有名。パキスタン北部にあるフンザは、春になるとピンクの杏の花が咲き乱れる「桃源郷」である。いずれも不老長寿の浪漫をかきたてるのに十分。ただ本当に長寿かについては統計がない。国的にみればそんなでもないのだが、「145歳まで生きた」みたいな大げさエピソードに事欠かない。

世界五大マラソン……ボストンマラソンは1897年に始まった世界最古のもの。「心臓破りの坂」で知られる。ほか、仮装ランナーで有名なロンドンマラソン、世界記録が出やすいベルリンマラソン、平坦で好記録が期待できるシカゴマラソン、国際色が豊かなニューヨークシティマラソンである。ギャラリーは5大会あわせ500万人以上で、テレビを通して3億人が見るという。それぞれのコースに特徴があるためタイムの比較はできない。そのため「本当の世界一」はわかりにくい。日本で知られる「ホノルルマラソン」は、参加者の6割が日本人である。

世界四大ゴルフトーナメント……女子か男子かで異なる。女子はクラフト・ナビスコ選手権、全米女子プロ、全米女子、全英女子の4つ。男子はマスターズ、全米プロ、全米オープン、全英オープン。特にマスターズは、シーズン最初に開催される、最も難易度が高いゴルフ大会の1つ。1934年に初開催されて長い歴史を誇るが、4大メジャーの中では比較的浅い。場所は「オーガスタ・ナショナル・ゴルフクラブ」。草花が咲き誇る美しい景観とは裏腹に、グリーン難易度は屈指のため「魔女が住んでいる」と称される。観客のことは「パトロン」と呼ばれるが、これは入場者のフィーから経費を差し引いた金額を原資にしているため。優勝者にはグリーンジャケットと、生涯出場権が与えられる。とはいえ、そもそもマスターズに出られるのは大きな大会の優勝者、賞金ランキング上位者のみ。プロゴルファーの中でもさらに上澄みだけが出場でき、そこでさらに優勝というのはもはや世界一レベル。中でも目を見張る実績を残してきたのが、アメリカのゴルファー、ジャック・ニクラウス。この大舞台でなんと6回もの優勝をしている。しかも大会の予選通過回数37回、うちトップ10入り記録も22回とこちらも歴代最多。さらにアーノルド・パーマーも、彼に次いで2位。優勝賞金はだいたい2億円ほど。

世界三大サッカーリーグ……Jリーグ人気が低迷する中、日本のサッカーファンを魅了してやまないのがヨーロッパのサッカーリーグ。イングランドのプレミアリーグ、イタリアのセリエA、スペインのリーガ・エスパニョーラが三大リーグと呼ばれている。強豪チームがしのぎを削っており華やかなイメージもあるが、実は年俸が高騰し、経営は思わしくない。八百長、不正事件も起きている。

アメリカ四大プロスポーツ……まず大リーグ(MLB)が思い浮かぶ。マジックジョンソンやらマイケルジョーダンといった名選手を生み出したのがバスケットボール(NBA)、アメフト(NFL)が大人気。アイスホッケー(NHL)を加えたのが四大。

世界五大モーターショー……世界の自動車メーカーが技術とデザインを競うモーターショー。かつてはデトロイト、フランクフルト、東京が「三大モーターショー」と呼ばれていたが、近年ではこれにパリ、ジュネーブを加え、五大ともいわれる。年初にあるのがデトロイトで、フォードやGM、ダイムラーの「ビッグ3」に注目が集まる。会場が狭いが期間が長いこともあり、来場者が多いのが東京。

アメリカのビッグ3……三大自動車メーカーのことである。ゼネラルモーターズ、フォード、ダイムラー・クライスラーがその「ビッグ3」に数えられる。かつては世界のビッグ3でもあったが、日本や韓国の台頭によりシェアを奪われ、ついに北米市場までトヨタに抜かれてしまった。

世界三大タイヤメーカー……自動車タイヤの世界市場は、ミシュランがシェア2割でトップ、ブリジストンとグッドイヤーが続く。この三大で55％を占めている。

アメリカ四大ネットワーク……日本のテレビネットワークは新聞社を核にしてまとまっているが、アメリカはエンターテインメント系企業との結びつきが濃厚。NBCは「ユニバーサルスタジオ」でおなじみのフランスのメディア、ヴィヴェンディ・ユニバーサルの傘下。CBSは現在独立しているが、もともとコロムビアレコードが創設。ABCも最初はパラマウント映画の系列だったが、1996年にウォルト・ディズニーが買収。これにFOXを加えたものが四大ネットワークである。

アメリカ三大チャート誌……ヒットチャートの原型はビルボードという音楽雑誌に由来する。1897年創刊、1940年にヒットチャートの掲載をスタート。1942年に「キャッシュボックス」、1964年に「レコードワールド」が創刊された。しかし現在ビルボードのみが一人勝ち。

世界の三大高級腕時計……ヴァシュロン・コンスタンタンは1755年に創業して以来、途切れず時計を作り続けている世界最古のブランド。宝石をちりばめた時計で有名。その双璧とされるのがパテック・フィリップ。世界最高級の腕時計として多くの著名人に愛されている。オーデマ・ピゲは歴史が新しく、八角形の文字盤が印象的な「ロイヤルオーク」が代表格。

世界五大猛毒……テタヌストキシンは破傷風の原因となる毒素により体内に侵入する。イラクが生物兵器として研究したとされるボツリヌストキシンも土に生息する。そのほか、ジフテリア菌のつくるジフテリアトキシンは空気感染して呼吸困難を起こす。しかし北里柴三郎により治療法が確立されている。グラミシジンは細胞膜を変質させる上、RNAの生成をとめる。リシンはひまし油の糟に含まれる猛毒。

アタリショック……1982年のアメリカで起こった年末商戦を発端とするやべえ売り上げ不振。アメリカでの家庭用ゲームの売上高はこのとき32億ドルだったが、これが3年後に1億ドルに減少するほどのヤバさ。大手メーカーのいくつかが倒産に追い込まれ、最大手のアタリ社も崩壊し分割。簡単にいえば「スペースインベーダー」が大ヒットしたせいで、「とりあえず人気の漫画とか映画をAtari2600でゲームにしときゃいいやろ」「とりあえず生産いっぱいしとこ」みたいな風潮がゲーム業界にはびこり、「E.T.」(400万本つくって250万本売れ残った)とか「パックマン」(発売当時に1000万本売れてたのにその後1200万本製造)からわかる奔放な経営のせいで自分の首を絞めたという話。ただ最近では「実はなかったんじゃないか」説が出てきており、「単にAtari2600はスペースインベーダーの移植に伴い売れたのであり、売り上げの激減はクソゲーのせいではない」と主張する。しかし、クソゲーが消費者を激怒させ、財布のヒモを締め上げたのは事実。よくある誤解だが、「アタリ社から発売されたゲームがクソゲーまみれだった」ということではない。

8センチCDのケースの下の「あみあみ」……筆者は「おでかけしましょうよ」のOFFVOCAL版を買うためアマゾンでCDを注文したのだが、小さいCDの下に変なあみあみがあることに気付いた。実はあれ、折りたたむためのものらしい。8cmCDが出始めのころ、あそこを折り取って半分の大きさで保管するようにデザインされていたのだ。

英語で「基本中の基本」「イロハ」は何というのか……イロハではなく「ABC」という。”the ABC’s chemistry”(化学の基本中の基本)というように。中でもAは最も基本であり、聖書の中の神も「われはアルファであり、オメガだ」と言っている。Eに次いで頻度が高い。面白いのは数字の世界。数字をアルファベットで表していったとき、初めてAが出てくるのは1000なのだ。

日本人は世界一不安症になりやすい？……テストやスポーツ大会の直前で眠れなくなる人はいるが、一方で全く影響を受けない人もいる。不安型と楽観型とでもいうべきこの2種類は、セロトニンに関係するらしい。別名を安眠物質というセロトニンは、精神を安定させる物質として知られている。セロトニンはセロトニントランスポーターというタンパク質から分泌される。その量は遺伝子の長さにより短いS型、長いL型と分けられ、日本人にはLを持つ人間が極めて少ない。アジア人はヨーロッパ人に比べて少ないが、中でも最も少ないのが日本人なのだ。「日本人はここ一番に弱い」と言われ、オリンピックで実力を発揮できないこと、日本人独特の社会構造などもこれに由来する気がする。逆に日本人が「安全」に特に気を遣っているのも、これといえなくない。とはいえ、これには異説がある。” Munafò, Marcus R., et al. "5‐HTTLPR genotype and anxiety‐related personality traits: A meta‐analysis and new data." American Journal of Medical Genetics Part B: Neuropsychiatric Genetics 150.2 (2009): 271-281.”によれば、不安遺伝子を持つかどうかと損害回避性(harm avoidance)には関係がなかったという。また、そもそもSとLに分けることが不適切という。

アメリカ人にも名前のはやりすたれがあるのか……日本語で「ウメさん」とか「イネさん」といえばおばあちゃんを想像するが、アメリカ人にもこういうのはあるのだろうか。実はある。アメリカ社会保障局のデータによると、ガートルードという名前の女性はほとんどが70歳以上(2015年現在)。逆にイザベラ、リリー、ソフィア、アヴァなどは若い女の子に特徴的。そのほか、ブリタニーという名前は90年近くにピークを迎え、以降急激に減少したのだが、これは当時のドラマやアニメの影響らしい。

木乃伊と書いてなぜ「ミイラ」なのか……百日紅とか案山子と同じ類の話。まず中国語で「木乃伊」があって、それとは別に音はポルトガル語の「ミルラ」(北アフリカ原産の樹木からとったゴム樹脂、ミイラ作りに使われていたという)からとった。英語は同じエジプトのミイラ作りの材料から、その表面に塗ったアスファルトをさすアラビア語「ミムヤ」を選び、これが「マミー」に。ちなみに、今昔物語や宇治拾遺物語は今読んでも面白いエピソードの宝庫だが、このどちらにも登場する「増賀上人」というお坊さんの話。彼、「私が死んだら火葬にせず、穴をほって埋めよ。3年後に掘り出してみよ」と言って死んだ。実際にそうするとお経を読んだままミイラになっており、爪や髪は伸びていたという。これが日本に残る最も古いミイラである。

世界最高の数学者は「飲んだくれ」だった……世界最高の数学者といえば誰を想像するだろうか。実は「あらゆる分野に関しての天才」がいた。それがオマル・ハイヤームである。11世紀イランに生きた超天才であり、数学、天文学と文学の天才だった。しがない天幕作り職人の息子だった彼は(オマルはペルシア語で天幕という意味)やがて天文学者になり、スルタンの王宮天文台の台長に26歳で任命。ペルシア暦に誤差が多いことに気付き5000年に1日しか狂わない暦を完成(現代で使われているグレゴリオ暦だが、3000年に1日狂う)。さらに三次方程式の解の研究でも有名で、現在の代数学の基礎をつくったとまで言われる。幾何学も発展させた。そのかたわらで酒と女をめちゃくちゃに愛し、四行詩「ルバイヤート」を書き記し、日本でも太宰治の「斜陽」に引用されるほど有名になった。学者と詩人を揺れ動いた立派な人物だったのである。

幻の「12番目使徒」……キリスト教は数にこだわる。12は使徒の数だったから神聖とされるわけだが、実はキリスト教発生以前から特殊な数だった。イスラエルの始祖であるヤコブの息子の数は12人で、それぞれ12部族の長になったと旧約聖書にある。神が世界をつくるのに必要な日数が6日間であり、12はそれを2倍したもの。人間をあらわす数字が「6」(頭と銅体と四肢で6)、アダムとイブでひとそろいなので12というわけ。ところがキリストを売ったユダだけは例外。そこで残った弟子たちは、自分たちと行動していた者の中から新たな12人目を選択することにし、選挙で選ばれた2人のうちからくじ引きをし、マティアという者を選んだ。これぐらい「数を揃える」のは大事なのだ。とはいえマティア、聖書に登場するのはこのワンシーンだけで、それからは全然登場しない。数あわせのために登場したが用がすむと忘れられてしまう、かわいそうなキャラである。

イタリアはアメリカよりも歴史が浅い……世界遺産が最も多い国はイタリアである。それにもかかわらず、ローマ帝国滅亡の467年以降、千数百年にわたり小国家に分裂し、権力争いが繰り広げられてきた。祖国統一運動が上がったのは19世紀で、1861年にようやくイタリア王国の成立が宣言。アメリカ独立は1776年なので、それよりも浅いわけだ。

秀吉は「おしっこ」のおかげで天下を統一できた？……加賀藩の名物といえばかぶら寿司、友禅染、金箔、九谷焼などだが、実は「塩硝」(えんしょう)もである。これは硝石、つまり硝酸カリウムのことで、火薬の原料である。これをすって粉末にし、木炭の粉と硫黄と混ぜ合わせ、黒色火薬になる。鉄砲が全国に伝わると同時に火薬はどこの大名もめちゃくちゃ欲しがるから、すぐに最大の商人になった。製造法だが、現代では硝石を地中から掘り起こして手に入れるのだが、日本に鉱脈はない。古い漆喰や藁、馬糞などを積み上げ、そこに尿をかけることで生産していた。有機物と尿の中に含まれる尿素を酸化・分解し、土中のカリウムと化合させるというわけ。長篠の戦いで武田軍をぼこぼこにできたのは加賀藩の「おしっこ」のおかげ。つまりおしっこがなければ、豊臣秀吉が天下統一することはできなかったかもしれない。

朝鮮通信使と日本人は何語で会話していたのか……足利義満といえば勘合貿易で莫大な財を築き、金閣寺を立てるなど絢爛(けんらん)な北山文化の時代を開いた人物として有名だが、彼はまた朝鮮とも関係を結ぼうとした。彼らは日本の街道や建物の美しさに驚いていたが、何よりも接待の料理のおいしさが格別だったようで、広島の安芸のものはことさら美味だと書かれている。現在残る記録によれば、それぞれ毎回の使節の好物までもリサーチしていたようで、まさに日本的な「おもてなし」である。さて、一体何語で会話していたかだが、実は漢文の筆談だったという。ハングルは15世紀にできたものだが、知識人の教養として漢文は必須。日本も状況は同じ、なんとも幸運な時代だったのだ。会話の内容は現在も残っており、当時の高麗人参の値段から、日本で流行していた美少年趣味まで、様々なことが話題になっていたことがわかる。

なぜカップ麺は「お湯を入れて3分」なのか……チキンラーメンを実用化した安藤百福がそう指示したからである。発売当時は2分だったし、実際に1分で食べるように開発することも可能だったのだが「人間はすぐに食べられるより、しばらく待った方がおいしく感じられる」という理由で、3分にしたのだという(ほか、食べているときに麺が伸び始めるので1分だと困るという理由もある)。何とも賢い。3分なら普通の人間が10ページ本を読み、250メートル歩けるから、意外に有効活用できそうである。時計会社のシチズンによれば、レストランでの空席待ちの限界は平均で3分41秒、注文した料理が出てくるまでは16分ほど。なんにせよ待つのは決して悪いことでない気もする。

日本に肉食を定着させた功労者……明治時代になって政府が奨励したのが肉食の普及。栄養摂取での体格向上と健康維持を目指してだ。675年に仏教思想による肉食禁止令が出てからだから、1200年ぶりということになる(もっともそれ以前には猪や鹿、ウサギを食べていた)。この大転換、実は明治天皇のおかげだという。彼が自身で肉食を始めた。それだけでなく、福沢諭吉が「肉食の説」という本を書き、「文明開化に生きるのだから牛肉を食べなくてはならない」と主張。洋食化は人々の肥満、生活習慣病を引き起こすことになるのだが、それはまた別の話。

遠心力を出産にいかす機械がある……アメリカでとられた特許にそういうものがあり、実際に受理されている。妊婦を固定、頭を中心に高速で回転させることで、赤ちゃんが遠心力でお腹から出てくるというしくみ。妊婦の足の間には(赤ちゃんが飛んで行かないように)ネットが張られていた。なんというか奇抜すぎて、確かに受理はされたが、実用化されていないもよう。なかなかにナイスなアイデアではあるが、自分の嫁さんに試させようとは思わないな。

世界最古の録音装置には再生手段がなかった……1857年にフランスのスコットが発明した「フォノトグラフ」が世界最古。音声が振動であることは知られていたが、これを樽の箱で拾い、箱の底の振動を針に伝え、ススを塗った紙の上に波形を描く装置をつくった。レコード録音と原理は同じであるが、実はこれ再生ができない。録音した音の再生手段込みの機械が生まれるのはそれから20年後である。しかし彼の研究はベルの電話、エジソンの蓄音機の発明の偉大な先駆けである。長い間「記録」だけだったスコットの音声が2008年、フランスの科学アカデミーによりコンピュータ解析され、波形再生に成功。現在ネットで公開されている。

アメリカの法律には、「星条旗を逆さまに掲げる場合」の規定がある……どこの国でも国旗は非常に神聖なものである。国旗を燃やしたり、汚物をつけたりすることは、その国への侮辱と取られても仕方がない。アメリカ人は特にその傾向が強いようで、学校や公的機関には必ず備えられ、まず最初に国旗に敬礼し、忠誠を誓うのが決まりである。したがって、国旗の掲揚のしかたにもいろんな細かい決まりがある。アメリカの国旗に関する法律では「生命や財産に極度の危険がある場合、それを伝える目的を除き、下方に傾けて掲揚してはならない」という決まりがある。逆に言えばそういう危険がある場合は逆さまにしてよいとのことだ。2007年、沖縄国際大学のイギリス人准教授が、独立記念日に自分の研究室で星条旗を逆さまにしてアピールした。市街地の中にある普天間基地は事故の確率が高く、基地住人、普天間市民の生命に危険があることの表明だったという。現在では政治的な意図で掲げられるようだ。

動物には、ときどき食べ物の好みが変わるメカニズムがある……ライオンは肉しか食べないが、その種類は問わない。最も狩りやすい動物がキリンやインパラだが、たとえばカバを狩った例もある。サルになるともっと広がり、果物、穀物、葉っぱ、シロアリまで食べる。しかし生涯を通じほぼ一種類しか食べない動物もいる。アリクイはアリだけだし、パンダは竹だし。しかし動物園で飼われると必ずしもそういうわけでもない。例えば日本では、パンダにはふかし芋やトウモロコシでつくった団子を与えているし、アリクイはドッグフードをすりつぶし牛乳と混ぜたものを与えている。しかし例外はコアラである。コアラだけはユーカリしか食べない(そのためエサ代は1頭あたり800万である)。動物が時々好みを変えるのは、動物行動学の世界では「食物バラエティーメカニズム」と呼ばれる現象だという。1種類しか食べないと、もしその食べ物が取れない時に絶滅する危険がある、というように説明される。しかしアリクイやパンダはそれしか食べられない状態が長く続き、固定してしまった。極端な例がコアラである。この現象は飼い猫にも見られ、一種類のキャットフードばかりあげていると、それ以外のものに見向きもしなくなる。

アインシュタインは日本の塩昆布が大好物だった……1922年、世界有数の科学者としてすでに有名だったアインシュタインが、日本にやってきた。その歓迎ぶりはすごかったようで、「日本人が科学を尊ぶからこそこのように歓迎を受けたのでしょう、ああ心から嬉しい」と言っている。ただ本当に日本人が彼の相対性理論を理解していたかは疑わしい。ある出版社が来日にあわせて相対性理論の解説本を出し、大変売れたのだが、実は数ページ飛んでしまっているという落丁があった。全然交換を申し込んできた人がいなかったから、理解していたというわけではないよう。日本料理でアインシュタインとその妻が最も気に入ったのは天ぷら弁当で、ことにその弁当についていた昆布の佃煮が大好物だった。一方で喜劇王チャップリンが1932年に来日した際は、天ぷら(それも、エビ)にしか興味を持たなかったようだ。そう考えればアインシュタインさん、なんとも質素である。

中国代表料理のひとつをつくった「詩人」がいる……蘇東坡(そとうば)、あるいは蘇軾(そしょく)は、今から900年ほど前の北宋時代の詩人である。書家としても中国史を代表する人だが、本業はあくまで政治家。彼の文章は力強くユーモアにあふれ、(真面目だったため権力者に嫌われて左遷を繰り返し失意のうちに没したという)悲運にもてあそばれた人物とは思えない。そしてまた食いしん坊としても知られ、例えば豪華コースとして出てくる「鯉の揚げ煮」は彼の考案した料理であるし、中華スープもつくっている。…が、最も有名なのは「東坡肉」(とうばにく)、中国語で「トンポーロー」であろう。左遷させられたとき、その地域の豚肉が大変においしいことに気が付いた。金持ちは豚肉を低級なものとバカにしていたし、貧しい者はうまい食べ方を知らない。そこで蘇東坡は豚肉を塊のまま、弱火でとろとろと煮る方法を考えついて、レシピを詩にした。「食猪肉」(豚肉を食べる)という直球の題名である。トンポーローは現在、上海ガニの蒸し煮や北京ダックなどと並ぶ代表料理であり、日本の豚の角煮の原型にもなった。

「若干」は「一と十の間」？……若干が「少しばかり」の意味になるのはなぜだろう。「若」は「ごとし」ととって、「干のようだ」となる。よくわからない。「干すようだ」ってことか？実はこれ漢字のことば遊びで、「一のごとく、十のごとく」(一のようだが十でもある)という意味らしい。「干」の字は「一」と「十」に分解できるから。んなアホな！と思うかもしれないが、今から2500年ほど前、中国古代の「墨子」に既に用例のある、立派なことば遊びなのである。

「隣の部屋を食べてください」といった日本人がいる……東大といえば銀杏並木がシンボル、これを考案したのが明治時代に第3、第8と二度にわたり学長を務めた濱尾新(はまおあらた)である。東大の本郷キャンパスにある数多くの銅像のうち最も大きいものが彼のものであり、その信望の厚さがわかる。一方でうっかりやさんでも有名だった。外国人の客を招いたとき、「何もありませんが、隣でお食事をなさってください」というのに、”There is nothing to eat,but please eat the next room”と言ったという。「食べるものがありませんが、隣の部屋を食べてください」という意味になってしまう。日本人の英語苦手を象徴するようなエピソードだが、彼は英語ができなかったわけではない。1年だけだがアメリカに留学しており、会話も残っている。こういう逸話が残るあたり、やはり彼は細かいことを気にかけない、おおらかな人物だったのだろう。

鎌倉武士の心構えは現代にも通じるものがある……「人に会いに出かけるときは必ず鏡を見て、服装が乱れていないか気をつけること。ただし、外で服装ばかり見ていては軽んじられるので、慎むべき」と聞けば、なんとも現代のビジネスマンの常識ぽいが、実は750年前に北条政子の甥である六波羅探題・北条重時により書かれた「家訓」の一節である。これは息子に、世の中を生きるために必要なことを諭したものとされる。こう読むと、現代人だろうが鎌倉時代人だろうが、生きるための鉄則にあまり変わりはないことがわかる。そのほか、「妻子のいうことはよく聞いて、それが道理にあったことなら感謝し、今後とも助言をよろしくと頼みなさい」とか「何かしてくれたときには丁寧にお礼をしなさい」というような、当時の男尊女卑や身分制度にそぐわないほど、非常に開明的なことを言っている。

植物に音楽を聴かせると成長が早まる……オカルト臭いのだがちょっと待ってよく聞いてくれ。イタリアのフィレンツェ大学農学部で、ワイナリーのブドウに音楽を聴かせる実験が行われた。すると、「ブドウの木、特に若枝の生育によい影響が見られた。木1本あたりの総葉面積は音楽を聴かせたもののほうが大きかった」という結果が出た。音楽に神秘的な力があるというより、振動の問題という報告がある。植物が水を吸い上げる毛細管現象が、振動により促進されるというのだ。結論が出るには至っていないが、音楽に包まれた畑というのは考えただけで楽しい。

オレンジでiPhoneが充電できる？……化学電池の要領である。希塩酸に亜鉛板と銅板を入れ、電線でモータにつなぐ。希塩酸がクエン酸になっても同じ現象が起きるのだが、当然ながら充電できるはずだ。トロピカーナが2011年、自社CMで、2500個のオレンジを用いてネオンサインを発光させるパフォーマンスを行って話題になった。スマホの充電にも同じく活用でき、計算上では595個のオレンジでiPhoneの電池を満タンにできるとのこと。「オレンジでアップル(製品)を充電」というのは、シャレが効いていて面白い。

角の生えたウサギの形をした怪物の伝説がある……昔の文章は「とにかく」を「兎に角」と書いているものが多い。特に夏目漱石はこれを多用していた。これは当然当て字で、とにかくにということばが簡略になってできたもの。「と」は「あのように」という意味の副詞、「かく」は「このように」という意味の副詞、二つ合わさり平安時代に「とにかくに」で「あれやこれや」という意味が現れ、中世以降には今と同じ意味になった。「兎に角」という当て字は、仏教用語である「兎角亀毛」(とかくきもう)という当て字からきたと言われる。「ウサギに角があったり、亀に毛が生えたり」つまりあり得ないことのたとえだ。しかしアメリカにはこのウサギの伝説がある。「ジャッカロープ」といって、鹿の角が生えたウサギの話がワイオミング州に伝わっているのだ。「人の声真似が得意」「好物はウイスキー」というところからホラなのは丸わかりだが、自然博物館にはこの角の生えたウサギの剥製があるところも多い。

サハラもゴビも「砂漠」……花見するといえば普通、桜の花を見ることであり、ツツジとかではない。これはほとんどの日本人が、桜を日本の花の代表と考えているからだ。同じように、富士山近くに住む人は富士山をわざわざ富士山とは呼ばず、「お山」「山」で済ます。日本一の山が見える場所で、他の山を「山」とは呼ばないということだろう。同じことは海外でもあることで、砂漠といえば北アフリカの人々にとっては「サハラ砂漠」のことだ。他の砂漠とこれを区別する必要はなかったようで、ただ「砂漠」(サハラ)と呼んでいたし、それでこと足りていた。英語でも”The Sahara”である。そのような概念のない日本では、サハラを固有名詞だと思い、その後に「砂漠」をつけている。モンゴルのゴビ砂漠も同じで、ゴビはモンゴル語で「砂漠」の意味。同じ意味のことばが重なることを「重言」といい、例えば「クーポン券」のクーポンはフランス語で「券」だし、スキーはノルウェー語で薄い板だから「スキー板」は変だし。チゲ鍋のチゲは韓国語で鍋だし。シェリー酒、ラム酒、ハングル文字、マスケット銃、マグカップ、RPGゲーム、サルサソース、グレイビーソース、ガードマン、フラダンスなども全部同じ。

沖縄の料理にはたくさんのかつお節を使う……かつお節は日本の味覚の原点と言われるが、日本で最もかつお節をよく消費するのが、日本食とは異なる沖縄である、というのは面白い。消費量は当然全国1位で、全国平均の4倍というから驚き。ただこの多さは、彼らがかつお節を好んでいるということでもなさげ。沖縄と本土の水質の違いにその理由があるという。というのも、沖縄の水は本土のものと違い硬水である。沖縄の海を美しくしているサンゴくんだが、サンゴくんに含まれるカルシウムが地下水に溶けて、水の硬度を上げているという。そのため、井戸水や水道水で料理する場合、かつお節や昆布などを倍使わないと(硬水に含まれるイオンが結合してしまって)よくダシが取れないのだ。紅茶もコーヒーも同じであり、西洋でワインが水代わりになっているのはそういう理由だからだとさえ言われている。

ウクライナ紛争のおかげで日本のロックミュージックが人気になっている……風が吹けば桶屋が儲かるとはいったもの。クリミア半島でウクライナが、ロシアの影響から逃れようと反発、これをロシアが武力で介入、という衝突が起こっている。この問題はそれぞれと深い関係があるEUやアメリカまでも巻き込むものである。ヨーロッパはロシアに対して経済制裁で対抗、ロシアの実業家たちの多くはヨーロッパでの資産運用をしているが、その凍結を行い、ロシア内部で政府への不満が大きくなることを狙った。プーチンによれば「効果はない」と発言しているが、意外なところから煙が立った。欧米のロックミュージシャンたちが次々、ロシアでのコンサートを中止している。一方で日本のミュージシャンたちがロシアに注目されているとのこと。X JAPANのYOSHIKIは「日本のボノ」と呼ばれるほど高い評価を受けている。日本のロシアに対する経済制裁はそんなに厳しくないため、日本のミュージシャンはロシアでのコンサートに抵抗感がない。複雑に世界が絡み合っていることの証明である。

ダーウィンはビーグル号の船中でゾウガメを食べていた……1831年からの5年、イギリス海軍の調査船ビーグル号に乗ってダーウィンが世界を回ったのは有名な話。その終盤、ガラパゴス諸島を訪れたダーウィンは、その島々に住む人々が、船に積んであったゾウガメをどこから持ってきたのかすぐに当ててしまうことに驚いた。彼らいわく「甲羅の模様が島ごとに違う」のだと。これが彼の「進化論」の研究のもとになったという。…だがそもそも、なぜビーグル号にゾウガメが積んであったのか。実はダーウィン、ガラパゴス諸島で採取したフィンチ(小鳥の一種)などの標本を整理しながら、毎日ゾウガメを食べていたのだという。ダーウィンが進化論の証明に使ったのはゾウガメではなくフィンチだったが、それは、食べた後に残ったゾウガメの甲羅を、コックさんが邪魔だといって海に捨ててしまったからだという。ちなみにゾウガメの肉、あまりおいしくないらしい。

「割愛する」を間違った意味で使っている日本人は65％以上……議長が「この議案は割愛し、最後のものにいきます」という発言をするのを聞くだろう。「愛」は日本人によく好まれている漢字であるが、そもそもなぜ「割愛」に「愛」が使われるのだろうか？実はこれ仏教用語であり、俗世を捨てて出家する決意を示すときに用いられた語である。出家するということは愛する者と別れること、つまり「愛を切り裂く」という意味である。惜しみながら愛着の心を切るという意味であり、決して「無駄なものを省く」という意味ではないはず。しかし平成23年度の文化庁の調査によると、65％もの人間が「省く」という意味で使っていることが判明。もう少し自分たちの使うことばの意味に興味を持ってほしいものだが、もはや35％しか用法を知る人間がいないのであれば、意味自体を書き換えてもいい気はする。

世界で最も早くライターを発明したのは平賀源内……江戸時代の本草学者、作家、鉱山開発者、そして発明家だった平賀源内。エレキテルをつくったり油絵描いたりうなぎを土用の丑の日に食べる風習を作ったり(これに関しては真偽不明)、今なら才人としてちょっとした人気は出ただろうが、当時は怪しげな風にしか見られなかったようで、皮肉と軽蔑を込めて「雑学者」と呼ばれていたらしい。彼が「風来山人」(ふうらいさんじん)というペンネームで書いた小説を読むと、まさに雑学の宝庫で、「馬鹿」を英語や朝鮮語、中国語でなんというかとか、江戸の庶民の喧嘩の文句の解説とか、雑多な情報で溢れている。彼の書いた作品はどれもベストセラーになった。…それだけ日本人が雑学好きだったのだろう。ところで彼、世界初のライターを発明している。キセルタバコに火をつけるため、火打石にゼンマイ仕掛けで発火させ、その火をモグサに移すという仕掛けのライターを1772年に発明している。オーストリアの化学者であるヴェルスバッハが第2号なので、130年以上前には発明されていたことになる。

宇宙で宇宙人を見つけたら、すぐに国連に報告しなければならない……アポロ11号が月に到着した1969年からちょうど10年後、国連総会で「月その他の天体における国家活動を律する協定」、略して月条約が採択された。これは、先立つ1966年採択の「宇宙条約」をさらに発展させたもの。例えば「この条約の締約国は、月面に無人または有人の基地を設置できるが、基地は必要な地域に限り利用可能で、つくったら国連事務総長に直ちにその場所と目的を報告せよ」とあり、SFでいう「月面の秘密基地」は実現不可能だということがわかる。その月協定には他に「締約国は月を含む宇宙空間において、人間の生命や健康に危険を及ぼす現象あるいは生命の兆候を発見したら、ただちに国連事務総長、公衆および国際科学界に通報せよ」とあり、「エイリアンを秘密裏にとらえて回収」ができないことになる。ただ、この協定を締約してる国は今17か国のみ。アメリカやロシア、中国など、実際に有人宇宙飛行している国は1か国も締約していない。自国の軍事産業への利用じゃないと開発が進まないということなのだろうが、夢がある法律なだけに、なんとも惜しい。

傘は雨をよけるためではなく、太陽の光をよけるために発明された……人類が昔から用いてきた「傘」。古代中国でも古代エジプトでも、皇帝や王の画像にはだいたい「傘をさしかける家来」が描かれている。織田信長も、オランダ風の衣装に身を包み、日傘をかかげさせていた。本来傘とはそういうものであり、そう発明された。日傘は古代から使われてきたが、雨傘が発明されたのは18世紀になってから。耐水性の布が発明されてからのことである。最初に雨傘をさして歩いていた人(イギリス人のジョナス・ハンウェイと言われている)は変人として町のみんなに笑われたそうだが、彼は頑固にさし続けていたため、次第に人々も真似するようになったという。

日本人が取ったアメリカでの特許第一号は「仕掛け花火」……最近イベントで事欠かない花火であるが、その技術の多くは日本の職人たちが開発したものという説がある。それに対し、「いやあれは海外からの技術の輸入だ、その証拠に色付き花火を花火業界では『洋玉』と呼んでるじゃないか」と。日本の色付き花火、仕掛け花火の歴史は明治時代に始まる。それまでは大江戸名物の花火は全て単色。明治維新で輸入され、日本の花火職人たちが頭を絞った。結果、1889年帝国憲法発布の記念式典で皇居の二重橋から打ち上げられた花火で、東京っ子たちは大歓声をあげたという。彼らがいかに技術の習得に熱心だったかという証拠に、日本人が初めて取得したアメリカの特許が、花火の仕掛けに関するものだったという事実がある。平山甚太という人物がそれで、「昼花火」といって、打ち上げると中から人形が飛び出す特許を出願し、認可されている。まだ日本に特許制度さえなかった時代、彼の先進性には驚かされる。

幸運の風水で滅びた国、西夏……西夏という国があった。1000年ほど昔の中国大陸の国だ。チンギスハンが生涯の最後に攻め滅ぼした国の名前である。現在の中国の甘粛省・銀川(ぎんせん)が、かつての西夏の首都であった。宋の時代、チベット系民族のタングート人が宋の支配から脱して独立した。初代皇帝の李元昊(りげんこう)は、西夏文字という独特の文字を作り国民に使用させた。しかし歴史は過酷で、宋との対立はもとより、宋と対抗するために手を組んだ隣国、遼に侵略されたり、北に起こった女真族との金王朝とも対立。建国から200年弱でチンギスハンに攻め滅ぼされ、砂漠の中に消えていく。西夏文字を使っていたことが災いし、それを解読できる人間もいなくなり、西夏の歴史もまた忘れられていった。その後文字が発見されるのが100年前のこと、現地人が「悪霊の城」と呼んで恐れていたカラホトをロシア人探検家コズロフが調査して見つけた書物による。この文字は1960年代、日本の言語学者である西田龍雄が解読し、現在ではかなり詳細に、西夏の人々の生活がわかっている。その中に「西夏を建てる際、風水の占いで最高の位置に都をつくった」とあるのだが、その噂を聞いたチンギス・ハンが執拗にここを攻め立てて滅亡してしまった。国や人の運命は占いの斜め上を行くということだろうか。

芥川龍之介はコンプレックスのかたまりだった……現在の高校の教科書に採用される作家とその作品のベスト3は、「こころ」(夏目漱石)「羅生門」(芥川龍之介)、「舞姫」(森鴎外)だそうだ。漱石と鴎外が江戸時代生まれなのに対し、1892年と格段に若く、亡くなったのも35歳と若いため、親しみやすいのかもしれない。その人気は存命のときからで、作家にしては珍しくブロマイドまで売られていた。アイドルスターである。しかし彼、自分の顔が細長いのが気に入らなかった(「へちま」と自分の子どもたちに呼ばれていた)ので、シルクハットなどは絶対に被らなかったという。さらにいえば出っ歯だった。教科書で見る気取った顔は、出っ歯を見せないようにしたものだという。子どもたちと一緒の写真でも、めったに笑うことはなかった。それに、自分が「龍之介」という名前を「たつのすけ」と呼ばれるのも気に食わなかったからと、子どもたちには比呂志、多加志、也寸志と、絶対に読み間違えられない名前をつけている。子どもたちも自分の子なのだから神経質に違いないと考えたのだろうか。自殺の遺書には「お前たちには父の神経質が遺伝していることが明らかなのだから、気を付けるように」とあるが、三人の息子たちは神経病にもならず、戦死した多加志以外は父よりずっと長生きし、俳優となった俳優となった比呂志、作曲家になった也寸志と大成した。芥川龍之介の「鼻」は彼の大ヒット作であるが、もしかしたらこの作品、自分の心の中の吐露なのかもしれない。なんとも皮肉な話である。

コロンブスが望遠鏡をのぞいている図はありえない……アメリカ人にとってコロンブスは、自分たちの国を発見したヒーローである。そのためだからか、コロンブスのコスチュームが仮装の定番として販売されている。このとき別売りで望遠鏡もセットなのだが、実はそんなのありえない。というのも、オランダのメガネ職人であるリッペルスハイが1608年に望遠鏡を発明。彼は他人から望遠鏡のつくりかたを聞いていたと言われ、1589年には作り方の記述があることから、もうちょっと遡るという。それでも1492年のコロンブスアメリカ大陸発見とは100年かけ離れている。つまり、「夏目漱石がパソコンを使って小説を書いている」というぐらいの時代錯誤なのだ。しかし、望遠鏡が「遠い世界を望む」というイメージを持つため、新大陸発見と実に優れた取り合わせとなる。セントクリストファーネイビスという国があり、その国の主な島が「セントクリストファー島」である。これ、コロンブスが第2回航海で発見した土地であるためか、国に自分の名前である「聖クリストフォルス」(クリストファー・コロンブスが本名、聖がセイント)の名をつけ、その後イギリスの植民地に。そのセントクリストファーネイビスで1903年、イギリス領として初めての切手が発行された。図案には当然、望遠鏡をもったコロンブスが描かれている。今後も事実がどうであれ、この取り合わせは変わらないに違いない。ちなみに「ネイビス」とは「雪」という意味のスペイン語で、セントクリストファー島とともに発見された島の名前であり、この島で最も高い山の頂に雪が積もっていたのを見てコロンブスがそう名付けたそうな。実際には雪ではなく雲で、つまりコロンブスの勘違いということになる。もしコロンブスが望遠鏡を持っていれば、こんな間違いもなかっただろう。

「フェルマーの最終定理」に挑み進展させた「男装美少女」がいた……19世紀初頭、当時最高の数学者とされたドイツのガウスのもとに、一通の手紙が届く。ガウスはこれを読んで驚嘆する。オイラー以降50年間進展のなかったフェルマーの最終定理の証明を、数歩先に進める成果が記してあったのだ。フランスからの手紙、「ルブラン」という男の署名があった。「フランスにもこんな天才がいたのか」とガウスはさっそく文通を始め、数学のやりとりを交わした。その時フランスはナポレオンが支配していたが、1806年にプロシア(ドイツ)に侵攻。ガウスの住んでいたブラウンシュヴァイクも軍に蹂躙され、ガウスがつかえていたブラウンシュヴァイク公も戦死、ガウスの命も危なかった。ところがそんなガウスのもとにフランス軍の将校がやってきて、彼を解放し、身に危険が及ばないよう取り計らったのだ。その理由をガウスが聞くと、「実はわが軍の指揮官の知り合いに、とある若い貴婦人がいて、その方の嘆願によるものなのです。指揮官に『ガウスはえらい数学者なので、命を奪わないでほしい』と手紙をよこしたそうですよ。…あなたの文通相手だそうです」と答えた。ガウスはそこで、男性だと思っていたルブランが女性だということを知る。その本名はソフィー・ジェルマン。彼女は「女性に学問はいらない」と言われていた当時の風潮のため、女だてらに数学していることを隠そうと、男性名義でガウスに手紙を送ったのだ。しかしガウスは、女性であってもなお数学を愛する彼女により深い尊敬を抱き、いっそう丁寧なお礼の返事を送ったのだという。実は彼女、小さい頃から数学に興味を抱き、女性は入学できなかったアカデミーに、男装してまで入学し勉強したという。そのレポートが優れすぎていたため、教授のラグランジュに呼ばれ、女性だとバレてしまった。しかしラグランジュは彼女の才能のため、それを秘密にし、勉強を特別に許可したという。ラノベでありそうなエピソードが、100年以上前に実際にあったのだ。ソフィーはその後も研究を続けるが、1831年に乳がんで死去。彼女の才能を愛したガウスの推挙で、ゲッチンゲン大学の名誉博士号を受け取る寸前のことだった。

日本の近代産業は、渋沢栄一の丈夫な胃袋のおかげだった？……理化学研究所の歴史は古く、1917年に渋沢栄一が設立したのがはじまり。彼は「日本の産業の父」と呼ばれ、一橋大学、みずほ銀行、JR東日本、帝国ホテル、東京ガス、アサヒビール、日経新聞など、様々な組織の創設に関わっている。彼の人生も非常にふり幅が大きかったようで、最初は尊王攘夷にかぶれて倒幕運動をしたかと思えば、一転し一橋慶喜の家臣になって、その後慶喜が15代将軍となると、その弟に従いパリ万博に出かけた。この時そのままパリに残り2年の留学をしたのだが、語学がほとんどできないにも関わらず、持ち前の好奇心で最新の知識を学んだ(彼に語学を教えたのは、あのシーボルトの長男、アレクサンダーである)。他の日本人が「味噌汁が食べたい」「お茶づけが欲しい」というなか、彼はバターやコーヒーなど、他の日本人が辟易するものを喜んで食べていた。「ブール(バターのフランス語読み)と云、牛の乳の凝たるを、パンへぬりて食せしむ。味甚美なり」「食後、カツフエーという豆を煎じたる湯を出す。砂糖、牛乳を和して之を飲む。頗る胸中を爽にす」などという記述がある。江戸時代の人としてこの馴染み方はちょっと驚異的であるが、生まれ故郷の深谷に帰るとほうとうを食べていたというのだから、単においしいものなら何でもよかったのだろう。なんにせよ健啖と栄養摂取の万全ぶりで、91歳まで長生きした。彼がまいた近代産業の種は今日本に根付いて花を咲かせたが、その原点は彼の丈夫な「胃袋」だったといえよう。

日本全国の自販機の下には「4億6000万円」がある……世の中には暇人なるものがいて、全く実生活の役に立たない計算をしたがる。自販機は全国に5000万台ほどあるらしい。そして、その下に落ちているコインの数は、ある雑誌社の調べにより「300台あたり3000円ほど」だとわかった。ここから計算すると、日本全国の自販機の下にあるお金は4億6000万円。大卒サラリーマンの平均生涯賃金よりよほど高いことになる。それでも、生涯でこれを稼ぐには一分間で3.65台を調査しなくてはならない。楽して稼ぐことはできないのである。

英語には”salad days”(サラダの日々)という言い回しがある……意味としては「青春の日々」である。サラダの新鮮な野菜のように若々しかった日々という意味だ。現在の英語圏ではほとんどがいい思い出を表すことばとして用いられているようだが、出典はシェイクスピアの「アントニーとクレオパトラ」。クレオパトラが「あの頃の私は青菜のようなもの、判断力も青臭いものでした」と述懐するセリフである。要するに未熟ということ。彼の生きた16世紀末、現在のサラダが発明され、油と塩を生野菜にかけて食べることが流行っていたという。クレオパトラの時代にも本当にサラダはあったようだが、セージ、タマネギ、ニンニク、パセリといった香味野菜のサラダであり、青菜を食べていたというわけではないようだ。単に彼の劇作家としての想像力の話だろう。日本では俵万智の「サラダ記念日」が有名である。「この味がいいねと君が言ったから七月六日はサラダ記念日」。恋人の好みを確かめながら料理をつくる状況を表し、まさに英語の”salad days”に合致する、ほほえましい時期を詠んだ傑作だ。

大統領就任演説は愛の告白？……”Ask not what your country can do for you, ask what can do for your country”(国家があなたがたに何をしてくれるのかと問うのではない、あなたがたが国家のために何をなし得るかと問おう)、言わずもがなケネディの就任演説の一節である。何とも独裁国家的な印象を受けるこのセリフだが、しめくくりを聞けばその真相が見えてくる。「アメリカ市民の皆さんも世界市民の皆さんも、どうか我々が皆さんに求めるのと同じ水準の熱意と犠牲を我々に求めてください。良心の喜びを唯一の確かな報酬とし、歴史が我々の行いに正しい審判を下してくれることを信じて、この愛する世界を導いていこうではありませんか」。国は国民にある程度の忠誠心と愛国心、そして犠牲を求めなくてはならない。その分国民も、その犠牲が世界の平和のために役立つよう、アメリカに要求してほしいと言っている。ケネディの演説は、自分たちのアメリカと世界を、より素晴らしいものに変えようという理想主義にあふれたものだ。アメリカと世界に対する「ラブレター」なのである。就任演説は英語で”inaugural address”、”address”は演説という意味のほかに、「恋人への愛の告白」という意味もある。

ルパン三世というタイトルは間違い……2013年に11年ぶりの来日をしたポール・マッカートニーは、1997年、女王陛下からナイトの位を与えられ、サー・ポール・マッカートニーとなった。サーというのはナイト位を持つ者の「名前」の前につける称号である。男爵とか伯爵という貴族と違い、ナイトの位は一代限りなので、個人名の前につける。ややこしいことに、ナイトの称号を持つ夫の妻は「レディ」で呼ばれるが、レディはあくまで名字の前につける。つまり「サー・ポール」と「レディー・マッカートニー」というような感じ。同じように個人につける呼称に「二世」とか「三世」がある。これも個人の区別の為だから名字ではなく名前につける。例えばナポレオン、彼はあくまでナポレオン一世であり、ボナパルト一世ではない。というと…ルパン三世の「ルパン」は名字なので、本当なら「アルセーヌ・ルパン三世」「アルセーヌ三世」でなくてはならない。ゴロの良さか作者の無知かでの誤った名前なのだが、人気とは大したもので、フランスやイタリアのヨーロッパ諸国でも「LUPIN the third」で通じるようになっている。

ツクツクボウシはツクツクボウシと鳴かない？……「女郎花/なまめきたてる/姿をや/美し佳しと/蝉の鳴くらん」(みずみずしく咲く女郎花の姿を、蝉も「美しい良い」と鳴いている)。平安後期の歌人である源俊頼の歌である。しかしそんな蝉いるのか、って話だが、実はこれツクツクボウシらしい。さらに、「この世をば/つくづく憂しと/鳴き捨てて/またいかさまに/身をばかえけむ」(この世がつくづく辛いと言って世を捨てたあの蝉は、今度はどんな姿に身を変えたのだろう)と詠んだのは江戸後期の歌人・香川景樹。鳴き声を「ツクヅクウシ」と聞く。「入相の/鐘より暮れて/秋行くを/つくづくをしと/蝉の鳴くらん」(夕暮れに鐘が鳴る。夏が過ぎ、秋になるのがつくづく惜しいと蝉が鳴いている)を詠んだのは江戸中期の俳人・小林一茶。鳴き声を「ツクヅクオシ」と聞いている。ここまでくると、「いかに聞くか」が才能の一つのように思える。

消えてしまった「変な擬音語・擬態語」……日本語の特徴の一つに擬音語・擬態語の多さがある。英語の3～5倍ほどはあるという報告もあるが、今まで消えていったものを含めればもっと多いのだろう。その一部を紹介する。「イガイガ」は赤ん坊の泣き声らしい。今でいうと「オギャア」だろうか。「ニココ」は意味深な笑み。今でいえば「ニヤリ」だろうか？「ノドノド」はゆったりとことを行うさま。「オボオボ」はぼんやりしているさま、「エブエブ」は嘔吐するさま。全然想像がつかない。一般に擬態語・擬音語は短命だと考えられているが実際にそんなことはなく、例えば「今昔物語」に使われている擬態語・擬音語の半分から6割は現在でも使用されているという(明治大学の山口仲美教授)。もっとも、ライフスタイルの急激な変化により、通じない擬態語も出てきている。下駄の「カランコロン」などは、まさにその例かもしれない。

夏目漱石はイギリス人を皮肉っていた……18世紀の英語辞書編者に、サミュエル・ジョンソンという博士がいた。この人は、日ごろからスコットランド人をからかっており、編纂した辞書の”oats”(オーツ麦)のところに「イングランドでは馬に与えているが、スコットランドでは人間が食べている穀物」とした。ところが編纂の100年後、夏目漱石がロンドンに留学した時には、イギリス人の多くもまたオーツ麦を使った「ポリッジ」というおかゆを食べていた。漱石はこれを見て、日本の友人に「さてはイギリス人は全て馬になったらしい」と書いた手紙を送っている。彼は官費留学でイギリスにわたったが、「もっとも不愉快の二年なり」と自身の著した「文学論」で語っているように、イギリスの生活に馴染めなかった。皮肉には彼の心境が反映されているのかもしれない。ちなみに彼、アイデアが行き詰ったとき、鼻毛を抜いて原稿に並べていた、という逸話がある。内田百閒の「漱石遺毛」には、彼が原稿の書き損じをもらったとき、そこからひょろひょろと何かが伸びていることに気付いた。鼻毛だったのだ。彼が所蔵する鼻毛は全部で10本。短いものや長いものなど、さまざまなものがあり、おまけにその内の2本が金髪だったそうである。なぜ金髪なのかは不明。やはり文豪は変わり者である。また”I love you”を「月が綺麗ですね」と訳したアレはどうもデマらしい。そんなことは言っていない。だが筆者が思うに、これの対義語が「月は綺麗ですね」であると考えた誰かは天才だろう(一応解説しておくと、「(あなたといると)月が綺麗ですね」と告白した相手に対し、その意味や相手からの好意をまったく解さず「月が綺麗ですね」とだけ返すことは、その相手に対する無関心、つまり好きの対極を表しているからだ)。

平安時代の和歌にはゴーストライターも多かった……平安時代、貴族や宮廷女房にとって、和歌を詠むことはたしなみの一つ。とはいえすぐれた和歌を創作することは簡単ではなく、達人に代作を依頼することもあったよう。「百人一首」の「契りきな/かたみに袖を/しぼりつつ/末の松山/浪こさじとは」(約束しましたね、お互いに着物の袖をしばり、あの末の松山を波が越さないように、決して心変わりなどしないと)は、清少納言の父である清原元輔が、宮廷女房に頼まれてつくったものだという。逆にゴーストライターと疑われることもあり、例えば小式部内侍の作である「大江山/いく野の道の/遠ければ/まだふみもせず/天橋立」(大江山に行く野の道(生野の道)は遠いので、文(手紙と踏み)も貰ってませんし、天橋立も見ていません)という歌なのだが、これについてのエピソードがある。小式部の母親である和泉式部はめちゃくちゃ歌がうまい女性。娘の歌を代わりにつくってあげていた(ゴーストライターだった)という噂があった。あるとき和泉式部が夫の藤原保昌とともに丹後に出かけているとき、京都で歌合(うたあわせ)があり、彼女も参加することとなった。その日、中納言定頼が「母につくってもらった和歌を受け取るために丹後に派遣した使者、もう戻りました？」と皮肉ってきたので、彼女が例の歌を詠んだ。地名を入れ、掛詞を駆使した和歌を詠んだことで彼女の疑いは晴れ、評判はますます高まった。

「新古今和歌集」の最終選考で落選した和歌が発見された……万葉集、古今和歌集とともに三大和歌集にあげられる「新古今和歌集」には、およそ2000の和歌が収められている。1205年にいったん完成したが、その後部分的な訂正が行われ、およそ30が削除。2013年にその一首が見つかった。「さのみやは/つれなかるべき/春風に/山田の氷/うちとけかねし」(あなたはいつまでもそのようにつれなくていらっしゃるのか、春風に溶ける山の田の氷のように打ち解けてください)という歌である。かの紫式部の夫の孫だ。残念ながら削除された理由は不明である。

「舞姫」のヒロインの写真が発見された……森鴎外の代表作といえば「舞姫」。「明治時代にドイツに留学した日本人青年が踊り子と出会って相思相愛、しかし彼女を捨てて帰国を決断し、女性は気が狂ってしまう」というのがあらすじ。1884年から4年間、ドイツに軍医として留学した鴎外自身の体験をもとに書かれた。ヒロインであるエリスのモデルになった女性が鴎外を追って来日していたことが1881年に明らかになったが、2013年8月、彼女の写真を発見。鴎外の次女は「この女とはその後、長い間文通だけは絶えずにいて、父は女の写真と手紙を全部ひとまとめにし、死ぬ前に自分の眼前で母に焼却させた」とある。もし写真と手紙が残っていれば、鴎外と彼女とをひも解く貴重な資料になっただろう。なお小説とは異なり、彼女は気が狂うことはなかった。帰国後は帽子製作者として生計をたてたようだ。

塩を焼いて昔の恋人に思いを伝えた在原業平……京都市西京区にある十輪寺は「業平寺」とも呼ばれ、在原業平が晩年を過ごしたと言われている。寺の中には塩釜があり、これは業平が使ったものの復元。業平はわざわざ大阪の難波から海水を取り寄せ、塩焼きを楽しんだという。「伊勢物語」の76段には塩焼きの話こそないものの、大原野神社を訪れた藤原高子(業平のかつての恋人)に業平が歌を贈った光景が描かれている。

日本サッカー躍進を陰で支える「サッカーの神様」がいる……平安時代に貴族の遊びとして人気だった蹴鞠。白河天皇に寵愛された藤原成通はその達人で、清水の舞台の欄干の上を行ったり来たりしながら鞠を蹴ったらしい。そのテクニックは7000日の修行のたまもの。修業が1000日目になったとき、顔は人で体は猿、年齢は3歳という「鞠の精」が現れた。彼の力を得て成通は鞠を思うままに蹴れるようになった。そんな鞠の精を祀っているのが京都市の上京区にある白峯神社。現在ではサッカー関係者がお参りすることが多いそう。

国宝級の絵巻物で阿倍仲麻呂は「鬼」になっていた……吉備大臣入唐絵巻(きびのおとどにっとうえまき)がその絵巻物である。遣唐使として唐に行った吉備真備であるが、彼が突然つれていかれたのが、鬼が出没するという楼閣。現れた鬼とはなんと阿倍仲麻呂だった。彼はひどい扱いを受けた上、帰国を果たせなかった…という設定である。鬼は自分の子孫の様子を聞いて喜び、吉備真備に協力することを約束。そして、唐の人から真備に無理難題が出るたび、不思議な力で助けていくという内容。碁石を一つ飲み込み、対局に勝った真備が下剤を飲まされるなど、ユーモラスなシーンも多い。なお実際は阿倍仲麻呂は科挙に合格し、政府高官にまで上り詰めている。

在原業平が詠んだ「都鳥」は……現在「ミヤコドリ」とされている、チドリ目ミヤコドリ科の鳥ではなく、「ユリカモメ」とされているチドリ目カモメ科の鳥。「ゆりかもめ東京臨海高速線」の名前の由来にもなった。ところで昔は京都では見かけられなかったミヤコドリだが、現在は飛来する。1200年早く飛来していなければ、「名にし負わば/いざ言問はん/都鳥/わが思ふ人は/ありやなしやと」(その名を負う鳥ならば聞いてみたい、都鳥よ、私の愛するあの人が健在かどうか)という歌もなかったに違いない。

李白もびっくり、酒を愛した若山牧水……古今東西に酒を愛した詩人は多い。お酒に酔って月を掴もうとしておぼれ死んだ李白であるが、若山牧水(わかやまぼくすい)もその一人。「九州めぐりの追憶」という著作の中で、1日平均で2升5合を飲んだと見積もって、51日で235Lとある。ドラム缶以上といえばすごさがわかるだろう。度を越えた飲酒で肝臓を壊した牧水は43歳で亡くなった。「一杯を思いきりかねし酒ゆゑに けふも朝より酔ひ暮したり」「寒鮒のにがきはらわた噛みしめて 昼酌む酒の座は日のひかり」「あな寂びし酒のしづくを火におとせ この夕暮の部屋匂はせむ」「ひしと戸をさし固むべき時の来て 夜半を楽しくとりいだす酒」といった作品からも、牧水がよく酒を飲んでいたことがわかる。

歌人・西行のゾンビ伝説……平安から鎌倉にかけて活躍した西行。鳥羽院の北面武士という地位を捨ててまで出家し、諸国を放浪しながら歌を詠んだことは周知の通り。様々な逸話があるが、その一つに高野山でのエピソードが。修業の孤独にたえかね、反魂(ほご)の術を使い、人骨を集めて人を造ろうとしたというエピソード。残念ながら完成したものは色も悪く心もなかったので捨ててしまったのだが、その後中納言師仲に会い、その話をすると「自分がつくった者の中には大臣になったものもいる」と。結局話を聞くうちに人をつくることに興味をなくし、再度挑むことはなかったという。

熊野の神々に許された和泉式部……世界遺産に認定された熊野三山。その特徴はとても開放的な性格。それを物語るエピソードがある。京都から熊野本宮をめざし旅していた和泉式部は、あと3キロあまりのところで生理に。生理中の女性はケガレから参拝してはならないとされていたため、これを悲しんで「晴れやらぬ/身のうき雲の/たなびきて/月のさはりと/なるぞかなしき」(晴れない空に雲がたなびいて月の邪魔になるように、生理になってしまったのは悲しい)という歌を詠んだ。ところがその夜、熊野権現が夢枕にたち「もろともに/塵にまじはる/神なれば/月のさはりも/なにかくるしき」(一緒くたにごみと混じっている神なので、生理も何のつらいことがあろうか、いやない)という返歌をおくった。そのおかげで、堂々と参拝することができたのだ。

「宇治拾遺物語」にはダイエット失敗の話がある……ダイエットなんて近年に始まったことと思いがちだが、実は宇治拾遺物語にその失敗が描かれている。頭がよく、性格もよく、度胸もあり、忍耐強く、笛がうまくて背も高いのだが、いかんせん太りすぎている三条中納言が、薬師を呼び「痩せるにはどうすればいいか」と問う。薬師は「冬は湯漬け、夏は水茶づけを食べなさい」と答えたが、しばらくしてからまったく効き目がないという。ためしに薬師が出してみると、瓜を食べ、大きな茶碗に入った水茶漬けを、箸をたった2回動かしただけで食べ終え、何度も何度もお替りを繰り返した…。結局中納言は相撲取りのような体つきになった、という一文で終わっている。

浦島太郎には弟がいた……宇治拾遺物語には「浦島の弟」という話がある。陽成院の御所で夜番の男が休んでいると、だれかが顔を撫でた。とらえてみるとみすぼらしい老人。「私、ここに昔から住んでいて、実は浦島太郎の弟です。住んでもう千二百年になるので、社をつくって祀っていただきたい」と。夜番のものが断ると、3度彼を蹴り上げ、骨が砕けて落ちたところを食べてしまった。いつしか老人の体は巨大に。これで終わり、なんとも不気味な話だ。それにしても浦島太郎の弟なら、海辺に住んでいそうなものだが。

孔子を論破した8歳児がいた……宇治拾遺物語には、孔子さまを論破した8歳の子どもの話が出てくる。「日が沈むところと洛陽はどっちが遠いの？」という質問に、孔子は「日が沈むところは遠く、洛陽は近い」と答えた。すると「でも、日が昇るところ、沈むところを見たことはあるけど、洛陽は見たことがない。だから洛陽のほうが遠いと思う」と返されてしまった。これには孔子も「ただものではないな」と感心したそうだ。

ナチスからイギリスを救った悲運の数学者……それがチューリングさんである。「エニグマ」、ナチスドイツが使った暗号機を解読した研究者だ。ドイツ軍は「アルファベットの暗号化が一京通り」という性能に注目し、軍事行動の連絡を全てエニグマで暗号化。ドイツ軍の猛攻を支えたのがエニグマだったのだ。そしてイギリスの危機を救ったのが、チューリングをリーダーとする解読チーム。暗号の解読によりドイツの行動を察知できるようになり、無事に戦争に勝った。しかしながら、暗号解読に関わっていたことを口外することは許されず、周囲からの称賛もなかった。当時は違法だった同性愛がバレてしまい、国家プロジェクトから外され、さらに周囲から非難されてしまう。チューリングは失意のうちに1954年、青酸カリを飲んで自殺した。

幾何学に王道なし……ユークリッドの互除法であまりにも有名なユークリッド。彼は「原論」という、数学史で最も重要な著作物の一つとされる書物の著者で「幾何学の父」とも言われる。アレクサンドリアで数学を教えていたとき、プトレマイオス(プトレマイオス朝の初代ファラオ)に「幾何学を学ぶのに『言論』よりも近道はないか？」と尋ねたとき、そう答えた。学習に近道なんてものはないのだ。

セクシー素数という数学用語がある……全然エッチじゃないが。差が6である素数の組、つまり(p,p+6)のこと。たとえば5と11、7と13など。五つ組のセクシー素数は5,11,17,23,29の一組だけで、六つ組以上はない。ところでこれのどこがセクシーなのだろう。実は、ラテン語で「6」が”sex”(セクス)であることから来ている。なんだかガッカリである。

コロンブスの村は、ビタミンC不足で消滅した……大航海時代、ヨーロッパの強国は富をもとめて世界に進出した。しかし危険もつきもので、暴風雨と潮流とともに病気が船員たちを苦しめる。その中にはビタミンC不足で起こる壊血病がある。だるさ、関節痛、歯ぐきからの出血などの症状があらわれ、死に至ることも少なくない恐ろしい病気だ。バスコダガマの航海では、180人のうち100人以上が壊血病で死んでいる。コロンブスは2度目の航海で、1500人の入植者とともに現在のドミニカ共和国に村をつくった。しかし「ラ・イザベラ」とついたこの町、わずか4年ほどで打ち捨てられる。病気が大きな原因とされ、天然痘、インフル、マラリアと推測されてきた。ところが墓地を掘り返して骨を調べたところ、ほとんどの人に重度の壊血病の痕跡が見つかった。先住民たちの食べるキャッサバやサツマイモ、グアバなどで回復できたはず。彼らは現地の食料を取らなかったようだ。

ベートーベンは鉛中毒で死んだ？……ベートーベンは20代後半から聴覚に異常をきたし、40代前半からほとんど音を聞くことができなかったという。また腹痛や下痢などの持病にも苦しめられた。しかし他人との接触を避けたため、奇人と思われていたよう。そんな死因は「ワインの飲み過ぎによる肝硬変」とされてきたが、1994年にサザビーズのオークションで落札された彼の髪の毛を鑑定に出したところ、一般人の数十倍の鉛が検出された。調査の結果、ベートーベンは20代半ばから鉛中毒にかかっていたよう。考えられるのはワインの飲みすぎ。当時のワインには甘さを増すために、酢酸鉛を含む甘味料が大量に入っていたという。何とも「運命」を感じるエピソードである。

「砂糖ブーム」に火をつけたのはイギリスだった……17世紀に国王になったチャールズ2世は、ポルトガル王室から妻キャサリンを迎えた。ポルトガルは一足早くアジアと交易していたため、紅茶に砂糖を入れて飲む習慣が王室で定着していた。キャサリンがこれをイギリス王室にも持ち込み、こっちで定着。当時は砂糖も茶も高級品だったため、紅茶を飲めることが一種のステイタスに。18世紀中ごろにはイギリスはフランス人の9倍ほどの砂糖をとっていた。19世紀には刑務所の囚人にも砂糖入りの紅茶が出されるほどに。これらの砂糖は三角貿易で手に入れたもの。

オーストラリアには日本人・日系人のための強制収容所があった……日本人にとってオーストラリアは旅行先として人気が高い。しかし第二次世界大戦で敵として戦ったことは意外に知られておらず、ましてや日本人や日系人が、オーストラリアの強制収容所に送られていたと知る人はほとんどいない。大戦中、オーストラリア国内の1141人のほか、現在のインドネシアやニューカレドニアに住んでいた人々を加えた3160人の日本人が送られていた。2014年に記念行事が開かれ、その実態が解明されたのだが、民間の日系人の交流をめぐる公的行事はほとんど初めて。最終日には525人の遺骨が集められた「日本人戦争墓地」で慰霊祭があり、墓地に埋葬された日本人の約半分が民間人であることを証明する銘板が設置。

ジャガイモ飢饉がなければケネディ大統領は誕生しなかった……ヨーロッパ諸国の中でジャガイモと関わりが深いのがアイルランド。18世紀のアイルランドはイギリスのもとにあり、アイルランド人の農家はイギリス人に土地を没収されて小作農に。このとき、ムギなどを栽培すれば地代を払う必要があったが、ジャガイモは免除だったことから、ジャガイモ栽培が盛んに。18世紀半ばではさらに極端になり、「ここでは1年のうち、10か月はジャガイモとミルクだけですごし、残りの2か月はジャガイモと塩だけ」と旅行者が記すほど。そんなアイルランドを襲ったのが大飢饉。原産地のアンデス山脈では、いくつもの品種を一つの畑に混ぜて全滅を防いでいたのだが、当時のヨーロッパでは収穫量の多い品種に偏って栽培されており、遺伝的な多様性がゼロ。結局1845年から飢饉が始まり、数年にわたってこれが続いた。この間に祖国に見切りをつけて、イギリスやカナダ、オーストラリアなどにわたったのは150万人。その中にはケネディの曽祖父がいたのだ。

ジャガイモが生んだアンデス文明……考古学や歴史学では、穀物農耕が文明の原動力になったとする説が一般的。しかしアンデスの文明に関してはあてはまらないようだ。従来はトウモロコシ農耕をもとに発展したと考えられてきたのだが、1990年代になり、人骨のコラーゲンを抽出、それを構成する炭素と窒素の量をはかることで、食生活を推定する方法が確立された。遺骨の調査の結果ジャガイモを重要な食料としていた可能性が高いとわかった。化学によって考古学の常識が覆されるケースは今後も増えていくだろう。

日韓の真の友好を願う「沙也可」……16世紀末に秀吉が朝鮮侵略をした。加藤清正も渡ったのだが、その配下の1人が、投降して朝鮮軍に加わり、火縄銃の使い方を教えたとも言われている。その日本人が「沙也可」である。朝鮮文化を慕ったからとも、朝鮮侵略に大義がないと考えたからとも言われている。戦いの後彼は功績を認められ、王からじきじきに名字を与えられて帰化した。彼の住み着いた集落は今も残る。現在では12代目金さんがその一族をまとめている。「先祖は日本人だ」と堂々と語る金さん、2012年に行政の支援をうけ、沙也可の足跡を紹介する「韓日友好館」を開いた。いつの日か両国の首脳会談がここで開かれることを願っているという。

4色ボールペンのノックダウンは看護師の悩みで生まれた……4つの色を使い分けることができる四色ボールペン。実はノックダウン(押してペン先を出すための出っ張り)の部分を見てみると、色によってその形が違うことがわかる。黒は台形、赤は2つの三角形、青は1つの三角形、緑は山。トンボ鉛筆の社員によると、これは看護師の悩みから生まれたものらしい。看護師は夜中でも血圧や体温をカルテに書かなくてはならない。項目ごとに色を変えるルールがあるのだが、暗いとそれがわからない、ということで、形で色分けして書けるようにしたのだ。

サランラップの原料の7割は……塩でできている。食用ではない塩をメキシコやオーストラリアから輸入する。工業的な塩を7割、それからエチレンなど石油由来の成分3割を混ぜ、これを高温にして溶かし、液状にして薄く引き延ばすとサランラップになる。

使用済みおしぼりは20回も再利用される……飲食店の多くではおしぼりを専門店からレンタルしている。月1000本で8500円…ぐらいが相場らしい。回収したものは回転装置で大きなゴミを落とし、1度に2000本分洗える洗濯機で洗濯。筒状に10個の洗濯槽が重なっており、最初の4層で洗浄と殺菌、残りですすぎをし、最後にプラス機で脱水。パートのおばちゃんたちが1枚ずつ畳んで包装。このとき、穴が開いたり薄くなったりしているものを選び、捨てる。だいたい平均20回は再利用されるという。

いびきのうるささを解消できる画期的なアイテムがある……それがイスラエルで開発された「サイレントパートナー」。クリップのような小さな物体で、これを鼻につけるだけで、ほとんどいびきが聞こえなくなる。やっていることはノイズキャンセリングであり、いびきと逆位相の波を出力しているだけだが、うるさい家族がいる場合はぜひ試してもらおう。

かっぱえびせんの筋の数は決まっている……しょうもない話かもしれないが聞いてほしい。かっぱえびせんの筋の数は10本と決まっている。筋を入れているのは食感を良くするのと、塩と油を絡ませやすくするため。何度も試した結果10本がベストと決まったらしい。こんな細かいことにまで気をかけているのだ。ちなみに生地の端っこは11本や9本になるため、見つけたらレアである。使用するエビは甘エビ、サルエビ、キシエビ、赤エビの4つ。ブレンドして独特な風味を生み出す。名前の「かっぱ」は、当時大流行していた漫画「かっぱ天国」の人気にあやかろうとしたもの。もともとは「かっぱあられ」という商品で、その20代目にあたるのがかっぱえびせん。

シャウエッセンはフォークより箸のほうがおいしく食べられる……シャウエッセンというか…プリマの香薫でもアルトバイエルンでも、ちょっと高めのソーセージならだいたいそうかもしれないが、箸で挟んだほうがおいしい。日本ハムの社員・黒木氏によれば、シャウエッセンの特徴はパリッとした食感。最初に歯で噛んだ時にこれを楽しむには、できるだけ肉汁を出さないようにする必要がある。だから箸のほうがおいしい。彼は「ポトフの切られたシャウエッセンを見ると悲しい」「タコさんウィンナーにしないでほしい」と言っている。フライパンで焼くと熱が均等に入らず皮が破れるため、3分間ボイルするのがよい。

きのこの山とたけのこの里、人気があるのはどっちなのか……meijiの社員、山内義教氏によると、人気があるのはたけのこの里、とのこと。売り上げの差が倍近くまで開くこともあるという。そりゃそうだ。ちなみに両方で使うチョコレートの種類が異なっている。きのこの山のチョコはカカオ感が強いものを使用。上の部分はカカオの香りが引き立つものを、下のほうはミルクで仕上げた甘めのものを使う。一方、たけのこの里のチョコは甘い。上の部分はミルク感が強いもので、下の方はさらに甘いものを。生地も異なる。きのこの山はクラッカー生地、たけのこの里はクッキー生地を使う。

カリカリ梅はなぜあんなにカリカリするか……カルシウムを溶かした液体に浸けているから。カルシウムには果肉の硬さを保つ効果がある。青梅もあんな感じの食感だが、普通に浸けると浸透圧などの関係でふにゃふにゃになる。

マヨネーズ工場で使った卵の殻は一体どこへいくか……どこでもいいじゃねえか。そんなこと言わずに聞いてください。キューピーの話だが、マヨネーズ工場で使った卵の殻は、全国の小学校に行く…というのも、チョークになるためだ。ちなみにマヨネーズは卵黄しか使わないため、卵白の部分も余ることになる。これらは業務用にパックされた後、メレンゲ(やがてケーキになる)になる。

プッチンプリンはプリンではなくゼリー……プリンとは「卵、牛乳、砂糖を混ぜ、蒸して固めたもの」という定義である。しかしプッチンプリンは蒸さずに寒天で固めているため、ゼリーと呼んだ方が正しい。でも味は間違いなくプリンなので、いわば「カニカマはカニではないけどカニカマ」と同じようなものである。正直、どうでもいい。

豆まきで「福は内、鬼外」と言うところがある……節分の掛け声といえば「鬼は外、福は内」だが、福島県の二本松市の豆まきの掛け声は「福は内、鬼外」である。二本松藩の殿様といえばずっと丹羽氏(にわ)。「鬼は外」というと「おには外」で「お丹羽外」になってしまうため、忖度して「鬼、外」になった。ほかにも面白い掛け声はある。茨城県では「鬼は外、福は内、福の神でぶっちめろ」。ぶっちめろとは「追い払え」という意味。宮城県では「福は内、鬼は外、天打ち、地打ち、四方打ち、鬼の目ん玉ぶっつぶせ」。鬼の目には特別な力があるため、まず目からやっつけるということらしい。群馬県鬼石では「福は内、鬼は内」。ここは鬼が投げた石で村ができたという伝説がある。人間にとってよい鬼もいるため、一緒にこい、ということらしい。

打ち上げ花火のときに「玉屋」「鍵屋」と叫ぶ理由……あれは江戸時代に有名だった花火師の屋号。まず鍵屋という花火職人がおり、そこの番頭があまりにも腕がよいため鍵屋は独立を認め、玉屋と名乗らせた。隅田川花火大会では両国橋よりも上流を玉屋が担当し、下流を鍵屋が担当した。だから本来、上流に「たーまやー」、下流に「かーぎやー」と叫ぶのが正しい。この名前だが、鍵屋の守り神である鍵屋稲荷(東伏見稲荷神社)の向かって左側に鍵を加えた狐様、右側に擬宝珠をくわえた狐様がいたため。玉屋の人気はすごく、「橋の上 玉屋玉屋の声ばかり」という川柳があったほど。鍵屋は「株式会社宗家花火鍵屋」として現存するが、玉屋は1843年の火事が原因で、一代で廃業した。

七夕の短冊は願い事の内容で使う色が決まっている……地主神社の中川勇氏による話。そもそも色は5色。青・赤・黄・白・黒である。五行説にある色に孔子がそれぞれ仁、義、礼、智、信を当てはめた。青は恋愛。白は目標、赤は人間関係、紫は勉強、黄色は仕事。

マジックの3原則、サーストンの三原則……日本のマジック界で広く知られているのがサーストンの3原則である。ハワード・サーストンという偉大なマジシャンを冠したもの(サーストンが言ったわけではない)である。マジックをするとき絶対に守らなくてはならない三原則だ。「マジックを演じる前に、現象を説明してはならない」「同じマジックを２度繰り返して見せてはならない」「種明かしをしてはならない」。シンプルだがとても大事である。まとめれば「意外性をなくすことは極力避けろ」ということである。2つ目の原則は特に大事だ。マジックを観客に見せた時、それが不思議であるほど、観客からいいリアクションが帰ってくる。マジシャン初心者は嬉しくなり、ついつい同じものを見せてしまう。ところがそれは失敗する。観客はタネを見破ることを目的に見るからだ。3番目は言うまでもない。タネを教えてもらって感心する人は少ない。あとは「そんなに簡単だったのか」と失望してしまう。

「戦争と平和」、その重厚なストーリー……ロシア文豪トルストイが書いた「戦争と平和」は、ロシア人とナポレオンの戦争を描いた長編小説である。世界的に有名だが、登場人物は559人、ストーリーも複雑に入り組んでいるため、有名度ほど読みやすさはない。ストーリーは4つの貴族の家庭が中心。ボルコンスキー家、ロストフ家、ベズーホフ家、クラーギン家である。極厚なので中身を全部紹介すると死ぬ(というか最後まで読んだ人何人いるんだ)。ナポレオンがロシアに侵入してくるという歴史的な大事件を、貴族社会と民衆の有様を通じて描く…という壮大なもの。主要人物は10人で、そのうちアンドレイ、ピエール、ナターシャが主軸。ベズーホフ家のピエールは作中屈指の金持ち。肥満でメガネをかけている。心が優しく、頼りないところも。妻エレンとの結婚生活に悩み、フリーメイソンに加入。ロストフ家のナターシャに恋をしてしまう。ボルコンスキー家のアンドレイは優秀な実務家。対ナポレオン戦争に従軍、のちにナターシャと恋仲に。ピエールとは親友の関係。ロストフ家のナターシャ。ニコライの妹でヒロイン。無邪気で天真爛漫。アンドレイ含め多くの男性との恋が描かれる。とりあえずこれだけ抑えておけば挫折することはないはずだ。筆者は挫折して、漫画で読みました。

尾崎紅葉「金色夜叉」のあらすじ……連載当時から大人気で、現在もファンに読まれている「金色夜叉」。尾崎紅葉は明治時代を代表する文豪。しかし本作の連載中に胃がんで死去。37歳の若さだった。そのためこの作品は「未完成」ということで、途中までしかあらすじを紹介できない。15歳で両親と死別した主人公・間貫一(はざまかんいち)。彼は鴫沢(しぎさわ)家に拾ってもらい、高等中学生(ほとんどエスカレータで東大生になれる)に。大学を卒業して学士になったら、家の娘である宮(お宮)と結婚できるという約束をする。300円のダイヤモンドの指輪が自慢である大富豪・富山唯継は、かるた会で彼女を嫁に求める。鴫沢夫妻も、間との約束を反故にし、それを了承。宮を諦めるように説得される間、宮と母は熱海へ。そこに富山がやってきて彼女を散歩に誘う。ところが間もそこにやってきたため、邪魔が入ったとして富山は東京に帰る。夜になり、間は宮をなじり、考えを改めることを求めたが、結婚する気はない…彼女を蹴飛ばし、そのまま出奔した。4年後、新橋のステーションにて、間の親友で法学士になった荒雄が、愛知県参事官として赴任しようとしていた。友人が見送りにきて話が盛り上がる。なんでも、赤樫という60歳過ぎの高利貸しのところで奉公しているうちに妻になり、いまはやり手の女がいるらしい、その女の名前は満江で、あだ名は「美人クリーム」だと。途中彼は間を見たような気がしたが、すぐに見えなくなった。実は間、親友の旅立ちを気付かれないように見に来ていたのだ。彼は鴫沢家を出て、高利貸しの鰐淵(わにぶち)の手代となっていた。赤樫満江はそこにやってきて、彼に「独立を援助するよ」という。その理由を聞くと「あなたにぞっこんだから」…しかし宮に裏切られて傷心の彼は、「女には興味がない」。一方で宮の話。富山宮子となった彼女だが、夫には愛情を持てず、産んだ子にすぐに死なれ、空虚な生活を送っていた。ある日夫に連れられて旅行、双眼鏡をのぞかせてもらったところ、なんとそこには間が。彼彼女が旅行に行った先の家は、高利貸しに裏で資金援助をしていた。そのために間が来ていた。すれ違いざまに2人は4年ぶりの再会を果たすが、写真撮影の途中で宮は気を失い倒れてしまう。他方、深夜、暗い道で、間は彼に恨みを持つ2人組に襲われて重傷。間の事件は新聞に報道される。入院中の彼に満江が頻繁にやってきて、さらに育ての親でもある鴫沢隆三(宮の父親)も来るが、顔を合わせようとはしない。間が留守にしている間、鰐淵の家に老女が毎日のようにやってくる。彼女の息子は鰐淵に騙され、連帯保証人の公文書偽造の罪になって、刑務所に入れられていた。彼女の要求は「鰐淵の首をよこせ」と。ある風の強い日、今日はあのきちがいが来なかったと安心して鰐淵夫婦が寝込んだ夜、老女が放火し、夫婦は焼け死んだ。ここまでが金色夜叉。ここから「続金色夜叉」。あいかわらず高利貸しをしていた間は、義理ある人のために失職した荒雄に出会う。その後宮にも会う。宮は自分の罪を詫びるが、彼は許さない。そこに満江がやってきて大騒ぎに。その夜間は、宮が自害して自分も死ぬという夢を見て目が覚める。次に「続続金色夜叉」。気分転換に那須に行った間は、借金のために心中をしようとしていたカップルを助ける。彼らは実は富山に身請けされそうになっていたのだ。彼は二人の借金を代わりに払ってあげた。次。新続金色夜叉。物語は突然、宮が間に対してあてた手紙から始まる。宮は後悔して許しをこう。助けた男女を使用人にしていた間は、その手紙を読みながら思案にふける。さらに宮の家人から手紙が。自責の念から自分は死につつある、と。…ここで尾崎紅葉が死去、絶筆。

ガイーヌ……ロシアの作曲家、ハチャトゥリアンによるバレエ演目。特にその中の一曲「剣の舞」は有名。以下、あらすじ。アルメニアの山にある村で、アルメン(男性)とゲオルギー(男性)という2人が、狩りの途中で意識を失って倒れているアイシャ(女性)を助ける。ゲオルギーは美しい姿のアイシャに恋してしまう。アルメンの恋人だったガイーヌ(女性)が村で彼らの帰りを待っていると、2人がアイシャを連れて戻ってきた。ガイーヌの介抱でアイシャは目を覚ます。アイシャとアルメンはふざけて抱き合うが、ゲオルギーはそれを見て誤解、嫉妬する。狩りに行く前に宴が開かれるが、まだゲオルギーは嫉妬、それによりアルメンとゲオルギーは喧嘩に。そのまま狩りに出かけ、アルメンが谷に足を滑らせて落ちても、ゲオルギーはそれを助けずに帰ってしまう。一方アルメン。彼は狩人に助けられ、間一髪のところで命を救われた。しかし目を失明。ゲオルギーはそれを知り、自分が助けなかったことをとても後悔。収穫祭になりアルメンが包帯を外すと、なんと彼は目が見えるようになっていた。ゲオルギーはアルメンに謝罪、みんなで踊り、祝い合う。

アメリカでよくある横向きと正面の人物写真の名前……映画とかでよくある、正面と横向き、何かの札を持ったまま2回写真を撮られるアレの名前は「マグショット」。マグは英語のスラングで「顔」という意味。逮捕後にとられる写真のことをさし、当初の目的は逮捕者の人物帳を作成することだった。法科学の基礎を作ったフランス人警察官僚、アルフォンス・ベルティヨンがこれを標準化した。

イナバウアーは上半身を反らせる技、ではない……荒川静香いわく、あれは勘違いしている人が多いが、上半身を反らすのは「レイバック」であり、足の形がイナバウアーである、と。具体的には、足を前後に開き、つま先を180度開いて真横に滑る技が「イナバウアー」。1950年代に活躍した西ドイツの選手、イナ・バウアーが開発したことから。荒川はこの技を得意とし、2006年のトリノオリンピックで披露して観衆を沸かせた。この年の流行語大賞にも選ばれたのに誤解されているとは…まったく度し難い…。

日本の時計産業をけん引した男、服部金太郎の人生……服部金太郎という男を知らなくても、時計メーカーのSEIKO(セイコー)を知っている人は多いに違いない。日本初の有名時計メーカーを創業したのが服部である。彼は1860年、古物商を営む父のもとに生まれた。商売に志を立てた彼は、11歳のときに洋品雑貨屋に奉公に出る。13歳のとき、その店の近くにあった小林時計店を見て、時計屋になろうと決心する。「雨天の日は客足が少ない。そんな時でも時計店の店員は修理にはげんでいる。販売だけでなく修理でも利益が得られ、大切な時間を無駄にすごさなくともよい。まず時計の修理からこつこつ始めよう」。上野や日本橋の時計店で修理や販売を学ぶ。上野のほうでは、店主が他の事業に失敗、店が倒産するが、服部は在店中にためておいたお金を、彼に差し出した。店主は感激…というエピソードも美談として伝わる。1877年、彼は「服部時計修繕所」の看板をかかげ、中古時計の修理・販売を始める。これがのちの服部時計店の前身である。同時に「技術にかけては名人」とされた人に弟子入り。1881年、世の中は通貨収縮にあったが、彼は21歳で「服部時計店」をオープン。国産時計の黎明期で、先駆者兄貴たちが欧米の製品をモデルに懐中時計をつくっていた。時計は横浜や神戸などから仕入れる必要があった。商館の取引は「30日延ばし」といって、一か月以内に代金を決済するという決まりがあったが、古い商家はそれを守らず、盆の暮れに清算するルールをかたくなに守っていた。しかし彼だけは、どんなに困難な状況でも決済の期限を守り、外国商館からの評判は高まった。優先的に新しいモデルをおろすようになり、彼は1886年の好景気中から、舶来時計の卸売りや販売に集中していく。創業6年目の1887年、日本商業の中心地、銀座の表通りに進出成功。創業10年目の1891年、彼は「東京時計商工業組合幹事」「東京商業会議所館員」に推挙され、31才にして業界の重要な位置をしめるように。舶来時計の販売で得た元手を使い、時計の国産化に進んでいく。天才と呼ばれた吉川鶴彦という男とともに、名古屋にあった掛け時計の工場を視察後、従業員十数名の「精工舎」が誕生。彼はこのとき「精巧な時計を作る」「人材を育成する」「ブランドを大事にする」「世界から学び、世界を市場とする」という4つを掲げた。創業は決して早くはなかったが、創業20年後の1911年、国産時計の6割を精工舎がつくるように。経営姿勢と、彼の先見性、洞察力、リーダーシップがその勝因にある。国産時計産業の弱点は機械設備の遅れにあった。創業時は動力が人力だったが、翌年は5馬力の蒸気機関を導入。さらに25馬力へ。このように積極に最新鋭の技術を取り入れ続けた。また、スイスや日本の主流だった「水平分業」ではなく、部品から組み立てを一貫する「垂直統合」を志向、精巧な製品づくりと開発期間短縮に励んだ。工作機械類の内作化にも成功。量産のネックになっていた部品加工の生産性を飛躍的に上げた。1913年には国産初の腕時計「ローレル」を生産。目覚まし時計のケースにニッケルメッキをしてさびにくくさせ、ドイツ製の鉄製ケースを日本や中国から駆逐。この商品は欧米先進国に日本が近づいたことの象徴である。腕時計の普及が第一次世界大戦によるものだから、大戦勃発一年前というタイミングもまさに絶妙。輸出が増加、空前の好景気が到来するが、時計業界もやはり同じ。精工舎はイギリスから約60万個、フランスから約30万個という大量の目覚まし時計を受注。戦争中は輸入材料が途絶えるが、彼は勃発直後に材料を大量に買っていたため、需要増にも対応することができた(他の国産メーカーは材料不足だった)。こうして彼は「東洋の時計王」のブランドを得ることに成功した。しかし1923年、創業以来の非常事態、関東大震災に見舞われた。精工舎は給水鉄塔をただ一つ残して全焼し、当時本店ビル建築のため仮住まいしていた営業所や自邸も焼失するなど、甚大な被害を受けた。彼は落胆するが、4日後には立ち上がり、精工舎の再開を宣言。翌年の10月にはもう輸入時計の入荷をしていた。また、修理のために預かっていた時計1500個を震災で消失するが、わざわざ新聞広告を出し、申し出てきた顧客に新品を返済すると宣言、大きな話題になった。12月には新しいブランド、SEIKOの腕時計が生産されるように。この時計は試作品(大震災の前日に完成)が消失しなかったことが幸いして完成した。精工舎の復興は進み、1932年には本店が新築落成。銀座のシンボル、現在の時計塔が完成した。1933年、時計王は病に倒れ、73歳で生涯を終えた。彼の名言が面白いので紹介する。「すべて商人は、世間より一歩先に進む必要がある。ただし、ただ一歩だけでよい。何歩も先に進みすぎると、世間とあまり離れて預言者に近くなってしまう。商人が預言者になってしまってはいけない」。この絶妙なバランス感覚こそが、彼の成功およびSEIKOの今をつくっているといっても過言ではないだろう。

車の「ターボ」は何のために必要なのか……スポーツカーなどには決まって「ターボ」なるものがついているらしい。しかしそれはいったい何なのか。まずターボと呼ばれるのは正式には「ターボチャージャー」である。別名「排気タービン式過給機」とも呼ばれ、エンジンに圧縮した空気を送り込んで、排気量以上のパワーを得ることができる、という装置。要するにドーピングだ。エンジン内部にあるシリンダが往復運動、燃料の熱エネルギーが回転運動に変わって車は進むのだが、当然シリンダ容積(排気量)は固有なので変えることができない。出力をあげたければ、取れる方法は2つだ。まず、エンジンの回転速度を上げること。しかし振動や騒音が増し、燃費が悪化する。また、エンジン性能以上に回転速度を上げることはできない。もう1つが、1サイクルあたりの投入燃料の量を増やすこと。その場合、燃料を燃やすための空気が足りなくなるから、自然吸気(NA)だけで賄えない量をターボチャージャーにより送り込もう、という作戦だ。次に、ターボチャージャーのしくみについて説明する。車のエンジンはガソリンを燃やして動力を得て、排気過程で排気ガスを出す。ターボチャージャーは排気ガスをマフラーから排出する前にタービン(羽根)に送り込んでコンプレッサを回し、それにより空気を圧縮する。空気は当然圧縮すると温度が上がる。高温のまま送り込むとノッキングを起こすため、圧縮空気はインタークーラーによりいったん冷却されてエンジンに行く。よくテレビCMなどで「ダウンサイジングターボ」ということばを聞くので、これも説明する。簡単にいえば「排気量を小さくするために搭載するターボチャージャー」である。排気量を小さくすると燃費が上がり、しかも加速時のパワー不足はターボチャージャーで補える、といういいとこどりな方法。巡航時は排気量が小さいから燃費はよく、加速時は大排気量にも劣らない加速力ですいすい行ける。加速時には当然燃費が悪くなるが、それはしょうがない。欧米のような渋滞地域が少ないところでより採用され、日本ではあまり広まっていない。続いてスーパーチャージャー。こちらは「機械式過給機」と呼ばれるもの。排気エネルギーを利用して過給するのではなく、エンジンの動力をベルトを用いて過給機に伝え、その動力でコンプレッサを作動させる。エンジンの動力により動作するため、ターボチャージャーのように排気圧が上がるのを待つ必要がなく、低回転域からでも作動させることができる。

水泳してる人が股に挟んでるアレの名前……アレに名前が…ってそりゃそうやろ。アレの名前は「プルブイ」。ビート板の足バージョン。太ももとかふくらはぎに挟む。目的は正しい上半身のフォームを身につけること、腕の筋肉をつけること。プールで人間が体を浮かせようとすると、下半身のほうが沈んでしまうはずだ。そうしないためにバタ足をするのだが、バタ足をするとフォームが崩れる。そうならないように挟むのだ。体幹がしっかりしてくると、プルブイを挟んでキックをない状態で泳いでも、体が左右にぶれなくなる。ただしあくまで練習用なので、プルブイがないと泳ぐのがきつくなる「プルブイ癖」がつく可能性もある。オープンウォーターで行われることが多いトライアスロンの話だが、ウェットスーツ着用、しかも海水の浮力の影響もあり、プルブイで練習したほうが本番の環境に近いとも言われる。スイムが苦手な人はぜひ。推進力としてのキックの役割は10％ほどなので、むしろ腕を鍛えたほうがいいだろう(というかバイクやランが控えているのであまり足は使わないほうが)。

ユカタン半島にある美しい井戸、セノーテ……中米、ユカタン半島には、数千もの「セノーテ」がある。マヤ語で「聖なる泉」という意味(cenoteはスペイン語であるが、この単語に関してはマヤ語由来)テレビで見ることも多いかもしれないが、石灰岩が陥没してできた穴に地下水がたまったもの(正確にいえば、石灰岩のところに降った雨が地下にしみ込み、水脈を形成、土地の崩落で穴が開いたところに水脈から水が流れ込んでできたもの)で、貧栄養から水はかなり美しい。実際に見に行きたくなるほど絶景なのだが、昔の人も同じ考えだったのだろうか、巡礼の地になったり、供え物を捧げる場になったりしている。ダイビングやシュノーケリングでもかなり人気。メジャーなのは「チャック・モール」。

群馬県民は群馬の有名な山が運動会チームの名前になっている……ケンミンショーみたいな雑学で申し訳ないが、本当に知り合いの群馬県の人が言っていて感動したので紹介させてほしい。群馬県には赤城山(あかぎさん)、榛名山(はるなさん)、妙義山(みょうぎさん)という3つの有名な山がある。市街地からでもこれらはよく見えるため、校歌にこれが含まれていることも多い。上毛かるたでも詠まれた歌がある。群馬県の小学校では、運動会の組分けのとき、このどれかの名前が組にそれぞれ与えられることが多い。つまり3チームを「赤城団」「榛名団」「妙義団」とするのだ。4チームあればこれに浅間山が入ったり、5チームなら白根山を入れたり。勘違いされやすいが、赤城山・榛名山・妙義山という名前の山はない。赤城山は黒檜山を主峰とする一帯の総称、とか。榛名山も1000mが22座あるとか。

アカデミー賞の最年少はなんと9歳……ドラマ映画「ハッシュパピー～バスタブ島の少女～」の主演女優、クヮヴェンジャネ・ウォレス。彼女の当時の年齢はなんと9歳。第85回アカデミー賞主演女優賞にノミネートされたが、これは当然、史上最年少の記録。5歳のときにオーディションを受け、4000倍の倍率から1人だけ選ばれた。ちなみに第85回には、史上最年長でノミネートされたエマニュエル・リヴァという85歳の女性もいた。年齢差は76歳…うーむ、女優という仕事のすごさについて考えさせられる…。都会の文明から隔絶された「バスタブ」居住区に暮らす少女の姿を描いた作品。破れた服を着て、泥にまみれ、怒り・悲しみに顔をゆがめながら泣き叫ぶ名演技はぜひ必見。アカデミー賞へのノミネートについて彼女は「正直びっくりした」「ノミネートされるまではテレビで授賞式を見たこともなく、アカデミー賞の存在自体知らなかった」とのこと。「オスカー」に関しても、式の直前までそういう人が今もいると思い込んでいたという。一方で好きなのはオシャレ。でもファッショニスタ…「あなたの肌にその色は似合わない」と言ってくる人は嫌いらしい。なかなかに大人びた言動であるが、ギャップがなんともほほえましい。

「聊斎志異」に載った恐ろしい話……中国、清の時代につくられた怪談短編小説の最高峰といえば「聊斎志異」(りょうさいしい)である。不思議な話、妖狐、幽霊に関する話が多く、口伝されていたものを文語体にして小説にまとめたもの。全部で491の話があるが、神秘さや不思議を感じるものが多く、現代に生きる我々が本当にぞっとするようなものはない(というか、さえない受験生のもとにキツネとか幽霊が出てくる話がけっこう多い)。しかし珍しく怖いものもある。そのエピソードが「画皮」である。王生という男が朝早く出かけると、とある美人に出会った。彼女は金持ちの妾であり、奥様のいじめに耐えられず、遠くに逃げようと思って出てきたのだ。彼女にすっかり惚れた彼は家に連れて帰り、書斎に隠して毎晩楽しんでいた。彼の妻である陳氏は身元を怪しみ、女を追い出すことを勧めたのだが、彼は聞き入れない。数日後、彼が街に出かけると、1人の道士に行き合う。彼は「邪気が漂う、何か変わったことはなかったか」と問い詰めるが、彼は何もないと頑強に言い張る。そして書斎に戻ると、なんと中から鍵がかかっている。不審に思って窓の隙間からそっとのぞくと、彼はぞっとした。青い顔をして、鋸のような歯をむき出しにした妖怪が、人間の「皮」を広げ、その上に筆で美人の姿を描いていたのだ。描き終わると、その皮を「着て」、あの美人の姿に変身。もうたまらなくなって道士を探し出し、助けてくれと懇願する。道士は彼に魔除けの払子を与え、これを寝室の入り口にかけるように、と命じた。帰宅しても恐ろしくて書斎に入れず、彼は妻の部屋で寝ることにした。夜8時ごろ、外から妙な音がする。あの女がやってきたのだ。女は部屋の入り口の払子を見て足を止め、やがて立ち去っていった。二人が少しだけ安心していると、女がまた戻ってきた。女は払子をつかんで引き裂き、扉を破って中に飛び込んできた。そして彼にとびかかり、鋭い爪で腹を裂き、心臓をつかんで姿を消えた。翌日、彼の死を知った道士は妖怪を探し出して殺したが、自分の術が浅かったとし、夫を生き返らせることを懇願してきた陳氏を断った。そのかわり、いつもごみだめの中で寝ている乞食にそれを頼むことを勧めた。彼女は杖で殴られたり、ののしられたりすることを我慢して強く懇願。乞食は手のひらに痰を吐き出し、これを食えと命令してくる。彼女はそれを一生懸命飲み込んだ。不思議なことに痰は綿の塊のように喉を下っていき、胸のところで止まった。夫の無残な死に方や、人の痰を食べた屈辱を思い出して、恥じたり恨んだりしながら帰宅。あまりに激しく泣いたため吐き気がしてきた。顔をそむける間もなく、死骸に向かって痰を吐いてしまう。驚いたことに彼女が吐き出したのは心臓だった。王生の死骸は細い呼吸を出し、なんと生き返った。「夢を見ていたようだ」と彼女に話し、数日後、全快した。文章の最後に作者はこう書いている。「愚かな世の人よ、妖怪なのに美人だとして慣れ親しむ。惑わされた愚かな人よ、他人の忠告を聞き入れず、でたらめとして聞き流す。美しい女性の外見に引かれ、女を犯したので、自分の妻も他人の痰を食べる羽目になってしまう。悪いことをすればいつか必ず罰に当たる。愚かな人間が悟らないだけだ。どんなに悲しいことであろう」。1979年、この話は映画化された。中国で上映された初のホラー映画なので、音声や場面がショックすぎて、映画館で急死する人も続出した…とかいういわくつきエピソードもある。

「光害防止条例」を制定した街がある……岡山県井原市の「美星町」(びせいちょう)。その街には、美しい星空を守るための条例がある。「多くの人々がそれぞれに感動をもって遥かなる星空に親しむよう宇宙探索の機会と交流の場を提供することが美星町及び美星町民へ与えられた使命」あぁ、前文さえ美しい。この「光害防止条例」は1989年、全国に先駆けて制定されたもので、夜空を明るくする散乱光を防ぐため、街灯は光が水平以上に漏れないような照明にし、看板を照らす照明は全て上向きのものを禁止。屋外照明さえ午後10時以降は消灯を推奨。主要道路もないため、街は星空と同化して真っ暗になる。姿かたちがない「空間」「光」を防止しようとは、なかなか面白い試みだ。

会社に入って行う「OJT」の意味……OJT(On-the-Job Training)とは、簡単にいえば「実際の業務を通じて仕事を教えようぜ」という育成方法。終了後には即戦力になることを期待して行う。部下や新入社員に、上司が実践的にノウハウや知識を伝えるというもの。ルーツは第一次世界大戦のアメリカ。「4段階職業指導法」といって、「やってみせる」「説明する」「やらせてみる」「確認する」(Show, Tell, Do, Check)からなるもの。日本ではこれが高度経済成長期に導入、PDCAサイクルに基づく社員教育が行われ、OJTは社員研修の基本的な方法となった。メリットはいろいろ想像できるが、デメリットもある。OJTという名の単なる放置になるとか、教える側のスキルで習熟度がバラバラとか、体系的にものごとを学びにくいとか、実務が滞るとか。イレギュラーが発生しにくい職業なら、OJTに向いていると言えそうだ。

世界のプリマドンナ・三浦環……世界で最も権威がある音楽文献の1つ「グローヴ・オペラ辞典」、そこに唯一日本人が入っているのだが、それは誰かご存じだろうか。三浦環(みうらたまき)という女性である。40年の公演のうち半分は欧米のステージであり、プッチーニからも「世界最高の蝶々夫人(マダム・バタフライ)のプリマドンナ」と絶賛、2000回も蝶々夫人のプリマドンナとして舞台に立って歌い続けた。いったい何がどう(他の日本人と)違うのか。まず彼女は、幼いころから日本舞踊や長唄を学んでいた。すでにその頃から才能はあったようで、東京音楽大学(現在の東京藝術大学)に入学、滝廉太郎にピアノを、ユンケルに声楽を学んだ。卒業後は帝国劇場歌劇部で声楽を指導しつつ舞台に立ち、日本人初の洋楽レコードを出すなど、新しい試みにもチャレンジ。1913年に医師と結婚、夫のドイツ留学でベルリンへ。「本場でオペラの勉強をしたい」という夢が叶い、リリー・レーマンという音楽家に師事。ところが第一次世界大戦が勃発、1914年にロンドンへ移住。ここでチャンスが訪れる。イギリスが誇る指揮者、サー・ヘンリー・ウッドのテストを受けて認められ、アルバートホール(2万3000人が収容できる、ロンドン最大のホール)の舞台に立てることになったのだ。彼女は「リゴレット」のアリア、「慕わしき御名」を熱唱。歌い終わると大きな拍手とアンコールが続き、「サクラサクラ」、「ほたる」の2曲を歌った。このデビューには世界も驚いたようで、ロンドンの新聞は「マダム･ミウラはメルバやカルヴェにもひけを取らぬ美しい声と芸術性をもった歌手である」と絶賛している。彼女がロンドンで下宿をしていると、とある男が訪ねてきた。ロシア人のテノール歌手、ウラジミール・ロージンだ。第一次世界大戦の影響でパリでの公演が中止になり、彼女の演奏が噂になったため、出演依頼に来たのだ。1915年、イギリス国王ジョージ5世も臨席する中、彼女の澄んだ歌声、変化する蝶々さんの性格を見事に表現、蝶々夫人は見事に大成功。まもなくアメリカに渡り、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場に招かれ、世界的テノール歌手エンリコ・カルーソと蝶々夫人に共演。1920年ローマで公演したときには、プッチーニが彼女に対し「マダム・ミウラのためにつくられたような舞台だ」とまで言い切っている。

10億ドル以上の価値があり、なおかつ未上場の企業…そんなものあるのか……「ユニコーン企業」という分類の会社がある。投資家が勝手にそう呼ぶだけのものだが、定義はかなり厳しい。「10億ドル以上の企業価値がある未上場の企業」だ。そんなものがあるのかといえば、ないことはない、しかしユニコーンを見るぐらい珍しいぞという話である。日本でいえば2019年現在、Preferred NetworksとLiquidの2つのみ。前者はIoTで世界最先端を行く企業で、ディープラーニングが特に強い。ロボット自動車の開発を行っている。後者は仮想通貨取引のプラットフォームを提供する企業で、QASHなる独自のトークンを発行している。これに近いのがスマートニュースとかTBMとかfreeeとか。日本にはかなり少ない、というのも、ベンチャーキャピタルが未発達だからだ。その年間調達額を比べると、日本はせいぜい2000億円、しかしアメリカは6兆円、中国は5兆円とかなり差がある。短期間で成長させることができる国々とは全然似ていないのだ。日本では「未来投資戦略2018」において「2023年までに、企業価値又は時価総額が10億ドル以上となる、ユニコーン企業又は上場ベンチャー企業を20社創出」としているが、金も出さずにそれをするのはちょっと厳しい気がする。

ヒナゲシ、コクリコ、虞美人草、全部同じ花です……筆者は知らなかった雑学。薄い和紙でつくったような、しわがある花弁が風に揺られているのを見たら、それはきっとヒナゲシだ。最初は下を向いているが、咲くときはつぼみの先端が割れ、上を向いて赤、白、ピンクなどの花を咲かせる。植え付けを行った後はかなり丈夫で手がかからないため、ヨーロッパでは雑草として扱われている。虞美人草は虞美人が自害した後、流れた血のところに咲いたというエピソードがあるため。コクリコはフランス語、和名ではグビジンソウ。ケシ科だがアヘンになる成分は取れないので安心しよう。